

1.授業コード (ナンバリング)	25101	2.科目名	認知心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	リアルタイム型		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】					
	認知心理学について、誕生から現在までの歴史的変遷と各領域への展開を学ぶ。					
	【概要】					
授業の前半では、認知心理学の歴史・展開・最新の知見を紹介する。						
授業の後半では、受講生が関心のあるテーマを発表し、全員で討議を行う。						
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】					
	(1)知覚・認知・学習・言語・感情・人格について概説できる。					
	(2)特定のテーマについて文献を批判的に読むことができる。					
	(3)特定のテーマについて自分なりの解決策を提案することができる。					
	【関連するディプロマポリシー】					
	(1)専門知識・技能					
(2)問題発見力						
(5)課題解決策への提案力						
(6)コミュニケーション能力						
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	(1)発表内容 50%					
(2)期末レポート 50%						
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション					
【第 2 回】	認知心理学の歴史（1）			授業内容の復習		
【第 3 回】	認知心理学の歴史（2）			授業内容の復習		
【第 4 回】	認知心理学の歴史（3）			授業内容の復習		
【第 5 回】	認知心理学の展開（1）			授業内容の復習		
【第 6 回】	認知心理学の展開（2）			授業内容の復習		
【第 7 回】	認知心理学の展開（3）			授業内容の復習		
【第 8 回】	文献発表（1）			発表準備		
【第 9 回】	文献発表（2）			発表準備		
【第 10 回】	文献発表（3）			発表準備		
【第 11 回】	研究発表（1）			発表準備		
【第 12 回】	研究発表（2）			発表準備		
【第 13 回】	研究発表（3）			発表準備		
【第 14 回】	総括（1）			期末レポートの作成		
【第 15 回】	総括（2）			期末レポートの作成		

1.授業コード (ナンバリング)	25106	2.科目名	心身医学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実 務経験のある教員によ る授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師・臨床心理士受験資格取得		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、遠隔オンライン・オンデマンド		
16.履修制限	特に設けない。					
17.授業の目的と概要	本科目は、公認心理師受験資格取得に関わる保健医療分野に関する理論と支援の展開、臨床心理士受験資格取得の選択科目 D 群に位置づけられている。メンタルヘルス(精神的健康)に関わる職種や資格は多様化しており、心理師(士)もその 1 つである。メンタルヘルスの問題に適切に関わるために必要な精神医学の知識を理解することを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標には DP(ディプロマポリシー)の 7 つ、専門知識・技能、問題発見力、調査分析能力、論文作成能力、課題解決策への提案力、コミュニケーション能力、倫理観が関わる。 公認心理師・臨床心理士受験資格取得を目指す大学院生として、授業での課題に自律的に関わり、問題発見し、その問題について調査分析し、その結果を基に課題解決策への提案をレポートにまとめ、授業中に倫理観をもって発表する。 本科目の学習目標は、以下の 3 つである。 ①精神医学と心理学の関係を説明できる。 ②さまざまな精神疾患に症状、経過、支援などについて説明できる。 ③各発達期に生じやすい精神障害について説明できる。					
19.教科書・教材	教科書は特に指定しない、他に教材として power point(遠隔オンライン：神戸山手 C 発信)と webclass を使用する。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。 新訂精神医学特論 石丸昌彦・広瀬宏之著 放送大学教育振興会					
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎のレポート（授業内容について考えたこと）@4×14 点、授業態度（質問に対する適切な回答等）14 点、webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が記述されたか）30 点					
22.コメント	授業は、遠隔オンライン、遠隔オンデマンドで行う。 生成 AI 利用： 無制限で認める					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 火曜日昼休み、センターオフィスアワー：同 C 水曜日昼休み。希望者は事前にメールで連絡をください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法			予習：シラバスを読む。 復習：授業中に理解した内容を整理し、まとめて webclass にレポートとして報告する。		
第 2 回	1. 精神医学とは			予習：資料を読む。 復習：日本の精神医療についてあなたの考えをまとめ、webclass にレポートとして報告す		

		る。
第 3 回	2. 統合失調症とは (1)	予習：資料を読む。 復習：統合失調症の遺伝要因と環境要因についてあなたの考えをまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 4 回	2. 統合失調症とは (2)	予習：資料を読む。 復習：統合失調症への対処方法をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 5 回	3. 気分の障害とは (1)	予習：資料を読む。 復習：うつ病と双極性障害の症状をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 6 回	3. 気分の障害とは (2)	予習：資料を読む。 復習：うつ病の小精神療法である笠原の 7 原則をまとめ、あなたの考えを webclass にレポートとして報告する。
第 7 回	4. 不安障害と強迫性障害とは	予習：資料を読む。 復習：不安障害と強迫性障害の症状をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 8 回	5. ストレス関連障害と解離性障害	予習：資料を読む。 復習：ASD、PTSD、解離性障害の症状をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 9 回	6. 身体疾患による精神障害	予習：資料を読む。 復習：身体疾患 1 つと精神症状の関係について調べ、webclass にレポートとして報告する。
第 10 回	7. 発達障害、小児の心身症と精神疾患	予習：資料を読む。 復習：小児の心身症と精神疾患の対応の原則をまとめ、あなたの考えを webclass にレポートとして報告する。
第 11 回	8. 思春期・青年期の精神疾患	予習：資料を読む。 復習：あなたが関心を持ったパーソナリティ障害について症状、経過、対応をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 12 回	9. 成人期の精神疾患	予習：資料を読む。 復習：物質関連障害についてまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 13 回	10. 成人後期の精神疾患	予習：資料を読む。 復習：MCI について調べたことをまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 14 回	11. 精神科治療	予習：資料を読む。 復習：薬物治療の効用と副作用について調べ、webclass にレポートとして報告する。
第 15 回	まとめとテスト 授業のまとめと最終確認テストを行う。	

1.授業コード (ナンバリング)	25110	2.科目名	産業心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	河崎俊博					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科 人間行動学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、公認心理師の 5 領域のうち「産業」分野の業務を遂行するために必要な知識と技能を身につけることを目的とします。 【概要】 本科目では、産業分野で必要な法令や知識、キーワードについて学びます。また産業臨床において求められるスキルの一つである「セルフケア研修」などが実施できるよう、研修で活用できるグループワークやフォーカシングのワークなどを体験的に学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	【目標】 本科目の学習目標は次の通りです。 ①産業臨床に必要な法令等の知識について説明できる ②適切なメンタルヘルスケアを提供できるようになる 【関連するディプロマポリシー】 (1) 自律性 (2) 多様性理解 (3) 問題発見・解決力 (4) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。教科書は使用しません。					
20.参考文献	【参考文献】 「フォーカシング健康法」森川友子（著）、誠信書房、2015 「フォーカシングはみんなのもの」村山正治（編）、創元社、2013 「マンガで学ぶフォーカシング入門」福盛英明・森川友子編、誠信書房 2005、 「職場のストレスマネジメント」島津明人（編著）誠信書房、2014					
21.成績評価	評価の方法と割合は以下の通りです。 1. 授業に対するコミットメント（調べ学習・質問・発言など（10％） 2. 模擬メンタルヘルス研修の授業内での実施（50％） 3. 上記研修のスライド・配布資料の提出（10％） 4. 上記研修実施について気づいた点、改善点についてのレポート（30％） すべて指定の内容を踏まえ、提出期限を守って提出されることを合格の基準とします。					
22.コメント	産業領域では研修講師を担当することも多いため、積極的に練習しましょう。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、自己紹介					
第 2 回	労働関連の法令（安全配慮義務、ストレスチェック制度含む）			復習：授業内容を振り返り、自分ならどうするかを考える。		
第 3 回	産業分野での臨床（1）EAP（Employee Assistance Program）など			復習：授業内容を振り返り、自分ならどうするかを考える。		
第 4 回	産業分野での臨床（2）企業内カウンセリング、産業保			復習：授業内容を振り返り、自分ならどうす		

	健支援センターなど	るかを考える。
第 5 回	復職支援について	復習：授業内容を振り返り、自分ならどうするかを考える。
第 6 回	セルフケア、ラインケアとその実施法 (1)	復習：授業内で体験したグループワークについて、「自分ならどのように使うか」「どのようにファシリテートするか」を振り返っておく。
第 7 回	セルフケア、ラインケアとその実施法 (2)	復習：授業内で体験したグループワークについて、「自分ならどのように使うか」「どのようにファシリテートするか」を振り返っておく。
第 8 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (1)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 9 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (2)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 10 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (3)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 11 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (4)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 12 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (5)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 13 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (6)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 14 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (7)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 15 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (8)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	25120	2.科目名	データ分析法	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1・2 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・多変量解析の手法を用いて、各種調査データを分析し、学術論文の形にまとめる方法を習得する。分析には様々な統計ソフトを用いる（SPSS、HAD など）。 ・受講生の興味に応じてテキストマイニング（KH coder）についても学んでも良い。 ・基礎的な分析（分散分析・因子分析・単回帰分析・重回帰分析等）について実際にデータを扱いながら、分析手法を覚える。 ・最終的に、サンプルデータを用いて、指定された分析手法の解析を行い、その結果から考察ができるようにする。 ※下記 15 回の講義内容は、昨年度のスケジュールである。受講生の興味に応じて、ある程度変更する可能性がある。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）調査分析能力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・分析ソフトを用いて各種データの代表的な手法を実行できる。 ・自分で仮説を立てて分析を実行し、結果を正確に読み取り、その含意を考察できる。 ・一連の作業を整合的にレポートにまとめることができる。				
19.教科書・教材	なし。				
20.参考文献	『Excel で今すぐはじめる心理統計ー簡単ツール HAD で基本を身につけるー』 小宮あすか・布井雅人著 講談社 『動かして学ぶ！ はじめてのテキストマイニング』 樋口 耕一，中村 康則，周 景龍著 ナカニシヤ出版				
21.成績評価	1 毎週実施するミニレポート 60 点 2 最終レポート 40 点				
22.コメント	統計学の基礎的知識を修得済みであること。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
1	オリエンテーション・・・授業の進め方、データの配布				
2	HAD のインストール、HAD の内容理解			データ分析（180 分）	
3	統計分析の基礎知識			データ分析（180 分）	
4	t 検定など			データ分析（180 分）	
5	一要因分散分析など			データ分析（180 分）	

6	二要因分散分析など	データ分析（180 分）
7	相関など	データ分析（180 分）
8	単回帰分析など	データ分析（180 分）
9	テキストマイニングソフトのインストール（KH coder） テキストマイニングとは	データ分析（180 分）
10	前処理、共起ネットワーク作成、読み取り方など	データ分析（180 分）
11	頻出語、未知語、複合語などのチェック	データ分析（180 分）
12	Excel データからプロジェクトを作成する、外部変数等	データ分析（180 分）
13	対応分析など	レポート作成（180 分）
14	コーディングルール、クロス集計など	レポート作成（180 分）
15	統括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	25240	2.科目名	家族関係特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	人間行動学研究科大学院生に限る					
17.授業の目的と概要	テーマ:ワーク・ファミリー・バランスを考える 【目的】 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調査）は、日本でも耳慣れた言葉となっていますが、実現には至っていません。授業では、とくに子育て期にある人びとを対象とし、家族と仕事のバランス、すわわちワーク・ファミリー・バランスをどう実現するのか、他国との比較から考えます。 【概要】 ワーク・ファミリー・バランスを早い時期から掲げ、関連政策を積極的に推し進めてきたのが、スウェーデン、ドイツ、オランダの3カ国です。これら3カ国では、EUのなかでも福祉が充実し、多様な働き方・家族のあり方を追及し、男女が共に家族と仕事を両立するための施策を進めてきました。授業では、各国の政策の特徴と成立背景を知り、制度や支援政策が生活の中でどのように機能し、どんな課題を抱えているかについて学びます。その上で、これからの日本が目指すべき家族と共働き社会のありようについて考えます。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「課題解決策への提案力」の学修に関連しています。 ①日本における共働き家庭の実情について説明することができる。 ②スウェーデン・ドイツ・オランダのワーク・ファミリー・バランス政策の特徴および成立背景について説明することができる。 ③日本が目指すべき家族と共働き社会について、意見を述べるすることができる。					
19.教科書・教材	高橋恵美子編『ワーク・ファミリー・バランス これからの家族と共働き社会を考える』慶應義塾大学出版会、2021 年					
20.参考文献	参考書については、授業の進行に従い、適宜紹介します。					
21.成績評価	・最終課題レポート→30%（学習目標①②） ・アサイメント課題→70%（7回を予定）（学習目標③）					
22.コメント	・授業は以下の日程を予定しています（10月4日3限、10月11日3限4限、11月8日3限4限、11月15日3限4限、11月29日3限4限、12月13日3限4限、12月20日3限4限、1月10日3限4限）原則、2コマ連続の変則開講です。入試など学内行事の都合により、日程が変更になることがあります。 ・神戸山手キャンパス発信、三木キャンパス受信の遠隔授業です。 ・資料等はWebClassで配信しますので、PCとスマホ等の2台持ちをおすすめします。 ・テーマに興味をもち、積極的に参加する意欲ある学生の受講を希望します。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センターオフィスアワー⇒木曜昼休み（1号館2階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	○オリエンテーション 授業のねらいと内容、進め方、評価等について ○「まえがき」の輪読	持参するもの：ノートパソコン（WebClass を使用）
第 2 回	○ワーク・ファミリー・バランスのあり方を考える① テキスト「序章」の輪読	持参するもの：テキスト『ワーク・ファミリー・バランス』、ノートパソコン（以後、毎回）
第 3 回	○ワーク・ファミリー・バランスのあり方を考える② テキスト「序章」の輪読	
第 4 回	○共働き家族のリアル 日本① テキスト 第 1 章の輪読	提出物：序章要約
第 5 回	○共働き家族のリアル 日本② テキスト 第 1 章の輪読	提出物：第 1 章要約
第 6 回	○男女とも仕事と子育てを両立させる国 スウェーデン① テキスト第 2 章の輪読	
第 7 回	○男女とも仕事と子育てを両立させる国 スウェーデン② テキスト第 2 章の輪読	提出物：第 2 章要約
第 8 回	○労働未来論から稼得・ケア共同モデルへ ドイツ① テキスト第 3 章の輪読	
第 9 回	○労働未来論から稼得・ケア共同モデルへ ドイツ② テキスト第 3 章の輪読	提出物：第 3 章要約
第 10 回	○パートタイム大国 オランダ① テキスト第 4 章の輪読	
第 11 回	○パートタイム大国 オランダ② テキスト第 4 章の輪読	提出物：第 4 章要約
第 12 回	○同性カップルのワーク・ファミリー・バランス① テキスト第 5 章の輪読	
第 13 回	○同性カップルのワーク・ファミリー・バランス② テキスト第 5 章の輪読	提出物：第 5 章要約
第 14 回	○日本のワーク・ファミリー・バランスの実現に向けて テキスト「終章」の輪読	提出物：「終章」要約
第 15 回	○最終課題（レポート）にもとづく発表 ○授業のふりかえり	提出：最終課題レポート

1.授業コード (ナンバリング)	25250	2.科目名	心理療法特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子				
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	修士 1 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 、グループワーク		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この講義では、臨床心理士の職業的専門性と独自性について学び、クライアントとセラピストとの間で生じることについての基本を学ぶ。 【概要】親子並行面接を想定し、前半では子ども面接、後半では親面接についての基礎知識、基本的姿勢を身につけることを目的とする。				
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 1.専門知識・技能、6.コミュニケーション能力、7.倫理観の学修に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ① 心理臨床家の専門性と倫理について理解している ② 心理療法のプロセスの基本的なイメージを持っている ③ クライアントとの間で生じることについての基本的な用語を知っている ④ ケースフォーミュレーションの必要性について理解している ⑤ 心理療法について、わが身に引きつけてイメージができる				
19.教科書・教材					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する				
21.成績評価	遊戯療法のロールプレイによるスキルの向上（30％） 親面接のロールプレによる面接スキルの向上（30％） ロールプレイふりかえり（40％）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	前半オリエンテーション 春学期の遊戯療法ふりかえり				
第 2 回目	遊戯療法ロールプレイ ※一人 25 分				
第 3 回目	ロールプレイふりかえり				
第 4 回目	遊戯療法ロールプレイ ※一人 25 分				
第 5 回目	ロールプレイふりかえり				
第 6 回目	遊戯療法ロールプレイ				

	※一人 25 分	
第 7 回目	ロールプレイふりかえり	コミュニケーションシートの提出 次回の輪読文献の下読み
第 8 回目	テキスト輪読	コミュニケーションシートの提出 次回の輪読文献の下読み
第 9 回目	テキスト輪読	コミュニケーションシートの提出 次回の輪読文献の下読み
第 10 回目	テキスト輪読	コミュニケーションシートの提出 次回の輪読文献の下読み
第 11 回目	テキスト輪読	ロールプレイふりかえりの準備
第 12 回目	親面接ロールプレイとふりかえり	ロールプレイふりかえりの準備
第 13 回目	親面接ロールプレイとふりかえり	ロールプレイふりかえりの準備
第 14 回目	親面接ロールプレイとふりかえり	ロールプレイふりかえりの準備
第 15 回目	総括振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	25430	2.科目名	臨床心理学特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心の苦しみに対する理解のために、見立てをめぐる心理臨床学の方法論と臨床心理的支援のあり方を学習する。また、箱庭や描画、グループワークを用いて、イメージの自律性を体験することで、心の現象発生のメカニズム解明と臨床心理学的援助を考究する。					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	授業内でのディスカッション 30％ ゲストスピーカーの講話に関するレポート 10％ ペアワークの体験レポート 20％ 文献講読の書評レポート 10％ 総括レポート 30％					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス					
第 2 回	心理療法とは 心理療法のなかでおこなわれていること					
第 3 回	心理臨床実践に関するディスカッション					
第 4 回	心理療法の先人に学ぶ① 河合隼雄氏の軌跡					
第 5 回	心理療法の先人に学ぶ② 成瀬悟策氏の軌跡					
第 6 回	心理療法の先人に学ぶ③ 小此木啓吾氏の軌跡					
第 7 回	心理臨床実践現場で活躍するゲストスピーカーによる講話					
第 8 回	心理臨床実践現場で活躍するゲストスピーカーによる講話に関するふりかえり					
第 9 回	心理臨床事例の検討①					
第 10 回	心理臨床事例の検討②					
第 11 回	心理臨床に関するペアワーク体験①					
第 12 回	心理臨床に関するペアワーク体験②					
第 13 回	心理臨床に関するペアワーク体験②					
第 14 回	心理臨床に関する文献講読、書評の発表					
第 15 回	まとめ ふりかえり					

1.授業コード (ナンバリング)	25530	2.科目名	投影法特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	投影法の中でも、習熟に時間を要する描画法について学ぶ。 特に、風景構成法・BAUM テスト・スクイグル・箱庭について理解を深める。 描画に触発されて生じるさまざまな感情や感覚、気持ちを時間をかけて丁寧に味わい、振り返り、受講者で共有していくことで、投影法を心理臨床で用いることができるようになる。					
18.学習目標と DPとの関連	BAUM テスト・風景構成法・スクイグル等の描画法を、臨床場面で用いられるようになる。 箱庭療法についても臨床場面で用いられるよう習熟を目指す。					
19.教科書・教材	日本描画テスト描画療法学会（編集） 『臨床描画研究（1～23）』 金剛出版 （1986～2008）					
20.参考文献						
21.成績評価	投影法に関する実技 30％ 投影法に関するレポート 30％ 総括レポート 40％					
22.コメント	・ 生成 AI 利用に関しては、特に制限を設けずに使用を認めます。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センターオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業内容の説明と紹介					
【第 2 回】	BAUM テスト実習					
【第 3 回】	BAUM テスト実習②					
【第 4 回】	風景構成法 実習①					
【第 5 回】	風景構成法 実習②					
【第 6 回】	風景構成法 実習③					
【第 7 回】	スクイグル 実習①					
【第 8 回】	スクイグル 実習②					
【第 9 回】	箱庭 実習①					
【第 10 回】	箱庭 実習②					
【第 11 回】	箱庭 実習③					
【第 12 回】	箱庭 実習④					
【第 13 回】	絵本とイメージ ①					
【第 14 回】	絵本とイメージ②					
【第 15 回】	全体のまとめ					

1.授業コード (ナンバリング)	25540	2.科目名	臨床心理面接特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴、田中亜裕子、松井幸太					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	臨床心理士の職域は広いが、心理面接はすべての職域で必要とされると言っても過言ではない。この講義では、臨床心理面接特論Ⅰで学習した事柄を復習し、習得した知識を確実なものとするとともに、実際の事例を中心とした治療面接に関するさまざまな局面を取り上げ、それらの面接状況により、臨床心理士として必要とされる知識と態度を学習することを目標とする。 臨床心理面接特論Ⅰで学習した事柄を復習し、受講者に臨床家として確実な知識と態度として定着させる。 実際の事例の記録を題材に取り上げ、治療面接のさまざまな局面で想定される事態にどのように対応するかを考えてもらう。 授業では多くの事例を「読みこなす」ことが必要である。そのため、幅広い知識を習得している必要がある。通常の講義形態に加え、内部実習である心理臨床センターでの陪席実習を通じて、インテーク報告書を作成し、ケースカンファレンスにて発表するが含まれる。 臨床心理面接特論Ⅰと同様、この講義内容は、2 年次の臨床心理実習の基礎となる。					
18.学習目標と DPとの関連	陪席実習により、インテーク報告書を作成することができる。					
19.教科書・教材	適宜紹介					
20.参考文献						
21.成績評価	最終レポート 40% 事例発表 40% 授業へのコミット 20%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日・4 限(山本喜晴)、金曜日昼休み（松井幸太）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	科目のオリエンテーション・SV・陪席面接について					
第 2 回目	事例 A の紹介（逐語資料） 事例 A に関するディスカッション					
第 3 回目	事例 A のインテーク報告に関するディスカッション					
第 4 回目	事例 B の紹介（逐語資料） 事例 B に関するディスカッション					
第 5 回目	事例 B のインテーク報告に関するディスカッション					
第 6 回目	事例 C の紹介（逐語資料） 事例 C に関するディスカッション					
第 7 回目	事例 C のインテーク報告に関するディスカッション					
第 8 回目	事例 D の紹介（逐語資料） 事例 D に関するディスカッション					
第 9 回目	事例 D のインテーク報告に関するディスカッション					

第 10 回目	事例 E の紹介（逐語資料） 事例 E に関するディスカッション	
第 11 回目	事例 E のインテーク報告に関するディスカッション	
第 12 回目	今までの事例を通して、心理面接の過程を考える	
第 13 回目	自分が実際の仕事で事例を担当するとすればどのようなことに注意すべきかに関するディスカッション	
第 14 回目	心理臨床における倫理について	
第 15 回目	最終レポートアサイメントのシェア 他機関への情報提供や委託紹介についての講義 講義全体を振り返り、自己点検を行う	

1.授業コード (ナンバリング)	25610	2.科目名	社会調査実習		3.単位数	1
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	専門社会調査士（必修）		11.先修条件	原則として、「社会調査士」資格を取得済であること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	「社会調査士」資格を取得済、もしくは履修中の大学院生を対象とします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会調査における「質的調査」の事例を参照しながら、質的調査法の可能性と限界について学ぶことを目的とします。 【概要】 ①質的調査の手法について学びます。 ②各自の研究テーマについて、質的調査法を使った企画案を考えます。 ③身近なテキストのデータ収集・分析を通して、内容分析の方法について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「専門知識・技能」「調査分析能力」の学修に関連しています。 ○質的調査の諸技法について理解する。 ○質的調査の手法を用いて調査を立案して実施する。 ○調査結果を整理して考察を行い、報告書としてまとめる。					
19.教科書・教材	●工藤保則・寺岡伸吾・宮垣元編『〔第3版〕質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社 毎回の資料は WebClass にあげます。					
20.参考文献	適宜、紹介します。					
21.成績評価	●レジュメ作成 4 回⇒計 40%…①に対応 ●調査企画書⇒20%…②に対応 ●調査企画書および調査報告書⇒計 40%…③に対応					
22.コメント	●「専門社会調査士」資格科目です。資格取得をめざし、前向きに取り組む意欲のある人のみ受講してください。 ●実習を伴いますので、原則、対面で授業を行います。 ●2 回目より原則、2 コマ連続の変則的な授業運営になります。初回にガイダンスを行います。 ●授業は以下の日程を予定しています（10 月 4 日 1 限、10 月 11 日 1 限 2 限、11 月 8 日 1 限 2 限、11 月 15 日 1 限 2 限、11 月 29 日 1 限 2 限、12 月 13 日 1 限 2 限、12 月 20 日 1 限 2 限、1 月 10 日 1 限 2 限） ※入試等の行事の都合で日程が変更になることがあります。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ●センターオフィスアワー⇒水曜昼休み（神戸山手キャンパス 1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ●研究室オフィスアワー水曜Ⅱ限（神戸山手キャンパス 1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	●オリエンテーション：授業内容および進め方について			持参するもの：テキスト（以下、毎回）		

	て ●社会調査における「質的調査」と「量的調査」について	
第2回	●質的調査の方法① インタビュー法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。	提出物：レジュメ
第3回	●質的調査の方法② 参与観察法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。	提出物：レジュメ
第4回	●質的調査の方法③ ライフヒストリー法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。	提出物：レジュメ
第5回	●質的調査の方法④ ドキュメント分析法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。 ●課題告知：各自の研究テーマについて、質的調査法を使った調査企画案を考えて、調査企画書を作成しなさい。	提出物：調査企画書及びレジュメ
第6回	●質的調査の方法⑤ 質的調査法の可能性と限界について学ぶ。 ●第1回レポートをもとに発表する。	
第7回	●内容分析という手法①： 内容分析とはどんな調査法なのか？ 内容分析を使った調査事例を輪読する。	
第8回	●内容分析という手法②： なぜ大衆文化とテキストとなるのか？ 内容分析を使った調査事例を輪読する。	
第9回	●内容分析という手法③： どのような手順で分析するのか？ 内容分析を使った調査事例を輪読する。	
第10回	●内容分析の実際① 調査テーマの候補案について、どおよな方法で進めるのか話し合う。演習	持参するもの：ノート PC（以下、毎回） 提出物：調査企画書
第11回	●内容分析の実際② テキストの選定、データの収集、演習	
第12回	●内容分析の実際③ 内容のジャンル分け、演習 実際にテキストに当たり、データを収集する。	
第13回	●内容分析の実際④ 内容のジャンル分け、演習 収集したデータを分類別にする。	
第14回	●内容分析の実際⑤ 結果の図表化と内容のジャンル分け、演習 結果に考察を加える。	
第15回	●内容分析の実際⑥： 調査結果の報告、全体のまとめ 調査結果のふりかえり	提出物：調査報告書

1.授業コード (ナンバリング)	28000	2.科目名	健康心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子、山本真由美					
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	修士 1 年	
10.取得資格の要件	公認心理師資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 グループワーク オンライン／オンデマンド（後半，山本真由美担当部分）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この講義では、健康心理学について学び、公認心理師の業務である、心の健康教育の実践に必要な基本的知識をみにつけることを目的とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 1.専門知識・技能、6.コミュニケーション能力、7.倫理観の学修に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ①公認心理師の業務である予防のための心理教育について理解し、実践できる。 ②ストレスとストレス関連疾患についての基本的事項について説明できる。 ③ウェルビーイングとポジティブ心理学について説明できる。 ④ストレスマネジメントの基礎を身につけており、自ら実践し、研修できる。 ⑤様々な対象に対するメンタルヘルスの実践について説明できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	コミュニケーションシート 4 × 13 5 2 % (①②③④⑤に対応) 中間ふりかえり 2 4 % (①②③④に対応) 総括テスト 2 4 % (①②③④⑤に対応)					
22.コメント	成績評価の中間振り返りは、道免先生が行います。総括テストは、後半部分の内容について山本が出題します。 生成 AI 利用： 無制限で認める					
23.オフィスアワー	冬学期は、ありません。 ご質問等が、あれば、メールで連絡してください。(山本)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	ガイダンス 健康心理学とは mindmeister の基本			毎回ノートパソコンを持参する。 コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 2 回	ストレスとコーピング			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 3 回	食に関連した健康問題			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 4 回	睡眠に関連した健康問題			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 5 回	セルフケア 自律訓練法の基礎 ワーク			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 6 回	ポジティブ心理学			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 7 回	セルフケア リソース強化と認知修正 ワーク			中間振り返りにかえて、7 回までの内容を mindmeister でまとめて提出する。		
第 8 回	心の健康とウェルビーイング (山本担当)			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 9 回	子どものメンタルヘルス (山本担当)			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		

第 10 回	職場のメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 11 回	高齢者のメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 12 回	生活習慣とメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 13 回	嗜癖とメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 14 回	不調を抱える当事者の家族のメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 15 回	最終テスト（山本担当）	

1.授業コード (ナンバリング)	30511	2.科目名	教育環境学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	道中 隆					
5.授業科目の区分	共通科目 基幹科目 保健と福祉、行政分野 における実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻 臨床教育学専攻			9.履修学年	M1 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習形式		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 日本における格差社会の中で、子どもの貧困問題をはじめとするさまざまな問題がクローズアップされている。こうした子どもの教育や発達上の問題、健康問題が発生する過程については、この間、蓄積された先行研究により多くのことが解明されてきた。本授業は、子どもの教育環境に関する研究の科学的探究として「現状認識（観察）」「課題設定」「仮説設定」「仮説検証の検証方法」「結果」「考察」「今後の課題」といった科学的探究プロセスを理解することを目的とします。 【概要】 本授業では教育社会学、福祉政策学などの関連分野で必要となる概念と研究方法論の習得をめざします。具体的なにはテーマに沿った文献購読や、先行文献の収集、輪読を通して、論点を整理・分析する科学的探究力を身に着けることを学びます。また、貧困世帯をめぐる子どもの発達や健康、教育への影響に視座に課題解決に向けた研究の意義を理解するとともに、課題に対する政策や研究方法論を学修し課題解決へ向けた取り組みができることを目標としています。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 学習目標 ①社会保障と教育や福祉等と関係づけて保健・医療・福祉を政策的に捉え、論点整理することができる。 ②教育や保健医療福祉をめぐる諸問題について理論的な視点から課題を捉え省察することができる。 ③自ら収集した情報と学習した内容を分析し、その結果を文章化することができる。 2. ベンチマーク ①論文理解能力（専門分野における主要な論文を理解することができる） ②批判能力（関連する学術論文を批判的に読むことができる） ③コミュニケーション能力（他の研究者とディスカッションを行うことができる）					
19.教科書・教材	輪読文献は適宜指示します。 ※講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行います。					
20.参考文献	・ 道中隆(2016) 『第2版 貧困の世代間継承—社会的不利益の連鎖を断つ』 晃洋書房 ・ 浅井春夫/松本伊智朗/湯澤直美(2008) 『子どもの貧困-子ども時代のしあわせ平等のために』 ・ 近藤克彦(2007) 『検証「健康格差社会」』 医学書院 ・ OECD 御園生純/稲川英嗣(2004) 『OECD 教育政策分析』 E ducation Policy Analysis 2004					

	Edition 明石書店 ・経済協力開発機構(OECD) 『図表でみる教育 OECD インディケーター(2013)』 Education at	
21.成績評価	①文献の発表：40% ②『レポートⅠ』：30% ③『レポートⅡ』：30% 評価は上記①～③に基づく総合評価とする。なお②および③の評価については、共通ループブックによるものとする	
22.コメント	毎回、各テーマについて議論などをする時間を設けるので、事前に出された課題は必ずするようにしましょう。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室において、受講生からの質問や執筆相談等への対応を行います。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回 10/06】	第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価方法等のガイダンス ●支援を行う人の適正とは ●専門性/専門職について ●ワーク Q1-2 摂津市児童虐待を考える	1-3.アサインメント/持参するもの 摂津市の児童虐待事案について調べる
【第2回 10/13】 《《平常授業》》	第2回 (1) 児童虐待「兆候の見逃がしをいかに防止するか」 児童虐待に関する概要 PW (2)個人の発表と討議 ワーク Q③、⑧メディアの視点	文献購読(事前に読んでおく) 『子どもの貧困とウェルビーイングー子どもの幸福と未来を守るため』
【第3回 10/20】	第3回 (1)教育環境学の隣接科学の文献購読 『子どもの貧困とウェルビーイングー子どもの幸福と未来を守るために』 pp.1-43 (2)政策課題研究 ●ワーク①、②文献を読んで「わが国の里親はなぜ、少ないのか？」について、簡潔に論述する	
【第4回 10/27】	第4回 (1)教育環境学の隣接科学の文献購読 (2)個人の発表と討議	
【第5回 11/03】 《《平常授業》》	第5回 (1)教育環境学の隣接科学の文献購読 (2)個人の発表と討議 ★★【課題】 『レポートⅠ』 ★★ 『社会的養護における里親制度の現状と課題』	★★レポートⅠ提出★★ 『社会的養護における里親制度の現状と課題』 3000 字程度
【第6回 11/10】	第6回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文献購読	・「地域包括ケアシステム」とは何か、まとめる
【第7回 11/17】	第7回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文献購読	・「研究計画書の書き方」
【第8回	第8回	・『研究計画書』の提出

11/24】 《《平常授 業》》	各自の研究計画について発表	
【第 9 回 12/01】	第 9 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読	
【第 10 回 12/08】	第 10 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読 ◎課題ディスカッション	
第 11 回 12/15】	第 11 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読	
第 12 回 12/22】	第 12 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読	
第 13 回 01/05】	第 13 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読 ★★【課題】レポートⅡ★★ 『児童虐待通告の留意点とは何か』 —どんな背景、その要因、防ぐてだて—	★★レポートⅡ提出★★ 児童虐待通告の留意点とは何か』—どんな背 景、その要因、防ぐてだて— 3000 字程度
【第 14 回 01/19】	第 14 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読	
第 15 回 01/26】	【最終第 15 回】 個人の発表と討議(1) 教育環境学特論の隣接科学の 文献購読	

1.授業コード (ナンバリング)	30512	2.科目名	社会統計学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義（パソコンの演習あり）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	政策や対策を実施するためには、「根拠」にもとづくことが重要である。その根拠を導き出す手法の一つが統計的分析手法である。本科目では、統計学の基礎理論、推定と検定の基礎とよく利用される手法について演習やディスカッションを交えながら講義を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	<学修目標> 1. 統計学の基礎理論を理解する。 2. 推定および検定手法の理論的背景を理解する。 3. 目的に見合った推定あるいは検定手法を選択でき、利用できる。					
19.教科書・教材	未定 ※補助資料として、適宜プリントを配付する。					
20.参考文献	杉原左右一「統計学（増補第3版）」晃洋書房					
21.成績評価	授業での発言等 50%（学習目標1，2） レポート 50%（学習目標2，3）					
22.コメント	生成AIの利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算やEXCEL操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成AIは使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用することに関しては制限しません。 ・試験では、ノートPCやスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成AIの利用も不可とします。					
23.オフィスアワー	※メール等で問い合わせてください					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	統計学の基礎的概念 記述統計と推測統計、仮説検証型と問題発見型、変数と尺度について			第1回の復習 (目安 90分)		
第2回	記述統計 質的データ、量的データのまとめ方、代表値と散布度について			第2回の復習 (目安 90分)		
第3回	事象と確率 事象と確率の基本概念について			第3回の復習 (目安 90分)		
第4回	確率変数と確率分布 離散型及び連続型の確率変数と確率分布の特徴について			第4回の復習 (目安 90分)		

第 5 回	母集団と標本 母集団と標本の基本概念について	第 5 回の復習 (目安 90 分)
第 6 回	標本分布 標本分布の性質について	第 6 回の復習 (目安 90 分)
第 7 回	中心極限定理と大数の法則 中心極限定理と大数の法則の概念について	第 7 回の復習 (目安 90 分)
第 8 回	推定 点推定と区間推定	第 8 回の復習 (目安 90 分)
第 9 回	検定 統計的仮説検定の基本概念、2 種類の過誤について	第 9 回の復習 (目安 90 分)
第 10 回	平均値の差の検定 SPSS による平均値の差の検定の方法	第 10 回の復習 (目安 90 分)
第 11 回	分散分析 SPSS による一元配置分散分析の方法	第 11 回の復習 (目安 90 分)
第 12 回	相関分析 SPSS による相関分析の方法	第 12 回の復習 (目安 90 分)
第 13 回	回帰分析 回帰分析の基本概念	第 13 回の復習 (目安 90 分)
第 14 回	回帰分析 SPSS による回帰分析の方法	第 14 回の復習 (目安 90 分)
第 15 回	総括 授業全体のまとめ	第 15 回の復習 最終レポート (目安：8 時間)

1.授業コード (ナンバリング)	30521	2.科目名	フィールド演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	フィールドワークを含む社会調査の行うにあたっての基礎知識と態度を修得するために、フィールドワークなどの社会調査に関する文献を輪読する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ① 質的・量的調査の基本知識について説明することができる。 ② 観察、インタビュー、質問紙調査を行うにあたっての態度を修得する。					
19.教科書・教材	佐藤郁也『社会調査の考え方〈上〉』東京大学出版会、2015 佐藤郁也『社会調査の考え方〈下〉』東京大学出版会、2015					
20.参考文献	■佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992. ■佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002. 他の参考図書、参考資料は適宜授業中に紹介する。					
21.成績評価	担当時の発表 25%×2 回 最終レポート 50%					
22.コメント	フィールドワークなどの社会調査に興味・関心を持ち、自律的に行動できる人の受講を求めます。 次年度にフィールド演習Ⅱの履修することを希望している人は、できるかぎり事前に本科目を履修しておいてください。 生成 AI の活用は条件付きで認めます。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意してください。					
23.オフィスアワー	水曜 2 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・講義の内容や進め方に関する確認。			○次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 2 回】	社会調査における量的・質的調査の位置づけ			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 3 回】	リサーチ・リテラシー修得にあたっての態度			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 4 回】	筋の良い社会調査の条件			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 5 回】	社会調査における分業と協働			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 6 回】	リサーチ・トライアングルの時間軸			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 7 回】	筋の良いリサーチ・クエスチョンの条件			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 8 回】	筋の良い「仮の答え」の条件			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		

【第 9 回】	社会調査における計画と創発	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 10 回】	サンプリング	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 11 回】	サーベイ	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 12 回】	フィールドワーク	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 13 回】	既存資料にもとづいた調査	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 14 回】	報告書のまとめ方	○復習を行う。(120 分) また次回の発表準備を行う。(360 分) また、最終発表に関する調査・データ整理を行う。(360 分)
【第 15 回】	まとめ ・ 講義全体の総括 ・ 学習内容の発表	○今回の復習を行う。(120 分) ★最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	30522	2.科目名	臨床教育学特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学科			9.履修学年	1 - 2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、まず発達の基礎理論を学び、胎児期から乳幼児期までの基本的な道すじを理解します。そのうえで、多様な子どもたちの理解と支援についての基本的な態度と考え方について学びます。 近年、乳幼児期からの積極的な発達支援によって、多様な子どものその後の成長に大きく貢献できることが確認されています。早期からの発達支援のための理論についても学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）専門的知識・技能，（2）問題発見力，（3）調査分析能力，（5）問題解決策への提案力，（6）コミュニケーション能力，（7）倫理観，の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	資料は授業の中で紹介します。					
20.参考文献						
21.成績評価	① 授業内での討論 40% ② 小レポート 30% ③ 最終レポート 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要の説明			特にありません 第 2 回目以降のアサインメントは授業の中で指示します		
第 2 回	発達理論の基礎：胎児期～乳幼児期			授業の中で指定します		
第 3 回	発達理論の基礎：乳幼児期 1			授業の中で指定します		
第 4 回	発達理論の基礎：乳幼児期 2			授業の中で指定します		
第 5 回	発達理論の基礎：乳幼児期 3			授業の中で指定します		
第 6 回	発達理論の基礎：乳幼児期 4			授業の中で指定します		
第 7 回	発達の多様性：養育者との関係性			授業の中で指定します		
第 8 回	発達の評価：新版 K 式発達検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法			授業の中で指定します		
第 9 回	行動観察からのアセスメント			授業の中で指定します		
第 10 回	要支援度と実行機能の評価			授業の中で指定します		
第 11 回	早期からの発達支援：ESDM			授業の中で指定します		
第 12 回	実態把握 包括的アセスメント：分析的にとらえる			授業の中で指定します		
第 13 回	包括的アセスメントの実際 1			授業の中で指定します		
第 14 回	包括的アセスメントの実際 2			授業の中で指定します		
第 15 回	包括的アセスメントに基づいた発達支援 まとめ					

1.授業コード (ナンバリング)	30523	2.科目名	教育社会学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育学の領域のうち、教育社会学の分野について、下記の内容を扱います。 ①社会階層と教育の機会に関する研究などについて、文献を輪読し、検討を加える。 ②ペアレントクラシーに関する基本的な文献を輪読する。 ③外国にルーツのある子どもに関する基本的な文献を輪読する。					
18.学習目標と DPとの関連	①社会階層と教育の機会に関する研究などを理解し、批判的に読むことができる。 ②ペアレントクラシーの概念を理解し、この概念を使って現代日本の教育問題を分析するための仮説を立て、検証方法を決定することができる。					
19.教科書・教材	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『新・教育の社会学―常識>の問い方、見直し方―』有斐閣アルマ 2023 年 耳塚寛明編『教育格差の社会学』有斐閣アルマ 2014 年 中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学―教職のための「教育格差」入門―』ミネルヴァ書房 2021 年 志水宏吉『ペアレントクラシー―「親格差時代」の衝撃―』朝日新聞出版 2022 年 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版 2019 年 その他、輪読文献を適宜示します。					
20.参考文献	参考文献、参考図書は適宜授業中に紹介します。					
21.成績評価	最終レポート 50% 担当時の発表 50%					
22.コメント	生成 AI の活用は条件付きで認めます。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等のガイダンスを行う			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第2回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する①			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第3回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する②			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第4回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する③			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第5回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する④			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第6回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する⑤			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第7回】	Ⅱ ペアレントクラシーに関する文献を輪読する①			○輪読文献を読んでくる（240 分）		

【第 8 回】	Ⅱ ペアレントクラシーに関する文献を輪読する②	○輪読文献を読んてくる（240 分）
【第 9 回】	Ⅱ ペアレントクラシーに関する文献を輪読する③	○輪読文献を読んてくる（240 分）
【第 1 0 回】	Ⅱ ペアレントクラシーに関する文献を輪読する④	○輪読文献を読んてくる（240 分）
【第 1 1 回】	Ⅱ ペアレントクラシーに関する文献を輪読する⑤	○輪読文献を読んてくる（240 分）
【第 1 2 回】	Ⅲ 外国にルーツのある子どもに関する文献を輪読する ①	○輪読文献を読んてくる（240 分）
【第 1 3 回】	Ⅲ 外国にルーツのある子どもに関する文献を輪読する ③	○輪読文献を読んてくる（240 分）
【第 1 4 回】	Ⅲ 外国にルーツのある子どもに関する文献を輪読する ③	○輪読文献を読んてくる（240 分）
【第 1 5 回】	子どもの家庭環境と教育達成との関係に関する検討を まとめる	○レポート作成に向けてまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	30531	2.科目名	発達障害教育特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	花熊暁					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	発達障害の子どもたちの支援で最も大きな課題となるのが、教科学習の基礎となる読み書き能力の困難への支援と、周囲の人たちとのコミュニケーションの困難への支援です。本授業では、これら2つの課題への支援を行うに際しての、基礎知識・理論を学ぶとともに、子どもたちが示す困難の具体像、実態把握・アセスメントの方法、支援の観点と方法、支援の実際等について、事例等を挙げながら具体的に学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の（1）専門的知識・技能、（2）問題発見力、（5）問題解決策への提案力、（7）倫理観、の学修に関連しています。 ① 読み書きの発達や言語・コミュニケーションの発達とその困難の理解に必要な基本用語を説明することができる。 ② 「読む・書く」「聞く・話す」の実態把握・アセスメントの方法を具体的に挙げるができる。 ③ 発達障害の子どもたちに見られる「読む・書く」と「聞く・話す」の困難の原因と困難の具体像を説明することができる。 ④ 子どものつまずきの原因と支援の方法・内容を関連づけて述べるができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育の理論と実践第4版 第2巻「指導」，金剛出版, 2023. 上記テキストのほか、毎回の授業で、教員が作成した資料を配布します。					
20.参考文献	必要に応じて、授業で紹介します。					
21.成績評価	① 授業内での討論 30% ② 小レポート 30 % ③ 最終レポート 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	非常勤講師のため、オフィスアワーはありません。質問等は、授業中及びメールで受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	読み書き能力を習得することの意義					
第2回	読み書きに関する基礎理論（その1） ①音と文字の対応 ②言語による文字表記体系違い					
第3回	読み書きの基礎理論（その2） 日本語の文字表記体系の特徴					
第4回	読み書きの基礎理論（その3） 読み書き能力の発達過程：エマージェントリテラシーの発達					
第5回	読み書きの基礎理論（その4） 読み書き能力の発達過程：音韻意識、呼称速度、ワーキングメモリー					

第 6 回	特異的な読み書きの困難 ① ディスレクシアと LD ② より広範な困難（ADHD、ASD）	
第 7 回	読み書きの困難の実態把握・アセスメント	
第 8 回	「読む・書く」の指導の実際	
第 9 回	事例による検討	
第 10 回	言語・コミュニケーションに関する基礎知識と基礎理論	
第 11 回	コミュニケーションと言葉の発達の道筋	
第 12 回	発達障害の子どもたちにみられる言語・コミュニケーションの困難の状態像	
第 13 回	「聞く・話す」の領域の実態把握とアセスメント	
第 14 回	言語・コミュニケーション支援の観点と方法	
第 15 回	事例による検討とまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	30541	2.科目名	発達障害教育特別演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間学行動科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、発達障害に関する分野での実践・研究に必要となる現場体験及び文献講読による実践分析力と研究方法のと習得をめざす。 【概要】 発達障害児における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の発達障害教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。 個別の指導計画 1、「発達障害」のある児童生徒の教育支援における個別の指導計画の意義と目的、領域と内容について説明できる。 2、個別の指導計画の構成内容を説明できる。 3、学校における個別の指導計画の作成と活用する方法について説明できる。 4、個別の指導計画の実施に必要な基礎的環境整備や合理的配慮を具体的に説明できる。 5、個別の教育支援計画の策定についても説明できる。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 学習目標 ① 発達障害教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文完成に向けた研究課題のまとめを行うことができる。 2. DP/ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解し、まとめることができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解し、まとめることができる。 ③ 修士論文完成に向け、研究課題を企画し遂行することができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育士認定協会編（2023）特別支援教育の理論と実践 第4版、金剛出版 第2巻 指導					
20.参考文献						
21.成績評価	実践での分析結果の発表：20% 中間レポート：30% 最終レポート：50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	・オリエンテーション・授業の進め方 各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のための分析について			★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。		

	て理解する。	
第 2 回	・実践体験と分析(1) ・発達障害に関する問題の課題分析	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。①
第 3 回	・実践体験と分析(2) ・発達障害に関する問題の課題分析	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。②
第 4 回	・実践体験と分析(3) ・	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。③
第 5 回	・実践体験と分析(4)	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。④
第 6 回	・実践体験と分析(5)	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。①
第 7 回	・実践体験と分析(6)	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。② 中間報告のための準備を行う。
第 8 回	・実践体験と分析(7)	★中間報告での検討を基に最終の軌道修正をしていく。
第 9 回	・実践体験と分析(8)	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。③
第 10 回	・実践体験と分析(9) ・個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用 ① ①個別の指導計画 ②個別の教育支援計画 ③学習指導要領 ④長期目標 ⑤短期目標	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。④
第 11 回	・実践体験と分析(10) ・個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用 ②	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。⑤

	⑥指導の手立て ⑦評価 ⑧PDCA ⑨校内委員会 ⑩多機関・多職種との連携発達障害に関する問題の課題分析	
第 12 回	・実践体験と分析(11) ・発達障害に関する個別の指導計画と課題分析	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。⑥
第 13 回	・個人の発表と討議(12) ・分析結果のまとめと指導計画の立案・遂行へ	★学会発表等に向けての準備を行う。
第 14 回	・個人の発表と討議(13) ・分析結果のまとめ	★学会発表等に向けての準備を行う。
第 15 回	・個人の発表と討議(14) ・最終報告	

1.授業コード (ナンバリング)	30542	2.科目名	特別支援教育実践研究		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	基幹科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科			9.履修学年	1.2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、特別支援教育学の分野での実践・研究に必要となる現場での実践分析力と研究方法の習得をめざす。 【概要】特別支援教育における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の特別支援教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。 ソーシャルスキル 1、「発達障害等」のある子どもにみられるソーシャルスキルの課題と困難について説明できる。 2、ソーシャルスキルのアセスメント方法について説明できる。 3、ソーシャルスキル指導の基本的な原理と指導法について説明できる。 4、ソーシャルスキルに関連するライフスキル、セルフアドボカシーについて説明できる。 感覚運動 1、「発達障害」のある子どもに見られる感覚運動機能のつまずきの状態像について説明できる。 2、感覚運動機能のアセスメント方法の基本について説明できる。 3、姿勢保持の困難や不器用さか?学習や日常生活に及ぼす影響について説明できる。 4、視機能か?学習や日常生活に及ぼす影響について説明できる。 5、感覚運動機能のつまずきの指導方法を具体的に挙げることができる。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 学習目標 ① 特別支援教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 2. DP/ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③ 研究課題を企画し遂行することができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育士認定協会編（2023）特別支援教育の理論と実践 第4版、金剛出版 第2巻 指導					
20.参考文献						
21.成績評価	実践での分析結果の発表：20％ 中間レポート：30％ 最終レポート：50％					

22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ オリエンテーション ・ 授業の進め方	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 2 回	・ 実践体験と分析(1) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討①	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 3 回	・ 実践体験と分析(2) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討②	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 4 回	・ 実践体験と分析(3) ・ ソーシャルスキルの指導(1) ①ソーシャルスキル ②ライフスキル ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討③	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 5 回	・ 実践体験と分析(4) ・ ソーシャルスキルの指導(2) ①ソーシャルスキルの指導法 ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討④	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 6 回	・ 実践体験と分析(5) ・ ソーシャルスキルの指導(3) ①感情と表現 ②適応 ③自尊感情 ④社会情緒的発達 ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑤	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始①
第 7 回	・ 実践体験と分析(6) ・ ソーシャルスキルの指導(4) ①自己理解 ②他者理解 ③セルフアドボカシー ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑥	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始②と中間報告に向けたまとめ
第 8 回	・ 実践体験と分析(7) ・ 特別支援教育現場での実践中間報告	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始③
第 9 回	・ 実践体験と分析(8) ・ 感覚と運動の指導 ①感覚運動機能 ②目と手の協応 ③不器用さ(発達性協調運動症) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑦	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析①
第 10 回	・ 実践体験と分析(9) ・ 感覚と運動の指導(2) ①姿勢保持 ②感覚運動機能の指導 ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑧	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析②
第 11 回	・ 実践体験と分析(10) ・ 特別支援教育現場での実践報	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調

	告と検討⑨	査結果分析③
第 12 回	・実践体験と分析(11) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑩	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析④
第 13 回	・個人の発表と討議(12)	・分析結果のまとめ
第 14 回	・個人の発表と討議(13)	・分析結果のまとめ
第 15 回	・個人の発表と討議(14) ・ 最終報告	

1.授業コード (ナンバリング)	41004	2.科目名	看護マネジメント論		3.単位数	2
4.授業担当教員	梅田智子、ウイリアムソン彰子、林千冬、花岡澄代、南谷志野					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業目的】 医療において看護組織が果たす役割を明らかにし看護マネジメントについて理解する。 具体的には看護マネジメント過程を言語化し、看護におけるマネジメントの意義およびその手法を理解できる。 【概要】 看護マネジメント過程における「計画し、組織化し、指示を与え、入手できる財政的・物理的・人的資源を統制・分配する」の実施展開に必要な知識を獲得し、看護の質保証および向上に向けて課題の抽出、問題解決のためのマネジメントのありようを学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 看護組織が果たす役割を言語化できる 2. 看護管理者と高度実践看護師・他職種間の連携に必要なマネジメントを言語化できる 3. 看護マネジメント過程に必要な知識と考え方により自らの役割行動を省察できる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	組織行動のマネジメント スティーブン P.ロビンズ ダイヤモンド社 授業内容に応じて文献の紹介、参考資料配布を行う。					
21.成績評価	事前事後レポートによる評価 50% 最終レポートによる評価 50%					
22.コメント	2023 年度 原則 ZOOM での遠隔授業、日程変更があればその都度提示します。 良い医療・看護を提供するためには良質なマネジメント機能が不可欠です。 管理職のみならずマネジメントを理解し管理的視点を持った看護に繋げるために、保健医療福祉の現状を理解し、看護の質および経済効果の検証、人的資源管理、多職種・地域連携、専門性の発揮等、看護マネジメントのありようを考察・検討していきましょう。					
23.オフィスアワー	月曜日 12：15～13：15 梅田研究室 その他、メールで受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
20241003 3～5 限	看護管理学概論 ①組織とマネジメント（林千冬）					
同上	看護管理学概論 ②医療における課題と看護組織が果たす役割（林千冬）					
同上	看護管理学概論 ③マネジメントのタイプと看護管理の実際（林千冬）					
20241017 1～2 限	④トップマネジメントとミドルマネジメントの役割・権限（梅田智子）					
同上	⑤自部署における自身の役割・権限（梅田智子）					
20241123 1～2 限	⑥モチベーション・ロイヤリティ・コミットメント（南谷志野）					

同上	⑦安全および危機管理におけるマネジメント（梅田智子）	
20241019 3~5 限	⑧看護サービスの特性と看護（ウィリアムソン彰子）	
同上	⑨看護マネジメントにおける経営資源管理・経済効果（ウィリアムソン彰子）	
同上	⑩看護管理者の高度実践看護師との連携・リソースの効果的活用（ウィリアムソン彰子）	
20241114 1~3 限	⑪組織運営に必要な医療情報管理（花岡澄代）	
同上	⑫看護場面における医療情報管理、情報収集および提供のあり方（花岡澄代）	
同上	⑬看護管理上の医療情報管理および分析（花岡澄代）	
20241130 1~2 限	⑭地域を含む看護職間・他職種連携におけるマネジメント（協働・調整）（梅田智子）	
同上	⑮コンフリクトマネジメント（協働・多職種連携）看護および医療の質評価（南谷志野）	

1.授業コード (ナンバリング)	41005	2.科目名	コンサルテーション論		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、小山富美子、正田美紀、峰博子、山田聡子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院看護学研究科			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	医療・看護の場で、看護職を含むケア提供者が職務遂行上出会う実践的な問題を、自ら解決していけるように、看護におけるコンサルテーションの概念と理論、コンサルタントの役割とプロセス、各看護学の立場から支援する方法、知識、技術、実践モデルについて学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	クライアントを含めて専門職をも対象にしたコンサルタントの能力を養う。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	Ann B.Hamric 他著、中村美鈴他監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、へるす出版、 E.H.シャイン著：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房、					
21.成績評価	出席状況、課題についてのプレゼンテーション及びレポートにより評価する					
22.コメント	講師は第一線で専門職へのコンサルテーションを実践中の看護への造詣の深い方々です。専門看護師の方もいます。興味深いお話が聞けます。					
23.オフィスアワー	水曜日 1 限、ラーニングコモンズ					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
(1・2 回目) 月 日土曜日	(授業担当：山田聡子) コンサルテーションの概念と理論、コンサルタントの役割を学修する。					
(3・4 回目) 月 日木曜日	(授業担当：小山富美子) がん看護領域におけるコンサルテーションの実際を学修する。					
(5 回目) 月 日木曜日	(授業担当：小山富美子) 看護職者に対するコンサルテーションの実際を学修する。 事例を用いてコンサルテーションを実際に行うための方法を検討する。			事前課題 対応が難しかった事例について、コンサルテーション依頼書を想定して情報を記載する。 (月 日までに櫻井へ提出)		
(6・7 回目) 12 月 日木曜日 3 限 4 限	(授業担当：山田聡子) 重症・急性看護を支える看護職へのコンサルテーションの実際を学修する。					
(8・9 回目) 12 月 日木曜日 3 限 4 限	(授業担当：峰 博子) 生殖期にある女性とその家族に対し、高度実践看護師が行うコンサルテーションの実際について学修する。					
(10 回目) 12 月 日木曜日 3 限	(授業担当：櫻井信人) 精神看護学領域におけるコンサルテーションの実際を学修する①					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41006	2.科目名	看護教育論		3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄、笹谷孝子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・プレゼンテーション	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育的機能が求められる高度専門職業人として、看護教育を基礎教育、継続教育、看護の対象者への患者教育まで広く根拠を以て対応できる能力を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	1) 看護教育学に関連する諸理論・概念を考究する。 2) 看護教育の歴史的変遷を理解する。 3) 看護ケアの質を高める教育的働きかけ、教育環境づくりに関する知識と技術を探究する。 4) 個々の看護職が継続して学習することによる能力の維持・開発に努める際の組織支援の在り方について追及する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	発表や討議の内容およびレポート提出を総合して評価する					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1～2	担当：蛭子 看護教育学の特徴と課題を見極め、看護学基礎教育の理念と変遷を学修する。 ・教育学の基礎理論の理解 ・看護の役割の変化と看護教育制度の歴史的変遷、我が国の看護教育の課題					
3～9	担当：蛭子 看護学基礎教育の考え方、カリキュラム運営、学生指導の在り方、および看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の基礎教育、継続教育について学修する。 ・看護教育学の基礎的知識の理解 ・看護教育学の基礎理論 ・看護学基礎教育 ・継続教育のカリキュラム構築、教育理念・目的・目標・方法・評価					
10～15	担当：笹谷 ・患者および家族の保健活動および療養生活を支える患者教育の方法論を学修する。 ・各自選んだテーマで対象の特性を反映した教育計画の立案 ・教育計画立案の発表 ・学習課題の評価 ・看護ケアの質の保証					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41010	2.科目名	フィジカルアセスメントⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、大江理英、大西純子、高田弥寿子、中山智代美、村上香織、森田幸子、山田聡子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科博士前期課程専門看護師コース			9.履修学年	大学院 1 年	
10.取得資格の要件	急性重症患者看護専門看護師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士前期課程専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 急性期にあり集中治療を必要とする患者の状態を把握するために必要なアセスメント能力を養う。 【概要】 系統的観察や生理学的変化、機能学的変化、生活行動をアセスメントするための知識と技術を習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1) クリティカルケア及び救急看護を必要とする状況での体位、姿勢、および情動を含めた生理学的変化と機序を理解する。 2) クリティカルケア及び救急看護を必要とする状況での生活行動ならびに機能回復状況を把握するためのフィジカルアセスメントと観察枠組みを理解する					
19.教科書・教材	講義の中で適宜紹介する。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	ディスカッションへの参加度 60％ プレゼンテーション 40％					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 課題・レポート・プレゼンテーション資料等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター木曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	呼吸器系機能とフィジカルアセスメント（山田）					
第 2 回	呼吸器系機能とフィジカルアセスメント（山田）					
第 3 回	循環器系機能とフィジカルアセスメント（高田）					
第 4 回	循環器系機能とフィジカルアセスメント（高田）					
第 5 回	中枢神経系機能とフィジカルアセスメント（伊藤）					
第 6 回	中枢神経系機能とフィジカルアセスメント（伊藤）					
第 7 回	廃用症候群のフィジカルアセスメント（大江）					
第 8 回	せん妄のフィジカルアセスメント（大西）					
第 9 回	せん妄のフィジカルアセスメント（大西）					
第 10 回	救急看護における primary survey と secondary survey（村上）					
第 11 回	トリアージとフィジカルアセスメント（村上）					

第 12 回	自殺企図とフィジカルアセスメント（村上）	
第 13 回	外傷のフィジカルアセスメント（中山）	
第 14 回	外傷のフィジカルアセスメント（中山）	
第 15 回	薬物中毒のフィジカルアセスメント（中山）	

1.授業コード (ナンバリング)	41012	2.科目名	保健・医療・福祉政策特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、道中 隆					
5.授業科目の区分	共通科目 保健と福祉、行政分野 における実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・プレゼンテーション	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバルな視点からわが国の少子高齢化社会の抱える課題を理解し、現在の保健医療福祉政策および関連する制度、また看護関連政策および制度の動向を理解する。これらの理解を踏まえて、各自の研究課題の意義を考察する。					
18.学習目標と DPとの関連	1) わが国における保健医療福祉政策・施策・制度の動向について要点を説明できる 2) わが国における看護に関する政策・制度について要点を説明できる 3) 自分の研究テーマの意義をわが国保健医療政策および看護政策の関連性を踏まえて説明できる					
19.教科書・教材	教科書は指定しません。					
20.参考文献	永田祐/岡田忠克(2018) よくわかる福祉行財政と福祉計画 ミネルヴァ書房 野村陽子編集 (2015) 保健医療福祉行政論 メヂカルフレンド社					
21.成績評価	発表や討議の内容およびレポート提出を総合して評価する					
22.コメント	隔年開講科目です、奇数年度に開講されます。 皆さんの研究課題の結果の社会への効果的な還元のためには、社会の動きを理解しておくことが必要です。保健、医療、福祉に関わる政策は社会の動きを規定する大きな要因です。皆さんが2年間かけて探求する研究課題を臨床の中の個人との関係だけでなく、社会の中に位置付けて捉え直すために、この講義をぜひ活用してください。研究の意義を明確にするという重要な研究プロセスのお手伝いができればと思います。					
23.オフィスアワー	藤原：授業の前後に教室や講師控室で、受講生からの質問等への対応を行う。 道中： 授業の前後に教室や講師控室で、受講生からの質問等への対応を行う。 中世古：授業の前後に教室や講師控室で、受講生からの質問等への対応を行う。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1回－5回の 集中	●担当：【道中 11/25 火②・?限、11/27 木②・?限、11/28 金②限】 ・わが国における保健医療福祉政策および施策の動向を理解する。 ・コロナ禍以降、飲食や観光・接客業などサービス業などで経営破綻が起こり、社会状況は激変した。特に非正規雇用で働く労働者は、収入減や雇止めによる失業等により生活困窮に陥っている。今後、生活困窮者の増加が懸念され、保護に至る前のセーフティネット「安全網」の生活困窮者自立支援など展開されているが、福祉や労働分野での業務量が増大し、深刻な人材不足など窓口は過酷な状況					
6回－10回	担当：中世古					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41222	2.科目名	急性看護学援助特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 救命救急看護における初療および集中治療を受ける患者と家族に必要な看護判断、無評価方法および看護援助の在り方を探求する。 【概要】 救命救急治療を受ける患者及び集中治療を受ける患者・家族のアセスメントと看護援助を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 1.救命救急及びICU,CCU,SCUなどで集中治療を受ける状況にある患者・家族に必要な看護判断、評価方法および看護援助について理解する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 7 0 % プレゼンテーション 3 0 %					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 課題・プレゼンテーション資料作成に関しては、生成 AI の利用を 認めません。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 1 0					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	1) 救命救急治療管理を受ける患者・家族の特徴と初期対応・災害看護とトリアージ (1) (高見沢)					
第 2 回	救命救急治療管理を受ける患者・家族の特徴と初期対応・災害看護とトリアージ (2) (高見沢)					
第 3 回	救命救急治療を受けるせん妄患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)					
第 4 回	救命救急治療を受ける外傷患者・家族のアセスメントと看護援助 (1) (高見沢)					
第 5 回	救命救急治療を受ける外傷患者・家族のアセスメントと看護援助 (2) (高見沢)					
第 6 回	救命救急治療を受ける急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助 (1) (高見沢)					
第 7 回	救命救急治療を受ける急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助 (2) (高見沢)					

	ントと看護援助（2）（高見沢）	
第8回	救命救急治療を受ける熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第9回	救命救急治療を受ける中毒患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第10回	集中治療を受ける SIRS・CARS 患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第11回	集中治療を受ける Sepsis・DIC・MODS 患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第12回	集中治療を受けるショック、CPA 患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第13回	集中治療を受けるショック、CPA 患者・家族のアセスメントと看護援助(2)(高見沢)	
第14回	集中治療を受ける低体温療法患者・家族のアセスメントと看護援助(1)(高見沢)	
第15回	集中治療を受ける低体温療法患者・家族のアセスメントと看護援助(2)(高見沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	41225	2.科目名	急性看護学演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 クリティカル状況にある患者・家族が遭遇するさまざまな制限や権利の侵害といった倫理的問題状況に気づき解決する能力を養う。 【概要】 を明らかにし、患者・家族の尊厳を守り個人の選択と自由を支援する倫理的看護実践の在り方をディスカッションを行い検討し、急性・重症患者看護における専門看護師の役割を考察する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.クリティカルケアを受け拘束状態にある患者・家族の倫理的問題について理解する。 2.患者家族の自由な意思決定とその障害を理解し、患者・家族の権利を擁護する方法を検討する。 3. クリティカルケアにおける倫理的問題を解決するための専門看護師の役割を考察する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 7 0 % プレゼンテーション 3 0 %					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 レポート・プレゼンテーション資料等の作成に関しては、 生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 1 0					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	拘束状態にある患者・家族のアセスメントと援助 (1) (高見沢)					
第 2 回	拘束状態にある患者・家族のアセスメントと援助 (2) (高見沢)					
第 3 回	クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と援助 (1) 脳死・臓器移植 (高見沢)					
第 4 回	クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と援助 (2) 治療の意思決定・身体拘束 (高見沢)					
第 5 回 - 1 1 回	クリティカル状況にある患者・家族の看護問題の分析 についてのディスカッション (高見沢)					

第 12 回－17 回	クリティカル状況にある患者・家族の援助計画についてのディスカッション（高見沢）	
第 18 回－22 回	クリティカル状況にある患者・家族の援助の評価についてのディスカッション（高見沢）	
第 23 回－24 回	クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題に関する援助の評価についてのディスカッション（高見沢）	
第 25 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理状態と援助（１）（高見沢、平岡）	
第 26 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理状態と援助（２）（高見沢、平岡）	
第 27 回	クリティカル状況にある患者・家族に生じた倫理的問題と援助（１）（高見沢、平岡）	
第 28 回	クリティカル状況にある患者・家族に生じた倫理的問題と援助（２）（高見沢、平岡）	
第 29 回	クリティカルケアにおける倫理的問題に対する専門看護師の役割(1)(高見沢)	
第 30 回	クリティカルケアにおける倫理的問題に対する専門看護師の役割(2)(高見沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	41227	2.科目名	急性看護学実習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 救命救急センターまたは救命救急部において、初療または集中治療を受ける患者・家族のケアについて臨地実習を通して倫理的問題を解決するために必要な実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育などの能力を養う。 【概要】 救命救急センターまたは救命救急部において患者を受け持ち、アセスメントし看護計画を立案・実践し評価する。実習終了後ケーススタディーを行い、より良い看護のあり方を検討する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1. クリティカル期の患者の身体状態について高度な知識に基づいた看護判断・診断ができる。 2. クリティカル期の患者及び家族の倫理的問題を理解し、高度な看護判断・診断に基づく看護実践を提供することができる。 3. 看護職者を含むケアの提供者に対して、倫理的問題の解決のために専門看護師相当のものが行っているコンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究などの専門職看護師としての役割を理解し、援助を考えることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 70 % プレゼンテーション 30 %					
22.コメント	院生が希望する実習施設を決め、実習 3 か月前に実習施設と実習対象患者について教員に相談し、アドバイスを受けた上で実習施設を決定します。実習施設には、教員と共に実習依頼に行きます。 課題・レポート・実習記録等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 12：10～13：10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. 実習期間：2018 年 12 月～2019 年 1 月 2. 実習施設：神戸市立医療センター中央市民病院・兵庫医科大学病院・ 国立循環器病研究センター・東宝塚さとう病院 ICU・救急 ICU・CCU・HCU クリティカル期 3. 実習体制：実習指導は、教員（高見沢）と専門看護師または専門看護師相当の者と協力して教育を行う。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	71010	2.科目名	看護学教育演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 関西国際大学保健医療学部看護学科における講義・演習・実習のインターンシップを通して、大学院生の関心ある領域における基礎看護学教育実践能力を養う。 【概要】 関心ある領域の専任教員の指導のもと、講義または演習の授業案及び受講資料を作成し授業を実際に行う。授業終了後受講生のアンケート結果に基づいて自らの授業内容・方法を評価し、講義・演習の教育のあり方を検討する。さらに、関心ある領域の看護学実習に専任教員と共に参加し、実習における教育を理解し、実習教育のあり方を探求する。 演習を通して、看護学教育研究者としての自らの抱負と課題を明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.大学院生の関心ある領域において、講義または演習の授業計画を立案できる。 2.関心ある領域において、資料を作成し授業を行うことができる。 3.関心ある領域の実習教育のあり方を検討できる。 4. 看護学教育研究者としての抱負と課題を説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	1)B.S.ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価ハンドブック、第一法規 2)J.S.ブルーナー（鈴木祥蔵他訳）：教育の過程、岩波書店 3)藤岡完治・堀喜久子編集：看護教育の方法、医学書院 4)杉森みど理・舟島なおみ：看護教育学、第5版、医学書院 その他、授業内容に応じて文献の紹介、資料配布を行う。					
21.成績評価	課題レポート 60% プレゼンテーション 40%					
22.コメント	院生の担当授業を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業・演習を行い・質疑応答をしてください。 実習は指導教員と相談の上院生の希望する臨地実習を指導教員と共に指導します。 課題・レポート・プレゼンテーション資料等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 第2回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索① 関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索②					
第3回 第4回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索② 講義または演習目標の設定					

第 5 回	授業案作成①	
第 6 回	授業案作成②	
第 7 回	授業案作成③	
第 8 回	授業案作成④	
第 9 回	授業資料・教材作成①	
第 10 回	授業資料・教材作成②	
第 11 回	授業資料・教材作成③	
第 12 回	授業資料・教材作成④	
第 13 回	授業評価表の作成	
第 14 回	講義演習①	
第 15 回	講義演習②	
第 16 回	講義演習③	
第 17 回	授業評価	
第 18 回	看護学実習教育演習①	
第 19 回	看護学実習教育演習②	
第 20 回	看護学実習教育演習③	
第 21 回	授業資料・教材作成④	
第 22 回	看護学実習教育演習⑤	
第 23 回	看護学実習教育演習⑥	
第 24 回	看護学実習教育演習⑦	
第 25 回	看護学実習教育演習⑧	
第 26 回	看護学実習教育演習⑨	
第 27 回	看護学実習教育演習⑩	
第 28 回	看護学実習教育演習⑪	
第 29 回 第 30 回	看護学実習教育演習⑫ 自らの授業評価及び看護学実習教育のあり方の検討内 容から、看護学教育研究者としての抱負と課題をまと める 看護学教育研究者の抱負と課題は授業終了時提出 すると共に、e ポートフォリオに記録する。	

1.授業コード (ナンバリング)	71019	2.科目名	看護学教育演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 関西国際大学保健医療学部看護学科における講義・演習・実習のインターンシップを通して、大学院生の関心ある領域における基礎看護学教育実践能力を養う。 【概要】 関心ある領域の専任教員の指導のもと、講義または演習の授業案及び受講資料を作成し授業を実際に行う。授業終了後受講生のアンケート結果に基づいて自らの授業内容・方法を評価し、講義・演習の教育のあり方を検討する。さらに、関心ある領域の看護学実習に専任教員と共に参加し、実習における教育を理解し、実習教育のあり方を探求する。 演習を通して、看護学教育研究者としての自らの抱負と課題を明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.大学院生の関心ある領域において、講義または演習の授業計画を立案できる。 2.関心ある領域において、資料を作成し授業を行うことができる。 3.関心ある領域の実習教育のあり方を検討できる。 4. 看護学教育研究者としての抱負と課題を説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	1)B.S.ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価ハンドブック、第一法規 2)J.S.ブルーナー（鈴木祥蔵他訳）：教育の過程、岩波書店 3)藤岡完治・堀喜久子編集：看護教育の方法、医学書院 4)杉森みど理・舟島なおみ：看護教育学、第5版、医学書院 その他、授業内容に応じて文献の紹介、資料配布を行う。					
21.成績評価	課題レポート 60% プレゼンテーション 40%					
22.コメント	院生の担当授業を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業・演習を行い・質疑応答をしてください。 実習は指導教員と相談の上院生の希望する臨地実習を指導教員と共に指導します。					
23.オフィスアワー	水曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 第2回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索① 関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索②					
第3回 第4回	授業三観としての教材観・学生観・指導者観を明確にする 講義または演習目標の設定 ①目標と評価においてブルームの教育評価の認知領					

	域・情意領域・精神運動領域を分類できる ②目標の構造として前提目標・中核目標・発展目標を分類できる	
第 5 回	授業案作成①	
第 6 回	授業案作成②	
第 7 回	授業案作成③	
第 8 回	授業案作成④	
第 9 回	授業資料・教材作成①	
第 10 回	授業資料・教材作成②	
第 11 回	授業資料・教材作成③	
第 12 回	授業資料・教材作成④	
第 13 回	授業評価表の作成	
第 14 回	講義演習①	
第 15 回	講義演習②	
第 16 回	講義演習③	
第 17 回	授業評価	
第 18 回	看護学実習教育演習①	
第 19 回	看護学実習教育演習②	
第 20 回	看護学実習教育演習③	
第 21 回	授業資料・教材作成④	
第 22 回	看護学実習教育演習⑤	
第 23 回	看護学実習教育演習⑥	
第 24 回	看護学実習教育演習⑦	
第 25 回	看護学実習教育演習⑧	
第 26 回	看護学実習教育演習⑨	
第 27 回	看護学実習教育演習⑩	
第 28 回	看護学実習教育演習⑪	
第 29 回 第 30 回	看護学実習教育演習⑫ 自らの授業評価及び看護学実習教育のあり方の検討内容から、看護学教育研究者としての抱負と課題をまとめる 看護学教育研究者の抱負と課題は授業終了時提出すると共に、eポートフォリオに記録する。	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC101-A51	2.科目名	ファイナンス		3.単位数	4
4.授業担当教員	河内山 潔					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 様々な企業の活動を記録するための簿記の記帳技術を学び、その結果作成される会計情報の活用について学修します。 【概要】 営利法人、非営利法人を問わず、事業を運営する上において、経営財務についての知識を欠くことはできません。経営財務を学ぶためには、まず、基本的な会計処理を学ぶ必要があります。この講義は、株式会社の会計情報の作成および株式会社の特徴を理解します。会計処理の基礎を学んだ上で、会計原則や関連法規、資金調達の手法等のファイナンスの基礎を学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○簿記一巡の仕組みを理解し、基本的な簿記手続きができる。 ○株式会社会計の基本が説明できる。 ○基礎的な財務諸表分析ができる。					
19.教科書・教材	桑原知之「サクッとわかる日商 3 級商業簿記テキスト第 3 版」ネットスクール出版 2022 年 適宜、プリントを配布					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシート：20％ 2. 中間試験（2 回）：20％+20％ 5. 総括試験：40％					
22.コメント	毎回必ず電卓を持参してください。スマートフォン等の使用は禁止します。 日商簿記検定に挑戦してください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回・第 2 回	オリエンテーション：授業の構成、目標 簿記の基礎① 第 0 章 簿記の自己紹介 第 1 章 身の回りの簿記 (P1～P24)			○復習（180 分）		
第 3 回・第 4 回	簿記の基礎② 第 2 章 仕訳と転記 仕訳、勘定口座記入（P25～P40） 第 3 章 現金と預金 現金、普通預金と定期預金、当座預金（P41～P54）			○簿記の基本ルール、現金・預金について復習（360 分） ○収益と費用、商品売買について予習（120 分）		
第 5 回・第 6 回	第 4 章 収益と費用			○費用と収益、商品売買について復習(360		

回	収益の計上、費用の計上 (P55～P68) 第 5 章 商品売買① 商品売買 (P69～ P91)	分) ○商品売買と債権・債務について予習 (120 分)
第 7 回・第 8 回	第 5 章 商品売買② 売上原価の算定 (P92～P100) 第 6 章 債権と債務 約束手形、貸付金と借入金、電子記録債権・債務、未収入金と未払金 (P101～P126)	○商品売買と債権債務について復習 (360 分) ○固定資産と一時的な処理について予習 (120 分)
第 9 回・第 10 回	第 7 章 固定資産 固定資産 (P127～P142) 第 8 章 一時的な処理 仮払金と仮受金、立替金と預り金、法人税等、消費税、現金過不足 (P143～P174)	○個別取引の仕訳の復習 (420 分)
第 11 回・第 12 回	個別取引の仕訳まとめ 個別取引について、仕訳の練習をする 中間試験① 個別取引の仕訳の確認	○個別取引について復習し、中間試験について予習。(480 分) ○試算表、株式会社会計の予習 (120 分)
第 13 回・第 14 回	第 9 章 試算表 試算表の作成、誤処理の訂正 (P175～P186) 第 10 章 株式の発行・利益の計上・配当 株式会社の設立、帳簿の締切り、株主への配当 (P187～P202)	○試算表、株式会社会計について復習 (360 分) ○精算表、財務諸表について予習 (120 分)
第 15 回・第 16 回	第 11 章 精算表・財務諸表① 決算手続き、これまでの決算整理、当座借越の計上、貸倒れの処理と貸倒引当金の設定(P203～P219) 第 11 章 精算表・財務諸表② 費用・収益の見越と繰延、再振替仕訳、精算表の作成 (P220～P240)	○精算表、財務諸表について復習 (360 分) ○帳簿について予習 (120 分)
第 17 回・第 18 回	第 11 章 精算表・財務諸表③ 損益計算書と貸借対照表の作成、月次決算 (P241～P254) 第 12 章 帳簿① 主要簿、現金・預金に関する帳簿 (P255～P273)	○精算表,財務諸表について復習 (360 分) ○伝票について予習 (120 分)
第 19 回・第 20 回	第 12 章 帳簿② 商品に関する帳簿、債権・債務に関する帳簿、固定資産台帳 (P274～P292) 第 13 章 伝票 伝票会計 (P293～P306)	○帳簿、伝票について復習 (360 分) ○決算処理についてまとめる (120 分)
第 21 回・第 22 回	決算処理のまとめ 決算に関する各種処理と帳簿、伝票のまとめ 中間試験② 決算処理に関する確認	○中間試験の準備 (480 分)
第 23 回・第 24 回	財務諸表論① 会計の基礎概念 財務諸表論② 制度会計	○財務諸表論について復習 (180 分)
第 25 回・第	財務諸表分析①	○財務諸表分析について復習 (180 分)

26 回	貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の分析 財務諸表分析② 財務指標による分析	
第 27 回・第 28 回	管理会計 ファイナンス	○管理会計、ファイナンスについて復習（480 分） ○総括試験に向けて、これまでの授業内容について復習（420 分）
第 29 回・第 30 回	総括試験 まとめ 授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC101-M51	2.科目名	ファイナンス		3.単位数	4
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	営利法人、非営利法人を問わず、事業を運営する上において、経営財務についての知識を欠くことはできません。経営財務を学ぶためには、まず、基本的な会計処理を学ぶ必要があります。この講義は、個人商店を中心とした会計情報の作成および、株式会社の特徴を理解します。会計処理の基礎を学んだ上で、会計原則や関連法規、資金調達の手法等のファイナンスの基礎を学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①簿記一巡の仕組みを理解し、基本的な簿記手続きができる。 ②株式会社会計の基本が説明できる。 ③基礎的な財務諸表分析ができる。					
19.教科書・教材	桑原知之「サクッとわかる日商 3 級テキスト【第 3 版】商業簿記」ネットスクール出版 2022 年 ISBN:978-4-7810-1327-5 適宜、プリントを配布					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシート・・・10 点（学習目標①、③に対応） 2. グループワーク・・・10 点（学習目標③に対応） 3. 小テスト（5 回）・・・10 点（学習目標①、②に対応） 4. Webclass テスト・・・10 点（学習目標①に対応） 5. 中間試験・・・20 点（学習目標①に対応） 6. 総括試験・・・40 点（学習目標①、②、③に対応）					
22.コメント	毎回必ず電卓を持参してください。スマートフォン等の使用は禁止します。 日商簿記検定に挑戦してください。 生成 AI 利用に関して、いかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜 3 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (10/2)・第 2 回(10/6)	オリエンテーション：授業の構成、目標 簿記の基礎① 第 0 章 簿記の自己紹介 第 1 章 身の回りの簿記 (P1～P24)			○復習（180 分）		

第 3 回 (10/9)・第 4 回(10/13)	簿記の基礎② 第 2 章 仕訳と転記 仕訳、勘定口座記入 (P25～P40) 第 3 章 現金と預金 現金、普通預金と定期預金、当座預金 (P41～P54)	○簿記の基本ルール、現金・預金について復習 (360 分) ○収益と費用、商品売買について予習 (120 分)
第 5 回 (10/16)・第 6 回(10/20)	第 4 章 収益と費用 収益の計上、費用の計上 (P55～P68) 第 5 章 商品売買① 商品売買 (P69～ P91)	○費用と収益、商品売買について復習(360 分) ○商品売買と債権・債務について予習 (120 分)
第 7 回 (10/23)・第 8 回(10/27)	第 5 章 商品売買② 売上原価の算定 (P92～P100) 第 6 章 債権と債務 約束手形、貸付金と借入金、電子記録債権・債務、未収入金と未払金 (P101～P126)	○商品売買と債権債務について復習 (360 分) ○固定資産と一時的な処理について予習 (120 分)
第 9 回 (10/30)・第 10 回(11/3)	第 7 章 固定資産 固定資産 (P127～P142) 第 8 章 一時的な処理 仮払金と仮受金、立替金と預り金、法人税等、消費税、現金過不足 (P143～P174)	○個別取引の仕訳の復習 (420 分)
第 11 回 (11/6)・第 12 回(11/10)	個別取引の仕訳まとめ 個別取引について、仕訳の練習をする 中間試験① 個別取引の仕訳の確認	○個別取引について復習し、中間試験について予習。(480 分) ○試算表、株式会社会計の予習 (120 分)
第 13 回 (11/13)・第 14 回(11/17)	第 9 章 試算表 試算表の作成、誤処理の訂正 (P175～P186) 第 10 章 株式の発行・利益の計上・配当	○試算表、株式会社会計について復習 (360 分) ○精算表、財務諸表について予習 (120 分)

	株式会社の設立、帳簿の締切り、株主への配当 (P187～P202)	
第 15 回 (11/20)・第 16 回(11/24)	第 11 章 精算表・財務諸表① 決算手続き、これまでの決算整理、当座借越の計 上、貸倒れの処理と貸倒引当金の設定(P203～P219) 第 11 章 精算表・財務諸表② 費用・収益の見越と繰延、再振替仕訳、精算表の作 成 (P220～P239)	★課題 1 提出 ○精算表、財務諸表について復習 (360 分) ○帳簿について予習 (120 分)
第 17 回 (11/27)・第 18 回(12/1)	第 11 章 精算表・財務諸表③ 損益計算書と貸借対照表の作成、月次決算 (P240～ P254) 第 12 章 帳簿① 主要簿、現金・預金に関する帳簿 (P255～P273)	○精算表,財務諸表について復習 (360 分) ○伝票について予習 (120 分)
第 19 回 (12/4)・第 20 回(12/8)	第 12 章 帳簿② 商品に関する帳簿、債権・債務に関する帳簿、固定 資産台帳 (P274～P292) 第 13 章 伝票 伝票会計 (P293～P306)	◎課題 2 : 財務諸表を入手し、グループで比 較しなさい。(100 分) ○帳簿、伝票について復習 (360 分) ○決算処理についてまとめる (120 分)
第 21 回 (12/11)・第 22 回(12/15)	決算処理のまとめ 決算に関する各種処理と帳簿、伝票のまとめ 中間試験② 決算処理に関する確認	○中間試験の準備 (480 分)
第 23 回 (12/18)・第 24 回(12/22)	財務諸表論① 会計の基礎概念 財務諸表論② 制度会計	○財務諸表論について復習 (180 分)
第 25 回 (1/8)・第 26	財務諸表分析①	○財務諸表分析について復習 (180 分)

回(1/15)	貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の分析 財務諸表分析② 財務指標による分析	
第 27 回 (1/19)・第 28 回(1/22)	課題 2 発表 管理会計 ファイナンス	★課題 2 提出 ○管理会計、ファイナンスについて復習（480 分） ○総括試験に向けて、これまでの授業内容について復習（420 分）
第 29 回 (1/26)・第 30 回(1/27)	まとめ 授業アンケート 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC101-Y01	2.科目名	ファイナンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉川浩二					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	本講義ではファイナンスの基礎について学ぶ。ファイナンス関連の公的な資格の一つ、ファイナンシャルプランナー（FP）の勉強を通じてファイナンス全般の知識の習得を目指す。国家資格 FP 技能士 3 級の合格が目標。 授業はテキストを用いて行う。予習は不要であるが、パソコン・スマートフォン等を用いた復習は必須である。毎回、パソコンを利用して問題の回答を行うので、必ず持参すること。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）は次の通りです。 1. ファイナンスの専門用語が理解できる＝知的好奇心 2. ファイナンスの知識を実生活に生かす＝専門的知識・技能の活用力 3. ファイナンス関連の情報収集を行う＝情報収集／発見力					
19.教科書・教材	みんなが欲しかった! FP の教科書 3 級 2025-2026 年 本書は 2025 年 5 月ごろ発売予定なので購入時は注意すること 古い年度のものは使用しないこと					
20.参考文献	・『みんなが欲しかった! FP の問題集 3 級 2025-2026 年 本書は 2025 年 5 月ごろ発売予定なので購入時は注意すること 古い年度のものは使用しないこと					
21.成績評価	最終回に試験を実施。2 回実施し、いずれかが 60%以上の正解で合格。					
22.コメント	ファイナンス全般の知識を得て、豊かな人生を送ろう					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ライフプランニングと資金計画その 1			PC 持参		
第 3 回 第 4 回	ライフプランニングと資金計画その 2 ライフプランニングと資金計画その 3			PC 持参		
第 5 回 第 6 回	リスク管理その 1 リスク管理その 2			PC 持参		
第 7 回 第 8 回	リスク管理その 3 リスク管理その 4			PC 持参		
第 9 回 第 10 回	リスク管理その 5 金融資産運用その 1			PC 持参		
第 11 回 第 12 回	金融資産運用その 2 金融資産運用その 3			PC 持参		
第 13 回 第 14 回	金融資産運用その 4 金融資産運用その 5			PC 持参		
第 15 回 第 16 回	タックスプランニングその 1 タックスプランニングその 2			PC 持参		

第 17 回	タックスプランニングその 3	PC 持参
第 18 回	タックスプランニングその 4	
第 19 回	タックスプランニングその 5	PC 持参
第 20 回	不動産その 1	
第 21 回	不動産その 2	PC 持参
第 22 回	不動産その 3	
第 23 回	不動産その 4	PC 持参
第 24 回	不動産その 5	
第 25 回	相続・事業継承その 1	PC 持参
第 26 回	相続・事業継承その 2	
第 27 回	相続・事業継承その 3	PC 持参
第 28 回	相続・事業継承その 4	
第 29 回	試験その 1	PC 持参
第 30 回	試験その 2	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC202-M51	2.科目名	財務会計論		3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	企業会計の目的は、公正妥当な会計処理を行い、株主、債権者、取引先等の利害関係者に適切な情報を提供することである。ビジネスに関わるすべての人にとって、企業情報の根幹となる財務諸表（特に損益計算書と貸借対照表）の意味や内容を理解することは非常に重要である。 本講義では、財務諸表を利用する立場から、企業財務会計に関する基本的な原理を中心に理解し、貸借対照表と損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本構成や内容を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	○財務諸表の意義・重要性を説明でき、資産・負債・純資産の分類が説明できる。 ○期間損益計算の原理と損益計算のルールを説明できる。 ○株式会社の貸借対照表と損益計算書が作成できる。 ○キャッシュフロー計算書の意義が説明できる。					
19.教科書・教材	大阪商工会議所（編）『ビジネス会計検定試験 3 級公式テキスト』（第 3 版）中央経済社 2014 年 ISBN: 978-4502094309					
20.参考文献						
21.成績評価	ワークシート：20％ 課題（2 回）：20％ 中間試験：20％ 総括試験：40％					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、いかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ ガイダンス ・ 財務諸表の役割・種類 教科書 pp.1～8 （ワークシート No.1）			○財務諸表の役割・種類について復習（20 分） ○予習 教科書 pp.9～29（30 分）		
第 2 回	・ 貸借対照表のしくみ 資産の分類 流動資産 教科書 pp.9～29 （ワークシート No.2）			○流動資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.30～39（30 分）		
第 3 回	・ 固定資産 繰延資産 教科書 pp.30～39 （ワークシート No.3）			○固定資産、繰延資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.40～45（30 分）		
第 4 回	・ 負債 教科書 pp.40～45 （ワークシート No.4）			○負債について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.46～53（30 分） ◎＜課題 1＞選択企業の貸借対照表から財政状態を説明し、グループで比較する。（180 分）		
第 5 回	・ 純資産 教科書 pp.46～53 （ワークシート No.5）			○純資産について復習（240 分） ○資産、負債、純資産の復習、貸借対照表の作成（120 分）		
第 6 回	・ 中間試験（貸借対照表）			●課題 1 提出		

		○予習 教科書 pp.56～65 (30 分)
第 7 回	・ 課題 1 の発表 ・ 損益計算書のしくみ 5 つの利益 教科書 pp.56～65	○損益計算書のしくみについて復習 (240 分) ○予習 教科書 pp.66～75 (30 分)
第 8 回	・ 損益計算のルール、売上総利益 教科書 pp.66～75 (ワークシート No.6)	○損益計算のルール、売上総利益について復習 (240 分) ○予習 教科書 pp.76～85 (30 分)
第 9 回	・ 営業利益、経常利益 教科書 pp.76～85 (ワークシート No.7)	○営業利益、経常利益について復習 (240 分) ○予習 教科書 pp.86～98 (30 分) ◎＜課題 2＞選択企業の損益計算書から経営成績を説明し、グループで比較する。(180 分)
第 10 回	・ 税引前当期純利益 当期純利益 教科書 pp.86～98 (ワークシート No.8)	○税引前当期純利益、当期純利益について復習 (240 分)
第 11 回	・ 課題 2 の発表	●課題 2 提出 ○予習 教科書 pp.100～122 (30 分)
第 12 回	・ キャッシュフロー計算書 教科書 pp.100～122 (ワークシート No.9)	○キャッシュフロー計算書について復習 (210 分) ○予習 教科書 pp.124～137 (30 分)
第 13 回	・ 財務情報分析の基礎 教科書 pp.124～137 (ワークシート No.10)	○財務諸表分析の基礎について復習 (210 分)
第 14 回	・ まとめと総括試験の準備	総括試験の準備 (240 分)
第 15 回	・ 総括試験 ・ 授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC202-a81	2.科目名	財務会計論（遠隔:三木 C 発信）		3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	企業会計の目的は、公正妥当な会計処理を行い、株主、債権者、取引先等の利害関係者に適切な情報を提供することである。ビジネスに関わるすべての人にとって、企業情報の根幹となる財務諸表（特に損益計算書と貸借対照表）の意味や内容を理解することは非常に重要である。 本講義では、財務諸表を利用する立場から、企業財務会計に関する基本的な原理を中心に理解し、貸借対照表と損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本構成や内容を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	○財務諸表の意義・重要性を説明でき、資産・負債・純資産の分類が説明できる。 ○期間損益計算の原理と損益計算のルールを説明できる。 ○株式会社の貸借対照表と損益計算書が作成できる。 ○キャッシュフロー計算書の意義が説明できる。					
19.教科書・教材	大阪商工会議所（編）『ビジネス会計検定試験 3 級公式テキスト』（第 5 版）中央経済社 2023 年 ISBN: 978-4-502-45421-9					
20.参考文献						
21.成績評価	ワークシート：20％ 課題：20％ 中間試験：20％ 総括試験：40％					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、いかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜 3 限 学修支援センターオフィスアワー：月曜 4 限（センタープログラム）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回(10/6)	・ガイダンス ・財務諸表の役割・種類 教科書 pp.1～11（ワークシート No.1）			○財務諸表の役割・種類について復習（20 分） ○予習 教科書 pp.13～34（30 分）		
第 2 回(10/13)	・貸借対照表のしくみ 資産の分類 流動資産 教科書 pp.13～34（ワークシート No.2）			○流動資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.35～44（30 分）		
第 3 回(10/20)	・固定資産 繰延資産 教科書 pp.35～44（ワークシート No.3）			○固定資産、繰延資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.45～50（30 分）		
第 4 回(10/27)	・負債 教科書 pp.45～50（ワークシート No.4）			○負債について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.51～58（30 分） ◎＜課題 1＞選択企業の貸借対照表から財政状態を説明し、グループで比較する。（180 分）		
第 5 回(11/3)	・純資産 教科書 pp.51～58（ワークシート No.5）			○純資産について復習（240 分） ○資産、負債、純資産の復習、貸借対照表の作成（120 分）		

第 6 回(11/10)	・ 中間試験（貸借対照表）	●課題 1 提出 ○予習 教科書 pp.59～69（30 分）
第 7 回(11/17)	・ 課題 1 の発表 ・ 損益計算書のしくみ 5 つの利益 教科書 pp.59～69	○損益計算書のしくみについて復習（240 分） ○予習 教科書 pp.70～78（30 分）
第 8 回(11/24)	・ 損益計算のルール、売上総利益 教科書 pp.70～78（ワークシート No.6）	○損益計算のルール、売上総利益について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.79～88（30 分）
第 9 回(12/1)	・ 営業利益、経常利益 教科書 pp.79～88（ワークシート No.7）	○営業利益、経常利益について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.89～102（30 分） ◎＜課題 2＞選択企業の損益計算書から経営成績を説明し、グループで比較する。（180 分）
第 10 回(12/8)	・ 税引前当期純利益 当期純利益 教科書 pp.89～102（ワークシート No.8）	○税引前当期純利益、当期純利益について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.141～179（30 分）
第 11 回 (12/15)	・ 課題 2 の発表 ・ キャッシュフロー計算書① 教科書 pp.103～140	●課題 2 提出 ○予習 教科書 pp.103～140（30 分）
第 12 回 (12/22)	・ キャッシュフロー計算書② 教科書 pp.103～140（ワークシート No.9） ・ 課題 3	○キャッシュフロー計算書について復習（210 分） ○予習 教科書 pp.141～179（30 分）
第 13 回(1/19)	・ 財務情報分析の基礎 教科書 pp.141～179（ワークシート No.10）	○財務諸表分析の基礎について復習（210 分）
第 14 回(1/26)	・ まとめと総括試験の準備	総括試験の準備（240 分） ●課題 3 提出
第 15 回(1/27)	・ 総括試験 ・ 授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC302-M51	2.科目名	経営分析		3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	専門科目 展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	特に指定しないが、簿記・会計系科目の学修が前提となっている。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、企業が公表している財務諸表を入手し、様々な観点から分析することによって、企業を評価する基礎的な手法を習得することを目的とする。 【概要】まず、データの入手方法や加工方法を概説する。次に様々な分析方法のうち、本講義で取り上げる安全性分析、収益性分析、成長性分析について説明する。そして、サンプル企業のデータを利用して具体的に分析を行い、その分析結果を評価し、総合的な企業評価を行うこととする。 ・収集したデータを解析し、その中に潜む項目間の相関関係を把握し、特徴やパターンを説明できる ・経年比較や他社比較の分析結果から、企業の状況を総合的に判断し説明できる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①企業が公開している情報を、経営分析の視点から加工・評価し、得られた結果から経営活動に関して説明できる。 ②分析結果に基づいて企業の状況を判断し、問題点があれば改善提案ができる。					
19.教科書・教材	教科書は指定しない。 必要に応じて、資料を配布する。					
20.参考文献	佐藤裕一著「日経文庫 ビジュアル経営分析の基本（第5版）」日本経済新聞社 大阪商工会議所編「ビジネス会計検定試験公式テキスト3級 [第3版]」中央経済社 平松一夫・山地範明・百合草裕康編著「連結会計情報と企業分析の基礎」東京経済情報出版 桜井久勝著「財務諸表分析」中央経済社					
21.成績評価	課題レポート①～④ 40% グループワーク記録 5% プレゼン評価 10% 最終レポート 45%					
22.コメント	毎回、ノートパソコンを持参すること。 生成 AI 利用に関して、いかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 学修支援センターオフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回(10/1)	ガイダンス 授業の概要 経営分析の目的と考え方 ・経営分析の目的と考え方を理解する。 ・分析用データの入手方法を理解する。			○テキスト pp.10~15 を復習する。 ○テキスト pp.16~33 を予習し、わからないところがあれば調べておく。		
第 2 回(10/8)	経営分析の基礎① ・決算書（有価証券報告書・損益計算書・貸借対照表			○テキスト pp.16~33 を復習する。 ○テキスト pp.34~44 を予習し、わからないと		

	他)の内容を理解する。 ・個別決算と連結決算について理解し、データの加工の際に必要な手続きを理解する。	ころがあれば調べておく。
第3回(10/15)	経営分析の基礎② ・経営分析の手法(安全性・収益性・成長性・生産性他)について理解する。(担当したい企業を決定する。)	○テキスト pp.34~44 を復習する。 ○次回授業時に課題レポート①が課されるので、わからないところがあれば調べておく。
第4回(10/22)	経営分析の基礎③ サンプルデータの入手・加工 サンプル企業のデータを加工して、分析用データを作成する。 ☆計算作業のため、必ず電卓を持参すること。	○配布されたwsに計算結果を記入し、完成させる。(課題レポート①として提出する予定) ○授業時に完成できない場合、シートを完成させる。(課題レポート①) ○テキスト pp.46~84 を熟読し、予習する。
第5回(10/29)	安全性分析① 安全性分析の財務指標の解説	☆課題レポート①を提出する。 ○テキスト pp.46~84 を熟読し、復習する。
第6回(11/5)	安全性分析② サンプルデータによる安全性分析の実施 配布されたwsに計算結果を記入し、完成させる。	○テキスト pp.46~84 を熟読し、復習する。 ○授業時に完成できない場合、wsを完成させる。
第7回(11/12)	安全性分析③ サンプルデータによる安全性分析の評価 wsに評価のコメントを記入し、完成させる。(次回提出予定) 分析結果を共有する(GW記録①)	○テキスト pp.46~84 を熟読し、復習する。 ○テキスト pp.88~131 を熟読し、予習する。
第8回(11/19)	収益性分析① 収益性分析の財務指標の解説	☆課題レポート②を提出する。 ○テキスト pp.88~131 を熟読し、復習する。
第9回(11/26)	収益性分析② サンプルデータによる収益性分析の実施	○テキスト pp.88~131 を熟読し、復習する。
第10回(12/3)	収益性分析③ サンプルデータによる収益性分析の評価(課題レポート③) 分析結果を共有する(GW記録②)	○テキスト pp.88~131 を熟読し、復習する。 ○テキスト pp.134~145 を熟読し、予習する。
第11回(12/10)	成長性分析① 成長性分析の財務指標の解説・サンプルデータによる成長性分析の実施	☆課題レポート③の提出 ○テキスト pp.134~145 を熟読し、復習する。
第12回(12/17)	成長性分析② 担当企業について、成長性分析を実施する。サンプルデータによる成長性分析の評価する。(課題レポート④として提出予定) GWで分析結果を共有する(GW記録③)	☆課題レポート④を提出する。 ○テキスト pp.134~145 を熟読し、復習する。
第13回(1/7)	総合的分析① サンプルデータについて、総合的評価を実施する。	○テキスト pp.148~161 を熟読し、復習する。
第14回(1/14)	総合的分析② 担当企業について、総合的分析を実施する。 担当企業について、セグメント情報からグローバル化の状況を分析する。	○プレゼン準備

	プレゼン準備をする（発表用 PPT の準備）	
第 15 回(1/21)	総合的分析③ グループ内で発表し、相互評価を行う（GW 記録+プレゼン評価票） 総合的分析のまとめ 授業アンケート実施	☆発表用の PPT を最終レポートとして提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	ANT102-Y51	2.科目名	文化人類学		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	どの学科からの受講も可能			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（基本的には講義中心に授業を進めますが、映像資料も頻繁に使用します。映像資料を見ながらわかりやすく異文化について学んでいく授業です。また、必要に応じてディスカッションや発表も行います。） なお、この授業では、留学生が多数を占める時、必要に応じて日本語と英語のバイリンガル授業を行うこともあります。 Lecture (The class will be conducted mainly through lectures, but video materials will also be used fr		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	文化人類学とは、グローバルな視野をもったり、真の国際人になったり、豊かな見識を養うためにきわめて重要な学問です。文化人類学では、自分が興味と関心をもつ国や地域に実際に行ってフィールドワークをし、メディアを通して間接的にではなく、自分の目と耳で異文化や現地社会のことについて理解を深めていきます。私はこれまで、北米や北欧諸国、イギリス、イタリア、ポルトガル、インドネシア、カンボジア、ベトナム、フィリピン、タイ、中国、台湾、韓国、香港、マカオなどの東南アジアや東アジア諸国でフィールドワークをやってきましたが、授業ではこれらの国や地域で行ったフィールドワークの映像資料などもたくさん見せる予定です。 また、この授業では、文化人類学の基礎のテーマである、教育、観光、性とジェンダー、民族文化、芸術、癒しと健康などのトピックを取りあげて、それらについて比較文化的・多角的に学んでいきます。たとえば、文化人類学では、「芸術は、美術館にあるものだけが芸術ではなく、私たちの身の回りに普遍的に存在する、と捉えます。」なぜなら、祭りやスポーツやミュージシャンのコンサートにも、しばしば芸術的な側面が多々見られるからです。このように、この授業では、私たちの生活とも密接な関連をもつこうしたテーマを取りあげ、それらを幅広い視点で捉えることができる人材の育成を目指します。また、この授業では、人間観察の仕方やインタビューの仕方など、社会に出ても役立つような実践的なフィールドワークの技についても学びます。 半期 15 回の授業ですが、授業を通して、異文化理解に役立つ 30～40 本の映画や映像資料も紹介します。そうした映像資料を通して、この授業では、異文化についての総合的な理解を深めていくことを目指します。この授業は、いろいろな国の映画に興味がある人、また、異文化に興味のある人にはとてもオススメです。文化人類学という授業名を見ると何か難しそうに見えますが、少しも難しくありませんし、楽しくて役に立つ内容が満載の授業です。気軽に授業に来てみてください(^^♪ Cultural anthropology is an essential discipline for developing a global perspective, becoming a truly international-minded person, and cultivating deep insight. In cultural anthropology, students deepen their understanding of different cultures and local societies not through indirect means like media, but through direct experiences gained via fieldwork in countries					

	and regions of personal interest. I have conducted fieldwork in various countries and regions, including North America, Northern Europe, the UK, Italy, Portugal, Indonesia, Cambodia, Vietnam, the Philippines, Thailand, China, Taiwan, South Korea, Hong Kong, Macau, and other Southeast and East Asian countries. In this course, I plan to show many video materials from those fieldwork experiences. We will also explore fundamental themes in cultural anthropology, such as education, tourism, sexuality and gender, ethnic culture, art, healing, and health. These topics will be examined from comparative cultural and multifaceted perspectives. For example, in cultural anthropology, "art" is not considered limited to works in museums, but something that exists universally around us. This is because artistic elements can often be found in festivals, sports events, and live music performances. In this way, the course focuses on topics that are closely connected to our daily lives and aims to foster individuals who can view such issues from a broad perspective. Additionally, students will learn practical fieldwork skills that are useful in society, such as methods of human observation and conducting interviews. Although this is a 15-week course, we will explore 30 to 40 films and video materials that help enhance intercultural understanding. Through these visual resources, the course aims to deepen students' comprehensive understanding of other cultures. This course is highly recommended for those interested in films from around the world or in different cultures. While the title "Cultural Anthropology" may sound difficult, the class is full of fun and useful content—it's not difficult at all. Please feel free to join us! ? 本科目では、私たちの日常生活とさまざまな関わりを持つ次の6つのテーマを文化人類学の視点から取り上げます。 1. 教育（多様な教えや学びの在り方などについて） 2. 医療（癒しと健康と病などについて） 3. 性とジェンダー（男らしさ、女らしさ、結婚などについて） 4. 芸術（音楽や上演芸術など多様な芸術文化の比較） 5. 民族文化（さまざまな民族文化の比較） 6. 観光（さまざまな観光地と観光文化について） 以上の6つのテーマを文化人類学の視点から比較文化的に取り上げて、それぞれのテーマについて視野を広げることを目指します。 In this course, we will explore the following six themes—each closely connected to our daily lives—from the perspective of cultural anthropology: 1. Education (exploring diverse ways of teaching and learning) 2. Medicine (focusing on healing, health, and illness) 3. Sex and Gender (examining concepts of masculinity, femininity, marriage, etc.) 4. Art (comparing various forms of artistic and performing arts cultures) 5. Ethnic Cultures (comparing different ethnic traditions and practices) 6. Tourism (looking at various tourist destinations and tourism cultures) By addressing these six themes from a comparative cultural and anthropological perspective, the course aims to broaden students' understanding and perspectives on each topic.
18.学習目標と DPとの関連	新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる。修得した知識・技能と社会の現象を 関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぶ意欲を持つことができる。 他者の発表や文章を傾聴し、読解して、その内容の要点をとらえ、自分の疑問や意見をまとめ、建設的な意見交換をすることができる。他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整し て、互いに納得できる結論を得るこ とができる。 世界の文化の多様性に対して理解を深め、文化人類学の基本的な視点や考えに基づいて、異文

	化理解や社会現象の分析ができるようになる。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル Students will develop an interest in and motivation for learning new knowledge and skills. They will be encouraged to actively engage with new questions and areas of interest by relating the knowledge and skills they acquire to social phenomena. They will be able to listen attentively to others' presentations and read texts carefully, grasp the main points, formulate their own questions and opinions, and engage in constructive discussions. By understanding others' arguments, they will learn to adjust and integrate their own views with those of others to reach mutually acceptable conclusions. Students will deepen their understanding of cultural diversity around the world and, based on the fundamental perspectives and approaches of cultural anthropology, will become capable of analyzing intercultural understanding and social phenomena. (1) Autonomous and proactive attitude (Autonomy) (3) Ability to understand and accept diverse cultures and their backgrounds (Cultural Diversity Awareness) (5) Communication skills
19.教科書・教材	授業時に参考資料を配布します No textbook (Some reference materials will be distributed in class)
20.参考文献	『文化人類学キーワード[改訂版]』山下晋司・船曳建男編、有斐閣双書、2008 年 『現代人類学のプラクシス：科学技術時代をみる視座』山下晋司・福島真人編、有斐閣アルマ、2005 年 These books are for reference only. You don't need to buy them. But if you want to know more about cultural anthropology, I strongly recommend reading them.
21.成績評価	①リアクションペーパー（講義内容についてのまとめと感想を書いたもの） 10 % ②学期中に行うキーワード小テスト 10 % ③映画レポート 30 % ④期末レポート 30 % ⑤ゲストスピーカーの話を聞いて書く小レポート 20 % 1. reaction paper (paper to summarize the key points of and write a personal impression of each day's lecture) 10% 2. short tests that will be c
22.コメント	<授業の特徴> 文化（異文化や自文化）というものに興味があり、普段あまり意識しないような観点から物事（人や文化などについて）を考察したい人には特に楽しめる授業だと思います。また、教育、医療、性とジェンダー、芸術、民族文化、観光といったテーマをおもに取り上げる予定なので、特にこういうテーマに興味がある人にも楽しめると思います。さらに、文化人類学の醍醐味であるフィールドワークのテクニックについても説明します。こうしたテクニックは、人間観察法（人をより良く観察する方法）やインタビュー法（人からより良く情報を聴きだす方法）など、実社会でもとても役立つ技能です。文化人類学は全然難しくないのです、とにかく気楽に受講してみてください。 なお、この授業では、留学生が多数を占める時、必要に応じて日本語と英語のバイリンガル授業を行うこともあります。 If you are interested in culture (other cultures and/or your own culture) and if you would like to understand things (especially people and culture) from different and broader perspectives, I am sure that you will enjoy this class. If you are interested in topics such as education,

		medicine (health and healing), sex and gender, art, tourism, and ethnic culture, which will be discussed mainly in this class, I am sure that you will enjoy this class. I will also be introducing the most important skill of cultural anthropology: fieldwork techniques. Fieldwork techniques include ways of observing and interviewing people and these techniques are quite useful and widely applicable to your social life. Anyway, please don't assume that cultural anthropology is an academic subject quite complicated to understand. It is not complicated at all and it will help you look at the world around you from a new and broader perspective. So, please feel relaxed and come see the class! By the way, when the majority of students in the class are international students, bilingual instruction in both Japanese and English will be provided as needed. < 自主学習 > 文化人類学では、物事を決めつけて見ない、ということを大前提としています。普段の生活の中でも、できるだけ幅広い視点で柔軟に物事を解釈する習慣をつけておくのは大事だと思います。 In cultural anthropology, eliminating and minimizing prejudice is of utmost importance when understanding culture (especially other cultures). So, it is significant that you try to interpret and view things (people and events) flexibly and broadly in your daily life. Doing so will help you better understand the basic assumption of cultural anthropology that emphasize the importance of eliminating and minimizing prejudice. * 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。
23. オフィスアワー		
24. 授業回数	25. 授業内容	26. アサインメント (宿題など)
第 1 回	文化人類学とは何か (What is Cultural Anthropology?) 文化人類学の基本的特徴の紹介：文化人類学がどのような特徴をもつ学問であり、国際人の養成にとっていかに重要であり、他の専門（考古学や社会学や民俗学とはどう違うのかなどについて説明・紹介します。また、文化人類学では、どのようなことが研究されており、どのような社会貢献がされているかについても述べます。(Basic introduction of cultural anthropology: I will introduce a	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 2 回	フィールドワーク入門 1 (Introduction to Fieldwork 1) 異文化（自文化も含む）理解の具体的方法としてのフィールドワークの特徴、および、メリットとデメリットについて紹介します。また、異文化（自文化も含む）をよりよく理解するための心得や秘訣についても紹介します。人間観察法やインタビュー法など、実社会でも役立つフィールドワークのテクニックについても紹介します。(I will introduce basic characteristics and concepts of anthrop	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 3 回	フィールドワーク入門 2 (Introduction to Fieldwork 2) 私自身の中国や韓国や東南アジアやイギリスや北欧などでの経験に基づいて、フィールドワークの実際につ	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)

	いて具体的に紹介します。(Based on my fieldwork experiences in China, Korea, Southeast Asia, the U.K., and Norway, I will introduce what actual fieldwork is like.)	
第 4 回	教育と文化 1 (Education and Culture 1) 教育を広く捉える文化化（人が文化を身につける過程）という概念について説明し、それが人生をより良く生きるうえでいかに重要な概念であるかについて考えていきます。また、文化とパーソナリティの関係についての研究も紹介します。(I will explain about the key anthropological concept of enculturation (a process of acquiring and learning a cu	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 5 回	教育と文化 2 (Education and Culture 2) 「学校だけが学びの場ではない」という点を理解するために、学校教育や徒弟教育など世界のさまざまな教育形態の比較をします。また、学校教育というものについて、さまざまな観点から捉えて考察します。(I will compare various types of educational modes such as school education and apprenticeship. I will also introduce ways of a	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 6 回	医療と文化(Culture and Health&Healing) 健康・病・癒しなどに関する文化的に多様な考え方について紹介します。特に、世界の興味深いさまざまな癒しの実践について詳しく紹介します。(I will introduce culturally different ways of understanding health, sickness, and healing.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 7 回	民族文化(Ethnic Culture) 植民地主義と民族文化の関係などについて取り上げます。また、世界のさまざまな民族文化の比較を行います。(I will introduce the impact of colonialism on ethnic culture. I will also compare ethnic cultures from different parts of the world.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 8 回	文化人類学関連の映画鑑賞（watching a movie related to cultural anthropology）	
第 9 回	文化人類学関連の映画鑑賞（watching a movie related to cultural anthropology）	
第 10 回	性とジェンダー(Sex and Gender) 文化や時代による男らしさ、女らしさ、セクシャリティ（性的志向）のあり方や多様性、および、結婚のあり方の多様性について取り上げます。(I will introduce culturally different ways of understanding masculinity and femininity, sexuality, and types of marriage.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 11 回	芸術と文化 1 (Art and Culture 1) 「芸術は美術館にだけあるものではない」という点を理解するために、世界のさまざまな芸術を上演芸術や視覚芸術やスポーツなどの幅広い文脈で捉えて考えます。(I will introduce ways of understanding art from a broad perspective by comparing different genres of	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)

	art (such as performing arts and visual art) and ar	
第 1 2 回	芸術と文化 2 (Art and Culture 2) 芸術と観光、芸術と政治、芸術と宗教の関係について考えます。(I will explain and analyze the relations between art and tourism, art and politics, and art and religion.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 1 3 回	観光と文化 1 (Tourism and Culture 1) 観光の歴史、世界のさまざまな観光地の比較、観光地に見られる観光文化の特徴について考えます。(I will introduce various tourist spots in the world as well as tourist culture seen in these spots. I will also introduce the history of tourism.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 1 4 回	観光と文化 2 (Tourism and Culture 2) 観光を十倍楽しむ方法について、および、観光をする際の心得について紹介します。(I will introduce ways to enjoy tourism ten times more as well as things that we should keep in mind before participating in tourism.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 1 5 回	授業の総括(Summary) これまで取り上げた各テーマのおもな内容を総括し、まとめます。(I will summarize the key points of all the lectures.)	

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-Y52	2.科目名	評価と実践Ⅱ（英コミ_2023 秋編入生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	片山真理、清水拓野、實川真理子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。具体的には、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求められている能力観に関する概念について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 評価や能力観に関する概念、評価方法を理解する。 2. 大学及び各学科の教育目標の理解を深める。 3. 教育目標にかかげる力・資質、及び教養等の修得に関する自己評価能力を高める。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著），門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、以下の通りです。 （認定科目のため成績評価は行いません） ○全学共通で指定する要件 ① e ポートフォリオの成長確認シートを入力する。 「2020 年度春・夏学期」「2020 年度秋・冬学期」「2021 年度春・夏学期」「2021 年度秋・冬学期」 ② e ポートフォリオのベンチマークのチェック登録を行う。 「2020 秋リフレクション」「2021 春リフレクション」「2021 秋リフレクション」 ※認定要件を追加することがあります。 ○その他、学科で指定する要件がある場合は別途指定しま					
22.コメント	?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2021 年度春学	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間			☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-Y54	2.科目名	評価と実践Ⅱ（社会_2023 秋編入生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	南畑淳史、岡本久、中島康二、山本晃輔					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念について学びます。					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著）、ローラ・H. サルガニク（著）、立田 慶裕（監訳）『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。 2023 年度の評価と実践の時間を使って、 ChatGPT で ES の添削する練習したり、リクルートさんから就活の支援をして頂きます。 楽しみにしててください。					
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

3 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフレクション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 春ベンチマーク」 「2022 年度秋・冬学期結果」 「2023 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。 ☆ 学修成果サマリーに入れる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。 【随
3 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1 (第 7 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2 (第 9 週) ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり (第 15 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 秋ベンチマーク」 「2023 年度春・夏学期結果」 「2023 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 企業等の業績評価 (第 7 週) ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える。(第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ 第 15 回 4 年春学期のふりかえり (第 15 週) ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経験を	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
(次年度予定)	第 16 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレク	【第 17 回 宿題】

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	BSS101-M51	2.科目名	発想法 (1/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイデアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 この授業では、問題解決や新しいアイデアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時には少人数のグループ活動を通じて解決していく。ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。グループワークが中心となる回では、グループとしてのプレゼンテーションも行う。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は KUIS 学修ベンチマークの(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力に関連する。 1. 社会で問題になっていることを、普段から気にかけることができる。 2. 既存の考えにとらわれず、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。 3. 発想法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブック－大学生と新社会人のための』 竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014 年 (学内での教科書販売で必ず入手すること)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30% 2. 確認テスト・・・20% 3. 最終レポート・・・50%					
22.コメント	掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスへ行くこと。 ＊テキストは、事前に教科書販売で購入し、第1回の授業に持参すること。 ・基本的には、毎回1章ずつ進める。 ・各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートへの書き込みを中心にした演習を行う。 ・「考えること」を中心課題にしている授業なので、直感で簡潔に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。 ・必ずしも個人の思考に引きこもる必要はない。アイデアを受講者同士で交換しあうことはむしろ勧める。ただし、最終的な解答には、誰かの真似でない、自分ならではの発想が表現さ					

	れているべきである。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 副学長室 : 水昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 ("蓮浦"の情報をまとめる) テキスト p 6 ~ p 10 参照	○ワークシート 1 を完成させ提出する (Web-Class)。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習し、ワークシート 2.1 を完成させ提出する (Web-Class)。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。ワークシート 3.1 を完成させ提出する (Web-Class)。(120 分) ○第 4 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。ワークシート 4.1 を完成させ提出する (Web-Class)。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2 (実施した図解練習問題結果を授業中に提出)	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。ワークシート 5 (5.1, 5.2) を完成させ提出する (Web-Class)。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2 (図解 (流れ図) 練習問題結果を授業中に提出)	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。ワークシート 6 (6.1, 6.2) を完成させ提出する (Web-Class)。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。ワークシート 7 (7.1, 7.2) を完成させ提出する (Web-Class)。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8 (1) 授業終了時に提出	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分) ◎グループで発表準備をする。(240 分)

第 9 回	第 8 章 つづき（グループワーク～プレゼンテーション）。KJ 法の実践とその成果発表。WS 8（2）	○ワークシート 8（2）を完成させ提出する（Web-Class）。。（30 分） ○自分でテーマを決めて、KJ 法を復習する。（120 分）
第 10 回	第 9 章 類比型思考法。NM 法について学ぶ。WS9.1	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。 ○ワークシート 9（9.1, 9.2）を完成させ提出する（Web-Class）。
第 11 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。（30 分） ○第 10 章を復習する。ワークシート 10（10.1, 10.2）を完成させ提出する（Web-Class）。（120 分） ○自分でテーマを決めて、NM 法を復習する。（120 分）
第 12 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析について学ぶ。WS11.1 11.2 最終レポートに向けた説明	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。（30 分） ○第 11 章を復習する。ワークシート 11（11.1, 11.2）を完成させ提出する（Web-Class）。（120 分） ○最終レポート課題の資料を収集する。（課題ワーク）（120 分）
第 13 回	最終レポートに向けた準備を実施する。ワーク（1）、（2） WS12	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。（30 分） ○最終レポートに向けた情報整理。ワークシート 12 を完成させ提出する（Web-Class）。（120 分）
第 14 回	最終レポートに向けたこれまでの WS の確認。（不足情報の収集・整理） 確認テスト（第 15 回目）説明	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。 ○最終レポートに向けた情報整理。ワークシート 13 を完成させ提出する（Web-Class）。（120 分） ○確認テストの準備として、全体の復習をする。（120 分）
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出要領発表	○提出したワークシートを見て、必要があれば修正する。 ○最終レポート課題を完成させ、提出する。（Web-Class）（120 分）

1.授業コード (ナンバリング)	BSS101-M53	2.科目名	発想法 (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、問題解決や新しいアイディアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 【概要】 何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイディアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時にはペアワークや少人数のグループワークを通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①論理的・多角的な視点で物事を考えることができる。 ②文章や状況を図解に表現して本質をとらえることができる。 ③拡散型あるいは収束型思考法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。 ④企業で多用される代表的な思考のフレームワークを理解し、使用できる。 ⑤信用できる情報を集め、組み合わせたり連想したりして、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブックー大学生と新社会人のための』竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014 年 (学内での教科書販売で必ず入手すること)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30％（学習目標①②③④に対応） 2. 確認テスト・・・20％（学習目標②④に対応） 3. 最終レポート・・・50％（学習目標①②③⑤に対応）					
22.コメント	* 掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスで受講すること。 * 毎回ノートPCを使用します。準備しておくこと。 * テキストは第1回の授業から使用します。事前に教科書販売で購入すること。 ・ 基本的には、毎回1章ずつ進めます。 ・ 各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートを中心にした演習を行います。 ・ 「考えること」を中心課題にしている授業なので、短絡的に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。					

	・必ずしも個人の思考に引きこもる必要はない。アイデアを受講者同士で交換しあうことはむしろ勧めます。ただし、最終的な解答には、誰かの真似でない、自分ならではの発想を表現しましょう。 生成 AI の使用を認める。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 (“蓮浦”の情報をまとめる)	○ワークシート 1 を完成させる。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題② (第 9 回発表)	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分)
第 9 回	第 8 章 つづき (グループワーク～プレゼンテーション)。KJ 法の実践とその成果発表。WS なし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○KJ 法を復習する。(120 分)
第 10 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○第 10 章を復習する。(120 分) ○第 11 章を読む。(60 分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120 分)

第 11 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析について学ぶ。WS11.1 11.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 1 1 章を復習する。(120 分) ○第 1 2 章を読む。(60 分)
第 12 回	最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 1 に取り組む。(120 分)
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。(120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。(120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS202-Y51	2.科目名	コミュニティビジネス		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の目的：コミュニティビジネスを理解すること。 授業の概要：コミュニティビジネスとは「市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業」の総称である。1980 年代以降に注目され始め、今なお全世界で発展を続けている。 その背景にあるのが、少子高齢化や少人数世帯の増加によって以前までの家庭の機能が急速に低下し、またとくに地方では地域産業の衰退や過疎化などが進み、社会構造そのものの大きな変化しこれまでにない課題に直面している。市民によってコミュニティビジネスという継続可能な仕組み通じて地域産業の活性化に寄与し、地域における新たな創業や雇?を創出し、働きがい・?きがい?み出すことがこうした課題の解決を図ることを可能にする。 こうした複雑で多様な課題を解決する手段としてのコミュニティビジネスを学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスを理解し、その社会的重要性を学ぶ。 実際にコミュニティビジネスの事業計画を立てて、ビジネスモデルを作りあげること为目标とする。 学習目標① コミュニティビジネスについて、多様な背景から基本的な内容を説明できる。 学習目標② コミュニティビジネスの基本的課題について説明できる。 学習目標③ 簡単な、「コミュニティビジネス」を企画できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、簡単なレジメを授業中に配布する。					
20.参考文献	必要に応じて、適宜紹介をします。					
21.成績評価	原則、 ① コミュニティビジネスについて、基本的な内容や基本的課題を説明できる：?中間レポート 5 0 % ②コミュニティビジネス（CB）に影響を与える環境や、CB を成長させていくための方法などが説明できる： ?最終総括試験： 5 0 %					
22.コメント	最重要事項＝やる気、本気、根気、好奇?と情熱。 ?分??で調べ、考えること。					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	【第 1 回】・ガイダンス ・コミュニティビジネス（CB）とは何かについて（CB の概要について） 社会的、地域的な問題解決を図る手段として有効なコミュニティビジネスの概要を把握します。 ・主として貧困を抱える開発途上国で急速に発展しつつあるコミュニティビジネスが、なぜ必要とされ、進展しつつあるのか、コミュニティビジネスの世界の潮					

	流も理解します。	
2 回目	【第 2 回】コミュニティビジネスの基本ポイント① コミュニティビジネスの基本的な要件について、多様な角度から理解を深めます。	
3 回目	【第 3 回】コミュニティビジネスの基本ポイント② 前回に続いて、コミュニティビジネスの基本的な要件について、多様な角度から 理解を深めます。	課題：「コミュニティビジネスの基本ポイント」の提出
4 回目	【第 4 回】コミュニティビジネスの事例 について コミュニティビジネスの主要分野の事例を把握し、どのような具体的な事例があるか。	
5 回目	【第 5 回】コミュニティビジネスの成功と評価ポイント コミュニティビジネスが成功するポイントとその評価ポイントについて、事例等をも とに理解します。	
6 回目	【第 6 回】住民主導による地域づくり 地域主体の地域づくりは、農山村部、都市部、観光地などの各地で展開されている活動を事業の視点から課題を学ぶ。	課題：「コミュニティビジネスの事例」を 1 つ調べ、提出
7 回目	【第 7 回】コミュニティビジネスの展望と課題 コミュニティビジネスの起業に向けた取り組みとともに、働き方のユニバーサルデザイン、ソーシャルインクルージョン(社会的内包)を踏まえた次世代を担う社会的企業のあり方について考える。	
8 回目	【第 8 回】新しい公共のあり方 新たな公共の構築に向けて、コミュニティビジネスを基軸にコミュニティ戦略を構築していくことが重要、そのため社会変革の視点を提示し 21 世紀のコミュニティについて考える。 ★中間レポート課題を提示予定（課題テーマは適宜設定する）	
9 回目	【第 9 回】コミュニティをつくる方法と、ビジネスへの展開について① それらを活かしたビジネスへの発展の仕方を学ぶ。	
10 回目	【第 10 回】コミュニティをつくる方法とビジネスへの展開について② 具体的なコミュニティをつくる上での個人的な考え方から方法論を学ぶとともに、それらを活かしたビジネスへの発展の仕方を学びます	

11 回目	【第 11 回】 SDGs と、クラウドファンディングについて コミュニティビジネスと SDGs とクラウドファンディング概要について理解し、今後のグローバルな課題の解決に向けて、コミュニティビジネスが果たす役割を考える。	課題：「SDGs を考慮したコミュニティビジネス」を調べ、提出
12 回目	【第 12 回】 ・地域資源バンク構想について	
13 回目	【第 13 回】 ・ SDGs の内容について解説することと、それが社会に与える影響を解説する。	討議後において、各自は、パワーポイントを素案を完成させる。
14 回目	【第 14 回】 ・クラウドファンディングの内容・具体事例を理解し、今後のグローバルな課題の解決に向けて、コミュニティビジネスが果たす役割を考える。 ・ソーシャルビジネスとは何かを解説する。	各自は、パワーポイントをブラッシュアップ（改善修正追記等）します。
15 回目	【第 15 回】 総括試験 14 回までの講義内容や、事例内容を踏まえて、総括試験を実施します。	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS206-A51	2.科目名	発想法		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山 潔					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、問題解決や新しいアイディアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 【概要】 何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイディアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時にはペアワークや少人数のグループワークを通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①論理的・多角的な視点で物事を考えることができる。 ②文章や状況を図解に表現して本質をとらえることができる。 ③拡散型あるいは収束型思考法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。 ④企業で多用される代表的な思考のフレームワークを理解し、使用できる。 ⑤信用できる情報を集め、組み合わせたり連想したりして、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブックー大学生と新社会人のための』竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014年 (学内での教科書販売で必ず入手すること)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30％（学習目標①②③④に対応） 2. 確認テスト・・・20％（学習目標②④に対応） 3. 最終レポート・・・50％（学習目標①②③⑤に対応）					
22.コメント	* 掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスで受講すること。 * 毎回ノートPCを使用します。準備しておくこと。 * テキストは第1回の授業から使用します。事前に教科書販売で購入すること。 ・ 基本的には、毎回1章ずつ進めます。 ・ 各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートを中心にした演習を行います。 ・ 「考えること」を中心課題にしている授業なので、短絡的に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。					

	・必ずしも個人の思考に引きこもる必要はない。アイデアを受講者同士で交換しあうことはむしろ勧めます。ただし、最終的な解答には、誰かの真似でない、自分ならではの発想を表現しましょう。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日 3 限 研究室オフィスアワー：木曜日 2 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 (“蓮浦”の情報をまとめる)	○ワークシート 1 を完成させる。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題② (第 9 回発表)	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分)
第 9 回	第 8 章 つづき (グループワーク～プレゼンテーション)。KJ 法の実践とその成果発表。WS なし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○KJ 法を復習する。(120 分)
第 10 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○第 10 章を復習する。(120 分) ○第 11 章を読む。(60 分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120 分)
第 11 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析に	○返却されたワークシートを見て、必要があ

	ついて学ぶ。WS11.1 11.2	れば修正する。(30 分) ○第 1 1 章を復習する。(120 分) ○第 1 2 章を読む。(60 分)
第 12 回	最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 1 に取り組む。 (120 分)
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。 (120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。 (120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS206-A52	2.科目名	発想法		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイデアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 この授業では、問題解決や新しいアイデアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時にはペアワークや少人数のグループワークを通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力の学修に関連しています ①論理的・多角的な視点で物事を考えることができる。 ②文章や状況を図解に表現して本質をとらえることができる。 ③拡散型あるいは収束型思考法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。 ④企業で多用される代表的な思考のフレームワークを理解し、使用できる。 ⑤信用できる情報を集め、組み合わせたり連想したりして、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブックー大学生と新社会人のための』竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014年					
20.参考文献						
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30％（学習目標①②③④に対応） 2. 確認テスト・・・20％（学習目標②④に対応） 3. 最終レポート・・・50％（学習目標①②③⑤に対応）					
22.コメント	＊掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスで受講すること。 ＊毎回ノート PC を使用します。必ず、充電のうえ持参すること。 ＊テキストは第1回の授業から使用します。事前に教科書販売で購入すること。 ・基本的には、毎回1章ずつ進めます。 ・各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートを中心にした演習を行います。 ・「考えること」を中心課題にしている授業なので、短絡的に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。 ・必ずしも個人の思考に引きこもる必要はない。アイデアを受講者同士で交換しあうことは					

		むしろ勧めます。ただし、最終的な解答には、誰かの真似でない、自分ならではの発想を表現しましょう。 ★授業時間外学修 授業1コマ当たり、2時間の時間外学修（復習、予習）を行うことが求められます。 メディアライブラリー等を活用した、充実した時間を持ちましょう。
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー 木曜日1限 センターオフィスアワー 水曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	第1章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート1（"蓮浦"の情報をまとめる）	○ワークシート1を完成させる。(90分) ○第1章を復習する。(90分)
第2回	第2章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第2章を復習する。(120分) ○第3章を読む。(60分)
第3回	第3章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30分) ○第3章を復習する。(120分) ○第3章を読む。(60分)
第4回	第4章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30分) ○第4章を復習する。(120分) ○第5章を読む。(60分)
第5回	第5章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30分) ○第5章を復習する。(120分) ○第6章を読む。(60分)
第6回	第6章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30分) ○第7章を復習する。(120分) ○第8章を読む。(60分)
第7回	第7章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題②（第9回発表）	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30分) ○第7章を復習する。(120分) ○第8章を読む。(60分)
第8回	第8章 収束型思考法。KJ法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30分) ○第8章を復習する。(120分)
第9回	第8章 つづき（グループワーク～プレゼンテーション）。KJ法の実践とその成果発表。WSなし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30分) ○KJ法を復習する。(120分)
第10回	第10章 フレームワークシンキング①。MECEの意味とMECEを基礎にしたフレームワークの一つ、PPM等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○第10章を復習する。(120分) ○第11章を読む。(60分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120分)

		分)
第 11 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析について学ぶ。WS11.1 11.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 11 章を復習する。(120 分) ○第 12 章を読む。(60 分)
第 12 回	最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 1 に取り組む。(120 分)
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。(120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。(120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS208-Y51	2.科目名	イノベーション論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	専攻共通			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 アクティブラーニング導入科目（ディスカッション、ブレスト、プレゼンテーション）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】Innovation という言葉は、J.A.シュンペーターが著書「経済発展の理論」の中で提唱した経済発展論の中心的な概念で、直訳すると「革新」や「刷新」という意味を持ちます。労働、土地などの生産要素の組合せを変化させたり、新たな生産要素を導入したりする企業家の行為を指します。生産技術の変化だけでなく、新市場や新製品の開発、新資源の獲得、生産組織の改革あるいは新制度の導入なども含まれるとされています。シュンペーターはイノベーションにより投資需要や消費需要が刺激され、経済の新たな好況局面が作りだされ、経済発展の最も主導的な要因であるとしています。一方で既存産業に壊滅的な影響を与え、市場構造を一変させる場合もあります。 現在では、国際的な経済構造や私たちの社会生活、社会構造にまで大きな影響を与えるものとして認識され、ウイズコロナ、国際関係の緊張・混乱、更に進むグローバル化、それらにともなう価値観の変化など観光産業界をとりまく環境が大きく変動する中、イノベーションを担う人材が求められています。 本講義では、イノベーションが生まれる背景要因、構成要素、プロセス、イノベーションがもたらす影響を理解し、さらにイノベーションを起こすための考え方やマネジメントのあり方、イノベーションの阻害要因について考察し、イノベーションを生むためのアプローチとマネジメントに関する知識とスキル、そしてマインドセットを身につけることをめざします。 【概要】授業では、講義に加え、個人ワークとグループ・ディスカッションを組み合わせ繰り返し行い、段階的に理解を深め、スキルを身につけ、革新的なアイデアのプレゼンテーションの実践を目指します。このため、主体的な事前学習により自分の考えを明確化し、それをベースに建設的な議論に積極的に参加することが求められます。					
18.学習目標と D P との関連	本講義の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力に対応しています。 本講義の学習目標は、次の通りです。 ①イノベーションの目的、必要性、プロセス、影響、阻害要因等を理解し説明することができる。 ②イノベーション・ファクターを発見する多角的な視点を獲得する。 ③イノベーション創出のためのアプローチを理解し、実践できること。 ④イノベーション創出のための環境を整えるマネジメントについて理解し、説明できること。 ⑤他者貢献のマインドセットによりチームビルディング、ディスカッションに寄与することができる。					
19.教科書・教材	資料は WebClass で配布					

20.参考文献	適宜、紹介します	
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 26 点（各回 2 点×11 回、15 回目のみ 4 点） ?グループワークのプレゼンテーション 14 点 グループ得点（7 点満点）、グループ MVP（7 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。	
22.コメント	■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	学習目標、授業計画、評価方法、評価基準について説明します。 《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】イノベーションの意味 イノベーションの意味を概観します	【予習】イノベーションの意味について調べる 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの意味についてまとめる
第 2 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーター理論」 イノベーションの普及に関するイノベーター理論について考察します。 【グループワーク】調べて来たイノベーション事例をグループ内で発表し合い、イノベーションとして認識できる事例なのかどうかについてディスカッションを行い、結果を発表してもらいます。	【事前提出課題】イノベーションの事例を複数調べてまとめる 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 3 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションストーリーⅠ」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 4 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションストーリーⅡ」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる

第 5 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションヒストリーⅢ」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 6 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションのジレンマと破壊的イノベーション」 イノベーションによる市場、マネジメントへの影響とイノベーションをコントロールするためのマネジメントについて学びます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションのジレンマと破壊的イノベーションについてまとめる
第 7 回	《ブロック 2》イノベーションへのアプローチ 【講義】「イノベーション・アプローチの手法Ⅰ」 イノベーションを生み出すためのフレームワークやマネジメントの具体的手法について学びます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】習ったフレームワークについてまとめる
第 8 回	《ブロック 2》イノベーションへのアプローチ 【講義】「イノベーション・アプローチの手法Ⅱ」 イノベーションを生み出すためのフレームワークやマネジメントの具体的手法について学びます。	【予習】イノベーションにつながる新たな価値提案アイデアを複数考えてくる。(個人ワーク) 【授業のまとめシート】提出 【復習】習ったフレームワークについてまとめる
第 9 回	《ブロック 3》イノベーション・アイデア 【グループワーク】「イノベーション・アイデアのデザインⅠ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデア（第 8 回予習課題）を発表し合い、プレストを通じて、構成要素やアプローチ、効果、影響の視点から評価し合います。	【課題】 プレストの結果を基に一つのアイデアに絞り込みコンセプトシートを作成します。 【授業のまとめシート】不要 【復習】コンセプトシートを完成させる
第 10 回	《ブロック 3》イノベーション・アイデア 【グループワーク】「イノベーション・アイデアのデザインⅡ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデアのコンセプト・シート（予習課題）を発表し合い、プレストを通じてさらに議論を深めます	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク）
第 11 回	《ブロック 3》イノベーション・アイデア 【講義】イノベーション・アイデアのデザインⅢ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデアのコンセプトをプレゼンテーション資料にまとめる手法を学びます。	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】プレゼンテーションの見直し

第 12 回	《ブロック 4》イノベーションの阻害要因 【講義】「日本におけるイノベーションの現況と課題」日本におけるイノベーションの現況と課題について、海外との比較により考察します。 【グループディスカッション】日本におけるイノベーションの阻害要因とそれを乗り越える方法についてディスカッションを行います。	【予習】日本におけるイノベーションの状況を調べる 【授業のまとめシート】提出 【復習】日本におけるイノベーションの阻害要因についてまとめる
第 13 回	《ブロック 5》まとめ 【プレゼンテーション】イノベーション・アイデアを各自発表し、全員で評価を行います。	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを完成させてくる（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】プレゼンテーションの見直し
第 14 回	《ブロック 5》まとめ 【総括試験】まとめと統括試験を行います	【予習】総括試験に備えて、これまでの学習内容を復習 【授業のまとめシート】不要 【復習】試験での不明点の見直し
第 15 回	《ブロック 5》まとめ 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	【事前提出課題】講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 【授業のまとめシート】提出（5 倍加点） 【復習】皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	BSS209-Y51	2.科目名	DMO論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 この科目は、地域の観光振興において注目されている DMO（Destination Management/Marketing Organization）と呼ばれる組織について学び、組織的な観光地経営の手法を身につけることを目的としています。 【科目の概要】 日本の多くの地方は、過疎化や経済の停滞によって厳しい状況に置かれています。それに対して政府は「観光立国」「地方創生」といった施策で、地域の資源を活かした観光地域づくりを推進してきました。そのなかで注目されるようになったのが DMO という組織です。海外の観光地では、自治体と民間事業者が協力して観光地域経営を推進し、成功を収めています。この講義では、日本と欧米の観光地経営と DMO の特徴を比較しつつ、効果的かつ持続可能な観光地域経営を担う組織のあり方と手法を学びます。 将来、地方の観光地域活性化や自治体での観光地域振興に取り組むことを目指す人にとっては、本科目で学ぶ知識や手法は大いに役立つことでしょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 （１）自立的で主体的な態度 （４）問題発見・解決力 （６）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①観光地経営とはなにか説明できる。 ②DMO とはなにか説明できる。 ③プレイスブランディングの手法について説明できる。 ④DMO に必要な要素を説明できる。					
19.教科書・教材	特に定めない。					
20.参考文献	高橋一夫『DMO 観光地経営のイノベーション』学芸出版社、2017 年 宮崎裕二・岩田賢 編『DMO のプレイス・ブランディング』学芸出版社、2020 年 高坂晶子『オーバーツーリズム：観光に消費されないまちの作り方』学芸出版社、2020 年 馬場正尊、I 中江研ほか『CREATIVE LOCAL：エリアイノベーション海外編』学芸出版社、2017 年 大社充『DMO 入門 官民連携のイノベーション 』（地方創生シリーズ),事業構想大学院大学、2018 年 その他、適宜授業で紹介します。					
21.成績評価	課題レポート ・ ・ ・ 20% 【学習目標①②③④に対応】 到達度確認試験 ・ ・ ・ 30% 【学習目標①②③に対応】 総括試験 ・ ・ ・ 50% 【学習目標①②③④に対応】					
22.コメント	『観光地域活性化』という言葉や、『地方創生』といった言葉は耳にしたことがあると思います。では、どのようにしたら「観光」を通じて地域が活性化し、再生するのでしょうか。または、そもそも「地域が活性化する」というのはどのような状態になるのでしょうか。DMO と					

	いう組織とその手法を学びながら、より良い地方・地域のあり方について考えてみてください。 【生成 AI について】 生成 AI の利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成 AI で作成したものをそのまま使用することは認めません。 発覚した場合は相応のペナルティを課します。	
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜 4 限（春） 学修支援センター：水曜昼休み（春）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ディスカッション：観光と地域活性化のあり方	予習：DMO について基本的な情報を調べてくる。
第 2 回	日本の観光地経営の歴史と課題 ・グループワーク：日本の観光地の課題を考える	予習：日本の観光地域活性化の成功事例を一つ上げて、その概要とポイントをまとめる・・・課題① 復習：地域活性化のさまざまな側面についてまとめておく。
第 3 回	デスティネーション・マネジメントの考え方とその歴史 ・グループワーク：「地域」とは？	予習：「地域」の捉え方について調べてくる。 復習：日本の地域活性化の課題について整理する。
第 4 回	デスティネーション・マネジメントの構成要素	予習：デスティネーション・マネジメントに必要な要素を調べてまとめておく。 復習：デスティネーション・マネジメントが必要とされる理由についてまとめる。
第 5 回	デスティネーション・マネジメントの要素①「観光資源」 ・ディスカッション：観光資源の保全と活用のバランス	予習：歴史的町並みの保全と活用の事例として、イタリアの「アルベルゴ・ディフーズ」について調べておく。 復習：デスティネーション・マネジメントの構成要素を整理しておく。
第 6 回	デスティネーション・マネジメントの視点②「観光サービス」 ・ディスカッション：地域の視点から観光サービスを考える	予習：地域内の観光サービス（宿泊や飲食、観光施設）の連携について事例を調べておく。 復習：オーバーツーリズムの事例を一つあげ、地域が取った対策を調べてまとめなさい・・・課題②
第 7 回	デスティネーション・マネジメントの要素③「交通マネジメント」 ・グループワーク：神戸の交通マネジメントの課題を考える	予習：観光地で利便性を高めるための交通システムの工夫について調べてくる。 復習：観光地の観光サービス連携のポイントを整理しておく。
第 8 回	到達度確認試験	復習：前半の授業のノートを見直し、要点をまとめておく。
第 9 回	デスティネーション・マネジメントの要素④「プレイス・ブランディング」（1） ・グループワーク：神戸のブランドイメージを分析す	予習：「ブランディング」とはなにかについて調べておく。

	る	
第 10 回	デスティネーション・マネジメントの要素④ 「プレイス・ブランディング」(2) ・グループワーク：神戸市のブランドプロモーションを分析する	予習：世界の DMO のブランドプロモーションについて、事例を一つ調べてくる。 復習：プレイス・ブランドのさまざまな類型について自分で事例を探して調べてみる。
第 11 回	デスティネーション・マネジメントの要素⑤ 「観光地域の持続可能性」 ・ディスカッション：地域におけるウェルビーイングと観光の関係を考える	予習：サステナブル・ツーリズムの概念と手法について調べておく。 復習：プレイス・ブランディングのポイントを整理しておく。
第 12 回	海外 DMO の事例分析① 「ハワイ州（アメリカ合衆国）」 ・グループワーク：ハワイ観光局の HP を分析する	予習：ハワイ州の観光情報を集めて整理しておく。 復習：観光と地域社会のウェルビーイングの関係について自分の考えをまとめる・・・課題③
第 13 回	海外 DMO の事例分析② 「欧州の DMO」 ・グループワーク：欧米各国の DMO の HP を比較分析する。	予習：欧州の DMO を一つ選んで、その HP に目を通しておく。 復習：ハワイ州 DMO の取り組みの特徴をまとめておく。
第 14 回	日本の DMO の事例分析 ・ディスカッション：神戸の観光振興にとって必要なことは？	予習：日本版 DMO から一つを選び、その活動を調べておく。 復習：欧州 DMO の特徴をまとめておく。
第 15 回	総括試験	予習：それまでの授業の内容を振り返り、要点を整理しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	BSS303-A51	2.科目名	顧客満足論		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	専?科?	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	「マーケティング」の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	顧客満足は、マーケティング研究者によって長年研究が行われ、消費者行動研究においては購買後評価の問題として、あるいはサービス・マーケティング研究においては顧客維持戦略や消費者によるサービス品質評価の問題と関連づけられ、様々な知見が積み上げられています。 ・目に見えない構成概念としての顧客満足をいかに概念化するかについては、いくつかの観点から整理できる。ここでは、全体と個別、時間軸、購買・消費のフェーズ、感情的状態の強さと持続力を取り上げます。 具体的には、顧客の成功に焦点を当てて、顧客を成功に導き、持続的な利益成?をもたらす実務者カスタマー・サクセス・マネジャーに求められるスキルを理解し、?につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解(4)問題発見・解決力に関連しています。 学習目標： アジアの主要な国や地域の特性を理解できる。 アジアマーケティングの基礎を理解し、国や地域にあうビジネス提案ができる。					
19.教科書・教材	未定					
20.参考文献	Philip Kotler. John Bowen and James Makens, Marketing for Hospitality and Tourism, Second Edition					
21.成績評価	テストおよびレポート 80 点、討論や質問など 20 点					
22.コメント	本学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションする授業展開を目指します。スライドの配布はしません。 ? アジアに関心を持ち学習意欲のある学生の受講を希望します。私語をしない、携帯電話は使用しない（メールや時計利用も含む）、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しない、ルールの厳守。					
23.オフィスアワー	?曜?の昼休み時間					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義オリエンテーション、学習?標と評価?法の確認等			PC 持参		
第 2 回	「顧客（Customer）」行動の理解			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 3 回	顧客行動に影響を与える要因			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 4 回	顧客の心理と行動の関係			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 5 回	「満?（Satisfaction）」とは何か			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 6 回	「不満の解消」とは			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 7 回	?本企業の顧客の成功の取り組み事例?			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 8 回	顧客の成功の実現（1）カスタマー・サクセス・マネジャーの役割 ?			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 9 回	顧客の成功の実現（2）カスタマー・サクセス・マネ			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		

	ジャーの必要スキル（１）？	
第 10 回	顧客の成功の実現（３）カスタマー・サクセス・マネジャーの必要スキル（２）	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 11 回	顧客の成功の実現（４）カスタマー・サクセスの実践（１）	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 12 回	顧客の成功の実現（５）カスタマー・サクセスの実践（２）？	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 13 回	顧客の成功の実現（６）カスタマー・サクセス・マネジャーの育成とキャリア・パス	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 14 回	「顧客の成功の実現（６）カスタマー・サクセス・マネジャーの育成とキャリア・パス	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 15 回	総括試験？	レポート作成・提出

1.授業コード (ナンバリング)	BSS304-Y01	2.科目名	ビジネスマナー		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科 国際コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、実技、ペアワーク、グループワーク、 プレゼンテーション		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ビジネスマナーは、社会人がビジネスシーンで普通に使っている言葉や行動であり、いわば社会人として当たり前の常識でもある。本講座では、「学生と社会人の違い」を知り、インターンシップ先や実習先で社会人として振る舞えるレベル、就職活動や就職後にも役立つ社会人のためのビジネスマナーの基本を学び、身につけることを目的とする。 【概要】 ○ マナーは『見せかけ』ではない。マナーの本質は、『相手を大切に思う心づかい』にある。しかし、「心」や「内面での思い」は言葉や行動など、相手に伝わる「形」に『表現』しないと人には伝わらない。ビジネスコミュニケーションの基本である『表現』と『行動』ができるようになることを目指す。 ○ ビジネスマナーを身につけるということは、社会人として人間関係構築のスタートを、楽に円滑にする。まずは、挨拶、言葉づかい、ビジネス文書、ビジネス電話のスキルを身につける。 ●原則として社会人が仕事をする場面を意識した服装で受講してください。(ジャージや短パン、肌の露出が大きい服装はご遠慮ください。) ビジネススーツを着なれること、スーツにふさわしい髪型やカバンにも、馴染むために、スーツ姿で受講することも奨励します。ぜひ、積極的に着用してきてください。 ※時代の変化や、コロナパンデミックを経て、名刺が紙から電子名刺に変わり、また、多様性を尊重し、国際的に通用するという観点からも髪色の自由度が上がるなど、お客様目線と時代の変化も合わせて、その場でのマナー・立ち居振る舞いも、どう判断していくか一緒に考えていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の（１）自律性、（５）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本授業では、ビジネスマナーの意義や背景を理解し、社会人としての基本のマナーやルールを身につけるために学ぶ。知識として知るだけにとどまらず、大学内外の生活の中で実行できることで成果を出す。また、職場実習・インターンシップ先で、その場・その時・その相手に適切なマナーコミュニケーションを意識し、仕事の場にふさわしい立ち居振る舞いができることをめざす。 本科目の学習目標は、次のとおりです。 ①社会人として、正しい言葉づかい・ビジネス応対用語・敬語を話す ②話し言葉との違いを知り、ビジネス文書・ビジネスメールを正しい様式と言葉づかいで書ける ③ビジネス電話の基本を知り、電話を受け、担当者に取り次ぐことができる。また、就活やインターンシップなどに必要な電話での会話ができる。 ③ビジネス場面でのお迎え・案内・名刺交換・お茶接待・お見送りの一連の立ち居振る舞いができる					

	④食事のマナーか和のマナーについて、自らが関心を持ったテーマで研究し、インストラクションする。	
19.教科書・教材	Webclass、または紙で、適宜資料を配布します。	
20.参考文献	●「入社1年目ビジネスマナーの教科書」金森たかこ著 プレジデント社 ●「入社1年目ビジネス文書の教科書」西出ひろ子著 プレジデント社 ●「人は話し方が9割」永松茂久著 すばる舎 ●「敬語再入門」菊池康人著 講談社学術文庫 他にも多数ありますので、授業内で紹介します。	
21.成績評価	○ 小テスト 30% 【学習目標①③】 ○ 提出物 10% 【学習目標②】 ○ 実技テスト（ご案内・名刺交換、お茶接待など） 30% 【学習目標①③】 ○ レポート&プレゼンテーション 30% 【学習目標①④】 ※それぞれのテーマ・課題内容については、授業内か Webclass で伝えます。	
22.コメント	『知っているマナー』から『できるマナー』をめざします。実習学習が主になります。実技やプレゼンテーションが多い講座を楽しみに受講ください。	
23.オフィスアワー	○授業中に質疑応答の時間が取れなかった場合は、Webclass のメッセージなどで、授業の内容についての質問に対応します。 ○授業についての連絡事項は、webclass の「お知らせ」「タイムライン」などで連絡します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	「ビジネスマナーとは」 ・ 基本姿勢「立ち方、座り方、立ち姿勢、座り姿勢、お辞儀」の練習 ○ガイダンス・・・講座の進め方、講座受講の留意事項などの説明	※授業シラバスを必携のこと ※教材は15回とも、主に Webclass にアップします。
【第2回】	「社会人としてのビジネスマナー」 ・ 基本姿勢の復習実習 ・ マナー度チェック・・・今現在の自身のマナー度に気づく ・ 学内のマナー、公共の場でのマナー	●前回までの復習（知識・実習）
【第3回】	「ことばづかい」① ・ 丁寧語、尊敬語、謙譲語の使い分け ・ 3種類の敬語の例文づくり ・ 間違いやすい敬語・・・ファミコン言葉、差別用語、失礼な言葉	●前回までの復習（知識・実習） ●レポート課題に必要な本を探す（食事のマナー：詳細は講座内でお伝えします）
【第4回】	「ことばづかい」② ・ 接客対応用語 ・ ワンランクアップの言葉づかい・・・クッション言葉、否定形、命令形の言い換え ・ 人、会社の呼び方 ※3種類の敬語小テスト	●前回までの復習（知識・実習） ●言葉づかい小テストの準備
【第5回】	※言葉づかい小テスト 「ビジネス文書①」 宛名（様・御中・各位・等の使い分け）について ・ はがきの書き方（実習） ・ 往復はがきの書き方（実習）	●前回までの復習（知識・実習）

	封筒の書き方（実習）	
【第 6 回】	「ビジネス文書②」 - 書き言葉と、話し言葉の違い - ビジネス文書の種類と様式について - 社外文書と、社内文書 の違い	●前回までの復習（知識・実習）
【第 7 回】	「ビジネス文書③」 - 社外文書に使う、時候の挨拶・言葉について - 頭語と結語 - 初めての社外文書 就職活動に使う「カバーレター」の作成（宿題） 「ビジネスメール」のマナー - スマホアプリ（ラインなど）のプライベートチャットや、プライベートメールと、ビジネスメールとの違い - 社会人として通用するビジネスメールの書き方	●前回までの復習（知識・実習） ●就職活動に使用するカバーレター作成
【第 8 回】	「ビジネス電話のマナー」 - 基本の受け方・かけ方 - 在席者への取次ぎ - 不在の場合の対応と処理業務 - 様々な場合の電話対応 「就職活動での電話マナー」 - 就活期間に気を付けること - 問い合わせの電話など、就活シーンの電話練習	●ビジネス文書 小テストの準備 ●前回までの復習
【第 9 回】	※ビジネス文書 小テスト 「訪問と案内マナー①」 - 席次のマナー 応接室・会議室・和室・乗り物・エレベータ・階段など - いろいろなビジネスシーンでの席次について学ぶ。	●前回までの復習（知識・実習）
【第 10 回】	「訪問と案内のマナー②」 - 名刺のマナー 名刺の扱い方 10 の注意点 - 名刺交換のマナー 基本の名刺交換と、同時交換	●名刺入れ（または名刺入れの形状の代わりもの） ●レポート提出 ●前回までの復習（知識・実習）
【第 11 回】	「訪問と案内のマナー③」 - 受付のマナー - 案内のマナー - 応接室でのマナー - 辞去のマナー - お茶出しと、お茶をいただくマナー	●名刺入れ ●ビジネスカバン ●湯飲み・茶たく・お盆・ふきん（あればお持ちください） ●前回までの復習（知識・実習）
【第 12 回】	「訪問と案内のマナー④」 - 訪問→受付→案内→応接室→名刺交換→お茶接待→辞去→お見送り - 訪問側と、案内側のロールプレイ。一連のマナー実習	第 11 回と同じ ●プレゼンテーションの準備

【第 13 回】	「食事のマナー」① ・各自がレポート課題からプレゼンテーションする。 （和食、箸、洋食、接待、パーティ、お酒、ワイン、スイーツ、その他） ※講評と追加説明	●前回までの復習（知識・実習） ●各自、プレゼンテーションに必要なもの
【第 14 回】	「食事のマナー」② ・各自がレポート課題からプレゼンテーションする。 （和食、箸、洋食、接待、パーティ、お酒、ワイン、スイーツ、その他） ※講評と追加説明	●前回までの復習（知識・実習） ●各自、プレゼンテーションに必要なもの
【第 15 回】	総括試験 ・実技テスト ・知識習得チェック試験	●前回までの復習（知識・実習）

1.授業コード (ナンバリング)	BSS305-Y51	2.科目名	ビジネスモデル・アセスメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	観光ビジネス専攻必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスモデルとは何か？その意味を理解し、フレームワークを活用してビジネスモデルを読み解き、改善し、新たに構築する力を身に付けます 概要：ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支」によって語られます。それぞれの要素について、皆さんの身近なビジネス・サービス・商品の実例を用いながら、グループワークなどの演習を交えて具体的に理解を深めます。また、世の中の主なビジネスモデルについて、その内容を具体例を交えて解説していきます。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。ビジネスモデルに関して、新規ビジネスの構築・運営や、既存ビジネスの分析・改善に広く活用できる汎用的なフレームワークを習得し、さまざまな場面で活用できるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 23 点（各回 2 点×9 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 27 点（各回 9 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：ビジネスモデルとは ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支計画」によって語られます。（もっと細かい要素に分けたり、違う切り口で分析されることもあります） 皆さんは、Youtube を見たことがありますよね？例えば Youtube のビジネスモデルを例にとって、ビジネスモデルとはどのようなものかを体感します。			予習：Youtube の収益源は何かを調べて書き出してくる。 授業のまとめシート：提出 復習：Youtube のコンセプトが他にないか考えてみる。		
第 2 回	講義：コンセプトとは ビジネスモデルの基本的な構成要素を一つ一つ理解していきます。まずは「コンセプト」について解説します。			予習：「コンセプトとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行		

	グループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、そのコンセプトを読み解いていただきます。	
第 3 回	グループワーク：コンセプトを読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：コンセプトを読み解こう 講義： コンセプトの具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なコンセプトの例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義： 戦略とは もっとも重要な要素である「戦略」について、解説します。 2 回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その事業戦略を読み解いていただきます。	予習：「戦略とは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 6 回	グループワーク：事業戦略を読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 7 回	プレゼンテーション：事業戦略を読み解こう 講義： 戦略の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な戦略の例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 8 回	講義： スキームとは ビジネスモデルの構成要素の一つである「スキーム」について、解説します。 3 回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その売上を増やすための戦略を構築していただきます。	予習：「ビジネススキームとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 9 回	グループワーク：売上を増やそう 前半 事業環境分析から、ターゲットの設定、届ける価値の仮説まで。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 10 回	グループワーク：売上を増やそう 後半 売上を増やすための具体的手法の検討。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	講義： プラットフォームビジネス 長年プラットフォームビジネスに携わって来た方から、ビジネスモデルの現場と実践についてお話いただきます。	予習：プラットフォームビジネスについて、調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：売上を増やそう 後半	予習：グループで課題を発表できる状態にする

	講義： 収支計画の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な収支計画の例を紹介し、理解を深めます。	る 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義： ビジネスモデルデザイン まとめ ビジネスモデルとは何かを振り返り、世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なビジネスモデルの例を紹介し、理解を深めます。	予習：ビジネスモデルとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	BSS308-M51	2.科目名	ビジネスプロモーション		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡部清一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部経営学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	この講義では以下に定義する「ビジネスプロモーション」を実践するために必要なスキルを修得することを目的とする。 ■ ビジネス：営利・非営利、組織形態等を問わない「事業目的を実現するための活動の総称」。その最終目標（ゴール）は「新しい社会的価値の創出」。 ■ プロモーション：そのゴールを実現するための手法・プロセス。 ■ ビジネス環境の変化：国内外におけるビジネス環境の大きな変化への対応を視点として講義を進める。					
18.学習目標と DPとの関連	■ グローバルなビジネス環境・組織・経営の実態を理解し、戦略的なマネジメントを実践する能力を身につける。 ■ 「グローバルなビジネス環境で活躍できる個性豊かな人材となる」を目標に、社会人に求められ 3 つの基礎力を知識⇒理解⇒スキル（コンピテンシー）として総合化し、実践する能力を身につける。 1) 自ら情報を収集し、変化の中から問題の所在を見つける発見力 2) 発見した問題を独創的に解決し、新しい価値を生み出す創造力 3) 自分の考えを発信し、他者と共有・共感できるコミュニケーション力					
19.教科書・教材	参考書：『現代の経営 上下』 P. F. ドラッカー ダイアモンド社 『イノベーションと企業家精神』 P. F. ドラッカー ダイアモンド社 『マーケティング戦略』 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著 有斐閣アルマ 『マーケティング』 恩蔵直人著 日本経済新報社 『MBA マーケティング』 川誠慎市郎・野田史恵著 ダイアモンド社 『コトラーのマーケティング 5.0』 フィリップ・コトラー 朝日新聞出版 『SDGs 経営の教科書』 藤田源右衛門 あさ出版					
20.参考文献	■適宜、講義において紹介致します。					
21.成績評価	■ノートテイク： 20% 「顧客満足論」専用ノート（B5 版・KOKUYO/Campus）を作成し、毎回の講義ノートを作成する。 ①講義内容のまとめ ②アサインメント（宿題） ③気付き ※ノートテイクの内容により、評価致します。 尚、ノートは指定ノートを使用して下さい。（指定番以外は提出不可） ■中間試験：30% ■最終総括試験：50%					
22.コメント	■この講義では、ビジネス環境の変化を学びその目的である「新しい社会価値の創出」に向けた「ビジネスプロモーション」の手法を修得します。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	【ビジネスプロモーションとは何か】 ・オリエンテーション：本講義の目的・内容・進め方・受講の留意点	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第2回】	【ビジネスについて考える】 ・ビジネスの本質 ・顧客の創造	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第3回】	【ビジネス環境の変化】 ・世界や国内におけるビジネス環境の変化について ・SDGs、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、 COVIT-19	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第4回】	【ビジネスとマーケティング①】 ・マーケティングの本質 ・マーケティングコンセプト	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第5回】	【ビジネスとマーケティング②】 ・市場の競争とマーケティング ・競争戦略	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第6回】	【ビジネスとマーケティング③】 ・顧客価値 ・顧客価値の中核としての製品	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第7回】	【ビジネスマーケティング④】 ・ブランドは信頼の貯蔵庫	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第8回】	【中間考査】	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。

		■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第 9 回】	【SDGs とビジネス①】 ・「持続可能な開発目標」について	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第 10 回】	【SDGs とビジネス②】 ・本業との融合	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第 11 回】	【SDGs とビジネス③】 ・新たな社会的価値の創造 ・価値共創概念	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第 12 回】	【ビジネスの未来①】 ・新たな顧客価値の創造①	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第 13 回】	【ビジネスの未来②】 ・新たな顧客価値の創造②	■「ビジネスプロモーション」専用ノート（B5 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■パソコンは毎回の授業に持参する。
【第 14 回】	【最終総括講義】 ・これまでの講義内容を振り返って	■講義ノートの提出
【第 15 回】	【最終総括試験】	

1.授業コード (ナンバリング)	CB0149-Y51	2.科目名	倫理学（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	森本誠一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会) 副専攻 (生命と生活を考える)		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は低いでしょう。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業の冒頭でそれを取り上げます。また、授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起こっているのか知らなければ倫理的な判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、医療者としてだけでなく、患者やその家族としても直面する可能性の高い生命・医療倫理学上の問題を知り、そうした問題に対して私たちがどのように考え、対処したり振る舞ったりしたらよいのかを理解し実践できるようになることを目的としています。 【概要】 以上の目的を達成するために、この授業では倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題を概観しつつ、具体的な事例に基づいた事例検討をグループで行います。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 事実の問題と価値の問題を区別して考えられる (2) 倫理学の基本的な概念と代表的な倫理理論を理解し説明できる (3) 生命倫理学上の基本的なテーマとその論点について理解し説明できる [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	霜田求（編著）『テキストブック 生命倫理〔第2版〕』法律文化社、2022 年					
20.参考文献	柘植尚則『プレップ倫理学 増補版』弘文堂、2021 年 徳永哲也『ベーシック 生命・環境倫理——「生命圏の倫理学」序説』世界思想社、2013 年 児玉聡『功利主義入門——はじめての倫理学』ちくま新書、2012 年 ピーター・シンガー（山内友三郎、桧則章・監訳）『グローバリゼーションの倫理学』昭和堂、2005 年					

	ジェームズ・レイチェルズ（次田 憲和・訳）『新版 現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房、2017年 江口聡（監訳）『妊娠中絶の生命倫理——哲学者たちは何を議論したか』勁草書房、2011年	
21.成績評価	授業中課題（WebClassでのリフレクション提出） 15% グループワークのワークシート前半 20% グループワークのワークシート後半 20% 授業内容に関する課題調査 15% 定期試験 30%	
22.コメント	この授業では、みなさんが常識だと思っていること、当たり前だと思っていることを疑い、それらが本当に当たり前なのかどうかをみなさんに問いかけながら授業を進めていきます。一つ一つの問いかけはすぐには答えられないような難しい問題かもしれませんが、決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、ぜひ肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。	
23.オフィスアワー	履修上の相談がある場合には授業の前後に声をかけてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回「イントロダクション」	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第2回「現代社会の諸問題」	現代社会の倫理的問題について、写真などを交えて学修します。「なぜ倫理学を学ばなければならないのか」「なぜ倫理学が必要なのか」という疑問に答えるべく、現代社会で私たちが考えるべき倫理的諸問題を確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第3回「生命・医療倫理学」	古典的な医の倫理とされるヒポクラテスの誓いから医療倫理の四原則まで、生命・医療倫理学の歴史を大まかに学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第4回「患者中心の医療」	インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンといった患者中心の医療を特徴づける生命・医療倫理学上の基本的な概念を学修します。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第5回「事例検討1回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての具体的な講義を受ける前に、まずはみなさんが漠然と抱いている倫理観・道徳観に基いて生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。第13回、14回の授業で再び同様の事例を検討することで、この講義を受講することによってみなさんがどのように成長したのかを実感します。事例検討は2回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向け	◎グループで発表後の反省会120分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第6回「事例検討1回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 7 回「安楽死・尊厳死」	国内外の安楽死・尊厳死をめぐる歴史を概観した上で、安楽死・尊厳死に対する倫理的な考え方を学習します。授業の中で尊厳死に関わる映像資料を視聴します。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 8 回「脳死・臓器移植」	脳死がどのようなものなのか、遷延性意識障害（植物状態）との比較で確認した上で、日本における法制度の要点に触れながら脳死・臓器移植に対する倫理的な考え方を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 9 回「生殖に関する倫理学 (1)」	人工授精・体外受精・顕微授精、受精卵・精子・卵子の提供、および代理母ががどのようなものか確認した上で、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、私たちが素朴に抱きがちな「自然である」「不自然である」という感情が何なのかを授業を通して反省します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 10 回「生殖に関する倫理学 (2)」	着床前診断、出生前診断がどのようなものか確認したうえで、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、近年の高性能なエコー検査が投げかける新たな倫理的問題についても学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 11 回「選択的人工妊娠中絶」	胎児に何らかの障害がある（かもしれない）ということが、妊娠している女性にとって中絶を決断するきっかけとなることがあります。この決断をするまでの過程でパートナーや家族の意見が影響をおよぼすこともあれば、彼女たちを取り囲む社会の状況が影響することもあるでしょう。さて、胎児に障害があるという理由で中絶を決断することは、何か倫理的問題を引き起こすのでしょうか。また、受精卵、胎児、母体などを検査して胎児に障害があるかどうかを調べることやそうした技術を開発して世に出していくことには何か倫理的問題があるのでしょうか。今	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 12 回「人工妊娠中絶」	現在、日本で行われている人工妊娠中絶の根拠となっている母体保護法について要点を確認しながら、日本の中絶を取り巻く社会的状況について概観します。また、中絶に関する倫理学上の議論を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 13 回「事例検討 2 回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての一通りの授業を受けた結果どのような成長をしたのか確かめるため、生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。事例検討は 2 回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向けて模造紙にまとめます。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 14 回「事例検討 2 回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 15 回「総括 試験、まとめ、全体のふ り返し」	総括試験を行います。試験が終わったあとには試験問題について解説します。その際、授業全体をふり返りながら、これまで何を学修してきたのか一緒に確認します。さらに、成績評価の方法・基準についても再確認します。授業に対する質問や意見を出す時間も設けます。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○授業ノートの整理をしながら復習 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	CB0154-Y51	2.科目名	宗教と社会		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	専門共通科目（2018 年度以前入学生）	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	現代社会学部			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこから始まって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	非ヨーロッパ世界の身体 ― マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病者との共生 1 ― 象徴論、あるいは病いを投げ捨てる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	病者との共生 2 ― 癒し、あるいは社会関係を作り直す技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	病者との共生 3 ― 物語論、あるいは「私の苦痛」を受け入れる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	CC1102-Y51	2.科目名	社会学入門		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 個別のトピックを通して現代社会を観察し、分析する能力を習得する。日本社会がかかえる問題点を考察し、将来社会を構想するための糸口をさがす。 概要： つぎの 2 つのテーマについて、学習する。 各回の授業テーマと担当者については、各回の授業内容を参照すること。 Ⅰ 社会の謎を解く－現代日本社会におけるさまざまな疑問について考える－ Ⅱ 社会の未来を考える－社会問題の解決とのぞましい社会の構想－					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は以下のとおり。 ・社会学の概要を理解することができる。 ・関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味を理解することができる。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度(自律性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい、2019 年					
20.参考文献	授業内で適宜指示する。					
21.成績評価	2～13 回授業で出される小レポート（50％） 総括試験[第 15 回目に実施]（50％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室：水曜（昼） 学修支援室：金曜（昼）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 9 章 なぜ「スマイル」は 0 円なのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 10 章 なぜ結婚する人が減っているのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 11 章 なぜいじめを止められないのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 12 章 なぜ若者は SNS にはまるのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 13 章 なぜ原発は東京にはないのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 14 章 なぜ「家族」を求めるのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 15 章 なぜネット上で「炎上」が生じるのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 16 章 なぜ<体育会系>は就活で人気なのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 17 章 「格差と不平等」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 18 章 「子どもの貧困」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 19 章 「地球環境問題」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 20 章 「大規模災害」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 21 章 「人口減少」は地域社会をどう変えるか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 22 章 「移民」は社会をどう変えるか？			試験の準備をする（新聞記事の準備とキーワ		

	第 23 章 21 世紀における社会と公共性	ードについての復習など)
	総括試験	教科書を読み直す。

1.授業コード (ナンバリング)	CC2209-Y51	2.科目名	特殊講義Ⅱ 国内旅行業務		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史、小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野 の実務経験がある教員 による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、15名までとします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得を目的とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 国家試験は、毎年9月に実施されます。 特に観光業界に就職を目指すスキルとして修得することが重要な科目です。 【概要】 JR 運賃・料金、国内航空運賃・料金、貸切バス運賃・料金、フェリー運賃・料金、旅館・ホテルの宿泊料金などに関する解説をします。 講義は、教科書に添ってパワーポイントを使用して行います。また、理解度チェックのために、練習問題を毎回してもらいます。計算問題が中心となりますので、予習復習は計画的・継続的に行う必要があります。					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②各種運賃・料金の算出方法について理解すること。 ③国内旅行に関する知識を修得することで、観光関連産業の理解を深める。 関連するDPは、「専門知識・技術の活用力」です。					
19.教科書・教材	* 旅行実務シリーズ 国内旅行実務 「国内運賃・料金」 (発行: JTB 総合研究所) * 資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	* JR 時刻表 * 全国旅行業協会 (ANTA) のHP					
21.成績評価	* 総括試験 (筆記) 60% (学習目標の①、②、③に対応) * 理解度確認テスト (筆記/3回) 30% (学習目標の①、②、③に対応) * 練習問題 (各授業) 10% (学習目標の①、②、③に対応)					
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。 ?生成AI 利用に関して ■ 条件付きで認める (生成AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること) ?成績評価に関わる課題における生成AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)					
23.オフィスアワー	火曜3コース(学修支援センター)、火曜4コース (研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション (授業の目的、計画、評価、資格					

	取得などの説明)	
第 2 回	JR 旅客営業規則、乗車券類の概要	教科書：旅客営業規則の概要、乗車券類発売の概要を熟読
第 3 回	JR 運賃計算①	教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例を熟読
第 4 回	JR 運賃計算②	教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例、運賃の効力・割引の熟読
第 5 回	JR 料金計算①	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取扱いを熟読
第 6 回	JR 料金計算② 第 1 回理解度確認テスト	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取扱い、第 5 回までの分野を熟読
第 7 回	JR 券の変更、取消し、払戻しなど	教科書：変更、払戻し、運行不能、遅延を熟読
第 8 回	JR 団体乗車券	教科書：団体乗車券の取扱いを熟読
第 9 回	JR 特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方	教科書：特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方を熟読
第 1 0 回	国内航空運賃・料金① 第 2 回理解度確認テスト	教科書：航空分野を熟読、第 6 回～第 9 回までの内容を復習
第 1 1 回	国内航空運賃・料金②	教科書：航空分野を熟読
第 1 2 回	貸切バス運賃・料金	教科書：貸切バス分野を熟読
第 1 3 回	フェリー運賃・料金	教科書：フェリー分野を熟読
第 1 4 回	宿泊料金 第 3 回理解度確認テスト	教科書：宿泊分野を熟読、第 1 0 回～第 1 3 回の内容を復習
第 1 5 回	まとめ、総括試験	教科書：全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	CC2213-Y51	2.科目名	特殊講義Ⅵ 現代航空事情		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 専攻コア	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生または 3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	航空産業論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この講義ではエアラインビジネスを基盤として、大手航空会社の経営戦略と台頭著しい L C C の戦略について学びます。 【概要】先ず大手航空会社の戦略を学びます。特に現代の国際線を運航する大手航空会社 (FULL SERVICE AIRLINE=FSC)のネットワーク戦略の基本と他エアラインとの提携戦略について理解します。また、マイレージやコストマネジメントなどの企業戦略について、そのポイントをレストラン経営など身近な例から解説します。後半はローコストキャリア (LCC)の経営についてその特徴と具体的なコスト削減の活動内容を学ぶことができます。そして L C C が F S C とは全く異なるビジネスモデルであることを講義により解説します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(2)社会的貢献性】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 本科目の学習目標は以下のとおりです。 ①大手航空会社の基本的な経営戦略について学ぶことができる。特に航空会社の商品である航空路線の展開に関するネットワーク戦略について基本的な考え方を学ぶことができる。 ②在庫が出来ない商品を扱う航空会社の収入戦略、コストマネジメント、マイレージなどの顧客戦略について、レストランの経営を例題に詳しく解説し、その基本的な戦略を学ぶことができる。 ③躍進著しいローコストキャリア (L C C) のビジネスモデルについて学ぶことができる。 ④最新の航空会社の経営状況や戦略について学ぶことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献	航空産業入門 (第 2 版) 発行：東洋経済新報社					
21.成績評価	①授業理解度 (講義への理解)・・・40 点 (講義を理解し、講義中にポイントを掴み、配布する資料に要点を記入する。※学習目標①、②、③に対応) ②個人ワークおよびグループワーク・・・15 点 (講義の中で個人ワークおよびグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する) ※学習目標①、②、③に対応) ③確認テスト・・・45 点 (講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる) ※学習目標①、②、③に対応)					
22.コメント	航空実務では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、航空会社の経営戦略を学びます。ANA や JAL に代表される大手航空会社の戦略と台頭著しい L C C (ローコストキャリア) の戦略を比較していきます。 生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー	火曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第2回】	講義 エアラインの特性とコロナ危機 エアライン事業の特性ならびにコロナ危機の影響について説明し、今後のエアライン事業の将来性について考察する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義 ハブ&スポーク戦略とアライアンス 現在の大手航空会社が採用するハブ&スポーク戦略を詳述し、また、その戦略を更に深めるハブ空港における対応や海外他社との提携（アライアンス）の必要性について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義 レベニューマネジメント戦略 航空産業の特性を踏まえ、座席管理の仕組みと価格との連動について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認小テストに備えてここまでの振り返り
第5回	講義 マイレージ戦略 エアラインが進めるマイレージ戦略を中心とした対顧客サービスについてケーススタディにより説明し、その戦略について考察する。 第1回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第6回	講義 生産性の向上とコストマネジメント 航空機の購入など多額の固定費を負担するエアラインにおけるコストマネジメントとIT導入などによる生産性向上の仕組みを解説する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】	講義 職掌制度と人材マネジメント 労働集約型産業であるエアラインの様々な職種の役割とその人材要件を解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	講義 安全管理 エアラインにとって必須命題である安全運航について、その具体的な内容を詳述する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	講義 貨物事業戦略 旅客運送とは異なり、コロナ拡大下においても収入を確保している航空貨物事業と貨物のオペレーションについて説明する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第2回確認小テストに備えてここまでの振り返り
【第10回】	講義 LCCの誕生と成長 LCCが誕生した背景について米国における規制緩和と関連して解説する。またその後のLCCの急成長の理由を掘り下げて考察する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】	講義 LCCの戦略① LCCにおけるオペレーションにおける様々なコスト削減の仕組みを学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	講義 LCCの戦略② LCCにおける予約販売およびアンシラリー収入に関する様々な活動について学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義 LCCのビジネスモデル LCCは単なるコスト削減ではなく、大手航空会社とは全く異なるビジネスモデルを実現していることを説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

	明する。	
【第 1 4 回】	講義 エアラインを取り巻く現状と課題 現代の航空会社を取り巻く現状、例えば脱炭素化社会に向けた現状などにや空飛ぶ車などについて国土交通省の資料を基に解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第 3 回確認小テストに備えてここまでの振り返り
【第 1 5 回】	講義 エアラインのオペレーション エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第 3 回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	CC2215-Y51	2.科目名	特殊講義Ⅷ 仕事とキャリアⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 仕事とキャリア形成Ⅰに続き、観光という産業においてキャリア形成を行う上で必要となる知識の修得と具体的な準備を進める。 【概要】 ■企業の仕組みと企業が求める人材について、社会人基礎力を中心に考察する。また企業に関する理解促進のため、財務分析、労働法について基礎を学ぶ。 ■就活を終えた 4 年生の声やインターンシップの重要性などについて体験者や担当者の話を聞き、今後のキャリア形成の一助とする。 ■就活に向けて企業の仕組みや現状、政治や経済などの社会情勢など就活生と取り巻く環境についての知識を蓄え、活用する。					
18.学習目標と DPとの関連	・企業についての理解促進と適切なキャリア形成のための自己認知 企業の目的やマネジメント活動についての理解を深め、その中で働く人材について自己を中心として適切な人材像を認知する。 本科目の学修目標は DP（ディプロマポリシー）の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 ① 社会人基礎力の自己認知から自分の性格や価値観を客観的に把握し、自分なりの目標とする人材像を認識する。 ②観光における職業や業界について、興味を持つことができる。 ③キャリア教育の一科目であることを自覚し、遅刻や早退をせずに出席して、個人、グループ、クラス全体の学習活動を遂行することができる。					
19.教科書・教材	■必要に応じて参考書を紹介もしくは資料を配付する。					
20.参考文献	日本経済新聞					
21.成績評価	■社会人基礎力における個人ワーク、グループワークの取り組み及び確認テスト 30% ■ 講義ごとに実施する講義内容のまとめを通じた授業理解度 30% ■企業の仕組みや課題に関する確認テスト 20% ■企業分析における財務および労働法に関する確認テスト 20%					
22.コメント	・仕事とキャリア形成Ⅰは全学共通プログラムでしたが、この到達点を活かし、秋学期においては社会人基礎力と観光業界における人材像についての理解を深めます。 生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ■ 春学期の振り返りと全体スケジュールについての説			○ 「仕事とキャリア形成Ⅰ」の復習 150 分		

	明	○ 本時の復習 30 分
【第 2 回】	【講義】企業の仕組みとマネジメント 企業がなぜ存在するのか、その中で働くということとはどのような意味があるのかについて講義を行う。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から企業や組織についてのニーズなどを検索し、その内容と講義内容を比較検討する。 60 分
【第 3 回】	【講義＆演習】社会人基礎力 ■社会人基礎力とはどのようなものかを講義する。 ■社会人基礎力およびセルフコントロールに関するアンケートに回答する。(第 4 回以降の講義で自己認知の資料として活用する)	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 4 回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「前に踏み出す力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 5 回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「チームで働く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 6 回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「考え抜く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 7 回】	【講義および演習】社会人基礎力のまとめ&4 年生の就活報告 (1) 社会人基礎力に関する確認テスト (2) この夏就活を経験した先輩に今、皆さんにやっておいて欲しいことなどを語ってもらう。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。
【第 8 回】	【企業に関する理解】 企業の社会的役割や形式などについて理解する。また、法的な人格である法人の意味などについて理解する。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 9 回】	【企業に関する理解】	○ 事前に業界について調査し、質問などを積

	企業の組織について理解する。また、取締役会など会社法で規定されている会社を運営する規定などについて理解する。	極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 10 回】	【企業に関する理解】 経営資源の一つである資金についての理解を深める。財務諸表への理解と簡単な分析による企業の経営力の分析を行う。尚、最後に確認テストを実施する。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 11 回】	【企業に関する理解】 企業の経営について理解する。具体的には日本的経営や今後の見通し、また企業統治の課題などについて理解する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 12 回】	【企業に関する理解】 企業と個人の労働契約である雇用について理解する。具体的には働き方改革の実態や福利厚生の制度、更には労働組合の役割などについて理解する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 13 回】	【講義】企業研究 労働編 経営資源の一つである人財、特に労働法規等についての理解を深める。労働 3 法への理解と派遣労働や委託業務など態様の異なる働き方についての理解を深める。尚、最後に確認テストを実施する。	○就活の不安について取りまとめ、授業の中で積極的に質問できる準備を行う。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 14 回】	【講義】企業研究 財務編と労働編の解説 第 11 回と第 12 回で実施したテストの答え合わせを行いながら、財務と労働のポイントを再確認する。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 15 回】	【講義】インターンシップに向けて インターンシップに向けて具体的なエントリーの方法や学生全体、大学の特徴などについて就活支援の担当者からお話し頂く。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	CC2216-Y81	2.科目名	特殊講義Ⅸ ホスピタリティマネジメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義を中心とする		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『目的』 ・授業では、ホスピタリティ産業における最大の目標である「顧客満足実現」について様々な事業や企業を事例を基にその重要性について学ぶ。将来従事する仕事に生きる発想やスキルを身につける。 『概要』 ・授業では、「商品としてのホスピタリティ」の概念を明らかにする。ホスピタリティ産業の経営と管理上必要とされる理論の考察を通じて、顧客満足について正確に理解し、ホスピタリティ産業では、どのようにモノやサービスを提供すればよいのか、そのために人材をどのようにマネジメントすればよいのか、などについて学ぶ。また、優れた顧客満足活動を実践している企業の経営についても考察し、理論がホスピタリティの実践にどのように役立つのかも学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習目標』 1. ホスピタリティ産業の事業特性を具体的に説明できる。 2. 「ホスピタリティ」「サービス」「おもてなし」などの概念の違いを歴史的な背景を踏まえて説明できる。 3. 特にホスピタリティ産業においてなぜ顧客満足や従業員満足が重要なのかについて説明できる。 4. ホスピタリティ論の学びを通じて、就職活動など、自らのキャリア形成の参考にすることができ る。 『関連するディプロマポリシー』 ①自律性③多様性理解④問題発見・解決力⑥専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書は使用しない。 資料を配布する。					
20.参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。					
21.成績評価	授業参加姿勢 20% (学修目標の 1・2・3・4 に対応) 授業理解確認レポート (毎授業) 50% (学修目標の 1・2・3・4 に対応) 最終確認テスト 30% (学修目標の 1・2・3・4 に対応)					
22.コメント	?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める (生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること) ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)					
23.オフィスアワー	研究室 OA(3-306 号室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	・ オリエンテーション 講義内容について、成績評価等 ・ サービス / ホスピタリティとは？ ① 日本社会の現状と観光立国宣言 ② サービス/ホスピタリティとは？	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 2 回	・ 今なぜ、ホスピタリティを重視するのか ・ 商品としてのサービス/ホスピタリティ	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 3 回	・ ホスピタリティ産業のビジネス環境の変化について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 4 回	・ 日本のホスピタリティ産業の現況について 経済全体におけるホスピタリティ産業規模 ホスピタリティ産業の地域経済に及ぼす効果 宿泊産業に期待される役割等	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 5 回	・ 日本のホスピタリティ産業の課題について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 6 回	・ 日本のホスピタリティ産業の課題について② 宿泊施設 ホテル、旅館のビジネス特性等と課題	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 7 回	・ 1 回～6 回までの復習 ・ サービスの概念・サービスの特徴（特性）について ① サービスの定義、基本的性質（特性）、構成要素の全体像について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 8 回	・ サービスの概念・サービスの特徴（特性）について ② サービスの成果を左右する態度変数 交通サービス、ホテルサービスの構造 サービスの現状認識	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること

第 9 回	・ サービス/ホスピタリティ・マネジメント - サービス・マネジメントシステム - マーケットセグメンテーション - サービスコンセプト - 組織理念と文化	予習：事前に資料を配布、予習ポイントを指示するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 10 回	?サービス/ホスピタリティ・マーケティング ・ ホスピタリティにおけるマーケティング・ミックス (4 P + 3 P) ・ 宿泊施設におけるレヴェニュー・マネジメント ・ 航空会社におけるイールド・マネジメント	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 11 回	・ 顧客満足を実現する組織と人材① - サービス企業における人材の役割 「仕事・従業員満足・顧客満足」の関係について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 12 回	・ 顧客満足を実現する組織と人材② - 従業員満足の考え方 - 企業の採用後の教育・訓練について - サービスの「真実の瞬間」について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 13 回	・ 関係性 (Relationship) マーケティングの考え方と顧客満足 - 関係性マーケティングの考え方	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 14 回	・ ホスピタリティ・マネジメント実践企業の事例研究 - 株式会社「道頓堀ホテル」の成功要因について 「同社の経営戦略と経営理念」「従業員満足に向けての取組み (チームワーク・権限移譲・教育等)」 「顧客満足に向けてのホスピタリティの特徴と独自性」	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成. ・ パソコンは持参すること
第 15 回	・ 全体の復習と確認テストの実施	確認テストの実施 パソコンは持参すること。 Web Class でテスト提出。

1.授業コード (ナンバリング)	CL1101-Y51	2.科目名	臨床心理学概論Ⅰ（2023～2025 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士 保育士	11.先修条件	なし			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 臨床心理学の全体構造を把握し、臨床心理学の歴史について知る。そしてカウンセリング、アセスメントの基礎について学ぶ。さらに「心の病」や自傷等について考える機会をもつ。これらのことを通して、臨床心理学全般についての基礎的な事柄について学ぶことを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、多様性理解、専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 ①臨床心理学の全体構造について説明することができる。 ②カウンセリングの基礎的事項について説明することができる。 ③アセスメントの基礎的事項について説明することができる。 ④その他の臨床心理学の基礎的事項について説明することができる。 ⑤心の病を患う人を理解するために、自分の心理状態と関連付けて考察することができる。					
19.教科書・教材	「よくわかる臨床心理学 改訂新版」 下山晴彦編 ミネルヴァ書房					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	◎感想レポート・理解度確認クイズ・・・30%（①②③④に対応） ◎中間レポート・・・20%（①②③④に対応） あなたの将来の職業選択に臨床心理学はどのような関わりがあるか ◎総括テスト・・・50%（持ち込み可）					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	金曜昼休み（研究室） 火曜昼休み（センターオフィスアワー）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方について			次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート		
第 2 回	臨床心理学とは何か 1 臨床心理学の理念と全体構造について			予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ		
第 3 回	臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史			予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ		

第 4 回	臨床心理学とは何か 3 基本理論	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 5 回	臨床心理学とは何か 4 基本理論、社会のなかの活動	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 6 回	異常心理学 1 異常心理学とは何か、診断分類	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 7 回	異常心理学 2 気分障害、統合失調症	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 8 回	異常心理学 3 不安障害、身体症状症と解離性障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 9 回	異常心理学 4 摂食障害、性障害・性同一性障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 10 回	発達過程で生じる障害 知的障害、発達障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：中間レポート 理解度確認クイズ
第 11 回	アセスメント 1 ケース・フォーミュレーション、初回面接	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 12 回	アセスメント 2 検査法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 13 回	介入技法 1 遊戯療法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 14 回	介入技法 2 行動療法、認知行動療法	課題：感想レポート（総括） 理解度確認クイズ
第 15 回	15.まとめと振り返り（テスト）	総括テスト（持ち込み可）

1.授業コード (ナンバリング)	CLI207-Y51	2.科目名	応用犯罪心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目は 2023 年度に開講された司法犯罪心理学（中山担当の 15 コマ）と内容が重複するので、同科目の単位を取得した 2023 年度の 2 年生以上の学生の履修は認めないので注意すること。 本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた心理学的支援について学習することを目的とする。 現在の犯罪の発生状況、検挙率の推移について学び、最近、発生が多い犯罪、その原因、判例、犯罪捜査を理解する。 (1)我が国の犯罪情勢について学ぶ (2)特殊詐欺の手口を学び、解決案の提案をする (3)死刑制度の存置と廃止について考える (4)被害者支援について学ぶ (5)犯罪発生メカニズムと理論を学ぶ (6)目撃証言について学ぶ					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ② 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ③ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ④ ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。					
19.教科書・教材	WebClass にレジュメをアップするので授業までに印刷しておくこと。					
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・小レポート(講義の数日前までの範囲で新聞記事を読んで、講義の最初に小レポート)：10% 学習目標① と対応 ・ワーク（振り込め詐欺対策、死刑判決についてのグループ討議）：10% 学習目標③と対応 授業の 6 回目にグループ討議 ・レポート提出（死刑制度の存置もしくは廃止について）webclass：20% 学習の目標②に対応 ・最終試験：60%					

22.コメント	事件・裁判に関する資料収集、グループ討議など様々な形で積極的に講義に参加することを望む	
	遅刻・欠席は厳禁 受講態度により減点を行う場合があります。	
	(1) レポート作成に当たって	
	a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと	
	b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと	
	c.専門知識+自分の考え	
	前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない	
	(2) 試験問題について	
	試験は毎回の講義で配付する資料から出題するので、試験前には配付資料をきちんと復習してから受験すること	
	記述式の場合には、必ず最初に、講義で習ったことをきちんと書くこと	
その上で、自分の考えを述べるのは良いが、きちんとした理論について触れることなく、勝手な意見を書いても、得点にはならない		
また、制限字数を大幅に下回るような状態で提出された答案は、60 点に満たないと心得ておくこと		
文字が読みにくい、日本語の文章になっていない場合は、内容にかかわらず、単位を取得する権利を放棄したものと見なすので、その点を留意しておくこと		
(3) 生理指標を用いた実験，うそ発見の実験への参加		
実験参加は心理学の理解のひじょうに役に立つので、実験を実施する際にはぜひ協力して欲しい		
23.オフィスアワー	中山 ●曜日・	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 01 回 ガイダンス ・ 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。	毎回、犯罪に関する新聞記事を読んで整理しておく(2 時間)
	第 2 回 我が国の犯罪情勢について 警察組織と科学捜査	刑法などの法律用語、警察の組織名、担当部署の役割などについて専門用語調べておく(2 時間) 刑法犯の認知件数、手口別の件数、検挙率の推移を整理して最近の犯罪情勢をまとめる(2 時間)
	第 3 回 特殊詐欺 1 いわゆるオレオレ詐欺としての交通事故を伴う振り込み詐欺、架空請求、還付金詐欺について解説	特殊詐欺の代表的な 4 つの手口に関する専門用語を調べておく(2 時間) 特殊詐欺の発生件数と検挙率などを整理してまとめる(2 時間)
	第 4 回 特殊詐欺 2 融資保証金詐欺、株の取引、男女交際、ギャンブル必勝法詐欺などについて解説する	特殊詐欺の最近の手口に関する専門用語を調べておく(2 時間)

		特殊詐欺の具体的手口を整理してまとめる (2 時間)
	第 5 回 特殊詐欺 3 システム詐欺の構造、なぜだまされるのか	これほどの防犯キャンペーンにもかかわらず、 なぜ高齢者が特殊詐欺になぜ騙され続けるの かを考えて見る(2 時間) 特殊詐欺の騙しの手口についての社会心理 学的考察をおこなう (2 時間)
	第 6 回 特殊詐欺 4 特殊詐欺に遭わないためには何をすればいいか、自 分の意見をまとめた上で、グループで発表、討議する (特殊詐欺の対応に向けたレポートの準備)	特殊詐欺にあわないようにするにはどうした らいいかを高齢者の立場で考える(2 時間) 特殊詐欺の発生防止に対する国の施策につ いて新たな提案を考える (2 時間)
	第 7 回 山口県光市における母子殺人事件(1) 山口県光市で発生した 18 歳の少年による殺人事件 発生から第一審までの経緯	光市事件の概要を調べておく (2 時間) 少年の死刑判決の可能性について整理する (2 時間)
	第 8 回 山口県光市における母子殺人事件(2) 光市事件の二審以降の展開 最高裁判決までの経緯を 説明する 不謹慎な手紙、少年の実名報道について解説する	少年法の基本理念(1 条)、非行少年の分類、 少年の人権擁護(61 条)について調べる (2 時 間) 死刑判決に関する永山基準について整理し てまとめる(2 時間)
	第 9 回 山口県光市における母子殺人事件(3) これまでの死刑判決の判例を説明し、少年の死刑判決 の是非について考える	死刑判決の存置と廃止について諸外国の状況 を調べておく (2 時間) 我が国での死刑判決の判例と死刑判決の理 由について整理する(2 時間)
	第 10 回 死刑判決について グループ討議とレポートの準備	これまでに受けた講義を整理し、遺族の気 持ち、更生可能性、再犯防止の観点から光市 事件の判決の妥当性について、グループ討議 に野暮える (2 時間) 死刑判決の存置か廃止かについてどちらか を選択肢、その理由をまとめてレポートを作 成する(2 時間)
	第 11 回 被害者支援について学ぶ 兵庫県警被害者支援室から外部講師	被害者支援とは何か、なぜ必要かというこ とを予め調べておく(2 時間) 被害者支援に関する国内外の活動を整理 し、その必要性をまとめておく
	第 12 回 犯罪とパーソナリティについて ルーチンアクティビティ理論と犯罪原因論 この日までに、死刑判決の存置・廃止のレポートを webclass に提出。	犯罪の発生するメカニズムに関する理論を予 め調べておく(2 時間) ルーチンアクティビティ理論の有効性とそ の適用範囲についてまとめる(2 時間)

	第 1 3 回 性犯罪被害,特に少女姦（ペドフェリア）について 我が国の状況,アメリカのミーガン法と性犯罪者登録公開システム	我が国で発生している不同意性交、子供に対する性犯罪の発生状況とその原因を調べておく(2 時間) ペドフェリアの原因と対策について整理する (2 時間)
	第 1 4 回 目撃証言 ロフタスの目撃証言を否定する実験 認知面接法による改善 。	目撃証言に関するロフタスの実験的研究がどのようなものであったか、その概要と専門用語を調べておく (2 時間) 誤った証言を引き出す理由とその対策について整理しまとめておく (2 時間)
	第 1 5 回 振り返りと最終試験	講義中に学修した専門用語、理論を整理しておく

1.授業コード (ナンバリング)	CL1208-Y51	2.科目名	臨床心理学概論 (2022 年度生以前 秋春通 年)		3.単位数	4
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野における実務 経験のある教員による授業科 目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学 期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士 保育士			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 (横川担当分) 前半を受けて、こころの健康と異常について学び、今日の臨床心理的援助に大きな影響を与えた 3 つの理論・技法として、力動的心理療法と分類される S.フロイトから始まる精神分析、C.G.ユングの分析心理学、そしてパーソンセンタード（来談者中心療法）として知られる C.R.ロジャーズの考えを紹介し、臨床心理学への基礎的理解を進めることを目的とする。 (寺村担当分) 臨床心理学の全体構造を把握し、臨床心理学の歴史について知る。そしてカウンセリング、アセスメントの基礎について学ぶ。さらに「心の病」や自傷等について考える機会をもつ。これらのことを通して、臨床心理学全般についての基礎的な事柄について学ぶことを目的とする。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、多様性理解、専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 【横川担当分】 ①臨床心理的理解・援助の前提となるこころの正常・異常について説明することができる。 ②精神分析の基礎的事項について説明することができる。 ③分析心理学の基礎的事項について説明することができる。 ④来談者中心療法の基礎的事項について説明することができる。 ⑤臨床心理的理解・援助について、自分と関連付けて考察することができる。 【寺村担当分】 ①臨床心理学の全体構造について説明することができる。 ②カウンセリングの基礎的事項について説明することができる。 ③アセスメントの基礎的事項について説明することができる。 ④その他の臨床心理学の基礎的事項について説明することができる。 ⑤心の病を患う人を理解するために、自分の心理状態と関連付けて考察することができる。					
19.教科書・教材	「改訂版 臨床心理学概説」 馬場禮子著 放送大学教育振興会 「よくわかる臨床心理学 改訂新版」 下山晴彦編 ミネルヴァ書房					
20.参考文献	【横川担当分】 心理臨床大事典（改訂版） 氏原寛他編 培風館 2004 精神分析事典 小此木啓吾編集代表 岩崎学術出版社 2002 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック 小此木啓吾他編 創元社 2004 心理療法ハンドブック 乾吉佑他編 創元社 2005 改訂 精神分析の人格理論の基礎 馬場禮子著 岩崎学術出版社 2016 【寺村担当分】					

	適宜、紹介する。	
21.成績評価	【横川担当分】 1. コミュニケーションシート…3×12回=36% (⑤に対応) 2. 中間ふりかえり…24% (①②に対応) 3. 総括テスト…40% (①②③④に対応) 【寺村担当分】 ◎感想レポート・理解度確認クイズ・・・30% (①②③④に対応) ◎中間レポート・・・20% (①②③④に対応) あなたの将来の職業選択と臨床心理学とはどのような関わりがあるか ◎総括テスト・・・50% (①②③④⑤に対応)	
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。	
23.オフィスアワー	横川： 曜日 限 (研究室) 曜日 限 遠隔 (センタープログラム) 寺村：金曜昼休み (研究室) 火曜昼休み (センターオフィスアワー)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	オリエンテーション 授業の進め方について こころの健康と異常	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 3 回 第 4 回	精神分析 1 S.フロイトと精神分析の成立 精神分析 2 人格理論① 局所論・構造論・力動論・適応論	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 5 回 第 6 回	精神分析 3 人格理論② 防衛機制・発達理論 精神分析 4 人格理論③ エディプスコンプレックス・原始的防衛機制	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 7 回 第 8 回	精神分析 5 人格理論④ エリクソンのライフサイクル論 中間ふりかえり	コミュニケーションシートの提出 (10 分) 中間ふりかえり (持ち込み不可)
第 9 回 第 10 回	精神分析 6 技法論 分析心理学 1 タイプ論	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 11 回 第 12 回	分析心理学 2 集合的無意識・元型・自己 総括テストに向けて	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 13 回 第 14 回	総括テスト 来談者中心療法 1 C.ロジャーズと来談者中心療法の成立	総括テスト (持ち込み可) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 15 回 第 16 回	来談者中心療法 2 来談者中心療法の理論と技法 ***** 以降、寺村担当 オリエンテーション 授業の進め方について	コミュニケーションシートの提出 (10 分) 予習：次回分のテキストを読む (90 分) 課題：感想レポート提出
第 17 回	臨床心理学とは何か 1 臨床心理学の理念と全体構造について	予習：次回分のテキストを読む (90 分)

第 18 回	臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史	分) 予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 19 回 第 20 回	臨床心理学とは何か 3 基本理論 臨床心理学とは何か 4 基本理論、社会のなかの活動	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ 予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 21 回 第 22 回	異常心理学 1 異常心理学とは何か、診断分類 異常心理学 2 気分障害、統合失調症	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ 予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 23 回 第 24 回	異常心理学 3 不安障害、身体症状症と解離性障害 異常心理学 4 摂食障害、性障害・性同一性障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ 予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 25 回 第 26 回	発達過程で生じる障害 知的障害、発達障害 アセスメント 1 ケース・フォーミュレーション、初回面接	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：中間レポート 理解度確認クイズ 予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 27 回 第 28 回	アセスメント 2 検査法 介入技法 1 遊戯療法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ 予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ

第 29 回	介入技法 2 行動療法、認知行動療法	課題：感想レポート（総括）
第 30 回	まとめと振り返り（テスト）	理解度確認クイズ 総括テスト（持ち込み可）

1.授業コード (ナンバリング)	CLI209-Y51	2.科目名	心理演習 ①		3.単位数	4
4.授業担当教員	田中亜裕子、山本喜晴、山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 認定スポーツカウンセラー 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義，ロールプレイ，グループワーク，ビデオ視聴		
16.履修制限	【履修制限について】 ※ 1 クラス 1 5 名の履修制限があります。 ※ 第 1 回授業の前日 17：00 までに履修登録ができていない場合、第 1 回授業に欠席の場合は履修を認めません。 ※ 履修希望者が 45 名を超える場合、公認心理師資格取得の希望と成績を考慮して履修者を決定します。 ※ 実技科目のため対面による授業となります。遠隔では受講できませんのでご注意ください。 【第 1 回授業について】 ※ 第 1 回でクラス分けを行います。前日 17：00 までに履修登録したうえで出席してください。 ※ 第 1 回は合同で行いますので教室については掲示					
17.授業の目的と概要	【目的】 公認心理師としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。 【概要】 心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び?支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び?地域連携、公認心理師としての職業倫理及び?法的義務への理解について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討等を行い、これらに関する基本的な知識及び技術の修得を目標とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能 の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①コミュニケーション実習、心理面接のロールプレイングを通して、カウンセラーの基本姿勢を身につけることができる。 ②心理検査のロールプレイングを通して、心理検査実施に必要な知識を習得し、技能を身につけることができる。 ③事例検討を通して、事例理解に必要な基本的な知識、および技能を周到することができる。 ④チームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	授業中に随時紹介する					

21.成績評価	①実習、ロールプレイングのワークシート 20% 実習、ロールプレイングのパフォーマンス評価 20% ②心理検査レポート 30% ③事例検討後のレポート 30% 【注意事項】 本科目は演習科目であり、ロールプレイ、グループワークなどの体験と関連付けた成績評価課題を設定しています。以下の回に欠席した場合、欠席回と関連する課題の成績評価は0点となります。 4, 6, 8, 10, 12～20, 23～30	
22.コメント		
23.オフィスアワー	【山本真】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス水曜日昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜日昼休み 【山本喜】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜 1 限 【田中】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス水曜昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス木曜 3 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	1.オリエンテーションとクラス分け 2.自己紹介のワーク	
第 2 週	3.カウンセリングとは何か 4.コミュニケーション実習 1 受容技法	ワークシートの完成
第 3 週	5.職業倫理と法的義務 6. コミュニケーション実習 2 繰り返し技法	ワークシートの完成
第 4 週	7.地域支援 8.コミュニケーション実習 3. 明確化技法	ワークシートの完成
第 5 週	9.チームアプローチと多職種間連携 10.コミュニケーション実習 4 支持技法	ワークシートの完成
第 6 週	11.遠隔による心理支援 12.コミュニケーション実習 5 質問技法	ワークシートの完成
第 7 週	13.14.心理面接ロールプレイング	ワークシートの完成
第 8 週	15.16.心理検査ロールプレイング 1. 質問紙法	ワークシートの完成
第 9 週	17.18.心理検査ロールプレイング 2 描画法	ワークシートの完成
第 10 週	19.20.心理検査ロールプレイング 3：知能検査	ワークシートの完成
第 11 週	21. 事例検討に必要な視点の理解 22.支援計画作成に必要な視点と支援計画作成の方法	ワークシートの完成

第 12 週	23.事例検討 1 24.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 13 週	25.事例検討 2 26.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 14 週	27.事例検討 3 28.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 15 週	29.総括試験 30.まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI209-Y52	2.科目名	心理演習 ②		3.単位数	4
4.授業担当教員	山本喜晴、田中亜裕子、山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 認定スポーツカウンセラー 公認心理師	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義，ロールプレイ，グループワーク，ビデオ視聴			
16.履修制限	【履修制限について】 ※ 1 クラス 1 5 名の履修制限があります。 ※ 第 1 回授業の前日 17：00 までに履修登録ができていない場合、第 1 回授業に欠席の場合は履修を認めません。 ※ 履修希望者が 45 名を超える場合、公認心理師資格取得の希望と成績を考慮して履修者を決定します。 ※ 実技科目のため対面による授業となります。遠隔では受講できませんのでご注意ください。 【第 1 回授業について】 ※ 第 1 回でクラス分けを行います。前日 17：00 までに履修登録したうえで出席してください。 ※ 第 1 回は合同で行いますので教室については掲示					
17.授業の目的と概要	【目的】 公認心理師としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。 【概要】 心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び?支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び?地域連携、公認心理師としての職業倫理及び?法的義務への理解について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討等を行い、これらに関する基本的な知識及び技術の修得を目標とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能 の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①コミュニケーション実習、心理面接のロールプレイングを通して、カウンセラーの基本姿勢を身に着けることができる。 ②心理検査のロールプレイングを通して、心理検査実施に必要な知識を習得し、技能を身に着けることができる。 ③事例検討を通して、事例理解に必要な基本的な知識、および技能を周到することができる。 ④チームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	授業中に随時紹介する					

21.成績評価	①実習、ロールプレイングのワークシート 15% 実習、ロールプレイングのパフォーマンス評価 10% ②心理検査レポート 25% ③事例検討後のレポート 25% ④総括試験 25%	
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。	
23.オフィスアワー	【山本真】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス水曜日昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜日昼休み 【山本喜】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜 1 限 【田中】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス水曜昼休み 研究室オフィスアワー： 神戸山手キャンパス木曜 3 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	1.オリエンテーションとクラス分け 2.自己紹介のワーク	
第 2 週	3.カウンセリングとは何か 4. コミュニケーション実習 1 受容技法	ワークシートの完成
第 3 週	5.職業倫理と法的義務 6. コミュニケーション実習 2 繰り返し技法	ワークシートの完成
第 4 週	7.地域支援 8.コミュニケーション実習 3. 明確化技法	ワークシートの完成
第 5 週	9.チームアプローチと多職種間連携 10.コミュニケーション実習 4 支持技法	ワークシートの完成
第 6 週	11.遠隔による心理支援 12.コミュニケーション実習 5 質問技法	ワークシートの完成
第 7 週	13.14.心理面接ロールプレイング	ワークシートの完成
第 8 週	15.16.心理検査ロールプレイング 1. 質問紙法	ワークシートの完成
第 9 週	17.18.心理検査ロールプレイング 2 描画法	ワークシートの完成
第 10 週	19.20.心理検査ロールプレイング 3：知能検査	ワークシートの完成
第 11 週	21. 事例検討に必要な視点の理解 22.支援計画作成に必要な視点と支援計画作成の方法	ワークシートの完成
第 12 週	23.事例検討 1 24.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 13 週	25.事例検討 2 26.支援計画の作成	ワークシートの完成

第 14 週	27.事例検討 3 28.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 15 週	29.総括試験 30.まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI209-Y53	2.科目名	心理演習 ③		3.単位数	4
4.授業担当教員	山本真由美、田中亜裕子、山本喜晴					
5.授業科目の区分	展開科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 認定スポーツカウンセラー 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義，ロールプレイ，グループワーク，ビデオ視聴		
16.履修制限	【履修制限について】 ※1 クラス15名の履修制限があります。 ※第1回授業の前日17：00までに履修登録ができていない場合、第1回授業に欠席の場合は履修を認めません。 ※履修希望者が45名を超える場合、成績の順に履修者を決定します。 ※実技科目のため対面による授業となります。遠隔では受講できませんのでご注意ください。 【第1回授業について】 ※第1回でクラス分けを行います。前日17：00までに履修登録したうえで出席してください。 ※第1回は合同で行いますので教室については掲示を確認してください。 ※第1回					
17.授業の目的と概要	【目的】 公認心理師としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。 【概要】 心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び?支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び?地域連携、公認心理師としての職業倫理及び?法的義務への理解について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討等を行い、これらに関する基本的な知識及び技術の修得を目標とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能 の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①コミュニケーション実習、心理面接のロールプレイングを通して、カウンセラーの基本姿勢を身に着けることができる。 ②心理検査のロールプレイングを通して、心理検査実施に必要な知識を習得し、技能を身に着けることができる。 ③事例検討を通して、事例理解に必要な基本的な知識、および技能を身に着けることができる。 ④チームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解することができる。					
19.教科書・教材						

20.参考文献	授業中に随時紹介する	
21.成績評価	①実習、ロールプレイングのワークシート 15% 実習、ロールプレイングのパフォーマンス評価 10% ②心理検査レポート 25% ③事例検討後のレポート 25% ④総括テスト 25% ※総括テストについては、知識問題 50%、論述問題 50%です。	
22.コメント		
23.オフィスアワー	【山本真】 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス水曜日昼休み 【山本喜】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜 1 限 【田中】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜昼休み 研究室オフィスアワー： 神戸山手キャンパス水曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	1.オリエンテーションとクラス分け 2.自己紹介のワーク	
第 2 週	3.カウンセリングとは何か 4. コミュニケーション実習 1 受容技法	ワークシートの完成
第 3 週	5.職業倫理と法的義務 6. コミュニケーション実習 2 繰り返し技法	ワークシートの完成
第 4 週	7.地域支援 8.コミュニケーション実習 3. 明確化技法	ワークシートの完成
第 5 週	9.チームアプローチと多職種間連携 10.コミュニケーション実習 4 支持技法	ワークシートの完成
第 6 週	11.遠隔による心理支援 12.コミュニケーション実習 5 質問技法	ワークシートの完成
第 7 週	13.14.心理面接ロールプレイング	ワークシートの完成
第 8 週	15.16.心理検査ロールプレイング 1. 質問紙法	ワークシートの完成
第 9 週	17.18.心理検査ロールプレイング 2 描画法	ワークシートの完成
第 10 週	19.20.心理検査ロールプレイング 3：知能検査	ワークシートの完成
第 11 週	21. 事例検討に必要な視点の理解 22.支援計画作成に必要な視点と支援計画作成の方法	ワークシートの完成
第 12 週	23.事例検討 1 24.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 13 週	25.事例検討 2	ワークシートの完成

	26.支援計画の作成	
第 14 週	27.事例検討 3 28.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 15 週	29.総括テスト 30.まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI211-Y51	2.科目名	福祉心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	大原直美				
5.授業科目の区分	福祉分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 心理の専門職をめざす人が、人々の生活の中で生じている様々な生活課題とその背景を知り、その課題解決に向けて、どのように福祉の支援が行われているのか、またそこに心理の専門職としてどのような心理に関する支援ができるのかを学ぶ。公認心理師となるために履修が必要な科目の1つである。 【概要】 社会福祉の法律や制度、倫理観を学び、そこから、子ども、家庭、障害者、高齢者といった各対象者、虐待や災害時といった各領域における社会福祉実践の実際と、心理的支援、多職種連携のあり方等、福祉分野における心理の専門職としての関わり方について概説する。講義・演習を通して、実践現場で求められる「実践力とは何か」「多職種連携のあり方とは」について考えて欲しい。また、学生が理解を深めることができるよう、具体的な事例やデータを提示しながら、ミニ演習も取り入れる。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性 （3）多様性理解 （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技術の活用力の学修 に関連する。 ①心理を取り扱う専門家として、各分野での具体的な役割や位置付けが分かる。 ②各領域で必要とされる専門的な知識や技術を学び、実践現場でどのように活用できるのかを理解することができる。 ③各領域で生じている問題や背景を知り、具体的に「人が有する価値・尊厳・可能性」を基盤においた心理的支援の方法が分かる。 ④実践現場では、他の専門職とどのように協力をしながら、心理職等としての専門性を活かしていくのか理解できる。 ⑤専門職として、なぜ専門的価値や倫理が重要であるのかを理解するとともに、今後の学修目標や自己課題を明確にすることができる。 ⑥自分の考えを整理し、根拠を持って言語化する能力が備わる。				
19.教科書・教材	下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 [監修] 渡部純夫・本郷一夫 [編著] 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 17 福祉心理学 ミネルヴァ書房 2021				
20.参考文献	授業内、Webclass にて適宜紹介				
21.成績評価	①リアクションペーパー 30 点（第 1 回～第 14 回のトータルで採点）【学習目標⑥】 ②課題シート 20 点（20 点×1 回）【学習目標①～④、⑥】 ③総括試験 50 点（第 15 回）【学習目標①～⑤】				
22.コメント	自身の専門分野と、その関連領域を広く知っておくことによって、多職種連携をスムーズに行うことができると同時に、自身の専門分野を活かした支援の幅も広がる。ぜひ、現在の社会問題や福祉の制度政策にも目を向け、視野を広げて欲しい。				

		本講義において、生成 AI 利用に関しては、以下の 条件付きで認める。 ・課題シートに取り組む際、分からない事を調べること。 ・ただし、調べた内容をそのまま課題シートに丸写しすることは認めない。自分の意見を自分の言葉で表現することを求める。 ・参考文献・引用文献を示すように、生成 AI を使用したことを明記すること。 ・尚、リアクションペーパーの記述では、生成 AI の使用を認めない。
23.オフィスアワー		授業終了後、メール、Webclass で対応
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション】 授業の目標・内容・評価方法・受講の留意点 【講義】 第 1 章 現代社会における福祉をめぐる現状と課題 P.2～11 社会福祉制度の変遷 複雑かつ多様化する社会と心理支援	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料を掲載
第 2 回	【講義】 第 2 章 親子のアタッチメント（愛着）関係と支援 P.12～25 子どもの権利条約について 子育て支援の施策	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料を掲載
第 3 回	【講義】 第 3 章 児童虐待の理解と支援 P.26～37 児童を取り巻く虐待の現状 児童の虐待防止対策と被虐待児への支援	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料を掲載
第 4 回	【講義】 第 4 章 社会的養護の課題と支援 P.38～49 社会的養護の制度と実施体系 社会的養護の実際	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料を掲載
第 5 回	【講義】 第 5 章 夫婦間・カップル間暴力への支援 P.50～63 ドメスティック・バイオレンス（DV）とは DV 問題への支援と対応	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料を掲載
第 6 回	【講義】 第 6 章 貧困家庭への支援 P.64～77 貧困の定義、現状とその影響 ヤングケアラー	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料を掲載

第 7 回	【講義】 第 7 章 自殺の背景の理解と支援 P.78～91 自殺の実態と対策の枠組み 自殺対策における支援	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料 を掲載
第 8 回	【講義】 第 8 章 障害と疾病の理解と支援 P.92～98 ノーマライゼーションの理念 共生社会の構築に向けて 障害の分類	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料 を掲載
第 9 回	【講義】 第 8 章 障害と疾病の理解と支援 P.98～103 障害者支援の視点 第 9 章 高齢者の心身機能の特徴 P.104～115 超高齢社会 老年期の心理的アプローチ	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料 を掲載
第 10 回	【講義】 第 10 章 認知症の理解と支援 P.116～129 認知症の定義と原因疾患 認知症の人の理解と支援	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料 を掲載
第 11 回	【講義】 第 11 章 介護と高齢者虐待 P.130～143 高齢者を介護する家族の心理と対応 介護保険制度と介護サービス 高齢者虐待の現状と有効な対応	・課題シート最終締切 ・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料 を掲載
第 12 回	【講義】 第 12 章 災害と福祉 P.144～159 災害ケースマネジメント サイコロジカル・ファーストエイド 心のケアとウェルビーイング	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料 を掲載
第 13 回	【講義・演習】 多職種連携による支援① 専門職連携 様々な領域における連携・協働	・リアクションペーパー記入 ・復習：授業ノートの整理 振り返り ・予習：次回の予習 Webclass に次回資料 を掲載
第 14 回	【講義・振り返り】 多職種連携による支援② 本講座で取り扱った内容についての総ざらい	・リアクションペーパー記入 ・今までの授業内容の整理 ・テキスト、配布資料等持参
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI212-Y81	2.科目名	人体の構造と機能及び疾病（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格取得			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	オンデマンド	
16.履修制限	制限は設けないが、公認心理師を目指す学生を対象と想定して授業を進める。					
17.授業の目的と概要	本科目は、公認心理師（国家資格）養成に必要な 25 科目の中の必須科目である。公認心理師として疾病を有する者の心理について相談を受けたり、助言したりする。したがって、公認心理師としてさまざまな疾病について知ることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標には DP(ディプロマポリシー)のうち、自律性、社会貢献性、専門的知識・技能の活用力が関わる。 公認心理師受験資格取得を目指す学生として、授業での課題に自律的に関わり、社会にどのように貢献できるかを視野に入れながら、専門的知識・技能の獲得を目指して欲しい。 本科目の学習目標は、以下の 2 つである。 ①心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害を説明できる。 ②がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病を説明できる。					
19.教科書・教材	斎藤清二著 野島一彦・繁樹算男監修 公認心理師の基礎と実践?人体の構造と機能及び疾病 遠見書房 2019 2,800 円＋税 他に教材として授業資料を webclass に掲載する。					
20.参考文献	人体の構造と機能及び疾病 武田克彦他編 医歯薬出版株式会社 2019 3,200 円＋税					
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎のレポート・課題解答（授業内容について考えたこと）@5×13 点、 webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が理解されたか）35 点					
22.コメント	冬学期期間に受講してください。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 水曜日昼休み。 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			予習：シラバスを読む。 復習：授業中に説明した内容への質問（5）。		
第 2 回	第 1 章 医学と医療			予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する（5）。		
第 3 回	第 2 章 医学の歴史			予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する（5）。		
第 4 回	第 3 章 EBM と NBM			予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する（5）。		
第 5 回	第 4 章 人体の正常構造と機能：解剖学と生理学			予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する（5）。		

第 6 回	第 5 章 主な症候：症候学と診断学	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 7 回	第 6 章 主要な疾病：病理学と疾病学	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 8 回	第 7 章 腫瘍臨床とがんサバイバーシップ	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 9 回	第 8 章 遺伝性疾患・先天性疾患・遺伝カウンセリング	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 10 回	第 9 章 難病	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 11 回	第 10 章 後天性免疫不全症候群・臓器移植	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 12 回	第 11 章 認知症・脳血管障害 第 12 章 糖尿病	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 13 回	第 13 章 依存症：アルコール・薬物 第 14 章 循環器疾患	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 14 回	第 15 章 緩和ケア、エンドオブライフケア、グリーフケア	予習：教科書の該当章を読み理解する。 復習：webclass に提示した課題に解答する (5)。
第 15 回	総括試験	教科書、資料など何を参考にしても良い (30)。

1.授業コード (ナンバリング)	CLI307-Y51	2.科目名	心理的アセスメント		3.単位数	4
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年から	
10.取得資格の要件	認定心理士・公認心理師		11.先修条件	臨床心理学概論・心理的支援法 発達心理学・感情人格心理学 上記科目を履修済み・並行履修することが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	教材の数、教員・SA のキャパシティから 30 名程度 を上限と考えています。 初回に履修者を確定しますので、欠席のないよう。 公認心理師・認定心理士資格取得希望者を優先とします。 ※対面必須の授業となります。					
17.授業の目的と概要	【目的】心理的アセスメントの目的及び倫理について学びます。その観点及び展開、方法（観察、面接及び心理検査）、適切な記録及び報告について学習することを目的とします。 【概要】面接によるアセスメント、質問紙によるアセスメント、描画によるアセスメントなどを扱います。実際に、それらのテスト、技法を体験し、解釈することを通じて、心理検査によるパーソナリティの把握とはどのようなものかを実感していただきます。私たちは精神科クリニックに勤務する臨床心理士・公認心理師です。「心理学をどのように使って、臨床場面と向き合っているのか」「相談にいられた人を理解するためにはこういう視点を持っておいたほうがいいな」など、私たちが日々経験していることを織り交ぜて話していく予定です。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標： ①心理アセスメントに必要な専門的知識と経験を獲得すること ②得られたデータをもとに解釈し、クライアントに理解しやすい形で説明できること 学習目標は DP のうち、自律性及び専門知識・技能の活用力に該当します。					
19.教科書・教材	臨床心理アセスメントの基礎【第 2 版】 沼初枝著 ナカニシヤ出版(2020)					
20.参考文献	グレアム, J.R. 田中富士夫訳 『MMPI 臨床解釈の実際』三京房 日本臨床 MMPI 研究会監 『よくわかる MMPI ハンドブック 基礎編』 金剛出版 林 勝蔵著 『P-F スタディ解説 2006 年版』 三京房					
21.成績評価	授業で学習したことにに関するレポート 2 点 (10 回) 合計 20 点 質問紙法に関するレポート 10 点 (2 回：TEG3・YG) 合計 20 点 検査解釈のレポート 20 点 (3 回：MMPI3・PF スタディ・ジェノグラム) 合計 60 点					
22.コメント	各回に参加して、そのつど分からないことは教員・SA に質問をして、 その時点での作業を進めていけば、難易度はそれほど高くありません。 基本的に対面での実施のみを想定しています。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	金曜日昼休み（研究室オフィスアワー） 火曜日昼休み（センターオフィスアワー）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション			復習：授業の内容をノートにまとめる		
第 2 回	心理的アセスメントの目的及び倫理 心理的アセスメントの観点及び展開			予習：教科書 p.2-p.21 を読む		
第 3 回	行動観察によるアセスメント			復習：授業の内容をノートにまとめる		

第 4 回	面接によるアセスメント①（ラポールの形成，質問の仕方）	予習：教科書 p.118-p.120、p.162-p.166 を読む
第 5 回 第 6 回	面接によるアセスメント②（収集した情報の総合解釈） TEG3 の理論と実施	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：教科書 p.116,p.158-p.161 を読む 課題：TEG3 の所見レポート
第 7 回 第 8 回	TEG3 の解釈とフィードバック YG 性格検査の理論と実施	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：教科書 p.170-p.175 を読む 課題：YG の所見レポート
第 9 回 第 10 回	YG 性格検査の解釈とフィードバック 内田クレペリン精神作業検査の実施と解釈	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：教科書 p.98-p.103 を読む
第 11 回 第 12 回	高齢者のアセスメント 認知症のスクリーニング検査	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：教科書 p.148-p.149 を読む
第 13 回 第 14 回	SCT の理論と実施 SCT の解釈とフィードバック	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：教科書 p.140-p.141 を読む
第 15 回 第 16 回	バウムテストの理論と実施 バウムテストの解釈とフィードバック	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：なし
第 17 回 第 18 回	風景構成法の理論と実施 風景構成法の解釈とフィードバック	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：Web Class にアップされた資料を読む
第 19 回 第 20 回	MMPI の理論と実施 MMPI の集計と解釈①	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：Web Class にアップされた資料を読む
第 21 回 第 22 回	MMPI の集計と解釈② PF-スタディの理論と実施	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：Web Class にアップされた資料を読む
第 23 回 第 24 回	PF-スタディの集計と解釈① PF-スタディの集計と解釈②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：Web Class にアップされた資料を読む
第 25 回 第 26 回	ジェノグラムのよるアセスメント① ジェノグラムのよるアセスメント②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：教科書 p.44-p.51、p.63-p.95 を読む 課題：MMPI の所見レポート
第 27 回 第 28 回	知能・発達検査の歴史・臨床的応用 心理検査における統計の役割	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：Web Class にアップされた資料を読む 課題：PF-スタディの所見レポート
第 29 回 第 30 回	所見の書き方：治療的アセスメント 全体の振り返り・まとめ	復習：授業の内容をノートにまとめる 課題：ジェノグラムのレポート

1.授業コード (ナンバリング)	CLI310-Y53	2.科目名	心理実習 (2023 年度生)		3.単位数	3
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子、寺村堅志、端本利江子、松井幸太、山本喜晴					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3、4 年	
10.取得資格の要件	公認心理師		11.先修条件	履修制限を参照		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	事前のエントリーが必要です。 事前エントリーできる者は、2 年終了時点において次の 3 条件を満たす者のみとします。 (3 年次編入生についてはこの限りではありません) ①累積 GPA が原則 2.70 以上であること ②原則 76 単位以上を修得済みであること ③公認心理師必修科目 25 科目のうち、原則 10 科目以上を修得済みであること エントリー後、選考を行い、最大 15 名まで履修を認めます。 なお、実習の開始前に心理実習履修料 9,000 円を納める必要があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本実習は、保健医療分野、教育分野、福祉分野等の施設において心理臨床の現場理解及びチームでの心理支援の理解を深めることをねらいとし、以下の事柄について基本的な水準の知識を修得し重要性を説明できるようになること、および基礎的な技能を修得することを到達目標とする。 (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (イ) 多職種連携及び地域連携 (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解 【概要】 保健医療分野、教育分野、福祉分野の臨床現場に赴き、実習を行う。また、実習に伴う事前事後学習も大学内で実施する。臨床現場に勤務する実務家教員・指導者から、心理臨床の現場理解と、チームでの心理支援の理解を実践的に学ぶ。 実習は、3 年秋学期から 4 年学期にかけて、80 時間（事前学習、事後学習含む）の見学実習が中心となる。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて説明できる 学習目標②多職種連携及び地域連携について説明できる 学習目標③公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明できる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	臨地実習に参加することを前提に、各実習先の事前学習、事後学習、報告会の取組をもとに評価します。 事前学習（レポート等の成果物）：40％ 事後学習（レポート等の成果物）：40％ 報告会（資料作成とプレゼン）：20％					
22.コメント	実習に取り組みにあたって、ふさわしい身なりと態度が求められます。 実習生として適格を欠く場合には、実習参加の取り止めとなることもあります。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日・4 限(山本喜晴)、木曜日昼休み（松井幸太）、火曜日・2 限（田中亜裕子） センターオフィスアワー：水曜日・昼休み(山本喜晴)、月曜日 2 限（松井幸太）、火曜日・昼休み（田中亜裕子）					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CMP104-A51	2.科目名	ICT 活用 A （プログラミング入門）		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	この授業では、ノートパソコンを利用した演習を中心に進める関係で、受講人数を 30 名に制限する。 履修登録者が制限人数を超えた場合、上級学年から優先して受講者数を決定する。					
17.授業の目的と概要	この授業では、Python（無償）というプログラム（※）を作るためのソフトウェアを各自のパソコンにセットアップした上で、その基本的な使い方を習熟するとともに、実際のデータを用いた分析の基礎、データ可視化の基本技法などを講義・演習を行うことを目的とする。この授業はプログラミング初学者を対象とするため、基本的な内容に絞り、演習時間を多く設ける。 2020 年度から、プログラミング教育が小学校での必修化が始まった。Python はシンプルながら汎用性が高く、データ分析や機械学習、AI を始めとする多くの分野で使われている最も人気のあるプログラミング言語である。 ※ プログラムとは、コンピュータに実行してもらう作業の順番を記述した指示書のことである。					
18.学習目標と DP との関連	①Python プログラムの必要性を理解する。 ②自分のパソコンに Python のプログラミング環境を構築する。 ③小さなプログラムの作成を通して Python の基本的な構文を理解する。 ④実際のデータを用いたやや実践的な Python プログラムをコーディングできる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性、(4) 問題発?・解決? (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	「スラスラ読める Python ふりがなプログラミング 増補改訂版」、リプロワークス（著）、株式会社ビープラウド（監修）、出版社?:インプレス、ISBN-13:978-4295011743					
20.参考文献	Marketing Python マーケティング・パイソン AI 時代マーケターの独習プログラミング入門（できるビジネス）、高田朋貴他著、インプレス、ISBN9784295008613					
21.成績評価	小課題：20 点 中間課題：40 点 最終課題：40 点					
22.コメント	すべての回で、個人所有の PC を利用する。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 Python の基本について理解する 01 Python ってどんなもの？ 02 本書の読み進め方 03 Python のインストール 04 最初のプログラムを入力する 05 演算子を使って計算する 06 長い数式を入力する 第 2 回 Python の基本について理解する 07 変数を使って計算する			第 7 回、第 12 回、第 15 回は、それまでの学習した内容に応じた課題に取り組んでもらい、授業時間中に提出を求める。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CMP104-M51	2.科目名	ICT 活用 A （プログラミング入門）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	コモンベアソックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学（三木 C）			9.履修学年	2 年以上 秋	
10.取得資格の要件	数理・DS・AI 教育プログラム 選択(4.オプション)科目		11.先修条件	ICT リテラシーの単位を取得していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、 欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータサイエンス実践の基礎として、 ビジュアルプログラミングの基礎の修得とともに、 データ処理の基本を身につけることを目的とする。 概要：近年、様々な分野の分析業務において、スプレッドシート（Excel など）の使用は R や Python などコードスクリプトに取って代わられている。ビジネスアナリストにおいても、 データサイエンスや機械学習などによる自動化手法が広がっている。本科目は、プログラミングの基礎を学び、応用として Scratch（スクラッチ）によるビジュアルプログラミングを学習する。					
18.学習目標と DP との関連	① 論理的思考の重要性を理解し説明ができる。 ② プログラミングの基礎を理解している。 ③ ビジュアルプログラミングの基本技法を習熟している。 ④ ビジュアルプログラミングによるデータ処理及びデータ可視化の基本技法が分かる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：使用配布 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料、データを掲載する。					
20.参考文献	必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	(評価項目の内訳および学習目標対応) 論理的思考確認テスト 1、 2 各 15 点 ? 2 回 = 30 点 【学習目標 ①】 理解度確認シート 1～5 各 2 点 ? 5 回 = 10 点 【学習目標 ①②③】 プログラムファイル 1～4（基礎編） 各 5 点 ? 4 回 = 20 点 【学習目標 ②③】 プログラムファイル 5～8（応用編） 各 10 点 ? 4 回 = 40 点 【学習目標 ②③④】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回ノート PC を利用するため、授業前に動作確認とバッテリーの充電をしておくこと。 ★生成 AI の利用は、第 3、15 回目の論理的思考確認テストの復習（解答の確認）に利用する。 プログラミンにおけるアルゴリズム（処理手順）の検討に生成 AI を利用することは可能。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 水曜昼休み（三木 C 副学長室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回目 受講ガイダンス ・シラバス説明・授業の進め方 ・コンピュータを用いたデータ分析ツールの基礎 ・BYOD のシステム環境確認（第 2 回から PC 必携）			本講義では PC を利用する。 PC 空容量確認 ?理解度確認シート 1（チェック後提出）		
	第 2 回目 論理的思考とその重要性 論理的思考の概要とその必要性を学ぶ			○配布資料の環境構築用配布資料を熟読しておく（事前） ?理解度確認シート 2（チェック後提出）		
	第 3 回目 プログラミングとは			○論理的思考確認テスト 1 の結果の確認		

	・プログラミングと論理的思考を確認し、論理的思考に関する確認テスト1を実施する。 ◇（論理的思考確認テスト1）	
	第4回目 プログラミング環境概要 プログラミング言語について解説し、ビジュアルプログラミングの特徴を解説する。	?理解度確認シート3（チェック後提出）
	第5回目 プログラミングの基礎 順次・分岐・繰り返しの基本のを学ぶ	?理解度確認シート4（チェック後提出）
	第6回目 スクラッチのプログラミング環境とその利用方法	?理解度確認シート4（チェック後提出）
	第7回目 スクラッチプログラミング基礎（1） 順次制御（スプライトの直進、回転）	○指定されたプログラムを完成して提出（1）
	第8回目 スクラッチプログラミング基礎（2） 繰り返し制御（スプライトの連続移動）	○指定されたプログラムを完成して提出（2）
	第9回目 スクラッチプログラミング基礎（3） 分岐の制御（条件分岐）	○指定されたプログラムを完成して提出（3）
	第10回目 スクラッチプログラミング基礎（4） 変数の概念とスクラッチでの利用	○指定されたプログラムを完成して提出（4）
	第11回目 スクラッチプログラミング応用（1） スクラッチでの色のグラデーション	○指定されたプログラムを完成して提出（5）
	第12回目 スクラッチプログラミング応用（2） スクラッチでのゲームプログラミング	○指定されたプログラムを完成して提出（6）
	第13回目 スクラッチプログラミング応用（3） スクラッチでの正多角形図形の表示	○指定されたプログラムを完成して提出（7）
	第14回目 スクラッチプログラミング応用（4） スクラッチでの円周率の計算	○指定されたプログラムを完成して提出（8）
	第15回目 プログラミングのまとめ プログラミングまとめと論理的思考力の確認 論理的思考確認テスト2を実施	○論理的思考確認テスト2の結果の確認

1.授業コード (ナンバリング)	CMP104-Y51	2.科目名	ICT 活用 A (プログラミング入門) (24 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分	DS 教育プログラム科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学 (神戸山手 C)			9.履修学年	2 年秋	
10.取得資格の要件	数理・DS・AI 教育プログラム 選択(4.オプション)科目		11.先修条件	「データサイエンス」「基礎統計学 A」を受講していることが望ましい。 社会学部の 2 年春にある「Python プログラミング演習」を履修しておくことも強く推奨する。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータサイエンス実践の基礎として、Python プログラミングの基礎を修得とともに、Python によるデータ分析の基本を身につけることを目的とする。 概要： この 10 年間、様々な分野の分析業務において、スプレッドシート (Excel など) の使用は R や Python などコードスクリプトに取って代わられている。ビジネスアナリストにおいても、データサイエンスや機械学習などによる自動化手法が広がっている。その要所は R や Python スクリプトの習得にある。本科目は、Python プログラムを実行する環境の構築、Python プログラミング基本技法を習得した後、応用として Python による実のビジネスデータを分析する基礎を学習する。					
18.学習目標と DP との関連	1. コンピュータを用いたデータ分析ツール、Anaconda (Python) 環境構築の基礎を理解している。 2. Python プログラミングの基礎と基本技法を理解している。 3. 実データ・実課題の演習を通して、Python でデータ扱い基本を理解している。 4. データを読むとデータ可視化の基本技法が分かる。 5. 実データセットを用いてより高度な分析が分かる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用能力					
19.教科書・教材	教科書：『データサイエンス入門 (Python によるビジネスデータサイエンス 1) 単行本』(笹嶋宗彦 (編集)) 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。 スッキリわかる Python 入門, 国本大悟 (著), 須藤秋良 (著), 株式会社フレアリンク (監修)					
21.成績評価	課題やレポート(70%)、リフレクションシートおよびアピールシート(30%) 課題やレポートは、授業関連内容の調査、考察【学習?標①②③④⑤に対応】 リフレクションシート 【学習?標①②③④⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので、授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (神戸山手) 研究室オフィスアワー (神戸山手)					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 受講ガイダンス ・シラバス説明・授業の進め方 ・コンピュータを用いたデータ分析ツールの基礎 ・BYOD のシステム環境確認	本講義では PC を利用する。
	第2回 データ分析のためのプログラミング環境の構築 ・Anaconda による環境構築：ダウンロード ・Anaconda のインストール ・プログラミング環境の動作確認	配布資料 課題①
	第3回 Python プログラミングとデータ分析基礎 (1) ・文法の基本 ・変数・四則演算・式・関数 ・オブジェクトの種類と操作・演算 ・実践的プログラミング演習	トピック動画 配付資料 リグレクションシート①
	第4回 Python プログラミングとデータ分析基礎 (2) ・真偽の判定 (比較演算子・論理演算子) ・パッケージのインストール・読み込み ・データセットを使ったプログラミング演習	トピック動画 配付資料 課題②
	第5回 データを扱うの基本 (1) ・データの集計 (和、平均) ・表形式のデータ (csv) の扱い ・データの読み込みと分析演習	トピック動画 配付資料 リグレクションシート②
	第6回 データを扱うの基本 (2) ・データの並び替え、ランキング ・表形式のデータ (csv) の扱い ・データの読み込みと分析演習	トピック動画 配付資料 課題③
	第7回 データを読むとデータ可視化の基本技法 (1) ・プログラミングによるデータ分析 (ヒストグラム・箱ひげ図) ・プログラミングによるデータ分析 (平均と分散) ・気象庁データを用いたグラフ作成演習	配付資料 小テスト①
	第8回 データを読むとデータ可視化の基本技法 (2) ・変数間の関係を調べる ・プログラミングによるデータ分析 (散布図と相関係数) ・プログラミングによるデータ分析 (回帰直線) ・実データを用いた演習	配付資料 小テスト
	第9回 実データを用いた分析 (1) ・オープンデータの入手 (e-Stat) ・csv ファイルの扱い ・「コメ離れ分析」演習	トピック動画 配付資料 課題④
	第10回 実データを用いた分析 (2)	トピック動画

	・線形単回帰の概要 ・線形回帰による予測 ・Python による回帰	配付資料 小テスト 授業感想
	第 1 1 回 時系列データ分析 ・時系列データとは ・移動平均 ・時系列の季節調整	トピック動画 配付資料 課題⑤
	第 1 2 回 時系列データ分析課題 ・時系列データ分析課題の要求 ・時系列データ分析の取り組み	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第 1 3 回 より高度な分析 ・クラスタリングとは ・k-means アルゴリズム ・k-means によるクラスタリング分析演習	配付資料 課題⑥
	第 1 4 回 総合課題	配付資料 参照リンク リフレクションシート
	第 1 5 回 総括および最終レポート	小テスト② アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	CMP106-Y51	2.科目名	データベース基礎		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	教員の免許状取得のための 必修科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	教職「情報」免許状を取得するための 必修科目です。 データサイエンスの基礎となる科目 です。		11.先修条件	データサイエンス入門 情報リテラシー		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. 卒論研究での利用禁止 ・小テストでの利用は禁止します。 ・出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 3. 卒論執筆の利用 ？ 利用は、アイデア出し、テーマ探し、アウトライン作り、文章校正・表現改善などに限定してください。 ？ 常に自分自身の思考プロセスを優先し、生成 AI は補助的に使用してください					
17.授業の目的と概要	目的： 企業活動において、商品の売上情報、顧客情報、在庫情報など、膨大なデータを効率的かつ効果的に管理することが不可欠となっています。そのため、データベースは企業の意思決定と戦略的な経営に極めて重要な役割を果たしています。本授業は、このようなデータベースの基本概念と実践的なスキルを受講者が習得することを目的としています。 概要： 近年、エビデンスに基づく意思決定やデータサイエンス的手法により、既存の社会データや価値から新たな知見を創出する傾向が強まっています。このような背景において、データベースは多様なデータを効率的に蓄積し、目的に応じて柔軟に抽出するための不可欠な基盤となっています。本授業では、このデータベースの重要性を踏まえ、データベースシステムの役割、設計理論、SQL によるデータ操作、さらに Python を用いたデータベース操作の基礎的スキルを総合的に学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習到達?標（=?につくスキル）は次の通りです。 到達目標： 1. データベースの目的、データベースモデルの基礎知識について説明できる（知識理解） 2. データベースの設計及びデータベース管理の基本知識について説明できる（知識理解） 3. データ操作における SQL の基本作業（挿入、削除、参照、関係演算など）の基本作業を実行できる（操作スキル） 4. Python を用いたデータベース操作の基本が分かる（操作スキル）					

	5. DBMS ツール (データベース管理システム)を用いて、解決すべき問題や課題の領域に合わせて、実分野のデータベース構築を行うことができる (応用スキル) [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??	
19.教科書・教材	テキスト 『SQL 1 年生 データベースのしくみ』, リブワークス著, 翔泳社, 2023 年. 定価: 1980 円+税	
20.参考文献	参考書・参考資料等 ・実践 Python によるデータベース入門 - MySQL, MongoDB, CouchDB の基本操作からアプリプログラミングまで - (Japanese) Tankobon Hardcover ? August 9, 2020. コロナ社. ・Python データベースプログラミング入門. 日向俊二著. 2019.カットシステム. ・その他、授業中に適宜資料を、WebClass を通して電子配付する。	
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 知識テスト×4 回 (学習?標 1・2 に対応) 40% ・各テストは WebClass の画面上で実施します。 ・各テストは「満点」で合格です。(何度でもチャレンジできます) ・実施時期は、授業の中で指?します。 (2) 総括テストに相当する演習課題 (60%) ・演習課題への相互コメント (学習?標 3・4 に対応) 30% ・演習課題 (発表・振り返り) (学習?標 3・4 に対応) 30%	
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個?差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。	
23.オフィスアワー	火曜日 V 時限目 (山手 C・1 号館 4 0 5 - 1 号室)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回: オリエンテーション ・本授業の位置づけ、概要・到達目標・評価基準・授業の進め方等 ・SQLite を使う環境の準備と起動確認	・(授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 2 回	第 2 回: エクセルからデータベースへ。 ・「データベース」という考え方・データベースの種類。 ・データ構造・データの型、テーブル間の関係・主キーの概念。 ・データベースの作成。	・(授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 3 回	第 3 回: データベースのデータを操作する ・SELECT 文を使ってみよう。 ・抽出結果の表現形式変更。 ・指定コラムのデータ抽出。	・(授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 4 回	第 4 回: 条件式によるデータ取り出し (1)	・(授業前・授業中)

	・ WHERE 文の使用。 ・ 論理演算子 AND・OR・NOT を使った複数の条件式 ・ 関連演習	PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 5 回	第 5 回：条件式によるデータ取り出し (2) ・ IN と NOT IN の使い方。 ・ BETWEEN と NOT BETWEEN の使い方 ・ 関連演習	・ (授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 6 回	第 6 回：データ加工 (1) ・ データの集計関数について ・ COUNT・AUM・AVG・MIN・MAX ・ 関連演習	・ (授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 7 回	第 7 回：データ加工 (2) ・ データのグループ化について ・ GROUP BY 文とデータ集計関数の組み合わせ ・ 関連演習	・ (授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 8 回	第 8 回：データ加工 (3) ・ グループ化したデータの結合について ・ GROUP_CONCAT 関数の利用 ・ HAVING 句の使い方	・ (授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 9 回	第 9 回：データ加工 (4) ・ データの並べ替えについて ・ ORDER BY 句の利用 ・ 複数の句の組み合わせ ・ 関連演習	・ (授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 10 回	第 10 回：データ加工 (5) ・ データの追加・削除と DBMS について ・ CRUD (Create・Read・Update・Delete) とは ・ INSERT 文と NULL の利用 ・ 関連演習	・ (授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 11 回	第 11 回：データ加工 (6) ・ データの更新と削除について ・ UPDATE 文と DELETE 文の使用 ・ DROP 文とテーブル削除 ・ 関連演習	・ (授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・ (授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 12 回	第 12 回：DB 管理	・ (授業前・授業中)

	・複数のテーブルでデータ管理 ・テーブルの設計とデータの型 ・関連演習	PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 13 回	第 1 3 回：Python と SQLite3 の連携：基本操作	・(授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 14 回	第 1 4 回：Python を使ったデータ分析と可視化	・(授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。
第 15 回	第 1 5 回：最終まとめ・学びのふりかえりシート作成・総評・その先へ（これからの学び）	・(授業前・授業中) PC 演習の形式でおこないます。必ず PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること。 ◆発表スライド提出 ◆ふりかえりシート提出 その他の提出物は授業内で指示します。

1.授業コード (ナンバリング)	CMP108-Y51	2.科目名	応用表計算		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	専門科目（基幹科目）	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 データサイエンス系の専門科目では、表計算ソフトの Excel を使う場面が多々あります。Excel については「情報リテラシー」で基本操作を学びますが、それだけでは不安な人のためにもう少し詳しく Excel について学ぶのがこの授業です。 【概要】 基本操作のおさらいから始めて、最終的に MOS（Microsoft Office Specialist）に合格できる程度の知識の習得を目指します（実際に受験してみる人には受験手続きのサポートもします）。毎回、Excel の操作や関数について知識を積み上げていきますが、途中で 2 回、要求されたタスクを実現するシートを自分で考えて組んでもらう「応用問題」の回を作ります。 毎回ノートパソコンを使うので持ってきてください。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標①Excel の操作や関数について、MOS 合格相当の知識を持つ 学習目標②要求されたタスクを実現するシートを自分で考えて組むことができる この授業の学習目標は DP の（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能 の活用の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	以下を集計して成績評価とします： ・毎回の簡単な確認テスト（10 回×3 点） ・応用問題の回の課題提出（2 回×5 点） ・中間テスト（20 点満点） ・期末テスト（40 点満点）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	ガイダンス			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 2 回】	シートやブックの管理①（基本用語、表示設定、保存、検索など）			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 3 回】	シートやブックの管理②（外部データのインポート、共同作業のための設定など）			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 4 回】	セルの操作（シートやセルの操作、条件付き書式など）			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 5 回】	テーブルの管理（テーブル作成、レコードのフィルターなど）			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 6 回】	関数①（セル参照の種類、集計の関数）			終わらなかった作業の持ち帰り		

【第 7 回】	関数②（条件付き集計の関数）	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 8 回】	応用問題：お菓子の原材料名と成分表示からレシピを再現する	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 9 回】	中間テスト	
【第 10 回】	関数③（文字関数）	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 11 回】	関数④（関数を組み合わせる）	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 12 回】	グラフの管理①（基本操作）	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 13 回】	グラフの管理②（アレンジの仕方）	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 14 回】	応用問題：グラフを作る、組み合わせる、そして未来を予測する	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 15 回】	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP111-A51	2.科目名	プログラミング入門		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	この授業では、ノートパソコンを利用した演習を中心に進める関係で、受講人数を 30 名に制限する。 履修登録者が制限人数を超えた場合、上級学年から優先して受講者数を決定する。					
17.授業の目的と概要	この授業では、Python（無償）というプログラム（※）を作るためのソフトウェアを各自のパソコンにセットアップした上で、その基本的な使い方を習熟するとともに、実際のデータを用いた分析の基礎、データ可視化の基本技法などを講義・演習を行うことを目的とする。この授業はプログラミング初学者を対象とするため、基本的な内容に絞り、演習時間を多く設ける。 2020 年度から、プログラミング教育が小学校での必修化が始まった。Python はシンプルながら汎用性が高く、データ分析や機械学習、AI を始めとする多くの分野で使われている最も人気のあるプログラミング言語である。 ※ プログラムとは、コンピュータに実行してもらう作業の順番を記述した指示書のことである。					
18.学習目標と DP との関連	①Python プログラミングの必要性を理解する。 ②自分のパソコンに Python のプログラミング環境を構築する。 ③小さなプログラムの作成を通して Python の基本的な構文を理解する。 ④実際のデータを用いたやや実践的な Python プログラムをコーディングできる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性、(4) 問題発?・解決? (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	「スラスラ読める Python ふりがなプログラミング 増補改訂版」、リプロワークス（著）、株式会社ビープラウド（監修）、出版社?:インプレス、ISBN-13:978-4295011743					
20.参考文献	Marketing Python マーケティング・パイソン AI 時代マーケターの独習プログラミング入門（できるビジネス）、高田朋貴他著、インプレス、ISBN9784295008613					
21.成績評価	小課題：20 点 中間課題：40 点 最終課題：40 点					
22.コメント	すべての回で、個人所有の PC を利用する。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 Python の基本について理解する 01 Python ってどんなもの？ 02 本書の読み進め方 03 Python のインストール 04 最初のプログラムを入力する 05 演算子を使って計算する 06 長い数式を入力する 第 2 回 Python の基本について理解する 07 変数を使って計算する			第 7 回、第 12 回、第 15 回は、それまでの学習した内容に応じた課題に取り組んでもらい、授業時間中に提出を求める。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CMP111-M51	2.科目名	プログラミング入門		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	コモンベアソックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学（三木 C）			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	数理・DS・AI 教育プログラム 選択(4.オプション)科目		11.先修条件	ICT リテラシーの単位を取得していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、 欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータサイエンス実践の基礎として、 ビジュアルプログラミングの基礎の修得とともに、 データ処理の基本を身につけることを目的とする。 概要：近年、様々な分野の分析業務において、スプレッドシート（Excel など）の使用は R や Python などコードスクリプトに取って代わられている。ビジネスアナリストにおいても、 データサイエンスや機械学習などによる自動化手法が広がっている。本科目は、プログラミングの基礎を学び、応用として Scratch（スクラッチ）によるビジュアルプログラミングを学習する。					
18.学習目標と DP との関連	① 論理的思考の重要性を理解し説明ができる。 ② プログラミングの基礎を理解している。 ③ ビジュアルプログラミングの基本技法を習熟している。 ④ ビジュアルプログラミングによるデータ処理及びデータ可視化の基本技法が分かる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：使用配布 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料、データを掲載する。					
20.参考文献	必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	(評価項目の内訳および学習目標対応) 論理的思考確認テスト 1、 2 各 15 点 ? 2 回 = 30 点 【学習目標 ①】 理解度確認シート 1～5 各 2 点 ? 5 回 = 10 点 【学習目標 ①②③】 プログラムファイル 1～4（基礎編） 各 5 点 ? 4 回 = 20 点 【学習目標 ②③】 プログラムファイル 5～8（応用編） 各 10 点 ? 4 回 = 40 点 【学習目標 ②③④】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回ノート PC を利?するため、授業前?に動作確認とバッテリーの充電をしておくこと。 ★生成 AI の利用は、第 3、15 回目の論理的思考確認テストの復習（解答の確認）に利用する。 プログラミンにおけるアルゴリズム（処理手順）の検討に生成 AI を利用することは可能。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 水曜昼休み（三木 C 副学長室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回目 受講ガイダンス ・シラバス説明・授業の進め方 ・コンピュータを用いたデータ分析ツールの基礎 ・BYOD のシステム環境確認（第 2 回から P C 必携）			本講義では PC を利用する。 PC 空容量確認 ?理解度確認シート 1（チェック後提出）		
	第 2 回目 論理的思考とその重要性 論理的思考の概要とその必要性を学ぶ			○配布資料の環境構築用配布資料を熟読しておく（事前） ?理解度確認シート 2（チェック後提出）		
	第 3 回目 プログラミングとは			○論理的思考確認テスト 1 の結果の確認		

	・プログラミングと論理的思考を確認し、論理的思考に関する確認テスト1を実施する。 ◇（論理的思考確認テスト1）	
	第4回目 プログラミング環境概要 プログラミング言語について解説し、ビジュアルプログラミングの特徴を解説する。	?理解度確認シート3（チェック後提出）
	第5回目 プログラミングの基礎 順次・分岐・繰り返しの基本のを学ぶ	?理解度確認シート4（チェック後提出）
	第6回目 スクラッチのプログラミング環境とその利用方法	?理解度確認シート4（チェック後提出）
	第7回目 スクラッチプログラミング基礎（1） 順次制御（スプライトの直進、回転）	○指定されたプログラムを完成して提出（1）
	第8回目 スクラッチプログラミング基礎（2） 繰り返し制御（スプライトの連続移動）	○指定されたプログラムを完成して提出（2）
	第9回目 スクラッチプログラミング基礎（3） 分岐の制御（条件分岐）	○指定されたプログラムを完成して提出（3）
	第10回目 スクラッチプログラミング基礎（4） 変数の概念とスクラッチでの利用	○指定されたプログラムを完成して提出（4）
	第11回目 スクラッチプログラミング応用（1） スクラッチでの色のグラデーション	○指定されたプログラムを完成して提出（5）
	第12回目 スクラッチプログラミング応用（2） スクラッチでのゲームプログラミング	○指定されたプログラムを完成して提出（6）
	第13回目 スクラッチプログラミング応用（3） スクラッチでの正多角形図形の表示	○指定されたプログラムを完成して提出（7）
	第14回目 スクラッチプログラミング応用（4） スクラッチでの円周率の計算	○指定されたプログラムを完成して提出（8）
	第15回目 プログラミングのまとめ プログラミングまとめと論理的思考力の確認 論理的思考確認テスト2を実施	○論理的思考確認テスト2の結果の確認

1.授業コード (ナンバリング)	CMP111-Y51	2.科目名	プログラミング入門		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分	DS 教育プログラム科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学（神戸山手 C）			9.履修学年	2 年秋	
10.取得資格の要件	数理・DS・AI 教育プログラム 選択(4.オプション)科目		11.先修条件	「データサイエンス」「基礎統計学 A」を 受講していることが望ましい。 社会学部の 2 年春にある「Python プログラ ミング演習」を履修しておくことも強く推奨 する。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータサイエンス実践の基礎として、Python プログラミングの基礎を修得とともに、Python によるデータ分析の基本を身につけることを目的とする。 概要： この 10 年間、様々な分野の分析業務において、スプレッドシート（Excel など）の使用は R や Python などコードスクリプトに取って代わられている。ビジネスアナリストにおいても、データサイエンスや機械学習などによる自動化手法が広がっている。その要所は R や Python スクリプトの習得にある。本科目は、Python プログラムを実行する環境の構築、Python プログラミング基本技法を習得した後、応用として Python による実のビジネスデータを分析する基礎を学習する。					
18.学習目標と DP との関連	1. コンピュータを用いたデータ分析ツール、Anaconda（Python）環境構築の基礎を理解している。 2. Python プログラミングの基礎と基本技法を理解している。 3. 実データ・実課題の演習を通して、Python でデータ扱い基本を理解している。 4. データを読むとデータ可視化の基本技法が分かる。 5. 実データセットを用いてより高度な分析が分かる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用能力					
19.教科書・教材	教科書：『データサイエンス入門（Python によるビジネスデータサイエンス 1）単行本』（笹嶋宗彦（編集）） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。 スッキリわかる Python 入門,国本大悟（著），須藤秋良（著），株式会社フレアリンク（監修）					
21.成績評価	課題やレポート(70%)、リフレクションシートおよびアピールシート(30%) 課題やレポートは、授業関連内容の調査、考察【学習?標①②③④⑤に対応】 リフレクションシート 【学習?標①②③④⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので、授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー（神戸山手） 研究室オフィスアワー（神戸山手）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 受講ガイダンス ・シラバス説明・授業の進め方 ・コンピュータを用いたデータ分析ツールの基礎 ・BYOD のシステム環境確認	本講義では PC を利用する。
	第2回 データ分析のためのプログラミング環境の構築 ・Anaconda による環境構築：ダウンロード ・Anaconda のインストール ・プログラミング環境の動作確認	配布資料 課題①
	第3回 Python プログラミングとデータ分析基礎 (1) ・文法の基本 ・変数・四則演算・式・関数 ・オブジェクトの種類と操作・演算 ・実践的プログラミング演習	トピック動画 配付資料 リグレーションシート①
	第4回 Python プログラミングとデータ分析基礎 (2) ・真偽の判定 (比較演算子・論理演算子) ・パッケージのインストール・読み込み ・データセットを使ったプログラミング演習	トピック動画 配付資料 課題②
	第5回 データを扱うの基本 (1) ・データの集計 (和、平均) ・表形式のデータ (csv) の扱い ・データの読み込みと分析演習	トピック動画 配付資料 リグレーションシート②
	第6回 データを扱うの基本 (2) ・データの並び替え、ランキング ・表形式のデータ (csv) の扱い ・データの読み込みと分析演習	トピック動画 配付資料 課題③
	第7回 データを読むとデータ可視化の基本技法 (1) ・プログラミングによるデータ分析 (ヒストグラム・箱ひげ図) ・プログラミングによるデータ分析 (平均と分散) ・気象庁データを用いたグラフ作成演習	配付資料 小テスト①
	第8回 データを読むとデータ可視化の基本技法 (2) ・変数間の関係を調べる ・プログラミングによるデータ分析 (散布図と相関係数) ・プログラミングによるデータ分析 (回帰直線) ・実データを用いた演習	配付資料 小テスト
	第9回 実データを用いた分析 (1) ・オープンデータの入手 (e-Stat) ・csv ファイルの扱い ・「コメ離れ分析」演習	トピック動画 配付資料 課題④
	第10回 実データを用いた分析 (2)	トピック動画

	・線形単回帰の概要 ・線形回帰による予測 ・Python による回帰	配付資料 小テスト 授業感想
	第 1 1 回 時系列データ分析 ・時系列データとは ・移動平均 ・時系列の季節調整	トピック動画 配付資料 課題⑤
	第 1 2 回 時系列データ分析課題 ・時系列データ分析課題の要求 ・時系列データ分析の取り組み	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第 1 3 回 より高度な分析 ・クラスタリングとは ・k-means アルゴリズム ・k-means によるクラスタリング分析演習	配付資料 課題⑥
	第 1 4 回 総合課題	配付資料 参照リンク リフレクションシート
	第 1 5 回 総括および最終レポート	小テスト② アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	CMP112-A51	2.科目名	画像・動画編集		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、画像・動画編集の基本的なスキルを習得し、実際の制作活動を通じて創造的な表現力を養うことを目的とする。 授業の前半（第 1 回～第 10 回）ではオープンソースの画像編集ソフト「GIMP」を用いて画像編集技術を学び、後半（第 11 回～第 15 回）では動画編集アプリ「CapCut」を使用して動画編集の基礎を習得する。これらのスキルを活用し、実践的な課題に取り組むことで、デジタルコンテンツの編集および活用能力を高める。					
18.学習目標と DPとの関連	1.GIMP を使用して基本的な画像編集（切り抜き、補正、レイヤー操作など）ができる。 2.画像編集技術を応用し、簡単なデザインや合成ができる。 3.CapCut を用いて基本的な動画編集（カット、トランジション、テキスト追加など）ができる。 4.映像編集の基本的な流れを理解し、企画から仕上げまでの編集プロセスを実践できる。 5.画像・動画編集を通じて、効果的なビジュアルコンテンツを制作できる。					
19.教科書・教材	秋学期の開講に間に合うように案内します					
20.参考文献						
21.成績評価	？ 小課題（40%）：各授業内での演習課題や提出物を評価する。 ？ 中間課題（30%）：画像編集パートの総合課題として、指定のテーマに沿った編集作品を制作・提出する。 ？ 最終課題（30%）：動画編集パートの総合課題として、指定の条件に沿った短編動画を制作・提出する。					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回： ・科目内容の概要、到達目標、評価方法等 ・ GIMP のインストールと起動と終了の確認 GIMP を使ってみる。 ・アサインメント（宿題）など： インストールしていない人は、使えるようにしてくる。 第 2 回： 画像編集の基礎：GIMP の基本操作（GIMP の画面構成解説、画像ファイルの読み込みと保存方法、ツールの説明） ・アサインメント（宿題）など： 基本操作の練習をしてくる 第 3 回： 各種選択ツールの練習（矩形選択、自由選択、クイックマスクなど） ・アサインメント					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CMP205-Y51	2.科目名	データ構造とアルゴリズム (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド		
16.履修制限	履修制限はありませんが、何らかのプログラミングの知識があった方が疑似言語が楽に読めます。					
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び到達目標 1) アルゴリズム表現としてのフローチャートや疑似言語を読むことができる 2) データ構造の基本種類および関連アルゴリズムの基礎知識について説明できる 3) データ構造とアルゴリズムが情報処理における重要性について説明できる標準的なアルゴリズムを理解する 4) プログラミングやソフトウェアの設計に必要なアルゴリズム活用技法について説明できる “データ構造”と“アルゴリズム”は、計算機科学において極めて重要な基盤であり、プログラムの処理対象となるデータの特性と格納形式、処理手順の形と効率を追求する学問である。この科目は、基本的なデータ構造と、これを利用したデータの基礎的な操作と表現するフローチャートの基本について学び、ソフトウェアの設計やプログラミングに必要な知識のほか、問題解決の手法や論理的思考・分析の基本的な素養を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	・問題発見・解決力根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。 ・専門的知識・技能 の活用力自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。 この授業は上記の2つのDPに関連しています。 到達目標により、特に専門的知識が身に付きますが、演習を通して解決力も見につきます。					
19.教科書・教材	情報処理教科書 出るところだけ！基本情報技術者 [科目 B] 橋本 祐史 翔泳社					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の課題および宿題：60% 4回の確認テスト：40%					
22.コメント	この授業では、ただ知識を習得するだけでなく、アルゴリズムとデータ構造の問題を解く能力の向上も目指します。また、この授業を通じて、アルゴリズムとデータ構造に関する知識だけでなく、基本情報技術者試験に合格するためのスキルを身につけてもらうことを目標としています。 ICTを使用しない仕事はほぼなくなってきました。そのため、ITパスポートや基本情報技術者試験といった国家資格の取得を強く推奨します。これらの資格を持つことで、皆さんの将来に大きな利点をもたらします。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1回	変数と配列および流れ図の順接・分岐の演習			Webclassの資料を読んで課題を実施してください。		
2回	流れ図の反復の演習および総合問題			Webclassの資料を読んで課題を実施してください。		

		さい。
3 回	疑似言語の条件式および演習	教科書の P.37 までの内容を行います。P.37 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
4 回	疑似言語の繰り返しおよび演習	教科書の P.38-47 までの内容を行います。P.38-47 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
5 回	疑似言語の繰り返し・総合演習および確認テスト	教科書の P.48-54 までの内容を行います。P.48-54 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
6 回	疑似言語の関数および演習	教科書の P.55-74 までの内容を 1 回をかけて行います。P.55-74 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
7 回	再帰および疑似言語を用いた再帰の演習	教科書の P.161-172 までの内容を行います。P.161-172 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
8 回	疑似言語を用いた一次元配列の演習およびソートアルゴリズム	教科書の P.96-119 までの内容を行います。P.96-119 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
9 回	疑似言語を用いた二次元配列の演習・総合演習および確認テスト	教科書の P.120-144 までの内容を行います。P.120-144 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
10 回	オブジェクト指向および演習	教科書の P.181-211 までの内容を行います。P.181-211 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
11 回	木構造・スタック・キュー	教科書の P.173-180 および 241-250 までの内容を行います。P.173-180 および 241-250 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
12 回	リストおよびデータ構造の総合演習および確認テスト	教科書の P.212-240 までの内容を行います。P.212-240 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
13 回	n 進数およびビット列	教科書の P.251-268 までの内容を行います。P.251-268 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
14 回	探索および様々なソートアルゴリズム	資料を配布しますので、それを見て復習をしてください。P.269-292 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
15 回	確認テスト・アルゴリズムとデータ構造を学んだ後 どう活かすのか	教科書と資料の復習をしてください。

1.授業コード (ナンバリング)	CMP210-Y51	2.科目名	ウェブプログラミング演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2	
10.取得資格の要件			11.先修条件	ウェブプログラミング演習Ⅰを取っていないと理解できないと思われます。ウェブプログラミング演習Ⅱのみを取る場合はⅠの内容を各自で勉強してください。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面、ノート PC の持参が必須		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び到達目標 1) JavaScript の基本的な構文について説明できる ドキュメントの構造言語 HTML で記述したウェブページは基本的に静的なものであり、JavaScript などのスクリプト言語を使ってウェブページに動作をもたせたりすることができる。この講義では、「ウェブプログラミング演習Ⅰ」科目を継続して、HTML、CSS のほか、JavaScript 言語の基本とその応用技術を中心に展開し、JavaScript を用いた動的な Web ページの実例作成を通して、関連するプログラミングの基本概念や基礎技法について習得することを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	1) JavaScript の基本的な構文について説明できる 2) JavaScript を用いて動的なページの作成ができる 1)-2)は専門的知識・技能 の活用力に関係する。					
19.教科書・教材	確かな力が身につく JavaScript「超」入門,狩野 祐東 (著) (ウェブプログラミング演習Ⅰの教科書) これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS & Web デザイン 1 冊目の本,Capybara Design 竹内 直人, 竹内 瑠美 著					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の授業の作業ファイルの提出 : 50% 中間課題 : 25% 最終課題 : 25%					
22.コメント	HTML の教科書に関しては、ウェブプログラミング演習Ⅰの教科書である ・これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS & Web デザイン 1 冊目の本,Capybara Design 竹内 直人, 竹内 瑠美 著 を使用します。 javascript の教科書は ・確かな力が身につく JavaScript「超」入門,狩野 祐東 (著) を使用します。 Web クリエイターの試験にも対応できるように習熟度に合わせて、 授業内容を変化させる可能性があります。 (3 回が終わった後に HTML/CSS の復習が必要と判断した場合は、HTML/CSS のコーディングの内容を追加します。)					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第一回	HTML と CSS の復習					
第二回	HTML と CSS の復習 よくあるパターンのサイトの作成(1)					

第三回	ウェブページ作成(2)：よくあるパターンのサイトの作成(2)	
第四回	JavaScript の概要と開発者ツールの紹介	
第五回	JavaScript の基本的な記法	
第六回	JavaScript を用いた HTML の書き換え	
第七回	条件分岐を用いた JavaScript の演習	
第八回	繰り返しを用いた JavaScript の演習	
第九回	関数とオブジェクトを用いた JavaScript の演習	
第十回	JavaScript を用いたウェブページ作成(1)：企画	
第十一回	JavaScript を用いたウェブページ作成(2)：指示に従ったウェブページのコーディング	
第十二回	レスポンスウェブデザインの演習	
第十三回	自由制作(1)：サイト構成とデザイン案の作成	
第十四回	自由制作(2)：HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十五回	自由制作(3)	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP211-Y51	2.科目名	Python プログラミング基礎演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面授業で自身のノート PC で実習する		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 1) Python プログラミングの必要性について説明できる 2) Python の基本環境づくりやインストールができる 3) Python の基本的な構文について説明でき、どのような動作しているのかを理解できる 【概要】 Python はシンプルで、可読性と汎用性の高いプログラミング言語である。データの統計解析、AI 応用・機械学習、IoT データ活用など、Python はあらゆる分野のライブラリが充実しており、幅広い応用分野で使われている。本科目では、Python プログラミングの基礎を理解し、プログラムを作成する能力を養います。プログラミングコードを読み、理解できるという状態から問題を読んでプログラムを作成できることを目標に演習を中心に実施を行う。					
18.学習目標と DP との関連	1) Python プログラミングの必要性について説明できる 2) Python の基本環境づくりやインストールができる 3) Python の基本的な構文について説明でき、どのような動作しているのかを理解できる 上記は専門的知識・技能 の活用力に関連しています。					
19.教科書・教材	スッキリわかる Python 入門, 国本大悟 (著), 須藤秋良 (著), 株式会社フレアリンク (監修)					
20.参考文献						
21.成績評価	各回の演習・確認問題で評価を行う : 30% 宿題 : 25% 小テスト : 45% 小テストは疑似言語 or Python のコードを読み、その内容を理解することを問うテストとします。 3 回程度を予定しています。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第一回	流れ図および Python の開発環境設定			Python を実行できる環境を必ずこの回で作り上げてください。 教科書 P.30 までを読んでノートにまとめてください。		
第二回	流れ図および Python の開発環境設定 (2)			教科書 P.34-47 をノートにまとめてください。		
第三回	疑似言語の条件式・繰り返し演習			教科書 P.48-63 をまとめてください。		
第四回	疑似言語の演習および小テスト			教科書 P.64-77 までをノートにまとめよ。		
第五回	Python の変数・if 文・while 文・for 文・リストの概要					

第六回	変数・if 文・while 文・for 文・リストの演習 (1)	
第七回	変数・if 文・while 文・for 文・リストの演習 (2)	
第八回	変数・if 文・while 文・for 文・リストの演習 (3)	
第九回	変数・if 文・while 文・for 文・リストの演習 (4)	
第十回	変数・if 文・while 文・for 文・リストの演習および小テスト	
第十一回	関数の演習 (1)	
第十二回	関数の演習 (2)	
第十三回	関数の演習 (3)	
第十四回	オブジェクトの演習 (1)	
第十五回	オブジェクトの演習 (2)および小テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP301-Y01	2.科目名	クラウドコンピューティング		3.単位数	2
4.授業担当教員	河田慈人					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件	ICT リテラシー、情報系基礎科目、データサイエンス系科目を履修済みだと理解が深まる。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・ハンズオン演習		
16.履修制限	なし。教職を目指す学生には有用。AZ-900 や IT パスポートに対応。					
17.授業の目的と概要	概要： 情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して行動できる未来社会に貢献できる人財育成の基礎となる授業です。 これまでに人類が培ってきた情報ネットワーク技術の仕組み（クラウドコンピューティング）と社会におけるその役割と有用性を正しく理解して活用できるようになることをめざします。最先端の情報ネットワーク技術を倫理的且つ効率的且つ適切に活用して、未来社会が豊かになるように問題解決にむけた基礎的な実践応用能力を習得していきます。 テーマ： ICT を活用した社会の諸問題の解決のために、これまでに身に着けたクリティカルシンキング力を活用し、情報ネットワークの仕組みを具体的にビジネスの場や社会の局面で実践して学び、情報コミュニケーション及びデータサイエンスについての理解を深め、実践的な活用力を修得する 目的： これからのビジネスで主流となるクラウドコンピューティングによるビジネス展開の仕組みについて、以下のことを学習目標にします。 1. クラウドコンピューティングについて、実践的な概念を理解する。 2. クラウドコンピューティングの種類とそれぞれの役割について理解し、ユーザー視点でどのような活用、効率化ができるのかを理解し、実践的な仕組みをデザインする。 3. ビジネスコンサルティング、ある業種の経営者、ビジネスリーダーとしてどのようなシステムが必要となるかを想定し、開発の提案できるようになる。 4. シミュレーション演習により理解したことを実践学習し、経験値を身に付ける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標（=?につくスキル）は次の通りです。 1. クラウドコンピューティングの社会的な役割、種類、役割、構成、セキュリティについて説明できる 2. IaaS, PaaS, SaaS に関する基本概念、活用法について説明できる 3. ビジネス形態、業種ごとの業務フローの問題解決に向けて、モデル開発のデザインができる 4. ネットワークを介した情報データフロー、ファイル交換、設定、利用方法などの基本的なクラウドコンピューティングスキルを場面に応じて適切に実行することができる（ユーザー視点） 5. クラウドを含めた情報ネットワーク技術に関する基本的な設定方法や環境設定、IT スキルを場面に応じて問題解決時に適切に実行することができる（情報ネットワーク管理者の視点） [関連するディプロマポリシー] （1）?律性（3）多様性理解（4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知					

	識・技能 の活??	
19.教科書・教材	合格対策 Microsoft 認定 AZ-900:Microsoft Azure Fundamentals テキスト & 問題集 第 2 版 ISBN : 978-4-86594-346-7	
20.参考文献	クラウドエンジニアの教科書 ISBN-13 ? : ? 978-4863543713	
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習ふりかえりシートの提出×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 40% →ふりかえりシートの提出は WebClass 上で実施します。 →ふりかえりシートは全項目に回答したもののみ提出と見なします。 →提出期限は、原則授業中です。各回の授業の最後の方で指?します。 (2) 協働による学びと成長の促進のためクラスメイトの学びの成果にも関心を示し、思いやりとサポートを実践していきましょう。演習課題への相互コメント (	
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個?差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。	
23.オフィスアワー	水曜：昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	コース概要と説明、オリエンテーション オリエンテーション：ライフロングラーニングの観点から見た、本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価基準、授業の進め方等 資料 1 ワークシート 1	ふりかえりシートの提出
第 2 回	【学内のネットワーク】 オンプレミス型ネットワークとクラウド型ネットワーク アカデミックな学びを支えるクラウド型情報ネットワークについて： 身近なアカデミックなネットワーク環境からクラウドについて正しく理解する 資料 2 ワークシート 2	学内ネットワークとクラウドの関連性について確認していることをポンチ絵で描いて提出 ◆ふりかえりシート、ワークシートの提出
第 3 回	【クラウドネットワークを活用する】 学内ネットワークで使える様々な学習支援サービス (ユニバーサル・パスポート、WebClass、Microsoft 365、Teams、学内ファイル共有サービスなど) について確認し、クラウドサービスの種類ごとに分類整理してみる。 資料 3 ワークシート 3	学内ネットワーク：クラウドサービスについて確認していることをポンチ絵で描いて提出 ◆ふりかえりシート、ワークシートの提出
第 4 回	【クラウドコンピューティングについて】：クラウドの利用モデル、安全性と信頼性、メリット・デメリット 資料 4 ワークシート 4	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 5 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS,	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出

	PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 資料 5 ワークシート 5	
第 6 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 (2) 実践演習：SaaS 典型的なサービスを実際に操作しながら、PMI 分析を していきます 資料 6 ワークシート 6	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 7 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 (3) 実践演習：SaaS (続き) 資料 7 ワークシート 7	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 8 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 (4) 実践演習：PaaS 典型的なサービスを実際に操作しながら、PMI 分析を していきます 資料 8 ワークシート 8	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 9 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 (5) 実践演習：PaaS (続き) 資料 9 ワークシート 9	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 10 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 (6) 実践演習：IaaS 典型的なサービスを実際に操作しながら、PMI 分析を していきます 資料 10 ワークシート 10	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 11 回	【クラウドコンピューティングについて】：SaaS, PaaS,IaaS、 & クラウドのサービスとその利用 (7) 実践演習：IaaS (続き) 資料 11 ワークシート 11	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 12 回	演習：クラウドコンピューティングについて、倫理的 視点から有効性と問題点を考える 資料 12	◆ワークシート、ふりかえりシートの提出

	ワークシート 1 2	
第 13 回	実践演習：本演習（第 13～14 回）では、ある特定の業種、サービス、ビジネスモデルを想定し、DX 時代のクラウドサービスによるビジネス展開をシミュレーションし、最適なクラウドサービス環境を構築提案する。その際に、これまでに学習し、実践的に活用してきたビジュアル・オーガナイザー（情報検索・収集・整理・分析し、表現・伝達・発信等のシンキングツール）と情報ネットワーク技術を融合する。 そして、総合的な情報ネットワーク（クラウドコンピューティング）のスキルレベルを上げる。 資料 1 3 ワークシート 1 3	◆各グループで決めたクラウド開発環境で開発を進める ◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 14 回	実践演習：本演習（第 13～14 回）では、ある特定の業種、サービス、ビジネスモデルを想定し、DX 時代のクラウドサービスによるビジネス展開をシミュレーションし、最適なクラウドサービス環境を構築提案する。その際に、これまでに学習し、実践的に活用してきたビジュアル・オーガナイザー（情報検索・収集・整理・分析し、表現・伝達・発信等のシンキングツール）と情報ネットワーク技術を融合する。 そして、総合的な情報ネットワーク（クラウドコンピューティング）のスキルレベルを上げる。 資料 1 4 ワークシート 1 4	◆Padlet キャンバスで共有 ◆ワークシート、ふりかえりシートの提出
第 15 回	学びのふりかえり、自己評価、ポートフォリオ記述 ／ 総評 ◆ 授業アンケート	◆ふりかえりシート提出

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-A51	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（教育福祉）		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 & 演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「仕事とキャリア形成Ⅱ」は、就職活動に向けて実践的な能力を強化する授業です。 【授業概要】 「仕事とキャリア形成Ⅰ」の学習をもとに、自己理解を深め、キャリア形成に必要なスキルや知識を磨くことを目的としています。自己理解を促進するためのツールとして、自己分析や自己評価の方法を学びます。また、ビジネス環境でのコミュニケーションやマナー、プレゼンテーション技術の向上を図ることで、将来の職場での成功につながる能力を養います。さらに、実際の職業人からの講演を通じて、様々な職業やキャリアパスに関する洞察を得る機会も提供します。 【授業目的】 ①自己理解の促進: 自分自身の興味や得意分野を見つけ、自己分析や自己評価を通じて自己理解を深め、将来の進路を考える。 ②コミュニケーションとマナーの向上: ビジネス環境での良いマナーや円滑なコミュニケーションの重要性を学び、自信を持って自己表現できる。 ③プレゼンテーション技術の向上: プレゼンテーション技術を磨き、自分の考えやアイデアを明確に伝えるスキルを身につける。 ④職業やキャリアの探求: 社会人の講演を通じて、様々な職業やキャリアの魅力に触れ、自分の将来について考えるきっかけを得る。 ⑤キャリアに関する関心・意欲の向上: 職業やキャリアパスに対する興味と意欲を高め、自己成長と将来のキャリアプランに積極的に取り組む心構えを養う。					
18.学習目標と DPとの関連	DP に基づく学習目標は以下の通りである。 （２）社会的貢献性（３）多様性理解 【学習目標】 ①自己分析や自己評価を通じて自己理解を深め、自身の強みについて具体的に説明することができる。 ②ビジネス環境での良いマナーや円滑なコミュニケーションの方法を学び、自信を持って自己表現できる。 ③自分の考えやアイデアを明確に伝えるスキルを身につけ、資料を作成しプレゼンテーションを行うことができる。 ④職業やキャリアパスに対する興味と意欲を高め、自己成長と将来のキャリアプランに積極的に取り組もうとしている。					
19.教科書・教材	■必要に応じて参考書を紹介もしくは資料を配付する。					

20.参考文献	日本経済新聞 東洋経済	
21.成績評価	■ 授業 ワークシートの記述 50% (目標①②④に関連) ■ プレゼンテーション 2 回 40% (目標③に関連) ■ 学習成果サマリー作成 10% (目標①に関連)	
22.コメント	■ 社会に対する視野を広げ、様々な問題について関心を深めましょう。そのためには、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりして自分なりの考えをまとめてみましょう。 ■ 様々な立場の社会人ゲストティーチャーの話を聞き、自分の考えを深めましょう。(講演者の皆さんは実際に社会の現場で働いておられますので、都合により、シラバスにおける内容は前後します。) ■ グループワークを基本とし、積極的に活動する場であることを理解しましょう。 ■ ZOOM による遠隔講義の可能性もあり、対応できるよう常に webclass 等での情報収集に気をつけましょう。	
23.オフィスアワー	月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ■ 学校教育と職業生活との接続について ■ ポートフォリオの意義とベンチマーク	○ 「仕事とキャリア形成 I」の復習 150 分 ○ e-portfolio の作成 60 分 ○ 本時の復習 30 分
【第 2 回】	イントロダクション ■ 自分で自分を見つめよう ■ 他者の目をとおして自分を再発見しよう ■ 新聞記事から話題提供	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 3 回】	就職活動の進め方 ■ 適正を見つけるまでのプロセス ■ 希望職種を基にした JobClub つくり(グループ分け) ■ 新聞記事からプレゼンテーション	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 4 回】	マナー講座 ■ 身だしなみ ■ ことば遣い ■ 新聞記事からプレゼンテーション	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 5 回】	採用面接 ■ 面接の重要性 ■ 面接前の注意事項 ■ 新聞記事からプレゼンテーション ロールプレー	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分

	■ 模擬面接（個人） ・実際に、面接官と面接を受ける側になって ■ 新聞記事からプレゼンテーション	分
【第 6 回】	小学校教育現場の実際 ■ 神戸市立竜が台小学校 後藤田校長先生特別講義 ■ 小学校教師の仕事とやりがい ■ 最近の学校の課題 ■ 今から養ってほしい力等	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料（切り抜き記事を含む）を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 7 回】	ロールプレー ■ 模擬面接（グループ） ・実際に、面接官と面接を受ける側になって ■ 新聞記事からプレゼンテーション	◎ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料（切り抜き記事を含む）を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 8 回】	社会人基礎力 ■ これが、就職の現実だ！ キャリアセンター藤井部長特別講義 ・さあ、準備を始めよう！ ■ 新聞記事からプレゼンテーション	◎ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料（切り抜き記事を含む）を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 9 回】	社会人基礎力 ■ これが、会社の現実だ！ 浜崎学長特別補佐、特別講義 ■ プレゼンテーションの作成	○ 本時の復習 30 分 ◎ 取材先事業所との日程調整 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 10 回】	■ 社会人基礎力についてまとめよう ■ プレゼンテーションの作成	○ 本時の復習 30 分 ◎ 取材先事業所との打ち合わせ 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 11 回】	■ 社会人として、未来の設計をしよう！ ・田村フィナンシャルプランナー特別講義 ■ プレゼンテーション	○ 本時の復習 30 分 ◎ 取材計画の点検と取材活動 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 12 回】	基礎力インタビュー ■ ブックランドフレンズ河田店長特別講義 ・街の本屋さんの仕事を通して、社会を見る！ ■ 基礎力インタビュー	○ 本時の復習 30 分 ◎ DVD（映像作品）の制作 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 13 回】	■ 講義とインタビューをまとめよう！ ■ プレゼンテーション ○ 本時の復習 30 分	○ 本時の復習 30 分 ◎ 各グループの presentaion をうけ、JobClub 内で話し合い内容を深める。 120

		分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 90 分
【第14回】	社会人基礎力 隆生福祉会 井上氏さん特別講座 ■保育・施設の仕事のやりがい ■保育・施設の仕事の課題 ■保育・施設の仕事のために、つきたい力等	○ 本時の復習 30 分 ◎ 各グループの presentaion をうけ、 JobClub 内で話し合い内容を深める。 120 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 90 分
【第15回】	社会人基礎力 ■ まとめ	○ 本時の総括 120 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-A52	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔					
5.授業科目の区分	美容分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	春学期に仕事とキャリア形成Ⅰの単位を取得 済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	仕事とキャリア形成Ⅰ履修済みの学生					
17.授業の目的と概要	■概要 本講義では、「仕事とキャリア形成Ⅰ」でのワークを元に、希望する企業への就職活動において必要とされる社会人としての最低限の基礎学力、思考力、一般教養の確認を行うとともに、企業での面接を踏まえた自己PRのプレゼンテーションなどを修得することを目的とする。 1 自己分析と自己PR 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己PRのプレゼンテーションをバージョンアップし、希望する企業での動画面接にも対応できるようにする。 2.履歴書とエントリーシート作成することができる。 就職活動において必要な履歴書とエントリーシートを作成する。 3. 基礎学力の確認 kuis ドリル、SPI、一般常識問題等をこなすことで、企業での筆記試験に対応できるように準備する。 尚、この授業はSDGs 8のゴール、「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働き甲斐のある人間らしい（ディーセントワーク）を促進する」に関連している。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連。 本科目の学習目標は、 プレゼンテーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化することを目指す。					
19.教科書・教材	「仕事とキャリア形成Ⅰ」教科書及び「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成したワークシート。 必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	成績評価は以下の通り ・ 中間レポート評価（自己PR 動画 15% 及び 志望動機動画 15%） 30% ・ 総括試験（基礎学力確認筆記試験） 50% ・ 課題レポート①～④ 5点×4 20%					
22.コメント	本格的な就職活動に向けての準備です。自身の人生設計を見据えて取り組みましょう。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしましょう。					

23.オフィスアワー		センターオフィスアワー 月曜日昼休み 研究室オフィスアワー 月曜日 2 限
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (10/6)	授業ガイダンス エゴグラム診断 http://commutest.com > egogram 採用試験における基礎学力プレテスト	○プレテストに必要な筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・ 採点用赤鉛筆又はそれに類するもの） キャリアと仕事形成Ⅰで使用した教科書・ワークシート
第 2 回 (10/13)	自己分析 ・「仕事とキャリア形成Ⅰ」の自己分析シートを元に、自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段はなにかを考えてまとめる。 ・上記を元に自己分析の振り返りをする。必ず、自分の経験・体験（エピソード）を入れること。 （課題レポート①）	藤井課長の講話から学んだこと、就職に向けての決意など記述。 課題レポート①を作成、提出する。
第 3 回 (10/20)	キャリアセンター 藤井学部長より講話 ー就職に向けてやるべきことの確認ー （課題レポート②）	◆課題レポート②を提出する。
第 4 回 (10/27)	前回の自己分析を元に希望する企業と職種について調べ（「仕事とキャリア形成Ⅰ」ワークシート参照）、 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己 PR の読み原稿を修正する。 作成後、chatGTP を使用し完成させる。 （課題レポート③）	◆課題レポート③を提出する。
第 5 回(11/3)	履歴書・エントリーシートの作成 履歴書及び希望する企業への「志望動機」についてまとめる。 志望動機には、自身の経験・体験（エピソード）を必ず入れること。 （課題レポート④）	履歴書及び志望動機（エントリーシート）を、 課題レポート④として提出する。
第 6 回(11/10)	就活用動画基礎講（1） ・導入 準備編と注意事項の説明、見本動画、テスト動画と撮影、 ファイル変換、提出の練習	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「自己 PR 動画 NO1」2 分 ＜課題レポート②を基に話す＞を自分で撮影録画し webclass に提出する。 中間レポート 1 自己 PR 動画 2 分間

第 7 回 (11/17)	就活用動画基礎講習 (2) ・ 動画作成	◎ノート PC 持参 ・ 宿題：課題動画「志望動機動画 NO2」2 分 ＜課題レポート③を基に話す＞を自分で撮影 録画し webclass に提出する。 ○中間レポート 2 志望動機動画 2 分間
第 8 回(11/24)	働く意義と会社の仕組み① web クラス 自習教材第 1 章～第 3 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 9 回(12/1)	働く意義と会社の仕組み② web クラス 自習教材第 4 章～第 6 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回(12/8)	基礎学力対策(1) 試験の種類と概要	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回 (12/15)	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係 非言語領域：「割 合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回 (12/22)	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」 非言語領域：「割合」「精 算」「割引」「分割払い」	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題 とする
第 13 回(1/19)	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」 非言語領域：「損益算」 「速さ」「グラフと領域」「集合」 基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」 非言語領域「表の読 み取り」「入出力装置」「経路図」	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とす る
第 14 回(1/26)	基礎学力対策(6) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識 について、再確認してみよう。 基礎学力対策(7) 統括試験に向けて総復習	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回(1/27)	■総括試験 ■最終授業アンケート	筆記用具 (鉛筆・消しゴム) ノート pc 持参

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-A53	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	本田あけみ					
5.授業科目の区分	美容分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	春学期に仕事とキャリア形成Ⅰの単位を取得 済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	仕事とキャリア形成Ⅰ履修済みの学生					
17.授業の目的と概要	■概要 本講義では、「仕事とキャリア形成Ⅰ」でのワークを元に、希望する企業への就職活動において必要とされる社会人としての最低限の基礎学力、思考力、一般教養の確認を行うとともに、企業での面接を踏まえた自己PRのプレゼンテーションなどを修得することを目的とする。 1 自己分析と自己PR 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己PRのプレゼンテーションをバージョンアップし、希望する企業での動画面接にも対応できるようにする。 2.履歴書とエントリーシート作成することができる。 就職活動において必要な履歴書とエントリーシートを作成する。 3. 基礎学力の確認 kuis ドリル、SPI、一般常識問題等をこなすことで、企業での筆記試験に対応できるように準備する。 尚、この授業はSDGs 8のゴール、「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働き甲斐のある人間らしい（ディーセントワーク）を促進する」に関連している。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連。 本科目の学習目標は、 プレゼンテーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化することを目指す。					
19.教科書・教材	「仕事とキャリア形成Ⅰ」教科書及び「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成したワークシート。 必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	成績評価は以下の通り ・ 中間レポート評価（自己PR 動画 15% 及び 志望動機動画 15%） 30% ・ 総括試験（基礎学力確認筆記試験） 50% ・ 課題レポート①～④ 5点×4 20%					
22.コメント	本格的な就職活動に向けての準備です。自身の人生設計を見据えて取り組みましょう。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしましょう。					

23.オフィスアワー		センターオフィスアワー 月曜日昼休み 研究室オフィスアワー 月曜日 2 限
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (10/6)	授業ガイダンス エゴグラム診断 http://commutest.com > egogram 採用試験における基礎学力プレテスト	○プレテストに必要な筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・ 採点用赤鉛筆又はそれに類するもの） キャリアと仕事形成Ⅰで使用した教科書・ワークシート
第 2 回 (10/13)	自己分析 ・「仕事とキャリア形成Ⅰ」の自己分析シートを元に、自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段はなにかを考えてまとめる。 ・上記を元に自己分析の振り返りをする。必ず、自分の経験・体験（エピソード）を入れること。 （課題レポート①）	藤井課長の講話から学んだこと、就職に向けての決意など記述。 課題レポート①を作成、提出する。
第 3 回 (10/20)	キャリアセンター 藤井学部長より講話 ー就職に向けてやるべきことの確認ー （課題レポート②）	◆課題レポート②を提出する。
第 4 回 (10/27)	前回の自己分析を元に希望する企業と職種について調べ（「仕事とキャリア形成Ⅰ」ワークシート参照）、 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己 PR の読み原稿を修正する。 作成後、chatGTP を使用し完成させる。 （課題レポート③）	◆課題レポート③を提出する。
第 5 回(11/3)	履歴書・エントリーシートの作成 履歴書及び希望する企業への「志望動機」についてまとめる。 志望動機には、自身の経験・体験（エピソード）を必ず入れること。 （課題レポート④）	履歴書及び志望動機（エントリーシート）を、 課題レポート④として提出する。
第 6 回(11/10)	就活用動画基礎講（1） ・導入 準備編と注意事項の説明、見本動画、テスト動画と撮影、 ファイル変換、提出の練習	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「自己 PR 動画 NO1」2 分 ＜課題レポート②を基に話す＞を自分で撮影録画し webclass に提出する。 中間レポート 1 自己 PR 動画 2 分間

第 7 回(11/17)	就活用動画基礎講習 (2) ・ 動画作成	◎ノート PC 持参 ・ 宿題：課題動画「志望動機動画 NO2」2 分 ＜課題レポート③を基に話す＞を自分で撮影 録画し webclass に提出する。 ○中間レポート 2 志望動機動画 2 分間
第 8 回(11/24)	働く意義と会社の仕組み① web クラス 自習教材第 1 章～第 3 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 9 回(12/1)	働く意義と会社の仕組み② web クラス 自習教材第 4 章～第 6 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回(12/8)	基礎学力対策(1) 試験の種類と概要	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回 (12/15)	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係 非言語領域：「割 合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回 (12/22)	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」 非言語領域：「割合」「精 算」「割引」「分割払い」	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題 とする
第 13 回(1/19)	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」 非言語領域：「損益算」 「速さ」「グラフと領域」「集合」 基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」 非言語領域「表の読 み取り」「入出力装置」「経路図」	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とす る
第 14 回(1/26)	基礎学力対策(6) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識 について、再確認してみよう。 基礎学力対策(7) 統括試験に向けて総復習	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回(1/27)	■総括試験 ■最終授業アンケート	筆記用具 (鉛筆・消しゴム) ノート pc 持参

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-M53	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（三木経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	春学期に仕事とキャリア形成Ⅰの単位を取得済みであること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	仕事とキャリア形成Ⅰ履修済みの学生					
17.授業の目的と概要	■概要 本講義では、「仕事とキャリア形成Ⅰ」でのワークを元に、希望する企業への就職活動において必要とされる社会人としての最低限の基礎学力、思考力、一般教養の確認を行うとともに、企業での面接を踏まえた自己PRのプレゼンテーションなどを修得することを目的とする。 1 自己分析と自己PR 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己PRのプレゼンテーションをバージョンアップし、希望する企業での動画面接にも対応できるようにする。 2.履歴書とエントリーシート作成することができる。 就職活動において必要な履歴書とエントリーシートを作成する。 3. 基礎学力の確認 kuis ドリル、SPI、一般常識問題等をこなすことで、企業での筆記試験に対応できるように準備する。 尚、この授業はSDGs 8のゴール、「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働き甲斐のある人間らしい（ディーセントワーク）を促進する」に関連している。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連。 本科目の学習目標は、 プレゼンテーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化することを目指す。					
19.教科書・教材	「仕事とキャリア形成Ⅰ」教科書及び「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成したワークシート。 必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	成績評価は以下の通り ・ 中間レポート評価（自己PR 動画 15% 及び 志望動機動画 15%） 30% ・ 総括試験（基礎学力確認筆記試験） 50% ・ 課題レポート①～④ 5 点× 4 20%					
22.コメント	本格的な就職活動に向けての準備です。自身の人生設計を見据えて取り組みましょう。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしましょう。 生成 AI の使用を認める。					

23.オフィスアワー		センターオフィスアワー 月曜日昼休み 研究室オフィスアワー 月曜日 2 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回 (10/7)	授業ガイダンス エゴグラム診断 http://commutest.com > egogram 採用試験における基礎学力プレテスト	○プレテストに必要な筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・ 採点用赤鉛筆又はそれに類するもの） キャリアと仕事形成Ⅰで使用した教科書・ワークシート	
第 2 回 (10/14)	キャリアセンター 藤井学部長より講話 ー就職に向けてやるべきことの確認ー (課題レポート①)	藤井課長の講話から学んだこと、就職に向けての決意など記述。 課題レポート①を作成、提出する。	
第 3 回 (10/21)	自己分析 ・「仕事とキャリア形成Ⅰ」の自己分析シートを元に、自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段はなにかを考えてまとめる。 ・上記を元に自己分析の振り返りをする。必ず、自分の経験・体験（エピソード）を入れること。 (課題レポート②)	◆課題レポート②を提出する。	
第 4 回 (10/28)	前回の自己分析を元に希望する企業と職種について調べ（「仕事とキャリア形成Ⅰ」ワークシート参照）、 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己 PR の読み原稿を修正する。 作成後、chat G T P を使用し完成させる。 (課題レポート③)	◆課題レポート③を提出する。	
第 5 回(11/4)	履歴書・エントリーシートの作成 履歴書及び希望する企業への「志望動機」についてまとめる。 志望動機には、自身の経験・体験（エピソード）を必ず入れること。 (課題レポート④)	履歴書及び志望動機（エントリーシート）を、 課題レポート④として提出する。	
第 6 回(11/11)	就活用動画基礎講（1） ・導入 準備編と注意事項の説明、見本動画、テスト動画と撮影、 ファイル変換、提出の練習	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「自己 PR 動画 NO1」2 分 ＜課題レポート②を基に話す＞を自分で撮影録画し webclass に提出する。 中間レポート 1 自己 PR 動画 2 分間	

第 7 回(11/18)	就活用動画基礎講習 (2) ・ 動画作成	◎ノート PC 持参 ・ 宿題：課題動画「志望動機動画 NO2」2 分 ＜課題レポート③を基に話す＞を自分で撮影 録画し webclass に提出する。 ○中間レポート 2 志望動機動画 2 分間
第 8 回(11/25)	働く意義と会社の仕組み① web クラス 自習教材第 1 章～第 3 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 9 回(12/2)	働く意義と会社の仕組み② web クラス 自習教材第 4 章～第 6 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回(12/9)	基礎学力対策(1) 試験の種類と概要	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回 (12/16)	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係 非言語領域：「割 合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回 (12/23)	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」 非言語領域：「割合」「精 算」「割引」「分割払い」	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題 とする
第 13 回(1/20)	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」 非言語領域：「損益算」 「速さ」「グラフと領域」「集合」 基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」 非言語領域「表の読 み取り」「入出力装置」「経路図」	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とす る
第 14 回(1/27)	基礎学力対策(6) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識 について、再確認してみよう。 基礎学力対策(7) 統括試験に向けて総復習	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回(1/28)	■総括試験 ■最終授業アンケート	筆記用具 (鉛筆・消しゴム) ノート pc 持参

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-M54	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（三木経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	春学期に仕事とキャリア形成Ⅰの単位を取得済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	仕事とキャリア形成Ⅰ履修済みの学生					
17.授業の目的と概要	■概要 本講義では、実際に社会人として企業や団体等で業務を遂行する上で、当然必要とされるであろう基礎的な能力を振り返る。 1 自己分析と自己 PR 「仕事とキャリア形成Ⅰ」を振り返り、就職活動において求められる自己 PR のプレゼンテーションを行うことができる。 2.履歴書とエントリーシート作成することができる。 就職活動において必要な履歴書とエントリーシートを作成する。 3. 基礎学力の確認 就職活動においては、時に SPI 等の基礎学力検査によって、社会人として最低限の思考力、一般教養等が問われる。この種の学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多い。非言語スコアをアップさせる。 尚、この授業は SDGs 8 のゴール、「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働き甲斐のある人間らしい（ディーセントワーク）を促進する」に関連しています。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー) の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は、コミュニケーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化することを目指します。					
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	中間レポート評価30% 総括試験50% 課題レポート①～④5 点× 420%					
22.コメント	講義中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 月曜日昼休み					

研究室オフィスアワー 月曜日 2 限		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (9/26)	授業ガイダンス、就職に向けて 採用試験における基礎学力プレテスト	○プレテストに必要な筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・ 採点用赤鉛筆又はそれに類するもの） キャリアと仕事形成Ⅰで使用した教科書 ノート
第 2 回 (10/3)	自己分析と文章作成(1) 「過去・現在・未来」について自己分析の振り返りをする。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験をまとめて文章化する。また、ペアワークで他己分析も行う。 (課題レポート①)	◆課題レポート①を提出する。 ○「強みと弱み」を考える。(60 分)
第 3 回 (10/17)	合同授業 キャリアセンター 藤井学部長より講話 ー就職にむけてやるべきことの 確認ー (課題レポート②)	◆課題レポート②を提出する。 藤井課長の講話から学んだこと、就職に向けての決意など記述
第 4 回 (10/24)	自分の「強みと弱み」について e-ポートフォリオを活用してまとめ、文章化したものをプレゼンテーションする。 (課題レポート③)	◆課題レポート③を提出する。 ○「将来展望」を考える (60 分)
第 5 回(10/31)	履歴書・エントリーシートの作成(1) 履歴書及び「志望動機・職業観」について文章化する。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験と関連付けて文章化する。	○フリープレゼンテーションについて考える (60 分)
第 6 回(11/7)	合同授業 就活用動画基礎講習 ・導入 準備編と注意事項の説明、見本動画、テスト動画と撮影、 ファイル変換、提出の練習 (提出練習ー課題レポートとして④)	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「自己 PR 動画 NO1」2 分 ＜課題レポート③を基に話す＞を自分で撮影録画し webclass に提出する。 課題レポートとして④
第 7 回(11/14)	エントリーシートの作成(3) 「フリープレゼンテーション」対策の文章化。まとめて文章化し、中間レポートにつながるように準備をする。 エントリーシートに基づくプレゼンテーションを行う。	○中間レポート テーマ「(仮) あなた自身を自由に表現してください」(提出は次回授業時)(120 分)
第 8 回(11/21)	基礎学力対策(1)	★ノート pc 持参

	試験の種類と概要	○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 9 回(11/28)	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係 非言語領域：「割合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回(12/5)	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」 非言語領域：「割合」「精算」「割引」「分割払い」	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回 (12/12)	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」 非言語領域：「損益算」「速さ」「グラフと領域」「集合」	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回 (12/19)	基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」 非言語領域「表の読み取り」「入出力装置」「経路図」	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題とする
第 13 回(1/16)	基礎学力対策(6) ◆模擬テスト マークシート形式 言語・非言語(7) WEB テスティング形式・テストセンター形式 言語・非言語	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とする
第 14 回(1/23)	基礎学力対策(7) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識について、再確認してみよう。	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回(1/30)	■総括試験 ■最終授業アンケート	筆記用具（鉛筆・消しゴム） ノート pc 持参

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y51	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（心理_1/3）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹、老邑敬子、大松光寿					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義等		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とします。 【概要】具体的には、3人の教員により次の1～3のキャリア支援内容を学修します。 1 自己分析と自己PR(作文及び動画)・・・高橋 就職活動において求められる自己PR文を作成し、文章による自己表現力を身に付けるとともに、今求められる力としての自己PR動画作成力を醸成します。 2 SPI対策（クイズドリル）・・・大松 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです					
	① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める・・・①					
	② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける・・・①及び②					
	③ 基本的なビジネスマナーの体得（マナーを理解して自分のものにする）・・・①及び②					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。					
	高橋					
	・自己PRに向けての作文、自己PR動画 30%					
	老邑					

	・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・ビジネスシーンでの立ち居振る舞い・）25% ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）15% 大松 ・基礎学力確認試験 30%（最終回 SPI 模試 15%、模試以外の取組み 15%） 注 第 1 回～第 5 回内容 高橋担当 第 6 回～第 10 回内容 老邑担当 第 11 回～第 15 回内容 大松担当	
22.コメント	○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 高橋担当の講義回はノートパソコンを使用します。 生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認める。 自己?文の作成に関しては、使用を認めないものとする。但し、AI 活用に関しての授業回は除くものとする。 テストに関しては生成 AI の利用は認めない。	
23.オフィスアワー	【高橋】 センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み 【大松】 センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 2 回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 3 回	現時点で表明できる自己 PR のポイントを到達点として確定しておく。	教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(2h)
第 4 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	教室内ワークの続きを行って原稿、動画を仕上げる（2h）
第 5 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領（前回同様） 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	動画を仕上げ提出する。(2h)
第 6 回	キャリアとビジネスマナー（1） ☐ キャリアとは ・自身が描くキャリアを考える ☐ ビジネスマナーとは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ マナーとコミュニケーション	

第 7 回	キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 敬語について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 8 回	キャリアとビジネスマナー（3） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 面接のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 9 回	キャリアとビジネスマナー（4） ☐ ビジネスメールの基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い。 ☐ 電話の対応の基本 ☐ 名刺の意味と交換について	ラップトップパソコンを持参すること。実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	キャリアとビジネスマナー（5） ☐ 実技テスト ・全4回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テスト ☐ レポート作成→提出	前回授業で作成した名刺を持参すること。
第 11 回	基礎学力対策(1) ◆「推論」 少ない情報から「必ず正しいと推論できる事柄」を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用して出題内容を確認する
第 12 回	[基礎学力対策(2)] ◆「順列・組合せ」、「確率」 並べ方や組み合わせ方を求めたり、出現する確率を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用
第 13 回	[基礎学力対策(3)] ◆「金銭の問題」、「ハジキ問題」 売り上げや損益、割引などのお金の出入りを求めたり、距離や 速さ、時間をはじき出そう	Kuis ドリルの S P I を活用
第 14 回	[基礎学力対策(4)]	Kuis ドリルの S P I を活用

	◆「言語分野」 敬語やことわざ、文章構成、長文など言語分野を解こう	
第 15 回	[基礎学力対策(5)] ◆「試験の実施」 4 回の授業で学んだ言語・非言語分野の出題傾向を理解して臨もう	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y52	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ (心理_2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹、老邑敬子、大松光寿					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義等		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とします。 【概要】具体的には、3人の教員により次の1～3のキャリア支援内容を学修します。 1 自己分析と自己PR(作文及び動画)・・・高橋 就職活動において求められる自己PR文を作成し、文章による自己表現力を身に付けるとともに、今求められる力としての自己PR動画作成力を醸成します。 2 SPI対策(クイズドリル)・・・大松 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです					
	① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める・・・①					
	② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける・・・①及び②					
	③ 基本的なビジネスマナーの体得(マナーを理解して自分のものにする)・・・①及び②					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。					
	高橋					
	・自己PRに向けての作文、自己PR動画 30%					
	老邑					

	・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・ビジネスシーンでの立ち居振る舞い・）25% ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）15% 大松 ・基礎学力確認試験 30%（最終回 SPI 模試 15%、模試以外の取組 15%） 注 第 1 回~第 5 回内容 高橋担当 第 6 回~第 10 回内容 老邑担当 第 11 回~第 15 回内容 大松担当	
22.コメント	○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 高橋担当の講義回はノートパソコンを使用します。 生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認める。 自己?文の作成に関しては、使用を認めないものとする。但し、AI 活用に関しての授業回は除くものとする。 テストに関しては生成 AI の利用は認めない。	
23.オフィスアワー	【高橋】 センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み 【大松】 センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 2 回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 3 回	現時点で表明できる自己 PR のポイントを到達点として確定しておく。	教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(2h)
第 4 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	教室内ワークの続きを行って原稿、動画を仕上げる（2h）
第 5 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領（前回同様） 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	動画を仕上げ提出する。(2h)
第 6 回	キャリアとビジネスマナー（1） ☐ キャリアとは ・自身が描くキャリアを考える ☐ ビジネスマナーとは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ マナーとコミュニケーション	

第 7 回	キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 敬語について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 8 回	キャリアとビジネスマナー（3） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 面接のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 9 回	キャリアとビジネスマナー（4） ☐ ビジネスメールの基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い。 ☐ 電話の対応の基本 ☐ 名刺の意味と交換について	ラップトップパソコンを持参すること。実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	キャリアとビジネスマナー（5） ☐ 実技テスト ・全4回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テスト ☐ レポート作成→提出	前回授業で作成した名刺を持参すること。
第 11 回	基礎学力対策(1) ◆「推論」 少ない情報から「必ず正しいと推論できる事柄」を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用して出題内容を確認する（1 h）
第 12 回	[基礎学力対策(2)] ◆「順列・組合せ」、「確率」 並べ方や組み合わせ方を求めたり、出現する確率を導き出そう	クイズドリルの SPI の活用
第 13 回	[基礎学力対策(3)] ◆「金銭の問題」、「ハジキ問題」 売り上げや損益、割引などのお金の出入りを求めたり、距離や 速さ、時間をはじき出そう	クイズドリルの SPI の活用
第 14 回	[基礎学力対策(4)]	クイズドリルの SPI の活用

	◆「言語分野」 敬語やことわざ、文章構成、長文など言語分野を解こう	
第 15 回	[基礎学力対策(5)] ◆「試験の実施」 4 回の授業で学んだ言語・非言語分野の出題傾向を理解して臨もう	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y53	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ (心理_3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹、老邑敬子、大松光寿					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義等		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とします。 【概要】具体的には、3人の教員により次の1～3のキャリア支援内容を学修します。 1 自己分析と自己PR(作文及び動画)・・・高橋 就職活動において求められる自己PR文を作成し、文章による自己表現力を身に付けるとともに、今求められる力としての自己PR動画作成力を醸成します。 2 SPI対策(クイズドリル)・・・大松 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです					
	① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める・・・①					
	② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける・・・①及び②					
	③ 基本的なビジネスマナーの体得(マナーを理解して自分のものにする)・・・①及び②					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。					
	高橋					
	・自己PRに向けての作文、自己PR動画 30%					
	老邑					

	・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・ビジネスシーンでの立ち居振る舞い・）25% ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）15% 大松 ・基礎学力確認試験 30%（最終回模試15%、模試以外の取組15%） 注 第1回~第5回内容 高橋担当 第6回~第10回内容 老邑担当 第11回~第15回内容 大松担当	
22.コメント	○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 高橋担当の講義回はノートパソコンを使用します。 生成AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認める。 自己?文の作成に関しては、使用を認めないものとする。但し、AI 活用に関しての授業回は除くものとする。 テストに関しては生成AI の利用は認めない。	
23.オフィスアワー	【高橋】 センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み 【大松】 センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第2回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第3回	現時点で表明できる自己PRのポイントを到達点として確定しておく。	教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(2h)
第4回	動画面接要領、自己PR動画作成要領 現在増加しつつある動画面接及び自己PR動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	教室内ワークの続きを行って原稿、動画を仕上げる（2h）
第5回	動画面接要領、自己PR動画作成要領（前回同様） 現在増加しつつある動画面接及び自己PR動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	動画を仕上げ提出する。(2h)
第6回	キャリアとビジネスマナー（1） ☐ キャリアとは ・自身が描くキャリアを考える ☐ ビジネスマナーとは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ マナーとコミュニケーション	

第 7 回	キャリアとビジネスマナー（２） ☐ 敬語について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 8 回	キャリアとビジネスマナー（３） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 面接のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 9 回	キャリアとビジネスマナー（４） ☐ ビジネスメールの基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い。 ☐ 電話の対応の基本 ☐ 名刺の意味と交換について	ラップトップパソコンを持参すること。実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	キャリアとビジネスマナー（５） ☐ 実技テスト ・全４回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テスト ☐ レポート作成→提出	前回授業で作成した名刺を持参すること。
第 11 回	基礎学力対策(1) ◆「推論」 少ない情報から「必ず正しいと推論できる事柄」を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用して出題内容を確認する（１h）
第 12 回	[基礎学力対策(2)] ◆「順列・組合せ」、「確率」 並べ方や組み合わせ方を求めたり、出現する確率を導き出そう	Kuis ドリルの S P I 活用
第 13 回	[基礎学力対策(3)] ◆「金銭の問題」、「ハジキ問題」 売り上げや損益、割引などのお金の出入りを求めたり、距離や 速さ、時間をはじき出そう	Kuis ドリルの S P I 活用
第 14 回	[基礎学力対策(4)]	Kuis ドリルの S P I 活用

	◆「言語分野」 敬語やことわざ、文章構成、長文など言語分野を解こう	
第 15 回	[基礎学力対策(5)] ◆「試験の実施」 4 回の授業で学んだ言語・非言語分野の出題傾向を理解して臨もう	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y55	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（観光・G コミ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 仕事とキャリア形成Ⅰに続き、観光という産業においてキャリア形成を行う上で必要となる知識の修得と具体的な準備を進める。 【概要】 ■企業の仕組みと企業が求める人材について、社会人基礎力を中心に考察する。また企業に関する理解促進のため、財務分析、労働法について基礎を学ぶ。 ■就活を終えた4年生の声やインターンシップの重要性などについて体験者や担当者の話を聞き、今後のキャリア形成の一助とする。 ■就活に向けて企業の仕組みや現状、政治や経済などの社会情勢など就活生と取り巻く環境についての知識を蓄え、活用する。					
18.学習目標と DPとの関連	・企業についての理解促進と適切なキャリア形成のための自己認知 企業の目的やマネジメント活動についての理解を深め、その中で働く人材について自己を中心として適切な人材像を認知する。 本科目の学修目標は DP（ディプロマポリシー）の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 ① 社会人基礎力の自己認知から自分の性格や価値観を客観的に把握し、自分なりの目標とする人材像を認識する。 ②観光における職業や業界について、興味を持つことができる。 ③キャリア教育の一科目であることを自覚し、遅刻や早退をせずに出席して、個人、グループ、クラス全体の学習活動を遂行することができる。					
19.教科書・教材	■必要に応じて参考書を紹介もしくは資料を配付する。					
20.参考文献	日本経済新聞					
21.成績評価	■社会人基礎力における個人ワーク、グループワークの取り組み及び確認テスト 30% ■講義ごとに実施する講義内容のまとめを通じた授業理解度 30% ■企業の仕組みや課題に関する確認テスト 20% ■企業分析における財務および労働法に関する確認テスト 20%					
22.コメント	・仕事とキャリア形成Ⅰは全学共通プログラムでしたが、この到達点を活かし、秋学期においては社会人基礎力と観光業界における人材像についての理解を深めます。 生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション ■ 春学期の振り返りと全体スケジュールについての説			○ 「仕事とキャリア形成Ⅰ」の復習 150 分		

	明	○ 本時の復習 30 分
【第 2 回】	【講義】企業の仕組みとマネジメント 企業がなぜ存在するのか、その中で働くということとはどのような意味があるのかについて講義を行う。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から企業や組織についてのニーズなどを検索し、その内容と講義内容を比較検討する。 60 分
【第 3 回】	【講義＆演習】社会人基礎力 ■社会人基礎力とはどのようなものかを講義する。 ■社会人基礎力およびセルフコントロールに関するアンケートに回答する。(第 4 回以降の講義で自己認知の資料として活用する)	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 4 回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「前に踏み出す力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 5 回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「チームで働く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 6 回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「考え抜く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60 分
【第 7 回】	【講義および演習】社会人基礎力のまとめ&4 年生の就活報告 (1) 社会人基礎力に関する確認テスト (2) この夏就活を経験した先輩に今、皆さんにやっておいて欲しいことなどを語ってもらう。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60 分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。
【第 8 回】	【企業に関する理解】 企業の社会的役割や形式などについて理解する。また、法的な人格である法人の意味などについて理解する。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 9 回】	【企業に関する理解】	○ 事前に業界について調査し、質問などを積

	企業の組織について理解する。また、取締役会など会社法で規定されている会社を運営する規定などについて理解する。	極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 10 回】	【企業に関する理解】 経営資源の一つである資金についての理解を深める。財務諸表への理解と簡単な分析による企業の経営力の分析を行う。尚、最後に確認テストを実施する。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 11 回】	【企業に関する理解】 企業の経営について理解する。具体的には日本的経営や今後の見通し、また企業統治の課題などについて理解する。	○ 本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 12 回】	【企業に関する理解】 企業と個人の労働契約である雇用について理解する。具体的には働き方改革の実態や福利厚生の制度、更には労働組合の役割などについて理解する。	○ 本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 13 回】	【講義】企業研究 労働編 経営資源の一つである人財、特に労働法規等についての理解を深める。労働 3 法への理解と派遣労働や委託業務など態様の異なる働き方についての理解を深める。尚、最後に確認テストを実施する。	○ 就活の不安について取りまとめ、授業の中で積極的に質問できる準備を行う。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 14 回】	【講義】企業研究 財務編と労働編の解説 第 11 回と第 12 回で実施したテストの答え合わせを行いながら、財務と労働のポイントを再確認する。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 15 回】	【講義】インターンシップに向けて インターンシップに向けて具体的なエントリーの方法や学生全体、大学の特徴などについて就活支援の担当者からお話し頂く。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y57	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（社会_A）		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史、老邑敬子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とする。 3つのポイント 1 自己分析と自己PR(作文力) 就職活動において求められる自己PR文を作成するなど、文章による自己開示をトレーニングします。 2 基礎学力の確認 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重 要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための必要 不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から 学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得 し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける ③ 基本的なビジネスマナーの体得（マナーを理解して自分のものにする）					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 自己PRに向けての作文ワーク：25% 基礎学力確認試験：25% 老邑 ・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・立ち居振る舞い・話し方など）25%					

	・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）25% 2人の教員が授業を行います。前半と後半で授業内容が変わる予定です。	
22.コメント	◆ 本授業は2つのクラスの兼用版です。 授業は2人の担当教員が各内容を順番に担当しながら展開します。 ※秋学期前に授業の順番や内容を変更する可能性があります。 自己PRおよび基礎学力：南畑 ビジネスマナー：老邑先生 ○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	ノートPCを持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（-2h）
第2回	人生設計（未来をシナリオプログラミング）とマネープラン。 お金の面から自分の理想の人生を値踏みする。 人生目標の設定と目標達成のために必要となるスキルや能力習得について考える。スキルアップ計画を立てる。	ノートPCを持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（-2h）
第3回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実(金銭面)を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	ノートPCを持参すること 教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(-2h)
第4回	周囲の環境を分析する。 自分が飛び込むことになる社会の将来像を考える。 VUCAの時代をどう生きるか。 Society5.0（ITと共存する未来社会）のライフスタイル・生活環境について考える。	ノートPCを持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（-2h）
第5回	現時点で表明できる自己PRのポイントを到達点として確定しておく。	ノートPCを持参すること 教室内ワークによって文章を仕上げる(2h)
第6回	◇ キャリアとビジネスマナー（1） ☐ 「キャリア」とは ・自身が描くキャリアを考える ☐ 「ビジネスマナー」とは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ 「ビジネスマナーとコミュニケーション」	ノートPCを持参すること
第7回	◇ キャリアとビジネスマナー（2）	前回授業の理解度を確認する小テストをおこ

	☐ 「敬語」について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	なう
第 8 回	☒ キャリアとビジネスマナー（3） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 「面接」のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ※敬語小テスト ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 9 回	☒ キャリアとビジネスマナー（4） ☐ 「ビジネスメール」の基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い ・電話の対応の基本 ・名詞の意味と交換について ☐ 前回授業の理解度の確認	ノート PC を持参すること。 実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	☒ キャリアとビジネスマナー（5） ☐ 「実技テスト」と「確認テスト」 ・全 4 回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テストと確認テストを行う ☐ レポート作成 → 提出 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業で作成した名刺を持参すること
第 11 回	1 基礎数学(1) ◆「割合の計算」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 12 回	2 基礎数学(2) ◆「順列・組合せ」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 13 回	3 基礎数学(3) ◆「確率」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 14 回	4 基礎数学(4) ◆「1 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 15 回	5 基礎数学(5) ◆「2 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y58	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（社会_B）		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史、老邑敬子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とする。 3つのポイント 1 自己分析と自己PR(作文力) 就職活動において求められる自己PR文を作成するなど、文章による自己開示をトレーニングします。 2 基礎学力の確認 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重 要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための必要 不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から 学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得 し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける ③ 基本的なビジネスマナーの体得（マナーを理解して自分のものにする）					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 自己PRに向けての作文ワーク：25% 基礎学力確認試験：25% 老邑 ・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・立ち居振る舞い・話し方など）25%					

	・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）25% 2人の教員が授業を行います。前半と後半で授業内容が変わる予定です。	
22.コメント	◆ 本授業は2つのクラスの兼用版です。 授業は2人の担当教員が各内容を順番に担当しながら展開します。 ※秋学期前に授業の順番や内容を変更する可能性があります。 自己PRおよび基礎学力：南畑 ビジネスマナー：老邑先生 ○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	ノートPCを持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（-2h）
第2回	人生設計（未来をシナリオプログラミング）とマネープラン。 お金の面から自分の理想の人生を値踏みする。 人生目標の設定と目標達成のために必要となるスキルや能力習得について考える。スキルアップ計画を立てる。	ノートPCを持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（-2h）
第3回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実(金銭面)を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	ノートPCを持参すること 教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(-2h)
第4回	周囲の環境を分析する。 自分が飛び込むことになる社会の将来像を考える。 VUCAの時代をどう生きるか。 Society5.0（ITと共存する未来社会）のライフスタイル・生活環境について考える。	ノートPCを持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（-2h）
第5回	現時点で表明できる自己PRのポイントを到達点として確定しておく。	ノートPCを持参すること 教室内ワークによって文章を仕上げる(2h)
第6回	◇ キャリアとビジネスマナー（1） ☐ 「キャリア」とは ・自身が描くキャリアを考える ☐ 「ビジネスマナー」とは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ 「ビジネスマナーとコミュニケーション」	ノートPCを持参すること
第7回	◇ キャリアとビジネスマナー（2）	前回授業の理解度を確認する小テストをおこ

	☐ 「敬語」について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	なう
第 8 回	☒ キャリアとビジネスマナー（3） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 「面接」のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ※敬語小テスト ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 9 回	☒ キャリアとビジネスマナー（4） ☐ 「ビジネスメール」の基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い ・電話の対応の基本 ・名詞の意味と交換について ☐ 前回授業の理解度の確認	ノート PC を持参すること。 実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	☒ キャリアとビジネスマナー（5） ☐ 「実技テスト」と「確認テスト」 ・全 4 回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テストと確認テストを行う ☐ レポート作成 → 提出 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業で作成した名刺を持参すること
第 11 回	1 基礎数学(1) ◆「割合の計算」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 12 回	2 基礎数学(2) ◆「順列・組合せ」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 13 回	3 基礎数学(3) ◆「確率」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 14 回	4 基礎数学(4) ◆「1 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 15 回	5 基礎数学(5) ◆「2 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CRE203-Y51	2.科目名	ファシリテーション演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	課題に直結するため、コミュニケーション演習、社会・集団・家族心理学を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教育効果および高校側のクラスサイズを考え、履修者を10以内に制限する。 高校への訪問、授業実践という特殊な授業であり、責任をともなうため、履修者を厳選する。 学生メンター、COC、OC スタッフ、あじあん祭実行委員、学生会などの経験者、コミュニケーション演習履修済みを優先する。 ※課題として、最終的に水曜3～5限目に高校に授業を実施しにいきます。 他のかぶっている授業を休んで、これに参加しても原則公欠にはなりません。 ※初回授業までに履修登録を済ませておくこと、初回授業に出席すること。 ※初回授業後に履					
17.授業の目的と概要	ファシリテーションとは、会議やディスカッション等の知的相互作用を促進する働きです。チームを引っ張るリーダーシップは大事ですが、集団活動の流れを管理し、成果を高めるための効率的な支援力も重要です。この授業では、コミュニケーションスキルといったソーシャルスキル教育の基礎を学ぶとともに、高校生に対するソーシャルスキル教育の実践及び振り返りを通して、「リーダーシップ」の在り方、ファシリテーションスキルを身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 グループワークを中心としたチーム活動を通して、各個人それぞれが、権限なきリーダーシップを踏まえ、柔軟なコミュニケーション力、ファシリテーションスキルを高める。 ①自分の言動、活動をふりかえり、自身のスキルを把握し、次回に生かす認知的なコミュニケーション力、ファシリテーションをとることができるようになる（ソーシャルスキルの認知的能力を高める）。 ②他者との社会的相互作用の中で、メンバーで1つの成果物を作成するために自己主張、調整をすることができるようになる（自己主張力、調整力を身につける）。 ③授業内および実践の場で、効果的なファシリテート、プレゼンテーションを行うことができるようになる。					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	原田恵理子著 高校生のためのソーシャルスキル教育 ナカニシヤ出版 2013 年					
21.成績評価	①授業中の発表・討議・質疑応答：30％【学習目標①②】 ②グループワーク及び学外活動での成果：40％【学習目標①③】 ③プログラム案（教授案）の提出：30％（eポートフォリオに成果掲載を含む）【学習目標①】					
22.コメント	・高校生 20～30 人を対象に心理学・ソーシャルスキルに関する講義・演習を行います。 ・実践する授業内容をクラスで毎週、随時、会議・調整を行っていきます。 ※心理学科のコミュニケーション演習、社会・集団・家族心理学を履修している前提で授業を行います。 ※高校生の授業において教師として授業を行うため、責任が問われます。 ※遅刻・欠席は許されません。					

【スケジュール】少し変則的に進みます。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
○第 1 回	リーダーとは何か、理想のリーダー像の探求 ファシリテーションとは何か	
○第 2 回	ソーシャルスキル教育に関する調べ学修①	
○第 3 回	ソーシャルスキル教育に関する調べ学修②	
○第 4 回	ソーシャルスキルプログラムの作成	
○第 5 回	ソーシャルスキルプログラムの作成	
○第 6 回	ソーシャルスキルプログラムの作成	
○第 7 回	ソーシャルスキル教育の実践演習①	
○第 8 回	ソーシャルスキル教育の実践演習②	
○第 9 回	ソーシャルスキル教育の実践演習③	
○第 10 回	ソーシャルスキル教育の実践演習④	
○第 11 回	高校生に対する Teaching を通して、リーダーシップスキル実践	
○第 12 回	高校生に対する Teaching を通して、リーダーシップスキル実践	
○第 13 回	高校生に対する Teaching を通して、リーダーシップスキル実践	
○第 14 回	グループ内のフィードバック	
○第 15 回	自分の課題、グループの課題の振り返り、クロージング。	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE204-Y51	2.科目名	公務員養成演習Ⅰ（※注 自由科目）		3.単位数	1
4.授業担当教員	大松光寿、高橋浩樹、寺村堅志					
5.授業科目の区分	自由科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし。 ただし、資格専門学校 TAC が提供するオンデマンド講座を受講するため、その受講料 22,000 円を負担することが求められる。					
17.授業の目的と概要	<目的> 公務員として稼働することの意味を理解し、その採用試験合格に向けて基礎学力の向上を図る。 <概要> 本学の実務家教員、現職の OB・OG から公務員として望まれる資質、心構え等の講義をオリエンテーションを含め 3 回提供する。また、受講生は資格専門学校 TAC の提供するオンデマンドによる遠隔講座を受講する。毎週新しい教材が提供され、自身のペースで繰り返し学習できる(遠隔講座は翌年の 10 月末まで利用可能)。学びのペースを確認するため、専門学校スタッフによる遠隔でのホームルームを 3 回行う。Google Classroom などを使用しての質疑応答の機会が提供される。					
18.学習目標と DP との関連	<学修目標> ①公務員の仕事について理解を深める。 ②公務員採用試験に向けて基礎学力を身に付ける。					
19.教科書・教材	教材は毎週 TAC からオンデマンドで提供される。					
20.参考文献	必要に応じて参考書を紹介する。					
21.成績評価	本科目の評価は単位認定の可否で行われるため GP はつきません。 そのため、本科目の成績は GPA には影響がなく、卒業要件にも含まれません。 単位認定は以下の基準によって判断します。 ①授業 3 回分の感想レポート提出 ②TAC の受講料を納付していること (22,000 円)					
22.コメント	受講料は期限内に必ず支払うようにしてください。					
23.オフィスアワー	高橋：水曜昼（研究室オフィスアワー）、火曜昼（センターオフィスアワー） 大松：月曜昼（研究室オフィスアワー）、火曜昼（センタープログラム） 寺村：金曜昼（研究室オフィスアワー）、水曜昼（センターオフィスアワー）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回	ガイダンス			課題：レポートの提出		
2 回	実務教員による公務員に関する講義			課題：レポートの提出		
3 回	全体のまとめ			課題：レポートの提出		
	TAC による遠隔ホームルーム 3 回実施					
	毎週公開されるオンデマンド教材によって学習を進める。 必要に応じて Google Classroom による質疑応答			一つの教材につき、3 時間から 6 時間の学習時間を確保する。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CRE306-Y52	2.科目名	キャリアプランニングⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科共通			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】本科目では、就職活動に向けた具体的な準備を進めていきます。就職活動においては、「敵を知り、己を知る」ことが大事です。具体的には企業を良く理解し、求めている人材像を把握すると共に、自分という人間についても思い込みだけではなく、多角的に理解する必要があります。また、社会情勢、特に企業で働く場合には経済に関する基礎的な知識や国際情勢などの政治の分野に関する知識なども習得し、将来に向けた社会動向について考察する力も重要です。 【概要】この講座では、実際の企業において働いた経験を有している講師より、指定するテキスト「会社四季報 業界地図 2023 年版」を教材に用いて、182 業界の動向をつかみ、広く実社会を概観します。具体的には、多種多様な業界・企業への理解を深めること、実社会ではどのような能力を持つ人材が求められるのか等、新卒採用の実情を理解します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(1)自律性】【(5)コミュニケーションスキル】【(4)問題発見・解決力】に関連しています。 キャリアプランニングⅡの講義の学習目標は、以下のとおりです。 ①企業を取り巻く環境について認識し、企業を選ぶ視点を磨く。 ②企業研究の視点を理解し、志望する業界または企業について分析することができる。 ③志望する業界のみならず個人発表の中で、広く業界に関する知識を習得する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	会社四季報業界地図 2024 年					
21.成績評価	1.授業について理解を深める目的で課題の提出を行い、理解度を確認する。=50%外部講師からの講義のレポートなど ※学習目標①及び②に対応(グループ話ワークなど) 2.最終回において期限内に、期末レポート 50%を作成し、提出する。 ※学習目②及び③に対応					
22.コメント	学科内で学ぶ観光産業以外の業界・企業に着目、多種多様な業界・企業により構成される実社会を俯瞰し、職業選択の幅を自ら広げられることを期待します。自らが実社会を知る手段(アンテナ)を携え、自らの価値観に沿う、自らの職業選択を具体的に検討し判断できる状態になること。					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース (研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 10 月 3 日 (木)	講義【オリエンテーション】 ・授業の概要をシラバスに基づいて説明する。(担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する)			予習：シラバスを確認しておく。 復習：授業計画の確認、「講義ノート」を作成すること。 課題の作成。 パソコンを持参すること。		
【第 2 回】 10 月 10 日	マイナビによる就職ガイダンス マイナビ担当者による就職ガイダンスを開催する。次			復習：登録方法や業界情報の取得。 課題の作成。		

(木)	年度に向けて就活情報を入手する。	予習：自らの将来について考える。 パソコンを持参すること。
【第3回】 10月17日 (木)	社会人基礎能力の理解① 【テーマ】 1. 社会変化 2. リーダーシップ 3. 社会人基礎力のチェック 4. イメージメイキング 5. IQとEQ～DQ	復習：4年生の活動から得た学びについて整理し、課題に回答する。 予習：次回に向けて質問を整理する。 パソコンを持参すること。
【第4回】 10月24日 (木)	【社会人基礎力の理解】その② 【テーマ】 1. 企業が大学生に期待する能力 2. 自己PRで注意したい点 3. 最悪フォロワー象（新人社員0 4. 日本文化（千利休） 5.履歴書を書き方	予習：社会人基礎力について調べておく 復習：自らの強み、弱みを確認、自らの価値観に沿う職業を考える。 パソコンを持参すること。
【第5回】 10月31日 (木)	【4年の先輩達の就学の経験談を聞く】 今年度、就活を体験した4年生の先輩から就活についてパネルディスカッション方式により話を聞き、就活の苦労や具体的なエントリー数などの情報を得る。	復習：授業で指示する重要用語・内容を確認する。 課題の作成。 予習：事前配布資料を予習してくる。 パソコンを持参すること。
【第6回】 11月7日 (木)	【先輩達の就学と就職の経験談を聞く】① ホテル分野 リージョンキルさん 大阪マリオットホテル 今年度、社会人になった先輩から就活と実際の実務、勤務、未来の抱負などの話を聞き、自分の将来の方向性を得る。	復習：授業で習った内容を確認する。 課題の作成。 予習：事前配布資料を予習してくる。 パソコンを持参すること。
【第7回】 11月14日 (木)	【先輩達の就学と就職の経験談を聞く】① 国際空港分野 宗野さんー関西国際空港勤務 今年度、社会人になった先輩から就活と実際の実務、勤務、未来の抱負などの話を聞き、自分の将来の方向性を得る。	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成。 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第8回】 11月21日 (木)	【社会人基礎力に関する理解】その③ 【テーマ】 1. チームで働く力④ ストレスコントロール 力 2. チームで働く力⑤ 傾聴力 3. チームで働く力⑥ 発信力	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第9回】 11月28日 (木)	【社会人基礎力に関する理解その④】 【本日のテーマ】 1. 復習：社会人基礎力とは 2. 復習：前に踏み出す力 3. 復習：考え抜く力 4. 復習：チームで働く力 5. グループワーク 6. 応用としてのフォロアーシップ 7. 社会人基礎力 ワーク	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。

【第 10 回】 12 月 5 日 (木)	【社会人基礎力に関する理解その⑤】	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 11 回】 12 月 12 日 (木)	【社会人基礎力に関する理解その⑥】	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 12 回】 12 月 19 日 (木)	【業界・企業に関する理解】③	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 13 回】 1 月 9 日 (木)	【業界・企業に関する理解】④	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 14 回】 1 月 16 日 (木)	【業界・企業に関する理解】⑤	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 15 回】 1 月 23 日 (木)	授業の総括 期末課題・期末レポートの作成	予習：授業全体の整理を行い、課題を残さないようにする。 復習：期限内に「期末課題・期末レポート」を作成し提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRI102-Y51	2.科目名	司法・犯罪心理学（2023～2025 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた心理学的支援について学習することを目的とする。 犯罪の発生原因に関わる理論や犯罪捜査、近年問題となっている犯罪、裁判などを取りあげる。 本授業では、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ② 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ③ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ④ ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。					
19.教科書・教材	入門 司法・犯罪心理学 -- 理論と現場を学ぶ 法と心理学会／監修(2022).有斐閣. 定価 2,530 円（本体 2,300 円） ISBN 978-4-641-17474-0					
20.参考文献	資料を配付する 大上 渉編「犯罪を生む心、社会を守る心 - 心理学ビジュアル百科 司法・犯罪心理学編」2025 年					
21.成績評価	・ 授業毎ミニレポート（学習目標①②③④を問う）：40% ・ 総括試験（学習目標①②③を問う）：60%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	板山：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 01 回 ガイダンス、犯罪心理学とは何か、犯罪統計 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。 犯罪心理学とはどういう学問か、アプローチの仕方によって犯罪・非行についての 切り口が異なることを確認する。			配布資料を熟読し、疑問点を整理する。		
	第 02 回 犯罪の原因論① 犯罪の原因について生物学的要因の観点から説明する。			教科書第 2 章に目を通しておく（予習 2 時間）		

	第 03 回 犯罪の原因論② 犯罪の原因について、性格の要因など心理学的要因の観点から説明する。	教科書 第 3 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 04 回 犯罪の原因論③ 犯罪の原因について、物理的・状況的な「環境」、人間関係などの社会学的観点から説明する。	教科書 第 4 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 05 回 DV について 親密な関係の中で起こる暴力について説明する	最近発生した DV 事件について調べる（1 時間）、教科書第 6 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 06 回 虐待について 子ども虐待や高齢者虐待に関する現状を解説するとともに、発生や防止に関わる心理的問題について解説する。	教科書第 7 章に目を通しておく（予習 2 時間）最近発生した虐待に関する事件を調べ、まとめる（2 時間）
	第 07 回 ストーカーについて ストーカー加害者の特徴などについて解説する。	最近発生したストーカー事件を調べまとめる（2 時間）
	第 08 回 物質・プロセス依存について 物質・プロセス依存の原因や治療について概説する。	教科書 第 8 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 09 回 窃盗について 窃盗の原因、動機、対策について解説する。	教科書 第 9 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 10 回 犯罪捜査・プロファイリング 犯罪捜査とそれにかかわる心理学的問題について解説する	授業資料を振り返る（60 分）
	第 11 回 聴取・目撃証言 被害者や被疑者への聴取、目撃者の証言に関する心理学的問題について解説する。	教科書第 11.12 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 12 回 裁判について学ぶ 裁判について、主に裁判員裁判について解説する。	教科書 第 13 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 13 回 加害者支援について 再犯リスク低減のための取り組みについて学ぶ	教科書 第 14 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 14 回 犯罪被害者について ・被害者が受ける心理的な問題・被害などについて取りあげる。	教科書 第 15 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 15 回 総括試験 ・総括試験を行う（資料の持ち込みは不可）。	これまでの授業を復習し、試験に備える。

1.授業コード (ナンバリング)	CRI204-Y51	2.科目名	国際犯罪論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村上昭徳					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(授業の目的) この講義では、国際犯罪の諸問題を取り上げ、学生が相互に議論し、解決する方向を模索する能力を身につけることを目指す。以上が目的であるが、各授業では、実際に起きた国際犯罪や事例を挙げ、なぜ発生したか、背景や政治情勢などを学ぶ。 (授業概要) 国際犯罪とは、犯罪者や犯罪行為が複数の国にまたがる場合を指し、国際刑事警察機構 (International Criminal Police Organization ; ICPO)、国際刑事裁判所、国際司法裁判所が関与することになる。国際犯罪はそれぞれの国で法的体系が異なることや、容疑者の引き渡しに関する条約の締結状況により、捜査が進展しないことがある。その例としては、2022 年現在、日本が犯罪人引渡し条約を結んでいる国は、アメリカと韓国の 2 カ国のみであるが、その理由として、我が国では死刑制度が存置されているので、相手国が引き渡した自国民が死刑にされる恐れがあることが挙げられている。					
18.学習目標と DP との関連	・ 国際間で異なる多様な文化や背景を理解し、受け入れる能力を身につけて、犯罪者の行動を予測して、犯罪の解決のための捜査方法について思考する（多様性理解） ・ これまでに発生した犯罪について学び、その問題点を発見したうえで、問題解決の思考力や判断力を身につけ、犯罪の未然防止のための提案ができるようになることを目指す。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。授業の開始前に配布し、授業開始時に資料について説明してから授業に入る。また授業が理解しやすいように関連する事件についてパワーポイントを活用する。					
20.参考文献	警察白書、日本リスクマネジメント学会発行の機関誌「危険と管理」					
21.成績評価	各回授業小レポート 30 % 中間レポート 30 % 最終レポート 40 %					
22.コメント	質問にはできる限り即応する。作成された模範的な論文を授業で紹介し、論文作成の要領について指導する。 生成 AI 利用：無制限で認める。					
23.オフィスアワー	常時在宅中に、メールで相談を受ける。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス ①大学案内に「関西国際大学はグローバル人材の育成をめざし、すべての学生にグローバルスタディ、海外留学、海外インターンシップの機会を提供します。」とありますがこの事業の一翼を担うものである。 ②グローバル化の進展に伴い、国境を越えて大規模かつ組織的に行われる国際組織犯罪の脅威が深刻化している。国際組織犯罪は、社会の繁栄と安寧の基盤である市民社会の安全、法の支配、市場経済を破			①予習 国際刑事警察機構 ②授業で参考にする事件名 ①金正男暗殺事件 ②大韓航空機爆破事件 ③日本人拉致事件		

	壊するものであり、国際社会が一致して対処すべき問題である。 ③過去に発生した国際犯罪事件・事例、例えば「日本人拉致事	
	国際刑事警察機構 国際刑事警察機構 (International Criminal Police Organization)について学ぶ。国内では、「ICPO」、海外ではインターポール (International Police の短縮形)と呼ばれ、本部はフランスのリヨンに置かれる。 当初「ICPO」は57か国・地域の警察機関を構成員として1923年9月7日に発足した。今では195以上の構成員となっている。日本は1952年に加盟している。 犯罪捜査や犯人逮捕に携わる各国の警察機関が連携を図り、各国間の情報伝達	①予習 国際刑事警察機構 エミール・ガレについて ②参考にする事件名 エミールガレのガラス工芸品「フランスのバラ」盗難に関連する国際捜査共助事件 ③カルロスゴーン被告逃亡事件
	諸国の共通利益を害する犯罪 多くの国々にとり、共通法益を侵害する行為は、条約や慣習国際法といった国際法により処罰すべきものであると考えられている。 これを受けて各国が国内法を制定し、これにより処罰される犯罪を「諸国の共通利益を害する犯罪」という。このことについて以下の区分で学ぶ。 ① 国際犯罪の意義 ② 涉外性を持つ犯罪 ③ 国際法上の犯罪 ？ 諸国の共通利益を害する犯罪	授業で参考にする事件名 ①大韓航空機爆破事件 ②日本人拉致事件 ③タジマ号事件
	国際社会全体の名において処罰される犯罪 国際社会全体の一般利益を侵害する犯罪である。そのため、個人の刑事責任が国内法を介さずに直接国際法によって成立し、国際刑事裁判所など国際機関により訴追・処罰される犯罪を「国際社会全体の名において処罰される犯罪」という。第2次世界大戦後に生まれたこの新しい国際犯罪について学ぶ。	①予習 国際刑事裁判所 ②授業で参考にする事件 日本人拉致事件
	麻薬、薬物犯罪 麻薬等薬物問題は、地球規模の深刻な問題であり、国際社会が一丸となって取り組むべき重要な課題である。 比較的早期に対策が取られてきたヘロイン、コカインの使用については横ばいないし減少がみられる。一方覚醒剤や危険ドラッグ等の合成麻薬の乱用が世界的に拡大傾向にあり、わが国はこれら合成麻薬対策に重点を置き、国際的な取り組みに協力している。	①予習 国連の機能 ②授業で参考にする事項 麻薬 G メン
	マネーロンダリング 日本語で言う資金洗浄のことである。グリーン・ウォッシュとも言う。麻薬取引、脱税、粉飾決算などの犯罪によって得られた資金（汚れたお金）を、資金の出所を分からなくするために、架空または他人の金融機関口座などを利用して、転々と送金を繰り返したり、	授業で参考にする事件名 ①新型コロナ給付金詐欺事件 ②国際ロマンス詐欺事件 ③連続詐欺・強盗事件

	株や債券の購入や大口寄付などを行ったりする。これは、捜査機関による差し押さえや摘発を逃れるための行為であり、世界中で巨大な闇のお金として悪用されることがある。これらの行為は法律で禁止されている。	
	サイバー犯罪 国際犯罪論から見たサイバー犯罪の定義、サイバー犯罪の種別について研究学習する。また、典型的なサイバー犯罪及び具体的な事例を取り上げて学習する。 一方、国内外からのサイバー攻撃に対する対策については、現在警察庁を中心として、防衛省、総務省、経済産業省等が対策を講じている。その対策等について研究、学習していく。	授業で参考にする事件 ①徳島県・つるぎ町立半田病院事件等
	腐敗防止 公務員に係る増収賄、公務員による財産の横領等腐敗に関する問題は、グローバル化の一層の進展に伴い、持続的な発展や法の支配を危うくする要因として看過できないものである。 これは、最早地域的な問題ではなく、全ての社会及び経済に影響を及ぼす国際的な現象となっている。また腐敗とその他の形態の犯罪（組織犯罪）との結び付きも指摘されるようになり、効果的に腐敗行為を防止するためには国際協力を含め、包括的かつ総合的な取組が必要であることを研究し、学ぶ。	授業で参考にする事件 ①五輪汚職事件
	テロ対策 テロ対策をどうすればいいのかを一言で言えば、それぞれの場所、組織において、しなければならない基本を順守することである。一つの事例がある。この事例を説明すれば、基本の順守がいかに大切か学ぶことができる。 その事例とは1987年11月29日に発生した「大韓航空機爆破事件」である。イラクのバクダッド国際空港における手荷物検査を基本通り行っておれば乗員、乗客115人の命は救われた。大韓航空機爆破事件はなぜ発生したのか、なぜ防げなかったかについて論じる。当初は基本通り行ったが、途中で心が折れてしまった事例	授業で参考にする事件名 ①大韓航空機爆破事件 ②ラングーン事件 ③金正男暗殺事件
	人身取引 人身取引とは、「国際的な組織犯罪の防止に関する国際連合条約を補足する人（特に女性及び児童）の取引を防止し、抑止し及び処罰するための議定書」（通称：人身取引議定書）第3条において定義され、「搾取」を目的とし、暴力等の「手段」を用いて、対象者を獲得するなどの「行為」をすることを言う。 ○人身取引対策行動計画2014 平成26年12月16日「犯罪対策閣僚会議」で決議され、「世界一安全な国、日本」を作り上げるため実	授業で参考にする事件名 ①大韓航空機爆破事件 ②日本人拉致事件 ・日本海ルート ・ヨーロッパルート

	施する各種施策について学ぶ。	
	我が国と諸外国の犯罪をめぐる条約 ①近年、交通や通信手段の高速化、金融、IT サービスその他のネットワークの広がりに伴い、急速に複雑化、深刻化している国際的な組織犯罪に対処するために国際協力を推進する国際的な規範作りが求められていることを学ぶ。 ②人身取引、密入国、銃器対策について学ぶ 人身取引議定書、密入国議定書、銃器議定書の3つの議定書が、国際組織犯罪防止条約の内容を補足している。 ③属地主義について学ぶ。	予習 タジマ号事件 授業で参考にする事件 ①タジマ号事件 ②金正男暗殺事件 ③大韓航空機爆破事件
	国外への逃亡、身柄の引き渡し、代理処罰 ①国際手配制度の趣旨 国際手配制度は、ICPO が開発し発展させてきた制度である。全加盟国の警察の組織力を通じて、国外逃亡被疑者の所在発見、身元確認等に務めるものである。 ②国際手配を希望する場合には、加盟各国に設置された国家中央事務局 (NCB 日本では警察庁) が自国の各警察機関と ICPO の事務総局及び加盟各国の警察とをつなぐ窓口機関になる。日本では国家中央事務局である警察庁が ICPO の事務総局に国際手配をする。	復習 国際刑事警察機構 (ICPO) 授業で参考にする事件名 ①堺市母子殺人事件被疑者ブラジルに逃走 ②女子留学生殺人事件
	国際テロ事件に学ぶ国際情勢 下記事件を通じて情勢を知る。 ①金大中事件とその背景 当時の韓国情勢 ②金正男暗殺事件とその背景 北朝鮮情勢と3代にわたる最高指導者	授業で参考にする事件 ①大韓航空機爆破事件 ②ラングーン事件 ③金正男暗殺事件
	国際テロ事件に学ぶ国際情勢 下記事件を通じて情勢を知る。 ①米国の9・11同時テロ事件とその背景 ②悪魔の詩作者サルマン・ラシュディ襲撃事件とその背景	授業で参考にする事件 ①1988年パンアメリカン航空103便爆破事件 ②米国9・11事件
	総括 犯罪については、今後ますますグローバル化、大型化、インテリジェンス化していくであろう。国内で発生する犯罪も、国際犯罪とは、切っても切れない関係になってきます。日常生活、卒業後の就業中においても、こういった感覚を保持することが必要なことである。 これまでの国際犯罪論で引用した、「大韓航空機爆破事件」や「日本人拉致事件」を振り返り、社会に出た場合のリーダーシップや責任感について論じ、人格形成に資する講義を行い総括とする。	授業で参考にする事件名 ①大韓航空機爆破事件 ②ラングーン事件 ③日本人拉致事件 ④金正男暗殺事件

1.授業コード (ナンバリング)	CRI206-Y51	2.科目名	司法・犯罪心理学（2022 年度生以前 秋春通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科 人間心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた専門家の関わりや心理学的支援について学習することを目的とする。 犯罪の発生原因に関わる理論や犯罪捜査、近年問題となっている犯罪、裁判などを取りあげる。 本授業では、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深める。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 2025 秋（第 1 回～15 回）：板山 ① 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ② 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ③ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ④ ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。 2026 春（第 16 回～30 回）：寺村 ⑤一連の司法矯正手続きの中で、心理的介入がどのように役立つのか理解する。 ⑥犯罪に関連する事象を多面的に捉えることができる。					
19.教科書・教材	・ 2025 年秋 入門 司法・犯罪心理学 -- 理論と現場を学ぶ 法と心理学会／監修(2022).有斐閣. 定価 2,530 円（本体 2,300 円） ISBN 978-4-641-17474-0 ・ 2026 年春 適宜 WEBCLASS にアップする					
20.参考文献	?安香宏著「犯罪心理学への招待：犯罪・非行を通して人間を考える」サイエンス社 2008 年 ?シャッド・マルナ著「犯罪からの離脱と『人生のやり直し』：元犯罪者のナラティブから学ぶ」明石書店 2013 年 ③森丈弓著「犯罪心理学：再犯防止とリスクアセスメントの科学」ナカニシヤ出版 2017 年 ④藤岡淳子著「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用：治療教育の実践」誠信書房 2014 年 ⑤大上渉編「犯罪を生む心、社会を守る心 - 心理学ビジュアル百科 司法・犯罪心理学編」2					

	0 2 5 年	
21.成績評価	・ 2025 年秋学期 授業毎ミニレポート（学習目標①②③④を問う）：20% 総括試験（学習目標①②③を問う）：30% ・ 2026 年春学期 毎回の感想レポート：1 点×15 回 15%（目標⑤，⑥に該当） 最近気になる犯罪非行に関するレポート：5%（目標⑥に該当） 犯罪者の社会復帰に関するレポート：10%（目標⑤に該当） 総括試験：20%（目標⑤，⑥に該当）	
22.コメント	2025 年秋学期 第 01 回～15 回が板山担当 2026 年春学期 第 16 回～30 回が寺村担当	
23.オフィスアワー	・ 板山：研究室オフィスアワー 水曜昼休み ・ 寺村：研究室オフィスアワー： 火曜 1 限 センターオフィスアワー：月曜 3 限 ＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けますのでメール等でご連絡ください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 01 回 ガイダンス、犯罪心理学とは何か、犯罪統計 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。 犯罪心理学とはどういう学問か、アプローチの仕方 によって犯罪・非行についての 切口が異なることを 確認する。 第 02 回 犯罪の原因論① 犯罪の原因について生物学的要因の観点から説明する。	配布資料を熟読し、疑問点を整理する。
	第 03 回 犯罪の原因論② 犯罪の原因について、性格の要因など心理学的要因 の観点から説明する。 第 04 回 犯罪の原因論③ 犯罪の原因について、物理的・状況的な「環境」、人 間関係などの社会学的観点から説明する。	教科書第 2 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 05 回 DV について 親密な関係の中で起こる暴力について説明する。 第 06 回 虐待について 子ども虐待や高齢者虐待に関する現状を解説すると ともに、発生や防止に関わる心理的問題について解説 する。	教科書 第 3 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 07 回 ストーカーについて ストーカー加害者の特徴などについて解説する。 第 08 回 物質・プロセス依存について 物質・プロセス依存の原因や治療について概説する。	教科書 第 4 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 09 回 窃盗について 窃盗の原因、動機、対策について解説する。 第 10 回 犯罪捜査・プロファイリング 犯罪捜査とそれにかかわる心理学的問題について解説する。	最近発生した DV 事件について調べる（1 時間）、教科書第 6 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 11 回 聴取・目撃証言	教科書第 7 章に目を通しておく（予習 2 時間）

	被害者や被疑者への聴取、目撃者の証言に関する心理学的問題について解説する。 第 12 回 裁判について学ぶ 裁判について、主に裁判員裁判について解説する。	間) 最近発生した虐待に関する事件を調べ、まとめる (2 時間)
	第 13 回 加害者支援について 再犯リスク低減のための取り組みについて学ぶ。 第 14 回 犯罪被害者について 被害者が受ける心理的な問題・被害などについて取りあげる。	最近発生したストーカー事件を調べまとめる (2 時間)
	第 15 回 前半の総括試験 ・総括試験を行う (資料の持ち込みは不可)。 第 16 回 犯罪心理学が対象とする領域 ・司法・犯罪領域とは何をさすのか。 ・心理職がどのように活躍しているか。	教科書 第 8 章に目を通しておく (予習 2 時間)
	第 17 回 犯罪・非行の移り変わり ・時代背景と犯罪・非行との関係性 ・近年注目されている犯罪 第 18 回 犯罪理論の概要 ・性悪説, 性善説 ・原因重視, 目的重視 ・発達障害との関係	教科書 第 9 章に目を通しておく (予習 2 時間)
	第 19 回 犯罪行為のアセスメント① ・財産犯 第 20 回 犯罪行為のアセスメント? ・粗暴犯	授業資料を振り返る (60 分)
	第 21 回 犯罪行為のアセスメント③ ・性犯, 薬物犯 第 22 回 リスクアセスメント ・リスクアセスメントの歴史 ・RNR 原則	教科書第 11.12 章に目を通しておく (予習 2 時間)
	第 23 回 介入の実際① ・認知行動療法に基づくアプローチ 第 24 回 介入の実際② ・動機づけ面接法	教科書 第 13 章に目を通しておく (予習 2 時間)
	第 25 回 介入の実際? ・社会復帰支援 第 26 回 介入の効果検証 ・プログラム評価と効果検証の必要性和手法	教科書 第 14 章に目を通しておく (予習 2 時間)
	第 27 回 再犯・再非行に及ぶ理由 生活環境の重要性等 第 28 回 立ち直りの過程 ・グッドライフモデル ・犯罪者のナラティブに関する研究	教科書 第 15 章に目を通しておく (予習 2 時間)
	第 29 回 事例検討 ・架空の事例を用いて, 犯罪に至った背景要因の見立て, 支援の方法について考える。 第 30 回 総括テスト	これまでの授業を復習し、試験に備える。

	・示された事例について、①なぜ犯罪行為に及んだのか、②これからどのような介入が必要なのか考えて記載する。	

1.授業コード (ナンバリング)	CRI304-Y51	2.科目名	犯罪関連法論		3.単位数	4
4.授業担当教員	大松光寿					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	1 年生春学期開講科目「犯罪学概論」を履修 済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、刑法及び刑事訴訟法を中心とした犯罪への対処実態を理解し身につける ことを目的とします。 【概要】 刑法については、犯罪と刑罰に関する共通ルールである刑法総論を中心として、ま た、刑事訴訟法については、犯罪の捜査、裁判の手続きなど刑罰法令の適用・実現に必要な手 続きについて学びます。また、近時問題となっている特殊詐欺や暴力団対策等に関する法令な どについても学修します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の (2)社会貢献生、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです ・ 刑法及び刑事訴訟法の仕組みが理解できるようになる ？ 事例を基に犯罪の成立要件を考えることにより、法的思考力が会得できる 。 犯罪情勢の理解と対策を考える ？ 社会の一員として守るべき法規範を理解することができる					
19.教科書・教材	授業時にウェブクラスに掲示する。					
20.参考文献	令和 7 年版 警察白書、犯罪白書					
21.成績評価	・ 中間効果測定 35% 刑法総論及び刑事訴訟法等の理解度に関するテスト ・ 総括効果測定 45% 暴力団対策法、少年法等各種犯罪に関する法律等の理解度に関する テスト ・ 課題レポート 2 回への取り組み 20% (各回 10%)					
22.コメント	？ 警察官や刑務官等公務員を志望する学生は、受講してください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	① オリエンテーション (自己紹介、授業の進め方) 「犯罪と法」の振り返り、犯罪情勢、刑法の仕組 みに触れます ② 刑法へのアプローチ① 刑法とは何なのかを考え、基礎的な考え方から重 要な原則について概括的に学びます			第 2 回 刑法の条文に目を通し、どのような 構成になっているのかを理解する		
第 3 回 第 4 回	③ 警察本部講義(刑事企画課) 刑事手続きの概要に ついて ④ 刑法へのアプローチ② 犯罪の成立要件、違法性阻却事由、有責性等につ			第 3 回 関係する刑法の条文に目を通す 第 4 回 関係する刑法の条文に目を通す		

	いて学びます	
第 5 回 第 6 回	⑤ 警察本部講義(捜査第一課) 性犯罪の現状、対策について ⑥ 刑法へのアプローチ③ 過失犯(福知山線脱線事故から)、因果関係、錯誤、未遂、親告罪、共犯等について学びます	第 5 回 参考文献(警察白書、犯罪白書)、関係する刑法の条文に目を通す 第 6 回 参考文献、関係する刑法の条文に目を通す
第 7 回 第 8 回	⑦ 警察本部講義(刑事企画課) 犯罪捜査の最前線について 防犯カメラ、プロファイリング、デジタルフォレンジック、情報分析 ⑧ 刑法へのアプローチ④ 刑罰の種類、拘禁刑とは、刑罰の目的、死刑廃止論等について学びます	第 7 回 参考文献(警察白書、犯罪白書)、関係する刑法の条文に目を通す 第 8 回 参考文献、関係する刑法の条文に目を通す
第 9 回 第 10 回	⑨ 警察本部講義(薬物銃器対策課) 薬物犯罪の現状、対策について ⑩ 薬物犯罪 薬物犯罪の実態、対策などについて振り返りながら学びます	第 9 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通す 第 10 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通す
第 11 回 第 12 回	⑪ 警察本部講義(捜査第一課) 取調べについて ⑫ 取調べや各種犯罪捜査について振り返りながら学びます * 中間期のまとめ	第 11 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通す 第 12 回 講演で学んだ事柄に関する法令を確認する
第 13 回 第 14 回	⑬ 中間期における効果測定 ⑭ 職務質問と捜査の主体 ○ 職務質問の法的根拠や有形力の行使について ○ 警察と検察との関係や特別司法警察職員について	第 14 回 刑訴法等に目を通す。
第 15 回 第 16 回	⑮ 警察本部講義(暴力団対策課) 暴力団対策について ⑯ 暴力団対策法 暴力団対策法の目的、指定暴力団の意味、 禁止行為等について学びます	第 15・16 回 暴力団対策法等関係法令に目を通す
第 17 回 第 18 回	⑰ 任意捜査と強制捜査 1 任意捜査の種別と限界、取調べや任意 同行 ⑱ 任意捜査と強制捜査 2 強制捜査法定主義、逮捕種別、勾留 について学びます。	第 17・18 回 任意捜査の限界や逮捕について、刑事訴訟法等を確認する。
第 19 回 第 20 回	⑲ 捜査と報道 現役記者の講義(報道機関の役割、捜査機関との 関係、記者会見 実技) ⑳ 暴力団対応要領 暴力団等からの不当要求への具体的対応要領に	第 19 回 報道機関の役割について考える。 第 20 回 講義内容を整理する

	ついて実演を交えて学びます。	
第 2 1 回 第 2 2 回	？ 刑事被告人の権利と被害者（被害者遺族）の権利 被告人に 認められた権利、保釈制度及び被害者支 援等について学 びます ？ 窃盗犯 窃盗の構成要件、発生状況、着手行為と 実行行為 等について学びます	第 21 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通 す 第 22 回 刑法条文の確認
第 2 3 回 第 2 4 回	？ 警察本部講義（生活安全企画課）特殊詐欺の現状と 対策について ？ 詐欺事件 特殊詐欺についての振り返り、詐欺罪 の構成要件、 事例検討等を行います。	第 23 回 特殊詐欺の現状を踏まえて、被害防 止策について考える。 第 24 回 詐欺罪の成立時期や成否について考 える。
第 2 5 回 第 2 6 回	？ 少年犯罪について 少年犯罪の現状、問題点、 少年非行の種 別、少年審判の方式等につい て学びます ？ 少年犯罪について？ 少年法の仕組み、改正、特 定少年につい てや児童虐待の現状、対策に ついて学びます	第 2 5 ～ 2 6 回 少年法等の関係条文の確認 警察白書、犯罪白書の確認
第 2 7 回 第 2 8 回	？ 警察本部講義（人身安全対策課）ストーカー、DV 事案の現状と 対策について ？ ストーカー、DV 事案について 同種事案の振り 返し、具体的 事例、対応要領	第 27 ・ 28 回 ST ・ DV 関連 法令の確認
第 2 9 回 第 3 0 回	？ 総括効果測定 ？ 殺人事件 殺人事件の現状、法律要件、具体的事 件例と問題点	第 30 回 殺人事件の現状に ついて警察白書、犯 罪白書を確認する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRI305-Y51	2.科目名	被災者・被害者心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹、大松光寿、松井幸太、村田昌彦					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 災害や犯罪被害に遭遇した人々の被害、特に精神的被害とはどのようなものを学び、トラウマや PTSD などへの理解を深めることを目的とします。 【概要】 各種被害に対する様々な支援法を学び、支援にあたって留意すべき点を習得します。 犯罪被害者の実態や心理を学び、被害者支援の具体的な取組みに関する知識を習得します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、①社会的貢献性、②多様性理解、③問題発見解決力（発見力・論理的思考判断力・解決力）の学習に関連します。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	【高橋担当分】 ミニレポート 2 回 学習目標①、②、③に対応 感想レポート 2 回 学習目標①、②、③に対応 【松井担当分】 ミニレポート 4 回 学習目標①、②、③に対応 【村田担当分】 ミニレポート 4 回（穴埋め問題、感想）：学習目標①、②、③に対応 【大松担当分】 感想レポート 1 回 学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	第 1 回、2 回、3 回、4 回：5 回 高橋、松井、村田、大松担当 第 6 回、7 回、8 回、9 回：松井担当 第 10 回、11 回、12 回、13 回：村田担当 第 14 回：大松担当 第 15 回：高橋、松井、村田、大松 ※ 生成 AI の利用:条件付きで認めるが、レポートや課題資料の作成では使用不可とする。 ・ 条件 1 :情報の真偽を確認すること。 ・ 条件 2 :個人情報の入力禁止を遵守し、出力情報の著作権侵害に留意すること。 ・ 条件 3 :AI 活用の更新情報の収集と理解に努めること。					
23.オフィスアワー	【高橋】 センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み 【大松】 センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー： 【松井】					

	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日 2 限 【村田】 センターオフィスアワー：救命士講習を別途実施 研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【高橋、松井、村田、大松担当】 ガイダンス 授業の進め方、評価方法等について	ノートパソコン持参 WebClass による資料提示、課題の提出
第 2 回	【高橋担当】 兵庫県警察本部被害者支援室の取組み 公的な支援制度等について 県警本部（警察官）の講師による	ミニレポートの提出
第 3 回	【高橋担当】 兵庫県警察本部被害者支援室の取組み 被害者、遺族等に対するカウンセリング 県警本部の講師（臨床心理士）による	ミニレポートの提出
第 4 回	【高橋担当】 兵庫県警察本部等主催による「命の授業」 被害者遺族等による講演	感想レポートの提出
第 5 回	【高橋担当】 兵庫県警察本部等主催による「命の授業」 被害者遺族等による講演	感想レポートの提出
第 6 回	【松井担当】 災害時における心のケア（トラウマインフォームドケア） 阪神淡路大震災をふりかえる	ミニレポートの提出
第 7 回	【松井担当】 東日本大震災における心のケア	ミニレポートの提出
第 8 回	【松井担当】 能登半島地震における心のケアの実際 （発災から、その後半年までの活動）	ミニレポートの提出
第 9 回	【松井担当】 能登半島地震における心のケアの実際 （半年から、その後一年までの活動）	ミニレポートの提出
第 10 回	【村田担当】 災害発生時の風評被害	ミニレポートの提出
第 11 回	【村田担当】 災害発生時の 3 つのバイアス	ミニレポートの提出
第 12 回	【村田担当】 トルコ大地震（2023 年 2 月）でのこころのケアに配慮した被災地支援の実例	ミニレポートの提出
第 13 回	【村田担当】 災害報道における記者の心理的葛藤	ミニレポートの提出
第 14 回	【大松担当】	感想レポートの提出

	メディアにおける被害者報道 報道記者による講演	
第 15 回	【高橋、松井、村田、大松担当】 振り返り、総括 総括効果測定実施の場合は試験	学修ポートフォリオへの記事投稿

1.授業コード (ナンバリング)	CRI307-Y51	2.科目名	サイバー犯罪論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学科（対面授業を原則とする）			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	サイバー犯罪論Ⅰを履修した学生を前提としています。 サイバー犯罪論Ⅰ未履修者については、Ⅰの WebClass 掲載の資料にアクセスできるよう設定 します。 Ⅱにおいては、サイバー犯罪の捜査、企業のサイバーセキュリティ対策について学びます。 講義への出席が原則です。					
17.授業の目的と概要	目的：情集収集、分析力を身に付け、データに基づく論理的思考力を養うことを目標としま す。 日々変化するサイバー犯罪への予防方策、実際の犯罪現場での捜査方法を学ぶことにより、現 代社会において必要とされるサイバーセキュリティに関する知識・サイバーリスクマネジメン ト力を養成することを目的としています。 概要：実際のサイバー犯罪捜査の方法等を学ぶとともに、企業の対策や取組、制度を学び社会 生活に求められるサイバーセキュリティの知識を習得しサイバーセキュリティ意識の向上を目 指します。					
18.学習目標と DPとの関連	DP の(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①サイバー犯罪等が社会の中で問題となっている論点を述べることができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。					
20.参考文献	青林出版 概説サイバー犯罪 法令解説と捜査・公判の実際 日科学技連 基礎から学ぶデジタル・フォレンジック 授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	・第 8 回講義終了後レポート「サイバー犯罪の特徴、捜査方法について」の提出 40％ 学習目標③に対応 ・総括効果測定 「企業のサイバーセキュリティ対策に関するレポート」 60％ 学習目標①、②に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提となるので注意する こと					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但 し、レポート作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。 ・レポート作成に当たっては ①書籍、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する説明	ノートパソコン等を持参して下さい。
第 2 回	サイバー犯罪の予防 各種施策	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 3 回	サイバー犯罪の捜査 特徴、捜査方法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 4 回	サイバー犯罪の捜査 捜査方法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 5 回	サイバー犯罪の捜査 捜査方法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 6 回	サイバー犯罪の捜査 遠隔操作、搜索差押	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 7 回	サイバー犯罪の捜査 解析実務	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 8 回	企業におけるサイバーセキュリティ 手口	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 9 回	企業におけるサイバーセキュリティ 企業における対策、問題点	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 10 回	企業におけるサイバーセキュリティ 調査委員会	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 11 回	企業におけるサイバーセキュリティ サイバーセキュリティ戦略	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 12 回	企業におけるサイバーリスク セキュリティガバナンス	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。

第 13 回	企業におけるサイバーリスク インシデント対応	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、事例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 14 回	デジタルフォレンジック 事例等	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、事例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	総括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	CS2303-Y51	2.科目名	専門研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光 ビジネス専攻（地域コース）など			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、航空産業論、航空実務		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の課題は「関西圏における 3 空港を比較する中で、神戸空港の魅力を向上させる施策を考え、提案する」です。具体的には以下の内容に取り組みます。 ①ビジネス構造と機能を理解する ②従来の枠にとらわれない「新しい観光価値」を具体的なアイデアにデザインする ③専門分野のビジネス課題について実現可能な提案をする 具体的には配布するガイドに基づき、以下のとおりチームおよび個人として取り組む。 ・与えられた課題についてフィールドワークや AI などを活用して事業テーマを設ける。 ・事業テーマに沿った先行研究に取り組む。 ・具体的な事業内容を検討し、事業収支を含めてビジネスプランを提案する。 ・チームとして ANA 総合研究所の担当者臨席のもと、春学期には事業テーマ、秋学期には先行研究や事業内容についての中間報告、事業の最終案を最終発表する。 ・事業テーマの設定、先行研究、事業収支を含む事業内容を基に個人の課題として調査報告書（6000 字）を作成する。 ・グループによる発表（ポスター形式） 授業を進めるにあたっては、「Team」あるいは「Learning Community」を形成し、協働しながら互いに高めあう学びを目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。					

		④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。
19.教科書・教材		適宜、資料を配信します。
20.参考文献		なし
21.成績評価		P M演習Ⅲ 個人調査の成果物（ガイドに従い作成）：50％・・・学習目標①② 行程表（ガイドに従い作成）：30％・・・学習目標④ 専攻研究のまとめ：20％・・・学習目標② P M演習Ⅳ 中間発表 PPT（チームで作成）：20％・・・学習目標②④ 最終発表 PPT（チームで作成）：30％・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50％・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。 ※本授業は主体的な学習活動を中心と
22.コメント		エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。 ②フィールドワークや先行研究により課題への理解を深める。 ③就活に向けて企業の活動を理解する。 尚、原則として本演習で作成した課題研究論文をもとに 4 年次に取り組む卒業研究における企画提案書を作成していきます。 生成 AI 利用：条件付きで認める。
23.オフィスアワー		金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第 2 回：2 年次の研究内容の発表 グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 3 回 第 4 回	第 3 回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第 4 回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は 5 月から 6 月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 5 回 第 6 回 第 7 回	第 5 回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第 6 回 & 第 7 回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 8 回 第 9 回	第 8 回：成果計画表の作成 第 9 回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 10 回 第 11 回	第 10 回： 合同発表会に向けて準備 第 11 回：テーマ発表会 ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 12 回～第	第 12 回～第 14 回：企業からのアドバイスや他大学の	毎回、課題が示されます。その課題に関し

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ECO101-M51	2.科目名	経済学概論		3.単位数	4
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 ～	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	今日の経済社会を理解するうえで必要となる経済的知識および経済学的な発想方法を身につめることを目的とする。 （１）経済学における基本的な概念や専門用語を説明し、それらの活用の仕方を学習する。 （２）身近な事例、新聞記事などを題材としてさまざまな経済現象を取り上げ、経済学で扱われる主要なテーマを具体的に学習する。 （３）個々の経済現象がどのようなメカニズムで起こるかを理論的に学習する。 なお、週２回の講義のうち、１回は復習を兼ねた回とする。					
18.学習目標と DPとの関連	①経済学の専門用語の意味を理解し活用することができる。（DP 専門知識・技能の活用力と関連） ②データから経済現象を読み取ることができる。（DP 専門的知識・技能の活用力と関連） ③身近な経済現象について経済理論に基づいて他人に説明することができる。（DP 問題発見・解決力と関連） DP の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。					
19.教科書・教材	『入門経済学 第４版』伊藤元重、日本評論社					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する					
21.成績評価	ミニ課題：２０％ 中間試験：３０％ 総括試験：５０％					
22.コメント	経済学は人々の生活や社会のあり方を理解する上で重要な考え方を教えてくれます。 難しく考えすぎずに取り組んでみることをお勧めします。 わからないことがあれば、そのままにせず積極的に質問してください。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第１回：経済学を学ぶ意義について 第２回：経済学とは何か（復習）					
	第３回：需要と供給 第４回：需要・供給分析（復習）					
	第５回：需要曲線と消費者行動 第６回：需要曲線と消費者余剰（復習）					
	第７回：供給曲線 第８回：利益最大化と供給行動（復習）					
	第９回：市場取引と資源配分 第１０回：市場競争と経済発展（復習）					
	第１１回：独占と競争の理論					

	第 1 2 回：完全競争と独占的競争	
	第 1 3 回：市場の失敗 第 1 4 回：外部効果と公共財（復習）	
	第 1 5 回：経済をマクロからとらえる 第 1 6 回：マクロ経済学と GDP（復習）	
	第 1 7 回：有効需要と乗数メカニズム 第 1 8 回：マクロで見た需要（復習）	
	第 1 9 回：貨幣の機能 第 2 0 回：貨幣の定義と機能（復習）	
	第 2 1 回：マクロ経済政策 第 2 2 回：財政政策と金融政策（復習）	
	第 2 3 回：インフレーション 第 2 4 回：デフレーション（復習）	
	第 2 5 回：高齢化社会の財政運営 第 2 6 回：高齢化のもとでの財政運営（復習）	
	第 2 7 回：経済成長と経済発展 第 2 8 回：経済はなぜ成長するのか（復習）	
	第 2 9 回：国際経済学 第 3 0 回：期末試験	

1.授業コード (ナンバリング)	ECO104-Y51	2.科目名	経済学基礎		3.単位数	2
4.授業担当教員	徐慧					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科・観光学科			9.履修学年	1 年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では食事、恋愛、お住まいなど身近なものを経済学に通じて考えられ、楽しい経済学を学ぶことができます。具体的には、市場メカニズム、供給と需要、競争、政府の役割など、経済活動の基本的な構造について学びます。また、経済学的な思考法を身につけ、経済政策や実務に関する問題を分析する能力を養います。 【概要】 経済学の基本概念である「需給の法則」や「市場の均衡」などを理解し、経済主体（消費者、企業、政府など）の行動について考察します。その後、マクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論を学び、経済活動がどのように相互作用し、どのようにして社会的な成果が形成されるのかを見ていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1、ミクロ経済学の基本的な専門用語とモデルを認識することができる。 2、モデルに基づいて簡単な計算をすることができる。 3、授業で紹介した消費者行動や企業活動を理論的に分析することができる。 [関連するディプロマポリシー] (2)社会的貢献性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	マンキュー入門経済学 N・グレゴリー・マンキュー（著），足立 英之（翻訳），石川 城太（翻訳），					
20.参考文献						
21.成績評価	授業中課題 60%（毎回 5 点、合計 12 回）（本を見て、周りの人と相談しながら解く） 総括試験 40%					
22.コメント	生成 AI の利用可					
23.オフィスアワー	授業終了後又はメール					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	経済学の 10 大原理について学び、経済学がどのような問題を解決するかを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。			PC 必要 授業後復習必要		
第 2 回	前回復習 生産可能性フロンティアの定義と、資源の限界による生産の選択肢を学びます。 比較優位の概念を学び、異なる国や企業がどのようにして貿易を行い、利益を得るのかを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。			PC 必要 授業後復習必要		
第 3 回	前回復習 市場の概念と種類、需要の法則、価格の決定メカニズ			PC 必要 授業後復習必要		

	ムについて学び、需要曲線を理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	
第 4 回	前回復習 供給の法則、供給曲線、曲線のシフトを理解します。 授業で課題を解き、解説した後に提出するのが必要	PC 必要 授業後復習必要
第 5 回	前回復習 価格規制について理解し、価格弾力性、価格弾力性の 計算方法を学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 6 回	前回復習 消費者余剰と生産者余剰の定義とその計算方法を学 び、経済的な福利を理解する。市場の効率性と余剰の 最大化について考えます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 7 回	前回復習 市場の効率性、外部性、公共財など、市場の失敗につ いて学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 8 回	ミクロ経済学について復習	
第 9 回	マクロ経済学の基本概念、GDP、インフレの定義とそ の相互関係について学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 10 回	前回復習 消費者物価指数とインフレ率の計算、利子率の区別を 学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 11 回	前回復習 IS-LM モデルの構築 授業で課題を解き、解説した後に提出するのが必要	PC 必要 授業後復習必要
第 12 回	前回復習 総需要曲線（AD）と総供給曲線（AS）の定義とその動 きについて学びます。AD-AS モデルを用いて経済全体 の価格と産出量がどのように決まるかを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 13 回	前回復習 金融システムの構造と機能を理解し、貯蓄と投資の関 係について学びます。金融市場の役割、金融機関、利 子率の決定メカニズムを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 14 回	総復習 総括試験	
第 15 回	総復習 総括試験返却	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE202-A51	2.科目名	英語科教育法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目-各教科の指導法	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	中学(英語) コアカリ対応科目		11.先修条件	教職課程履修者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Addresses	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 四技能および発音、文法、語彙などの指導法に関する従来型の問題点を指摘し、これを改善するための指導法について、グループでの議論（内容によって日本語または英語）を通して考えます。 【概要】 上記の授業の目的を踏まえ、授業における発音指導、文字指導、語彙指導、文法指導、4 技能に関する指導、複数の言語技能を統合した指導、ICT、テストと評価に関する理論を理解し学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①第 2 言語習得理論や中学校外国語科における 4 技能など外国語（英語）を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。					
19.教科書・教材	1）～4）は英語科教育法Ⅰと同じ 1）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 2）白畑知彦・富田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典 第 3 版』大修館書店 3）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf}					
20.参考文献	樋口忠彦・高橋一幸（編）（2015）「Q&A 中学英語指導法事典ー現場の悩みに答えるー」教育出版 Reference books will be announced in the class.参考書は授業で指示します。					
21.成	小テスト（単語テスト）20%（3 回分）					

績評価	課題小レポート 30% (10×3回) グループワーク・プレゼン 20% (発表 15%、まとめ 5%) 総括レポート試験 30%	
22.コメント	・事前に教科書の該当部分を読み、議論する問題点について自分の考えをまとめておくこと ・教員を目指すのなら、授業は無遅刻、欠席も避けること ・教員採用試験の準備として、英検 2 級または TOEIC 550 点以上を取得しておくこと	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：調整中	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Methods and Techniques in Pronunciation Teaching 第 8 章 発音指導	○第 9 章予習 (30 分) ●課題 1：英語の綴りが音と一致しない原因を考える (60 分)
第 2 回	Methods and Techniques in Teaching Letters and Spelling 第 9 章 文字と綴り字の指導	○第 10 章予習 (30 分)
第 3 回	Methods and Techniques in Teaching Vocabulary 第 10 章 語彙指導	◎グループワーク：語彙指導 ○第 11 章予習・レポート作成 (90 分)
第 4 回	Methods and Techniques in Teaching Grammar 第 11 章 文法指導	○討論準備 (60 分)
第 5 回	Methods and Techniques in Teaching Listening Discussion: Why is listening to English so difficult for Japanese people? リスニング指導&討論「なぜ英語の聞き取りが難しいのか」	○第 12 章予習 (30 分)
第 6 回	Methods and Techniques in Teaching Listening: Theory and Method 第 12 章 リスニング指導：理論と方法	◎グループワークの準備
第 7 回	Methods and Techniques in Teaching Speaking: The Differences in pronunciation between English and Japanese language "Why is it so easy for Japanese people to fall into katakana English?" スピーキング指導：英語と日本語の音の比較 「なぜカタカナ英語になりやすいのか」を考える	●スピーキング課題(60 分)
第 8 回	Methods and Techniques in Teaching Speaking: Comparison of Japanese and English for Teaching Methods 第 13 章 スピーキング指導：日英語の比較から指導法を考える	◎グループワーク ○第 14 章予習 ・レポート作成 (120 分)
第 9 回	Methods and Techniques in Teaching Reading: The	○討論準備 (30 分)

回	Psychological Process of Reading Comprehension 第 14 章 リーディング指導：読解の心理的プロセス	
第 10 回	Methods and Techniques in Teaching Reading: Specific teaching methods and activities リーディング指導：具体的な指導方法とアクティビティ	◎グループワーク ○第 15 章予習・討論準備（60 分）
第 11 回	Methods and Techniques in Teaching Writing: Theory and Method 第 15 章 ライティング指導：理論と指導法	◎グループワーク ○第 16 章予習・討論準備・（120 分）
第 12 回	Teaching Integrated Language Skills 第 16 章 言語技能を統合した指導	◎グループワーク ○第 19 章予習 ・ 討論準備 ・ レポート作成（150 分）
第 13 回	Utilization of Teaching Methods (ICT, Team Teaching, and ALT), Classroom English 第 19 章 ICT,TT, ALT の活用、教室英語	◎グループワーク ○第 21 章予習（30 分） ●レポート課題 3(60 分)
第 14 回	Testing and Evaluation: Measurement Methods, Evaluation and Assessment Methods, etc. 第 21 章 テストと評価：測定方法・評価方法など	◎グループワーク ○復習（90 分）
第 15 回	Consolidation 総括	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE202-Y81	2.科目名	英語科教育法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目 英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 教職の必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科、 または教育福祉学科子ども学専攻の中学英語免許希望者			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件	英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 英語科指導に必要な知識を身につけ、実際の指導現場で用いることを考えられるようになる。 また、様々な指導法の長所・短所とその改善点について考えられるようになる。 【概要】 四技能および発音、文法、語彙などの指導法に関する従来型の問題点を指摘し、これを改善するための指導法について、グループでの議論（内容によって日本語または英語）を通して考えます。					
18.学習目標と DPとの関連	・英語教育の各スキルの指導法について簡単に説明できる<DP6 専門的知識・技能の活用力> ・従来の指導法の問題点を指摘できる<DP4 問題発見・解決力> ・問題点の改善方法を考えて説明することができる<DP6 専門的知識・技能の活用力>					
19.教科書・教材	(英語科教育法Ⅰと同じ教科書) 土屋澄男・広野威志 『新編英語科教育法入門』 研究社 白畑ほか 『改訂版 英語教育用語辞典』 大修館書店					
20.参考文献	「中学校学習指導要領解説-外国語編-」文部科学省(最新版) 「高等学校学習指導要領解説-外国語編 英語編-」文部科学省(最新版) 中学校・高校の検定教科書(英語)					
21.成績評価	課題レポート 30% (10×3回) グループワーク 20% (発表10%、まとめ10%) 総括試験 50% ・課題やGWでは、自分が生徒として体験した授業を振り返ったりしながら、学んだ知識を具体的に授業で活かすための方法などを考えたりすることで、統合的な力になっているかを確認します。 ・総計100%のうち60%以上で合格です。					
22.コメント	・事前に教科書の該当部分を読み、議論する問題点について自分の考えをまとめておくこと ・教員を目指すのなら、授業は無遅刻、欠席も避けること ・教員採用試験の準備として、英検2級またはTOEIC550点以上を取得しておくこと *生成AI利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。					

23.オフィスアワー		月曜日 3 限
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	発音指導	○第 8 章予習 (30 分) ●課題 1: 英語の綴りが音と一致しない原因を考える (60 分)
【第 2 回】	文字と綴り字の指導	○第 9 章予習 (30 分)
【第 3 回】	語彙指導	◎グループワーク: 語彙指導 ○第 10 章予習・レポート作成 (90 分)
【第 4 回】	文法指導	○討論準備 (60 分)
【第 5 回】	リスニング指導 & 討論「なぜ英語の聞き取りが難しいのか」	○第 11 章予習 (30 分)
【第 6 回】	リスニング指導:理論と方法	◎グループワーク ○第 12 章予習 (30 分)
【第 7 回】	スピーキング指導: 英語と日本語の音の比較 なぜカタカナ英語になりやすいのかを考える	●スピーキング課題(60 分) 左欄の内容についてまとめる(次回提出)
【第 8 回】	スピーキング指導: 日英語の比較から指導法を考える	◎グループワーク ○第 13 章予習・レポート作成 (120 分)
【第 9 回】	リーディング指導: 読解の回路	○討論準備 (30 分)
【第 10 回】	リーディング指導: 具体的な指導方法とアクティビティ	◎グループワーク ○第 14 章予習・討論準備 (60 分)
【第 11 回】	ライティング指導: 理論と指導法	◎グループワーク ○第 15 章予習・討論準備・(120 分)
【第 12 回】	言語技能を統合した指導	◎グループワーク ○第 16 章予習・討論準備・レポート作成 (150 分)
【第 13 回】	TT, ALT の活用、教室英語	◎グループワーク ○第 17 章予習 (60 分) ●レポート課題 3(60 分)
【第 14 回】	テストと評価: 測定方法・評価方法など	◎グループワーク ○復習 (90 分)
【第 15 回】	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE203-Y51	2.科目名	英語科教育法Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目 英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 教職の必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語/グローバルコミュニケーション学科の中学英語 免許希望者			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	TOEIC500 点 またはそれに相当する英語の資格試験/スコア保持者					
17.授業の目的と概要	This course is for those who are seeking for teaching job after graduation. This course examines successful foreign language education; how foreign languages are taught and learned in the world. Various teaching methods which have been used around the world. 本科目は、将来教職に就く人を対象とする。日本国内外での外国語教育（特に英語教育）の状況や指導法について学び、指導計画・授業計画の立て方などについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	・日本の英語教育の流れがわかる ・第二言語習得理論と英語教育の関連がわかる ・学習指導要領での英語教育の目的が説明できる ・各学年の指導計画を目標に従って立てることができる DP(4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力 : 教職や英語に関する知識を活かした英語授業の活動を考えたり、活動の問題点を見つけ改善を検討したりします。					
19.教科書・教材	(英語科教育法Ⅰと同じ教科書) 土屋澄男・広野威志 『新編英語科教育法入門』 研究社 白畑ほか 『改訂版 英語教育用語辞典』 大修館書店					
20.参考文献	村野井仁他 「統合的英語科教育法」(成美堂) ISBN978-4-7919-5094-2 白井恭弘「英語教師のための第二言語習得論入門」(大修館書店) 渡邊時夫他「小中連携を意識した中学校英語の改善」(三省堂) 「中学校学習指導要領解説-外国語編-」文部科学省(最新版) 「高等学校学習指導要領解説-外国語編- 英語編」文部科学省(最新版) 中学校・高校の検定教科書(英語)					
21.成績評価	Demonstration class: 40% (Performance in your demo:20% + Planning of demo activities :20%) Discussion performance 10% In class work: 20 % Final report :30% 総計 100%のうち 60%以上で合格となります					
22.コメント						
23.オフィスアワー	月曜日 3 限					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	Course Orientation : Objectives and course work オリエンテーション	○Review of the class (60min.)
【第 2 回】	Objectives of English Education 英語教育の目的	
【第 3 回】	English Education in Japan & the world 日本と外国の英語教育	
【第 4 回】	MEXT guidelines 学習指導要領	○Reading MEXT Guidelines (120min.)
【第 5 回】	Teaching Methods 指導法の概説	
【第 6 回】	Teaching Plan 学習指導計画	○Make your own lesson plan (120min.)
【第 7 回】	Lesson Plan : Presentation & Discussion on each lesson plan 授業計画：学習指導案の作成と討論	◎Analyze and revise your lesson plan (120min)
【第 8 回】	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント ：生徒の評価方法と妥当性	
【第 9 回】	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント:教員評価	
【第 10 回】	SLA and EFL、Demonstration class (20 minutes/ student) 第二言語習得と外国語学習	
【第 11 回】	Autonomy (Group discussion) 自立的な学習者の育成 Group Discussion グループ討論 Explanation of the final report 最終レポートの説明	
【第 12 回】	English Education in Elementary Schools 小学校の英語教育	◎Presentation of Group Discussion (90 min.)
【第 13 回】	Cross-cultural Education 異文化理解教育：「異文化理解」の意義	◎make a PPT presentation (60 min.)
【第 14 回】	Cross-cultural Education 異文化理解教育 Group Presentation プレゼンテーションと意見交換	
【第 15 回】	Reflection (Group discussion) 振り返り	★submission of final report

1.授業コード (ナンバリング)	EDE204-A51	2.科目名	英語科教育法Ⅳ	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	中学 1 種(英語)教員免許等	11.先修条件	英語科教育法Ⅰ～Ⅲを履修済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、模擬授業実施		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	<概要>教材研究、授業の進め方を学び、指導案の作成（日英語の2通り）を通して、中学あるいは高校の検定教科書を教材にして、実際に指導計画を作成する。また、その仕上げとして模擬授業を実施し、教育実習への準備とする。 <目的>学習指導案が日英両言語で作成できる、指導案に沿って授業が実施できる。模擬授業では、自己評価だけでなく、他者の評価もできるようになる。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(6) 専門的知識の活用の学修に関連しています。 1) より良い授業を実施する為に、様々な教授法や教材などの情報を収集し、指導案に反映できる。 2) 英語科指導法の問題点を発見し、解決のための方策を考え工夫して、模擬授業ができる。 3) 日英語指導案および細案が作成できる。				
19.教科書・教材	1) 『新英語科教育法入門』（英語科教育法 1～3 で使用した教科書と同じ） 2) 山岡大基・田頭憲二（編著）（2023）『英語授業デザインマニュアル』大修館書店 3) ハンドアウト配付				
20.参考文献	英語科教育法Ⅰ～Ⅲの教科書 中学・高校の検定教科書 中高の英語学習指導要領はファイルで配布 ・小橋雅彦『若い英語教師のための教材研究入門』（2021）大学教育出版 ・笹島茂・宮原万寿子・末森咲・守屋亮（編）（2023）『英語授業をよくする質的研究のすすめ』ひつじ書房 ・白畑知彦・富田?一・村野井仁・若林茂則（1999・2019）『英語教育用語辞典<第3版>』大修館書店 文部科学省（2012）『言語活動の充実に関する指導事例集・中学校版』教育出版発行・文部科学省 ・中嶋洋一（2023）『英語教師の授業』				
21.成績評価	1) 教材研究 10+5=15% （2 回目は修正版）学習目標 1 に対応 2) 指導案（日本語）10+5+7=22% （2 回目は修正版、3 回目は完成版）学習目標 1 に対応 3) 指導細案 10+5 = 15% （2 回目は模擬授業実施版）学習目標 1 に対応 4) 指導案（英語） 13% 学習目標 1 に対応 5) 模擬授業 30% （担当者および受講者による評価）学習目標 2 に対応 6) 模擬授業のふりかえり 5% ふりかえり * 合格基準：教材研究・指導案・細案を各々複数回提出し、模擬授業を実施 ◎模擬授業実施以外のレポート				
22.コメント	※教育実習と直結する科目なので、無欠席で受講することを求めます。				

	※英語能力が低い者は、英語教師に向いていません。 英検準 1 級または TOEIC 730 以上を、3 年終了時に取得、または、このレベルを目標にしておくことが望ましい。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：調整中	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	導入（シラバス説明、スケジュール） 講義：教材研究 1	教材研究(60 分)
第 2 回	講義：教材研究 2、指導案の概略	教材研究レポート作成(90 分)
3	指導案サンプルの説明と書き方の要点と細部について	指導案作成の準備(60 分) 教材研究レポート： Web Class へ提出
4	教材研究レポートの講評、教材研究修正、観点別評価	教材研究レポートの加筆・修正(60 分)
5	細案サンプルの説明と書き方の要点、音読指導の説明と実習	音読の練習（30 分）、教材研究修正案作成(60 分) Web Class へ提出
6	指導過程、指導案作成、音読の実際	指導案レポート 1 作成(90 分) Web Class 経提出
7	指導案の講評および受講者間での評価、指導案修正、板書計画の説明と実技	細案レポート作成(60 分)
8	細案作成、ALT の活用と TT	指導案レポート 1 の加筆・修正(60 分)
9	文法指導の在り方、語彙指導の工夫	細案レポートの作成(90 分) Web Class へ提出
10	細案の講評および受講者間での評価、英語版指導案の要点	指導案 2 の作成（30 分） 模擬授業の準備(60 分)
11	英語による Oral Introduction から新語導入まで、教室英語の実際	細案修正し（45 分）：Web Class へ提出 模擬授業の準備(45 分)
12	細案に基づく模擬授業の練習と振り返り	模擬授業の準備(70 分)
13	模擬授業実施（相互評価）	指導案 2 の修正（30 分） 模擬授業の準備(60 分)
14	模擬授業実施（相互評価）	各レポートを Word ファイルで作成(90 分)
15	模擬授業 2 のふりかえり + 討論 講義：教育実習に向けて 模擬授業のふりかえり、指導案、細案、英語指導案の提出（Web Class へ提出）	指導案（日本語・英語）、細案、模擬授業の振り返りの 4 点を Word ファイルで作成し Web Class へ提出（90 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDE205-A51	2.科目名	英語発音指導法		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部初等英語教育コース、 教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	中学教諭 1 種（英語） 高校教諭 1 種（英語）		11.先修条件	英語音声学を履修していることが望ましい 音声の学修が初めての学生も歓迎		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	<概要> 受講者の英語発音を矯正し、教室での発音のモデルを提示しできるレベルにまで訓練する。また、児童・生徒に対して発音指導ができるよう、指導法について教授する。また、その指導法を他の受講者に対して実践できる能力を養成する。 <目的> 小学校と中学校前半の学習者には発音の導入指導を、中学校後半から高校の生徒対象では発音の矯正指導ができる技術を学び、合わせて発音のモデルを示すことができる発音能力の習得を目指します。 1) 英語発音の目標として国際語としての英語（EIL）のレベルに達する 2) 英語の発音指導の基礎を習得し、実践できる					
18.学習目標と DPとの関連	1) 自身の発音能力向上の為に継続的な練習ができる 自律性 2) 発音指導において問題点を見つけ、指導に必要な方法を決めることができる 課題発見・課題解決能力 3) 英語音声学で学んだ知識を活用する力を要請する					
19.教科書・教材	調整中（秋学期前に掲示）					
20.参考文献	調整中					
21.成績評価	レポート 10+10=20% （英語音声学に関する課題） 発音テスト 10+10+25=45% （中間 2 回と期末で計 3 回実施） Performance 15%（Jazz chants & 対話文） 発音指導実践 20% （問題のある発音を聞き、問題点を指摘し、矯正法を示す）					
22.コメント	●教育福祉学科で、小学校教員を目指している学生の受講を勧めます。 ●英語の発音が良い先生は、児童・生徒から信頼と尊敬を得ます。 ●英語教育・英語コミ学科で教職課程を履修する学生は関連科目として英語音声学が必修です。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 月曜日 3 限目 研究室オフィスアワー 月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1. 10/03	導入（シラバス説明、発音診断ソフト説明）、発音診断、 英語音声学の基礎知識、Jazz Chants 練習			発音評価アプリおよび自宅練習（30 分）		

2. 10/10	診断テストのフィードバック、英語のリズム、破裂音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
3. 10/17	英語のイントネーション 1, 前舌母音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
4. 10/24	英語のイントネーション 2, 摩擦音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
5. 10/31	中間発音テスト 1、英語の文強勢、中舌・後舌母音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
6. 11/07	その他の子音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
7. 11/14	英語の音声変化、二重母音の矯正、Jazz Chants 練習	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
8. 11/21	日英語の母音比較と英語の母音指導法、Jazz Chants 発表	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
9. 11/28	パフォーマンス振り返り、英語のリズムとイントネーション復習	レポート 1 作成 (50 分)
10. 12/05	中間発音テスト 2、日英語の子音比較と英語の子音指導法、対話文練習、レポート 1	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
11. 12/12	日英語のリズムの違いとプロソディの指導法、対話文発表 (パフォーマンス)	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
12. 12/19	発音指導実践演習 1	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
13. 1/09	発音指導実践演習 2、指導法テスト	発音評価アプリおよび自宅練習 (30 分)
14. 1/16	最終発音テスト、英語音声表現 (発表)、レポート 2 の説明	レポート 2 作成 (60 分)
15. 1/23	発音テストフィードバック、授業の振り返り、レポート 2	

1.授業コード (ナンバリング)	EDS202-M51	2.科目名	社会科教育法Ⅱ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（2年）	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義呼び演習 （うち、3回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における歴史的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 中学校社会科の歴史教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる歴史学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、歴史学への理解を深めるとともに、歴史教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 3 授業の実践を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備などの的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1 中学校社会科の学習の意義を、特に歴史的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 中学校社会科の歴史的分野の教育に必要な歴史に関する専門的学識を学ぶ。 3 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会教科書の各種 その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは歴史学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために歴史学の専門的学識が歴史教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。					

		* オンデマンド回分の学習の確認は、web Class で、「ふりかえりコメント」を投稿します。 * 生成 Ai の利活用に関しては、大学の基本方針の下、本授業では、「無条件で利用を認めます」。そのうえで、将来、学校で授業を行う際の利活用について、しっかりと自分の考えをまとめることを期待します。なお、小テスト、レポート等の作成に際しては、生成 AI を利用したことを明記することを条件とします。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス、歴史教育論総説：歴史教育の意義、学習指導要領の教育目標と課題、歴史教育の方法	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 2 回	通史学習の方法と教材開発Ⅰ（古代史）：東アジア文明の影響、律令国家形成と古代文化などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 3 回	通史学習の方法と教材開発Ⅱ（中世史）：武家政治の展開、東アジア世界との関係、産業の発達、中世文化などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 4 回	通史学習の方法と教材開発Ⅲ（近世史）：戦国末期の変動、江戸幕府の支配体制、近世の産業、近世の教育と文化などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 5 回	通史学習の方法と教材開発Ⅳ（近・現代史）：近代国家の成立、国際関係、近代産業の発達、近代文化、戦後の日本などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） ★ミニ・レポート提出★
第 6 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての授業プロセスの構想を検討する * 特に、検討の視点としては、史料を活用する歴史教育の方法に着目し、①史料の意義、②史料を活用する授業の研究、③身近な地域の歴史学習のための史料の調査、などについて考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 7 回	主題学習の方法と教材開発Ⅰ：日本の世界史的考察の視点、日本と諸外国との相互交流の歴史的展開に関する授業の工夫	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 8 回	主題学習の方法と教材開発Ⅱ： 文化史の捉え方、古典・芸術の歴史教材化の試み 主題学習の方法と教材開発Ⅲ： 人物史学習の視点、人物史から見た転換期の発展的学習について	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） ★模擬授業希望調査票提出
第 9 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の構想を描く * 特に、特定の時代やテーマを設定し、授業展開のシナリオを作成する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 10 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）

	* 情報機器を活用した授業の工夫（１）	★ミニ・レポート提出
第 11 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言 * 情報機器を活用した授業の工夫（２）	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習
第 12 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の再検討 * 授業観察を経て、自己の模擬授業のプランを再編集する	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅱ：同上	○総括試験の準備 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	歴史教育論の総括：模擬授業の総括的評価、歴史教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	提出物：学習指導案提出 復習：今回の復習及び授業ノート・資料の整理

1.授業コード (ナンバリング)	EDS202-Y51	2.科目名	社会科教育法Ⅱ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（2年）	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義呼び演習 （うち、3回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における歴史的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 中学校社会科の歴史教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる歴史学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、歴史学への理解を深めるとともに、歴史教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 3 授業の実践を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備などの的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1 中学校社会科の学習の意義を、特に歴史的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 中学校社会科の歴史的分野の教育に必要な歴史に関する専門的学識を学ぶ。 3 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会教科書の各種 その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは歴史学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために歴史学の専門的学識が歴史教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。					

		* オンデマンド回分の学習の確認は、web Class で、「ふりかえりコメント」を投稿します。 * 生成 Ai の利活用に関しては、大学の基本方針の下、本授業では、「無条件で利用を認めます」。そのうえで、将来、学校で授業を行う際の利活用について、しっかりと自分の考えをまとめることを期待します。なお、小テスト、レポート等の作成に際しては、生成 AI を利用したことを明記することを条件とします。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス、歴史教育論総説：歴史教育の意義、学習指導要領の教育目標と課題、歴史教育の方法	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 2 回	通史学習の方法と教材開発Ⅰ（古代史）：東アジア文明の影響、律令国家形成と古代文化などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 3 回	通史学習の方法と教材開発Ⅱ（中世史）：武家政治の展開、東アジア世界との関係、産業の発達、中世文化などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 4 回	通史学習の方法と教材開発Ⅲ（近世史）：戦国末期の変動、江戸幕府の支配体制、近世の産業、近世の教育と文化などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 5 回	通史学習の方法と教材開発Ⅳ（近・現代史）：近代国家の成立、国際関係、近代産業の発達、近代文化、戦後の日本などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） ★ミニ・レポート提出★
第 6 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての授業プロセスの構想を検討する * 特に、検討の視点としては、史料を活用する歴史教育の方法に着目し、①史料の意義、②史料を活用する授業の研究、③身近な地域の歴史学習のための史料の調査、などについて考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 7 回	主題学習の方法と教材開発Ⅰ：日本の世界史的考察の視点、日本と諸外国との相互交流の歴史的展開に関する授業の工夫	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 8 回	主題学習の方法と教材開発Ⅱ： 文化史の捉え方、古典・芸術の歴史教材化の試み 主題学習の方法と教材開発Ⅲ： 人物史学習の視点、人物史から見た転換期の発展的学習について	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） ★模擬授業希望調査票提出
第 9 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の構想を描く * 特に、特定の時代やテーマを設定し、授業展開のシナリオを作成する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 10 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）

	* 情報機器を活用した授業の工夫（１）	★ミニ・レポート提出
第 11 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言 * 情報機器を活用した授業の工夫（２）	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習
第 12 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の再検討 * 授業観察を経て、自己の模擬授業のプランを再編集する	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅱ：同上	○総括試験の準備 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	歴史教育論の総括：模擬授業の総括的評価、歴史教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	提出物：学習指導案提出 復習：今回の復習及び授業ノート・資料の整理

1.授業コード (ナンバリング)	EDS301-Y51	2.科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（2年）	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義呼び演習 （うち、3 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 中学校社会科の「公民的分野」教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる社会科学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、社会科学への理解を深めるとともに、「公民的分野」教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 3 授業の実践を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備なども的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1 中学校社会科の学習の意義を、特に公民的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 中学校社会科の公民的分野の教育に必要な社会科学に関する専門的学識を学ぶ。 3 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会教科書の各種 その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは歴史学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために社会科学の専門的学識が公民教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。					

		* オンデマンド回分の学習の確認は、Web Class で「ふりかえりコメント」を投稿します。 * 生成 Ai の利活用に関しては、大学の基本方針の下、本授業では、「無条件で利用を認めます」。そのうえで、将来、学校で授業を行う際の利活用について、しっかりと自分の考えをまとめることを期待します。なお、小テスト、レポート等の作成に際しては、生成 AI を利用したことを明記することを条件とします。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス、公民教育論総説：公民教育の意義、学習指導要領の教育目標と課題、公民教育の方法	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 2 回	第 1 部 現代社会（1） 第 1 章 現代社会と文化 ・ 現代社会の特色 ・ 私たちの生活と文化 * 「公民的分野」学習の方法と教材開発Ⅰ：指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 3 回	第 1 部 現代社会（2） 第 2 章 現代社会をとらえる枠組み * 「公民的分野」学習の方法と教材開発Ⅱ：①社会的存在としての私たち、②効率と公正、③私たちときまり、などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 4 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用して、全体授業の構造などを検討する * 特に、検討の視点としては、資料を活用する公民教育の方法に着目し、①資料の意義、②資料を活用する授業の研究、③身近な地域の公民学習のための資料の調査、などについて考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 5 回	第 2 部 政治（1） 第 1 章 日本国憲法 （1）民主主義と日本国憲法 （2）基本的人権の尊重 （3）法の支配を支えつつのしくみ	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 6 回	第 2 部 政治（2） 第 2 章 民主政治 （1）民主政治と私たち （2）国の政治のしくみ （3）地方自治と私たち	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） ★ミニ・レポート提出★
第 7 回	第 3 部 経済（1） 第 1 章 市場経済 （1）私たちの生活と経済 （2）消費者と経済 （3）企業と経済 （4）これからの日本経済	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）

第 8 回	第 3 部 経済 (2) 第 2 章 財政 (1) 私たちの生活と財政 (2) 国の支出と収入 (3) 社会資本の役割と咸鏡への取り組み (4) 社会保障と私たちの生活 (5) これからの日本財政	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習 (Web Class で事前提示) ★ミニ・レポート提出★ ★模擬授業希望調査票提出
第 9 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の構想を描く * 特に、特定の時代やテーマを設定し、授業展開のシナリオを作成する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習 (Web Class で事前提示)
第 10 回	第 3 部 国際 第 1 章 国際社会 (1) 紛争のない世界へ (2) 貧困解消と環境保全 第 2 章 課題の探究 (1) 持続可能な社会を目指して	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習 (Web Class で事前提示)
第 11 回	学習指導案作成及び教材構成の指導：第一次案の作成、各担当内容の教材研究についての指導・助言 * 情報機器を活用した授業の工夫	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習
第 12 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の再検討 * 授業観察を経て、自己の模擬授業のプランを再編集する	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅱ：同上	○総括試験の準備 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	公民教育論の総括：模擬授業の総括的評価、公民教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	提出物：学習指導案提出 復習：今回の復習及び授業ノート・資料の整理

1.授業コード (ナンバリング)	EDS302-m51	2.科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（2年）	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義呼び演習 （うち、3 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 中学校社会科の「公民的分野」教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる社会科学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、社会科学への理解を深めるとともに、「公民的分野」教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 3 授業の実践を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備なども的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1 中学校社会科の学習の意義を、特に公民的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 中学校社会科の公民的分野の教育に必要な社会科学に関する専門的学識を学ぶ。 3 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会教科書の各種 その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは歴史学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために社会科学の専門的学識が公民教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。					

		* オンデマンド回分の学習の確認は、Web Class で「ふりかえりコメント」を投稿します。 * 生成 Ai の利活用に関しては、大学の基本方針の下、本授業では、「無条件で利用を認めます」。そのうえで、将来、学校で授業を行う際の利活用について、しっかりと自分の考えをまとめることを期待します。なお、小テスト、レポート等の作成に際しては、生成 AI を利用したことを明記することを条件とします。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス、公民教育論総説：公民教育の意義、学習指導要領の教育目標と課題、公民教育の方法	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 2 回	第 1 部 現代社会（1） 第 1 章 現代社会と文化 ・ 現代社会の特色 ・ 私たちの生活と文化 * 「公民的分野」学習の方法と教材開発Ⅰ：指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 3 回	第 1 部 現代社会（2） 第 2 章 現代社会をとらえる枠組み * 「公民的分野」学習の方法と教材開発Ⅱ：①社会的存在としての私たち、②効率と公正、③私たちときまり、などの指導の留意点と教材開発	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 4 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用して、全体授業の構造などを検討する * 特に、検討の視点としては、資料を活用する公民教育の方法に着目し、①資料の意義、②資料を活用する授業の研究、③身近な地域の公民学習のための資料の調査、などについて考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 5 回	第 2 部 政治（1） 第 1 章 日本国憲法 （1）民主主義と日本国憲法 （2）基本的人権の尊重 （3）法の支配を支えつつのしくみ	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
第 6 回	第 2 部 政治（2） 第 2 章 民主政治 （1）民主政治と私たち （2）国の政治のしくみ （3）地方自治と私たち	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） ★ミニ・レポート提出★
第 7 回	第 3 部 経済（1） 第 1 章 市場経済 （1）私たちの生活と経済 （2）消費者と経済 （3）企業と経済 （4）これからの日本経済	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）

第 8 回	第 3 部 経済 (2) 第 2 章 財政 (1) 私たちの生活と財政 (2) 国の支出と収入 (3) 社会資本の役割と咸鏡への取り組み (4) 社会保障と私たちの生活 (5) これからの日本財政	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習 (Web Class で事前提示) ★ミニ・レポート提出★ ★模擬授業希望調査票提出
第 9 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の構想を描く * 特に、特定の時代やテーマを設定し、授業展開のシナリオを作成する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習 (Web Class で事前提示)
第 10 回	第 3 部 国際 第 1 章 国際社会 (1) 紛争のない世界へ (2) 貧困解消と環境保全 第 2 章 課題の探究 (1) 持続可能な社会を目指して	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習 (Web Class で事前提示)
第 11 回	学習指導案作成及び教材構成の指導：第一次案の作成、各担当内容の教材研究についての指導・助言 * 情報機器を活用した授業の工夫	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習
第 12 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の再検討 * 授業観察を経て、自己の模擬授業のプランを再編集する	○各自担当授業の予習 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅱ：同上	○総括試験の準備 ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	公民教育論の総括：模擬授業の総括的評価、公民教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	提出物：学習指導案提出 復習：今回の復習及び授業ノート・資料の整理

1.授業コード (ナンバリング)	EDU102-A51	2.科目名	教職概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について講義とともにアクティブラーニングなどを通して主体的に身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 【概要】 ●本講義では、教職のあり方や教師像を形成した歴史的・社会的背景を広く概観して理解する。 ●専門職としての教職の意義や教師の役割を理解する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 ②教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 ③教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 ④学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『教職概論 第6次改訂版』佐藤晴雄 学陽書房				
20.参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。				
21.成績評価	1. 課題 1 30%：教師に関する新聞記事（ネット可）を収集し、それを用紙に貼るとともに、記事の内容を通して教師という職業について考えることを書く。【学習目標①②に対応】 2. 課題 2 30%：これまで学修してきた内容を踏まえて、自身が考える理想とする教師・保育士像について書く。【学習目標①②④に対応】 3. 総括試験 40% 【学習目標①②③④に対応】 ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	・子どもたちのお手本となるような授業態度で受講すること。 ・生成AIの活用は条件付きで認める。なお、課題作成にあたって、生成AIの答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意すること。				
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第1回】	講義：オリエンテーション … 教科書 pp.195-230 ・講義の概要を理解する。また、教職志望度の確認をする。			○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.33-55 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)	

【第 2 回】	講義：日本の教職観の変遷 … 教科書 pp.33-55 ・教職観の歴史と今日教師に求められる役割を学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.56-73 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 3 回】	講義：教員養成の歴史と現状 … 教科書 pp.56-73 ・教師と教員養成の歴史について学ぶ。	○前回と今回の授業の復習をし、日本の教職の歴史を整理する。(120 分) ○次回の予習として、子供を教育することとは子供に何をすることなのか、調べたり考えたりして整理する。(120 分)
【第 4 回】	講義：教職の意義（１） ・野生児の事例の検討を通して、教職の意義を考える。	○今回の授業の復習をする。(120 分)
【第 5 回】	講義：教職の意義（２） ・ボノボの事例の検討を通して、教職の意義を考える。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.19-32 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 6 回】	講義：教職の意義（３） … 教科書 pp.19-32 ・４回目と５回目の講義内容と社会化理論に関連づけて、教職の意義を考える。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.92-115 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 7 回】	講義：教師の役割と仕事 … 教科書 pp.92-115 ・教師の勤務実態と精神疾患について学ぶ。	○【課題 1】教師に関する新聞記事（ネット可）を収集し、それを用紙に貼るとともに、記事の内容を通して教師という職業について考えることを書く。(180 分) ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.133-154 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 8 回】	講演：小学校教員という職業の魅力 … 教科書 pp.133-154 ・教師の職務内容とその特徴（他職業との比較）について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.116-133 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 9 回】	講義：管理職・主任の役割とチーム学校 … 教科書 pp.116-133 ・管理職・主任の役割の概要と、チーム学校運営とそれへの対応について学ぶ。	○【課題 2】これまで学修してきた内容を踏まえて、自身が考える理想とする教師・保育士像について書く。(180 分) ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.42-55 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 10 回】	講義：メディアと教師 … 教科書 pp.42-55 ・メディアによって形成される教師像について考える。	★課題 1 提出 ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.74-91 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 11 回】	講義：教員の任用と服務 … 教科書 pp.74-91 ・教員の任用と服務の概要について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.155-174 を読

		んで、わからないところをチェックする。 (120 分)
【第 12 回】	講義：教師の力量形成 … 教科書 pp.155-174 ・教師の資質向上と研修について学ぶ。	★課題 2 提出 ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.155-230 を読んで、わからないところをチェックする。 (240 分)
【第 13 回】	講義：養成段階から初任期への移行 … 教科書 pp.155-230 ・教職への進路選択と教員採用選考、新任教師の課題について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○これまでの学習内容を復習する。(360 分)
【第 14 回】	総括試験	
【第 15 回】	講義：まとめ ・これまでの復習を行い、本科目の自身の学習到達度について理解する。	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU201-A52	2.科目名	公教育論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、公教育をめぐる知識を理解し、現代公教育のあり方に関して自身の意見を述べることを目的としています。 【概要】 この授業では、公教育として行われている学校教育に関する知識、具体的には公教育の基本原則、現代日本の公教育体制について学んでいきます。その上で、これらの知識内容を踏まえながら、現代公教育がどのようにあるべきなのかについて、適宜グループワークを行い、プレゼンテーションを実施します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。）、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。）の2点を重点的に育成することを意図しています。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 (1)公教育に関する専門知識を説明することができる。 (2)公教育のあり方に対する自身の意見を論理的に述べることができる。					
19.教科書・教材	坂野慎二、湯藤定宗『学校教育制度概論』玉川大学出版部、2022 年					
20.参考文献	・ 授業の際に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 ①小テスト（6 回） 18%（学修目標(1)に対応） ②グループワークとそれに基づく発表（14 回） 42%（学修目標(2)に対応） ③総括試験 40%（学修目標(1)、(2)に対応） なお、レポートのルーブリック等（評価基準）は第 1 回目の授業で示します。					
22.コメント	授業では、公教育に関する基本的な知識内容について説明し、小テストも行いますので、予習・復習など授業時間外の学修をしっかりと行うことが求められます。また、修得した知識内容の理解やグループワークでの議論を通じて、公教育に対する自分なりの意見を持てるようになってほしいと思います。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー	火曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・「第 1 章 教育制度と教育改革」			復習：配付資料に基づいて、第 1 回について復習する。(60 分) 予習：教科書を活用して第 2 章について学ぶ。(120 分)		
【第 2 回】	・「第 2 章 学校教育制度の基本原則(1)～就学前教育制度と初等教育制度～			復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行い、小テストに備える。(180 分)		

		予習：教科書を活用して第3章について学ぶ。(60分)
【第3回】	・「第3章 学校教育制度の基本原理(2)～中等教育制度と特別支援教育制度～」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第3回の復習を行い、小テストに備える。(180分) 予習：教科書を活用して第4章について学ぶ。(60分)
【第4回】	・「第4章 高等教育と生涯学習」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第4回の復習を行い、小テストに備える。(180分) 予習：教科書を活用して第5章について学ぶ。(60分)
【第5回】	・「第5章 教育行政の実際(1)～中央教育行政～」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第5回の復習を行い、小テストに備える。(180分) 予習：教科書を活用して第6章について学ぶ。(60分)
【第6回】	・「第6章 教育行政の実際(2)～地方教育行政～」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第6回の復習を行い、小テストに備える。(180分) 予習：教科書を活用して第7章について学ぶ。(60分)
【第7回】	・「第7章 学校の組織と運営」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第7回の復習を行い、小テストに備える。(180分) 予習：教科書を活用して第8章について学ぶ。(60分)
【第8回】	・「第8章 学校の質保証と学校参画」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第8回の復習を行う。(180分) 予習：教科書を活用して第9章について学ぶ。(60分)
【第9回】	・「第9章 選抜システムとしての学校制度」	復習：配付資料に基づいて、第9回の復習を行う。(120分) 予習：教科書を活用して、第10章について学ぶ。(120分)
【第10回】	・「第10章 学校教育の新たな課題(1)～教育政策の国際化～」	復習：配付資料に基づいて、第10回の復習を行う。(120分) 予習：教科書を活用して第11章について学ぶ。(120分)
【第11回】	・「第11章 学校教育の新たな課題(2)～学校の安心・安全と未来への準備～」	復習：配付資料に基づいて、第11回の復習を行う。(120分) 予習：教科書を活用して第12章について学ぶ。(120分)
【第12回】	・「第12章 学校教育制度の成立と発展」	復習：配付資料に基づいて、第12回の復習を行う。(120分) 予習：教科書を活用して第13章について学ぶ。(120分)
【第13回】	・「第13章 学校教育制度の展開」	復習：配付資料に基づいて、第13回の復習を行う。(120分) 予習：教科書を活用して第14章について学ぶ。(120分)
【第14回】	・「第14章 学校教育の現在と未来」	復習：配付資料に基づいて、第14回の復習を

		行う。(120 分) 予習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300 分)
【第 15 回】	・ 総括試験と公教育のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU203-A51	2.科目名	学校経営論	3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫				
5.授業科目の区分	展開科目 教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	6.必修・ 選択の区分	選択 教職選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習（グループワーク）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】「社会的な教育機関である学校の特性・構造等を理解し、学校経営の基礎・基本について学ぶ。」 【概要】 ○社会の中での学校の役割が理解できる。 ○ギガスクール構想の意義とこれからの学校・学級の姿について理解できる。 ○学校組織の構造と特性が理解できる。 ○教職員の職務の特性が理解できる。 ○学校経営・学級経営の本質が理解できる。 ○教師力について理解し、実践力の基礎を身につけることができる。				
18.学習目標と D P との関連	【D P に基づく本授業の学修目標】 (1)自律性：社会的な教育機関である学校の特性・構造等について、自らの経験を振り返りと対照しながら理解できるようになること。 (4)問題発見・解決力：知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる。 (6)専門的知識・技能の活用力：必要かつ信頼できる情報を取捨選択して集め、問題解決のために要点を整理・保存することができる。 【詳細】 (1-1) 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 (1-2) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 (4-1) 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 (4-2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 (6) 学校の管理下で起こる多様な事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解し活用できるようにする。				
19.教科書・教材	○笑育ドリル～「育てる」をもっと楽しく・おもしろく～ ※「生徒指導・進路指導論」でも使用します。				
20.参考文献	○笑育のすすめ～「笑顔」の力で教育が変わる～ エイチエス出版				
21.成績評価	○グループワークを含む学修記録としての、ワークシートの作成（ほぼ毎時）と提出				

	・的確に内容が把握しているか ・自分の意見や考えが記述されているか … 60% ○講義内で、自分の意見や考えが発表されているか … 10% ○小レポート（学級通信づくり） … 10% ○学期末まとめのテスト ・総復習で学びを振り返る … 20%	
22.コメント	○教科書「笑育ドリルII」を演習などに使用します。必ず購入してください。 ○途中、オンデマンドの講義を5回ほど予定しています。詳細は対面授業で説明しますが、Webclassを活用しますので、準備をお願いします。 ○小学校生活は誰もが経験しています。いろいろな思い出があると思いますが、皆さんが受けてきた教育には、どのような意味やねらいがあったのでしょうか。一緒に学んでいきましょう。アクティブラーニングを基本とした講義と言うものは、集団思考に価値があります。即ち、出席してナンボです。第1回目から15回目までしっかりと出席できる人を待っています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	オリエンテーション ・受講のルールの確認 ・シラバスの詳細等々	○小学校での「全校朝会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第2回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題1) ・学校の歴史 ・学校をめぐる近年の課題について ・「全校朝会」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「朝の会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（180分）
【第3回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題2) ・子どもを巡る社会の変化と課題 ・学校制度と小学校の役割 ・社会構造の変化と学校 ・「朝の会」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「終わりの会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第4回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題3) ・PISA型調査から見た日本の教育課題 ・学びの個別化・最適化について ・「終わりの会」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「給食」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第5回】	◇学校教育制度について考える1) ・公教育の原理と理念（教育基本法から） ・「給食」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○クラスで実施していた「掃除のルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）

【第 6 回】	◇学校教育制度について考える 2） ・教育制度を支える教育行政の仕組みと理念 ・「掃除のルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「当番活動」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120 分）
【第 7 回】	◇学校教育制度について考える 3） ・教育制度をめぐる諸課題 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「係活動」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120 分）
【第 8 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 1） ・公教育の目的と学校経営 ・「係活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○ 各クラスで実施していた「シールの活用」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120 分）
【第 9 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 2） ・学校の年間計画と学校評価 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「宿題」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90 分）
【第 10 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 3） ・学校経営の仕組み（校務分掌等） とその方法 ・「宿題」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「シャープペンシルのルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90 分）
【第 11 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 4） ・教職員の連携 ・「シャープペンシルのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「席替え」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90 分）
【第 12 回】	◇学校と地域の連携 1） ・地域との連携と協働のあり方 ・「席替えのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「指名の仕方」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90 分）
【第 13 回】	◇学校と地域の連携 2） ・地域との連携と開かれた学校づくり ・「音読」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○GIGA スクール構想についてそのねらいについて調べてくる。

【第 14 回】	◇GIGA スクール構想の意味と意義 ・学校・授業等に関する教師のバイアスについて ・「個別最適化」について ・「ワークシートの作成」	○ レポート課題については、自宅ですらにまとめる。(240 分)
【第 15 回】	◇学校のこれから ・未来の学校とは… ・安全管理と安全教育の課題 ・学修のまとめ小学校のこれから…教師のこれから… ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○全時のふり返りとまとめ (120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EDU203-Y51	2.科目名	学校経営論		3.単位数	2
4.授業担当教員	平井正朗					
5.授業科目の区分	中高教職 教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	6.必修・選択の区分	教職選択必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、グループワーク等		
16.履修制限	教職課程の履修登録					
17.授業の目的と概要	学校の“主役”は生徒であり、教師の仕事の中心は授業です。その授業は学校経営の枠内で行われています。本授業ではカリキュラム・マネジメントを通じた学校経営についての先行事例を概観し、そのあり方を理解すると同時に、「チーム学校」の一員として協働することの意味を学修します。 教歴を積み重ねると、ミドル・リーダーとしての役割が期待され、校内での仕事量も増加します。本授業では良循環型学校経営のあり方、スクールリーダーとしてのあり方についての認識も深めます。					
18.学習目標とDPとの関連	①大項目 「問題解決能力を身につける」 中項目 「問題発見力 レベル2 〈現状を認識し、生じている問題に気づき、解決のための課題を見つける。〉」 学校経営は、教職員が教育活動の位置づけを意識しながら「チーム学校」として、さらに保護者や地域の人々、産業界も巻き込みつつ、協働的に生徒の成長に関わることで目標達成が可能となります。教職員一人ひとりが、各自の課題解決に向けて具体的な目標を設定し、その実現に向けてPDCAサイクルを展開することが健全な学校経営とつながるという認識を深めていただきたいと思います。 ②大項目 「社会に貢献できる人間になる」 中項目 「社会的能動性 レベル2 〈集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動できる。〉」 一人一人の教師が、課題解決に向けての自己の役割を自覚しながら協働する資質を育成することが重要です。そのような資質を本授業を通して培うことが出来ればと考えます。 学校では日々、様々な課題が発生します。それぞれの事象に対し、教職員は情報を共有、解決に向けて合意形成の下、説明責任を意識しながら解決に向けて取り組まなければなりません。授業改善については、教員の学び合いを基調とする効果的なOJTやOff-JTを例示しつつ、教員に求められる力の指標化や研修指針の策定について考察します。					
19.教科書・教材	教科書は後日、指示します。 各授業時に教材としてプリントを資料として配布するので、それをきちんとファイルすることが必要です。					
20.参考文献	大阪市・大阪市教育委員会「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書」令和5年10月					

21.成績評価	① 学校経営に関する事例へのコメント 10 回 $\times 4 = 40\%$ ② 中間課題 1 回 $\times 20 = 20\%$ ③ 最終課題 1 回 $\times 40 = 40\%$ 最終評価は、①から③の合計とし、100 点満点とする。	
22.コメント	学校経営とは、安心・安全の下、各校が独自で設定した目標に向けて、地域と連携しつつ、人的・物的資源を有効活用し、最も有効な方法で運営を行い「めざす学校」の形にすることです。社会が加速度的に変化し、予測不能と言われる時代、教科の枠を超えた高度なテーマに取り組む学校、地域社会の課題に取り組む学校など、特色ある学校づくりを経営という視点から考察し、教師の“あるべき”姿を一緒に考えましょう。 ※生成 AI 利用：条件付きで認める	
23.オフィスアワー	なし	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	・オリエンテーション (本授業の目標、内容、成績評価、授業を受ける上での留意点) ・学校に求められていること ・学校経営を学ぶ必要性について	学校経営論のプリントを配布する。このプリントをファイルし、毎回、持参すること。 (以下、同様)
2 回目	公教育の経営 ・学校教育への考え方、公教育の実施原則、教育委員会の管理権と自己裁量権、学校に対する管理権の改革について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
3 回目	学校づくりと学校経営 ・学校力の構築、学校づくりと経営、学校の意思形成と運営組織、学校 ・教育の変化と学校づくりについて学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
4 回目	学校づくりと法の関係 ・学校の規範法化、学校の経営法化、学校の私法化について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
5 回目	カリキュラムを核にした協働 ・カリキュラム・マネジメントの機能化について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
6 回目	生徒指導と学校づくり ・生徒指導体制、支援体制について学び、支援機関について考える。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
7 回目	学級・ホームルーム経営 ・学級の歴史、学級の特質、学級経営の理論と実際、学級経営と学級	中間課題の提示

	担任について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
8 回目	学校組織における教師のストレス ・教師のストレス、教育相談システムの構築、管理職のストレスについて学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
9 回目	学校の危機管理 ・危機管理について学び、学校安全や不審者への対応について考える。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	中間課題の提出
10 回目	学校におけるミドルリーダーの役割 ・ミドルリーダーの役割、ミドルリーダーの育成と今後の課題、可能性について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
11 回目	グループワーク：テーマ 「開かれた学校づくり」 ・グループに分かれ、テーマについてのグループ討議を行い、代表者が発表。 ・グループ討議の感想文を提出すること。この提出をもって出席とする。	
12 回目	学校づくりと保護者・地域住民 ・グループ討議の結果から「開かれた学校づくり」について考える。 開かれた学校づくりの“あるべき姿”を探究的に再構築する。 ・グループ討議の感想文を提出すること。この提出をもって出席とする。	
13 回目	グループワーク：学校評価と学校づくり ・学校評価の制度化、学校評価の方法、学校づくりに生かす学校評価のあり方について学ぶ。 ・グループワーク：グループに分かれ学校評価を作成し、代表者が発表。	最終課題の提示
14 回目	日本における学校について概観 ・日本における公立学校を概観し、特色ある私立学校についても「学校経営」の視点から考察する。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
15 回目	グループ面談 ・授業を振り返って：自己評価表への記入 ・グループ面談を実施し、授業の在り方や一人一人の授業の参加度等 についての意見交換を行う。 ・最終課題の受け取り、出欠の確認	最終課題の提出

1.授業コード (ナンバリング)	EDU204-A51	2.科目名	教育制度論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	「日本国憲法」をあらかじめ履修しておくことが望ましいです。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度に関する基本的な知識を理解し、よりよい教育制度にするための提案力を身につけることを目的とします。 【概要】 この授業では、現代教育に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などの制度がどのように関わっているのかを理解します。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身につけることもめざします。なお、教育の事例や制度に対して受講者の意見を求めるなど、学生参加型の授業形式も必要に応じて取り入れます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。）、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。）の2点を重点的に育成することを意図しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.教育制度の基本原則について説明できる。 2.学校現場に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 3.教育行政に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 4.教育制度の改善・改革案を提案することができる。					
19.教科書・教材	・ 授業では、資料を適宜配布します。 ・ 授業時間外では、次のテキスト（加藤崇英、臼井智美編「教育の制度と学校のマネジメント」時事通信社、2025 年）を使用します。					
20.参考文献	坂田仰/黒川雅子共著『補訂版 事例で学ぶ"学校の法律問題"』教育開発研究所、2013 年。 篠原清昭編著『教育のための法学～子ども・親の権利を守る教育法～』ミネルヴァ書房、2013 年。 坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『学校教育制度概論【第2版】』玉川大学出版部、2017 年					
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 ○ふりかえり 12 回×2 点=24 点（学習目標の 1、2、3 に対応） ○WebClass での小テスト（テキストを使用） 7 回×3=21 点（学習目標の 2 に対応） ○総括試験 55 点（学習目標の 1、2、3、4 に対応）					
22.コメント	教職科目であるため、休まずまじめに授業を受講するとともに、授業時間外でも予習・復習など自主的な学習に取り組む姿勢を期待します。					

		※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、テストでは使用不可とします。
23.オフィスアワー		火曜 4 限
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・ オリエンテーション（授業の目標・内容、成績評価、授業の進め方、受講マナー等受講上の留意点） ・ 法律－教育行政－学校教育という制度の構造	○予習：参考書を活用して懲戒・体罰、出席停止の概要について学ぶ。(180 分) ☆第 1 回小テスト（テキスト第 2 章）(60 分)
【第 2 回】	・ 懲戒・体罰 ・ 出席停止 ・ 第 1 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用していじめと就学義務について学ぶ。(60 分)
【第 3 回】	・ いじめ ・ 就学義務 ・ 第 2 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して児童虐待と特別支援教育について学ぶ。(60 分)
【第 4 回】	・ 児童虐待 ・ 特別支援教育 ・ 第 3 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 4 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教員の服務について学ぶ。(60 分)
【第 5 回】	・ 教員の服務 ・ 第 4 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 5 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して分限処分、著作権について学ぶ。(60 分)
【第 6 回】	・ 分限処分 ・ 著作権 ・ 第 5 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 6 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育課程の基準、教科書等の使用について学ぶ。(60 分)
【第 7 回】	・ 教育課程の基準 ・ 教科書等の使用 ・ 第 6 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 7 回の復習を行う。(120 分) ○予習：参考書を活用して学校安全、学校事故について学ぶ。(60 分) ☆第 2 回小テスト（テキスト第 6 章）(60 分)
【第 8 回】	・ 学校安全 ・ 学校事故 ・ 第 7 回のふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 8 回の復習を行う。(120 分) ○予習：参考書を活用して学校組織について学ぶ。(60 分) ☆第 3 回小テスト（テキスト第 13 章）(60 分)
【第 9 回】	・ 学校組織 ・ 第 8 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 9 回の復習を行う。(120 分) ○予習：参考書を活用して学校評価と情報公開、開かれた学校について学ぶ。(60 分) ☆第 4 回小テスト（テキスト第 7 章）(60 分)
【第 10 回】	・ 学校評価と情報公開 ・ 開かれた学校	○復習：配付資料に基づいて、第 10 回の復習を行う。(120 分)

	・第 9 回ふりかえり	○予習：参考書を活用して教育の市場化について学ぶ。(60 分) ☆第 5 回小テスト（テキスト第 12 章）(60 分)
【第 11 回】	・教育の市場化 ・第 10 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 11 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育行政制度について学ぶ。(60 分)
【第 12 回】	・教育行政制度 ・第 11 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 12 回の復習を行う。(120 分) ○予習：参考書を活用して教育制度の基本原則について学ぶ。(60 分) ☆第 6 回小テスト（テキスト第 4 章、第 5 章）(60 分)
【第 13 回】	・教育制度の基本原則 ・第 12 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(120 分) ○予習：参考書を活用して学校体系について学ぶ。(60 分) ☆第 7 回小テスト（テキスト第 1 章）(60 分)
【第 14 回】	・学校体系	○復習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300 分)
【第 15 回】	・教育制度のまとめ（総括試験と講評）	○これまでの総復習（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDU205-M51	2.科目名	教育課程論		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	自由科目 (教職)	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。					
17.授業の目的と概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 教育課程の意義：学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 (1-1)学習指導要領の性格及び位置づけ並びに教育課程編成の目的を理解している。 (1-2)学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 (1-3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。 (2) 教育課程の編成の方法：教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 (2-1)教育課程編成の基本原理を理解している。 (2-2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 (2-3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 (3) カリキュラム・マネジメント：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 (3-1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理科している。 (3-2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。					
19.教科書・教材	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編」 (平成 30 年 3 月 東山書房 ISBN978-4-8278-1559-7) (※高校編は当面、文部科学省 HP 等を参照)					
20.参考文献	学習指導要領の本編、その他、文部科学省のホームページからダウンロード可。					
21.成績評価	中間試験（関連法規と学習指導要領の内容） 30％ 現代史と教育課程の変遷に関する発表 30％ 期末レポート（映像による授業実践例の分析） 40％					
22.コメント	生成 AI の利用■条件付きで認める 授業案作成等について、生成 AI 等の活用は許容範囲だが、授業実践は自らの責任において行う以上、授業案の内容についても授業者が責任を負うべきこと。それ以外のレポート等は自分の言葉で書くべきこと					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水 2 限（みさお館 2F） 研究室オフィスアワー 水 3 限(4 号館 5 階 26 号室)					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	教育課程編成の基本原則 1 (PDCA サイクル論をベースにしつつ、計画の前提として目的や目標の設定が重要であることを理解する)	教育基本法と学校教育法の復習 (1-2h)
	教育課程編成の基本原則 2 (系統主義と経験主義の二つの考え方を理解する)	
	学習指導要領の性格と位置づけ、教育課程編成の目的を理解する (新学習指導要領のポイントを確認する)	学習指導要領の記述に関する予習復習(1-2h)
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ 1 (第二次大戦前後から昭和 20 年代まで。戦後復興期と新学校教育体系の確立期)	
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ 2 (昭和 30 年代から 50 年代。高度経済成長と教育内容の現代化)	
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ 3 (昭和 50 年代から平成へ。経済の低成長・安定期、ゆとり教育と週五日制、学力低下論争)	
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ 4 (現在から未来へ。急激な社会変化と脱ゆとり路線、能力観の再構築と現代的な課題。教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する)	
	中間試験 (学習指導要領の要点に関する基礎知識を問う)	
	中学校の時間割編成 (シミュレーション・グループワーク。標準授業時数の考え方、教科の配列に関する配慮事項についての要点を理解する) 小学校の標準授業時数等についても合わせて理解する。	
	授業計画の立て方(年間授業計画、単元設定、評価の観点、単元ごとの指導案作成、基本的な指導案の構造について理解し、事例も参考にしながら、実際に指導案を作成する)	◎◎総合的な学習の時間に関する授業計画を立てる
	高等学校の教科科目構成、必修要件について。自分の経験も材料にして討論し、選択パターンの多様性について考える。	
	総合的な学習の時間を想定した授業計画を発表する (第 10 回で分析した事例も参考に、単元・学期・学年をまたいだ長期的視野から、生徒や学校、地域の実態を踏めた教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解する)	
	第 12 回の続き	
	カリキュラム・マネジメントとは何か (その意義と重要性を理解する)	
	カリキュラム評価とは何か (その基本的な考え方を理解する)	

	期末レポート作成のための授業風景動画の視聴を含む	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU205-Y81	2.科目名	教育課程論	3.単位数	2
4.授業担当教員	廣岡義之				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科／社会学部社会学科／国際コミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科・英語コミュニケーション学科／グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	
10.取得資格の要件	中学校教諭一種免許（社会） 高等学校教諭一種免許（公民） 高等学校教諭一種免許（情報） 中学校教諭一種免許/高等学校教諭一種免許（英語）	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	元来、「教育課程」とはカリキュラムすなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について概説する。受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。				
18.学習目標と DPとの関連	（授業のテーマ）教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、について、基本的な理解ができるようになることをめざす。 （到達目標） ・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。 ・教育課程の意義と目的について理解する。 ・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。 ・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。				
19.教科書・教材	広岡義之著、『新しい教育課程論概説』 あいり出版				
20.参考文献	文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成 30 年 2 月） 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成 30 年 3 月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房（平成 30 年 3 月）				
21.成績評価	1. 授業参加態度 ①授業内容の「メモをとる」等ができる（60-69）。これらに加えて（90-100）は受講態度がきわめて積極的なことが条件。 2. 復習テスト ①初等教育の基礎的な概念を説明できる。（60-69） これらに加えて初等教育の専門的な概念を説明できる。（90-100） ・上記項目を総合的に評価する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)			
第 1 回	1. 本講義のオリエンテーション				

第 2 回	2. 教育課程の意義（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）	
第 3 回	3. 学習指導要領の意義と内容の歴史の変遷（1）：戦後からゆとり教育まで	
第 4 回	4. 学習指導要領の意義と内容の歴史の変遷（2）：ゆとり教育から新学習指導要領まで	
第 5 回	5. 教育課程編成の教育目的・目標（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）	
第 6 回	6. 教育課程の諸類型について（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）	
第 7 回	7. 教育課程の編成の方法（幼稚園）（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）	
第 8 回	8. 教育課程の編成の方法（小学校）（1）：学習指導要領の特徴（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）	
第 9 回	9. 教育課程の編成の方法（小学校）（2）：現代的意義（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）	
第 10 回	10. 教育課程の編成の方法（中学校・高等学校）（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）	
第 11 回	11. 世界各国の教育課程	
第 12 回	12. 最新学習指導要領総則の解説（1）：改訂の経緯および基本方針	
第 13 回	13. 最新学習指導要領総則の解説（2）：改訂の要点	
第 14 回	14. 最新学習指導要領総則の解説（3）：教育課程の実施と学習評価	
第 15 回	15. 確認テストとまとめ（教育課程の今後の課題と展望について）	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU206-A51	2.科目名	教育方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に生きる知識とスキルを身につけます。 くわたしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標(=?につくスキル)は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原則に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著、北?路書房、2022 年					
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著、北大路書房、2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀、三省堂、2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1) オンライン小テスト (学習目標 1・2・3・4 に対応) 20% →各小テストは、満点で合格です。(何度でも受験可) →実施時期は、授業の中で指示します。 (2) 中課題：学習課題分析図 (学習目標 2 に対応) 15% (3) 小課題 (1)：各回の授業計画検討ワークシート (学習目標 3 に対応) 10% (4) 小課題 (2)：授業への ICT 活用検討ワークシート (学習目標 4 に対応) 10% (5) 最終課題：学習指					
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント(宿題)など」の欄に記載しています。(個人差はありますが)それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま					

		す。 ・下記の授業計画に【 】で括った表記（例：【ケラーの ARCS モデル】）は、授業設計時に活用できる様々な手法や考え方を指しています。授業の中で詳しく解説します。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。
23.オフィスアワー		質問等があれば随時問い合わせてください。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これからの子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・【メーカー 3 つの質問】 ・【ガニエ 9 教授事象】 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標を検討する【ガニエの学習成果 5 分類】（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

	・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む） ・学習指導法（発問などについて） など	
第 9 回	・主体的な学習活動について【ケラーARCS モデル】（第 10 章） ・探究する学習のための授業設計について ・ICT による学びの保障（学習率：【キャロルの時間モデル】）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・教育における、生成 AI を含む ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・学習指導案のための授業デザインレポートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインレポートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・授業設計における生成 AI 活用ワーク ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 生成 AI で作成した授業設計を批評する
第 14 回	・最終課題（学習指導案のための授業デザインレポート）の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）を共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインレポートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり 【カークパトリックの 4 段階評価】で自分の学びを評価ワーク	[予習] 学習指導案のための授業デザインレポートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインレポートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	EDU206-Y51	2.科目名	教育方法論	3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に生きる知識とスキルを身につけます。 くわたしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。				
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標(=?につくスキル)は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原則に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著, 北?路書房, 2022 年				
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著, 北大路書房, 2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀, 三省堂, 2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1) オンライン小テスト (学習目標 1・2・3・4 に対応) 20% →各小テストは、満点で合格です。(何度でも受験可) →実施時期は、授業の中で指示します。 (2) 中課題：学習課題分析図 (学習目標 2 に対応) 15% (3) 小課題 (1)：各回の授業計画検討ワークシート (学習目標 3 に対応) 10% (4) 小課題 (2)：授業への ICT 活用検討ワークシート (学習目標 4 に対応) 10% (5) 最終課題：学習指				
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント(宿題)など」の欄に記載しています。(個人差はありますが)それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま				

		す。 ・下記の授業計画に【 】で括った表記（例：【ケラーの ARCS モデル】）は、授業設計時に活用できる様々な手法や考え方を指しています。授業の中で詳しく解説します。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。
23.オフィスアワー		質問等があれば随時問い合わせてください。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これからの子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・【メーガー 3 つの質問】 ・【ガニエ 9 教授事象】 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標を検討する【ガニエの学習成果 5 分類】（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

	・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む） ・学習指導法（発問などについて） など	
第 9 回	・主体的な学習活動について【ケラーARCS モデル】（第 10 章） ・探究する学習のための授業設計について ・ICT による学びの保障（学習率：【キャロルの時間モデル】）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・教育における、生成 AI を含む ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・学習指導案のための授業デザインレポートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインレポートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・授業設計における生成 AI 活用ワーク ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 生成 AI で作成した授業設計を批評する
第 14 回	・最終課題（学習指導案のための授業デザインレポート）の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）を共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインレポートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり 【カークパトリックの 4 段階評価】で自分の学びを評価ワーク	[予習] 学習指導案のための授業デザインレポートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインレポートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	EDU206-m51	2.科目名	教育方法論	3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に生きる知識とスキルを身につけます。 くわたくしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。				
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原則に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著, 北?路書房, 2022 年				
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著, 北大路書房, 2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀, 三省堂, 2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1) オンライン小テスト (学習目標 1・2・3・4 に対応) 20% →各小テストは、満点で合格です。(何度でも受験可) →実施時期は、授業の中で指示します。 (2) 中課題：学習課題分析図 (学習目標 2 に対応) 15% (3) 小課題 (1)：各回の授業計画検討ワークシート (学習目標 3 に対応) 10% (4) 小課題 (2)：授業への ICT 活用検討ワークシート (学習目標 4 に対応) 10% (5) 最終課題：学習指				
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個人差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま				

		す。 ・下記の授業計画に【 】で括った表記（例：【ケラーの ARCS モデル】）は、授業設計時に活用できる様々な手法や考え方を指しています。授業の中で詳しく解説します。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。
23.オフィスアワー		質問等があれば随時問い合わせてください。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これからの子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・【メーガー 3 つの質問】 ・【ガニエ 9 教授事象】 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標を検討する【ガニエの学習成果 5 分類】（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

	・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む） ・学習指導法（発問などについて） など	
第 9 回	・主体的な学習活動について【ケラーARCS モデル】（第 10 章） ・探究する学習のための授業設計について ・ICT による学びの保障（学習率：【キャロルの時間モデル】）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・教育における、生成 AI を含む ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・学習指導案のための授業デザインレポートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインレポートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・授業設計における生成 AI 活用ワーク ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 生成 AI で作成した授業設計を批評する
第 14 回	・最終課題（学習指導案のための授業デザインレポート）の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）を共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインレポートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり 【カークパトリックの 4 段階評価】で自分の学びを評価ワーク	[予習] 学習指導案のための授業デザインレポートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインレポートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	EED211-A51	2.科目名	相談援助	3.単位数	1
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	保育士は、こどもの保育のみならず、保護者の抱えている課題への対応や、地域における子育てニーズへのかかわりなど多方面に「活躍の場」が期待されています。ソーシャルワーカーとしての保育士に求められる援助技術をいろいろな事例を通して学び、必要な知識やスキルアップ獲得を目指して講義と演習の中で学びあっていきましょう。そして講義や演習の中から理論と実践の大切さを学び、ソーシャルワークの重要性を知り、こどもに寄り添える保育士を目指してほしいと思います。 演習は個人ワーク、グループワーク、ロールプレイなどを行います。				
18.学習目標と DPとの関連	①子育て支援における相談援助の意義と機能を理解できる ②相談援助の基本的な知識と技能を学び、具体的な場面においてどのように活用できるのかを理解することができる ③福祉的な観点から事例をとらえることができる ④自分を知り、他者を理解することの難しさと大切さに気付くことができる 本科目は、DP（ディプロマポリシー）のうち、(3)多様性の理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキルの獲得に関連しています				
19.教科書・教材	毎回プリントを配布します。				
20.参考文献	特にありませんが、必要な時は提示します。				
21.成績評価	・リフレクションシート 30％ ・中間レポート 20％ ・中間テスト 20％（持ち込み不可とします） ・最終レポート 30％				
22.コメント	講義と演習の授業形態をとります。演習には積極的に取り組んでください。 出来るだけ具体的な事例を通して考えてもらいたいと思いますので、日々子どもに関するニュース等（虐待など権利擁護）には関心を持ってほしいと思います。 <生成 AI の利用について> 生成 AI 利用：条件付きで認める ＊レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】 10/2	①オリエンテーション 保育士として重要な専門性とは			【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく	
【第 2 回】 10/9	②相談援助の目的と意義 演習 事例を通して			【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する	

		【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第 3 回】 10/16	③相談援助の機能 相談援助とソーシャルワーク 演習 自己覚知Ⅰ	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第 4 回】 10/23	④ケアワークとソーシャルワーク 保育とソーシャルワーク 演習 自己覚知Ⅱ	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第 5 回】 10/30	⑤ソーシャルワークの展開 相談援助の方法と技術 1 演習 事例を通して	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第 6 回】 11/6	⑥相談援助の方法と技術 2 ケースワークの原則 演習 自己覚知Ⅲ	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく 中間レポートの作成
【第 7 回】 11/13	⑦相談援助の方法と技術 3 基本資料の作成 演習 マッピング技法	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく 中間レポートの作成
【第 8 回】 11/20	⑧前半の振り返り 演習 非言語コミュニケーション	* 中間レポートの提出 【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第 9 回】 11/27	⑨相談援助 小テスト 演習 他者理解Ⅰ	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 中間テストに向けた学習
【第 10 回】 12/4	⑩相談援助の具体的展開 演習 事例を通して	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第 11 回】 12/11	⑪ 相談援助の具体的展開 2 演習 他者理解Ⅱ	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第 12 回】 12/18	⑫児童虐待について 1 演習 事例を通して	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく 最終レポートの作成
【第 13 回】 1/8	⑬児童虐待について 2 演習 事例を通して	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する

		【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく 最終レポートの作成
【第 14 回】 1/15	⑭障害のある子どもとその保護者への支援 演習 事例を通して	【復習】 授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】 次回のテーマに関連する事柄について調べておく 最終レポートの作成
【第 15 回】 1/22	⑮保育士に求められる相談援助技術（まとめとして） 演習 ロールプレイ	【復習】 今までの授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する

1.授業コード (ナンバリング)	EED215-A51	2.科目名	障害児保育 II		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 障害児やことばの遅れのある子どもには、早期から言語・コミュニケーションを促すかかわりが必要になります。保育の場において、毎日、子どもと一緒に過ごす保育士のかかわりが重要です。子どもへのコミュニケーション支援の専門的技術を獲得することを目指します。また、子どもの行動の意味を探り、子どもが落ち着いて過ごせる環境づくり、援助方法について自分なりに考えることができる技術の獲得を目指します。 【概要】 ・ことば・コミュニケーション支援については、インリアル・アプローチの手法を理解します。 ・重症心身障害児へのアプローチとして、シンプルテクノロジーを用いた手法を理解します。 ・子どもの起こす問題行動への対応方法としてソーシャルスキル・トレーニングの手法を理解します。 ・子どもの育ちを支えるために、個別の指導計画の作成プロセスを理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的を達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害児やことばの遅れのある子どもに対し、発達を促す関わり方の基本姿勢を説明することができる。 ②重症心身障害児への保育について、子どもの主体性を尊重し、豊かな経験ができるような遊びを提案できる。 ③子どもの起こす問題行動への対応方法を提案することができる。 ④障害児やことばの遅れのある子どもの育ちを支えるために、個別の指導計画の作成プロセスを説明できる。 ⑤保育現場における様々な連携（園内、園外）について、説明できる 本授業は、学位授与方針（DP）の(1)主体性、(5)問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	特に指定しません。毎回、webclass に資料をアップします。					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）=60%：学習目標①②③④⑤ ②期末レポート=30%：学習目標①②③④⑤ テーマ「保育園における医療的ケア児の保育について」1600 字以上、参考文献を 2 本以上示しながら書くこと。 ③期末ふりかえりシート=10%：①②③④					
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。					

・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・「重症心身障害児のアクティビティ」は先方との日程調整によって、実施日が多少変動することもあります。事前に必ずアナウンスします。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。 ・情報の正確性（出典）を確認しましょう。		
23.オフィスアワー		火曜日の昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ことばやコミュニケーションの支援① ・ことばやコミュニケーションの遅れのある子どもへの関り方を理解する。 ・インリアル・アプローチの概要を理解する	○【課題】 ワークシート① (90 分)
第 2 回	ことばやコミュニケーションの支援② ・子どもの発達に合わせた遊びと支援方法について理解する	○【課題】 ワークシート② (90 分)
第 3 回	ことばやコミュニケーションの支援③ ・言語心理学的技法を用いた支援方法を理解する	○【課題】 ワークシート③ (90 分)
第 4 回	ことばやコミュニケーションの支援④ ・事例のビデオを視聴し、子どもの遊びやコミュニケーションの発達レベルと大人の関り方を評価する ・そのうえで、大人の適切な支援方法を考える	○【課題】 ワークシート④ (90 分)
第 5 回	重症心身障害児の理解と支援（医療的ケア児） ・医療的ケア児を含む重症心身障害児の障害特性や生活を理解する ・動画を視聴し、重症心身障害児の遊びに関する援助の予備知識を得る	○【課題】 ワークシート⑤ (90 分)
第 6 回	重症心身障害児の遊びとコミュニケーションの支援 ・重症心身障害児の遊びや援助方法をインターネット等で調べる ・調べた遊びや援助方法を発表し、バリエーションを増やす	○【課題】 ワークシート⑥ (90 分)
第 7 回	シンプルテクノロジーを用いた重症心身障害児のアクティビティ① ・シンプルテクノロジーの有用性を理解する ・様々なスイッチ類や VOCA、玩具を繋いで、遊びを体験する ・グループワーク：重症心身障害児のアクティビティを考える（発表の準備）	○【課題】 ワークシート⑦ (90 分)
第 8 回	シンプルテクノロジーを用いた重症心身障害児のアク	○【課題】 ワークシート⑧ (90 分)

	ティビティ② ・グループ発表：グループごとに遊びの企画を発表する ・他のグループを評価する ・振り返り：自分たちと他グループの発表を比較し、気づきをワークシートに書く	
第 9 回	専門機関との連携 ・保育園内での連携について理解する ・専門機関との連携について理解する	○【課題】ワークシート⑨（90 分）
第 1 0 回	発達障害児へのソーシャル・スキル・トレーニング① ソーシャル・スキル・トレーニングを理解する	○【課題】ワークシート⑩（90 分）
第 1 1 回	発達障害児へのソーシャル・スキル・トレーニング② ・動画の事例を視聴し、ソーシャル・スキル・トレーニングの実践方法を考える ・グループワーク：グループで共有し、修正案を発表する	○【課題】ワークシート⑪（90 分）
第 1 2 回	発達障害児へのソーシャル・スキル・トレーニング③ ・動画の事例を視聴し、ソーシャル・スキル・トレーニングの実践方法を考える ・グループワーク：グループで共有し、修正案を発表する	○【課題】ワークシート⑫（90 分）
第 1 3 回	個別の指導計画の作成 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の概要を理解する ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の書き方を理解する	○【課題】ワークシート⑬（90 分）
第 1 4 回	個別の指導計画の発表 グループワーク：動画の事例を視聴し、個別の指導計画をたてる グループ発表：グループで共有し、修正案を発表する	○【課題】ワークシート⑭（90 分）
第 1 5 回	・学習のまとめ ・ふりかえりシート ・期末レポートの提出	

1.授業コード (ナンバリング)	EED216-A51	2.科目名	社会的養護内容		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 保育者として、社会的養護が必要な子どもの心理的側面を理解し、日常をサポートする方法やアフターケアについて学びます。子ども本人だけでなく、家族や地域、関係機関との連携の意義と方法にも焦点を当てて学習します。 【概要】 ・ 児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務を理解する。 ・ 子どもの心理的側面と日常生活支援の方法を理解する。 ・ 個々の児童に応じた支援計画を作成する。 ・ 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術を理解する ・ 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉への理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的をを達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解できる。 ②事例について個々の児童に応じた支援計画を立案できる。 ③社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解できる。 ④社会的養護の演習を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。 本授業は、学位授与方針（DP）の(2)社会的貢献性、(5)問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	『よりそい支える社会的養護Ⅱ』 中山正雄（監修） 浦田雅夫（編著）教育情報出版 【第2版】2023 年					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）＝60％：学習目標①②③④ ②期末レポート＝30％：学習目標③④ テーマ「児童養護施設で暮らす被虐待児によりそう支援とは」2000 字以上、参考文献を 3 本以上示しながら書くこと。 ③期末ふりかえりシート＝10％：①②③④					
22.コメント	・ 資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・ 毎回ノートパソコンを持ってくるください。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・ 生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・ 生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。 ・ 情報の正確性（出典）を確認しましょう。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	①社会的養護における保育士等の倫理及び責務 ・ 保育士等の倫理及び責務を理解する ②対人援助職としての関わり基礎 ・ 対人援助の方法を理解する ・ バーンアウトの予防について理解する	○【課題】ワークシート① (90 分)
第 2 回	アセスメントと援助方針 ・ アセスメントに必要な観点を知る ・ 事例のアセスメントを行う	○【課題】ワークシート② (90 分)
第 3 回	日常生活支援 ・ 日常生活（衣食住）における具体的な支援について考える ・ 子どもとの関係づくりを考える	○【課題】ワークシート③ (90 分)
第 4 回	治療的支援 ・ 虐待を受けた子どもの心理的側面を理解する ・ 治療的支援の方法を学ぶ	○【課題】ワークシート④ (90 分)
第 5 回	自立支援 ・ 自立支援を理解する ・ リービングケアを理解する ・ ライフストーリーワークを学ぶ	○【課題】ワークシート⑤ (90 分)
第 6 回	家族再統合・親子関係再構築 ・ 家族再統合を理解する ・ 親子関係再構築を理解する ・ 家庭復帰に必要な支援を理解する	○【課題】ワークシート⑥ (90 分)
第 7 回	社会的養護に関するグループ発表準備① 社会的養護について、さらに、深堀りしたいテーマを決める ・ リサーチクエスションと目的の決定	○【課題】ワークシート⑦ (90 分)
第 8 回	社会的養護に関するグループ発表準備② ・ リサーチクエスションと目的にあった文献を探す ・ パワーポイントにまとめる	○【課題】ワークシート⑧ (90 分)
第 9 回	社会的養護に関するグループ発表 ・ 分かりやすくプレゼンテーションする ・ 他者からの意見を受けて学びに活かす ・ 他グループの発表を聞き、意見を伝える	○【課題】ワークシート⑨ (90 分)
第 10 回	保育士の専門性とチームワーク ・ 保育士の専門性について考える ・ チームワークについて学ぶ	○【課題】ワークシート⑩ (90 分)
第 11 回	自立支援計画の作成 ・ 自立支援計画の作成方法を学ぶ ・ 事例を基にして、自立支援計画をグループで作成する	○【課題】ワークシート⑪ (90 分)
第 12 回	自立支援計画のグループ発表 ・ 自立支援計画を作成し、他者に分かりやすく発表する	○【課題】ワークシート⑫ (90 分)
第 13 回	子どもの問題行動	○【課題】ワークシート⑬ (90 分)

	・子どもの問題行動の背景を理解する ・問題行動に対する支援について考える	
第14回	アフターケア ・継続的支援の必要性を理解する ・多職種との連携・協働のあり方を理解する	○【課題】ワークシート⑭（90分）
第15回	・学習のまとめ ・ふりかえりシート ・レポート課題提出	

1.授業コード (ナンバリング)	EED217-A51	2.科目名	言語表現技術		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	展開 言語表現分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 幼児期言語の特徴を理解し、言語表現技術の具体的展開のための技術を習得することをめざす。 [概要] 言語表現の基礎基本として「聞く・話す、読む、書く」を位置づけることができる。 幼児期においては、ことば獲得段階として「話す・聞く・演じる」ことへの興味・関心が高まることを学ぶ。 幼児期に積極的かつ意欲的な態度を身につけるには、周囲にいる大人の関わり方が大きく影響することを学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP の（5）コミュニケーションスキルと（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 言語表現活動の基礎となる技術を習得し、「読む、書く、聞く、話す」の技能を活用してコミュニケーションの成立をめざす。					
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	講評レポート 40 %（10％×4） 審査用紙（第 8 回、9 回、13 回、15 回） 授業記録（毎回の 100 字コメント）30％ 総合レポート（第 14 回）30％					
22.コメント	先輩方のパフォーマンス作品を超えることをめざしてください。 生成 AI の利用については、その都度指示する。					
23.オフィスアワー	月 4 限（1 5：0 0～1 6：3 0）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 過去の作品を鑑賞する。 グループ編成。（個人も可とする）			◎パフォーマンス案をグループにおいて検討する。（240 分）		
第 2 回	【第 2 回】パフォーマンス案検討会 グループ又は個人において検討した後、パフォーマンス案を披露し合う。			◎検討会を踏まえてパフォーマンス製作の準備に入る。（240 分）		
第 3 回	【第 3 回】パフォーマンス製作一練習 各グループ、各人において製作手順を作成し、練習する。			◎パフォーマンス完成に向けて準備する。（240 分）		
第 4 回	【第 4 回】パフォーマンス製作一練習 各グループ、各人において製作手順に従い練習す			◎パフォーマンス完成に向けて活動する。（240 分）		

	る。	
第 5 回	【第 5 回】パフォーマンス製作一練習 各グループ、各人において、仕上げに向かって練習する。	◎パフォーマンス製作を入念にチェックする。(240 分)
第 6 回	【第 6 回】パフォーマンス製作一リハーサル 本番に向けてリハーサルをそれぞれにおいて実施する。	◎リハーサルを踏まえて気づいたところを改善する。(240 分)
第 7 回	【第 7 回】パフォーマンス発表会（前半チーム） 発表順を決めパフォーマンスを披露する。 審査用紙にコメントを含め評点を記入する。	◎前半チームは、ふり返しを行う。後半チームはパフォーマンス作品をさらに仕上げる。(240 分)
第 8 回	【第 8 回】パフォーマンス発表会（後半チーム） 発表順に従いパフォーマンスを披露する。 審査用紙にコメントも含め評点を記入する。	◎後半チームはふり返しを行う。(240 分) ★審査用紙を提出する。
第 9 回	【第 9 回】 「(教育・保育 B)(福祉・保育コース)」受講者作品を鑑賞する。 審査用紙にコメントも含め評点を記入する。	○朗読劇候補作品を検討する。(240 分) ★審査用紙を提出する。
第 10 回	【第 10 回】朗読劇発表会に向けての準備 対象作品選定とグループ編成	◎朗読劇発表への準備に入る。(240 分)
第 11 回	【第 11 回】朗読劇発表会に向けての練習 各グループにおいて役割分担にそって練習を行う。	◎朗読劇発表に向けての仕上げに入る。(240 分)
第 12 回	【第 12 回】朗読劇発表会（前半チーム） 朗読劇を発表し、相互批評会を行う。	◎前半チームは朗読劇を終えてのふり返しを行い、後半チームは朗読劇発表の最終確認を行う。(240 分)
第 13 回	【第 13 回】朗読劇発表会（後半チーム） 朗読劇を発表し、相互批評会を行う。	◎後半チームは朗読劇を終えてのふり返しを行う。(240 分) ★審査用紙を提出する。
第 14 回	【第 14 回】総合レポート 「言語表現技術の本質を探る」をテーマとするレポートを授業内に記述し、提出する。	○「言語表現技術」の時間をふり返る・(240 分) ★総合レポートを提出する。
第 15 回	【第 15 回】 「(教育・保育 B)(福祉・保育コース)」受講生の朗読劇を鑑賞する。	○総合レポートをふり返る。(240 分) ★審査用紙を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	EED222-A51	2.科目名	保育心理学演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育心理学・発達心理学，そしてさまざまな保育系の科目を踏まえ，保育実践を心理学的な視点で学んでいく。特に、実習で見てきた子どもの発達を共有し、発達の個人差などについての理解を深める。最終的に、保育実践・保育内容について、保育心理学の視点から説明できることをこの授業の目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	<授業の到達目標> 1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。 3. 保育における発達援助について学ぶ。 (関連する学科の DP) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) 教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	■ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 ■ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 ■ 瀧川光治・小栗正裕編『改編 保育の考え方と実践』2012、久美出版					
21.成績評価	課題1 発達段階を踏まえた保育環境のあり方に関するレポート 20％ 課題2 保育における発達援助に関するレポート 30％ HW-WS (13回) 3点×12回+4点×1回 = 40％ e-portfolio 10％ ※提出物の遅れは減点対象になります。WSは基本的に遅れないように気を付けましょう。					
22.コメント	幼児教育は子ども理解から始まります。子どもたちの心の動きが把握できるよう、ビデオ教材などを基にしっかり学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回目	ガイダンス／保育者の専門性としての子ども理解 ・1年次の『保育者論』の振り返り			○HW-WS①を実施する。(120分)		
第2回目	子ども理解における発達の把握(0～2歳児) ・『改編 保育の考え方と実践』第4部 第1章「子どもの発達について学ぶ」① ・『保育所保育指』第2章 発達①			○HW-WS②を実施する。(120分)		
第3回目	子ども理解における発達の把握(3～5歳児) ・『改編 保育の考え方と実践』第4部 第1章「子どもの発達について学ぶ」① ・『保育所保育指』第2章 発達①			○HW-WS③を実施する。(120分)		

第 4 回目	発達の連続性（乳児の身体的発達） ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 4 章「3 歳以上の保育」 ・『保育所保育指』 第 2 章 発達③ 3 歳～5 歳児	○HW-WS④を実施する。(120 分)
第 5 回目	発達の連続性（3 歳未満児の保育について） ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 3 章「3 歳未満児の保育」 ・『保育所保育指』 第 2 章 発達④ 0・1・2 歳児	○HW-WS⑤を実施する。(120 分)
第 6 回目	生活や遊びを通した学びの過程－子どもの遊びと学び ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 2 章「保育の形態」 ・設定保育で使える折り紙の折り方	○HW-WS⑥を実施する。(120 分)
第 7 回目	子どもの視点に立った教材研究 ・子どもにわかりやすい折り紙の折り方の順番を画用紙にまとめる	○HW-WS⑦を実施する。(120 分)
第 8 回目	子どもの行動観察の記録 ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 8 章「保育者の専門性としての子ども理解」 ・乳幼児の安心・安全に着目する ～SICS による「安心度」理解－	○HW-WS⑧を実施する。(120 分)
第 9 回目	場面に応じた援助を考える ・保育実習のよくある場面を示し、援助方法を考える	○HW-WS⑨を実施する。(120 分)
第 10 回目	保育環境の意味 ・保育所・幼稚園の環境写真から捉えられる保育者の意図性と子どもの主体性について考察する	○HW-WS⑩を実施する。(120 分)
第 11 回目	子どもの発達を踏まえた環境構成 ・子どもの発達に応じた、応答的環境を考える	○HW-WS⑪を実施する。(120 分)
第 12 回目	発達観、子ども観と保育観	○課題 1 を実施する (240 分)
第 13 回目	情緒の発達と自我	○HW-WS⑫を実施する。(120 分)
第 14 回目	保育における発達援助① ・困った場面のビデオを観て援助方法を考える	○課題 2 を実施する。(240 分)
第 15 回目	総括（まとめと課題）	○HW-WS⑬を実施する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED223-A51	2.科目名	保育課程論		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法および保育所、幼稚園、認定こども園における計画の実際について、子どもの育ちの過程を大切にした保育課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解することを目的とする。 【授業の概要】 本授業では、保育所・幼稚園・認定こども園の計画の実際について、テキストを基に解説する。また、教育・保育における全体的な計画と指導計画の作成について、演習などを通して学修する。さらに、子どもの育ちの過程を大切にした保育課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)についてもグループワークなどを通じて理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1.全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する(学科 DP6)。 2.保育所、幼稚園、認定こども園における計画の実際について理解する(学科 DP4)。 3.子どもの育ちの過程を大切にした保育課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解する(学科 DP4)。 【関連する学科の DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に構築することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	田中亨胤 三宅茂夫編 『教育・保育カリキュラム論』 みらい幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） ※小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』 2019 わかば社					
21.成績評価	（１）部分保育の指導計画の作成：30 点（30％）【学習目標①②③に対応】 （２）保護者向けの計画の必要性和年間計画を伝える「園だより」の作成：30 点（30％）【学習目標②に対応】 （３）学びのまとめ(4 点×10 回)40 点（40％）【学習目標①～③に対応】 ※提出物の遅れは減点対象になります。					

22.コメント	保育・教育の実践において計画の立案や省察はとても大切なものになります。また、保育・教育実習においても日々の記録・指導案の立案が欠かせません。意欲的に理解し、チャレンジする気持ちを忘れずに受講していただけることを願っています。授業についての連絡は Web Class よりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようお願いいたします。また、担当教員へのご連絡は s-baba@kuins.ac.jp までお願いします。	
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション-教育・保育に大切なこと- 保育の構造、保育における「領域の考え方」 学びのまとめ①	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.22-37.を読んでおく。(30 分) (復習)教育・保育に大切なことを復習し、理解する。(60 分)
第 2 回	よりよい教育・保育課程を構想するために-保育の方法 と技術・環境構成- 学びのまとめ②	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.40-56.を読んでおく。(30 分) (復習)よりよい教育・保育課程について復習し、理解する。(60 分)
第 3 回	保育所保育指針などをもとに基本的な計画について考える-保育の目標・計画の基本的な考え方- 学びのまとめ③	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.60-70.を読んでおく。(30 分) (復習)保育所保育指針などに示された基本的な教育・保育課程について復習し、理解する。(60 分)
第 4 回	教育課程・全体的な計画の編成と作成の基本 -教育課程・全体的な計画の必要性- 学びのまとめ④	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.72-84.を読んでおく。(30 分) (復習)全体的な計画の編成・作成について復習し、理解する。(60 分)
第 5 回	保育の計画・実践・記録・省察・評価・改善-教育課程・全体的な編成の手順- 学びのまとめ⑤	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.86-99.を読んでおく。(30 分) (復習)保育の計画・実践・記録・省察・評価・改善について復習し、理解する。(60 分)
第 6 回	指導計画(長期・短期)作成の基本-子どもの生活に即した指導計画の作成- 学びのまとめ⑥	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.102-114.を読んでおく。(30 分) (復習)指導計画(長期・短期) の作成について復習し、理解する。(60 分)
第 7 回	指導計画作成における配慮事項-年齢別の配慮事項- 学びのまとめ⑦	教室外学習 (予習、復習) (予習) テキスト p.116-132.を読んでおく。(30 分) (復習)指導計画作成における配慮事項について復習し、理解する。(60 分)

第 8 回	計画の実際(1)保育所(0～3 歳)-乳幼児期の子どもの発達に即した保育の展開- 学びのまとめ⑧	教室外学習（予習、復習） (予習)テキスト p.136-161.を読んでおく。(30 分) (復習)保育所の計画の実際について復習し、理解する。(60 分)
第 9 回	計画の実際(2)幼稚園 (3～5 歳)-小学校との接続につながる教育の基礎を培う- 学びのまとめ⑨	教室外学習（予習、復習） (予習)テキスト p.164-184.を読んでおく。(30 分) (復習)幼稚園の計画の実際について復習し、理解する。(60 分)
第 1 0 回	計画の実際(3)認定こども園-保育ニーズの異なる子どもたちへの配慮・計画の実際(4)異年齢保育 -少子化を補う異年齢でのかかわりからの学び- 学びのまとめ⑩	教室外学習（予習、復習） (予習)テキスト p.186-200.202-220 を読んでおく。(30 分) (復習)認定こども園の計画の実際・計画の実際(4)異年齢保育 について復習し、理解する。(60 分)
第 1 1 回	指導計画の作成-部分保育指導案の作成方法- 部分指導案の立案	教室外学習（予習、復習） (予習)指導計画(部分保育実習指導案)の作成方法について配布資料(※参考書 p.125.)を読み、指導計画立案について考える。(60 分) (復習)指導計画(部分保育実習指導案)を作成する。(60 分)
第 1 2 回	指導計画の作成-部分保育指導案の作成方法- 指導案の作成	教室外学習（予習、復習） (予習)指導案を作成する。(60 分) (復習)指導案を見直す。(60 分)
第 1 3 回	指導計画の作成-作成した指導案の見直しと発表の振り返り- 指導案の発表	教室外学習（予習、復習） (予習)指導計画(部分保育実習指導案)の発表について準備する。(60 分) (復習)指導計画(部分保育実習指導案)の発表について振り返る。(60 分)
第 1 4 回	園だよりの作成-園だよりの作成方法- 園だよりの作成	教室外学習（予習、復習） (予習)各自で考えた園だより(保育課程の重要性を伝える)を作成する。(60 分) (復習)各自で考えた園だより(保育課程の重要性を伝える)の発表準備をする。(60 分)
第 1 5 回	総括-保育課程についての総括？ 園だよりの発表	教室外学習（予習、復習） (予習)「園だより」の発表準備をする。(30 分) (復習)各自で考えた園だよりの発表を振り返る。(30 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED224-A51	2.科目名	こどもと健康	3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（一部演習）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 ・ 幼稚園教育における健康・安全に必要な生活習慣や健康づくり、幼児の運動遊びに関する情報や知識及び施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解することを目的とします。 【概要】 ・ この科目では、プレイリーダーの育成を目指します。プレイリーダーとは、遊びのファシリテーター（促進者）のことです。目標を達成するために、こどもの健康の視点から、保育を展開していくための知識及び技能を習得します。具体的には、運動遊びに着目しこどもにとっての運動遊びの意味やこどもの運動発達の特性と動きの獲得を踏まえ、配慮や工夫の在り方、実践について取り扱い、保育を展開していくための指導の在り方と方法について学びを深めます。さらに、小学校体育との接続についても考察します。				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP?自律的で主体的な態度、⑥専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです ?幼児期の健康、生活習慣の指導に関する基本的な知識や技能を身につけ、活用することができる。 ?幼児期の運動の重要性を理解し、発育発達に関する知識や情報を理解し、選択することができる。 ③健康に関する教材資料を作成して、活用することができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	勝木洋子他『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康』みらい 2019 文部科学省『幼児期運動指針』 2012				
21.成績評価	・ 遊びについてのレポート【学習課題??に対応】小レポート課題 30% ・ こどもの遊び発表会についてのレポート【学習課題?に対応】 30% ・ 総括レポート又は試験【学習課題???に対応】 40%				
22.コメント	・ 遊びに対する理解を踏まえたあるべき保育ファシリテーター（促進者）について理解を深めましょう。 ・ 遊びを体験するため、山手キャンパス体育館において集中授業3コマ（土曜日）があります。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	オリエンテーション・乳幼児の健康課題について			乳幼児の健康問題について調べておく（60分）	
第2回	乳幼児の健康問題と幼稚園教育要領 ～運動発達の観点から～			乳幼児の健康問題について整理しておく（30分） 幼稚園教育要領の概要をつかんでおく（60分）	
第3回	こどもの生活リズムと基本的な生活習慣について			幼稚園教育要領の中で健康に関連するものを	

	～保健指導の観点から～	まとめておく（30分） こどもの生活リズムについて調べておく（60分）
第4回	幼児期の食と栄養 ～アレルギー、食育の観点から～	こどもの生活リズムを学んで気になるところをまとめておく（30分） 幼児のアレルギーについて調べておく（60分）
第5回	幼稚園におけるこどもたち？ ～生活映像で知る幼児の状況～	アレルギーへの対応についてまとめておく（30分） 幼稚園で過ごすこどもたちについて調べておく（60分）
第6回	幼稚園におけるこどもたち？ ～遊びの映像で知る幼児の状況～	幼稚園での生活の様子をまとめておく（30分） 幼児の遊びについて調べておく（60分）
第7回	幼児の安全教育？ ～生活安全、病気の予防の観点から～	幼児の遊びについてまとめておく（30分） 幼児の病気について調べておく（60分）
第8回	幼児の安全教育？ ～防災安全、救急措置の観点から～	幼児の病気、主として感染症を防ぐにはどのようにすればよいかまとめておく（30分） 災害から幼児を守るにはどのようにすればよいか調べておく（60分）
第9回	幼児の安全教育③ ～交通安全の観点から～	災害から幼児を守るにはどのように行動すればよいかまとめておく（30分） 幼児はどのような交通事故にあうのか新聞やニュースの記事を通して調べておく（60分）
第10回	幼稚園教育における運動遊びと指導の実際？ ～昔遊び～	幼児が事故に巻き込まれないようにするための留意点についてまとめておく（30分） 昔遊びについて調べておく（60分）
第11回	幼稚園教育における運動遊びと指導の実際？ ～身近なものを活用した遊び～	昔遊びの良さについてまとめておく（30分） 身近なものを活用した遊びについて調べておく（60分）
第12回 第12回から第14回分は集中講義（山手キャンパス）	こどもの遊びと指導？ ～こどもの遊び企画会議～ 12回、13回、14回をまとめて1日で実施する予定（山手キャンパスで実施の予定）	グループで展開しようとする遊びについて調べておく。また、その進め方や役割分担についても調べておく（90分）
第13回	こどもの遊びと指導② ～こどもの遊び発表会～	グループで展開しようとする遊びの企画、準備、展開、役割分担の確認をする（100分）
第14回	こどもの遊びと指導？ ～こどもの遊び発表会のふりかえり～	グループで展開した遊びについて、個人のふりかえりをしておく（90分）
第15回	総まとめ・レポート作成 ～他領域とのつながり、小学校の教科とのつながり～	14回の学修をふりかえっておく（60分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED225-A51	2.科目名	こどもと人間関係	3.単位数	1												
4.授業担当教員	下里里枝																
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期												
8.履修可能な専攻	教育福祉学科	9.履修学年	2 年生														
10.取得資格の要件	保育士、幼稚園教員一種免許	11.先修条件															
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義														
16.履修制限																	
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、幼児が人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることを目的とする。保育者が子どもたちと適切に関わり、彼らの健やかな成長と発達を支援するための必要なスキルや技能が身に付けられる。主に講義を中心に授業をする。具体的な展開は、「人間関係（指導法）」で学ぶ。 【概要】 ・ 幼児期から学童期にかけての子どもの発達段階や特性を理解する。 ・ 信頼関係の構築方法など、適切な子どもとの関わり方や接し方を学ぶ。 ・ 個々の子どもの特性を理解し、それに適した支援やアプローチを行う能力を養う。特別支援教育の基本的な理解も含む。 ・ 保育者としての倫理規範や職業道徳に理解を深める。保育活動における倫理的な行動のガイドラインなどを学ぶ。																
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①子どもの発達段階や特性を理解することができる。 ②子どもとのコミュニケーションスキルを向上させることができる。 ③子どもの心理的側面や感情の発達を理解し、信頼関係の構築の技術や方法を習得できる。 ④個々の保育と集団保育の両方の大切さを学ぶことができる。 関連する DP は（3）多様性理解（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技術の活用力																
19.教科書・教材	授業において、適宜資料を配布する。																
20.参考文献	事例で学ぶ 領域「人間関係」無藤隆監修 萌文書林 人間関係 成田朋子 福村出版 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領																
21.成績評価	<table border="0"> <tr> <td>・ 授業の振り返りシート記入</td> <td>2 点×9 回</td> <td>18 点</td> </tr> <tr> <td>・ グループワークと発表</td> <td></td> <td>10 点</td> </tr> <tr> <td>・ 理解度小テスト</td> <td>4 回</td> <td>22 点</td> </tr> <tr> <td>・ 総括試験</td> <td></td> <td>50 点</td> </tr> </table>					・ 授業の振り返りシート記入	2 点×9 回	18 点	・ グループワークと発表		10 点	・ 理解度小テスト	4 回	22 点	・ 総括試験		50 点
・ 授業の振り返りシート記入	2 点×9 回	18 点															
・ グループワークと発表		10 点															
・ 理解度小テスト	4 回	22 点															
・ 総括試験		50 点															
22.コメント	・ 提出物は期限を守りましょう。 ・ 授業内容は、資料をウェブクラスで事前に見れるようにしています。予習をしておきましょう。																
23.オフィスアワー																	
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)														
1 回目	オリエンテーション 領域「人間関係」がめざすこと 授業の進め方、評価など 振り返りシート①記入		振り返りシート①（120 分）を記入し、ウェブクラスに次週までに提出。来週は保育所保育指針を持参。														
2 回目	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型		振り返りシート②を記入し、ウェブクラスに														

	認定こども園教育・保育要領」と領域「人間関係」について 振り返りシート②記入	次週までに提出（120分）
3回目	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達ー1 3歳未満児について 振り返りシート③記入	振り返りシート③をウェブクラスに次週までに提出（120分）
4回目	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達ー2 3歳以上児 小テスト①実施（保育所保育指針、幼稚園教育要領の「人間関係」のねらいと内容の理解度について）	今日の学びの復習（120分）
5回目	遊びの中の人とのかかわりー1 3歳未満児 振り返りシート④記入	振り返りシート④を次週までにウェブクラスに提出（120分）
6回目	遊びの中の人とのかかわりー2 3歳以上児 振り返りシート⑤記入	振り返りシート⑤記入し次週までにウェブクラスに提出（120分）
7回目	生活を通して育つ人とのかかわり （親、きょうだい、祖父母、園生活など） 小テスト②（乳児期における人間関係の理解度）	今日の学びの復習（120分）
8回目	子どもと保育者とのかかわり 振り返りシート⑥記入	振り返りシート⑥記入し、次週までにウェブクラスに提出（120分）
9回目	園生活における個と集団の育ちについて 振り返りシート⑦記入	振り返りシート⑦記入しウェブクラスに次週までに提出（120分）
10回目	人とのかかわりを見る視点ー1 振り返りシート⑧記入	振り返りシート⑧記入し、ウェブクラスに次週までに提出。（120分）
11回目	人とのかかわりを見る視点ー2 小テスト③（幼児期の人間関係の理解度について）	今日の学びの復習（120分）
12回目	保育の中で育つ人とかかわる力 （グループワーク・・・事例研究と発表とまとめ）	グループで発表内容をまとめて、次週までにウェブクラスに提出。 （120分）
13回目	領域「人間関係」における今日の課題 （ICTの発展から考える人間関係他） 小テスト④（人間関係における保育者の役割についての理解度）	今日の学びの復習（120分）
14回目	領域「人間関係」と小学校とのつながり 子どもの人権について 振り返りシート⑨記入	授業の配布したプリントをまとめて、復習しておく。（120分）
15回目	授業の振り返り、まとめ 総括試験	授業の資料をまとめる。（120分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED301-A51	2.科目名	幼児教育方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	保育実践の基盤は、保育者の幼児理解にあるといわれている。保育者がその子をどう理解するかによって、保育のありようは大きく変化する。保育者の幼児理解は、保育実践の出発点である。そこで、本授業では、幼児理解にはじまる保育の援助と方法について学ぶ。なお、汐江ふたば保育園へ行き、保育所の 5 歳児の実態を把握する。その上で、保育の援助と方法について検討し、実践を行えるようにすることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	【授業の到達目標】 1. 幼児理解をする上での知識を深める。 2. 幼児理解に基づいた具体的な保育場面における保育者の援助の在り方を理解する。 3. 保育の方法を Brush Up するための、サイクルを理解し、実践力を身につける。 【関連する学科の DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	■ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 ■ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 ■ 瀧川光治・小栗正裕編『改編 保育の考え方と実践』2012、久美出版					
21.成績評価	課題 1・2 20%+30% → 50% 授業中ワークシートによる評価 13 回 3%×15 回 → 45% e-portfolio 2 回以上の投稿 → 5% ※提出物の遅れは減点対象になります。WS は基本的に遅れないように気を付けましょう。					
22.コメント	この授業では、現場へ実際に出向き、防災の視点から子どもたちへの援助や方法を具体的に検討し、実践します。そのため、防災士を取得していることが望ましいです。 みんなで議論しながら、保育を組み立てて実践していきますので、授業態度として積極的に参加することを求めます。 子どもたちの安全の確保の仕方やどのように意識を高めるのかをじっくり検討していきましょう。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）					

23.オフィスアワー		火曜日お昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	・ オリエンテーション ・ 保育の方法を Brush Up する〈4つの専門性〉 教育方法の基礎的理論と実践を理解していく。	☐ HW-WS①を実施する。 ☐ 予習と復習。(120分)
第2回	・ 幼児理解と保育者の援助 教育方法の基礎的理論と実践を理解していく。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。 (汐江ふたば保育園見学)	☐ 予習と復習。(120分) ☐ HW-WS②を実施する。(120分)
第3回	・ 保育の計画(カリキュラム・デザイン)と環境構成 幼児及び教室・教材など保育を構成する基礎的な要件を理解し、保育を計画していくことを知る。 (汐江ふたば保育園 見学)	☐ 予習と復習。(120分) ☐ HW-WS③を実施する。(120分)
第4回	・ 幼児の遊びと発達 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 (園見学を踏まえた子ども理解を共有する) (防災に関する現状をインターネットや文献を活用して把握する)	☐ 予習と復習。(120分) ☐ HW-WS④を実施する。(120分)
第5回	・ 幼児の遊びと発達② これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 (園見学を踏まえた子ども理解を共有する) (防災に関する現状をインターネットや文献を活用して把握する)	☐ 予習と復習。(120分) ☐ HW-WS⑤を実施する。(120分)
第6回	・ 防災プロジェクトの立案 * 子どもの気持ち、保育者の支援について考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 カリキュラムを作成する上で、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価等の視点を含めた保育指導案を作成する。 (防災計画案を考える①)	☐ 予習と復習。(120分) ☐ HW-WS⑥を実施する。(120分)
第7回	・ 防災プロジェクトの立案 * 子どもの気持ち、保育者の支援について考える。	☐ 予習と復習。(120分) ☐ HW-WS⑦を実施する。(120分)

	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 カリキュラムを作成する上で、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価等の視点を含めた保育指導案を作成する。 （防災計画案を考える②）	
第 8 回	・ 防災プロジェクトの立案 * 子どもの気持ち、保育者の支援について考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 カリキュラムを作成する上で、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価等の視点を含めた保育指導案を作成する。 （防災計画案を考える③）	○ 予習と復習。（１２０分） ○ HW-WS⑧を実施する。（１２０分）
第 9 回	・ 防災プロジェクトに関する立案の検討 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 防災を子どもたちに伝える手立てを考える。 （防災計画案を発表する①）※できれば園で	○ 予習と復習。（１２０分） ○ HW-WS⑨を実施する。（１２０分） ● 【課題 1】 「協同する経験とは？」を実施する。（２４０分）
第 1 0 回	・ 防災プロジェクトに関する立案の検討 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 防災を子どもたちに伝える手立てを考える。 （防災計画案を発表する②）※できれば園で	○ 予習と復習。（１２０分） ○ HW-WS⑩を実施する。（１２０分）
第 1 1 回	・ 防災プロジェクトの実施（保育と保育者の援助） これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 子ども主体の保育を把握・実施する。 （防災計画案の実施①）	○ 予習と復習。（１２０分） ○ HW-WS⑪を実施する。（１２０分）
第 1 2 回	・ 防災プロジェクトの実施（保育と保育者の援助） これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 子ども主体の保育を把握・実施する。 （防災計画案の実施②）	○ 予習と復習。（１２０分） ○ HW-WS⑫を実施する。（１２０分）
第 1 3 回	・ 防災プロジェクトの実施（保育と保育者の援助）	○ 予習と復習。（１２０分）

	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 子ども主体の保育を把握・実施する。 （防災計画案の実施③）	○HW-WS⑬を実施する。（１２０分）
第１４回	・保育者の省察とカンファレンス 子供たちの興味・関心を高めたり保育内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながらパソコンを活用して教材を作成することを知る。 写真や動画を活用した保育展開の事例を示す。 （防災計画案の振り返り）	○予習と復習。（１２０分） ○HW-WS⑭を実施する。（１２０分）
第１５回	・授業の総括	○ 予習と復習。（１２０分） ○ HW-WS⑮を実施する。（１２０分） ● 【課題２】授業のまとめ」を実施する。（１２０分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED304-A51	2.科目名	子どもの保健Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	細川愛美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉子ども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習・講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	?児が成?して??実現していくための基礎として、??ともに健康な?児期を過ごす事はとても?切である。?児期に関わる上で、?児期の正常な発育発達を理解し、?常?活の中で??の健全な育成のためにどうすればいいのか等の知識演習を通して保育に必要な技術を実践的に習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	本講義を通じて?どもの保健Ⅰの知識を基礎として、広く保育の場において実践できるよう応??を養う知識と技術を習得する。 ① 理論的知識を持って対応できるようにする。 ② 知識、技術を?かし、保育のみでなく、広く対応できる。 ③ 相?の?場を考え対応する。 ④ 必要な情報を収集し正しく判断し活?できるようにする。 ⑤ 保育の視点から問題や課題に気づき改善に向けた保健活動の展開を進める。					
19.教科書・教材	「保育の場で生きる子どもの健康と安全」高内正子・梶美保編著 建帛社					
20.参考文献	子どもの健康と安全演習ノート 小林美由紀 編著 診断と治療社 子どもの病気ホームケアガイド 日本外来小児科学会 編著 医歯薬出版株式会社					
21.成績評価	1. 課題レポート提出（授業内課題含む） 2 0 % 2. 実技, 実習態度等 2 0 % 3. 小テスト 6 0 %					
22.コメント	専門職として子どもと関わる上での基礎となる講義です。知的好奇心を持って参加してください。 演習、実技にふさわしい服装で出席してください。 感染症対策や事故等のための指示されたことを守ってください。 質問等あれば授業後に声をかけてください。あるいはメールで連絡をください。 ※生成 AI 利用：条件付きで認める。授業内容を取り入れること。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 6 日(月)3 限	第 1 章 子どもの健康と保健 1・2・3 P1～P7			復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習		
第 2 回 10 月 13 日 (月) 3 限	第 1 章 子どもの健康と保健 4 P7 ～P10 演習 年長児へ手洗い指導を行う。			復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習 演習①		
第 3 回 10 月 20 日 (月) 3 限	第 2 章 子どもの健康支援 1・2・3 P11 ～P23			復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習		
第 4 回 10 月 27 日	第 2 章 子どもの健康支援 4 P23～P24 【課題レポート 子どもの健康観察のポイント】			復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習		

(月) 3 限	演習 モデル人形を用いて乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定を行う。	課題レポート提出 ※生成 AI：条件付きで認める。授業内容を取り入れること。 演習②
第 5 回 11 月 3 日 (月) 3 限	第 3 章 環境および衛生管理 1・2・3 P25～P35	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習
第 6 回 11 月 10 日 (月) 3 限	第 3 章 環境および衛生管理 4 P35～P40 演習 保育室内における感染症予防対策の嘔吐物処理を行う。	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習 演習③
第 7 回 11 月 17 日 (月) 3 限	第 4 章 保育における保健的対応 1・2・3 P41～58 【課題レポート 各保育室の対応】	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習 課題レポート提出 ※生成 AI：条件付きで認める。授業内容を取り入れること。
第 8 回 11 月 24 日 (月) 3 限	第 5 章 事故防止および安全対策 1・2・3・4・5 P59～P67	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習
第 9 回 12 月 1 日 (月) 3 限	第 5 章 事故防止および安全対策 6 P67～P70 演習 子どもを事故から守る取組についてグループワークをする。 【課題レポート ハザードマップ作成】	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習 演習④ 課題レポート提出 ※生成 AI：条件付きで認める。授業内容を取り入れること。
第 10 回 12 月 8 日 (月) 3 限	第 6 章 子どもの体調不良等に対する適切な対応 1 P71～P82	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習
第 11 回 12 月 15 日 (月) 3 限	第 6 章 子どもの体調不良等に対する適切な対応 2 P83～P97	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習
第 12 回 12 月 22 日 (月) 3 限	第 6 章 子どもの体調不良等に対する適切な対応 3 P97～P110 演習 モデル人形を用いて心肺蘇生法ができるようにする。	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習 演習⑤
第 13 回 1 月 19 日 (月) 3 限	第 7 章 災害への備え 1・2・3・4 P111～P122 演習 ループごとに事例を通して災害訓練のシミュレーションを行う。	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習 演習⑥
第 14 回 1 月 26 日 (月) 3 限	第 8 章 健康および安全管理の実施体制 1・2・3・4 P123～P132 【課題レポート 保健計画作成】	復習：復習とプリントの整理 予習：次回の予習 課題レポート提出 ※生成 AI：条件付きで認める。授業内容を取り入れること。
第 15 回 1 月 27 日 (火) 3 限	まとめ 小テスト	復習：復習とプリントの整理 小テスト

1.授業コード (ナンバリング)	EED306-A51	2.科目名	家庭支援論	3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻（教育・保育コース／福祉・保育コース）			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	家庭支援の力量は今日、保育者の専門性のひとつとして重視されてきています。この授業では、家族とは何かという基本的な理解と現代の家族の多様なあり方を知った上で、とくに支援が必要である「ひとり親家族」「障害児をもつ家族」「虐待がある家族」に対する家庭支援のあり方を学びます。また日本の子育て支援の制度とその歴史を学び、実際に保育現場で保護者支援を行う際のポイントを考えることを行います。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）と（4）問題発見・解決力 の学習に関連しています。 本科目の学習目標は次の下記のとおりです。 ①日本社会における家族の現状と子育ての問題点を説明できるようになること。 ② 保育所、幼稚園、児童福祉施設などにおいてどのような「家庭支援」が求められているのかを、説明できるようになること。 ③ロールプレイによって実際の家庭支援を模擬体験し、留意点を説明できるようになること。				
19.教科書・教材	小田豊、日浦直美、中橋美穂 編著 『新保育ライブラリ 子どもを知る 家庭支援論』 北大路書房				
20.参考文献	授業中に紹介します。				
21.成績評価	次の 3 項目すべてに取り組んだうえで、合計 60 点以上で単位修得となる。 ①ワークシート(3 点×14 回) 42% → 学習目標の①、②、③ ②学修の定着を確認する筆記試験 50% → 学習目標の①、② ③宿題提出 8% → 学習目標の①、②				
22.コメント	生成 AI の活用については条件付きで認めます。詳細は授業中に伝えます。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	オリエンテーション 第 1 章 家庭とは何か？① 家族、家庭について学ぶ。			○指定された事項を調べてくる(240 分) ★ワークシート 1 を提出	
【第 2 回】	第 1 章 家庭とは何か？② 男女共同参画社会とは何か			○指定された事項を調べてくる（240 分） ★ワークシート 2 を提出	
【第 3 回】	第 2 章 家族と子育て 現代の子育ての現状と問題			○指定された事項を調べてくる（240 分） ★ワークシート 3 を提出	
【第 4 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性① 母親の子育て不安について			○指定された事項を調べてくる（240 分） ★ワークシート 4 を提出	

【第 5 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性② 児童虐待について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 5 を提出
【第 6 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性③ 障害のある子どもと親への支援	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 6 を提出
【第 7 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性④ ひとり親家庭への支援	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 7 を提出
【第 8 回】	第 4 章 子育て支援の方法① 日本の子育て支援施策の変遷について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 8 を提出
【第 9 回】	第 4 章 保育所・幼稚園・地域子育て支援センターでの取り組み① 保育所の子育て支援について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 9 を提出
【第 10 回】	第 4 章 保育所・幼稚園・地域子育て支援センターでの取り組み② 幼稚園・地域子育て支援センターの子育て支援について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 10 を提出
【第 11 回】	第 5 章 家族援助の展望と課題 児童虐待のある家庭への援助の実際	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 11 を提出
【第 12 回】	第 6 章 保護者の心を聴くために 保育所・幼稚園での保護者支援の実際について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 12 を提出
【第 13 回】	第 7 章 さまざまな家族とのかかわり① 実際のケースに関してグループワークを行う。	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 13 を提出
【第 14 回】	第 7 章 さまざまな家族とのかかわり② 実際のケースに関してグループワークを行った結果を全体で共有する。	★ワークシート 14 を提出 ○授業のまとめに向けて、これまでの授業内容の復習を行う。(480 分)
【第 15 回】	授業のまとめ これまでの学修の成果を確かめる筆記試験を行う。	

1.授業コード (ナンバリング)	EED311-A52	2.科目名	幼児指導法	3.単位数	2
4.授業担当教員	今中洋				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 回生～
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種	11.先修条件	1 回生春学期・秋学期開講の体育指導Ⅰ・Ⅱを履修していれば、理論編として、よりイメージが膨らむ。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	60～70 名まで				
17.授業の目的と概要	【本授業では】 ※幼児（子ども）の生活環境や発育発達を理解し、運動指導おける様々な知識を身につける。 ※保育・教育現場における運動プログラムのあり方を考える。 ※指導現場の実践を想定した、指導プランニング力を高める。				
18.学習目標と DPとの関連	○学習目標 【専門的知識】【技術の活用力】【多様性理解】などを授業を通して経験し深め身につけます。 具体的にこの科目では、幼児期に相応しい運動プログラムを通して、幼児の特性や身体面、精神面の特徴を理解し、以下の事柄を学びます。 ①幼児（子ども）の生活環境や発育発達を理解しそれを踏まえた指導法を学ぶ。 ②保育・教育の現場における運動プログラムのあり方を考え、そてに相応しい指導法を学ぶ。 ③幼少期（子ども）における、人とのふれあい、コミュニケーション力、人とかかわる力を育むをテーマにした 運動プログラム、ふれあいゲームの指導法や指導者のあり方を学ぶ。				
19.教科書・教材	毎回の授業資料には Web クラスにて配信。 また必要に応じて参考資料、プリントを配布（Web クラスにて配信）				
20.参考文献	※幼児期運動指針（文部科学省より）				
21.成績評価	①振り返りレポート＝10％ ②運動指導プランニングシート（2 枚）＝40％ （運動指導プランニングシート作成を行った授業時に提出。） ③総括試験（秋学期最終）＝50％				
22.コメント	※全てにおいて固定概念を取り除き、柔軟で新たな発想力や想像力を待ちましょう。 ※現場実習の経験や知識を活かして、子どもたちの姿や現場を深くイメージする。 ※課題の作成においては、素早くイメージし、見通しを持って計画的に取り組む。 ※毎回、ノート PC を持参すること。				
23.オフィスアワー	月曜日/木曜日の午前中は講師控室にて質問などを受け付けます。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回目	秋学期オリエンテーション ※授業の概要とテーマ、計画の解説。			○シラバスの内容を事前に確認しておく。 ○幼児の運動プログラムについて自分なりに調べておく（60 分） ◆シラバス持参	
第 2 回目	子どもを取り巻く環境とその現状			○現代の子どもたちの生活環境について予習	

	※子どもを取り巻く環境の現代と昔。 ※幼児期の身体的特徴と精神的特徴。	予しておく。 ○幼児期の子どもたちの身体の仕組みなどを調べておく。 (120 分)
第 3 回目	運動（体育）指導者の大きな使命と役割 ※幼児、児童に携わる運動指導者に必要な資質とは。	○幼児、児童の運動プログラムの復習として指導のねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 4 回目	保育、教育としての運動プログラムについて ※保育、教育の現場における運動あそび、集団あそびの現状とあり方について。	○幼児、児童の運動プログラムの復習として保育としての運動プログラムのねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 5 回目	運動指導の現場を想定して、指導プランニングを作成Ⅰ ※ふれあい運動あそび指導案①	○予習として幼児のふれあい運動あそびをいくつかイメージしておく。(60 分) ○作成中のプランニングシート①を別紙に下書きしておく。(60 分)
第 6 回目	運動指導の現場を想定して、指導プランニングを作成Ⅱ ※ふれあい運動あそび指導案②	○予習として幼児のふれあい運動あそびをいくつかイメージしておく。(60 分) ○作成中のプランニングシート②を別紙に下書きしておく。(60 分)
第 7 回目	運動指導の現場を想定して、指導プランニングを作成Ⅲ ※ふれあい運動あそび指導案③	○予習として幼児のふれあい運動あそびをいくつかイメージしておく。(60 分) ○作成中のプランニングシート③を別紙に下書きしておく。(60 分)
第 8 回目	幼児期から児童前期にかけての運動指導と発育発達について ※幼児期運動指針の紹介。 ※幼児期、児童前期の運動指導と発育・発達について	○幼児期運動指針を調べ目をしておく (60 分) ○幼児、児童の運動指導を復習として保育としての運動プログラムのねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 9 回目	乳児の運動プログラム ※乳児期の特徴と運動について ※乳児の運動とあそびの紹介	○予習として乳児の特徴や体の仕組みを調べ目をしておく (60 分) ○復習として、乳児の運動プログラムのねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 10 回目	技能指導と安全な補助法について ※幼児の年齢や時期時における技能指導、段階指導について ※技能指導ける安全な補助法について	○幼児の技能指導・段階指導・安全な補助法のポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)

第 11 回目	冬の運動プログラム：鬼ごっこあそび ※冬の運動プログラム、鬼ごっこあそびの紹介。 ※冬の運動プログラム・鬼ごっこあそびのねらいとポイント	○冬の運動プログラム・鬼ごっこあそびの指導法やポイントを書きだしてまとめておく。(120 分)
第 12 回目	指導法「コーディネーション」 ※コーディネーショントレーニングについて	○予習としてコーディネーション について前もって調べておく。(60 分) ○コーディネーションの復習としてポイントを書き出してまとめておく。(60 分)
第 13 回目	幼児体育とは ※幼児体育のあり方と幼児体育指導指について	○幼児体育のあり方と指導法について復習としてポイントを書き出してまとめておく。(60 分)
第 14 回目	秋学期の振り返りとまとめ ※これまでの授業でのポイントやキーワードを整理し理解する。	○秋学期の振り返りとまとめを行っておく(60 分)
第 15 回目	総括試験（秋学期）	

1.授業コード (ナンバリング)	EED312-A51	2.科目名	幼稚園教育実習事前事後指導 (2023 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	これまで学んできた幼児教育にかかわる専門的知識や技能を基礎に、実習という実践現場で総合的に能力が発揮できるための準備を進めていく。また、何のために幼稚園教育実習にいくのか、実習先はどのような所なのか、実習はどのようなことをするのかなどを理解させ、実習を効果的に行うための動機付けを行う。 実習に必要な社会人としてのマナーの自覚や意識化、実習園でのオリエンテーションの持ち方、事務的な手続きについても具体的に指導を行う。 事後指導は、実習体験をどのように捉えているか、実習の学びを考えさせる。実習日誌や実習園の評価を基に振り返り、次回の実習に活かせるよう新たな課題について学び、発揮できるようにする。 ※これからの社会で求められる人材を育成していくため、本授業では、ICT を活用した保育の展開方法の検討や、DX 教材の 360 度カメラを用いた、振り返りを実施します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP の (4) (5) (6) の学修に関連している。 ①実習記録や指導計画作成の方法をしっかりと学ぶ。 ②模擬保育を通して、実習に必要な知識技能を身に付ける。					
19.教科書・教材	・幼稚園教育実習記録ノート ・幼稚園教育実習ハンドブック (上記 2 冊は授業で配布する) 名須川 知子 監修・大方 美香 監修・亀山 秀郎 編著 (2018)『保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習』ミネルヴァ書房					
20.参考文献	・「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」					
21.成績評価	・模擬保育 (絵本、手遊び、ピアノ等も含む) の評価点 10 点 (学習目標①②に対応) ・模擬保育の指導案 30 点 (学習目標①②に対応) ・自分で計画した保育の指導案作成 20 点 (学習目標①②に対応) ・実習記録の作成 20 点 (学習目標①②に対応) ・レポート 実習目標・実習 I の反省 20 点 (学習目標①②に対応) ※ワークシートや資料は締め切りまでにウェブクラスに提出のこと					
22.コメント	・実習は社会へ踏み出すスタートです。実習現場では社会人としての自覚や行動が求められます。 ・授業の遅刻、欠席は厳禁です。 ・大切な子どもの命を預かる現場です。健康管理に留意し、緊張感を持って臨みましょう。 ・保育記録の取り方、子どもの見取り方を身に付けて実習に臨みましょう。 ・幼稚園実習Ⅱを履修した人は、夏学期に 2 回目の実習があります。部分実習、責任実習が入ってきますので、指導案の苦手意識を克服し、手遊びやピアノなど保育技術のメニューを増やすなど自分で準備しておきましょう。					
23.オフィスアワー	・火曜日昼休み (椋田)					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	・ 幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱの意義と内容 ・ 幼稚園教育実習Ⅱの実習先の依頼確認 ・ 幼稚園教育実習ハンドブックと実習記録ノートの使い方 ・ 保育の実際 幼稚園での子どもや教師の様子について（文科省ビデオ視聴）	○実習ハンドブックを読み直し、意義と内容を理解し、自分の課題を明確にする。（120分）
2 回目	・ 効果的な実習記録の書き方	○今日の学びと振り返りのまとめ（60分）
3 回目	・ 実習個人票の書き方 ・ 実習記録の書き方	・ 個人票の下書きをする
4 回目	・ 指導案の作成練習①	○指導案作成、ウェブクラスに提出
5 回目	・ 指導案の作成練習② 模擬保育のグループを決める 「お楽しみ会」の内容の検討 ・ 個人票作成	・ 個人票提出
6 回目	・ 指導案の作成練習③ 「お楽しみ会」の流れの確認・指導案作成	★模擬保育の準備
7 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践	★指導案③提出 ○模擬保育の準備
8 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践	○模擬保育の準備
9 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践	○模擬保育の準備
10 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践 （360度カメラを使用した幼稚園での実践） ※変更があるかもしれません。	○授業の振り返りとまとめ
・ 11 回目 日程はウェブクラスで通知 （2025 年 4 月初旬、春学期授業開始前を予定）	・ 実習直前の事前指導 （幼稚園教育実習Ⅰに向けてのオリエンテーションや最終確認をグループでする。事務的な手続き等の確認をする） ・ グループで話し合ったことをまとめる。 ・ お礼状の書き方	○実習に向けて準備
【第 12 回】 日程はウェブクラスで通知	・ 幼稚園教育実習Ⅰ反省会(レポート作成・発表)	○提出物はウェブクラスへ。
13 回目 （ウェブクラスで通知）	・ 幼稚園教育実習Ⅱに向けてのオリエンテーションや最終確認 <実習先は1年前に依頼して了承を得た幼稚園>	○提出物はウェブクラスへ
14 回目 日程はウェブ	・ 幼稚園教育実習振り返り	○提出物はウェブクラスへ

クラスで通知		
15 回目	振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	EED313-A51	2.科目名	乳児保育Ⅱ	3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝				
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的と概要】 本科目では、乳児保育Ⅰの学びを踏まえ、乳児期の保育に必要な基本的なスキルや知識を習得し、乳児の健やかな成長と発達を支援する保育者としての役割を果たす能力を身につけることを目的とする。 1. 3 歳未満児の発達・発育の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭においた保育を示す。				
18.学習目標と DP との関連	乳児保育Ⅱの学習目標は、実習編です。次の通りです。 ①乳児保育Ⅰで学んだことを踏まえて、乳児保育の意義が理解できる。 ②乳児の発達を理解し、関わり方や援助方法など具体的に対応できる。 ③乳児保育の今日的課題に対して、関心をもって考えることができる。 ④保育所実習等で、実践できる内容を取り上げて応用発展できる。 関連する DP は、（１）自律性（４）問題発見・解決力（６）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	保育所保育指針 教材は適宜配布する。				
20.参考文献	適宜紹介する。				
21.成績評価	・課題レポート 1 回・・・10 点（学習目標①に対応） ・グループワークと発表・グループワークシート 1 回・・・10 点（学習目標②に対応） ・ワークシート 5 回・・・30 点（学習目標②③に対応） ・総括試験 50 点（学習目標①②③に対応） ※期日を守って定められた方法で提出することで評価します。 締め切りを過ぎたものは評価しません。				
22.コメント	・ウェブクラスに事前に授業の資料は見れるようにしておきます。目を通して授業にのぞみましょう。 ・保育現場では、乳児保育へのニーズが高まってきています。そのため、乳児保育の重要性や、保育の質が求められています。しっかり学びましょう。 ・状況に応じて、授業内容や授業形態が変更するかもしれません。ご承知ください。 ・授業を欠席しないようにしましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション（授業内容と進め方、評価などについて） ・乳児保育Ⅰのふりかえり	○乳児保育Ⅰの復習をしておくこと(120分)
第 2 回目	・乳児保育の意義 ○「保育所保育指針」における乳児保育の考え方 ○乳児保育の役割と機能 ○乳児保育の現状と課題	○授業で説明した保育所保育指針を復習しておくこと。(120分)
第 3 回目	・乳児の発達に応じた保育内容 アタッチメントについて ①0歳児保育の実際 課題レポート①	○課題レポート① 「子どもの発達におけるアタッチメント（愛着）とはどういうことか」（11月30日までにウェブクラスに提出）(120分)
第 4 回目	②1歳児保育の実際 ワークシート①	ワークシート①ウェブクラスに提出（120分）
第 5 回目	③2歳児保育の実際	○今日の学びの振り返り（120分）
第 6 回目	・2歳児から3歳児への移行期の保育内容 ワークシート②	○ワークシート?、ウェブクラスに11月14日までに提出。(120分)
第 7 回目	乳児保育の遊びの指導・援助①	○今日の学びの振り返り（120分）
第 8 回目	乳児保育の遊びの指導・援助② グループワーク・発表シート作成	○グループワークの発表資料作成、動画をウェブクラスに提出
第 9 回目	乳児保育における言葉かけなどことばの指導・援助 乳児保育の健康安全・事故予防について	○今日の学びの振り返り（120分）
第 10 回目	3歳未満児の指導計画の立て方 ワークシート③	○ワークシート③は12月13日までにウェブクラスに提出。(120分)
第 11 回目	子どもの発達を促すおもちゃ・絵本について	○乳児のおもちゃについて調べる（120分）
第 12 回目	乳児保育を支える連携・協働について ワークシート④	○ワークシート④は12月21日までにウェブクラスに提出 (120分)
第 13 回目	・事例について演習 ワークシート⑤	○ワークシート⑤は1月14日までにウェブクラスに提出 (120分)
第 14 回目	・事例についての演習	○今日の学びの振り返り これまでの配布物・資料をまとめて復習しておく（120分）
第 15 回目	・乳児保育Ⅱのまとめ ・総括試験	○乳児保育Ⅱの復習（120分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED315-A51	2.科目名	健康（指導法）		3.単位数	2
4.授業担当教員	原坂一郎					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（含・映像教材）および演習（体を使った遊びや製作遊び）を交えながらの総合的学習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心身の健康に関する領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」観点から子どもの育ちを考えていく領域である。 そのため、子どもの健康は「体の健康」とともに「心の健康」が大きなウエイトを占める ・「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」における領域「健康」を踏まえ、子どもの健康に対する基礎的理解を深め、それを育むための具体的な方法を探る。 ・子どもの健康に関わる 7 つのキーワード「基本的生活習慣」「遊び」「病気」「怪我」「テレビ」「笑い」「ことばがけ」を一つずつ解説・検証しながら進めていく。 ・体験型の学習とし、講義で学んだことをそのまま自分の体験にしながら、「知識」としてではなく「経験」として、理解を深めていく。 ・この授業では、実際の保育実践において指導する場面を想定して、指導計画案（指導案）の作成や教材研究、模擬保育等を組み入れ、実践的な指導力を身につけることを意図して実施し、授業への姿勢や意欲がそのまま正当に評価される講義にしていく。 学修目標としては、 ①子どもの「健康」（体の健康・心の健康）についての理解を深め、その増進方法を探る。 ②子どもに対する「言葉がけ」の違いが、子どもの心身の健康に大きな影響力を持つことを理解し、適切な「言葉がけ」を探る。 ③「笑い」「笑顔」の持つ心身の健康への影響力とその効力について理解する。 ④講義で学んだことを体験することで、知識→経験→実感、の道筋を辿りながら理解を深める。 この科目で重視する K U I S 学習ベンチマーク ①社会的に弱い立場にいる人に心を寄り添い、その理解に務めようとする。 ②よりよい問題解決のために、T P O に応じながらも他者に影響されない自分独自の解決法を探る。 ③新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつ。 ④自分の進路を決め、それに向かって努力する。					
18.学習目標と D P との関連	子どもの健康に関する知識を習得し、理解を深める。					
19.教科書・教材	子どもがこっちを向く「ことばがけ」～みんなが笑顔になる 45 のヒント～ （著：原坂一郎 ひかりのくに刊 2007.4 新書サイズ 940 円+税）					
20.参考文献	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008 年（190 円+税） 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008 年（190 円+税） ハッピー保育アドバイス～保育がうまくいく 3 つのルール～ （著：原坂一郎 ひかりのくに刊 2013.3 1200 円+税）					
21.成績評価	・評価・評定については、下記 3 項目を基に総合的に行ないます。					

	1. 受講ノート（30%） 毎回の授業終了時に感想や質問などを記入します。担当教員は質問に関しては、翌週、講義の中で回答します。 2. レポート・小テスト（20%） 3. 総括試験（50%）	
22.コメント	受講ノートは授業の最後 5 分程度を使って、感想や質問などを記入し毎回提出します。出席確認を兼ねますので、持って帰らないこと。 ・講義で配るレジュメは、各自ノート代わりにしてまとめ、翌週の講義に持参してください。保育現場に長くいたので、子どもの姿が見えるような臨場感あふれる講義にしたいと思います。 将来、子ども関係の仕事に就かれる方が現場で役立つ話や子どもの健康を増進するあそびをたくさん盛り込みながら、受講生参加型の形態を多く取り入れます。 《生成 AI の利用に関して》 条件付きで認める 成績評価に関わる課題・レポート・テストでは生成 AI の利用を認めません。 自学自習に利用することは妨げません。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション：授業の内容と進め方、および「保育内容・健康」についての総論	
第 2 回	子どもの健康と「基本的生活習慣」その 1：食事・排泄・着脱・睡眠の大切さー幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」（1）ー	購入した教科書を持参してください。
第 3 回	子どもの健康と「基本的生活習慣」その 2：子どもの食育と保育者の望ましい関わり	
第 4 回	子どもの健康と「あそび」：遊びを通して養う非認知能力ー幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」（2）ー	自分が子ども時代に遊んだ無数の「あそび」を思い出してきてください。
第 5 回	演習「子どもの健康と遊び Part 1：動的遊び」ー指導計画の立案と模擬保育による実践（1）ー	講義室にて様々な動的遊びを体験・学習します。
第 6 回	演習「子どもの健康と遊び Part 2：静的遊び」ー指導計画の立案と模擬保育による実践（2）ー	要持参品があるので、前の週にお知らせします。
第 7 回	子どもの健康と「病気」：子どもの病気とその予防および処置	自分の経験から子ども時代に罹りやすい病気を考えておいてください。
第 8 回	子どもの健康と「事故・怪我」：子どもの事故・怪我とその防ぎ方および応急処置法	自分の経験から子ども時代に経験しやすい事故・ケガを考えておいてください。
第 9 回	演習「子どもにとっての危険を発見しよう」＋小テストー健康・安全にかかわる年間指導計画と保育環境・園内環境ー	レポートを兼ねた小テストを実施 テーマは「子どもの危機管理」に関する問題です。極力、休まないようにしてください。
第 10 回	子どもの健康と「笑い」その 1～人の健康と笑いの関係～	
第 11 回	子どもの健康と「笑い」その 2～～子どもの笑顔はバロメーター	
第 12 回	子どもの健康と「ことばがけ」～子どもは泣くも笑うも”ことばがけ”ひとつ～	
第 13 回	子どもの健康と「メディア」：その功罪と子どもの心	子ども時代によく見た子ども番組を思い出

	身への影響	し、その経験からテレビの子どもへの影響力を考えておいてください。
第 14 回	指導計画の立案と模擬保育による実践および総括テスト	総括テストを行います。 休まないようにしてください。
第 15 回	まとめ 一幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」の総括一	それまでのレジュメを全て必ず持参してください。

1.授業コード (ナンバリング)	EED315-A52	2.科目名	健康（指導法）		3.単位数	2
4.授業担当教員	原坂一郎					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（含・映像教材）および演習（体を使った遊びや製作遊び）を交えながらの総合的学習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心身の健康に関する領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」観点から子どもの育ちを考えていく領域である。 そのため、子どもの健康は「体の健康」とともに「心の健康」が大きなウエイトを占める ・「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」における領域「健康」を踏まえ、子どもの健康に対する基礎的理解を深め、それを育むための具体的な方法を探る。 ・子どもの健康に関わる 7 つのキーワード「基本的生活習慣」「遊び」「病気」「怪我」「テレビ」「笑い」「ことばがけ」を一つずつ解説・検証しながら進めていく。 ・体験型の学習とし、講義で学んだことをそのまま自分の体験にしながら、「知識」としてではなく「経験」として、理解を深めていく。 ・この授業では、実際の保育実践において指導する場面を想定して、指導計画案（指導案）の作成や教材研究、模擬保育等を組み入れ、実践的な指導力を身につけることを意図して実施し、授業への姿勢や意欲がそのまま正当に評価される講義にしていく。 学修目標としては、 ①子どもの「健康」（体の健康・心の健康）についての理解を深め、その増進方法を探る。 ②子どもに対する「言葉がけ」の違いが、子どもの心身の健康に大きな影響力を持つことを理解し、適切な「言葉がけ」を探る。 ③「笑い」「笑顔」の持つ心身の健康への影響力とその効力について理解する。 ④講義で学んだことを体験することで、知識→経験→実感、の道筋を辿りながら理解を深める。 この科目で重視する K U I S 学習ベンチマーク ①社会的に弱い立場にいる人に心を寄り添い、その理解に務めようとする。 ②よりよい問題解決のために、T P O に応じながらも他者に影響されない自分独自の解決法を探る。 ③新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつ。 ④自分の進路を決め、それに向かって努力する。					
18.学習目標と D P との関連	子どもの健康に関する知識を習得し、理解を深める。					
19.教科書・教材	子どもがこっちを向く「ことばがけ」～みんなが笑顔になる 45 のヒント～ （著：原坂一郎 ひかりのくに刊 2007.4 新書サイズ 940 円+税）					
20.参考文献	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008 年（190 円+税） 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008 年（190 円+税） ハッピー保育アドバイス～保育がうまくいく 3 つのルール～ （著：原坂一郎 ひかりのくに刊 2013.3 1200 円+税）					
21.成績評価	・評価・評定については、下記 3 項目を基に総合的に行ないます。					

	1. 受講ノート（30%） 毎回の授業終了時に感想や質問などを記入します。担当教員は質問に関しては、翌週、講義の中で回答します。 2. レポート・小テスト（20%） 3. 総括試験（50%）	
22.コメント	受講ノートは授業の最後 5 分程度を使って、感想や質問などを記入し毎回提出します。出席確認を兼ねますので、持って帰らないこと。 ・講義で配るレジュメは、各自ノート代わりにしてまとめ、翌週の講義に持参してください。保育現場に長くいたので、子どもの姿が見えるような臨場感あふれる講義にしたいと思います。 将来、子ども関係の仕事に就かれる方が現場で役立つ話や子どもの健康を増進するあそびをたくさん盛り込みながら、受講生参加型の形態を多く取り入れます。 《生成 AI の利用に関して》 条件付きで認める 成績評価に関わる課題・レポート・テストでは生成 AI の利用を認めません。 自学自習に利用することは妨げません。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション：授業の内容と進め方、および「保育内容・健康」についての総論	
第 2 回	子どもの健康と「基本的生活習慣」その 1：食事・排泄・着脱・睡眠の大切さー幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」（1）ー	購入した教科書を持参してください。
第 3 回	子どもの健康と「基本的生活習慣」その 2：子どもの食育と保育者の望ましい関わり	
第 4 回	子どもの健康と「あそび」：遊びを通して養う非認知能力ー幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」（2）ー	自分が子ども時代に遊んだ無数の「あそび」を思い出してきてください。
第 5 回	演習「子どもの健康と遊び Part 1：動的遊び」ー指導計画の立案と模擬保育による実践（1）ー	講義室にて様々な動的遊びを体験・学習します。
第 6 回	演習「子どもの健康と遊び Part 2：静的遊び」ー指導計画の立案と模擬保育による実践（2）ー	要持参品があるので、前の週にお知らせします。
第 7 回	子どもの健康と「病気」：子どもの病気とその予防および処置	自分の経験から子ども時代に罹りやすい病気を考えておいてください。
第 8 回	子どもの健康と「事故・怪我」：子どもの事故・怪我とその防ぎ方および応急処置法	自分の経験から子ども時代に経験しやすい事故・ケガを考えておいてください。
第 9 回	演習「子どもにとっての危険を発見しよう」＋小テストー健康・安全にかかわる年間指導計画と保育環境・園内環境ー	レポートを兼ねた小テストを実施 テーマは「子どもの危機管理」に関する問題です。極力、休まないようにしてください。
第 10 回	子どもの健康と「笑い」その 1～人の健康と笑いの関係～	
第 11 回	子どもの健康と「笑い」その 2～～子どもの笑顔はバロメーター	
第 12 回	子どもの健康と「ことばがけ」～子どもは泣くも笑うも”ことばがけ”ひとつ～	
第 13 回	子どもの健康と「メディア」：その功罪と子どもの心	子ども時代によく見た子ども番組を思い出

	身への影響	し、その経験からテレビの子どもへの影響力を考えておいてください。
第 14 回	指導計画の立案と模擬保育による実践および総括テスト	総括テストを行います。 休まないようにしてください。
第 15 回	まとめ 一幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」の総括一	それまでのレジュメを全て必ず持参してください。

1.授業コード (ナンバリング)	EED319-A51	2.科目名	表現（指導法）Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む) 模擬保育などは、集中講義になる可能性あり			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」について考察し、幼児の未分化な表現とその指導についての理解 を深めます。 本授業では特に、幼児の造形について取り扱い、幼児の造形作品を鑑賞したり、幼児の造形に関する研究に触れたりすることを通して幼児理解を進めるとともに、幼児と造形の関わり及びその活動 の意義を学び、併せて基礎的指導力を養います。また描いたり、つくったり、みたりする活動を通して、互 いの「違い」の面白さに気づき、色や形を介してのコミュニケーションの意義を認識します。 それに加えて、その過 程を通して自ら創造する喜びを味わい、保育者に必要とされる豊かな感性を自己の中に育てます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・ 5 領域の中の「表現」の位置づけ、その目標と内容について理解します。 ・ 幼児特有の表現過程を追体験することを通して、未分化な幼児期の表現を理解し、表現をトータルに捉えて指導することの重要性及び具体的指導方法について把握します。 ・ 特に幼児の造形について 4 つの側面(発達の、特徴的、心理的、美的)からアプローチし、幼児の表現を 受容、共感、反応していくことの重要性について理解し、保育者としての基礎的姿勢と基本的指導技術を身につけます。					
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論（新訂版）』2018. ISBN978-4536601030 本書は「造形Ⅰ」（1 年春学期）で購入したものです。また、「図画工作Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作Ⅱ」（2 年秋学期）、「初等図画工作科教育法」（2 年秋学期）、「造形Ⅱ」（4 年秋学期）、「教職実践演習(幼)」(4 年 秋学期)と共通の教科書です。					
20.参考文献	槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2008.ISBN 978-4893471314 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社					
21.成績評価	①受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ②グループワーク（①～③）=20% ③個人ワーク(活動①～⑦) =10% ④作成した保育案・模擬授業=40% ⑤e ポートフォリオの内容=20%					

	・それぞれの評価基準は、1 回目の授業で配布します。 ・①③④⑤は学科の学習目標達成，②は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる。	
22.コメント	幼児の未分化な表現を豊かに引き出すにあたって、指導者自身が描いたり、つくったりする力量は必要ではありません。幼児の世界観を理解し受容し反応すること、つまり幼児の表現を”みとる力”が必要なのです。 屈託のない無限の可能性が感じられる幼児の表現世界を体験しましょう。 そして、仲間と一緒に表現することの楽しさを味わっていきましょう。 そうすることで、魅力ある指導者への第一歩を踏み出せるでしょう。 ※遠隔授業で対応できない内容については、集中講義になる可能性があります。 ※遠隔授業の場合、必要な用具（絵の具、クレパス、色鉛筆、用紙など）については自分で用意することになります。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定します。	
23.オフィスアワー	木曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、e ポートフォリオのアップ、受講上の留意点などについて） グループづくり 保育所指針・幼稚園要領における「表現」とは	○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 2 回	子どもの造形活動を捉える視点 「遊びから捉える幼児の表現～自分たちの経験をもとに～」 活動①「新聞で遊ぼう」（素材を体験する 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 3 回	活動②「自然物で遊ぼう」（素材を体験する 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 4 回	活動③「絵本をつくろう」（子どもと楽しむために 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 5 回	活動④「絵本をつくろう 2」（子どもと楽しむために 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 6 回	活動⑤「たらしこみで遊ぼう」（技法を体験する 1） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 7 回	活動⑥「パステルで遊ぼう」（技法を体験する 2） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性や小学校の教科とのつながりの理解	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）

第 8 回	活動⑦「クレパスで遊ぼう」（技法を体験する 3） ねらい及び内容と指導上の留意点、他領域との関連性 や小学校の教科とのつながりの理解	◆ノートパソコン◆ ★◎保育案の作成 ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 9 回	幼児の造形への特徴的側面からのアプローチ 保育所指針・幼稚園要領における「表現」のねらい・ 内容の理解 保育指導案の構成を理解し、保育案を作成する 情報機器・教材の活用法の理解 「遊びからの表現活動を考える（保育案の作成）」	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 10 回	幼児の造形への特徴的側面からのアプローチ 「遊びからの表現活動を考える」指導案検討グループ ワーク	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 11 回	造形表現という側面から 活動⑦「名場面を探そう～私のおすすめ絵本～」	◆おすすめの絵本 1 冊◆ ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 12 回	造形表現という側面から グループワーク③「絵本からの表現活動～保育案をつ くろう～」 保育指導案の構成を理解し、保育案を作成する 情報機器・教材の活用法の理解	★◎保育案作成（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 13 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション①	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 14 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション②	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）
第 15 回	造形表現という側面から 「絵本からの表現活動」模擬授業・リフレクション③ 保育実践の動向を知り、保育構想の向上を図る	○振り返り課題の作成と画像整理（60 分） ○復習と授業ノートの整理（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED403-A51	2.科目名	教職実践演習 (幼)		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史、西本望、棕田善之、吉田武大					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	4 年生～	
10.取得資格の要件	幼稚園教員一種免許、保育士資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、幼稚園・保育に関する自己課題に気づき、気付いた自己課題の改善を図るとともに、保育実践力を高めることを目的としています。 【概要】 「教職実践演習 (幼)」は、幼稚園教員免許、保育士資格の取得にとって必須の科目です。本科目では、教員・保育者として求められる、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項について、総合的・横断的に学ぶと共に、実践について最終的な確認を行うことになります。将来的に教育・保育に携わる際に有用な学修となります。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律的で主体的な態度 (6) 専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 (1)幼稚園・保育に関するこれまでの学びを踏まえた自己課題に気付くことができる。 (2)気付いた課題に対して改善を図ることができる。 (3)保育実践力を高めることができる。					
19.教科書・教材	適宜案内します。					
20.参考文献	適宜案内します。					
21.成績評価	以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次のとおりです。 課題 1：履修カルテ → 10% [学習目標(1)(2)に対応] 課題 2：自己課題 (WS1) → 10% [学習目標(1)に対応] カ第 3：小レポート (担当教員 4 名それぞれが一つずつ、計 4 つ) → 80% (20%×4) [学習目標(1)(2)(3)に対応]					
22.コメント	まさに教職課程の学びの集大成です。これまで得た知識と経験をこの演習で統合し、教職に向けて実力を養いましょう。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポートでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー	大西：木曜日昼休み 下里：火曜日昼休み 吉田：火曜日 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション (全体) ・グループ分けについて ・本授業のねらいについて ・本授業の内容について ・本授業の評価について			○提出物：履修カルテ ○復習：今日の学びのふり返りとまとめ (180 分)		

	・履修カルテの確認と自己の課題(WS 1)の確認	
【第2回】	※第2回目～第13回目までは、下記にあるA・B・C・Dの4グループに分かれて、各担当教員につき3コマずつ学修する(配布する用紙で確認) 「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」についての演習 (吉田) ◆教職実践演習の意義と保育者に必要な資質能力	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分)
【第3回】	「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」についての実践演習 (吉田) ◆幼児にとっての保育者	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分)
【第4回】	「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」についての実践演習 (吉田) ◆幼児にとっての保育者	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分) ○予習：【第2回】【第3回】【第4回】の学びに関する小レポート (レポート1) 作成 (225分)
【第5回】	「③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習 (大西) ◆園における造形活動 (幼児の発達の側面からと特徴的側面から)	○提出物：レポート1 ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分)
【第6回】	「③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習 (大西) ◆園における造形活動 (幼児の心理的側面からと美的・造形的側面から)	○持参物：PC ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分)
【第7回】	「③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習 (大西) ◆園における造形活動と幼児の造形過程の確認	○持参物：PC ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分) ○予習：【第5回】～【第7回】の学びに関する小レポート (レポート2) 作成 (225分)
【第8回】	「②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項」についての実践演習 (椋田) ◆こどもの視点から見た保育所・幼稚園から小学校への移行経験の把握とその対策を考える	○提出物：レポート2 ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分)
【第9回】	「②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項」についての実践演習 (椋田) ◆保育所・幼稚園から小学校へ移行することも持つ保護者の期待や不安の把握と対策を考える	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分)
【第10回】	「②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項」についての実践演習 (椋田) ◆アプローチプログラム・スタートカリキュラムの把握と作成	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分) ○予習：【第8回】～【第10回】の学びに関する小レポート (レポート3) 作成 (225分)
【第11回】	「④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習 (下里)	○提出物：レポート3 ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ (180分)

	◆履修カルテを通して学びを振り返る	分)
【第 12 回】	「④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（下里） ◆保育者の専門性について	○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180 分）
【第 13 回】	「④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（下里） ◆保育実践力をつけるために	○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180 分） ○予習：【第 11 回】～【第 13 回】の学びに関する小レポート（レポート 4）作成（225 分）
【第 14 回】	一人一人 4 年間の学びを発表する。	○提出物：レポート 4 ○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180 分）
【第 15 回】	これまでの学びの総まとめと自己課題の整理	○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180 分）

1.授業コード (ナンバリング)	ENV101-A51	2.科目名	環境と生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 私たちが「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、そして、次世代が持続可能な社会を受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかについて考えることを目的とします。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性 （2）社会的貢献性 （3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、様々な問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「1. あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」「2. 飢餓を終わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様さの損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安全・安心－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するように心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なるとしても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					

22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、私たちが「より良く生きる」とともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこと。 ②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。 ③生成 AI 利用：いかなる利用も認めません。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「環境と生活（環境学）」を学ぶにあたって一私たちが「個人の尊厳」を守るとともに、子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐために― ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～39 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.117～145 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.323～341 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.341～358 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.91～96 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.96～113 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.157～177 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.177～192	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）

	・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	★この日までに、第2回レポートをWebclassにて提出。
第10回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.195～203 ・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き起こしている様々な問題について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第11回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.263～278 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品等の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第3回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起こるか？」…資料については、Webclassにて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第13回の講義の日までにWebclassにて提出。
第12回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.281～319 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第13回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.227～262 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第3回レポートをWebclassにて提出。
第14回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第15回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	ENV101-M01	2.科目名	環境と生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 私たちが「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、そして、次世代が持続可能な社会を受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかについて考えることを目的とします。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性 （2）社会的貢献性 （3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、様々な問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「1. あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」「2. 飢餓を終わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様さの損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安全・安心－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するように心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なるとしても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					

22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、私たちが「より良く生きる」とともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこと。 ②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。 ③生成 AI 利用：いかなる利用も認めません。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「環境と生活（環境学）」を学ぶにあたって一私たちが「個人の尊厳」を守るとともに、子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐために― ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～39 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.117～145 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.323～341 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.341～358 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.91～96 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.96～113 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.157～177 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.177～192	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）

	・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	★この日までに、第2回レポートをWebclassにて提出。
第10回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.195～203 ・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き起こしている様々な問題について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第11回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.263～278 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品等の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第3回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起ころか？」…資料については、Webclassにて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第13回の講義の日までにWebclassにて提出。
第12回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.281～319 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第13回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.227～262 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第3回レポートをWebclassにて提出。
第14回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第15回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE102-A51	2.科目名	体育指導Ⅱ (1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 体育指導Ⅰに引き続き、仲間との協同学修を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、小学校における楽しい体育学習のあり方について実践的に学修する。 【概要】 幼保小学校で取り組む教材の中でも、指導が困難と報告されている種目を取り上げ、体験的に指導法を学ぶ。 ・表現運動プログラム（リズムダンス低学年・リズムダンス発表会・創作リズムダンス、発表会） ・器械運動プログラム（さまざまな動きにつながる運動遊び、マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動） ・ボール運動プログラム（ネット型 キャッチバレー、バレーボール、大会の運営） 小学校の体育指導の問題点は、低学年の指導にある（白幡氏）ことから想定される課題解決を重点的に取り組む。大会の運営を通してスポーツ教育としての体育について学修する。第 14 回目には、障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連 ②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 ・小学校体育への接続を理解することができる（知識） ・子どもに寄り添う支援・指導の技術を習得することができる（技能） ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる（態度）					
19.教科書・教材	使用しない。					
20.参考文献	「小学校学習指導要領 体育編」 「体育科教育（月刊雑誌）」（大修館書店） 「やってみる ひろげる ふかめる」（光文書院）					
21.成績評価	実技なので、①②は、出席が前提です。 ①授業の振り返りレポート 30％ （毎時間記入し、授業終了時に提出） ②グループワークシート（2 回） 30％ （各運動プログラム後にグループワークを行い、授業後もしくは翌週に提出） ③総括試験 40％					
22.コメント	■注意事項 ・実技の受講にあたっては、指定の体操服、体育館シューズを着用すること。					

		・安全のため、長髪はまとめ、爪は切ること。装飾品（ピアス、ネックレス等）は、禁止。 ・補給用の水分を持参し、運動中の水分補給には気をつけること。 ■場所 ・教室（尼崎キャンパス） ・体育館 *体育館の使用時は、迷惑のかからないようマナーを守ること。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 (4/10) 教室	■オリエンテーション ・体育指導Ⅱについて ・授業参加についての注意事項 ・仲間づくり ・スポーツ教育について	○準備運動について調べておく 50分 ○リズムダンスの基本的な動きについて調べておく 50分
【第2回】体 育館	表現運動プログラム① ・リズムダンス・低学年に挑戦	○紹介されたリズムダンスの技能を身に付ける。 50分 ○大会の運営について協議し、役割分担をしておく。 ○自分の役割分担に応じた準備をする。 1時間
【第3回】体 育館	表現運動プログラム？ リズムダンス発表会をしよう（課題曲）	○発表会についてまとめておく。。 50分 ○取り組みたい動き、曲について調べておく。 50分
【第4回】体 育館	表現運動プログラム③ 創作リズムダンスをしよう	○チームリーダーを中心に選曲、動きの確認をしておく。 40分 ○大会の企画、運営について調べておく。 50分
【第5回】体 育館	表現運動プログラム？ 創作リズムダンス発表会	○グループごとに発表したダンスについてまとめておく。 60分 ○他のグループのよいところについてもまとめておく。 30分
【第6回】教 室	表現運動プログラムの指導と評価 VTR視聴による指導と評価 まとめ(グループワーク1)	○PC持参。付箋、マジック等の準備。 ○器械運動とつながる動き（下位運動等）について調べておく。 50分
【第7回】体 育館	器械運動プログラム① ・さまざまな動きにつながる運動遊び	○遊びと運動の関連についてまとめておく。 ○マット運動につながる動きについて調べておく。 50分
【第8回】体 育館	器械運動プログラム？ マット運動 ・前転、後転 ・倒立	○前転などの技のポイントについてまとめておく。 40分 ○跳び箱運動について調べておく。 50分
【第9回】体 育館	器械運動プログラム？ 跳び箱運動 ・開脚跳び、閉脚跳び ・台上前転	○切り替えし系、回転系でまとめておく。 40分 ○鉄棒運動について調べておく。 50分
【第10回】体	器械運動プログラム③	○鉄棒運動の技のポイントについてまとめて

育館	鉄棒運動 ・逆上がり ・腕立て後方回転	おく。 40 分 ○支援・指導の観点から器械運動について調べておく。 50 分
【第 11 回】教室	器械運動プログラムの指導と評価 まとめ（グループワーク 2）	○P C 持参。付箋、マジック等の準備。 ○キャッチバレーボールについて調べておく。 50 分
【第 12 回】体育館	ボール運動プログラム① キャッチバレーボール	○キャッチバレーボールの特性についてまとめておく。 40 分 ○大会の計画、実施についてまとめておく。 50 分
【第 13 回】体育館	ボール運動プログラム？ キャッチバレーボール大会	○大会運営について、まとめておく。 40 分 ○キャッチバレーボールについてまとめておく。 50 分
【第 14 回】体育館	ユニファイドスポーツプログラム ・障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。 ・ゴールボール、ボッチャ等の中から選択	○技能差を越えてみんなが楽しめる観点からまとめておく。 40 分 ○体育指導Ⅱを受講して、生涯スポーツに対する考え方がどのように変化したのかについてまとめておく。 50 分
【第 15 回】教室	体育指導Ⅰのまとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE102-A52	2.科目名	体育指導Ⅱ (2/4) (3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 体育指導Ⅰに引き続き、仲間との協同学修を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、小学校における楽しい体育学習のあり方について実践的に学修する。 【概要】 幼保小学校で取り組む教材の中でも、指導が困難と報告されている種目を取り上げ、体験的に指導法を学ぶ。 ・表現運動プログラム（リズムダンス低学年・リズムダンス発表会・創作リズムダンス、発表会） ・器械運動プログラム（さまざまな動きにつながる運動遊び、マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動） ・ボール運動プログラム（ネット型 キャッチバレー、バレーボール、大会の運営） 小学校の体育指導の問題点は、低学年の指導にある（白幡氏）ことから想定される課題解決を重点的に取り組む。大会の運営を通してスポーツ教育としての体育について学修する。第 14 回目には、障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連 ②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 ・小学校体育への接続を理解することができる（知識） ・子どもに寄り添う支援・指導の技術を習得することができる（技能） ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる（態度）					
19.教科書・教材	使用しない。					
20.参考文献	「小学校学習指導要領 体育編」 「体育科教育（月刊雑誌）」（大修館書店） 「やってみる ひろげる ふかめる」（光文書院）					
21.成績評価	実技なので、①②は、出席が前提です。 ①授業の振り返りレポート 30％ （毎時間記入し、授業終了時に提出） ②グループワークシート（2 回） 30％ （各運動プログラム後にグループワークを行い、授業後もしくは翌週に提出） ③総括試験 40％					
22.コメント	■注意事項 ・実技の受講にあたっては、指定の体操服、体育館シューズを着用すること。					

		・安全のため、長髪はまとめ、爪は切ること。装飾品（ピアス、ネックレス等）は、禁止。 ・補給用の水分を持参し、運動中の水分補給には気をつけること。 ■場所 ・教室（尼崎キャンパス） ・体育館 *体育館の使用時は、迷惑のかからないようマナーを守ること。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 (4/10) 教室	■オリエンテーション ・体育指導Ⅱについて ・授業参加についての注意事項 ・仲間づくり ・スポーツ教育について	○準備運動について調べておく 50分 ○リズムダンスの基本的な動きについて調べておく 50分
【第2回】体 育館	表現運動プログラム① ・リズムダンス・低学年に挑戦	○紹介されたリズムダンスの技能を身に付ける。 50分 ○大会の運営について協議し、役割分担をしておく。 ○自分の役割分担に応じた準備をする。 1時間
【第3回】体 育館	表現運動プログラム？ リズムダンス発表会をしよう（課題曲）	○発表会についてまとめておく。。 50分 ○取り組みたい動き、曲について調べておく。 50分
【第4回】体 育館	表現運動プログラム③ 創作リズムダンスをしよう	○チームリーダーを中心に選曲、動きの確認をしておく。 40分 ○大会の企画、運営について調べておく。 50分
【第5回】体 育館	表現運動プログラム？ 創作リズムダンス発表会	○グループごとに発表したダンスについてまとめておく。 60分 ○他のグループのよいところについてもまとめておく。 30分
【第6回】教 室	表現運動プログラムの指導と評価 VTR視聴による指導と評価 まとめ(グループワーク1)	○PC持参。付箋、マジック等の準備。 ○器械運動とつながる動き（下位運動等）について調べておく。 50分
【第7回】体 育館	器械運動プログラム① ・さまざまな動きにつながる運動遊び	○遊びと運動の関連についてまとめておく。 ○マット運動につながる動きについて調べておく。 50分
【第8回】体 育館	器械運動プログラム？ マット運動 ・前転、後転 ・倒立	○前転などの技のポイントについてまとめておく。 40分 ○跳び箱運動について調べておく。 50分
【第9回】体 育館	器械運動プログラム？ 跳び箱運動 ・開脚跳び、閉脚跳び ・台上前転	○切り替えし系、回転系でまとめておく。 40分 ○鉄棒運動について調べておく。 50分
【第10回】体	器械運動プログラム③	○鉄棒運動の技のポイントについてまとめて

育館	鉄棒運動 ・逆上がり ・腕立て後方回転	おく。 40 分 ○支援・指導の観点から器械運動について調べておく。 50 分
【第 11 回】教室	器械運動プログラムの指導と評価 まとめ（グループワーク 2）	○P C 持参。付箋、マジック等の準備。 ○キャッチバレーボールについて調べておく。 50 分
【第 12 回】体育館	ボール運動プログラム① キャッチバレーボール	○キャッチバレーボールの特性についてまとめておく。 40 分 ○大会の計画、実施についてまとめておく。 50 分
【第 13 回】体育館	ボール運動プログラム？ キャッチバレーボール大会	○大会運営について、まとめておく。 40 分 ○キャッチバレーボールについてまとめておく。 50 分
【第 14 回】体育館	ユニファイドスポーツプログラム ・障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。 ・ゴールボール、ボッチャ等の中から選択	○技能差を越えてみんなが楽しめる観点からまとめておく。 40 分 ○体育指導Ⅱを受講して、生涯スポーツに対する考え方がどのように変化したのかについてまとめておく。 50 分
【第 15 回】教室	体育指導Ⅰのまとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE102-A53	2.科目名	体育指導Ⅱ (4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	今中洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件	3 回生・4 回生秋学期開講の「幼児指導法」を履修することで、より深く実技と理論の両方を学ぶことが出来る。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限	履修の制限として、実技を含みますので最大 50 名までとします。					
17.授業の目的と概要	幼児期の子どもたちに相応しい運動プログラムやふれあいゲームの内容を講義・実技を通して学びます。また、幼児の特性を理解した指導上の「展開」「配慮」「適切な援助やかかわり」など、指導者として必要な資質を身につけます。その他、幼児の運動プログラムを通して、子どもの発育・発達などに触れ、身体面・精神面での特徴（子ども理解）などの知識を深めます。					
18.学習目標と DPとの関連	※この科目では、講義やグループでの演習（実技）にて共に活動を体験し、考えや意見を出し合いながら、以下の事柄を学びます。 主に【専門的知識】【技術活用力】【コミュニケーションスキル】を身に着けます。 具体的には... ①幼児に相応しい運動プログラムの理論と実践を学ぶ。 ②幼児の発育発達を理解し、それを踏まえた指導法を学ぶ。 ③幼児の特性を理解し、適切な配慮と援助（かかわり方）を学ぶ。					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリント・テキストを配布。(Web クラスにて配信)					
20.参考文献	幼児期運動指針（文部科学省より）					
21.成績評価	①授業の振り返りレポート＝30％ （実技演習の際、授業の振り返りレポートを A4 レポート用紙にまとめ翌週に提出。） ②グループワークシート（2 回）＝20％ （グループワークを行った授業の際、もしくは翌週に提出。） ③総括試験＝50％					
22.コメント	■「実技演習」の際には、必ず大学指定のジャージ上下を着用のこと。毎回、インシューズを持参。 また、アクセサリ類（ピアス・指輪・ネックレス）などは、事前にはずしておくこと。 ■コミュニケーション力・リーダーシップ・メンバーシップを高める為に、授業の中にグループワークを取り入れる。 ■演習（実技）では、自ら学ぶことと楽しむことを忘れず、仲間と共に積極的に参加すること。					
23.オフィスアワー	月曜日 2 限目・木曜日 1 限目前後の時間帯に講師控室にて質問などを受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	秋学期オリエンテーション＝「講義」 ※年間授業のテーマと概要の説明。 ※秋学期授業の具体的な内容とテーマの解説。 ※授業シラバス持参。			○幼児の運動/体育について自分なりに調べる（120 分） ○シラバスの内容を事前に確認しておく。		

第 2 回目	運動会に向けた取り組み = 「講義」 ※幼稚園・保育園などの園生活において運動会とは・・・。 ※幼児の運動会種目の紹介（ねらいとポイント）	○幼稚園・保育園での運動会や競技・演技について予習しておく。(60 分) ○幼児の運動会種目を復習として「ポイントやねらいを書きだしてイメージを深める。(60 分)」 ◆ノート PC 持参。
第 3 回目	運動会プログラムⅠ = 「実技」 ※保育としての運動会の取り組みについて。 ※乳児・幼児の運動会競技種目の紹介。	○幼児運動会種目の復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○幼児の運動会競技、指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 4 回目	運動会プログラムⅡ = 「実技」 ※保育としての運動会の取り組みについて。 ※乳児・幼児の運動会競技種目の紹介②。	○幼児運動会種目の復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○幼児の運動会競技、指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 5 回目	運動会プログラムⅢ = 「実技」 ※保育としての運動会の取り組みについて。 ※親子・保護者・卒園児の運動会競技種目の紹介②	○親子・保護者・卒園児運動会種目の復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○親子・保護者・卒園児運動会競技、指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 6 回目	運動会プログラムⅣ = 「講義」 ※運動会プログラムの振り返り & まとめ ※ダンスづくりの内容説明 & グループ決め。	○運動会プログラム全体の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○グループ内で検討、イメージしてダンスを創作する。(60 分) ◆ノート PC を持参。
第 7 回目	幼児期～児童前期の運動と発育発達 = 「講義」 ※幼児期運動指針の紹介 ※幼児期、児童前期に相応しい運動プログラムと必要な運動。	○予習として幼児期運動指針を調べ、目を通しておく。(60 分) ○幼児期、児童前期の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分)
第 8 回目	冬の運動プログラムⅠ = 「実技」 ※カラダもココロも温まる冬の運動プログラムの紹介。 ※活動を通して、社会性を身に着ける保育的な取り組み。	○冬の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○冬の運動プログラム指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 9 回目	冬の運動プログラムⅡ = 「実技」 ※カラダもココロも温まる冬の運動プログラムの紹介。	○冬の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分)

	※活動を通して、社会性を身に着ける保育的な取り組み	○冬の運動プログラム指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第10回目	冬の運動プログラムⅢ＝「実技」 ※カラダもココロも温まる冬の運動プログラムの紹介。 ※活動を通して、社会性を身に着ける保育的な取り組み	○冬の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。（60分） ○冬の運動プログラム指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第11回目	ダンスづくり＝「実技」 ※グループごとに創作した「リズムダンス」の発表。 ※「リズムダンス」づくりの復習としてポイントねらいを書きだして資料としてまとめておく。	○いろんなダンスを実践できるようにイメージを深める（60分） ○グループ内で検討、イメージしてダンスを創作する。（60分）
第12回目	鬼ごっこあそび・ちょこっとあしおび・じっくりあそびⅠ＝「実技」 ※いろんな鬼ごっこあそびの紹介。 ※瞬時にできるちょこっとあそび&じっくりかわるあそびの紹介。	○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。（60分） ○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第13回	鬼ごっこあそび・ちょこっとあしおび・じっくりあそびⅡ＝「実技」 ※いろんな鬼ごっこあそびの紹介。 ※瞬時にできるちょこっとあそび&じっくりかわるあそびの紹介。	○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。（60分） ○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第14回目	1年間の振り返り&まとめ＝「講義」 ※春学期・秋学期の実技・講義のまとめ&振り返り。	○秋学期の実技・講義を振り返り、まとめておく。 ◆ノートPC持参。
第15回目	総括試験（秋学期）	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A51	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽（1/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、西山淳子、藤井巳加					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを音楽Ⅰから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： オンデマンド学修①② 中間テスト:バイエル 90 番台から任意に選択した 1 曲、音符確認テスト 期末テスト:バイエル 100 番台から 1 曲任意に選択、「弾き歌い」課題曲 1 曲 コース B： オンデマンド学修①② 中間テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 弾き歌い課題曲（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぼっくり・せんろはつづくよどこまでも・虫のこえ・かたつむり） コース A、コース B とも 自主課題として上記より多い曲数を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 コース A： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・バイエル 90 番台、100 番台からそれぞれ任意に選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース B： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ブルグミュラー25 番練習曲から選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース A・B:					

	・音楽的演奏表現の基盤を習得する。 ・演奏表現の基礎知識・技能を習得する。(Aコースのみ)	
19.教科書・教材	バイエル上・下巻、ブルグミュラー25番のうち、 自分の演奏レベルにあったものを1種類選択して購入する こどものうた100は、演奏レベルにかかわらず、全員が購入する	
20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: オンデマンド学修(ワークシート)5%×3=15% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲(バイエル 90 番台から 1 曲)18%×1 曲=18% 音符確認テスト=11% 期末テスト:ソロ曲 18%×1 曲=18% (バイエル 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲: 18%×1 曲=18% 学習意欲 10% コース B: オンデマンド学修(ワークシート)3%×6=18% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲 15%×1 曲=15% 弾き歌い課題	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/10/07	オリエンテーション 音階テストの準備・学習コースを音楽Ⅰから継続し、中間・期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲を確認し、作品の概要をつかむ。	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/10/14	オンデマンド学修に向けた中間・期末テストの為のグループレッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/21	オンデマンド学修① 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/28	オンデマンド学修② 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/04	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/11	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2025/11/18	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/11/25	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/02	中間テスト 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/09	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/16	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/23	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/20	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/27	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/28	期末テスト(ソロ・弾き歌い)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A52	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽（2/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、西山淳子、藤井巳加					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを音楽Ⅰから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： オンデマンド学修①② 中間テスト:バイエル 90 番台から任意に選択した 1 曲、音符確認テスト 期末テスト:バイエル 100 番台から 1 曲任意に選択、「弾き歌い」課題曲 1 曲 コース B： オンデマンド学修①② 中間テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 弾き歌い課題曲（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぼっくり・せんろはつづくよどこまでも・虫のこえ・かたつむり） コース A、コース B とも 自主課題として上記より多い曲数を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 コース A： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・バイエル 90 番台、100 番台からそれぞれ任意に選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース B： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ブルグミュラー25 番練習曲から選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース A・B:					

	・音楽的演奏表現の基盤を習得する。 ・演奏表現の基礎知識・技能を習得する。(Aコースのみ)	
19.教科書・教材	バイエル上・下巻、ブルグミュラー25番のうち、 自分の演奏レベルにあったものを1種類選択して購入する こどものうた100は、演奏レベルにかかわらず、全員が購入する	
20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: オンデマンド学修(ワークシート)5%×3=15% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲(バイエル 90 番台から 1 曲)18%×1 曲=18% 音符確認テスト=11% 期末テスト:ソロ曲 18%×1 曲=18% (バイエル 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲: 18%×1 曲=18% 学習意欲 10% コース B: オンデマンド学修(ワークシート)3%×6=18% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲 15%×1 曲=15% 弾き歌い課題	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/10/07	オリエンテーション 音階テストの準備・学習コースを音楽Ⅰから継続し、中間・期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲を確認し、作品の概要をつかむ。	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/10/14	オンデマンド学修に向けた中間・期末テストの為のグループレッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/21	オンデマンド学修① 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/28	オンデマンド学修② 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/04	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/11	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2025/11/18	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/11/25	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/02	中間テスト 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/09	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/16	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/23	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/20	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/27	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/28	期末テスト(ソロ・弾き歌い)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A53	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽 (3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、榊原契保					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを音楽Ⅰから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： オンデマンド学修①② 中間テスト:バイエル 90 番台から任意に選択した 1 曲、音符確認テスト 期末テスト:バイエル 100 番台から 1 曲任意に選択、「弾き歌い」課題曲 1 曲 コース B： オンデマンド学修①② 中間テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 弾き歌い課題曲（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぱっくり・せんろはつづくよどこまでも・虫のこえ・かたつむり） コース A、コース B とも 自主課題として上記より多い曲数を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 コース A： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・バイエル 90 番台、100 番台からそれぞれ任意に選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース B： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ブルグミュラー25 番練習曲から選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース A・B:					

	・音楽的演奏表現の基盤を習得する。 ・演奏表現の基礎知識・技能を習得する。(Aコースのみ)	
19.教科書・教材	バイエル上・下巻、ブルグミュラー25番のうち、 自分の演奏レベルにあったものを1種類選択して購入する こどものうた100は、演奏レベルにかかわらず、全員が購入する	
20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: オンデマンド学修(ワークシート)5%×3=15% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲(バイエル 90 番台から 1 曲)18%×1 曲=18% 音符確認テスト=11% 期末テスト:ソロ曲 18%×1 曲=18% (バイエル 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲: 18%×1 曲=18% 学習意欲 10% コース B: オンデマンド学修(ワークシート)3%×6=18% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲 15%×1 曲=15% 弾き歌い課題	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/10/07	オリエンテーション 音階テストの準備・学習コースを音楽Ⅰから継続し、中間・期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲を確認し、作品の概要をつかむ。	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/10/14	オンデマンド学修に向けた中間・期末テストの為のグループレッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/21	オンデマンド学修① 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/28	オンデマンド学修② 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/04	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/11	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2025/11/18	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/11/25	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/02	中間テスト 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/09	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/16	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/23	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/20	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/27	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/28	期末テスト(ソロ・弾き歌い)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A54	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽 (4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、榊原契保、藤井巳加					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の2つのコースから一つを音楽Ⅰから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： オンデマンド学修①② 中間テスト:バイエル 90 番台から任意に選択した 1 曲、音符確認テスト 期末テスト:バイエル 100 番台から 1 曲任意に選択、「弾き歌い」課題曲 1 曲 コース B： オンデマンド学修①② 中間テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 弾き歌い課題曲（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぱっくり・せんろはつづくよどこまでも・虫のこえ・かたつむり） コース A、コース B とも 自主課題として上記より多い曲数を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 コース A： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・バイエル 90 番台、100 番台からそれぞれ任意に選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース B： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ブルグミュラー25 番練習曲から選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース A・B:					

	・音楽的演奏表現の基盤を習得する。 ・演奏表現の基礎知識・技能を習得する。(Aコースのみ)	
19.教科書・教材	バイエル上・下巻、ブルグミュラー25番のうち、 自分の演奏レベルにあったものを1種類選択して購入する こどものうた100は、演奏レベルにかかわらず、全員が購入する	
20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: オンデマンド学修(ワークシート)5%×3=15% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲(バイエル 90 番台から 1 曲)18%×1 曲=18% 音符確認テスト=11% 期末テスト:ソロ曲 18%×1 曲=18% (バイエル 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲: 18%×1 曲=18% 学習意欲 10% コース B: オンデマンド学修(ワークシート)3%×6=18% 音階テスト 5%×2=10% 中間テスト:ソロ曲 15%×1 曲=15% 弾き歌い課題	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/10/07	オリエンテーション 音階テストの準備・学習コースを音楽Ⅰから継続し、中間・期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲を確認し、作品の概要をつかむ。	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/10/14	オンデマンド学修に向けた中間・期末テストの為のグループレッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/21	オンデマンド学修① 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/10/28	オンデマンド学修② 動画を視聴し学修した内容をワークシートに記述し web class に提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/04	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/11/11	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2025/11/18	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/11/25	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/02	中間テスト 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/09	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/16	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/12/23	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/20	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/27	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/01/28	期末テスト(ソロ・弾き歌い)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE108-A51	2.科目名	音楽Ⅲ・伴奏法		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	音楽Ⅰで学んだピアノ演奏法の知識・技能を基に、教育現場における「弾き歌い」につながる取り組みとしての歌唱・理論を背景とした伴奏法について、一斉授業・グループワーク・個人指導を行う。 ハ長調・ト長調・ヘ長調の伴奏付けが拍子・調・和声を理解したうえで、適切な伴奏形でできるようになる。 授業以外においても、空き時間を利用して、しっかりと予習・復習を行い、演奏技術の向上に向けて努力すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 ・ハ長調・ト長調・ヘ長調の和声伴奏付けができる。 ・拍子・調・和声・コードネームを理解する。 ・ハ長調・ト長調・ヘ長調の伴奏付けが適切な伴奏形でできる。					
19.教科書・教材	こどものうた 100					
20.参考文献						
21.成績評価	☐ 小テスト カデンツ奏 6 % , 伴奏形変奏 6 % , 楽典 6 % , コードネーム 6 % = 24 % ☐ グループ学修 伴奏づけ（和声） 3 % × 2 = 6 % ☐ 歌唱伴奏（グループ発表） 〔両手奏 4 % ・歌唱 2 % ・楽曲分析 1 %〕 × 4 曲 = 28 % ☐ 楽典ワークシート 1 % × 6 = 6 % ☐ 伴奏法・最終テスト 歌唱 5 % , 暗譜 5 % , 伴奏法 12 % = 22 % ☐ DX 機器伴奏法振り返りシート 14 %					
22.コメント	伴奏法は積み重ねです。全出席を基本とし、毎回の課題をひとつひとつクリアしましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	オリエンテーション 伴奏法の基礎を学ぼう① 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声の理論を理解する。 伴奏法の基礎として、ハ長調・ト長調・ヘ長調の主要三和音を左手奏する。	○学修課題【復習】 楽典(調性・和声)理論の理解 30分 主要三和音(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 30分
	伴奏法の基礎を学ぼう② 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声・コードネームの理論を理解する。 伴奏法の基礎として、(ハ長調・ト長調・ヘ長調)のカデンツを左手奏する。	○学修課題【復習】 楽典(拍子・調性・和声)理論の理解 30分 カデンツ(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 30分
	歌唱曲に親しみ、伴奏法の基礎を学ぼう③ 歌唱課題曲をピアノ伴奏に合わせて歌う。 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声・コードネームを理解する。 伴奏法の基礎として、(ハ長調・ト長調・ヘ長調)のカデンツ及び伴奏形変奏を左手奏する。 グループでメロディーにあった伴奏(和声)を考案・発表する。	○学修課題【復習】 楽典(拍子・調性・和声・コードネーム)理論の理解 30分 カデンツ及び伴奏形変奏(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 30分
	歌唱曲に親しみ、伴奏法の基礎を学ぼう④ 歌唱課題曲をピアノ伴奏に合わせて歌う。 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声・コードネームを理解する。 伴奏法の基礎として、(ハ長調・ト長調・ヘ長調)のカデンツ及び伴奏形変奏を左手奏する グループでメロディーにあった伴奏(和声)を考案・発表する。	○学修課題【復習】 楽典(拍子・調性・和声・コードネーム)理論の理解 60分 カデンツ及び伴奏形変奏(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 60分
	小テスト 伴奏法の基礎としての拍子・調性・和声・コードネームを理解する。 カデンツ奏、伴奏形変奏(左手)の小テスト(実技) 及び楽典(拍子・調性・和声)、コードネームの小テスト(筆記)を行う。 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する	
	歌唱曲を伴奏しよう①	○学修課題

	歌唱曲を歌う。 歌唱課題曲 2 曲の楽曲分析をシートに記入する。 歌唱課題曲における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏する。 楽典ワークシートの記入	特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏→通奏で片手奏 60分
	歌唱曲を伴奏しよう② 歌唱課題曲（2 曲）における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、両手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、グループ発表に向け両手奏 60分
	歌唱曲を伴奏しよう③・グループ発表 既習課題曲 2 曲の両手伴奏を歌唱と合わせてグループ発表する。 楽典ワークシートの記入	
	歌唱曲を伴奏しよう④ 歌唱曲を歌う。 歌唱課題曲 2 曲の楽曲分析をシートに記入する。 歌唱課題曲（2 曲）における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏→通奏で片手奏 60分
	歌唱曲を伴奏しよう⑤ 歌唱課題曲（2 曲）における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、両手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、グループ発表に向け両手奏 60分
	歌唱曲を伴奏しよう⑥・グループ発表 既習課題曲 2 曲の両手伴奏を歌唱と合わせてグループ発表する。 歌唱曲を歌う。 歌唱課題曲 2 曲の楽曲分析をシートに記入する。 歌唱課題曲における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏→通奏で片手奏 60分
	DX 機器を使用して歌唱曲を伴奏しよう①	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、グループ発表に向け両手奏 60分
	DX 機器を使用して歌唱曲を伴奏しよう②	★既習課題曲 6 曲の楽曲分析シート提出 ◎学修課題

		最終テスト課題曲の両手奏 60分
	ペアで歌唱と伴奏を合わせよう① 最終テスト課題曲について、ヘッドホンを利用しペアまたは3人で合わせ練習する。 各グループごとに個別指導を行う。	◎学修課題 最終テスト課題曲の両手奏 120分
	ペアで歌唱と伴奏を合わせよう②・伴奏法最終テスト ペアまたは3人で、伴奏法最終テストを実施する。	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE202-A01	2.科目名	音楽Ⅳ・器楽		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の2つのコースから一つを音楽Ⅱから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： 中間テスト:ブルグミュラー25 番練習曲またはブルグミュラー 1 8 番練習曲またはソナチネアルバムⅠⅡ巻（緩徐楽章を除く）、ソナタアルバムⅠ巻から任意に選択した1 曲、弾き歌い自由曲1 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品2 曲、当日1 曲指定。弾き歌い（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぼっくり・せんろはつづくよどこまでも・かたつむり・虫の声）のうち当日3 曲指定 コース B： 中間テスト:ブルグミュラー25 番練習曲またはブルグミュラー 1 8 番練習曲またはソナチネアルバムⅠⅡ巻（緩徐楽章を除く）、ソナタアルバムⅠ巻から任意に選択した1 曲、弾き歌い自由曲1 曲 期末テスト:初見演奏 ブルグミュラー2 頁の作品2 曲、当日1 曲指定。弾き歌い（ぞうさん・ふしぎなポケット・やぎさんゆうびん・とんぼのめがね・うみ・春がきた）のうち当日3 曲指定					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 ・中級レベル程度の作品のピアノ独奏ができる。 ・中級レベル程度の作品の弾き歌いができる。 ・音楽的知識を活用することができる。 ・初見演奏ができる。					
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 ブルグミュラー 2 5 番・1 8 番・1 2 番練習曲 ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ巻 ソナタアルバムⅠ・Ⅱ巻 より自分の演奏レベルに適した教則本 こどものうた1 0 0					
20.参考文献	こどものうた 200					
21.成績評価	既習曲〔ソロ曲〕 6％×3 曲＝18％					

	[弾き歌い] $3\% \times 7 \text{ 曲} = 21\%$ [弾き歌い] 中間テスト $6\% (1 \text{ 曲}) + \text{期末テスト } 6\% \times (3 \text{ 曲}) = 24\%$ [ソロ曲] 中間テスト $(1 \text{ 曲}) = 12\%$ 最終テスト [ソロ曲] 12% [初見テスト] (B コースのみ) 5% [自主練習発表] (A コースのみ) 5% [ワークシート] 8%	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	個人レッスン コース A, B から、自分の鍵盤楽器経験にふさわしいコースを選択する。 次回授業での「ソロ曲」「弾き歌い曲」を各自決定する。 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスンを行う。	○学修時間【予習】 「ソロ曲」予習 30 分 「弾き歌い曲」予習 30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	「弾き歌い」「ソロ曲」中間テスト 「弾き歌い自由曲」「ソロ自由曲」を各自暗譜で発表する。 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分

	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分「弾き歌い曲」30分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分「弾き歌い曲」30分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分「弾き歌い曲」30分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分「弾き歌い曲」30分
	個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分「弾き歌い曲」30分
	ソロ曲・弾き歌い・最終テスト 「ソロ曲」「弾き歌い」の最終テストを実施する。	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE403-A51	2.科目名	造形Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種 保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(講義・実技を含む)		
16.履修制限	造形室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 48 人とします。人数が多い場合には、初回の授業で抽選を行います。					
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し、この教科の意味や価値についての認識を深めます。 その上で、題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量の形成をはかります。 受講生の希望も取り入れながら様々な造形活動に取り組みます。その活動を通して造形教育の理念と方法を理解し、授業を計画実施できる能力を養います。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律的で主体的な態度 (6) 専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・図画工作科の指導理念、教材開発の視点、内容について理解を深めます。 ・子どもの視点に立った教科内容の理解を深め、図画工作科の具体的な指導方法の習得を目指します。 ・児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反応する 力を養います。					
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論 (新訂版)』2018. ISBN978-4536601030,もしくは,大橋功『美術教育概論 (改訂版)』2019. ISBN978-4-536-60021-7 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上, 1・2 下, 3・4 上, 3・4 下, 5・6 上, 5・6 下』日本文教出版 ④は「造形Ⅰ」(1 年春学期)、「保育内容・表現Ⅰ」(2 年春学期)、「図画工作科Ⅰ」(2 年春学期)、「図画工作科Ⅱ」(2 年秋学期)、「造形Ⅱ」(4 年秋学期)					
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版, 2012. ISBN978-4-536-60056-9					
21.成績評価	① 受講ノート=10% (毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる) ② 個人ワーク (活動①～④) =60% ③ レポート課題=20% ④ e ポートフォリオの内容=10% ・それぞれの評価基準は、1 回目の授業で配布します。					
22.コメント	○本講義では、実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。 ○受講生を 3～4 人を基準とするグループに分け、協調自立学習として展開します。したがって、欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく、グループのメンバーへの迷惑になるということを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので、汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・友達・教室を汚さない」が基本です。					

	※教育実習を経験し実際の教育現場で感じた造形教育に対しての疑問を解決できる内容にします。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。	
23.オフィスアワー	木曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス(本授業の目標・内容・評価算出の方法・進め方の確認、 準備物、 課題の提出方法、受講上の留意点などについて) グループづくり 活動①「ならべてならべて」(造形遊び 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 2 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」1 材料を集めよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 3 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」2 オリジナルキャンバスをつくろう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 4 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」3 オリジナルキャンバスに絵を描こう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 5 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」4 作品を仕上げよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 6 回	活動③「アクセサリーをつくろう」1 アイデアを考えよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 7 回	活動③「アクセサリーをつくろう」2 形を削り出そう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 8 回	活動③「アクセサリーをつくろう」3 着色しよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 9 回	活動③「アクセサリーをつくろう」4 仕上げをしよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 10 回	活動④「火の造形 (陶芸)」1	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 11 回	活動④「火の造形 (陶芸)」2	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 12 回	活動④「火の造形 (陶芸)」3	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 13 回	活動④「火の造形 (陶芸)」4	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 14 回	活動④「火の造形 (陶芸)」5	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 15 回	作品鑑賞会・作品ポートフォリオ 本講義の振り返り	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	FLC102-A51	2.科目名	中国語Ⅱ（2024 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。） ただし、中国語（華語、北京語）を母語とする留学生は履修が出来ません	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面授業 1 コマ、オンデマンド授業 1 コマのブレンド授業です。 オンデマンドで学習した内容を対面授業で復習、練習します。 また、自習用に e-learning アプリを利用した学習などを行うこともあります。		
16.履修制限	中国語Ⅰを履修した人は履修できません。 （※同じ内容のため） 更に中国語を学びたい人は、センターオフィスアワーなどを利用してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 中国語の発音、イントネーション、文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで使える簡単な表現ができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、日本に来た中国語圏の方とコミュニケーションが取れるように「使える」表現を少しずつ学びます。 また、できる限りネイティブスピーカー（留学生など）と交流する機会を設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音をだいたい結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や質問ができる。 3）オンライン辞書を用いて単語の意味や発音を調べることができる。 4）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	教材は Webclass を使って配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業の中で指示をします。					
21.成績評価	①オンデマンド授業の課題（12 回）：学習目標（1）、（3）、（4）に対応 ②対面授業での発音・暗唱小テスト（12 回）：学習目標（1）、（2）に対応 ③中間試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 ④総括試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 このほか、下記の課題を行った場合は、加点します。 ⑤Quizlet での課題 10％（学習目標（1）に対応）					

	⑥中国人学修支援チューターとの練習 10%（学習目標（2）に対応） 全部の成績の合計が60点以上の場合、合格とします。	
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本やほかのアジアの国にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時に役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）やHSK試験（TOEIC試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回	【講義と演習】 ・オリエンテーション ・中国語とは ・第1課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習①	発音や練習問題の復習をする。
第3回 第4回	【講義と演習】 第2課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習② 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第5回 第6回	【講義と演習】 第3課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習③ 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第7回 第8回	【講義と演習】 第4課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習④ 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第9回 第10回	【講義と演習】 第5課 自己紹介 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第11回 第12回	第6課 自己紹介（名前の言い方） オンライン辞書の使い方の説明 中間試験	各自で発音練習や文法の復習をする。
第13回 第14回	第6課 自己紹介②（国籍、身分、職業の言い方） ・Quizletの使い方の説明 復習小テスト	・各自で発音練習や復習をする。 ・Quizletを使って単語を復習する。
第15回 第16回	第7課 食べたいものや、飲みたいものをいう言い方 復習小テスト	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・Quizletを使って単語を復習する。
第17回 第18回	第8課 好きなものを言う言い方 復習小テスト	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・Quizletを使って単語を復習する。

第 1 9 回	第 9 課 場所を表す表現	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 0 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 1 回	第 1 0 課 数の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 2 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 3 回	第 1 1 課 依頼の表現	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 4 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 5 回	第 1 2 課 年月日、曜日、年齢の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 6 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 7 回	第 1 3 課 時間の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 8 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 9 回	第 1 4 課 時間の長さを表す言い方	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 3 0 回	総括試験（～第 1 3 課まで）	

1.授業コード (ナンバリング)	FLC102-M51	2.科目名	中国語Ⅱ（2024 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。） ただし、中国語（華語、北京語）を母語とする留学生は履修が出来ません	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面授業 1 コマ、オンデマンド授業 1 コマのブレンド授業です。 オンデマンドで学習した内容を対面授業で復習、練習します。 また、自習用に e-learning アプリを利用した学習などを行うこともあります。		
16.履修制限	中国語Ⅰを履修した人は履修できません。 （※同じ内容のため） 更に中国語を学びたい人は、センターオフィスアワーなどを利用してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 中国語の発音、イントネーション、文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで使える簡単な表現ができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、日本に来た中国語圏の方とコミュニケーションが取れるように「使える」表現を少しずつ学びます。 また、できる限りネイティブスピーカー（留学生など）と交流する機会を設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音をだいたい結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や質問ができる。 3）オンライン辞書を用いて単語の意味や発音を調べることができる。 4）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	教材は Webclass を使って配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業の中で指示をします。					
21.成績評価	①オンデマンド授業の課題（12 回）：学習目標（1）、（3）、（4）に対応 ②対面授業での発音・暗唱小テスト（12 回）：学習目標（1）、（2）に対応 ③中間試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 ④総括試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 このほか、下記の課題を行った場合は、加点します。 ⑤Quizlet での課題 10％（学習目標（1）に対応）					

	⑥中国人学修支援チューターとの練習 10%（学習目標（2）に対応） 全部の成績の合計が60点以上の場合、合格とします。	
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本やほかのアジアの国にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時にも役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）やHSK試験（TOEIC試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回	【講義と演習】 ・オリエンテーション ・中国語とは ・第1課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習①	発音や練習問題の復習をする。
第3回 第4回	【講義と演習】 第2課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習② 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第5回 第6回	【講義と演習】 第3課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習③ 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第7回 第8回	【講義と演習】 第4課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習④ 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第9回 第10回	【講義と演習】 第5課 自己紹介 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第11回 第12回	第6課 自己紹介（名前の言い方） オンライン辞書の使い方の説明 中間試験	各自で発音練習や文法の復習をする。
第13回 第14回	第6課 自己紹介②（国籍、身分、職業の言い方） ・Quizletの使い方の説明 復習小テスト	・各自で発音練習や復習をする。 ・Quizletを使って単語を復習する。
第15回 第16回	第7課 食べたいものや、飲みたいものをいう言い方 復習小テスト	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・Quizletを使って単語を復習する。
第17回 第18回	第8課 好きなものを言う言い方 復習小テスト	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・Quizletを使って単語を復習する。

第 1 9 回	第 9 課 場所を表す表現	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 0 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 1 回	第 1 0 課 数の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 2 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 3 回	第 1 1 課 依頼の表現	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 4 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 5 回	第 1 2 課 年月日、曜日、年齢の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 6 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 7 回	第 1 3 課 時間の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。
第 2 8 回	復習小テスト	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 9 回	第 1 4 課 時間の長さを表す言い方	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 3 0 回	総括試験（～第 1 3 課まで）	

1.授業コード (ナンバリング)	FLC102-Y51	2.科目名	中国語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語Ⅰが未履修でも履修できます。） ただし、中国語を母語とする中国の留学生は履修が出来ません	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクやディスカッションなども行います。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースであり、発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得(日本語との比較の中で)を重視します。と同時に、実用性も重視して、旅行や留学などの実際場面で使える実用的な中国語表現の習得をはかります。授業内容でも書いていますが、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。なお、この授業は、春学期の「中国語Ⅰ」を受講していなくても受講できます(春学期の「中国語Ⅰ」とは内容がまた違います)。					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●基本的な中国語力を身に着けることができる ●中国社会や文化に対する理解が深まる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	授業で教材を配布します。					
20.参考文献	NHK ラジオ中国語 Duolingo 中国語学習アプリ					
21.成績評価	①2 課ごとに行う小テスト（計 4 回：1 回 10 点）40%、②最終試験 30%、③タスクシート + Duolingo での課題 20%、④中国語スピーチ 10%					
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話します。話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 この授業では、映画などの映像資料を時々用いながら、できるだけ楽しめる形で実用的な中国					

		語を確実に身につけていくことをめざしています。空港や観光地や買い物の時の会話など、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。中国語を初めて学ぶ初心者のための授業ですので、履修しようか迷っている方も気軽に見学に来てください。「中国語Ⅱ」という名前の授業ですが、中国語を一から学べる授業ですし、「中国語Ⅰ」を履修しなくても大丈夫ですし、中国語が全く初心者の方でも履修できる授業です。授業では、就職活動の時に役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、こうした語学試験に挑戦する方を全力でサポートします。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回、第2回	発音や声調の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第3回、第4回	発音や声調の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第5回、第6回	数を数える表現(年月日の表現も含む)の練習、自己紹介に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第7回、第8回	買い物時に使う表現(値段を尋ねたり、値段交渉したりする時に使う表現)の練習、挨拶に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第9回、第10回	中国・台湾旅行や留学生活で使う表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第11回、第12回	友達の家を訪問する時などに使う表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第13回、第14回	観光などで使う表現の練習、中国の友達と交流を深めるための表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第15回、第16回	道を尋ねる時に使う表現の練習、恋愛に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第17回、第18回	レストランなどで使う表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第19回、第20回	趣味について話す時などに使う表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第21回、第22回	中国映画の鑑賞	
第23回、第24回	旧正月を過ごす時などに使う表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第25回、第26回	別れを告げる時などに使う表現の練習(日本語との比較の中で)	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第27回、第28回	授業のまとめと復習	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。
第29回、第30回	最終試験	○各自で発音練習や文法の復習をする(60分)。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC203-Y51	2.科目名	中国語基礎 2		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件	HSK3 級～		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中国経験のある人、留学した人、第二外国語として学んできた人、中国語履修者（HSK 3～4 級レベルの中国語科目）が対象です。履修する前にメールでご相談ください。					
17.授業の目的と概要	本講義は「聴く・話す・書く・訳す・調べる」能力の向上に重点を置きながら、中国ビジネスでは常識といえるフレーズ、日中間ビジネスの最前線で活躍する上で必要不可欠とされる「言葉・表現」を、シチュエーション別に受講者とともに確認し、シミュレーションなどを通してその応用力の養成を目指します。また、メールなどを含む中国語ビジネス文章の「構成・表現」を、実例を取り上げながら紹介し、その基本的な書き方の習得を目標とします。日中ビジネス慣習の差異を、社会的、文化的、心理的な側面から解説し、中国人ビジネスマンとの円滑なコミュニケーションを図るためのテクニカルな手法も合わせて確認し学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の2、主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力。K2、グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ。K4、異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 1. 社内で使われる①上司とのやりとり、②同僚とのやりとり、などのビジネス中国語を身に付けます。 2. 取引先に対する①電話応対、②ビジネスメール、③面談、などのビジネスシーンの基本を身につけます。					
19.教科書・教材	『ストーリーで学ぶビジネス中国語』 山田留里子ほか 駿河台出版社					
20.参考文献	特になし					
21.成績評価	授業ノートの提出 30 点（学習目標 1、2 に対応） 授業課題の完成度 30 点（学習目標 1、2 に対応） 総括レポート 40 点（学習目標 1、2 に対応）					
22.コメント	第一線で活躍するビジネスマンの姿を常に想像しながら授業に臨んでほしいと思います。授業は進行状況に応じて順序を前後したり、内容を変更する場合があります。					
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日 3 限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	あいさつ			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 2 回】	電話連絡			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 3 回】	ランチタイム			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 4 回】	アポイントメント			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 5 回】	電子メール			中国語で電子メールを作成する		
【第 6 回】	出張			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 7 回】	空港			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 8 回】	宴会			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 9 回】	工場見学			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 10 回】	ビジネスレター			中国語でビジネスレターを作成する		

【第 11 回】	交渉	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 12 回】	クレーム	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 13 回】	総合練習①	レポート課題について調べる
【第 14 回】	総合練習②	レポート課題を作成する
【第 15 回】	総合練習③	レポート課題を作成する

1.授業コード (ナンバリング)	FLE105-A81	2.科目名	インテンシブ イングリッシュⅡ（2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、500 点を目標に学習したい」 「夏学期のインテンシブイングリッシュⅠを受講して、さらに学習を深めたい」 「上記のいずれでもないが、TOEIC の受験予定があり、準備学習をしたい」		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 500 点以上を取得できるような基礎的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけます。学習した英文法を使っの作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体化も目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	TOEIC L&R テスト戦略的トレーニング：レベル500 改訂版 ISBN (9784255157320)					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	授業参加度 30 点…学習目標②に対応 小テスト 30 点…学習目標①に対応 最終試験 40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる					
22.コメント	・授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト			教科書を必ず持参すること。 プレテストの結果を分析し、自分の弱点を客観的に把握する。		
第 2 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-1：品詞			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 3 回	写真問題の学習 Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 4 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-2：動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-3：動詞のかたち 2（時制、その他）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		

第 5 回	応答問題の学習 Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：Yes/No 疑問文、その他の疑問文	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 6 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-4：前置詞／接続詞 Unit R-5：代名詞、関係代名詞	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 7 回	応答問題の学習 Unit L-5：平叙文、意外な応答 Unit L-6：機能別疑問文	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 8 回	長文穴埋め問題の学習 Unit R-6：長文穴埋め問題 読解問題の学習 Unit R-7：広告、チャット	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：次の行動を問う問題 Unit L-8：問題点、提案、申し出を問う問題 Unit L-9：目的、依頼、話者の意図を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-8：Eメール、手紙 Unit R-9：告知、社内回覧 Unit R-10：記事	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、アナウンス Unit L-11：トーク、会議、ニュース Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-11：ダブルパッセージ Unit R-12：トリプルパッセージ	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード (ナンバリング)	FLE105-M81	2.科目名	インテンシブ・イングリッシュⅡ (2024 年度生以前)		3.単位数	1
4.授業担当教員	上仲淳					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じる。 目的：TOEIC テストの得点向上を目指す。					
18.学習目標と DP との関連	TOEIC L&R500 点以上を取得する。 DP ④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキルに関連する。					
19.教科書・教材	『KEY STRATEGIES FOR SUCCESS ON THE TOEIC L&R TEST Level 500』朝日出版社					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 30 点 小テスト 30 点 最終テスト 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前後に教師に直接コンタクトしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit L-1 Unit R-1					
第 2 回	Unit L-2 Unit R-2					
第 3 回	Unit L-3 Unit R-3					
第 4 回	Unit L-4 Unit R-4					
第 5 回	Unit L-5 Unit R-5					
第 6 回	Unit L-6 Unit R-6					
第 7 回	Unit L-7 Unit R-7					
第 8 回	Unit L-8 Unit R-8					
第 9 回	Unit L-9 Unit R-9					
第 10 回	Unit L-10 Unit R-10					
第 11 回	Unit L-11 Unit R-11					
第 12 回	Unit L-12					

	Unit R-12	
第 13 回	Unit L-13 Unit R-13	
第 14 回	Unit L-15 Unit R-15	
第 15 回	模擬テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE105-Y81	2.科目名	インテンシブ イングリッシュⅡ（2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、500 点を目標に学習したい」 「夏学期のインテンシブイングリッシュⅠを受講して、さらに学習を深めたい」 「上記のいずれでもないが、TOEIC の受験予定があり、準備学習をしたい」		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 500 点以上を取得できるような基礎的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけます。学習した英文法を使っの作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体化も目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	TOEIC L&R テスト戦略的トレーニング：レベル500 改訂版 ISBN (9784255157320)					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	授業参加度 30 点…学習目標②に対応 小テスト 30 点…学習目標①に対応 最終試験 40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる					
22.コメント	・授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト			教科書を必ず持参すること。 プレテストの結果を分析し、自分の弱点を客観的に把握する。		
第 2 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-1：品詞			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 3 回	写真問題の学習 Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 4 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-2：動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-3：動詞のかたち 2（時制、その他）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		

第 5 回	応答問題の学習 Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：Yes/No 疑問文、その他の疑問文	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 6 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-4：前置詞／接続詞 Unit R-5：代名詞、関係代名詞	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 7 回	応答問題の学習 Unit L-5：平叙文、意外な応答 Unit L-6：機能別疑問文	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 8 回	長文穴埋め問題の学習 Unit R-6：長文穴埋め問題 読解問題の学習 Unit R-7：広告、チャット	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：次の行動を問う問題 Unit L-8：問題点、提案、申し出を問う問題 Unit L-9：目的、依頼、話者の意図を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-8：Eメール、手紙 Unit R-9：告知、社内回覧 Unit R-10：記事	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、アナウンス Unit L-11：トーク、会議、ニュース Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-11：ダブルパッセージ Unit R-12：トリプルパッセージ	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード (ナンバリング)	FLE109-Y52	2.科目名	英語基礎2 【観光】(再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年以上の再履修者	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法を体系的に総整理しながら、文法の知識にとどまらず、パターン・プラクティスやペアワーク等を通して、何度も自ら発話する機会を多く設け、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。					
19.教科書・教材	英文法授業ノート (ペリカン社)					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点 (各5ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等)					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、質問などがある場合は、研究室に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	第1回：オリエンテーション 054 文型④ 第2回：055 原形不定詞、056 完了形①					
第2週	第3回：057 完了形②、058 完了形③ 第4回：059 完了形④、060 完了形⑤					
第3週	第5回：061 完了形⑥、062 時制の一致 第6回：063 分詞①、064 分詞②					
第4週	第7回：065 分詞③、066 分詞④ 第8回：067 分詞⑤、068 分詞⑥					
第5週	第9回：069 分詞構文①、070 分詞構文② 第10回：071 分詞構文③、072 分詞構文④					
第6週	第11回：073 分詞構文⑤、074 関係詞① 第12回：075 関係詞②、076 関係詞③					
第7週	第13回：077 関係詞④、078 関係詞⑤ 第14回：079 関係詞⑥、080 接続詞①					
第8週	第15回：081 接続詞②、082 否定文① 第16回：中間テスト					

第 9 週	第 17 回：083 否定文②、084 否定文③ 第 18 回：085 否定文④、086 否定文⑤	
第 10 週	第 19 回：087 疑問文①、088 疑問文② 第 20 回：089 疑問文③、090 疑問文④	
第 11 週	第 21 回：091 付加疑問①、092 付加疑問② 第 22 回：093 話法①、094 話法②	
第 12 週	第 23 回：095 仮定法①、096 仮定法② 第 24 回：097 仮定法③、098 代名詞①	
第 13 週	第 25 回：099 代名詞②、100 代名詞③ 第 26 回：101 代名詞④、102 数詞①	
第 14 週	第 27 回：103 数詞②、104 数詞③ 第 28 回：105 前置詞①、106 前置詞②	
第 15 週	第 29 回：107 前置詞③、108 前置詞④ 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE111-Y51	2.科目名	オーラル・コミュニケーション2 【観光】 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	Discussion based	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This is a four-skills course that will help students improve their ability to communicate in English.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the course, the students will be able to: 1. have a real success communicating in English in contexts that are educationally and personally rewarding. 2. practice key reading, writing, listening, pronunciation and grammar skills through a variety of tasks. 3. be confident in bringing their own opinions and ideas in class.					
19.教科書・教材	Title: Smart Choice 2 (4th Edition) Oxford Author: Ken Wilson					
20.参考文献	Additional references will be provided during the class.					
21.成績評価	Homework 5% Worksheets/ Quizzes 25% Class Participation/Attitude 20% Midterm Test 20% Final Test 30% Total 100%					
22.コメント	1. This course is conducted in English. 2. Always bring your textbooks to class. *Please note: Students will not be allowed to take the midterm and final test if they don't purchase the textbook. 3. The use of smartphones in class is prohibited unless directed by the teacher. 4. Additional Points will be given to students who will join the English Private Lesson					
23.オフィスアワー	The instructor is on campus from Mondays to Fridays and can also be contacted via email. Building 3: Room 016 Global Gakusho Plaza					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Day 1: Introduction Syllabus Unit 1 Day 2: Unit 1					
	Day 3 & 4: Unit 2					

	Day 5 & 6: Unit 3	
	Day 7 & 8: Unit 4	
	Day 9 & 10: Unit 5	
	Day 11 & 12: Unit 6	
	Day 13 & 14: Bonus Lessons/Project/Activity	
	Day 15: Review Day 16: Midterm Test	
	Day 17 & 18: Unit 7	
	Day 19 & 20: Unit 8	
	Day 21 & 22: Unit 9	
	Day 23 & 24: Unit 10	
	Day 25 & 26: Unit 11	
	Day 27 7 28: Unit 12	
	Day 29: Final Test Part 1 Day 30: Final Test Part 2	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE117-Y81	2.科目名	インテンシブイングリッシュⅡ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	選択の区分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1st year~	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture-discussion, presentation and exercises		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to become more effective communicators that could connect people and build relationships with them. This enables every student to be empowering individuals of the society.					
18.学習目標と DPとの関連	The learning objectives (skills to acquire) of this subject are as follows. ① Students will be able to learn essential expressions in hospitality situations through actual conversations. ② Students will be able to improve their vocabulary in hospitality industry and management. ③ Students will be able to develop skills in hospitality such as; teamwork, flexibility, time management, communication, interpersonal skills, and problem-solving.					
19.教科書・教材	Title: Hospitality on the Scene Publisher: Kinseido Publishing Co., Ltd. Authors: Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Matsushima, Takehiko Kozue and Jacob Schere ISBN: 978-4-7647-4067-9					
20.参考文献						
21.成績評価	1. Classroom Activities 40 % (Discussion, presentations and skits) 2. Quizzes and Drills 30% 3. Final Task 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. *Course Introduction Unit 1: Transportation In-class Activity					
	2. Unit 2: At a Check-in Counter (Hotel) Goal: Practice response to check-in Group Activity: Role-play (Important sentences and					

	appropriate manner in dealing with customers at a check-in counter of a hotel.	
	3. Unit 3: Facilities and Services Goal: Hotel service such as room service and fitness center (Hotel service information)	
	Activity: Video clip reflection (comprehension test) 4. Unit 4: Giving Directions Goal: How to give directions to customers from overseas	
	Pair Activity: Giving directions/Asking for directions. (How to get to places around the city.) 5. Unit 5: Recommending a Trip Goal: Recommending Japanese tourism spots to customers from overseas.	
	Group presentation: Name and introduce famous spots around Japan. 6. Unit 6: Dining in Japan Goal: Learn the points when guiding, meals to customers from overseas.	
	Group activity and brainstorming activity: Do's and don'ts in Japanese restaurants. 7. Unit 7: Dining in Japan (2) Goal: We will practice how to explain Japanese food that you can easily enjoy.	
	Brainstorming activity and presentation: Japanese cuisine introduction 8. Unit 8: Arranging a Tour Goal: Learn how to arrange domestic travel to customers from overseas.	
	Group Activity: Role-play (Important sentences and guidelines in arranging domestic tours.) 9. Unit 9: Staying at a Ryokan Goal: Learn the things to know and consider when staying in a Ryokan	

	Brainstorming activity and group presentation. 10. Unit 10: Culture Experience in Japan Goal: Learn the points when introducing Japanese traditional culture to customers from overseas.	
	Group activity: Introduce Japanese culture to customers from overseas 11. Unit 11: Culture Experience in Japan (2) Goal: Introduce Japanese events and traditional entertainment in Japan. Brainstorming activity and group presentation: Traditional events	
	12. Unit 12: Japanese Souvenirs Goal: Introducing Japanese souvenirs	
	Brainstorming activity and group presentation: Unique souvenirs in different prefectures in Japan. 13. Unit 13: Dealing with Health Problems and Emergencies Goal: Learn how to deal with illnesses and injuries while traveling and how to respond to emergencies	
	Group Activity: Role-play (Important sentences and guidelines in dealing with unexpected situations and emergencies.) 14. Unit 14: Dealing with Complaints and Accidents Goal: Learn responses from customers to claims and inquiries	
	Group Activity: Role-play (Important sentences and guidelines in dealing with unexpected situations. How to politely respond under pressure.) 15. Unit 15: Upon Departure Goal: Learn how to check out and make subsequent arrangements	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE119-Y51	2.科目名	英語総合 1 【G コミ】 L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純					
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年 L 3	
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語) 中学教諭 1 種 (英語)		11.先修条件	受講レベル、トラックについては、受講クラス指定表に従うこと。 3 年生以上以外の者で受講が必要な場合は英語コーディネイター (Aliponga 先生または Shorb 先生) の許可を得ること。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	pair work, presentation		
16.履修制限	クラス指定あり					
17.授業の目的と概要	[目的] 英語プレゼンテーションの基礎として、英語で原稿を書き、パワーポイントファイルを作成し、短いプレゼンテーションができる能力を習得します。 [概要] 5 つのテーマ毎に発表内容を考えて、文法的に正しい英文を作成すること、映像資料(ppt ファイル)を作成し、プレゼンテーションの補助として活用すること、および英語の発音・音声表現・アイコンタクトなどが学習できます。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標： 1) プレゼン原稿の基礎的な構成を理解し作成できる。 2) プレゼンで使用する基本表現を使えるようになる。 3) 効果的なパワーポイントファイルを作成できる。 4) プレゼンの手法や表現を学び、人前で発表できる。 DP(4) 問題発見・解決力、コミュニケーション・スキル					
19.教科書・教材	教科書は使用せず、Web Class で教材や資料・Worksheet を配付します。					
20.参考文献	文法チェックを行うために Grammarly を PC にインストールしてください。					
21.成績評価	Homework： 3 点×10 回 =30 学習目標 1・2・3 に対応 Presentation： 6 点×5 回=30 学習目標 4 に対応 Report： 8 点×5 回=40 学習目標 1・2・3 に対応 * 5 回のプレゼンを行い、5 回レポートを提出し、合計が 60 点以上で合格です。 * 宿題は、レポートとプレゼンの準備段階で作成するので、宿題の提出が少ないとレポートの評価は低くなります。					
22.コメント	1) 必ず英語の辞書を授業に持参し使用してください (スマホ辞書は不可)。 2) 必ず PC を持参して下さい。 3) 宿題とレポートの提出と返却は、Web Class を通じて行います。提出期限に遅れた場合は、受け取りません。 4) 担当者への連絡は、WebClass のメッセージを使用すること。それ以外のメールは受け取りません。 5) 交通機関の障害、その他の災害などにより、対面授業が困難な場合は、可能な限り遠隔授業を実施します。その場合は、Zoom の URL を WebClass のメッセージで早朝に送信するので、必ず確認してください。本人の確認ミスで遠隔授業に参加できない場合は、欠席扱いになります。 6) 授業中のスマホ使用は禁止します。 7) 生成 AI の使用を禁止します。一部でも使用した提出物は、0 点の評価にします。					

23.オフィスアワー	なし	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1. 2.	1. Introduction (シラバス説明、Web Class の説明、使用アプリ・提出用フォーマットの説明)、教材 1 説明とグループワーク、プレゼンについての説明 2. Self-introduction 1(英文作成), ppt 作成法の説明	2. HWK 1(英語で下書き)
3. 4.	3. Self-introduction 2 (英文完成・ppt 作成・プレゼン評価基準説明) 4. Self-introduction 3 (相互評価: pair work, 英文・ppt 完成), Practice	3. HWK 2 (ppt 作成) 4. 発表練習
5. 6.	5. Presentation 1 (相互評価)・Report 評価基準説明 6. Report 1 (相互評価: pair work), Hometown (教材 2)	5. Report 1 作成 6. HWK 3 (英語で下書き)
7. 8.	7. Hometown 2 (英文作成) 8. Hometown 3 (相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成)、評価基準説明	7. HWK 4 (英文追加) 8. 復習
9. 10.	9. Practice Presentation 2 (英文・ppt 完成)、最終確認 10. Presentation 2 (相互評価)、Report 評価基準説明	9. 発表練習 10. Report 2 作成
11. 12.	11. Report 2 (相互評価: pair work), Sightseeing Spots 1 (教材 3) 12. Sightseeing Spots 2 (英文作成)	11. HWK 5 (英語で下書き) 12. HWK 6 (英文追加・修正)
13. 14.	13. Sightseeing Spots 3 (相互評価: pair work, 英文修正, ppt 作成) 14. Sightseeing Spots 4 (英文・ppt 完成・practice)、評価基準説明	13. HWK 7 (ppt 作成) 14. 発表練習
15. 16.	15. Practice Presentation 3、最終確認 16. Presentation 3 (相互評価)・Report 評価基準説明	15. 発表練習 16. Report 3 作成
17. 18.	17. Report 3 (相互評価), Free Time 1 (教材 4) 18. Free Time 2 (英文作成)	17. HWK 8 (英語で下書き) 18. HWK 9 (英文追加・修正)
19. 20.	19. Free Time 3 (相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成) 20. Free Time 4 (英文・ppt 完成)、評価基準説明	19. HWK 10 (英文完成) 20. 発表練習
21. 22.	21. Practice Presentation 4、最終確認 22. Presentation 4 (相互評価)、Report 評価基準説明	21. 発表練習 22. Report 4 作成
23. 24.	23. Report 4 (相互評価: pair work), In my Opinion 1 (教材 5) 24. In my Opinion 2 (下書き作成)	23. 復習 24. HWK 11 (英語で下書き)
25. 26.	25. In my Opinion 3 (相互評価: pair work, 下書き修正) 26. In my Opinion 4 (下書き修正・ppt 作成・Excel 説明)	25. HWK 12 (英文加筆・修正) 26. HWK 13 (英文加筆・修正)
27. 28.	27. In my Opinion 5 (相互評価: pair work, 下書き・ppt 完成) 28. Practice Presentation 5、評価基準説明、最終確認	27. 発表練習 28. 発表練習・ppt 確認
29. 30.	29. Presentation 5 (相互評価)・Report 5 評価基準説明	29. Report 5 作成

	30. Report 5 (相互評価: pair work) , Reflection (ふり 返し)	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE120-Y51	2.科目名	英語総合 2 【観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校まで及び2 学年春学期までに学んだ文法項目等をベースにして、英語を聞き取る力、英語を話す力、英文を読む力、英語を書く力の四技能をバランスよく伸ばすことを目的とした授業を展開します。 また、授業では、一方的な授業にならないように心がけ、教員と学生、学生同士の、双方向的なやり取りを増やす環境づくりに努めます。					
18.学習目標と DP との関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。					
19.教科書・教材	English Contrasts イングリッシュ・ガイド 基本文法で学ぶ英語の使い方 (金星堂)					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点 (各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等) なお、English Private Lesson を秋学期中に受けた学生には、その回数に応じて加点をします。					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、相談や質問がある場合は、研究室に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1 週	オリエンテーション 第1 回：Unit 1 See You Soon 第2 回：Unit 1 See You Soon					
第2 週	第3 回：Unit 2 Welcome to Japan! 第4 回：Unit 2 Welcome to Japan!					
第3 週	第5 回：Unit 3 Sandy's First Sushi 第6 回：Unit 3 Sandy's First Sushi					
第4 週	第7 回：Unit 4 Festival Fun 第8 回：Unit 4 Festival Fun					
第5 週	第9 回：Unit 5 Play Ball 第10 回：Unit 5 Play Ball					
第6 週	第11 回：Unit 6 Lucky Cats 第12 回：Unit 6 Lucky Cats					
第7 週	第13 回：Unit 7 No One Sings Like Brian 第14 回：Unit 7 No One Sings Like Brian					

第 8 週	第 15 回 : Unit 8 Yui's Cooking Class 第 16 回 : 中間テスト	
第 9 週	第 17 回 : Unit 8 Yui's Cooking Class 第 18 回 : Unit 9 Where's Sandy?	
第 10 週	第 19 回 : Unit 9 Where's Sandy? 第 20 回 : Unit 10 Let's Take a Hike	
第 11 週	第 21 回 : Unit 10 Let's Take a Hike 第 22 回 : Unit 11 Time for a Tour	
第 12 週	第 23 回 : Unit 11 Time for a Tour 第 24 回 : Unit 12 Photos from Hakone	
第 13 週	第 25 回 : Unit 12 Photos from Hakone 第 26 回 : Unit 13 Sho's Barbecue Party	
第 14 週	第 27 回 : Unit 13 Sho's Barbecue Party 第 28 回 : Unit 14 On the Go	
第 15 週	第 29 回 : Unit 14 On the Go 第 30 回 : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE120-Y53	2.科目名	英語総合2 【G コミ】 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習 & 講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(1) Can understand main ideas of complex texts including texts in specialized areas (2) Can interact with fluency & spontaneity with native speakers (3) Can produce clear & detailed texts; explain viewpoints and advantages/disadvantages on a topical issues.					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標はD P（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、 （5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 1) Critical reading & information literacy 2) Critical listening 3) Conversation strategies (Interrupting, Giving Advice, Confirmation Questions, etc.) 4) Discussion strategies (Summarizing, Asking for more details, Eliciting Opinions) 5) Writing to express thoughts, ideas, and opinions					
19.教科書・教材	CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情 [改訂版] CLIL Seeing the World through Maps [revised] 笹島 茂 編/ 仲谷 都 著/ 油木田美由紀 著/ 大和洋子 著/ Michele Joel 著 978-4-384-33522-4 C1082 三修社					
20.参考文献						
21.成績評価	・ Quiz & Mid-term test 40% ・ Final Test 20% ・ class activity and task 40%					
22.コメント	テキストは毎回必ず持参すること。					
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Area 1 Europe			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Area 2 Africa			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Area 3 The Middle East			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Area 4 South Asia			Check vocabulary		

		Listening Task Review questions
	Area 5 Russia and Its Neighboring Countries	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Area 6 East Asia	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Area 7 Southeast Asia	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Area 8 North America	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Area 9 Central America and the Caribbean	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Area 10 South America	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Area 11 The South Pacific and the Antarctic	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Area 12 Australia and New Zealand	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Review the all units	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Review Final Test	Check vocabulary Listening Task Review questions

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-A51	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中学英語教員免許 1 種 (高等英語教員免許 1 種)			9.履修学年	3rd year students	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	The goal of this class is to help students improve their communication skills so they can make connections and form relationships with others. This will make each student more able to have a positive influence in society.					
18.学習目標と D P との関連	By the end of the term, the students will be able to: Utilize the four main aspects of the English Language (Speaking, Listening, Reading, and Writing) effectively and efficiently. Improve their communication skills in various situations. Express their opinions and emotions about subjects like life, education, success, and motivation with confidence.					
19.教科書・教材	Textbook title: Smart Choice 3 (Fourth Edition) Student Book Publisher: Oxford University Press Author: Ken Wilson, Alice Savage ISBN: 978-0-19-406129-2					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Class participation (cooperation and attitude) 10% 3. Homework: 10% 4. Midterm Task: 20% 5. Final Task: 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：調整中					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Day 1: Course Introduction Unit 1: Introduction Useful Classroom Language Unit1 Vocabulary, Conversation, Language Practice, and Listening Day 2: Unit 1 Reading Unit 1 Speaking					
Week 2	Day 3 Unit 2: Vocabulary and Language Practice Day 4 Unit 2: Listening, Reading and Speaking					
Week 3	Day 5					

	Unit 3: Vocabulary and Language Practice Day 6 Unit 3: Listening, Reading and Speaking	
Week 4	Day 7 Unit 4: Vocabulary and Language Practice Day 8 Unit 4: Listening, Reading and Speaking	
Week 5	Day 9 Unit 5: Vocabulary and Language Practice Day 10 Unit 5: Listening, Reading and Speaking	
Week 6	Day 11 Unit 6: Vocabulary and Language Practice Day 12 Unit 6: Listening, Reading and Speaking	
Week 7	Day 13 Midterm Review Day 14 Midterm Test (June 3rd)	
Week 8	Day 15 Unit 7: Vocabulary and Language Practice Day 16 Unit 7: Listening, Reading and Speaking	
Week 9	Day 17 Unit 8: Vocabulary and Language Practice Day 18 Unit 8: Listening, Reading and Speaking	
Week 10	Day 19 Unit 9: Vocabulary and Language Practice Day 20 Unit 9: Listening, Reading and Speaking	
Week 11	Day 21 Unit 10: Vocabulary and Language Practice Day 22 Unit 10: Listening, Reading and Speaking	
Week 12	Day 23 Unit 11: Vocabulary and Language Practice Day 24 Unit 11: Listening, Reading and Speaking	
Week 13	Day 25 Unit 12: Vocabulary and Language Practice Day 26 Unit 12: Listening, Reading and Speaking	
Week 14	Day 27 Unit Review	

	Final Task Preparation Day 28 Unit Review Final Task Preparation	
Week 15	Day 29 Written Test Final Task Preparation Day 30 Final Task	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-Y51	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション1 L3		3.単位数	2										
4.授業担当教員	岸田月穂															
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期											
8.履修可能な専攻					9.履修学年											
10.取得資格の要件			11.先修条件													
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※												
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	原則対面で実施												
16.履修制限																
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 This class aims at improving -Presentation Skills - Debating Skills - High Listening Skills 【授業の概要】 By the end of this course, students should be able to: - research a topic - speak clearly and effectively on a topic of interest to an audience - express your opinion confidently and persuasively - develop your own unique presentation style - plan and organize a presentation using PowerPoint - give a small, logical presentation - understand your audience's expectations - conduct a small survey and report the results															
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標と DP との関連】 By the end of this course, you should be able to successfully achieve the following Department benchmarks: 1. Autonomous and independent learning skills. 2. Problem identification & solving skills through task-based activities. 3. Communication skills both individual and group focussed.															
19.教科書・教材	"Present Yourself 2" Viewpoints (Second Edition) by Steven Gershon [Cambridge University Press] (a blue A4 sized book) ISBN: 978-1-107-43578-0 (check at Maruzen)															
20.参考文献																
21.成績評価	<table><tr><td>Class Participation</td><td>20%</td></tr><tr><td>Daily Word, grammar Quiz</td><td>30%</td></tr><tr><td>Midterm Test</td><td>25%</td></tr><tr><td>Final Test</td><td>25%</td></tr><tr><td>Total</td><td>100%</td></tr></table>						Class Participation	20%	Daily Word, grammar Quiz	30%	Midterm Test	25%	Final Test	25%	Total	100%
Class Participation	20%															
Daily Word, grammar Quiz	30%															
Midterm Test	25%															
Final Test	25%															
Total	100%															
22.コメント	- As this is progressive assessment, your in-class attendance is advised. - Please ONLY use your cell phone to access the recommended dictionary シラバスの一部の側面は変更される可能性があります。 また、障がい等により、本講義の受講の際に特別な配慮が必要な場合は事前に担当教員に申し出てください。基本は対面授業を行いますが、新型コロナウイルスの感															
23.オフィスアワー	** Please contact your Teacher at above email address.															
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)												

Week 1	Course Introduction / tech check / Getting ready	Communication skills
Week 2	Choosing your topic. CHAPTER 1: A Person to Admire - questionnaire / describe life history & achievements / class discussion on famous people - Effective introduction & conclusion , Openers & Closers - Note cards & eye contact	As directed by your Teacher
Week 3	CHAPTER 1 continued -plan and give a mini-presentation 1 on a person you admire	As directed by your Teacher.
Week 4	CHAPTER 2: A Great Vacation Idea - interview classmates / suggestions for beginning and ending your presentation / use of PowerPoint / body language tips and tricks	As directed by your Teacher
Week 5	CHAPTER 2 continued - plan and give a mini-presentation 2 about a vacation you recommend	As directed by your Teacher
Week 6	CHAPTER 3: Young People Today - survey topics, questions & results / describing and conducting a class survey / reporting survey results / raise-your-hand surveys / making effective aids and use of REALIA / emphasising key info	As directed by your Teacher
Week 7	CHAPTER 3: continued - plan and give a mini-presentation 3 about a survey you conducted	As directed by your Teacher
Week 8	CHAPTER 4: Let Me Explain - Q & A for a Fact or Myth quiz - providing context (background) and process steps - interesting presentation beginnings and endings - audience Q & A	As directed by your Teacher
Week 9	CHAPTER 4 continued - plan and give a mini-presentation 4 on how something works or happens	As directed by your Teacher
Week 10	CHAPTER 5: In My Opinion -current issues & surveying classmates - expressing opinions & supporting them with reasons - beginning presentation with a common viewpoint - ending presentation with a "call to action" - using your voice effectively + use of	As directed by your Teacher
Week 11	CHAPTER 5 continued	As directed by your Teacher

	- plan and give a mini-presentation 5	
Week 12	CHAPTER 6: In the News - headlines and stories - conducting a news questionnaire - summarising a news story - describing reactions to a news story	As directed by your Teacher
Week 13	CHAPTER 6 continued - Plan and give a mini-presentation 6 about a news story	As directed by your Teacher
Week 14	-Time in class to prepare final presentations and work on your script. -practice Q&A	Prepare for your Presentation
Week 15	CLASS PRESENTATIONS (10 minute maximum each student) - allow Question and Answer time.	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE122-Y52	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション2【観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択の区分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2nd year~	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture-discussion, presentation and exercises		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to become more effective communicators that could connect people and build relationships with them. This enables every student to be empowering individuals of the society.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester the students will be able to: 1. To efficiently and effectively use the four major skills of the English Language: Speaking, Listening, Reading and Writing. 2.To develop communication skills in a wide range situations. To confidently express their thoughts and feelings on topics such as life, education, success, motivation, etc.					
19.教科書・教材	Textbook: Global Perspectives 1 Authors: Noriko Nakanishi, Nicholas Musty et.al. Publisher: Seibido ISBN: 9784791972616					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group work (cooperation and attitude) 20% 3. Homework: Flipgrid Activities 10% 3. Midterm Task: 20% 4. Final Task: 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Monday-Friday Global Gakushu Plaza, Room 016 Kobe Yamate Building 3					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. Course Introduction Unit 1: College Life Lesson-Discussion Activities					
	2. Unit 2: Understanding Copyright					

	Lesson-Discussion Activities	
	3. Unit 3: Cyber Bullying Lesson-Discussion Activities	
	4. Unit 4: Tourism Lesson-Discussion Activities	
	5. Unit 5: Foreign Encounters Lesson-Discussion Activities	
	6. Unit 6: Entertainment Lesson-Discussion Activities	
	. Midterm Task	
	8. Unit 7: International Affairs Lesson-Discussion Activities	
	9. Unit 8: Technology Lesson-Discussion Activities	
	Unit 9: My Future Lesson-Discussion Activities	
	Unit 10: Personal Finance Lesson-Discussion Activities	
	Unit 11: Health Lecture-Discussion Activities	
	Unit 12: Diversity Lecture-Discussion Activities	
	Final Task	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE124-Y81	2.科目名	リーディング・ライティング2 (再)		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 年生以上 再履修者	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力+テスト知識」を以て TOEIC (R)L&R テスト 450 点以上のスコア取得を目指します。 概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結する英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人（読む人）が理解しやすい情報の提示法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と英語力を身につける。					
19.教科書・教材	SMART ROUTE TO THE TOEIC (R) L&R TEST (センゲージ ラーニング)					
20.参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。					
21.成績評価	・ 授業参加度： 30 点（学習目標②に対応） ・ 小テスト： 30 点（学習目標①に対応） ・ 期末テスト： 40 点（学習目標①に対応）					
22.コメント	・ 教科書を購入していない学生は、評価の対象外とすることがあります。 ・ 音読に力を入れます。 ・ 発表・発言など、積極的な授業態度を求めます。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 日目	Unit 6 Web Sites Unit 7 Advertising 単語テスト 1			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読		
2 日目	単語テスト 2, 3 Unit 7 Advertising Unit 8 Information Technology			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読		
3 日目	単語テスト 4, 5 Unit 8 Information Technology Unit 9 Phone Calls			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	FLE127-Y02	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅱ (2/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上加寿子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	英語を通してグローバルコミュニケーションの作法（ロジカルシンキング）を学ぶ基盤英語教育の上に立ち、英語スピーチの実践の中でさらにロジカルシンキングの力を養う。グローバル学部の専門科目として、アイコンタクトやデリバリーなど、パブリックスピーキングの基礎を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 少し社会的なトピックをテーマに、2分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 立論の型 (AREA) 人はロボットにとってかわられるのか？ Should people be replaced by robots?					
第 2 回	人生で、何度も転職する方が良い？ Is it worthwhile to change careers several times during our life?					
第 3 回	高齢者の運転免許を取り消すべきか Should elderly drivers' licenses be revoked when they reach a certain age?					
第 4 回	万引き容疑者の顔写真を公開しても良いか？ Should businesses be allowed to share facial images of suspected shoplifters?					

第 5 回	死刑制度は必要か？ Should the death penalty be applied?	
第 6 回	動物は動物園で飼われるべきか？ Should animals kept in zoos?	
第 7 回	臓器提供制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	高校卒業後にギャップイヤーを散るべきか？ Should high school graduates take a gap year?	
第 10 回	臓器移植制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 11 回	インターネットを検閲すべきか？ Should the Internet be censored by the government?	
第 12 回	ペットを飼うべきか？ Should we keep a pet?	
第 13 回	都会は本当に住みやすい？ Are big cities really the best places to live?	
第 14 回	出会い系サイトを試す価値はあるか？ Are dating apps a worthwhile option?	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE127-Y03	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅱ (3/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岸田月穂					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面で実施		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	英語を通してグローバルコミュニケーションの作法（ロジカルシンキング）を学ぶ基盤英語教育の上に立ち、英語スピーチの実践の中でさらにロジカルシンキングの力を養う。グローバル学部の専門科目として、アイコンタクトやデリバリーなど、パブリックスピーキングの基礎を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 少し社会的なトピックをテーマに、2分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	参考図書 森秀夫『AREA 式で英語 2 分間スピーキング』 https://hon.gakken.jp/book/1130599200					
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 立論の型 (AREA) 人はロボットにとってかわられるのか？ Should people be replaced by robots?					
第 2 回	人生で、何度も転職する方が良い？ Is it worthwhile to change careers several times during our life?					
第 3 回	高齢者の運転免許を取り消すべきか Should elderly drivers' licenses be revoked when they					

	reach a certain age?	
第 4 回	万引き容疑者の顔写真を公開しても良いか？ Should businesses be allowed to share facial images of suspected shoplifters?	
第 5 回	死刑制度は必要か？ Should the death penalty be applied?	
第 6 回	動物は動物園で飼われるべきか？ Should animals kept in zoos?	
第 7 回	臓器提供制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	高校卒業後にギャップイヤーを散るべきか？ Should high school graduates take a gap year?	
第 10 回	臓器移植制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 11 回	インターネットを検閲すべきか？ Should the Internet be censored by the government?	
第 12 回	ペットを飼うべきか？ Should we keep a pet?	
第 13 回	都会は本当に住みやすい？ Are big cities really the best places to live?	
第 14 回	出会い系サイトを試す価値はあるか？ Are dating apps a worthwhile option?	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE127-Y04	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅱ (4/5)	3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 少し社会的なトピックをテーマに、2分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	オリエンテーション 立論の型 (AREA) 人はロボットにとってかわられるのか？ Should people be replaced by robots?				
第2回	人生で、何度も転職する方が良い？ Is it worthwhile to change careers several times during our life?				
第3回	高齢者の運転免許を取り消すべきか Should elderly drivers' licenses be revoked when they reach a certain age?				
第4回	万引き容疑者の顔写真を公開しても良いか？ Should businesses be allowed to share facial images of suspected shoplifters?				
第5回	死刑制度は必要か？ Should the death penalty be applied?				
第6回	動物は動物園で飼われるべきか？				

	Should animals kept in zoos?	
第 7 回	臓器提供制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	高校卒業後にギャップイヤーを散るべきか？ Should high school graduates take a gap year?	
第 10 回	臓器移植制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 11 回	インターネットを検閲すべきか？ Should the Internet be censored by the government?	
第 12 回	ペットを飼うべきか？ Should we keep a pet?	
第 13 回	都会は本当に住みやすい？ Are big cities really the best places to live?	
第 14 回	出会い系サイトを試す価値はあるか？ Are dating apps a worthwhile option?	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE127-Y05	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅱ (5/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要						
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 少し社会的なトピックをテーマに、2分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 立論の型 (AREA) 人はロボットにとってかわられるのか？ Should people be replaced by robots?					
第2回	人生で、何度も転職する方が良い？ Is it worthwhile to change careers several times during our life?					
第3回	高齢者の運転免許を取り消すべきか Should elderly drivers' licenses be revoked when they reach a certain age?					
第4回	万引き容疑者の顔写真を公開しても良いか？ Should businesses be allowed to share facial images of suspected shoplifters?					
第5回	死刑制度は必要か？ Should the death penalty be applied?					
第6回	動物は動物園で飼われるべきか？					

	Should animals kept in zoos?	
第 7 回	臓器提供制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	高校卒業後にギャップイヤーを散るべきか？ Should high school graduates take a gap year?	
第 10 回	臓器移植制度は必要か？ Is the organ donation system necessary?	
第 11 回	インターネットを検閲すべきか？ Should the Internet be censored by the government?	
第 12 回	ペットを飼うべきか？ Should we keep a pet?	
第 13 回	都会は本当に住みやすい？ Are big cities really the best places to live?	
第 14 回	出会い系サイトを試す価値はあるか？ Are dating apps a worthwhile option?	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-A51	2.科目名	英語の論理Ⅰ (再)		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-M51	2.科目名	英語の論理Ⅰ (再)		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド (第1回、第8回、 第15回のみ対面)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー (話すこと) で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく (ロジカルに) 意見を述べることができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点 (6点×12回/72点) 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください (しっかり聞いていれば、解けるものばかりです)。					
22.コメント	授業は、第1回 (オリエンテーション)、第8回 (中間テスト)、第15回 (期末テスト) のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ・課題については使用可 ・ただしテストでは使用不可					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエ					

	ンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」	
第 2 回	第 2 文型：形容詞が C になる（事実か意見か） Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-A51	2.科目名	英語の論理Ⅱ T1	3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ・課題については使用可 ・ただしテストでは使用不可				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエ				

	ンテーション why-because：論証責任を果たすということ	
第 2 回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第 2 文型 Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-A52	2.科目名	英語の論理Ⅱ T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第 1 回、第 8 回、 第 15 回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6 点×12 回／72 点） 中間テスト 14 点 期末テスト 14 点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第 1 回（オリエンテーション）、第 8 回（中間テスト）、第 15 回（期末テスト）のみ対面、他の 12 回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第 1 回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第 2 回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第 2 文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-A53	2.科目名	英語の論理Ⅱ T3	3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ばく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ				
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-A54	2.科目名	英語の論理Ⅱ T4	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ				
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-A55	2.科目名	英語の論理Ⅱ T5		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-A56	2.科目名	英語の論理Ⅱ T6		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-M51	2.科目名	英語の論理Ⅱ 経営 T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第 1 回、第 8 回、 第 15 回のみ対面）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6 点×12 回／72 点） 中間テスト 14 点 期末テスト 14 点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第 1 回（オリエンテーション）、第 8 回（中間テスト）、第 15 回（期末テスト）のみ対面、他の 12 回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第 1 回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第 2 回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第 2 文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-M52	2.科目名	英語の論理Ⅱ 看護Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-M53	2.科目名	英語の論理Ⅱ 経営 T 2		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第 1 回、第 8 回、 第 15 回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6 点×12 回／72 点） 中間テスト 14 点 期末テスト 14 点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第 1 回（オリエンテーション）、第 8 回（中間テスト）、第 15 回（期末テスト）のみ対面、他の 12 回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第 1 回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ・課題については使用可 ・ただしテストでは使用不可					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエ					

	ンテーション why-because：論証責任を果たすということ	
第 2 回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第 2 文型 Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-M54	2.科目名	英語の論理Ⅱ 看護 T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけでなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ・課題については使用可 ・ただしテストでは使用不可					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエ					

	ンテーション why-because：論証責任を果たすということ	
第 2 回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第 2 文型 Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-M55	2.科目名	英語の論理Ⅱ 経営 T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	家村雅子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー	第1回、第8回、第15回のみ対面授業の前後（それ以外は Webclass か e-mail での連絡）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-M56	2.科目名	英語の論理Ⅱ 看護 T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	家村雅子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー	第1回、第8回、第15回のみ対面授業の前後（それ以外は Webclass か e-mail での連絡）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第2文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y51	2.科目名	英語の論理Ⅱ T1	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ				
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y52	2.科目名	英語の論理Ⅱ T2	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ				
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y54	2.科目名	英語の論理Ⅱ T4		3.単位数	1
4.授業担当教員	井上加寿子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー	火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ					
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y55	2.科目名	英語の論理Ⅱ T5	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ				
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y56	2.科目名	英語の論理Ⅱ T6	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ				
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y57	2.科目名	英語の論理Ⅱ T7	3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけでなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成 AI 利用:条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定する。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション				

	why-because：論証責任を果たすということ	
第 2 回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第 2 文型 Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y58	2.科目名	英語の論理Ⅱ T8	3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけでなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成 AI 利用:条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定する。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション				

	why-because：論証責任を果たすということ	
第 2 回	相手の Why に答える(1)：形容詞が C になる第 2 文型 Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE129-Y59	2.科目名	英語の論理Ⅱ T9	3.単位数	1
4.授業担当教員	岡本由紀子				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの基礎にある英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 相手の Why に対して、日本人特有の循環論法（「英語は必要だから重要だ」など）や、ナイーブな一般化（「みんなそうしているから」など）に陥ることなく、ロジカルに Because と答える（論証する）ことができるようになる。また、ロジカルではない相手の発言に、少なくともロジカルな反応（質疑・反ぱく）ができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション why-because：論証責任を果たすということ				
第2回	相手の Why に答える(1)：形容詞がCになる第2文型			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	相手の Why に答える(2)：名詞が C になる第 2 文型 Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	相手の Why に答える(5)：強い助動詞(2) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	相手の Why に答える(6)：強い助動詞(3) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	ロジカルな立論(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	ロジカルな立論(1) Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	ロジカルな同意(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	ロジカルな同意(2) Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	ロジカルな反論(1) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	ロジカルな反論(2) Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE130-Y02	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅱ (4/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル学部の3つの専門領域（観光まちづくり／グローバルビジネス／日本語・日本文化）およびSDGsからレバントなテーマを命題に、ディベートの2nd Round（反論）までを実践する。英語ディベートの実践を通して、グローバルコミュニケーションの基本となるクリティカル・シンキングの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 春学期に作成した1st Roundの立論を前提に、2nd Roundの反論（1分～3分）が「即興型」でできるようになる。また、授業後の課題として「準備型」の反論を準備し、原稿なしで暗唱できるようになる。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ディベート概論 ディベートの反論をどう行うのか？ 英語の議論の組み立て方（AREA） 日本の学校は制服を廃止すべきか？ Should school uniforms be abolished in Japan?					
第2回	グローバルビジネス① コンビニの24時間営業は禁止すべきか？ Should 24-hour convenience store operations be prohibited?					
第3回	グローバルビジネス② ベーシックインカムを導入すべきか？ Should a basic income be implemented?					
第4回	グローバルビジネス③					

	リモートワークを禁止すべきか？ Should remote work be banned?	
第 5 回	日本語・日本文化① 多言語の世界よりも一つの言語しかない世界の方がよいか？ Would a world with only one language be better than a multilingual world?	
第 6 回	日本語・日本文化② 日本は英語を第二公用語とすべきか？ Should Japan make English the second official language?	
第 7 回	日本語・日本文化③ 日本は首都機能を東京から移転すべきか？ Should Japan move the capital functions away from Tokyo?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	観光まちづくり① ツーリズムと伝統文化は両立するのか？ Can tourism and traditional culture coexist?	
第 10 回	観光まちづくり② 日本は観光税を導入すべきか？ Should Japan introduce a tourism tax?	
第 11 回	観光まちづくり③ ジェントリフィケーションを推進すべきか？ Should gentrification be promoted?	
第 12 回	SDGs① 女性のアファーマティブアクションを導入すべきか？ (ジェンダー) Should affirmative action for women be implemented? (gender)	
第 13 回	SDGs② 使い捨てプラスチックは禁止すべきか (環境) Should single-use plastics be banned? (environment)	
第 14 回	SDGs③ 脂肪税を導入すべきか？ (健康) Should a fat tax be implemented? (health)	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE130-Y03	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅱ (5/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴーニ啓子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	* 目的 グローバル学部の 3 つの専門領域（観光まちづくり／グローバルビジネス／日本語・日本文化）および SDGs からレバントなテーマを命題に、ディベートの 2nd Round（反論）までを実践する。 * 概要 英語ディベートの実践を通して、グローバルコミュニケーションの基本となるクリティカル・シンキングの習得を目指す。ディベートの実践の中で、英語コミュニケーションの本質である他者意識を養い、独立思考ができるようになることを目指す。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 春学期に作成した 1st Round の立論を前提に、2nd Round の反論（1 分～3 分）が「即興型」でできるようになる。また、授業後の課題として「準備型」の反論を準備し、原稿なしで暗唱できるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	教科書は使用しない。					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント	* ディベートのクラスなので、積極的な授業参加、出席が望まれる。 * 生成 AI 利用：条件つきで認める。但し、レポート、テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	授業の前後、メール等で対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ディベート概論 ディベートの反論をどう行うのか？ 英語の議論の組み立て方（AREA） 日本の学校は制服を廃止すべきか？ Should school uniforms be abolished in Japan?					
第 2 回	グローバルビジネス① コンビニの 24 時間営業は禁止すべきか？					

	Should 24-hour convenience store operations be prohibited?	
第 3 回	グローバルビジネス② ベーシックインカムを導入すべきか？ Should a basic income be implemented?	
第 4 回	グローバルビジネス③ リモートワークを禁止すべきか？ Should remote work be banned?	
第 5 回	日本語・日本文化① 多言語の世界よりも一つの言語しかない世界の方がよいか？ Would a world with only one language be better than a multilingual world?	
第 6 回	日本語・日本文化② 日本は英語を第二公用語とすべきか？ Should Japan make English the second official language?	
第 7 回	日本語・日本文化③ 日本は首都機能を東京から移転すべきか？ Should Japan move the capital functions away from Tokyo?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	観光まちづくり① ツーリズムと伝統文化は両立するのか？ Can tourism and traditional culture coexist?	
第 10 回	観光まちづくり② 日本は観光税を導入すべきか？ Should Japan introduce a tourism tax?	
第 11 回	観光まちづくり③ ジェントリフィケーションを推進すべきか？ Should gentrification be promoted?	
第 12 回	SDGs① 女性のアファーマティブアクションを導入すべきか？ (ジェンダー) Should affirmative action for women be implemented? (gender)	
第 13 回	SDGs② 使い捨てプラスチックは禁止すべきか (環境) Should single-use plastics be banned? (environment)	
第 14 回	SDGs③ 脂肪税を導入すべきか？ (健康) Should a fat tax be implemented? (health)	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE130-Y05	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅱ（3/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル学部の3つの専門領域（観光まちづくり／グローバルビジネス／日本語・日本文化）およびSDGsからレレバントなテーマを命題に、ディベートの2nd Round（反論）までを実践する。英語ディベートの実践を通して、グローバルコミュニケーションの基本となるクリティカル・シンキングの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 春学期に作成した1st Roundの立論を前提に、2nd Roundの反論（1分～3分）が「即興型」でできるようになる。また、授業後の課題として「準備型」の反論を準備し、原稿なしで暗唱できるようになる。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ディベート概論 ディベートの反論をどう行うのか？ 英語の議論の組み立て方（AREA） 日本の学校は制服を廃止すべきか？ Should school uniforms be abolished in Japan?					
第2回	グローバルビジネス① コンビニの24時間営業は禁止すべきか？ Should 24-hour convenience store operations be prohibited?					
第3回	グローバルビジネス② ベーシックインカムを導入すべきか？ Should a basic income be implemented?					
第4回	グローバルビジネス③					

	リモートワークを禁止すべきか？ Should remote work be banned?	
第 5 回	日本語・日本文化① 多言語の世界よりも一つの言語しかない世界の方がよいか？ Would a world with only one language be better than a multilingual world?	
第 6 回	日本語・日本文化② 日本は英語を第二公用語とすべきか？ Should Japan make English the second official language?	
第 7 回	日本語・日本文化③ 日本は首都機能を東京から移転すべきか？ Should Japan move the capital functions away from Tokyo?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	観光まちづくり① ツーリズムと伝統文化は両立するのか？ Can tourism and traditional culture coexist?	
第 10 回	観光まちづくり② 日本は観光税を導入すべきか？ Should Japan introduce a tourism tax?	
第 11 回	観光まちづくり③ ジェントリフィケーションを推進すべきか？ Should gentrification be promoted?	
第 12 回	SDGs① 女性のアファーマティブアクションを導入すべきか？ (ジェンダー) Should affirmative action for women be implemented? (gender)	
第 13 回	SDGs② 使い捨てプラスチックは禁止すべきか (環境) Should single-use plastics be banned? (environment)	
第 14 回	SDGs③ 脂肪税を導入すべきか？ (健康) Should a fat tax be implemented? (health)	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y51	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ（再）		3.単位数	1
4.授業担当教員	Louisa Green					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-A52	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T2	3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking				
20.参考文献					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82				
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86				
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92				
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97				
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106				
Week 6	UNIT6: Health Science				

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-A53	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T3	3.単位数	1
4.授業担当教員	Ian Matthew Allensworth				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking				
20.参考文献					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82				
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86				
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92				
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97				
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106				
Week 6	UNIT6: Health Science				

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-A54	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T4	3.単位数	1
4.授業担当教員	Jason Conrad Beaton				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。				
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking				
20.参考文献					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82				
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86				
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92				
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97				
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106				
Week 6	UNIT6: Health Science				

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-A55	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T5	3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking				
20.参考文献					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82				
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86				
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92				
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97				
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106				
Week 6	UNIT6: Health Science				

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-M51	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ 経営T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	対面	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82					
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86					
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92					
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97					
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106					
Week 6	UNIT6: Health Science					

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-M52	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ 看護Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82					
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86					
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92					
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97					
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106					
Week 6	UNIT6: Health Science					

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-M55	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ 経営T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	Michael Heller					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	対面	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82					
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86					
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92					
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97					
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106					
Week 6	UNIT6: Health Science					

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-M56	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ 看護T3	3.単位数	1
4.授業担当教員	Michael Heller				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking				
20.参考文献					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82				
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86				
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92				
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97				
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106				
Week 6	UNIT6: Health Science				

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-Y51	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T6	3.単位数	1
4.授業担当教員	Louisa Green				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global Communication while transforming their critical thinking skills.				
18.学習目標と DPとの関連	(Learning Objectives) Acquire critical thinking through actual English communication. [Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions where it is used,and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language skills is nothing less than cultivating communication skills. Learning English inevitably puts one's native language into perspective, which leads to improving communication skills not only English but also one's native language.				
19.教科書・教材	Title: Q:Skills for Success Intro: Listening & Speaking (3rd Edition) Authors: Kevin McClure / Mari Vargo ISBN: 978-0-19-490512-1				
20.参考文献	Additional references will be provided in class.				
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 30% - Class Participation (groupwork/presentation): 20% - Midterm Test: 20% - Final Test: 30% TOTAL: 100%				
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT 5: Architecture				
Week 2	UNIT 5: Architecture				

Week 3	UNIT 5: Architecture Quiz 1	
Week 4	UNIT 6: Health Science	
Week 5	UNIT 6: Health Science	
Week 6	UNIT 6: Health Science Quiz 2	
Week 7	Review and Review Test: Units 5 and 6	
Week 8	Midterm Test	
Week 9	UNIT 7: Global Studies	
Week 10	UNIT 7: Global Studies	
Week 11	UNIT 7: Global Studies Quiz 3	
Week 12	UNIT 8: Technology	
Week 13	UNIT 8: Technology Quiz 4	
Week 14	Review and Review Test: Units 7 and 8	
Week 15	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-Y52	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T2	3.単位数	1
4.授業担当教員	Louisa Green				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global Communication while transforming their critical thinking skills.				
18.学習目標と DPとの関連	(Learning Objectives] Acquire critical thinking through actual English communication. [Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions where it is used,and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language skills is nothing less than cultivating communication skills. Learning English inevitably puts one's native language into perspective, which leads to improving communication skills not only English but also one's native language.				
19.教科書・教材	Title: Q:Skills for Success Intro: Listening & Speaking (3rd Edition) Authors: Kevin McClure / Mari Vargo ISBN: 978-0-19-490512-1				
20.参考文献	Additional references will be provided in class.				
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 30% - Class Participation (groupwork/presentation): 20% - Midterm Test: 20% - Final Test: 30% TOTAL: 100%				
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT 5: Architecture				
Week 2	UNIT 5: Architecture				

Week 3	UNIT 5: Architecture Quiz 1	
Week 4	UNIT 6: Health Science	
Week 5	UNIT 6: Health Science	
Week 6	UNIT 6: Health Science Quiz 2	
Week 7	Review and Review Test: Units 5 and 6	
Week 8	Midterm Test	
Week 9	UNIT 7: Global Studies	
Week 10	UNIT 7: Global Studies	
Week 11	UNIT 7: Global Studies Quiz 3	
Week 12	UNIT 8: Technology	
Week 13	UNIT 8: Technology Quiz 4	
Week 14	Review and Review Test: Units 7 and 8	
Week 15	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-Y58	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T8	3.単位数	1
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global Communication while transforming their critical thinking skills.				
18.学習目標と DPとの関連	(Learning Objectives] Acquire critical thinking through actual English communication. [Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions where it is used,and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language skills is nothing less than cultivating communication skills. Learning English inevitably puts one's native language into perspective, which leads to improving communication skills not only English but also one's native language.				
19.教科書・教材	Title: Q:Skills for Success Intro: Listening & Speaking (3rd Edition) Authors: Kevin McClure / Mari Vargo ISBN: 978-0-19-490512-1				
20.参考文献	Additional references will be provided in class.				
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 30% - Class Participation (groupwork/presentation): 20% - Midterm Test: 20% - Final Test: 30% TOTAL: 100%				
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT 5: Architecture				
Week 2	UNIT 5: Architecture				

Week 3	UNIT 5: Architecture Quiz 1	
Week 4	UNIT 6: Health Science	
Week 5	UNIT 6: Health Science	
Week 6	UNIT 6: Health Science Quiz 2	
Week 7	Review and Review Test: Units 5 and 6	
Week 8	Midterm Test	
Week 9	UNIT 7: Global Studies	
Week 10	UNIT 7: Global Studies	
Week 11	UNIT 7: Global Studies Quiz 3	
Week 12	UNIT 8: Technology	
Week 13	UNIT 8: Technology Quiz 4	
Week 14	Review and Review Test: Units 7 and 8	
Week 15	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE132-Y59	2.科目名	英語コミュニケーションⅡ T3	3.単位数	1
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global Communication while transforming their critical thinking skills.				
18.学習目標と DPとの関連	(Learning Objectives] Acquire critical thinking through actual English communication. [Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions where it is used,and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language skills is nothing less than cultivating communication skills. Learning English inevitably puts one's native language into perspective, which leads to improving communication skills not only English but also one's native language.				
19.教科書・教材	Title: Q:Skills for Success Intro: Listening & Speaking (3rd Edition) Authors: Kevin McClure / Mari Vargo ISBN: 978-0-19-490512-1				
20.参考文献	Additional references will be provided in class.				
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 30% - Class Participation (groupwork/presentation): 20% - Midterm Test: 20% - Final Test: 30% TOTAL: 100%				
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT 5: Architecture				
Week 2	UNIT 5: Architecture				

Week 3	UNIT 5: Architecture Quiz 1	
Week 4	UNIT 6: Health Science	
Week 5	UNIT 6: Health Science	
Week 6	UNIT 6: Health Science Quiz 2	
Week 7	Review and Review Test: Units 5 and 6	
Week 8	Midterm Test	
Week 9	UNIT 7: Global Studies	
Week 10	UNIT 7: Global Studies	
Week 11	UNIT 7: Global Studies Quiz 3	
Week 12	UNIT 8: Technology	
Week 13	UNIT 8: Technology Quiz 4	
Week 14	Review and Review Test: Units 7 and 8	
Week 15	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE134-A51	2.科目名	TOEIC ストラテジー I		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	リアルタイムオンライン（以下の zoom リンクにて行います） https://	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率上がることもまた事実である。以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、400 点以上の得点を目指す。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	[改訂版] TOEIC? L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 400 KEY STRATEGIES FOR SUCCESS ON THE TOEIC? L&R TEST Level 400					
20.参考文献	必要に応じて授業中に紹介する					
21.成績評価	小テスト：60 点 Final Test：40 点					
22.コメント	生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit L1・R1					
第 2 回	Unit L2・R2					
第 3 回	Unit L3・R3					
第 4 回	Unit L4・R4					
第 5 回	Unit L5・R5					
第 6 回	Unit L6・R6					
第 7 回	Unit L7・R7					
第 8 回	Unit L8・R8					

第 9 回	Unit L9・R9	
第 10 回	Unit L10・R10	
第 11 回	Unit L11・R11	
第 12 回	Unit L12・R12	
第 13 回	Unit L13・R13	
第 14 回	Unit L14・R14	
第 15 回	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE134-M51	2.科目名	TOEIC ストラテジー I		3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンライン（以下の zoom リンクにて行います）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	頻出表現と頻出単語でつかむ TOEIC? L&R TEST 400 点 AN AMAZING AVENUE FOR THE TOEIC? L&R TEST 400 ＊TESTUDY というオンライン学習システムにより、課題やテストを行います。教科書を購入しなければ、TESTUDY が利用できません。成績評価もできませんので、くれぐれも注意してください。					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト：60 点 Final Test：40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 1					

第 2 回	Unit 2	
第 3 回	Unit 3	
第 4 回	Unit 4	
第 5 回	Unit 5	
第 6 回	Unit 6	
第 7 回	Unit 7	
第 8 回	Unit 8	
第 9 回	Unit 9	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE134-Y51	2.科目名	TOEIC ストラテジー I		3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンライン（以下の zoom リンクにて行います）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	頻出表現と頻出単語でつかむ TOEIC? L&R TEST 400 点 AN AMAZING AVENUE FOR THE TOEIC? L&R TEST 400 ＊TESTUDY というオンライン学習システムにより、課題やテストを行います。教科書を購入しなければ、TESTUDY が利用できません。成績評価もできませんので、くれぐれも注意してください。					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト：60 点 Final Test：40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 1					

第 2 回	Unit 2	
第 3 回	Unit 3	
第 4 回	Unit 4	
第 5 回	Unit 5	
第 6 回	Unit 6	
第 7 回	Unit 7	
第 8 回	Unit 8	
第 9 回	Unit 9	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A51	2.科目名	総合英語Ⅱ (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 教科書は前年度使用したものであるため、毎回持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 * 楽しい授業ですから良かったら受講してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M51	2.科目名	総合英語Ⅱ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y51	2.科目名	総合英語Ⅱ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y52	2.科目名	総合英語Ⅱ 【観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リンガル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。 また、1 学年及び 2 学年の春学期までの必修科目で学んだ英語基礎及び英語総合の内容に加え、より複雑な文章を運用できることを目指す。					
18.学習目標と DP との関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。					
19.教科書・教材	英語のハノン（上級） 筑摩書房					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等） なお、English Private Lesson を秋学期中に受けた学生には、その回数に応じて加点をします。					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 Unit 5 と Unit 8 については、ポイントのみの説明とします。					
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、相談や質問がある場合は、研究室(3310)に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	オリエンテーション 第 1 回：Unit 1 関係代名詞(1) 第 2 回：Unit 1 関係代名詞(1)					
第 2 週	第 3 回：Unit 2 関係代名詞(2) 第 4 回：Unit 2 関係代名詞(2)					
第 3 週	第 5 回：Unit 2 関係代名詞(2) 第 6 回：Unit 3 関係代名詞(3)					
第 4 週	第 7 回：Unit 3 関係代名詞(3) 第 8 回：Unit 4 関係代名詞(4)					
第 5 週	第 9 回：Unit 6 関係代名詞(6) 第 10 回：Unit 6 関係代名詞(6)					
第 6 週	第 11 回：Unit 6 関係代名詞(6) 第 12 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞					
第 7 週	第 13 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞					

	第 14 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞	
第 8 週	第 15 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞 第 16 回：中間テスト	
第 9 週	第 17 回：Unit 9 名詞構文 第 18 回：Unit 9 名詞構文	
第 10 週	第 19 回：Unit 10 強調構文・動詞の強調 第 20 回：Unit 10 強調構文・動詞の強調	
第 11 週	第 21 回：Unit 10 強調構文・動詞の強調 第 22 回：Unit 11 助動詞 + have + p.p.	
第 12 週	第 23 回：Unit 11 助動詞 + have + p.p. 第 24 回：Unit 12 仮定法(1)	
第 13 週	第 25 回：Unit 12 仮定法(1) 第 26 回：Unit 12 仮定法(1)	
第 14 週	第 27 回：Unit 13 仮定法(2) 第 28 回：Unit 14 仮定法(3)	
第 15 週	第 29 回：Unit 14 仮定法(3) 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE203-A51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅢ		3.単位数	1
4.授業担当教員	Ian Matthew Allensworth					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	的と概要 本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	TOEIC L&R 全パート・コースブック】 一歩上を目指す TOEIC? L&R TEST: Level 2 [二訂版] STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC? L&R TEST: Level 2 ?Intermediate? [2nd Edition] ISBN: 978-4-255-15737-5					
20.参考文献						
21.成績評価	単語 Quiz：60 点（5 点×12 回） Mid-term Test：20 点 Final Test：20 点					
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること（出版社からの直接購入）。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	Unit 1 Eating Out／文法：動詞（１）	
	Unit 2 Travel／文法：動詞（２）	
	Unit 3 Amusement／文法：品詞	
	Unit 4 Meetings／文法：分詞	
	Unit 5 Personnel／文法：不定詞と動名詞（１）	
	Unit 6 Shopping／文法：不定詞と動名詞（２）	
	Unit 7 Advertisement／文法：仮定法	
	Midterm Test	
	Unit 8 Daily Life／文法：受動態	
	Unit 9 Office Work／文法：代名詞	
	Unit 10 Business／文法：数量詞	
	Unit 11 Traffic／文法：接続詞	
	Unit 12 Finance and Banking／文法：前置詞	
	Unit 13 Media／文法：語彙	
	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE203-M51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅢ（2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 回生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、600 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R500 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	門山照彦他 A Communicative Approach to the TOEIC L&R Test Book 1（成美堂） ISBN978-4-7919-7252-4					
20.参考文献	適宜指示する					
21.成績評価	平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 初日の授業時に WEB 上で購入手続きを してもらうから、必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 将来就職に役立てるために、TOEIC の受験や高得点を取ることをまじめに考えている人向きの楽しい授業であり、同時に攻略法も指導します。よかったらぜひ受講してください。					
23.オフィスアワー	授業終了後教室で応じます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					

第 4 回	Unit 04	
第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE203-Y51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅢ		3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 学年以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力＋テスト知識」を以て TOEIC (R)L&R テストでのスコアアップを目指します。 概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く進め、その中で語彙への興味を高める工夫 や、問題を解く上での考え方に触れながら、スコアアップにつながる学習を目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。					
19.教科書・教材	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test [Level 500] (朝日出版社)					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	確認小テスト 30 点 (2L ユニット＋2R ユニット毎の小テスト) 授業参加点等の平常点 30 点 期末テスト 40 点					
22.コメント	・ 授業内で自発的に発言した場合は、授業態度参加度等に加点します。 ・ 特別に指示のあった場合を除いては、スマートフォンの使用を禁止します。 ・ 教科書を購入していない学生については、出席数が基準を越えていても評価点は不合格とし ます。 ・ この授業で使用する教科書は、本学の他の授業で使用している可能性があります。よく確認 し、もしすでに学習済みのものであれば、他の科目の履修を検討してください。 生成 AI 利用:条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。また、課題 については、以下の欄で授業回ごとに指定する。					
23.オフィスアワー	特に時間は指定しません。相談、質問がある場合は、py-kwon@kuins.ac.jp に連絡下さい。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit L-1, R-1					
第 2 回	Unit L-2, R-2					
第 3 回	Unit L-3, R-3			L-1,2 及び R-1,2 の確認小テスト		
第 4 回	Unit L-4, R-4					
第 5 回	Unit L-5, R-5			L-3,4 及び R-3,4 の確認小テスト		
第 6 回	Unit L-6,R-6					
第 7 回	Unit L-7, R-7			L-5,6 及び R-5,6 の確認小テスト		
第 8 回	Unit L-8, R-8					
第 9 回	Unit L-9, R-9			L-7,8 及び R-7,8 の確認小テスト		
第 10 回	Unit L-10, R-10					
第 11 回	Unit L-11, R-11			L-9,10 及び R-9,10 の確認小テスト		
第 12 回	Unit L-12, R-12					
第 13 回	Unit L-13, R-13			L-11,12 及び R-11,12 の確認小テスト		

第 14 回	Unit L-14, R-14	
第 15 回	期末テスト まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE210-Y81	2.科目名	リーディング・ライティング 4		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義ならびに演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	英語力を測るかなり正確な指標として評価が高い TOEIC(R) L&R TEST の公式問題集を使用し、 実際の問題への取り組み方、解答順序、正解へのたどり着き方など、実践的な演習を繰り返す 行う。 簡単にスコアを伸ばす方法は存在しないが、傾向と対策を正しく知ることによって 1)英語分野 に限らず一生役に立つ Test Taking Skills と、2)自分の英語力を正確にスコアに反映させるため の現実的な方策を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということ であり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やそ の地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付ける ことに直結するものである。					
19.教科書・教材	公式 TOEIC Listening &Reading TEST 問題集 10 (IIBC 刊)					
20.参考文献	授業中に必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	期末テスト 60 点 平常点 40 点（小テスト、授業参加姿勢など）					
22.コメント	・ 指定のテキストを購入することが受講の必須条件となります。 ・ 受講開始時の TOEIC スコアは問いませんが、アサインメントをしっかりとこなしてください。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 日目	ガイダンス 【TEST 1 使用】 Part1, 2 対策、Part5, 7（1 つの文 書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
2 日目	Part3, 4 対策、Part6, 7（複数文書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
3 日目	Part4 対策、Part6 対策 【TEST 2 使用】 Part1, 2 対策、Part5, 7（1 つの文 書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
4 日目	Part3, 4 対策、Part6, 7（複数文書）対策 期末考査					

1.授業コード (ナンバリング)	FLE308-Y51	2.科目名	エアライン実務英語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択の区分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3rd year	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture-discussion, presentation and exercises		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This course aims to develop students' English skills in airport ground staff roles as well as in-flight communication in the airline industry.					
18.学習目標と DPとの関連	1. The students will be able to develop confidence and competence in the use of the English language in hospitality roles. 2. Students will be able to communicate effectively and accurately with future colleagues and guests through role-play exercises, audio-visual materials and discussion in class. 3. The students will be able to have a grasp of the kind of hospitality that is required in the services provided by airlines.					
19.教科書・教材	Hospitality English (ANA Strategic Research Institute) Halico Creative Education 9784909730329					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities 30% 2.Group work, Speaking task and Presentation 20% 3. Midterm Task 20% 4. Final Task 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. Course Introduction Lesson Discussion: Ground Staff Unit 1: Ticketing for a Domestic Flight					
	In-class activity 2. Lesson Discussion: Ground Staff Unit 2: Domestic Flight Check-in					
	In-class activity 3. Lesson Discussion: Ground Staff					

	Unit 3: International Flight Check-in	
	In-class activity 4. Lesson Discussion: Ground Staff	
	In-class activity 5. Lesson Discussion: Ground Staff Unit 5: Assisting Transit Passengers	
	In-class activity 6. Lesson Discussion: Ground Staff Unit 6: Baggage Issues	
	In-class activity 7. Midterm Task Lesson Discussion: Cabin Attendants Unit 7: Welcome Aboard	
	8. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 8: Before Takeoff In-class activity	
	9. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 9: In-flight service In-class activity	
	10. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 10: In-flight Sales In-class activity	
	11. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 11: Passenger Care In-class activity	
	12. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 12: Before Landing In-class activity	
	Collaboration event	
	Final Task: Speaking Activity	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLK102-A51	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅱ (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学生 (現代社会学部生除く)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習 (うち 1 5 回分はオンデマンドで実施)	
16.履修制限	韓国語を入門から継続して学ぶ学生のためのクラスです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4. 異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ②日本文化と比較しながら韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% (学習目標の①④に対応) 総合テスト 50% (学習目標の①～④に対応)					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一歩でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあります。 ※※【火曜 3 限は教室にて対面授業／4 限はオンデマンド動画】※※					
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 ・第 1 課、第 2 課 総復習／ワークシート 【第 2 回】 第 3 課、第 4 課 総復習／ワークシート			・シラバスの確認 ・次回の授業までに 1 課から 4 課まで総復習すること		
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 第 5 課、第 6 課 総復習／ワークシート 【第 4 回】 第 7 課 総復習／ワークシート			・次回の授業までに 5 課から 7 課まで総復習すること		
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 第 8 課「日本語学校には行かないのですか」① 一用言の否定形と、意志や推量を表す表現を学ぶ／ワークシート 【第 6 回】			・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること		

	第 8 課「日本語学校には行かないのですか」② ー用言の否定形と、意志や推量を表す表現を学ぶ／ワークシート	
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 第 9 課「「マンドゥ」がお好きですか」① ー尊敬形の作り方を学ぶ／ワークシート 【第 8 回】 第 9 課「「マンドゥ」がお好きですか」② ー尊敬形の作り方を学ぶ／ワークシート	・ 尊敬形の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 第 10 課「秀民と一緒に一度来てください」① ー??体の終結語尾を学ぶ／ワークシート 【第 10 回】 第 10 課「秀民と一緒に一度来てください」② ー??体の終結語尾を学ぶ／ワークシート	・ ヘヨ体の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 第 11 課「来年の春にまた来たいです」① ー??用言の??体の終結語尾と、「～したい」の表現を学ぶ／ワークシート 【第 12 回】 第 11 課「来年の春にまた来たいです」② ー??用言の??体の終結語尾と、「～したい」の表現を学ぶ／ワークシート	・ ヘヨ体の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 第 12 課「ひとつくらいですか」① ー指定詞の??体と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート 【第 14 回】 第 12 課「ひとつくらいですか」② ー指定詞の??体と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート	・ ヘヨ体の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 第 13 課「ご両親へのおみやげは買いましたか」① ー用言の過去形を学ぶ／ワークシート 【第 16 回】 第 13 課「ご両親へのおみやげは買いましたか」② ー用言の過去形を学ぶ／ワークシート	・ 過去形の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 第 14 課「昨日地下鉄に乗っていました」① ー指定詞「??,??」の過去形と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート 【第 18 回】	・ 過去形の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

	第 1 4 課「昨日地下鉄に乗っていました」② ー指定詞「??,??」の過去形と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート	
【第 1 9 回】 【第 2 0 課】	【第 1 9 回】 第 1 5 課「お父さんはおいくつですか」① ー??体の尊敬形と、事実の確認や勧誘などを表す表現を学ぶ／ワークシート 【第 2 0 回】 第 1 5 課「お父さんはおいくつですか」② ー??体の尊敬形と、事実の確認や勧誘などを表す表現を学ぶ／ワークシート	・ 尊敬形の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 2 1 回】 【第 2 2 回】	【第 2 1 回】 第 1 6 課「今週の土曜日ですか」① ー「～です (か)」「～のようだ」の表現を学ぶ／ワークシート 【第 2 2 回】 第 1 6 課「今週の土曜日ですか」② ー「～です (か)」「～のようだ」の表現を学ぶ／ワークシート	・ 助詞のまとめ ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 2 3 回】 【第 2 4 回】	【第 2 3 回】 韓国語能力試験やハングル検定について① ー過去問を解く 【第 2 4 回】 韓国語能力試験やハングル検定について② ー過去問を解く	・ 総合練習
【第 2 5 回】 【第 2 6 回】	【第 2 5 回】 韓国語能力試験やハングル検定について③ ー過去問を解く 【第 2 6 回】 韓国語能力試験やハングル検定について④ ー過去問を解く	・ 総合練習
【第 2 7 回】 【第 2 8 回】	【第 2 7 回】 フリートーキング① ー今まで学んだ文法を使っの会話練習 【第 2 8 回】 フリートーキング② ー今まで学んだ文法を使っの会話練習	・ 総合練習
【第 2 9 回】 【第 3 0 回】	【第 2 9 回】 作文練習① ー今まで学んだ文法を使っの作文練習 【第 3 0 回】 作文練習②	・ 作文練習

	ー今まで学んだ文法を使っての作文練習	

1.授業コード (ナンバリング)	FLK102-M51	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅱ (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学生 (現代社会学部生除く)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習 (うち 1 5 回分はオンデマンドで実施、 うち 1 5 回分はオンライン(ZOOM)で実施)	
16.履修制限	韓国語を入門から継続して学ぶ学生のためのクラスです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の 3、多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1、修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4、異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ②日本文化と比較しながら韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% (学習目標の①④に対応) 総合テスト 50% (学習目標の①～④に対応)					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一步でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあります。 ※※【木曜 1 限はオンライン(ZOOM)授業／2 限はオンデマンド動画】※※					
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 ・第 1 課、第 2 課 総復習／ワークシート 【第 2 回】 第 3 課、第 4 課 総復習／ワークシート			・シラバスの確認 ・次回の授業までに 1 課から 4 課まで総復習すること		
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 第 5 課、第 6 課 総復習／ワークシート 【第 4 回】 第 7 課 総復習／ワークシート			・次回の授業までに 5 課から 7 課まで総復習すること		
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 第 8 課「日本語学校には行かないのですか」① 一用言の否定形と、意志や推量を表す表現を学ぶ／ワークシート			・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること		

	【第 6 回】 第 8 課「日本語学校には行かないのですか」② ー用言の否定形と、意志や推量を表す表現を学ぶ／ワークシート	
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 第 9 課「「マンドゥ」がお好きですか」① ー尊敬形の作り方を学ぶ／ワークシート 【第 8 回】 第 9 課「「マンドゥ」がお好きですか」② ー尊敬形の作り方を学ぶ／ワークシート	・尊敬形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 第 10 課「秀民と一緒に一度来てください」① ー??体の終結語尾を学ぶ／ワークシート 【第 10 回】 第 10 課「秀民と一緒に一度来てください」② ー??体の終結語尾を学ぶ／ワークシート	・ヘヨ体の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 第 11 課「来年の春にまた来たいです」① ー??用言の??体の終結語尾と、「～したい」の表現を学ぶ／ワークシート 【第 12 回】 第 11 課「来年の春にまた来たいです」② ー??用言の??体の終結語尾と、「～したい」の表現を学ぶ／ワークシート	・ヘヨ体の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 第 12 課「ひとつくらいですか」① ー指定詞の??体と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート 【第 14 回】 第 12 課「ひとつくらいですか」② ー指定詞の??体と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート	・ヘヨ体の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 第 13 課「ご両親へのおみやげは買いましたか」① ー用言の過去形を学ぶ／ワークシート 【第 16 回】 第 13 課「ご両親へのおみやげは買いましたか」② ー用言の過去形を学ぶ／ワークシート	・過去形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 第 14 課「昨日地下鉄に乗っていました」① ー指定詞「??,??」の過去形と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート	・過去形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

	【第 1 8 回】 第 1 4 課「昨日地下鉄に乗っていました」② ー指定詞「??,??」の過去形と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート	
【第 1 9 回】 【第 2 0 課】	【第 1 9 回】 第 1 5 課「お父さんはおいくつですか」① ー??体の尊敬形と、事実の確認や勧誘などを表す表現を学ぶ／ワークシート 【第 2 0 回】 第 1 5 課「お父さんはおいくつですか」② ー??体の尊敬形と、事実の確認や勧誘などを表す表現を学ぶ／ワークシート	・ 尊敬形の練習 ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 2 1 回】 【第 2 2 回】	【第 2 1 回】 第 1 6 課「今週の土曜日ですか」① ー「～です (か)」「～のようだ」の表現を学ぶ／ワークシート 【第 2 2 回】 第 1 6 課「今週の土曜日ですか」② ー「～です (か)」「～のようだ」の表現を学ぶ／ワークシート	・ 助詞のまとめ ・ 次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 2 3 回】 【第 2 4 回】	【第 2 3 回】 韓国語能力試験やハングル検定について① ー過去問を解く 【第 2 4 回】 韓国語能力試験やハングル検定について② ー過去問を解く	・ 総合練習
【第 2 5 回】 【第 2 6 回】	【第 2 5 回】 韓国語能力試験やハングル検定について③ ー過去問を解く 【第 2 6 回】 韓国語能力試験やハングル検定について④ ー過去問を解く	・ 総合練習
【第 2 7 回】 【第 2 8 回】	【第 2 7 回】 フリートーキング① ー今まで学んだ文法を使っの会話練習 【第 2 8 回】 フリートーキング② ー今まで学んだ文法を使っの会話練習	・ 総合練習
【第 2 9 回】 【第 3 0 回】	【第 2 9 回】 作文練習① ー今まで学んだ文法を使っの作文練習 【第 3 0 回】	・ 作文練習

	作文練習② ー今まで学んだ文法を使っの作文練習	

1.授業コード (ナンバリング)	FLK102-Y51	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学生（現代社会学部生除く）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習（うち 1 5 回分はオンデマンドで実施、 うち 1 5 回分はオンライン(ZOOM)で実施)		
16.履修制限	韓国語を入門から継続して学ぶ学生のためのクラスです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 3、多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1、修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4、異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ②日本文化と比較しながら韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パラッセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% （学習目標の①④に対応） 総合テスト 50% （学習目標の①～④に対応）					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一步でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあります。 ※※【木曜 1 限はオンライン(ZOOM)授業／ 2 限はオンデマンド動画】※※					
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 日本語との対照・比較を行いながら第 1 課、第 2 課 総復習／ワークシート 【第 2 回】 日本語との対照・比較を行いながら第 3 課、第 4 課 総復習／ワークシート			・ シラバスの確認 ・ 次回の授業までに 1 課から 4 課まで総復習すること		
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 日本語との対照・比較を行いながら第 5 課、第 6 課 総復習／ワークシート 【第 4 回】 日本語との対照・比較を行いながら第 7 課 総復習／ ワークシート			・ 次回の授業までに 5 課から 7 課まで総復習すること		

【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 第 8 課「日本語学校には行かないのですか」① ー用言の否定形と、意志や推量を表す表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 6 回】 第 8 課「日本語学校には行かないのですか」② ー用言の否定形と、意志や推量を表す表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 第 9 課「「マンドゥ」がお好きですか」① ー尊敬形の作り方を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 8 回】 第 9 課「「マンドゥ」がお好きですか」② ー尊敬形の作り方を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・尊敬形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 第 10 課「秀民と一緒に一度来てください」① ー??体の終結語尾を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 10 回】 第 10 課「秀民と一緒に一度来てください」② ー??体の終結語尾を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・ヘヨ体の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 第 11 課「来年の春にまた来たいです」① ー??用言の??体の終結語尾と、「～したい」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 12 回】 第 11 課「来年の春にまた来たいです」② ー??用言の??体の終結語尾と、「～したい」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・ヘヨ体の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 第 12 課「ひとついくらですか」① ー指定詞の??体と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 14 回】 第 12 課「ひとついくらですか」② ー指定詞の??体と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・ヘヨ体の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

	ークシート ー日本語との対照・比較を行う	
【第 1 5 回】 【第 1 6 回】	【第 1 5 回】 第 1 3 課「ご両親へのおみやげは買いましたか」① ー用言の過去形を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 1 6 回】 第 1 3 課「ご両親へのおみやげは買いましたか」② ー用言の過去形を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・過去形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 1 7 回】 【第 1 8 課】	【第 1 7 回】 第 1 4 課「昨日地下鉄に乗っていました」① ー指定詞「??,??」の過去形と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 1 8 回】 第 1 4 課「昨日地下鉄に乗っていました」② ー指定詞「??,??」の過去形と、「～して下さい」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・過去形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 1 9 回】 【第 2 0 課】	【第 1 9 回】 第 1 5 課「お父さんはおいくつですか」① ー??体の尊敬形と、事実の確認や勧誘などを表す表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 2 0 回】 第 1 5 課「お父さんはおいくつですか」② ー??体の尊敬形と、事実の確認や勧誘などを表す表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・尊敬形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 2 1 回】 【第 2 2 回】	【第 2 1 回】 第 1 6 課「今週の土曜日ですか」① ー「～です（か）」「～のようだ」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う 【第 2 2 回】 第 1 6 課「今週の土曜日ですか」② ー「～です（か）」「～のようだ」の表現を学ぶ／ワークシート ー日本語との対照・比較を行う	・助詞のまとめ ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 2 3 回】 【第 2 4 回】	【第 2 3 回】 韓国語能力試験やハングル検定について① ー過去問を解く	・総合練習

	【第 2 4 回】 韓国語能力試験やハングル検定について② ー過去問を解く	
【第 2 5 回】 【第 2 6 回】	【第 2 5 回】 韓国語能力試験やハングル検定について③ ー過去問を解く 【第 2 6 回】 韓国語能力試験やハングル検定について④ ー過去問を解く	・ 総合練習
【第 2 7 回】 【第 2 8 回】	【第 2 7 回】 フリートーカーキング① ー今まで学んだ文法を使っの会話練習 【第 2 8 回】 フリートーカーキング② ー今まで学んだ文法を使っの会話練習	・ 総合練習
【第 2 9 回】 【第 3 0 回】	【第 2 9 回】 作文練習① ー今まで学んだ文法を使っの作文練習 【第 3 0 回】 作文練習② ー今まで学んだ文法を使っの作文練習	・ 作文練習

1.授業コード (ナンバリング)	FOD306-Y51	2.科目名	フードビジネス論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科の専門科目ですが、他学科他学部の学生さんを歓迎します。			9.履修学年	2～3 回生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本の食品製造業は 30 兆円以上、外食産業は 21 兆円、自動車産業の 15 兆円、観光産業 11 兆円を凌ぐ市場規模に達しています（2018 年）。そのビジネス形態は今も多様に変化しています。消費者と直接接するため現代社会の変化を反映し、国民の日々の生活を支えています。そしてフードビジネスは自動車や電子産業同様に世界に進出し、和食の国際化の立役者でもあります。授業では、フードビジネスを経済・経学の観点から概観し、その社会的特徴を理解することで、観光資源としての可能性を探ります。 また、フードビジネス業界で成功を収めた数々の企業を具体的に見ていくことで、今後も発展が期待されるフードビジネスを通じた和食文化の発信を考える手がかりを探ります。日本を訪れるインバウンドにとってのフードツーリズムを知るために日本の食文化とビジネスを学びます。 授業の後半では、イタリアとフランスを取り上げ、世界のフードツーリズムの最先端事例を知ります。その様子と、今日本で導入が進むフードツーリズムを比較しながら、近未来の観光の形を探ります。					
18.学習目標と DP との関連	【本科目の学習目標】 日本と世界の「フードビジネス」の全体像を知る。その歴史、関連産業分野への広がりを知り、食品加工業と外食産業を理解する。また、観光との関係で、フードツーリズム、エノガストロノミー、アグリツーリズム、スローフードなどを知る。ディプロマポリシーの「社会的貢献性」「多様性理解」に沿って産業界とその世界的広がりについて充実した内容を学ぶ。これらのキーワードを説明できることが目標です。 【DP（ディプロマ・ポリシー）に関連】 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配布します。参考になる本は、授業の中で紹介します。その一つが、茂木友三郎「キッコーマンのグローバル経営-日本の食文化を世界に-」生産性出版です。その他、宗田の著作をその都度紹介します。					
20.参考文献	宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020					
21.成績評価	出席点と、授業の際に課すレポート、最終レポートで評価し、期末試験はしない予定です。					
22.コメント						

23.オフィスアワー		火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース (研究室/3-308)
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 10 月 2 日：フードビジネスとは何か	ガイダンス：授業内容の説明、食品ビジネスを学ぶ社会的背景と現代的な課題、近年の日本の食品ビジネスの成長とその発展段階、その市場拡大を農業、水産業との比較から考えていきます。観光学科では、世界のフードビジネスも学びます。観光に出かけると食文化は大きな魅力、お土産にも食材は人気です。外食産業を知り、フードツーリズムを学びます。	事前学習：皆さんの好きな食品メーカーを 10 社上げて下さい。 アサインメント：海外で楽しみたい食は何ですか？
第 2 回 10 月 9 日：食品ビジネスの歴史	食品ビジネスの歴史：食品ビジネスの背景には、とても長い日本の加工食品業界の歴史があります。それは日本の食文化と密接に結びつき、地域性があります。醤油や味噌、酒には産地があります。この授業では、日本と世界の食文化を知り、近代史から見た食品ビジネスを学び、高度経済成長前後の食生活の変化の中で、日本の食品ビジネスが世界に展開した様子を学びます。	事前学習：味噌と醤油の産地を調べて下さい。 アサインメント：キッコーマンのホームページから海外の製造拠点を調べて下さい。
第 3 回 10 月 16 日：世界のフードビジネス	日本ではキッコーマンが世界的に知られるフードビジネス界の代表選手です。世界にはもっと大きく有名な会社があります。ネスレとかユニリーバなどです。そこで世界のフード・システムを見て、世界の食産業の様子を知り、多様な世界の食ビジネスの国際比較が今日のお話しです。	事前学習：海外の食品メーカーの名前を上げて下さい。 アサインメント：ネスレの商品で皆さんが使ったことのあるものを調べて下さい。
第 4 回 10 月 23 日：フードチェーンの展開	今や、世界の流通システムは巨大化し、欧米先進国や日本は密接に繋がれ、ローカルフードよりもはるかに多くの輸入食品を、我々は消費しています。その食の国際化を可能にした「フードチェーン」の展開のお話です。ロジスティクスとは輸送のこと、どんなに遠くでも少しでも安い方法で確実に届ける仕組みのことです。それがとグローバル化したことでフードビジネスは巨大化しました。日本の食品企業、外食産業もありますが、この世界戦略が得意です。	事前学習：神戸港は日本を代表する港です。どんな海外の食材が輸入されているか調べて下さい。 アサインメント：コンテナ船の大きさを調べて下さい。
第 5 回 10 月 30 日：食生活の変化とフードビジネス	日本人の食生活は大きく変化しました。そのため、フードビジネスでは加工食品を次々と開発し、インスタント食品は大規模化しました。レトルトもコンビニ弁当も、調理品だけでなく菓子類も工場で作られます。このビジネスがどう発展してきたかを知るお話です。前回お話ししたロジスティクスの発達とともに、大量に生産された多様な食品が遠くまで運ばれることで、フードビジネスの市場は拡大、この変化を予測する術を持っていた会社が成功しました。キッコーマンなど有名企業の市場調査手法を紹介します。	アサインメント：冷蔵庫に入っている食品で海外で作られたものを調べてみて下さい。
第 6 回 11 月 6 日：ファストフードの発達と世界展開力	フードビジネスの中でもファストフード業界は最大のもので、マクドナルドが有名です。ファストフードが巨大化した現代社会を捉え、フードビジネスが急拡大しました。これまで述べたロジスティクスの発展が重要ですが、この発展拡大により、社会がどう変わり、我々の食生活がどう変わったかをみます。我々の社会	アサインメント：マクドナルドがどこでどう作られているか、調べてみて下さい。

	がフードビジネスに取り込まれたとも思えるから、これをファストフード化と呼びます。それに反対する人々が始めたのが、スローフード運動です。ファストとスローの近いからフードビジネスを考えます。	
第7回 11月13日：もう一つ巨大化したファミレス業界	ファミレス（ファミリーレストラン）は都市化とともに発展した産業です。アメリカで始まり、日本で大規模化しました。巨大化したフードビジネスの中心的存在です。東京郊外の保谷市（西東京市）のひばりが丘団地のスーパーマーケットが開いたレストラン「すかいらく」は数々の名前です。いろいろな料理を売っています。和食もあれば回転ずし、イタリアンもフレンチもあります。このビジネスモデルはインバウンドにも大人気です。この日本固有の業界を学びます。	事前学習：知っているファミレスの名前を上げて下さい。 アサイメント：セントラルキッチン方式、POS システムなどのお話を復習しておいて下さい。就活にも役立ちます。
第8回 11月20日：飲食業界の全体像を知る	ファストフードとファミレス以外にも飲食業は広がっています。飲食は昔から続く伝統的な業種、零細な個人企業のまま残ったお店が多くあります。ただその9割が短命に終わります。「飲食店はなぜ1年でつぶれるのか」を知り、フードビジネスの経営の側面を見ていきます。 一方、和食文化への関心の高まりから、京都などでは老舗料亭がしっかりと生き残っています。伝統的な食文化を守っているようで、かなり現代的な経営をしています。そして、インバウンドに大人気です。伝統と革新、大企業と零細な事業所、その対比の中でフードビジネスの特殊事情	アサイメント：飲食店を開業しようと思った時に、何が必要か書き出してみして下さい。
第9回 11月27日：世界の食文化と飲食業界	これまで日本を中心にフードビジネスのお話しをしてきましたが、今回から海外に目を向けます。食文化は多様で、フードビジネスの発展の様子もだいぶ違います。すでに紹介した世界でも有名な食品企業はありますが、外食産業の様子は十分違います。マクドナルドの出店を嫌いファストフード化を否定、スローフード運動を世界に広めたイタリアや、伝統的食文化を守る美食の国フランスなど、固有のフードビジネスを成功させている国のお話しをします。	事前学習：フランスとイタリアの料理を上げて下さい。 アサイメント：今日話に出た外国に関心のある食材、飲食店を上げて下さい。
第10回 12月4日：イタリアのスローフード	1986年に始まったスローフード運動は、イタリアのトリノの郊外ブレに食科学大学を開設し、世界的巨大フードビジネスに対抗しようとしています。スローフードは世界各地に広がり、スローでローカルな食文化を守っています。これは、ガストロノミー観光には魅力です。フードツーリズムも美食だけでなく、スローに健康に美容に、そして環境保全にという展開が起こるからです。有機食材や無農薬の動きも盛んです。イタリアでスローフードがどう広がったかをお話しします。	事前学習：スローフードを知らべて下さい。 アサイメント：オーガニック食品をリストにして下さい。
第11回 12月11日：イタリアのアグリツーリズムとフードビジネス	イタリアにはスローフード以前からアグリツーリズムがあります。農村に行き取れたての食材を楽しむ、農家民宿に泊まる余暇の過ごし方です。農村観光と言われるスタイルで、同時にフードツーリズム、食とワインが人気の秘密です。イタリアの他にもフランスで	事前学習：農村観光をホームページで検索してください。 アサイメント：オーベルジュについて調べて下さい。泊ったことがある人は感想を述べて下さい。

	はグリーンツーリズム、ドイツでは農家民宿、イギリスではB & Bとしてそれぞれ人気のスタイルを持っています。でも日本ではなかなか発達しません。小さいながらローカルな食文化を守る体制の違いを学びます。	
第12回 12月18日：フランスのガストロノミーと美酒美食観光	イタリア以上に美食文化の国がフランス、イタリアもエノガストロノミー観光ではフランスから大いに学んでいます。フランスでは、有名なワイン産地にブルゴーニュ、ボルドー、シャンパーニュ地方があり、それぞれの農村景観が世界文化遺産に登録されており、世界から美酒と美食を求める裕福な観光客を集めています。そこには世界有数のワイナリーがあり、LVMH社系列の世界ブランドのフードビジネス企業が揃っています。このフランス独特のビジネスモデルを学び、フードと観光ビジネスの未来を探ります。	アサイメント：少しワインに詳しくなりましょう。フランスのワイン産地を5つ、イタリアの産地を3つ挙げて、その特色を述べて下さい。
第13回 1月8日：日本のフードツーリズム	もう少し世界をみようと、アメリカのナババレー、スコットランドのウィスキーツアーの話を続けます。この他にも紹介したい国や地域はありますが、日本のフードツーリズムの話に移ります。日本には巨大化したフードビジネスがあるだけでなく、フードツーリズムに取り組む地域があります。京都が輸産名ですが、兵庫テロアール、食の創造都市・鶴岡、そして美酒の国新潟などです。和食のユネスコ無形遺産登録を受け、食文化は登録無形文化財にもなりました。各地に地産地消のオーガニックレストランが増えています。小さなフードビジネスの起こし方を学	事前学習：知っているスコッチ・ウィスキーのブランド名を上げて下さい。 アサイメント：日本国内の食文化観光地を上げて下さい。
第14回 1月15日：フードビジネスの未来、グローバル化する食文化と観光	こうして、フードビジネスは様々な形に成長してきました。その未来は洋々とし、皆さんが活躍を待っています。一方、食文化はグローバル化し、日本を訪れるインバウンドの最大の楽しみは日本の食文化にあるといえます。実際、今は世界に20万店もの日本食店があり、欧米先進国の食品スーパーには普通にお寿司や握り飯が並んでいます。授業を締めくくる前に、未来の食生活と未来のフードビジネス、フードツーリズムを予測するデータをお見せし、一緒に考えていきます。	アサイメント：皆さんが就職したいと思うような企業は見つかりましたか？もしあれば一つ上げて下さい。
第15回 1月22日：フードビジネスへの就活、何を用意するか	これまでの授業を振り返り、身につけて欲しい重要なポイントを整理します。フードビジネスは30兆円を超える産業、自動車産業の2倍、観光産業の3倍あります。つまり、求人数もそれだけ多いのです。ただ、自動車産業と違い大手が多いわけではなく、ローカルな零細企業ばかりですが、中にはキッコーマンやサントリーなど世界展開する企業もあり、国際的な人材を求めています。最後に就活に役立つ知識を総ざらいします。	最終回のまとめのレポート課題をお示しします。

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A51	2.科目名	基礎演習（教育福祉 1/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているコーオプ・プログラム／サービスラーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・ 指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・ 選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・ 収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、設定された小					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、設定された小テーマについて、インターンシップ/サービスラーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・ 基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認 ・ ゼミアワー			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・ 指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要			○文献要約ワークシート（60）		

	約	
【第 3 回】	リーディングと要約② ・ 指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1 番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第 4 回】	リーディングと要約③ ・ 指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ ワークシートの内容を相互レビューする ・ 学内の情報検索ツールの活用方法について確認する	○文献要約ワークシート（60）
【第 5 回】	文献検索と文献入手 ・ 学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・ 「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、グループごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・ キーワードを用いて文献検索する ・ 本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した 3 つの文献を入手する	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2 番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を 3 つ選定してくる（60）
【第 6 回】	リーディングと要約① ・ 選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1 番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第 7 回】	リーディングと要約② ・ 選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2 番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第 8 回】	グループプレゼンテーション準備① ・ 選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3 番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第 9 回】	グループプレゼンテーション準備② ・ プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第 10 回】	グループプレゼンテーション ・ 抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60 分）
【第 11 回】	アカデミックライティング① ・ プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題 3】レポートの執筆（90）
【第 12 回】	アカデミックライティング②	○【課題 3】レポートの執筆（90）

	・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	
【第 13 回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題 3】 レポートの執筆 (90)
【第 14 回】	まとめ① ・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと 1 年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	★提出：【課題 3】 レポート ○【課題 4】 アクションプランシートの作成
【第 15 回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び 2 年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題 4】 アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A52	2.科目名	基礎演習（教育福祉 2/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているインターンシップ／サービslラーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習（IS/SL）との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマについて、インターンシップ/サービslラーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。 生成 AI の利用については、その都度指示する。					
23.オフィスアワー	月曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要			○文献要約ワークシート（60）		

	約	
【第 3 回】	リーディングと要約② ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1 番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第 4 回】	文献検索と文献入手 ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・キーワードを用いて文献検索する ・本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した 3 つの文献を入手する	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2 番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を 3 つ選定してくる（60）
【第 5 回】	リーディングと要約① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	○文献要約ワークシート（60）
【第 6 回】	リーディングと要約② ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1 番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第 7 回】	リーディングと要約③ ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2 番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第 8 回】	グループプレゼンテーション準備① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題 1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3 番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第 9 回】	グループプレゼンテーション準備② ・プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第 10 回】	グループプレゼンテーション ・抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60 分）
【第 11 回】	アカデミックライティング① ・プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題 3】レポートの執筆（90）
【第 12 回】	アカデミックライティング② ・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	○【課題 3】レポートの執筆（90）
【第 13 回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題 3】レポートの執筆（90）

【第 14 回】	まとめ① ・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと 1 年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	★提出：【課題 3】 レポート ○【課題 4】 アクションプランシートの作成
【第 15 回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び 2 年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題 4】 アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A53	2.科目名	基礎演習（教育福祉 3/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているコーオプ・プログラム／サービ斯拉ーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、設定された小					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、設定された小テーマについて、インターンシップ/サービ斯拉ーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。					
23.オフィスアワー	木曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認 ・ゼミアワー			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要			○文献要約ワークシート（60）		

	約	
【第3回】	リーディングと要約② ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第4回】	リーディングと要約③ ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する	○文献要約ワークシート（60）
【第5回】	文献検索と文献入手 ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、グループごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・キーワードを用いて文献検索する ・本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した3つの文献を入手する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を3つ選定してくる（60）
【第6回】	リーディングと要約① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第7回】	リーディングと要約② ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第8回】	グループプレゼンテーション準備① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第9回】	グループプレゼンテーション準備② ・プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第10回】	グループプレゼンテーション ・抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60分）
【第11回】	アカデミックライティング① ・プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第12回】	アカデミックライティング② ・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	○【課題3】レポートの執筆（90）

【第13回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第14回】	まとめ① ・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと1年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	★提出：【課題3】レポート ○【課題4】アクションプランシートの作成
【第15回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び2年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題4】アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A54	2.科目名	基礎演習（教育福祉 4/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているインターンシップ／サービslラーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習（IS/SL）との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマについて、インターンシップ/サービslラーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。					
23.オフィスアワー	火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約			○文献要約ワークシート（60）		

【第3回】	リーディングと要約② ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第4回】	文献検索と文献入手 ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・キーワードを用いて文献検索する ・本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した3つの文献を入手する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を3つ選定してくる（60）
【第5回】	リーディングと要約① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	○文献要約ワークシート（60）
【第6回】	リーディングと要約② ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第7回】	リーディングと要約③ ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第8回】	グループプレゼンテーション準備① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第9回】	グループプレゼンテーション準備② ・プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第10回】	グループプレゼンテーション ・抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60分）
【第11回】	アカデミックライティング① ・プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第12回】	アカデミックライティング② ・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第13回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第14回】	まとめ①	★提出：【課題3】レポート

	・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと1年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	○【課題4】アクションプランシートの作成
【第15回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び2年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題4】アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A57	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 2/8）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	越山泰子																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td></td><td>2 回×5 点</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td></td><td>2 回×5 点</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">（個人貢献度 加算）</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書		2 回×5 点	10 点	・キャリア授業レポート		2 回×5 点	10 点	・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書		2 回×5 点	10 点																															
・キャリア授業レポート		2 回×5 点	10 点																															
・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														
第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート																														

	の説明) ・リーディング①「勉強する気・・・」1章	600字以上（字数厳守） ・KUISドリル
第2回	・リーディング②「勉強する気・・・」2章	・宿題 2章を読んで考えたことをレポート 600字以上（字数厳守） ・KUISドリル
第3回	・リーディング③「勉強する気・・・」3章	・宿題 3章を読んで考えたことをレポート 600字以上（字数厳守） ・KUISドリル
第4回	・リーディング④「勉強する気・・・」4章	・宿題 4章を読んで考えたことをレポート 600字以上（字数厳守） ・KUISドリル
第5回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500字以上（字数厳守 章立てして作る） 締切は第7回前日 ・KUISドリル
第6回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6章	・中間レポートに取り組む ・KUISドリル
第7回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUISドリル
第8回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUISドリル
第9回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUISドリル
第10回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUISドリル
第11回	・PBL グループワーク 課題について11回から14回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUISドリル
第12回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成 ・グループ単位で評価（個人貢献度は加算）	・宿題 最終レポート 「関西国際大学のPRを作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を1000字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第15回前日 ・KUISドリル
第13回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500字以上) ・最終レポートに取り組む

		・ KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・ 最終レポートに取り組む ・ ePF 記事投稿に取り組む ・ KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・ 各ゼミ 1 グループ× 6 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A59	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 4/8）		3.単位数	1																					
4.授業担当教員	陳那森																										
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期																						
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																						
10.取得資格の要件				11.先修条件																							
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																						
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																						
16.履修制限																											
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1、2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																										
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																										
19.教科書・教材	適宜指示する																										
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																										
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章 4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td>（個人貢献度 加算）</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="2">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章 4 回×5 点	20 点	・中間レポート		15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点	10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点	10 点	・グループ PPT	（個人貢献度 加算）	15 点	・最終レポート		15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎	
・リーディングレポート	1～4 章 4 回×5 点	20 点																									
・中間レポート		15 点																									
・ビジネス文書	2 回×5 点	10 点																									
・キャリア授業レポート	2 回×5 点	10 点																									
・グループ PPT	（個人貢献度 加算）	15 点																									
・最終レポート		15 点																									
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																										
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																										
23.オフィスアワー																											
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																							
第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート																							

	の説明) ・リーディング①「勉強する気・・・」1章	600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2章	・宿題 2章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3章	・宿題 3章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4章	・宿題 4章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上 (字数厳守 章立てして作る) 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成 ・グループ単位で評価 (個人貢献度は加算)	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1000 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500 字以上) ・最終レポートに取り組む

		・ KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・ 最終レポートに取り組む ・ ePF 記事投稿に取り組む ・ KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・ 各ゼミ 1 グループ× 6 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A60	2.科目名	基礎演習 (経営尼崎 5/8)		3.単位数	1
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	制限なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	基礎演習とは、秋期までに主として下記の英語のテキストを利用してアジア経営論の基礎知識を重点的に身につけられるようにする。 続いて各自に関心のあるテーマを選んで報告を行ってもらい質疑・討論を行なう。基礎演習秋期は国際マネジメント演習の準備過程としての意味をも持っているので討論の仕方についても訓練を行なえるようにしたい。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は DP (ディプロマ・ポリシー) の(3)多様性理解(4)問題発見・解決力に関連しています。 学習目標： アジアの主要な国や地域の特性を理解できる。 アジアマーケティングの基礎を理解し、国や地域にあうビジネス提案ができる。					
19.教科書・教材	資料配布。					
20.参考文献	新聞、ビジネス関係雑誌、日本語新聞、英字新聞、DVD など。特に、必要に応じてプリントを配る。					
21.成績評価	レポート (80%)・授業態度 (20%)					
22.コメント	本学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションする授業展開を目指します。スライドの配布はしません。 マーケティングに関心を持ち学習意欲のある学生の受講を希望します。私語をしない、携帯電話は使用しない (メールや時計利用も含む)、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しない、ルールの厳守。					
23.オフィスアワー	?曜?昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、学習?標と評価?法の確認等			PC 持参		
第 2 回	英語テストを使用して経営・経済用語 (英語、日本語)			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 3 回	英語テストを使用して経営・経済用語 (英語、日本語)			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 4 回	英語テストを使用して経営・経済用語 (英語、日本語)			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 5 回	英語テストを使用して経営・経済用語 (英語、日本語)			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 6 回	アジア諸国の紹介とアジアの経済・経営について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 7 回	アジア諸国の紹介とアジアの経済・経営について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 8 回	アジア諸国の紹介とアジアの経済・経営について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 9 回	アジア諸国の紹介とアジアの経済・経営について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 10 回	東南アジア諸国の経営と問題について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 11 回	東南アジア諸国の経営と問題について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 12 回	南アジア諸国の経営と問題について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 13 回	南アジア諸国の経営と問題について			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		

第 14 回	南アジア諸国の経営と問題について	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 15 回	まとめ	レポート作成・提出

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A61	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 6/8）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	橘セツ																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">（個人貢献度 加算）</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点	・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点																															
・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点																															
・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参 ?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														

第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ・リーディング①「勉強する気・・・」1 章	・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2 章	・宿題 2 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3 章	・宿題 3 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4 章	・宿題 4 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5 章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上（字数厳守 章立てして作る） 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6 章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成・・・グループ単位で評価（個人貢献度は加算）	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1 0 0 0 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500 字以上)

		・最終レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・最終レポートに取り組む ・ePF 記事投稿に取り組む ・KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・各ゼミ 1 グループ× 6 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・授業の振り返り ・最終授業アンケート	・授業を振り返る ・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A63	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 8/8）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	大西洋史																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">（個人貢献度 加算）</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点	・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点																															
・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点																															
・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														

第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ・リーディング①「勉強する気・・・」1 章	・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2 章	・宿題 2 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3 章	・宿題 3 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4 章	・宿題 4 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5 章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上（字数厳守 章立てして作る） 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6 章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成 ・グループ単位で評価（個人貢献度は加算）	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1 0 0 0 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500 字以上)

		・最終レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・最終レポートに取り組む ・ePF 記事投稿に取り組む ・KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・各ゼミ 2 グループ× 4 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・授業の振り返り ・最終授業アンケート	・授業を振り返る ・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-M51	2.科目名	基礎演習（三木経営）		3.単位数	1												
4.授業担当教員	浮田泉																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～													
10.取得資格の要件				11.先修条件														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習													
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする。 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 更には、最終レポートに向けて、「研究課題の設定とアーギュメントを作ること」「先行研究を読んで引用すること」「パラグラフ・ライティングができること」、そして「イントロダクションを書くこと」などを学び、卒論に向けてのアカデミックライティングの素地を身に付けることを目的とする。																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																	
19.教科書・教材	適宜指示する																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書. 阿部幸大. 2024. 光文社. ○kuiss ドリル																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート 1～6 章 6 回×5 点</td><td>30 点</td></tr><tr><td>・中間レポート（1500 字程度）</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・PPT プレゼンテーション</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・最終レポート（2000 字程度）</td><td>30 点</td></tr><tr><td>・KUISs ドリル SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎」</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア支援の講義後の e-Portfolio への記事投稿</td><td>5 点</td></tr></table>						・リーディングレポート 1～6 章 6 回×5 点	30 点	・中間レポート（1500 字程度）	15 点	・PPT プレゼンテーション	10 点	・最終レポート（2000 字程度）	30 点	・KUISs ドリル SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎」	10 点	・キャリア支援の講義後の e-Portfolio への記事投稿	5 点
・リーディングレポート 1～6 章 6 回×5 点	30 点																	
・中間レポート（1500 字程度）	15 点																	
・PPT プレゼンテーション	10 点																	
・最終レポート（2000 字程度）	30 点																	
・KUISs ドリル SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎」	10 点																	
・キャリア支援の講義後の e-Portfolio への記事投稿	5 点																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。																	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜 3 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜 4 限																	
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
第 1 回 (10/3)	・「初年次セミナー」の振り返り ・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・ KUISs ドリル ・「勉強する気はなぜ起こらないのか」第 1 章														

	の説明)	を読む ・中間レポートについて周知する。 中間レポート「これまでの勉強に対する姿勢とやる気を振り返り、今後の学習行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上（字数厳守 章立てして作る） 締切は第 9 回前日
第 2 回 (10/10)	・リーディング①「勉強する気・・・」1 章	・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・2 章の下読み ・KUISs ドリル
第 3 回(10/17)	・リーディング②「勉強する気・・・」2 章	・宿題 2 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・3 章の下読み ・KUISs ドリル
第 4 回(10/24)	・リーディング③「勉強する気・・・」3 章	・宿題 3 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・4 章下読み ・KUISs ドリル
第 5 回(10/31)	・リーディング④「勉強する気・・・」4 章	宿題 4 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・5 章下読み ・KUISs ドリル
第 6 回(11/7)	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5 章	宿題 5 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・6 章下読み ・KUISs ドリル
第 7 回(11/14)	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6 章	宿題 6 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUISs ドリル
第 8 回(11/21)	・キャリア授業 ・キャリア支援課から講話予定	・課題 キャリア支援課の講義を聞いて分かったことをもとに、自分の将来のキャリアについて 500 字程度でまとめて e-Portfolio の記事投稿をする。 ・KUISs ドリル
第 9 回(11/28)	・中間レポート提出の確認 ・最終レポートのガイダンス ・最終レポート執筆に向けて「問いを立てアーギュメントを作る」	・最終レポートに向けて「問い」を立て、アーギュメントを作る ・KUISs ドリル
第 10 回(12/5)	・最終レポート執筆に向けて「先行研究を読み、引用する」 ・KUISs ドリル	・最終課題に向けて「自分の問いに関連する先行研究を 3 つ探して読み始める」 ・KUISs ドリル
第 11 回 (12/12)	・最終レポートに向けて「パラグラフを作る」 KUISs ドリル	・最終課題に向けて「自分の問いに関連する先行研究を 3 つ探して読み始める」

		・ KUISs ドリル
第 12 回 (12/19)	・ 最終レポートに向けて「イントロダクションを書く」 ・ KUISs ドリル	・ 最終レポート 「イントロダクションを書く」 ・ PPT プレゼンテーションの準備 ・ KUISs ドリル
第 13 回(1/10)	・ 最終報告レポート中間発表 (PPT プレゼンテーション)	・ 最終レポートに取り組む ・ PPT プレゼンテーションの準備 ・ KUISs ドリル
第 14 回(1/17)	・ 最終報告レポート中間発表 (PPT プレゼンテーション)	・ 最終レポートに取り組む ・ KUISs ドリル
第 15 回(1/24)	・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUISs ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-M54	2.科目名	基礎演習（三木経営）		3.単位数	1												
4.授業担当教員	北村浩二																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～													
10.取得資格の要件				11.先修条件														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習													
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 更には、最終レポートに向けて、「研究課題の設定とアーギュメントを作ること」「先行研究を読んで引用すること」「パラグラフ・ライティングができること」、そして「イントロダクションを書くこと」などを学び、卒論に向けてのアカデミックライティングの素地を身に付けることを目的とする。																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																	
19.教科書・教材	適宜指示する																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書. 阿部幸大. 2024. 光文社. ○kuiss ドリル																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート 1～6 章 6 回×5 点</td><td>30 点</td></tr><tr><td>・中間レポート（1500 字程度）</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・PPT プレゼンテーション</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・最終レポート（2000 字程度）</td><td>30 点</td></tr><tr><td>・KUISs ドリル SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎」</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア支援の講義後の e-Portfolio への記事投稿</td><td>5 点</td></tr></table>						・リーディングレポート 1～6 章 6 回×5 点	30 点	・中間レポート（1500 字程度）	15 点	・PPT プレゼンテーション	10 点	・最終レポート（2000 字程度）	30 点	・KUISs ドリル SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎」	10 点	・キャリア支援の講義後の e-Portfolio への記事投稿	5 点
・リーディングレポート 1～6 章 6 回×5 点	30 点																	
・中間レポート（1500 字程度）	15 点																	
・PPT プレゼンテーション	10 点																	
・最終レポート（2000 字程度）	30 点																	
・KUISs ドリル SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎」	10 点																	
・キャリア支援の講義後の e-Portfolio への記事投稿	5 点																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参 生成 AI の使用を認める。																	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火昼休み（学修支援室） 研究室オフィスアワー：木昼休み（4 号館 5 階 29 室）																	
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
第 1 回 (10/3)	・「初年次セミナー」の振り返り ・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・ KUISs ドリル ・「勉強する気はなぜ起こらないのか」第 1 章														

	の説明)	を読む ・ 中間レポートについて周知する。 中間レポート「これまでの勉強に対する姿勢とやる気を振り返り、今後の学習行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上（字数厳守 章立てして作る） 締切は第 9 回前日
第 2 回 (10/10)	・ リーディング①「「勉強する気・・・」 1 章	・ 宿題 1 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・ 2 章の下読み ・ KUISs ドリル
第 3 回 (10/17)	・ リーディング②「勉強する気・・・」 2 章	・ 宿題 2 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・ 3 章の下読み ・ KUISs ドリル
第 4 回 (10/24)	・ リーディング③「勉強する気・・・」 3 章	・ 宿題 3 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・ 4 章下読み ・ KUISs ドリル
第 5 回 (10/31)	・ リーディング④「勉強する気・・・」 4 章	- 宿題 4 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・ 5 章下読み ・ KUISs ドリル
第 6 回 (11/7)	・ リーディング⑤「勉強する気・・・」 5 章	- 宿題 5 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・ 6 章下読み ・ KUISs ドリル
第 7 回 (11/14)	・ リーディング⑥「勉強する気・・・」 6 章	- 宿題 6 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・ KUISs ドリル
第 8 回 (11/21)	・ キャリア授業 ・ キャリア支援課から講話予定	・ 課題 キャリア支援課の講義を聞いて分かったことをもとに、自分の将来のキャリアについて 500 字程度でまとめて e-Portfolio の記事投稿をする。 ・ KUISs ドリル
第 9 回 (11/28)	・ 中間レポート提出の確認 ・ 最終レポートのガイダンス ・ 最終レポート執筆に向けて「問いを立てアーギュメントを作る」	・ 最終レポートに向けて「問い」を立て、アーギュメントを作る ・ KUISs ドリル
第 10 回 (12/5)	・ 最終レポート執筆に向けて「先行研究を読み、引用する」 ・ KUISs ドリル	・ 最終課題に向けて「自分の問いに関連する先行研究を 3 つ探して読み始める」 ・ KUISs ドリル
第 11 回 (12/12)	・ 最終レポートに向けて「パラグラフを作る」 KUISs ドリル	・ 最終課題に向けて「自分の問いに関連する先行研究を 3 つ探して読み始める」

		・ KUISs ドリル
第 12 回 (12/19)	・ 最終レポートに向けて「イントロダクションを書く」 ・ KUISs ドリル	・ 最終レポート 「イントロダクションを書く」 ・ PPT プレゼンテーションの準備 ・ KUISs ドリル
第 13 回 (1/9)	・ 最終報告レポート中間発表 (PPT プレゼンテーション)	・ 最終レポートに取り組む ・ PPT プレゼンテーションの準備 ・ KUISs ドリル
第 14 回 (1/16)	・ 最終報告レポート中間発表 (PPT プレゼンテーション)	・ 最終レポートに取り組む ・ KUISs ドリル
第 15 回 (1/23)	・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUISs ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y56	2.科目名	基礎演習 (社会 1)		3.単位数	1
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、春学期の「初年次セミナー」「学習技術」をふまえ、2 年生以降の専門的な科目を積極的に学修するために必要なレポート作成のスキルを身につけることが目的です。具体的には、「説明文型のレポート」と「考察型のレポート」の書き方を学びます。 また、大学の特徴や課題を発見するためのグループワークをおこない、他者と協働する姿勢と自分の意見を展開するための力を身につけます。 さらに、秋学期の学修の振り返りながら、将来に向けた「アクションプラン」をたてるワークをおこない、キャリアへの関心を高めます。					
18.学習目標と DP との関連	この授業の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①他者に理解してもらえる分かりやすい説明を組み立てることができる。 ②適切な資料を検索し、読解し、要約を作成することができる。 ③社会問題や社会現象の背景にまでふみこんだ分析することができる。 ④他者の資料や意見をふまえた上で自分の意見を展開することができる。 ⑤本格的な説明型レポートと考察型レポートを書けるようになる。 ⑥他者との意見交換や共同での意見発表ができる。					
19.教科書・教材	授業進行に沿ってワークシート、資料などを配布していきます。					
20.参考文献	適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	1. フィールドワークのワークシート、発表 (20 点) 2. 説明文型レポートのワークシート (30 点) 3. 考察文型レポートのワークシート (30 点) 4. キャリア教育のワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿 (10 点) 5. ふりかえりのワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿 (10 点)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 本科目の内容、ねらいについて説明するとともに、春学期の初年次セミナーで学んだことをふりかえる。			予習：初年次セミナーで作成した課題の読み直し		
第 2 回	大学を知るためのフィールドワーク① 学内の改善場所を見つけることを目的としたフィールドワークの準備をおこなう			持参物：ノート PC 宿題：フィールドワーク（観察）記録をまとめる		
第 3 回	大学を知るためのフィールドワーク② フィールドワークの結果をまとめ、プレゼンテーショ			持参物：ノート PC 宿題：プレゼン資料の作成		

	ン用の資料を作成する。	
第 4 回	大学を知るためのフィールドワーク 3 フィールドワークの結果をグループ単位で発表する。	持参物：ノート PC 宿題：ふりかえりワークシートの作成
第 5 回	説明文型のレポート① ソーシャルビジネスの定義を文献引用で説明する	持参物：ノート PC 宿題：「用語定義」まで執筆
第 6 回	説明文型のレポート② ソーシャルビジネスの具体例を探す	持参物：ノート PC 宿題：具体例の検索
第 7 回	説明文型のレポート③ 具体例の記述→レポート完成	持参物：ノート PC 宿題：「具体例」まで執筆
第 8 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり①	持参物：ノート PC 宿題：e ポートフォリオの確認
第 9 回	説明文型のレポート④ 事例の発表	持参物：ノート PC 宿題：レポートの加筆・修正
第 10 回	考察文型のレポート① 分析型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：ワークシートの記入
第 11 回	考察型のレポート② 提案型 ワークシート→グループワーク	宿題：レポートの執筆
第 12 回	考察文型のレポート③ 反論型・代案型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：レポートの執筆
第 13 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり②	宿題：e ポートフォリオの確認
第 14 回	キャリア教育 将来を見据えた「アクションプラン」を考えよう	宿題：ワークシートの記入
第 15 回	ふりかえり 基礎演習のふりかえりと、今後（冬学期）について	

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y57	2.科目名	基礎演習 (社会 2)		3.単位数	1
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、春学期の「初年次セミナー」「学習技術」をふまえ、2 年生以降の専門的な科目を積極的に学修するために必要なレポート作成のスキルを身につけることが目的です。具体的には、「説明文型のレポート」と「考察型のレポート」の書き方を学びます。 また、大学の特徴や課題を発見するためのグループワークをおこない、他者と協働する姿勢と自分の意見を展開するための力を身につけます。 さらに、秋学期の学修の振り返りながら、将来に向けた「アクションプラン」をたてるワークをおこない、キャリアへの関心を高めます。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①他者に理解してもらえる分かりやすい説明を組み立てることができる。 ②適切な資料を検索し、読解し、要約を作成することができる。 ③社会問題や社会現象の背景にまでふみこんだ分析することができる。 ④他者の資料や意見をふまえた上で自分の意見を展開することができる。 ⑤本格的な説明型レポートと考察型レポートを書けるようになる。 ⑥他者との意見交換や共同での意見発表ができる。					
19.教科書・教材	授業進行に沿ってワークシート、資料などを配布していきます。					
20.参考文献	適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	1. フィールドワークのワークシート、発表 (20 点) 2. 説明文型レポートのワークシート (30 点) 3. 考察文型レポートのワークシート (30 点) 4. キャリア教育のワークシートおよびe ポートフォリオへの記事投稿 (10 点) 5. ふりかえりのワークシートおよびe ポートフォリオへの記事投稿 (10 点)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 本科目の内容、ねらいについて説明するとともに、春学期の初年次セミナーで学んだことをふりかえる。			予習：初年次セミナーで作成した課題の読み直し		
第 2 回	大学を知るためのフィールドワーク① 学内の改善場所を見つけることを目的としたフィールドワークの準備をおこなう			持参物：ノート PC 宿題：フィールドワーク (観察) 記録をまとめる		
第 3 回	大学を知るためのフィールドワーク② フィールドワークの結果をまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成する。			持参物：ノート PC 宿題：プレゼン資料の作成		
第 4 回	大学を知るためのフィールドワーク 3			持参物：ノート PC		

	フィールドワークの結果をグループ単位で発表する。	宿題：ふりかえりワークシートの作成
第 5 回	説明文型のレポート① ソーシャルビジネスの定義を文献引用で説明する	持参物：ノート PC 宿題：「用語定義」まで執筆
第 6 回	説明文型のレポート② ソーシャルビジネスの具体例を探す	持参物：ノート PC 宿題：具体例の検索
第 7 回	説明文型のレポート③ 具体例の記述→レポート完成	持参物：ノート PC 宿題：「具体例」まで執筆
第 8 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり①	持参物：ノート PC 宿題：e ポートフォリオの確認
第 9 回	説明文型のレポート④ 事例の発表	持参物：ノート PC 宿題：レポートの加筆・修正
第 10 回	考察文型のレポート① 分析型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：ワークシートの記入
第 11 回	考察型のレポート② 提案型 ワークシート→グループワーク	宿題：レポートの執筆
第 12 回	考察文型のレポート③ 反論型・代案型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：レポートの執筆
第 13 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり②	宿題：e ポートフォリオの確認
第 14 回	キャリア教育 将来を見据えた「アクションプラン」を考えよう	宿題：ワークシートの記入
第 15 回	ふりかえり 基礎演習のふりかえりと、今後（冬学期）について	

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y60	2.科目名	基礎演習（心理 1）		3.単位数	1
4.授業担当教員	大松光寿					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています 概要として、「小学校の通学路の安全」をテーマにし、PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○登下校防犯プラン（平成 3 0 年 6 月 登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議） ○登下校見守り活動ハンドブック（令和 3 年 3 月 文部科学省） ○令和 6 年版警察白書（警察庁） ○K U I S ドリル ○読売新聞ヨミダス（メディアライブラリー）					
21.成績評価	○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○ラーニング・ルートマップの作成および学修ポートフォリオへの記事投稿「2024 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標① ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・学					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。 ※ 生成 AI の利用:条件付きで認めるが、レポートや課題資料の作成では使用不可とする。 ・ 条件 1 :情報の真偽を確認すること。 ・ 条件 2 :個人情報の入力禁止を遵守し、出力情報の著作権侵害に留意すること。 ・ 条件 3 :AI 活用の更新情報の収集と理解に努めること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		

	○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入	
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明（合同ゼミ） 「大学近隣の小学校通学路の安全について」 ○ 危険個所の発見 ○ 日常的な見守り活動 ○ 防犯教育 ○ 交通対策 の 4 つのテーマについて、問題点（課題）や対策（解決策）を考える。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 3 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「現状の把握、各種情報収集、どのような問題点があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 4 回	テーマ別合同ゼミ（グループワーク） 「どのような内容（文献）を調べたのか、どのような問題点があるのか」についてグループワーク（情報交換討議）	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 5 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「合同ゼミで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論、中間発表に向けたパワポ作成	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 6 回	中間（ゼミ内）発表 これまで得た情報、討論結果、抽出した問題点等について グループごとに発表、質疑応答	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 7 回	フィールドワーク？ 現地調査（本学近隣の通学路の確認） 何に注目して、何を確認するのか、事前に決めて、現地確認の上、写真等で記録化する。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 8 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワークで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 9 回	キャリア教養（合同ゼミ） 先輩から就活の経験談を聞いてみよう	持参物：ノート PC
第 10 回	フィールドワーク？（見学） 生田警察署か県警本部 ○ 生田警察署 警察署における子供の防犯、交通安全への取組 ○ 県警本部 通信指令センター、交通管制センターの取組	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 11 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワーク等で得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論 学外ワークを踏まえた最終発表パワポの加筆修正	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）

第 12 回	最終（ゼミ内）発表 これまでの学内外学習、GW 等の結果を踏まえた発表、 質疑応答	提持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献 の閲覧、検索（60 分）
第 13 回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC 教室外学習：最終レポートの作成（120 分）
第 14 回	2 年時ゼミ紹介（合同ゼミ）	持参物：ノート P C 2 年ゼミガイダンス資料
第 15 回	○ワーク：2 年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシ ート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノート P C 提出物：最終レポート・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y61	2.科目名	基礎演習（心理 2）		3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています 概要として、「小学校の通学路の安全」をテーマにし、PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○登下校防犯プラン（平成 3 0 年 6 月 登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議） ○登下校見守り活動ハンドブック（令和 3 年 3 月 文部科学省） ○令和 6 年版警察白書（警察庁） ○K U I S ドリル ○読売新聞ヨミダス（メディアライブラリー）					
21.成績評価	○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○ラーニング・ルートマップの作成および学修ポートフォリオへの記事投稿「2024 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標① ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・学					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 曜 研究室オフィスアワー： 曜					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明（合同ゼミ） 「大学近隣の小学校通学路の安全について」			持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献		

	○ 危険個所の発見 ○ 日常的な見守り活動 ○ 防犯教育 ○ 交通対策 の4つのテーマについて、問題点（課題）や対策（解決策）を考える。	の閲覧、検索（60分）
第3回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「現状の把握、各種情報収集、どのような問題点があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第4回	テーマ別合同ゼミ（グループワーク） 「どのような内容（文献）を調べたのか、どのような問題点があるのか」についてグループワーク（情報交換議論）	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第5回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「合同ゼミで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論、中間発表に向けたパワポ作成	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第6回	中間（ゼミ内）発表 これまで得た情報、討論結果、抽出した問題点等について グループごとに発表、質疑応答	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第7回	フィールドワーク？ 現地調査（本学近隣の通学路の確認） 何に注目して、何を確認するのか、事前に決めて、現地確認の上、写真等で記録化する。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第8回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワークで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第9回	キャリア教養（合同ゼミ） 先輩から就活の経験談を聞いてみよう	持参物：ノート PC
第10回	フィールドワーク？（見学） 生田警察署か県警本部 ○ 生田警察署 警察署における子供の防犯、交通安全への取組 ○ 県警本部 通信指令センター、交通管制センターの取組	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第11回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワーク等で得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論 学外ワークを踏まえた最終発表パワポの加筆修正	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第12回	最終（ゼミ内）発表 これまでの学内外学習、GW等の結果を踏まえた発表、質疑応答	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第13回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC 教室外学習：最終レポートの作成（120分）

第 14 回	2 年時ゼミ紹介（合同ゼミ）	持参物：ノート P C 2 年ゼミガイダンス資料
第 15 回	○ワーク：2 年ゼミ（専門演習 I ・ II ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノート P C 提出物：最終レポート・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y63	2.科目名	基礎演習 (心理 4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています 概要として、「小学校の通学路の安全」をテーマにし、PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○登下校防犯プラン（平成30年6月 登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議） ○登下校見守り活動ハンドブック（令和3年3月 文部科学省） ○令和6年版警察白書（警察庁） ○KUISドリル ○読売新聞ヨミダス（メディアライブラリー）					
21.成績評価	○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○ラーニング・ルートマップの作成および学修ポートフォリオへの記事投稿「2024 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標① ○KUISドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・学					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート PC		
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明（合同ゼミ）			持参物：ノート PC		

	「大学近隣の小学校通学路の安全について」 ○ 危険個所の発見 ○ 日常的な見守り活動 ○ 防犯教育 ○ 交通対策 の4つのテーマについて、問題点（課題）や対策（解決策）を考える。	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第3回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「現状の把握、各種情報収集、どのような問題点があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第4回	テーマ別合同ゼミ（グループワーク） 「どのような内容（文献）を調べたのか、どのような問題点があるのか」についてグループワーク（情報交換討議）	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第5回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「合同ゼミで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論、中間発表に向けたパワポ作成	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第6回	中間（ゼミ内）発表 これまで得た情報、討論結果、抽出した問題点等について グループごとに発表、質疑応答	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第7回	フィールドワーク？ 現地調査（本学近隣の通学路の確認） 何に注目して、何を確認するのか、事前に決めて、現地確認の上、写真等で記録化する。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第8回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワークで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第9回	キャリア教養（合同ゼミ） 先輩から就活の経験談を聞いてみよう	持参物：ノート PC
第10回	フィールドワーク？（見学） 生田警察署か県警本部 ○ 生田警察署 警察署における子供の防犯、交通安全への取組 ○ 県警本部 通信指令センター、交通管制センターの取組	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第11回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワーク等で得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論 学外ワークを踏まえた最終発表パワポの加筆修正	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第12回	最終（ゼミ内）発表 これまでの学内外学習、GW等の結果を踏まえた発表、質疑応答	提持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第13回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC

		教室外学習：最終レポートの作成（120 分）
第 14 回	2 年時ゼミ紹介（合同ゼミ）	持参物：ノート P C 2 年ゼミガイダンス資料
第 15 回	○ワーク：2 年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノート P C 提出物：最終レポート・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y64	2.科目名	基礎演習（心理 5）		3.単位数	1
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています 概要として、「小学校の通学路の安全」をテーマにし、PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○登下校防犯プラン（平成 3 0 年 6 月 登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議） ○登下校見守り活動ハンドブック（令和 3 年 3 月 文部科学省） ○令和 6 年版警察白書（警察庁） ○K U I S ドリル ○読売新聞ヨミダス（メディアライブラリー）					
21.成績評価	○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○ラーニング・ルートマップの作成および学修ポートフォリオへの記事投稿「2024 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標① ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・学					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		

第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明（合同ゼミ） 「大学近隣の小学校通学路の安全について」 ○ 危険個所の発見 ○ 日常的な見守り活動 ○ 防犯教育 ○ 交通対策 の 4 つのテーマについて、問題点（課題）や対策（解決策）を考える。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 3 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「現状の把握、各種情報収集、どのような問題点があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 4 回	テーマ別合同ゼミ（グループワーク） 「どのような内容（文献）を調べたのか、どのような問題点があるのか」についてグループワーク（情報交換討議）	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 5 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「合同ゼミで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論、中間発表に向けたパワポ作成	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 6 回	中間（ゼミ内）発表 これまで得た情報、討論結果、抽出した問題点等について グループごとに発表、質疑応答	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 7 回	フィールドワーク？ 現地調査（本学近隣の通学路の確認） 何に注目して、何を確認するのか、事前に決めて、現地確認の上、写真等で記録化する。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 8 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワークで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 9 回	キャリア教養（合同ゼミ） 先輩から就活の経験談を聞いてみよう	持参物：ノート PC
第 10 回	フィールドワーク？（見学） 生田警察署か県警本部 ○ 生田警察署 警察署における子供の防犯、交通安全への取組 ○ 県警本部 通信指令センター、交通管制センターの取組	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 11 回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワーク等で得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論 学外ワークを踏まえた最終発表パワポの加筆修正	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）
第 12 回	最終（ゼミ内）発表 これまでの学内外学習、GW 等の結果を踏まえた発表、質疑応答	提持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）

第 13 回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC 教室外学習：最終レポートの作成（120 分）
第 14 回	2 年時ゼミ紹介（合同ゼミ）	持参物：ノート P C 2 年ゼミガイダンス資料
第 15 回	○ワーク：2 年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノート P C 提出物：最終レポート・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y65	2.科目名	基礎演習（心理 6）		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています 概要として、「小学校の通学路の安全」をテーマにし、PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○登下校防犯プラン（平成 3 0 年 6 月 登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議） ○登下校見守り活動ハンドブック（令和 3 年 3 月 文部科学省） ○令和 6 年版警察白書（警察庁） ○K U I S ドリル ○読売新聞ヨミダス（メディアライブラリー）					
21.成績評価	○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○ラーニング・ルートマップの作成および学修ポートフォリオへの記事投稿「2024 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標① ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・学					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。 ・ 生成 AI 利用に関しては、特に制限を設けずに使用を認めます。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明（合同ゼミ）			持参物：ノート PC		

	「大学近隣の小学校通学路の安全について」 ○ 危険個所の発見 ○ 日常的な見守り活動 ○ 防犯教育 ○ 交通対策 の4つのテーマについて、問題点（課題）や対策（解決策）を考える。	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第3回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「現状の把握、各種情報収集、どのような問題点があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第4回	テーマ別合同ゼミ（グループワーク） 「どのような内容（文献）を調べたのか、どのような問題点があるのか」についてグループワーク（情報交換討議）	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第5回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「合同ゼミで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論、中間発表に向けたパワポ作成	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第6回	中間（ゼミ内）発表 これまで得た情報、討論結果、抽出した問題点等について グループごとに発表、質疑応答	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第7回	フィールドワーク？ 現地調査（本学近隣の通学路の確認） 何に注目して、何を確認するのか、事前に決めて、現地確認の上、写真等で記録化する。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第8回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワークで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第9回	キャリア教養（合同ゼミ） 先輩から就活の経験談を聞いてみよう	持参物：ノート PC
第10回	フィールドワーク？（見学） 生田警察署か県警本部 ○ 生田警察署 警察署における子供の防犯、交通安全への取組 ○ 県警本部 通信指令センター、交通管制センターの取組	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第11回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワーク等で得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論 学外ワークを踏まえた最終発表パワポの加筆修正	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第12回	最終（ゼミ内）発表 これまでの学内外学習、GW等の結果を踏まえた発表、質疑応答	提持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第13回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC

		教室外学習：最終レポートの作成（120 分）
第 14 回	2 年時ゼミ紹介（合同ゼミ）	持参物：ノート P C 2 年ゼミガイダンス資料
第 15 回	○ワーク：2 年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノート P C 提出物：最終レポート・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y66	2.科目名	基礎演習 (心理 7)		3.単位数	1
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	○ 目的 「キャリアビジョン」の育成と「考える」スキルの醸成 学期目標:「心理学をどう活かせるか」を考えよう！ ○ 概要 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩いていこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2 つ目は「考える」スキルの醸成です。社会で起こっている現象を取り上げ、答えがひとつとは限らない課題に取り組みます。問題を発見し、仮説を立て、自分なりの考えを構築していくプロセスを体験的に学びます。「考えるスキル」はこの授業のみで身につくものではありません。レポート作成やプロジェクト参加、日常における問題解決場面などで実践を積むことで、徐々にレベルアップしていきます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を定めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30% WebClass への記事投稿 20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10% 期末レポート 40%					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。	【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要項等 FMW で使用した履修関係資料
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン』『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	ワークシートの作成
第 6 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画（取組目標）を考えましょう 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	ワークシートの作成
第 10 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。 ※ 考える力（10～14 回授業）のテーマ ① 効果的な学習方法を提案せよ ② 学生生活におけるストレスマネジメントを提案せよ ③ 集団活動へのモチベーションをあげるにはどうすればよいか ④ 対人関係を円滑にすすめるにはどうすればよいか	ワークシート、課題シートの作成
第 11 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	要因（主要な原因）についての情報検索、図示化
第 12 回	『問題解決の仮説を立てる』	解決策（課題に向けた対策）についてのワー

	問題解決の仮説を立てます。	クシート作成
第 13 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	課題に向けた対策について、自身の意見を具体的に主張し、グループ内の意見を取りまとめる。
第 14 回	グループ内発表と発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y67	2.科目名	基礎演習（心理 8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	河田慈人					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○登下校防犯プラン（平成 3 0 年 6 月 登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議） ○登下校見守り活動ハンドブック（令和 3 年 3 月 文部科学省） ○令和 7 年版警察白書（警察庁） ○K U I S ドリル ○読売新聞ヨミダス（メディアライブラリー）					
21.成績評価	○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○ラーニング・ルートマップの作成および学修ポートフォリオへの記事投稿「2024 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標① ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・学					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明（合同ゼミ） 「大学近隣の小学校通学路の安全について」 ○ 危険個所の発見 ○ 日常的な見守り活動			持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60 分）		

	○ 防犯教育 ○ 交通対策 の4つのテーマについて、問題点（課題）や対策（解決策）を考える。	
第3回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「現状の把握、各種情報収集、どのような問題点があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第4回	テーマ別合同ゼミ（グループワーク） 「どのような内容（文献）を調べたのか、どのような問題点があるのか」についてグループワーク（情報交換討議）	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第5回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「合同ゼミで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論、中間発表に向けたパワポ作成	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第6回	中間（ゼミ内）発表 これまで得た情報、討論結果、抽出した問題点等について グループごとに発表、質疑応答	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第7回	フィールドワーク？ 現地調査（本学近隣の通学路の確認） 何に注目して、何を確認するのか、事前に決めて、現地確認の上、写真等で記録化する。	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第8回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワークで得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第9回	キャリア教養（合同ゼミ） 先輩から就活の経験談を聞いてみよう	持参物：ノート PC
第10回	フィールドワーク？（見学） 生田警察署か県警本部 ○ 生田警察署 警察署における子供の防犯、交通安全への取組 ○ 県警本部 通信指令センター、交通管制センターの取組	教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第11回	ゼミ内テーマ別グループワーク 「フィールドワーク等で得られた情報の整理、どのような問題点、解決策があるのか」について議論 学外ワークを踏まえた最終発表パワポの加筆修正	持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第12回	最終（ゼミ内）発表 これまでの学内外学習、GW等の結果を踏まえた発表、質疑応答	提持参物：ノート PC 教室外学習：ワークシートの記入、参考文献の閲覧、検索（60分）
第13回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC 教室外学習：最終レポートの作成（120分）
第14回	2年時ゼミ紹介（合同ゼミ）	持参物：ノート PC 2年ゼミガイダンス資料
第15回	○ワーク：2年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成	持参物：ノート PC 提出物：最終レポート・KUISドリル

	○講義：授業のふりかえりとまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A51	2.科目名	学習技術 (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	本田あけみ					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	留学生のためのクラスです					
17.授業の目的と概要	この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥1,800 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] ※本シラバスの[26.アサインメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日 4 時間目 センターオフィスアワー：金曜日 昼休み（山手キャンパス）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 (10/1)	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売			○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を		

		記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 (10/8)	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはということか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 (10/15)	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 (10/22)	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 (10/29)	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 (11/5)	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 (11/12)	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分)

		○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第8回】 (11/19)	レポートを書く <テキスト第8章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第08章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125を読み返し、p124の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第9回】 (11/26)	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG'sに関連した10のテーマの中から1つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60分)
【第10回】 (12/3)	わかりやすい表現<テキスト第9章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第09章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140を読み返し、p139の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第11回】 (12/10)	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第10章・ワークシート No.9> ・WordとExcelを活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149を読み返す。(5分) ○Task1～4で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第12回】 (12/17)	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキスト第10章・ワークシート No.9> ・WordとExcelを活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをす

		る」を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162を読み返し、p162の「まとめ」を確認する。(5分) ○Task5～10で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180分) ★小課題を印刷して提出する。
【第13回】 (1/7)	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第11章・ワークシート No.10(1)(2)> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第11章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180を読み返し、p180の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第14回】 (1/14)	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第12章・ワークシート No.11(1)(2)> ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第12章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197を読み返し、p197の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第15回】 (1/21)	全体のまとめ ・第14回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（教務課へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A52	2.科目名	学習技術 (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科 (留学生) 教育福祉学科 (留学生)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。この授業は春学期の前半に週2回で開講する形式となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習 (研究) に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ (第5版)』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13 : 978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自 ¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席 (公欠も含む) は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG's (持続可能な開発目標)に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題 (レポート) を作成することを通じて SDG's への理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 <生成 AI ポリシー> なお、最終課題 (レポート) 作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					

23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や

		訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワークシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術(Excelを使用)	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100を読み返し、p82とp99の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第8回】	レポートを書く <テキスト第8章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート(論文)を書くための基礎的な技術(=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第08章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125を読み返し、p124の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第9回】	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG'sに関連した10のテーマの中から1つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60分)
【第10回】	わかりやすい表現<テキスト第9章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術(文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第09章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140を読み返し、p139の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第11回】	パソコンによるライティング・スキル(1) <テキスト第10章・ワークシート No.9> ・WordとExcelを活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Workshop~Task4を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149を読み返す。(5分) ○Task1~4で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分)

		○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第12回】	パソコンによるライティング・スキル(2) <テキスト第10章・ワークシート No.9> ・WordとExcelを活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162を読み返し、p162の「まとめ」を確認する。(5分) ○Task5～10で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180分) ★小課題を印刷して提出する。
【第13回】	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第11章・ワークシート No.10(1)(2)> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第11章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180を読み返し、p180の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第14回】	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第12章・ワークシート No.11(1)(2)> ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第12章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197を読み返し、p197の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第15回】	全体のまとめ ・第14回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClassへ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A53	2.科目名	学習技術（留）		3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。この授業は春学期の前半に週2回で開講する形式となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センターオフィスアワー：金曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】 4/10	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/17	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/15	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

5/22	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop~Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1~4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 6/26	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y51	2.科目名	学習技術 (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習 (研究) に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ (第5版)』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13 : 978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自 ¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席 (公欠も含む) は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] ※本シラバスの[26.アサインメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。 ※最終課題 (レポート作成) にあたっては 生成 AI の利用は認めません。情報収集の基本と					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題 (レポート) 作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日・3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（教務課へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y52	2.科目名	学習技術 (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。この授業は春学期の前半に週2回で開講する形式となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG's への理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 4/10	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて20分)
【第2回】 4/17	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/15	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)

【第 7 回】 5/22	情報収集（3）・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリン

		グする。(5 分)
【第 12 回】 6/26	パソコンによるライティング・スキル (2) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)		FYE103-Y53	2.科目名		学習技術 (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員		李容淑						
5.授業科目の区分		コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻		グローバル学部				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件					11.先修条件			
12.研究室		※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態	演習科目		
16.履修制限		再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。						
17.授業の目的と概要		【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。この授業は春学期の前半に週2回で開講する形式となります。						
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。						
19.教科書・教材		<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。						
20.参考文献								
21.成績評価		○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマは SDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG's への理解を						
22.コメント		「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。						
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)			

【第1回】 4/10	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/17	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/15	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

5/22	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 6/26	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	GEO102-Y51	2.科目名	人文地理		3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「地理学」を履修、または中等教育レベルの 自然環境・地形図の知識を習得しているこ と。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面またはリモート)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	〔目的〕 経済活動などの人文現象の成立の背景を理解する。 〔概要〕 地理学の研究対象は人文現象と自然現象とに大別されるが、そのうち前者を扱うのが 人文地理学である。本講義ではとくに人間の居住行動に関わる村落・都市の立地や人口の問題、 そして人間が営む経済活動である農牧業・工業・商業の展開を扱う。ただし地域ごとでの現象や 状態の違いを知ることだけでなくそうした違いを生み出すメカニズムを理解することが目的であ り、 経済活動に関する理論(立地論)を取り上げて具体的事例を提示することで地理学的視点から 諸現象を読み解いていきたい。					
18.学習目標と DPとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②人文地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な経済・社会現象についての理解を深める。					
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。					
20.参考文献	田林明・浅川俊夫・榎本康司・久保純子『最新世界地図』東京書籍 ※他の高校地理学習用地図帳 でも可 浮田典良(1995)『地理学入門—マルチ・スケール・ジオグラフィー—』大明堂 山岡信幸(2005)『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加えて、自宅周辺や通学途中の車窓など、身近な風景がすべて参考教材である。					
21.成績評価	総括試験 50%・小テスト(各章終了後に実施)35%・課題等 15%とする。 ※学習内容の復習・実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課 す。					
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカージョン)も実施したい。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ 地理学と人文地理学 地理学の目的と理論			復習：ノート整理		
第 2 回	Ⅱ 集落の展開 (1)村落の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 3 回	Ⅱ 集落の展開 (2)都市の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 4 回	Ⅱ 集落の展開 (3)都市圏の構造と都市化の問題			復習：ノート整理・地名確認		
第 5 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (1)第 3 次産業と中心地理論			復習：ノート整理・地名確認		
第 6 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (2)商業立地と購買行動			復習：ノート整理・地名確認		
第 7 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (3)人口動向とその背景			復習：ノート整理・地名確認		
第 8 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (4)日本の人口分布			復習：ノート整理・地名確認		
第 9 回	Ⅳ 農牧業の展開 (1)農牧業の立地条件			復習：ノート整理・地名確認		

第 10 回	Ⅳ 農牧業の展開 (2)農牧業生産と食文化・ホイットル セーの農牧業地域区分	復習：ノート整理・地名確認
第 11 回	Ⅳ 農牧業の展開 (3)農牧業の地域区分	復習：ノート整理・地名確認
第 12 回	Ⅴ 工業の展開 (1)工業の立地条件	復習：ノート整理・地名確認
第 13 回	Ⅴ 工業の展開 (2)工業の立地類型	復習：ノート整理・地名確認
第 14 回	Ⅴ 工業の展開 (3)日本の工業発展と工業地域	復習：ノート整理・地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード (ナンバリング)	GEO102-m51	2.科目名	人文地理		3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「地理学」を履修、または中等教育レベルの 自然環境・地形図の知識を習得しているこ と。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面またはリモート)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	〔目的〕 経済活動などの人文現象の成立の背景を理解する。 〔概要〕 地理学の研究対象は人文現象と自然現象とに大別されるが、そのうち前者を扱うのが 人文地理学である。本講義ではとくに人間の居住行動に関わる村落・都市の立地や人口の問題、 そして人間が営む経済活動である農牧業・工業・商業の展開を扱う。ただし地域ごとでの現象や 状態の違いを知ることだけでなくそうした違いを生み出すメカニズムを理解することが目的であ り、 経済活動に関する理論(立地論)を取り上げて具体的事例を提示することで地理学的視点から 諸現象を読み解いていきたい。					
18.学習目標と DPとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②人文地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な経済・社会現象についての理解を深める。					
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。					
20.参考文献	田林明・浅川俊夫・榎本康司・久保純子『最新世界地図』東京書籍 ※他の高校地理学習用地図帳 でも可 浮田典良(1995)『地理学入門—マルチ・スケール・ジオグラフィー—』大明堂 山岡信幸(2005)『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加えて、自宅周辺や通学途中の車窓など、身近な風景がすべて参考教材である。					
21.成績評価	総括試験 50%・小テスト(各章終了後に実施)35%・課題等 15%とする。 ※学習内容の復習・実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課 す。					
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカージョン)も実施したい。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ 地理学と人文地理学 地理学の目的と理論			復習：ノート整理		
第 2 回	Ⅱ 集落の展開 (1)村落の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 3 回	Ⅱ 集落の展開 (2)都市の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 4 回	Ⅱ 集落の展開 (3)都市圏の構造と都市化の問題			復習：ノート整理・地名確認		
第 5 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (1)第 3 次産業と中心地理論			復習：ノート整理・地名確認		
第 6 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (2)商業立地と購買行動			復習：ノート整理・地名確認		
第 7 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (3)人口動向とその背景			復習：ノート整理・地名確認		
第 8 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (4)日本の人口分布			復習：ノート整理・地名確認		
第 9 回	Ⅳ 農牧業の展開 (1)農牧業の立地条件			復習：ノート整理・地名確認		

第 10 回	Ⅳ 農牧業の展開 (2)農牧業生産と食文化・ホイットル セーの農牧業地域区分	復習：ノート整理・地名確認
第 11 回	Ⅳ 農牧業の展開 (3)農牧業の地域区分	復習：ノート整理・地名確認
第 12 回	Ⅴ 工業の展開 (1)工業の立地条件	復習：ノート整理・地名確認
第 13 回	Ⅴ 工業の展開 (2)工業の立地類型	復習：ノート整理・地名確認
第 14 回	Ⅴ 工業の展開 (3)日本の工業発展と工業地域	復習：ノート整理・地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y51	2.科目名	異文化理解		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴーニ啓子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	* objectives This course aims to foster cross-cultural understanding * abstract Students will observe what culture is, identify aspects of cultural diversity, research the surface culture and deep culture of English-speaking countries, and appreciate people and cultures in other countries through discussion, and interaction with international students.					
18.学習目標と DP との関連	You can... 1. observe and identify what culture and cultural diversity are. 2. understand the society, cultures and communication styles of English-speaking countries 3. appreciate people and cultures in other countries. 4. identify the important attitudes of a multi-cultural society DP: 多様性理解 (understanding diversity)					
19.教科書・教材	How Culture Affects Communication, Kinseido, Paul Stapleton, ￥1400					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	In-class report 各 10 点 (50%) Reading Quizzes (20%) Essay exam (20%) Report (10%) - A reading comprehension quiz for each unit will be given every week. - An essay exam will take place in the 14th week. - All quizzes and the exam are open-book; however,					
22.コメント	1. Please bring B5 loose-leaf paper. 2. In the event of severe weather, the class will be held online. 3. Remember to check WebClass occasionally for any updates or notices. 4. If you are too sick to attend class, please let me know. 5. *Generative AI may be used only if permitted by the teacher. Its use is prohibited during exams and for reports.					
23.オフィスアワー	Available before or after class, and via email					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation: Self-Introduction, syllabus, class rules, etc 1. Stereotype and Generalization Lecture, pair/group discussion			Homework: Review Week1 class ?Bring the textbook		

	Writing in-class report	
Week 2	2. Culture Shock and World Englishes English speaking countries (the U.S.A.) research report writing Writing in-class reports	Homework: Research "U.S.A." and study for Quiz 1 (Unit 1 & 5)
Week 3	Quiz 1 (Unit 1 & 5) 3. Text Unit 1 Age, Status, Family, Unit 5 Titles Lecture, pair/group discussion Writing in-class reports	Homework: Research "Canada" and study for Quiz 2 (Unit 3 & 4)
Week 4	Quiz 2 (Unit 3 & 4) 4. Text Unit 3 Feedback, Unit 4 Rituals lecture, discussion Writing in-class report	Homework: Research "UK" and study for Quiz 3 (Unit 2 & 6)
Week 5	Quiz 3 (Unit 2 & 6) 5. Text U2 Politeness & Unit 6 Modesty Lecture, group discussion Writing in-class reports	Homework: Research "Australia" and study for Quiz 4 (Unit 9 & 10)
Week 6	Quiz 4 (Unit 9 & 10) 6. Text Unit 9 Proverbs Unit 10 Idioms Lecture, group discussion Writing in-class reports	Homework: Research New Zealand and study for Quiz 5 (Unit 8)
Week 7	Quiz 5 (Unit 8) 7. Text Unit 8 Face-to-Face Communication Nonverbal Communication Lecture, group discussion, pair activities Writing in-class reports	Homework: Study for Quiz 6 (Unit 7) ?Submit the research assignment (5 English speaking countries)
Week 8	Quiz 6 Unit 7 8. Text Unit 7 Hear-to Heart Communiation Nonverbal Communication Review English speaking countries Lecture, pair discussion In-class report	Homework: Study for Quiz 7 (Unit 11, 14)
Week 9	Quiz 7 (Unit 12) 9. Text Unit 11 Textbook Language & Unit 14 Pronunciation Review English speaking countries Lecture, pair/group discussion Writing in-class reports	Homework: Study for Quiz 8 (Unit 15)

Week 10	Quiz 8 (Unit 15) 10. Text Unit 15 Agreeing, Disagreeing or Simply Not Knowing Stereotype, Prejudice and Discrimination Lecture, discussion Writing in-class report	Homework: Study for Quiz 9 (Unit 13)
Week 11	Quiz 9 (Unit 13) 11. Text U13 Politically Correct Language Political Correctness (PC) Lecture, pair/group discussion Writing in-class reports	Homework: Research politically correct words in Japan
Week 12	12. Holiday Seasons : events and rituals Pair/group discussion In-class report	Homework: Study for Quiz 10 (Unit 16)
Week 13	Quiz 10 (Unit 16) 13. Unit 16 Reflection of Language and Culture Review Pair/group discussion In-class report	Homework: Preparation for essay exam
Week 14	14. Essay Exam Bring all the in-class reports and the textbook. No phone or PC allowed.	
Week 15	Consolidation Essay exam review Writing reflection paper Grade evaluation	

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y53	2.科目名	異文化理解 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 (共通)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に、他学部他学科からも履修できます。			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	ありません。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	異文化理解を学び、異文化を楽しむ、そして文化のはざまを埋めるコミュニケーションを学びます。 国際コミュニケーションをする上で文化の違いがどう影響するかを学びます。ここでいう文化とは生活スタイルのこと、もちろんその背景に価値観があり、宗教など様々な違いが関わってきます。世界にはいろいろな価値観を持った人がいます。 今の様にグローバル化が進み、人の移動が活発でなければ、そのまま出会うこともなく、その人たちの異った文化に気づくこともなかったのです。しかし、今では観光や移民、難民として日本にもたくさんの人々が来ています。コンビニやファストフード、このキャンパスにもいます。もちろん知らないふりをして過ごしてもいいのですが、友達や恋人になることもあります。一方、皆さん自身が海外に出かければ同じことが起こります。そう国際結婚が今は当たり前になっています。 そこで、まず皆さんの暮らし、そして現在の地域社会で求められる国際的人材になるために「異文化」とはどういうことかを身近なところから一緒に考えていきます。国際結婚だけでなく、外国人の上司や部下、同僚と働く、留学するには外国語だけでなく、異文化の理解が必要です。外国語の習得にもむろん重要です。将来は異文化と出合う、その時にどんな自分を想像しますか。外国人と出会い楽しく親しくなるための異文化理解を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	先入観に縛られず、客観的に異文化を理解できる幅広い視野を養うことで、国際コミュニケーションの基礎理解を深めます。					
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。					
20.参考文献	鳥飼玖美子『異文化コミュニケーション学』岩波新書、2021 年 エリン・メイヤー(著),田岡恵 (監修),樋口武志(翻訳)『異文化理解力ー相手と自分の真意がわかる・ビジネスパーソン必須の教養』英治出版、2015 年					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース (研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 3 日	身近な文化と身近で感じる異文化、異文化を知れば変わる？ 文化とは何でしょう？ いろいろないい方がありますが、「文化とは生活スタイルのこと」、衣食住の価値観の違いでもあります。だから、夫婦一緒に暮らしてみると、その文化の違いに驚くことがあります。子供は親と暮らすうちにその文化を受継ぎますから、社会に出ると文化が合わないこともよくあります。			○事前準備 友達とか知り合いの中で、この人とは文化が違うと感じたことを思い出して書き出して下さい。 ○アサイメント 文化とは文学・芸術・学問の意味ではなく、人それぞれの生活様式のことでもあります。身近な異文化対立を探してレポートして下さい。		

	一方、異文化とは言うけれど、国籍や容姿が異なり、信ずる宗教が違って、気持ちを通じ合うこともよくあります。だから国際結婚も珍しくなく、楽しく暮らしています。大切なことは、	
第2回 10月10日	世界の文化を見る視点、民族・宗教・国家、グローバル化？ 皆さんが身につけた文化には様々なレベルがあります。生活スタイルの上にファッション等の好み（嗜好）のレベルがあり、その下にその国や地域の風俗習慣とその伝統があり、食や住宅等はそのレベルです。さらにその下には宗教や思想などの深層な文化があります。そこから文化芸術や文学が生まれ、ハイカルチャーと呼びますが、そのずっと上、皆さんの身近にあるのが「サブカルチャー」、アニメとかポップスなどです。このサブカルは、簡単に国境を超えます。グローバル化しやすいのです。世	○事前準備 キリスト教、イスラム教、仏教を世界の三大宗教といいます。その3つと今までどんな接点があったレポートして下さい。 ○アサイメント 現在世界各地にイスラム教徒が広がり、様々な問題を起こしています。調べて一つ紹介して下さい。
第3回 10月17日	個人の文化、家族の文化、地域の文化、地方の文化、国民文化？ 皆さんのサブカルはグローバル化していますが、皆さんのご両親や祖父母の皆さんはそれほどでもない、世代の違い、年齢の違いで感覚が保守化します。家族や親族同士でも共通する文化と異文化があるのです。ご年配の方はご自分の若い頃と比較するから、若い人の嗜好を変に感じますが、時代が変わっただけです。新しいファッションや嗜好、サブカルは若い世代から高齢者に、都市から地方（田舎）に、先進国から発展国に広がります。大昔は旅行者が少しずつ伝え、昔は新聞や雑誌で絵や写真	○事前準備 日本人の中にも保守的な考え方とより自由な考え方があります。皆さんの結婚観は保守的ですか、革新的ですか？ ○アサイメント 授業では。個人、家族、地域、地方、そして日本全体の国民文化のレベルに分けて文化の違いを述べました。では、関西の文化とはどんなものだと思いますか？簡単に述べて下さい。
第4回 10月24日	文化の意味を考える、衣食住の生活文化は異なるのか？ 親子関係や兄弟、親族、夫婦など家族の形、付き合い方も重要な文化です。今では一夫一妻が当たり前になりましたが、一夫多妻の国も残っています。明治の日本にもありました。昔の男尊女卑もしぶとく生き残っていますが、LGBT への理解は近年急速に広がりました。それに比べれば。衣食住の違いなど些細なことにも思えます。 そこで、男尊女卑はいつ、どうして始まったのか？ LGBT は昔からありましたが、なぜ今はカミングアウトして大丈夫なのか？こうした価値観がどう形成され、どう変わっ	○事前学習 最近はずっと減りましたが、街中で見かけた外国人観光客を見て文化の違いを感じた経験があったら述べて下さい。 ○アサイメント アジアの国々には儒教の影響などがあり、長幼の序、年功序列など年配者を敬う習慣があります。それをどう思うか。自由に感想を述べて下さい。
第5回 10月30日	ホストとゲストの異文化、見る者とみられる者、男と女、大人と子供 昔から観光は異文化が接触する機会でした。その前には侵略戦争、通商や巡礼でした。こうした旅行者がゲスト（客）、地元の人がホスト（主人）として、それぞれ異なる文化が接触し、その交換が起こります。江戸時代には農民や商人の旅行が盛んになり、農作物品種	○事前学習 異文化接触は、昔は侵略戦争、その後は植民地に進出と移民、逆に先進国への移民が起こり、豊かになった国からは観光を通じても起こります。日本人が移民した時代、どう嫌われたかを考えて見て下さい。 ○アサイメント

	や織物等の反物、陶磁器など、多くのモノが都から地方に伝わりました。明治以降も東京への旅行や京都観光で文物が伝わり、戦後は欧米旅行でスコッチウISKキーやワイン、ブランド品がお土産として持ち帰られました。そこ	国際観光は異文化接触であるだけでなく、貧富の大きな格差の接触です。豊かな外国人観光客のために貧しい人々はどうか対応するか考えて見て下さい。
第 6 回 11 月 7 日	欧米文化の古典、古代ギリシャと古代ローマは今も生きている？ 欧米化で日本の文化がどう変わったかを見てみましょう。日本人は実に上手に異文化理解をしたのです。世界史の中で、19 姓から 20 世紀の日本人は短期間で本格的に異文化理解をした例はないと言われます。もちろん、江戸時代末に圧倒的な軍勢力、工業力、経済力、知的レベルの差を感じた日本人が、征服されることを怖れたからだとも言えますが、かなり高い文化レベルにあったからこそ理解が早かったとも言われます。 明治の日本人には英語やドイツ語、フランス語を学び、その本を読む	○事前学習 ギリシャ語とラテン語で知っている言葉を上げて下さい。 ○アサイメント ヨーロッパの歴史的建築物を一つ上げて、どんな時代の建物でどんな特徴があるかを述べて下さい。
第 7 回 11 月 14 日	ヨーロッパの文化とキリスト教、建築から見られるキリスト教文化 ヨーロッパ社会は古代から中世にかけてキリスト教会に支配されます。しかし、その当時はイスラム教国の文明の方がより進んでいた言われます。だから多くのヨーロッパ人がイスラム圏の国々に留学、あるいはサラセン人支配下の聖地に巡礼に出かけました。一方、ヨーロッパ内ではキリスト教会がビザンチン帝国などを經由してイスラム圏の文化文明を伝えました。それだけでなく、古代ギリシャや古代ローマ文明を伝えました。そこから大学が生まれ、学生はヨーロッパ中から集まりました。	○事前学習 中世のヴェネツィアは東方貿易といってイスラム教徒との貿易が盛んでした。ヴェネツィアで知っていることを述べて下さい。 ○アサイメント 都市の空気は自由にするといい、当時支配的だったキリスト教の倫理に沿わない自由な生活様式が許されていました。なぜ自由にさせたと思うか述べて下さい
第 8 回 11 月 21 日	ヨーロッパの世界遺産に見る建築と都市の文化 古代と中世の境は西ヨーロッパではローマ帝国の崩壊です。北や東からゲルマン民族と呼ばれる様々な異民族が侵入したからです。13～14 世紀にはモンゴルの侵略もあります。その後 15 世紀には東ローマ帝国の後裔ビザンチン帝国がオスマン・トルコに滅ぼされました。つまり、ヨーロッパの歴史は異民族の侵入の歴史です。その痕跡が色濃く残るのが世界文化遺産ヴェネツィアとその潟です。11～13 世紀の十字軍では重要な拠点港として栄えました。その当時からヴェネツィアの人々は異民族の異文化を理	○事前学習 イタリアの世界遺産を調べて、行ってみたい都市を 3 つ挙げて下さい。 ○アサイメント 十字軍について調べてレポートにまとめて下さい。特に、当時彼らは何語を話していたかを必ず回答して下さい。
第 9 回 11 月 28 日	ルネッサンスとヨーロッパ近代、市民革命と市民の生活文化 東西交流の結果生まれたのがルネッサンス、長い間続いたキリスト教会支配下の閉塞的な社会が開放され、文明復興が起こりました。それまでは異端とされた異民族、異文化、異なった宗教の存在を受容し、より自由で人間性を尊重する文化でした。そこからヨーロッ	○事前学習 市民革命と産業革命の違いを述べて下さい。 ○アサイメント 市民革命で、それまでの身分制度が廃止されました。身分とは何か、調べてみて下さい。

	パの発展が始まりました。多様性を受容れ、新しいものを次々と取り入れたのは異文化理解、異文化を取り入れた成果です。特に、古代の文化は法律の復興、思想の復興でもあり、そこから人権意識が再発見され、1789 年のフランスの	
第 10 回 12 月 5 日	もう一つの革命・産業革命、工業化が実現した豊かさと貧困、福祉 豊かになった一部の市民はビジネスを発展させ、蒸気機関など新しいエネルギーや産業機械を使った大量生産方式を編み出しました。産業革命です。その結果、値段は安い、性能がよく形も揃った大量の商品（工業製品）が出回ります。それをより多くの人に見てもらい、貿易を盛んにするために、19 世紀中頃に万国博覧会が始まりました。 日本は江戸時代末のパリ万博から日本も陶磁器や漆器を出展し、大好評を博しました。優れた商品を創る異民族として日本人の文化は大歓迎されました	○事前学習 アジアの国々は 19 世紀にどこの国の植民地だったか調べて下さい。 ○アサイメント 1867 パリ万博出展された日本製商品にはどんなものがあったか調べて書き出して下さい。
第 11 回 12 月 12 日	アジアの文化、イスラム・ヒンズー・仏教に見るアジア歴史 ヨーロッパ同様、アジアの歴史も民族の移動、侵入、侵略の歴史が続きました。インドネシアでは、まずヒンズー教が、仏教、次がイスラム教、最後はキリスト教が伝わり、今は大部分の国民がイスラム教とです。一方、日本では 13 世紀後半二度の元寇が有名ですが、大勢の異民族が九州に攻めてきました。もちろん、日本人が朝鮮半島に攻め入ったことも度々あります。私たち日本人は忘れても、攻め入られた方はよく憶えています。また、日本には鎖国の歴史もあります。こうして、歴史とは戦争	○事前学習 神戸にもイスラム教徒が多く暮らしています。だからモスクもあります。知り合いにイスラム教徒がいるか探してみてください。 ○アサイメント ユダヤ教徒はどんな人々か、どんな歴史を持っているか簡単にまとめて下さい。
第 12 回 12 月 19 日	民族国家の誕生、民族文化の形成、国語の誕生、歴史の創生 さて、今世界中で起こっている民族対立は帝国主義とアジアアフリカ、中南米で起こった欧米諸国、そして日本の植民地とその後の独立の結果起こったものです。狭いヨーロッパの中を見ても、ハプスブルグ家のオーストリア・ハンガリー帝国の影響が強く見られます。18 世紀には世界にはスペインやイギリスの植民地が広がっていました。 異文化理解の背景、現在の民族や国家の文化の根底には、この帝国主義と植民地の歴史があり、そこから独立を目指した人々が揚げた民族主義があります。独立	○事前準備 皆さん自身か身近に、朝鮮半島にルーツを持つ親族、友人はいますか？ぜひお一人探し、半島か島か、出身地をお聞きし、どうして日本におられるか、失礼のないように丁寧に尋ねてみて下さい。 ○アサイメント 日本の歴史は高校までで習ったと思いますが、お隣の大韓民国では韓国の歴史をどう教えているか調べてみて下さい。
第 13 回 1 月 9 日	アジアの世界遺産に見る建築と都市の文化 第二次世界大戦が終わり、日本やドイツ、イタリアと戦った連合国はそのまま国際組織を造り、日本で「国際連合」と呼ばれるようになりました。この国連の目的は、戦後独立した数々の国々を支援することでした。独立したのは民族国家、民族を定め、国語をつくり、自分たちの歴史を書き上げ、国民を教育し始めま	○事前学習 難民について調べて下さい。今はウクライナ難民に注目が集まりますが、その前の難民についても調べて下さい。 ○アサイメント どうして母国を離れたのか、いろいろなケースを考えて述べて下さい。

	した。しかし、その多くの国々では民族は定まらず、対立し合い、英語に頼り、歴史研究も進んでいません。教育レベルも低く、人々は貧しいまま、災害や飢餓が続いています。 文化の違いを理解し合う	
第 14 回 1 月 16 日	日中韓の異文化理解、中華思想と民族国家の形成、歴史は争点？ 東アジアには、日中韓三か国の他に、主権が及ばないが、中国固有の領土である台湾、すでに 20 世紀末に英国から中国に返還された旧植民地の香港、北朝鮮等の国々があります。 これらの国々は東アジアの人々に共通する文化的基盤を持ちながら、近代の歴史から数多くの対立の火種を抱えています。これらの国々との間で世界文化遺産、世界記憶遺産の登録の際にいろいろな問題が起こるのは、この歴史が関係しています。 皆さんよく知っているように、大阪には朝鮮半島出身者が多く、神戸	○事前学習 異文化理解の授業でしった興味ある事柄は何かですか、思い出して下さい。 ○アサイメント 皆さんの人生の中でこれから出会う異文化を想像してみてください。どんな文化を知りたいか自由にのべて下さい。
第 15 回 1 月 23 日	身近な異文化、異文化理解の進め、国内の異文化を知る 異文化理解の最終回は身近な国内での異文化を見ていきます。違いにだけ目を向けず、共通した文化を探します。多様なようで違いが消えていくのが、グローバル化の影響、若い世代には違いよりも共通点の方が多くなっています。衣食住の違いが減っても、まだ残っている根底にある文化の部分にも目を向けます。 コロナ禍が去り、一日も早く海外旅行に出かける皆さんが異文化を楽しむための準備期間、コロナの中でまだ見ぬ多様な世界の魅力を感じましょう。	○アサイメント 最終レポートは、異文化を知ることで自分の人生がどう豊かになるかを考えてもらいます。 詳しい内容は授業で説明します。楽しく学び、世界を見て回りましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	GLB212-Y01	2.科目名	共生社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	實川真理子、宗田好史					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション、グローバルコミュニケーション学科の科目です。観光学科を始め、他学科他学部の受講を勧めます。			9.履修学年	2 回生からとしますが、1 回生でも大丈夫です。	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特にありません。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	目的：グローバル化する日本国内で、また海外でに多国籍の仲間と暮らし働く術を知る 概要：グローバル化が進むとはいえ日本の外国人はまだ全人口の 2 %、でも今後急速に増えると言われます。多くの自治体で、すでに異なる文化で育った人々が共に暮らす多文化共生策が始まり、社会的包摂という日本社会に溶け込む外国人が徐々に増えています。一方、日本人の働き方・暮らしぶりも多様化、地域社会でのつながりは薄れています。また、障害者や高齢者、ジェンダーやセクシュアリティ、所得や健康の格差も現代社会の共生の課題です。関西国際大学国際コミュニケーション学部は日本有数の国際都市神戸の大学、神戸だからこそ学べる共生社会論をお話します。 神戸には 150 年以上前から外国人が集まり、多様なエスニックコミュニティを形成しました。その多様性が神戸固有の文化で、市民だけでなく観光客も魅了しています。今も東南アジアの移民が集まる街、身近な地域の歴史の中にも多文化共生の経験が積み重ねられ、また、現代的課題が見つかります。大学近くの海外移住と文化の交流センター（山本通り）や JICA 関西（国際協力事業団、脇浜）は、共生社会を学ぶ教材です。もちろん今も学内で留学生の皆さんと毎日の交流があります。あとは、これからの日本社会の行方、世界の未来を考えること、皆さん自身の力で共生社会実現の道筋を辿っていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	神戸のような歴史ある国際都市に暮らしていても身近な異文化には気づきにくいものです。ご年配の外国生まれ市民の皆さんは昔の神戸にも詳しく、その異文化は見えません。一方、最近日本にきたアジアの留学生、日系労働者、技能実習生が増え、学内やアルバイト先で接する機会が増えています。そんな経験から共生社会を考えはじめ、その背景に広がる現代社会の課題、さらには 3 億人もの移民・難民が動く世界の大変化をすることが学習目標、到達目標は異文化コミュニケーションの達人です。					
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。					
20.参考文献	小山 望, 勅使河原 隆行他『これからの「共生社会」を考える 多様性を受容するインクルーシブな社会づくり』福村出版、2020 年 宮島 喬多文化共生の社会への条件:日本とヨーロッパ,移民政策を問いなおす』東京大学出版会、2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2021 年					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント	社会で生起するリアルな出来事を反映させて、授業内容を変更することがあります。履修生には事前にお話しします。					
23.オフィスアワー	宗田：火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回：4 月 8 日	在留外国人は都市部でも農村部でも増加し、我々日本人の暮らしも仕事も彼らの労働に大きく依存していま			○アサインメント：身近に見た仕事をしている 在留外国人を二人ほど上げて下さい		

グローバル化と現代日本社会	す。しかし、多くの日本人は外国人を見ることもなく、その問題に関心です。しかし、国際コミュニケーションを学ぶ皆さんは、多文化共生の現実と問題点を考え、日本の政府や自治体の政策を学びます。そして、世界各国の取り組みを知り、未来の日本社会を変える力を付けます。	○事前学習：日本以外で盛んに移民を送り出した国を一つ上げて下さい。
第2回：4月15日 欧米で進む多文化共生への取り組み、移民から市民へ	人口減少が進む EU 諸国、特にイタリアやドイツでは人口の2割以上を占める外国人抜きには産業経済も地域社会も成り立たなくなっています。外国人労働者はもはや少数派ではなく、社会の重要な一部、移民ではなく地元市民として活躍しています。その実態を知り、日本の共生社会の進路を考えます。	○アサイメント：外国籍でありながら日本人以上に日本人だと思える人はどんな人か述べて下さい。 ○事前学習：今年はウクライナ難民がよく語られますが、これ以外の難民の例を一つ上げて下さい。
第3回：4月21日 移民が市民に変わるプロセスを知る。どうすれば共生社会は進むか	近年世界中で大規模な自然災害や武力紛争が続き、難民や避難民が欧米先進国に押し寄せています。国連機関や EU、各国政府、NGO が人道支援を進めますが、民族対立は激化し、テロは深刻化、共生社会は危機に瀕しています。一方、一部の先進国では多様性を認めあう共生段階から社会的包括を経て社会的同化の段階に進んだ地域があり、多様なルーツを持つ二世三世が共生社会をリードし、寛容な社会づくりを進めています。EU の共生のまちづくりの様子を詳しく見ていきます。	○アサイメント：地域社会の中で地元の人々が移民を嫌う理由は何か、気付いたことを上げて下さい。 ○事前学習：神戸で会った中国人を思い出して、どこで会ったか、見たか、書き出して下さい。
第4回：5月13日 移民が市民に変わるプロセスを知る。どうすれば共生社会は進むか	国際都市神戸の多文化共生、神戸中国人コミュニティ150年史（神戸華僑歴史博物館） EU 先進国の共生社会を日本で最初に実現したのは国際都市神戸です。平安時代から大陸や半島との交流の拠点でしたが、1868年の開港以来日本最大の貿易港に成長、すでに154年の歴史があります。大学から居留地、異人館街、南京町に出かけ、共生社会がどう形成されたかを探しに行きましょう。	○アサイメント：南京町で今でも営まれている中国系の文化的伝統を一つ上げて下さい。 ○事前学習：神戸市の9行政区別の在留外国人数を調べて下さい。また、各区で最も在留人数の多い国を挙げて下さい。
第5回：5月20日 定住する外国人、神戸の新たな国際化と共生社会、長田区の経験	定住する外国人、神戸の新たな国際化と共生社会、長田区の経験 震災被害の甚大さで知られる長田区は、今や神戸の下町、長田マダンや芸術祭が開かれます。一方、ベトナム人集住地区でもあり、ローカルとグローバルが出会う場所です。実は、世界の大都市には長田区に似たグローバルな下町が多く、共生社会が形成されています。昔から長田区には出稼ぎの人が多く住み、自分たちの経験を新住民と共有することでまちづくりを進めてきたのです。その仕組みを現地で探ります。	○アサイメント：日本が朝鮮王国を併合したのは何時ですか、それはいつまで続いたか、できるだけ詳しく述べて下さい。 ○事前学習：関西には神戸の他に大阪市など外国籍市民が多く住む町があります。外国人の多い地区を上げて下さい。
第6回：5月27日 関西の国際社会、大阪とその周辺	隣の大阪も国際都市、最近も日本で最もインバウンド人気の高いの街でした。居住外国人数も大阪市で全人口の5.3%、大阪府全体でも2.9%。神戸市の3.0%と同様に全国平均を大きく上回ります。その半分近くを韓国籍、26%が中国籍、中でも生野区は外国籍市民の2割以上が暮らします。また今は、ベトナムやフィリピン	○アサイメント：この授業の受講中に、関西の中で外国籍市民が多くすむ地区の一つ訪れ、報告して下さい。 ○事前学習：外国籍市民には日本に永住する人が多くいます。なぜ自国に戻らないのか理由を想像して書きだして下さい。

	ン籍が増えています。皆さんのよく知る大阪の町の共生社会を見に行きます。	
第7回：6月3日：日本のエスニック・マイノリティの多様性	日本のエスニック・マイノリティの多様性 移住者にとって日本社会は当面の生活拠点であるだけでなく定着の地にもなる。永住権をえた外国籍市民は定着の傍ら盛んに移動し、母国やアジア諸国とのビジネスを始めている。関西各地を中心にオールド・タイマーズとニューカマーズも分れる中国系の人々の活動を紹介し、多様化を深める定住外国人の様子を見ます。南京町や鶴橋は今後どう面白くなるかを語り合います。	○アサイメント：外国籍市民の集まる街について、皆さんが感じる魅力を述べて下さい。 ○事前学習：皆さんの知っている日系人を思い出して書き出して下さい。
第8回：6月10日グローバル共生社会と行政	グローバル共生社会と行政 神戸や大阪と違い中国人も韓国人も少なかった全国の工業都市では、1990年代に急増した日系人労働者の様々な課題に直面し、多文化共生政策を進めてきました。豊田市や浜松市がよく知られます。反面、神戸市・大阪市政の共生社会対策にも長い歴史と成果があります。行政が何をなし、何ができないかったかを整理し、行政の限界を知るとともに市民社会の役割を考えます。	○アサイメント：日系人はなぜ急に増加したか、その理由を3点あげて下さい。 ○事前学習：外国に暮らすと子供の教育は大きな課題です。皆さんがそんな状況の場合、子供に日本語を教えますか。それとも現地の言葉を教えますか。
第9回：6月17日地域社会の外国人問題、国際コミュニケーションの役割	地域社会の外国人問題、国際コミュニケーションの役割 日本政府は移民政策をとらない立場ながら、1990年代に日系人が急増した自治体では教育や医療など独自の共生策を進めました。外国籍の子供は義務教育の対象外ですが、全員小学校に受入れ未就学ゼロとして事例（浜松市）やNPOの教育支援活動など、日本語教育を担いコミュニティ能力を高める取組みの数々を見ていきます。	○アサイメント：日本の小学校で学ぶ日系人の子供たちの困難はどんな点にあるか述べて下さい。 ○事前学習：日系人が最も多く暮らす国と都市を調べて下さい。
第10回：6月24日日本人移民の歴史を知るための「海外移住と文化の交流センター」見学	日本人移民の歴史を知るための「海外移住と文化の交流センター」見学 1928年開設のされた国立移民収容所（現在の神戸市立「海外移住と文化の交流センター」）は1971年までの半世紀、主に南米に移住する日本人のための訓練センターでした。貧しい日本の農村から豊かさを夢見て海外を目指した日系人一世の思いを探り、多文化共生を考えます。	○アサイメント：各自でセンターを訪れ学んだ日本人が移民した時代のことを自由に述べて下さい。 ○事前学習：日本の介護施設は今後増えますが、そのピークはいつ頃でしょう。調べて下さい。
第11回：7月1日現代日本のケアコミュニティ、東南アジア女性の労働力	現代日本のケアコミュニティ、東南アジア女性の労働力 介護保険制度が始まって四半世紀がたつ日本では急増する高齢者を前に深刻な介護人材不足に陥り、東南アジアの女性に大きな期待が集まっています。	○アサイメント：特定技能と技能実習生の違いを述べて下さい。 ○事前学習：なぜ同性愛を否定的にみる人が多いのか調べて下さい。
第12回：7月	セクシュアリティの多様性：ゲイ・レズビアン運動、	○アサイメント：LGDPの人々が生きやすい

8日セクシュアリティの多様性：ゲイ・レズビアン運動、性同一性障害	性同一性障害 不用意で無知な発言は、多様な性のあり方（セクシュアリティ）を受容れる現代社会では許されないハラスメントとされます。学校だけでなく、会社や地域社会でも適切な配慮が不可欠です。排除でなく包摂する話し方は、国際コミュニケーションを学び共生社会を担う皆さんが身に付け、人々に伝えるべき内容です。	社会とはどうあるべきか、述べて下さい。 ○事前学習：キプロス戦争について事前に調べて下さい。
第13回：7月15日グローバル共生社会と日本	グローバル共生社会と日本 世界各地では、まだ民族や宗教の違いによる紛争や差別は解消しません。グローバル化が進んでも共生社会は簡単に実現しません。対立の現場それぞれで様々な多大な努力が続き、成果も少なくありません。イスラム教徒のトルコ系とギリシャ正教系の住民が対立したキプロス紛争は、国連やEUの介入で再統合に向かっていきます。こうした平和のための国際社会の取組みを学びます。	○アサイメント：宗教対立とはどんな対立が簡単に述べて下さい。 ○事前学習：やさしい日本語とはどんな話し方か、簡単に述べて下さい。
第14回：7月22日グローバル化と日本の共生社会の行方、生活支援から活躍支援へ	グローバル化と日本の共生社会の行方、生活支援から活躍支援へ 文化的多様性が乏しく、閉鎖的だった日本の地域社会がグローバル化に対応するために海外人材の活躍が期待されます。総務省の「多文化共生推進プラン」で制度改革が進み、「やさしい日本語」ガイドラインなど共生社会への施策が進みます。その担い手となり海外人材の活躍を支援する皆さんの役割、就職先を考えていきます。	○アサイメント：海外人材を必要とする産業部門を一つ上げて、その課題を書き出して下さい。 ○事前学習：これまで学んだ共生社会論の中で関心を持った課題を一つ上げて下さい。
第15回:7月29日排除と共生、包摂の未来、内なるグローバル化を支える力	排除と共生、包摂の未来、内なるグローバル化を支える力 最終回はこの科目で学んだことをまとめ、共生社会の実現に向けた具体的なキャリアパスを考えます。民族紛争の難民キャンプで働く、国内で移民労働者の子弟の就学支援、日本語を教えるなど様々な活動の根底で、この共生社会論での学びが活かし役立てるために、自分の言葉で問題を掘り下げ、解決方法を探ります。グループで話し合いブラッシュアップしてレポートにまとめて下さい。	○アサイメント：最終課題を別途発表します。 ○事前学習（最終回なので事前学習はありません。）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A51	2.科目名	リサーチ入門 (A クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	尾河 勇太					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年（教科書販売時に購?すること。）					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチー論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう（ワードマップ）』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格（60 点以上）となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2（3 点×5＝15 点） 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書＋観察シート（10 点） 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン（資料＋発表）（25 点） 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書＋調査票（40 点） 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート（10 点） 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。（?分に充電しておくこと） ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。					

(質問紙調査は実査を行いません) ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。 ・生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ(第 1 章) ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える(ワークシート 1)	教室外学習(予習、復習)、教室外グループ学修、提出物、持参物など ○教室外学習 毎回、教科書や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワークシート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体(USB フラッシュメモリなど)
第 2 回	データの種類と尺度(第 2 章) ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える(ワークシート 2)	★提出物 ・ワークシート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体(USB フラッシュメモリなど)
第 3 回	調査の基本概念(第 3 章) ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法はどれか、議論する(ワークシート 3)	★提出物 ・ワークシート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体(USB フラッシュメモリなど)
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成(第 4 章) ・観察調査の種類、ミステリーショッパー(店舗観察調査)の流れ * 調査研究計画書(Word)を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安: 1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体(USB フラッシュメモリなど)

第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成 (第 5 章) ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3~4 時間 (移動時間含む)】 ★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告 (第 6 章) ・ 観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料 (ppt) と読み原稿 (Word) を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安: 3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表 (第 6 章) ・ 観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表 (相互評価を行う) → 代表者選出 → 全体発表を行う	◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 8 回	インタビュー調査 (第 7 章) ・ インタビュー調査の流れと ポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる (ワークシート 7)	★提出物 ・ ワークシート 7 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定 (第 8 章) ・ 質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安: 1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書

	* 調査研究計画書を作成する (Word)	・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える (第 9 章) ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文(かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票

	計画書と質問紙について必要な修正を行う。	3)祭りのアンケート集計まとめを提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1)調査研究計画書 2)質問紙調査票 3)祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A53	2.科目名	リサーチ入門 (C クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西 美裕					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5 =15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント * 観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A55	2.科目名	リサーチ入門 (E クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西 美裕					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント * 観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A56	2.科目名	リサーチ入門		3.単位数	1
4.授業担当教員	尾河 勇太					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5 =15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予 習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作 成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察 調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究 計画書と観察シートを作成し、指定期日まで に WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含 む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-M52	2.科目名	リサーチ入門 (経営_2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	福田美誉					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	【教科書】 ??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。) 【教材】 教科書の解説動画が各章ごとにあります。WebClass で提示しますので、事前学習時に利用してください。					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5 =15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書+観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料+発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書+調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					

22.コメント	・すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各?が作成します。 ・観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、該当章の動画を視聴しつつ教科書や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章）	○教室外学習

	・観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	次回(第6回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】 ★提出物 第5回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第6回	観察調査＝3＝調査結果の整理と報告（第6章） ・観察調査の結果の分析 *プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第6回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第7回	観察調査＝4＝発表準備・発表（第6章） ・観察調査結果の発表 *発表のための準備を行う *グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第8回	インタビュー調査（第7章） ・インタビュー調査の流れとポイント *質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート7）	★提出物 ・ワークシート7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第9回	質問紙調査＝1＝概要①＝質問紙調査の理解とテーマの決定（第8章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第10回	質問紙調査＝2＝質問項目を考える（第9章）	○教室外学習

	・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具

		・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-M54	2.科目名	リサーチ入門 (経営_4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	福田美誉					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	【教科書】 ??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。) 【教材】 教科書の解説動画が各章ごとにあります。WebClass で提示しますので、事前学習時に利用してください。					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 =15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書+観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料+発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書+調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					

22.コメント	・すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各?が作成します。 ・観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、該当章の動画を視聴しつつ教科書や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章）	○教室外学習

	・観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	次回(第6回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】 ★提出物 第5回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第6回	観察調査＝3＝調査結果の整理と報告（第6章） ・観察調査の結果の分析 *プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第6回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第7回	観察調査＝4＝発表準備・発表（第6章） ・観察調査結果の発表 *発表のための準備を行う *グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第8回	インタビュー調査（第7章） ・インタビュー調査の流れとポイント *質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート7）	★提出物 ・ワークシート7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第9回	質問紙調査＝1＝概要①＝質問紙調査の理解とテーマの決定（第8章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第10回	質問紙調査＝2＝質問項目を考える（第9章）	○教室外学習

	・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具

		・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y53	2.科目名	リサーチ入門 (1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	端本利江子					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	※統計学Ⅰを履修していることが望ましい。 なお、本科目はグローバルスタディの先修条件である。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグロ ーバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこ					

	と) ・適宜、グループワークやペアワークを行います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各々が作成します。 ・観察調査は実査を行います。必要な費は各々負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー	授業後の教室にて ※質問等はメールでも対応します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章）	○教室外学習

	・観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	次回(第6回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】 ★提出物 第5回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第6回	観察調査＝3＝調査結果の整理と報告（第6章） ・観察調査の結果の分析 *プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第6回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第7回	観察調査＝4＝発表準備・発表（第6章） ・観察調査結果の発表 *発表のための準備を行う *グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第8回	インタビュー調査（第7章） ・インタビュー調査の流れとポイント *質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート7）	★提出物 ・ワークシート7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第9回	質問紙調査＝1＝概要①＝質問紙調査の理解とテーマの決定（第8章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第10回	質問紙調査＝2＝質問項目を考える（第9章）	○教室外学習

	・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具

		・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1)調査研究計画書 2)質問紙調査票 3)祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y54	2.科目名	リサーチ入門 (2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	※統計学Ⅰを履修していることが望ましい。 なお、本科目はグローバルスタディの先修条件である。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこ					

	と) ・適宜、グループワークやペアワークを行います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各々が作成します。 ・観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。 生成 AI 利用に関して、無制限で認める。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み * メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成 (第 5 章) ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間 (移動時間含む)】 ★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告 (第 6 章) ・ 観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料 (ppt) と読み原稿 (Word) を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表 (第 6 章) ・ 観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表 (相互評価を行う) → 代表者選出 → 全体発表を行う	◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 8 回	インタビュー調査 (第 7 章) ・ インタビュー調査の流れと ポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる (ワークシート 7)	★提出物 ・ ワークシート 7 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定 (第 8 章) ・ 質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する (Word)	○教室外学習 質問紙調査の 研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える (第 9 章) ・ 目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・ 調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文(かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・ データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・ 分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・ 質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書

		・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y55	2.科目名	リサーチ入門 (3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。 ・ 生成 AI 利用に関しては、特に制限を設けずに使用を認めます。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント * 観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含）

		む)】 ★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告 (第 6 章) ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料 (ppt) と読み原稿 (Word) を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表 (第 6 章) ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表 (相互評価を行う) →代表者選出 →全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 8 回	インタビュー調査 (第 7 章) ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる (ワークシート 7)	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定 (第 8 章) ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する (Word)	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える (第 9 章) ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。

	* 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

		ど)
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y56	2.科目名	リサーチ入門 (4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(??分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

	などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日お昼休み 1号館 2階学修支援室 研究室ーオフィスアワー：水曜日お昼休み 2号館 2階 204	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント * 観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含）

		む)】 ★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告 (第 6 章) ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料 (ppt) と読み原稿 (Word) を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表 (第 6 章) ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表 (相互評価を行う) →代表者選出 →全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 8 回	インタビュー調査 (第 7 章) ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる (ワークシート 7)	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定 (第 8 章) ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する (Word)	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える (第 9 章) ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。

	* 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

		ど)
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y57	2.科目名	リサーチ入門 T1・3		3.単位数	1
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	【教科書】 ??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。) 【教材】 教科書の解説動画が各章ごとにあります。WebClass で提示しますので、事前学習時に利用してください。					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格（60 点以上）となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2（3 点×5＝15 点） 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書＋観察シート（10 点） 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン（資料＋発表）（25 点） 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書＋調査票（40 点） 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート（10 点） 課題⑦に対応					

22.コメント	・すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各?が作成します。 ・観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、該当章の動画を視聴しつつ教科書や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワークシート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ワークシート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法はどれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ワークシート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

		ど)
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成 (第 5 章) ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3~4 時間 (移動時間含む)】 ★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告 (第 6 章) ・ 観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料 (ppt) と読み原稿 (Word) を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安: 3 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・ 調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表 (第 6 章) ・ 観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表 (相互評価を行う) → 代表者選出 → 全体発表を行う	◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 8 回	インタビュー調査 (第 7 章) ・ インタビュー調査の流れと ポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる (ワークシート 7)	★提出物 ・ ワークシート 7 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定 (第 8 章) ・ 質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する (Word)	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安: 1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

		ど)
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える (第 9 章) ・ 目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・ 調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・ データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・ 分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・ 質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆

		・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1)調査研究計画書 2)質問紙調査票 3)祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS102-A86	2.科目名	グローバルスタディ I (国内/2025 冬三田市)		3.単位数	1
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	体験学修	6.必修・ 選択の区分	必修あるいは選 択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本プログラムは、兵庫県三田市で外国に関わりのある児童・生徒を対象に日本語教育支援や学校の課題に対する支援を行い、また、三田市に住む外国の人や外国に関わりのある子どもたちの実態や課題を理解し、異文化・多様性理解の促進を行うものである。 活動は、1) 事前学習として、三田市国際交流センターの職員による講義を受けるとともに、現地活動の事前準備を行う。2) 三田市国際交流センター実施の学習教室 SKIP の活動に、支援者として参加する。3) 事後学習として、活動の振り返りや追加調査を行い、外国にゆかりのある子に対する支援の在り方を考える。					
18.学習目標と DPとの関連	1.外国にゆかりのある子の実態に関し、自ら調べたり講師の話を聞くことにより、その実態をまとめることが出来る。また、外国にゆかりのある子の課題を把握することが出来る。 2.外国にゆかりのある子の実態に即し、学習支援を行い、支援の方法の在り方について振り返ることが出来る。 3.国内における多様性理解の重要性に気づき、学校現場等での支援に関してどのように関わっていくべきかを記述することが出来る。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	1. 事前学修 (30%) ・外国に関わりのある子どもの実態・課題について ・日本語教育について ・各講義のノート評価 2. 現地での活動の様子と活動記録 (40%) ・現地での活動に関して、積極性・自主性・協調性・子どもたちや外国の方とのかかわり方 ・活動記録 3. 事後学修 (30%) ・最終レポート ・発表資料及び発表内容					
22.コメント	遅刻・欠席や課題を提出しないなど、事前学修に問題がある場合は、履修を取り消します。学内だけで簡潔するプログラムではなく、三田市国際交流協会や子どもたちとの関わりなど、多くの方の協力を得て成り立つプログラムですので、高い意識を持ち、責任が伴うことを自覚して、プログラムに臨んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1, 2 回	事前学習 1 ・児童福祉の概要 ・事前課題①の整理と外国に関わりのある子どもたちの概要			事前課題① ・外国に関わりのある子どもたちについて、調べ、A4 用紙 1 枚以上にまとめてくること。特に三田市の現状が分かるとよい。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS102-Y82	2.科目名	グローバルスタディⅠ（世界展開力:アメリカ/2025 冬学期）観光		3.単位数	1
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	制限なし	
10.取得資格の要件	大学が要求する一定の英語力		11.先修条件	リサーチ入門、一定の英語科目履修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	現地学習（アメリカ）		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	授業概要：この科目は、米国西海岸の大都市ロスアンゼルス東 200 kmにあるリバーサイド郡（カウンティ）の有名リゾート地コーチュア・バレーのパーム・デザート市のカレッジ・オブ・デザート（COD）にいく約 2 週間の研修プログラムです。このリゾートがこれまでどのように発展してきたのか、その歴史、文化、コミュニティー運営などの観点から学びます。現地での体験に加えて、英会話の授業や COD の教員や学生との交流を通じて実践的英語コミュニケーション力を磨きます。 授業目的：コーチュア・バレーは、その中心地パーム・スプリングから始まり、一帯に拡大したリゾート地です。ジョシュア・ツリー国立公園や先住民族のリザーブがあり、スペイン統治時代の遠隔の植民地エルノルテにさかのぼる歴史があります。太平洋戦争時に陸軍基地がおかれ、その後 80 年間に観光開発が続いた新しいリゾートです。今までは、その温暖な気候から高齢者のリタイアメント・コミュニティーが中心でしたが、今はさらに新しいリゾートの性格を模索しています。COD の観光学教員のレクチャーと研修課題があり、10 カ所の多様な観光施設を視察、集中的に学びます。最終日にはロスに移動、リトル東京で全米日系人博物館、ドジャーズ・スタジアム、空港に近い西海岸最古のリゾート地サンタモニカなども視察し、米国西海岸の観光ビジネスを学びます。					
18.学習目標と DP との関連	この科目は、カレッジ・オブ・ザ・デザートに在籍する学生や実際に働いている学生とのインタビューなどを通じて、現場から学ぶこと。地域における社会貢献活動や環境保全の取り組みについて学ぶこと。また地域交流、ツーリズムにおける環境保全の在り方、起業家意識をもったホスピタリティー事業展開の可能性を学ぶことを目的とする。 【DP との関連】 ①パーム・デザートにおけるリゾート開発の歴史などその地域の観光状況の説明ができる。 ②米国社会におけるリゾートの社会的存在意義と発展目的の説明ができる。 ③College of the Desert について（米国におけるコミュニティー・カレッジの役割を含めて）現地で働きながら学ぶコミュニティー・カレッジの学生と交流し、日本との比較の中でその違いについて説明ができる。 ④専攻学科別、結び付けた学びを今後の方向性として説明ができる。 事前学習、事後学習を通じて、観光ホスピタリティー事業に関連した英語（English for Specific Purposes）を学ぶ機会を増大させる。					
19.教科書・教材	Webclass 掲載参考用資料					
20.参考文献						
21.成績評価	事前学習・プレゼンテーション講習参加など含む 10 点 現場実習のレポート Webclass に提出、現地での発表など含む 40 点 事後学習振り返りレポート・PPT 作成・Webclass に提出 30 点 報告会のポスター作成・発表・e ポートフォリオ含む（20 点）					
22.コメント	一定の英語力、積極的で外国について十分な事前知識を持ち、前向きの姿勢。					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第1回：参加希望者を選考した後、11月末か12月初旬に開催予定	事前学習：事務局（国際交流課）によるオリエンテーション ○各自で準備するパスポート取得、ビザ（ESTA）手続きの説明、クレジットカードの使い方と注意事項、現地での連絡方法などの説明、 ○旅程案内、海外旅行が初めての学生への説明、ホテルと食事の案内と説明、気候と服装の説明など、 ○英語特訓について案内、イングリッシュ・プライベート・レッスンの勧め	
第2回から第7回：その後、5～7回程度、対面が中心ですが、冬休み中はリモートを使って右の内容を事前学習	事前学習：事務局（国際交流課及び旅行会社、海外旅行保険代理店） ○旅行保険の説明、特に現地で疾病にかかり医療機関で診察などを受けた場合の、医療費などの請求のための通知と、現地での対処についての説明（日系の現地代理店との連絡方法） ○ESTA（ビザ）取得の確認 事前学習：担当教員 Global Study 1、(世界展開力・AMERICA/2023 Winter Los Angeles) Travel Theme：Experiential training related to tourist resor	
第6～7回：加えて、CODの授業で発表するスライドの用意	事前学習：担当教員 Global Study：Pre-departure Workshop on Effective Presentation Skills What is a good presentation? ○加えて、CODでのプレゼンテーションの準備をします。これまで大学（KUINs）の授業などで使ったスライドをベースにパワーポイントを用意し英語で発表する準備をします。必要に応じて、英語の先生からも指導を受けます。 ○現地パーム・デザートのホテルでも発表の練習をしますが、事前学習で必要な準備を整	
2月後半を予定、旅程の詳細は現地校COD（カレッジ・オブ・デザート）が大学と協議して決めます。12～14日間で	1日目関西国際空港集合 JAL60便、KIX 17:50 p m – LAX11:00am 以下の詳細は2024年度の内容を記載しています。 2026年2月の実施に際しては、現地の事情で若干の変更があります。	
	2日目 LAX 到着 Hotel Check In. Best Western Palm Desert Hotel Pick-up Program Orientation Departure for Date Festival	
	3日目 Hotel pick-up	

	Comprehensive ESL Conversation ESL Lunch Group project Return to hotel Dinner on your own	
	4 日目 Hotel pick —up Hospitality management class presentation/activities Conversaiton ESL Lunch Hospitality management lecture and group projects Return to hotel	
	5 日目 Hotel pick-up Comprehensive ESL Conversation ESL Lunch Pizza Group project Depart for Palm Springs Return to hotel	
	6 日目 Hotel pick-up Visit Greater Palm Spings lecture Lunch at Sunnylands Agua Caliente Resort tou r Return to hotel Evening free time	
	7 日目 Morning free time ANDREAS CANYON TRAIL 1.5 Kmに参加 Pick up for Cavazon shopping Evening at Dave and Busters Return to hotel	
	8 日目 Morning free time Depart for BBQ at Marbella`s house BBQ party and enjoy the games	
	9 日目 Hotel pick—up JW Marriott Desert Springs Resort tour Lunch party Group project presentations Afternoon free time	
	10 日目 Hotel pick-up Japanese American Cultural Center tour Santa Monica tourism	

	LAX hotel arrival Sonesta LAX	
	11 日目 Hotel departure for 1:15pm JAL 69 flight LAX	
	12 日目 関西国際空港到着 JAL 69 KIX 6:50 p m 解散	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS102-Y84	2.科目名	グローバルスタディⅠ（台湾/2025 冬新竹）		3.単位数	1
4.授業担当教員	板山 昂、清水 拓野					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	・「リサーチ入門」,「心理学研究法」を修得済みであること（必須） ・司法・犯罪心理学等,「犯罪心理学関連科目」を修得済みであること（履修中でも可）		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	学外学習（海外学習） 定員：20 人		
16.履修制限	エントリーシートを提出後、選抜された学生。希望する学生が多い時は面接を行う。					
17.授業の目的と概要	本プログラムは、観察法、調査法などを用い、台湾/新竹の防犯と犯罪抑止に関する意識・実態調査をおこない、日本との比較検討をおこなう。 日本は世界でも有数の安全な国と言われているが、なぜ安全な国になっているのか。一方、台湾も世界的には安全な国に位置づけられているが、日本と比較すると犯罪発生率はかなり高い。本プログラムでは、この両国の犯罪情勢の差異が生じる原因、犯罪抑止のための取り組み、市民の犯罪・防犯に対する意識の差、社会・文化的背景等を比較し、安全・安心な地域・社会づくりに必要な要因について考察する。街頭犯罪はもちろん近年日本で問題となっているDV、虐待、ストーカー事案、組織的詐欺などについても検討を行う。 事前学修では日本における現状を把握するために警察署・裁判所・刑務所・児童相談所などへの訪問、神戸市内のフィールドワーク、市民への調査を予定している。現地でも同様の施設への訪問や繁華街でのフィールドワーク等を行うことで、両国での「安全・安心」に関する社会制度、犯罪抑止に対する環境整備状況、市民の意識の実態を明らかにし、より安全・安心な社会に必要な要因を検討する。最終的に、現地調査と事後学習を経て調査報告書を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	リサーチ活動をとおして、日本と台湾の犯罪情勢の差異が生じる原因、犯罪に対する考え方、犯罪抑止のための取り組み、その社会・文化的背景等を比較し、安全・安心な地域づくりに必要な要因について考察できる。					
19.教科書・教材	適宜紹介する					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	前学習 20% ・調べ学習レポートの提出：5% ・調査計画書の提出：10% ・発表：5% 現地活動 50% ・現地での活動報告・振り返り 事後学習 30% ・調査報告・発表：10% ・調査報告書の提出：20%					
22.コメント	・2 年生以上でプログラム説明会に参加していること ・学費納入 ・事前・事後学習、活動報告会に参加できること ・海外旅行傷害保険加入ほか、必要な渡航準備が締切までにできること ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS103-Y01	2.科目名	地域研究（北米圏）		3.単位数	2
4.授業担当教員	服部聡					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本と比較しながら、アメリカという国の特徴を多面的に理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	アメリカについての基本的知識と理解のしかたを修得することを狙います。					
19.教科書・教材	久保文明ほか編『アメリカ政治 第3版』（有斐閣）					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の授業で提出するサマリーペーパーをA B Cの三段階で評価します。（合計45点） 最後に筆記試験を課します。（合計55点） 両方のスコアを合計して、100点満点で最終的な成績評価を算出します。					
22.コメント	クラスの静粛と秩序を維持するために、私語に対しては厳しく対処します。改善が見られない場合は、出席取り消しや履修取り消しも検討します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	アメリカ植民地の形成			プリントを配ります		
第2回	アメリカの独立			プリントを配ります。		
第3回	アメリカの連邦制 ー連邦と州の関係			教科書の第9章を読んてくること。		
第4回	アメリカの連邦制 ー州内政治と州と州の関係			教科書の第9章を読んてくること。		
第5回	大統領制のしくみ			教科書の第6章を読んてくること。		
第6回	アメリカの議会制度 ー上院と下院の関係			教科書の第7章を読んてくること。		
第7回	司法の政治的役割			教科書の第8章を読んてくること。		
第8回	アメリカの政党と利益集団について			教科書の第4章を読んてくること。		
第9回	アメリカにおける移民問題			プリントを配ります。		
第10回	アメリカにおける黒人問題			教科書の第12章を読んてくること。		
第11回	アメリカにおける女性問題			教科書の第12章を読んてくること。		
第12回	アメリカにおける環境問題			プリントを配ります。		
第13回	アメリカにおける宗教 ーキリスト教の影響			教科書の第11章を読んてくること。		
第14回	アメリカにおける政策形成過程			教科書の第5章を読んてくること。		
第15回	アメリカ外交と安全保障			教科書の第13章を読んてくること。		

1.授業コード (ナンバリング)	GLS104-A51	2.科目名	地域研究（アジア圏）		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの東アジアの国や地域について紹介する授業です。東アジアのこうした隣国について理解を深めるとともに、将来こういう国や地域に行ったり、これらの国や地域の人たちと接したりする時に必要となる予備知識をつけることを目的としています。授業では、これらの国や地域の映画なども紹介します。東アジアの映画やドラマが好きな方にはとても楽しめる授業です。					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●自分の持つ価値観とは異なる価値観を持つ人がいるということを理解できる ●自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業時に参考資料を配布します					
20.参考文献						
21.成績評価	①映画の感想レポート 30%、②プレゼンテーション 30%、③リアクションペーパー（授業内容のまとめを書いて授業後に毎週提出するもの）10%、④期末レポート 30%					
22.コメント	日本の隣国であるにも関わらず、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの国や地域についてよく知らない人は意外と多いと思います。しかし、日本が政治や経済や文化などのいろいろな分野で関わる重要な隣国なので、こうした東アジア諸国のことについて理解を深めることはとても重要です。特に、真の国際人になりたい、あるいは、将来国際的に活躍したい、と思っている方は、まずは日本に近接する東アジア諸国について知識を深めておくことは重要です。 この授業は、そうした目的を持っています。授業では、映像資料を多用した講義やプレゼンテーションやディスカッションなどを通して、東アジアのこれらの国や地域の文化や歴史や食文化や芸能事情などについて総合的に学んでいきます。映画鑑賞とかもする楽しめる要素いっぱいの授業ですので、履修しようか迷っている方も気軽に見学に来てください。中国、台湾、韓国、香港の映画とかに興味がある方にはとても楽しめる授業だと思います。 ＊生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の紹介、講師の紹介など					
第 2 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 3 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		

	像資料を用いて紹介します)	
第 4 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 5 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 6 回	台湾と香港についての紹介(台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 7 回	台湾と香港についての紹介(台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 8 回	韓国についての紹介(韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 9 回	韓国についての紹介(韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 10 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 11 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション(自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表)	
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション(自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表)	
第 14 回	受講生によるプレゼンテーション(自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表)	
第 15 回	授業のまとめと復習	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS104-M01	2.科目名	地域研究 (アジア圏)		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤恭仁彦					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、東南アジア地域 11 か国を概括的に学びます。各国の多様性に富んだ地理、文化、政治、経済だけでなく、食や暮らし、日本との関係など様々な側面について学びを深め、私たちの親しい隣人を理解します。 グローバルスタディの対象として東南アジア地域を考えている学生には、国の選択や、準備・予習の機会となるよう配慮します。					
18.学習目標と DP との関連	(学習目標) 授業を通じて、東南アジア地域について概括的に理解すると共に、興味や関心を持った国(々)について、自律的に学びを深めることを目標とします。 (DP との関連) (1) 自律的で主体的な態度 (自律性) (3) 多様な文化や背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	教科書は指定しません。各回のテーマに応じ、参考資料・Web サイトなどを紹介します。					
20.参考文献	今井昭夫・東京外国語大学東南アジア課程編『東南アジアを知るための 50 章』(明石書店、2014 年) ユーク・デルトレ著、鳥取絹子訳『新版地図で見る東南アジアハンドブック』(原書房、2021 年)					
21.成績評価	期末レポート* 60% 平常点 (リアクション・ペーパー等) 40% *対象 11 か国の内 1 か国 (または複数国) を選んで、興味を持ったトピックについてのセマティックレポート (Thematic Report) を作成してください。(第 1 回の授業で説明します)					
22.コメント	資料や Web サイトを通じた学びに加え、担当教員がこれらの国々で仕事をしたり、一部の国では生活した経験についても紹介したいと思います。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義概要説明 東南アジア地域 概観 (1)			(事前) 高校で使用した地図帳で、11 か国の位置関係や地理的な特徴 (例えば海洋国や島しょ国と内陸国の別など)を確認しておいてください。		
第 2 回	東南アジア地域概観 (2)			(事前又は事後) 配布資料等に目を通すほか、各回のテーマについて Web 検索などで理解を掘り下げてみてください。		
第 3 回	各国事情 (フィリピン)			同上		
第 4 回	各国事情 (インドネシア・東チモール)			同上		
第 5 回	各国事情 (マレーシア)			同上		

第 6 回	各国事情（シンガポール）	同上
第 7 回	各国事情（タイ）	同上
第 8 回	各国事情（ベトナム）	同上
第 9 回	各国事情（カンボジア・ラオス）	同上
第 10 回	各国事情（ミャンマー）	同上
第 11 回	物流で見る東南アジア	同上
第 12 回	共同体としての東南アジア（ASEAN の現在）	同上
第 13 回	東南アジアの対日関係	同上
第 14 回	東南アジアの対米・対中関係	同上
第 15 回	まとめ～東南アジアの未来を考える～	期末レポート提出。参考になるレポートについては受講者の皆さんに共有したいと思っています。

1.授業コード (ナンバリング)	GLS104-Y51	2.科目名	地域研究（アジア圏）		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの東アジアの国や地域について紹介する授業です。東アジアのこうした隣国について理解を深めるとともに、将来こういう国や地域に行ったり、これらの国や地域の人たちと接したりする時に必要となる予備知識をつけることを目的としています。授業では、これらの国や地域の映画なども紹介します。東アジアの映画やドラマが好きな方にはとても楽しめる授業です。					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●自分の持つ価値観とは異なる価値観を持つ人がいるということを理解できる ●自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業時に参考資料を配布します					
20.参考文献						
21.成績評価	①映画の感想レポート 30%、②プレゼンテーション 30%、③リアクションペーパー（授業内容のまとめを書いて授業後に毎週提出するもの）10%、④期末レポート 30%					
22.コメント	日本の隣国であるにも関わらず、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの国や地域についてよく知らない人は意外と多いと思います。しかし、日本が政治や経済や文化などのいろいろな分野で関わる重要な隣国なので、こうした東アジア諸国のことについて理解を深めることはとても重要です。特に、真の国際人になりたい、あるいは、将来国際的に活躍したい、と思っている方は、まずは日本に近接する東アジア諸国について知識を深めておくことは重要です。 この授業は、そうした目的を持っています。授業では、映像資料を多用した講義やプレゼンテーションやディスカッションなどを通して、東アジアのこれらの国や地域の文化や歴史や食文化や芸能事情などについて総合的に学んでいきます。映画鑑賞とかもする楽しめる要素いっぱいの授業ですので、履修しようか迷っている方も気軽に見学に来てください。中国、台湾、韓国、香港の映画とかに興味がある方にはとても楽しめる授業だと思います。 ＊生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の紹介、講師の紹介など					
第 2 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 3 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社			授業で取り上げたキーワードを各自で復習す		

	会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	る。(120分)
第4回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第5回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第6回	台湾と香港についての紹介(台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第7回	台湾と香港についての紹介(台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第8回	韓国についての紹介(韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第9回	韓国についての紹介(韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第10回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第11回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120分)
第12回	受講生によるプレゼンテーション(自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表)	
第13回	受講生によるプレゼンテーション(自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表)	
第14回	受講生によるプレゼンテーション(自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表)	
第15回	授業のまとめと復習	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS105-Y51	2.科目名	日本事情		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義の目的は、政治、社会、文化、歴史、宗教、生活習慣、社会問題など様々な側面から、日本を捉えることによって、日本への理解を深め、今後、日本が、あるいは世界がどのような方向に進んでいくべきかを議論し、論理的かつ柔軟な思考を養うことである。 本授業では、時事的な問題を取り込むこと、また留学生の国籍や人数によって、比較すべき項目を柔軟にシフトしながら授業で扱う項目を変更しつつ行っていくので、本シラバスに記載されていない日本の側面を扱うこともある。					
18.学習目標と DPとの関連	・日本の文化・社会を外側から、相対的に捉えることができる。 ・特定のトピックについてさまざまな観点から考察できる 本科目は、以下の DP（ディプロマポリシー）で示された能力の涵養に関わる科目である。 DP3 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 DP5 コミュニケーションスキル国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	「新・英語で語る日本事情」江口裕之（著）、ダニエル・ドゥーマス（著）					
21.成績評価	授業内小課題 30% グループワーク、プレゼンテーション 30% 総括試験 40%					
22.コメント	本授業は、留学生と日本人学生の活発な議論を行うことを前提にしている。両学生の積極的な参加を望む。日本人学生は留学生をサポートしながら、意見を聞き出すこと、また留学生は日本人にはない感性、観点 から活発に意見を述べるのが求められる。当然のことながら、漫然と講義を聞くだけの姿勢の学生は、 歓迎しないし、評価もしない。 留学生と日本人学生の積極的な議論を促すため、人数の調整(抽選)を行うことがある。 下記の授業内容にて、各回ごとにとりあげる予定のテーマを示すが、 1)できるだけ、当該の時期に発生した時事問題を絡めつつ進めていくこと、 2)受講生の興味、また議論の方向性に応じてとりあげるトピックを柔軟に変えていくこと、 の二点に鑑み、予定とは順番を変更することがある。 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に関わり認めない。テスト等での使用は認めない。					
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	【オリエンテーション】 日本の神話と天皇 1	
第 2 回	日本の神話と天皇 2 神話と歴史書	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 3 回	日本の天皇と神話 3 武士の台頭～明治維新	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 4 回	日本の宗教 1 神道と仏教の伝来	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 5 回	日本の宗教 2 キリスト教の伝来と国学	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	日本の宗教 3 海外との比較、宗教アレルギー等	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 7 回	天皇・神話・宗教のまとめ	○グループワーク 神社・寺院におけるフィールドワーク（120 分）
第 8 回	日本の教育 1 現在の教育の問題点	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 9 回	日本の教育 2 戦後の教育改革	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	日本の教育 3 教育需要の高まりと教育改革	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	日本の政治と経済 1 戦後改革と 55 年体制	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	日本の政治と経済 2 高度経済成長と停滞	○グループワーク 授業の議論のまとめの課題（90 分～120 分）
第 13 回	日本の現代の課題（グループワーク 1 プレゼンテーション作成）	○発表準備(180 分)
第 14 回	日本の現代の課題（グループワーク 2 動画作成）	○総括試験に向けた復習（120 分）
第 15 回	総括試験	総括試験の復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS106-Y51	2.科目名	日本文化論		3.単位数	2
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、文学作品と伝統芸能から日本文化にアプローチし、時代が移り変わっても感動を覚える「普遍性」について考える。 【概要】前半では、古典文学、芸能について学び、視聴覚資料も用いて理解を深める。また、後半は指定テキストを用いて芥川龍之介の作品について学び、映画などの現代芸術にも触れる。これらのことから、日本における文化的歴史的特性を知ると同時に、真の国際人となるための視野を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	①文化の普遍性について理解できる。 ②日本の伝統芸能についての理解を深め、知識が持てる。 ③文化に対する視点を養うことができる。 ④特定のトピックの日本文化について説明ができる。					
19.教科書・教材	新潮文庫『文豪ナビ 芥川龍之介』（新潮社）2004 ISBN:4-10-102500-2 C0195 その他、プリントを授業中に配付する。					
20.参考文献	随時、授業の中で紹介する。					
21.成績評価	①小課題：10%（5点*2回） ②小テスト：10%（2回実施：点数の高いほうを採用） ③中間テスト：25%（100点満点を25%に換算） ④作品の暗誦：10% ⑤総括テスト：35%（100点満点を35%に換算） ⑥学外見学レポート：10%					
22.コメント	授業で使用した PPT や、配付資料は WebClass で随時公開していきます。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：月曜日・昼休み（水竿館 2 階 ALR）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 10/1	ガイダンス ・授業のねらいと運用について説明する。					
【第 2 回】 10/8	川柳を知る・作る ・韻文と散文の違い、短歌と川柳の違い、川柳とはどのようなものかについて学ぶ。 ・自身の大学生活を見つめなおし、川柳を作る。●＜小課題 1＞ ・学外見学について			○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ★期日までに指定された Webclass へ 1～2 句の川柳を投稿する。：＜小課題 1＞（60 分） ★期日までに学外見学を実施し、所定のレポートを提出する。：＜学外見学レポート＞（予備学習＋現地での活動＋レポート作成：(300 分) ○4 作品中から暗誦課題を選び、7 月末までに暗誦を完成する。(300 分)		
【第 3 回】 10/15	作品の舞台を知る ・王朝文学の傑作である『源氏物語』が書かれた時代			○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 7 回授業で実施する＜小テスト①＞（源		

	背景を知る。 ・身近な場所を舞台として描かれた巻について学ぶ。	氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30分)
【第4回】 10/22	語りの文学とは ・『平家物語』を琵琶の語りによって鑑賞する。 ・『平家物語』の基礎知識について学ぶ。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○第7回授業で実施する<小テスト①>(源氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30分)
【第5回】 10/29	古典芸能(1) ●<小テスト①> 能を鑑賞しながら、能の基礎知識について学ぶ。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○第7回授業で実施する<小テスト①>(源氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30分)
【第6回】 11/5	古典芸能(2) 歌舞伎を鑑賞しながら、歌舞伎の基礎知識について学ぶ。 ・中間テストについて	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○第7回授業で実施する<小テスト①>(源氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60分)
【第7回】 11/12	古典芸能(3) ・文楽を鑑賞しながら、文楽の基礎知識について学ぶ。 ・中間テストについて	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60分)
【第8回】 11/19	中間テスト これまでの内容を再確認し、評価する。 ・<小テスト②>の範囲について(プリント配付)	○第11回授業で実施する<小テスト②>(月の異名、十二支)の準備を行う。(60分)
【第9回】 11/26	現代の芸術(1) ・映画『羅生門』についての事前学習。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○中間テストの内容について復習する。(60分) ○第11回授業で実施する<小テスト②>(月の異名、十二支)の準備を行う。(60分)
【第10回】 12/3	現代の芸術(2) 芥川龍之介の小説『藪の中』をモチーフとする映画『羅生門』(監督:黒澤明)を鑑賞する。●<小課題2>	★<小課題2>を総括テスト実施日(7/30)までに提出する。(60分) ○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○テキスト『文豪ナビ 芥川龍之介』全体に目を通して、印象に残った個所にマーキングしておく。(90分) ○第11回授業で実施する<小テスト②>(月の異名、十二支)の準備を行う。(90分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60分)
【第11回】 12/10	現代の芸術(3) ●<小テスト②> 芥川龍之介の人生をふりかえりながら、作品を鑑賞する。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○総括テストに向けての準備を行う。(30分)
【第12回】 12/17	現代の芸術(4) ・演劇やミュージカルとは一線を画す宝塚歌劇の特徴について、上演作品を鑑賞しながら考える。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○総括テストに向けての準備を行う。(30分)
【第13回】 1/7	現代の芸術(5) ・落語の歴史について学び、落語を鑑賞する。 ・総括テストについて ・課題提出状況について	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60分)
【第14回】	まとめ	○配付された資料を見て、復習する。(15分)

1/14	・第 2～13 回の授業まとめ ・総括テストについて ・課題提出状況について	○総括テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 15 回】 1/21	総括テスト：理解度を確認し、評価する。 ・授業アンケートの実施。	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS201-A82	2.科目名	グローバルスタディⅡ（カンボジア/2025 冬 ブノンペン）		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太、馬場住子					
5.授業科目の区分	体験学修	6.必修・ 選択の区分	必修あるいは選 択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、実習（学外活動）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	カンボジアは内戦以降、目覚ましい経済成長が進んでいる一方、様々な側面でその影響を及ぼしている。例えば、都心部以外では絶対的貧困が蔓延しており、生活の維持が困難な状況にある。都心部内でも格差が広がり、路上で生活している人々が多数存在する。子どもに目を向ければ、親の状況によって義務教育から離脱せざるを得ない状況にあり、教育の機会が剥奪されていることが問題視されている。この状況に鑑み、本活動では、学生が小学校を訪問し、十分に登校できなかったり、学習が遅れていたりする子どもを対象にした学習支援を展開し、子どもが安全・安心に教育を受ける機会を保障することに貢献することがねらいとなる。学習支援を通して、歴史的背景と教育への影響を関連付け、子どもの実態に合わせた効果的なプログラムを検討する能力の獲得をめざす。					
18.学習目標と DPとの関連	本プログラムでは、カンボジアの小学生に対する安全で効果的な学習支援が実施できることをねらいとする。その達成のために以下の具体的な学習目標を設定する。 ＜事前学習段階＞ 1.貧困状態にある子どもの特徴および教育格差について説明できる。 2.カンボジアの歴史的背景、教育事情を説明できる。 3.現地小学校で実行する貢献活動計画を作成できる。 ＜現地活動・事後学習段階＞ 4.活動計画実行において、問題点を抽出することができる。 5.問題点を解消する改善案を提案し実行できる。 6.他者からの意見・指摘・改善提案にもとづいた考察を外化できる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	阿部彩（2008）『子どもの貧困―日本の不公平を考える―』岩波新書 工藤律子・篠田有史（2008）『子どもたちに寄り添う カンボジア―薬物・HIV・人身売買との闘い』JULA 出版局 山本一巳・山形辰史他（2007）『国際協力の現場から―開発にたずさわる若き専門家たち―』岩波ジュニア新書					
21.成績評価	＜事前学習＞ 【課題1】小テスト 20％ 学習目標 1,2,対応 ・ 貧困状態にある子どもの特徴や教育の必要性、渡航先の歴史的背景や教育事情に関する内容 ・ webclass にて実施 【課題2】貢献活動計画書 20％ ※グループ 学習目標 3 に対応 ・ 現地小学校での貢献活動の計画書を作成 ・ 計画書の内容をプレゼンし、他者の意見を反映させた修正案を最終提出とする ＜事後学習＞ 【課題3】活動実施報告書 20％ ※グループ 学習目標 4,5 に対応 ・ 当初の計画、現地での修正内容、実行した結果をまとめた報告書を作成す					
22.コメント	・ 現地情勢によっては、目的地の変更、期間の短縮、プログラムの中止等になる場合があります。					

		・ 諸般の事情等により経費（航空運賃など）が変更になる場合があります。 以下の点については必須ではありませんが、各自の学びをより深めるために推奨している事項です。 ・ 小学校で算数を教えるプログラムであるため、教職関連科目を履修していると、プログラムに援用することができ、授業での学びと体験とを総合化することができます。 ・ 「東南アジアと日本」や「ボランティア論」の受講を推奨します。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	<事前活動> 参加者は事前活動として次の活動に取り組むこと ・ 現地活動資金確保のための活動（子どもに対する文房具・遊具等の提供資金） ・ 語学学習（クメール語、英語）	
	事前事後学習の日程については、後日案内します。 第1回 ・ オリエンテーション 第2回 ・ カンボジアの概要、活動概要の理解 ・ メンバーの理解	○【課題1】の実施※2/12までに各自で取り組むこと
	第3回 ・ 活動計画書の作成手順の理解 第4回 ・ 活動計画に関するグループディスカッション	◎活動計画書の作成
	第5回 ・ グループによる活動計画のプレゼンテーション 第6回 ・ 活動計画書の改善修正案の作成	◎活動計画書の修正 ★【課題2】の提出※2/12
	第7回-第9回 ・ 活動計画に基づくカンボジア語学習 ・ 教材、教具の作成	○活動計画に基づく指導案の作成
	第10回-第12回 ・ 模擬授業 ・ 模擬授業に対するグループディスカッション	○模擬授業を経た指導案（修正版）の作成
	第13回-第15回 ・ 現地活動プログラムの最終確認 ・ 渡航の準備 ・ 事前学習のふりかえり	
	<現地活動> ※下記日程は現段階での予定です。変更の可能性があります。 2月17日 出国 2月18日 カンボジアに関する学習（キリングフィールド、トゥールスレン） 2月19日-2月23日 小学校での活動 2月24日・25日 市内フィールドワーク 2月26日-3月1日 小学校での活動 3月2日 移動	○日々のふりかえり（日報作成）

	3月3日 カンボジアに関する学習（アンコールクラウ村フィールドワーク） 3月5日 帰国予定	
	第16回-第17回 ※3月中旬 ・現地活動のふりかえり ・活動実施報告書の作成準備	【課題3】◎活動実施報告書の作成 ○プレゼンテーションの準備
	第18回-第20回 ※3月下旬 ・プレゼンテーション ・テーマは事後レポートの内容に準じる	【課題4】○事後レポートの執筆 ★【課題3】活動実施報告書の提出
	第21回 ※3月下旬 ・全体のまとめ ★【課題4】事後レポートの提出※提出日は別途連絡	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS201-Y82	2.科目名	グローバルスタディⅡ（世界展開力:アメリカ/2025 冬ロサンゼルス）防犯		3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿、有吉美恵					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	必修科目 リサーチ入門 履修推奨科目： 犯罪心理学 応用犯罪心理学 国際犯罪論 犯罪学概論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	基礎的な英語力を身につけ、現地で自ら質問できる程度の会話力を備えていること 履修への意欲と、調査目的について個別に面接をする予定					
17.授業の目的と概要	安心・安全を教育の柱の一つとする本学は、犯罪心理学というユニークな教育コースを有し、地域自治体や近隣コミュニティと協力して生活防犯や青少年犯罪抑止に力を入れている。本プログラムは、学生を人種的多様性を持つ米国北西部のカリフォルニア州ロサンゼルスへ派遣し、防犯と犯罪抑止をより広い視野で、よりアカデミックな観点から理解させることを狙いとする。 米国では学校現場における犯罪抑止に非常に力を注いでいるほか、ロサンゼルスにおいてはFBI や州警察、市警察、地域コミュニティが一体となって犯罪抑止に取り組む全米でもユニークな組織を有し運営している。参加学生は歴史的、文化的に異なる複数の組織や団体を訪問し、それぞれの取組を調査し、自国の警察組織との比較検討などを行う。 本プログラムは本学協定校のカレッジオブキャニオンの協力のもと実施される。プログラム参加を通して、安全・安心という普遍的な概念を学生一人ひとりの専門分野の学びの中に位置づけていくことを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・事前学習 ワーク/レポート 20% ・現地活動ワークシート/レポート課題 20% ・最終発表（グループ） 30% ・最終報告レポート 30%					
22.コメント	自らの体調管理が悪く、事前学習を欠席したものは、その時点で、単位は取得できないと考えください 現地でも、体調が悪いと調査には参加させませんが、その場合は単位を取れなくなることも覚悟してください それほど自己の体調管理に気を配ってください 事後学習も同じで、事後学習に参加できない人には単位を与えません 犯罪のことを何も勉強したこともないのに、アメリカに旅行に行きたいと思って参加することのないように、お願いします 事前にいろいろと日本とアメリカの犯罪事情について尋ねられると思いますが、その時点で答えられる自信のない人は最初からこの科目に履修登録しないでください ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用し					

	てもいいが、必ず自分の言葉で記載すること) ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 (記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	アイスブレイク・グルーピング ・プログラムの理解を深めた上で、グループごとに調査テーマを設定する ・先行研究を調べる	
	リサーチクエスション、調査方法を設定 ・上記にもとづいた具体的な調査内容、調査項目(質問リスト)を作成し、検討する(発表)	
	現地での調査計画をたて、調査のための訪問先、調査活動を確認 ・専門用語リスト(英語)を作成 ・調査項目(質問リスト)を英語に翻訳	
	英語による質問練習を通して、現地での調査シミュレーションを行う 現地での活動の最終確認 ・事務的な連絡、危機管理について学ぶ(グローバル教育センターより)	
	国内での事前リサーチ(過去事例) ○ 兵庫県警察本部 ○ 兵庫県生田警察署 ○ 神戸地方裁判所 ○ 兵庫県庁 ○ 神戸少年鑑別所 ○ 社団法人 神戸ダルクヴィレッジ(薬物依存等支援団体) ○ NPO 法人「神戸の冬を支える会」、神戸中央教会	
	現地活動(過去事例) ○ キャニオンズ大学訪問(学内ツアー、授業参加(学生間交流)) ○ 青少年保護施設視察 ○ 現地在住日本人インタビュー ○ 保安官事務所(シェリフ)視察 ○ 警察学校視察 ○ リトルトーキョー交番視察 ○ パサデナ警察署見学 ○ ビバリーヒルズ警察署見学 ○ スキッドロウと呼ばれる地区でのホームレス支援活動 ○ 州裁判所判事訪問インタビュー	当日の訪問先での振り返りと翌日の訪問先での質問準備のためのミーティングを毎日全員で実施する。
	調査結果をまとめてパワーポイントもしくはポスターを使った発表準備 ・現地活動の振り返りを反映したビデオを作成(上映	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS202-A82	2.科目名	グローバルスタディⅢ（フィリピン/2025 冬セブ）		3.単位数	3
4.授業担当教員	山本秀樹、椋田善之					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	全学			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「リサーチ入門」を修得済みであること。 ※社会学部生は「社会調査論」を修得済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	現地活動・演習・講義		
16.履修制限	応募資格に関する詳しい内容は、授業担当教員もしくはグローバル学習センターに問い合わせてください。					
17.授業の目的と概要	【授業の概要】 フィリピン・セブ島山間部の貧困地域における持続可能なコミュニティづくりに向けて、子どもたちの教育環境の改善を軸に、日本人学生がその解決に向けた課題を見出し、現地での活動にかかる学びを評価し、周到な事前・事後学習を含めて3単位を付与するプログラムである。 フィリピンの経済格差・地域間格差は深刻で、一部の富裕層を除いて国民の多くは貧困層であり大きな社会問題となっている。活動先であるセブ島は、観光資源やコールセンター、語学学校等があり、他島と比較し経済的に恵まれてはいるものの、安定した収入がある仕事に就けるのは、有名な大学を卒業した一部の優秀な若者だけである。都市から離れた山間部の村落では農業以外の産業が無く、教育環境も不十分で小学校には自由に手に取って読める図書も無い。さらに、家庭が貧しいため昼食を持参することができない子どもたちも大勢いる。都市生活者と比較し何もかも恵まれていないと思い込んで、村落に住んでいることに強い劣等感を持っている住民も多い。 こうしたことに鑑み、本プログラムでは1) コミュニティやそこに住まう人々の多様性の中から良さや強みを見出し、それらを引き出し高めていくための教育手法があることを理解し、2) 子どもたちが自らの力でコミュニティの魅力に気づき、未来と可能性を創造できるような教育環境の支援に取り組むことで、グローバル化が進む日本においても、持続可能なコミュニティづくりのために、多様性に働き掛けることができる人材育成に資することを目指す。 【訪問先】スラム街、シェルター、ゴミ山、人身取引被害者支援、薬物更生施設など。 【貢献活動】給食づくり、模擬授業、読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、日本語教室、パティとの交流などを予定 * 訪問先と貢献活動の内容は受け入れ先との調整により変更する場合があります。					
18.学習目標と DPとの関連	テーマ：持続可能なコミュニティ・エンパワメントに向けて、子どもたちの知的好奇心を育み、探求心をもって勉強が継続できる教育環境支援プログラム ?グローバル化の視点で国家間や各国内における経済格差のメカニズムを理解する。 ?エンパワメントアプローチやストレングス視点を活用した、持続可能なコミュニティづくりの要点と教育・福祉との関連を学ぶ。 ③子どもたちの知的好奇心を育み探求心を高めるための教育手法を理解する。 ④地域の人々とコミュニティの持続可能性と活性化に向けた課題と解決のための方策を共有することができる。 活動を通して「社会に能動的に貢献する姿勢」「多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力」「問題発見・解決力」「コミュニケーションスキル」を身につけていく。					
19.教科書・教材	適宜資料を配付します。					
20.参考文献						

21.成績評価	①事前学習：30% 学習目標①②③ ②期中活動記録：30% 学習目標①②③④ ③事後学習：40% 学習目標①②③④	
22.コメント	このプログラムに求める学生像 ・このプログラムの趣旨を十分に理解できている学生。 ・現地の人々や仲間たちと協働し、工夫や改善を重ねながら貢献活動に没頭したい学生。 ・長期間の学びに根気強く取り組むことができる学生。 ・担当教員の指導を正しく理解して誠実に行動できる学生。 ＊成果物は webclass への提出と e ポートフォリオへの投稿が必要です。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。	
23.オフィスアワー	問い合わせには随時対応します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
事前学習	#0 プログラムオリエンテーション	【今回の復習】 ・プログラムの内容や活動先について十分に理解する。 ・渡航手続きをすすめる。
事前学習（オンライン）	#1 合計5回分の課題を webclass で取り組む。 ①フィリピンの基礎知識 a ?フィリピンの基礎知識 b ③日比の歴史的関係の考察 ④セブワノ語と英語の学習 ⑤持続可能性とエンパワメント	【課題】 ・5つの課題に取り組む。 【投稿】 ・期日までに成果物を webclass に投稿する。
事前学習（対面） 1回目	#2 チームビルディング ・相互理解のためのアイスブレイクとグループづくり #3 プログラムの理解 ・プログラムの理解を深める #4 活動先の理解 #5 貢献活動の必要性を確認 ・活動先の状況と貢献活動の必要性を関連付ける #6 活動計画案の検討 ・昨年度の取り組み紹介（メンター） ・チーム毎に授業案・評価案を検討する #7 活動計画案のプレゼンテーション準備	【今回の復習】 ・学んだことをノートに整理しておく。 ・チームメンバーの理解を進めておく。 【次回の予習】 ・これまでの疑問を整理しておく。 ・活動計画案のプレゼンテーションができるよう各チームで準備しておく。 ・授業案 ・評価案
事前学習（対面） 2回目	#8 活動計画案プレゼンテーション① ・模擬授業 ・評価計画 #9 活動計画案ブラッシュアップ① #10 活動計画案ブラッシュアップ②	【今回の復習】 ・学んだことをノートに整理しておく。 【次回の予習】 ・これまでの疑問を整理しておく。 ・活動計画案のプレゼンテーションができるよう各チームで準備しておく。 ・授業案 ・評価案
事前学習（対面）	#11 活動計画案プレゼンテーション？ ・模擬授業	【今回の復習】 ・学んだことをノートに整理しておく。

3回目	・評価計画 #12 活動計画案ブラッシュアップ③ #13 活動計画案ブラッシュアップ④	【次回の予習】 ・これまでの疑問を整理しておく。 ・活動計画案のプレゼンテーションができるよう各チームで準備しておく。 ・授業案 ・評価案
事前学習（対面） 渡航直前準備	#14 渡航前の最終確認？ ・期中活動スケジュールの最終確認 #15 渡航前の最終確認② ・準備物の点検 ・寄附物品の分配 ・関係先手土産の分配	【今回の復習】 ・渡航準備に必要な内容をメンバーで相互確認しておく。 【次回の予習】 ・渡航物品の点検を行う。 ・現地活動に必要な準備を完了する。
期中活動	①理解する ・UP セブにて講義受講と学生との交流・スラム街訪問 ・ゴミ集積所およびシェルター訪問 ・人身取引被害者支援組織訪問 ②実践する ・活動サイトオリエンテーションと現地パディとの交流 ・BarangayGAAS でサービslラーニング活動 ・小学校での授業展開 ・貧困・栄養不良児童を対象とした給食づくり ・現地パディとのプログラム活動 ・中間評価 ③発展させる ・中間評価を反映させた活動改善 ・最終評価 ・活動サイト訪問最終セレモニー ・セブ島で市内調査等実施	【毎日のふりかえり】 ふりかえりに取り組む。 ・個人で ・チームメンバーと ・教員と 【課題】 ・活動日誌を作成する（活動先で毎夕作成し翌朝に提出）。 ・中間評価に取り組む。 ・活動の評価結果をまとめる。 ・評価結果を踏まえて活動の改善計画をたてる。 ・最終評価に取り組む。 ・活動の評価結果をまとめる。 【投稿】 ・中間と最終の評価結果はeポートフォリオに投稿する。
事後学習	①小レポート ・学習目標とジェネリックスキルの達成 ・具体的なエピソードをもとにふりかえりに取り組む ・複数回実施（6回の小レポート実施） ②活動のまとめ（総括） ・上記の小レポートを総括する 発表用スライドの作成 ・活動のまとめとしてプレゼンテーション用のスライドを作成する ・プレゼンテーションの準備に取り組む 各報告会で活動結果のプレゼンテーション ・体験学習報告会 ・あじあん祭 ・ハートフェスタ ・諏訪山祭	・ふりかえりを深める。 ・個人で ・チームメンバーと ・教員と 【課題】 ・ふりかえりをもとに書くことの言語化を図る。 ・小レポート ・活動まとめ（総括） 【投稿】 ・期日までに成果物をeポートフォリオに投稿する。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS203-Y52	2.科目名	課題研究(グローバルリサーチ) (GR 2024 年度生)		3.単位数	16
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際ビジネス専攻 国際文化専攻			9.履修学年	2 年次以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	集中(演習、討論)	
16.履修制限	学科で受講を指定された者 (海外 GR は、TOEIC450 点以上)					
17.授業の目的と概要	本科目は、グローバル人材として必要となる、「世界の人々の多様な価値観や文化を理解し、自ら考え、行動できる力」を育成することを目的としている。そのために、アジア太平洋地域の協定校を中心に 1 学期間の留学を行い、国際社会および日本国内における課題を国際的な観点から解決する手段を考えることによって、国際コミュニケーションについての知識や理解を深める。					
18.学習目標と DP との関連	以下の点において本学 DP の学修に関連しています。 ◎自分の持つ価値観とは異なる価値観を理解し、尊重できる ◎様々な事項をグローバルな視点から深く考えることができる ◎自分の考え方や行動についてグローバルな視点から振り返ることができる ◎英語によるコミュニケーション力の獲得(終了時に TOEIC600 点相当を最低限度とする) ◎滞在国の文化、歴史、現地事情、日本との関係について理解し、自分のことばで語ることができる					
19.教科書・教材	各受講科目の指示による					
20.参考文献	各授業担当者の指示に従う					
21.成績評価	本科目の評価は、下記に示すように現地での活動、授業成果物、現地報告、最終レポート等から総合的になされる。 1) 協定大学授業科目: 80% (毎週提出する現地報告書も評価に含む) 2) 課題研究ゼミ(評価と実践Ⅰのゼミアワー) 最終プレゼンテーション+最終レポート(3000 文字): 20% (ルーブリックに基づき評価) * 1) は、学生 1 人 1 人が異なる組み合わせにより履修するので、各自の履修登録科目により 80% の内訳は異なる。 * 2) のプレゼンテーション、レポートのリサーチテーマは、原則として					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	各自リフレクションワーク(特に今学期の目標,現地リサーチテーマについて詳細に記入) アドバイザーと面談し、GR 履修について履修指導を受けて登録する。			e-portfolio に、専門演習 1 で作成したリサーチ計画を、現地での状況、履修内容等に鑑み、更新、投稿		
Weeks 2-4	アドバイザーと連絡をとりあい、現状の確認をする。 (履修科目等の報告、リサーチ計画の再確認・修正) 授業履修			e-portfolio に、履修科目等確定事項の報告、リサーチ計画の再確認・修正を行い投稿、アドバイザーとの面談による報告		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS203-Y53	2.科目名	課題研究（グローバルリサーチ）（GR 2024 年度生）		3.単位数	16
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	集中（演習、討論）			
16.履修制限	学科で受講を指定された者 （海外 GR は、TOEIC450 点以上）					
17.授業の目的と概要	本科目は、グローバル人材として必要となる、「世界の人々の多様な価値観や文化を理解し、自ら考え、行動できる力」を育成することを目的としている。そのために、アジア太平洋地域の協定校を中心に 1 学期間の留学を行い、国際社会および日本国内における課題を国際的な観点から解決する手段を考えることによって、国際コミュニケーションについての知識や理解を深める。					
18.学習目標と DP との関連	以下の点において本学 DP の学修に関連しています。 ◎自分の持つ価値観とは異なる価値観を理解し、尊重できる ◎様々な事項をグローバルな視点から深く考えることができる ◎自分の考え方や行動についてグローバルな視点から振り返ることができる ◎英語によるコミュニケーション力の獲得（終了時に TOEIC600 点相当を最低限度とする） ◎滞在国の文化、歴史、現地事情、日本との関係について理解し、自分のことばで語ることができる					
19.教科書・教材	各受講科目の指示による					
20.参考文献	各授業担当者の指示に従う					
21.成績評価	本科目の評価は、下記に示すように現地での活動、授業成果物、現地報告、最終レポート等から総合的になされる。 1) 協定大学授業科目：80%* （毎週提出する現地報告書も評価に含む） 2) 課題研究ゼミ（評価と実践のゼミアワー） 最終プレゼンテーション＋最終レポート（3000 文字）：20% （ルーブリックに基づき評価） * 1) は、学生 1 人 1 人が異なる組み合わせにより履修するので、各自の履修登録科目により 80%の内訳は異なる。 また留学国、留学先大学によって授業回数や 1 コマあたりの授業					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	各自リフレクションワーク（特に今学期の目標、現地リサーチテーマについて詳細に記入） アドバイザーと面談し、GR 履修について履修指導を受けて登録する。			e-portfolio に、専門演習 1 で作成したリサーチ計画を、現地での状況、履修内容等に鑑み、更新、投稿		
Weeks 2-4	アドバイザーと連絡をとりあい、現状の確認をする。 （履修科目等の報告、リサーチ計画の再確認・修正） 授業履修			e-portfolio に、履修科目等確定事項の報告、リサーチ計画の再確認・修正を行い投稿、アドバイザーとの面談による報告		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS203-Y54	2.科目名	課題研究（グローバルリサーチ）（国内）		3.単位数	16
4.授業担当教員	伊藤創、井上加寿子、清水拓野、Patrick Shorb、實川眞理子、Binondo Fairlynn Dulla					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年秋以降	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、グローバル人材として必要となる、「世界の人々の多様な価値観や文化を理解し、自ら考え、行動できる力」を育成することを目的としている。そのために、アジア太平洋地域の協定校を中心に1学期間のオンライン留学を行い、現地の社会や文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	◎自分の持つ価値観とは異なる価値観を理解し、尊重できる ◎様々な事項をグローバルな視点から深く考えることができる ◎自分の考え方や行動についてグローバルな視点から振り返ることができる ◎英語によるコミュニケーション力の獲得（終了時に TOEIC600 点相当を最低限度とする） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	各授業担当者で指定する。					
20.参考文献						
21.成績評価	本科目の評価は、下記に示すように授業活動、授業成果物、発表、最終レポート等から総合的になされる。 （1～3は全て総合的につながっているので、評価の%はあくまでおよその割合として理解すること） 1）各担当教員の講義授業 2）グループに分かれてのリサーチ・活動 （1および2を合わせて 70%） 3）ポスター発表・最終レポート 30%					
22.コメント	各授業の内容については、個々の担当教員からシバラスを配布するため、以下の各回の内容は、GR 全体の大きな枠組みのみを示す。 詳細の進度は、各担当教員から確認すること。 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に関り認める。 各授業におけるテストでの使用は認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1 ~5	・各自リフレクションワーク（専門演習Ⅰでやった内容については詳細に記入） ・授業オリエンテーション ・日本にいる外国人の課題についてのレクチャー					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M51	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「屋内ペタンク」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ◆
【第10回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第11回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第12回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第13回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第14回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第15回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M81	2.科目名	生涯スポーツⅠ（ゴルフ実技）		3.単位数	1
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス (健康とスポーツ)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全学部/全学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	教職		11.先修条件	サービスラーニング A（ゴルフのまち三木を知る）を履修していることがのぞましい。応募者多数の場合は履修者を優先する。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	座学 3 コマ+実技 12 コマ		
16.履修制限	実技指導の関係で、受講者数は 15 名までとする。					
17.授業の目的と概要	本授業では、「ゴルフのまち三木」にある大学という立地を生かし、ゴルフの歴史などのゴルフ文化を学びながら、プロの指導者による体幹トレーニングやゴルフレッスンの実技を通して、身体のメカニズム知り実際にプレーすることで、生涯にわたる自分自身の余暇の充実、健康管理に役立てることをめざす。					
18.学習目標と DP との関連	この授業では、以下の 2 つを目標とする。 ①三木市内には 25 のゴルフ場がある。三木市内に唯一の大学として、ゴルフ場内のマナーや文化について学ぶ。 ②生涯にわたってゴルフをプレーすることで、余暇の充実、健康維持を実践するきっかけとする。					
19.教科書・教材	適宜、授業中に配付します。					
20.参考文献	適宜、授業中に紹介します。					
21.成績評価	・実技評価：50％ ・総括テスト：50％（基本的な知識を問う問題 30％、課題レポート 20％）					
22.コメント	○この授業は三木市役所、三木市ゴルフ協会との連携によって開講されます。 ○座学部分は三木キャンパスで、実技部分は本学グラウンドと三木ゴルフ倶楽部で実施する予定です。 ○三木ゴルフ倶楽部までは各自で移動してください。大学からの送迎はありません。 ○実技の授業では、ゴルフ用具は用意しますが、スポーツウェアまたは動きやすい服装と屋外用のスポーツシューズ（スニーカー可）は各自で用意してください。寒さが予想されますので外での活動に耐えられる服装を用意してください。 ○終日、三木ゴルフ倶楽部で活動する日（2/5,2/6）の昼食は、ゴルフ場内のレストランとなるため（弁当等の持ち込み不可）別途、昼食料金が必要です（1100 円程度）。 2 月 4 日は各自大学で昼食後三木ゴルフ倶楽部への移動になります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
◇1 日目 【1 回目】 2/3（火）1 限 4-102	ガイダンス 講義：ゴルフの知識			スポーツウエアまたは動きやすい服装		
【2 回目】 2/3（火）2 限 サッカー場、 体育館	実技：スナッグゴルフで「はじめの一步」			スポーツウエアまたは動きやすい服装		
【3 回目】	実技：入門編③ゴルフのための身体づくり「体幹トレ			スポーツウエアまたは動きやすい服装		

2/4（水）1 限 体育館	ーニング」	
◇2日目 【4回目】 2/4（水）2 限 体育館	実技：入門編④ゴルフのための身体づくり（体幹トレーニング）	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【5回目】 2/4（水）3 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン①	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【6回目】 2/4（水）4 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン②	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【7回目】 2/5（木）1 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン③	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
◇3日目 【8回目】 2/5（木）2 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン④	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【9回目】 2/5（木）3 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑤	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【10回目】 2/5（木）4 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑥実技試験	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【11回目】 2/6（金）1 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑦	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
◇4日目 【12回目】 2/6（金）2 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑧	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【13回目】 2/6（金）3 限 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑨	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【14回目】 2/6（金）4 限	実技：ゴルフ基礎レッスン⑩実技試験	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）

三木ゴルフ倶 楽部		
【15 回目】 2/7（土）1 限 4－102	座学：統括試験	座学の内容と実技中に講師が協調した点をま とめておく

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-A51	2.科目名	生涯スポーツⅡ ※希望者が多い場合は初回授業で 選考		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-A52	2.科目名	生涯スポーツⅡ ※希望者が多い場合は初回授業で 選考		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-A81	2.科目名	生涯スポーツⅡ ※希望者が多い場合は初回授業で 選考		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回：企画書：10 点： → 学習目標①～④に対応 第 4・7・10 回：授業時課題：18 点 → 学習目標①に対応 第 2・3・5・6・8・9・11・12・13 回実技：54 点 → 学習目標①～④に対応 第 14 回：最終レポート：12 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：振り返りとまとめ：6 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】大学の教室にて実施 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成			★企画書提出 ◆筆記用具◆		

【第2回】	【実技】 「ボディメンテナンス」 ・姿勢&柔軟性チェック ・インナーバランス	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第3回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第4回】	【講義】 ・課題「受講理由と目標」作成 ・自己紹介	★課題提出 ◆筆記用具
【第5回】	【実技】 「企画種目1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第6回】	【実技】 「企画種目2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第7回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具
【第8回】	【実技】 「企画種目3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第9回】	【実技】 「企画種目4」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第10回】	【講義】 「スポーツの可能性について」	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第11回】	【実技】 「企画種目5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第12回】	【実技】 「企画種目6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。

		【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「振り返りとまとめ」	★課題提出 ◆筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-M51	2.科目名	生涯スポーツⅡ		3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種	11.先修条件	春学期開講科目「生涯スポーツⅠ」を履修済みであることがのぞましい			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実技			
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回：受講理由と目標：5 点 . . . 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：5 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・8・9・10・11・13・14 回実技：50 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 7 回：中間レポート：10 点 . . . 学習目標①に対応 第 1 2 回：最終レポート：20 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点 . . . 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション】 授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第 2 回】	【実技・グループワーク】 企画事例の紹介 バレーボール ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 3 回】	【グループワーク】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具・スポーツウェア・シューズ
【第 4 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 1」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 5 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 2」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 6 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 3」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 7 回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 8 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 4」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 9 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 5」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 10 回】	【実技・グループワーク】	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整

	「企画種目 6」	えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 11 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 7」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義を行う	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 13 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 8」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 9」 最終レポート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-M52	2.科目名	生涯スポーツⅡ		3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	春学期開講科目「生涯スポーツⅠ」を履修済みであることがのぞましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回：受講理由と目標：5 点 ・ ・ ・ 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：5 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・8・9・10・11・13・14 回実技：50 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応 第 7 回：中間レポート：10 点 ・ ・ ・ 学習目標①に対応 第 1 2 回：最終レポート：20 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション】 授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第 2 回】	【実技・グループワーク】 企画事例の紹介 バレーボール ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 3 回】	【グループワーク】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具・スポーツウェア・シューズ
【第 4 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 1」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 5 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 2」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 6 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 3」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 7 回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 8 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 4」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 9 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 5」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 10 回】	【実技・グループワーク】	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整

	「企画種目 6」	えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 11 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 7」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義を行う	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 13 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 8」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 9」 最終レポート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-M53	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「 企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「 企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「 企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-Y51	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第3回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第4回】	【実技】 「企画種目1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第5回】	【実技】 「企画種目2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第6回】	【実技】 「企画種目3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第7回】	【実技】 『企画種目4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第8回】	【実技】 「企画種目5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第9回】	【実技】 「企画種目6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第10回】	【実技】 「企画種目7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-Y52	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-Y53	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第3回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第4回】	【実技】 「企画種目1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第5回】	【実技】 「企画種目2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第6回】	【実技】 「企画種目3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第7回】	【実技】 『企画種目4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第8回】	【実技】 「企画種目5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第9回】	【実技】 「企画種目6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第10回】	【実技】 「企画種目7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HIS101-Y51	2.科目名	日本史概説（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武弘					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（15 回の全回がオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、政治史を中心に近代日本の歴史について概説する。 その際、この授業では、明治憲法体制と呼ばれるシステムに注目する。明治憲法は大日本帝国憲法の別名であり、明治時代に作られたことからこう呼ばれる。明治憲法体制とは文字通り、この憲法下の政治体制のことをいう。 ところで、教科書には必ず出てくるこの憲法だが、その内容をしっかり読み込んだことがある！という方はどれくらいいらっしゃるだろうか。「神聖ニシテ侵スヘカラス」といったいかにも「戦前らしい」文言だけが有名かもしれない。しかし、こうした箇所を乗り越えて読み進めていくと、そこにはたくさんの発見がある。たとえば、現在の日本国憲法と比べたとき、書かれていないことがやたらと多い。主権、総理大臣、内閣……これらは明治憲法に登場しない単語である。近代日本は主権国家を目指して出発したと習われた方も多いただろう。しかし、大日本帝国の根本たるべき憲法に主権という言葉は登場しない。受験対策などで総理大臣の名前をたくさん覚えたという方も多いただろう。しかし、明治憲法自体には、その総理や総理が率いる内閣については記されていない。 なぜだろうか。 実はこのあたりに、近代日本の政治史を理解するヒントがある。そこでこの授業では、①こうした少し「不思議」な憲法（体制）がなぜ出来たのか、②こうした体制の下で政治はどのような影響を受けたのか、③そしてこうした体制はなぜ崩壊していったのか（そして、最後に時間が許せば④こうした体制は現在にどのような影響を与えているのか）についてそれぞれ考えながら、近代日本の政治史を概観していく。こうした授業を通じ、受講者の皆さんに、近代という時代、またその延長上にある現在という時代について、歴史的に考える力を育ててもらうことが本授業の目的である。 いわゆる暗記を求める授業ではないので、高校までの日本史や世界史が苦手だったという方も気楽に受講してほしい。 なお、授業はオンデマンドによって実施する。毎授業回ごとに、動画や音声、資料など授業内容をアップロードしていくので、更新には注意しておくこと。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業で扱う日本列島地域は、非西洋圏でもかなり早い時期に「近代化」と呼ばれる現象を経験したという世界史的特徴をもつ。その意味で日本を事例に考えることは、地球全体を巻き込んだ「近代」という時代を深くとらえ、そこから様々な地域との共通点や違いを考えることにつながる（DP3.多様性理解）。 また、我々が生活する現在と直接的につながる近代について知り、また自身で考えることは、今日の社会やそこにおける問題をより深くとらえ、必要があれば解決策を検討していく大きな助けともなるだろう（DP4. 問題発見・解決力）。 くわえて、近代日本について必要な知識を学ぶことは、専門的知識や技能の獲得、またそれを活用していくことの重要な一部となるはずである（DP6.専門知識・技能の活用力）。					
19.教科書・教材	特定の教科書は定めない。					
20.参考文献	参考文献は毎回の授業で提示する。ここでは何冊かとくにおすすめの本を挙げておくので、気が向いたらぜひ手に取ってみてほしい。単に目次をながめてみるだけでも、授業を理解する					

	助けになるだろう。 川北稔『イギリス近代史講義』（講談社、2010） 「近代」とはそもそもどんな時代なのか。イギリスをテーマにしつつ、近代日本を考える上でも極めて有益。しかも大変読みやすい。 奈良勝司『明治維新をとらえ直す』（有志舎、2018） 近世から近代へと時代が移り変わるとき、日本列島地域に何が起こったのか。それはどのような影響	
21.成績評価	学期末レポート 90% 日常点 10% 基本的には学期末のレポートによって評価を行う（内容等は授業のなかで説明する）。 くわえて、毎回、web 上で授業への感想や質問を募集する。提出するかどうかは任意とするが、授業に資するものには前記の範囲で加点を行う（減点は行わない）。ただしいわゆる出席点（この場合、座っているだけで付く点数）を付すためのものではないので、必ずしも提出者全員に加点するわけではない。	
22.コメント	本講義は全体を通じてオンデマンドで実施する。オンデマンド式の授業は「自分から学ぶ」という態度が対面授業以上に重要となる形態だと言えよう。よって、基本的な用語などで分からない点は復習・予習によって補う、それでもわからない点は web からのコメントなどで質問するといった能動的な姿勢で受講されることを期待したい。	
23.オフィスアワー	オンデマンド授業であるため、web からのコメントや掲示板機能などを用いて質問等を受け付ける。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	近代日本から考える 授業の進め方などに関する説明・導入。	予習:シラバスを読む。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
2	明治憲法体制成立編①近世の諸相 近代の 1 つ前の時代・近世について、東アジアと西ヨーロッパを比較しながら考え、それがどのように近代につながっていくのかを検討する。	予習:「近世」という言葉の意味について web などで調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
3	明治憲法体制成立編②近代日本の出発 ウェスタン・インパクトと呼ばれる現象がどのような影響を与えたのかという視点から近代日本の出発を考える。	予習:幕末期の日本について必要に応じ教科書などを読んでおく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
4	明治憲法体制成立編③王政復古と近代天皇制の誕生 近代日本を考えるうえで欠かせない近代天皇制がどのような特徴をもち、それがいかなる課題に応えるために誕生してきたのかについて検討する。	予習:web などで「王政復古大号令」について調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
5	明治憲法体制成立編④明治憲法の制定 「国の形」とも呼ばれる憲法がこれまでの授業で見てきた流れの中からどのような影響を受け、いかなる特徴をもって成立したのかを考える。	予習:第 1 回授業で示した大日本帝国憲法（明治憲法）の「不思議な点」がなぜ生じたのかについて、これまでの授業内容から自分なりの答えを考えてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。

6	明治憲法体制運用編①帝国議会と藩閥政府 憲法の誕生とともに生まれた帝国議会の特徴、そして議会と藩閥政府との関係を中心に明治憲法体制の出発を考える。	予習:帝国議会を構成した貴族院と衆議院について web など調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
7	明治憲法体制運用編②彼らが政党を求めた理由 今日まで多くの国で政治を担う政党。日本における政党がどのように政治的影響力を伸ばしていったのかについて、明治憲法体制との関係を中心に考える。	予習:政党の役割について一般的にどのようなことが期待されているのかについて調べてみる（現在の政党についてで問題ない）。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
8	明治憲法体制運用編③政党・官僚と「議会の時代」 憲法とともにスタートした帝国議会が政治の中枢を担っていく時代がどのように成立してきたのかについて、政党と官僚との関係という視点から検討する。	予習:日本初の政党内閣である第1次大隈重信内閣について、web などを使って調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
9	明治憲法体制運用編④「国民」の登場 近代日本の重要な構成要素である「国民」が政治的な意味でどのように「登場」してくるのかについて考える。	予習:「国民国家」という語の意味について web などを使って調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
10	明治憲法体制運用編⑤大正政治史の出発 時代が明治から大正へと移り変わるなかで、どのような新たな課題が現れ、またどのような課題が明治から引き継がれたのかについて考える。	予習:第1次護憲運動について web などを使って調べてみる。。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
11	明治憲法体制運用編⑥「大衆化」と挙国一致 第1次世界大戦前後から世界的に現れてくる「大衆化」現象と同時期に日本政治のキーワードとなった「挙国一致」という語がもった意味を連関的に検討する。	予習:「大衆」や「大衆化（社会）」といった言葉について、web などを使って調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
12	明治憲法体制運用編⑥憲政常道と両院縦断 政党政治の時代が本格的に訪れるなかで、そこにおける政治のあり方をめぐる2つの政党政治構想と両者の衝突が与えた影響を考える。	予習:これまでの授業から政党に対する2つの期待について振り返っておく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
13	明治憲法体制運用編⑦&崩壊編①政党内閣期は「衆議院の時代」なのか 政党勢力が連続的に政権を担った時代・政党内閣期。この時代の特徴を明治憲法体制との関係また国民の代表が政治を担うということがもった意味という視点から考える。	予習:「政党内閣期」の流れについて、教科書や web などを使って確認しておく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
14	明治憲法体制崩壊編②「真の代表」と統合主体の不在 衆議院が国民の代表として期待できないと考えられたとき、どのような現象が生じたのか、また政党の勢力減退はいかなる影響を与えたのか。こうした問題を明治憲法体制が出発地点の段階から有するタテマエとの	予習:近代日本の「変えられないタテマエ」とはどのようなものであったか、これまでの授業を振り返っておく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメ

	関係からとらえ、明治憲法体制の崩壊について考える。	ントする。
15	再び近代日本から考える これまでの授業を振り返りつつ、明治憲法体制が戦後に与えた影響を検討し、あらためて近代という時代、またその延長上にある現在について考える。	予習:14 回目までの授業を振り返っておく。 事後:レポート作成の準備を進める。

1.授業コード (ナンバリング)	HIS101-m51	2.科目名	日本史概説（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武弘					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（15 回の全回がオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、政治史を中心に近代日本の歴史について概説する。 その際、この授業では、明治憲法体制と呼ばれるシステムに注目する。明治憲法は大日本帝国憲法の別名であり、明治時代に作られたことからこう呼ばれる。明治憲法体制とは文字通り、この憲法下の政治体制のことをいう。 ところで、教科書には必ず出てくるこの憲法だが、その内容をしっかり読み込んだことがある！という方はどれくらいいらっしゃるだろうか。「神聖ニシテ侵スヘカラス」といったいかにも「戦前らしい」文言だけが有名かもしれない。しかし、こうした箇所を乗り越えて読み進めていくと、そこにはたくさんの発見がある。たとえば、現在の日本国憲法と比べたとき、書かれていないことがやたらと多い。主権、総理大臣、内閣……これらは明治憲法に登場しない単語である。近代日本は主権国家を目指して出発したと習われた方も多いだろう。しかし、大日本帝国の根本たるべき憲法に主権という言葉は登場しない。受験対策などで総理大臣の名前をたくさん覚えたという方も多いだろう。しかし、明治憲法自体には、その総理や総理が率いる内閣については記されていない。 なぜだろうか。 実はこのあたりに、近代日本の政治史を理解するヒントがある。そこでこの授業では、①こうした少し「不思議」な憲法（体制）がなぜ出来たのか、②こうした体制の下で政治はどのような影響を受けたのか、③そしてこうした体制はなぜ崩壊していったのか（そして、最後に時間が許せば④こうした体制は現在にどのような影響を与えているのか）についてそれぞれ考えながら、近代日本の政治史を概観していく。こうした授業を通じ、受講者の皆さんに、近代という時代、またその延長上にある現在という時代について、歴史的に考える力を育ててもらうことが本授業の目的である。 いわゆる暗記を求める授業ではないので、高校までの日本史や世界史が苦手だったという方も気楽に受講してほしい。 なお、授業はオンデマンドによって実施する。毎授業回ごとに、動画や音声、資料など授業内容をアップロードしていくので、更新には注意しておくこと。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業で扱う日本列島地域は、非西洋圏でもかなり早い時期に「近代化」と呼ばれる現象を経験したという世界史的特徴をもつ。その意味で日本を事例に考えることは、地球全体を巻き込んだ「近代」という時代を深くとらえ、そこから様々な地域との共通点や違いを考えることにつながる（DP3.多様性理解）。 また、我々が生活する現在と直接的につながる近代について知り、また自身で考えることは、今日の社会やそこにおける問題をより深くとらえ、必要があれば解決策を検討していく大きな助けともなるだろう（DP4. 問題発見・解決力）。 くわえて、近代日本について必要な知識を学ぶことは、専門的知識や技能の獲得、またそれを活用していくことの重要な一部となるはずである（DP6.専門知識・技能の活用力）。					
19.教科書・教材	特定の教科書は定めない。					
20.参考文献	参考文献は毎回の授業で提示する。ここでは何冊かとおくにおすすめの本を挙げておくので、気が向いたらぜひ手に取ってみてほしい。単に目次をながめてみるだけでも、授業を理解する					

	助けになるだろう。 川北稔『イギリス近代史講義』（講談社、2010） 「近代」とはそもそもどんな時代なのか。イギリスをテーマにしつつ、近代日本を考える上でも極めて有益。しかも大変読みやすい。 奈良勝司『明治維新をとらえ直す』（有志舎、2018） 近世から近代へと時代が移り変わるとき、日本列島地域に何が起こったのか。それはどのような影響	
21.成績評価	学期末レポート 90% 日常点 10% 基本的には学期末のレポートによって評価を行う（内容等は授業のなかで説明する）。 くわえて、毎回、web 上で授業への感想や質問を募集する。提出するかどうかは任意とするが、授業に資するものには前記の範囲で加点を行う（減点は行わない）。ただしいわゆる出席点（この場合、座っているだけで付く点数）を付すためのものではないので、必ずしも提出者全員に加点するわけではない。	
22.コメント	本講義は全体を通じてオンデマンドで実施する。オンデマンド式の授業は「自分から学ぶ」という態度が対面授業以上に重要となる形態だと言えよう。よって、基本的な用語などで分からない点は復習・予習によって補う、それでもわからない点は web からのコメントなどで質問するといった能動的な姿勢で受講されることを期待したい。	
23.オフィスアワー	オンデマンド授業であるため、web からのコメントや掲示板機能などを用いて質問等を受け付ける。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	近代日本から考える 授業の進め方などに関する説明・導入。	予習:シラバスを読む。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
2	明治憲法体制成立編①近世の諸相 近代の 1 つ前の時代・近世について、東アジアと西ヨーロッパを比較しながら考え、それがどのように近代につながっていくのかを検討する。	予習:「近世」という言葉の意味について web などで調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
3	明治憲法体制成立編②近代日本の出発 ウェスタン・インパクトと呼ばれる現象がどのような影響を与えたのかという視点から近代日本の出発を考える。	予習:幕末期の日本について必要に応じ教科書などを読んでおく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
4	明治憲法体制成立編③王政復古と近代天皇制の誕生 近代日本を考えるうえで欠かせない近代天皇制がどのような特徴をもち、それがいかなる課題に応えるために誕生してきたのかについて検討する。	予習:web などで「王政復古大号令」について調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
5	明治憲法体制成立編④明治憲法の制定 「国の形」とも呼ばれる憲法がこれまでの授業で見てきた流れの中からどのような影響を受け、いかなる特徴をもって成立したのかを考える。	予習:第 1 回授業で示した大日本帝国憲法（明治憲法）の「不思議な点」がなぜ生じたのかについて、これまでの授業内容から自分なりの答えを考えてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。

6	明治憲法体制運用編①帝国議会と藩閥政府 憲法の誕生とともに生まれた帝国議会の特徴、そして議会と藩閥政府との関係を中心に明治憲法体制の出発を考える。	予習:帝国議会を構成した貴族院と衆議院について web など調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
7	明治憲法体制運用編②彼らが政党を求めた理由 今日まで多くの国で政治を担う政党。日本における政党がどのように政治的影響力を伸ばしていったのかについて、明治憲法体制との関係を中心に考える。	予習:政党の役割について一般的にどのようなことが期待されているのかについて調べてみる（現在の政党についてで問題ない）。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
8	明治憲法体制運用編③政党・官僚と「議会の時代」 憲法とともにスタートした帝国議会が政治の中枢を担っていく時代がどのように成立してきたのかについて、政党と官僚との関係という視点から検討する。	予習:日本初の政党内閣である第1次大隈重信内閣について、web などを使って調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
9	明治憲法体制運用編④「国民」の登場 近代日本の重要な構成要素である「国民」が政治的な意味でどのように「登場」してくるのかについて考える。	予習:「国民国家」という語の意味について web などを使って調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
10	明治憲法体制運用編⑤大正政治史の出発 時代が明治から大正へと移り変わるなかで、どのような新たな課題が現れ、またどのような課題が明治から引き継がれたのかについて考える。	予習:第1次護憲運動について web などを使って調べてみる。。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
11	明治憲法体制運用編⑥「大衆化」と挙国一致 第1次世界大戦前後から世界的に現れてくる「大衆化」現象と同時期に日本政治のキーワードとなった「挙国一致」という語がもった意味を連関的に検討する。	予習:「大衆」や「大衆化（社会）」といった言葉について、web などを使って調べてみる。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
12	明治憲法体制運用編⑥憲政常道と両院縦断 政党政治の時代が本格的に訪れるなかで、そこにおける政治のあり方をめぐる2つの政党政治構想と両者の衝突が与えた影響を考える。	予習:これまでの授業から政党に対する2つの期待について振り返っておく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
13	明治憲法体制運用編⑦&崩壊編①政党内閣期は「衆議院の時代」なのか 政党勢力が連続的に政権を担った時代・政党内閣期。この時代の特徴を明治憲法体制との関係また国民の代表が政治を担うということがもった意味という視点から考える。	予習:「政党内閣期」の流れについて、教科書や web などを使って確認しておく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメントする。
14	明治憲法体制崩壊編②「真の代表」と統合主体の不在 衆議院が国民の代表として期待できないと考えられたとき、どのような現象が生じたのか、また政党の勢力減退はいかなる影響を与えたのか。こうした問題を明治憲法体制が出発地点の段階から有するタテマエとの	予習:近代日本の「変えられないタテマエ」とはどのようなものであったか、これまでの授業を振り返っておく。 事後:授業内容で分からなかった点などを復習。必要があれば web から質問や意見をコメ

	関係からとらえ、明治憲法体制の崩壊について考える。	ントする。
15	再び近代日本から考える これまでの授業を振り返りつつ、明治憲法体制が戦後に与えた影響を検討し、あらためて近代という時代、またその延長上にある現在について考える。	予習:14 回目までの授業を振り返っておく。 事後:レポート作成の準備を進める。

1.授業コード (ナンバリング)	HIS102-M51	2.科目名	外国史概説		3.単位数	2
4.授業担当教員	波部雄一郎					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学部			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、ヨーロッパやアメリカを中心に、古代から現代までの幅広い時代の歴史を考えます。現代の日本に生きる私たちから時間も距離も隔たった、過去の、さらに西洋という歴史を学ぶことには、二つの意義があるでしょう。ひとつは、現代の社会に大きな影響を与えた西洋文化のルーツや、その変化を知ることです。これはグローバルな世界に生きる私たちにとって重要なことです。もうひとつは、現代の社会や文化と過去の社会や文化の違いを知ることにより、自分たちとは違う他者の文化の理解につながるとと思われるからです。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①西洋世界の歴史について、重要な出来事や事件についてさまざまな面から考察し、西洋の文化について基本的な知識や国際的な価値観を身につけることを目標とします。 ?歴史学を学ぶことで、現代のさまざまな問題を考察する力を養います。 ③毎回のレポート課題や期末レポートの作成を通し、問題点をまとめる能力、文章を論理的に作成する能力を養成します。 【DP との関連】 この授業では、本学 DP「多様な文化や背景を理解し受け入れる能力」の涵養を目指します。					
19.教科書・教材	特にありません。					
20.参考文献	毎回の参考文献は、授業中に紹介します。 受講する前に、高等学校の世界史の教科書を復習するのが望ましいです。例えば、以下のものを推奨します。 「世界の歴史」編集委員会（編）『新もう一度読む山川世界史』山川出版社、2017 年。					
21.成績評価	【評価方法＝コメントペーパー50％＋期末レポート 50％】 ①コメントペーパーの作成 ・ Web Class を使用して、毎授業時に授業のまとめと授業内容へ感想・質問を記入してもらいます。 ・ 適切な回答、または講義内容への理解を深めようとする積極性に対して加点します。 ※1 提出回数が全体の 50％未満の場合は成績には反映されません。 ※2 適切な回答と判断できない場合、採点対象とはしません。 ※3.その他不正などが判明した場合は、採点対象外とします。 ?期末レポート ・ 課題について適切な論述ができていないか、					
22.コメント	受講者数に応じて、シラバスの内容を変更する場合があります。					
23.オフィスアワー	授業後に適宜対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【イントロダクション】 ・ 授業の進め方について ・ 「歴史」を学ぶ意味について					
第 2 回	「都市」と「文字」のはじまり：古代オリエントの文			・ 授業ノート、配付資料を参照し復習		

	化と「旧約聖書」	・コメントペーパーの作成
第 3 回	古代ギリシアの「歴史」と「神話」：「パルテノン神殿」から考える	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 4 回	クレオパトラの「三つの顔」：古代エジプトにおける「ヘレニズム」文化とローマの地中海進出	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 5 回	「クリスマスの誕生」：ローマ帝国の文化とキリスト教の成立	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 6 回	女性教皇ヨアンナの伝説：中世ヨーロッパとカトリック教会	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 7 回	「ジャンヌ・ダルク」の時代のヨーロッパ：黒死病の影響と中世後期の社会	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 8 回	神と木版画が変えたヨーロッパ：ルネサンスの文化とルターの宗教改革	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 9 回	ヨーロッパと「新世界」：戦国時代の日本と大航海時代	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 10 回	大西洋の二つの革命：アメリカ独立革命とフランス革命	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 11 回	アメリカ南北戦争と幕末日本：19 世紀の欧米世界と日本	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 12 回	「アラビアのロレンス」：19 世紀末から第一次世界大戦までの世界	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 13 回	ホロコーストと原子爆弾：第二次世界大戦と戦後の世界	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 14 回	ウクライナ戦争とパレスチナ問題：21 世紀の世界	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 15 回	全体のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS102-y51	2.科目名	外国史概説		3.単位数	2
4.授業担当教員	波部雄一郎					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学部			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、ヨーロッパやアメリカを中心に、古代から現代までの幅広い時代の歴史を考えます。現代の日本に生きる私たちから時間も距離も隔たった、過去の、さらに西洋という歴史を学ぶことには、二つの意義があるでしょう。ひとつは、現代の社会に大きな影響を与えた西洋文化のルーツや、その変化を知ることです。これはグローバルな世界に生きる私たちにとって重要なことです。もうひとつは、現代の社会や文化と過去の社会や文化の違いを知ることにより、自分たちとは違う他者の文化の理解につながるとと思われるからです。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①西洋世界の歴史について、重要な出来事や事件についてさまざまな面から考察し、西洋の文化について基本的な知識や国際的な価値観を身につけることを目標とします。 ?歴史学を学ぶことで、現代のさまざまな問題を考察する力を養います。 ③毎回のレポート課題や期末レポートの作成を通し、問題点をまとめる能力、文章を論理的に作成する能力を養成します。 【DP との関連】 この授業では、本学 DP「多様な文化や背景を理解し受け入れる能力」の涵養を目指します。					
19.教科書・教材	特にありません。					
20.参考文献	毎回の参考文献は、授業中に紹介します。 受講する前に、高等学校の世界史の教科書を復習するのが望ましいです。例えば、以下のものを推奨します。 「世界の歴史」編集委員会（編）『新もう一度読む山川世界史』山川出版社、2017 年。					
21.成績評価	【評価方法＝コメントペーパー50％＋期末レポート 50％】 ①コメントペーパーの作成 ・ Web Class を使用して、毎授業時に授業のまとめと授業内容へ感想・質問を記入してもらいます。 ・ 適切な回答、または講義内容への理解を深めようとする積極性に対して加点します。 ※1 提出回数が全体の 50％未満の場合は成績には反映されません。 ※2 適切な回答と判断できない場合、採点対象とはしません。 ※3.その他不正などが判明した場合は、採点対象外とします。 ?期末レポート ・ 課題について適切な論述ができているか、					
22.コメント	受講者数に応じて、シラバスの内容を変更する場合があります。					
23.オフィスアワー	授業後に適宜対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【イントロダクション】 ・ 授業の進め方について ・ 「歴史」を学ぶ意味について					
第 2 回	「都市」と「文字」のはじまり：古代オリエントの文			・ 授業ノート、配付資料を参照し復習		

	化と「旧約聖書」	・コメントペーパーの作成
第 3 回	古代ギリシアの「歴史」と「神話」：「パルテノン神殿」から考える	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 4 回	クレオパトラの「三つの顔」：古代エジプトにおける「ヘレニズム」文化とローマの地中海進出	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 5 回	「クリスマスの誕生」：ローマ帝国の文化とキリスト教の成立	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 6 回	女性教皇ヨアンナの伝説：中世ヨーロッパとカトリック教会	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 7 回	「ジャンヌ・ダルク」の時代のヨーロッパ：黒死病の影響と中世後期の社会	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 8 回	神と木版画が変えたヨーロッパ：ルネサンスの文化とルターの宗教改革	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 9 回	ヨーロッパと「新世界」：戦国時代の日本と大航海時代	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 10 回	大西洋の二つの革命：アメリカ独立革命とフランス革命	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 11 回	アメリカ南北戦争と幕末日本：19 世紀の欧米世界と日本	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 12 回	「アラビアのロレンス」：19 世紀末から第一次世界大戦までの世界	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 13 回	ホロコーストと原子爆弾：第二次世界大戦と戦後の世界	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 14 回	ウクライナ戦争とパレスチナ問題：21 世紀の世界	・授業ノート、配付資料を参照し復習 ・コメントペーパーの作成
第 15 回	全体のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS103-A51	2.科目名	日本文化史（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	石橋知之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会 1 種教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では書籍・出版文化をテーマとして、江戸時代を中心に日本文化の歴史について講義します。書籍を出版する本屋の営業形態、書籍の流通環境、書籍を享受し読書する人々のすがたを学び、情報媒体（メディア）としての「書籍」が社会や政治に及ぼす影響を歴史的に見つめ直し、現代社会を相対化し客観的に捉え直すことを目的とします。 【概要】 本科目はオンデマンド授業として実施します。Zoom にて予め録画した授業映像の URL を WebClass で公開します。履修した学生は各自、自由な場所・時間で受講してください。履修登録後、授業に関する案内は全て WebClass で通知します。学習時には、ネットワークに接続された P C が必須です。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 日本史について、社会的・文化的背景の理解を深めることで、現代社会における価値観との異同を発見し、私たちが生きる社会を多角的に考察する能力を養う。 2 社会や文化の構造を理解し、その中で生きる人々の営みを知ることで、自分自身と現代社会との関係性を客観的に見つめ直すことができる。 【関連するディプロマポリシー】 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業内にて適宜プリントを配布します。					
20.参考文献	1 橋口侯之介『和本入門 千年生きる書物の世界』平凡社、2005 年 2 油井宏子監修・柏書房編集部編『江戸時代&古文書 虎の巻』柏書房、2009 年 そのほか、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法及びその配点 1 コメントペーパーの作成 40%（WebClass を活用して実施します。毎授業終了後にその授業の内容について、感想や質問、授業を通して自ら考えた意見などを記入して提出してください。 本授業はオンデマンド授業になりますので、コメントペーパーの提出を以て出席とみなします。 未提出（欠席）が 5 回を超えた場合（6 回目の未提出）は資格喪失とみなし、「不可」としますので、履修の際は気をつけてください。 2 学期末レポート 60%（授業に対する理解度の確認、授業を踏まえた自発的な問題発見・解決力を					
22.コメント	日本の歴史文化にぜひ興味をもち、深く考える機会としてください。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない。 成績評価に関わる課題について、生成 AI の利用が認められる場合は成績を不可とする。					
23.オフィスアワー	オフィスアワーは特に指定しません。授業に関する質問は WebClass のメール機能より随時連絡してください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	【イントロダクション】 ①授業の進め方・評価方法の説明 ②授業の目的・概要の説明	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第2回	【「文化史」を見つめ直す】 高等学校で学んだ日本史科目のイメージの捉え直しをはかる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第3回	【歴史学とは何か】 生野銀山に残る地域歴史資料を題材に、古文書や古書籍から歴史を考える機会とする。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第4回	【メディア＝書籍の歴史】 東アジアにおける文字の登場～書籍の登場、及びその形態の変化をたどる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第5回	【日本の出版史】 奈良時代から鎌倉・室町、江戸時代まで日本の出版史を振り返る。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第6回	【江戸時代と文字社会】 江戸時代がどれほど文字を扱う社会だったかを考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第7回	【古文書から歴史を読み解く】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字に触れてみる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第8回	【江戸時代の文芸・演芸と歴史観】 江戸時代に流行した文芸作品や演劇から、史実とフィクションの関係をみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第9回	【情報流通と社会】 江戸時代に発生した情報をめぐる様々な社会問題をみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第10回	【江戸幕府と本屋仲間】 江戸幕府による出版政策と本屋の同業組合の運営について考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第11回	【幕末社会と本屋】 幕末の動乱と本屋の経営、情報流通社会についてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第12回	【謎の生物「ウキキ」とは？】 「ウキキ」という謎の生物を題材に、江戸時代の本草学や人々が抱いた生き物のイメージについて考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第13回	【本屋と書籍流通①】 姫路・福崎町を事例に、地方本屋による古本の流通についてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第14回	【本屋と書籍流通②】 大阪・伊丹を事例に、都市の本屋と地方の本屋の経営の違いについてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第15回	【蔵書のゆくえ】 授業全体を振り返る内容として、伊丹の蔵書家に注目	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判

	し、江戸時代の書籍の収集、読書の環境をみていく。 また江戸時代の蔵書が近代の図書館へといかに展望して いくのかを考える。	断)

1.授業コード (ナンバリング)	HIS103-m51	2.科目名	日本文化史（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	石橋知之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会 1 種教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では書籍・出版文化をテーマとして、江戸時代を中心に日本文化の歴史について講義します。書籍を出版する本屋の営業形態、書籍の流通環境、書籍を享受し読書する人々のすがたを学び、情報媒体（メディア）としての「書籍」が社会や政治に及ぼす影響を歴史的に見つめ直し、現代社会を相対化し客観的に捉え直すことを目的とします。 【概要】 本科目はオンデマンド授業として実施します。Zoom にて予め録画した授業映像の URL を WebClass で公開します。履修した学生は各自、自由な場所・時間で受講してください。履修登録後、授業に関する案内は全て WebClass で通知します。学習時には、ネットワークに接続された P C が必須です。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 日本史について、社会的・文化的背景の理解を深めることで、現代社会における価値観との異同を発見し、私たちが生きる社会を多角的に考察する能力を養う。 2 社会や文化の構造を理解し、その中で生きる人々の営みを知ることで、自分自身と現代社会との関係性を客観的に見つめ直すことができる。 【関連するディプロマポリシー】 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業内にて適宜プリントを配布します。					
20.参考文献	1 橋口侯之介『和本入門 千年生きる書物の世界』平凡社、2005 年 2 油井宏子監修・柏書房編集部編『江戸時代&古文書 虎の巻』柏書房、2009 年 そのほか、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法及びその配点 1 コメントペーパーの作成 40%（WebClass を活用して実施します。毎授業終了後にその授業の内容について、感想や質問、授業を通して自ら考えた意見などを記入して提出してください。 本授業はオンデマンド授業になりますので、コメントペーパーの提出を以て出席とみなします。 未提出（欠席）が 5 回を超えた場合（6 回目の未提出）は資格喪失とみなし、「不可」としますので、履修の際は気をつけてください。 2 学期末レポート 60%（授業に対する理解度の確認、授業を踏まえた自発的な問題発見・解決力を					
22.コメント	日本の歴史文化にぜひ興味をもち、深く考える機会としてください。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない。 成績評価に関わる課題について、生成 AI の利用が認められる場合は成績を不可とする。					
23.オフィスアワー	オフィスアワーは特に指定しません。授業に関する質問は WebClass のメール機能より随時連絡してください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	【イントロダクション】 ①授業の進め方・評価方法の説明 ②授業の目的・概要の説明	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第2回	【「文化史」を見つめ直す】 高等学校で学んだ日本史科目のイメージの捉え直しをはかる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第3回	【歴史学とは何か】 生野銀山に残る地域歴史資料を題材に、古文書や古書籍から歴史を考える機会とする。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第4回	【メディア＝書籍の歴史】 東アジアにおける文字の登場～書籍の登場、及びその形態の変化をたどる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第5回	【日本の出版史】 奈良時代から鎌倉・室町、江戸時代まで日本の出版史を振り返る。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第6回	【江戸時代と文字社会】 江戸時代がどれほど文字を扱う社会だったかを考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第7回	【古文書から歴史を読み解く】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字に触れてみる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第8回	【江戸時代の文芸・演芸と歴史観】 江戸時代に流行した文芸作品や演劇から、史実とフィクションの関係をみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第9回	【情報流通と社会】 江戸時代に発生した情報をめぐる様々な社会問題をみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第10回	【江戸幕府と本屋仲間】 江戸幕府による出版政策と本屋の同業組合の運営について考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第11回	【幕末社会と本屋】 幕末の動乱と本屋の経営、情報流通社会についてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第12回	【謎の生物「ウキキ」とは？】 「ウキキ」という謎の生物を題材に、江戸時代の本草学や人々が抱いた生き物のイメージについて考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第13回	【本屋と書籍流通①】 姫路・福崎町を事例に、地方本屋による古本の流通についてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第14回	【本屋と書籍流通②】 大阪・伊丹を事例に、都市の本屋と地方の本屋の経営の違いについてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第15回	【蔵書のゆくえ】 授業全体を振り返る内容として、伊丹の蔵書家に注目	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判

	し、江戸時代の書籍の収集、読書の環境をみていく。 また江戸時代の蔵書が近代の図書館へといかに展望して いくのかを考える。	断)

1.授業コード (ナンバリング)	HIS103-y51	2.科目名	日本文化史（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	石橋知之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会 1 種教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では書籍・出版文化をテーマとして、江戸時代を中心に日本文化の歴史について講義します。書籍を出版する本屋の営業形態、書籍の流通環境、書籍を享受し読書する人々のすがたを学び、情報媒体（メディア）としての「書籍」が社会や政治に及ぼす影響を歴史的に見つめ直し、現代社会を相対化し客観的に捉え直すことを目的とします。 【概要】 本科目はオンデマンド授業として実施します。Zoom にて予め録画した授業映像の URL を WebClass で公開します。履修した学生は各自、自由な場所・時間で受講してください。履修登録後、授業に関する案内は全て WebClass で通知します。学習時には、ネットワークに接続された P C が必須です。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 日本史について、社会的・文化的背景の理解を深めることで、現代社会における価値観との異同を発見し、私たちが生きる社会を多角的に考察する能力を養う。 2 社会や文化の構造を理解し、その中で生きる人々の営みを知ることで、自分自身と現代社会との関係性を客観的に見つめ直すことができる。 【関連するディプロマポリシー】 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業内にて適宜プリントを配布します。					
20.参考文献	1 橋口侯之介『和本入門 千年生きる書物の世界』平凡社、2005 年 2 油井宏子監修・柏書房編集部編『江戸時代&古文書 虎の巻』柏書房、2009 年 そのほか、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法及びその配点 1 コメントペーパーの作成 40%（WebClass を活用して実施します。毎授業終了後にその授業の内容について、感想や質問、授業を通して自ら考えた意見などを記入して提出してください。 本授業はオンデマンド授業になりますので、コメントペーパーの提出を以て出席とみなします。 未提出（欠席）が 5 回を超えた場合（6 回目の未提出）は資格喪失とみなし、「不可」としますので、履修の際は気をつけてください。 2 学期末レポート 60%（授業に対する理解度の確認、授業を踏まえた自発的な問題発見・解決力を					
22.コメント	日本の歴史文化にぜひ興味をもち、深く考える機会としてください。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない。 成績評価に関わる課題について、生成 AI の利用が認められる場合は成績を不可とする。					
23.オフィスアワー	オフィスアワーは特に指定しません。授業に関する質問は WebClass のメール機能より随時連絡してください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	【イントロダクション】 ①授業の進め方・評価方法の説明 ②授業の目的・概要の説明	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第2回	【「文化史」を見つめ直す】 高等学校で学んだ日本史科目のイメージの捉え直しをはかる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第3回	【歴史学とは何か】 生野銀山に残る地域歴史資料を題材に、古文書や古書籍から歴史を考える機会とする。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第4回	【メディア＝書籍の歴史】 東アジアにおける文字の登場～書籍の登場、及びその形態の変化をたどる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第5回	【日本の出版史】 奈良時代から鎌倉・室町、江戸時代まで日本の出版史を振り返る。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第6回	【江戸時代と文字社会】 江戸時代がどれほど文字を扱う社会だったかを考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第7回	【古文書から歴史を読み解く】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字に触れてみる。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第8回	【江戸時代の文芸・演芸と歴史観】 江戸時代に流行した文芸作品や演劇から、史実とフィクションの関係をみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第9回	【情報流通と社会】 江戸時代に発生した情報をめぐる様々な社会問題をみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第10回	【江戸幕府と本屋仲間】 江戸幕府による出版政策と本屋の同業組合の運営について考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第11回	【幕末社会と本屋】 幕末の動乱と本屋の経営、情報流通社会についてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第12回	【謎の生物「ウキキ」とは？】 「ウキキ」という謎の生物を題材に、江戸時代の本草学や人々が抱いた生き物のイメージについて考える。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第13回	【本屋と書籍流通①】 姫路・福崎町を事例に、地方本屋による古本の流通についてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第14回	【本屋と書籍流通②】 大阪・伊丹を事例に、都市の本屋と地方の本屋の経営の違いについてみていく。	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）
第15回	【蔵書のゆくえ】 授業全体を振り返る内容として、伊丹の蔵書家に注目	コメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判

	し、江戸時代の書籍の収集、読書の環境をみていく。 また江戸時代の蔵書が近代の図書館へといかに展望して いくのかを考える。	断)

1.授業コード (ナンバリング)	HIS105-A51	2.科目名	近現代の歴史	3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目は、中央ヨーロッパ地域の歴史を中心に、近現代におきた歴史的な出来事を学ぶことを目的とします。 ハプスブルク家が長く統治した中央ヨーロッパ地域では、宗教や民族をめぐって様々な対立があり、その中で大きな戦争や体制転換が繰り返されてきました。なぜ人々是对立し、どのようにして対立を克服しようとしてきたのでしょうか。また、どのような対立が現在でも残されているのでしょうか。これらの問題に焦点を当てることで、日本を含めたグローバルな視点を獲得することを目指します。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の具体的な学習目標を以下の通りです。 ①近現代の歴史に関する基本的な知識を身につける。 ②外国史に関する知識を身につける。 ③上記の知識に基づいて、異なる文化や価値観に対する理解を深める。				
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。				
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。				
21.成績評価	・コメントペーパーの作成 30％ （毎回の授業終了時に感想や質問などを記してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・授業への参加度 20％ （担当教員の質問に対する積極性） ・総括試験テスト 50％ （授業内容に関する論述問題を出题します。）				
22.コメント	この授業では、高校までの世界史の知識を前提とはしませんが、分からないことがある場合は、まずは自分で調べてみてください。そのうえで分からないことがあれば積極的に質問してください。 生成 AI の利用：いかなる利用も認めない				
23.オフィスアワー	授業前後、教室にて。 それ以外の時間は、web-class のメッセージで質問等を受け付けます。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	・ガイダンス ・講義「イントロダクション：ハプスブルク家とヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成			・復習および授業ノートの整理	
第 2 回	・質問への回答 ・講義「神聖ローマ帝国とハプスブルク君主国」 ・コメントペーパーの作成			・復習および授業ノートの整理	

第 3 回	・ 質問への回答 ・ 講義「フランス革命と戦争」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 4 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ウィーン体制下のヨーロッパ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 5 回	・ 質問への回答 ・ 講義「国民国家の形成：ドイツの統一」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 6 回	・ 質問への回答 ・ 講義「多民族国家ハプスブルク帝国：アウスグライヒ体制の成立」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 7 回	・ 質問への回答 ・ 講義「第一次世界大戦の勃発」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 8 回	・ 質問への回答 ・ 講義「第一次世界大戦と日本：日本における捕虜収容所」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 9 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ポスト・ハプスブルクの国々」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 10 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ナチ化するドイツ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 11 回	・ 質問への回答 ・ 講義「オーストリア合邦から第二次世界大戦へ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 12 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ナチスの経験とその克服」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 13 回	・ 質問への回答 ・ 講義「東欧革命と EU 拡大」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 14 回	・ 質問への回答 ・ 講義「まとめ：対立と融和の近現代史」	・ 復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	HOC102-a51	2.科目名	教育社会学（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。					
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる					
19.教科書・教材	授業中に紹介する。					
20.参考文献	授業中に紹介する。					
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）					
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと			授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。		
2 回目	共感的理解-この授業での理解					
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態					
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法ーいじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に					
5 回目	不登校（1）見る					
6 回目	不登校（2）知る					
7 回目	不登校（3）理解する					
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から					
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例					
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例					
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義					
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている					

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-A51	2.科目名	人間学Ⅰ（Aグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、谷口一也、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。 KUISSs 学修ベンチマークの「多様性理解」と「問題発見・解決力」のレベル・アップを本科目では目指している。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。					

	これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <科学技術と生命> 谷口一也 私たちは科学技術の恩恵を受け、私たちの生活は豊かになった。また、細胞医療や自動運転技術など様々な分野で新たな科学技術が生まれている。私の担当分では、科学技術の素晴らしさを理解したうえで、科学技術の問題点をいくつかの視点で考えてみたい。具体的には、ノーベル賞、ウイルス、遺伝子に関する話題を取り上げ、科学技術に関する現状を理解し、課題を把握したうえで、グループワークによる議論等を行っていく。また、「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。これらの活動を通して、様々な課題・問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<濱名 篤> 第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなもののなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種・民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の“何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1-2	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなもののなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなもののなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま
輪講 1-3	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろう？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものののかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また“自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講 1-4	第4回 少子高齢化社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。	【アサインメント】 ①日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか

	女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・共育が標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	(400字)。【所要時間 20分】 ②「人生100年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1-5	第5回 「働き方改革」と社会人の学び直し “2024年問題”や“2025年問題”が問題になり、日本社会では「働き方改革」が求められています。他方、AI等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施	【アサインメント】なし
輪講 2-1	<濱名陽子> 第1回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 2-2	第2回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 2-3	第3回 学校教育と教育機会の平等（その1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうかが自分の意見を書いてくる。【所要時間 60分】
輪講 2-4	第4回 学校教育と教育機会の平等（その2） 第3回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこ	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360分】

	と（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360分】 課題A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方が生まれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<谷口一也> 第1回 科学とノーベル賞 現代科学についての概要をつかんだうえで、日本人のノーベル賞やノーベル賞にまつわる不平等に関して考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：ノーベル賞受賞者について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-2	第2回 ウイルスとは何か ウイルスとは何かを理解するために、コロナウイルスやジカウイルス、エイズウイルス、ヒトパピローマウイルスなどについて学び、ワクチンや感染症対策に関して自ら考える姿勢を身に付けていく。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：出生前診断について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-3	第3回 社会人のためのSDGs基礎知識 「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。特に、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる森林や環境について考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○本日の課題：SDGsの目標を1つ取り上げ、ワークシートの項目に沿ってまとめる。【所要時間 60分】
輪講 3-4	第4回 がん教育 “がん”は日本人の2人に1人がかかる病気である。また、小・中学校においてがん教育も行われるようになってきた。がんに関する基本的な知識を学び、その予防や検診に関して自ら考える力を身に着ける。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60分】
輪講 3-5	第5回 ゲノム編集と遺伝 ゲノム編集食品が近年販売されるようになった。ゲノム編集とは何か、について学び、その有用性と注意点について考える。また、鎌状赤血球貧血症などを材料に遺伝の不思議についても考える。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業で説明する）。 * 調べた内容600字以上、自分の考えは200字以上書くこと。 【所要時間 360分】 【生成系AIの活用に関して】	

	クール課題（人間学、谷口担当分）では生成系 AI や 様々なホームページ、文献	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-A52	2.科目名	人間学Ⅰ（Bグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、谷口一也、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりと自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。 KUISSs 学修ベンチマークの「多様性理解」と「問題発見・解決力」のレベル・アップを本科目では目指している。					
18.学習目標と DPとの関連	<DPとの関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。					

	これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <科学技術と生命> 谷口一也 私たちは科学技術の恩恵を受け、私たちの生活は豊かになった。また、細胞医療や自動運転技術など様々な分野で新たな科学技術が生まれている。私の担当分では、科学技術の素晴らしさを理解したうえで、科学技術の問題点をいくつかの視点で考えてみたい。具体的には、ノーベル賞、ウイルス、遺伝子に関する話題を取り上げ、科学技術に関する現状を理解し、課題を把握したうえで、グループワークによる議論等を行っていく。また、「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。これらの活動を通して、様々な課題・問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3＝54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<濱名 篤> 第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなもののなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種・民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを400字程度にまとめる。【所要時間 30分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の“何を”評価すると思うか。【所要時間 20分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1-2	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなもののなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなもののなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から1つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的にどのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200字程度）【所要時間 30分】 ②自分が就こうとしている職業にAI（生成AIを含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400字程度）。【所要時間 60分】 ※指定する期日ま
輪講 1-3	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろう？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものののかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また“自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講 1-4	第4回 少子高齢化社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。	【アサインメント】 ①日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか

	女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・共育が標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	(400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1-5	第 5 回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施	【アサインメント】なし
輪講 2-1	<濱名陽子> 第 1 回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-2	第 2 回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-3	第 3 回 学校教育と教育機会の平等（その 1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-4	第 4 回 学校教育と教育機会の平等（その 2） 第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこ	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	と（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360分】 課題A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方が生まれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<谷口一也> 第1回 科学とノーベル賞 現代科学についての概要をつかんだうえで、日本人のノーベル賞やノーベル賞にまつわる不平等に関して考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：ノーベル賞受賞者について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-2	第2回 ウイルスとは何か ウイルスとは何かを理解するために、コロナウイルスやジカウイルス、エイズウイルス、ヒトパピローマウイルスなどについて学び、ワクチンや感染症対策に関して自ら考える姿勢を身に付けていく。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：出生前診断について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-3	第3回 社会人のためのSDGs基礎知識 「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。特に、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる森林や環境について考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○本日の課題：SDGsの目標を1つ取り上げ、ワークシートの項目に沿ってまとめる。【所要時間 60分】
輪講 3-4	第4回 がん教育 “がん”は日本人の2人に1人がかかる病気である。また、小・中学校においてがん教育も行われるようになってきた。がんに関する基本的な知識を学び、その予防や検診に関して自ら考える力を身に着ける。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60分】
輪講 3-5	第5回 ゲノム編集と遺伝 ゲノム編集食品が近年販売されるようになった。ゲノム編集とは何か、について学び、その有用性と注意点について考える。また、鎌状赤血球貧血症などを材料に遺伝の不思議についても考える。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業で説明する）。 * 調べた内容600字以上、自分の考えは200字以上書くこと。 【所要時間 360分】 【生成系AIの活用に関して】	

	クール課題（人間学、谷口担当分）では生成系 AI や 様々なホームページ、文献	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-A53	2.科目名	人間学Ⅰ（Cグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、谷口一也、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりと自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。 KUISSs 学修ベンチマークの「多様性理解」と「問題発見・解決力」のレベル・アップを本科目では目指している。					
18.学習目標と DPとの関連	<DPとの関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学DPと関連します。 ・DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。					

	これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <科学技術と生命> 谷口一也 私たちは科学技術の恩恵を受け、私たちの生活は豊かになった。また、細胞医療や自動運転技術など様々な分野で新たな科学技術が生まれている。私の担当分では、科学技術の素晴らしさを理解したうえで、科学技術の問題点をいくつかの視点で考えてみたい。具体的には、ノーベル賞、ウイルス、遺伝子に関する話題を取り上げ、科学技術に関する現状を理解し、課題を把握したうえで、グループワークによる議論等を行っていく。また、「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。これらの活動を通して、様々な課題・問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3＝54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。
23.オフィスアワー	未定

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<濱名 篤> 第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなもののなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種・民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを400字程度にまとめる。【所要時間 30分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の“何を”評価すると思うか。【所要時間 20分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1-2	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなもののなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなもののなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から1つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200字程度）【所要時間 30分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400字程度）。【所要時間 60分】 ※指定する期日ま
輪講 1-3	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろう？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものののかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また“自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講 1-4	第4回 少子高齢化社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。	【アサインメント】 ①日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか

	女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・子育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	(400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1-5	第 5 回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施	【アサインメント】なし
輪講 2-1	<濱名陽子> 第 1 回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間 60 分】
輪講 2-2	第 2 回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-3	第 3 回 学校教育と教育機会の平等（その 1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうかが自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-4	第 4 回 学校教育と教育機会の平等（その 2） 第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこ	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	と（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360分】 課題A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方が生まれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<谷口一也> 第1回 科学とノーベル賞 現代科学についての概要をつかんだうえで、日本人のノーベル賞やノーベル賞にまつわる不平等に関して考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：ノーベル賞受賞者について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-2	第2回 ウイルスとは何か ウイルスとは何かを理解するために、コロナウイルスやジカウイルス、エイズウイルス、ヒトパピローマウイルスなどについて学び、ワクチンや感染症対策に関して自ら考える姿勢を身に付けていく。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：出生前診断について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-3	第3回 社会人のためのSDGs基礎知識 「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。特に、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」に関わる森林や環境について考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○本日の課題：SDGsの目標を1つ取り上げ、ワークシートの項目に沿ってまとめる。【所要時間 60分】
輪講 3-4	第4回 がん教育 “がん”は日本人の2人に1人がかかる病気である。また、小・中学校においてがん教育も行われるようになってきた。がんに関する基本的な知識を学び、その予防や検診に関して自ら考える力を身に着ける。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60分】
輪講 3-5	第5回 ゲノム編集と遺伝 ゲノム編集食品が近年販売されるようになった。ゲノム編集とは何か、について学び、その有用性と注意点について考える。また、鎌状赤血球貧血症などを材料に遺伝の不思議についても考える。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業で説明する）。 * 調べた内容600字以上、自分の考えは200字以上書くこと。 【所要時間 360分】 【生成系AIの活用に関して】	

	クール課題（人間学、谷口担当分）では生成系 AI や 様々なホームページ、文献	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-M51	2.科目名	人間学Ⅱ（Aグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、佐藤恭仁彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 *各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <グローバル社会を生きる視点>（佐藤恭仁彦） 「国際社会のグローバル化」とは、「人・モノ・カネ・情報が国境を越えて自由に移動し、結びつき、世界の一体化が進むこと」をさす。日本でも、インバウンド観光客の増加や、外国人の働き手によって支えられている地域社会など、社会のグローバル化が急速に進んでいる。 これまで日本国内であたりまえとされていたものが、実は世界の中ではあたりまえでなかった。そのような、社会を共に生きていく上での視点を学ぶ。 <災害を生き抜くために>（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この5回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が					

	必要なかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> (北村正仁) 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」(ロジカルシンキング)の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト(下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること。 <佐藤恭仁彦> ◎『哲学古典授業 ミル「自由論」の歩き方』 児玉聡著 光文社新書 2024年12月 ◎『科学史家の宗教論ノート』 村上陽一郎著 中公新書クラレ 2025年1月 ◎『ひとはなぜ戦争をするのか』 A.アインシュタイン/S.フロイト 講談社学術文庫 2016年6月 ◎『緒方貞子ー難民支援の現場から』 東野真取材・編集 集英社新書 2003年6月 ◎『グッド・モーニング・トゥー・ユー! ケニアで障	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート(3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する) 48点 最終課題(共通課題) 予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか? 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰も「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕なぜ人間は悩むのか?「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間30分】
輪講 1-2	第2回 物事を構造的に捉える(ロジックツリー)	〔事前準備〕自分自身や身近な悩み事や迷い

	論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECE は、論理的思考（ロジカル・シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークでも活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解説策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<佐藤恭仁彦> 第1回：自由について 日本国憲法は、私たちが持つさまざまな自由を「基本的人権」として規定し、その内容を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて…侵すことのできない永久の権利」と述べる。私たちが「人類の努力の成果」として持つ「自由」とはどのようなものか、生まれた国によって国民の自由が異なるのはなぜ	〔事前準備〕 日本国憲法の以下の条文を、読んでください。11条～13条、14条、19条～28条、31条～40条、79条。その上で、あなたにとって「これは自分には絶対必要」と思う権利（自由）と、「これは自分にはなくてもよい」と思う権利（自由）を挙げ、理由を考えてください。（90分）

	か。「自由」とそれをささえる（はずの）「民主主義」について考える。"	〔アサインメント〕 なし
輪講 2-2	第2回：信仰と宗教について 日本では、大多数の人が「無宗教」であることが当然のように思われている。しかし、例えばアジアのイスラム教の国々へ行って「私は無宗教です」と言うと、「いったいこの人はまともな人間なのだろうか」と疑われることになる。一方、信仰・宗教の違いは、ときとして対立や紛争の理由となる。世界の人々にとっての宗教とその意味について考える。	〔事前準備〕 世界三大宗教と言われる、仏教、キリスト教及びイスラム教（+あなたが信じる宗教があればその宗教）の「教え」について調べ、あなたが納得または共感しやすい宗教があるか否かと、理由を考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-3	第3回：戦争について 戦争をやめ、平和な世界をつくろうという試みは、古くからあった。1920年代には多くの国が参加した「不戦条約」が結ばれ、国際的な軍縮が試みられたが、そのような企ては失敗し、第二次世界大戦に至った。戦後、1990年代に東西冷戦が終わった後には、国対国の戦争だけでなく、内戦や、国をまたいだ武装集団によるテロなど、対立と争いも多様になった。世界で続く戦争、紛争と、難民など争いによって苦しむ人々について考える。"	〔事前準備〕 現在起きている戦争、国際紛争、内乱を一つ選び、概要をまとめ、過去どうしていたらその争いが防げたか、今後どうしたら争いを止めることができるのか、考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-4	第4回：貧困について 世界にはどうして豊かな国と貧しい国があるのか。また、一国の中でも貧富の格差、不平等が生じるのはなぜか。「貧しいが幸せ」ということはどのような状態を指すのか。貧困や格差をなくすためにはどのような方法が考えられるか。世界の貧困問題について考える。"	〔事前準備〕 世界で最も豊かな国々と最も貧しい国々との間で、国の政治や経済、人々の暮らし、子供の教育などにどのような差があるか、インターネットなどで調べたうえで、こうした貧困や格差をなくすにはどのような手立てが必要、有効か、考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-5	第5回：国際協力について グローバル社会の中で私たち世界市民が共に発展し、幸せになっていくために、どのような国際協力が必要なのか。日本政府や地方自治体が行っている国際協力や、NGOや個人の活動を通じた国際協力、さらに、日本国内のグローバル化に対応して地域社会で行われている「国内の国際協力」について考える。 〔クール小課題〕 あなたが、これから地域社会や国際社会でグローバルに活躍、貢献するとしたら（注：してください）、どのような分野で何ができるか。そのためには、関西国際大学で今後どのような学びを深め、学生	〔事前準備〕 事前配布資料に目を通しておいってください。（30分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 3-1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大き	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害についてweb等で調べる【所要時間30分】

	な災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間 30 分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間 30 分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例について web クラスの資料を閲覧する【所要時間 30 分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】 クール小課題【所要時間 30 0 分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 災害関連死について、①具体的な例（環境要因と行動要因）をあげ、②必要な事前対策と事後対応について自身の考えを述べなさい。関連するデータを1つ以上示すこと。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間 30 分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-M52	2.科目名	人間学Ⅱ (B グループ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、佐藤恭仁彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を 3 つのグループに分け、3 人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <グローバル社会を生きる視点> （佐藤恭仁彦） 「国際社会のグローバル化」とは、「人・モノ・カネ・情報が国境を越えて自由に移動し、結びつき、世界の一体化が進むこと」をさす。日本でも、インバウンド観光客の増加や、外国人の働き手によって支えられている地域社会など、社会のグローバル化が急速に進んでいる。 これまで日本国内であたりまえとされていたものが、実は世界の中ではあたりまえでなかった。そのような、社会を共に生きていく上での視点を学ぶ。 <災害を生き抜くために> （田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この 5 回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が					

	必要なかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> （北村正仁） 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」（ロジカルシンキング）の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること。 <佐藤恭仁彦> ◎『哲学古典授業 ミル「自由論」の歩き方』 児玉聡著 光文社新書 2024年12月 ◎『科学史家の宗教論ノート』 村上陽一郎著 中公新書クラレ 2025年1月 ◎『ひとはなぜ戦争をするのか』 A.アインシュタイン/S.フロイト 講談社学術文庫 2016年6月 ◎『緒方貞子－難民支援の現場から』 東野真取材・編集 集英社新書 2003年6月 ◎『グッド・モーニング・トゥ・ユー！ ケニアで障	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3＝54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1－1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰も「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕 なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1－2	第2回 物事を構造的に捉える（ロジックツリー）	〔事前準備〕 自分自身や身近な悩み事や迷い

	論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECE は、論理的思考（ロジカル・シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークでも活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解説策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<佐藤恭仁彦> 第1回：自由について 日本国憲法は、私たちが持つさまざまな自由を「基本的人権」として規定し、その内容を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて…侵すことのできない永久の権利」と述べる。私たちが「人類の努力の成果」として持つ「自由」とはどのようなものか、生まれた国によって国民の自由が異なるのはなぜ	〔事前準備〕 日本国憲法の以下の条文を、読んでください。11条～13条、14条、19条～28条、31条～40条、79条。その上で、あなたにとって「これは自分には絶対必要」と思う権利（自由）と、「これは自分にはなくてもよい」と思う権利（自由）を挙げ、理由を考えてください。（90分）

	か。「自由」とそれをささえる（はずの）「民主主義」について考える。"	〔アサインメント〕 なし
輪講 2-2	第2回：信仰と宗教について 日本では、大多数の人が「無宗教」であることが当然のように思われている。しかし、例えばアジアのイスラム教の国々へ行って「私は無宗教です」と言うと、「いったいこの人はまともな人間なのだろうか」と疑われることになる。一方、信仰・宗教の違いは、ときとして対立や紛争の理由となる。世界の人々にとっての宗教とその意味について考える。	〔事前準備〕 世界三大宗教と言われる、仏教、キリスト教及びイスラム教（+あなたが信じる宗教があればその宗教）の「教え」について調べ、あなたが納得または共感しやすい宗教があるか否かと、理由を考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-3	第3回：戦争について 戦争をやめ、平和な世界をつくろうという試みは、古くからあった。1920年代には多くの国が参加した「不戦条約」が結ばれ、国際的な軍縮が試みられたが、そのような企ては失敗し、第二次世界大戦に至った。戦後、1990年代に東西冷戦が終わった後には、国対国の戦争だけでなく、内戦や、国をまたいだ武装集団によるテロなど、対立と争いも多様になった。世界で続く戦争、紛争と、難民など争いによって苦しむ人々について考える。"	〔事前準備〕 現在起きている戦争、国際紛争、内乱を一つ選び、概要をまとめ、過去どうしていたらその争いが防げたか、今後どうしたら争いを止めることができるのか、考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-4	第4回：貧困について 世界にはどうして豊かな国と貧しい国があるのか。また、一国の中でも貧富の格差、不平等が生じるのはなぜか。「貧しいが幸せ」ということはどのような状態を指すのか。貧困や格差をなくすためにはどのような方法が考えられるか。世界の貧困問題について考える。"	〔事前準備〕 世界で最も豊かな国々と最も貧しい国々との間で、国の政治や経済、人々の暮らし、子供の教育などにどのような差があるか、インターネットなどで調べたうえで、こうした貧困や格差をなくすにはどのような手立てが必要、有効か、考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-5	第5回：国際協力について グローバル社会の中で私たち世界市民が共に発展し、幸せになっていくために、どのような国際協力が必要なのか。日本政府や地方自治体が行っている国際協力や、NGOや個人の活動を通じた国際協力、さらに、日本国内のグローバル化に対応して地域社会で行われている「国内の国際協力」について考える。 〔クール小課題〕 あなたが、これから地域社会や国際社会でグローバルに活躍、貢献するとしたら（注：してください）、どのような分野で何ができるか。そのためには、関西国際大学で今後どのような学びを深め、学生	〔事前準備〕 事前配布資料に目を通しておいってください。（30分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 3-1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大き	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害についてweb等で調べる【所要時間30分】

	な災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間 30 分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間 30 分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例について web クラスの資料を閲覧する【所要時間 30 分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】 クール小課題【所要時間 30 0 分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 災害関連死について、①具体的な例（環境要因と行動要因）をあげ、②必要な事前対策と事後対応について自身の考えを述べなさい。関連するデータを1つ以上示すこと。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間 30 分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-M53	2.科目名	人間学Ⅱ（Cグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、佐藤恭仁彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <グローバル社会を生きる視点>（佐藤恭仁彦） 「国際社会のグローバル化」とは、「人・モノ・カネ・情報が国境を越えて自由に移動し、結びつき、世界の一体化が進むこと」をさす。日本でも、インバウンド観光客の増加や、外国人の働き手によって支えられている地域社会など、社会のグローバル化が急速に進んでいる。 これまで日本国内であたりまえとされていたものが、実は世界の中ではあたりまえでなかった。そのような、社会を共に生きていく上での視点を学ぶ。 <災害を生き抜くために>（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この5回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が					

	必要なかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> （北村正仁） 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」（ロジカルシンキング）の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること。 <佐藤恭仁彦> ◎『哲学古典授業 ミル「自由論」の歩き方』 児玉聡著 光文社新書 2024年12月 ◎『科学史家の宗教論ノート』 村上陽一郎著 中公新書クラレ 2025年1月 ◎『ひとはなぜ戦争をするのか』 A.アインシュタイン/S.フロイト 講談社学術文庫 2016年6月 ◎『緒方貞子－難民支援の現場から』 東野真取材・編集 集英社新書 2003年6月 ◎『グッド・モーニング・トゥー・ユー！ ケニアで障	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3＝54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1－1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰も「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕 なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1－2	第2回 物事を構造的に捉える（ロジックツリー）	〔事前準備〕 自分自身や身近な悩み事や迷い

	論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECE は、論理的思考（ロジカル・シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークでも活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解説策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<佐藤恭仁彦> 第1回：自由について 日本国憲法は、私たちが持つさまざまな自由を「基本的人権」として規定し、その内容を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて…侵すことのできない永久の権利」と述べる。私たちが「人類の努力の成果」として持つ「自由」とはどのようなものか、生まれた国によって国民の自由が異なるのはなぜ	〔事前準備〕 日本国憲法の以下の条文を、読んでください。11条～13条、14条、19条～28条、31条～40条、79条。その上で、あなたにとって「これは自分には絶対必要」と思う権利（自由）と、「これは自分にはなくてもよい」と思う権利（自由）を挙げ、理由を考えてください。（90分）

	か。「自由」とそれをささえる（はずの）「民主主義」について考える。"	〔アサインメント〕 なし
輪講 2-2	第2回：信仰と宗教について 日本では、大多数の人が「無宗教」であることが当然のように思われている。しかし、例えばアジアのイスラム教の国々へ行って「私は無宗教です」と言うと、「いったいこの人はまともな人間なのだろうか」と疑われることになる。一方、信仰・宗教の違いは、ときとして対立や紛争の理由となる。世界の人々にとっての宗教とその意味について考える。	〔事前準備〕 世界三大宗教と言われる、仏教、キリスト教及びイスラム教（+あなたが信じる宗教があればその宗教）の「教え」について調べ、あなたが納得または共感しやすい宗教があるか否かと、理由を考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-3	第3回：戦争について 戦争をやめ、平和な世界をつくろうという試みは、古くからあった。1920年代には多くの国が参加した「不戦条約」が結ばれ、国際的な軍縮が試みられたが、そのような企ては失敗し、第二次世界大戦に至った。戦後、1990年代に東西冷戦が終わった後には、国対国の戦争だけでなく、内戦や、国をまたいだ武装集団によるテロなど、対立と争いも多様になった。世界で続く戦争、紛争と、難民など争いによって苦しむ人々について考える。"	〔事前準備〕 現在起きている戦争、国際紛争、内乱を一つ選び、概要をまとめ、過去どうしていたらその争いが防げたか、今後どうしたら争いを止めることができるのか、考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-4	第4回：貧困について 世界にはどうして豊かな国と貧しい国があるのか。また、一国の中でも貧富の格差、不平等が生じるのはなぜか。「貧しいが幸せ」ということはどのような状態を指すのか。貧困や格差をなくすためにはどのような方法が考えられるか。世界の貧困問題について考える。"	〔事前準備〕 世界で最も豊かな国々と最も貧しい国々との間で、国の政治や経済、人々の暮らし、子供の教育などにどのような差があるか、インターネットなどで調べたうえで、こうした貧困や格差をなくすにはどのような手立てが必要、有効か、考えてみてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2-5	第5回：国際協力について グローバル社会の中で私たち世界市民が共に発展し、幸せになっていくために、どのような国際協力が必要なのか。日本政府や地方自治体が行っている国際協力や、NGOや個人の活動を通じた国際協力、さらに、日本国内のグローバル化に対応して地域社会で行われている「国内の国際協力」について考える。 〔クール小課題〕 あなたが、これから地域社会や国際社会でグローバルに活躍、貢献するとしたら（注：してください）、どのような分野で何ができるか。そのためには、関西国際大学で今後どのような学びを深め、学生	〔事前準備〕 事前配布資料に目を通しておいってください。（30分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 3-1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大き	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害についてweb等で調べる【所要時間30分】

	な災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間 30 分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間 30 分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例について web クラスの資料を閲覧する【所要時間 30 分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】 クール小課題【所要時間 30 0 分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 災害関連死について、①具体的な例（環境要因と行動要因）をあげ、②必要な事前対策と事後対応について自身の考えを述べなさい。関連するデータを1つ以上示すこと。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間 30 分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-Y51	2.科目名	人間学Ⅱ（A グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、實川眞理子、宗田好史、森永速男					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <多文化共生とイノベーション>（實川眞理子） 人類は、環境問題、人種差別や偏見、貧富の格差、人口減少と高齢化など多様な社会問題に直面しているが、2020 年以降のコロナ禍はそうした矛盾をさらに拡大する役割を果たした。一方、第4次産業革命とデジタル化の波は社会全体の変革（イノベーション）を求めている。こうした複雑な社会課題に対して、課題解決の糸口を見つけるために我々は何をすべきだろうか。5 回の授業を通じて、①異文化理解と多文化共生、②第4次産業革命とイノベーションをテーマとして、行政、NPO、個人の取り組みについて学ぶ。特にイノベーションに関しては、本学が Western Sydney University（オーストラリア）と提携して取り組んでいる Venture Makers というカリキュラムの導入編（Venture Makers Basic）を活用して、イノベーションおよびスタートアップ（起業）について学ぶ。本講義をきっかけとして、多文化共生とイノベーションの時代に適応した、異文化理解力、共感力、起業家マインド、論理的思考力などを育成していくことを目的とする。なお、Venture Makers Basic を使った学習で一定の学習成果を挙げた学生には、本学の提携校である Western Sydney University からデジタルバッジが付与される。					

	〈地球・自然との共生〉 （森永速男） 本科目では、人類の住処である地球で起こる自然現象のメカニズムと自然現象がもたらす恩恵と脅威（自然災害）に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、私たち人類と地球・自然との共生や自然災害への備えについて考える。 地球で起こる自然現象（地震、火山噴火や豪雨）は時に大きな災害を人類にもたらす。しかし、地震や火山噴火により、富士山や六甲山のような美しい景観が作られてきた。また、火山噴火によってもたらされた物質は農業に必要な肥沃な土壌をもたらし、生命にとって重要な淡水や温泉を供給してくれている。さらに、降雨は度を超すと災害（風水害）になるが、適度な降雨は生命維持にとって不可欠な淡水を安定的に提供してくれている。 以上のように、地球で起こるこれらの自然現象を単に「災害＝悪」とみなすのではなく、自然現象がもたらす恩恵にも目を向け、自然現象の両面性を理解したうえで、人類はどう地球で暮らしていくのかを考察していく。この科目を通して培われた考える力は災害の多い時代に極めて重要なリテラシーとなると考えられる。 ＜世界遺産条約と国際連合＞ （宗田好史） 世界遺産条約が1972年のUNESCO（国連教育科学文化機関）総会で採択されてから50年、その霊前の国際連合の設立からも間もなく80年になります。国連の活動目的は安全保障（世界平和）と、戦後独立した多くの発展途上国への経済・社会・文化に関する国際協力です。その活動として1960年に始まった国連開発の10年（decade）が少しずつ形を変え、2000年のミレニアム開発目標（MDGs）に、そして現在のSDGs（持続可能な開発目標）に発展しました。同時に、世界遺産の意義も大きく変わりました。SDGs10「人や国の不平等をなくそう」は社会・経済だけでなく文化、文化遺産の問題と捉え、質の高い教育を通じて取り組むべき課題として認識されています。 一方、現在も世界には貧困や飢餓に苦しみ、健康と福祉の権利も保障されない取り残された多くの人々がいます。国を捨て難民となる人が多い現実を知り、安全保障と国際協力について、世界遺産を通じて学びます。1993年に姫路城と法隆寺が登録され、古都京都と奈良、紀伊山地の霊場と参詣道が続き、2019年には百舌鳥古市古墳群が登録された関西では、次は彦根城や飛鳥・藤原京が予定されています。日本の中でも、特に世界文化遺産が集中する関西の発展した社会・経済の背景に、貧困や飢餓のない公正な社会を実現した日本人の歴史文化があります。 世界遺産は単なる観光目的ではありません。様々な国と地域に分かれて暮らす人々が国境を越えて相互に理解しあうためのツールです。相互理解を深め、平和で平等かつ公正な世界を実現するための世界遺産本来の役割を考えていきます。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜實川眞理子＞ ◎『『移民時代』の多文化共生論—想像力・創造力を育む14のレッスン』 松尾 知明 （明石書店） ◎ 東大IPC「アントレプレナーとは？意味や語源、必要な心構え・スキルを解説」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/entrepreneur/ このWeb記事のうち、特に「アントレプレナーに大切な5つの心構え」「アントレプレナーに必要な7つのスキル」を参考とす
21.成績評価	3名の担当者の小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終レポートの詳細は、最終クールの教員が説明する。

22.コメント	生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	各担当者に直接お聞きすること： 宗田：火曜3コース(学修支援センター)、火曜4コース（研究室/3-308）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	< 實川真理子 > 第1回：異文化理解とは何か？ マジョリティとマイノリティという概念について基本的な理解を得られるように実例とケース・スタディーを通じて学ぶ。	< 次回事前学習 > 「移民時代」の多文化共生論（松尾知明著、明石書店）より「マジョリティとマイノリティ」P.128-137を読み、日本におけるマジョリティとマイノリティを考えてくる。 （所要時間 40分）
【第2回】	第2回：日本の社会における多文化共生の課題 「外国人」「日本人」という二項対立的な考え方が日本社会に強く残っている実情について学ぶ。日系ブラジル人コミュニティを題材として、ディスカッションを深めていく。また、第3回から第5回の3回にわたって実施する、起業家育成カリキュラム、Venture Makers Basic の Module 1-3 について概要を紹介する。	< 振り返り > 日本におけるマジョリティとマイノリティを授業開始時の導入レポートにまとめる。 < 次回事前学習 > Venture Makers Basic Module 1 の動画を視聴する。 （所要時間 15分）
【第3回】	第3回：起業家マインドについて Venture Makers Basic 1 を題材として、起業家マインドの醸成の意義、実際に起業をおこなった事例などを学ぶ。ここでは、起業が成立する条件をあげつつ、過去のベンチャー企業の創設者の特徴、マインドセットについて考察する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 1 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 2 の動画を視聴する。 （所要時間 25分）
【第4回】	第4回：起業（スタートアップ）の初期段階について Venture Makers Basic 2 を題材として、起業（スタートアップ）の初期段階で軌道にのるまでの条件や要素について分析する。また、スタートアップにとって、既存の企業や自治体など、他のセクターと連携すること（ベンチャーエコシステム）が大きな意義を持つことについても学習する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 2 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 3 の動画を視聴する。 （所要時間 45分）
【第5回】	第5回：イノベーションについて 第1回から第4回を通じて、①異文化理解と多文化共生の概念、②イノベーションと起業家マインドについて学んできた。第5回は、特にイノベーションに焦点をあてて、世界的な人材移動が生じる要因を分析するとともに、異文化適応力やイノベーション・マインドがいかに重要な役割を果たしているか、について理解を深める。 < クール・レポート > 本授業で学んだ Venture Maker Basic の内容に基づいて、起業およびベンチャー養成システムに関連する	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 3 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < クール・レポート > 授業で学んだ起業（スタートアップ）に関連した課題に回答する。社会変革（イノベーション）が進展する中で、あらゆる職業人は起業家マインドをもつ必要があると言われていいる。起業（スタートアップ）ならびにベンチャーエコシステムにかかわる質問に回答する。

	質問に回答する。	(所要時間 120 分)
【第 6 回】	<森永速男> 第 1 回：世界の自然災害と災害の原因 すべての現象には理由がある。自然災害の大きさは、自然現象の規模とそれに対処する人間側の備えの両者が関係している。正しく、自然現象を理解すること、そしてそれを理解したうえで正しく備えることが減災・防災の基本となる。本講義では、地球で起こる現象を科学的に考えるくせを身につけ、考えることの楽しさと科学的な対処法を理解する。また、特に阪神・淡路大震災と東日本大震災で多くに人が犠牲者となった理由を学ぶ。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することもある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 7 回】	第 2 回：地震・火山の発生する理由と南海トラフ巨大地震 地球の自然現象は地球が生物のように活動していることから起こる。自然現象うち、地震と火山噴火が起こるメカニズム（プレートテクトニクス）を理解する。さらに今後 30 年で 80% の確率で起こるとされる南海トラフ地震について学ぶ	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 8 回】	第 3 回：火山噴火と火山災害 火山噴火種類と噴火がもたらした過去の大災害を学び、どう備えるかを理解する。また、火山噴火がもたらす多くの恩恵を確認し、日本などの火山国の魅力となっていることを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 9 回】	第 4 回：風水害の原因と防災・減災 生命にとって欠くことのできない「淡水」をもたらす降雨、特に度を超す降雨ー大雨や豪雨が何と関連して災害（風水害）となるのかを考察し、それへの備え（防災・減災）を確認する。その中で、神戸でかつて起こった阪神大水害を紹介する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 10 回】	第 5 回：地球との共生：防災・減災のための【自助】と【共助】の大切さ 過去の大きな災害とその経験からもたらされた教訓を整理し、どうすれば、大きな災害とならないかを考える。その中で、特に「自助」、「共助」、そして「公助」の果たす役割及びボランティア活動の意義について考える。 <クール・レポート課題> 自然現象からの恵みについて、あなたがもっともありがたいと思う現象は何ですか？ その現象が起こる理	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。

	由について調べ、どうしてそれが恵みなのかを述べなさい。400 文字以上で答えなさい。	
【第 11 回】	<宗田好史> 第 1 回：「世界遺産って知ってますか？」 世界遺産とは何か、またその意味は何かを知みましょう？ 世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年の歴史を簡単に見ます。文化遺産は変遷する？これまでどう変わってきたかを考えます。 また、国連とユネスコ、世界遺産の背景となる国際連合とその提唱する SDGs の背景を知り、世界遺産を通じて学ぶ国際協力の可能性を学びます。 スライド（パワーポイント）で授業し、その PDF を Web Class で配ります。また、小レポートは書式を同時に配ります	○アサイメント 世界遺産の基礎知識を調べて答えます。 ○事前準備 国内の世界遺産のリストを用意して下さい。 【所要時間 45 分】
【第 12 回】	第 2 回：「文化遺産の保存っていつ始まったの、なぜ古いモノを守るの」 文化財と文化遺産の違いは何、同じようで違うのでしょうか。 そこで、文化財保護の歴史を学びます。その上で、世界の文化遺産を知り、ICOMOS(国際記念物遺産会議)の取組みを知り、次に国際機関を見ていきます。 UNESCO の仕事は何なの？またそれはどう変わったの？ そもそも国際協力に役立っているの？そんな疑問に答えつつ、関西の世界文化遺産を取り上げて、その一つ一つから、私たち現代人へのメッセージをどう読み取れるかを学びます。	○アサイメント 文化財の種類を調べて答えます。 ○事前準備 発展途上国の世界遺産を調べて下さい。 【所要時間 45 分】
【第 13 回】	第 3 回：「世界遺産の悩み－日本での問題点、世界の課題」 世界遺産が変わったなかで、日本では登録できなかった世界遺産候補も増えてきました。それでも運動を続ける地元があります。 一方、世界遺産委員会での 1990 年代から熱心な議論が続くのは、不均衡問題とって、豊かな国と貧しい国の大きな違いの問題があります。どこにでもある格差ですが、この問題の原因は深く、貧困や飢餓はモノの援助では解決しません。公正な社会と誰一人取残さない豊かな経済を実現させるためには公正な社会が必要です。そこにたどり着く道を知る音が質の高	○アサイメント 豊かになった国々となれなかった国々の違いを考えます。 ○事前準備 身近な文化財を一つ選んで紹介します。 【所要時間 45 分】
【第 14 回】	第 4 回：「国際社会と文化遺産を巡る国際協力」 文化財の弊害の一つに文化的権威主義があります。古いモノを守ることで伝統主義が強調され、時にはナショナリズムという大国のエゴが主張されました。普通の人々の間でも伝統を守るとして既得権を主張する考えの人もあります。その極端な姿が文化遺産の政治的利用です。個人的な利用にも過度に偏ったものがあ	○アサイメント 戦前と戦後の文化財行政の違いを考えます。 ○事前準備 これまでに訪れた世界文化遺産を一つ紹介して下さい。 【所要時間 45 分】

	ります。そこに、民主国家の文化遺産保護の限界があり、市民に理解が広がりにくい原因もあります。こうした背景から、日韓両国の争点となる世界遺産問題があります。同様に、世界各国が抱え	
【第 15 回】	第 5 回：「まとめ、世界遺産と観光」 世界遺産は観光資源ではなく、実際に多くの観光客が集まっている訳でもありません。日本にも観光客がほとんど訪れない世界遺産があります。それでも世界遺産登録を望むのは、観光が目的ではないからです。 本来の目的、文化遺産を通じた国際理解の促進と平和教育の取組みについて、少し時間を取って考えてみませんか？ UNESCO には理念があります。いや、ありました。世界平和を実現するために教育が要る。1 本のペンと世界遺産、1 冊の本と世界遺産、観光は本来そんな平和のための活動なのです。	○アサイメント 小レポートにまとめて下さい。 【所要時間 120 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-Y52	2.科目名	人間学Ⅱ（B グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、實川眞理子、宗田好史、森永速男					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりと自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <多文化共生とイノベーション>（實川眞理子） 人類は、環境問題、人種差別や偏見、貧富の格差、人口減少と高齢化など多様な社会問題に直面しているが、2020 年以降のコロナ禍はそうした矛盾をさらに拡大する役割を果たした。一方、第4次産業革命とデジタル化の波は社会全体の変革（イノベーション）を求めている。こうした複雑な社会課題に対して、課題解決の糸口を見つけるために我々は何をすべきだろうか。5 回の授業を通じて、①異文化理解と多文化共生、②第4次産業革命とイノベーションをテーマとして、行政、NPO、個人の取り組みについて学ぶ。特にイノベーションに関しては、本学が Western Sydney University（オーストラリア）と提携して取り組んでいる Venture Makers というカリキュラムの導入編（Venture Makers Basic）を活用して、イノベーションおよびスタートアップ（起業）について学ぶ。本講義をきっかけとして、多文化共生とイノベーションの時代に適応した、異文化理解力、共感力、起業家マインド、論理的思考力などを育成していくことを目的とする。なお、Venture Makers Basic を使った学習で一定の学習成果を挙げた学生には、本学の提携校である Western Sydney University からデジタルバッジが付与される。					

	〈地球・自然との共生〉 （森永速男） 本科目では、人類の住処である地球で起こる自然現象のメカニズムと自然現象がもたらす恩恵と脅威（自然災害）に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、私たち人類と地球・自然との共生や自然災害への備えについて考える。 地球で起こる自然現象（地震、火山噴火や豪雨）は時に大きな災害を人類にもたらす。しかし、地震や火山噴火により、富士山や六甲山のような美しい景観が作られてきた。また、火山噴火によってもたらされた物質は農業に必要な肥沃な土壌をもたらし、生命にとって重要な淡水や温泉を供給してくれている。さらに、降雨は度を超すと災害（風水害）になるが、適度な降雨は生命維持にとって不可欠な淡水を安定的に提供してくれている。 以上のように、地球で起こるこれらの自然現象を単に「災害＝悪」とみなすのではなく、自然現象がもたらす恩恵にも目を向け、自然現象の両面性を理解したうえで、人類はどう地球で暮らしていくのかを考察していく。この科目を通して培われた考える力は災害の多い時代に極めて重要なリテラシーとなると考えられる。 ＜世界遺産条約と国際連合＞ （宗田好史） 世界遺産条約が1972年のUNESCO（国連教育科学文化機関）総会で採択されてから50年、その霊前の国際連合の設立からも間もなく80年になります。国連の活動目的は安全保障（世界平和）と、戦後独立した多くの発展途上国への経済・社会・文化に関する国際協力です。その活動として1960年に始まった国連開発の10年（decade）が少しずつ形を変え、2000年のミレニアム開発目標（MDGs）に、そして現在のSDGs（持続可能な開発目標）に発展しました。同時に、世界遺産の意義も大きく変わりました。SDGs10「人や国の不平等をなくそう」は社会・経済だけでなく文化、文化遺産の問題と捉え、質の高い教育を通じて取り組むべき課題として認識されています。 一方、現在も世界には貧困や飢餓に苦しみ、健康と福祉の権利も保障されない取り残された多くの人々がいます。国を捨て難民となる人が多い現実を知り、安全保障と国際協力について、世界遺産を通じて学びます。1993年に姫路城と法隆寺が登録され、古都京都と奈良、紀伊山地の霊場と参詣道が続き、2019年には百舌鳥古市古墳群が登録された関西では、次は彦根城や飛鳥・藤原京が予定されています。日本の中でも、特に世界文化遺産が集中する関西の発展した社会・経済の背景に、貧困や飢餓のない公正な社会を実現した日本人の歴史文化があります。 世界遺産は単なる観光目的ではありません。様々な国と地域に分かれて暮らす人々が国境を越えて相互に理解しあうためのツールです。相互理解を深め、平和で平等かつ公正な世界を実現するための世界遺産本来の役割を考えていきます。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜實川眞理子＞ ◎『『移民時代』の多文化共生論—想像力・創造力を育む14のレッスン』 松尾 知明 （明石書店） ◎ 東大IPC「アントレプレナーとは？意味や語源、必要な心構え・スキルを解説」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/entrepreneur/ このWeb記事のうち、特に「アントレプレナーに大切な5つの心構え」「アントレプレナーに必要な7つのスキル」を参考とす
21.成績評価	3名の担当者の小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終レポートの詳細は、最終クールの教員が説明する。

22.コメント	生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	各担当者に直接お聞きすること： 宗田：火曜3コース(学修支援センター)、火曜4コース（研究室/3-308）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	< 實川真理子 > 第1回：異文化理解とは何か？ マジョリティとマイノリティという概念について基本的な理解を得られるように実例とケース・スタディーを通じて学ぶ。	< 次回事前学習 > 「移民時代」の多文化共生論（松尾知明著、明石書店）より「マジョリティとマイノリティ」P.128-137を読み、日本におけるマジョリティとマイノリティを考えてくる。 （所要時間 40分）
【第2回】	第2回：日本の社会における多文化共生の課題 「外国人」「日本人」という二項対立的な考え方が日本社会に強く残っている実情について学ぶ。日系ブラジル人コミュニティを題材として、ディスカッションを深めていく。また、第3回から第5回の3回にわたって実施する、起業家育成カリキュラム、Venture Makers Basic の Module 1-3 について概要を紹介する。	< 振り返り > 日本におけるマジョリティとマイノリティを授業開始時の導入レポートにまとめる。 < 次回事前学習 > Venture Makers Basic Module 1 の動画を視聴する。 （所要時間 15分）
【第3回】	第3回：起業家マインドについて Venture Makers Basic 1 を題材として、起業家マインドの醸成の意義、実際に起業をおこなった事例などを学ぶ。ここでは、起業が成立する条件をあげつつ、過去のベンチャー企業の創設者の特徴、マインドセットについて考察する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 1 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 2 の動画を視聴する。 （所要時間 25分）
【第4回】	第4回：起業（スタートアップ）の初期段階について Venture Makers Basic 2 を題材として、起業（スタートアップ）の初期段階で軌道にのるまでの条件や要素について分析する。また、スタートアップにとって、既存の企業や自治体など、他のセクターと連携すること（ベンチャーエコシステム）が大きな意義を持つことについても学習する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 2 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 3 の動画を視聴する。 （所要時間 45分）
【第5回】	第5回：イノベーションについて 第1回から第4回を通じて、①異文化理解と多文化共生の概念、②イノベーションと起業家マインドについて学んできた。第5回は、特にイノベーションに焦点をあてて、世界的な人材移動が生じる要因を分析するとともに、異文化適応力やイノベーション・マインドがいかに重要な役割を果たしているか、について理解を深める。 < クール・レポート > 本授業で学んだ Venture Maker Basic の内容に基づいて、起業およびベンチャー養成システムに関連する	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 3 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < クール・レポート > 授業で学んだ起業（スタートアップ）に関連した課題に回答する。社会変革（イノベーション）が進展する中で、あらゆる職業人は起業家マインドをもつ必要があると言われていいる。起業（スタートアップ）ならびにベンチャーエコシステムにかかわる質問に回答する。

	質問に回答する。	(所要時間 120 分)
【第 6 回】	<森永速男> 第 1 回：世界の自然災害と災害の原因 すべての現象には理由がある。自然災害の大きさは、自然現象の規模とそれに対処する人間側の備えの両者が関係している。正しく、自然現象を理解すること、そしてそれを理解したうえで正しく備えることが減災・防災の基本となる。本講義では、地球で起こる現象を科学的に考えるくせを身につけ、考えることの楽しさと科学的な対処法を理解する。また、特に阪神・淡路大震災と東日本大震災で多くに人が犠牲者となった理由を学ぶ。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することもある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 7 回】	第 2 回：地震・火山の発生する理由と南海トラフ巨大地震 地球の自然現象は地球が生物のように活動していることから起こる。自然現象うち、地震と火山噴火が起こるメカニズム（プレートテクトニクス）を理解する。さらに今後 30 年で 80% の確率で起こるとされる南海トラフ地震について学ぶ	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 8 回】	第 3 回：火山噴火と火山災害 火山噴火種類と噴火がもたらした過去の大災害を学び、どう備えるかを理解する。また、火山噴火がもたらす多くの恩恵を確認し、日本などの火山国の魅力となっていることを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 9 回】	第 4 回：風水害の原因と防災・減災 生命にとって欠くことのできない「淡水」をもたらす降雨、特に度を超す降雨ー大雨や豪雨が何と関連して災害（風水害）となるのかを考察し、それへの備え（防災・減災）を確認する。その中で、神戸でかつて起こった阪神大水害を紹介する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 10 回】	第 5 回：地球との共生：防災・減災のための【自助】と【共助】の大切さ 過去の大きな災害とその経験からもたらされた教訓を整理し、どうすれば、大きな災害とならないかを考える。その中で、特に「自助」、「共助」、そして「公助」の果たす役割及びボランティア活動の意義について考える。 <クール・レポート課題> 自然現象からの恵みについて、あなたがもっともありがたいと思う現象は何ですか？ その現象が起こる理	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。

	由について調べ、どうしてそれが恵みなのかを述べなさい。400 文字以上で答えなさい。	
【第 11 回】	<宗田好史> 第 1 回：「世界遺産って知ってますか？」 世界遺産とは何か、またその意味は何かを知みましょう？ 世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年の歴史を簡単に見ます。文化遺産は変遷する？これまでどう変わってきたかを考えます。 また、国連とユネスコ、世界遺産の背景となる国際連合とその提唱する SDGs の背景を知り、世界遺産を通じて学ぶ国際協力の可能性を学びます。 スライド（パワーポイント）で授業し、その PDF を Web Class で配ります。また、小レポートは書式を同時に配ります	○アサイメント 世界遺産の基礎知識を調べて答えます。 ○事前準備 国内の世界遺産のリストを用意して下さい。 【所要時間 45 分】
【第 12 回】	第 2 回：「文化遺産の保存っていつ始まったの、なぜ古いモノを守るの」 文化財と文化遺産の違いは何、同じようで違うのでしょうか。 そこで、文化財保護の歴史を学びます。その上で、世界の文化遺産を知り、ICOMOS(国際記念物遺産会議)の取組みを知り、次に国際機関を見ていきます。 UNESCO の仕事は何なの？またそれはどう変わったの？ そもそも国際協力に役立っているの？そんな疑問に答えつつ、関西の世界文化遺産を取り上げて、その一つ一つから、私たち現代人へのメッセージをどう読み取れるかを学びます。	○アサイメント 文化財の種類を調べて答えます。 ○事前準備 発展途上国の世界遺産を調べて下さい。 【所要時間 45 分】
【第 13 回】	第 3 回：「世界遺産の悩み－日本での問題点、世界の課題」 世界遺産が変わったなかで、日本では登録できなかった世界遺産候補も増えてきました。それでも運動を続ける地元があります。 一方、世界遺産委員会での 1990 年代から熱心な議論が続くのは、不均衡問題とって、豊かな国と貧しい国の大きな違いの問題があります。どこにでもある格差ですが、この問題の原因は深く、貧困や飢餓はモノの援助では解決しません。公正な社会と誰一人取残さない豊かな経済を実現させるためには公正な社会が必要です。そこにたどり着く道を知る音が質の高	○アサイメント 豊かになった国々となれなかった国々の違いを考えます。 ○事前準備 身近な文化財を一つ選んで紹介します。 【所要時間 45 分】
【第 14 回】	第 4 回：「国際社会と文化遺産を巡る国際協力」 文化財の弊害の一つに文化的権威主義があります。古いモノを守ることで伝統主義が強調され、時にはナショナリズムという大国のエゴが主張されました。普通の人々の間でも伝統を守るとして既得権を主張する考えの人もあります。その極端な姿が文化遺産の政治的利用です。個人的な利用にも過度に偏ったものがあ	○アサイメント 戦前と戦後の文化財行政の違いを考えます。 ○事前準備 これまでに訪れた世界文化遺産を一つ紹介して下さい。 【所要時間 45 分】

	ります。そこに、民主国家の文化遺産保護の限界があり、市民に理解が広がりにくい原因もあります。こうした背景から、日韓両国の争点となる世界遺産問題があります。同様に、世界各国が抱え	
【第 15 回】	第 5 回：「まとめ、世界遺産と観光」 世界遺産は観光資源ではなく、実際に多くの観光客が集まっている訳でもありません。日本にも観光客がほとんど訪れない世界遺産があります。それでも世界遺産登録を望むのは、観光が目的ではないからです。 本来の目的、文化遺産を通じた国際理解の促進と平和教育の取組みについて、少し時間を取って考えてみませんか？ UNESCO には理念があります。いや、ありました。世界平和を実現するために教育が要る。1 本のペンと世界遺産、1 冊の本と世界遺産、観光は本来そんな平和のための活動なのです。	○アサイメント 小レポートにまとめて下さい。 【所要時間 120 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-Y53	2.科目名	人間学Ⅱ（C グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、實川眞理子、宗田好史、森永速男					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりと自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <多文化共生とイノベーション>（實川眞理子） 人類は、環境問題、人種差別や偏見、貧富の格差、人口減少と高齢化など多様な社会問題に直面しているが、2020 年以降のコロナ禍はそうした矛盾をさらに拡大する役割を果たした。一方、第4次産業革命とデジタル化の波は社会全体の変革（イノベーション）を求めている。こうした複雑な社会課題に対して、課題解決の糸口を見つけるために我々は何をすべきだろうか。5 回の授業を通じて、①異文化理解と多文化共生、②第4次産業革命とイノベーションをテーマとして、行政、NPO、個人の取り組みについて学ぶ。特にイノベーションに関しては、本学が Western Sydney University（オーストラリア）と提携して取り組んでいる Venture Makers というカリキュラムの導入編（Venture Makers Basic）を活用して、イノベーションおよびスタートアップ（起業）について学ぶ。本講義をきっかけとして、多文化共生とイノベーションの時代に適応した、異文化理解力、共感力、起業家マインド、論理的思考力などを育成していくことを目的とする。なお、Venture Makers Basic を使った学習で一定の学習成果を挙げた学生には、本学の提携校である Western Sydney University からデジタルバッジが付与される。					

	〈地球・自然との共生〉 （森永速男） 本科目では、人類の住処である地球で起こる自然現象のメカニズムと自然現象がもたらす恩恵と脅威（自然災害）に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、私たち人類と地球・自然との共生や自然災害への備えについて考える。 地球で起こる自然現象（地震、火山噴火や豪雨）は時に大きな災害を人類にもたらす。しかし、地震や火山噴火により、富士山や六甲山のような美しい景観が作られてきた。また、火山噴火によってもたらされた物質は農業に必要な肥沃な土壌をもたらし、生命にとって重要な淡水や温泉を供給してくれている。さらに、降雨は度を超すと災害（風水害）になるが、適度な降雨は生命維持にとって不可欠な淡水を安定的に提供してくれている。 以上のように、地球で起こるこれらの自然現象を単に「災害＝悪」とみなすのではなく、自然現象がもたらす恩恵にも目を向け、自然現象の両面性を理解したうえで、人類はどう地球で暮らしていくのかを考察していく。この科目を通して培われた考える力は災害の多い時代に極めて重要なリテラシーとなると考えられる。 ＜世界遺産条約と国際連合＞ （宗田好史） 世界遺産条約が1972年のUNESCO（国連教育科学文化機関）総会で採択されてから50年、その霊前の国際連合の設立からも間もなく80年になります。国連の活動目的は安全保障（世界平和）と、戦後独立した多くの発展途上国への経済・社会・文化に関する国際協力です。その活動として1960年に始まった国連開発の10年（decade）が少しずつ形を変え、2000年のミレニアム開発目標（MDGs）に、そして現在のSDGs（持続可能な開発目標）に発展しました。同時に、世界遺産の意義も大きく変わりました。SDGs10「人や国の不平等をなくそう」は社会・経済だけでなく文化、文化遺産の問題と捉え、質の高い教育を通じて取り組むべき課題として認識されています。 一方、現在も世界には貧困や飢餓に苦しみ、健康と福祉の権利も保障されない取り残された多くの人々がいます。国を捨て難民となる人が多い現実を知り、安全保障と国際協力について、世界遺産を通じて学びます。1993年に姫路城と法隆寺が登録され、古都京都と奈良、紀伊山地の霊場と参詣道が続き、2019年には百舌鳥古市古墳群が登録された関西では、次は彦根城や飛鳥・藤原京が予定されています。日本の中でも、特に世界文化遺産が集中する関西の発展した社会・経済の背景に、貧困や飢餓のない公正な社会を実現した日本人の歴史文化があります。 世界遺産は単なる観光目的ではありません。様々な国と地域に分かれて暮らす人々が国境を越えて相互に理解しあうためのツールです。相互理解を深め、平和で平等かつ公正な世界を実現するための世界遺産本来の役割を考えていきます。
19.教科書・教材	
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜實川眞理子＞ ◎『『移民時代』の多文化共生論—想像力・創造力を育む14のレッスン』 松尾 知明 （明石書店） ◎ 東大IPC「アントレプレナーとは？意味や語源、必要な心構え・スキルを解説」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/entrepreneur/ このWeb記事のうち、特に「アントレプレナーに大切な5つの心構え」「アントレプレナーに必要な7つのスキル」を参考とす
21.成績評価	3名の担当者の小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終レポートの詳細は、最終クールの教員が説明する。

22.コメント	生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	各担当者に直接お聞きすること： 宗田：火曜3コース(学修支援センター)、火曜4コース（研究室/3-308）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	< 實川真理子 > 第1回：異文化理解とは何か？ マジョリティとマイノリティという概念について基本的な理解を得られるように実例とケース・スタディーを通じて学ぶ。	< 次回事前学習 > 「移民時代」の多文化共生論（松尾知明著、明石書店）より「マジョリティとマイノリティ」P.128-137を読み、日本におけるマジョリティとマイノリティを考えてくる。 （所要時間 40分）
【第2回】	第2回：日本の社会における多文化共生の課題 「外国人」「日本人」という二項対立的な考え方が日本社会に強く残っている実情について学ぶ。日系ブラジル人コミュニティを題材として、ディスカッションを深めていく。また、第3回から第5回の3回にわたって実施する、起業家育成カリキュラム、Venture Makers Basic の Module 1-3 について概要を紹介する。	< 振り返り > 日本におけるマジョリティとマイノリティを授業開始時の導入レポートにまとめる。 < 次回事前学習 > Venture Makers Basic Module 1 の動画を視聴する。 （所要時間 15分）
【第3回】	第3回：起業家マインドについて Venture Makers Basic 1 を題材として、起業家マインドの醸成の意義、実際に起業をおこなった事例などを学ぶ。ここでは、起業が成立する条件をあげつつ、過去のベンチャー企業の創設者の特徴、マインドセットについて考察する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 1 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 2 の動画を視聴する。 （所要時間 25分）
【第4回】	第4回：起業（スタートアップ）の初期段階について Venture Makers Basic 2 を題材として、起業（スタートアップ）の初期段階で軌道にのるまでの条件や要素について分析する。また、スタートアップにとって、既存の企業や自治体など、他のセクターと連携すること（ベンチャーエコシステム）が大きな意義を持つことについても学習する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 2 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 3 の動画を視聴する。 （所要時間 45分）
【第5回】	第5回：イノベーションについて 第1回から第4回を通じて、①異文化理解と多文化共生の概念、②イノベーションと起業家マインドについて学んできた。第5回は、特にイノベーションに焦点をあてて、世界的な人材移動が生じる要因を分析するとともに、異文化適応力やイノベーション・マインドがいかに重要な役割を果たしているか、について理解を深める。 < クール・レポート > 本授業で学んだ Venture Maker Basic の内容に基づいて、起業およびベンチャー養成システムに関連する	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 3 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < クール・レポート > 授業で学んだ起業（スタートアップ）に関連した課題に回答する。社会変革（イノベーション）が進展する中で、あらゆる職業人は起業家マインドをもつ必要があると言われていいる。起業（スタートアップ）ならびにベンチャーエコシステムにかかわる質問に回答する。

	質問に回答する。	(所要時間 120 分)
【第 6 回】	<森永速男> 第 1 回：世界の自然災害と災害の原因 すべての現象には理由がある。自然災害の大きさは、自然現象の規模とそれに対処する人間側の備えの両者が関係している。正しく、自然現象を理解すること、そしてそれを理解したうえで正しく備えることが減災・防災の基本となる。本講義では、地球で起こる現象を科学的に考えるくせを身につけ、考えることの楽しさと科学的な対処法を理解する。また、特に阪神・淡路大震災と東日本大震災で多くに人が犠牲者となった理由を学ぶ。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することもある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 7 回】	第 2 回：地震・火山の発生する理由と南海トラフ巨大地震 地球の自然現象は地球が生物のように活動していることから起こる。自然現象うち、地震と火山噴火が起こるメカニズム（プレートテクトニクス）を理解する。さらに今後 30 年で 80% の確率で起こるとされる南海トラフ地震について学ぶ	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 8 回】	第 3 回：火山噴火と火山災害 火山噴火種類と噴火がもたらした過去の大災害を学び、どう備えるかを理解する。また、火山噴火がもたらす多くの恩恵を確認し、日本などの火山国の魅力となっていることを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 9 回】	第 4 回：風水害の原因と防災・減災 生命にとって欠くことのできない「淡水」をもたらす降雨、特に度を超す降雨ー大雨や豪雨が何と関連して災害（風水害）となるのかを考察し、それへの備え（防災・減災）を確認する。その中で、神戸でかつて起こった阪神大水害を紹介する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認することがある。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 10 回】	第 5 回：地球との共生：防災・減災のための【自助】と【共助】の大切さ 過去の大きな災害とその経験からもたらされた教訓を整理し、どうすれば、大きな災害とならないかを考える。その中で、特に「自助」、「共助」、そして「公助」の果たす役割及びボランティア活動の意義について考える。 <クール・レポート課題> 自然現象からの恵みについて、あなたがもっともありがたいと思う現象は何ですか？ その現象が起こる理	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。

	由について調べ、どうしてそれが恵みなのかを述べなさい。400 文字以上で答えなさい。	
【第 11 回】	<宗田好史> 第 1 回：「世界遺産って知ってますか？」 世界遺産とは何か、またその意味は何かを知みましょう？ 世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年の歴史を簡単に見ます。文化遺産は変遷する？これまでどう変わってきたかを考えます。 また、国連とユネスコ、世界遺産の背景となる国際連合とその提唱する SDGs の背景を知り、世界遺産を通じて学ぶ国際協力の可能性を学びます。 スライド（パワーポイント）で授業し、その PDF を Web Class で配ります。また、小レポートは書式を同時に配ります	○アサイメント 世界遺産の基礎知識を調べて答えます。 ○事前準備 国内の世界遺産のリストを用意して下さい。 【所要時間 45 分】
【第 12 回】	第 2 回：「文化遺産の保存っていつ始まったの、なぜ古いモノを守るの」 文化財と文化遺産の違いは何、同じようで違うのでしょうか。 そこで、文化財保護の歴史を学びます。その上で、世界の文化遺産を知り、ICOMOS(国際記念物遺産会議)の取組みを知り、次に国際機関を見ていきます。 UNESCO の仕事は何なの？またそれはどう変わったの？ そもそも国際協力に役立っているの？そんな疑問に答えつつ、関西の世界文化遺産を取り上げて、その一つ一つから、私たち現代人へのメッセージをどう読み取れるかを学びます。	○アサイメント 文化財の種類を調べて答えます。 ○事前準備 発展途上国の世界遺産を調べて下さい。 【所要時間 45 分】
【第 13 回】	第 3 回：「世界遺産の悩み－日本での問題点、世界の課題」 世界遺産が変わったなかで、日本では登録できなかった世界遺産候補も増えてきました。それでも運動を続ける地元があります。 一方、世界遺産委員会での 1990 年代から熱心な議論が続くのは、不均衡問題とって、豊かな国と貧しい国の大きな違いの問題があります。どこにでもある格差ですが、この問題の原因は深く、貧困や飢餓はモノの援助では解決しません。公正な社会と誰一人取残さない豊かな経済を実現させるためには公正な社会が必要です。そこにたどり着く道を知る音が質の高	○アサイメント 豊かになった国々となれなかった国々の違いを考えます。 ○事前準備 身近な文化財を一つ選んで紹介します。 【所要時間 45 分】
【第 14 回】	第 4 回：「国際社会と文化遺産を巡る国際協力」 文化財の弊害の一つに文化的権威主義があります。古いモノを守ることで伝統主義が強調され、時にはナショナリズムという大国のエゴが主張されました。普通の人々の間でも伝統を守るとして既得権を主張する考えの人もあります。その極端な姿が文化遺産の政治的利用です。個人的な利用にも過度に偏ったものがある	○アサイメント 戦前と戦後の文化財行政の違いを考えます。 ○事前準備 これまでに訪れた世界文化遺産を一つ紹介して下さい。 【所要時間 45 分】

	ります。そこに、民主国家の文化遺産保護の限界があり、市民に理解が広がりにくい原因もあります。こうした背景から、日韓両国の争点となる世界遺産問題があります。同様に、世界各国が抱え	
【第 15 回】	第 5 回：「まとめ、世界遺産と観光」 世界遺産は観光資源ではなく、実際に多くの観光客が集まっている訳でもありません。日本にも観光客がほとんど訪れない世界遺産があります。それでも世界遺産登録を望むのは、観光が目的ではないからです。 本来の目的、文化遺産を通じた国際理解の促進と平和教育の取組みについて、少し時間を取って考えてみませんか？ UNESCO には理念があります。いや、ありました。世界平和を実現するために教育が要る。1 本のペンと世界遺産、1 冊の本と世界遺産、観光は本来そんな平和のための活動なのです。	○アサイメント 小レポートにまとめて下さい。 【所要時間 120 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM104-M51	2.科目名	教育と人間形成		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この授業は、「人間形成」という視点から、主に家庭、学校、社会がそれぞれもっている働きや役割を考える ①家庭教育と人間形成との関連を考える。 ②学校教育と人間形成との関連を考える。 ③日本の現代の教育問題のうち、いくつかの問題の概要を理解する。 ④「教育機会の平等」の問題を考える。 SDGs（持続可能な開発目標）17のゴール 中の「4. すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」という視点からも考察していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	DP の(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能 の活用力に関連している。 ①家庭、学校、社会における教育の概要と人間形成にとっての意義を説明できる。 ②教育機会の平等が現代社会でその程度実現しているのかを分析できる。 ③日本の教育問題の概要を説明できる。 ④「教育とは何か」ということに対して、自分の考えをもちそれを表現することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。 毎授業で教材を配布します。					
20.参考文献	中村高康他「現場で使える教育社会学」 ミネルヴァ書房 山野 則子 編著「子どもの貧困調査ー子どもの生活に関する実態調査から見てきたもの」 明石書店					
21.成績評価	下記の3項目についてすべてに取り組んだうえで、合計60点以上で単位修得となる。 ①最終レポート : 50% → 学習目標の①、③、④ ②グループワーク: 45%（1回15%×3回:グループワークのまとめと振り返り） → 学習目標の①、② ③宿題提出 : 5% → 学習目標の②、③					
22.コメント	生成AIの利用■条件付きで認める 各レポートについて、生成AI等の活用は許容範囲だが、最終的には書き手としての責任を追うべきことを肝に銘じ、内容の見直しは自ら行うこと					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水2限（みさお館2F） 研究室オフィスアワー 水3限(4号館5階26号室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法についてのガイダンスを行う			【復習】 授業で説明のあった関連資料などを自分で調べてみる、(120分)		

	特に本授業の内容などの理解を深めることを目的としており、授業に関連する資料や参考文献を紹介する。	
【第2回】	I 家庭教育：①「家族」とは何か；家族という集団の特徴を知る	【復習】自分が受けた学校教育の中で最も印象に残ったことを書く。 【予習】WEB CLASS に関連する動画をアップしますので、視聴し自分の意見をまとめる
【第3回】	I 家庭教育：②日本人の子育て；日本人の子育ての特徴を知る	○・「現代の日本では、子どもは大切に育てられているか」について書いてくる（120分） ・「現代日本の家族の平均人員と核家族の比率」を調べてくる（120分）
【第4回】	I 家庭教育：③現代家族の変化と子ども；近年の家族の変化と、子どもへの影響を考える	◎次回までにグループで、「現代日本の子育ての困難とそこに必要な子育て支援」を考えてくる
【第5回】	I 家庭教育：④現代の子育ての困難と子育て支援（その1）：グループワーク I	○・「グループワーク I のまとめと振り返り」を書いてくる（120分） ・「現代日本における里親制度について」調べてくる（120分）
【第6回】	I 家庭教育：⑤現代の子育ての困難と子育て支援（その2）	○・「日本ではなぜ里親制度が広がらないか」について書いてくる（120分） ・「日本での教育を受ける機会を法律でどのように規定しているか」を調べてくる（120分） ★ワークシート I 提出
【第7回】	II 学校教育：①教育機会の平等（その1）	◎次回までにグループで、夜間中学校の現状について調べてくる（240分）
【第8回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その2）：グループワーク II	○「グループワーク II のまとめ」を書いてくる（240分）
【第9回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その2）：グループワーク II 結果の発表と振り返り	○・「グループワーク II の振り返り」を書いてくる（150分） ・「社会教育法の該当条文について」調べてくる（90分） ★ワークシート II 提出
【第10回】	III 社会教育：①社会教育とは何か；社会教育の種類と主な社会教育施設について知る	・「エリクソンの発達論について」調べてくる（120分）
【第11回】	III 社会教育：②ライフサイクル論と社会教育；ライフサイクルの実際の変化及びライフサイクルについての考え方が、社会教育にもたらした影響を知る	○・「発達課題論と社会教育の関係について」まとめてくる（120分） ・「現在の日本の非行率と都道府県別の統計」を調べてくる（120分）
【第12回】	IV 子どもの問題行動：①少年非行；少年非行について	◎次回までにグループで、「非行少年の処遇に

	て、その実態と少年非行のとらえ方を知る	ついて重要なこと」を考えてくる（240 分）
【第 13 回】	IV 子どもの問題行動：②グループワークⅢ	○・「グループワークのまとめと振り返り」を書いてくる（150 分） ・「現在日本の不登校の最新データ」を調べてくる（90 分）
【第 14 回】	IV 子どもの問題行動：③不登校；不登校について、その実態と不登校のとらえ方を知る	○・「自分は学校にいかないことをどのように考えるか」について書いてくる（120 分） ★ワークシートⅢ 提出
【第 15 回】	IV 子どもの問題行動：④いじめ；いじめについて、その実態ととらえ方を知る	○最終レポートに向けて、これまでの学修のまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM105-Y51	2.科目名	比較宗教論 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目 (2019 年度以降入学生) / 専門共通科目 (2018 年度以前入学生)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこから始まって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します (教科書は使用しません)					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト (15 回) … 45% (学習目標①②に対応) ・期末レポート … 55% (学習目標①②③に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		

【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	非ヨーロッパ世界の身体 ― マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病者との共生 1 ― 象徴論、あるいは病いを投げ捨てる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	病者との共生 2 ― 癒し、あるいは社会関係を作り直す技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	病者との共生 3 ― 物語論、あるいは「私の苦痛」を受け入れる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM105-m51	2.科目名	比較宗教論 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目 (2019 年度以降入学生) / 専門共通科目 (2018 年度以前入学生)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこからはじまって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します (教科書は使用しません)					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト (15 回) … 45% (学習目標①②に対応) ・期末レポート … 55% (学習目標①②③に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		

【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	非ヨーロッパ世界の身体 ― マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病者との共生 1 ― 象徴論、あるいは病いを投げ捨てる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	病者との共生 2 ― 癒し、あるいは社会関係を作り直す技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	病者との共生 3 ― 物語論、あるいは「私の苦痛」を受け入れる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM106-M51	2.科目名	AI と次世代社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生(2025 年度生)	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式 (ただし、授業外での事前のビデオ 視聴が必須)		
16.履修制限	ネットワーク接続環境のノート P C が必要					
17.授業の目的と概要	コンピュータ技術、マルチメディア技術、インターネットなどの発展によって現在社会は「情報社会」と呼ばれている。個人の好き嫌いや、良い悪いに関わらず、「情報社会」は、我々の生活に大きく関わってきており、そして、今後も情報社会の技術は進んでいくことは容易に予測できる。 ○本講義はでは、まず「情報」とは何か?という点から、改めて考えてみる。その上で、特に「インターネット」を中心とした情報社会について外観し、マルチメディア技術の発展との関連を理解し、その中の光と影を確認する。そして、これからの情報社会のあり方について考える。 ○各回の授業に先立ち、自宅で解説用ビデオ視聴して、あらかじめワークシートに必要な事項を記入して受講することを必須条件とする。また、授業中に指定されたテーマに関する w e b による調べ学習も組み入れる。(ただし、第 4 回、7 回、9 回、11 回目の授業は、オンデマンドの授業を予定)					
18.学習目標と D P との関連	本講義では、情報社会がどのように生まれてきて、発展してきたか、また、これからの情報社会で生きていく上で何が必要であるのか、という点を正しく判断できる力を身につけることを目的とし、以下の 3 点を中心に学習目標を設定する。 ①情報社会の在り方と今後の発展にういて理解する。 以下の項目に関して 現状を理解しそれに対する自分の考えを明確に表現する。 ②マルチメディア技術の応用 (小課題 1) ③インターネットの活用 (小課題 2) ④メディアとコミュニケーション (小課題 3) ⑤これからの情報社会の全般的なポイントを理解する。					
19.教科書・教材	授業中にプリント (ワークシートおよび補助プリント) を配布する。 ワークシートは、各回の授業の最後に、次の授業のシートを配布する。					
20.参考文献	必用に応じて授業中に指示する					
21.成績評価	1) 授業シート、授業時の小テスト (オンラインで解答)・・・学習目標① 第 2、3、4、5、7、8、9、10、11、12、13、14 回目 (計 12 回分) (各 5 点×12) / 2・・・30 % *ただし、小テストは事前に開設ビデオを視聴していることが条件 2) 小課題 (5 %×3 回) 15 % ・・・学習目標②、③、④ 3) 最終試験 (筆記形式) 55 % ・・・学習目標⑤ *最終的に、上記比率で合計した得点で 10 段階評価をして、10 倍した得点を最終評価点と					

	する。	
22.コメント	○ネットワーク接続可能なノートPCが必要。 (小テストの解答、Webからの調べ学習、等で利用) ○第4回、7回、9回、11回目の授業は、オンデマンドの授業を計画していますが状況により変更される場合があります。 ！！ビデオ視聴に関する注意事項！！ 解説ビデオの事前視聴はWeb-Class（オンライン学習システム）を通して視聴します。1回の授業が複数のビデオデータに分割されて5分程度のビデオとなっていますが、途中で終わることもできますし、何度も繰り返し視聴できます。 ただし、必ず、1回の視聴が終わったら（途中でも）【資料を閉じる】のボタンを押すようにしてください。（そのまま終了すると、視聴時間が記録されません）	
23.オフィスアワー	月曜 お昼休み（1号館第1事務室を訪ねてください）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション、「情報」に対するイメージ ・本授業に関する目的、授業計画、評価基準の説明。 本授業を通したベンチマーク項目の確認。 ・授業の進め方の説明。（事前の開設ビデオの説明も含む） ・「情報」というものに対するイメージを通した、本授業のイントロダクション。 ・第2回目のワークシート配布	○次回までに授業運営状況を確認する。 ○第2回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計30分)
第2回	「情報」とは ・情報と知識の関係についての説明 ・情報の価値と質に関する説明 ・第3回目のワークシート配布	○授業で説明された「情報」と「データ」の関係を復習しておく。 ○第3回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計60分)
第3回	マルチメディア ・マルチメディアとは・情報とマルチメディア ・小課題1 指定用紙配布 ・第4、5回目のワークシート配布	○（小課題1）・「マルチメディア技術の応用について」（計200分） ・ Web-Class 提出（締め切り 10/23 17:00）
第4回	◎◎【 オンデマンド 】 コンピュータの出現と情報伝達手段（計60分） ・コンピュータの出現まで、・米国での普及 ・コンピュータの利用目的の変化・情報伝達手段	○第4回目の解説ビデオを視聴し、ワークシートを記入する。 第4回目の確認テスト（Web-Class）を実施する。 ○第5回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。(計60分)
第5回	インターネット ◆ノートPC持参◆ ・インターネットとは、（短編VTR） □ インターネット利用者数について	○情報伝達手段の違いについて復習をする。 ○インターネットの良い点3つとそれに対応する悪い点を復習する。 ○第6回目のアナウンス情報を授業までに確認する。 (計60分)
第6回	インターネット社会 ◆ノートPC持参◆ ・ワークシート配布（小課題2 指定用紙兼ね	○（小課題2）：「インターネットの社会的影響（ビデオからの具体的事例をもとに）」

	る) ・インターネットの社会的影響 資料用ビデオ を授業中視聴 第7、8回目のワークシート配布	・ ・ Web-Class 提出 (締め切り 11/13 17:00) (計 360 分)
第7回	◎◎【 オンデマンド 】 ネットワーク社会の光と影 (計 60 分) ○ネットワーク社会の問題点を考える	○第7回目の解説ビデオを視聴し、ワークシ ートを記入する。 第7回目の確認テスト (Web-Class) を実施 する。 ○第8回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。(計 60 分)
第8回	ネットワーク社会でのセキュリティ ◆ノートPC持 参◆ ・ネットワーク社会におけるセキュリティの 必要性 第9回目、10回目のワークシート配布	○セキュリティの必要性を復習する。 (計 60 分)
第9回	◎◎【 オンデマンド 】 セキュリティを守る技術 ・暗号化技術とその応用	○「シーザー暗号化方式」処理を復習する。 第9回目の確認テスト (Web-Class) を実施 する。 ○第9回目の解説ビデオを視聴し、ワークシ ートを記入する。(計 90 分)
第10回	情報社会の社会的問題 ◆ノートPC持参◆ ・インターネット上の人権 (短編ビデオ 視聴) □ nifty 裁判のポイントと判決 第11、12回目のワークシート配布	○ネットワーク社会における人権について考 える。 (計 60 分)
第11回	◎◎【 オンデマンド 】 知的所有権と著作権 □ winny 裁判の争点と判決	○第11回目の解説ビデオを視聴し、ワーク シートを記入する。 第11回目の確認テスト (Web-Class) を実 施する。 ○第12回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。(計 60 分)
第12回	メディアとコミュニケーション ◆ノートPC持 参◆ ・「メディア」とは、・情報技術と文化 ・小課題3 指定用紙配布 ・第13回目のワークシート配布	○ (小課題3): 「メディアとコミュニケーシ ョンについて」 (締め切り 1/8 17:00) ○第13回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。 (計 300 分)
第13回	ネットワーク社会と情報社会 ◆ノートPC持参 ◆ ・インターネット上の情報の問題 ・情報を取り込む技術と捨てる技術 ・情報社会がもたらす影響 第14回目のワークシート配布	○第14回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。 (計 60 分)
第14回	これからの情報社会 ◆ノートPC持参◆	◆ノートPC持参◆

	・技術の発展とユビキタス情報社会 ・総括試験についての説明	○第15回目の総括試験にむけて、これまでのワークシートを整理し、確認する。 (60分)
第15回	・授業全体のまとめ ・総括試験（筆記試験60分間）	授業全体を振返る(30分)

1.授業コード (ナンバリング)	INF101-M51	2.科目名	情報と社会 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生 (2024 年度生) ～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式 (ただし、授業外での事前のビデオ 視聴が必須)		
16.履修制限	ネットワーク接続環境のノート P C が必要					
17.授業の目的と概要	コンピュータ技術、マルチメディア技術、インターネットなどの発展によって現在社会は「情報社会」と呼ばれている。個人の好き嫌いや、良い悪いに関わらず、「情報社会」は、我々の生活に大きく関わってきており、そして、今後も情報社会の技術は進んでいくことは容易に予測できる。 ○本講義はでは、まず「情報」とは何か?という点から、改めて考えてみる。その上で、特に「インターネット」を中心とした情報社会について外観し、マルチメディア技術の発展との関連を理解し、その中の光と影を確認する。そして、これからの情報社会のあり方について考える。 ○各回の授業に先立ち、自宅で解説用ビデオ視聴して、あらかじめワークシートに必要事項を記入して受講することを必須条件とする。また、授業中に指定されたテーマに関する w e b による調べ学習も組み入れる。(ただし、第 4 回、7 回、9 回、11 回目の授業は、オンデマンドの授業を予定)					
18.学習目標と D P との関連	本講義では、情報社会がどのように生まれてきて、発展してきたか、また、これからの情報社会で生きていく上で何が必要であるのか、という点を正しく判断できる力を身につけることを目的とし、以下の 3 点を中心に学習目標を設定する。 ①情報社会の在り方と今後の発展にういて理解する。 以下の項目に関して 現状を理解しそれに対する自分の考えを明確に表現する。 ②マルチメディア技術の応用 (小課題 1) ③インターネットの活用 (小課題 2) ④メディアとコミュニケーション (小課題 3) ⑤これからの情報社会の全般的なポイントを理解する。					
19.教科書・教材	授業中にプリント (ワークシートおよび補助プリント) を配布する。 ワークシートは、各回の授業の最後に、次の授業のシートを配布する。					
20.参考文献	必用に応じて授業中に指示する					
21.成績評価	1) 授業シート、授業時の小テスト (オンラインで解答)・・・学習目標① 第 2、3、4、5、7、8、9、10、11、12、13、14 回目 (計 12 回分) (各 5 点×12) / 2・・・30 % *ただし、小テストは事前に開設ビデオを視聴していることが条件 2) 小課題 (5 %×3 回) 15 % ・・・学習目標②、③、④ 3) 最終試験 (筆記形式) 55 % ・・・学習目標⑤ *最終的に、上記比率で合計した得点で 10 段階評価をして、10 倍した得点を最終評価点と					

	する。	
22.コメント	○ネットワーク接続可能なノートPCが必要。 (小テストの解答、Webからの調べ学習、等で利用) ○第4回、7回、9回、11回目の授業は、オンデマンドの授業となりますが、状況によって変更される場合もあります。 ！！ビデオ視聴に関する注意事項！！ 解説ビデオの事前視聴はWeb-Class（オンライン学習システム）を通して視聴します。1回の授業が複数のビデオデータに分割されて5分程度のビデオとなっていますが、途中で終わることもできますし、何度も繰り返し視聴できます。 ただし、必ず、1回の視聴が終わったら（途中でも）【資料を閉じる】のボタンを押すようにしてください。（そのまま終了すると、視聴時間が記録されません）	
23.オフィスアワー	月曜 お昼休み（1号館第1事務室を訪ねてください）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション、「情報」に対するイメージ ・本授業に関する目的、授業計画、評価基準の説明。 本授業を通したベンチマーク項目の確認。 ・授業の進め方の説明。（事前の開設ビデオの説明も含む） ・「情報」というものに対するイメージを通した、本授業のイントロダクション。 ・第2回目のワークシート配布	○次回までに授業運営状況を確認する。 ○第2回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計30分)
第2回	「情報」とは ・情報と知識の関係についての説明 ・情報の価値と質に関する説明 ・第3回目のワークシート配布	○授業で説明された「情報」と「データ」の関係を復習しておく。 ○第3回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計60分)
第3回	マルチメディア ・マルチメディアとは・情報とマルチメディア ・小課題1 指定用紙配布 ・第4、5回目のワークシート配布	○（小課題1）・「マルチメディア技術の応用について」（計200分） ・ Web-Class 提出（締め切り 10/23 17:00）
第4回	◎◎【 オンデマンド 】 コンピュータの出現と情報伝達手段（計60分） ・コンピュータの出現まで、・米国での普及 ・コンピュータの利用目的の変化・情報伝達手段	○第4回目の解説ビデオを視聴し、ワークシートを記入する。 第4回目の確認テスト（Web-Class）を実施する。 ○第5回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。(計60分)
第5回	インターネット ◆ノートPC持参◆ ・インターネットとは、（短編VTR） □ インターネット利用者数について	○情報伝達手段の違いについて復習をする。 ○インターネットの良い点3つとそれに対応する悪い点を復習する。 ○第6回目のアナウンス情報を授業までに確認する。 (計60分)
第6回	インターネット社会 ◆ノートPC持参◆ ・ワークシート配布（小課題2 指定用紙兼ね	○（小課題2）：「インターネットの社会的影響（ビデオからの具体的事例をもとに）」

	る) ・インターネットの社会的影響 資料用ビデオ を授業中視聴 第7、8回目のワークシート配布	・ ・ Web-Class 提出 (締め切り 11/13 17:00) (計 360 分)
第7回	◎◎【 オンデマンド 】 ネットワーク社会の光と影 (計 60 分) ○ネットワーク社会の問題点を考える	○第7回目の解説ビデオを視聴し、ワークシ ートを記入する。 第7回目の確認テスト (Web-Class) を実施 する。 ○第8回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。(計 60 分)
第8回	ネットワーク社会でのセキュリティ ◆ノートPC持 参◆ ・ネットワーク社会におけるセキュリティの 必要性 第9回目、10回目のワークシート配布	○セキュリティの必要性を復習する。 (計 60 分)
第9回	◎◎【 オンデマンド 】 セキュリティを守る技術 ・暗号化技術とその応用	○「シーザー暗号化方式」処理を復習する。 第9回目の確認テスト (Web-Class) を実施 する。 ○第9回目の解説ビデオを視聴し、ワークシ ートを記入する。(計 90 分)
第10回	情報社会の社会的問題 ◆ノートPC持参◆ ・インターネット上の人権 (短編ビデオ 視聴) □ nifty 裁判のポイントと判決 第11、12回目のワークシート配布	○ネットワーク社会における人権について考 える。 (計 60 分)
第11回	◎◎【 オンデマンド 】 知的所有権と著作権 □ winny 裁判の争点と判決	○第11回目の解説ビデオを視聴し、ワーク シートを記入する。 第11回目の確認テスト (Web-Class) を実 施する。 ○第12回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。(計 60 分)
第12回	メディアとコミュニケーション ◆ノートPC持 参◆ ・「メディア」とは、・情報技術と文化 ・小課題3 指定用紙配布 ・第13回目のワークシート配布	○ (小課題3):「メディアとコミュニケーシ ョンについて」(締め切り 1/8 17:00) ○第13回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。 (計 300 分)
第13回	ネットワーク社会と情報社会 ◆ノートPC持参 ◆ ・インターネット上の情報の問題 ・情報を取り込む技術と捨てる技術 ・情報社会がもたらす影響 第14回目のワークシート配布	○第14回目の解説ビデオを授業までに視聴 し、ワークシートを記入してくる。 (計 60 分)
第14回	これからの情報社会 ◆ノートPC持参◆	◆ノートPC持参◆

	・技術の発展とユビキタス情報社会 ・総括試験についての説明	○第15回目の総括試験にむけて、これまでのワークシートを整理し、確認する。 (60分)
第15回	・授業全体のまとめ ・総括試験（筆記試験60分間）	授業全体を振返る(30分)

1.授業コード (ナンバリング)	INF101-a51	2.科目名	情報と社会 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	宮脇大					
5.授業科目の区分	特別研究Ⅱ	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学 (神戸山手 C)			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ChatGPT とは何か、なぜここまでニュースで話題になっているのか」 生成 AI がインターネット環境で広く利用可能となり、なおかつ日進月歩で技術開発が進められている。これに伴い、生成 AI を活用してできることが拡大し続けていることから、本学学生には、社会に出る前にこれらをさまざまな場面で有効活用できるようになっておくことを支援していきたいと考えています。 この講義では、生成 AI の基本から応用までを体系的に学び、実際に操作しながらその力を体験します。全 15 回の講義を通じて、生成 AI を使った情報収集やアウトプット作成、企業での実践的な活用方法、そしてその倫理的課題までを幅広くカバーします。生成 AI ツールの操作を習得し、実際の企業事例を通じたケーススタディを含む実践的なアプローチにより、学生は AI とビジネスの相互作用について深い学びを得ることを期待しています。					
18.学習目標と DP との関連	本科目では、生成 AI がビジネスに与える影響について学び、その応用方法を中心に探求する。本科目を修了すると、以下の学習目標に到達することができます。 1.生成 AI には、どのような種類があるのか、どのようなツールがあり、どのように操作すれば扱えるのか説明できる。 2.生成 AI に関連する倫理のおよび法的問題について、自分の意見に基づいて説明できる。 3.企業のビジネスで活用されている事例を理解し、その利点とリスク、課題を説明できる。 4. 情報収集・学習に活用できる。(インプットとしての活用) 5.発表・表現に活用できる。(アウトプットとしての活用) 【この科目の学びと関連する DP (ディプロマポリシー)】 (1) ?律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
20.参考文献	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
21.成績評価	1.講義への出席、講義における議論、質問へのアクティブな参加 40% 2.ケーススタディ分析のグループプレゼンテーション (学期終盤に実施) 60% 3.受講人数が大人数だった場合は、レポート提出にて評価 ※加点要素として、講義期間中に実施される民間企業の生成 AI ハッカソンやアクセラレータープログラムへのエントリーおよび活動も評価の対象とします。 ※受講人数が大人数になった場合、グループプレゼンテーションではなく、レポート提出に変更する場合があります。					
22.コメント	講師コメント：この講義は「AI」と名がついていますが、特別な技術やプログラミングの知識は一切必要ありません。パソコンやスマホで SNS や youtube が使えれば大丈夫です。具体的な操作例を通じて、知識のない人でも 1 から学べる内容になっています。文系の学部の学生さんも大歓迎です。今話題の ChatGPT をはじめとする生成 AI を実際に触りながら、何ができるのか、身の回りの生活にどのような影響がありそうか、一緒に考えながら学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	①生成 AI の実際のデモンストレーション（学生にも操作体験してもらう） ②生成 AI がもたらす社会への影響 ③講義の概要説明	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：講義で利用予定の ChatGPT のアカウント作成、操作練習、関連する WEB ページの閲覧による事前の情報収集
2	①第 2 回のゴール：学生による操作体験を交えて ChatGPT のプロンプトについての理 ②ChatGPT の基礎知識 ③プロンプトの書き方 ④ChatGPT の得意なことと不得意なこと ⑤質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 2 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習
3	① 第 3 回のゴール：ChatGPT を使って公開された情報をわかりやすくする ② ChatGPT のお作法の習得 ③ 実践演習 1？ 文章作成 ④ ChatGPT から品質の高い回答を得るためのコツの習得 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 3 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（大量の文字情報の要約、見せ換え、グラフ化など）
4	① 第 4 回のゴール：ChatGPT を使って、自分が伝えたい内容を表現する ② ChatGPT のプロンプト技術 ③ 実践演習 ④ 言い回しの変更と理解の深化 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 4 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（自身の考察、意見のアウトプットの生成、グラフやプログラミングを活用した描写）
5	① 第 5 回のゴール：画像生成 AI や音声生成 AI の種類・基本的な使い方を学ぶ ② 画像生成 AI の基礎知識 ③ 音声生成 AI の基礎知識 ④ その他の生成 AI ツール ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 5 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（画像生成 AI、音声生成 AI の操作の反復練習）
6	① 第 6 回のゴール：企業における生成 AI の活用事例を学ぶ ② 企業のマーケティングへの活用例 ③ 教育現場での利用例 ④ クリエイティブなプロジェクトでの利用例 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 6 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じた企業の生成 AI 活用の事例の検索と理解）
7	① 第 7 回のゴール：生成 AI におけるハルシネーションのリスクを理解する ② ハルシネーションとは何か ③ ハルシネーションが発生する原因 ④ハルシネーションの識別 ⑤ ハルシネーションのリスクと影響 ⑥ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 7 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたハルシネーションに対するリスク、回避策の検索と理解）
8	① 第 8 回のゴール：フェイクニュースのリスクを学ぶ ② フェイクニュースのリスク ③ 実践演習？ フェイクニュースの識別 ④事例と法的規制	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 8 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたフェ

	⑤ 質疑応答とまとめ	イクニースの事例の検索と理解)
9	① 第9回のゴール：著作権侵害リスクを学ぶ ② 生成AIと著作権 ③ 実践演習？ 著作権のケーススタディ ④ 事例と法的規制 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計1~2時間程度を想定） 内容：第9回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（GoogleやSNSを通じた著作権侵害へのポジティブな反応とネガティブな反応の検索と理解）
10	① 第10回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの概要を理解する ② 期末レポートの概要 ③ プレゼンテーションの概要 ④ プレゼンテーション発表日の決定 ⑤ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
11	① 第11回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの参考例解説 ② 期末レポートの参考例解説 ③ プレゼンテーションの参考例解説 ④ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
12	① 第12回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4~10時間程度を想定
13	① 第13回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4~10時間程度を想定
14	① 第14回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4~10時間程度を想定
15	① 第15回のゴール：講義の総括 ② コース全体の振り返り ③ 未来展望と技術発展 ④ 講義全体を通して、質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計1~2時間程度を想定）

1.授業コード (ナンバリング)	INF103-A51	2.科目名	AI と次世代社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	宮脇大					
5.授業科目の区分	特別研究 II	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学 (神戸山手 C)			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ChatGPT とは何か、なぜここまでニュースで話題になっているのか」 生成 AI がインターネット環境で広く利用可能となり、なおかつ日進月歩で技術開発が進められている。これに伴い、生成 AI を活用してできることが拡大し続けていることから、本学学生には、社会に出る前にこれらをさまざまな場面で有効活用できるようになっておくことを支援していきたいと考えています。 この講義では、生成 AI の基本から応用までを体系的に学び、実際に操作しながらその力を体験します。全 15 回の講義を通じて、生成 AI を使った情報収集やアウトプット作成、企業での実践的な活用方法、そしてその倫理的課題までを幅広くカバーします。生成 AI ツールの操作を習得し、実際の企業事例を通じたケーススタディを含む実践的なアプローチにより、学生は AI とビジネスの相互作用について深い学びを得ることを期待しています。					
18.学習目標と DP との関連	本科目では、生成 AI がビジネスに与える影響について学び、その応用方法を中心に探求する。本科目を修了すると、以下の学習目標に到達することができます。 1.生成 AI には、どのような種類があるのか、どのようなツールがあり、どのように操作すれば扱えるのか説明できる。 2.生成 AI に関連する倫理のおよび法的問題について、自分の意見に基づいて説明できる。 3.企業のビジネスで活用されている事例を理解し、その利点とリスク、課題を説明できる。 4. 情報収集・学習に活用できる。(インプットとしての活用) 5.発表・表現に活用できる。(アウトプットとしての活用) 【この科目の学びと関連する DP (ディプロマポリシー)】 (1) ?律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
20.参考文献	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
21.成績評価	1.講義への出席、講義における議論、質問へのアクティブな参加 40% 2.ケーススタディ分析のグループプレゼンテーション (学期終盤に実施) 60% 3.受講人数が大人数だった場合は、レポート提出にて評価 ※加点要素として、講義期間中に実施される民間企業の生成 AI ハッカソンやアクセラレータープログラムへのエントリーおよび活動も評価の対象とします。 ※受講人数が大人数になった場合、グループプレゼンテーションではなく、レポート提出に変更する場合があります。					
22.コメント	講師コメント：この講義は「AI」と名がついていますが、特別な技術やプログラミングの知識は一切必要ありません。パソコンやスマホで SNS や youtube が使えれば大丈夫です。具体的な操作例を通じて、知識のない人でも 1 から学べる内容になっています。文系の学部の学生さんも大歓迎です。今話題の ChatGPT をはじめとする生成 AI を実際に触りながら、何ができるのか、身の回りの生活にどのような影響がありそうか、一緒に考えながら学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	①生成 AI の実際のデモンストレーション（学生にも操作体験してもらう） ②生成 AI がもたらす社会への影響 ③講義の概要説明	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：講義で利用予定の ChatGPT のアカウント作成、操作練習、関連する WEB ページの閲覧による事前の情報収集
2	①第 2 回のゴール：学生による操作体験を交えて ChatGPT のプロンプトについての理 ②ChatGPT の基礎知識 ③プロンプトの書き方 ④ChatGPT の得意なことと不得意なこと ⑤質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 2 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習
3	① 第 3 回のゴール：ChatGPT を使って公開された情報をわかりやすくする ② ChatGPT のお作法の習得 ③ 実践演習 1？ 文章作成 ④ ChatGPT から品質の高い回答を得るためのコツの習得 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 3 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（大量の文字情報の要約、見せ換え、グラフ化など）
4	① 第 4 回のゴール：ChatGPT を使って、自分が伝えたい内容を表現する ② ChatGPT のプロンプト技術 ③ 実践演習 ④ 言い回しの変更と理解の深化 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 4 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（自身の考察、意見のアウトプットの生成、グラフやプログラミングを活用した描写）
5	① 第 5 回のゴール：画像生成 AI や音声生成 AI の種類・基本的な使い方を学ぶ ② 画像生成 AI の基礎知識 ③ 音声生成 AI の基礎知識 ④ その他の生成 AI ツール ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 5 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（画像生成 AI、音声生成 AI の操作の反復練習）
6	① 第 6 回のゴール：企業における生成 AI の活用事例を学ぶ ② 企業のマーケティングへの活用例 ③ 教育現場での利用例 ④ クリエイティブなプロジェクトでの利用例 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 6 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じた企業の生成 AI 活用の事例の検索と理解）
7	① 第 7 回のゴール：生成 AI におけるハルシネーションのリスクを理解する ② ハルシネーションとは何か ③ ハルシネーションが発生する原因 ④ハルシネーションの識別 ⑤ ハルシネーションのリスクと影響 ⑥ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 7 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたハルシネーションに対するリスク、回避策の検索と理解）
8	① 第 8 回のゴール：フェイクニュースのリスクを学ぶ ② フェイクニュースのリスク ③ 実践演習？ フェイクニュースの識別 ④事例と法的規制	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 8 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたフェ

	⑤ 質疑応答とまとめ	イクニースの事例の検索と理解)
9	① 第9回のゴール：著作権侵害リスクを学ぶ ② 生成AIと著作権 ③ 実践演習？ 著作権のケーススタディ ④ 事例と法的規制 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計1~2時間程度を想定） 内容：第9回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（GoogleやSNSを通じた著作権侵害へのポジティブな反応とネガティブな反応の検索と理解）
10	① 第10回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの概要を理解する ② 期末レポートの概要 ③ プレゼンテーションの概要 ④ プレゼンテーション発表日の決定 ⑤ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
11	① 第11回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの参考例解説 ② 期末レポートの参考例解説 ③ プレゼンテーションの参考例解説 ④ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
12	① 第12回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4~10時間程度を想定
13	① 第13回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4~10時間程度を想定
14	① 第14回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4~10時間程度を想定
15	① 第15回のゴール：講義の総括 ② コース全体の振り返り ③ 未来展望と技術発展 ④ 講義全体を通して、質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計1~2時間程度を想定）

1.授業コード (ナンバリング)	INF103-M51	2.科目名	宗教と共生社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目 (2025 年度以降入学生)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこから始まって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します (教科書は使用しません)					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト (15 回) … 45% (学習目標①②に対応) ・期末レポート … 55% (学習目標①②③に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		

【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	非ヨーロッパ世界の身体 ― マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病者との共生 1 ― 象徴論、あるいは病いを投げ捨てる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	病者との共生 2 ― 癒し、あるいは社会関係を作り直す技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	病者との共生 3 ― 物語論、あるいは「私の苦痛」を受け入れる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	INF103-Y51	2.科目名	宗教と共生社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目 (2025 年度以降入学生)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこから始まって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します (教科書は使用しません)					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト (15 回) … 45% (学習目標①②に対応) ・期末レポート … 55% (学習目標①②③に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		

【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	非ヨーロッパ世界の身体 ― マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病者との共生 1 ― 象徴論、あるいは病いを投げ捨てる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	病者との共生 2 ― 癒し、あるいは社会関係を作り直す技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	病者との共生 3 ― 物語論、あるいは「私の苦痛」を受け入れる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	INF201-Y01	2.科目名	システム思考		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科				9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：「システム思考」の考え方、活用方法について学び、今後の問題発見・解決を試みる場面で使えるようになることを目指します。 「システム思考」とは、「現実の複雑性を理解するために、ものごとのつながりや全体像を見て、その本質について考える」ための理論や技術を指します。 概要： 「システム思考」を使うことにより、「個々の行動の背景にある、問題となっている現象を起こりやすくしている構造」に目を向け、その構造を理解することによって、小さな力でも大きく動かせる「レバレッジ・ポイント」を見出すことができるようになります。授業では、「システム思考」を使って目的を効果的に達成するために求められる学習能力の 5 要素（①自己マスタリー②共有ビジョン③システム思考④メンタル・モデル⑤チーム学習）について、グループや個人での演習を交えながら学びます。将来の問題発見・解決の場面において活用できる「ループ図」や「ビジョン展開マトリクス」などを作成する練習を行い、その考え方について習熟します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標（=?につくスキル）は次の通りです。 1. 「システム思考」の考え方について説明できるようになる。 2. 物事の流れをつくる構造を「ループ図」に描画できるようになる。 3. 授業で指定された事例について、システム思考を使って情報を整理することができるようになる。 4. システム思考で整理した情報を基にして、事例の問題点を抽出できるようになる。 [関連する DP（ディプロマポリシー）] （1）?律性（3）多様性理解（4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『「学習する組織」入門』小田理一郎著、英治出版、2017 年					
20.参考文献	関連する文献を授業中に紹介します。以下、主な関連文献です。 『学習する組織』ピーター・M.センゲ著、英治出版、2011 年 『世界はシステムで動く』ドネラ・H・メドウズ著、英治出版、2015 年 『社会変革のためにシステム思考実践ガイド』デイビッド・ピーター・ストロー著、英治出版、2018 年					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 （1）毎回の学習日誌「何を学んだか」を WebClass で投稿×15 回 10% [学習目標 1・2・3・4 に対応] （2）「システム思考」に関わる小テスト 10% [学習目標 1 に対応] （※切：第 15 回授業日まで／満点で合格） （3）指定されたテーマで「ループ図」作成 15% [学習目標 1・2 に対応] （4）指定されたテーマに関して情報整理したレポート作成 25% [学習目標 1・2・3 に対応]					

	(5) 情報整理レポ	
22.コメント	・ノート PC を使用します。必ず持参してください。 ・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個?差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 毎週月曜日 2 限 学修支援センター（1 号館 2 階） 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション 本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価方法、授業の進め方等 「システム思考」とは（レクチャー）	毎回授業終了前_学習日誌「今日やったこと」を WebClass で投稿×15 回
ブロック 1 【第 2 回】	「システム」と因果関係について考えるワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：ワークの成果整理
【第 3 回】	「深い学習サイクル」について考えるワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：ワークの成果整理
【第 4 回】	システム思考の 5 つの要素について考えるワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：ワークの成果整理
【第 5 回】	システムを「ループ図」として描くワーク	事前：教科書の指定箇所精読 事後：①指定されたテーマで「ループ図」作成・提出 ②小テストの実施 小テスト：「システム思考」についての知識テスト（ $\times$ 切第 15 回授業日まで／全問正解で合格）
ブロック 2 【第 6 回】	事例について、システム思考で考える① 例えば、人口減少など様々な問題について解決のための取り組みを行っている自治体を取り上げる。まず現状調査・情報収集ワーク	事前：指定された事例についての事前調査 事後：ワークのつづき
【第 7 回】	事例について、システム思考で考える② 調査・収集した情報をもとに分析・考察ワーク	事前：引き続き情報収集 事後：ワークのつづき
【第 8 回】	事例について、システム思考で考える③ システム思考を適用して、分析・考察した結果をさらに考察するワーク	事前：教科書の当該箇所を精読 事後：ワークのつづき
【第 9 回】	事例について、システム思考で考える④ 考察ワークの成果をグループ等で共有 成果のブラッシュアップワーク→発表の準備	事前：引き続き考察作業 事後：ワークのつづき
【第 10 回】	事例について、システム思考で考える⑤ 成果発表	事前：引き続き発表の準備 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題：指定されたテーマでレポート作成・提出

ブロック 3 【第 11 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える① 自分の事例について、現状調査・情報収集	事前：指定された自分の事例についての事前調査 事後：ワークのつづき
【第 12 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える② 調査・収集した情報をもとに分析・考察ワーク	事前：引き続き情報収集 事後：ワークのつづき
【第 13 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える③ システム思考を適用して、分析・考察した結果をさらに考察する＋成果をまとめるワーク	事前：引き続き考察作業 事後：ワークのつづき（発表スライド作成）
【第 14 回】	自分の事例を題材に、システム思考で考える④ 成果発表	事前：発表の準備 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題：発表スライドの作成・提出
【第 15 回】	総括・ふりかえり	最終課題：この科目で学習したことを整理して提出

1.授業コード (ナンバリング)	INF204-Y51	2.科目名	情報管理論		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ビジネスにおける情報管理の基本的知識を理解し、説明できるようになることを目指します。 【概要】 情報はビジネスにおいて、重要な経営資源のひとつである。情報技術の発達に伴って、様々なビジネス分野で情報システムが活用されている。この科目は、情報システム管理の立場から、経営活動に関わる業務流れの理解と関連問題の解決戦略、情報機器及びシステムの導入と活用、情報システムの開発と技術戦略などについて学習し、社会人として備えておくべき共通の情報管理の基礎素養を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	①企業活動と法規に関する基礎知識について説明できる ②システム戦略や経営マネジメントに関する基本知識について説明できる ③技術戦略マネジメントやサービスマネジメントの知識について説明できる ④プロジェクトマネジメントの基本知識について説明できる ⑤情報機器及びシステムの導入と活用について提案できる ⑥情報システムの開発と技術戦略について提案できる [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	IT パスポート試験のシラバス、解説テキスト					
21.成績評価	1. KPT シート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる) 25% 2. 毎回の授業の確認問題(25 点) 3. 総括試験(50 点)					
22.コメント	・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと)					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	イントロダクション			今回の復習：配布資料の復習		
【第 2 回】	企業活動と法務(1) 財務諸表 損益分岐点と資産管理			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 3 回】	企業活動と法務(2) 知的財産権・関連法規			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 4 回】	企業活動と法務(3) 業務分析手法 標準化			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 5 回】	経営戦略とシステム戦略(1) 第 4 次産業革命とビッグデータ 企業活動			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 6 回】	経営戦略とシステム戦略(2) 企業統治と内部統制 経			今回の復習：配布資料の復習		

	営戦略	確認問題の提出
【第 7 回】	経営戦略とシステム戦略(3) 情報システム戦略と業務プロセス マーケティング戦略	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 8 回】	経営戦略とシステム戦略(4) 技術戦略 業績評価と経営管理システム	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 9 回】	経営戦略とシステム戦略(5) ビジネスシステムとエンジニアリング e-ビジネス	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 10 回】	マネジメント(1) 企画・要件定義プロセス 開発プロセス	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 11 回】	マネジメント(2) テスト手法と運用・保守プロセス ソフトウェア開発手法	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 12 回】	マネジメント(3) プロジェクトマネジメント タイムマネジメント	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 13 回】	マネジメント(4) IT サービスマネジメント システム監査	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 14 回】	まとめ	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 15 回】	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	INF301-Y51	2.科目名	情報と職業（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	福田美誉					
5.授業科目の区分	教職科目（3年次）	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド (詳細はコメント欄を参照のこと)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 近年、西欧諸国を中心に、DE&I（多様性、公平性、包摂性）を重要視し、性別、年齢、国籍、価値観など、人と人との多様な違いを受け入れ、尊重し合う社会や組織にしていこうという流れがあり、日本でもその風潮が高まっています。この動きは産業や教育現場にも広がっています。 この科目では、「ジェンダー」「キャリア」「職業研究」に焦点をあて、情報社会の進歩とともに変化する社会において有用なスキルが何かを学ぶことで、多様な視点から情報を捉える能力を身につけるとともに、生涯学習やキャリア形成の理論を理解します。さらには、この考え方を教育の現場でどう実践し自己キャリアにつなげていくかを検討します。 【概要】 この授業は、大きく分けて3部構成になっています。第1回のオリエンテーションの後、第2・3回は近年企業や社会で重要視されているダイバーシティとインクルージョンについて理解を深めます。第4～9回は情報社会におけるキャリアデザインと職業への理解を深めます。第10～15回は自分自身のキャリアデザインを行い、設定した目標や計画を仲間に対してプレゼンテーションし、相互理解・意見交換します。 第2回以降は動画視聴、課題レポートを提出して出欠扱いとなります。					
18.学習目標と DPとの関連	① ダイバーシティ＆インクルージョンの本質と、国内外の社会情勢、企業・行政・教育の動きを理解する ② IT業界を中心にさまざまな職業や業界について情報を入手し、広く深く理解する ③ キャリアデザインとは何かを理解し、自分の価値観や特長を把握するとともに、教員としてのキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てる ④ ①～③の学習を通じて、多様な人と対話し議論するためのスキルと心構えを身につける ※ディプロマ・ポリシーの（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに該当します。 ※教育は未来社会の質保証に関わる重要な部分です。未来社会を理解しての人材育成に携わるという重大な使命について、自覚できるようになることが大切です。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 編『夢をかなえるキャリアデザイン』2023年5月刊行版 くろしお出版 ISBN9784874249451 ※テキストは第5回～8回、10～13回で使用します					
20.参考文献	※社会情勢の変化を踏まえつつ、「ジェンダー」「情報社会」に関する資料を提示します。 ※随時タイムリーな資料、追加資料をWebClassで共有します。					
21.成績評価	1. ワークシート等の課題 40%（学習目標①～③に関連する内容） 2. 最終課題（学習目標④に関連する内容） （1）キャリア目標シート・自己アピールビデオ・プレゼンテーション資料 40% （2）第15回修了後の振り返りレポート 20%					
22.コメント	第1回は対面集合型の講義形式で行い、学習内容はオンデマンド授業の受講の流れや操作方法					

		について解説します。第2回以降滞りなく進められるよう、教員と学生の皆さんの間で確認しましょう。 第2回以降は1週間ごとに動画視聴と課題提出を行います。期日までに提出しなければ、出席と認められませんので、ご注意ください。 途中、ペアでお互いの提出物を相互確認しあい、意見をもらう活動を取り入れます。 方法は初回授業で説明します。 途中受講状況の確認のために簡単なアンケートを実施します。
23.オフィスアワー		月曜日4限に、進め方や疑問点に答えます。 同時間帯にZoomでの対応にも答えます。詳しくは授業初回に案内します。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回(対面集合)	オリエンテーション	★この回のみ対面集合型で実施します。 ◆当日の持ち物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第2回	ダイバーシティとインクルージョンとは? ～持続可能な社会との関係～	★提出物 ・課題レポート ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン ※教科書は不要
第3回	アンコンシャス・バイアス「無意識の思い込み」	★提出物 ・課題レポート ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン ※教科書は不要
第4回	キャリアとは	★提出物 ・課題レポート ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン ※教科書は不要
第5回	キャリアへの準備 ～視野を広げよう、意識を高めよう～	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第6回	職業研究	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆ ・教科書

		・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 7 回	企業・教育業界研究	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 8 回	環境・トレンド分析 ～AI・コロナ禍による変化～	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 9 回	ダイバーシティを推進する企業と行政	★提出物 ・課題レポート ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン ※教科書は不要
第 10 回	自己理解 ～強みと弱みを知る～	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 11 回	職業（特に教育業界）に関する機会と脅威	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 12 回	キャリア目標を立てる	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 13 回	自己アピールポートフォリオの作成 ①キャリアプランの作成	★提出物 ・ワークシート ◆必要な用具◆

		・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 14 回	自己アピールポートフォリオの作成 ②プレゼンテーション資料の作成	★提出物 ・発表プレゼンテーション用スライド ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン ※教科書も参考資料として活用してください。
第 15 回	自己アピールと振り返り	★提出物 ・最終発表動画（Zoom レコーディング） ・他の学生の発表動画への感想コメント ・最終レポート ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン ※教科書も参考資料として活用してください。

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y81	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)(心理)		3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子、山本喜晴					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考(書類選考、面接など)に合格した者に限り履修を認める。					
17.授業の目的と概要	学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ・事前学習 ・・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の現場で必要とされるビジネスマナー、その他必要なスキルを習得する。また、実習により達成すべき課題(実習計画)を作成する。 ・実習(約1週間) ・・各企業の受入担当者の指導に基づき実施される。終了後1週間以内に礼状を送る。 ・事後学習 ・・実習を行った各業務がどのような役割を分担するかを分析し、リフレクションカレッジを活用し、それぞれの業務に関する成功要因と失敗要因をまとめる。さらに問題解決のための情報を整理する。数ヶ月後に再度ふりかえりを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。					
20.参考文献	必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	・事前学修時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況 10% ・リフレクションカレッジによる日報の作成 40% ・実習評価書(受入担当者からの評価) 20% ・実習報告書及びポスター作成 30%					
22.コメント	事前学習5コマ(7月10日Ⅰ～Ⅴ限)と事後学習2コマ(9月11日Ⅰ～Ⅱ限)にすべて出席できる人のみ履修してください(事前学習の補講はありません)。 各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 学修支援室 水曜1限(道免) 研究室オフィスアワー 水曜昼休み(道免)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回(7/10)	オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y82	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当) (G コミ)		3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	観光分野	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全専攻対象			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習		
16.履修制限	夏冬学期期間 2026 年 2 月～3 月中					
17.授業の目的と概要	『テーマ 初年次型観光業界キャリアデザイン』 神戸発観光業界キャリアデザインプログラムは、関西圏、特に兵庫・神戸を中心に観光業界全体を広く理解し、将来のキャリアに役立つ知識と視点を養うことを目的としています。このプログラムでは、兵庫・神戸圏におけるインバウンド観光が注目するホテル業界、2025 年度から国際化される神戸空港を含むエアライン業界、責任あるまちづくりを取り組む自治体、関係人口を増加させる地域観光協会 (DMO)、次世代旅行をデザインする旅行会社、伝統産業を世界化する老舗業などの主要な観光業界セクターについて学びます。各業界の特性、役割、現状、そして地域特有の課題や可能性をリサーチし、地域の観光資源がどのように活用されているかを深く掘り下げていきます。特に、神戸圏の観光産業における最新の動向やポスト万博後のニューツーリズムの可能性を考察し、実際の業界に触れることで、自身の興味や将来のキャリア形成に向けて見極めることができるでしょう。 事前学習では、神戸圏の観光業界に関する基礎知識を習得します。学生は、神戸の観光資源、主要な観光業界のセクター (ホテル業界、航空業界、自治体、DMO、旅行会社、産業観光など) について調査し、それぞれの役割や特性を理解します。また、観光業界における現在のトレンドや課題を把握し、地域特有の観光資源がどのように活用されているかを学びます。この段階での知識は、現地調査や実務的な学びを深めるための基盤となります。 現地学習では、実際に観光業界の企業や施設を訪問し、業界の専門家から直接学びます。座学で学んだ内容を基に、神戸圏内のホテルや旅行会社、航空会社、自治体、DMO、グローバル展開する老舗酒造などを訪れ、実際の業務の流れや観光資源の活用方法について理解を深めます。現地での視察を通じて、観光業界の現場の課題や成功事例を直接学ぶことができます。また、業界の専門家と意見交換を行い、学生自身が抱える興味やキャリアに対する視野を広げます。 事後学習では、現地学習で得た知識や経験をもとに、各業界の特性や課題について深く考察します。学生はグループディスカッションや振り返りレポートを通じて、観光業界全体の発展に向けた課題解決策を提案します。特に神戸圏の観光業界における地域発展の可能性について、自身の視点をまとめ、将来のキャリア形成に繋げます。事後学習を通して、現地学習で学んだ外化とのことを大学での学びと結びつけ、2 年生に向けて内化としてどのように活かせるかを具体的に考える機会を提供します。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度 (自律性)、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性)、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解)、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。					

	②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習に基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことができる。 ⑤調査報告書及びプレゼンテーション資料を作成し、簡潔かつ論理的に報告することができる。	
19.教科書・教材	特になし、担当教員の指示に従う。	
20.参考文献	特になし、	
21.成績評価	学外学習に当たるルーブリックによる。	
22.コメント	・現場学習実施に当たって、交通費などが発生するが、原則として自己負担である。 ・希望者が多い場合は、成績（G P A）、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・コミュニケーション能力があり、責任感が強く、積極的に授業に参加できる学生が求められる。 ・特に現場学習では、積極的に対応態度が、求められる。 ・協力観光事業体の都合により、時間日程など変更する場合がある。	
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-312 研究室で実施する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回~第 3 回	事前学習 「コーオプ・プログラムの概要・目標の説明」 ・グループライン設定・資料・情報収集・事前準備 ・ミッション設定とグループ別の企画書を作成 ・昨年度の作品の分析と改善点をグループワークで実施 ・連携地域の事前調査の内容に基づいて、課題の抽出 ・現場学習時における必要備品などをチェック	ノートパソコン持参 事前資料等の作成
第 4 回~第 13 回	現場学習① 現場学習② 現場学習③	機関や企業訪問に相応しい服装で集合
第 14 回~第 15 回	事後学習（振り返り） ・現場学習について、レポートにまとまる。 ・発表用（プレゼンテーション用）の資料として、スライドを作成。 ・発表準備	報告会の準備と成果物の発表会、振り返り ノートパソコン持参
	報告会 報告会での発表（全員参加）	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT108-M83	2.科目名	業界研究		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分	総合演習 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本実習は、企業訪問実習を通じて、業界研究を行う。 ①各コースの訪問先・研修先企業等の業務内容とありかたを、自分なりにまとめる ②実社会の体験、業界の仕組み、仕事内容を頭と体で理解する。 ③自分の適性にあった職業が判断できるようにする。 業界研究実習は2年次から具体化する専門分野の一部を実体験し、その分野が自分に向いているかについて、体験をすることにより考える機会とする。					
18.学習目標と DPとの関連	安全安心を兵庫で学ぶ上で、必ず知っておくべき、阪神・淡路大震災の被害と復興、兵庫県の防災体制について、人と防災未来センターを訪問することにより学習し、理解する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・実習のまとめ ワークシート 50% ・振り返りを含む報告レポート作成(個人) 50%					
22.コメント	外部実習に関しては、めったにないチャンスであり、貴重な体験です。時間厳守は勿論、実習で得た学びはその日のうちにまとめ、最終日には、実習先企業の業務内容、社会貢献度をまとめ、自分の進む業界や職業を考えるきっかけにしましょう。 今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、状況によっては企業を実際に訪問することは控えて、遠隔での間接的な訪問とする場合があります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1～5回 2月 日	【第1-5回】事前学習(三木キャンパス内・PM1 連携) 訪問予定企業の事前学習：阪神南県民センター管内企業、地元企業など、2月に訪問予定企業について、事業内容、課題などについて班別に事前調査研究をおこなう。 最終回には、業界研究に向けた決意表明を行う。			PC は必ず持参すること		
第6～10回 2月 日	【第4-5回】事前学習(三木キャンパス内・PM1 連携) 訪問予定企業の事前学習：阪神南県民センター管内企業、地元企業など、2月に訪問予定企業について、事業内容、課題などについて班別に事前調査研究をおこなう。 最終回には、業界研究に向けた決意表明を行う。			PC は必ず持参すること		
第8-10回 <2月)>	【第8・9・10回】現地実習-1(予定) AM) 兵庫県広域防災センター 兵庫県の防災対策 兵庫県広域防災センターの役割			服装は、基本的にはスーツを着用すること。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT110-Y81	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ 【グローバル】		3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	グローバル学部 1 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	特別演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	神戸発観光業界キャリアデザインプログラムは、関西圏、特に兵庫・神戸を中心に観光業界全体を広く理解し、将来のキャリアに役立つ知識と視点を養うことを目的としています。このプログラムでは、兵庫・神戸圏におけるインバウンド観光で成長するホテル業界、2025 年度から国際化される神戸空港を含むエアライン業界、責任あるまちづくりを取り組む自治体、関係人口を増加させる地域観光協会（DMO）、次世代旅行をデザインする旅行会社、伝統産業を世界化する老舗業などの主要な観光業界セクターについて学びます。各業界の特性、役割、現状、そして地域特有の課題や可能性をリサーチし、地域の観光資源がどのように活用されているかを深く掘り下げていきます。特に、神戸圏の観光産業における最新の動向やポスト万博後のニューツーリズムの可能性を考察し、実際の業界に触れることで、自身の興味や将来のキャリア形成に向けて見極めることができるでしょう。 事前学習 事前学習では、神戸圏の観光業界に関する基礎知識を習得します。学生は、神戸の観光資源、主要な観光業界のセクター（ホテル業界、航空業界、自治体、DMO、旅行会社、産業観光など）について調査し、それぞれの役割や特性を理解します。また、観光業界における現在のトレンドや課題を把握し、地域特有の観光資源がどのように活用されているかを学びます。この段階での知識は、現地調査や実務的な学びを深めるための基盤となります。 活動内容 現場学習では、実際に観光業界の企業や施設を訪問し、業界の専門家から直接学びます。座学で学んだ内容を基に、神戸圏内のホテルや旅行会社、航空会社、自治体、DMO、グローバル展開する老舗酒造などを訪れ、実際の業務の流れや観光資源の活用方法について理解を深めます。現地での視察を通じて、観光業界の現場の課題や成功・失敗事例を直接学ぶことができます。また、業界の専門家と意見交換を行い、学生自身が抱える興味やキャリアに対する視野を広げます。 事後学習 事後学習では、現場学習で得た知識や経験をもとに、各業界の特性や課題について深く考察します。学生はグループディスカッションや振り返りレポートを通じて、観光業界全体の発展に向けた課題解決策を提案します。特に神戸圏の観光業界における地域発展の可能性について、自身の視点をまとめ、将来のキャリア形成に繋げます。事後学習を通して、現場学習で学んだ外化とこのことを大学での学びと結びつけ、2 年生に向けてもう一度、内化としてどのように活かせるかを具体的に考える機会を提供します。					
18.学習目標と DPとの関連	テーマ「初年次型観光業界キャリアデザイン」 観光業界リサーチ可能な対象企業・関連施設 ？ ポートピアホテル、都ホテルグループ（都ホテル尼崎）、クラウンプラザホテル、ホテルニュー淡路 北野クラブ、六甲山のハーブ公園、しあわせ村 ？ 神戸空港、パンスタークルーズ会社 ？ JTB、阪急交通社、日本旅行、神戸観光局					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-A51	2.科目名	日本語Ⅰ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	N1 取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DP との関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』 ISBN978-4-327-38465-4 C1081					

20.参考文献	授業時に適宜紹介します。	
21.成績評価	クラス活動：10% 課題提出：10% N2 文法発表：10% 短作文発表：10% 中間試験：30% 総括試験 : 30%	
22.コメント	初回の授業からテキストを持ってくるください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第2回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第4回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法練習 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第6回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2 文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法練習	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第8回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2 文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法練習 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第10回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2 文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法練習 ・短作文作成	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第12回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第13回】	【第13回】	【第13回】

【第 14 回】	●N2 文法発表 ・第 9 課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-67] 文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-73] 文法練習 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法練習	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法練習 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 29 回】	【第 29 回】	【第 29 回】

【第 30 回】	・ 第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ・ 総括試験返却、振り返り	○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-A52	2.科目名	日本語Ⅰ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	柳川瀬真衣					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10％ 課題提出：10％ 2 文法発表：10％ 短作文発表：10％ 中間試験：20％ 総括試験：20％ N2 文法試験：20％					
22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。 この授業では、生成 AI の 利用を無制限で認めます。					

23.オフィスアワー		授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 ・N2文法プリント	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第2回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・N2文法プリント 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.3-16] 文法 AB 練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第4回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法 C 練習 ・N2文法プリント 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第6回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 ・N2文法プリント 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法 AB 練習 ・短作文作成	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第8回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法 CD 練習 ・N2文法プリント 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第10回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法 AB 練習 ・N2文法プリント	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第12回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●N2文法発表 ・第9課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習	【第13回】 ○本文音読、次回の予習 (60分)

	【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習 ・N2 文法プリント	【第 14 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-66] 文法 AB 練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント ・短作文作成	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-76] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.88-91] 文法練習 ・N2 文法プリント	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習 ・N2 文法プリント	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法 AB 練習 ・短作文作成	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法 CD	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60

	練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116]文法 AB 練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法 CD 練習 ●N 2 文法試験	分) 【第 28 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4， 5）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123]文法練習 【第 30 回】 ・N 2 文法試験返却、解説 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-A53	2.科目名	日本語Ⅰ（留）T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	李恒聡					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	N1 取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					

21.成績評価	クラス活動：10% 課題提出：10% N2 文法発表：10% 短作文発表：10% 中間試験：30% 総括試験 : 30%		
22.コメント	初回の授業からテキストを持参してください。 欠席するときは連絡してください。		
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第2回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第4回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出	
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法練習 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第6回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出	
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2 文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法練習	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第8回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出	
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2 文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法練習 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第10回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2 文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法練習 ・短作文作成	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第12回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出	

【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●N2 文法発表 ・第 9 課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	【第 13 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-67] 文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-73] 文法練習 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法練習	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法練習	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出

【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 29 課】 ○復習 (60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-Y51	2.科目名	日本語Ⅰ T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	柳川瀬真衣					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10％ 課題提出：10％ N2 文法発表：10％ 短作文発表：10％ 中間試験：20％ 総括試験：20％ N2 文法試験：20％					
22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。 この授業では、生成 AI の 利用を無制限で認めます。					

23.オフィスアワー		授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 ・N2文法プリント	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第2回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・N2文法プリント 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.3-16] 文法 AB 練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第4回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法 C 練習 ・N2文法プリント 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第6回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 ・N2文法プリント 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法 AB 練習 ・短作文作成	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第8回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法 CD 練習 ・N2文法プリント 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第10回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法 AB 練習 ・N2文法プリント	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第12回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●N2文法発表 ・第9課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第14回】 ・第10課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	【第13回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第14回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60分)

	・ N2 文法プリント	★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-66] 文法 AB 練習 【第 16 回】 ・ N2 文法プリント ・ 短作文作成	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-76] 文法練習 ・ N2 文法プリント 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 中間試験返却、解説 ・ 第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・ N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・ 第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.88-91] 文法練習 ・ N2 文法プリント	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・ 第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習 ・ N2 文法プリント	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 ・ N2 文法プリント 【第 26 回】 ・ 第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法 AB 練習 ・ 短作文作成	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ 第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法 CD 練習 ・ 第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法 AB 練習 【第 28 回】 ・ 第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法 CD 練習 ●N2 文法試験	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出

【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ 第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123]文法練習 【第 30 回】 ・ N 2 文法試験返却、解説 ● 総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 29 課】 ○ 復習 (60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-Y52	2.科目名	日本語Ⅰ (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	N1 取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』 ISBN978-4-327-38465-4 C1081					

20.参考文献	授業時に適宜紹介します。	
21.成績評価	クラス活動：10% 課題提出：10% N2 文法発表：10% 短作文発表：10% 中間試験：30% 総括試験 : 30%	
22.コメント	初回の授業からテキストを持ってくるください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第2回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第4回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法練習 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第6回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2 文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法練習	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第8回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2 文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法練習 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第10回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2 文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法練習 ・短作文作成	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第12回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第13回】	【第13回】	【第13回】

【第 14 回】	●N2 文法発表 ・第 9 課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-67] 文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-73] 文法練習 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法練習	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法練習 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 29 回】	【第 29 回】	【第 29 課】

【第 30 回】	・ 第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ・ 総括試験返却、振り返り	○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-Y53	2.科目名	日本語Ⅰ (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田名清					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通 (留学生のみ)			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う (文単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ (テキスト単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					

21.成績評価	クラス活動：10% 課題提出：10% N2 文法発表：10% 短作文発表：10% 中間試験：20% 総括試験：20% N2 文法試験：20%	
22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 ・N2 文法プリント	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第2回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法 AB 練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第4回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法 C 練習 ・N2 文法プリント 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第6回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2 文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法 AB 練習 ・短作文作成	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第8回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2 文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法 CD 練習 ・N2 文法プリント 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第10回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習 4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2 文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法 AB 練習	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第12回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分)

	・ N2 文法プリント	★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 9 課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第 14 回】 ・ 第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習 ・ N2 文法プリント	【第 13 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-66] 文法 AB 練習 【第 16 回】 ・ N2 文法プリント ・ 短作文作成	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-76] 文法練習 ・ N2 文法プリント 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 中間試験返却、解説 ・ 第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・ N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・ 第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 ・ N2 文法プリント	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・ 第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習 ・ N2 文法プリント	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 ・ N2 文法プリント 【第 26 回】 ・ 第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法 AB 練習 ・ 短作文作成	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ 第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法 CD 練習	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】

	・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法 AB 練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法 CD 練習 ●N 2 文法試験	○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ・N 2 文法試験返却、解説 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-A51	2.科目名	日本語Ⅱ（留）T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	権田彩良					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK					

	プリント（N2文字語彙）	
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。	
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。	
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第2回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第4回】 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）

	【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・第1課～第5課の復習 【第14回】 ●中間試験	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第18回】 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第17回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ●第6課のロールプレイテスト ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第20回】 ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第19回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第20回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ●第7課の発表テスト ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第22回】 ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第21回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第22回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ●第7課の発表テスト ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応 用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持 参）	【第23回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第24回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）

	【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発表のスライド作成	★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N2 試験	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-A52	2.科目名	日本語Ⅱ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	上仲淳					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業である。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できる。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。					
19.教科書・教材	『身近なテーマから広げる！にほんご語彙力アップトレーニング（音声ダウンロード版）』アスク出版 ISBN:9784866396156 プリント（N2 文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介する。					
21.成績評価	クラス活動：10％ 課題 ：10％ 発表 ：20％ 小テスト ：20％ 最終発表：30％ 文字語彙試験：10％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意					
22.コメント	初回の授業からテキストを持参すること。 欠席するときは事前に連絡すること。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める（アイデアを得るのみ）がプレゼンテーションやテストでの使用は認めない。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付ける。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第2回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20]			【第1回】 ○授業の復習（60 分） 【第2回】 ○授業の復習（60 分）		

	語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第4回】 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第10回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●第1課～第5課の小テスト 【第14回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60]	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）

	語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 19 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応 用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持 参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発 表のスライド作成	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 【第 28 回】 ●第 9 課の発表テスト ●第 6 課～第 9 課の小テスト	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 ●N2 文字語彙試験 【第 30 回】 ・生活の語彙、今期の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-A53	2.科目名	日本語Ⅱ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	金石哲					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK（ただし、単行本） プリント（N2文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% 課題・発表：30% N2 語彙試験：20% 中間テスト・総括試験：40%					
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、					

	明らかに授業に参加していないと判断できる場合、クラス活動点を0点として処理することがあります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。ただし、電子書籍版のテキストは、上記①の理由から基本的に不可とします。必ず、単行本を持参するようにして下さい。	
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メール・アドレスにご連絡ください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N2文字語彙）学習 【第2回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第4回】 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 「3, 練習してみよう」「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）

	・「発表しましょう」の原稿作成 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 【第12回】 第1課～第5課までの学習内容の復習・再整理 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●中間テスト（第1課～第5課） ・中間テストの答え合わせと出題意図の解説 【第14回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ●第6課のロールプレイテスト ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「書きましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第18回】 ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第17回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ●第7課の発表テスト ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第20回】 ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89]	【第19回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第20回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）

	「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 8 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 「1, グラフを見て考えよう」「2, ことばを増やそう」「3, 練習してみよう」	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 【第 24 回】 ●第 1 課～第 9 課の発表テスト	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 第 1 課～第 9 課までの学習内容の復習・再整理	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 1 課～第 9 課の総括試験 ・総括試験の解答と出題意図の解説 【第 28 回】 ・N2 文字語彙の再整理	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●N2 文字語彙試験 【第 30 回】 ・N2 文字語彙試験の解答と出題意図の解説 ・今期のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-Y51	2.科目名	日本語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 【授業の概要】 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 1.世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の					

	考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。	
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N2文字語彙）	
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。	
21.成績評価	クラス活動：30% 課題・発表：30% 中間試験：20%、総括試験：20% 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。 ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。	
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第2回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）

【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●第 3 課のロールプレイテスト ・第 4 課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 10 回】 ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 9 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 10 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●第 4 課のロールプレイテスト ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第 12 回】 ・プリント（N2 文字語彙）学習	【第 11 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 12 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 1 課～第 5 課の復習 【第 14 回】 ●中間試験	【第 13 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 14 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●第 5 課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 16 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 15 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 16 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 19 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）

【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発表のスライド作成	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N2 試験	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-Y52	2.科目名	日本語Ⅱ T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳凱欽					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週2コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N2文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。					
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。 生成 AI の利用に関して、成績評価に関わる課題・レポート・テストにおいては、生成 AI の利用を認めません。ただし、日常の学習をサポートする目的での利用は認めます。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	【第1回】			【第1回】		

【第2回】	・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N2文字語彙）学習 【第2回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第4回】 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第10回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・第1課～第5課の復習 【第14回】	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】

	●中間試験	○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第18回】 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第17回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ●第6課のロールプレイテスト ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第20回】 ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第19回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第20回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ●第7課の発表テスト ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第22回】 ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第21回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第22回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ●第7課の発表テスト ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第24回】 ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発表のスライド作成	【第23回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第24回】 ○授業の復習、発表の練習（60分） ★スライド提出
【第25回】 【第26回】	【第25回】 ●第8課の発表テスト ・プリント（N2文字語彙）学習 【第26回】 ・第10課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第25回】 ○授業の復習（60分） 【第26回】 ○授業の復習（60分）
【第27回】 【第28回】	【第27回】 ●第9課の発表テスト ・第10課「グラフ」[教科書 pp.91-99]	【第27回】 ○授業の復習（60分） 【第28回】

	応用練習 【第 28 回】 ・ 第 6 課～第 10 課の復習 ● N 2 試験	○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・ N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-Y53	2.科目名	日本語Ⅱ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 【授業の概要】 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 1. 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					

19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N2文字語彙）	
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。	
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％ 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。 ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。	
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。	
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み ／秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第2回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）

【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●第 3 課のロールプレイテスト ・第 4 課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 10 回】 ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 9 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 10 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●第 4 課のロールプレイテスト ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第 12 回】 ・プリント（N2 文字語彙）学習	【第 11 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 12 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 1 課～第 5 課の復習 【第 14 回】 ●中間試験	【第 13 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 14 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●第 5 課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 16 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 15 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 16 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 19 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）

【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発表のスライド作成	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N2 試験	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-A51	2.科目名	日本語Ⅲ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times					

	佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2	
20.参考文献	授業中に適宜指示します。	
21.成績評価	①学習状況（授業参加）：10% ②各課題：20% ③中間試験：25% ④総括試験：25% ?レポート課題：20%	
22.コメント	初回の授業からテキストを持ってくる。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文（課題）	
第5回	第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く（課題）	
第6回	アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 プリント教材	
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く（課題）	
第8回	中間試験	
第9回	中間試験のフィードバック 第7課 自分をアピールする文を書く	

	○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く（課題）	
第 1 0 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識 ・ レポートのテーマを決める	
第 1 1 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習 ・ レポートを書く前の準備	
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く ・ レポートの序論を書く	
第 1 3 回	第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く ・ レポートの本論を書く	
第 1 4 回	・ レポートの結論を書く ・ レポートの発表準備をする	
第 1 5 回	総括試験 ・ レポート発表	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-A52	2.科目名	日本語Ⅲ（留）T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	李恒聡					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times					

	佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2	
20.参考文献	授業中に適宜指示します。	
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間試験（作文含む） 20% ③作文2回（課題①②） 30% ④総括試験（作文含む） 30%	
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第5回	作文①の提出 第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（1） プリント教材	
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第8回	中間試験（作文含む）	

第 9 回	中間試験のフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第 1 0 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 1 1 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第 1 3 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 1 4 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （2） プリント教材	
第 1 5 回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-A53	2.科目名	日本語Ⅲ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	金石哲					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	佐々木瑞枝 他『大学で学ぶための日本語ライティング』（2006 年 2 月、ジャパントイムズ刊） ISBN: 978-4-7890-1221-8					
20.参考文献	授業中に適宜指示します。					
21.成績評価	授業態度：10% 毎週の課題：15% 作文課題 2 回（課題①②）：25% 中間テスト（作文）・期末テスト（作文）：50%					
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、					

	明らかに授業に参加していないと判断できる場合、学習態度点を0点として処理することがあります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。	
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メールアドレスにご連絡ください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第5回	作文①の提出 第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（1） プリント教材	
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第8回	中間試験（作文含む）	
第9回	中間試験のフィードバック 第7課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	

第 1 0 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 1 1 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第 1 3 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 1 4 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （2） プリント教材	
第 1 5 回	総括試験（作文含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-Y51	2.科目名	日本語Ⅲ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井かおり					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times					

	佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2	
20.参考文献	授業中に適宜指示する。	
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間テスト（作文含む） 20% ③作文2回 30% ④期末テスト（作文含む） 30%	
22.コメント	初回の授業からテキストとノート PC を用意してください。 欠席するときは連絡してください。 ?生成 AI 利用に関して 日本語で書く練習の授業なので、利用は認めません。 ?成績評価に関わる課題・レポート・テストで利用した場合は採点しません。	
23.オフィスアワー	授業の前後またはメールで対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表	テキスト 「大学で学ぶための日本語ライティング」
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表	テキスト PC
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表	テキスト PC
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く	作文①を完成させる。 テキスト PC
第5回	作文①の提出 第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	テキスト PC
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 (1) プリント教材	テキスト PC
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	テキスト PC

第 8 回	中間テスト（作文含む）	テキスト PC
第 9 回	中間テストのフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	テキスト PC
第 10 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	テキスト PC
第 11 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	テキスト PC
第 12 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く	作文②を完成させる。 テキスト PC
第 13 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	テキスト PC
第 14 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （2） プリント教材	テキスト PC
第 15 回	期末テスト（作文含む）	テキスト PC レポート自作資料

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-Y52	2.科目名	日本語Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 【授業の概要】 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 1.世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の					

	考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。	
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2	
20.参考文献	授業中に適宜指示します。	
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間試験（作文含む） 20% ③作文2回（課題①②） 30% ④総括試験（作文含む） 30% 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。	
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第5回	作文①の提出 第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（1）	

	プリント教材	
第 7 回	第 6 課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第 8 回	中間試験（作文含む）	
第 9 回	中間試験のフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第 10 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 11 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 12 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第 13 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 14 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （2） プリント教材	
第 15 回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-Y53	2.科目名	日本語Ⅲ (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	権田彩良					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					

19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2	
20.参考文献	授業中に適宜指示します。	
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間試験（作文含む） 20% ③作文2回（課題①②） 30% ④総括試験（作文含む） 30%	
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第5回	作文①の提出 第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（1） プリント教材	
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	

第 8 回	中間試験（作文含む）	
第 9 回	中間試験のフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第 10 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 11 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 12 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第 13 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 14 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （2） プリント教材	
第 15 回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-A51	2.科目名	日本語Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	李恒聡					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『必ずできる！ JLPT「読解」N2』 安藤 栄里子・足立 尚子 著					

	ISBN：9784757433953	
20.参考文献		
21.成績評価	学習状況(学習態度)30% 小テスト(2回)20% 中間テスト 20% 期末テスト 30%	
22.コメント		
23.オフィスアワー	授業の前後	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション ○ 自己紹介 ○ 成績の構成を紹介 ○ 多様な分野の素材の読解 (N2 レベルの読解問題)	
第2回	[レベル1] ウォーミングアップ① [レベル2] 練習問題1日目～2日目 + N2 読解の過去問題集	
第3回	[レベル1] ウォーミングアップ② [レベル2] 練習問題3日目～4日目 + N2 読解の過去問題集	
第4回	[レベル1] ウォーミングアップ③ [レベル2] 練習問題5日目～6日目 + 小テスト①	小テスト①
第5回	[レベル1] ウォーミングアップ④ [レベル2] 練習問題7日目～8日目 + N2 読解の過去問題集	
第6回	[レベル1] ウォーミングアップ⑤+⑥ [レベル2] 練習問題9日目～10日目 + N2 読解の過去問題集	
第7回	中間テスト + クラス活動① (詳細は指示する)	
第8回	中間テストのフィードバック [レベル3] ウォーミングアップ⑦ [レベル4] 練習問題11日目～12日目 + N2 読解の過去問題集	
第9回	[レベル3] ウォーミングアップ⑧ [レベル4] 練習問題13日目～14日目 + N2 読解の過去問題集	
第10回	[レベル5] ウォーミングアップ⑨ [レベル4] 練習問題15日目～16日目	

	+ N 2 読解の過去問題集	
第 1 1 回	[レベル 5] ウォーミングアップ⑩ [レベル 6] 練習問題日目 1 7 ～ 1 8 日目 + 小テスト②	小テスト②
第 1 2 回	[レベル 6] 練習問題日目 1 9 ～ 2 0 日目 + N 2 読解の過去問題集	
第 1 3 回	[レベル 6] 練習問題日目 2 1 ～ 2 2 日目 + N 2 読解の過去問題集	
第 1 4 回	期末テスト	
第 1 5 回	期末テストのフィードバック + クラス活動②（詳細は指示する）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-A52	2.科目名	日本語Ⅳ (留) T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	金石哲					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通 (留学生のみ)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う (文単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ (テキスト単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	安藤栄里子・足立尚子『必ずできる！ JLPT「読解」N2』(2020 年 1 月、アルク刊) ISBN: 9784757433953					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	学習態度：10% 毎授業の課題提出：15% 要約メモ (2 回)：25% 中間テスト・期末テスト：50%					
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、明らかに授業に参加していないと判断できる場合、学習態度点を 0 点として処理することがあ					

	ります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。	
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メールアドレスにご連絡ください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	○授業オリエンテーション ○ウォーミングアップ 1, 2 (p.18 ～ p. 21) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 2 回	○ウォーミングアップ 3 (p. 22～ p. 23) ○練習問題 1, 2 日目 (p.30 ～ p.37) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 3 回	○ウォーミングアップ 4 (p. 24～ p. 25) ○練習問題 3, 4 日目 (p.38 ～ p.45) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 4 回	○ウォーミングアップ 5(p. 26～ p. 27) ○練習問題 5, 6 日目 (p.46 ～ p.53) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 5 回	○ウォーミングアップ 6(p. 28～ p. 29) ○練習問題 7, 8 日目 (p.54 ～ p.61) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (1 回目) の課題提出
第 6 回	○練習問題 9, 10 日目 (p.62 ～ p.69) ○要約メモのフィードバック	
第 7 回	○中間テスト ○中間テストの答え合わせと出題意図の解説	
第 8 回	○ウォーミングアップ 7(p. 72～ p. 73) ○練習問題 11, 12 日目 (p.76 ～ p.83) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 9 回	○ウォーミングアップ 8(p. 74～ p. 75) ○練習問題 13, 14 日目 (p. 88～ p. 98) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 0 回	○練習問題 15, 16 日目 (p. 100～ p. 110) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 1 回	○ウォーミングアップ 9(p. 112～ p. 113) ○練習問題 17, 18 日目 (p.116 ～ p.127) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 2 回	○ウォーミングアップ 10(p. 114～ p. 115)	

	○練習問題 19, 20 日目 (p.128 ～ p.139) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 3 回	○練習問題 21, 22 日目 (p.140 ～ p.153) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (2 回目) の課題提出
第 1 4 回	○要約メモのフィードバック ○半年間のまとめ	
第 1 5 回	○期末テスト ○期末テストの答え合わせと出題意図の解説	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-Y51	2.科目名	日本語Ⅳ T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	小川佐由理					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DP との関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					

19.教科書・教材	必ずできる！ JLPT「読解」N2 安藤栄里子（著）、足立尚子（著） ISBN:978-4-7574-3395-3	
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。	
21.成績評価	課題 20% 小テスト 20% 中間テスト 20% 期末テスト 40% 授業で具体的に課題や試験の内容について説明します。	
22.コメント	基本的に対面で授業を行います。 生成 AI の利用に関して、 成績評価に関わる課題、レポート、テストにおいて、利用を認めません。 日常の学習をサポートする目的のみ、利用を認めます。	
23.オフィスアワー	授業の前後、またはメール（ ps-ogawa@kuins.ac.jp ）で質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業オリエンテーション テキスト：ウォーミングアップ 1～6	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 2 回	テキスト：練習問題 1, 2 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 3 回	テキスト：練習問題 3, 4 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 4 回	テキスト：練習問題 5, 6 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 5 回	テキスト：練習問題 7, 8 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 6 回	テキスト：練習問題 9, 10 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 7 回	中間試験 テキスト：ウォーミングアップ 7, 8 日目	授業の復習 中間テストの準備 テキストの予習（練習問題をする）
第 8 回	テキスト：練習問題 11, 12 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 9 回	テキスト：練習問題 12, 13 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 10 回	テキスト：練習問題 14, 15 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 11 回	テキスト：練習問題 16 日目 ウォーミングアップ 9.10	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 12 回	テキスト：練習問題 17, 18 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 13 回	テキスト：練習問題 19, 20 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 14 回	テキスト：練習問題 21, 22 日目	授業の復習

		テキストの予習（練習問題をする）
第 15 回	総括試験	授業の復習 期末テストの準備

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-Y52	2.科目名	日本語Ⅳ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	金石哲					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	安藤栄里子・足立尚子『必ずできる！ JLPT「読解」N2』（2020 年 1 月、アルク刊） ISBN: 9784757433953					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	学習態度：10% 毎授業の課題提出：15% 要約メモ（2 回）：25% 中間テスト・期末テスト：50%					
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、明らかに授業に参加していないと判断できる場合、学習態度点を 0 点として処理することがあ					

	ります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。	
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メールアドレスにご連絡ください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	○授業オリエンテーション ○ウォーミングアップ 1, 2 (p.18 ～ p. 21) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 2 回	○ウォーミングアップ 3 (p. 22～ p. 23) ○練習問題 1, 2 日目 (p.30 ～ p.37) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 3 回	○ウォーミングアップ 4 (p. 24～ p. 25) ○練習問題 3, 4 日目 (p.38 ～ p.45) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 4 回	○ウォーミングアップ 5(p. 26～ p. 27) ○練習問題 5, 6 日目 (p.46 ～ p.53) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 5 回	○ウォーミングアップ 6(p. 28～ p. 29) ○練習問題 7, 8 日目 (p.54 ～ p.61) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (1 回目) の課題提出
第 6 回	○練習問題 9, 10 日目 (p.62 ～ p.69) ○要約メモのフィードバック	
第 7 回	○中間テスト ○中間テストの答え合わせと出題意図の解説	
第 8 回	○ウォーミングアップ 7(p. 72～ p. 73) ○練習問題 11, 12 日目 (p.76 ～ p.83) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 9 回	○ウォーミングアップ 8(p. 74～ p. 75) ○練習問題 13, 14 日目 (p. 88～ p. 98) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 0 回	○練習問題 15, 16 日目 (p. 100～ p. 110) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 1 回	○ウォーミングアップ 9(p. 112～ p. 113) ○練習問題 17, 18 日目 (p.116 ～ p.127) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 2 回	○ウォーミングアップ 10(p. 114～ p. 115)	

	○練習問題 19, 20 日目 (p.128 ～ p.139) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 3 回	○練習問題 21, 22 日目 (p.140 ～ p.153) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (2 回目) の課題提出
第 1 4 回	○要約メモのフィードバック ○半年間のまとめ	
第 1 5 回	○期末テスト ○期末テストの答え合わせと出題意図の解説	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-Y53	2.科目名	日本語Ⅳ (1/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	入江沢竜					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	プレ日本語はⅠ～Ⅳは、大学での学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的としています。 各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ ライティング プレ日本語Ⅳ 読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的は、 （プレ日本語Ⅰ）大学でレポートや論文を書くために必要な文型、文法を活用できるようになることで、 （プレ日本語Ⅱ） 様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、 （プレ日本語Ⅲ） 様々なトピックについて、自分の考えをレポートや論文の書式に合わせて書けるようになることで、 （プレ日本語Ⅳ） 様々なトピック、スタイルの文章を読み、必要な情報を得られるようになることで、 本授業は、以下の DP に関わる能力を育てます。 コミュニケーションスキル国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	人と社会をつなぐ日本語 中級 著者：ヒューマンアカデミー日本語学校 執筆者：辻和子 小座間亜衣 ISBN：978-4-86639-685-9 ※教科書販売サイトで入手できない場合は各自 Amazon 等で購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	各回の課題 30% プレゼンテーション 20% 中間テスト 20% 期末テスト 30%					
22.コメント	本授業では特に出席を重視します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	多文化共生社会					
第 2 回	詩・俳句・短歌					
第 3 回	物語「春の鳥」①					
第 4 回	物語「春の鳥」②			小テスト①		

第 5 回	物語作り①	
第 6 回	物語作り②	
第 7 回	前半まとめ 中間テスト	
第 8 回	働き方を考える①	
第 9 回	働き方を考える②	
第 10 回	生き方を考える①	
第 11 回	生き方を考える②	小テスト②
第 12 回	ライフスタイル①	
第 13 回	ライフスタイル②	
第 14 回	後半まとめ 期末テスト	
第 15 回	期末テストの総評	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-A52	2.科目名	日本語Ⅴ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					

20.参考文献	授業時に適宜紹介します	
21.成績評価	(1) 各課の発表：20% (2) 各課の小テスト：20% (3) 各課の漢字テスト：10% (4) 学習状況（授業への参加等）：20% (5) 提出物：10% (6) 期末発表：20%	
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。 ※先輩から譲り受けたような既にかき込みのある教科書を使うことはできません。 初回の授業からテキストを持ってくるようにしてください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第2回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 教育の文法・語彙 【第4回】 教育の読解	
【第5回】 【第6回】	【第5回】 日本の教育問題 【第6回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定	発表準備（原稿作成・スライド作成）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表1） 【第8回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ② ●漢字テスト	
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ことば導入 【第10回】 慣用表現・擬音語擬態語など	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 文法表現 【第12回】 ことば読解1（読み練習）	自国の昔話について発表準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ことば読解2 【第14回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表） ●漢字テスト	○小テストにむけて復習(90 分)
【第15回】 【第16回】	【第15回】 小テスト①（教育・ことば） 【第16回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第16回】 文法表現	
【第17回】 【第18回】	【第17回】 コミュニケーション語彙、読解1 【第18回】 読解2	

【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 昔話 導入 【第 20 回】 動画視聴 ●漢字テスト	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて （学期末 発表の説明）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 学期末発表① 【第 30 回】 学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-A53	2.科目名	日本語Ⅴ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：読みやすいテキストやその他の資料を使って、日常の出来事や社会的な話題について学び、それらについて、スピーチ、口頭発表をする。 目的;スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	(1) 各課の発表 20% (2) 小テスト 30% (3) 学期末発表と提出物 30% (4) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%					
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。よって、履修者は 10 数名が理想的です。 そのため履修人数の上限を 20 名とし、もしそれを超えた場合は先着順もしくは抽選とします。 ※先輩から譲り受けたような既にかき込みのある教科書を使うことはできません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第 2 回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い					
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 教育の文法・語彙 【第 4 回】 教育の読解					
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 日本の教育問題 【第 6 回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定			発表準備（原稿作成・スライド作成）		
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表 1） 【第 8 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ②					
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ことば導入 【第 10 回】 慣用表現・擬音語擬態語など					
【第 11 回】	【第 11 回】 文法表現			自国の昔話について発表準備		

【第 12 回】	【第 12 回】 ことば読解 1（読み練習）	
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ことば読解 2 【第 14 回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 小テスト①（教育・ことば） 【第 16 回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第 16 回】 文法表現	
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 コミュニケーション語彙、読解 1 【第 18 回】 読解 2	
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 昔話 導入 【第 20 回】 動画視聴	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて（学期末発表の説明）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 学期末発表① 【第 30 回】 学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-Y51	2.科目名	日本語Ⅴ (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					

20.参考文献	授業時に適宜紹介します	
21.成績評価	(1) 各課の発表：20% (2) 各課の小テスト：20% (3) 各課の漢字テスト：10% (4) 学習状況（授業への参加等）：20% (5) 提出物：10% (6) 期末発表：20%	
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。 ※先輩から譲り受けたような既に関し書き込みのある教科書を使うことはできません。 初回の授業からテキストを持ってくるください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第2回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 教育の文法・語彙 【第4回】 教育の読解	
【第5回】 【第6回】	【第5回】 日本の教育問題 【第6回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定	発表準備（原稿作成・スライド作成）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表1） 【第8回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ② ●漢字テスト	
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ことば導入 【第10回】 慣用表現・擬音語擬態語など	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 文法表現 【第12回】 ことば読解1（読み練習）	自国の昔話について発表準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ことば読解2 【第14回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表） ●漢字テスト	○小テストにむけて復習(90 分)
【第15回】 【第16回】	【第15回】 小テスト①（教育・ことば） 【第16回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第16回】 文法表現	
【第17回】 【第18回】	【第17回】 コミュニケーション語彙、読解1 【第18回】 読解2	
【第19回】	【第19回】	

【第 20 回】	昔話 導入 【第 20 回】 動画視聴 ●漢字テスト	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて（学期末 発表の説明） ●漢字テスト	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 学期末発表① 【第 30 回】 学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-Y52	2.科目名	日本語Ⅴ (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田名清					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通 (留学生のみ)			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う (文単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ (テキスト単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『トピックによる日本語総合演習—テーマ探しから発表へ 中級後期』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					

21.成績評価	(1) 各課の課題(宿題、漢字クイズ等) 20% (2) 各課の発表 20% (3) 小テスト 20% (4) 学期末発表/レポート 20% (5) 学習状況(授業への参加・パフォーマンス)20%	
22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション、自己紹介、「1 課教育」漢字・語彙 【第2回】 ・ディスカッション：グラフを用いて、自国の教育について話し合い	【第1回】 次回の予習(語彙意味調べ) 【第2回】 授業の復習
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・「1 課教育」漢字クイズ ・「1 課教育」表現・本文 【第4回】 ・プレゼンテーションの基本、数字、比較表現等について ・活動：「教育」についてアンケート	【第3回】 次回の予習(語彙意味調べ) 【第4回】 授業の復習
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・「1 課教育」本文 【第6回】 ・グループワーク：アンケートの結果からわかることを考察する	【第5回】 次回の予習(語彙意味調べ) 【第6回】 授業の復習
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ・「1 課教育」小テスト ・「2 課言葉」漢字・語彙 【第8回】 ・発表：アンケートの結果からわかること ・グループワーク：オノマトペ、大阪弁等について	【第7回】 次回の予習(語彙意味調べ) 【第8回】 授業の復習
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ・「2 課言葉」漢字クイズ ・「2 課言葉」表現・本文 【第10回】 ・発表準備：自国のことわざ、名言について紹介	【第9回】 次回の予習(語彙意味調べ) 【第10回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・「2 課言葉」本文 【第12回】 ・発表練習：自国のことわざ・名言について紹介	【第11回】 次回の予習(語彙意味調べ) 【第12回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・「2 課言葉」小テスト 【第14回】 ・「3 課コミュニケーション」漢字・語彙 【第14回】	【第13回】 次回の予習(語彙意味調べ) 【第14回】 授業の復習

	・発表：自国のことわざ、名言について紹介	
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ・「3 課コミュニケーション」漢字クイズ ・「3 課コミュニケーション」表現・本文 【第16回】 ・ディスカッション：コミュニケーションに関するテーマ	【第15回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第16回】 授業の復習
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・「3 課コミュニケーション」本文 【第18回】 ・ディスカッション	【第17回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第18回】 授業の復習
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ・「3 課コミュニケーション」小テスト ・「4 課昔話」漢字・語彙 【第20回】 ・ストーリー 説明練習	【第19回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第20回】 授業の復習
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ・「4 課昔話」漢字クイズ ・「4 課昔話」表現・本文 【第22回】 ・発表：ストーリー	【第21回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第22回】 授業の復習
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ・「4 課昔話」本文 ・ストーリーテラー準備 【第24回】 ・ストーリーテラー発表 ・昔話発表準備	なし
【第25回】 【第26回】	【第25回】 ・「4 課昔話」小テスト ・「5 課住宅」漢字・語彙 【第26回】 ・昔話発表	なし
【第27回】 【第28回】	【第27回】 ・「5 課住宅」漢字クイズ ・「5 課住宅」表現 ・「5 課住宅」本文 【第28回】 ・昔話発表続き ・期末発表準備、修正	期末発表準備
【第29回】 【第30回】	【第29回】 ・発表：期末発表 【第30回】 ・発表：期末発表 ・振り返りレポートについて	期末発表準備

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-Y53	2.科目名	日本語Ⅴ T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳凱欽					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週2 コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	(1) 各課の課題(宿題、漢字クイズ等) 20% (2) 各課の発表 20% (3) 小テスト 20% (4) 学期末発表/レポート 20% (5) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%					
22.コメント	生成 AI の利用に関して、成績評価に関わる課題・レポート・テストにおいては、生成 AI の利用を認めません。ただし、日常の学習をサポートする目的での利用は認めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション、自己紹介、「1 課教育」漢字・語彙 【第2回】			【第1回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第2回】 授業の復習		

	・ ディスカッション：グラフを用いて、自国の教育について話し合い	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ●「1 課教育」漢字クイズ ・「1 課教育」表現・本文 【第4回】 ・プレゼンテーションの基本、数字、比較表現等について ・活動：「教育」についてアンケート	【第3回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第4回】 授業の復習
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・「1 課教育」本文 【第6回】 ・グループワーク：アンケートの結果からわかることを考察する	【第5回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第6回】 授業の復習
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●「1 課教育」小テスト ・「2 課言葉」漢字・語彙 【第8回】 ・発表：アンケートの結果からわかること ・グループワーク：オノマトペ、大阪弁等について	【第7回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第8回】 授業の復習
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●「2 課言葉」漢字クイズ ・「2 課言葉」表現・本文 【第10回】 ・発表準備：自国のことわざ、名言について紹介	【第9回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第10回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・「2 課言葉」本文 【第12回】 ・発表練習：自国のことわざ・名言について紹介	【第11回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第12回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●「2 課言葉」小テスト ・「3 課コミュニケーション」漢字・語彙 【第14回】 ・発表：自国のことわざ、名言について紹介	【第13回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第14回】 授業の復習
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●「3 課コミュニケーション」漢字クイズ ・「3 課コミュニケーション」表現・本文 【第16回】 ・ディスカッション：コミュニケーションに関するテーマ	【第15回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第16回】 授業の復習
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・「3 課コミュニケーション」本文 【第18回】 ・ディスカッション	【第17回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第18回】 授業の復習
【第19回】	【第19回】	【第19回】

【第20回】	●「3 課コミュニケーション」小テスト ・「4 課昔話」漢字・語彙 【第20回】 ・ストーリー 説明練習	次回の予習（語彙意味調べ） 【第20回】 授業の復習
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ●「4 課昔話」漢字クイズ ・「4 課昔話」表現・本文 【第22回】 ・発表：ストーリー	【第21回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第22回】 授業の復習
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ・「4 課昔話」本文 ・ストーリーテラー準備 【第24回】 ・ストーリーテラー発表 ・昔話発表準備	なし
【第25回】 【第26回】	【第25回】 ●「4 課昔話」小テスト 【第26回】 ●「5 課住宅」漢字・語彙 ・昔話発表	なし
【第27回】 【第28回】	【第27回】 ●「5 課住宅」漢字クイズ ●「5 課住宅」表現 ●「5 課住宅」本文 【第28回】 ・昔話発表続き ・期末発表準備、修正	期末発表準備
【第29回】 【第30回】	【第29回】 ・発表：期末発表 【第30回】 ・発表：期末発表 ・振り返りレポートについて	期末発表準備

1.授業コード (ナンバリング)	JAL202-A51	2.科目名	アカデミック日本語Ⅱ (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) 大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取ります。 (概要) さまざまな状況に対応する表現など、日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	日本で大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができる。日本の大学の授業で使用される表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べることができる。 DP: (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ』 The Japan Times 佐々木瑞枝 その他 ISBN4-7890-1078-3					
20.参考文献						
21.成績評価	クラスでの活動 (個人、ペア、グループワーク) 10 % 宿題 20 % (翌週の授業で提出、または発表) 小テスト 30 % 総括試験 40 %					
22.コメント	語学のクラスであることから、AI に言葉の意味や文章の添削などには使用しても構いませんが、AI に答えをのものを考えさせることは認めません。					
23.オフィスアワー	木曜日：2 時間目 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ ガイダンス: (授業の内容、評価基準について説明) ・ 日本語ウォームアップアクティビティー			○ 予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする。(60 分)		
第 2 回	予定を立てて、説明する：教科書 pp.46-50 ・ 大学祭とサークルの実施をテーマにして、確認、手配の表現を学ぶ。			○ 授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)		
第 3 回	演習の授業： 教科書 pp.55-59 ・ 複雑なことをわかりやすく説明する方法について学ぶ。			○ 授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)		
第 4 回	演習の授業：教科書 pp.61-63 ・ 話の構成を考えて話す			○ 小テスト①に備えて、発表練習しお互いチェックする。(60 分)		
第 5 回	・ 小テスト① ・ 詳しく物の描写をする： プリント教材			○ 授業を復習して、問題を解く。(60 分)		

第 6 回	・経緯をわかりやすく説明する： プリント教材	○授業を復習して、問題を解く。(60 分)
第 7 回	トラブルへの対処と生活情報： 教科書 pp.74-77 ・わかりやすく伝える表現について知る。	○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)
第 8 回	トラブルへの対処と生活情報： 教科書 pp.78-81 ・わかりやすく伝える表現について知る。	○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)
第 9 回	・言い換えて話す： プリント教材	○小テスト②に備えて、復習する。(60 分)
第 10 回	・小テスト② ・抽象的な表現を使いこなす。： プリント教材	○授業を復習して、問題を解く。(60 分)
第 11 回	プライベートなコミュニケーション： 教科書 pp.82-84 ・大学生活の日常で起こるコミュニケーションの取り方について学ぶ。	○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)
第 12 回	プライベートなコミュニケーション： 教科書 pp.86-92 ・大学生活の日常で起こるコミュニケーションの取り方について学ぶ。	○小テスト③に備えて、復習する。(60 分)
第 13 回	小テスト③ ・これまでの振り返りと期末試験についての説明 ・日本映画鑑賞	○期末試験に備えて、復習する。(60 分)
第 14 回	学期のまとめ ・日本映画鑑賞と映画に関するディスカッション	○総括試験に備えて、復習する。(120 分)
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL202-Y51	2.科目名	アカデミック日本語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	小川佐由理					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取り、さまざまな状況に対応する表現などを学ぶ。 目的：日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	①大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができること ②大学の授業で使用される表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べるができること					
19.教科書・教材	初回までに各自、①か②のいずれかを購入してください。 ①『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 音声ダウンロード版 The Japan Times 佐々木瑞枝、その他 ISBN978-47890-1873-9 ②『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 CD 付 The Japan Times 佐々木瑞枝、その他 ISBN978-47890-1078-8					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラスの参加度・教室活動：20％ 小テスト：20％ クラス内発表：20％ 総括試験：40％ 授業で具体的な課題や試験内容について説明します。					
22.コメント	基本的に対面で授業を行います。 生成 AI の利用に関して、 成績評価に関わる課題、レポート、テストにおいて、利用を認めません。 日常の学習をサポートする目的のみ、利用を認めます。					
23.オフィスアワー	授業の前後、またはメール（ ps-ogawa@kuins.ac.jp ）で質問等を受けつけます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価についての説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー			【第1回】 ○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする（60分）		
【第2回】	【第2回】 ・トラブルへの対処と生活情報①：教科書 pp.74-77 ・わかりやすく伝える表現について知る			【第2回】 ○授業の復習をする（60分）		
【第3回】	【第3回】 ・トラブルへの対処と生活情報②：教科書 pp.78-81 ・わかりやすく伝える表現について知る			【第3回】 ○授業の復習をする		
【第4回】	【第4回】 ・書き換え練習①			【第4回】 ○授業の復習をする（60分）		

【第 5 回】	【第 5 回】 ・書き換え練習②	【第 5 回】 ○授業の復習をする（60 分） ○小テスト①への準備
【第 6 回】	【第 6 回】 ・小テスト① ・Eメールによるコミュニケーション① 教科書 pp.86-92	【第 6 回】 ○授業の復習をする（60 分）
【第 7 回】	【第 7 回】 ・Eメールによるコミュニケーション②+先生宛	【第 7 回】 ○小テスト②への準備（60 分）
【第 8 回】	【第 8 回】 日本映画鑑賞① ・小テスト②	【第 8 回】 映画の後半を予測する
【第 9 回】	【第 9 回】 日本映画鑑賞② ・映画に関するディスカッション	次週の予習をする（60 分）
【第 10 回】	【第 10 回】 インターネットビジネス① 教科書 pp.64-73	【第 10 回】 ○授業の復習をする（60 分）
【第 11 回】	【第 11 回】 インターネットビジネス② 教科書 pp.64-73	【第 11 回】 ○発表準備
【第 12 回】	【第 12 回】 クラス内発表	【第 12 回】 発表の振り返り
【第 13 回】	【第 13 回】 レポートの書き方①（事実と意見）	【第 13 回】 ○総括試験に備えて、復習する（60 分）
【第 14 回】	【第 14 回】 レポートの書き方②（内容の整理）	【第 14 回】 ○総括試験に備えて、復習する（60 分）
【第 15 回】	【第 15 回】 ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL204-A51	2.科目名	日本語ライティングⅡ (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上の留学生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ(テキスト単位のライティング力 の養成)。 大学での学習に必要な、論理的に書く力を養成することを目指す。 特に次の能力を身につけることを目指す。 ○アカデミックな日本語の表現について学び、日常的な日本語からアカデミックな日本語に言い換えられる。 アカデミックな表現を使ってテキスト単位 (まとまった長さの) 文章が書ける。 ○ペアワークやグループワークで自分やクラスメートの作文についてディスカッションすることを通して、文章構成について客観的にとらえることができる (アカデミックで論理的な文とそうでない文の区別ができる)					
18.学習目標と DPとの関連	あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ(テキスト単位のライティング力 の養成)。 大学での学習に必要な、論理的に書く力を養成することを目指す。					
19.教科書・教材	特になし。授業中にレジュメを配布します。 自分で学びたい人は、参考文献のテキストを購入してください。					
20.参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語〈4〉論文作成編』 アカデミックジャパニーズ研究会 (著)					
21.成績評価	授業内・後課題、小テスト：30% 中間テスト等：30% 総括試験：40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 書き言葉と話し言葉					
第 2 回	課題の提示			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 3 回	研究の目的			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 4 回	定義と分類			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 5 回	静的なグラフ・図			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 6 回	動的なグラフ・図			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 7 回	図表、データの対比			中間テストに向けての振り返り・準備 (120 分)		
第 8 回	これまでの振り返り			中間テスト振り返り (60 分)		

	中間テスト	
第 9 回	原因・予測	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 10 回	事例の列挙	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 11 回	引用・資料の利用	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 12 回	同意、反論	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 13 回	帰結、換言、補足	総括テストに向けての振り返り・準備（180 分）
第 14 回	全体の構成について・まとめ 総括試験	
第 15 回	総括試験返却・解説 振り返り	総括試験振り返り（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL204-Y51	2.科目名	日本語ライティングⅡ		3.単位数	1
4.授業担当教員	杉本泰子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上の留学生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	レポートや論文作成など大学で学ぶのに必要な文章が書けることを目的とし、基本的な文章から論理的な文章の書き方や論理的思考の組み立て方などを体系的に学んでいきます。					
18.学習目標と DPとの関連	①レポートや論文作成において必要な文章が書けること ②論理的な文章が書けること 本科目では、本学 DP のうち、特に以下の二つの力を涵養します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。					
19.教科書・教材	特になし (必要な場合は、参考図書に指定しているテキストを各自購入することをお勧めします。)					
20.参考文献	二通信子・佐藤不二子著 『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク					
21.成績評価	授業内外課題 30% 小テスト等：40% 総括レポート：30%					
22.コメント	授業中のスマホ等の使用は、減点対象になりますので注意してください。 課題は期限内に提出してください。遅れて提出した場合は、減点対象になります。 「ライティング」の授業ですので、丁寧な字を書くようにしてください。読めない場合は減点対象になります。 授業を欠席する場合は、メールで連絡してください。					
23.オフィスアワー	金曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【第 1 回】 オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] レポートに使われる文体			【第 1 回】 ○適切な文体への変換 (60 分)		
【第 2 回】	【第 2 回】 対象に焦点をあてた文、動作主に焦点をあてた文 動詞の自他・態			【第 2 回】 ○教科書の練習問題 (60 分)		
【第 3 回】	【第 3 回】 「は」と「が」 名詞化			【第 3 回】 ○教科書の練習問題 (60 分)		

	「段落」の構成	
【第4回】	【第4回】 仕組みの説明 段落構成を学ぶ	【第4回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第5回】	【第5回】 歴史的な経過の説明 分類	【第5回】 ○教科書の練習問題（60分） ★小レポート①提出
【第6回】	【第6回】 定義	【第6回】 ○教科書の練習問題（60分） ○小レポート②作成（60分）
【第7回】	【第7回】 要約 総括レポート準備	【第7回】 ○教科書の練習問題（60分） ○総括レポートの準備（60分） ★小レポート②提出
【第8回】	【第8回】 比較・対照 総括レポートのアウトライン作成	【第8回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第9回】	【第9回】 因果関係 総括レポート準備	【第9回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第10回】	【第10回】 論説文 総括レポート準備	【第10回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第11回】	【第11回】 資料の利用 総括レポートの作成	【第11回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第12回】	【第12回】 レポートの作成 総括レポートの作成	【第12回】 ○総括レポート作成準備（60分）
【第13回】	【第13回】 総括レポートの作成	【第13回】 ○総括レポート作成準備（60分）
【第14回】	【第14回】 総括レポートの作成	【第14回】 ★総括レポート提出
【第15回】	【第15回】 総括レポート返却・振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL207-Y51	2.科目名	専門日本語Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	留学生			9.履修学年	1～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	N2 を取得していることが望ましいです。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 N1 レベルの 4 技能を総合的に学びながら、高度な日本語力を身につけることを目的とします。 【授業の概要】 15 回の授業の中で効率よく力が伸ばせるよう、毎週予習を課すことを基本とする。					
18.学習目標と DP との関連	日本語能力試験 N1 の合格を目指して実践力を養うこと。					
19.教科書・教材	星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文字語彙』ユニコム 星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文法』ユニコム					
20.参考文献	適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：20%、課題：20% N1 文法短文作成試験：10% 総括試験①（文字語彙）：25% 総括試験①（文法）：25% 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。 ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意すること。					
22.コメント	【重要】入国できていない留学生のみ、下記の Zoom での受講を認めます。 日本にいる留学生は対面のみです。 https://					
23.オフィスアワー	上記メールあるいは授業外の時間で受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや評価基準について説明] ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法）			○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする。（60 分）		
【第 2 回】	【第 2 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 3 回】	【第 3 回】 ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 4 回】	【第 4 回】 ●漢字テスト（文字語彙）			○授業の復習をする。（60 分）		

	・ N1 聴解模擬試験（課題理解、ポイント理解、概要理解、即時応答、総理解）	
【第 5 回】	【第 5 回】 ・ N1 聴解模擬試験返却、解説 ・ N1 読解（内容理解、総理解、主張理解、情報検索）	○授業の復習をする。(60 分)
【第 6 回】	【第 6 回】 ・ N1 読解模擬試験返却、解説 ・ N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60 分)
【第 7 回】	【第 7 回】 ・ N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習をする。(60 分)
【第 8 回】	【第 8 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法模擬試験（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60 分)
【第 9 回】	【第 9 回】 ・ N1 文法模擬試験返却 & 解説 ・ N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60 分)
【第 10 回】	【第 10 回】 ・ N1 文字語彙模擬試験（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習をして、発表の練習をする。(60 分)
【第 11 回】	【第 11 回】 ・ N1 文字語彙模擬試験返却、解説 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 12 回】	【第 12 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 13 回】	【第 13 回】 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 14 回】	【第 14 回】 ●N1 文法短文作成試験 ●総括試験（文字語彙）	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 15 回】	【第 15 回】 ・ N1 文法短文作成試験、総括試験（文字語彙）返却、解説 ●総括試験（文法）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL208-A51	2.科目名	専門日本語Ⅰ（留）		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	留学生			9.履修学年	1～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	N2 を取得していることが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	N1 レベルの 4 技能を総合的に学びながら、高度な日本語力を身につけることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語能力試験 N1 の合格を目指して実践力を養うこと。					
19.教科書・教材	星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文字語彙』ユニコム 星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文法』ユニコム					
20.参考文献	適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10%、課題：10% N1 文法短文作成試験：20% 総括試験①（文字語彙）：30% 総括試験①（文法）：30% ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意すること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	上記メールあるいは授業外の時間で受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや評価基準について説明] ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法）			○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする。（60 分）		
【第 2 回】	【第 2 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 3 回】	【第 3 回】 ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 4 回】	【第 4 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・N1 聴解模擬試験（課題理解、ポイント理解、概要理解、即時応答、総合理解）			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 5 回】	【第 5 回】 ・N1 聴解模擬試験返却、解説 ・N1 読解（内容理解、総合理解、主張理解、情報検索）			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 6 回】	【第 6 回】			○授業の復習をする。（60 分）		

	・ N1 読解模擬試験返却、解説 ・ N1 文法（文の文法1、文の文法2、文章の文法）	
【第7回】	【第7回】 ・ N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習をする。(60分)
【第8回】	【第8回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法模擬試験（文の文法1、文の文法2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60分)
【第9回】	【第9回】 ・ N1 文法模擬試験返却&解説 ・ N1 文法（文の文法1、文の文法2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60分)
【第10回】	【第10回】 ・ N1 文字語彙模擬試験（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習をして、発表の練習をする。(60分)
【第11回】	【第11回】 ・ N1 文字語彙模擬試験返却、解説 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第12回】	【第12回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法（文の文法1、文の文法2、文章の文法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第13回】	【第13回】 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第14回】	【第14回】 ●N1 文法短文作成試験 ●総括試験（文字語彙）	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第15回】	【第15回】 ・ N1 文法短文作成試験、総括試験（文字語彙）返却、解説 ●総括試験（文法）	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE102-Y51	2.科目名	日本語の構造Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では「人間の言語」という大きな観点、枠組みから、日本語を捉えることを目的とする。その中で、 言語学や音声学、対照言語学といった分野の基礎知識も学び、日本語の理解をより深める。 *「日本語の構造Ⅰ」では、日本語の文法項目に特に焦点をあてて学ぶのに対して、本科目「日本語の構造Ⅱ」では、より大きな「言語」という視点から日本語を捉える。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自ら主体的に計画を立てて実行し、 ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 (レベル3) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (レベル2)					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	『よくわかる言語学（日本語教師・分野別マスターシリーズ）』 定延 利之 著 アルク 『世界の言語と日本語－言語類型論からみた日本語』 角田太作 著 くろしお出版 『意味論』 ウルマン 著 紀伊国屋書店					
21.成績評価	授業内課題・復習課題 30% 中間テスト 30% 総括試験 40%					
22.コメント	入国できない留学生のみ、Zoom でも受講を認める。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	【オリエンテーション/言語とは?】 授業の進め方についてのオリエンテーション 人間の言語の特徴 世界の言語の中での日本語の位置付け			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60分）		
第2回	【言語学(言語に対する考え方)】 日本語の特徴、ルーツ 言語の獲得 など			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60分）		
第3回	【日本語の音と文字】 音声学／音韻論とは何か			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60分）		

	日本語の音韻・音声体系 日本語の文字と表記	
第 4 回	【変音現象】 語が経ていく音の変化とその要因	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 5 回	【語構成】 意味の基本単位である「形態素」「語」の創造とその構成	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	【文法の変化】 活用の変化 文法規則の変化	○個人ワーク 中間テストに向けての復習（180 分）
第 7 回	これまでのまとめと中間テスト	
第 8 回	【語種/語彙の計量】 和語、漢語、外来語、混種語 学習者の学ぶべき語彙	中間テストの復習（120 分）
第 9 回	【意味の体系と語用論】 意味論／語用論とは何か 意味の体系 談話の構造 語用論的規範	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	【日本語の事態の捉え方/描き方 日本語の特徴】 これまでの言語の対照を踏まえて、日本語がどのように事態を描くのか、その特徴を掴む。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	【位相】 地域、社会的階層、性別等による言語の「位相」	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	【敬語】 敬語のシステムと歴史	○個人ワーク 比喩全般についても理解をふかめる課題(120 分)
第 13 回	【他言語との日本語の比較】 他言語と日本語のシステムの違い	○個人ワーク 総括試験に向けての復習（180 分）
第 14 回	総括試験	
第 15 回	総括試験返却・解説 総括	○総括試験の復習、これまでの振り返り（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JPE103-Y51	2.科目名	言語学概論 (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 (オンデマンド)	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、言語に関わる様々な現象について、音、語、意味(変化)、文章や談話、といった様々なレベル、角度から考える。言語の持つ様々な規則性を見つけだし、的確に記述する方法を学ぶ中で、言語という直感の働く考察対象を、客観的、科学的に分析する力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度 (自律性) 自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 (レベル3) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (レベル2)					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	日本語教育能力検定試験に合格するための言語学 22 定延 利之 (著) はじめての言語学 (講談社現代新書) 黒田 龍之助 (著)					
21.成績評価	復習課題・授業内課題等 30% 中間テスト 30% 総括試験 40% *授業の理解度をはかるため、数回の授業ごとに小テストを行う。 また自らの母語について考えてもらうため課題も課す。					
22.コメント	本授業は全てオンデマンドで行う (ただし、総括試験は定期試験期間に「対面」で行う) 毎回の課題の期限内の提出をもって出欠確認を行うため、必ず期限内に課題を提出すること。					
23.オフィスアワー	金曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーションおよびイントロダクション 言語学とは?			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)		
第 2 回	音声学 1(音韻論と音声学, IPA)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)		
第 3 回	音声学 2(日本語の音声と英語の音声)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)		
第 4 回	語彙と意味 1(語形成と意味の拡張)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)		
第 5 回	語彙と意味 2(語種と語彙量)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)		
第 6 回	語彙と意味 3(意味の変化とメタファー)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分) 中間テストにむけた復習 (120 分)		
第 7 回	これまでのまとめと中間テスト			○中間テストの振り返り(60~90 分)		

第 8 回	テスト結果解説 これまでの復習	○中間テストの振り返り、授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90分)
第 9 回	第二言語習得 1 (文法訳読式~直接法)	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90分)
第 10 回	第二言語習得 2 (さまざまな直接法と第二言語習得理論の発展)	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90分)
第 11 回	対照言語学 1 (言語を比較するとは? 言語と思考の関係)	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90分)
第 12 回	対照言語学 2(世界の言語と日本語との比較)	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90分)
第 13 回	語用論 (構文や文脈における意味) 社会言語学(言語変種、正書法、国語国字運動)	○総括試験にむけた全体の復習(90分~180分)
第 14 回	総括試験	○総括試験の復習 (120分)
第 15 回	試験解説と授業の総括	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE202-Y51	2.科目名	日本語コミュニケーション		3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	日本語教師養成		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この授業では、日本語を外国語として効果的に指導するために、日本語を取り巻く社会的言語活動やコミュニケーションの方法について学習します。 (概要) 講義を通して様々な言語研究を参照し、言語使用とコミュニケーションについての基礎知識を用いながらグループワークを通して日本語の特徴について客観的に考え、身近な「日本語らしい」言語現象について解明していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 日本語のコミュニケーションの方法に着目し、その実態や特徴について説明できる。 2. 日本語を、社会や文化の観点から客観的に分析できる。 3. 日本語コミュニケーションに関する知識を日本語教育に関連付けることができる。 DP: (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	等になし					
20.参考文献						
21.成績評価	クラスでの活動、グループワーク 10% 宿題 20% 中間試験 20% プレゼンテーション 20% 総括試験 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前後に、アポを取ってください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	●ガイダンス 目的、授業内容の説明 ●ウォーミングアップ			授業の復習		
第 2 回	●日本語コミュニケーションの種類 コミュニケーションの種類や役割 コミュニケーションと文化 日本語のコミュニケーションの特徴			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		
第 3 回	●日本語の発話行為 日本語の「誘う」、「断る」、「ほめる」、「謝る」、「叱る」などにおける特徴			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		

第 4 回	●日本語会話のルールとコミュニケーションストラテジー 高コンテキスト VS 低コンテキスト 日本語のユーモア、ジョーク シンパシー VS エンパシー	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 5 回	●コミュニケーションにおける自分の捉え方、対人関係 自己と他者 「タテ社会」 VS 「ヨコ社会」 個人と集団 親族名称、呼称	レビューシートを使って、理解度チェック（120 分）
第 6 回	●レビューセッション	中間テストに備える（120 分）
第 7 回	●中間テスト	
第 8 回	●日本語のバリエーション 地域差 － 方言 ジェンダー差 － 男ことば、女ことば 世代差 － 若者ことば	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 9 回	●日本社会・文化から見る日本語 「ウチ」・「ソト」 「ホンネ」と「タテマエ」 「義理」と「人情」 「ハレ」と「ケ」	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 10 回	●日本語のバーバル・ノンバーバルコミュニケーション 日本語の言語コミュニケーション 日本語の非言語コミュニケーション	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 11 回	プレゼンテーションの準備	◎プレゼンテーションの準備（180 分）
第 12 回	プレゼンテーション①	◎プレゼンテーションの準備（180 分）
第 13 回	プレゼンテーション②	レビューシートを使って、理解度チェック（120 分）
第 14 回	●学期のまとめ レビューセッション 授業アンケートなど	レビューシートを使って、理解度チェック（120 分） ★プレゼンテーションの PPT、スクリプト
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE304-Y51	2.科目名	日本語教育の実践と評価		3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	日本語教師養成プログラム		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この授業では、外国語としての日本語教育における実践と評価の方法について学習します。 (概要) 日本語の様々な特徴、評価法における実例を参照しながら、日本語教育の実践と評価に関する基礎知識を養います。					
18.学習目標とDPとの関連	1) 外国語としての日本語基礎知識を習得する。 2) 日本語教育の方法に着目し、その実態や特徴について説明することができる。 3) 日本語教育において用いられる評価方法について学び、実際に評価方法を使って評価できる。 DP (4) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。 (6) 専門的知識・技能の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。					
19.教科書・教材	特になし					
20.参考文献						
21.成績評価	クラスでの活動、グループワーク 10% 宿題 20% 中間試験 20% プレゼンテーション 20% 総括試験 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前後にアポを取ってください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ガイダンス、ウォーミングアップ			授業の復習		
第2回	・外国語教育と日本語教育 外国語を指導する教授法とその特徴 教授法と日本語教育			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		
第3回	・日本語教育の方法 シラバス、教材、教具			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		
第4回	・教室活動① 「読む力・書く力」を向上させるための指導			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		
第5回	・教室活動② 「聞く力・話す力」を向上させるための指導			レビューシートを使って、理解度チェック (120 分)		
第6回	・これまでのまとめとレビュー			中間テストに備える (120 分)		

第 7 回	中間テスト	
第 8 回	・日本語教育と評価 日本語教育で用いる評価方法とその特徴	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 9 回	・評価力を育てる① 「読む力・聞く力」を評価する	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 1 0 回	・評価力を育てる② 「話す力・書く力」を評価する	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 1 1 回	・プレゼンテーションの準備	◎プレゼンテーションの準備（180 分）
第 1 2 回	・プレゼンテーション	◎プレゼンテーションの準備（180 分）
第 1 3 回	・プレゼンテーション	レビューシートを使って、理解度チェック (120 分)
第 1 4 回	・学期のまとめ 授業のレビュー 授業アンケート	レビューシートを使って、理解度チェック (120 分)
第 1 5 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JPN107-Y51	2.科目名	日本研究	3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard Leckie				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 This course introduces various forms of traditional Japanese culture and their role in shaping Japan's cultural identity. It encourages students, both Japanese and international, to take a fresh look at Japanese culture within a broader global context. 【概要】 At home, students will read teaching materials about traditional Japanese culture on WebClass. There will be regular short quizzes in class in relation to these materials. In the classroom, students will investigate and present about the culture of Japan and other countries. Students will make oral reports about contemporary Japanese culture at the end of the semester and submit reports based on their presentations as their final assignment.				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. Improving knowledge of Japanese culture. 2. Viewing Japanese culture in a wider global context. 3. Understanding individual versus cultural differences. 4. Improving reading comprehension through regular homework quizzes. 5. Improving speaking ability through regular oral presentations. 【関連する DP】 (1)自律性 (3)多様性理解 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	Course materials provided by teacher				
20.参考文献	None				
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Participation 30% (学習目標 2, 3 に対応) (2) Homework present				
22.コメント	Bring your laptop to all class meetings				
23.オフィスアワー	Talk to the instructor before or after class, or contact by email				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Introduction to course			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 2	Japanese poetry			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 3	Japanese traditional clothing			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 4	Japanese tea ceremony			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 5	Japanese flower arrangement			Reading + Homework Presentation	

		(4hrs/week)
Week 6	Japanese gardens	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 7	Japanese traditional music and instruments	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 8	Japanese visual arts	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 9	Japanese sports and martial arts	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 10	Japanese performing arts	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 11	Japanese traditional festivals	Preparing for Final Presentation & Report (4hrs/week)
Week 12	Student presentations	Preparing for Final Presentation & Report (4hrs/week)
Week 13	Student presentations	Preparing for Final Presentation & Report (4hrs/week)
Week 14	Student presentations	Preparing for Final Presentation & Review (4hrs/week)
Week 15	Sum-up of course	

1.授業コード (ナンバリング)	LAW101-Y51	2.科目名	法律学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件	日本国憲法、および人権と法を並行履修、あるいは履修済みであることが望ましい。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および講義前演習	
16.履修制限	特に設けない。				
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、法律学（法学）を全般的に講義し、いわゆる legal mind（法的思考力）の涵養を目指す。さらに、可能な限りの事例研究を通じて、法律的な観点から問題を分析、解決できる実践的能力を養っていくことを目的とする。 法治国家である我が国は、暴力に頼らずに、法に則って解決することを建前としている。従って、この世の中に存在する紛争（トラブル）を法（ルール）に基づいて決着をつけることが大前提となっている。 そして、法に則って解決する能力は、社会人にとって必須のスキルとして求められるのである。 このようなことから、講義前チェックテスト（講義前演習）、講義、アフターフォローとしての講義前チェックテストの解説の構成で進行する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①法律（あるいは法）がなぜ社会にとって必要なかを理解できるようになる。 ②法律（法）に従って、問題を公平に解決できる思考ができるようになる。 ③legal mind（法的思考力）を身に付け、法的に解決できるようになる。				
19.教科書・教材	末川 博（編）『法学入門 第6版補訂版』（2014年）有斐閣双書				
20.参考文献	必要に応じて配布するか、講義中に案内する。				
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト1回目（第5回目の講義時に実施） 最大25% 〈学習目標①および③に対応〉 ②小テスト2回目（第10回目の講義時に実施） 最大25% 〈学習目標①および③に対応〉 ③総括試験（第15回目に実施） 最大50% 〈学習目標②に対応〉 以上の評価対象を実施した上で、合計60%以上となった場合に、合格（単位認定）とする。 ※ 小テストは、各回15分程度のを予定しており、かつ講義中にWebClassのテスト機能を利用する。したがって				
22.コメント	①WebClassを利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②新聞やニュースなどで、法律や裁判に関する報道に接して、法律が現実社会において、どのように機能するのかを考えながら、講義に参加して欲しい。 ③生成AIの利用は一切認めないものとする。従って、WebClassを利用した2回の小テスト、最終回に実施する総括試験は、自力で受験することになる。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClassのメール機能を使った問い合わせも可（ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある）。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	（講義）講義の進め方と現実社会における法の必要性			（復習）	

	について説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、次回以降の進行についても説明をしていきたい。	講義ノートの整理
第 2 回	(講義)「第 1 講 法と何か」 「法」ないしは「法律」という用語は多義的であり、文脈に応じてその概念を理解しなければならない。ここでは、規範の性質、社会規範である法と道徳の相違を中心に講義を行う。テキスト 22～30 ページ該当 (講義前演習) 法律の基本知識に関する確認テスト	(予習) テキスト 22-30 ページを読んで、社会規範の性質、法と道徳の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 3 回	(講義)「第 2 講 法の発展」 法は歴史的経過と共に変化し、発展してきた。現代法の源流は、近代ヨーロッパに求めることができる。そこで、近代法の形成から現代法に至るまでの経過、そして我が国の法制にどのような影響を与えたのかを中心に解説する。テキスト 33～43 ページ該当 (講義前演習) 近代法に関する確認テスト	(予習) テキスト 33-43 ページを読んで、法の歴史、国家と法の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 4 回	(講義)「第 4 講 裁判の基準」 法律的に紛争を解決するということは、解決するための基準が必要となる。それを法源 (source of law) という。つまり、裁判官は我が国において有効な法源を適用して紛争解決を図るのである。そこで、我が国で有効な法源とは、どのような種類があり、どのような性質を持つもののかを講義していきたい。テキスト 57～71 ページ該当 (講義前演習) 法源に関する確認テスト	(予習) テキスト 57-71 ページを読んで、法の種類にどのようなものがあるかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	(講義)「第 3 講 法と裁判」 法律に則って紛争を解決する場所は裁判所である。民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟はすべて裁判所で審理する。そこで、三審制を採用している裁判制度 (司法制度)、民事訴訟と刑事訴訟の構造、裁判員制度を中心に講義する。テキスト 45～55 ページ該当 (講義前演習) 裁判制度に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 1 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 45-55 ページを読んで、裁判制度の関係を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 6 回	(講義)「第 6 講 近代国家と憲法」 我々の基本的人権および国家の基本構造を定めるのが憲法である。先進国の憲法は、自由主義的あるいは民主主義的内容の憲法であり、その起源は 18 世紀にまで遡る。そこで、なぜ憲法が生成されたのか、その歴史的背景を探りつつ、基本原理と現代的意味を解説していきたい。また、大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて、我が国の立憲主義と国家の変遷について講義する。テキスト 82～91 ページ該当 (講義前演習) 憲法についての確認テスト	(予習) テキスト 82-91 ページを読んで、近代憲法の成立と原理を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 7 回	(講義)「第 7 講 権力分立」 フランスのモンテスキューは、その著書である「法 of 精神」で、権力の集中は権力濫用に繋がり、国民の自由が否定されると説いた。ゆえに、権力分立 (三権分	(予習) テキスト 93-103 ページを読んで、国会、内閣、裁判所の基本構造を確認する。 (復習)

	立)は人権保障に必要であると結論付けたのであった。自由主義的かつ民主主義的憲法は、権力分立構造を取り入れている。日本国憲法も、三権分立を採用し、国会、内閣、裁判所に国家三権を担当させている。ここでは、各々の権能を中心に講義をする。テキスト 93～103 ページ該当 (講義前演習) 統治機構についての確認テスト	講義ノートの整理
第 8 回	(講義)「第 8 講 基本的人権」 憲法は、統治機構と基本的人権の 2 本柱からなる。基本的人権は、個人の活動の自由を保障する自由権、政治に参加する権利を保障する参政権、経済的社会的弱者を救済する社会権などを保障する。すべての人権について詳細に解説することは出来ないが(詳細は日本国憲法の履修を求める。)、様々な人権が個人の活動をバックアップするものとなっている。ここでは、基本的人権の全体像と個人の活動との関係性を意識して講義する。テキスト 105～123 ページ該当 (講義前演習) 基本的人権に関する確認テスト	(予習) テキスト 105-123 ページを読んで、基本的人権の全体像を確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義)「第 9 講 犯罪と刑罰」 我が国は、罪刑法定主義を大原則としており、犯罪と刑罰は法律に定められるべきことを求めている。これは、刑罰権の濫用を防ぐと共に、個人の自由を保障することを狙いとしている。ここでは、犯罪の成立要件、刑罰の種類、死刑について講義をする。テキスト 125～133 ページ該当 (講義前演習) 犯罪と刑罰に関する確認テスト	(予習) テキスト 125-133 ページを読んで、犯罪、刑罰、罪刑法定主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義)「第 10 講 家族」 民法は、私的領域の様々な状況に応じた規定を置いている。家族関係についても同様である。家族関係を定めた民法の規定を「家族法」と学問上位置づけている。ここでは、親族、婚姻、離婚、親子、相続など家族法の基本的な事項を講義する。テキスト 135～145 ページ該当 (講義前演習) 親族、婚姻、離婚などについて確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(第 2 回目)を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 135-145 ページを読んで、親族関係、婚姻、離婚などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 11 回	(講義)「第 11 講 契約の自由」 成人年齢が満 20 歳から満 18 歳に引き下げられ、それまで法定代理人の同意を必要とした 18、19 歳の者は単独で契約の当事者となった。他方で、法律上、契約がどのような場合に成立するのか、理解が不十分なために、契約にまつわるトラブルも絶えない。ここでは、契約の成立要件、効果、契約解除、契約違反を理由とした制裁などを講義する。テキスト 147～157 ページ該当	(予習) テキスト 147-157 ページを読んで、契約の成立要件、効果などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理

	当 (講義前演習) 契約に関する確認テスト	
第 12 回	(講義)「第 13 講 損害賠償」 日常生活においては、何らかの行為によって他者に損害を加えたり、逆に損害を被ることもある。法律的には、不法行為と称されている。ここでは、不法行為が成立する要件、換言すると、損害賠償義務が発生する要件を説明し、不法行為の現代的意義について講義をする。テキスト 170～179 ページ該当 (講義前演習) 損害賠償に関する確認テスト	(予習) テキスト 170-179 ページを読んで、損害賠償制度について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	(講義)「第 16 講 生活の保障」 近代法は、消極国家政策（市民生活に国家が干渉しないという方針）が採用されたため、個人の自由を重んじられた。他方、資本主義の発展によって、富める者と貧しき者との格差が甚だしくなった。20 世紀になり、弱者救済を国家的責任においてなすべきであると主張され、それが社会権という人権の成立を促したのであった。ここでは、社会権成立の背景や社会権を具体化する立法や制度を概観することによって、弱者救済がいかに必要なかを人権や各種の立法から解説する。テキスト 203～213 ページ該当 (講義	(予習) テキスト 203-213 ページを読んで、社会権の意義、社会保障の仕組みについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 14 回	(講義)「第 18 講 国際社会と日本」 これまで国内法を中心に講義をしてきたが、国家間の関係、すなわち国際関係にも法が存在し、それを国際法という。国際法は、国内法と比較して不完全ながら、人権、環境、安全保障、海洋、外交、軍事などの分野で規範を形成している。ここでは、国際法の種類、日本との関係でいえば、日米安全保障体制の問題を中心に講義する。テキスト 227～245 ページ該当 (講義前演習) 国際関係に関する確認テスト	(予習) テキスト 227-245 ページを読んで、日米安全保障体制について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI を利用した総括試験の受験は不許可とする。※

1.授業コード (ナンバリング)	LAW101-m51	2.科目名	法律学概論	3.単位数	2									
4.授業担当教員	出嶋陽介													
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期									
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～									
10.取得資格の要件			11.先修条件	日本国憲法、および人権と法を並行履修、あるいは履修済みであることが望ましい。										
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※										
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および講義前演習										
16.履修制限	特に設けない。													
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、法律学（法学）を全般的に講義し、いわゆる legal mind（法的思考力）の涵養を目指す。さらに、可能な限りの事例研究を通じて、法律的な観点から問題を分析、解決できる実践的能力を養っていくことを目的とする。 法治国家である我が国は、暴力に頼らずに、法に則って解決することを建前としている。従って、この世の中に存在する紛争（トラブル）を法（ルール）に基づいて決着をつけることが大前提となっている。 そして、法に則って解決する能力は、社会人にとって必須のスキルとして求められるのである。 このようなことから、講義前チェックテスト（講義前演習）、講義、アフターフォローとしての講義前チェックテストの解説の構成で進行する。													
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①法律（あるいは法）がなぜ社会にとって必要なかを理解できるようになる。 ②法律（法）に従って、問題を公平に解決できる思考ができるようになる。 ③legal mind（法的思考力）を身に付け、法的に解決できるようになる。													
19.教科書・教材	末川 博（編） 『法学入門 第6版補訂版』（2014 年） 有斐閣双書													
20.参考文献	必要に応じて配布するか、講義中に案内する。													
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 <table><tr><td>①小テスト 1 回目（第 5 回目の講義時に実施）</td><td>最大 25%</td><td>〈学習目標①および③に対応〉</td></tr><tr><td>②小テスト 2 回目（第 10 回目の講義時に実施）</td><td>最大 25%</td><td>〈学習目標①および③に対応〉</td></tr><tr><td>③総括試験（第 15 回目に実施）</td><td>最大 50%</td><td>〈学習目標②に対応〉</td></tr></table> 以上の評価対象を実施した上で、合計 60%以上となった場合に、合格（単位認定）とする。 ※ 小テストは、各回 15 分程度のをを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって					①小テスト 1 回目（第 5 回目の講義時に実施）	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉	②小テスト 2 回目（第 10 回目の講義時に実施）	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉	③総括試験（第 15 回目に実施）	最大 50%	〈学習目標②に対応〉
①小テスト 1 回目（第 5 回目の講義時に実施）	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉												
②小テスト 2 回目（第 10 回目の講義時に実施）	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉												
③総括試験（第 15 回目に実施）	最大 50%	〈学習目標②に対応〉												
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②新聞やニュースなどで、法律や裁判に関する報道に接して、法律が現実社会において、どのように機能するのかを考えながら、講義に参加して欲しい。 ③生成 AI の利用は一切認めないものとする。従って、WebClass を利用した 2 回の小テスト、最終回に実施する総括試験は、自力で受験することになる。													
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能を使った問い合わせも可（ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある）。													
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)										
第 1 回	（講義）講義の進め方と現実社会における法の必要性			（復習）										

	について説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、次回以降の進行についても説明をしていきたい。	講義ノートの整理
第 2 回	(講義)「第 1 講 法と何か」 「法」ないしは「法律」という用語は多義的であり、文脈に応じてその概念を理解しなければならない。ここでは、規範の性質、社会規範である法と道徳の相違を中心に講義を行う。テキスト 22～30 ページ該当 (講義前演習) 法律の基本知識に関する確認テスト	(予習) テキスト 22-30 ページを読んで、社会規範の性質、法と道徳の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 3 回	(講義)「第 2 講 法の発展」 法は歴史的経過と共に変化し、発展してきた。現代法の源流は、近代ヨーロッパに求めることができる。そこで、近代法の形成から現代法に至るまでの経過、そして我が国の法制にどのような影響を与えたのかを中心に解説する。テキスト 33～43 ページ該当 (講義前演習) 近代法に関する確認テスト	(予習) テキスト 33-43 ページを読んで、法の歴史、国家と法の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 4 回	(講義)「第 4 講 裁判の基準」 法律的に紛争を解決するということは、解決するための基準が必要となる。それを法源 (source of law) という。つまり、裁判官は我が国において有効な法源を適用して紛争解決を図るのである。そこで、我が国で有効な法源とは、どのような種類があり、どのような性質を持つもののかを講義していきたい。テキスト 57～71 ページ該当 (講義前演習) 法源に関する確認テスト	(予習) テキスト 57-71 ページを読んで、法の種類にどのようなものがあるかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	(講義)「第 3 講 法と裁判」 法律に則って紛争を解決する場所は裁判所である。民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟はすべて裁判所で審理する。そこで、三審制を採用している裁判制度 (司法制度)、民事訴訟と刑事訴訟の構造、裁判員制度を中心に講義する。テキスト 45～55 ページ該当 (講義前演習) 裁判制度に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 1 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 45-55 ページを読んで、裁判制度の関係を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 6 回	(講義)「第 6 講 近代国家と憲法」 我々の基本的人権および国家の基本構造を定めるのが憲法である。先進国の憲法は、自由主義的あるいは民主主義的内容の憲法であり、その起源は 18 世紀にまで遡る。そこで、なぜ憲法が生成されたのか、その歴史的背景を探りつつ、基本原理と現代的意味を解説していきたい。また、大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて、我が国の立憲主義と国家の変遷について講義する。テキスト 82～91 ページ該当 (講義前演習) 憲法についての確認テスト	(予習) テキスト 82-91 ページを読んで、近代憲法の成立と原理を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 7 回	(講義)「第 7 講 権力分立」 フランスのモンテスキューは、その著書である「法の方法」で、権力の集中は権力濫用に繋がり、国民の自由が否定されると説いた。ゆえに、権力分立 (三権分	(予習) テキスト 93-103 ページを読んで、国会、内閣、裁判所の基本構造を確認する。 (復習)

	立)は人権保障に必要であると結論付けたのであった。自由主義的かつ民主主義的憲法は、権力分立構造を取り入れている。日本国憲法も、三権分立を採用し、国会、内閣、裁判所に国家三権を担当させている。ここでは、各々の権能を中心に講義をする。テキスト 93～103 ページ該当 (講義前演習) 統治機構についての確認テスト	講義ノートの整理
第 8 回	(講義)「第 8 講 基本的人権」 憲法は、統治機構と基本的人権の 2 本柱からなる。基本的人権は、個人の活動の自由を保障する自由権、政治に参加する権利を保障する参政権、経済的社会的弱者を救済する社会権などを保障する。すべての人権について詳細に解説することは出来ないが(詳細は日本国憲法の履修を求める。)、様々な人権が個人の活動をバックアップするものとなっている。ここでは、基本的人権の全体像と個人の活動との関係性を意識して講義する。テキスト 105～123 ページ該当 (講義前演習) 基本的人権に関する確認テスト	(予習) テキスト 105-123 ページを読んで、基本的人権の全体像を確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義)「第 9 講 犯罪と刑罰」 我が国は、罪刑法定主義を大原則としており、犯罪と刑罰は法律に定められるべきことを求めている。これは、刑罰権の濫用を防ぐと共に、個人の自由を保障することを狙いとしている。ここでは、犯罪の成立要件、刑罰の種類、死刑について講義をする。テキスト 125～133 ページ該当 (講義前演習) 犯罪と刑罰に関する確認テスト	(予習) テキスト 125-133 ページを読んで、犯罪、刑罰、罪刑法定主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義)「第 10 講 家族」 民法は、私的領域の様々な状況に応じた規定を置いている。家族関係についても同様である。家族関係を定めた民法の規定を「家族法」と学問上位置づけている。ここでは、親族、婚姻、離婚、親子、相続など家族法の基本的な事項を講義する。テキスト 135～145 ページ該当 (講義前演習) 親族、婚姻、離婚などについて確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(第 2 回目)を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 135-145 ページを読んで、親族関係、婚姻、離婚などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 11 回	(講義)「第 11 講 契約の自由」 成人年齢が満 20 歳から満 18 歳に引き下げられ、それまで法定代理人の同意を必要とした 18、19 歳の者は単独で契約の当事者となった。他方で、法律上、契約がどのような場合に成立するのか、理解が不十分なために、契約にまつわるトラブルも絶えない。ここでは、契約の成立要件、効果、契約解除、契約違反を理由とした制裁などを講義する。テキスト 147～157 ページ該当	(予習) テキスト 147-157 ページを読んで、契約の成立要件、効果などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理

	当 (講義前演習) 契約に関する確認テスト	
第 12 回	(講義)「第 13 講 損害賠償」 日常生活においては、何らかの行為によって他者に損害を加えたり、逆に損害を被ることもある。法律的には、不法行為と称されている。ここでは、不法行為が成立する要件、換言すると、損害賠償義務が発生する要件を説明し、不法行為の現代的意義について講義をする。テキスト 170～179 ページ該当 (講義前演習) 損害賠償に関する確認テスト	(予習) テキスト 170-179 ページを読んで、損害賠償制度について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	(講義)「第 16 講 生活の保障」 近代法は、消極国家政策（市民生活に国家が干渉しないという方針）が採用されたため、個人の自由を重んじられた。他方、資本主義の発展によって、富める者と貧しき者との格差が甚だしくなった。20 世紀になり、弱者救済を国家的責任においてなすべきであると主張され、それが社会権という人権の成立を促したのであった。ここでは、社会権成立の背景や社会権を具体化する立法や制度を概観することによって、弱者救済がいかに必要なのかを人権や各種の立法から解説する。テキスト 203～213 ページ該当 (講義	(予習) テキスト 203-213 ページを読んで、社会権の意義、社会保障の仕組みについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 14 回	(講義)「第 18 講 国際社会と日本」 これまで国内法を中心に講義をしてきたが、国家間の関係、すなわち国際関係にも法が存在し、それを国際法という。国際法は、国内法と比較して不完全ながら、人権、環境、安全保障、海洋、外交、軍事などの分野で規範を形成している。ここでは、国際法の種類、日本との関係でいえば、日米安全保障体制の問題を中心に講義する。テキスト 227～245 ページ該当 (講義前演習) 国際関係に関する確認テスト	(予習) テキスト 227-245 ページを読んで、日米安全保障体制について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI を利用した総括試験の受験は不許可とする。※

1.授業コード (ナンバリング)	LAW102-M51	2.科目名	人権と法		3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および講義前演習		
16.履修制限	特に設けないが、日本国憲法を既に履修したか、または同時並行的に履修していることが望ましい。					
17.授業の目的と概要	本科目は、日本国憲法で履修する基本的人権の知識を基礎に、我々が日常生活を送るうえで直面する様々な場面（誕生～就労～死亡）において、必要とされる法律知識とその根拠となる権利・自由について理解を深め、将来その知識を活用できるようにすることを目的としている。 具体的な一例をあげると、就職して退職するまで一労働者として勤務するが、労働者は雇用される立場にあるので、どうしても立場が弱くなりがちである。そこで、労働者の立場を守る様々な法律が制定され、労働者が不当な目に遭わないよう、法的な保護がなされている。それを踏まえて、本科目では、どのような形で法的に保護されているのかを身に付けてもらおうというものである。 ゆえに、より発展的に言えば、知識として学習し、実社会において実践できるよう応用力も涵養するだけでなく、資格試験や就職試験対策の基礎となるようにもしていきたい。 講義の進行としては、講義前チェックテスト（成績評価対象外）を毎回実施し、講義の理解を深めるためのポイントを押さえてもらう。そして、講義でそのポイントを確認し、最後に講義前チェックテストの解説をして、完結するという内容にしていこう予定である。 また、2 回に分けた小テストと総括試験（いずれも成績評価対象）を実施し、より緻密で高度な学習を達成できているかを判定する予定である。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①様々な生活場面における法律問題を理解し、法的に適切な対処ができるようになる。 ②法律の条文に慣れ親しみ、条文の意味内容を理解できるようにする。 ③他者に対する人権や自由を尊重できるようにする。					
19.教科書・教材	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子 『ライフステージと法 第8版』 有斐閣アルマ					
20.参考文献	講義資料等は、WebClass を通じて配布する。					
21.成績評価	成績評価については、以下の全ての評価対象を実施した上で、合計が 60% 以上の場合に、合格とする。 ① 小テスト（2 回） 50%（各 25% の 2 回分で最大）・・・学習目標①に対応 ② 総括試験 50%（最大）・・・学修目標②と③に対応 ※ 2 回分の小テストは、5 回目と 10 回目の講義時間を使い、WebClass で実施するので（15 分程度）、少なくとも当日はパソコンを必携することを求める。 ※ ※ 出席点および平常点の評価は一					
22.コメント	①法律は独特の用語が目立ち、難解と思えそうだが、条文を読むことに慣れてしまうと苦にならない。講義を通じて、基本的な考えを理解することは大切であるが、分からないことがあれば積極的に質問してほしい。 ②生成 AI の利用は一切認めないものとする。従って、WebClass を利用した 2 回の小テスト、最終回に実施する総括試験は、自力で受験することになる。					

23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能で問い合わせ可。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（シラバス内容についての補足説明、受講上の注意点、講義の進め方など） （講義）本格的な講義を始める前に、講義の理解をスムーズにするために必要とされる法律概念や予備知識を説明する。	（予習） テキスト i -vi ページ（プレリユード）を読んでおくこと。 （復習） 講義ノートの整理
第 2 回	（講義）テキスト stage1「社会人へのパスポート」をテーマに、年齢と法律との関係を見つつ、どのような場面で年齢が法律と関わってくるのかを理解する。また、法律によって個人に与えられた権利をどこで主張できるのか、誰によって守ってもらえるのかも講義する。テキスト 2-11 ページ該当 （講義前演習）年齢と法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 2-11 ページを読んで、法律が年齢によって異なる扱いをするのはなぜかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 3 回	（講義）テキスト stage2「働く自由・女であることの自由」をテーマに、男女平等の時代にあっても、女性が見えないガラス張りの雇用環境によって劣遇されている現実を裁判例から見ていく。それを踏まえて、女性を法的に救済する立法にどのようなものがあるのかを講義する。ひいては、女性差別解消の方策と一緒に考えていきたい。テキスト 14-40 ページ該当 （講義前演習）女性差別を解消する法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 14-40 ページを読んで、女性が差別される背景がどこにあるのか、また立法上の対応にどのようなものがあるかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）テキスト stage3「働きかたいろいろ」をテーマに、勤労の自己決定、非正規労働者の法的保護とその限界を講義する。テキスト 42-68 ページ該当 （講義前演習）労働法に関する確認テスト	（予習） テキスト 42-68 ページを読んで、労働者が法的にどのような保護を受けているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、消費者保護立法の基本的知識を習得する。そして、消費者はなぜ弱い立場に立たされるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）契約など民法の基本的知識に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト（1 回目）の実施 ※	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、消費者保護が求められる場面と法的対応との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 6 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、損害賠償制度について講義する。契約違反や法律上の権利や利益を侵害された場合に、どのように損害を賠償させるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）損害賠償制度に関する確認テスト	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、損害賠償制度について理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）テキスト stage5「恋愛のルール」をテーマに、恋人間で成立する法律问题、特に性的暴力、婚約、不倫など一般的なトピックを題材に、どのような法的責任が発生するのかを説明していきたい。テキ	（予習） テキスト 114-135 ページを読んで、恋人間で適用される法律にどのようなものがあるか理解しておく。

	スト 114-135 ページ該当 (講義前演習) 男女間に適用される法律に関する確認テスト	(復習) 講義ノートの整理
第 8 回	(講義) テキスト stage6「結婚の夢と現実」をテーマに、結婚に関する法律を講義する。特に法律婚と事実婚の法律的な違い、夫婦別姓、相続など一般的なトピックを題材に、成立要件や効果を説明する予定である。テキスト 138-159 ページ該当 (講義前演習) 婚姻など夫婦間に適用される法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 138-159 ページを読んで、婚姻が成立するための条件や婚姻後夫婦にどのような権利義務が発生するのか確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 第 8 回までで講義できないトピック、特にテキストに言及されている Column のうち、幾つかを取り上げて、余録的なアプローチから「法律の別の顔」を講義する。	(予習) 第 1 回から第 8 回までの講義内容を整理し、中間確認テストに備える。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) テキスト stage7「子どもを産む・産まない」をテーマに、出産に関する自己決定(墮胎を含む。)、代理出産、生殖医療と法律・倫理について説明する。テキスト 162-181 ページ該当 (講義前演習) 出産や子供の権利についての確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(2 回目)の実施 ※	(予習) テキスト 162-181 ページを読んで、女性の自己決定を中心に出産の自由について理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 11 回	(講義) テキスト stage8「子どもと親のビミョーな関係」をテーマに、法律的な親子関係、特に親権や養育・監護権、虐待など親子間で起こりうる法律的問題について講義する。テキスト 184-210 ページ該当 (講義前演習) 親子関係の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 184-210 ページを読んで、親子関係に関する法律について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) テキスト stage9「ふたたびの出発」をテーマに、離婚にまつわる法律について講義する。特に、離婚の成立要件、離婚の効果などを中心に扱うことにする。テキスト 212-230 ページ該当 (講義前演習) 離婚の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 212-230 ページを読んで、どのような場合に離婚が成立し、離婚成立後の元夫婦間の法律関係について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	テキスト stage10「親の介護はだれが？」をテーマに、介護保険を軸とした法律問題について講義する。テキスト 232-251 ページ該当 (講義前演習) 介護保険に関する確認テスト	(予習) テキスト 232-251 ページを読んで、介護保険制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 14 回	(講義) テキスト stage11「親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら」をテーマに、法的な死亡の定義、遺言と相続、生存親族の義務などについて講義する。テキスト 254-273 ページ該当 (講義前演習) 相続に関する確認テスト	(予習) テキスト 254-273 ページを読んで、相続制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI を利用した総括試験の受験は不許可とする。※

1.授業コード (ナンバリング)	LAW103-M51	2.科目名	国際社会と政治		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤恭仁彦					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全額共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	特に定めない		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限	特に定めない					
17.授業の目的と概要	現代の国際社会の仕組みを、主に国家と国家との関係を基軸として分析、理解していきます。 授業の前半では、分析の枠組みとなる規範と理論、及び、現代の国際社会が形作られてきた国際政治の歴史・歩みを概観し、後半では、安全保障や環境・エネルギー問題といった今日的な課題について学びます。 本講義では、比較的簡潔にまとめた教科書を読み進めることにより、一学期で現代国際政治の全体像をおおよそつかむことができるように努めます。なお、一部、教員採用試験の出題範囲なども参酌して内容を調整することがあります。					
18.学習目標と DPとの関連	《学習目標》 国際政治に関する基礎的な知識と分析力を身に付け、日々変遷を遂げる国際社会の現状や、政治的な出来事、事件を分析する力を養うことを目的とします。 《DP との関連》 (1)自律的で主体的な態度（自立性）、(3)多様な文化や背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）、(3)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	白鳥潤一郎・高橋和夫編著『現代の国際政治』（放送大学教育振興会、2022 年） 必要に応じ参照資料を配布します。					
20.参考文献	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・来栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣、2023 年）そのほかは授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	期末筆記試験 60％ 平常点（リアクション・ペーパー等） 40％					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義概要説明 イントロダクション： 国際政治の構図			（予習または復習） 教科書第 1 章（p1～12）		
第 2 回	国際政治の規範と理論			教科書第 6 章（p75～88）		
第 3 回	国際政治の歩み（1） 帝国主義の時代（主権国家の形成～第二次世界大戦）			教科書第 2 章（p13～27）		
第 4 回	国際政治の歩み（2） 『冷戦』の始まりと終わり（第二次世界大戦後～東西ドイツの統一と旧ソ連崩壊）			教科書第 3 章（p28～p44）		
第 5 回	国際政治の歩み（3） 冷戦後の国際社会の変化			教科書第 4 章（p45～59）		
第 6 回	国際政治における外交の役割と国際協調			教科書第 7 章・第 8 章（p89～p120）		
第 7 回	軍備と安全保障			教科書第 9 章（p121～135）		
第 8 回	新しいタイプの安全保障問題			教科書第 10 章（p136～p149）		
第 9 回	通商と国際金融をめぐる問題			教科書第 11 章（p150～166）		

第 10 回	国境を超える人々の問題	教科書第 12 章 (p167～p182)
第 11 回	環境問題とエネルギー問題	教科書第 13 章 (p183～p217)
第 12 回	宗教と国際政治	教科書第 14 章 (p218～p237)
第 13 回	国際社会の相互依存とグローバル化	教科書第 5 章・第 15 章 (p60～p88、 p238～p254)
第 14 回	(まとめ) これからの国際社会を生きる～日本の課題～	参照資料を配布します
第 15 回	期末筆記試験	

1.授業コード (ナンバリング)	LAW103-a51	2.科目名	国際社会と政治		3.単位数	2
4.授業担当教員	西村真彦					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	特に定めない。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限	特に定めない。					
17.授業の目的と概要	現代の国際社会は、主権国家体制と呼ばれる仕組みの下で、利害や価値観の異なる多数のアクターがさまざまな領域で活動している。本授業では主権国家の役割について注目しつつ、国際社会の秩序維持がどのように試みられているのか議論していく。 授業前半で国際関係の分析枠組みを学び、次に具体例を交えてテーマ毎の論点に検討する。授業の後半では、現代の日本外交が直面する課題について検討する。 授業計画は受講者の関心や理解度に応じ、進度や内容について調整を行う場合があります。					
18.学習目標と DPとの関連	国際関係論の基礎的な知識を身に着け、現代の日本外交や国際関係について自ら分析する力を養うことを目的とする。					
19.教科書・教材	教科書は指定しません。適宜、スライド（ハンドアウト）を配布します。					
20.参考文献	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ〔新版〕』（有斐閣、2015 年） そのほかは授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	コメントペーパー：30 点 期末筆記試験：70 点					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。テストや課題の提出では使用不可とします。復習や予習で積極的に活用してください。 授業中の私語など、他の学生さんの学習の妨げになることはしないようにしてください。					
23.オフィスアワー	各回の授業後やメールで対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	イントロダクション 国際社会の現状と、主権国家体制の特徴について			新聞やニュース（テレビ・スマートフォンなど、媒体は特に指定しない）に触れ、現代社会の諸問題について関心を持つよう努めること。 ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
2	国際関係論の分析枠組み リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムの基本について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
3	対外政策 対外政策決定論について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
4	伝統的安全保障 戦争、同盟、抑止について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
5	非伝統的安全保障 テロ、内戦について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適		

		宜指示する)。
6	国際法 国際法とは何か、国際人道法の基礎について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
7	国際裁判 紛争解決の仕組み、日本が関わった裁判について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
8	国際機構 国際社会の制度化の歴史、国連の制度・仕組み、PKOについて	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
9	環境問題 国際協力の難しさ、気候変動問題について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
10	国際経済 保護主義、世界貿易機関（WTO）の仕組みと機能不全について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
11	インテリジェンス インテリジェンスとはなにか、情報収集の方法、なぜ分析を間違えるのか	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
12	現代日本外交の課題① 安全保障問題	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
13	現代日本外交の課題② 日米関係	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
14	現代日本外交の課題③ 日中関係	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
15	期末筆記試験	14 回までの授業を復習し、筆記試験に備える。

1.授業コード (ナンバリング)	LAW103-y51	2.科目名	国際社会と政治		3.単位数	2
4.授業担当教員	西村真彦					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	特に定めない。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限	特に定めない。					
17.授業の目的と概要	現代の国際社会は、主権国家体制と呼ばれる仕組みの下で、利害や価値観の異なる多数のアクターがさまざまな領域で活動している。本授業では主権国家の役割について注目しつつ、国際社会の秩序維持がどのように試みられているのか議論していく。 授業前半で国際関係の分析枠組みを学び、次に具体例を交えてテーマ毎の論点に検討する。授業の後半では、現代の日本外交が直面する課題について検討する。 授業計画は受講者の関心や理解度に応じ、進度や内容について調整を行う場合があります。					
18.学習目標と DPとの関連	国際関係論の基礎的な知識を身に着け、現代の日本外交や国際関係について自ら分析する力を養うことを目的とする。					
19.教科書・教材	教科書は指定しません。適宜、スライド（ハンドアウト）を配布します。					
20.参考文献	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ〔新版〕』（有斐閣、2015 年） そのほかは授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	コメントペーパー：30 点 期末筆記試験：70 点					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。テストや課題の提出では使用不可とします。復習や予習で積極的に活用してください。 授業中の私語など、他の学生さんの学習の妨げになることはしないようにしてください。					
23.オフィスアワー	各回の授業後やメールで対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	イントロダクション 国際社会の現状と、主権国家体制の特徴について			新聞やニュース（テレビ・スマートフォンなど、媒体は特に指定しない）に触れ、現代社会の諸問題について関心を持つよう努めること。 ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
2	国際関係論の分析枠組み リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムの基本について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
3	対外政策 対外政策決定論について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
4	伝統的安全保障 戦争、同盟、抑止について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。		
5	非伝統的安全保障 テロ、内戦について			ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適		

		宜指示する)。
6	国際法 国際法とは何か、国際人道法の基礎について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
7	国際裁判 紛争解決の仕組み、日本が関わった裁判について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
8	国際機構 国際社会の制度化の歴史、国連の制度・仕組み、PKOについて	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
9	環境問題 国際協力の難しさ、気候変動問題について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
10	国際経済 保護主義、世界貿易機関（WTO）の仕組みと機能不全について	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
11	インテリジェンス インテリジェンスとはなにか、情報収集の方法、なぜ分析を間違えるのか	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
12	現代日本外交の課題① 安全保障問題	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
13	現代日本外交の課題② 日米関係	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
14	現代日本外交の課題③ 日中関係	ハンドアウトや参考書等を用いて、予習・復習に取り組むことを推奨する（該当箇所は適宜指示する）。
15	期末筆記試験	14 回までの授業を復習し、筆記試験に備える。

1.授業コード (ナンバリング)	LAW104-A51	2.科目名	日本国憲法	3.単位数	2									
4.授業担当教員	出嶋陽介													
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期									
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～									
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 副専攻(世界と日本を考える) 副専攻(平等を考える) 幼稚園一種	11.先修条件	特になし											
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および講義前演習											
16.履修制限	特に設けない。													
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、国家の基礎法である日本国憲法を通じて、人権感覚と憲法が目指すところを修得することにある。 憲法の成立経緯は講義で詳細に話す予定であるが、我々の自由が確保され、また権力の濫用を封じるための歯止めとなっている非常に重要な国法である。それゆえに、憲法の理解なくして、自由や人権を語るわけには行かないのである。 加えて、これからの時代は、豊かな人権感覚を備えた人材が求められている。それは、政治家や公務員だけに限られず、一般市民にも必要な教養なのである。 また、教職課程の科目でもあるため、教員を目指す学生は憲法が保障する自由や権利とは一体何かを十分に学習することは、将来役に立つであろう。 このようなことから、講義前チェックテスト(講義前演習)、講義、アフターフォローとしての講義前チェックテストの解説の構成で進行する。													
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの(2)社会的貢献性、(6)専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①権利や自由がなぜ必要なのかを説明できるようになる。 ②憲法規範に従って、問題を解決できる思考ができるようになる。 ③人権感覚を身に付け、法的に解決できるようになる。													
19.教科書・教材	吉田仁美(編) 『スタート憲法 第4版』(2024 年) 成文堂													
20.参考文献	必要に応じて配布する。													
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 <table><tr><td>①小テスト 1 回目(第 5 回目の講義時に実施)</td><td>最大 25%</td><td>〈学習目標①および③に対応〉</td></tr><tr><td>②小テスト 2 回目(第 10 回目の講義時に実施)</td><td>最大 25%</td><td>〈学習目標①および③に対応〉</td></tr><tr><td>③総括試験(第 15 回目に実施)</td><td>最大 50%</td><td>〈学習目標②に対応〉</td></tr></table> 以上の評価対象を実施した上で、合計 60%以上となった場合に、合格(単位認定)とする。 ※ 小テストは、各回 15 分程度のものを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって					①小テスト 1 回目(第 5 回目の講義時に実施)	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉	②小テスト 2 回目(第 10 回目の講義時に実施)	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉	③総括試験(第 15 回目に実施)	最大 50%	〈学習目標②に対応〉
①小テスト 1 回目(第 5 回目の講義時に実施)	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉												
②小テスト 2 回目(第 10 回目の講義時に実施)	最大 25%	〈学習目標①および③に対応〉												
③総括試験(第 15 回目に実施)	最大 50%	〈学習目標②に対応〉												
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②憲法を中心に社会を見つめ、人権を尊重するということとはどのような意味を持つものなのかを考えながら、講義に参加して欲しい。 ③生成 AI の利用は一切認めないものとする。従って、WebClass を利用した 2 回の小テスト、最終回に実施する総括試験は、自力で受験することになる。													
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、													

		WebClass のメール機能を使った問い合わせも可（ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある）。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	（講義）講義の進め方と憲法の概念についての説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、憲法総論として日常生活と憲法との関係について講義するつもりである。	（復習） 講義ノートの整理
第 2 回	（講義）憲法史 憲法が成立する背景として存在する近代人権宣言について説明する。ここでは、憲法の成立由来ならびに明治憲法及び日本国憲法についての説明をし、憲法の基礎的性格を明らかにする。テキスト 1～7 ページ該当 （講義前演習）憲法の基本知識に関する確認テスト	（予習） テキスト 1-7 ページを読んで、憲法の基本原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違について確認する。
第 3 回	（講義）人権享有主体性（外国人の人権保障） 基本的人権総論と題して、外国人に対する人権保障について説明する。とりわけ、日本人と同等同質の生活を送る定住外国人に、憲法はどこまで人権を保障するのか解説する。テキスト 12～13 ページ該当 （講義前演習）人権享有主体に関する確認テスト	（予習） テキスト 12-13 ページを読んで、外国人の人権保障について、憲法がどのような態度をとっているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）幸福追求権（新しい人権） 人権の一般規定である 13 条では、幸福追求権が保障されている。そこで、近年新しい人権として主張されるようになった、特に、新しい人権や自己決定権の意義と限界についての説明をしていくことにする。テキスト 22,24～29 ページ該当 （講義前演習）新しい人権に関する確認テスト	（予習） テキスト 22-29 ページを読んで、特に幸福追求権と自己決定権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）平等権 近代人権宣言は、自由と平等を御旗としているが、そのうちの平等権について説明する。その中で、差別の問題と平等の意義及び平等権が争われた事例についての講義する。テキスト 32～33,36-37 ページ該当 （講義前演習）平等権に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト（第 1 回目）を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	（予習） テキスト 32-37 ページを読んで、特に差別と平等権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 6 回	（講義）思想良心の自由、信教の自由 憲法は精神的自由を保障し、思想良心の自由、信教の自由、表現の自由を保障する。ここでは、前二者について講義をし、なぜ個人の内心の自由を保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 38～39,42～45 ページ該当 （講義前演習）精神的自由、特に思想信条の自由と信教の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 38-45 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）表現の自由 前回に引き続き、精神的自由の中でもコアな人権である表現の自由について講義をし、なぜ表現の自由を手厚く保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 46～49,52-55 ページ該当 （講義前演習）表現の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 46-49,52-55 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理

第 8 回	(講義) 人身の自由① 人身の自由とは、かつて国家権力が人民を不当に処罰したところから、刑罰権の濫用がなされないよう、憲法上のルールとして保障されたものである。ここでは、奴隸的拘束の禁止、適正手続の保障、令状主義を説明する。テキスト 64～71 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当範囲) に関する確認テスト	(予習) テキスト 64-71 ページを読んで、適正手続の保障、令状主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 人身の自由② 前週に引き続き、公平の裁判所による迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、残虐な刑罰の禁止を講義する。テキスト 64～67 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当部分) に関する確認テスト	(予習) テキスト 64-71 ページを読んで、公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権、証人喚問権、弁護人依頼権、残虐刑の禁止について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) 生存権 弱者救済の人権である生存権を講義する。生存権は近年の社会情勢から注目されており、国家がいかに弱者を救済するべきか、議論が立たなされている。この点から、生存権が必要とされる意義や限界、生存権の将来について一緒に考えていきたい。 (講義前演習) 生存権について確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 2 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 76-77 ページを読んで、生存権が必要とされた背景について理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 11 回	(講義) 国会① 憲法は統治機構に関する規定も置いているが、その中でも第 11 回目は国会について講義をする。特に、民主政治の基盤となる国会、そしてそもそも民主主義や民主政治とは何かを考えていきたい。その他にも、衆議院の優越、国会議員の特権などにも目を向けていくことにする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、国会の性格、国会の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) 国会②、内閣 前回に引き続き、国会の権能や議院内閣制、内閣について講義をする。そして、行政権を担当する内閣の権限や機能を説明をする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、議院内閣制の仕組み、内閣の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	(講義) 裁判所① 国会、内閣に次いで、統治機構の三本柱の一角を占める裁判所について講義をする。裁判所は基本的人権の砦として、国民の権利や自由を守る役割を果たしている。また、中立的な裁判を実現するために、司法権の独立という仕組みも導入されている。このような点から、裁判所が憲法を頂点とした法の支配を実現するた	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、司法権の概念、司法権の独立について理解する。 (復習) 講義ノートの整理

	めに果たす役割、第 13 回では、司法権という概念、三審制（司法制度）、司法権の独立を説明をする。テキスト 110～117 ページ該当 (講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	
第 14 回	(講義) 裁判所② 前回に引き続き、司法権の講義をする。裁判所に重要な役割の一つに、違憲審査権（違憲立法審査権）が憲法によって定められている。これは法の支配を実現する手段として、国会や内閣に対する裁判所の抑制機能となっている。そこで、国民の基本的人権を守るために機能する違憲審査権が政治的権力である国会や内閣に対して、どのような抑制機能を果たすのかを説明していくことにする。テキスト 110～117 ページ該当 (講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、三権分立の構造の中で、違憲審査権が占める役割について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI を利用した総括試験の受験は不許可とする。※

1.授業コード (ナンバリング)	LAW104-Y51	2.科目名	日本国憲法	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	必須ではありませんが、興味のある学生には、「人権と法」や「法律学概論」を併せて受講することを勧めます。	
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：現代社会の様々な現象や問題に対して、現代法の枠組を慎重に検討しつつ、自立して取り組めることを目的とします。 概要：日本の法システムの基盤となる日本国憲法について、裁判例などの運用実態を参照しつつ解説します。また、憲法の諸原理と関連する刑事法、民事法、労働法、知的財産法などの個別法領域についても概観していきます。				
18.学習目標と DPとの関連	DP1（自律性）、DP2（ルール遵守と他者協働）、DP4（問題発見と解決）に関連します。具体的には： (1)現代社会の法的政治的な主体としての個人の地位を深く理解できる。 (2)現代社会のさまざまな社会制度や法領域について、必要な背景知識を踏まえて論じられる。 (4)法や政治に関わる諸問題について、既往の議論を踏まえて取り組むことができる。				
19.教科書・教材	定期的に資料を配付します。教科書は使用しません。なお、レジュメや関連資料を、オンラインでも公開していく予定です。予習復習に活用して下さい。				
20.参考文献	講義中に適宜紹介します。 学習指導要領「社会」「公民」に対応します。				
21.成績評価	1. 講義中に、アンケートや簡単なテストを定期的に行います。また、講義中に質疑を行いますので、その際の応答や参加姿勢も考慮します。主に到達目標(1)、(4)に関連します。…合わせて40 点満点 2. 講義内容の理解度を確認するための期末試験を実施します。主に到達目標(1)、(2)に関連します。…60 点満点 いずれも、そこまでの講義内容全体をカバーするかたちで行います。 全体で 60 点以上が単位認定となります。アンケートは、4 回中 3 回以上の提出を必要とします。				
22.コメント	現代社会の基本枠組は、法という形で整備されています。それゆえ、法学の基本概念をきちんと理解しておくことは、現代社会で主体的に行動するうえできわめて重要です。大人になれば、選挙権のような権利を行使して政治に関わる機会も増えてきますし、私生活でもさまざまな場面で契約当事者になる場面も出てくるでしょう。そうした場合に、適切な判断をするための基本的知識を学んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	質問や相談は、講義前後の時間に受け付けます。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
1	イントロダクション（本講義の目標、概要、評価方式等について）。 法とは何か（法、法制度、国家の社会学的な捉え方）。			復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。	
2	現代国家と法Ⅰ（法の分類。憲法と法律）。			復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。	
3	現代国家と法Ⅱ（公法と私法）。			復習：今回の復習（授業ノートの整理）。	

	アンケート。	予習：次回の予習（講義内で指示する）。
4	日本国憲法と公的機関Ⅰ（憲法と国家）。 ディスカッションと解説（アンケートに関して）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
5	日本国憲法と公的機関Ⅱ（国家の存立と権力分立）	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
6	日本国憲法と公的機関Ⅲ（公法の運用。行政法の諸原則）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
7	日本国憲法と公的機関Ⅳ（刑事法の枠組。罪刑法定主義を初めとした諸原則）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
8	日本国憲法と公的機関Ⅴ（刑事法の展望。判例に即した検討）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
9	日本国憲法と人権Ⅰ（人権の基本的性質と構造）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
10	日本国憲法と人権Ⅱ（人権が制約される条件とその根拠）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
11	日本国憲法と人権Ⅲ（判例に即した検討：平等権について）	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
12	日本国憲法と人権Ⅲ（判例に即した検討：自由権等について）。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
13	私法の基本原則Ⅰ（私的自治原則とそれに関連する諸原則）。 ディスカッションと解説（アンケートに関して）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：期末試験の勉強。
14	期末試験（※オンライン授業になった場合は、レポート課題に変更する可能性がある）	復習：期末試験の復習。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
15	私法の基本原則Ⅱ（原則に対する現代的修正）。 総括：現代社会における法と政治（生命倫理や法的思考について）。 期末試験の解説。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。

1.授業コード (ナンバリング)	LIN101-D51	2.科目名	英語学Ⅱ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	専攻選択 展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	初等英語コース			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	中学・高校英語教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の概要】 英語学 1 に続き、英語ということばを学問的に研究するための基本的な知識と概念を学び、英語教育への応用を考えます。オンデマンドで実施するので、毎回の詳細は WebClass で示します。説明のビデオを見て、日本語との違いなども考えながら、課題を提出します。 【学習目標】 1) 英語を分析するための考え方や分野を説明することができる 2) 日本語との違いを理解し、英語という言葉における意味のあり方や表現を理解する 3) 学んだ知識について、英語教育への応用を考えることができる					
18.学習目標と DP との関連	ベンチマーク：論理的思考／判断力 レベル 2 英語学の理論を理解し、言語現象の分析に論理的思考を用いることができる					
19.教科書・教材	石黒昭博ほか『現代の英語学』（金星堂）ISBN978-4-7647-3604-7					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の課題提出 50% 最終課題 50%					
22.コメント	●オンデマンドですが、授業配当日（金曜）の次の月曜日朝 8 時までには必ず課題を提出してください。その課題の提出で「出席」とみなします。また、提出された課題のフィードバックを授業の最初に行いますのでそれ以降の提出は得点になりません。 事情があって、期日までに課題を提出できない場合は、締め切りまでに必ずメールで連絡してください。 ●課題提出時に不明なことなどあれば、質問欄に記入するか、メールで尋ねてください。 *生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて AI で作成した場合は 0 点となりますので注意してください。					
23.オフィスアワー	オフィスアワーは神戸山手キャンパス、尼崎キャンパスへは金曜日にしかいないため、メール等で連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の進め方、課題や評価についての説明 第 8 章 英語の意味構造 ①			課題 (90 分) 復習 (30 分)		
第 2 回	第 8 章 英語の意味構造 ②			課題 (90 分) 復習 (30 分)		
第 3 回	第 8 章 英語の意味構造 ③ 文の意味			課題 (90 分) 復習 (30 分)		
第 4 回	第 8 章 英語の意味構造 ④			課題 (90 分) 復習 (30 分)		

第 5 回	第 9 章 英語の歴史（1）①	課題（90 分） 復習（30 分）
第 6 回	第 9 章 英語の歴史（1）②	課題（90 分） 復習（30 分）
第 7 回	第 10 章 英語の歴史（2）①	課題（90 分） 復習（30 分）
第 8 回	第 10 章 英語の歴史（2） ②	課題（90 分） 復習（30 分）
第 9 回	第 11 章 アメリカの英語	課題（90 分） 復習（30 分）
第 10 回	第 12 章 これからの英語	課題（90 分） 復習（30 分）
第 11 回	非言語コミュニケーション	課題（90 分） 復習（30 分）
第 12 回	英語教育 1	課題（90 分） 復習（30 分）
第 13 回	英語教育 2	課題（90 分） 復習（30 分）
第 14 回	英語教育 3	課題（90 分） 復習（30 分）
第 15 回	総括	課題（90 分） 復習（30 分）

1.授業コード (ナンバリング)	LIN102-Y51	2.科目名	英語学Ⅱ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	専攻選択 展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	初等英語コース			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	中学・高校英語教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の概要】 英語学 1 に続き、英語ということばを学問的に研究するための基本的な知識と概念を学び、英語教育への応用を考えます。オンデマンドで実施するので、毎回の詳細は WebClass で示します。説明のビデオを見て、日本語との違いなども考えながら、課題を提出します。 【学習目標】 1) 英語を分析するための考え方や分野を説明することができる 2) 日本語との違いを理解し、英語という言語における意味のあり方や表現を理解する 3) 学んだ知識について、英語教育への応用を考えることができる					
18.学習目標と DP との関連	ベンチマーク：論理的思考／判断力 レベル 2 英語学の理論を理解し、言語現象の分析に論理的思考を用いることができる					
19.教科書・教材	石黒昭博ほか『現代の英語学』（金星堂）ISBN978-4-7647-3604-7					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の課題提出 50% 最終課題 50%					
22.コメント	●オンデマンドですが、授業配当日（金曜）の次の月曜日朝 8 時までには必ず課題を提出してください。その課題の提出で「出席」とみなします。また、提出された課題のフィードバックを授業の最初に行いますのでそれ以降の提出は得点になりません。 事情があって、期日までに課題を提出できない場合は、締め切りまでに必ずメールで連絡してください。 ●課題提出時に不明なことなどあれば、質問欄に記入するか、メールで尋ねてください。					
23.オフィスアワー	オフィスアワーは神戸山手キャンパス、尼崎キャンパスへは金曜日にしかいないため、メール等で連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の進め方、課題や評価についての説明 第 8 章 英語の意味構造 ①			課題（90 分） 復習（30 分）		
第 2 回	第 8 章 英語の意味構造 ②			課題（90 分） 復習（30 分）		
第 3 回	第 8 章 英語の意味構造 ③ 文の意味			課題（90 分） 復習（30 分）		
第 4 回	第 8 章 英語の意味構造 ④			課題（90 分） 復習（30 分）		
第 5 回	第 9 章 英語の歴史（1）①			課題（90 分） 復習（30 分）		
第 6 回	第 9 章 英語の歴史（1）②			課題（90 分） 復習（30 分）		

第 7 回	第 10 章 英語の歴史（2）①	課題（90 分） 復習（30 分）
第 8 回	第 10 章 英語の歴史（2）②	課題（90 分） 復習（30 分）
第 9 回	第 11 章 アメリカの英語	課題（90 分） 復習（30 分）
第 10 回	第 12 章 これからの英語	課題（90 分） 復習（30 分）
第 11 回	非言語コミュニケーション	課題（90 分） 復習（30 分）
第 12 回	英語教育 1	課題（90 分） 復習（30 分）
第 13 回	英語教育 2	課題（90 分） 復習（30 分）
第 14 回	英語教育 3	課題（90 分） 復習（30 分）
第 15 回	総括	課題（90 分） 復習（30 分）

1.授業コード (ナンバリング)	LIN103-Y01	2.科目名	英語学	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科、英語教育学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語) 中学教諭 1 種 (英語)		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture, group work, presentation	
16.履修制限	none				
17.授業の目的と概要	[目的] Students will acquire knowledge and concepts of English linguistics.				
	[概要] This is an introductory course in English linguistics so that the students understand basic knowledge and concepts, such as phonetics, morphology, the history of English, syntax, semantics, and pragmatics. * This class will be given in English. (この授業は、英語で提供します)				
18.学習目標と D P との関連	DP(4) 問題発見・解決力の学修に関連しています。 1) Students will be able to understand phonetics and morphology to analyze language data. 2) Students will be able to get used to using an English-English dictionary for paraphrasing.				
19.教科書・教材	None. Handouts are given in each class (All the handouts are on the Web Class).				
20.参考文献	Reference books will be suggested in the class.				
21.成績評価	1) Homework : 4 点×9 回=36% (comprehension) 学習目標 1・2 に対応 2) Quiz : 8 点×3 回=24% (review questions: practical appliation)) 学習目標 1・2 に対応 3) Exam 40% (how you understand this course) (配付資料・辞書参照可) 学習目標 1・2 に対応 * 合格基準 : Homework は 6 回以上提出、Quiz は 2 回以上受験、および総括試験 (Exam)を受験				
22.コメント	1. Understanding is the key to this course; no memorizing work. For the final exam, you can bring a PC, a dictionary, and the handout given in the Web Class. 2. Use "Message" in the WebClass when you send an email to me. Do NOT use Outlook! 3. Ask any questions in the class or write a question on the attendance card. If you do not write anything, you are treated as leaving the class early. 4. Even in bad weather or when train service is temporarily stopped, we have a class via Zoom. In that case, please check "Message on Web Class." I will send you the Zoom information (URL) in the early morning. 5. Do not use your smartphones in class! 6. Do NOT use generative AI such as Chat GPT. If you use one, your submission will get zero points.				
23.オフィスアワー	なし				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
1	Introduction (Class Rules, Syllabus, Course Objectives) What is linguistics? Try to make a rule (group/pair			WHK 1 (Who use English in the world?)	

	work)	
2	World Englishes, Differences between American & British English	HWK 2 (UK vs. USA words)
3	English Sounds: Phonetics Part 1: speech organs, phonetic symbols Part 2: prosody: stress, rhythm, intonation & sound change	review
4	Phonology (phoneme, allophone, syllable)	HWK 3 (syllable structure)
5	History of English (three main eras: sound, word, grammar, etc.)	
6	Morphology 1 (morpheme, DA & IA)	HWK 4 (word analysis)
7	Morphology 2 (stem, base, derivation, inflection)	HWK 5 (word analysis)
8	Syntax 1 (Word order, Sentence Patterns), Quiz 1	HWK 6 (exercise)
9	Syntax 2 (Verb, Tense)	HWK 7 (exercise)
10	Syntax 3 (Aspect, Mood), Quiz 2	HWK 8 (exercise)
11	Syntax 3 (Aspect, Mood), Information Structure	HWK 9 (exercise)
12	Semantics & Speech Level, Quiz 3, Group work	
13	Semantics & Speech Level	
14.	Pragmatics, Reflection	Review for the Exam
15	Final Exam: You can use a dictionary and all the handouts but no computers, smartphones, or smartwatches. (総括試験: 配付資料・辞書参照可: PC・スマホ・スマートウォッチ不可)	

1.授業コード (ナンバリング)	LIN203-A51	2.科目名	英語音声学Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部（初等英語教育コース）			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語)、中学教諭 1 種 (英語)		11.先修条件	英語学 1 を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の学生は必修 発音の確認や指導をするため、最大 24 名までとし、それ以上の場合は抽選をします。ただし、 中学英語免許を取得する予定の学生を優先的に受け入れます。					
17.授業の目的と概要	【目的】英語音声学Ⅰと合わせて、英語音声学の理論を学び、その実践として、自分の発音を 改善して EIL（国際語としての英語）を基準とするレベル以上に発音能力を引き上げることを目 的としています。 【概要】調音音声学の各分野、prosody と呼ばれる強勢、リズム、イントネーションに関する理 論を学び、自らの発音を改善します。個別音(Ⅱでは特に子音)についても、同様に理論と実践 を行います。					
18.学習目標と DP との関連	DP(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 1)日本語の音声と比較し、英語音声学の理論を説明できる 2) EIL として通じる英語の発音ができる 3) 学んだ発音記号の表す音とその発音方法を説明できる					
19.教科書・教材	『改訂新版初級英語音声学』 竹林滋ほか （大修館書店）ISBN978-4-469-24851-3					
20.参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。					
21.成績評価	1) テスト：発音テスト 10 点× 3 回（30 点）+ 発音記号のテスト（10 点） 学習目標 2 に対応 2) レポート：10 点× 2 回=20 点 学習目標 1 に対応 3) 総括試験：40 点（筆記および発音実技） ＊合格基準：発音テスト 3 回以上受験、レポートは 2 回とも提出、総括試験を受験のうえ、合 計 60 点以上					
22.コメント	授業内の発音練習だけでは身につかないので、授業外でも意識しながら練習をしてください					
23.オフィスアワー	尼崎キャンパスへは金曜日のみのため、メールで連絡ください。 オフィスアワーは神戸山手キャンパスで月曜日昼です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	導入 授業の進め方など説明、発音テスト 1 テストの解説			復習（60 分）		
2	第 6 章 音の連続			復習（60 分）		
3	第 4 章 子音 分類の基準			予習：教科書（30 分）、復習（60 分）、課題 （小レポート：子音について、授業中に詳細 を説明します）		
4	第 4 章 音 子音（破裂音、摩擦音）			予習：教科書（30 分）、発音練習（60 分）		
5.	第 4 章 子音 破擦音、鼻音			予習：教科書（30 分）、 復習（60 分）		
6	第 4 章 子音 促音、接近音			予習：教科書、発音練習（60 分）		

7	第4章 子音 紛らわしい子音、発音テスト2	発音練習（60分）、小レポート2（イントネーションのまとめ）60分
8	弱音とその影響	予習：教科書（30分）、練習（60分）
9	個別音の総復習	発音練習（60分）
10	文での練習（Jazz Chants）	発音練習（60分）
11	文での練習、発音テスト3	復習＆発音練習（60分）
12	発音テストの解説、自己分析	復習、発音練習（50分）
13	日本語との比較	復習、小レポート（音声の日英比較）（120分）
14	音声記号と、発音の歴史	復習、音読練習（90分）
15	総括試験（筆記と発音実技）	

1.授業コード (ナンバリング)	MED106-M51	2.科目名	病態学		3.単位数	1
4.授業担当教員	三木康宏					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 種々の疾患によって、組織・細胞はさまざまな適応をとるが、「病理学」ではその意味と疾患のか わりについて学修する。 【概要】 ヒトは、生態の構造、機能や代謝が様々な障害因子により正常範囲から逸脱した状態、すな わち病 気になる。病理学とは、病気になった原因や発生機序を解明し、患者の身体に生じている変化 がどの ようなものであるかを研究する学問である。看護師として必要となる、疾患と病理に関する知 識を身 につけ、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 心身機能上の異常において、その原因と身体の組織学的変化について学び、説明できるよう にな る。 2. 人体の変化から疾病の原因を推定できるようになる。 3. 以上から、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。					
19.教科書・教材	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学 医学書院					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	筆記試験（第8回目）					
22.コメント	病理学は生理学や解剖学が基礎となっています。講義ではそれらの基礎についても簡単に解説 しま す。また、該当する国家試験問題を紹介して、今日の知識で問題を解くことができることを実 感して もらいたいと思います。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	病理学とはなにか／病気の発生要因（病因）について			予習：教科書第1章（病理学で 学ぶこと）を読む。		
第2回	細胞の増殖と傷害について			予習：第2章A（細胞・組織の 損傷と適応）を読む。		
第3回	生体防御反応としての炎症について			予習：第2章B（細胞・組織の 損傷に対する反応）を読む。		
第4回	免疫の基礎と疾患について			予習：教科書第3章（免疫、移 植と再生医療）を読む。		
第5回	循環障害：体液の廻りと滞りについて（局所と全身）			予習：教科書第5章（循環障 害）を読む。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED109-M51	2.科目名	疾病・治療論Ⅲ（精神/老年）		3.単位数	1
4.授業担当教員	川村剛、櫻井信人、原賢太					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 本講義では、看護学を学ぶうえで必要不可欠な疾患・治療についての基礎的知識を習得することをねらいとする。代表的な精神疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。また、加齢現象、および高齢者に特有な疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。本講義では、代表的な疾患とその治療の学びを通して、臨床現場で出会う患者が抱えているであろう様々な疾患とその治療について理解するための学習の視点・方法を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	生命を尊び、対象者がもつ価値観、信条の多様性を理解し、それらをありのまま受け入れ、相手の立場を尊重する行動や態度をとることができる。 人間や健康を総合的に捉え、説明することができる。					
19.教科書・教材	精神：「系統看護学講座」精神看護学 1 精神看護の基礎、医学書院. ISBN978-4-260-04213-0 老年：「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論、医学書院. ISBN978-4-260-00668-2					
20.参考文献	精神：講義の際に必要なに応じて提示する。					
21.成績評価	精神：総括試験 50% 老年：総括試験 50%					
22.コメント	超高齢社会を迎えた日本の医療において、老年医学の知識は不可欠です。しっかり勉強しましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	○4 回 （原賢太先生） 老年医学において、加齢による心身の変化や高齢者に特徴的な疾患（認知症、精神・神経疾患）をとりあげ、病因、症状、検査、治療等の概略、学習の視点について講義する。 第 1 回 高齢者に多い症候と老年症候群 第 2 回 認知症 第 3 回 脳梗塞と高齢者で注意すべき感染症 第 6 回 骨粗しょう症および高齢者の内分泌・代謝疾患					
	○4 回（川村剛先生） 精神医学における代表的な精神疾患について原因、症状、検査、治療等の概略について講義する。 第 4 回 総論 第 5 回 統合失調症 第 7 回 躁うつ病					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MNG104-Y51	2.科目名	ホスピタリティマネジメント (G コミ 2023・2024 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学科 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、視聴覚教材を使用、グループディスカ ッション、プレゼンテーション	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【【目的】】 ○ 企業がどのような施策を執り、そこで働く社員が具体的に、どのような行動をとること で、顧客満足度を追求しているのかを、実際の企業の取り組み事例から学ぶ。 その学びを、社会でどう生かすか考え、アルバイト、インターンシップ、就職先で工夫と実践 ができることをめざす。 【概要】 ● 接客だけではなく、商品開発やマーケティングの面からも、ホスピタリティマネジメント として顧客満足度を上げる経営のための、視点や思考を身につけることの両立をめざす。 ● 新型コロナによるパンデミックによって、「顧客満足」「従業員満足」「サービス」「商品開 発」「提供チャネル」などの、あり方に変化がある。時代や人が求めるホスピタリティとは何か を考え、時代が変わっても通用するホスピタリティマインドを身につける。 ● 本授業では、一方的に授業を受けるのではなく、自分の意見を言語化して発言したり、グ ループ学習を通して、他者の経験や考えから学ぶことも重要視する。毎授業グループワーク・ グループディスカッションを行う。 ● 事例は主に視聴覚教材と、自らの体験、他者の体験談などから学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケー ションスキルの学修に関連しています。 ○ 企業活動においても、行政、その他においても、「顧客視点」「顧客目線」が、経済を動か す基本である。本講義では、「顧客満足の基本」について、顧客・社員・経営など多角的な視点 から学び、真の「ホスピタリティ」とは何かを考察したり、話し合う中で、現状の問題解決と より高い目標達成をめざす。 ○ 学んだホスピタリティ精神、態度、思考を、学習環境や実習、インターンシップなどにお いて、行動レベルで発揮できることをめざす。 本科目の学習目標（身につくスキル）は、次のとおりです。 ①社会人としての言葉づかい、立ち居振る舞い、挨拶ができる ②ホスピタリティの基本を知り、顧客満足度をあげるホスピタリティ経営の仕組みについて理 解する。その上で具体策を考える。 ③自分のパーソナリティを知り、サービス業での実習での強み弱みを自覚して、行動・表情・ 表現をセルフコントロールする行動目標を持ち、実践する。 ④クレーム対応の基本を知る。感情のセルフコントロールの方法を知り、職場の人間関係・お 客様対応に生かすための自己育成目標を立てる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を webclass で配布します。 ○毎回パソコンを持参してください。					
20.参考文献	「日本でいちばん大切にしたい会社シリーズ 1～8 巻」あさ出版					

	「社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題」日本ホスピタリティ検定協会編 「【2020 年度版】ホスピタリティ検定 公式テキスト&問題集」経済法令研究会 「顧客満足 CS の知識」小野譲司著 日経文庫 「顧客満足ってどうやるの？」佐藤知恭著 日本経済新聞社 「ホスピタリティ・マネジメント入門」第2版 服部勝人著 丸善 「カスタマーサクセスとは何か」弘子ラザヴィ著 英治出版 「ホスピタリティマネジメント」(第2版)徳江順一郎 同文館出版 「伊那	
21.成績評価	●学習記録ミニレポート 30% 【学習目標②③④】 ●小テスト 30% 【学習目標①】 ●最終レポート 40% 【学習目標②③④】 ※それぞれのテーマ・内容については授業内に伝えます。	
22.コメント	●ホスピタリティの考え方や具体例には、生活の中でも出会うことができます。日頃から、学習する意識で企業人の行動を観察したり、新聞やビジネス雑誌などで、最新の情報を得ておきましょう。 ●遅刻・早退・欠席は、自己責任です。抜けた授業内容は自力でキャッチアップすること。 ●受講者の理解度、世の中のトレンド、その他の理由で、講座内容に変更が生じる場合があります。その場合、授業内、または、Webclass などでお知らせします。	
23.オフィスアワー	○授業内に質疑応答の時間が無かった場合、webclass のメッセージで、授業の内容についての質問に対応します。 ○授業についての「お知らせ」は、webclass の「お知らせ」または「タイムライン」で案内します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	「ガイダンス」 ●講座の目的と進め方 ・講座参加の留意事項 ●シラバスをベースに、講座の内容、評価方法ほかについて案内する ●基本姿勢の練習(立ち姿・座り姿・立ち方・座り方) ●基本姿勢の説明図を作成する	シラバス必携 ※この科目専用のノートを1冊用意してください。(B5以上の大きさのもの)または、パソコンにこの授業のノートを取るためのファイルを作成ください。
【第2回】	「ホスピタリティの基本」 ●ホスピタリティとは ●顧客満足(CS)とは何か、全体像を理解する ●お客様の事前期待と顧客満足度の関係 ●顧客満足の評価基準	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート(PC上のファイル可)を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第3回】	■接客マナー力アップ 第一印象、あいさつ、表情 ■ケーススタディ DVD「出会いの瞬間」 ●事例企業「かぶらやグループ」「ホンダクリオ新神奈川」「オートウェーブ」「神崎屋」他	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート(PC上のファイル可)を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第4回】	■接客マナー力アップ 言葉づかいの基本「敬語」 ■ケーススタディ DVD「心をくばる、心を表す」 ホスピタリティマインドの表現や行動、考え方から、お客様の感動を呼ぶサービスについて気づく。 事例企業: 「ホテル志戸平」「焼肉一番カルビ」「サントアン」「かぶらやグループ」「BAGZY」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート(PC上のファイル可)を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第5回】	■接客マナー力アップ 「言葉づかい」「接客用語」	●前回までの復習をしておく

	●ビジネス対応言葉 ●ワンランクアップの言葉づかい	●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 6 回】	「クレーム対応の基本」 ●クレームとコンプレインの違い ●カスタマーハラスメント ●「怒り」感情の取り扱い方 ■事例研究 ※クレームの事例から ●リスクマネジメントとクライシスマネジメント	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 7 回】	■ケーススタディ DVD「高め続けるお客様満足」 事例企業：「ネットトヨタ南国」「ザ・リッツカールトン大阪」「四国管財」「オオゼキ」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 8 回】	「ホスピタリティの基本」従業員満足と顧客満足 ■ケーススタディ：チームワーク① DVD「全員がお客様係」 ●接客担当ではなくとも、社員全員がお客様の方を向いて行動・仕事をしている企業について学ぶ。 事例企業：「サントアン」「新和建設」「かぶらやグループ」「ネットトヨタ南国」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 9 回】	■ケーススタディ：チームワーク② DVD「心を一にする」 ●組織が理念の実現に向かってベクトルを合わせることの意義について学ぶ。 事例企業：「ホンダクリオ新神奈川」「川越胃腸病院」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 10 回】	ステークホルダーとは ●誰のために、企業は存在するのか ●顧客とは誰か 「良い会社」とは	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 11 回】	■ケーススタディ DVD「常に考える 未来工業」 ●他社と差をつけるには、何をすればいいのか ●戦わずに勝つ ブルーオーシャン戦略とは	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 12 回】	■ケーススタディ 「星野リゾート」 グループディスカッション&プレゼンテーション	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 13 回】	社員の意識研究 「いい会社をつくりましょう」 ステークホルダー（広い意味での利害関係者）の視点を持って学ぶ。 ■ケーススタディ：「伊那食品工業」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。

	グループワーク：寒天の製造で、確固たるファンを獲得し、業界トップとなった企業の社員の意識、組織風土の作り方について学び、「良い会社」と言われる要因を、分析する。	
【第 14 回】	■総合事例研究 日本経営品質大賞に2度も輝いた企業の、CS・ホスピタリティの考え方や実践、行動の定着について考える。 ケーススタディ：「ザ・リッツカールトン大阪」 グループワーク：ホスピタリティではトップクラスの企業がどのように、その向上に取り組んでいるのか、研究し発表する。（グループディスカッション・プレゼンテーション）	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 15 回】	■最終レポート発表 ●学びの総括。 ●気づきの共有と振り返り、または復習	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。 ○最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	MNG104-Y52	2.科目名	ホスピタリティマネジメント (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義を中心とする		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『目的』 ・授業では、ホスピタリティ産業における最大の目標である「顧客満足実現」について様々な事業や企業を事例を基にその重要性について学ぶ。将来従事する仕事に生きる発想やスキルを身につける。 『概要』 ・授業では、「商品としてのホスピタリティ」の概念を明らかにする。ホスピタリティ産業の経営と管理上必要とされる理論の考察を通じて、顧客満足について正確に理解し、ホスピタリティ産業では、どのようにモノやサービスを提供すればよいのか、そのために人材をどのようにマネジメントすればよいのか、などについて学ぶ。また、優れた顧客満足活動を実践している企業の経営についても考察し、理論がホスピタリティの実践にどのように役立つのかも学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習目標』 1. ホスピタリティ産業の事業特性を具体的に説明できる。 2. 「ホスピタリティ」「サービス」「おもてなし」などの概念の違いを歴史的な背景を踏まえて説明できる。 3. 特にホスピタリティ産業においてなぜ顧客満足や従業員満足が重要なのかについて説明できる。 4. ホスピタリティ論の学びを通じて、就職活動など、自らのキャリア形成の参考にすることができ る。 『関連するディプロマポリシー』 ①自律性③多様性理解④問題発見・解決力⑥専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書は使用しない。 資料を配布する。					
20.参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。					
21.成績評価	授業参加姿勢 20% (学修目標の 1・2・3・4 に対応) 授業理解確認レポート (毎授業) 50% (学修目標の 1・2・3・4 に対応) 最終確認テスト 30% (学修目標の 1・2・3・4 に対応)					
22.コメント	?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める (生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること) ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)					
23.オフィスアワー	研究室 OA(3-306 号室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第1回	・オリエンテーション - 講義内容について、成績評価等 ・サービス / ホスピタリティとは？ ① 日本社会の現状と観光立国宣言 ② サービス/ホスピタリティとは？	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第2回	・今なぜ、ホスピタリティを重視するのか ・商品としてのサービス/ホスピタリティ	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第3回	・ホスピタリティ産業のビジネス環境の変化について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第4回	・日本のホスピタリティ産業の現況について - 経済全体におけるホスピタリティ産業規模 - ホスピタリティ産業の地域経済に及ぼす効果 - 宿泊産業に期待される役割等	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第5回	・日本のホスピタリティ産業の課題について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第6回	・日本のホスピタリティ産業の課題について② - 宿泊施設 ホテル、旅館のビジネス特性等と課題	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第7回	・1回～6回までの復習 ・サービスの概念・サービスの特徴（特性）について ① サービスの定義、基本的性質（特性）、構成要素の全体像について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第8回	・サービスの概念・サービスの特徴（特性）について ② サービスの成果を左右する態度変数 - 交通サービス、ホテルサービスの構造 - サービスの現状認識	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること

第 9 回	・ サービス/ホスピタリティ・マネジメント - サービス・マネジメントシステム - マーケットセグメンテーション - サービスコンセプト - 組織理念と文化	予習：事前に資料を配布、予習ポイントを指示するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 10 回	サービス/ホスピタリティ・マーケティング ・ ホスピタリティにおけるマーケティング・ミックス (4 P + 3 P) ・ 宿泊施設におけるレヴェニュー・マネジメント ・ 航空会社におけるイールド・マネジメント	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 11 回	・ 顧客満足を実現する組織と人材① サービス企業における人材の役割 「仕事・従業員満足・顧客満足」の関係について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 12 回	・ 顧客満足を実現する組織と人材② 従業員の考え方 企業の採用後の教育・訓練について サービスの「真実の瞬間」について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 13 回	・ 関係性 (Relationship) マーケティングの考え方と顧客満足 関係性マーケティングの考え方	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 14 回	・ ホスピタリティ・マネジメント実践企業の事例研究 株式会社「道頓堀ホテル」の成功要因について 「同社の経営戦略と経営理念」「従業員満足に向けての取組み (チームワーク・権限移譲・教育等)」 「顧客満足に向けてのホスピタリティの特徴と独自性」	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・ 授業確認レポート作成 ・ パソコンは持参すること
第 15 回	・ 全体の復習と確認テストの実施	確認テストの実施 パソコンは持参すること。 Web Class でテスト提出。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG201-A51	2.科目名	経営戦略論		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 皆さんは「戦略」という言葉をよく聞くことがあると思います。戦略という言葉が、多くの分野で様々な使われ方をしているので、混乱してしまうかもしれませんが、一般的には、戦いに勝つための大局的な方策や、大きな視点から目標を達成するための計画や方針のことを指します。経営学のなかでも実に幅広く使われています。例えば、経営戦略、企業戦略、事業戦略、成長戦略、市場戦略、競争戦略、マーケティング戦略、製品戦略など他にも数多くあります。それぞれに違いはあるのですが、多くは共通している部分があります。 経営という言葉は「組織」を対象にして使われる言葉です。そして、経営戦略は、長期的な視野にたって、組織のヒト、モノ、カネを使って、未来に向かって何をしようとするのか、その組織の方向付けをおこなうことです。この授業の目的は、皆さんに、経営戦略の基本的な概念を理解し、「戦略の使い手」となる基礎を身につけてもらうことです。経営戦略論を学ぶことは、それは同時に、周囲の状況を見極めて、未来に向けての目的を考え、「我が身にどのような戦略を立てるか」自らの生き方の方向を考えることでもあるのです。 ●概要 テキストは『1 からの戦略論(第 2 版)』を使って講義していきます。加えて、1 年次開講の「経営学概論」で使った参考書『ゼミナール経営学入門』からも経営戦略論に関する部分を取り出して、経営学概論の続きを深掘りしていきます。経営学概論で学習した「外部の環境マネジメント①～④」を見直しておきましょう。皆さんは、15 回の講義を通じて、経営学で一般化されている様々な戦略について理解し、そのメカニズムを考えます。各戦略論の概念を理解したうえで、ビジネス誌からも企業事例を抜粋し、その概念を使ってどのように企業の戦略を読み取れるか、現代的なトピックにもチャレンジします。 最初は講義形式で始めますが、学習は決して一人ではありません。授業は「互学互修」がテーマです。皆さんの状況を見ながら、途中で反転学習を行います。お互いから学び、お互いが基礎的な理論を確認していけるように進めていきます。受講者に人数によりますが、状況を見て、可能であれば途中から反転授業に切り替えます。皆さん自身がディスカッションを通じて、チーム・ワークで行うようにしてコミュニケーション力を高めます。					
18.学習目標と D P との関連	科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (6) 専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営戦略論の基礎的な知識を理解します。 (2) 他者を理解し、自分の考えを整理して他者にわかりやすく伝えることができようにします。 (3)協働して学習し、成果を生み出していくチームワーク力を高めていきます。 (4)今日的な企業の問題に対して、経営戦略論のフレームを通して問題を整理し、企業の対応戦略を読み取る力をつけます。					
19.教科書・教材	・ 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎(2016)『1 からの戦略論(第 2 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN : 978-4-502-16741-6					

20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3 ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2 ・現在の企業を理解するうえで、「日経ビジネス」や「週刊ダイヤモンド」などのビジネス誌も利用します。	
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：20%(授業への貢献度として評価します) - ー学習目標の(1)に対応します，学びを確認します。 ・小テストをおこないます。35%（実施時期は授業の進捗状況によります） - ー学習目標の(1)に対応します。 ・最終テスト：45% - ー学習目標の(1)と(2)に対応します。	
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから，時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。しかし，それに惑わされることなく現実の経営を理解するには，基本をしっかり身につけることが大切です。経営学概論での参考書『ゼミナール経営学入門』も使います。この1冊をしっかり読み込んで経営学を理解していくことは，皆さんが，道を切り開いてくうえで，大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・その際に，生成AI利用も無制限で認めますが，決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 ・それには，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にメモすることが有効です。この蓄積があなたを変えていきます。その時わからなかったことも，後にはわかるようになり，自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。	
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(後期)月曜日第3限 13:15～14:45 (4階学修支援室) ・研究室オフィスアワー：(後期)月曜日第4限 15:00～16:30 (8階研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション：戦略って何だ。」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で、「戦略」という言葉について考えます。企業とは何か，社会と経済，市場と流通，消費の大きな視点から，経営における戦略の意義を考えます。	・アサインメント 経営戦略論のノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉で，自らの戦略をタイトルにしましょう。これは仮のタイトルです。最後にどのように変わるか，そのプロセスが大切です。次週に発表してもらいます。
第2回	「戦略グループ分け：経営戦略は企業の数ほどあるのか」 これから学習するチームを作りますから，休んではいけません。まず2人のペア・ワークから進めて，先週の宿題を皆さんで共有します。皆さんの発表を土台にして，組織の経営戦略のあり方や意義について理解します。	アサインメント 今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか，何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。

第 3 回	「組織構造のデザイン」 ・経営学概論で学習した「組織のマネジメント①, ②」に対応します。経営戦略論に入る前に、組織構造の基本デザインにはどのようなものがあるかを確認します。古典的な組織構造は、現代でも有効な側面があります。いくつかの組織デザインを現代の企業から確認します。	アサインメント 今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか、何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 4 回	「組織のコンティンジェンシー理論」 ・今回は組織のデザインについて確認しました。この理解のうえでコンティンジェンシー理論を学習します。コンティンジェンシー理論は、組織の行動や組織の構造が、その周囲の状況や環境に依存するという考え方で 1970 年代に発展しました。適切な戦略を選択するための基盤として重要な概念なので先に学習しておきます。	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか、何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 5 回	「アンゾフの成長戦略」 ・ここからは、経営学概論で学習した「外部の環境マネジメント①～④」を深掘りしていきます。再度、学習した箇所を見直しておきましょう。 経営学なかで戦略論の議論が活発になるのは 1960 年代です。その初期の戦略をアンゾフの成長戦略から進めます。これは戦略の基礎になり、企業の発展の方向を考えるうえで現代でも必須のフレームです。必ず「使える」ようにしてください。このフレームの有効性を現代の企業に事例から確認します。	・今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・皆さんの学習状況によりませんが、このあたりから反転学習にします。次週から結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションに入ります。
6 回	「ポストン・コンサルティング・グループのプロダクト・ポートフォリオ・マネジメント」 ・プロダクトは製品ですが事業と考えても同じです。アンゾフの成長戦略では考えられていなかった資金の流れを全社的に管理することで、複数の事業や製品を有する企業を全体として利益と成長をバランス良く達成しようとするものです。このフレームも戦略論の基礎として重要です。皆さんがこのフレームを使って現代の企業の戦略が理解できるように学習します。	・今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 7 回	前回の続きのなかでマイケル・ポーターの博士論文を取り上げます。このポーターの論文で戦略論が大きく変わります。40 年以上前のフレームですが、現代でも業界の構造を捉え、競争戦略を考えるうえでとても有効です。このポーターのフレームを使って業界の構造を捉える練習をします。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 8 回	「経営の環境をどう捉えるのか」	今日の振り返りをノートに記入してください

	・企業は経営環境をどのように認識すればいいでしょうか。経営学概論で学習した「外部の環境マネジメント①～④」を見直し、SWOTやPEST、3Cなどのフレームを使って、企業の外部環境を分析してみます。	い。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 9 回	「ポーターの競争戦略②」 再び、ポーターの競争戦略の次のステップに入ります。同じ業界で、同じ経営環境にあっても、その企業の戦略はさまざまです。ポーターの基本戦略のフレームから、なぜそのような違いが生まれたのか、実際の企業を例にとって考えていきます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 10 回	「製品ライフサイクルと経営戦略」 ここはマーケティング論の製品ライフ・サイクル管理とも重なる部分です。製品ライフサイクルの各ステージではどんな戦略が有効なのでしょう。各ステージで捉えられる市場機会も変わります。また世界的な視野で製品のライフサイクルと捉えることで、グローバルへ展開の機会ともなります。実際の企業の例から確認してみましょう。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 11 回	「コトラーの市場の地位別の戦略」 同じ業界でも企業の大きさ(ヒト・モノ・カネなどの経営資源)はまちまちです。大きさだけでなく、その経営資源の「質」もまちまちです。つまり、市場の地位が違います。市場の地位という視点からみると、採用する戦略が異なってきます。実際に企業の戦略をコトラーの地位別戦略のフレームから捉えてみましょう。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 12 回	「バーニーの経営資源に基づく戦略(リソース・ベースド・ビュー)」 2000 年代になって、企業の経営戦略は、製品・サービスの位置(ポジショニング)よりも、企業のもつ経営資源をいかにして活用するのか(リソース・ベースド・ビュー)、他社が真似できない独自の強みを活かすことが重要になる(コア・コンピタンス)という議論がされるようになりました。実際の企業事例からバーニーの戦略論を検討します。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 13 回	「ビジネス・システムという考え方」 ビジネスにおいては、顧客が適切と認める価値「カスタマー・バリュー」を提供することが大切です。企業が顧客にどのような価値をどのような仕組みで提供するのか、このビジネスの仕組みをビジネス・システムといいます。そのためには企業の内部と外部にある企業との連携をうまく構築し、ビジネスのシステムとして機能させる必要があります。実際に、企業はどのような	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。

	ビジネス・システムが構築しているのかを確認します。	
第 14 回	「ビジネス・ドメインとエイベルの事業の定義」 ・ドメインとは「領域」という意味です。その企業が何をするのか、事業の範囲を決めると何をする企業であるのかがよくわかってきます。我々は何もので、何をするのか、その企業のドメインを定義することは、企業活動に焦点をあてることになり、企業の方向性、つまり戦略を決めることにつながります。企業のケースからドメインについてディスカッションしてみます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 15 回	「まとめと総括：テストと経営戦略論を通じて学んだこと」 経営学を全体的にとらえるアプローチには、経営管理論、経営組織論、経営戦略論があります。そのなかで学習した「経営戦略論」のパートが終わりました。これまでの学習の理解を確認します。 その後で、経営学概論で学習した他の経営分野とのつながりを見いだせたでしょうか。皆さんが学習した経営戦略論で学んだことをディスカッションします。今後の経営学の学びに結びつけます。	今日のテストを振り返って、経営学概論のノートを見直して補強してください。 次の経営学の学習にむけて、経営戦略論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか、さらにどの分野を伸ばしたいのか、印象に残ったことは何か、自らの考えを整理してください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG202-A51	2.科目名	経営組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	経営学概論がよく理解できていること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的： この講義では、これまで経営学を学習してきた方を対象に、さらに経営学を深めていきます。これから「大学院」を受験しようと考えている方には、その準備により勉強になります。 歴史をみれば、古代から人々が組織を作りあげ、強大な国家を形成していたとわかります。20 世紀になって、現実の社会を構成している企業にフォーカスし、経営学からその組織について研究がなされるようになりました。つまり、経営は組織が対象であり、現実の経営が様々な理論を生み出しているのです。しかしながら、経営に関連する図書にはおびただしい数があり、経営学はよくわからないというのが皆さんの印象ではないでしょうか。 本講では、皆さんの混乱を解いていくため、時代の背景から生まれてきた経営学を理解するうえで、名著といわれる著書を順に追いかけてながら、理論ベースで経営組織論の系譜を学んでいきます。 ●概要： テキストとして『組織論の名著 30』を使います。新書版の本ですが、それぞれの名著をコンパクトに説明しています。組織論は個人の心理に焦点をあてたミクロ組織論と、組織全体の構造を扱うマクロ組織論にわけることができます。大きく 2 つの視点から、経営学を参考書としてあげている『ゼミナール経営学入門』も時々使ってテキストの内容を補足します。 各回はテキストの章立てにある 30 の著作から抜粋して、順序を変えて進めます。授業の回は皆さんの進捗に応じて変更しますが、事前に読んでおく箇所を伝えます。一人で孤立することのないよう 2 人以上のグループで学習した内容の報告を受けて、受講生同士の対話も含めながら、双方向で進めていきます。報告者は AI やネットの貼付ではなく、自分の力で理解したかどうかを確認します。					
18.学習目標と DP との関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営学のより専門的な知識、経営学の理論の系譜を理解します。 (2) 自分の考えを、整理して他者に伝えることができようにします。 (3)現実企業経営の問題に対して、経営学のフレームを通して、その見方を説明する力をつけます。					
19.教科書・教材	高尾義明(2024)『組織論の名著』筑摩書房 ISBN：978-4-480-07662-5C0234					
20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古本で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第 3 版」でも同じです。） ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511-9					
21.成績評価	毎回の授業の振り返りアンケート：10%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(2)に対応します。					

	・小テスト：30% －学習目標の(1)に対応します。 ・グループによる報告：30% －学習目標の(3)に対応します。 ・総括試験(最終テスト)：30% －学習目標の(1)と(2)に対応します。	
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから、時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。それに惑わされることなく、現実の経営を理解するためには、既存の基礎学問が作り上げてきた知識の基本をしっかりと身につけることが大切です。 ・参考書に指定している『ゼミナール経営学入門』は厚い本ですが、心配しないでください。その中から基礎的な部分を取り出して講義します。他の部分はこの後の経営科目でも使って学習していきます。『ゼミナール経営学入門』の1冊をしっかりと読み込んで経営学を理解していくイメージです。「4年間をかけて社会に入る前に経営学の知識を自分のものにするんだ」と考えてください。この1冊をやり切ったことは、これから皆さんが、道を切り開いてくうえで、大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。報告者だけではなく、必ず「読む」という習慣をつけましょう。授業を通じて、思ったこと、考えたことを大切にメモするようにしてください。その際に、生成AI利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。この蓄積があなたを変えていきます。考えながら学ぶことを続ければ、その時わからなかったことも、後にはわかるようになり、自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。	
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(後期)月曜日第3限 13:15～14:45 (4階:学習支援室) ・研究室オフィスアワー ：(後期)月曜日第4限 15:30～16:30 (8階:研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション：経営組織論で学ぶこと」 内容：これから使うテキストと授業の進め方の説明をします。最初にペア・ワークをおこなって、皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で、組織論がいかにして生まれ発展してきたのかを概括します。	経営組織論のノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。第1回で何を思ったかをWebClassにアップします。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。テキストを手に入れて、次回までに今日設定した2人のペアでしっかり読んでおいてください。(120分)
第2回	「第2章：近代と組織」：ウェーバーの官僚制組織 第2章から始めます。組織論は社会学から大きな影響を受けています。ここでは組織論の源流としての「官僚制組織」を学習します。社会学の巨人であるマックスウェーバーの議論から、ウェーバーは組織をどのように捉えたのかを理解します。報告者の内容を各自WebClassで評価し、ディスカッションを行います。	経営組織論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120分)
第3回	「第2章 近代と組織」：テイラーの科学的管理法 現代においてテイラーの組織論はあまり大きく取り上げられることは少ないと思いますが、テイラーが行った研究は、初めて体系的な観察によって「仕事そのもの」を科学したもので、テイラーは「経営学の父」と呼ばれます。テイラーの貢献はどこにあったのか、テイラーによって何が変わったのかを学習します。受講	経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120分)

	者は報告者の内容を各自 WebClass で評価し、ディスカッションを行います。	
第 4 回	「第 4 章 創発的システムとしての組織」レスリスマーガー ・マクロ組織論のはじまりはここからといえます。「ホーソン実験」という大規模な実験がハーバード大学とウエスタン・エレクトリック社で行われました。ここで経営学に新たな発見が加えられました。これは現代に経営においても重視されています。「ホーソン実験」を通じた経営組織論への知見とは何であったのかをディスカッションします。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 5 回	「第 2 章 近代と組織」：ドラッカーの経営学 ・ドラッカーの著書は多くありますが、そのなかでも初期の 1946(昭和 21)年の著書「企業とは何か」にフォーカスします。日本ではドラッカーの著書を読む経営者が多いと感じています。なぜ現代において「ドラッカー」が読み続けられるのでしょうか。ドラッカーは社会のなかで大規模化する経営組織をどのようにみたのでしょうか。受講者は報告者の内容を各自 WebClass で評価し、ディスカッションを行います。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 6 回	「第 1 章：組織論の古典」バーナードの理論 ・バーナード革命といわれるほど組織論が経営学の中核となったのが『経営者の役割』で、組織論はここに始まった。バーナードは AT&T (アメリカ電話電信会社:日本の NTT のようなもの) の社長を 21 年勤めた実務家で、1937(昭和 12)年の春に行われたハーバード大学での公開講座の講義内容が出版されたものです。少々難解ですが、後の経営学に大きな影響を与えることになったバーナードの組織論を理解します。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 7 回	第 7 回：「第 1 章：組織論の古典」サイモンの『経営行動』 ・『経営行動』は 1947(昭和 22)年に出版されましたが、バーナードの影響を強く受けています。サイモンは AI の生みの親の一人でもあり、「経営とは意思決定のネットワークである」とします。経営学ではじめてノーベル経済学賞を受賞した名著です。バーナードの理論がどのように継承されたのか、その発展をみていきます。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 8 回	「第 1 章：組織論の古典」マーチ&サイモン サイモンの『経営行動』を引き継ぐ研究はカーネギー学派と呼ばれます。前回に引き続き難解ですが、マーチ&サイモンの『オーガニゼーションズ』にチャレンジします。『オーガニゼーションズ』を読む上でのポイントを理解するようにします。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テストにむけてこれまでの内容を総復習してください。(8 時間)

第 9 回	のあたりで、皆さんの学習状況を確認します。論述テストをおこなって総評します。 PC・スマホの持ち込みは不可、これまで復習してきた授業ノートは持ち込み「可」とします。	テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 10 回	第 5 章：組織におけるプロセスと人」ハーズバーグ ハーズバーグの『仕事と人間性』には、皆さんのよく知るマズロー(欲求段階説)やマグレガー (X 理論 Y 理論) の影響がみられます。ハーズバーグが調査した対象は企業で働くエンジニアと会計担当者であったため、その職種の影響もあったと批判もありますが、現在にも大きな影響力をもっています。二元的な人間観からのその実務にむけた主張を理解します。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 11 回	「第 3 章：合理的システムとしての組織」チャンドラー チャンドラーは実務家であり経営史家でもあります。企業の一般史・総合史を提示しました。皆さんは経営学の組織形態で、職能別組織か事業部制組織かどちらを採用すべきか、記憶にある議論であると思います。この回では「組織は戦略に従う」といったチャンドラー・モデルを検討します。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 12 回	1973(昭和 48)年『マネジャーの仕事』を取り上げます。ミンツバーグはこれまでのマネジメントの学説に異論を唱えます。マネジャーは一体にどんな仕事をしているのか、5 人の経営者に貼り付いて観察し、実際にどんな仕事をしているのか、どんな行動をとっているのか、具体的に調べます。ミンツバーグが導きだしたマネジャーの役割を検討します。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120 分)
第 13 回	1997(平成 9)年の『イノベーションのジレンマ』を理解します。正しい努力をしている企業が合理的に判断したにもかかわらず、その地位を失ってしまうのはなぜか、クリステンセンはこの問いに対して、どのような答えを導き出したのかを学習します。	ノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。

		今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClass にアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。グループで報告資料を作成してください。(120分)
第 14 回	「組織の変革とイノベーション」 野中郁次郎・竹内弘高 最後は日本発の組織論をあげます。野中郁次郎先生は、1974(昭和 49)年の『組織と市場: 組織の環境適合理論』で、日本の経営学研究に大きな影響を与えました。1995(平成 7)年、世界に先駆けて、企業イノベーションを起こす組織の知識創造に焦点をあてた日本発の組織理論を学習します。	これまでのノートを見返して、総括テストにむけた学習をおこなってください。(10 時間)
第 15 回	経営組織論の総復習： これまで、当時の時代背景から生まれた経営組織論を理解してきました。組織論の始まりからを、知ればその体系がわかります。最終では学習した経営組織論の理解状況を確認します。最後に古典的な経営組織論が、企業での仕事にどのように役に立つのかについて議論します。	ノートは 1 冊以上になったと思います。積み上げたノートの記録を大切に、経営学の「体系」を振り返って、これからの学習に役立ててください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG202-M51	2.科目名	経営組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、企業組織はどのようにして人々の活動を引き出し成果を出しているのか。人的資源管理を通じて人の活かし方について学習します。 具体的には、日本の経営の成り立ちをはじめ、企業の組織構造や組織文化、従業員の採用・配置・評価、及び働き方とライフバランスなどについて学んでいきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①経営資源として人的資源の重要性を理解することができる～DP（2）に関連する ②組織設計、組織運営の基本について理解することができる～DP（1）に関連する ③企業の採用から教育訓練、人事評価など人的資源に関連する仕組みを理解し、説明できる～DP（1）（2）に関連する					
19.教科書・教材	西村 孝史, 島貫 智行他『1 からの人的資源管理』碩学社、2022.					
20.参考文献	加護野忠男等編著『1 からの経営学』（第 2 版）碩学社、2012 年 嶋口充輝他『1 からの戦略論』（第 2 版）碩学社、2016					
21.成績評価	①個人ワーク：40 点（詳細は授業時に説明）～学習目標?②③ ②GW プレゼン：20 点 ～学習目標?② ③総括試験：40 点 ～学習目標?②③ 合格ライン：60 点					
22.コメント	・生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、課題については、授業回ごとに指定する。					
23.オフィスアワー	木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等			○個人ワーク：経営の仕組み、営資源について復習しよう。120 分		
第 2 回	Ⅰ.人的資源管理とは何か（1）			○ワーク①：ユニークな人的資源管理をしている企業の事例を取り上げて、その理由を考えてみよう。 150 分		
第 3 回	Ⅰ.人的資源管理とは何か（2）			ワーク：第 1 章復習（120 分）		
第 4 回	Ⅱ.組織構造・職場マネジメント（1） 講義内容： ・分業 ・組織構造					

第 5 回	II.組織構造・職場マネジメント (2) 講義内容： ・人間モデル ・モチベーション理論 ・リーダーシップ	次回は PC 持参 ワーク②：自分の関心を持つ企業の組織文化を調べよう。 120 分
第 6 回	III.日本の経営の成り立ち 講義内容： ・日本の経営の「三種の神器」 ・その他の日本の経営の要素 ・能力主義と成果主義	*PC 持参 ◎グループワーク：企業間の組織文化の比較 150 分
第 7 回	IV 採用と定着 講義内容： ・企業の採用活動のプロセス ・組織社会化 ・社会化エージェント	○ 個人ワーク：予習と復習 120 分
第 8 回	V.評価 講義内容： ・評価基準・内容 ・評価手法	
第 9 回	VI.配置・異動 講義内容： ・人事異動・ジョブローテーション ・昇進・昇格 ・出向・転籍	○ 個人ワーク：予習＆復習 120 分
第 10 回	VII.人材育成とキャリア 講義内容： ・「育つ」と「育てる」 ・企業による人材育成	復習 120 分
第 11 回	VIII.報酬管理 講義内容： ・賃金管理 ・福利厚生と退職給付の管理	○個人ワーク： 120 分
第 12 回	IX.労使関係 講義内容： ・労働組合 ・春闘 ・労使関係	○個人ワーク：ダイバーシティ・マネジメントの現状を調べよう。
第 13 回	VI.ダイバーシティと多様な働き方 講義内容： ・ダイバーシティ ・多様な働き方	GW プレゼンに向けての準備 120 分
第 14 回	・GW プレゼン	○個人ワーク 総括試験に向けて復習 120 分
第 15 回	・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG205-Y51	2.科目名	ホスピタリティマネジメント		3.単位数	4
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学科 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、視聴覚教材を使用、グループディスカ ッション、プレゼンテーション		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【【目的】】 ○ 企業がどのような施策を執り、そこで働く社員が具体的に、どのような行動をとること で、顧客満足度を追求しているのかを、実際の企業の取り組み事例から学ぶ。 その学びを、社会でどう生かすか考え、アルバイト、インターンシップ、就職先で工夫と実践 ができることをめざす。 【概要】 ● 接客だけではなく、商品開発やマーケティングの面からも、ホスピタリティマネジメント として顧客満足度を上げる経営のための、視点や思考を身につけることの両立をめざす。 ● 新型コロナによるパンデミックによって、「顧客満足」「従業員満足」「サービス」「商品開 発」「提供チャネル」などの、あり方に変化がある。時代や人が求めるホスピタリティとは何か を考え、時代が変わっても通用するホスピタリティマインドを身につける。 ● 本授業では、一方的に授業を受けるのではなく、自分の意見を言語化して発言したり、グ ループ学習を通して、他者の経験や考えから学ぶことも重要視する。毎授業グループワーク・ グループディスカッションを行う。 ● 事例は主に視聴覚教材と、自らの体験、他者の体験談などから学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケー ションスキルの学修に関連しています。 ○ 企業活動においても、行政、その他においても、「顧客視点」「顧客目線」が、経済を動か す基本である。本講義では、「顧客満足の基本」について、顧客・社員・経営など多角的な視点 から学び、真の「ホスピタリティ」とは何かを考察したり、話し合う中で、現状の問題解決と より高い目標達成をめざす。 ○ 学んだホスピタリティ精神、態度、思考を、学習環境や実習、インターンシップなどにお いて、行動レベルで発揮できることをめざす。 本科目の学習目標（身につくスキル）は、次のとおりです。 ①社会人としての言葉づかい、立ち居振る舞い、挨拶ができる ②ホスピタリティの基本を知り、顧客満足度をあげるホスピタリティ経営の仕組みについて理 解する。その上で具体策を考える。 ③自分のパーソナリティを知り、サービス業での実習での強み弱みを自覚して、行動・表情・ 表現をセルフコントロールする行動目標を持ち、実践する。 ④クレーム対応の基本を知る。感情のセルフコントロールの方法を知り、職場の人間関係・お 客様対応に生かすための自己育成目標を立てる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を webclass で配布します。 ○毎回パソコンを持参してください。					
20.参考文献	「日本でいちばん大切にしたい会社シリーズ 1～8 巻」あさ出版					

	「社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題」日本ホスピタリティ検定協会編 「【2020 年度版】ホスピタリティ検定 公式テキスト&問題集」経済法令研究会 「顧客満足 CS の知識」小野譲司著 日経文庫 「顧客満足ってどうやるの？」佐藤知恭著 日本経済新聞社 「ホスピタリティ・マネジメント入門」第2版 服部勝人著 丸善 「カスタマーサクセスとは何か」弘子ラザヴィ著 英治出版 「ホスピタリティマネジメント」(第2版)徳江順一郎 同文館出版 「伊那	
21.成績評価	●学習記録ミニレポート 30% 【学習目標②③④】 ●小テスト 30% 【学習目標①】 ●最終レポート 40% 【学習目標②③④】 ※それぞれのテーマ・内容については授業内に伝えます。	
22.コメント	●ホスピタリティの考え方や具体例には、生活の中でも出会うことができます。日頃から、学習する意識で企業人の行動を観察したり、新聞やビジネス雑誌などで、最新の情報を得ておきましょう。 ●遅刻・早退・欠席は、自己責任です。抜けた授業内容は自力でキャッチアップすること。 ●受講者の理解度、世の中のトレンド、その他の理由で、講座内容に変更が生じる場合があります。その場合、授業内、または、Webclass などでお知らせします。	
23.オフィスアワー	○授業内に質疑応答の時間が無かった場合、webclass のメッセージで、授業の内容についての質問に対応します。 ○授業についての「お知らせ」は、webclass の「お知らせ」または「タイムライン」で案内します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	「ガイダンス」 ●講座の目的と進め方 ・講座参加の留意事項 ●シラバスをベースに、講座の内容、評価方法ほかについて案内する ●基本姿勢の練習（立ち姿・座り姿・立ち方・座り方） ●基本姿勢の説明図を作成する	シラバス必携 ※この科目専用のノートを1冊用意してください。（B5 以上の大きさのもの）または、パソコンにこの授業のノートを取るためのファイルを作成ください。
【第2回】	「ホスピタリティの基本」 ●ホスピタリティとは ●顧客満足（CS）とは何か、全体像を理解する ●お客様の事前期待と顧客満足度の関係 ●顧客満足の評価基準	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第3回】	■接客マナー力アップ 第一印象、あいさつ、表情 ■ケーススタディ DVD「出会いの瞬間」 ●事例企業「かぶらやグループ」「ホンダクリオ新神奈川」「オートウェーブ」「神崎屋」他	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第4回】	■接客マナー力アップ 言葉づかいの基本「敬語」 ■ケーススタディ DVD「心をくばる、心を表す」 ホスピタリティマインドの表現や行動、考え方から、お客様の感動を呼ぶサービスについて気づく。 事例企業： 「ホテル志戸平」「焼肉一番カルビ」「サントアン」「かぶらやグループ」「BAGZY」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第5回】	■接客マナー力アップ 「言葉づかい」「接客用語」	●前回までの復習をしておく

	●ビジネス対応言葉 ●ワンランクアップの言葉づかい	●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 6 回】	「クレーム対応の基本」 ●クレームとコンプレインの違い ●カスタマーハラスメント ●「怒り」感情の取り扱い方 ■事例研究 ※クレームの事例から ●リスクマネジメントとクライシスマネジメント	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 7 回】	■ケーススタディ DVD「高め続けるお客様満足」 事例企業：「ネットトヨタ南国」「ザ・リッツカールトン大阪」「四国管財」「オオゼキ」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 8 回】	「ホスピタリティの基本」従業員満足と顧客満足 ■ケーススタディ：チームワーク① DVD「全員がお客様係」 ●接客担当ではなくとも、社員全員がお客様の方を向いて行動・仕事をしている企業について学ぶ。 事例企業：「サントアン」「新和建設」「かぶらやグループ」「ネットトヨタ南国」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 9 回】	■ケーススタディ：チームワーク② DVD「心を一にする」 ●組織が理念の実現に向かってベクトルを合わせることの意義について学ぶ。 事例企業：「ホンダクリオ新神奈川」「川越胃腸病院」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 10 回】	ステークホルダーとは ●誰のために、企業は存在するのか ●顧客とは誰か 「良い会社」とは	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 11 回】	■ケーススタディ DVD「常に考える 未来工業」 ●他社と差をつけるには、何をすればいいのか ●戦わずに勝つ ブルーオーシャン戦略とは	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 12 回】	■ケーススタディ 「星野リゾート」 グループディスカッション&プレゼンテーション	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 13 回】	社員の意識研究 「いい会社をつくりましょう」 ステークホルダー（広い意味での利害関係者）の視点を持って学ぶ。 ■ケーススタディ：「伊那食品工業」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。

	グループワーク：寒天の製造で、確固たるファンを獲得し、業界トップとなった企業の社員の意識、組織風土の作り方について学び、「良い会社」と言われる要因を、分析する。	
【第 14 回】	■総合事例研究 日本経営品質大賞に2度も輝いた企業の、CS・ホスピタリティの考え方や実践、行動の定着について考える。 ケーススタディ：「ザ・リッツカールトン大阪」 グループワーク：ホスピタリティではトップクラスの企業がどのように、その向上に取り組んでいるのか、研究し発表する。（グループディスカッション・プレゼンテーション）	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 15 回】	■最終レポート発表 ●学びの総括。 ●気づきの共有と振り返り、または復習	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。 ○最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	MNG211-A51	2.科目名	サービス企画論		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	2年生～	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	経営学概論及びマーケティングを履修済みのこと		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 市場にはおびただしいほどのサービスや商品が現れます。そして、私たちはそのなかから気に入ったものを選択し購入しています。あなたは何故それを選択したのでしょうか。ここを起点にサービスや商品の企画を始めます。といっても、この企画の範囲はとても広いものです。この講義ではサービスや商品アイデアの企画と、そのアイデアをどのようにして伝えるのか、この2つに焦点をあてます。表面的な「カワイイ、カッコイイ」を越えて、サービスや商品を通じてどのようにして生活課題を解決していくのかを企画する過程、そして、そのプロモーションはどうあるべきかを立案する過程を理解していきます。 この講義では、この2つを理解する過程を通じて、アイデアの企画力とそれを市場に伝える伝達力を身につけることが目的です。サービスと商品の企画を学ぶことは、皆さんの創造力とコミュニケーション力を高めることでもあります。 ●概要 テキストは『1からの商品企画』を使って講義していきます。最初は「サービスとは何か」商品論から入り、商品もサービスという「サービス・ドミナント」の考え方を学びます。そして企画の一連のプロセスに従って学習していきます。 サービスや商品を企画するためにいかにして情報を収集するか。そして、収集した情報をもとに企画のコンセプト設計や視覚化をおこないます。アイデアの創出、コンセプトの開発、プロトタイプイング(試作品開発)の手法を学習します。最終には、企画したものが、消費者のニーズに合ったものか、顧客ニーズとの検証というステップで学習します。 授業は「互学互修」がテーマです。最初に企画チームを作ります。最初は講義形式ですが、お皆さんの理解が進んだところで、反転授業にします。皆さんからテキスト・プレゼンテーションをおこなってもらいます。互いから学び、お互いが企画プロセスを確認していけるように進めていきます。また、途中で「実務家」をお招きし、サービスや商品を作り出し、それを人々に伝える実際の現場について講義いただきます。(但し、状況により講義に変更することがあります) 企画のフレームを理解し、実務の現場を確認した最終には、各企画チームで、企画提案のプレゼンテーションをおこなってもらいます。					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)企画のプロセスを理解し、各ステップでとられる企画手法の基礎的な知識を理解します。 (2) 他者を理解し、自分の考えを整理して他者にわかりやすく伝えることができようにします。 (3)協働して学習し、成果を生み出していくチームワーク力を高めていきます。 (4)今日的な市場課題に対して、企画フレームを通して問題を整理し、創造力とその伝達力をつけます。					
19.教科書・教材	・ 西川英彦・廣田章光(2012)『1からの商品企画』碩学舎/中央経済。ISBN：978-4-502-					

	69300-7	
20.参考文献	●参考書 ・現在の企業を理解するうえで、「日経トレンド」「日経ビジネス」や「週刊ダイヤモンド」などのビジネス誌も利用します。	
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：10% (授業への貢献度として評価します) ー学習目標の(1)に対応します，学びを確認します。 ・小テストをおこないます。30%（実施時期は授業の進捗状況によります） ー学習目標の(1)に対応します。 ・グループによる課題発表：30% ー学習目標の(3)に対応します。 ・最終プレゼンテーション：30% ー学習目標の(1)と(2)に対応します。	
22.コメント	・最初に分けた企画チームで最後まで学習します。テキストの企画の流れをチーム全員で理解し，同時進行でチームの企画を練り上げていきます。企画をするというのは簡単なことではありません。授業内でできることはわずかです。授業外での学習が非常に多くなります。チームで力を合わせて乗り切ってください。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・アイデアの創出には，生成 AI も利用してみましょう。AI で出てきた内容をそのまま使うのではなく，自分の考えヒントやアイデアの整理の工夫に使いましょう。 ・普段の日常には企画のヒントとなる現象でいっぱいです。フィールドにおいて観察するということを心掛けてください。 ・フィールドにおいて観察するには，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にメモすることが有効です。この蓄積があなたを変えていきます。困ったことがあれば相談ください。	
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(後期)月曜日第3限 13:15～14:45 (4階学修支援室) ・研究室オフィスアワー：(後期)月曜日第4限 15:00～16:30 (8階研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション：企画って何だ。」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で，「企画する」という言葉について考えます。15回をかけて何をするのか。その概要を説明します。	ノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉で，今日の発見をタイトルにしておきましょう。来週までの自分自身の広告企画を考えてきてください。これは15回が終わったあとに，振り返り作り変えてください。就職において自分を考えるいい材料になります。
第2回	「企画チームの編成：世の中の現実には人の数ほど存在する」 これから学習する企画チームを作りますから，休んではいけません。まず2人のペア・ワークから進めて，先週の宿題を皆さんで共有します。自己広告プレゼンテーションをしてみましょう。皆さんの発表を土台にして，企画チームを編成し，これからの企画学習のあり方や企画することの意義を考えます。	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか，思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。チームメンバーはお互いに連絡がとれるようにしておいてください。

第3回	「商品論とサービス」 最初は商品論から学習します。サービスもまた商品であり、商品・サービスには様々なアプローチがあります。いくつかのアプローチから、これから企画に向き合う対象である商品とサービスの属性や分類方法、商品の概念を理解します。	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第4回	・サービスや商品を企画するには、企画に含まれる要素を段階的にわけて考えることが有効です。企画にはどんな作業があるのかを分解し、段階的にわけて考えます。この回では、これからおこなう企画への大きな地図を理解し、その進め方とプロセスの全体像を確認します。	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第5回	「データの収集の方法」 ・データは自らが収集するか、他の人や会社が収集した既にあるデータを活用するか、また量的なデータを扱うのか、質的なデータを扱うのかで、データ収集の方法がかわります。扱うデータにはどんなものがあるか大きな理解をしてから、主に扱うデータの収集、インタビュー法をチームで体験してみます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・皆さんの学習状況によりませんが、このあたりから反転学習にします。次週から結成した企画チームで、テキスト・プレゼンテーションに入ります。
第6回	表例としてあがるのはエスノグラフィーです。対象者の動作の「ありのままの使用現場」を観察しようとするものです。「エスノグラフィー」は、もともと民俗学などで行われる「現場に入り込み、そこに潜む意味を探る」アプローチです。参与観察ともいいます。実際に使ってみましょう。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第7回	商品やサービスの企画をおこなうのは企業だけではありません。消費者のイノベーションによって生まれたものはたくさんあります。最終的に商品を購入して使っているのは消費者だから、よく分かって利用しているリードユーザーに具体的にどんなサービスやものがほしいのか、消費者自身に企画を担ってもらおうとするものです。事例をみながら、考えていきます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第8回	「アイデアの創出」 ・ここからはアイデアの創出です。アイデアは企画の最初におこなう大事な作業です。曖昧模糊とした手探り状態から、どのようにすれば出せるのでしょうか。この回でアイデア創出のいくつかの手法を学び、実践します。これからはチーム活動を一層活発化させていってください。	・アサインメント 今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。

第 9 回	「コンセプトの開発」 ・コンセプトはターゲットに選定した顧客に提供する価値は何かを定義したものです。誰に(WHO), 何を(WHAT), どうやって(HOW)届けるのか, ここで企画プロセスが統合されます。商品においてはプロトタイプを開発したり, サービスにおいても開発したサービスが顧客が抱えている課題を解決することになっているかを検証しながら, 顧客が解決したい課題に到達するまで, いったりきたりして練り上げていきます。	概要が理解できたところで, 結成した企画チームで, 企画の準備にとりかかってください。
第 10 回	「実務家による企画現場の実際」 このあたりで, 実務家に登壇いただき, 実際にどのようにアイデアをコンセプト, そしてプリに作りあげているのかを, 説明いただきます。但し, 実務家の時間の都合で他の回になるかもしれません。	聞いた内容を振り返り, ノートに記入してください。実務家の話から何を発見したのでしょうか。何を感じたのでしょうか。感想を WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで, テキスト・プレゼンテーションの準備と企画の準備にとりかかってください。
第 11 回	「プロトタイピング」 テキストとビデオを使ってプロトタイピングのプロセスを学びます。考えたコンセプトを実際の手仕事にしてみると, 色々な問題や課題に気が付きます。ここではその手法と手順を学びます。もしくは, 伝わる企画プレゼンテーションの方法について考えます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか, 思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで, 企画の準備をしてください。
第 12 回	「企画の実践①: 着想からコンセプト開発へ」 チーム内で, これまで商品企画で積み上げてきた内容を確認します。チームで収集してきたデータを, これまで学習した手法をつかって, アイデアを創出し, コンセプトを練り上げていく作業に取り組みます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか, 思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・チーム内で頻繁に連絡をとりあい, コンセプト作りを進めてください。
第 13 回	「企画の実践②: コンセプト開発からプロトタイピングへ」 先週に, 引き続きコンセプト開発を精緻化させていきます。チーム内でプロトタイピングをおこない, 企画の検証をすすめていきます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか, 思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・最終の企画発表の準備をしてください。
第 14 回	「最終企画発表①」 ・各チームが考案した企画をプレゼンテーションします。皆さんは, その企画案についてアイデアの創造性, 実行可能性, プレゼンテーションの納得性の評価をおこないます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか, 思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・最終の企画発表の準備をしてください。
第 15 回	最終企画発表②とまとめと総括」 ・各チームが考案した企画をプレゼンテーションします。皆さんは, その企画案についてアイデアの創造	サービス企画論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか, さらにどの分野を伸ばしたいのか, 印象に残ったことは何か, 自ら

	性，実行可能性，プレゼンテーションの納得性の評価をおこないます。	の考えを整理してください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG213-A51	2.科目名	マネジメント・サイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	企業で実務経験がある 教員による授業科?	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	第 15 回に実施する「総括試験」は対面形式（問題用紙を使用）で実施する。 よって、「遠隔受講」を希望する場合でも、総括試験では対面となる。					
17.授業の目的と概要	【目的】 ・経営（マネジメント）という人間の組織的活動であるビジネス課題に対して、科学的かつ論理的な解決策を導き出す考え方や方法論について学ぶ。 【概要】 ・「マネジメント・サイエンス」とは、経営課題（マネジメント課題）を科学的に解決するため、論理的・合理的な意思決定を行うことである。 ・授業の前半は、数理的な手法を学ぶ前に言語データを扱う手法や代表的なセオリーについて学ぶ。 ・具体的には、経営戦略や事業戦略を考える代表的なセオリーとしての「ビジネス・フレームワーク」を学ぶ。 ・授業の後半は、数理的な手法を中心に様々な数的・量的な課題や事象を理解し、科学的かつ論理的な解決策を導き出すために参考となる基礎的手法を学ぶ。 ・具体的には、科学的なマネジメントを行っていくためのベースとなる「オペレーションズ・リサーチ」の各種理論の基礎的な解説を行う。 ・マネジメントサイエンスは数的、量的な問題を扱う学問であるが、できるだけ数式や数学計算に頼らない授業を目指す。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 この科目の学習目標は、次のとおりです。 学習目標① マネジメント・サイエンスとは何かを理解し説明できる。 学習目標② 代表的なビジネス・フレームワークについて理解し説明できる。 学習目標③ オペレーションズ・リサーチの各種理論の基礎について理解している。 学習目標④ 提示された課題やデータについて、マネジメントサイエンスの各種理論の基礎を活用して、解決策を導き出せる。 【DP との関係】 この科目は DP（ディプロマ・ポリシー）の （４）問題発見・解決力 （６）専門的知識・技能の活用力 に関連しています。					
19.教科書・教材	・授業ごとに必要な資料を用意して解説します。（WebClass にて提示します） ・下記の「参考文献」を参考にして下さい。					
20.参考文献	・『すぐわかるマネジメント・サイエンス入門』著：野口博司 日科技連出版社（2007） ・『入門オペレーションズ・リサーチ』著：松井泰子、根本俊男、宇野毅明 東海大学出版会（2008）					
21.成績評価	・毎回課題（毎回の授業内容の振り返り：3 点×14 回） 42 点 ・小テスト（第 6 回授業後に小テストを行う） 20 点 ・総括試験（ノート・資料持込可）（15 回目の授業回で実施） 50 点					

22.コメント	・授業内容は、シラバスの順番や内容を一部変更する場合があります。 ・本講座は「教科書」が無いため、授業資料を基に各自で自作ノートを作成することを推奨します。 ・生成 AI については、小テスト及ぶ総括試験での使用は認めません。	
23.オフィスアワー	・研究室オフィスアワー：月曜日 3 限 ・センターオフィスアワー：火曜日 4 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション 授業の目的と概要、シラバス、成績評価 マネジメントサイエンスとは マネジメントサイエンスにおける用語	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 2 回	・新しい事業領域の設計・評価法 ポジショニングマップ 事業領域評価 ランチェスター戦略	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 3 回	・戦略立案法 ランチェスター戦略 マーケットシェア理論 PPM (Product Portfolio Management) 技術ポートフォリオ	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 4 回	・品質管理 品質管理における 3 つの管理手法 QC 7 つ道具 新 QC 7 つ道具 (N7)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 5 回	・戦略展開 ランチェスターの法則 競争地位戦略 グー・パー・チョキ戦略 ナンバーワン戦略 標準化戦略 ・マーケット分析 ABC 分析 パレート図	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 6 回	・数理的手法 回帰分析 多変量解析	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 7 回	・ゲーム理論 (ライバルとの駆け引きに勝つ) ゲーム理論 囚人のジレンマ 公共財ゲーム ・小テスト (前半 2～6 回を対象とした小テスト)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 8 回	・在庫管理 (効率の良い保管方法を求める) 在庫管理 在庫管理法	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 9 回	・日程管理 (仕事をスマートに実?する) 管理業務 日程管理	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。

	ガントチャート マイルストーン フローダイアグラム アローダイアグラム	
第 10 回	・意思決定法（決め方を決める） 意思決定 一対比較法 意思決定法 AHP（Analytic Hierarchy Process） いろいろな平均	・WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 11 回	・投票?指数（投票者の選挙への影響?をはかる） 投票力指数 シャープレイ・シュービック指数 バンザフ指数	・WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 12 回	・ネットワーク計画（最適な通り道を?つける） ネットワーク計画（グラフ理論） 最小全域木（クラスカル法） 最短経路問題（ダイクストラ法）	・WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 13 回	・数理計画（数式で表し問題を解決する） 数理計画法 損得計算と線形計画 線形計画法	・WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 14 回	・動的計画法（小さい順に解くのがミソ） 動的計画法 最適化問題 ナップサック問題 貪欲法 全探索 最短経路問題	・WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 15 回	・総括試験 総括試験とまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG215-A51	2.科目名	アントレプレナーシップ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	基幹科目 ビジネスデザイン マーケティング、プランニング分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	[目的] アントレプレナーシップとは、リスクテイキングを厭わず、能動的に新たな試みに取り組んで行動する「企業家（起業家）」の活動と精神のことをいう。本講義では、今経営者だけでなく、経済社会を構成する全てのプレイヤーに必要なアントレプレナーシップを学ぶ。そして、職業選択の一つとして、起業があることを理解し、また、自分たちが起業家になることが可能であることを知っていく。 [概要] 本講義では、アントレプレナーシップを実感できる事例紹介・人物紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学に終わることなく、アントレプレナーシップを自身のキャリア形成の指針にまで高めるため、ほぼ毎回、個ワークまたグループワークを行い、実践的でメリハリのついた学習ができるようになっている。 なお、講義内容を次週までに公開するので、予習として読み込んでくる必要があるのと同時に、毎回、パソコンを利用して個ワーク、グループワーク、情報収集や報告を行うので、必ず持参すること。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①アントレプレナーシップの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる＝知的好奇心 ②人物の功績、社会やビジネスの課題について情報収集ができ、アントレプレナーシップ視点で分析できる＝情報収集/分析力 ③アントレプレナーシップを高め、キャリア育成の為のツールとして活用できる＝思考/構想 [関連するディプロマポリシー] （１）自立性 （２）社会的貢献（３）多様性理解（４）問題発見・解決力（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	山田幸三・江島由裕 『1からのアントレプレナーシップ』 碩学舎 ,2017 年 ISBN:978-4-502-22281-8 定価:本体 2,400 円+税					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「インターネットマーケティングの概念を理解していること、それを用いた企業や商品事例の分析」:40 点					

	(5)e-ポートフォリオ「アントレプレナーシップ論で学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10点	
22.コメント	アントレプレナーシップ論は、企業や新市場を育た人をはじめ、生活者や街・お店を観察すること、また、私達の身近な様々な製品やサービス、情報に興味を持つことから始まります。その視点と行動をもつことがアントレプレナーシップ獲得の一歩となります。人や街、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日 2 限 センターオフィスアワー： 月曜日 1 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回 ○オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ○アントレプレナーシップとは、基礎理論 ・アントレプレナーの勧め	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 2 回	第 2 回 ○アントレプレナーシップの社会的意義 ーアントレプレナーの果たす役割とは何か？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 3 回	第 3 回 ○アントレプレナーシップと倫理教育 ーアントレプレナーには何が必要か？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 4 回	第 4 回 ○独立アントレプレナー ーアントレプレナーはいかにして新たな事業を創造するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 5 回	第 5 回 ○ファミリー・アントレプレナー ーファミリー・ビジネスは保守的なのか？ 「ユニクロ」を事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 6 回	第 6 回 ○コーポレート・アントレプレナー ー社内からアントレプレナーを生み出すには何が必要なのか？ 「セブンイレブン」事例から学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回	第 7 回 ○アカデミック・アントレプレナー ー大学の研究現場からアントレプレナーは生まれるのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習]

		授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] 作成と提出
第 8 回	第 8 回 ○ソーシャル・アントレプレナー ーアントレプレナーは社会的問題を解決できるのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回	第 9 回 ○誕生・成長初期のアントレプレナーシップ ーどのようなビジネスモデルで勝負するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 10 回	第 10 回 ○成長期のアントレプレナーシップと外部資源 ーいかに獲得して活用するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回	第 11 回 ○成長期のアントレプレナーシップと内部資源 ーいかに蓄積して組織を強くするのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 12 回	第 12 回 ○長寿企業とアントレプレナーシップ ービジネスシステムは伝統産業をいかに存続させたか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回	第 13 回 ○アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ ーコミュニティはアントレプレナーの活力をいかに生み出すのか？ ○グローバル・アントレプレナーシップ ー新興国企業はいかにしてグローバル化するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 14 回	第 14 回 ○アントレプレナーシップとエコシステム ーなぜシリコンバレーはアントレプレナーを輩出し続けるのか？ アントレプレナーを産む「エコシステム」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回	第 15 回 ○総括試験	[復習] 総括試験の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	MNG216-A51	2.科目名	ウェルビーイング経営		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	経営学概論が履修済みであること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 今日の企業経営において「ウェルビーイング(well-being)」という言葉が重要なテーマとして注目されています。ウェルビーイング経営は、従業員が身体的・精神的・社会的に良好な状態を保ちながら、やりがいを持って働けるように環境を整備することを目指すものですが、SDGs で掲げられる目標と絡んで、その対象の範囲は広く、色々な角度から議論されています。 ウェルビーイングについては、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた研究成果がありますが、ウェルビーイング経営を理解するには、その根幹にある経営学の分野の人的資本経営や人的資源管理の基礎的な概念をきっちりと理解しておくことが大切です。経営理念から人的資源管理で扱う諸理論、雇用や複利厚生についての基本的な概念を理解したうえで、現代のウェルビーイング経営への理解を深めていきます。 地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングな状態で生活し、働くために地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かを考えます。 これは、皆さん自身の生活や人生をどのように構築していくのか、それが自分にとって満足のいくものであるのか、自らの幸せをどう評価するのかを考えることにつながります。 ●概要 概念的な理解は『1 からの人的資源管理』を土台にして、皆さんが経営学概論で使った『ゼミナール経営学入門』も利用します。これらの概念を理解したうえで、ビジネス誌からの抜粋し、その概念を使ってどのように読み取れるか、現代的なトピックにチャレンジします。 最初は講義形式で始めますが、学習は決して一人ではありません。皆さんの状況を見ながら、反転学習を行います。授業は「互学互修」がテーマです。お互いから学び、お互いが基礎的な理論を確認していけるように進めていきます。 皆さん自身がディスカッションを通じて、チーム・ワークで行うようにしてコミュニケーション力を高めます。					
18.学習目標と DP との関連	科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）の学習に関連しています。 (1) 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。(DP の(1)自律的で主体的な態度に対応) (2) コミュニケーションスキル他者を理解し、自分の考えを整理して他者にわかりやすく伝えることができようにします。協働して学習し、成果を生み出していくチームワーク力を高めていきます。(DP の(5) コミュニケーションスキルに対応) (3)ウェルビーイング経営の基礎にある人的資本経営や人的資源管理の知識を理解します。その上で、ウェルビーイングに関わる今日的な企業の問題を整理し考える力をつけます。(DP の(6) 専門的知識・技能 の活用力に対応)					
19.教科書・教材	・西村孝史・島貫智行・西岡由美(2022)『1 からの人的資源管理』碩学舎/中央経済社。ISBN：978-4-502-40701-7					
20.参考文献	伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第3版」でも同じ					

	です。) ・青木慶 (?2023)『スキルシェアのすすめ－なぜ知の共有がウェルビーイングを向上させるのか－』? 千倉書房?. ISBN-13-978-4-805-11302-8 ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。ISBN：978-4-532-11431-2 ・現在の企業を理解するう	
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：20%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(1)に対応します，学びを確認します。 ・小テストを4回おこないます。30% －学習目標の(2)と(3)に対応します。 ・最終テスト：40% －学習目標の(3)に対応します。	
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから，時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。しかし，それに惑わされることなく適応するには，基本をしっかり身につけることが大切です。授業の進め方と方法が学期の途中で変更になる場合には，別途提示します。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・その際に，生成AI利用も無制限で認めますが，決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 ・それには，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にメモすることが有効です。この蓄積があなたを変えていきます。その時わからなかったことも，後にはわかるようになり，自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：(後期)月曜日第4限 15:00～16:15(研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション：「幸せ」をどう測ればいいのか。」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で，「ウェルビーイング」という言葉について考えます。ウェルビーイングの概念について学術的な知見を学び，ウェルビーイングとは何かについて考えます。	ウェルビーイング経営のノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。
第2回	「ウェルビーイング・チームづくり」 これから学習するチームをつくりますから，休んではいけません。まず2人のペア・ワークから進めて，先週の宿題を皆さんで共有します。企業の人的資源管理を学び，その上でウェルビーイングのあり方や意義について議論するチームを結成します。	学んだ内容に対して，どのように思ったのか，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。
第3回	「人的資源管理とは何か，企業のウェルビーイングの根本にある考え方」 企業の経営にとって，従業員の活用はなぜ重要なのか，組織を構成する一人ひとりの能力や委嘱の発揮が，経営戦略とどう結びつくのかを捉えます。	学んだ内容に対して，どのように思ったのか，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第4回	皆さんは，必ず何らかの組織に所属しています。企業	学んだ内容に対して，どのように思ったの

	に入ると一人が様々な立場で複数の組織に属していることに気が付きます。企業は一人では成し遂げられない難しい目標を達成しているのですが、それには仕事を分けて、それぞれの仕事を調整する必要があります。この回では、人をマネジメントする組織構造について考えます。	か、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 5 回	・日本の経営について学びます。その特徴は、人的資源管理にあります。その内容を学び、その是非についてディスカッションします。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 6 回	「人材育成とキャリア、人的資源管理②」 ・働く人々の成長を促す仕組みについて考えていきます。従業員が仕事する上で必要な能力を身につける「人材を育成する」こと、従業員の「キャリア開発」をすることの2点から捉えてみます。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 7 回	人的資源管理で扱う基礎的な要素を学習します。これには採用管理、人事評価、配置・異動、報酬管理、雇用調整、労働時間管理、労使関係などがあります。知っておきたいポイントを説明します。扱う範囲が広いので2回にわたる場合があります。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 8 回	「企業の安全経営と健康経営、人的資源管理④」 従業員が、それぞれの能力を発揮して働くことと、企業がそのための環境づくりをおこなうことは、企業の競争に優位性を築く源泉になります。また企業には、従業員が健康的に働くための職場づくりする責任があります。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 9 回	先進的な企業では「病気でない」状態の確保から、ウェルビーイング高めることに注目する企業がでてきています。なぜウェルビーイングという概念が登場するようになったのか、人的資源管理の視点からその状況を理解します。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 10 回	「ウェルビーイング」の始まりは古い。カネボウの明治の工場経営」 引き続き、ウェルビーイングという概念の歴史を概観して、企業がどのような時代背景のもとで、何が問題となったのか、従業員の複利厚生への考え方、施策の発展過程を理解します。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。

第 11 回	「職場のメンタルヘルスへの関心」 職場の健康問題といえば、身体健康問題が中心でしたが、近年では、体だけでなく心の健康、職場のメンタルヘルスへの対策は重要な経営課題となっています。この回では「職場のメンタルヘルス」について考えます。	学んだ内容に対して、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単でいいので WEB CLASS にもあげてください。このあたりで最終のグループ課題に取り組みます。
第 12 回	「職場のハラスメント防止」 職場の内でおこるもめごとやいじめは、個人間の問題として扱われるケースが多くありました。しかし近年では企業の構造に宿る「ハラスメント」に問題として位置づけられるようになってきています。この回では「職場のハラスメント防止」について考えます。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。各チームの 14・15 回のプレゼンテーションむけて準備をしてください。
	「ダイバーシティと多様な働き方」 すべての人が自分らしく働くことができる組織を実現することは簡単なことではありません。多くの企業が、より自分らしく働くことができる環境を提供しようとしています。この回では「ダイバーシティ」や「インクルージョン」の基本的な考え方を人的資源管理の視点から考えていきます。	学んだ内容に対して、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単でいいので WEB CLASS にもあげてください。各チームの 14・15 回のプレゼンテーションむけて準備をしてください
第 14 回	「企業におけるウェルビーイングの事例研究①」 各チームから、企業における健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を紹介してもらい、ディスカッションを通じて、ウェルビーイングの経営的効果について考えていきます。 学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。次週から各チームのプレゼンテーションです。これまでの資料を整理して報告の準備をしてください	今日の発表について、内容の質、プレゼンテーションの納得性の評価をおこなってください。次週も各チームのプレゼンテーションです。これまでの資料を整理して報告の準備をしてください。
第 15 回	「企業におけるウェルビーイングの事例研究②」 先週に引き続き、各チームから、企業における健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を紹介してもらい、ディスカッションを通じて、ウェルビーイングの経営的効果について考えていきます。	今日の発表について、内容の質、プレゼンテーションの納得性の評価をおこなってください。15 回で書き続けてきた自分のノート整理し、「ウェルビーイング経営」の学びは何であったのか、を確認しましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG217-A51	2.科目名	ホスピタリティマネジメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、視聴覚教材を使用、グループディスカッション、プレゼンテーション		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ○ 企業がどのような施策を執り、そこで働く社員が具体的に、どのような行動をとることで、顧客満足度を追求しているのかを、実際の企業の取り組み事例から学ぶ。 その学びを、社会でどう生かすか考え、アルバイト、インターンシップ、就職先で工夫と実践ができることをめざす。 【概要】 ● 接客だけではなく、商品開発やマーケティングの面からも、ホスピタリティマネジメントとして顧客満足度を上げる経営のための、視点や思考を身につけることの両立をめざす。 ● 新型コロナによるパンデミックによって、「顧客満足」「従業員満足」「サービス」「商品開発」「提供チャネル」などの、あり方に変化がある。時代や人が求めるホスピタリティとは何かを考え、時代が変わっても通用するホスピタリティマインドを身につける。 ● 本授業では、一方的に授業を受けるのではなく、自分の意見を言語化して発言したり、グループ学習を通して、他者の経験や考えから学ぶことも重要視する。毎授業グループワーク・グループディスカッションを行う。 ● 事例は主に視聴覚教材と、自らの体験、他者の体験談などから学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ○ 企業活動においても、行政、その他においても、「顧客視点」「顧客目線」が、経済を動かす基本である。本講義では、「顧客満足の基本」について、顧客・社員・経営など多角的な視点から学び、真の「ホスピタリティ」とは何かを考察したり、話し合う中で、現状の問題解決とより高い目標達成をめざす。 ○ 学んだホスピタリティ精神、態度、思考を、学習環境や実習、インターンシップなどにおいて、行動レベルで発揮できることをめざす。 本科目の学習目標（身につくスキル）は、次のとおりです。 ①社会人としての言葉づかい、立ち居振る舞い、挨拶ができる ②ホスピタリティの基本を知り、顧客満足度をあげるホスピタリティ経営の仕組みについて理解する。その上で具体策を考える。 ③自分のパーソナリティを知り、サービス業での実習での強み弱みを自覚して、行動・表情・表現をセルフコントロールする行動目標を持ち、実践する。 ④クレーム対応の基本を知る。感情のセルフコントロールの方法を知り、職場の人間関係・お客様対応に生かすための自己育成目標を立てる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を webclass で配布します。 ○毎回パソコンを持参してください。					
20.参考文献	「日本でいちばん大切にしたい会社シリーズ 1～8巻」あさ出版 「社会人ホスピタリティ 要点チェック＆確認問題」日本ホスピタリティ検定協会編					

	「【2020 年度版】ホスピタリティ検定 公式テキスト&問題集」経済法令研究会 「顧客満足 CS の知識」小野譲司著 日経文庫 「顧客満足ってどうやるの？」佐藤知恭著 日本経済新聞社 「ホスピタリティ・マネジメント入門」第2版 服部勝人著 丸善 「カスタマーサクセスとは何か」弘子ラザヴィ著 英治出版 「ホスピタリティマネジメント」(第2版)徳江順一郎 同文館出版 「伊那	
21.成績評価	●学習記録ミニレポート 30% 【学習目標②③④】 ●小テスト 30% 【学習目標①】 ●最終レポート 40% 【学習目標②③④】 ※それぞれのテーマ・内容については授業内に伝えます。	
22.コメント	●ホスピタリティの考え方や具体例には、生活の中でも出会うことができます。日頃から、学習する意識で企業人の行動を観察したり、新聞やビジネス雑誌などで、最新の情報を得ておきましょう。 ●遅刻・早退・欠席は、自己責任です。抜けた授業内容は自力でキャッチアップすること。 ●受講者の理解度、世の中のトレンド、その他の理由で、講座内容に変更が生じる場合があります。その場合、授業内、または、Webclass などでお知らせします。	
23.オフィスアワー	○授業内に質疑応答の時間が無かった場合、webclass のメッセージで、授業の内容についての質問に対応します。 ○授業についての「お知らせ」は、webclass の「お知らせ」または「タイムライン」で案内します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	「ガイダンス」 ●講座の目的と進め方 ・講座参加の留意事項 ●シラバスをベースに、講座の内容、評価方法ほかについて案内する ●基本姿勢の練習（立ち姿・座り姿・立ち方・座り方） ●基本姿勢の説明図を作成する	シラバス必携 ※この科目専用のノートを1冊用意してください。（B5 以上の大きさのもの）または、パソコンにこの授業のノートを取るためのファイルを作成ください。
【第2回】	「ホスピタリティの基本」 ●ホスピタリティとは ●顧客満足（CS）とは何か、全体像を理解する ●お客様の事前期待と顧客満足度の関係 ●顧客満足の評価基準	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第3回】	■接客マナー力アップ 第一印象、あいさつ、表情 ■ケーススタディ DVD「出会いの瞬間」 ●事例企業「かぶらやグループ」「ホンダクリオ新神奈川」「オートウェーブ」「神崎屋」他	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第4回】	■接客マナー力アップ 言葉づかいの基本「敬語」 ■ケーススタディ DVD「心をくばる、心を表す」 ホスピタリティマインドの表現や行動、考え方から、お客様の感動を呼ぶサービスについて気づく。 事例企業： 「ホテル志戸平」「焼肉一番カルビ」「サントアン」「かぶらやグループ」「BAGZY」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第5回】	■接客マナー力アップ 「言葉づかい」「接客用語」 ●ビジネス応対言葉	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル

	●ワンランクアップの言葉づかい	可)を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第6回】	「クレーム対応の基本」 ●クレームとコンプレインの違い ●カスタマーハラスメント ●「怒り」感情の取り扱い方 ■事例研究 ※クレームの事例から ●リスクマネジメントとクライシスマネジメント	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第7回】	■ケーススタディ DVD「高め続けるお客様満足」 事例企業：「ネットヨタ南国」「ザ・リッツカールトン大阪」「四国管財」「オオゼキ」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第8回】	「ホスピタリティの基本」従業員満足と顧客満足 ■ケーススタディ：チームワーク① DVD「全員がお客様係」 ●接客担当ではなくとも、社員全員がお客様の方を向いて行動・仕事をしている企業について学ぶ。 事例企業：「サントアン」「新和建設」「かぶらやグループ」「ネットヨタ南国」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第9回】	■ケーススタディ：チームワーク② DVD「心を一つにする」 ●組織が理念の実現に向かってベクトルを合わせることの意義について学ぶ。 事例企業：「ホンダクリオ新神奈川」「川越胃腸病院」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第10回】	ステークホルダーとは ●誰のために、企業は存在するのか ●顧客とは誰か 「良い会社」とは	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第11回】	■ケーススタディ DVD「常に考える 未来工業」 ●他社と差をつけるには、何をすればいいのか ●戦わずに勝つ ブルーオーシャン戦略とは	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第12回】	■ケーススタディ 「星野リゾート」 グループディスカッション&プレゼンテーション	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第13回】	社員の意識研究 「いい会社をつくりましょう」 ステークホルダー（広い意味での利害関係者）の視点を持って学ぶ。 ■ケーススタディ：「伊那食品工業」 グループワーク：寒天の製造で、確固たるファンを獲	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。

	得し、業界トップとなった企業の社員の意識、組織風土の作り方について学び、「良い会社」と言われる要因を、分析する。	
【第 14 回】	■総合事例研究 日本経営品質大賞に2度も輝いた企業の、CS・ホスピタリティの考え方や実践、行動の定着について考える。 ケーススタディ：「ザ・リッツカールトン大阪」 グループワーク：ホスピタリティではトップクラスの企業がどのように、その向上に取り組んでいるのか、研究し発表する。（グループディスカッション・プレゼンテーション）	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。
【第 15 回】	■最終レポート発表 ●学びの総括。 ●気づきの共有と振り返り、または復習	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC 上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。 ○最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	MNG303-M51	2.科目名	顧客満足論		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡部清一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部経営学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	■営利、非営利を問わず、経営上で非常に重要であると認識されている「顧客満足：CS（Customer Satisfaction）」の基礎を学びます。 ■「顧客満足」と共に最近注目されている「顧客経験価値：CX（Customer Experience）」などについても学習し、顧客心理やマーケティング、経営戦略について幅広い知識の習得とビジネスにおける対応力を身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	■「顧客満足」に必要な知識を習得することにより、「コミュニケーション能力」「問題発見能力」「課題設定・課題解決能力」等を養うことを目標としています。					
19.教科書・教材	■教科書：『サービスにおける顧客優位のマーケティング』 今村一真著 同分社出版 ■参考書：『CX 戦略』 田中達男著 東洋経済新報社 『感動 CX』 八木典裕他著 東洋経済新報社 『おもてなし幻想』 マシュー・ディクソン他著 実業之日本社					
20.参考文献	■適宜、講義において紹介致します。					
21.成績評価	■ノートテイク：20% 「顧客満足論」専用ノート（B5 版・KOKUYO/Campus）を作成し、毎回の講義ノートを作成する。 ①講義内容のまとめ ②アサインメント（宿題） ③気付き ※ノートテイクの内容により、評価致します。 尚、ノートは指定ノートを使用して下さい。（指定番以外は提出不可） ■中間考査：30% ■最終総括試験：50%					
22.コメント	■「顧客満足」を学ぶことにより、「コミュニケーション能力」を高め、顧客の心とつながり感動を与える経営とは何かを身につけてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	【顧客満足とは何か】 ・オリエンテーション：本講義の目的・内容・進め方・受講の留意点			■「顧客満足論」専用ノート（B5 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。		
【第2回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）について】 ・顧客経験価値について ・顧客満足と顧客経験価値はどう違うのか			■【研究対象企業の選定】 「顧客満足度」の向上に取り組んでおり、成長が期待できる上場企業1社選定し、その企業内容を調べノートにまとめる。		
【第3回】	【顧客満足（CS）と品質・製品マーケティング】 ・マーケティングの中核としての製品戦略			■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べ		

	・価格設定のマーケティング戦略	ノートに記述する。
【第4回】	【顧客満足（CS）とサービスマーケティング】 ・サービスの分類 ・サービスの特性	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第5回】	【顧客満足（CS）とリレーションシップマーケティング】 ・相互作用性重視のマーケティング ・カスタマーリレーションシップマネジメント	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第6回】	【顧客満足（CS）とソーシャルマーケティング】 ・価値共創概念 ・SDGs への取り組み	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第7回】	【顧客満足（CS）とコミュニケーション対応】 ・消費者への効果的な情報伝達 ・消費者との対話	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第8回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）の経営戦略】 ・顧客満足を高め収益を上げるために	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第9回】	【中間考査】	筆記用具
【第10回】	【顧客経験価値（CX）/ケーススタディ】 ・「水戸ヤクルト販売」 ・「えちぜん鉄道」	■「事例企業」の顧客満足度、顧客経験価値それぞれの向上に向けた提案を行う。
【第11回】	【顧客経験価値（CX）に対する新たな対応】 ・デジタル時代の顧客に起きている変化 ・新たなマーケットにつながる新しいカギ	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第12回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係①】 ・顧客との新たな関係を気付くための戦略	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第13回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係②】 ・顧客との新たな関係を気付くための戦略	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第14回】	【最終総括講義】 ・これまでの講義内容を振り返って	■講義ノートの提出
【第15回】	【最終総括試験】	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG303-y51	2.科目名	顧客満足論		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡部清一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部経営学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	■営利、非営利を問わず、経営上で非常に重要であると認識されている「顧客満足：CS（Customer Satisfaction）」の基礎を学びます。 ■「顧客満足」と共に最近注目されている「顧客経験価値：CX（Customer Experience）」などについても学習し、顧客心理やマーケティング、経営戦略について幅広い知識の習得とビジネスにおける対応力を身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	■「顧客満足」に必要な知識を習得することにより、「コミュニケーション能力」「問題発見能力」「課題設定・課題解決能力」等を養うことを目標としています。					
19.教科書・教材	■教科書：『サービスにおける顧客優位のマーケティング』 今村一真著 同分社出版 ■参考書：『CX 戦略』 田中達男著 東洋経済新報社 『感動 CX』 八木典裕他著 東洋経済新報社 『おもてなし幻想』 マシュー・ディクソン他著 実業之日本社					
20.参考文献	■適宜、講義において紹介致します。					
21.成績評価	■ノートテイク：20% 「顧客満足論」専用ノート（B5 版・KOKUYO/Campus）を作成し、毎回の講義ノートを作成する。 ①講義内容のまとめ ②アサインメント（宿題） ③気付き ※ノートテイクの内容により、評価致します。 尚、ノートは指定ノートを使用して下さい。（指定番以外は提出不可） ■中間考査：30% ■最終総括試験：50%					
22.コメント	■「顧客満足」を学ぶことにより、「コミュニケーション能力」を高め、顧客の心とつながり感動を与える経営とは何かを身につけてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	【顧客満足とは何か】 ・オリエンテーション：本講義の目的・内容・進め方・受講の留意点			■「顧客満足論」専用ノート（B5 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。		
【第2回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）について】 ・顧客経験価値について ・顧客満足と顧客経験価値はどう違うのか			■【研究対象企業の選定】 「顧客満足度」の向上に取り組んでおり、成長が期待できる上場企業1社選定し、その企業内容を調べノートにまとめる。		
【第3回】	【顧客満足（CS）と品質・製品マーケティング】 ・マーケティングの中核としての製品戦略			■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べ		

	・価格設定のマーケティング戦略	ノートに記述する。
【第4回】	【顧客満足（CS）とサービスマーケティング】 ・サービスの分類 ・サービスの特性	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第5回】	【顧客満足（CS）とリレーションシップマーケティング】 ・相互作用性重視のマーケティング ・カスタマーリレーションシップマネジメント	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第6回】	【顧客満足（CS）とソーシャルマーケティング】 ・価値共創概念 ・SDGs への取り組み	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第7回】	【顧客満足（CS）とコミュニケーション対応】 ・消費者への効果的な情報伝達 ・消費者との対話	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第8回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）の経営戦略】 ・顧客満足を高め収益を上げるために	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第9回】	【中間考査】	筆記用具
【第10回】	【顧客経験価値（CX）/ケーススタディ】 ・「水戸ヤクルト販売」 ・「えちぜん鉄道」	■「事例企業」の顧客満足度、顧客経験価値それぞれの向上に向けた提案を行う。
【第11回】	【顧客経験価値（CX）に対する新たな対応】 ・デジタル時代の顧客に起きている変化 ・新たなマーケットにつながる新しいカギ	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第12回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係①】 ・顧客との新たな関係を気付くための戦略	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第13回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係②】 ・顧客との新たな関係を気付くための戦略	■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第14回】	【最終総括講義】 ・これまでの講義内容を振り返って	■講義ノートの提出
【第15回】	【最終総括試験】	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG308-Y51	2.科目名	ホスピタリティ・コーチング		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3～4 年	
10.取得資格の要件	※m-ando@kuins.ac.jp		11.先修条件	ホスピタリティマネジメント論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	目的：本講義では、単なる奉仕とはことなるホスピタリティに対する理解を深め、その考え方を修得すると共に、内省的探究を通じて成長を促すコーチングの基本的スキルを修得することを目的とする。 概要：前半ではホスピタリティの成り立ちと考え方、更にはディズニーランドの経営などを通じてホスピタリティを構成する要素を整理して学ぶ。またエアラインの実例をもとに課題を設定し、講義のポイントを習熟する。後半は内省的探究の意味とコーチングにおける基本的手法をケーススタディに取り組みながら学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、学科 DP における（１）自律性（３）多様性理解（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用性に該当する。 具体的な目標としては以下のとおりである。 ①ホスピタリティの意義と現代社会における有用性について理解する。 ②ホスピタリティを実践している企業の具体的な取り組みなどについて理解する。 ③コーチングの必要性和具体的な実践におけるポイントを理解する。					
19.教科書・教材	教科書はありません。毎回、レジメを配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	①授業理解度（講義内容の理解）・・・60 点（講義において配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して講義内容を踏まえて自分の考えを記述し、提出する。）※学習目標①、②、③に対応 ②確認テスト・・・40 点（2 回の確認テストによりホスピタリティおよびコーチングのポイントを理解し、考察することができる）※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義の進め方、目的、評価などの概要を伝える。			講義レビュー・次回の予習		
第 2 回	ホスピタリティの歴史と語源 「Hospitality」を理解するために、まず最初に語源と背景からアプローチする。また似た使われ方をする言葉、特にサービスとの違いの中からのとの比較により、さらに深い理解につなげる。 ・ホスピタリティの語源と影響を与えたもの ・サービスの語源と影響を与えたもの.サービスとホスピタリティの違い			講義レビュー・次回の予習		
第 3 回	ホスピタリティの定義と背景 前回到学習したホスピタリティとサービスの概念の違い			講義レビュー・次回の予習		

	いについてさらに深掘りし、ホスピタリティの理解につなげる。また、ホスピタリティが求められる背景について考察する。 ・ホスピタリティとサービスの概念の違い ・ホスピタリティが求められる背景	
第 4 回	ホスピタリティの構成要素① ホスピタリティとサービスの概念の違い、およびなぜホスピタリティが求められるのかという社会的な背景について学習したことを前提に、ホスピタリティを成り立たせる人的要素や物的要素などの各要素について学習する。 ・ホスピタリティの定義 ・ホスピタリティの構成要素	講義レビュー・次回の予習
第 5 回	ホスピタリティの構成要素② ホスピタリティの定義と構成要素に基づき、具体的な企業を取り上げ、その各要素について更なる理解を促進する。企業としてはディズニーランドを運営するオリエンタルランドを取り上げ、ディズニーのホスピタリティについて学修する。 ・ホスピタリティに関する具体的な企業の取り組み	講義レビュー・次回の予習
第 6 回	人的要素に関する深掘り① ホスピタリティの各構成要素の中でも大きな影響を与える人的要素について更に考察を深める。具体的には交流分析により自身についての理解を深め、他者とのコミュニケーションについて考察する。 ・ホスピタリティマインドの育成	講義レビュー・次回の予習
第 7 回	第 7 回 人的要素に関する深掘り② 交流分析などに基づき、より実践的にコミュニケーションについて学習する。具体的にはリスニングやトークキングのスキルについて具体的な事例も含めて学修する。 ・ホスピタリティコミュニケーション	講義レビュー・次回の予習
第 8 回	ホスピタリティを評価する ホスピタリティの実践により、実際にゲストがどのような価値を得るのか、そして企業の経営においてそのホスピタリティをどのように評価するのかについて学修を深める。 ・MOT とは ・ホスピタリティの評価 ・ホスピタリティマネジメントを実践する組織	講義レビュー・次回の予習
第 9 回	ホスピタリティの研究成果 ホスピタリティを実践している企業において、ホスピタリティを高めるための研究が進んでいる。ANAと東大の共同研究によるホスピタリティに必要な「気づき」に関する研究について解説する。 ※第 1 回 確認テスト	講義レビュー・次回の予習
第 10 回	コーチングにおける会話 コーチングの定義やコーチングが求めるものなどコー	講義レビュー・次回の予習

	チングの概要について理解する。コーチングとトレーニングとの相違などを理解し、コーチングが求める内省的探究の意味について学修する。	
第 11 回	コーチングの基本的手法① 前回に続き内省的探究によりクライアントに変革を求めていくための手法について理解を深める。また、コーチングの基本的手法としてアクティブリプライによる要約の手法について学修する。	講義レビュー・次回の予習
第 12 回	コーチングの基本的手法② コーチングの基本的手法として、前回に続きアクティブリプライとして要約する手法について学修する。更にクライアントの感情の変化を読み取ることの意義と感情の変化の中でクライアントの課題の本質を探ることを学ぶ。	講義レビュー・次回の予習
第 13 回	コーチングの基本的手法③ コーチングの基本的手法として、クライアントが語る物語に関するコーチングとクライアントが持つコンテキストに対するコーチングについて学ぶ。	講義レビュー・次回の予習
第 14 回	コーチングの基本的手法④ コーチングにおいては当初の目標が変化し、より本質的な目標へと変化していく。その目標の設定の重要性和コーチングの成果を実行へと導くための手法を学ぶ。	講義レビュー・次回の予習
第 15 回	コーチングのまとめ コーチングの基本的手法に関するまとめとコーチングを発揮する人材育成の具体的な状況について学ぶ。 ※第 2 回 確認テスト	講義レビュー

1.授業コード (ナンバリング)	MNG319-A51	2.科目名	消費者行動論		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●授業の目的 消費することなしに日々の生活は考えられません。ところが皆さんは、「なぜ、それを買ったのか」自分の消費行動について、あまり考えることはないと思います。この授業では「消費者心理」から捉えられる「消費者行動」と企業の「マーケティング行動」の2つの視点から、皆さんが普段考えることのない消費者行動について勉強します。「消費者行動を捉えるフレームを理解できること」が、この授業の目的です。 ●授業の概要 皆さんの多くは、数年後には企業の側にたって製品やサービスを提供していく側になります。その前に、皆さんの毎日の生活は、企業が作り出す製品やサービスによって成り立っているということ、そして、企業からみれば皆さんは「市場にいる人々」ということを理解します。 人々の消費行動は、不思議に充ち満ちた世界です。消費者行動論は、この不思議の「消費」について考える「道具」です。この不思議の解明に乗りだそうというのがこの講義の内容です。 授業の計画としては、3部構成です。 最初は、「個人としての消費者」から入り、消費者行動を理解するための理論や概念をつかみます。消費者行動論はマーケティングとの関わりは外せません。その次は、企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか。企業のマーケティング視点から消費者行動論を捉えます。途中に実務家を交えた講義を設ける予定です。そして、最後は「社会的存在としての消費者」について考えます。					
18.学習目標と DPとの関連	<知識・理解の観点から> 皆さんが、消費者心理に基づく消費行動を理解し、企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか、企業のマーケティング行動について説明できることを目標とします。 (DP (ディプロマ・ポリシー) の (6) 専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています) <態度・志向性の観点から> 教室の中や本の上でなく、市場におりましょう。今から自分をマーケターとして、市場をみる習慣、市場をみる目を養い、日常からの発見への工夫ができることを目標にします。 (DP の(1)自律的で主体的な態度に対応に関連しています) <汎用的技能の観点から> 自ら積極的に働きかけるコミュニケーション能力を身につけることを目標にします。 (DP の(5) コミュニケーションスキルに対応しています)					
19.教科書・教材	松井剛・西川英彦他(2020)『1からの消費者行動論 第2版』(碩学舎/中央経済社) 2,400 円					
20.参考文献	皆さんの状況をみて随意、紹介していきますが、とりあえず、 青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎他(2012)『消費者行動論 マーケティングとブランド構築への応用』他著(有斐閣) 2,200 円 松井剛・大竹光寿・北村真琴訳(2015)『ソロモン消費者行動論』8,800 円					

21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：10%(授業への貢献度として評価します) - ー学習目標の①に対応します，学びを確認します。 ・小テストをおこないます。25% - ー学習目標の③に対応します。 ・グループによる課題発表：25%(受講生の状況によって変更する場合があります) - ー学習目標の①，②，③に対応します。 ・最終テスト：40% - ー学習目標の(3)に対応します。	
22.コメント	・授業の進め方と方法が，学期の途中で変更になる場合には，別途提示します。 授業後は，テキストを読み返してください。テキストや授業で得た知見から，実際の消費者行動を企業のマーケティング活動に照らして「考えてみる時間」をとってください。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・その際に，生成 AI 利用も無制限で認めますが，決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 ・それには，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にメモすることが有効です。それには，フィールドにでて観察することです。現場で得た知見やアイデアを，ノートを作って記録することを求めます（2 時間）この蓄積があなたを変えていきます。その時わからなかったことも，後にはわかるようになり，自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。	
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(後期)月曜日第 3 限 13:15～14:45 (4 階学修支援室) ・研究室オフィスアワー：(後期)月曜日第 4 限 15:00～16:30 (8 階研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクションとして，市場と企業の関わりについて考えます。みんなは消費者であること。最初に社会・経済・消費の構造を理解します。「消費者行動とは何なのか」まず，消費者行動論の全体像をつかみます。	・消費者行動論のノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキスト「はじめに」のレビュー
第 2 回	「消費者にとって現実のひとつじゃない」知覚のプロセスについて理解します。受講者の状況と人数によって，これから学習するチームをつくります。	学んだ内容に対して，どのように思ったのか，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことを WEB CLASS にあげてください。
第 3 回	「消費者はどのように製品やサービスを学ぶのか」学習のプロセスを学習します。	学んだ内容に対して，どのように思ったのか，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 4 回	「人は何によって動かされるのか」消費者の情報処理と記憶のメカニズムを学習します。購買へと促す動機づけについて考えます。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 5 回	「なぜ好きと嫌いが生まれるのか」消費者の「態度」の形成について学習します。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください

		い。
第 6 回	消費者は問題を解決する。「なぜ、それを買ったのか」消費者の購買意志決定のプロセスについて学習します。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にアップしてください。第 1 部の総復習をおこなってください。
第 7 回	第 1 部の復習テストを予定します。ここから企業の立場からの学習となります。「消費者をどのように切り分けるのか」市場細分化について理解します。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。テキストのレビューと、次回の章を読んでおいてください。
第 8 回	「消費者をどのように説得させるのか」企業の消費者の態度を変容させる説得的技法、マーケティング・コミュニケーションについて学習します。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。第 2 部の総復習をしてください。
第 9 回	企業の第一線で活躍する実務家をお招きし、その事業について解説いただき、企業と消費者行動の結びつきを考えます。この回は状況により講義（「買い物は誰が決めるのか」家族や組織としての購買意志決定について）、もしくは小テストに変更します。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。テキストのレビューと、次回の章を読んでおいてください。
第 10 回	「買い物は自己表現なのか」「消費が自己のアイデンティティを示すのか」消費とアイデンティティ、アイデンティティと社会からの期待について考えます。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。テキストのレビューと、次回の章を読んでおいてください。
第 11 回	「買い物は誰が決めるのか」家族や組織としての購買意志決定、家族のライフサイクル、消費者の社会化について考えます。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。テキストのレビューと、次回の章を読んでおいてください。
第 12 回	集団による消費 「なぜ友人同士の服装は似てしまうのか」我々は「社会的動物」としての個人です。個人に影響を与える準拠集団の影響、オピニオンリーダーの関連概念、口コミの影響について考えます。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。最終の総括テストに備えて、第 1～第 2 部の復習をはじめてください。
第 13 回	「なぜブランド品を選ぶのか、製品はライフスタイルの基礎か」社会階級とライフスタイル、「ステイタス」について考えます。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。最終の総括テストに備えて、第 1～第 3 部の総復習をはじめてください。
第 14 回	「サブカルチャー」この回では、マイクロカルチャー、エスニシティ、ステレオタイプなどサブカルチャーによる個人や集団への影響について考えます。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で WEB CLASS にあげてください。最終の総括テストに備えて、第 1～第 3 部の総復習をしてください。
第 15 回	「文化とは何か」、文化と消費者行動について考えます。消費者行動論の総復習として確認テスト、その解説と消費者行動論のポイントを振り返ります。	最終を振り返って、消費者行動論のノートとこれまで WebClass にアップした内容を整理して、「消費者行動論」の学びは何であったのか、学習の総復習としてください。

1.授業コード (ナンバリング)	MOR101-M51	2.科目名	生命と倫理 (2024 年度生以前) オンデマンド		3.単位数	2
4.授業担当教員	森本誠一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会) 副専攻 (生命と生活を考える)		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は低いでしょう。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業の冒頭でそれを取り上げます。また、授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起きているのか知らなければ倫理的な判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、医療者としてだけでなく、患者やその家族としても直面する可能性の高い生命・医療倫理学上の問題を知り、そうした問題に対して私たちがどのように考え、対処したり振る舞ったりしたらよいのかを理解し実践できるようになることを目的としています。 【概要】 以上の目的を達成するために、この授業では倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題を概観しつつ、具体的な事例に基づいた事例検討をグループで行います。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 事実の問題と価値の問題を区別して考えられる (2) 倫理学の基本的な概念と代表的な倫理理論を理解し説明できる (3) 生命倫理学上の基本的なテーマとその論点について理解し説明できる [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	霜田求(編著)『テキストブック 生命倫理〔第2版〕』法律文化社、2022 年					
20.参考文献	柘植尚則『プレップ倫理学 増補版』弘文堂、2021 年 徳永哲也『ベーシック 生命・環境倫理——「生命圏の倫理学」序説』世界思想社、2013 年 児玉聡『功利主義入門——はじめての倫理学』ちくま新書、2012 年 ピーター・シンガー(山内友三郎、桧則章・監訳)『グローバル化の倫理学』昭和堂、2005 年					

	ジェームズ・レイチェルズ（次田 憲和・訳）『新版 現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房、2017年 江口聡（監訳）『妊娠中絶の生命倫理——哲学者たちは何を議論したか』勁草書房、2011年	
21.成績評価	授業中課題（WebClassでのリフレクション提出） 15% グループワークのワークシート前半 20% グループワークのワークシート後半 20% 授業内容に関する課題調査 15% 定期試験 30%	
22.コメント	この授業では、みなさんが常識だと思っていること、当たり前だと思っていることを疑い、それらが本当に当たり前なのかどうかをみなさんに問いかけながら授業を進めていきます。一つ一つの問いかけはすぐには答えられないような難しい問題かもしれませんが、決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、ぜひ肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。	
23.オフィスアワー	履修上の相談がある場合には授業の前後に声をかけてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回「イントロダクション」	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第2回「現代社会の諸問題」	現代社会の倫理的問題について、写真などを交えて学修します。「なぜ倫理学を学ばなければならないのか」「なぜ倫理学が必要なのか」という疑問に答えるべく、現代社会で私たちが考えるべき倫理的諸問題を確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第3回「生命・医療倫理学」	古典的な医の倫理とされるヒポクラテスの誓いから医療倫理の四原則まで、生命・医療倫理学の歴史を大まかに学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第4回「患者中心の医療」	インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンといった患者中心の医療を特徴づける生命・医療倫理学上の基本的な概念を学修します。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第5回「事例検討1回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての具体的な講義を受ける前に、まずはみなさんが漠然と抱いている倫理観・道徳観に基いて生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。第13回、14回の授業で再び同様の事例を検討することで、この講義を受講することによってみなさんがどのように成長したのかを実感します。事例検討は2回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向け	◎グループで発表後の反省会120分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第6回「事例検討1回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 7 回「安楽死・尊厳死」	国内外の安楽死・尊厳死をめぐる歴史を概観した上で、安楽死・尊厳死に対する倫理的な考え方を学習します。授業の中で尊厳死に関わる映像資料を視聴します。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 8 回「脳死・臓器移植」	脳死がどのようなものなのか、遷延性意識障害（植物状態）との比較で確認した上で、日本における法制度の要点に触れながら脳死・臓器移植に対する倫理的な考え方を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 9 回「生殖に関する倫理学 (1)」	人工授精・体外受精・顕微授精、受精卵・精子・卵子の提供、および代理母ががどのようなものか確認した上で、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、私たちが素朴に抱きがちな「自然である」「不自然である」という感情が何なのかを授業を通して反省します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 10 回「生殖に関する倫理学 (2)」	着床前診断、出生前診断がどのようなものか確認したうえで、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、近年の高性能なエコー検査が投げかける新たな倫理的問題についても学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 11 回「選択的人工妊娠中絶」	胎児に何らかの障害がある（かもしれない）ということが、妊娠している女性にとって中絶を決断するきっかけとなることがあります。この決断をするまでの過程でパートナーや家族の意見が影響をおよぼすこともあれば、彼女たちを取り囲む社会の状況が影響することもあるでしょう。さて、胎児に障害があるという理由で中絶を決断することは、何か倫理的問題を引き起こすのでしょうか。また、受精卵、胎児、母体などを検査して胎児に障害があるかどうかを調べることやそうした技術を開発して世に出していくことには何か倫理的問題があるのでしょうか。今	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 12 回「人工妊娠中絶」	現在、日本で行われている人工妊娠中絶の根拠となっている母体保護法について要点を確認しながら、日本の中絶を取り巻く社会的状況について概観します。また、中絶に関する倫理学上の議論を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 13 回「事例検討 2 回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての一通りの授業を受けた結果どのような成長をしたのか確かめるため、生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。事例検討は 2 回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向けて模造紙にまとめます。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 14 回「事例検討 2 回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 15 回「総括 試験、まとめ、全体のふ り返し」	総括試験を行います。試験が終わったあとには試験問題について解説します。その際、授業全体をふり返りながら、これまで何を学修してきたのか一緒に確認します。さらに、成績評価の方法・基準についても再確認します。授業に対する質問や意見を出す時間も設けます。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○授業ノートの整理をしながら復習 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	MOR101-Y51	2.科目名	生命と倫理 (2024 年度生以前) オンデマンド		3.単位数	2
4.授業担当教員	森本誠一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会) 副専攻 (生命と生活を考える)		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は低いでしょう。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業の冒頭でそれを取り上げます。また、授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起きているのか知らなければ倫理的な判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、医療者としてだけでなく、患者やその家族としても直面する可能性の高い生命・医療倫理学上の問題を知り、そうした問題に対して私たちがどのように考え、対処したり振る舞ったりしたらよいのかを理解し実践できるようになることを目的としています。 【概要】 以上の目的を達成するために、この授業では倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題を概観しつつ、具体的な事例に基づいた事例検討をグループで行います。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 事実の問題と価値の問題を区別して考えられる (2) 倫理学の基本的な概念と代表的な倫理理論を理解し説明できる (3) 生命倫理学上の基本的なテーマとその論点について理解し説明できる [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	霜田求(編著)『テキストブック 生命倫理〔第2版〕』法律文化社、2022 年					
20.参考文献	柘植尚則『プレップ倫理学 増補版』弘文堂、2021 年 徳永哲也『ベーシック 生命・環境倫理——「生命圏の倫理学」序説』世界思想社、2013 年 児玉聡『功利主義入門——はじめての倫理学』ちくま新書、2012 年 ピーター・シンガー(山内友三郎、桧則章・監訳)『グローバリゼーションの倫理学』昭和堂、2005 年					

	ジェームズ・レイチェルズ（次田 憲和・訳）『新版 現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房、2017年 江口聡（監訳）『妊娠中絶の生命倫理——哲学者たちは何を議論したか』勁草書房、2011年	
21.成績評価	授業中課題（WebClassでのリフレクション提出） 15% グループワークのワークシート前半 20% グループワークのワークシート後半 20% 授業内容に関する課題調査 15% 定期試験 30%	
22.コメント	この授業では、みなさんが常識だと思っていること、当たり前だと思っていることを疑い、それらが本当に当たり前なのかどうかをみなさんに問いかけながら授業を進めていきます。一つ一つの問いかけはすぐには答えられないような難しい問題かもしれませんが、決して堅苦しい雰囲気での授業ではありませんので、ぜひ肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。	
23.オフィスアワー	履修上の相談がある場合には授業の前後に声をかけてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回「イントロダクション」	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第2回「現代社会の諸問題」	現代社会の倫理的問題について、写真などを交えて学修します。「なぜ倫理学を学ばなければならないのか」「なぜ倫理学が必要なのか」という疑問に答えるべく、現代社会で私たちが考えるべき倫理的諸問題を確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第3回「生命・医療倫理学」	古典的な医の倫理とされるヒポクラテスの誓いから医療倫理の四原則まで、生命・医療倫理学の歴史を大まかに学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第4回「患者中心の医療」	インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンといった患者中心の医療を特徴づける生命・医療倫理学上の基本的な概念を学修します。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第5回「事例検討1回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての具体的な講義を受ける前に、まずはみなさんが漠然と抱いている倫理観・道徳観に基いて生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。第13回、14回の授業で再び同様の事例を検討することで、この講義を受講することによってみなさんがどのように成長したのかを実感します。事例検討は2回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向け	◎グループで発表後の反省会120分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第6回「事例検討1回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 7 回「安楽死・尊厳死」	国内外の安楽死・尊厳死をめぐる歴史を概観した上で、安楽死・尊厳死に対する倫理的な考え方を学習します。授業の中で尊厳死に関わる映像資料を視聴します。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 8 回「脳死・臓器移植」	脳死がどのようなものなのか、遷延性意識障害（植物状態）との比較で確認した上で、日本における法制度の要点に触れながら脳死・臓器移植に対する倫理的な考え方を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 9 回「生殖に関する倫理学 (1)」	人工授精・体外受精・顕微授精、受精卵・精子・卵子の提供、および代理母ががどのようなものか確認した上で、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、私たちが素朴に抱きがちな「自然である」「不自然である」という感情が何なのかを授業を通して反省します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 10 回「生殖に関する倫理学 (2)」	着床前診断、出生前診断がどのようなものか確認したうえで、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、近年の高性能なエコー検査が投げかける新たな倫理的問題についても学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 11 回「選択的人工妊娠中絶」	胎児に何らかの障害がある（かもしれない）ということが、妊娠している女性にとって中絶を決断するきっかけとなることがあります。この決断をするまでの過程でパートナーや家族の意見が影響をおよぼすこともあれば、彼女たちを取り囲む社会の状況が影響することもあるでしょう。さて、胎児に障害があるという理由で中絶を決断することは、何か倫理的問題を引き起こすのでしょうか。また、受精卵、胎児、母体などを検査して胎児に障害があるかどうかを調べることやそうした技術を開発して世に出していくことには何か倫理的問題があるのでしょうか。今	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 12 回「人工妊娠中絶」	現在、日本で行われている人工妊娠中絶の根拠となっている母体保護法について要点を確認しながら、日本の中絶を取り巻く社会的状況について概観します。また、中絶に関する倫理学上の議論を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 13 回「事例検討 2 回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての一通りの授業を受けた結果どのような成長をしたのか確かめるため、生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。事例検討は 2 回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向けて模造紙にまとめます。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 14 回「事例検討 2 回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 15 回「総括 試験、まとめ、全体のふ り返し」	総括試験を行います。試験が終わったあとには試験問題について解説します。その際、授業全体をふり返りながら、これまで何を学修してきたのか一緒に確認します。さらに、成績評価の方法・基準についても再確認します。授業に対する質問や意見を出す時間も設けます。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○授業ノートの整理をしながら復習 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	MRK102-Y51	2.科目名	マーケティング論（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	アクティブラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 1．身近な題材を用いた実践的なワークを通じて、マーケティングの視点を体得する 2．自らのキャリアも含め、世の中で起こっていることをマーケティング視点で考える習慣を付ける 3．マーケティングに対する興味・関心を高め、受講後も学習を継続する動機付けとする 概要： 10 年前までのユニバーサル・スタジオ・ジャパン（U S J）は、来場者が思うように集まらず、経営破綻の危機に陥っていました。それが今や、日本を、いや世界を代表する一大テーマパークとして、たくさんの来場者で賑わっています。その U S J の危機を救ったのが、「マーケティング」の力なのです。 この講義では、U S J の奇跡の復活など、今まさに起こっていること、これから起こることを、マーケティングの視点で体感し理解します。授業では、テーマパークの新アトラクション企画など、学生の皆さんが具体的にイメージしやすい、身近で親しみのある題材を多用します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力および(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。マーケティングフレームワークの基本を理解し習得することで、消費者視点に立った戦略的思考を身に着け、問題発見と専門知識を使った問題解決ができるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介します					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 10 点（各回 1 点×5 回、15 回目のみ 5 点） ②グループワークのプレゼンテーション 30 点（各回 10 点 x 3 回） グループ評価（5 点）、グループ MVP（5 点） ③総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	・遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：マーケティングの実例			予習：「マーケティング」という言葉の意味を		

	マーケティングへの関心を高めるために、身近な商品の開発や宣伝に、マーケティングの考え方がどのように活用されているのかの実例をご紹介します。また、授業の進め方、評価方法等について説明を行います。	調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：マーケティングの活用事例を振り返る
第 2 回	講義：マーケティングの全体像 マーケティング思考の全体像を示し、今後のクラス進行においてどの部分をどのように取り上げるかを概観します。また、中でも特に重要な要素である「環境分析」および「ターゲティング」について、実務における具体例を示しながら、マーケティング思考の効果を実感していただきます。	予習：U S J の入場者数の推移を調べる 授業のまとめシート：提出 復習：ターゲットの重要性について振り返る
第 3 回	講義：環境分析 マーケティングで最初に行うべき「環境分析」について、基礎的なフレームワークを学びます。 1 回目のグループワークを始めます。外食チェーンなど身近なビジネスを題材に、フレームワークを使って環境分析を行います。	予習：あなたが関心のある外食チェーンの、市場規模と売上高を調べる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 4 回	グループワーク①：既存ビジネスの環境分析 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 5 回	プレゼンテーション：既存ビジネスの環境分析 ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 6 回	講義：講義：グループワーク①の結果発表と講評 「マーケティングプロセス」 基本的なマーケティングプロセスである S T P（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）について、身近な業界の事例を用いて、基礎的なフレームワークを学習します。	予習：「セグメンテーション」の言葉の意味を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：「マーケティングの 4 P」 マーケティング戦略を実行する際の基本的なフレームワークである 4 P（製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略、流通戦略）について学習します。 2 回目のグループワークを始めます。各グループが商品・サービスを選択し、その「客単価アップ」のための企画をしていただきます。	提出課題：あなたが「安い」と思う商品やサービスを一つ挙げて、なぜそれを安いと感じるかについて書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	グループワーク②：客単価をアップさせよう	予習：グループで課題を進行

	グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 9 回	プレゼンテーション：客単価をアップさせよう ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 10 回	講義：グループワーク②の結果発表と講評 さまざまな業界における客単価アップのための取り組み事例を紹介します。 3 回目のグループワークを始めます。大型テーマパークを想定し、これまで学習してきたマーケティングフレームワークを使って、レストランや物販の新商品を企画していただきます。	予習：東京ディズニーリゾートや U S J のレストランメニューや物販商品を調べる 授業のまとめシート：不要 復習：グループで課題を進行
第 11 回	グループワーク③：テーマパークの新商品開発 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：テーマパークの新商品開発 ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：教授からのコメントを受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義：グループワーク③の結果発表と講評 総復習（第 1 回～第 12 回の内容を復習）	予習：第 1 回～13 回のノートを整理する 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：これまでの学びを振り返る 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	MRK203-Y51	2.科目名	消費者心理		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）課題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な課題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材	webclass にレジメをアップしますので、授業開始までに印刷しておくこと。					
20.参考文献	経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学 改訂版 山口裕幸ら著 有斐閣 サクッとわかるビジネス教養行動経済学 阿部誠監修 新星出版社					
21.成績評価	1. 各回のミニレポート×14回＝60％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：40％（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント	※授業までにレジメ(ppt の穴抜き)を webclass に用意します。 必要な人はレジメを授業前に印刷をしておいてください。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス：産業・組織心理学とは			産業・組織心理学について復習（120 分）		
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響力			説得の影響力について復習（120 分）		
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学			社会的証明とネットレビューの心理学について復習（120 分）		
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法			ネガティブポイントをポジティブに見せる方法について復習（120 分）		
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング			ユニットアスキングについて復習（120 分）		

第 6 回	説得時における数字の効果	説得時における数字の効果について復習（120 分）
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学	従業員のモチベーションを高める心理学について復習（120 分）
第 8 回	職場のコミュニケーション	職場のコミュニケーションについて復習（120 分）
第 9 回	特典付加の心理学	得点付加の心理学について復習（120 分）
第 10 回	広告・マーケティング①	広告・マーケティング①について復習（120 分）
第 11 回	広告・マーケティング②	広告・マーケティング②について復習（120 分）
第 12 回	心理的財布と支払い	心理的財布と支払いについて復習（120 分）
第 13 回	苦情行動・クレーマー	苦情行動・クレーマーについて復習（120 分）
第 14 回	ラストシーンの心理学	ラストシーンの心理学について復習（120 分）
第 15 回	到達度確認テスト	授業全体の復習（300 分）

1.授業コード (ナンバリング)	MRK205-Y81	2.科目名	プロジェクトマネジメント論		3.単位数	1
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	経営学概論、経済学概論、観光政策論、マーケティングを履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、ワークショップ		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ビジネスはもちろんノンプロフィット活動においても、一人で目標を達成することは難しく、大きな目標から身近な小さな目標まで、プロジェクト化することが必ず求められます。 目標達成に必要な資金やメンバーなどの資源をどう確保するのか、目標達成に至る過程でどのようなリスクがあるのか、ステークホルダーは誰なのか、どのように組織をつくり、まとめ、動かしていくのか、どのような工程と予算を作り、管理していくのかなど、プロジェクトのマネジメント（管理）業務は他分野に及びます。こうしたプロジェクトの管理運営をしていくリーダーがプロジェクト・マネージャーです。 本授業では、プロジェクトマネジメントに必要な基本的な知識とスキルを身につけることを目的としています。 【概要】 講義と個人ワーク、そしてディスカッションやブレインストーミングなどのグループワークを組み合わせたワークショップ形式で授業を進め、実践的なスキルを身につけてもらいたいと考えています。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に対応しています。 この授業の学習目標は、次の通りです。 ①プロジェクトおよびプロジェクトマネジメントについて理解し、説明することができる。 ②プロジェクトの企画、実行・管理、終了を行うことができる。 ③リーダーシップ及びチームビルディングについてのスキルを習得し、実践することができる。 ④グループディスカッション、ブレインストーミングを効率よく効果的に行うことができる。 この授業での学習を通じて、疑問を持ち、深く考え、豊かに発想する力を身につけましょう。					
19.教科書・教材	・適宜、資料を配布します。（配布は紙ではなく、WEBCLASS での配信となります。）					
20.参考文献	・「プロジェクトマネジメント」実践講座/2017/日本実業出版社/伊藤 大輔 ・Project Management 進化論 クリティカルチェーン・プロジェクトマネジメント/ 2022/プレジデント社/後藤 智博, 渡瀬 智, 西郷 智史					
21.成績評価	課題①プロジェクト調査…10%（ルーブリックによる評価）【学習目標の①に対応】 課題②達成目標の設定…10%（ルーブリックによる評価）【学習目標の①に対応】 課題③工程表とコスト計画の作成…15%（ルーブリックによる評価）【学習目標の②、③、④に対応】 課題④予備調査計画の立案…15%（ルーブリックによる評価）【学習目標の②、③、④に対応】 課題⑤リスクリストとステイクホルダーリストの作成…20%（ルーブリックによる評価）【学習目標②、③、④に対応】 課題⑥課題解決策の作成…20%（ルーブリックによる評価					
22.コメント	・ハイフレックス授業となる場合もありますので、PC（電済）とイヤフォン、ヘッドフォンを持参するようにして下さい。					

	・授業内での個人ワーク、ディスカッション、ブレインストーミングを行います。 ・ノート、筆記用具、PC は必ず持参して下さい。 ・理解するのが難しい場合は、遠慮せずに質問して下さい。また、OH も活用して下さい。	
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース (研究室/3-308)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	《イントロダクション》 授業計画、評価方法、評価基準等について説明します。 《ブロック 1》プロジェクトマネジメントとは ①講義：プロジェクトの意味、プロジェクトマネジメントの目的、プロセス、必要とされる知識やスキルについて、現実のビジネスシーンでのプロジェクトマネジメントの実例を交えて説明します。 ②個人ワーク：プロジェクトを一つ取り上げ、そのプロジェクトの概要をまとめます。	【課題①】 プロジェクトを一つ取り上げ、そのプロジェクトの概要をまとめて下さい。(個人ワーク)
【第 2 回】	《ブロック 1》プロジェクトマネジメントとは ①講義：プロジェクトマネジメントは何か、プロジェクトマネジメントの 3 つの視点 (目標設定、計画、実行)、プロジェクトに立ちはだかる 3 つの壁、ステークホルダーとは？などについて、現実のビジネスシーンでのプロジェクトマネジメントの実例を交えて説明します。 ②ディスカッション：各自調たプロジェクト (課題①) について発表し、意見交換します。	
【第 3 回】	《ブロック 2》Initiating と Planning (開始と企画) ①講義：Initiating 目標設定、逆算試行 (制約思考を軽減、修正力、チームオーガナイズなど)、ステークホルダーの特定とマネジメントなど、プロジェクトの準備段階に行うべきことを学びます。	
【第 4 回】	《ブロック 2》Initiating と Planning (開始と企画) ①講義：Planning 到達目標の明確化と優先順位付け、目標達成の要素の把握 (WBS)、工程表の作成、コスト計画の策定などを学びます。 ②個人ワーク：身近な達成目標を設定してみよう。 ③ディスカッション：達成目標を発表し、グループディスカッションで意見交換します。	【課題②】 達成目標を設定してみよう。(個人ワーク)
【第 5 回】	《ブロック 2》Initiating と Planning (開始と企画) ①個人ワーク：Planning 工程表とコスト計画を作成します。	【課題③】 工程表とコスト計画を作成します。(個人ワーク)
【第 6 回】	《ブロック 3》予備調査 ①講義：目標達成のためには、何を知っておくべきか (課題の発見)、どのようなデータが必要か (データ収集)、どのような調査方法 (定量調査と定性調査) が適切かについて考察します。	

【第 7 回】	《ブロック 3》予備調査 ①個人ワーク：調査項目、調査方法を明確化します。 ②グループワーク：それぞれの調査項目、調査方法を発表し、ディスカッションを通じてインプルーブします。	【課題④】 調査計画を作成します。（個人ワーク）
【第 8 回】	《ブロック 3》予備調査 ①個人ワーク：オープンデータを活用し予備調査を行います。 ②グループワーク：それぞれの調査結果を発表し、ディスカッションを通じて課題を発見します。	
【第 9 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①講義：実行段階に求められる、進捗管理、リスク管理など様々な管理（マネジメント）事項とモニタリング、PDCA サイクルについて学びます。	
【第 10 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①個人ワーク：それぞれの目標達成過程でのリスクの洗い出しとステークホルダーの明確化を行います。 ②グループワーク：それぞれのリスクとステークホルダーを発表し、ディスカッションを通じてインプルーブします。	【課題⑤】 リスクリストとステークホルダーリストを作成します。（個人ワーク）
【第 11 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①講義：リーダーシップとは？チームビルディングとは？役割分担の方法などもっとも難しく重要なヒューマンリソース・マネジメントの考え方について学びます。	
【第 12 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①グループワーク：フリライダーを出さない組織運営について、ディスカッションし、具体的な方策やリーダーとしての考え方、行動を考えます。	
【第 13 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①発表と評価：フリライダーを出さない組織運営についての具体的な方策やリーダーとしての考え方、行動をまとめ発表し、相互評価します。	【課題⑥】 フリライダーを出さないための具体的方策についてまとめ発表します。（グループワーク）
【第 14 回】	《ブロック 5》Closing（完了） ①講義：結果分析、結果報告、利益分配などプロジェクトの完了時になすべきことを学びます。時には撤退や失敗に終わることもあるプロジェクトの官僚の方法についても学びます。	
【第 15 回】	《ブロック 6》リフレクション ①個人ワーク：今回の授業を通じての気づき等について	【課題⑦】 リフレクション・レポートの作成と発表

	てレポートを作成し、発表します。	

1.授業コード (ナンバリング)	MRK206-Y52	2.科目名	マーケティング (グローバル T1)		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	アクティブラーニング導入科目 (グループディスカッション、プレゼンテーション)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 1. 身近な題材を用いた実践的なワークを通じて、マーケティングの視点を体得する 2. 自らのキャリアも含め、世の中で起こっていることをマーケティング視点で考える習慣を付ける 3. マーケティングに対する興味・関心を高め、受講後も学習を継続する動機付けとする 概要： 10 年前までのユニバーサル・スタジオ・ジャパン (U S J) は、来場者が思うように集まらず、経営破綻の危機に陥っていました。それが今や、日本を、いや世界を代表する一大テーマパークとして、たくさんの来場者で賑わっています。その U S J の危機を救ったのが、「マーケティング」の力なのです。 この講義では、U S J の奇跡の復活など、今まさに起こっていること、これから起こることを、マーケティングの視点で体感し理解します。授業では、テーマパークの新アトラクション企画など、学生の皆さんが具体的にイメージしやすい、身近で親しみのある題材を多用します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力および(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。マーケティングフレームワークの基本を理解し習得することで、消費者視点に立った戦略的思考を身に着け、問題発見と専門知識を使った問題解決ができるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介します					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 10 点 (各回 1 点×5 回、15 回目のみ 5 点) ②グループワークのプレゼンテーション 30 点 (各回 10 点 x 3 回) グループ評価 (5 点)、グループ MVP (5 点) ③総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	・遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。(厳守) ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：マーケティングの実例			予習：「マーケティング」という言葉の意味を		

	マーケティングへの関心を高めるために、身近な商品の開発や宣伝に、マーケティングの考え方がどのように活用されているのかの実例をご紹介します。また、授業の進め方、評価方法等について説明を行います。	調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：マーケティングの活用事例を振り返る
第 2 回	講義：マーケティングの全体像 マーケティング思考の全体像を示し、今後のクラス進行においてどの部分をどのように取り上げるかを概観します。また、中でも特に重要な要素である「環境分析」および「ターゲティング」について、実務における具体例を示しながら、マーケティング思考の効果を実感していただきます。	予習：U S J の入場者数の推移を調べる 授業のまとめシート：提出 復習：ターゲットの重要性について振り返る
第 3 回	講義：環境分析 マーケティングで最初に行うべき「環境分析」について、基礎的なフレームワークを学びます。 1 回目のグループワークを始めます。外食チェーンなど身近なビジネスを題材に、フレームワークを使って環境分析を行います。	予習：あなたが関心のある外食チェーンの、市場規模と売上高を調べる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 4 回	グループワーク①：既存ビジネスの環境分析 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 5 回	プレゼンテーション：既存ビジネスの環境分析 ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 6 回	講義：講義：グループワーク①の結果発表と講評 「マーケティングプロセス」 基本的なマーケティングプロセスである S T P（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）について、身近な業界の事例を用いて、基礎的なフレームワークを学習します。	予習：「セグメンテーション」の言葉の意味を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：「マーケティングの 4 P」 マーケティング戦略を実行する際の基本的なフレームワークである 4 P（製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略、流通戦略）について学習します。 2 回目のグループワークを始めます。各グループが商品・サービスを選択し、その「客単価アップ」のための企画をしていただきます。	提出課題：あなたが「安い」と思う商品やサービスを一つ挙げて、なぜそれを安いと感じるかについて書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	グループワーク②：客単価をアップさせよう	予習：グループで課題を進行

	グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 9 回	プレゼンテーション：客単価をアップさせよう ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 10 回	講義：グループワーク②の結果発表と講評 さまざまな業界における客単価アップのための取り組み事例を紹介します。 3 回目のグループワークを始めます。大型テーマパークを想定し、これまで学習してきたマーケティングフレームワークを使って、レストランや物販の新商品を企画していただきます。	予習：東京ディズニーリゾートや U S J のレストランメニューや物販商品を調べる 授業のまとめシート：不要 復習：グループで課題を進行
第 11 回	グループワーク③：テーマパークの新商品開発 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：テーマパークの新商品開発 ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：教授からのコメントを受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義：グループワーク③の結果発表と講評 総復習（第 1 回～第 12 回の内容を復習）	予習：第 1 回～13 回のノートを整理する 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：これまでの学びを振り返る 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	MRK206-Y53	2.科目名	マーケティング（グローバル T2）		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	アクティブラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 1. 身近な題材を用いた実践的なワークを通じて、マーケティングの視点を体得する 2. 自らのキャリアも含め、世の中で起こっていることをマーケティング視点で考える習慣を付ける 3. マーケティングに対する興味・関心を高め、受講後も学習を継続する動機付けとする 概要： 10 年前までのユニバーサル・スタジオ・ジャパン（U S J）は、来場者が思うように集まらず、経営破綻の危機に陥っていました。それが今や、日本を、いや世界を代表する一大テーマパークとして、たくさんの来場者で賑わっています。その U S J の危機を救ったのが、「マーケティング」の力なのです。 この講義では、U S J の奇跡の復活など、今まさに起こっていること、これから起こることを、マーケティングの視点で体感し理解します。授業では、テーマパークの新アトラクション企画など、学生の皆さんが具体的にイメージしやすい、身近で親しみのある題材を多用します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力および(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。マーケティングフレームワークの基本を理解し習得することで、消費者視点に立った戦略的思考を身に着け、問題発見と専門知識を使った問題解決ができるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介します					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 10 点（各回 1 点×5 回、15 回目のみ 5 点） ②グループワークのプレゼンテーション 30 点 （各回 10 点 x 3 回） グループ評価（5 点）、グループ MVP（5 点） ③総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	・遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：マーケティングの実例			予習：「マーケティング」という言葉の意味を		

	マーケティングへの関心を高めるために、身近な商品の開発や宣伝に、マーケティングの考え方がどのように活用されているのかの実例をご紹介します。また、授業の進め方、評価方法等について説明を行います。	調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：マーケティングの活用事例を振り返る
第 2 回	講義：マーケティングの全体像 マーケティング思考の全体像を示し、今後のクラス進行においてどの部分をどのように取り上げるかを概観します。また、中でも特に重要な要素である「環境分析」および「ターゲティング」について、実務における具体例を示しながら、マーケティング思考の効果を実感していただきます。	予習：U S J の入場者数の推移を調べる 授業のまとめシート：提出 復習：ターゲットの重要性について振り返る
第 3 回	講義：環境分析 マーケティングで最初に行うべき「環境分析」について、基礎的なフレームワークを学びます。 1 回目のグループワークを始めます。外食チェーンなど身近なビジネスを題材に、フレームワークを使って環境分析を行います。	予習：あなたが関心のある外食チェーンの、市場規模と売上高を調べる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 4 回	グループワーク①：既存ビジネスの環境分析 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 5 回	プレゼンテーション：既存ビジネスの環境分析 ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 6 回	講義：講義：グループワーク①の結果発表と講評 「マーケティングプロセス」 基本的なマーケティングプロセスである S T P（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）について、身近な業界の事例を用いて、基礎的なフレームワークを学習します。	予習：「セグメンテーション」の言葉の意味を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：「マーケティングの 4 P」 マーケティング戦略を実行する際の基本的なフレームワークである 4 P（製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略、流通戦略）について学習します。 2 回目のグループワークを始めます。各グループが商品・サービスを選択し、その「客単価アップ」のための企画をしていただきます。	提出課題：あなたが「安い」と思う商品やサービスを一つ挙げて、なぜそれを安いと感じるかについて書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	グループワーク②：客単価をアップさせよう	予習：グループで課題を進行

	グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 9 回	プレゼンテーション：客単価をアップさせよう ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 10 回	講義：グループワーク②の結果発表と講評 さまざまな業界における客単価アップのための取り組み事例を紹介します。 3 回目のグループワークを始めます。大型テーマパークを想定し、これまで学習してきたマーケティングフレームワークを使って、レストランや物販の新商品を企画していただきます。	予習：東京ディズニーリゾートや U S J のレストランメニューや物販商品を調べる 授業のまとめシート：不要 復習：グループで課題を進行
第 11 回	グループワーク③：テーマパークの新商品開発 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：テーマパークの新商品開発 ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：教授からのコメントを受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義：グループワーク③の結果発表と講評 総復習（第 1 回～第 12 回の内容を復習）	予習：第 1 回～13 回のノートを整理する 授業のまとめシート：不要 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：これまでの学びを振り返る 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	MRK206-Y54	2.科目名	マーケティング (グローバル T3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	展開科??	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う					
18.学習目標と DPとの関連	企業の国際経営に関わる基本的な理論を理解し、国境を越えて経営活動を行う際に起こり得る問題及びその対応策について考察し、将来のビジネス現場で、臨機応変的な対応ができるようになる。?					
19.教科書・教材	はじめての国際経営 (初版)?有斐閣?2015 年 中川 功? (著), 林 正 (著),多? 和美 (著),?? 清弘(著)					
20.参考文献	講義において都度提?する					
21.成績評価	■?テストおよびレポート 80 点、討論や質問など 20 点					
22.コメント	講義では、パワーポイントによるスライドで概念図を示し、概要や基本的用語などの説明と、事例となる顧客満足の取り組みを写真や動画を活用して紹介していく。 本講義は学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションがとれる授業展開を目指す。講義は、テキストを参照しながらの受講を求める。掲示スライドの配布は実施しない。? 経営学関心を持ち学習意欲のある学生の受講を希望する。私語をしない、携帯電話は使用しない (メールや時計利用も含む)、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しないなど。?					
23.オフィスアワー	未定					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ■?講義内容?講義概要、学習?標、評価?法等			講義内容説明する		
第 2 回	マーケティングとは何か			現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学ぶ		
第 3 回	マーケティングのコンセプトと構成要素			マーケティングの意義や一連の流れを学ぶ。		
第 4 回	マーケティングのコンセプトの新展開			マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について学ぶ		
第 5 回	伝統的なマーケティングのコンセプトの意義			市場調査について事例と関連付けて理解する		

		とともに、関連する技術を身に付ける
第 6 回	伝統的なマーケティングのコンセプトの批判	マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解する。
第 7 回	新しいマーケティングのコンセプトとしての社会	マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。
第 8 回	社会的責任と経営倫理	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 9 回	マーケティングの定義と拡張①定義の変遷	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 10 回	マーケティングの定義と拡張②ソーシャルマーケティング	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 11 回	レイザー、ケリーのソーシャルマーケティング論	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 12 回	レイザー、ケリーのソーシャルマーケティング論	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 13 回	マーケティング・アプローチの展開と今後の方向	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 14 回	マーケティング・アプローチの展開と今後の方向	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 15 回	総括試験？	レポート課題

1.授業コード (ナンバリング)	MRK206-Y55	2.科目名	マーケティング (グローバル T4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	展開科??	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う					
18.学習目標と DPとの関連	企業の国際経営に関わる基本的な理論を理解し、国境を越えて経営活動を行う際に起こり得る問題及びその対応策について考察し、将来のビジネス現場で、臨機応変的な対応ができるようになる。?					
19.教科書・教材	はじめての国際経営 (初版)?有斐閣?2015 年 中川 功? (著), 林 正 (著),多? 和美 (著),?? 清弘(著)					
20.参考文献	講義において都度提?する					
21.成績評価	■?テストおよびレポート 80 点、討論や質問など 20 点					
22.コメント	講義では、パワーポイントによるスライドで概念図を示し、概要や基本的用語などの説明と、事例となる顧客満足の取り組みを写真や動画を活用して紹介していく。 本講義は学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションがとれる授業展開を目指す。講義は、テキストを参照しながらの受講を求める。掲示スライドの配布は実施しない。? 経営学関心を持ち学習意欲のある学生の受講を希望する。私語をしない、携帯電話は使用しない (メールや時計利用も含む)、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しないなど。?					
23.オフィスアワー	未定					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ■?講義内容?講義概要、学習?標、評価?法等			講義内容説明する		
第 2 回	マーケティングとは何か			現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学ぶ		
第 3 回	マーケティングのコンセプトと構成要素			マーケティングの意義や一連の流れを学ぶ。		
第 4 回	マーケティングのコンセプトの新展開			マーケティング計画の立案に必要な消費者行動について学ぶ		
第 5 回	伝統的なマーケティングのコンセプトの意義			市場調査について事例と関連付けて理解する		

		とともに、関連する技術を身に付ける
第 6 回	伝統的なマーケティングのコンセプトの批判	マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて理解する。
第 7 回	新しいマーケティングのコンセプトとしての社会	マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいてその解決方法を考える。
第 8 回	社会的責任と経営倫理	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 9 回	マーケティングの定義と拡張①定義の変遷	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 10 回	マーケティングの定義と拡張②ソーシャルマーケティング	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 11 回	レイザー、ケリーのソーシャルマーケティング論	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 12 回	レイザー、ケリーのソーシャルマーケティング論	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 13 回	マーケティング・アプローチの展開と今後の方向	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 14 回	マーケティング・アプローチの展開と今後の方向	マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む
第 15 回	総括試験？	レポート課題

1.授業コード (ナンバリング)	MRK208-Y51	2.科目名	プロダクトデザイン実践演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	★各自毎回ノートパソコンが必要です。デザイン制作のためのフリーソフトなどもインストールしてもらう必要があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義の目的は様々なプロダクトのデザインの調査および制作を通じて、リサーチ力とデザインアイデアの能力を高めることである。 【概要】 様々な形で存在するプロダクト（製品）のデザインやコンセプトについての調査研究。またロゴやカラー、機能デザインなど、与えられたテーマに従って実際にデザイン制作を行うなどし、リサーチ力およびデザインアイデア能力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①様々なプロダクトのデザインを調査し、まとめることができる。 ②デザイン制作の各種基本を身につける。 ③デザイン企画・制作とともに、適切なプレゼンテーション向けコンテンツの制作ができる。					
19.教科書・教材	授業内で資料の配布や Web ページ等の紹介をします					
20.参考文献	授業内で適宜紹介します					
21.成績評価	調査レポート等 20％ 各デザイン演習での課題 60％ 最終課題・成果物 20％ 各課題は内容とともに取り組み姿勢も併せ評価します					
22.コメント	授業外での作業が多いので、積極的に取り組むようにしてください 授業の進行状況により、多少の変更や順番の入れ替えなど行うこともあります 生成 AI 利用：条件付きで認める。（様々な状況を勘案し個別に対応・指導します）					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	はじめに 授業ガイダンス			授業内容の復習		
2	様々なプロダクト・デザイン <調査①>			授業内容の復習・調査		
3	様々なプロダクト・デザイン <調査②>			授業内容の復習・調査		
4	調査レポート課題 【課題1】			授業内容の復習・課題の制作		
5	様々なプロダクト・デザイン <ロゴデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
6	様々なプロダクト・デザイン <ロゴデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
7	デザイン制作課題<ロゴデザイン> 【課題2】			授業内容の復習・課題の制作		
8	様々なプロダクト・デザイン <カラーデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
9	様々なプロダクト・デザイン <カラーデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
10	デザイン制作課題<カラーデザイン> 【課題3】			授業内容の復習・課題の制作		
11	様々なプロダクト・デザイン <形のデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
12	様々なプロダクト・デザイン <形のデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		

13	デザイン制作課題＜形のデザイン＞【課題4】	授業内容の復習・課題の制作
14	【最終課題】機能とデザイン課題 【課題5】	デザインの企画考案・課題制作
15	最終課題提出、総括および振り返りシート提出	振り返りシートを提出する

1.授業コード (ナンバリング)	MRK301-A51	2.科目名	アジアマーケティング論		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	共通選択		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	制限なし				9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	「マーケティング」の修得	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	世界中がアジア市場に注目しているのは周知のとおりであり、日本からも様々な企業がアジア市場の開拓に着手している。とはいえ、アジアは広く、そして深い。いくつもの国、民族、宗教が存在し、気候や文化が違う。また、経済水準や消費パターンも異なる。差異を見れば数え切れないほど存在し、各国市場の全体像をキャッチするのは大変難しい。一方、共通性もある。アジア市場の「多様性」と「共通性」を把握するのは本講義の目的である。この講義では、アジアの国々でビジネスを展開している日系企業のケーススタディを通して、グローバルマーケティングの基礎を学習していく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・グローバルマーケティングの基礎を理解し、応用できる ・アジアの主要な国や地域の市場特性を理解できる ・アジアの国や地域にあうビジネス提案ができる					
19.教科書・教材	『1 からのグローバルマーケティング』小田部 正明（編集）、栗木 契（編集）、 & 1 その他、碩学社。					
20.参考文献	・『1 からのマーケティング』（第 4 版）石井 淳蔵（著，編集），廣田 章光（著，編集），& 1 その他、碩学社。 ・『アジア・マーケティングをここから始めよう。』博報堂アジア生活研究プロジェクト著、PHP 研究所。 ・『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕、白桃書房。					
21.成績評価	ワークシート：30％ プレゼンテーション：40％（中間 10％+期末 30％） 期末レポート：30％ 合格ライン：60％					
22.コメント	アジアの国々について関心を持ち、特に若者の消費行動について情報収集をしてみよう。					
23.オフィスアワー	秋学期： 木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション 講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等 グループ分け & 分担確定 WS1 ○○国概要				PC 持参	
第 2 回	第 1 章 マーケティングの基本（1）				○マーケティングの復習（1-2 章）（120 分）	

	講義内容：1 年次秋に勉強したマーケティングの復習 (1)	・ PC 持参
第 3 回	第 1 章 マーケティングの基本 (2) 講義内容：学生による講義と補足説明	・ PC 持参 ○マーケティングの復習 (3-4 章) (120 分)
第 4 回	第 1 章 マーケティングの基本 (3) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 3 章 グローバル文化環境 講義内容：インドネシアにおけるグリコ	・ PC 持参 ◎マーケティングの復習 (5-6 章) (120 分) WS2：ユニクロについて
第 5 回	第 1 章 マーケティングの基本 (4) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 4 章 グローバル市場調査 (1) 講義内容：インドのインスタントヌードル市場	・ PC 持参 ◎マーケティングの復習 (7-9 章) (120 分)
第 6 回	第 4 章 グローバル市場調査 (2) GW アジア各国の若者の消費文化	・ PC 持参
第 7 回	第 5 章 グローバル市場参入戦略 講義内容：味千ラーメンの事例で学ぶ海外市場の参入方法 GW プレゼン 1『各国の概要と若者の消費文化』	○復習 (60 分)
第 8 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (1) 講義内容：中国におけるダイキンの製品戦略	○プレゼン資料 1 を見直し、提出 (120 分)
第 9 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (2) 講義内容：GW	○WS3 (90 分)
第 10 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (1) 講義内容：価格設定の諸要因	○WS4 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 11 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (2) 講義内容：GW	○WS5 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 12 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (1) 講義内容：KUMON のアジア進出	○WS6 (90 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 13 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (2) 講義内容：なぜサービス企業が国際化できるのか	○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 14 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 1	○GW プレゼン作成 (150 分)
第 15 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 2	レポート作成・提出 (240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	MRK301-M51	2.科目名	アジアマーケティング論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	「マーケティング」の修得	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	世界中がアジア市場に注目しているのは周知のとおりであり、日本からも様々な企業がアジア市場の開拓に着手している。とはいえ、アジアは広く、そして深い。いくつもの国、民族、宗教が存在し、気候や文化が違う。また、経済水準や消費パターンも異なる。差異を見れば数え切れないほど存在し、各国市場の全体像をキャッチするのは大変難しい。一方、共通性もある。アジア市場の「多様性」と「共通性」を把握するのは本講義の目的である。この講義では、アジアの国々でビジネスを展開している日系企業のケーススタディを通して、グローバルマーケティングの基礎を学習していく。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①グローバルマーケティングの基礎を理解し、応用できる—DP（4）に関連する ②アジアの主要な国や地域の市場特性を理解できる—DP(3)に関連する ③アジアの国や地域にあうビジネス提案ができる—DP（4）に関連する					
19.教科書・教材	適宜資料配布。					
20.参考文献	・『1 からのマーケティング』（第 4 版）石井 淳蔵（著，編集），廣田 章光（著，編集），& 1 その他、碩学社。 ・『アジア・マーケティングをここから始めよう。』博報堂アジア生活研究プロジェクト著、PHP 研究所。 ・『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕、白桃書房。 ・『1 からのグローバルマーケティング』小田部 正明（編集），栗木 契（編集）、& 1 その他、碩学社。					
21.成績評価	個人ワークノート：20% ～学習目標？ プレゼンテーション：50%（マーケティング 10%+中間 10%+期末 30%） ～学習目標②③ 期末レポート：30% ～学習目標②③ 合格ライン：60%					
22.コメント	アジアの国々について関心を持ち、特に若者の消費行動について情報収集をしてみよう。 ・生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、課題については、授業回ごとに指定する。					
23.オフィスアワー	秋学期： 木曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館） 木曜日 1 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等 グループ分け & 分担確定			【PC 持参】 次回の授業迄に所属するグループの研究対象国の情報収集し、パワーにまとめなさい。		

	WS1 ○○国概要	
第 2 回	第 1 章 マーケティングの基本 (1) 講義内容：1 年次秋に勉強したマーケティングの復習 (1)	○次回の授業迄に 1 年次に勉強したマーケティング (担当する部分) を復習し、まとめなさい。(120 分) 【PC 持参】
第 3 回	第 1 章 マーケティングの基本 (2) 講義内容：学生による講義と補足説明	・ PC 持参 ○マーケティングの復習 (3-4 章) (120 分)
第 4 回	第 1 章 マーケティングの基本 (3) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 3 章 グローバル文化環境 講義内容：インドネシアにおけるグリコ	・ PC 持参 ◎マーケティングの復習 (5-6 章) (120 分) WS2：ユニクロについて
第 5 回	第 1 章 マーケティングの基本 (4) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 4 章 グローバル市場調査 (1) 講義内容：インドのインスタントヌードル市場	・ PC 持参 ◎研究対象国の市場環境について調べなさい (120 分)
第 6 回	第 4 章 グローバル市場調査 (2) GW アジア各国の若者の消費文化	・ PC 持参
第 7 回	第 5 章 グローバル市場参入戦略 講義内容：味千ラーメンの事例で学ぶ海外市場の参入方法 GW プレゼン 1『各国の概要と若者の消費文化』	○復習 (60 分)
第 8 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (1) 講義内容：中国におけるダイキンの製品戦略	○プレゼン資料 1 を見直し、提出 (120 分)
第 9 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (2) 講義内容：GW	○WS3 (90 分)
第 10 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (1) 講義内容：価格設定の諸要因	○WS4 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 11 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (2) 講義内容：GW	○WS5 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 12 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (1) 講義内容：KUMON のアジア進出	○WS6 (90 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 13 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (2) 講義内容：なぜサービス企業が国際化できるのか	○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 14 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 1	○GW プレゼン作成 (150 分)
第 15 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 2	レポート作成・提出 (240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	MRK305-A51	2.科目名	インターネットマーケティング		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本 哲也					
5.授業科目の区分	展開科目 マーケティング分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 本講義では、マーケティングの基礎理論をベースに、インターネット環境の急速な進展に伴い激変するマーケティング技術を学ぶ。特にインターネットにより高度化したリサーチ手法、戦術立案視点の「4P」の視点を中心に、授業を構成する。インターネット活用はマーケティング技術の高度化・効率化・精度向上との相性も非常に高く、様々な製品やサービス、そして企業戦略立案の重要な手法となる。その理解は今後の様々な学修に大きく影響する。 [概要] 本講義では、インターネットマーケティング理論を実感できる事例紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学に終わることなく、マーケティングを実際に使える技術にまで高めるため、ほぼ毎回、個ワークまたグループワークを行い、実践的でメリハリのついた学習ができるようになっている。 なお、講義内容を次週までに公開するので、予習として読み込んでくる必要があるのと同時に、毎回、パソコンを利用して個ワーク、グループワーク、情報収集や報告を行うので、必ず持参すること。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①インターネットマーケティングの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる=知的好奇心 ②インターネットを使い、社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティング視点で分析できる=情報収集/分析力 ③インターネットマーケティング技術を高め、プランニングの為のツールとして活用できる=思考/構想 [関連するディプロマポリシー] (1) 自立性 (2) 社会的貢献 (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	西川英彦・ 澁谷 覚 『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎 ,2019 年 ISBN:978-4-502-28991-0 定価:本体 2,400 円+税					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「インターネットマーケティングの概念を理解していること、それを用いた企業や商品事例の分析」:40 点					

	(5)e-ポートフォリオ「インターネットマーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点	
22.コメント	インターネットマーケティングはスマホの登場以降画期的な進化を続けている。身近なスマホから得られる生活者や街・お店、また、様々な製品やサービスなど情報はインターネットマーケティングの基本となるものである。スマホでの検索から始まる日常、その暮らし方にはインターネットマーケティングのヒントが一杯です。そんな暮らし方に興味を持ち受講することを期待しています。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。	
23.オフィスアワー	センターアワー：月曜日 1 限 研究室オフィスアワー：月曜日 2 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回 ○オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ○デジタル社会のマーケティング、インターネットマーケティングとは ・「アマゾン」を事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 2 回	第 2 回 ○デジタルマーケティングの基礎知識 1 ・そもそもマーケティングとは、マーケティングの基礎知識 ・デジタルマーケティングとは何か ・マーケティングがデジタルに変わると何が変わるのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 3 回	第 3 回 ○デジタルマーケティングの基礎知識 2 ・デジタルマーケティングの特性① 「検索性」「双方向性」「即時性」 ・デジタルマーケティングの特性② 「ターゲティング」と「パーソナライゼーション」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 4 回	第 4 回 ○デジタル社会の消費者行動 ：「食ベログ」を事例に学ぶ ・デジタル時代の消費者行動モデル 「AIDMA」から「AISAS」へ ・デジタルマーケティングの基本 「集客→育成→商談」 ・カスタマージャーニーとタッチポイント 顧客の消費行動を分析・予測する ・デジタルマーケティングの重要な 5 つの KPI	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 5 回	第 5 回 ○デジタル社会のリサーチ（調査） ：「グーグル」を事例に学ぶ ・デジタルマーケティングに必修の「データ計測と分析」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する

	グーグルアナリティクス、直帰率 ・増大する、価値のある「消費者生成メディア」	
第 6 回	第 6 回 ○デジタル時代のプロモーション戦略の基本 1 4P①: Promotion ○デジタルメディアへのシフト ・競合サイトと差別化し、ライバルに勝つ ・WEB サイトの役割と種類 自社メディア（オウンドメディア）における価値のあるキーワード SEO、リスティング広告	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回	第 7 回 ○デジタル時代のプロモーション戦略の基本 2 4P②: Promotion ・重要な KPI: PV 数、ユーザー数、直帰率、回遊率 ・WEB デザイン、WEB ライティング ・デジタルサイネージ ○進化しつづける WEB マーケティング ・ディスプレイ広告 ・リマーケティング広告 ・LIVE 配信	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] 作成と提出
第 8 回	第 8 回 ○プロモーション戦略の拡張 ○インフルエンサー ・SNS マーケティング ・インフルエンサーマーケティング ・ショート動画 ・ステマ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回	第 9 回 ○デジタル社会の新しいビジネスモデル ：「メルカリ、SHIN、D2C」事例から学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 10 回	第 10 回 ○デジタル・マーケティングの基本概念 ：「無印良品」事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回	第 11 回 ○商品戦略の基本 4P③：Product ：「アップル」「レゴ」事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 12 回	第 12 回 ○価格戦略の基本 4P④: Price ：「ANA」「アエビーアンドビー」事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する

第 13 回	第 13 回 ○チャンネル戦略の基本 4P⑤: Place :「ユニクロ」「ウーバー」事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 14 回	第 14 回 ○デジタル社会のロジスティクス :「ヤマト運輸」事例に学ぶ ○デジタル社会の情報システム :「セールスフォースドットコム」事例に学ぶ	[予習] 総括試験の準備 [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回	第 15 回 ○総括試験	[復習] 総括試験を振り返る

1.授業コード (ナンバリング)	MRK307-Y51	2.科目名	ローカルプロダクトデザイン論		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】現在の日本各地の農産物から銘菓にいたるまでのローカルプロダクツの構造と類型について、その来歴などの歴史・環境・経済・社会・文化の文脈を通して理解することが本授業の目的です。さらに、これらのローカルプロダクツが、いかに日本の産業振興・地域活性化の手段としてデザインされてきたのか観光との関係について具体例を通して理解することを目的とします。 【概要】この科目は、日本各地の「ローカルプロダクツの文化論－農産物から銘菓まで」をテーマに学習します。江戸時代の農学者・大蔵永常は『公益国産考』において、領主の財政危機と農民困窮を救うために自己の見聞を元に産業振興・生産向上の手段について具体的に説いています。現在においても日本各地のローカルプロダクツとしての名産物は江戸時代における産業振興にルーツを持つものがたくさんあります。 授業では、まず、大蔵永常の『公益国産考』を読みながら、本書に紹介されている日本の産物とその考え方について学びます（はじめの5回）。それを踏まえて、日本各地、具体的には、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄地方のローカルプロダクツについて、その産物がどのように名産となり銘菓となったのかについて、産業振興と観光に焦点を当てながら歴史・環境・経済・社会・文化の文脈を考慮しながら具体例を紹介します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISS 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度(自律性) (2)社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) 学習目標 本科目の学習目標は以下の通りです。 1 ローカルプロダクト（地域の名産）についてのデザインとその課題を説明できる。 2 ローカルプロダクト（地域の名産）の類型について説明できる。 3 ローカルプロダクト（地域の名産）と観光インパクトの関係について説明できる。					
19.教科書・教材	教科は特に指定しません。教材資料は、Web Class で、配布します					
20.参考文献	大蔵永常（土屋喬雄校訂）『公益国産考』岩波文庫。 そのほか、授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート(授業内レポート)・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・授業中の発表・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・中間試験（確認試験）・・・25% 【学習目標 123 に対応】 ・期末試験・35% 【学習目標 123 に対応】 授業中のコメントシート、確認試験・統括試験の記述部分と発表は、ルーブリック評価で採点					

	します。	
22.コメント	受講生のみなさんは、観光や旅行に行った時や故郷に帰省した時に、どのようなお土産を探して購入しましたか。受講生のみなさんが買ったことのある産物や銘菓などのお土産について、それがローカルプロダクトとして、どのようにその地域の産業を支えたのか、産業振興と観光の視点から、具体的に考えてみると理解が深まります。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション	
第2回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：紙・楮・杉・檜・菜種・紅花	準備学習:関連文献を読む(120分)
第3回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：砂糖・木綿・桑・琉球蘭・漆	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第4回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：茶・麻・葛・玉蜀黍・芋・薩摩薯・蜜柑・葡萄	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第5回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：柿・梨・桐・養蚕・絹織・藍・素麺	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第6回	北海道のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第7回	東北地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分) 中間試験の準備学習
第8回	中間試験(確認試験) 関東地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第9回	中部地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第10回	近畿地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第11回	中国地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)

第 12 回	四国地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60 分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60 分)
第 13 回	九州地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60 分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60 分)
第 14 回	期末試験 沖縄地方のローカルプロダクツ	準備学習:期末試験の準備として関連文献を読む(120 分)
第 15 回	まとめ	返却された期末試験の復習

1.授業コード (ナンバリング)	NAD201-M51	2.科目名	国際看護論		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤尚子					
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 総合科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護職は、国際的な視野から健康課題を考えることができ、国際社会で活躍できる能力を養うことが必要となってきた。本授業では、国際看護の概念を学習し、世界における健康問題とそれに対する戦略の潮流を理解したうえで、実際の国際看護活動に必要な知識を得る。さらに日本国内における国際看護として在留外国人への支援について学習する。					
18.学習目標と DP との関連	世界の健康問題と戦略・課題を知り、看護による国際協力の意義および活動の場所と対象について説明できる。?授業内課題・総括試験 異文化看護論を理解し、国際看護活動におけるアセスメントや活動に影響を及ぼす因子についての考察を述べられる。?授業内課題・総括試験 さらに日本国内における在留外国人を対象とした看護活動のための実践について具体的に述べられる。。?授業内課題・総括試験 本授業は DP 1 ～6 すべてと関連します。					
19.教科書・教材	講義中に参考資料を配布					
20.参考文献	日本国際看護学会：国際看護学入門 第 2 版、医学書院、2020 森淑江他：国際看護: 国際社会の中で看護の力を発揮するために（看護学テキスト NiCE）、南江堂、2025					
21.成績評価	総括試験＝筆記試験（60%）…12 月 8 日 1 限 授業内課題(40%)…毎授業で提出					
22.コメント	看護の仕事は病院だけではなく。地域や家庭、そして海外も活動範囲です。「ひと」のいるところすべてに看護の意義は存在します。看護はいろいろな可能性を秘めています。世界に目を向けて看護活動の視野を広げましょう。					
23.オフィスアワー	後ほど記入					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 6 日(月)1 限	1. 国際看護とは 1) 国際看護の概念 2) 看護による国際協力の意義 3) 国際看護の活動の場所と対象			1 年時の「看護学原論」で学習した「看護の本質」と「看護の国際化」を復習しておく。 授業内に課題を提示しますので、指定した用紙に記述して提出してください。		
第 2 回 10 月 13 日 (月)1 限	2. 世界の健康格差と戦略の潮流 1) 世界の健康問題 2) 世界の健康問題に対する戦略 3) 世界の健康問題に対する課題			海外の国のニュースを 1 つ以上見ておく。 授業内に課題を提示しますので、指定した用紙に記述して提出してください。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NAH101-M51	2.科目名	成人健康看護学概論		3.単位数	1
4.授業担当教員	高見沢恵美子、岩下真由美、房間美恵					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験 のある教員による授業 科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	基礎看護学概論 基礎看護方法論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 病態学			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・演習			
16.履修制限	急性/慢性看護学実習の履修を開始するまでに履修し単位を取得しておく					
17.授業の目的と概要	【目的】対象への看護に有用な概念および理論について学ぶことを目的とする。 【概要】看護専門職者、とくに看護師、保健師活動において対象とする成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴、健康問題の特徴について学修を深める。 この科目では、成人期にある人の健康の維持・増進や疾病からの回復を促進するための健康レベルに応じた看護実践に関わる基本概念を修得することをねらいとする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の額主目的に関連するディプロマポリシーは、以下の通りです。 (1) 自律性、(3) 多様性理解、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題について説明できる。 ②成人期にある人々への看護に有用な概念および理論について説明できる。					
19.教科書・教材	林直子、鈴木久美、酒井郁子、他（2022）：成人看護学概論（改訂第4版）社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える 南江堂					
20.参考文献	授業内で提示する。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 レポート課題 30%(各授業での課題を含む) 中間試験 30％ 総括試験 40％ 授業で提示された課題は指定の日時まで指定された方法で提出する。 レポート課題に関しては各授業の理解内容を問う。 中間試験は第1～3回目の授業内容とする。 統括試験は第4～7回目の授業内容とする。 レポート課題を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。					
22.コメント	成人看護学分野の基礎となる授業で、成人期にある人の看護実践に関わる基本概念を学修する。 授業でわからないことは積極的に質問し、主体的に学びを深めていきましょう。 課題・レポート・テスト等について、生成AIの利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子 : センター；火曜日昼休み 研究室；月曜日2限 岩下真由美 : センター；水曜日昼休み 研究室；火曜日昼休み					

		房間美恵 ：センター；水曜日昼休み 研究室；火曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 11 月〇日(水) 3 限 (2-401 教室)	※必ずノートパソコンとイヤホンを持参してください。 前半：【対面】オリエンテーション 後半：【オンデマンド：教室で実施】開講期間：12 月 18 日 2 限まで 成人期にある人の特徴 (1) 1.成人各期（青年期・壮年期・中年期（向老期）の身体的・心理社会的特徴 2.成人を取り巻く今日の状況 <岩下>	1.テキスト p1～32, p 33～55 を熟読して授業に臨むこと。
第 2 回 11 月〇日(水)3 限 (2-401 教室)	成人期にある人の特徴 (2) 3.成人期にある人の健康 4.生活習慣に関連する健康障害－生活習慣病 <高見沢>	1.テキスト p77～153 を熟読して授業に臨むこと。 2.授業の終了時に、課題を提示するので、課題提出をもって第 2 回を出席とします。
第 3 回 11 月〇日(水)3 限 (2-401 教室)	成人期にある人々への看護に有用な概念および理論 (1) 1.成人期にある人の意思決定を支える看護 2.家族の捉え方と家族支援の方法 第 1 回の確認小テスト 第 3 回の確認小テスト <岩下>	1.テキスト p192～196、p214～223、p288～297 を熟読して授業に臨むこと。 2.第 1 回と第 3 回の確認小テストの実施をもって、第 3 回の出席とします。
第 4 回 12 月〇日(水)3 限	【オンデマンド】開講期間：12 月 18 日 2 限まで 成人期にある人々への看護に有用な概念および理論 (2) 3.成人期にある人と関係を構築する際に基盤となる概念 1) ケアリングに基づいた関係 2) パートナースhipを構築する 3) その人のレジリエンスに目を向ける 4) 問題をもつ大人と看護師の人間関係 第 4 回の確認小テスト <房間>	1.テキスト p156～169 を熟読して授業に臨むこと。 2.確認小テストの実施をもって、第 4 回の出席といたします。
第 5 回 12 月〇日(水)3 限 (2-401 教室)	前半：【対面】中間試験 教室で実施 ※ノートパソコンとイヤホン持参 後半：【オンデマンド】開講期間：1 月 22 日 2 限まで 成人期にある人々への看護に有用な概念および理論 (3) 4.成人期にある人の発達を促進する援助に必要な理論や概念 1) 成人のセルフケアを育む 2) セルフ・エフィカシーを高める 3) 成人学習を促進する	中間試験：第 1～3 回までの授業が試験の範囲です。 1.テキスト p197～22 を熟読して授業に臨むこと。 2.①課題の提出と、②第 5 回の確認小テスト実施をもって、第 5 回の出席といたします。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)		NAH205-M51	2.科目名 急性・慢性看護技術演習		3.単位数	1
4.授業担当教員		高見沢恵美子、岩下真由美、白石夕起子、野村浩、平野通子、房間美恵				
5.授業科目の区分		専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻		看護学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件		看護師国家試験受験資格		11.先修条件	特になし	
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限		特になし				
17.授業の目的と概要		【目的】 健康状態の急激な変化により生命の危機状態にある、あるいは慢性疾患や障害とともに生活している成人患者・家族の最適な健康状態の回復・維持に働きかけるための看護援助に関する知識・技術を習得することを目指す。 【概要】 周手術期に関する技術、呼吸・循環機能、代謝機能を維持促進するための看護技術およびフィジカルアセスメント技術について学修する。 それぞれの授業で技術のロールプレイを行うため、事前に技術実施に必要な内容について課題を課します。課題については、指定された日に授業で資料を配布し説明する。課題について自己学習を行いレポートを作成し、授業で技術を実施し、グループメンバーからフィードバックを得て、技術に関するアクティブラーニングを行う。				
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識技能の活用力と関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.演習技術の目的・手順・留意点について説明できる。 2.演習技術を実施できる。				
19.教科書・教材		資料を配布する。				
20.参考文献		授業で適宜紹介する。				
21.成績評価		総括試験 5 0 % （課題と技術実施に関する筆記試験を行う）(学習目標 1 に対応) 技術実施 3 0 % （学習目標 2 に対応) 課題レポート 2 0 % （第 1 回ガイダンス時に配布する日程表に記載してある第 2 回～第 14 回の事前学習課題)(学習目標 1・2 に対応) ※課題レポートを提出することが単位認定の前提となるので注意すること。				
22.コメント		事前学習に真摯に取り組み、根拠に基づいて演習技術を習得していきましょう。 課題・レポート・テストでは、生成 AI の利用を認めません。				
23.オフィスアワー		高見沢恵美子：センター火曜日 12:15～13:15 岩下真由美：センター火曜日 12:15～13:15				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 2-401 9 月 30 日(火)2 限	A クラス ガイダンス ス		B クラス ガイダン		グループ配置・AB クラスの日程表・課題と演習時の服装等について説明します。	

第2回 10月7日(火)2 限	術前処置／術前訓練 (アクティブラーニング)	血糖値測定	10月1日(火)に実施要項・事前課題を配布する。
第3回 10月7日(火)3 限	術前処置／術前訓練 (アクティブラーニング)	血糖値測定	
第4回 10月21日 (火)2限	血糖値測定 術前処置／術 前訓練 (アクティブラーニング)		10月1日(火)に実施要項・事前課題を配布する。
5回 10月21日 (火)3限	血糖値測定 術前処置／術 前訓練 (アクティブラーニング)		
第6回 10月28日 (火)2限 第6回 10月28日 (火)3限	フィジカルアセスメント (アクティブラーニング) カルアセスメント (アクティブ ラーニング)	フィジ (アクティブ	10月22日(火)に実施要項・事前課題を配布する。
第7回 11月11日 (火)2限	心電図 BLS(1次救急蘇生法) (アクティブラーニング)		11月5日(火)に実施要項・事前課題を配布する。
第8回 11月11日 (火)3限	心電図 輸液管理 (アクティブラーニング)	輸	
第9回 11月18日 (火)2限	BLS(1次救急蘇生法) (アクティブラーニング)	心電図	11月12日(火)に実施要項・事前課題を配布する。
第10回 11月18日 (火)3限	輸液管理 (アクティブラーニング)	心電図	
第11回 12月2日(火)2 限	術後観察 自己注射指導 (アクティブラーニング)	インスリン	11月26日(火)に実施要項・事前課題を配布する。
第12回 12月2日(火)3 限	術後観察 自己注射指導 (アクティブラーニング)	インスリン	
第13回 12月16日 (火)2限	インスリン自己注射指導 (アクティブラーニング)	術後観察	12月3日(火)に実施要項・事前課題を配布する。
第14回 12月16日 (火)3限	インスリン自己注射指導 (アクティブラーニング)	術後観察	
第15回 2-	まとめ	まとめ	

401 12 月 23 日 (火)2 限		

1.授業コード (ナンバリング)	NAH207-M51	2.科目名	精神看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里、吉井ひろ子					
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	精神の健康問題を抱える人々とその家族の特徴や、精神看護の役割と課題について理解を深め、精神看護の援助方法と技術に関する知識や理論の習得をねらいとする。具体的には、精神の健康問題に関する知識や、精神的健康問題をもつ患者に対するコミュニケーション技法を含む精神看護援助技術について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神看護援助論の学習目標】 精神看護の援助対象者を人として理解し、尊重する態度を身につけることができる。 精神疾患の知識、アセスメント能力、看護問題、ストレングスなどの視点を身につけることができる。 精神看護援助の知識と技術を身につけることができる。 自己理解と精神看護援助に必要なコミュニケーション技術を身につけることができる。					
19.教科書・教材	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 2					
20.参考文献	自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード第 3 版，長谷川雅美著，日綜研，2020 精神看護学第 2 版 学生－患者のストーリーで綴る実習展開，田中美恵子編著，医歯薬出版，2015 実践オレム-アンダーウッド理論，南裕子編著，講談社，2005					
21.成績評価	課題については提出要件を満たし、合計で 6 割以上、かつテストでの点数が 6 割以上であることを合格基準とする。 プロセスレコード（5%）・・・記載の仕方を理解し、正しく記載できているか評価 授業内課題・感想 12 月 6 日（3%）・12 月 20 日（3%）・1 月 24 日（4%）（計 10%）・・・記載内容を踏まえて評価 看護過程のグループワークと発表（10%）・・・グループワークの参加度と役割、発表時の他者評価を総合して評価 看護過程課題（15%）・・・グループワークと発表を踏まえて追記修正されたものを評価 中間テスト（20					
22.コメント	毎回の学修の積み重ねが重要です。3 年次の実習に直接関わり、国家試験取得に不可欠な科目であるため、遅刻欠席はせずに主体的に取り組みましょう。 アクティブラーニングの姿勢を求めます。積極的に挙手をして授業に参加しましょう。 授業で用いるパワーポイントの撮影は禁止します。しっかりノートを取りましょう。ノートは実習時に確認をします。 また、授業資料は WebClass に載せますので、復習に用いてください。成績開示は随時しています。					
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー火曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み （西村）センターオフィスアワー水曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
10月3日 【第1回・2回】 櫻井	(1 限) オリエンテーション 精神看護援助論について ケアの前提・原則・方法 (教科書 2-p2~27) (2 限) 関係をアセスメントする、プロセスレコードの意義と書き方 (教科書 2-p28~45)	宿題：プロセスレコードを作成し、期限までに提出。 気分障害、不安障害、依存症の看護について、各自図書館を利用しながら事前学習をしておくこと。
10月10日 【第3回・4回】 西村	(1 限) 精神科における治療と看護 (気分障害、不安障害の看護) (2 限) 精神科における治療と看護 (依存症の看護)	宿題：次回範囲の教科書を事前に読んでおくこと。
10月17日 【第5回・6回】 櫻井	(1 限) 患者－看護師関係における感情体験、チームのダイナミクス (教科書 2-p45~68) (2 限) 回復を支援する 回復の意味、リカバリー (教科書 2-p70~113)	宿題：次回の授業範囲、統合失調症の看護 (病態生理を含む) について、図書館を利用しながら事前学習をしておくこと。
10月24日 【第7回・8回】 櫻井	(1 限) 精神科における治療と看護 (統合失調症の看護) (2 限) 看護過程の展開	宿題：中間テストの学習
10月31日 【第9回・10回】 櫻井、西村	(1 限) 中間テスト 45 分 その後、(1・2 限) 事例検討グループワーク	宿題：看護過程個人ワーク 次回範囲の教科書を事前に読んでおくこと
11月7日 【第11回・12回】 西村	(1 限) 地域におけるケアと支援 (教科書 2-p116~129・150~177) 地域生活を支えるケアの方法と実際 (2 限) 事例検討グループワーク	パソコンを持参 宿題：看護過程個人ワーク
11月14日 【第13回・14回】 櫻井、西村	看護過程の展開 1G~8G (1 限) 精神症状の理解 妄想かるた (2 限) 事例検討グループワーク 看護過程の展開 9G~16G (1 限) 事例検討グループワーク (2 限) 精神症状の理解 妄想かるた	宿題：次回の範囲の教科書を読んでおくこと。 ★セルフケア発表のグループ→パワーポイント資料をウェブクラスに提出 (11月20日13時締切)、発表に向けた準備をする。
11月21日 【第15・16回】 櫻井、西村	(1 限) 事例検討グループワークの発表 (セルフケア) (2 限) 入院治療の意味 (教科書 2-p196~254)	パソコンを持参 ★発表の評価を提出 ★看護計画発表のグループ→パワーポイント資料をウェブクラスに提出 (11月27日13時締切)、発表に向けた準備をする。
11月28日 【第17回・18回】 櫻井・西村	(1 限・2 限) 事例検討グループワークの発表 (看護計画)	パソコンを持参 ★発表の評価を提出 宿題：次回の範囲の教科書を読んでおくこと。
12月5日	(1 限) 当事者の体験を理解する	★2限の講義を通しての学びと感想の提出

【第 19 回・20 回】 西村	(2 限) アルコール依存症、当事者の体験	宿題：次回の範囲の教科書を読んでおくこと。
12 月 12 日 【第 21 回・22 回】 櫻井、西村	(1 限) 地域生活を支えるシステムと社会資源 (教科書 2-p130~149・178~194) 学校・職場におけるメンタルヘルスと精神看護 (2 限) 身体をケアする (教科書 2-p256~310)	★看護過程の課題を授業前に提出 ★発表の評価を提出 宿題：看護過程個人ワーク 宿題：次回の範囲の教科書を読んでおくこと。
12 月 19 日 【第 23 回・24 回】 櫻井	(1 限) 安全をまもる リスクマネジメント、緊急事態に対処する (教科書 2-p312~348) (2 限) CVPPP 実技	動きやすい服装で来ること。 ★2 限の講義を通しての学びと感想の提出 宿題：次回の範囲の教科書を読んでおくこと。 1 月 17 日の資料を配布するので解いておくこと。
1 月 9 日 【第 25・26 回】 西村	(1 限) リエゾン精神看護 (教科書 2-p350~372) 災害時のメンタルヘルスと看護 (教科書 2-p374~388) (2 限) 看護師のメンタルヘルス (教科書 2-p390~411)	宿題：1 月 17 日の資料を解いて学習しておくこと。
1 月 16 日遠隔 【第 27・28 回】 櫻井	(1 限・2 限) 精神看護学の復習、国家試験問題の解説	宿題：テストに向けての自己学習
1 月 23 日 【第 29 回】 櫻井、西村 【第 30 回】 櫻井、西村 大村病院看護師	(1 限) テスト (2 限) 大村病院よりゲストスピーカー 精神科病棟での看護、精神看護の奥深さについて	★2 限の講義を通しての学びと感想の提出

1.授業コード (ナンバリング)	NBS201-M51	2.科目名	疫学		3.単位数	2
4.授業担当教員	余田佳子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 疫学とは人の集団を対象として、健康に関する状態や疾病の分布を調べ、その発生原因の究明および予防を図る学問です。疫学は幅広い分野で用いられるため、疫学を行うための手法を学習し、将来活用できる知識とスキルを身につけます。 【概要】 疫学の概念や方法論などの基本的知識を習得します。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標は次の通りです。 ①疫学の定義と基本的な用語について説明できる。 ②さまざまな健康問題について指標を用いて比較することができる。 ③疫学研究の方法について説明できる。 【関連する DP（ディプロマ・ポリシー）】 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配付します。					
20.参考文献	・基礎からわかる看護疫学入門（第3版）、大木秀一著、医歯薬出版 ・基礎から学ぶ楽しい疫学（第4版）、中村好一著、医学書院 その他、関連サイトの URL などは授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	以下の（1）～（3）すべてを実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 （1）確認テスト：授業期間中に 3 回実施（学習目標①～③に対応） 30％ （2）レポート：授業期間中に 1 回実施（学習目標③に対応） 10％ （3）総括試験（学習目標①～③に対応） 60％					
22.コメント	・授業で理解できない箇所があれば、積極的に質問すること。 ・生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	疫学の定義、歴史、基本的用語			授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。		
第 2 回	因果関係、 疫学に必要な統計学			授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。		
第 3 回	疾病頻度の指標			授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。		
第 4 回	曝露指標（相対危険、寄与危険）			授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。		
第 5 回	記述研究、生態学的研究、横断研究、コホート研究			授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。		
第 6 回	症例対照研究、介入研究			授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。		
第 7 回	疫学研究デザインのまとめ			授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。		

第 8 回	誤差（バイアスと交絡）	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。
第 9 回	スクリーニング	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。
第 10 回	感染症の疫学	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。
第 11 回	食中毒の疫学	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。
第 12 回	疫学研究と倫理 社会疫学、政策疫学	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。
第 13 回	個人情報保護 臨床疫学、EBN	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。
第 14 回	まとめ	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。
第 15 回	試験	授業内容を復習し、演習問題は再度解くこと。

1.授業コード (ナンバリング)	NCH216-M51	2.科目名	老年看護援助論	3.単位数	2
4.授業担当教員	中山和美、炭野実千、高田美子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	専門科目			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	老年健康看護学概論	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業目的】 老年期における心身の変化や特有の疾患・症状について理解し、高齢者とその家族に対する基本的な看護援助の知識・技術の修得をねらいとする 【概要】 高齢者の日常生活、おおび加齢に伴う症状や徴候のアセスメントの方法、加齢と疾病に伴う生活機能の変化と、喪失した生活機能の再構築と適応に向けての看護援助の方法について学習するとともに、脳梗塞の高齢者の紙上事例を用いて看護過程を展開する				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ① 高齢者の加齢と疾病に伴う生活機能の変化と、喪失した生活機能の再構築と適応に向けての看護援助の方法を説明できる ② 高齢者の特徴を踏まえた看護過程の実際を脳梗塞の紙上事例を用いて展開できる 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決力 DP6 専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院				
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術,医学書院 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程,医学書院 藤崎都；フィジカルアセスメント完全ガイド,Gakken				
21.成績評価	【評価の方法】 ・ 高齢者の障害された生活機能再構築に向けての援助についてグループワーク、デモンストレーションを行い、援助方法の資料を作成、提出し発表する ・ 紙上事例による看護過程展開をグループワーク実施後、個人の意見や考えを追加してまとめ提出する ・ 総括試験により知識の確認を行う 【最終評価得点】 ① 紙上事例による看護過程展開：40%(個人 30%、グループ 10%) (目標①) ② 筆記試験：60% (目標②)				
22.コメント	看護過程展開は、個人ワークの結果をグループワークをしながらまとめていくため、必ず、個人ワークをしてから授業に臨んでください オンライン授業になる場合は、変更点は改めて指示します				
23.オフィスアワー	高田 水曜 9:30~10:30				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回目 10月2日(木) 1限・2限	全体導入 授業及び演習についてオリエンテーション 老年看護学の復習、授業の構成、展開する事例、評価について 老年期とは、発達課題、老年期の加齢に伴う身体的変化、疾患の特徴 と看護、高齢者の加齢と疾病に伴う喪失した生活機能の再構築に向けての援助、高齢者に生じやすい健康問題について	持参するもの 持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施 毎回授業時にはPC持参してください。
2回目 10月9日(木) 1限・2限	加齢に伴う認知機能の低下及び看護について 加齢に伴う循環・呼吸機能の低下及び看護について 高齢者に生じやすい健康問題について学修する。	持参するもの 持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み 予習・復習を自主的に実施
3回目 10月16日(木) 1限・2限	加齢に伴う消化機能の低下及び看護について 加齢に伴う排泄機能の低下及び看護について 高齢者に生じやすい健康問題について学修する。	持参するもの 持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み 高齢者に生じやすい健康問題について、予習、復習を自主的に実施
4回目 10月23日(木) 1限・2限	加齢に伴う睡眠・代謝機能の低下及び看護について 加齢に伴う運動機能の低下及び看護について 高齢者に生じやすい健康問題	持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み高齢者に生じやすい健康問題について学修する。予習、復習を自主的に実施
5回目 10月30日(木) 1限・2限	高齢者に生じやすい健康問題について学修する。 個別学修・グループ学修及び発表予定 詳細は別紙配布します。 精神活動に関する症候、せん妄、抑うつ、 認知症、入院、感染症、手術後、薬の影響など 認知機能の低下、睡眠・覚醒リズムの乱れ、等	持参するもの 既習の資料、教科書読み高齢者に生じやすい健康問題について 該当の発表項目について予習、復習を自主的に実施
6回目 11月6日(木) 1限・2限	高齢者に生じやすい健康問題について学修する。 循環に関する症候 循環器機能の低下、筋力低下、栄養、腎機能低下 体内の水分量の低下・口臭の知覚の低下・腎機能の低下、免疫機能・代謝・視床下部の調節機能の低下 浮腫、発熱、脱水について病態と看護、	持参するもの 既習の資料、教科書 高齢者に生じやすい健康問題について 該当の発表項目について予習、復習を自主的に実施
7回目 11月13日(木) 1限・2限	高齢者に生じやすい健康問題について学修する。 自立生活の維持拡大、寝たきり、コミュニケーション障害、食生活・栄養の変調、認知症予防、レクレー	持参するもの 既習の資料、教科書 高齢者に生じやすい健康問題について

	ションについて	該当の発表項目について予習、復習を自主的に実施
8 回目 11 月 20 日(木) 1 限・2 限	事例のアセスメントに必要な知識を身に付けることができる。 アセスメントに関する講義（病態・検査・治療の理解） アセスメントツールに基づいて情報整理・分析ができる。 第 8～14 回は、A 組と B 組に分かれて授業を行う 詳細は別紙配布 (担当:中山) ① A 看護過程の展開 → 老年看護技術 ② B 老年看護技術 → 看護過程の展開 11/27～1/8 学修する。 【老年看護技術の演習】 技演習事例に基づいて以下の技術を 1 つ選択し、グループワークおよびデモンストレーションによる	持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施 ヘンダーソン 14 項目の視点において情報を分類する。 大腿骨頸部骨折について病態・診断・治療について事前学修する
9 回目 11 月 27 日(木) 1 限・2 限	A 組：看護目標と計画立案 B 組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術演習高齢者に生じやすい健康問題について学修する。	持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施 ヘンダーソン 14 項目の視点において情報を分類しアセスメントのしておくこと。
10 回目 12 月 4 日(木) 1 限・2 限	A 組：看護目標と計画立案 B 組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術演習高齢者に生じやすい健康問題について学修する。	持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施
11 回目 12 月 11 日(木) 1 限・2 限	前半の発表 A 組：看護過程の発表・質疑 B 組：老年看護技術発表・質疑	持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施
12 回目 12 月 18 日(木) 1 限・2 限	A 組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術演習(ナレーション、グループ間で調整) B 組：病態・生活機能関連図と看護問題	持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施
13 回目 1 月 8 日(木) 1 限・2 限	A 組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術について演習事例に基づいて高齢者に生じやすい健康問題について学修する B 組：看護目標と計画立案	持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施
14 回目 1 月 15 日(木) 1 限・2 限	A 組：看護技術発表・質疑 B 組：看護過程の発表・質疑	提出用記録のまとめ方について 持参するもの 既習の資料 教科書該当箇所を読み予習、復習を自主的に実施

		実施 授業の復習をしっかりと行ってください。
15 回目 1 月 22 日(木) 1 限・2 限	筆記試験(総括試験)	

1.授業コード (ナンバリング)	NCH218-M51	2.科目名	在宅看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、煤田恵子					
5.授業科目の区分	専門科目 在宅看護分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	看護師		11.先修条件	在宅看護学概論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習 緊急事態宣言等の場合は、Zoom による遠隔 授業とする。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 在宅看護学の対象者（療養者の健康段階・発達段階・疾患・医療処置）に対して、必要とされる能力（①尊厳を守る看護、②信頼関係を築く看護、③意思決定を支える看護、④暮らしの場における健康危機とその管理の看護、⑤支援体制を構築する看護）を統合的に学ぶことを目指す。 【概要】 在宅看護における日常生活援助や医療的ケア援助に関する基本的なアセスメントや援助技術の具体的な展開方法を学ぶ。また、さまざまな事例を通じて、療養者や家族、その取り巻く環境や状況に応じた在宅看護の実践を学び、既習の看護知識を応用して在宅看護の実践につなげる。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 在宅看護技術の実践 療養者やその家族の状況、および生活環境に合わせた日常生活援助や医療的ケアの援助技術を、根拠に基づいて具体的に考え、実践することができる。また、在宅看護における基本的な概念や対象者の特徴を理解し、自律的かつ主体的に学びを深める姿勢を養う。（DP1: 自律性） 2. 看護過程の展開の技術の実践 在宅看護に必要な看護過程展開の技術を習得し、事例に基づいて療養者の多様な健康障害の種類、健康の段階、発達段階、そして個別の生活過程をアセスメントすることで、看護過程を効果的に展開し、療養者の特徴をふまえた看護実践に必要な基礎的能力を身につける（DP3: 多様性の理解、DP6: 専門性） 3.健康危機管理の実践 急変時や健康危機に対して的確な判断と対応を行い、問題を発見し解決する力を養う。また、在宅で起こりうるリスクの予知とその対応について説明できるようにする（DP4: 問題発見・解決力、DP6: 専門性）。（DP4: 問題発見・解決力、DP6: 専門性） 4.多職種連携の理解 在宅看護における多職種連携の重要性を理解し、異なる専門分野との協働を通じて在宅の特徴を説明できる。（DP6: 専門性） 5.社会資源の活用技術の実践 療養者と家族が安心して生活を続けられるよう、地域資源や社会的支援を活用し、療養者に合った社会資源のマネジメントする能力を養う。（DP1: 自律性、DP6: 専門性） 6.事例を通じた実践力の向上 事例検討を通じて、これまでの学習内容を統合し、在宅看護の現場で起こりうる問題を発見し、解決に向けた具体的なアプローチを考えることで、問題解決力を向上させる。また、ロールプレイを通じて、訪問看護に必要な基本的なマナーやコミュニケーションスキルを身につける					

	る。 (DP4: 問題発見・解決力、DP5: コミュニケーションスキル、DP6: 専門性)	
19.教科書・教材	A: 臺有桂他 (2023) .ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版,大阪. B: 臺有桂他 (2022) .ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版,大阪.	
20.参考文献	C:角田直枝 (2020) .よくわかる在宅看護 改訂第3版,Gakkenn,東京. 各単元の課題: 各日程の Web class にアップしている (2 日前)。事前に各自でダウンロードし、学修しておくこと (対面授業の場合は、印刷物を配布する)。 D:医学情報科学研究所 (2017) .病気がみえる vol.7(脳・神経),メディックメディア,東京.他	
21.成績評価	1.試験受験資格; 授業回数の 2 / 3 以上の出席者とする。 出席確認 ①通常開講時; カードリーダーとリフレクションペーパー提出により出席とする。 ※出席票提出は、授業時間終了直後までとする。 ②遠隔授業期間の場合; 授業開始時に Zoom (チャット) により出席登録を行うこと。 ※学籍番号、氏名を入力。また、課題を期限内に Web class に提出すること。 2.試験 (中間 20%・統括 30%) 50% 中間テストの結果で自身の課題を認識し、自己学習を行う。 3.講義・演習・レポ	
22.コメント	本授業は在宅看護学実習を見据え、そのイメージ化を図るまでの重要な科目になります。そのため、在宅看護に関わる知識・技術の理解をするために、事前学習課題の実施、講義・演習への積極的な態度が臨まれます。演習では、看護の領域で求められる、自律性・問題発見能力、解決力、協調性を身に着けるために、グループでの行動が多くなります。そのためにはグループメンバーには誠実な態度で向き合うようにしましょう。	
23.オフィスアワー	オフィスアワー; 畑、榎田 (水曜日昼休み) センターオフィスプログラム; 畑、榎田 (木曜日昼休み)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1,2 回 (鶴飼・榎田) 10 月 1 日	第 1 回; オリエンテーション 在宅看護に求められる 5 つの能力 在宅看護援助技術の特徴 在宅看護援助論 30 回のスケジュール 日常生活援助技術演習の説明 日常生活を支える看護技術の説明 第 2 回 看護過程の展開【講義】 看護過程演習の進め方	授業最後の時間にレポートの内容、期限をお知らせする
第 3,4 (榎田) 10 月 8 日	3 回・4 回 在宅看護の看護過程の展開技術 在宅看護における看護過程の展開の特徴 考え方 (目標志向型) 情報収集の項目とアセスメントのポイント	
第 5,6 回(榎田) 10 月 15 日	5 回 看護過程の展開【演習】	5 回 ◆ノートパソコン持参

	健康の段階・発達課題 発表・まとめ 第 6 回 看護過程の展開【演習】 個別な生活の課題・導き出された看護の方向性 発表・まとめ	○事前課題：発達課題 ○事後学修：発達課題のまとめ 6 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：個別な生活課題 ○事後学修：個別な生活の課題のまとめ
第 7,8 回（榎田） 10 月 22 日	第 7 回 看護過程の展開【グループワーク】【演習】 受け持ち事例を取り巻く社会資源の状況 発表・まとめ 第 8 回 看護過程の展開【個人】【演習】 看護計画 事例紹介 療養者プロフィール～看護計画 発表・まとめ	◆ノートパソコン持参 ○事前課題：導かれた看護の方向性 ○事後学修：導かれた看護の方向性のまとめ 第 22 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：受け持ち事例を取り巻く社会資源の状況 ○事後学修：受け持ち事例を取り巻く社会資源の状況のまとめ
第 9,10 回(榎田) 10 月 29 日	第 9 回・10 回 看護過程の展開【個人】【演習】 看護計画 事例紹介 療養者プロフィール～看護の方向性 発表・まとめ	◆ノートパソコン持参 ○事前課題：看護課題の抽出 ○事後学修：看護課題の抽出と優先順位のまとめ 看護過程レポート提出期限：
第 11,12 回(鵜飼・榎田) 11 月 5 日	第 11 回・12 回 コミュニケーション、訪問マナー 【演習】	
第 13,14 回(鵜飼・榎田) 11 月 12 日	第 13 回・14 回 ロールプレイ演習	
第 15,16 回 11 月 19 日 中間試験：鵜飼・畑 授業：榎田	第 15 回； 中間評価 16 回 - セルフケア能力を高める技術 - 家族の介護能力を高める技術 - 家庭にある物品の活用方法 - 経済性を考慮したケア 具体的には、セルフケア能力の向上や実施可能なケア方法の提供、物品の工夫による活用、経済性を考慮した援助計画と手順書の作成に取り組みます。 障害がある療養者の清潔ケア（寝衣交換、清拭） 教科書：P.84-87 排泄、肢位の保持と移動 （福祉用具の活用の検討・スライディングシートの活用）教科書 P.88-104	

第 17,18 回(鵜飼、楳田) 11 月 26 日	第 17 回・18 回グループワーク 日常生活を支える看護技術（演習）	
第 19,20 回 （楳田） 12 月 3 日	第 19 回 療養を支える看護技術（医療ケア） 医療ケアの原理原則、薬物療法、疼痛管理 輸液管理（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法） 教科書：P.106-108、P.108-112、P.175-185 第 20 回 療養を支える看護技術（医療ケア） 以下の 3 点の技術を重点に学ぶ ・在宅での安全性・安楽性の考慮する ・対象者・家族が継続して観察できるように指導する ・専門家への相談を有効にする 具体的には ・気管カニューレ管理、在宅酸素療法（HOT） ・在宅人工呼吸療法（HMV）：非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）	第 1 医療的ケアの予習 P106-112 P117-137 P175-1859 回
第 21 回(楳田) 12 月 10 日	第 21 回 療養を支える看護技術（医療ケア）褥瘡 ・対象者・家族が継続して観察できるように指導 ・安全性・安楽性を考慮する ・家族の介護力を高める ・社会資源を活用 具体的には、褥瘡の発生要因（環境含む）を考え、家族に指導できる能力を養う。 褥瘡の実践（褥瘡評価ツール DESIGN-R ?） 褥瘡発生要因アセスメント、ポジショニング 教科書：P.155-159 事例紹介 発生要因を考える、ブレーデンスケール評価をする 第 22 回 褥瘡の発生要因からポジショニング【演習 4】 ドレッシング材を考える	第 21 回 褥瘡発生要因 P155-159 予習
第 23,24 回(鵜飼) 12 月 19 日	第 23 回・24 回 退院支援 （意思決定支援技術を学ぶ）	第 23 回.24 回 退院支援とは（予習）
第 25,26 回 （楳田） 1 月 7 日	第 25 回 在宅療養におけるケアマネジメントの展開【講義・演習】 社会資源活用のマネジメント技術を学ぶ。療養者や家族の望みに応えるため、社会資源の調整や経済性を考慮したサービスの調整、家族の介護負担を軽減するためのサービス提供について検討する。 第 26 回	

	健康危機管理 安全性を考慮する技術 具体的には、訪問看護師が訪問しているときの危機を KYT シートを使用して考える 訪問看護師の勤務中の危機管理を KYT（訪問時の災害、訪問中の暴力・ハラスメント被害） 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理（DVD）	
第 27,28 回(鶴飼、楳田)1 月 14 日	第 27 回・28 回 事例で学ぶ在宅看護の技術【演習】 在宅看護看護技術以下 9 点を含んだ技術提供を行う 1.セルフケア能力を高める 2.家族の介護能力を高める 3.家庭にある物品を活用する 4.家族の介護負担を軽減する方法 5.経済性を考慮する 6.安全性・安楽性を考慮する 7.対象者が継続して観察できるように指導する 8.専門家への相談を有効にできる 9.社会資源を活用できる この技術を総合的に入れたシナリオを考える。 ロールプレイ 事例は看護過程展開した療養者で看護計画をもとにロールプレイを実施する。グ	第 27 回 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加 第 28 回 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加
第 29,30 回(鶴飼、楳田)1 月 21 日	第 29 回； 事例で学ぶ在宅看護の技術ロールプレイ【演習】 発表 2 ロールプレイ演習教員評価・学生からの評価 第 30 回；統括試験（30 分）	○第 29 回 授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加

1.授業コード (ナンバリング)	NCH301-M51	2.科目名	公衆衛生看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤原和美、倉田哲也、中世古恵美					
5.授業科目の区分	専門教育科目、専門科目、生活支援看護学 公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護学分野選択の場合は必修)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	公衆衛生看護学選択学生のみが受講できます。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、公衆衛生看護活動の理念、公衆衛生看護活動の対象・場・展開方法について学び、公衆衛生看護活動に必要な基本的考え方及び知識を修得します。 【概要】 保健師は看護と公衆衛生の両方の専門性を有し、地域全体の健康度の向上を目指して個人、家族、集団、地域全体を対象に公衆衛生看護活動を展開します。保健師は公衆衛生の視点から、地域全体の健康課題を見出し、解決策を提案する力が求められます。この科目では、公衆衛生看護活動の理念、対象、場、展開方法について学び、地域の健康課題に対処するための基本的な考え方や知識を身につけます。本科目は公衆衛生看護学を学ぶ上で最も基本となる重要な科目です。今までに学んだ看護学の知識を基盤としながら、本科目を学び、保健師としての専門性と公衆衛生への理解を深め、地域の健康を守るための知識や考え方を身につけましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の、（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用の学修に関連しています。 本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は以下の通りです。 1)公衆衛生看護の理念と目的が説明できる。 2)公衆衛生看護の対象と活動の特徴を説明できる。 3)社会環境の変化に伴う健康課題の変遷と関係法規について説明できる。 4)公衆衛生看護活動の場（行政、産業、学校）とそれぞれの場における活動方法の特徴を説明できる。 5)公衆衛生看護活動における地域アセスメントについて説明できる。 6)地球規模の健康課題と日本における国際保健活動の実際について説明できる。					
19.教科書・教材	公衆衛生看護学.jp 第 6 版 インターメディカル 国民衛生の動向 2025/2026（厚生労働統計協会）					
20.参考文献	保健師業務要覧 第 3 版 井伊久美子他編集 日本看護協会出版会 公衆衛生がみえる（メディック・メディア）					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります 1. 講義終了時の課題（5 点×9 回）45%（学習目標 1・2・3・4・5・6 に対応） 2. 中間試験 15%（学習目標 1・2・3・5・6 に対応） 3. 総括試験 40%（学習目標 1・2・3・4・5・6 に対応）					
22.コメント	本科目は、公衆衛生看護を学ぶ上で基盤となる科目です。公衆衛生看護の理念や保健師が地域で展開する公衆衛生看護活動の展開方法の基本を学びます。市町における保健師活動の実際について、開発途上国における保健師活動の実際については外部講師による講義をしていただき					

	ます。本科目を通して保健師への興味や関心をより高めていただき、4年生の講義、演習、実習へとつなげていただければと思います。生成AIの活用についてはいかなる場合も認めない	
23.オフィスアワー	藤原：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 倉田：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回目 対面講義①	<科目ガイダンス>藤原・中世古 保健師課程履修ガイダンス	
2回目	<公衆衛生の理念>藤原 ・公衆衛生の理念・目的・目標、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念について学ぶ。	事後課題①確認テスト+コメントシートの投稿 提出期限 (Web Class)
3回目	<公衆衛生看護活動の基盤>藤原 公衆衛生看護の定義、公衆衛生看護活動の理念を始め活動の基盤となる考え方を学ぶ。	事後課題②確認テスト+コメントシートの投稿 提出期限 (Web Class)
4回目	<公衆衛生看護の歴史> 公衆衛生看護の歴史的変遷について学ぶ。	事後課題③確認テスト+コメントシートの投稿 提出期限 (Web Class)
5回目	<社会環境の変化と健康課題(健康格差を含む)> 看護の対象者を取り巻く社会環境の変化と健康課題の変遷、現在の健康課題や健康格差の実態について学ぶ。	事後課題④確認テスト+コメントシートの投稿 提出期限 (Web Class)
6回目	<公衆衛生看護の場①行政機関>中世古 公衆衛生看護の活動の場（行政機関）の特徴を学ぶ。	事後課題⑤確認テスト+コメントシートの投稿 提出期限 まで (Web Class)
7回目	<公衆衛生看護の場②職域・学校>藤原 ・産業保健の場と対象の特性、職域における健康問題と産業保健活動の概要を学ぶ ・学校保健の場と対象の特性、学校における健康問題と学校保健活動の概要を学ぶ	事後課題⑥確認テスト+コメントシートの投稿 提出期限 まで (Web Class)
8回目	<公衆衛生看護の場③ 国際保健>中世古 地球規模の健康課題と健康課題解決に向けた国際保健医療協力（ODA など）について学ぶ。	事後課題⑦確認テスト+コメントシートの投稿 提出期限 まで (Web Class)
9回目	<オンデマンド講義のまとめ> 第2～8回までの知識を確認するための中間テスト(Web) <公衆衛生看護活動の方法①個人・家族へのアプローチ	

	チ(家庭訪問・健康相談)>中世古 公衆衛生看護の対象(個人・家族・集団・組織・地域) 個人・家族へのアプローチの特徴を学ぶ。	
10回目	<公衆衛生看護活動の方法②集団へのアプローチ(健康診査・健康教育・グループ支援)>藤原 ・集団・グループへのアプローチの特徴を学ぶ。 ・健康診査、健康教育、グループ支援の方法について学ぶ。	
11回目	<公衆衛生看護活動の方法③地域へのアプローチ(地区活動・地域ケアシステムの構築)> 地域へのアプローチとして、地区活動、地域包括ケアシステム・支援ネットワークの構築について学ぶ。	
12回目	<市町村における保健師活動の実際(特別講師)> ・兵庫県内で市町保健師として活動している保健師による特別講義をおこなう。 ・住民に最も身近な保健サービスを提供する市町保健師の特別講義から市町における保健師活動の特徴について学び、公衆衛生看護学実習(保健所・市町村)に活かす。	事後課題⑧ 特別講義からの学びについて 提出期限 まで (Web Class)
13回目 対面講義⑥ 1/22 2時限	<日本の国際保健医療協力の実例(特別講義 JICA ボランティアセミナー)> 国際協力機構(JICA)がJICA 海外ボランティアの活動についての普及啓発のために実施している JICA ボランティアセミナーの事業を利用する。 JICA 海外ボランティアの保健師隊員として開発途上国で国際保健医療協力活動の実践経験のある講師から国際保健医療協力活動の実例について学ぶ。	事後課題⑨ 特別講義からの学びについて 提出期限 まで (Web Class)
14回目	<地区診断と施策化>藤原 ・保健師の行う地域アセスメントの特徴と地域の健康課題を解決するため事業化、施策化に向けた活動の方法について学ぶ。 <保健師活動と倫理> ・公衆衛生看護における倫理についてその基本的考え方を学ぶ。 テキスト該当ページ:p.17-22、p.110-129	
15回目 総括試験	<総括試験> 試験範囲は第2～14回のうち、特別講義(12回、13回)を除いた回のすべて	

1.授業コード (ナンバリング)	NCH302-M81	2.科目名	公衆衛生看護展開論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中世古恵美、倉田哲也、藤原和美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護 学分野選択の場 合は必修)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（うち、オンデマンド7回）		
16.履修制限	履修制限あり。 公衆衛生看護学分野選択学生のみ受講できる。					
17.授業の目的と概要	【目的】 発達段階の特性(母子・成人・高齢者)及び健康課題の特性(精神障がい・障がい児者・難病・感染症)に応じた行政保健師の支援方法の基本的知識を修得すること目的とする。 【概要】 本科目は前半部分は発達段階、健康課題毎の法律、施策制度についてのオンデマンド型授業、後半はそれらの制度や施策に基づいて個人、家族、集団を対象に展開されている保健師活動の実際について対面授業を行う。保健活動において基盤となる発達段階の特性(母子・成人・高齢者)及び健康課題の特性(精神障がい・障がい児者・難病・感染症)に対する法律、政策、制度を理解し、それをもとにした各発達段階、健康課題に対する保健師の支援方法を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の、（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用の学修に関連しています。 本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は以下の通りです。 1) 各発達段階（母子・成人・高齢者）ならびに健康課題（感染症・精神障がい・難病・障がい児者）に対する保健活動の基盤となる法律、政策、制度について説明できる。 2) 発達段階（母子・成人・高齢者）及び健康課題（感染症・精神障がい・難病・障がい児者）の特性に応じた保健師の支援方法の要点について説明できる。 3) 在留外国人の生活や健康課題の特性、在留外国人に適用される保健サービスの概要について理解し、在留外国人の基本的人権を尊重すると共に異文化、多様性を考慮した保健活動について考えることができる。					
19.教科書・教材	公衆衛生看護学.jp 第6版 インターメディカル 国民衛生の動向 2024/2025（厚生労働統計協会）					
20.参考文献	保健師業務要覧（日本看護協会出版会）、公衆衛生がみえる（メディック・メディア）					
21.成績評価	1. 事後課題 45% 目標 1、2 に対応 ①オンデマンド授業終了時の課題（コメントシートの提出と確認テストの解答）5 点×7 回＝35 点 ②特別講義（外部講師）終了時の課題（事後レポート） 5 点×2 回＝10 点 2. 中間テスト 15% 目標 1、2 に対応 3. 総括試験 40% 目標 1、2、3 に対応					
22.コメント	本科目では、各発達段階（母子・成人・高齢者）ならびに健康課題（感染症・精神障がい・難病・障がい児者）に対する保健活動の基盤となる法律、制度、政策と発達段階と健康課題の特性に応じた保健師の支援方法について学びます。 保健師としてさまざまな発達段階、健康レベルにある地域住民の健康を支援するためには、発達段階と健康課題の特性についての知識をもつことに加えて、地域住民の健康と生活を支える法律、制度、政策についての知識をもつことが必要です。法律、制度、政策についての知識					

		は保健師としてだけではなく看護職として対象の健康を支える上でも大切な知識です。オンデマンド型授業がちょうしんとなりますので、知識が曖昧な部分は繰り返し視聴したり自分で調べたりなど主体的に学修を進めていきましょう。 本科目で学んだ知識は将来看護職として働く上でも役に立つ知識であるといえます。苦手意識を持つ学生の方も多いと思いますが、関心をもって学んでいきましょう。生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない
23.オフィスアワー		藤原：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 倉田：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 オンデマンド	<母子保健 1> 中世古 ・母子保健の関連政策・施策・事業の概要	事後課題① 第 1 回講義確認テストの解答+コメントシートの投稿（Web Class） 期限：
第 2 回 オンデマンド	<成人保健 1> 中世古 ・成人保健の法律、政策、制度（歯科保健を含む）	事後課題② 第 2 回講義確認テストの解答+コメントシートの投稿（Web Class） 期限：
第 3 回 オンデマンド	<高齢者保健 1> 藤原 ・高齢者保健福祉の関連政策・施策・事業の概要	事後課題③ 第 5 回講義確認テストの解答+コメントシートの投稿（Web Class） 期限：
第 4 回 オンデマンド	<講義 精神保健 1> ・精神保健福祉の関連政策、施策、事業	事後課題④ 第 4 回講義確認テストの解答+コメントシートの投稿（Web Class） 期限：
第 5 回 オンデマンド	<障がい（児）者保健> ・障がい（児）者保健福祉の関連政策・施策・事業の概要 ・個人・集団・地域全体に対する支援の方法）	事後課題⑤ 第 5 回講義確認テストの解答+コメントシートの投稿（Web Class） 期限：
第 6 回 オンデマンド	<難病保健 1> ・難病保健の関連政策、施策、事業	事後課題⑥ 第 6 回講義確認テストの解答+コメントシートの投稿（Web Class） 期限：
第 7 回 オンデマンド	<感染症保健 1> ・感染症保健の関連政策・施策・事業の概要	事後課題⑦ 第 7 回講義確認テストの解答+コメントシートの投稿（Web Class） 期限：
第 8 回 対面	<母子保健 2> 中世古 ・個人・集団・地域全体に対する支援の方法 ・乳幼児の発達支援と育児支援における保健師の役割	
第 9 回 対面	<成人保健 2> 中世古 ・個人・集団・地域全体に対する支援の方法	

	・成人期の健康課題(生活習慣病) に対する保健師の活動	
第 10 回 対面	<高齢者保健 2> 藤原 ・個人・集団・地域全体に対する支援の方法	
第 11 回 対面	<感染症保健 2> ・個人・集団・地域全体に対する支援の方法	
第 12 回 対面	<在留外国人への支援> 中世古 ・在留外国人に対する政策、制度 ・在留外国人に対する支援の方法	
第 13 回 対面	<精神保健 2> 特別講師 ・精神保健活動の実際(個人・集団・地域全体に対する支援の方法)	事後課題⑧ 特別講義を聞いての事後レポート (Web Class) 提出期限:
第 14 回 対面	<難病保健 2> 特別講師 ・難病保健活動の実際(個人・集団・地域全体に対する支援の方法)	事後課題⑨ 特別講義を聞いての事後レポート (Web Class) 提出期限:
第 15 回 総括試験	第 15 回 総括試験 範囲は、第 1～12 回のすべて	

1.授業コード (ナンバリング)	NCH313-M51	2.科目名	個人・家族・集団・組織の支援活動論 (21 生 以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中世古恵美、藤原和美					
5.授業科目の区分	生活支援看護学／公衆 衛生看護学分野の実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護 学分野を選択す る学生は必修)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	看護師、保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 (うち、オンデマンド講義 11 回)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	今看護職の役割は、病院完結型と言われる施設(病院)内に限定した役割から、地域完結型という地域を基盤としたケアシステムにおける役割へ転換する時期にあります。このためには、病気をもつ人を「患者」として捉えるだけでなく、「地域で生活する人」として捉え直すことを求められています。退院時の指導という点としてのかわりだけでなく、その後の切れ目のない生活の支援が求められます。このために本講義では、地域で予防や健康増進に必要な個人のセルフケア能力の向上、また個人だけではなく家族力のアセスメントと支援、そして地域ケアシステムの一員としての看護職の行う連携について、理論の要点と実践の基礎を身につけることを目指します。また、この科目は保健師課程を選択する学生においては今後の専門的知識を学ぶ上での基礎となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の (1) 自律性、(2) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技術の活用力、の学修に関連しています。 本科目では以下の知識とスキルの獲得を目指します。 1) 地域で生活する個人の特性と多様性を踏まえた支援方法の要点を説明できる。 2) 個人の健康課題についてアセスメントし、行動変容に向けた保健指導を企画できる。 3) 地域で生活する人々とその家族への支援に対する意義と活用する理論の要点を説明できる 4) 地域で生活する人々の家族のアセスメントができる 5) 地域住民の健康を保持増進するための地域包括ケアシステムの意義と特徴を説明できる 6) 地域で生活(療養)する人が切れ目のない支援やサービスを受けるための連携の構造図を作成できる。					
19.教科書・教材	公衆衛生看護学.jp 第 5 版 荒賀直子 後閑容子編集 インターメディカル 講義・演習に必要な資料は講義時に配布					
20.参考文献	必要時に提示します					
21.成績評価	① 事後課題 1～11 回、15 回 (各 5 点×12 回=60 点) 60% WebClass に提示された事後課題を提出期限内に提出すること。提出期限を超えたものは原則認めません。 ② 統括試験(レポート課題 1 回) 40% WebClass に課題を提示します。提出期限内に提出すること。					
22.コメント	本科目は、オンデマンド講義と対面講義のブレンド型でおこないます。生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない					
23.オフィスアワー	藤原：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー (図書館) 火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー (図書館) 火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 オンデマンド 講義	<公衆衛生・公衆衛生看護の理念>藤原 公衆衛生の理念・目的・目標、プライマリヘルスケア、 ヘルスプロモーションの概念について学ぶ。			事後課題 1 講義を視聴してのコメントシートの提出 (Web Class)		

視聴期限：	テキスト該当ページ p.14-21	提出期限：
第2回 オンデマンド 講義 視聴期限：	＜公衆衛生看護活動の基盤＞藤原 公衆衛生看護の定義、公衆衛生看護活動の理念を始め活動の基盤となる考え方を学ぶ。 テキスト該当ページ p.14-21	事後課題2 講義を視聴してのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第3回 オンデマンド 講義 視聴期限：	＜公衆衛生看護の歴史＞久井 公衆衛生看護の歴史的変遷について学ぶ。 テキスト該当ページ p.22-38	事後課題③ 講義を視聴してのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第4回 オンデマンド 講義 視聴期限：	＜社会環境の変化と健康課題(健康格差を含む)＞久井 看護の対象者を取り巻く社会環境の変化と健康課題の変遷、現在の健康課題や健康格差の実態について学ぶ。 テキスト該当ページ p.86-100	事後課題④ 講義を視聴してのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第5回 オンデマンド 講義 視聴期限：	＜公衆衛生看護の場①行政機関＞中世古 ・公衆衛生看護の活動の場（行政機関）の特徴を学ぶ。 テキスト該当ページ p.51-60	事後課題⑤ 講義を視聴してのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第6回 オンデマンド 講義 視聴期限：	＜公衆衛生看護の場②職域・学校＞久井 ・産業保健の場と対象の特性、職域における健康問題と産業保健活動の概要を学ぶ ・学校保健の場と対象の特性、学校における健康問題と学校保健活動の概要を学ぶ テキスト該当ページ p.453-489	事後課題⑥ 講義を視聴してのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第7回 オンデマンド 講義 視聴期限：	＜公衆衛生看護管理、健康危機管理＞藤原 公衆衛生看護管理と健康危機管理の基本について学ぶ テキスト該当ページ p.423-430	事後課題⑦ 講義を視聴してのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第8回 オンデマンド 講義 (看護師国家試験 Web オリジナル問題演習) 解答期限：	看護師国家試験 Web オリジナル問題演習① 看護師国家試験 必須問題（公衆衛生、社会保障、保健統計等に関する問題）	事後課題⑧ 問題演習を終えてのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第9回 オンデマンド 講義 (看護師国家試験 Web オリジナル問題演習) 解答期限：	看護師国家試験 Web オリジナル問題演習② 看護師国家試験 健康支援と社会保障制度（社会福祉）	事後課題⑨ 問題演習を終えてのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第10回 オンデマンド	看護師国家試験 Web オリジナル問題演習③ 看護師国家試験 健康支援と社会保障制度（公衆衛生）	事後課題⑩ 問題演習を終えてのコメントシートの提出

講義 (看護師国家試験 Web オリジナル問題演習) 解答期限：	生)	(Web Class) 提出期限：
第 1 1 回 オンデマンド講義 (看護師国家試験 Web オリジナル問題演習) 解答期限：	看護師国家試験 Web オリジナル問題演習④ 看護師国家試験 健康支援と社会保障制度 (関係法規)	事後課題⑪ 問題演習を終えてのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：
第 1 2 回 対面講義	<公衆衛生看護活動の方法①個人・家族へのアプローチ(家庭訪問・健康相談)> 中世古 個人・家族へのアプローチの特徴を学ぶ。 テキスト該当ページ p.168-187	
第 1 3 回 対面講義	<公衆衛生看護活動の方法②集団へのアプローチ(健康診査・健康教育・グループ支援)> 藤原 集団・グループへのアプローチの特徴を学ぶ。 健康診査、健康教育、グループ支援の方法について学ぶ。 テキスト該当ページ p.188-199,209-214	
第 1 4 回 対面講義	<公衆衛生看護活動の方法③地域へのアプローチ(地区活動・地域ケアシステムの構築)> 久井 地域へのアプローチとして、地区活動、地域包括ケアシステム・シエンネットワークの構築について学ぶ。 テキスト該当ページ p.215-218	
第 1 5 回 対面講義	<日本の国際保健医療協力の実践 (特別講義 JICA ボランティアセミナー)> ・国際協力機構 (JICA) が JICA 海外ボランティアの活動についての普及啓発のために実施している JICA ボランティアセミナーの事業を利用する。 ・JICA 海外ボランティアの保健師隊員として開発途上国で国際保健医療協力活動の実践経験のある講師から国際保健医療協力活動の実践について学ぶ。	事後課題⑫ 講義を終えてのコメントシートの提出 (Web Class) 提出期限：1 月 28 日 (火) 9 : 00 まで

1.授業コード (ナンバリング)	NFN104-M51	2.科目名	基礎看護技術Ⅱ（治療援助）		3.単位数	1
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	療養を支えるための診療補助行為に関わる基本的な看護技術の習得を目指す。講義、視聴覚教材の視聴、デモンストレーション見学、患者役・看護師役のロールプレイを通し、感染予防に関わる援助技術や、薬物療法に関わる援助技術等について学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 ① 診療・治療に伴う援助に必要な知識を理解し説明できる。 ② 診療・治療に伴う援助に必要な技術の基礎を理解し演習で実践できる。 ③ 感染予防に関わる援助方法を理解し演習で実践できる。 ④ 薬物療法に関わる援助方法を理解し演習で実践できる。					
19.教科書・教材	基礎看護技術Ⅰ：医学書院 基礎看護技術Ⅱ：医学書院					
20.参考文献						
21.成績評価	総括試験 50％ 提出物（内容評価含む）30％ グループワーク 20％					
22.コメント	毎時間予習して、主体的に臨むこと					
23.オフィスアワー	蛭子：センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	ガイダンス 診療の援助技術・診療時の援助・感染予防			ユニフォーム、ナースシューズ着用。髪の毛等は基礎看護学実習Ⅰに準じて整えること（以降、特に指示がなければ同様） 該当部のテキスト、ナーシングスキルなどで事前学習すること（以降、同様） 演習後は、実習室開放日を活用して自己練習すること（以降同様）		
2～5	感染予防 演習：無菌操作、ガウンテクニック etc					
6～9	排泄機能障害の援助 演習：浣腸、一時的導尿 etc					
10～14	薬物療法の援助 演習：皮下注射 etc					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN106-M51	2.科目名	基礎看護方法論(フィジカルアセスメント)		3.単位数	1
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護の対象となる方の身体状態を把握する意義と重要性を理解し、系統的に観察・評価を行うための看護技術の習得を目指す。講義・視聴覚教材の視聴、デモンストレーション見学、患者役・看護師役のロールプレイを実施し、主に、呼吸・循環に関するアセスメント、消化器系に関するアセスメント、脳神経系に関するアセスメント、運動器系に関するアセスメント等を通して、フィジカルアセスメントの基本技術について学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 ① 看護におけるヘルスアセスメントの目的と意義を理解し説明できる。 ② フィジカルアセスメントの目的と意義を理解し説明できる。 ③ フィジカルアセスメントに関わる基本技法を理解し演習で実践できる。					
19.教科書・教材	基礎看護技術Ⅰ：医学書院 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント：メディカルフレンド社					
20.参考文献						
21.成績評価	総括試験 50％ 提出物 20％ 技術到達チェック 20％ グループワーク 10％					
22.コメント	形態機能学等の既習の知識を整理し、毎時間、ナースングスキル等を活用して、主体的な姿勢で臨むこと。 実習室開放時間等を活用し、技術習得に努力すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1～4	ガイダンス ヘルスアセスメントの意義・目的 フィジカルイグザミネーションの基本的知識 健康歴の聴取、身体計測			ユニフォーム、ナースシューズ着用。髪の毛等は基礎看護学実習Ⅰに準じて整える。（以降、特に指示がない限り同様） 該当部のテキスト、ナースングスキルなどで事前学習すること（以降、同様） 演習後は、実習室開放日を活用して自己練習すること（以降同様）		
5～12	呼吸・循環・体温のアセスメント 演習：バイタルサインの測定、心音・呼吸音聴取 etc					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)		NFN107-M51	2.科目名 基礎看護技術Ⅰ（生活援助）		3.単位数	2
4.授業担当教員		蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子				
5.授業科目の区分		看護分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻		保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件		看護師国家試験受験資格		11.先修条件		
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要		あらゆる看護援助の基盤となる、安全・安楽な療養生活を支援するための看護技術の習得を目指す。講義、視聴覚教材の視聴、デモンストレーション見学、患者役・看護師役のロールプレイを実施し、主に、環境を整えるための援助、食生活や排泄を整えるための援助、清潔や衣服を整えるための援助、活動・休息に関わる援助等を通して、安全・安楽、自立を目指した看護技術を学習する。また、看護の対象となる人々との援助的人間関係の構築について探求する。				
18.学習目標とDPとの関連		本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 ①看護実践に共通する基本的技術の概念を理解し説明できる。 ②看護専門職者によるケアの対象となる人々と援助的関係を構築するための基本的なコミュニケーションについて理解し、ロールプレイ演習で実践できる。 ③療養環境を整えるための援助方法を理解し演習で実践できる。 ④日常生活行動を整えるための援助方法を理解し演習で実践できる。				
19.教科書・教材		基礎看護技術Ⅰ：医学書院 基礎看護技術Ⅱ：医学書院				
20.参考文献						
21.成績評価		総括試験 50％ 提出物（内容チェック含む）20％ 技術到達チェック(実習室開放自主練習参加) 20％ グループワーク 10％				
22.コメント		既習の知識の整理を行っておくこと。 毎時間、予習して主体的に臨むこと。 実習室開放時間等を活用して、技術習得に努力すること。				
23.オフィスアワー		蛭子：センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1～10	ガイダンス・看護技術の基本的要素・療養環境を整える援助、活動・休息を整える援助 演習：手洗い、ベッドメイキング（ボディメカニクス含む）、リネン交換、体位変換 etc			ユニフォーム、ナースシューズ着用。 髪の毛等身づくろいについては、基礎看護学実習Ⅰに準じること。 （特に指示がないかぎり、次回以降も同様） 該当部のテキスト、ナーシングスキルなどで事前学習すること（以降、同様） 演習後は、実習室開放日を活用して自己練習すること（以降同様）		
11～20	清潔の援助					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN301-M51	2.科目名	セイフティマネジメント		3.単位数	1
4.授業担当教員	梅田智子、木下智香子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	看護学科 3 年次	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	国や各医療機関で行われている患者安全を推進するための事故予防活動などを学ぶことによって、医療安全確保のために必要なリスクマネジメントについての理解が深める。 「人は誰でも間違える」からこそ、システムの構築や積極的なコミュニケーション、事例分析が必要であることを理解する。 具体的な事事故例の発生要因分析や事故防止対策の検討など、グループシュミレーションを行いながら、組織的に事故を防止し安全文化を醸成するための必要な基本的な態度を身につけ、患者の安全確保のために看護職として期待されている責務を理解することを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 医療安全推進の契機となった事象の経緯やその後の国及び医療機関の取り組みについて理解できる。 2. 医療におけるリスクについて説明できる。 3. 有害事象の発生状況や国際的な医療安全の取り組みについて理解できる。 4. 医療安全文化の醸成に向けて、チームとして取り組むことの意義を説明できる。 5. 組織の安全対策について、医療機関の取り組みと看護師の役割について理解できる。 6. 医薬品・医療機器の安全管理体制や安全な医療環境を整備する意義について理解できる。 7. 職業感染や院内感染を防止する上で組織的に取り組むことの意義について理解できる。 8. 事故発生時の対応と事故当事者への支援について理解できる。 9. 医療安全確保における看護職の責務、倫理性について説明できる。 10. リスクマネジメントにおける PDCA サイクルとインシデント（ヒヤリ・ハット）レポートの重要性が説明できる。 関連する DP;自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキル、専門的知識・技術の活用力					
19.教科書・教材	医学書院 系統看護学講座 総合分野 看護の統合と実践② 医療安全 川村治子著					
20.参考文献						
21.成績評価	最終試験 70％ 演習課題 10％ 最終レポート 20％					
22.コメント	専門職として安全な医療サービスを提供することは、医療の最も重要で基本的な要件および責務です。 医療における安全文化は、すべての職員が患者の安全を最優先に考えその実現を目指し協力・協働することによって根付き醸成されていくものと言えるでしょう。安全に関する知識や技術、安全を提供するために個人が行うこと、チームでそして組織で行うこと、システムや体制づくりなど、どの職種にもどの治療にも看護にもこの考え方が軸となります。しっかりと学びましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
目標 1.3.4.5.9.10 (共同)	医療安全概論（目標；1, 3, 4, 5, 9, 10）講義および演習 1. 医療安全推進の契機となった事象の経緯やその後の			復習はオンデマンド教材を活用して理解を深めること		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN302-M51	2.科目名	看護マネジメント		3.単位数	1
4.授業担当教員	梅田智子、都留美恵子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	看護学科 3 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 (第 4～7 回は遠隔授業)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 看護専門職者が良質な看護サービスを提供する上で「マネジメント」の必要性を理解し基本的知識を習得出来、個人や組織の役割について理解することおよびケア提供者である看護専門職者としてのありようをマネジメントの視点で考えられること 【概要】 現在の医療システムにおけるサービス提供システムを知り、安全で質の高い看護を提供するための組織体制について授業受講およびレポート記述を通して学習する。 ①マネジメントの概要 ②看護ケアのマネジメントとは ③看護のキャリアマネジメントについて ④看護サービスマネジメント ⑤マネジメントに必要な知識と技術 ⑥看護を取り巻く諸制度					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①医療提供システムにおける看護サービスの仕組みを理解し説明できる (保健医療福祉の動向と課題を知り看護にどのような影響があるかを理解できる) ②安全で質の高いサービスを提供するための組織・体制上の課題について説明できる ③看護管理に必要な基本的知識を理解し説明できる (リーダーシップ、フォロアースhip、ストレスマネジメント、コンフリクトマネジメント、リスクマネジメント) ④看護管理の構造を理解し説明できる (組織の基本的構造、医療サービスの構造、労務管理、人材育成、キャリア開発、マネジメント) ⑤個人と組織の関係をマネジメントの視点で理解し説明できる 【関連するディプロマポリシー】 (1) 自律性 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用					
19.教科書・教材	看護の統合と実践 看護管理 第 10 版 上泉和子 小山秀夫 寛敦夫 鄭佳紅					
20.参考文献	井部俊子他 看護管理学習テキスト 第 3 版 第 2 巻 看護サービスの質管理 2022 年版					
21.成績評価	【統括試験】 70% 【最終レポート】 30%					
22.コメント	マネジメント（管理）は管理者だけが行うものではなく、ひとりの看護師（看護学生）として非常に重要な考え方・判断・行動につながる内容です。共に考え、学びましょう。					
23.オフィスアワー	月曜日 12：15～13：15 2 号館 2－7 研究室（梅田）					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN304-M51	2.科目名	看護倫理Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	櫻井信人、鵜飼知鶴、平野通子、房間美恵、松尾ひとみ、吉沢豊子					
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 基礎看護学	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	臨地実習での看護経験をもとに、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。本講義では、それぞれの領域における看護実践で直面する倫理的課題について学ぶ。どのような倫理的課題が存在するのかを理解した上で、倫理的ジレンマに対する意思決定の方法を学び、看護師として必要となる倫理的視点を養う。 授業は全8回、オムニバス形式とし、各領域の教員がそれぞれの専門領域の看護倫理について講義を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【看護倫理Ⅱの学習目標】 1. それぞれの専門領域における看護倫理、人権擁護について説明できる。 2. 患者・家族の意思決定を支える看護のあり方を検討できる。 3. 各専門領域の倫理的問題について、事例を通して理解し、倫理的課題や倫理的ジレンマを解決する方略を検討できる。					
19.教科書・教材	授業内容に応じて、文献の紹介、資料の配布を行う。					
20.参考文献	宮坂道夫他：系統看護学講座 別巻 看護倫理（第3版）、医学書院、2024 日本看護協会監修：看護職の基本的責務 2023年版、日本看護協会出版会、2023					
21.成績評価	授業内で提示される課題：10%×7回＝70% 総括試験（筆記試験）：30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー火曜日1時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	看護倫理Ⅱオリエンテーション シラバスに沿って看護倫理Ⅱの概要を説明する。 精神看護学領域における看護倫理 精神科における倫理的問題について、事例をもとに倫理原則を踏まえて検討する。精神科における行動制限を人権の視点から考える。					
第2回 1月	母性看護学領域における看護倫理（吉沢）					
第3回 1月	小児看護学領域における看護倫理					
第4回 1月	成人慢性看護学における看護倫理					
第5回 1月	老年看護学領域における看護倫理					
第6回	成人急性看護学領域における看護倫理					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NHF202-M51	2.科目名	小児看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾ひとみ					
5.授業科目の区分	専門科目 小児看護分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格			11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 疾病と入院による子どもと家族への影響を理解するための基盤となる理論を学び、Family centered care の観点から生活者である子どもの成長発達を促進し、健康段階に応じた子どもと家族への看護の特徴を理解する。また、成人への移行を円滑にするための看護や、教育の場における子どもの看護についても展望する。 【概要】 基礎となる理論を学んだ後、理論を使いながら事例に対してグループワークでアセスメントを行います。その後、アセスメントを各グループから発表し、評価します。その過程を参考に各自でアセスメントを行いましょう。また、次年度の保育園実習の事前準備もグループで作成します。					
18.学習目標と DPとの関連	①病気をもつ子どもと家族の苦痛を緩和し、セルフケア獲得にむけての支援について説明できる。 ②病気をもつ子どもと家族の生活と成長・発達に、健康段階・入院による環境の変化や入院体験が及ぼす影響を説明できる。 ③円滑なグループワークによって、事例の子どもについてアセスメントを考え、記録できる。 ④健康教育を行うためのプリパレーションツールを作成できる。 関連するディプロマポリシー (1) 自律性 (4) 問題解決 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	子どもの生活機能の発達とからだの仕組みー看護形態機能学の視点からー金芳堂 ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護、中野綾美 編、株式会社メディカ出版 ISBN 978-4-8404-7842-7					
20.参考文献	授業中に適宜、紹介する。					
21.成績評価	【試験】総括試験 60% 【課題等】アセスメント 30% 【プリパレーションツール作成】10%					
22.コメント	自己学習とグループワークを通じ、学生同士で学び合うことを大切にします。欠席することのないよう体調の自己管理は十分に行うこと。 生成 AI の使用については、いかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1-2	オリエンテーション・子どものからだ・病気の理解					

担当：松尾	小児看護学における健康段階別看護の特徴を理解する 子どもの体の理解・病気の理解の発達を理解する	
3-4 担当：松尾	入院・治療・処置における子どもと家族の生活への影響と看護 子どもの入院による環境の変化への適応、苦痛を伴う処置への反応、プリパレーションの役割を理解する	
5-6 担当：松尾	急性期にある子どもと家族の看護 子どもに多い症状の発生機序と対症看護を理解する 小児外来におけるトリアージについて理解する	
7.8 担当：松尾	急性期における子どもの看護 小児期の手術の術前・術中・術後管理の特徴について理解する 痛みを感じるメカニズムと子どもの痛みのケアについて理解する	
9.10 担当：松尾	慢性期にある子どもと家族の看護 移行期支援について理解する 慢性疾患をもつ子どものからだ・病気の理解の発達を理解する 病気を持つ子どものセルフケア育成の支援を理解する	
11.12 担当：松尾	終末期にある子どもと家族の看護 子どものターミナルケアの特徴を理解する NICU で育つ子どもと家族の看護 NICU で育つ子どもと家族の看護を理解する	
13.14 担当：松尾	障害をもつ子どもと家族への看護 障害をもつ子どもと家族の生活と支援を理解する 災害時の子どもと家族への看護 災害による子どもと家族への影響と支援を理解する	
15.16 担当：松尾	健康教育のプリパレーションツール作成	
17.18 担当：松尾	被虐待児の看護 被虐待児と家族の看護の特徴について理解する 演習のオリエンテーション 小児看護におけるアセスメントについて理解する	
19.20 担当：松尾	事例の病態図作成・発表 事例の疾患の病態・検査・治療・看護について理解する	
21.22 担当：松尾	事例のアセスメント・発表（食べる） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、食べる機能への影響の評価方法を理解する	
23.24 担当：松尾	事例のアセスメント・発表（トイレに行く・睡眠） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、トイレに行く機能・睡眠への影響の評価方法を理解する	
25.26 担当：松尾	事例のアセスメント・発表（動く、息をする、循環） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、動く、息をする、循環機能への影響の評価方法を理解する	

27.28 担当：松尾	事例のアセスメント・発表（お風呂に入る） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、お風呂に入る機能への影響の評価方法を理解する	
29.30 担当：松尾	健康教育の発表 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	NHF204-M51	2.科目名	母性看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉沢豊子、有本梨花、堤綾子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験科目		11.先修条件	母性看護援助論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 妊娠・分娩・産褥期に起こる心身の変化と社会的側面の特徴を理解したうえで、マタニティサイクルにある女性とその家族の看護について実践できる 【概要】 妊娠・分娩・産褥期に起こる心身の変化と社会的側面の特徴について学び、マタニティサイクル各期における看護実践に必要な課題を理解し、マタニティサイクルにある女性とその家族に必要な支援について実践できる能力を聴講やグループワークを通して獲得する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、看護学科 DP(4)-(6)に該当する科目です (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力 1) 既習の生殖生理に関する知識を基盤にマタニティサイクル各期（妊娠・分娩・産褥・育児期）に起こる心身の変化と日常生活の特徴について理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。 2) マタニティサイクル各期に起こる正常からの逸脱、およびハイリスク妊娠・分娩の問題について理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。 3) 胎児期・新生児の生理と発育・発達について理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。 4) マタニティサイクル各期にある女性とその家族の特性を理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。					
19.教科書・教材	1.小林康江他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 メディカ出版 第3版 2.荒木奈緒他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護学技術 メディカ出版 第3版 3.助産師基礎教育テキスト2 ウイメンズヘルスケア.吉沢豊予子、日本看護協会出版会 4.医療情報科学研究所編集 メディックメディア 病気がみえる vol.10: 第4版					
20.参考文献	「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器、医学書院、ISBN9784260035675					
21.成績評価	レポート：3回（各5～15点）学習目標1）～4） レポート①10点 レポート②5点 レポート③15点 テスト70点（小テスト30点 総括テスト40点） 小テスト：学習目標1）～4） 総括テスト：学習目標1）～4）					
22.コメント	本授業で学習する内容が 3年次に履修する母性看護学実習（臨地実習）の基礎となります。実習で出会う対象者の方々に、看護者としての責任が果たせるよう、母性看護学の知識・技術					

		を確実に身につけられるよう、毎回の授業の内容に該当するテキストのページを参照して事前事後学習をして授業に臨んでください。 テキストは 1-3 を毎回使用します 生成 AI 利用に関して ■ いかなる利用も認めない
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回 2 回	【講義】 マタニティサイクルにある人々の看護の主要な概念（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 2
3 回 4 回	【講義】 妊婦の看護（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 2
5 回 6 回	【講義】 妊娠期の異常（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 3
7 回 8 回	【講義】 妊娠期の看護・健康教育（事例検討）（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 2.3 【授業はじめ】 小テスト① 10 点
9 回 10 回	【演習】 妊娠期の事例と看護過程発表（有本）	【持参資料】 テキスト第 2.3 病気が見える 10 産科 【事後課題】 レポート① 妊娠期看護過程 10 点
11 回 火 3 限 12 回 火 4 限	【講義】 産婦の看護・分娩時の異常（吉沢）	【持参資料】 テキスト 2.第 4.5
13 回 14 回	【講義】 産褥期における看護（吉田）	【事前課題】 テキスト 2 第 6.7
15 回 16 回	【講義】 産褥期における看護（堤）	【事前課題】 テキスト 2 第 6.7
17 回 18 回	【講義】 新生児の看護（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 8 【授業はじめ】 小テスト②10 点

19 回 20 回	【演習 1】 産褥期の事例と看護過程（有本） 【演習 2】（吉沢・細川・堤） 1. 褥婦に対する看護技術 進行性変化・退行性変化のアセスメント 2. 新生児に対する看護技術 新生児のフィジカルアセスメント（計測含む） 沐浴 ※23・24 回（演習 1：産褥期の事例展開）と 25・26 回（演習 2：褥婦・新生児に対する看護技術）はクラスを 1/2 に分け、2 回で展開する	【事前課題】 WEBCLASS の動画を視聴 レポート② ②演習レポート 5 点 【持参資料】 荒木奈緒他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護学技術 メディカ出版 2022 病気が見える 10 産科 【演習の準備】 実習に準じた服装で演習に臨む ・ユニフォーム ・ナースシューズ ・爪を短く切り、髪を整えて演習に参加すること。 【冬休み中の課題】 授業中に提示
21 回 22 回	【演習 1】 産褥期の事例と看護過程（有本） 【演習 2】（吉沢・細川・堤） 1. 褥婦に対する看護技術 進行性変化・退行性変化のアセスメント 2. 新生児に対する看護技術 新生児のフィジカルアセスメント（計測含む） 沐浴 ※23・24 回（演習 1：産褥期の事例展開）と 25・26 回（演習 2：褥婦・新生児に対する看護技術）はクラスを 1/2 に分け、表・裏で展開する	【事前課題】 WEBCLASS の動画を視聴 レポート② ②演習レポート 5 点 【持参資料】 荒木奈緒他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護学技術 メディカ出版 2022 病気が見える 10 産科 【演習の準備】 実習に準じた服装で演習に臨む ・ユニフォーム ・ナースシューズ ・爪を短く切り、髪を整えて演習に参加すること。 【冬休み中の課題】 授業中に提示
23 回 24 回	【講義】 産褥期の看護過程発表	レポート③ 産褥期の看護 過程・関連図 15 点
25 回 26 回	〔講義〕産褥期の異常（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 8
27 回 28 回	【講義】新生児期の異常と看護（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 10 【授業はじめ】 小テスト③10 点

29 回 30 回	【総括】 3 限目 総括テスト 【講義】 4 限目 特別な配慮が必要な妊産婦と家族への支援（有本） 1）特定妊婦と生まれた時への支援 2）不妊治療後の妊娠・出産 3）外国人妊産婦褥婦への支援 4）災害時の妊産婦の支援	【事前課題】 テキスト 2 第 11

1.授業コード (ナンバリング)	NUT101-A51	2.科目名	食と健康		3.単位数	2
4.授業担当教員	橋本堂史					
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	教務課の指示に従うこと。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、食の成分がヒトの健康や疾病と密接に関わっていることが理解できるようになることを目的とします。 【概要】 具体的には、食品の一次機能、二次機能、三次機能の基本的概念を学びます。さらに、それぞれの機能に関わる食品の成分について学ぶと共に疾病について学ぶことで、疾病予防を促す食生活を自ら考え、実施できるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 食の基本的な機能性の概念を説明できるようになる。 ② 三大栄養素および五大栄養素の重要性を説明できるようになる。 ③ おいしさの重要性が説明できるようになる。 ④ 食の成分が関与する疾病について説明できるようになる。 ⑤ 健康のために必要な食生活を実施できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	・『食と健康』中谷延二他 ・『食品健康学』中谷延二他 ・『食品機能性の科学』産業技術サービスセンター					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・総括試験（第 15 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～⑤に対応] ・中間試験（第 8 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～③に対応] ・プレゼンテーション・・・10% [学習目標④⑤に対応] ・小テスト（第 8 回と第 15 回の講義を除き、毎回実施）・・・50% [学習目標①～⑤に対応] 注意 1）評価方法はあくまでも目安であり、講義の進捗状況などにより若干の変更を行うこともあります。 注意 2）中間試験および総括試験は WebClass で行います。必ず受験時に充電された					
22.コメント	公欠・欠席・遅刻・早退などは大学の規則に従いますので、個別に特別な理由がある場合には教務課に相談ください。 公欠については必ず大学に申請してください。大学からの公欠連絡以外には受け付けません。					
23.オフィスアワー	キャンパス内での質問は講義時間の前後に教室で受け付けます。 また、メールでの質問などは随時受け付けます。ただし、takashi@kobe-u.ac.jp 宛のメールのみ受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（シラバスについて） ・講義「食品の機能性について」・・・食品機能の概念を学ぶ。 ・小テスト「食品の機能性について」			・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。		
【第 2 回】	・講義「糖質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「糖質			・WebClass で配布する資料をプリントして持		

	(炭水化物)」について学ぶ。 ・小テスト「糖質の科学」	参する、またはパソコンを持参すること。
【第3回】	・講義「脂質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「脂質」について学ぶ。 ・小テスト「脂質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第4回】	・講義「タンパク質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「タンパク質」について学ぶ。 ・小テスト「タンパク質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第5回】	・講義「微量栄養素の科学」・・・微量栄養素である「ビタミン」と「ミネラル」について学ぶ。 ・小テスト「微量栄養素の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第6回】	・講義「食品の味・香・色①」・・・味や味覚を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色①」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第7回】	・講義「食品の味・香・色②」・・・香や色を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色②」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第8回】	・中間試験・・・第1回から第7回までの講義内容についての試験を行う。 ・中間試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。	パソコンを持参すること。
【第9回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「酸化ストレス」・・・生体内酸化ストレスとそれに関連した疾病について学ぶ。 ・小テスト「酸化ストレス」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第10回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「肥満と食生活」・・・肥満に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「肥満と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第11回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「糖尿病と食生活」・・・糖尿病に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「糖尿病と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第12回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「動脈硬化症と食生活」・・・動脈硬化症に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「動脈硬化症と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第13回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「がんと食生活」・・・がんに関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッ

	・小テスト「がんと食生活」	ページに添付することで提出。)
【第 14 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「アレルギーと食生活」・・・アレルギーに関する基礎知識を学ぶと共にそれに関わる食生活について考える。 ・小テスト「アレルギーと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。)
【第 15 回】	・総括試験・・・第 1 回から第 14 回までの講義内容についての試験を行う。 ・総括試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。 ・まとめ	パソコンを持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	NUT101-Y51	2.科目名	食と健康		3.単位数	2
4.授業担当教員	橋本堂史					
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限	教務課の指示に従うこと。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、食の成分がヒトの健康や疾病と密接に関わっていることが理解できるようになることを目的とします。 【概要】 具体的には、食品の一次機能、二次機能、三次機能の基本的概念を学びます。さらに、それぞれの機能に関わる食品の成分について学ぶと共に疾病について学ぶことで、疾病予防を促す食生活を自ら考え、実施できるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 食の基本的な機能性の概念を説明できるようになる。 ② 三大栄養素および五大栄養素の重要性を説明できるようになる。 ③ おいしさの重要性が説明できるようになる。 ④ 食の成分が関与する疾病について説明できるようになる。 ⑤ 健康のために必要な食生活を実施できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	・『食と健康』中谷延二他 ・『食品健康学』中谷延二他 ・『食品機能性の科学』産業技術サービスセンター					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・総括試験（第 15 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～⑤に対応] ・中間試験（第 8 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～③に対応] ・プレゼンテーション・・・10% [学習目標④⑤に対応] ・小テスト（第 8 回と第 15 回の講義を除き、毎回実施）・・・50% [学習目標①～⑤に対応] 注意 1）評価方法はあくまでも目安であり、講義の進捗状況などにより若干の変更を行うこともあります。 注意 2）中間試験および総括試験は WebClass で行います。必ず受験時に充電された					
22.コメント	公欠・欠席・遅刻・早退などは大学の規則に従いますので、個別に特別な理由がある場合には教務課に相談ください。 公欠については必ず大学に申請してください。大学からの公欠連絡以外には受け付けません。					
23.オフィスアワー	キャンパス内での質問は講義時間の前後に教室で受け付けます。 また、メールでの質問などは随時受け付けます。ただし、takashi@kobe-u.ac.jp 宛のメールのみ受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（シラバスについて） ・講義「食品の機能性について」・・・食品機能の概念を学ぶ。 ・小テスト「食品の機能性について」			・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。		
【第 2 回】	・講義「糖質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「糖質			・WebClass で配布する資料をプリントして持		

	(炭水化物)」について学ぶ。 ・小テスト「糖質の科学」	参する、またはパソコンを持参すること。
【第3回】	・講義「脂質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「脂質」について学ぶ。 ・小テスト「脂質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第4回】	・講義「タンパク質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「タンパク質」について学ぶ。 ・小テスト「タンパク質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第5回】	・講義「微量栄養素の科学」・・・微量栄養素である「ビタミン」と「ミネラル」について学ぶ。 ・小テスト「微量栄養素の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第6回】	・講義「食品の味・香・色①」・・・味や味覚を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色①」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第7回】	・講義「食品の味・香・色②」・・・香や色を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色②」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第8回】	・中間試験・・・第1回から第7回までの講義内容についての試験を行う。 ・中間試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。	パソコンを持参すること。
【第9回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「酸化ストレス」・・・生体内酸化ストレスとそれに関連した疾病について学ぶ。 ・小テスト「酸化ストレス」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第10回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「肥満と食生活」・・・肥満に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「肥満と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第11回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「糖尿病と食生活」・・・糖尿病に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「糖尿病と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第12回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「動脈硬化症と食生活」・・・動脈硬化症に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「動脈硬化症と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第13回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「がんと食生活」・・・がんに関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッ

	・小テスト「がんと食生活」	ページに添付することで提出。)
【第 14 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「アレルギーと食生活」・・・アレルギーに関する基礎知識を学ぶと共にそれに関わる食生活について考える。 ・小テスト「アレルギーと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 15 回】	・総括試験・・・第 1 回から第 14 回までの講義内容についての試験を行う。 ・総括試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。 ・まとめ	パソコンを持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	PED101-A51	2.科目名	初等情報機器活用論 (1/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	コンピュータ演習室を使用するため受講可能数が 40 名です。					
17.授業の目的と概要	学校での ICT の活用は進んできており、メールでのやり取り、サーバーで一元管理された校務用のプログラムを用いて校務処理する学校が増えている。多くの教師がパソコンを日常的な校務処理や教材作成のツールとして用いるようになっている。そこで、本演習では Excel の関数処理を中心に学び、効率よくパソコンを扱えるようになることを目指す。 また、小学校教育でプログラミング学習が導入されることに対応し、その概要を知り、授業を構想することができることを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は教育学部 DP (4) 問題発見・解決力につながるものである。 ・学習内容である ICT 機器の活用力は、問題解決のための必要な力の一つである。 ①点数計算や学級通信作成のための、Excel の簡単な関数処理や Word 文書の加工を行う事ができる。 ②プログラミング教育の目的・内容を理解し、説明できる。 ③プログラミング教育の授業案を作成できる。 ④学校・園で利用されている ICT 機器について説明できる。					
19.教科書・教材	講義用テキスト					
20.参考文献						
21.成績評価	①Excel や Word の演習ファイルの提出 (5 点×8 = 40 点) ②Excel の小テスト (30 点) ③プログラミング教育のワークシート (5 点) ④プログラミング教育の授業案・振り返りシート (20 点) ⑤学校・園で利用されている ICT 機器に関するレポート (5 点)					
22.コメント	校務処理の習熟は、教師として非常に大切な資質になります。定番ソフトである Word、Excel のスキルアップをワークシートと練習ファイルによる段階的な演習により行います。また、インターネットからの情報収集やプログラミング学習について学びます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の目的、テキスト、演習ファイルの活用方法及び事前・事後学習課題について Webclass 活用法及び評価方法についての説明を行う。さらにペアと LC メンバーを決定する。 事前・事後学習課題の Webclass への提出により出席確認を行う。 Excel の基本 (表のレイアウト、印刷設定)、関数処理の基本の演習を行う。 (テキスト p1～3, 演習 1 の sheet) ○ テキスト課題 1～4 をもとに事前学習をする。 (60 分)			● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)		

第 2 回	2 ソート・条件文の作成 ソート（並び換え）機能，条件文（if 文）作成の演習をする。 （テキスト p3～4 及び Excel 演習 3～4 の sheet） ○ テキスト課題 5～8 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 3 回	3 countif 関数による計数 （1）counif 関数による評価判定 （テキスト p5～6 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 9～11 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 4 回	（2）評価判定の条件文の応用及び（3）さまざまな関数の設定 if 文による成績処理の分岐方法を示した Excel ファイルの演習を行う。 （テキスト p6～7 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 10～12 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 5 回	4 グラフ作成の基本 （1）表からグラフへ （2）グラフ作成の応用 （テキスト 7～8 及び Excel 演習 7～8） ○ テキスト課題 13～17 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 6 回	5 さまざまなグラフの作成と Word への貼り付け （テキスト 9～10 及び Excel 演習 8～8-1） ○ テキスト課題 18～21 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 7 回	6 文字列関数やオートフィルター機能 （1）オートフィルター機能 （2）いろいろな文字列変換関数 （テキスト 11～12 及び Excel 演習 9～10） ○ テキスト課題 22～26 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 8 回	7 配列数式の活用 （1）（2）配列数式を用いて関数処理したり，度数分布表の作成する。 （テキスト 13～14 及び Excel 演習 11～12） ○ テキスト課題 27～31 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 9 回	8 集計の裏ワザ（ピボットテーブルの活用）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）

	関数を用いず、ピボットテーブルの活用による集計をします。 また、クロス集計（分析）をピボットテーブルを用いて演習し、実用的なグラフ（度数分布表、クロスグラフ）を作成する。 （テキスト 15～16 及び Excel 演習 11～12）	出する。(15 分)
第 10 回	中間試験 ・エクセルの演習試験	中間試験の解答を Webclass に提出
第 11 回	ワードを用いた教材・資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 12 回	インターネットからの情報収集と資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 13 回	プログラミング学習についての情報収集と講義。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 14 回	プログラミング学習を題材とした授業づくり（学習指導略案）。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 15 回	授業における発問の重要性と TP 案作り。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED101-A81	2.科目名	初等情報機器活用論 (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	コンピュータ演習室を使用するため受講可能数が 40 名です。					
17.授業の目的と概要	学校での ICT の活用は進んできており、メールでのやり取り、サーバーで一元管理された校務用のプログラムを用いて校務処理する学校が増えている。多くの教師がパソコンを日常的な校務処理や教材作成のツールとして用いるようになっている。そこで、本演習では Excel の関数処理を中心に学び、効率よくパソコンを扱えるようになることを目指す。 また、小学校教育でプログラミング学習が導入されることに対応し、その概要を知り、授業を構想することができることを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は教育学部 DP (4) 問題発見・解決力につながるものである。 ・学習内容である ICT 機器の活用力は、問題解決のための必要な力の一つである。 ①点数計算や学級通信作成のための、Excel の簡単な関数処理や Word 文書の加工を行う事ができる。 ②プログラミング教育の目的・内容を理解し、説明できる。 ③プログラミング教育の授業案を作成できる。 ④学校・園で利用されている ICT 機器について説明できる。					
19.教科書・教材	講義用テキスト					
20.参考文献						
21.成績評価	①Excel や Word の演習ファイルの提出 (5 点×8=40 点) ②Excel の小テスト (30 点) ③プログラミング教育のワークシート (5 点) ④プログラミング教育の授業案・振り返りシート (20 点) ⑤学校・園で利用されている ICT 機器に関するレポート (5 点)					
22.コメント	校務処理の習熟は、教師として非常に大切な資質になります。定番ソフトである Word、Excel のスキルアップをワークシートと練習ファイルによる段階的な演習により行います。また、インターネットからの情報収集やプログラミング学習について学びます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の目的、テキスト、演習ファイルの活用方法及び事前・事後学習課題について Webclass 活用法及び評価方法についての説明を行う。さらにペアと LC メンバーを決定する。 事前・事後学習課題の Webclass への提出により出席確認を行う。 Excel の基本 (表のレイアウト、印刷設定)、関数処理の基本の演習を行う。 (テキスト p1～3, 演習 1 の sheet) ○ テキスト課題 1～4 をもとに事前学習をする。 (60 分)			● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)		

第 2 回	2 ソート・条件文の作成 ソート（並び換え）機能，条件文（if 文）作成の演習をする。 （テキスト p3～4 及び Excel 演習 3～4 の sheet） ○ テキスト課題 5～8 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 3 回	3 countif 関数による計数 （1）counif 関数による評価判定 （テキスト p5～6 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 9～11 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 4 回	（2）評価判定の条件文の応用及び（3）さまざまな関数の設定 if 文による成績処理の分岐方法を示した Excel ファイルの演習を行う。 （テキスト p6～7 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 10～12 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 5 回	4 グラフ作成の基本 （1）表からグラフへ （2）グラフ作成の応用 （テキスト 7～8 及び Excel 演習 7～8） ○ テキスト課題 13～17 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 6 回	5 さまざまなグラフの作成と Word への貼り付け （テキスト 9～10 及び Excel 演習 8～8-1） ○ テキスト課題 18～21 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 7 回	6 文字列関数やオートフィルター機能 （1）オートフィルター機能 （2）いろいろな文字列変換関数 （テキスト 11～12 及び Excel 演習 9～10） ○ テキスト課題 22～26 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 8 回	7 配列数式の活用 （1）（2）配列数式を用いて関数処理したり，度数分布表の作成する。 （テキスト 13～14 及び Excel 演習 11～12） ○ テキスト課題 27～31 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 9 回	8 集計の裏ワザ（ピボットテーブルの活用）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）

	関数を用いず、ピボットテーブルの活用による集計をします。 また、クロス集計（分析）をピボットテーブルを用いて演習し、実用的なグラフ（度数分布表、クロスグラフ）を作成する。 （テキスト 15～16 及び Excel 演習 11～12）	出する。(15 分)
第 10 回	中間試験 ・エクセルの演習試験	中間試験の解答を Webclass に提出
第 11 回	ワードを用いた教材・資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 12 回	インターネットからの情報収集と資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 13 回	プログラミング学習についての情報収集と講義。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 14 回	プログラミング学習を題材とした授業づくり（学習指導略案）。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 15 回	授業における発問の重要性と TP 案作り。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED101-A82	2.科目名	初等情報機器活用論 (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	コンピュータ演習室を使用するため受講可能数が 40 名です。					
17.授業の目的と概要	学校での ICT の活用は進んできており、メールでのやり取り、サーバーで一元管理された校務用のプログラムを用いて校務処理する学校が増えている。多くの教師がパソコンを日常的な校務処理や教材作成のツールとして用いるようになっている。そこで、本演習では Excel の関数処理を中心に学び、効率よくパソコンを扱えるようになることを目指す。 また、小学校教育でプログラミング学習が導入されることに対応し、その概要を知り、授業を構想することができることを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は教育学部 DP (4) 問題発見・解決力につながるものである。 ・学習内容である ICT 機器の活用力は、問題解決のための必要な力の一つである。 ①点数計算や学級通信作成のための、Excel の簡単な関数処理や Word 文書の加工を行う事ができる。 ②プログラミング教育の目的・内容を理解し、説明できる。 ③プログラミング教育の授業案を作成できる。 ④学校・園で利用されている ICT 機器について説明できる。					
19.教科書・教材	講義用テキスト					
20.参考文献						
21.成績評価	①Excel や Word の演習ファイルの提出 (5 点×8 = 40 点) ②Excel の小テスト (30 点) ③プログラミング教育のワークシート (5 点) ④プログラミング教育の授業案・振り返りシート (20 点) ⑤学校・園で利用されている ICT 機器に関するレポート (5 点)					
22.コメント	校務処理の習熟は、教師として非常に大切な資質になります。定番ソフトである Word、Excel のスキルアップをワークシートと練習ファイルによる段階的な演習により行います。また、インターネットからの情報収集やプログラミング学習について学びます。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の目的、テキスト、演習ファイルの活用方法及び事前・事後学習課題について Webclass 活用法及び評価方法についての説明を行う。さらにペアと LC メンバーを決定する。 事前・事後学習課題の Webclass への提出により出席確認を行う。 Excel の基本 (表のレイアウト、印刷設定)、関数処理の基本の演習を行う。 (テキスト p1～3, 演習 1 の sheet) ○ テキスト課題 1～4 をもとに事前学習をする。			● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)		

	(60 分)	
第 2 回	2 ソート・条件文の作成 ソート（並び換え）機能，条件文（if 文）作成の演習をする。 （テキスト p3～4 及び Excel 演習 3～4 の sheet） ○ テキスト課題 5～8 をもとに事前学習をする。 (60 分)	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 3 回	3 countif 関数による計数 (1) counif 関数による評価判定 （テキスト p5～6 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 9～11 をもとに事前学習をする。 (60 分)	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 4 回	(2) 評価判定の条件文の応用及び(3)さまざまな関数の設定 if 文による成績処理の分岐方法を示した Excel ファイルの演習を行う。 （テキスト p6～7 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 10～12 をもとに事前学習をする。 (60 分)	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 5 回	4 グラフ作成の基本 (1)表からグラフへ (2)グラフ作成の応用 （テキスト 7～8 及び Excel 演習 7～8） ○ テキスト課題 13～17 をもとに事前学習をする。 (60 分)	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 6 回	5 さまざまなグラフの作成と Word への貼り付け （テキスト 9～10 及び Excel 演習 8～8-1） ○ テキスト課題 18～21 をもとに事前学習をする。 (60 分)	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 7 回	6 文字列関数やオートフィルター機能 (1)オートフィルター機能 (2)いろいろな文字列変換関数 （テキスト 11～12 及び Excel 演習 9～10） ○ テキスト課題 22～26 をもとに事前学習をする。 (60 分)	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 8 回	7 配列数式の活用 (1),(2)配列数式を用いて関数処理したり，度数分布表の作成する。 （テキスト 13～14 及び Excel 演習 11～12） ○ テキスト課題 27～31 をもとに事前学習をする。 (60 分)	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

第 9 回	8 集計の裏ワザ（ピボットテーブルの活用） 関数を用いず、ピボットテーブルの活用による集計をします。 また、クロス集計（分析）をピボットテーブルを用いて演習し、実用的なグラフ（度数分布表、クロスグラフ）を作成する。 （テキスト 15～16 及び Excel 演習 11～12）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 10 回	中間試験 ・エクセルの演習試験	中間試験の解答を Webclass に提出
第 11 回	ワードを用いた教材・資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 12 回	インターネットからの情報収集と資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 13 回	プログラミング学習についての情報収集と講義。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 14 回	プログラミング学習を題材とした授業づくり（学習指導略案）。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 15 回	授業における発問の重要性と TP 案作り。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED102-A51	2.科目名	体育講義		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	生涯にわたって健康な生活を送るための科学的な知識や方法、戦略についての理解を深める。 その上で、子どもたちを取り巻く環境、児童期における体育の重要性と安全確保について学び を深める。社会との有機的なかかわりを見据えた講義で、深い学びの形成を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連 ②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 生涯スポーツの観点から、身体活動や運動の効果について理解することができる（知識） 学びを生かして、身体活動や運動の大切さを表現し、波及させる技能を習得することができる （技能） 自らの生活習慣を見直し、行動変容に取り組むことができる（態度）					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布					
20.参考文献	アクティブ・チャイルド 60min.一子どもの身体活動ガイドライン 竹中晃二他					
21.成績評価	①授業の振り返りシート（20％） ②グループワークシート（3 回分 30％） ③ミニレポート（10％） ④総括試験（40％）（総括テストでは、授業中に配布した資料及びプリントに自筆で記入したも ののみ閲覧可能とします）					
22.コメント	将来、教員となるみなさんに必要な知識、調査力、表現力を総合的に学ぶ講義（一部演習も含 む）です。外部講師による専門的な知識も身につけます。 今年度は、外部講師の都合により、授業の順序が入れ替わることがあります。					
23.オフィスアワー	火曜日 12 時 15 分から 13 時 15 分					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 体育・スポーツに期待するものは？文化としてのスポ ーツ シラバス、進め方について			○ペア、グループ学習についてまとめてお く。 40 分 ○文化としてのスポーツについて調べてお く。 50 分		
第 2 回	感染症について考える ～Covid19 を例に～			○コロナ禍の生活についてまとめておく。 50 分 ○Covid19 についての知識をまとめておく。 (70 分)		
第 3 回	感染症について考える			○ワクチン接種のメリット、デメリットにつ		

	～ワクチン接種について～	いてまとめておく。 50 分 ○ワクチン接種についての記事を収集しておく。 40 分
第 4 回	生活習慣病について考える	○若年性生活習慣病についてまとめておく。 40 分 ○他の生活習慣病について調べておく。 50 分
第 5 回	自分を知り、自分を改善する ～BMI、身体組成、体幹から考える～	○現状の私を見つめなおす（体重、日常生活）しておく。 40 分 （自分だけがわかればよい） ○体幹を鍛える運動に取り組んでみる（課題①） 運動 10 分、準備、レポートで 50 分
第 6 回	年齢と体力について ～発達と老化～	○人の発達と老化についてまとめる。 50 分 ○ロコモティブシンドロームについて調べておく。 40 分
第 7 回	QOL の向上に向けて ～ロコモティブシンドロームについて考える～ （尼崎市高齢介護課連携授業） 基本講義（30 分） - 地域講義（20～30 分・VTR 等） - グループワーク グループワーク①	○グループワークをブラッシュアップし、次回提出する。 1 時間 ○体力について調べておく。 30 分
第 8 回	認知症における運動の効果について考える ～運動は認知症予防に貢献できるか～ 認知症予防サポーター養成事業と連携	○認知症についてまとめておく。（50 分） ○認知症の方に出会ったらどう行動するかについてまとめる。（課題 ②）（50 分）
第 9 回	生涯スポーツについて ～今、なぜ、生涯スポーツなのか～	○スポーツ政策についてまとめておく。 40 分 ○中、高校の部活動の功罪について自分のまとめておく。 50 分
第 10 回	部活動について ～学校運動部の光と影～	○学校運動部とスポーツクラブ（Jリーグ下部組織など）を比較的に検討し、まとめておく。 50 分 ○子どもの体力について文部科学省の HP から経年変化を調べておく。 40 分
第 11 回	子どもの体力について ～子どもを取り巻くスポーツ環境から～	○運動の生活化についてまとめておく。 40 分 ○トレーニングについて調べておく。 50 分

第 12 回	トレーニングについて ～筋トレすれば、するほど…～	○さまざまなトレーニングについてまとめておく。 40 分 ○日常起こり得るけがについての対処法を調べる方法を考えておく 50 分 (次回は、ジグソー法で行うので調べ方を知っていることは必須です)
第 13 回	運動（体育）とリスク① ～こんな時、どうする。日常編～ 通常起こりうるけがについて理解を深め、その対処法をまとめる (ジグソー法) グループワーク②	○グループワークをブラッシュアップし、次回提出する。 1 時間 ○学校における運動領域における危機管理について調べておく。 30 分
第 14 回	運動（体育）とリスク② ～小学校における運動領域の危機管理～ 小学校における運動領域の危機管理について理解を深める 基本講義（30 分） - 外部講師の講義（20～30 分・VTR 等） - グループワーク グループワーク③	○グループワークをブラッシュアップし、次回提出する。 1 時間 ○ソーシャルキャピタルについて調べておく。 30 分
第 15 回	まとめ；生涯スポーツで地域の活性化 ～地域とともにスポーツを～ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PED201-A51	2.科目名	初等国語科教育法	3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦				
5.授業科目の区分	基幹 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育学部	9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	[目的] 授業を作るためのプロセスと意義を理解し、実践することをめざす。 [概要] ・講義とグループワークを中心とする授業を通して、国語科教育の実際を知り、現状における課題を浮き彫りにし、これからの国語科教育の歩むべき方向を知る。 ・授業を作ることに必要となる教師の国語力とはいかなるものかを明らかにする。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP の（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。国語力を基礎として、教材研究から実際の授業を行える段階までの力量を身につけることができる。 具体的には、 ?学習指導要領と教科書との関連を把握することができる。 ?教材(学習材)研究を通じて、指導案を作成することができる。 ?指導案に基づく模擬授業を行い、批評会に参加することができる。 ?書写指導について実践を通して指導法を学ぶことができる。				
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。				
20.参考文献	大村はま「教えるということ」「教室をいきいきと」（筑摩書房） 益地憲一「小学校国語科の指導」（建帛社） 小学校国語科学習指導要領				
21.成績評価	授業記録（毎回の 100 字コメント） 30% レポート 30%（10%×3） 毛筆漢字作品（第 8 回提出） 教材新聞（グループ作成） 第 12 回提出 学習指導案（個人作成） 第 13 回提出 総合レポート（第 14 回提出） 40%				
22.コメント	書写指導のために、以下の毛筆セットを各自で準備してください。 筆ペン、筆（大筆）、墨液、半紙（20 枚）、文鎮、墨池（硯でも可）、毛筆用下敷き 生成 AI の利用については、その都度指示する。				
23.オフィスアワー	月 4 限（15：00～16：30）				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 国語科授業において、大事にしたいことは何かについて意見交換する。 授業記録として、100 字コメント用紙に記入する。（以降毎回記入する）			○「じどうしゃくらべ」を原稿用紙に視写する。（240 分）	

第 2 回	【第 2 回】教材研究の方法を学ぶ。 視写を行った教材（学習材）を用いて、教材研究の実 際を知る。 学習指導要領における目標及び内容を理解する。（←目 標?）	○教材研究の方法を用いて実際に教材研究を 行う。（150 分） ○「じどうしゃくらべ」の指導案を検索す る。（90 分）
第 3 回	【題 3 回】国語科学習指導案研究(←目標?) 指導案の形式と作成の手順を学ぶ。 指導案に記載の各項目について知る。	○指導案を B4 用紙に視写する。（120 分） ◎板書計画、発問計画を作成する。（120 分）
第 4 回	【第 4 回】模擬授業 視写を行った教材を用いた模擬授業を受け、授業のみか たを实地体験する。 模擬授業についてグループで研究協議を行い、報告す る。	○模擬授業をふまえて、授業作りのプロセス をまとめる。（240 分）
第 5 回	【第 5 回】百人一首を楽しむ。 古典の授業の必要性を知る。	○百人一首のうちの 10～20 首を憶える。 （240 分）
第 6 回	【第 6 回】百人一首を用いた授業を考える。 古典の学習における指導上の留意点を理解する。	○ひらがな、カタカナのものの漢字を調べ る。（240 分）
第 7 回	【第 7 回】書写指導の方法を学ぶ。 筆ペンを用いて書写指導の基本を知る。 文字を丁寧に書くことの重要性和文字指導の必要性を 知る。	◆筆ペンを持参する。 ○毛筆漢字作品の課題を練習する。（240 分）
第 8 回	【第 8 回】書写指導一毛筆による漢字指導（←目標?） 実際に毛筆を用いて漢字作品を仕上げる。 書写指導の留意点を実感する。	◆毛筆セットを持参する。 ○書写指導の要点をまとめる。（240 分） ★毛筆漢字作品を提出する。
第 9 回	【第 9 回】教材新聞の実際と作り方を学ぶ。 国語科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材 研究に活用する。	◎物語文教材の教材新聞の構想を練る。（240 分）
第 10 回	【第 10 回】物語文の教材研究と指導案および教材新聞 作り 指導案を作成するための教材研究手順の確認と指導案 および教材新聞を始める。（←目標?）	◎物語文教材の指導案および教材新聞作りを 進める。（240 分）
第 11 回	【第 11 回】物語文教材研究と指導案および教材新聞作 りを進める。（←目標?）	◎物語文教材の教材新聞を仕上げる。（240 分）
第 12 回	【第 12 回】物語文の指導案を仕上げる。 発問計画、板書計画をグループで検討する。	★グループ教材新聞提出。 ○グループ指導案をもとに各自指導案を作成 する。（240 分）
第 13 回	【第 13 回】代表グループによる物語文の模擬授業を実 施する。 授業研究協議会を開く。（←目標?）	★個人国語科学習指導案提出。 ○総合レポート課題について準備する。（240 分）
第 14 回	【第 14 回】総合レポート「国語の授業を作るための必 須事項」を仕上げる。 国語科授業の全体構造を理解する。	○これまでの授業内容をふり返り、まとめ る。（240 分） ★総合レポートを授業内に記述し提出する。
第 15 回	【第 15 回】総合レポートをふまえて「国語科授業」に ついて意見交流を行う。 国語科の全体構造を把握する。	○「国語科授業」に関する気づきをまとめ る。（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED202-A51	2.科目名	初等音楽科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】学習指導要領に基づく音楽科基礎理論を根拠として小学校音楽科の学習指導案の作成を学ぶ。モデル授業のビデオや学習指導案例を解釈したうえで、テキスト事例を基本にグループで模擬授業を行う。模擬授業の実施結果をレポートし、音楽科の指導内容を改めて捉え直す。最終的に具体的授業像につながる学習指導案を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP【社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性)】に関連しています。 集団や社会のために他者とともに行動し貢献することができる。 【学修目標】 ・学習指導要領における音楽科目の目標と構造を理解する ・学年における指導上の留意点を理解したうえで、教材の活用・授業設計・学習評価の方法を理解する ・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成する ・模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける					
19.教科書・教材	三訂版 新版 小学校音楽科の学習指導 ー生成の原理による授業デザイナー あかつき教育図書					
20.参考文献	生成を原理とする 21 世紀音楽カリキュラム ー幼稚園から高等学校までー 東京書籍					
21.成績評価	最終指導案作成 2 6 % 授業を通した指導案作成① 4 %② 4 %③ 1 0 % ワークシート 1 6 % (2 % × 8 回) 模擬授業指導案 1 0 % 模擬授業実践結果レポート 1 0 % 小テスト 2 0 %(1 0 % × 2 回)					
22.コメント	採用試験に課されることの多いソプラノリコーダーを持参 講義を聴くだけではない参加型授業であることを認識し授業に臨むこと。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2025/10/01	オリエンテーション 学習指導案と音楽科の授業像 教科教育における学習指導案の位置づけと授業の目標を理解する。 新旧音楽科の授業比較を通して、これからの音楽科の授業に対するイメージをつかむ。 ワークシート① 指揮法及びリコーダー演奏の基礎を習得する。			○ [学修課題 予・復習] 指揮法及びリコーダー演奏の基礎を理解する。2 h		
2025/10/08	音楽科の指導内容と教材研究 学習指導案作成において教材研究の方法を理解す			○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 8～10、 p. 18、 p. 160～161、 p. 2		

	る。 ワークシート② 歌唱共通教材(1・2年生)の指揮	7～p 32を読む。 4 h 歌唱共通教材(1・2年生)の指揮 1 h
2025/10/15	音楽科における知覚・感受と共通事項 学習指導要領における共通事項を認識し、音楽科における知覚・感受を理解する。 ワークシート③ 歌唱共通教材(3・4年生)の指揮	○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 19～p. 32を読む。 5 h 歌唱共通教材(3・4年生)の指揮 1 h
2025/10/22	音楽科の指導内容の構成 学習指導案作成において指導内容の構成を理解する。 ワークシート④歌唱共通教材(5・6年生)の指揮	○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 35～p. 44を読む。 3 h 歌唱共通教材(5・6年生)の指揮 1 h
2025/10/29	指導内容と年間指導計画および学習指導案 指導内容と年間指導計画および学習指導案との関連を理解する 音楽科の学力 学習指導案作成において、音楽科の学力構造に基づく評価の観点と評価方法を理解する。 子どもの安心につながる指導案をグループで考案する。指導案① ワークシート⑤ 歌唱共通教材(1・2年生)のリコーダー演奏	○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 12～p. 15、p. 32～p. 34を読む。 3 h 歌唱共通教材(1・2年生)のリコーダー演奏 1 h
2025/11/05	音楽科の目標 学習指導案作成において音楽科の目標を学校教育における位置づけと関連させて理解する。 子どもの安心につながる指導案をグループで考案する。指導案② ワークシート⑥ 歌唱共通教材(3・4年生)のリコーダー演奏 音楽科の単元構成の原理 学習指導案作成において音楽科の単元構成の方法を理解する。	○ [学修課題 予・復習] 歌唱共通教材(3・4年生)のリコーダー演奏 1 h
2025/11/12	音楽科の指導方法 学習指導案作成において音楽科授業の指導法を理解する。 ワークシート⑦歌唱共通教材(5・6年生)のリコーダー演奏	○ [学修課題 予・復習] 次回学習指導案提出に向けた最終チェック 4 h 歌唱共通教材(5・6年生)のリコーダー演奏 1 h 次回指揮法及びリコーダー演奏テストの準備 4 h
2025/11/19	音楽科学習指導の構造 学習指導案作成事例の授業実践を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 授業を通して作成した指導案を提出する。指導案③ 指揮法小テスト リコーダー小テスト	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。2 h

	適宜教員からのフィードバックする	
2025/11/26	模擬授業の検討 グループごとに、実践する模擬授業(鑑賞・器楽・歌唱・音楽づくり)について検討する。	◎ [学修課題 予・復習] グループごとに、実践する模擬授業(鑑賞・器楽・歌唱・音楽づくり)について検討し、模擬授業指導案を作成。 5 h
2025/12/03	模擬授業①「鑑賞」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h
2025/12/10	模擬授業②「音楽づくり」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h
2025/12/17	模擬授業③「器楽」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h
2025/01/07	模擬授業④「歌唱」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h テキスト p. 45～p. 52を読む 3 h
2025/01/14	音楽科の学習評価 音楽科の評価の観点と評価方法、評定への導き方を理解する。 ワークシート⑧	○ [学修課題 予・復習] 次回最終指導案作成に向け検討する。 5 h
2025/01/21	学習指導案の作成 指定された条件による学習指導案を作成し提出する。	

1.授業コード (ナンバリング)	PED203-A51	2.科目名	初等図画工作科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む。)			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し、この教科の意味や価値についての認識を深めます。 その上で、題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量的形成をはかります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①図画工作科の教育目標や指導理念、教材開発の視点、学習内容について説明できるようにします。 ②子どもの視点に立った教科内容の理解を深め、表現・鑑賞教材の具体的な授業場面を想定した授業設計を行うとともに効果的な指導方法の習得を目指します。 ③児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反応する力を養います。					
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論（新訂版）』2018. ISBN978-4536601030、もしくは、大橋功『美術教育概論（改訂版）』2009. ISBN978-4-536-60021-7 1 年次に購入したもので良い。 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 最新版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上, 1・2 下, 3・4 上, 3・4 下, 5・6 上, 5・6 下』日本文教出版 ④は「造形Ⅰ」（1 年春学期）、「保育内容・表現Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅱ」（					
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版, 2012. ISBN978-4-536-60056-9					
21.成績評価	① 受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ② グループワーク（4 回分）= 20%（翌週の授業時に提出） ③ 個人ワーク（10 回）=30%（翌週の授業開始までに webclass に提出） ④ 作成した学習指導案の内容=20% ⑤ レポート課題=20% ①は、学習目標①の達成、②は、学習目標②の達成、③は、学習目標の②③の達成、④は、学習目標②の達成、⑤は、学習目標①②③の達成状況を評価します。					
22.コメント	○本講義では、実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。 ○受講生を 3～4 人を基準とするグループに分け、協調自立学習として展開します。したがって、欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく、グループのメンバーへの迷惑になるということを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので、汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・友達・教室を汚さない」が基本です。					

	※オンデマンド回分の学習確認は、webclass で記入する「授業内課題」の実施状況を確認します。 （出欠確認に相当します） 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定します。	
23.オフィスアワー	木曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 SAO	ガイダンス 活動グループのグルーピング 図画工作科の意義と課題について 教科書 pp.94～99	○復習及び授業ノートの整理（120 分） ★資料のダウンロード・プリントアウト（60 分）
第 2 回 SAO	子どもの造形活動を捉える視点 自分たちが学んできた図画工作科の授業の交流と、学習指導要領における図画工作科の内容について 教科書 pp.100～107 個人ワーク：課題「思い出してみよう」	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「思い出してみよう」（60 分）
第 3 回 SAO	教材づくりの基礎 図画工作科で用いられる材料・用具・用法について 教科書 pp.150～160 個人ワーク：課題「ひとつの用具を採り上げ、指導時の安全指導についてポイントを整理しよう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：「ひとつの用具を採り上げ、指導時の安全指導についてポイントを整理しよう」（60 分）
第 4 回 SAO	学習指導要領と美術教育の変遷・今日的課題について 教科書 pp.32～37 個人ワーク：課題「他の教科・領域と関連させた図画工作科の題材を見つけよう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★◎個人ワーク：課題「他教科と関連させて行う図画工作科の題材について、学習指導案を Web で探して内容について考えよう。」（60 分）
第 5 回 SAO	表現活動の授業づくり①（造形遊び） 「造形遊び」のねらいと特徴について 教科書 pp.122～127 個人ワーク：課題「造形あそびの作品をつくろう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「自然物を使った造形あそびの作品をつくろう」（60 分）
第 6 回 SAO	表現活動の授業づくり②（絵にあらわす） 「絵にあらわす」のねらいと特徴について 教科書 pp.128～131 個人ワーク：課題「絵に表す題材を見つけよう」 描画ソフトによる製作	◆ノートパソコン◆ 復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「コラージュ技法を使った作品をつくろう」（60 分）
第 7 回 SAO	表現活動の授業づくり③（立体にあらわす） 「立体にあらわす」のねらいと特徴 教科書 pp.128～131 個人ワーク：課題「針金を使った造形物をつくろう」	◆ノートパソコン◆ 復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「針金を使った造形物をつくろう」（60 分）
第 8 回 SAO	表現活動の授業づくり④（工作にあらわす） 「工作にあらわす」のねらいと特徴 教科書 pp. 132～137 個人ワーク：課題「身近な材料で動くおもちゃをつくろう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「身近な材料で動くおもちゃをつくろう」（120 分）

第 9 回 SAO	表現活動の授業づくり⑤（絵や立体，工作にあらわす） 「絵や立体，工作にあらわす」のねらいと特徴 グループワーク 1：課題「グループでストーリーを考え，オリジナルキャラクターをつくったり動かしたりしてアニメーションをつくろう」 動画編集アプリ「ストップモーション」を使った製作	◆スマートフォン・タブレットのいずれか、ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★◎グループワーク II：課題「グループでストーリーを考え，オリジナルキャラクターをつくったり動かしたりしてアニメーションをつくろう。」（240 分）
第 10 回 SAO	表現活動の授業づくり⑥（鑑賞） 鑑賞のねらいと特徴 教科書 pp.144～149 個人ワーク：課題「鑑賞ワークシートをつくろう」 ワープロソフト「WORD」による製作	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「鑑賞学習で使えるワークシートをつくろう」（60 分）
第 11 回 SAO	評価の方法 学習評価の目的と評価の観点について 教科書 pp.118～120 個人ワーク：課題「題材の評価基準を作成しよう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「題材の評価基準を作成しよう」（60 分）
第 12 回 SAO	カリキュラム編成と授業の構想 指導案の書き方と留意点について 授業計画と授業構想について 教科書 pp.108～117 個人ワーク：課題「インターネットなどで学習指導案を検索し，指導案を作成しよう」 Web での検索、ブラウザの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「図画工作科の学習指導案を書いてみましょう。」（120 分） <webclass に提出>
第 13 回 SAO	授業をつくる① 図画工作科の授業づくりについて 作成してきた学習指導案を基に、模擬授業を計画しよう グループワーク 2「グループで 1 つ題材を選んで、題材紹介のプレゼンテーションをつくろう」 Web での検索、ブラウザの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★グループワーク：課題「模擬授業を計画しよう(プレゼンをつくろう)」（120 分） <webclass に提出>
第 14 回 SAO	授業をつくる② 図画工作科の授業づくりについて グループワーク 3：課題「グループで 1 つ題材を選んで，学習指導案を作成し模擬授業をしよう」1 プレゼンテーションソフトの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★◎グループワーク III：課題「グループで 1 つ題材を選んで，学習指導案を作成し模擬授業をしよう」（240 分） ○レポート作成（課題は講義時に説明します）
第 15 回 SAO	授業をつくる③ 図画工作科の授業づくりについて グループワーク 3：課題「グループで 1 つ題材を選んで，学習指導案を作成し模擬授業をしよう」2 総括 プレゼンテーションソフトの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「学習指導案を作成しよう」 ○レポート作成 <webclass に提出>

1.授業コード (ナンバリング)	PED205-A51	2.科目名	初等体育科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	基幹科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	小学校必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉子ども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習（3回はオンデマンド授業）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	小学校における体育科の各運動領域の特性やねらいを理解し、学年や発達に応じた指導計画を作成する力を育成し、学習指導案作成を通して教材研究し、授業を創造的に展開していける力を養成する。 その際、運動が持つ特性を理解し、児童が運動それぞれが持つ固有の楽しさに触れることができるような学習活動を展開する。					
18.学習目標と DPとの関連	【DP との関連】②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。体育における教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。以下の3点を学習の目標とする。 ① 自らの体育学習観を振り返り、運動の楽しさを核とした授業づくりの基盤を確立することができる。 ② 授業実践上の教師の構えを身につけ、教材研究を反映した授業づくりができる。 ③ 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。					
19.教科書・教材	学習指導要領解説（体育編）文部科学省 東洋館出版（各学校で体育科の教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準が書かれています。文部科学省のHPからPDF閲覧可能） 初等体育授業づくり入門 岩田靖他編著 大修館書店（授業で扱う指導案の書き方についてまとめられた書籍です。）					
20.参考文献	体育科教育学入門 高橋建夫他 大修館書店（授業内で扱う内容についてまとめられた書籍です。） 保健科教育法入門 日本保健科教育学会編 大修館書店（授業内で扱う体育科保健領域についてまとめられた書籍です。）					
21.成績評価	以下の課題を提出要件を満たし、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする。配点は以下のとおりである。 ①小課題 20点【学習目標①に対応】（第2回、第3回） ②学習指導案 20点【学習目標③に対応】（第11回、第12回） ③交流ワーク（演習）20点【学習目標②に対応】（授業後のふりかえりである大福帳） ④総括テスト 40点（総括テストでは、授業中に配布した資料に自筆で記入したプリントのみ閲覧可能とします）					
22.コメント	体育授業と学級経営には関連があると言われています（日野ら、2000）。体育の授業実践力を身につけ、優れた教員への第一歩としましょう。					
23.オフィスアワー	毎週火曜日の3週目は、研究室で質問等を受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 講義；「小学校で体育授業を行う教師に必要な資質と能力」			○体育科と他の教科の違いについてまとめておく。 1時間		

	・授業の進め方について ・体育科の目標について	○体育授業を行う教師にとって必要な資質と能力についてまとめる。 40 分 ○自らが受けてきた小学校体育の授業についてまとめる 50 分
第 2 回	講義；体育科教育のこれまでとこれから ～r 歴史的変遷～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○遊びについてまとめる。50 分 ○体育が果たしてきた役割について調べておく。 50 分
第 3 回	講義；学習指導要領のこれまでとこれから ～より良い学習指導案に向けて～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○体育の役割を社会的背景を踏まえてまとめる。 50 分 ○学習指導要領の変遷について調べておく。 50 分
第 4 回	講義；体育のカリキュラム論 「体育授業で何を教えるのか」	○社会的背景を踏まえて、学習指導要領の果たした役割をまとめる。 50 分 ○自分が体験したよい体育授業についてまとめる。 40 分
第 5 回	講義；小学校で体育授業を行う教師として知っておきたいこと ～よい体育授業に存在するもの～	○よい体育授業に存在するものについてまとめる。 50 分 ○体育科の領域・内容について調べておく。 40 分
第 6 回	講義；学習指導案の作成 ～単元計画と学習指導案の作成～	○単元計画及び学習指導案作成のポイントをまとめる。50 分 ○体育指導場面で頻繁に表れる場面についてまとめる。40 分
第 7 回 演習（体育館）	講義と活動；こんな時、どうする？ ～場面指導とマイクロティーチング～	○場面ごとにマイクロティーチングの方法を整理しておく。 50 分 ○体づくり運動と他の領域の違いについて調べておく。 40 分
第 8 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業① ～体づくり運動系～	○必要の充足の視点から、体づくり運動をまとめる。50 分 ○陸上運動の特性について調べておく。 40 分
第 9 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業② ～陸上運動系～	○走運動を中心に陸上運動について整理しておく。 50 分 ○保健領域について調べておく。 40 分
第 10 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業③	○薬物乱用の事例から、保健の授業について

	～保健領域～	まとめておく。 50 分 ○器械運動（特に跳び箱）について調べておく。 50 分
第 11 回 演習（体育館）	講義と活動；指導案作成と模擬授業④ ～器械運動系～	○技の系統性と課題の視点を柱に器械運動についてまとめておく。 50 分 ○ボール運動（ゴール型）について調べておく。
第 12 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑤ ～ボール運動系～	○ゲームの様相の観点（攻防分離から攻防争乱）から、ゴール型ゲームをまとめておく。 50 分 ○ネット型ゲームについて調べておく。 40 分
第 13 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑥ ～水泳運動系～	○安心安全の観点から水泳運動についてまとめておく。 50 分 ○水泳授業の評価について調べておく。 50 分
第 14 回	講義と活動；授業全体のふりかえり ～事例問題を通した総合的なふりかえり～ 講義全体で学んだ知識の整理（習得）及び事例問題を通した総合的なふりかえり（活用）。	○グループによるまとめを完成させる（時間内にできないときは、次回までに提出）。 ○他の教科と比較し、体育の独自性についてまとめておく。
第 15 回	講義；総括 体育科の独自性とは 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PED205-A52	2.科目名	初等体育科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	基幹科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	小学校必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉子ども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習（3回はオンデマンド授業）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	小学校における体育科の各運動領域の特性やねらいを理解し、学年や発達に応じた指導計画を作成する力を育成し、学習指導案作成を通して教材研究し、授業を創造的に展開していける力を養成する。 その際、運動が持つ特性を理解し、児童が運動それぞれが持つ固有の楽しさに触れることができるような学習活動を展開する。					
18.学習目標と DPとの関連	【DP との関連】②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。体育における教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。以下の3点を学習の目標とする。 ① 自らの体育学習観を振り返り、運動の楽しさを核とした授業づくりの基盤を確立することができる。 ② 授業実践上の教師の構えを身につけ、教材研究を反映した授業づくりができる。 ③ 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。					
19.教科書・教材	学習指導要領解説（体育編）文部科学省 東洋館出版（各学校で体育科の教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準が書かれています。文部科学省のHPにてPDFの閲覧可能） 初等体育授業づくり入門 岩田靖他編著 大修館書店（授業で扱う指導案の書き方についてまとめられた書籍です。）					
20.参考文献	体育科教育学入門 高橋建夫他 大修館書店（授業内で扱う内容についてまとめられた書籍です。） 保健科教育法入門 日本保健科教育学会編 大修館書店（授業内で扱う体育科保健領域についてまとめられた書籍です。）					
21.成績評価	以下の課題を提出要件を満たし、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする。配点は以下のとおりである。 ①小課題 20点【学習目標①に対応】（第2回、第3回） ②学習指導案 20点【学習目標③に対応】（第11回、第12回） ③交流ワーク（演習）20点【学習目標②に対応】（授業後のふりかえりである大福帳） ④総括テスト 40点（総括テストでは、授業中に配布した資料に自筆で記入したプリントのみ閲覧可能とします）					
22.コメント	体育授業と学級経営には関連があると言われています（日野ら、2000）。体育の授業実践力を身につけ、優れた教員への第一歩としましょう。					
23.オフィスアワー	毎週火曜日の3週目は、研究室で質問等を受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 講義；「小学校で体育授業を行う教師に必要な資質と能力」			○体育科と他の教科の違いについてまとめておく。 1時間		

	・授業の進め方について ・体育科の目標について	○体育授業を行う教師にとって必要な資質と能力についてまとめる。 40 分 ○自らが受けてきた小学校体育の授業についてまとめる 50 分
第 2 回	講義；体育科教育のこれまでとこれから ～r 歴史的変遷～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○遊びについてまとめる。50 分 ○体育が果たしてきた役割について調べておく。 50 分
第 3 回	講義；学習指導要領のこれまでとこれから ～より良い学習指導案に向けて～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○体育の役割を社会的背景を踏まえてまとめる。 50 分 ○学習指導要領の変遷について調べておく。 50 分
第 4 回	講義；体育のカリキュラム論 「体育授業で何を教えるのか」	○社会的背景を踏まえて、学習指導要領の果たした役割をまとめる。 50 分 ○自分が体験したよい体育授業についてまとめる。 40 分
第 5 回	講義；小学校で体育授業を行う教師として知っておきたいこと ～よい体育授業に存在するもの～	○よい体育授業に存在するものについてまとめる。 50 分 ○体育科の領域・内容について調べておく。 40 分
第 6 回	講義；学習指導案の作成 ～単元計画と学習指導案の作成～	○単元計画及び学習指導案作成のポイントをまとめる。50 分 ○体育指導場面で頻繁に表れる場面についてまとめる。40 分
第 7 回 演習（体育館）	講義と活動；こんな時、どうする？ ～場面指導とマイクロティーチング～	○場面ごとにマイクロティーチングの方法を整理しておく。 50 分 ○体づくり運動と他の領域の違いについて調べておく。 40 分
第 8 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業① ～体づくり運動系～	○必要の充足の視点から、体づくり運動をまとめる。50 分 ○陸上運動の特性について調べておく。 40 分
第 9 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業② ～陸上運動系～	○走運動を中心に陸上運動について整理しておく。 50 分 ○保健領域について調べておく。 40 分
第 10 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業③	○薬物乱用の事例から、保健の授業について

	～保健領域～	まとめておく。 50 分 ○器械運動（特に跳び箱）について調べておく。 50 分
第 11 回 演習（体育館）	講義と活動；指導案作成と模擬授業④ ～器械運動系～	○技の系統性と課題の視点を柱に器械運動についてまとめておく。 50 分 ○ボール運動（ゴール型）について調べておく。
第 12 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑤ ～ボール運動系～	○ゲームの様相の観点（攻防分離から攻防争乱）から、ゴール型ゲームをまとめておく。 50 分 ○ネット型ゲームについて調べておく。 40 分
第 13 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑥ ～水泳運動系～	○安心安全の観点から水泳運動についてまとめておく。 50 分 ○水泳授業の評価について調べておく。 50 分
第 14 回	講義と活動；授業全体のふりかえり ～事例問題を通した総合的なふりかえり～ 講義全体で学んだ知識の整理（習得）及び事例問題を通した総合的なふりかえり（活用）。	○グループによるまとめを完成させる（時間内にできないときは、次回までに提出）。 ○他の教科と比較し、体育の独自性についてまとめておく。
第 15 回	講義；総括 体育科の独自性とは 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PED206-A51	2.科目名	初等学校経営論 (2021 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫					
5.授業科目の区分	展開科目 教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	6.必修・ 選択の区分	選択 教職選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習（一部） グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】「社会的な教育機関である学校の特性・構造等を理解し、学校経営の基礎・基本について学ぶ。」 【概要】 ○社会の中での学校の役割が理解できる。 ○ギガスクール構想の意義とこれからの学校・学級の姿について理解できる。 ○学校組織の構造と特性が理解できる。 ○教職員の職務の特性が理解できる。 ○学校経営・学級経営の本質が理解できる。 ○教師力について理解し、実践力の基礎を身につけることができる。					
18.学習目標と D P との関連	【D P に基づく本授業の学修目標】 (1)自律性：社会的な教育機関である学校の特性・構造等について、自らの経験を振り返りと対照しながら理解できるようになること。 (4)問題発見・解決力：知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる。 (6)専門的知識・技能の活用力：必要かつ信頼できる情報を取捨選択して集め、問題解決のために要点を整理・保存することができる。 【詳細】 (1-1) 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 (1-2) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 (4-1) 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 (4-2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 (6) 学校の管理下で起こる多様な事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解し活用できるようにする。					
19.教科書・教材	○笑育ドリル～「育てる」をもっと楽しく・おもしろく～ ※「生徒指導・進路指導論」でも使用します。					
20.参考文献	○笑育のすすめ～「笑顔」の力で教育が変わる～ エイチエス出版					
21.成績評価	○グループワークを含む学修記録としての、					

	ワークシートの作成（ほぼ毎時）と提出 … 60% ○小レポート（学級通信づくり） … 20% ○学期末まとめのテスト … 20%	
22.コメント	○教科書「笑育ドリルⅠ」を演習などに使用します。必ず購入してください。 ○途中、オンデマンドの講義を実施する予定です。詳細は、対面講義の中で説明します。 webclass を活用しますので、がんばりましょう。 ○小学校生活は誰もが経験しています。いろいろな思い出があると思いますが、皆さんが受けてきた教育には、どのような意味やねらいがあったのでしょうか。一緒に学んでいきましょう。アクティブラーニングを基本とした講義と言うものは、集団思考に価値があります。即ち、出席してナンボです。第1回目から15回目までしっかりと出席できる人を待っています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	オリエンテーション ・ 受講のルールの確認 ・ シラバスの詳細等々	○小学校での「全校朝会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第2回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題1） ・ 学校の歴史 ・ 学校をめぐる近年の課題について ・ 「全校朝会」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「朝の会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（180分）
【第3回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題2） ・ 子どもを巡る社会の変化と課題 ・ 学校制度と小学校の役割 ・ 社会構造の変化と学校 ・ 「朝の会」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「終わりの会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第4回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題3） ・ PISA 型調査から見た日本の教育課題 ・ 学びの個別化・最適化について ・ 「終わりの会」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「給食」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第5回】	◇学校教育制度について考える1） ・ 公教育の原理と理念（教育基本法から） ・ 「給食」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○クラスで実施していた「掃除のルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第6回】	◇学校教育制度について考える2） ・ 教育制度を支える教育行政の仕組みと理念	○各クラスで実施していた「当番活動」について想起して、その意義や意味について考察

	・「掃除のルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	してくる（120分）
【第7回】	◇学校教育制度について考える3） ・教育制度をめぐる諸課題 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「係活動」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第8回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営1） ・公教育の目的と学校経営 ・「係活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「シールの活用」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第9回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営2） ・学校の年間計画と学校評価 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「宿題」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第10回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営3） ・学校経営の仕組み（校務分掌等）とその方法 ・「宿題」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「シャープペンシルのルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第11回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営4） ・教職員の連携 ・「シャープペンシルのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「席替え」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第12回】	◇学校と地域の連携1） ・地域との連携と協働のあり方 ・「席替えのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「指名の仕方」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第13回】	◇学校と地域の連携2） ・地域との連携と開かれた学校づくり ・「音読」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「音読指導」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第14回】	◇学校安全への対応1） ・「学校危機管理」のあり方について	○レポート課題については、自宅ですらにまとめる。（240分）

	・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	
【第 15 回】	◇学校安全への対応 2) ・安全管理と安全教育の課題 ・学修のまとめ小学校のこれから…教師のこれから… ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○全時のふり返りとまとめ (120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED207-A51	2.科目名	初等教育方法論 (2021 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に活きる知識とスキルを身につけます。 くわたしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。					
18.学習目標と DP との関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原則に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著, 北?路書房, 2022 年					
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著, 北大路書房, 2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀, 三省堂, 2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1) オンライン小テスト (学習目標 1・2・3・4 に対応) 20% →各小テストは、満点で合格です。(何度でも受験可) →実施時期は、授業の中で指示します。 (2) 中課題：学習課題分析図 (学習目標 2 に対応) 15% (3) 小課題 (1)：各回の授業計画検討ワークシート (学習目標 3 に対応) 10% (4) 小課題 (2)：授業への ICT 活用検討ワークシート (学習目標 4 に対応) 10% (5) 最終課題：学習指					
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個人差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま					

		す。 ・下記の授業計画に【 】で括った表記（例：【ケラーの ARCS モデル】）は、授業設計時に活用できる様々な手法や考え方を指しています。授業の中で詳しく解説します。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。
23.オフィスアワー		質問等があれば随時問い合わせてください。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これからの子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・【メーガー 3 つの質問】 ・【ガニエ 9 教授事象】 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標を検討する【ガニエの学習成果 5 分類】（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

	・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む） ・学習指導法（発問などについて） など	
第 9 回	・主体的な学習活動について【ケラーARCS モデル】（第 10 章） ・探究する学習のための授業設計について ・ICT による学びの保障（学習率：【キャロルの時間モデル】）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・教育における、生成 AI を含む ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・学習指導案のための授業デザインレポートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインレポートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・授業設計における生成 AI 活用ワーク ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 生成 AI で作成した授業設計を批評する
第 14 回	・最終課題（学習指導案のための授業デザインレポート）の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）を共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインレポートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり 【カークパトリックの 4 段階評価】で自分の学びを評価ワーク	[予習] 学習指導案のための授業デザインレポートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインレポートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	PED210-A51	2.科目名	図画工作Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む)			
16.履修制限	造形室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 48 人とします。人数が多い場合には、初回の授業で抽選を行います。					
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し、この教科の意味や価値についての認識を深めます。 その上で、題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量の形成をはかります。 特に、「工作にあらわす」、「鑑賞」領域の題材について、製作や活動を通して指導のポイントなどの理解を深め、授業を計画実施できる能力を養います。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・図画工作科の指導理念，教材開発の視点，内容について理解を深めます。 ・子どもの視点に立った教科内容の理解を深め，図画工作科の具体的な指導方法の習得を目指します。 ・児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反応する 力を養います。					
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論（新訂版）』2018. ISBN978-4536601030、もしくは、大橋功『美術教育概論（改訂版）』2019. ISBN978-4-536-60021-7、1 年次に購入したもの ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上，1・2 下，3・4 上，3・4 下，5・6 上，5・6 下』日本文教出版 ①は「造形Ⅰ」（1 年春学期）、「保育内容・表現Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅱ」（2 年秋学期）、					
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版，2012. ISBN978-4-536-60056-9					
21.成績評価	① 受講ノート=10％（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ② グループワーク（模擬授業）=20％ ③ 個人ワーク（活動①～⑩）=20％ ④ 作成した学習指導案=20％ ⑤ 提出課題の内容=30％ ・それぞれの評価基準は，1 回目の授業で配布します。 ・①③④⑤は学科の学習目標達成，②は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる					
22.コメント	○本講義では，実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。 ○受講生を 3～4 人を基準とするグループに分け，協調自立学習として展開します。したがって，欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく，グループのメンバーへの迷惑になると					

		いうことを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので、汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・友達・教室を汚さない」が基本です。 ※後半の授業で、美術館を利用した鑑賞学習の体験に出かけます。交通費と入館料が別途必要です。 ※受講者数を制限しますが、春学期開講の「図画工作科Ⅰ」と併せてを受講登録している人を優先します。「図画工作Ⅰ」と「図画工作Ⅱ」を両方受講すると、「図画工作」の全内容を体験することができ、学びがもっと深まります。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。
23.オフィスアワー		木曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス(本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、 準備物、 課題の提出方法、受講上の留意点などについて) グループづくり 活動①「つくってまわして!」(工作にあらわす 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 2 回	活動②「大空高く舞い上がれ!」(工作にあらわす 2)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 3 回	活動③「土と手と火の魔法(陶芸) その 1」(工作にあらわす 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 4 回	活動③「土と手と火の魔法(陶芸) その 2」(工作にあらわす 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 5 回	活動④「めいろで GO! その 1」(工作にあらわす 4)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 6 回	活動④「めいろで GO! その 2」(工作にあらわす 4)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 7 回	「工作にあらわす」のねらいと特徴について 授業づくり①「工作にあらわす」領域の授業づくり	★学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 8 回	活動⑤「みる、かんがえる、はなす、きく(対話型鑑賞)」(鑑賞 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 9 回	活動⑥「アートカードゲームをしよう(アートゲーム型鑑賞)」鑑賞 2	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 10 回	活動⑦「ポロックさんに教えてもらおう(鑑賞からの製作)」(鑑賞 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 11 回	「鑑賞」のねらいと特徴について 教科書 pp.128～131 授業づくり②「鑑賞」領域の授業づくり	★学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 12 回	授業をつくる① 指導案の書き方と留意点について 教科書 pp.112～117	★◎学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 13 回	授業をつくる② 模擬授業・リフレクションⅠ	○模擬授業の振り返り (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 14 回	授業をつくる③ 模擬授業・リフレクションⅡ	○模擬授業の振り返り (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 15 回	授業をつくる④	○復習及び授業ノートの整理 (60 分)

	模擬授業の評価とリフレクション 本講義の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	PED211-A51	2.科目名	国語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	展開 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 「聞く・話す、読む、書く」の基礎的技能のレベル向上を図り、国語力の伸長をめざす。 [概要] 大村はまの実践から「教えるということ」の本質を探ることを第一義とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目は DP の(4)問題発見・解決力と(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 大村はま先生の言葉にふれ、「言葉を育てる」とは、どのようなことなのかを感得する。					
19.教科書・教材	授業時に随時連絡する。また、適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献	大村はま「教えるということ」(筑摩書房) 野矢茂樹「大人のための国語ゼミ」(山川出版社) 川辺秀美「22 歳からの国語力」(講談社現代新書)					
21.成績評価	授業記録(毎回の 100 字コメント) 30% レポート 30% (10%×3) 壁新聞(グループ作成) 第 5 回提出 大村はま双六(全体作成) 第 9 回提出 大村はまエッセイ 第 13 回提出 総合レポート(第 14 回) 40%					
22.コメント	「大村はま国語教室」の本質に少しでも迫り、子どもたちとの「実の場」において「教えること」にワクワクドキドキできる先生になってほしいと願っています。 生成 AI の利用については、その都度指示する。					
23.オフィスアワー	月 4 限(15:00～16:30)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 大村はまを知る。			○大村はまについて調べる。(240 分)		
第 2 回	【第 2 回】KUIS s 壁新聞発行 複数のグループに分かれ、取材を含め、壁新聞記事を作成することを知る。			◎壁新聞編集会議を継続して行う。(240 分)		
第 3 回	【第 3 回】KUISs 壁新聞編集会議 編集方針を確認し、役割分担を決め、取材も含め、実際の記事作成にとりかかる。			◎壁新聞作成の役割に応じた取材活動を進める。(240 分)		
第 4 回	【第 4 回】KUIS s 壁新聞発行準備 模造紙に記事を記入し始める。			○各自記事作成執筆を進める。(240 分)		
第 5 回	【第 5 回】KUIS s 壁新聞発行 模造紙を完成し、掲示板に貼る。			★壁新聞を発行掲示する。 ◎分担し、壁新聞への反応を聞き取り調査する。(240 分)		
第 6 回	【第 6 回】KUIS s 壁新聞読者反応分析会			○壁新聞への出来栄えについて、各自でまと		

	壁新聞の読者へのアンケートから、それぞれの出来栄に対する分析を行う。	める。(240 分)
第 7 回	【第 7 回】大村はまの実践年表をもとに、大村はま双六を作成する。	○大村はまについて各自で調べる。(240 分)
第 8 回	【第 8 回】大村はま双六作成継続。	★双六について各自調べる。(240 分)
第 9 回	【第 9 回】大村はま双六完成。	○大村はま実践を読む。(240 分)
第 10 回	【第 10 回】大村はま実践に学ぶ。 大村はま国語教室の実践にはどのようなものがあるのかを知る。	○大村はま実践を深く読む。(240 分)
第 11 回	【第 11 回】大村はま実践から学ぶ。 大村はま国語教室の実践から、何を学び得たかを各自明らかにする。	○「大村はま実践から学び得たこと」をまとめる。(240 分)
第 12 回	【第 12 回】大村はま国語教室からの学び 大村はま実践から学び得たことを報告し合う。	○報告会の記録をまとめる。(240 分)
第 13 回	【第 13 回】大村はま実践をまとめる。 大村はま実践の本質を 800 字のエッセイにまとめる。	★大村はまエッセイを提出する。 ○総合レポートの準備を行う。(240 分)
第 14 回	【第 14 回】総合レポートを記述し提出する。 「大村はま実践から学び得たこと」をテーマに、総合レポートを授業内に記述し、提出する。	★総合レポートを提出する。 ○これまでの授業内容をふり返る。(240 分)
第 15 回	【第 15 回】総合レポートを踏まえてふり返る。 大村はま実践、新聞作成等から、「国語力」についての所感を披露し合う。	○「国語力」についての他の人たちの所感をまとめる。(240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED224-A51	2.科目名	総合的な学習の時間の指導法 (小)		3.単位数	1
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許 (通信)	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校「総合的な学習の時間」の成立の背景とその理念を捉え、探究的な活動について協議することを目的とします 【概要】 ○小学校総合的な学習の時間の基本理念 (目標・内容等) について学ぶ ○活動内容に応じたテーマ設定、活動計画、活動案の作成法について学ぶ ○作成した活動案の検討・分析を通して、授業技術について学ぶ ○グループワーク、模擬授業等の活動を通して、授業の奥深さ、面白さを体感する ○SDG s をテーマにした教材開発に取り組む					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキル ⑥専門的知識・技能の活用力に関連します (1) 総合的な学習の時間の背景を知り、目標について説明することができる (2) 探究的なテーマ、横断的・総合的な学習を展開することにより、総合的な学習の時間の意義と約 割を理解する。 (3) 探究的な学習を進めていくことにより、「主体的・対話的で深い学び」の授業法をイメージする。 (4) 子供の認識・思考・経験等を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	○小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間編 ○講義の中で適宜提示します					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の授業ワークシートの作成 20% 《学習目標(1)(2)に対応》 ・「探究的」に適う活動テーマ及び活動の概要を立案することができる 20% 《学習目標(2)(3)に対応》 ・立案したテーマ、活動案をポスターにまとめ表現できる 20% 《学習目標(3)(4)に対応》 ・総括試験 40% 《総括・ふりかえり》					
22.コメント	○毎時間パソコンとイヤホン (ヘッドホン) を準備します。 ○「総合的な学習の時間」は、「探究的な活動」がキーワードとなります。学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」での授業改善等、「総合的な学習の時間」を通して具体的に考えていきたいです。1 時間目から 15 時間目までしっかり出席して、学修仲間と時間と場を共有できる人を待っています。					

23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	○オリエンテーション ・受講のルール ・授業の概要、学修目標、授業の進め方	学習指導要領解説「総合的な学習の時間」第2章目標、目標の趣旨を要約し理解する。 (90分)
【第2回】	○総合的な学習の時間の成立について ○探究的な見方・考え方、横断的・総合的な学習の意義について	小学校総合的な学習の時間実践例の情報収集① (90分)
【第3回】	○実践事例の収集と分析 ・現代的な課題を捉え、課題解決に向けての探究的プロセスを考える ○学習活動案作成に向けてのテーマ（探究課題）について考える	小学校総合的な学習の時間実践例の情報収集② (90分)
【第4回】	○実践事例に学ぶ①～実践事例の検討～ ・「環境」身近な自然環境とそこに起きている環境問題 ・「福祉」身のまわりの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々 収集した実践事例から総合的な学習の時間の目標・指導計画や「主体的、対話的で深い学び」の授業活動の仕組みを捉える。	小学校総合的な学習の時間実践例の情報収集③ (90分)
【第5回】	○実践事例に学ぶ②～実践事例の検討～ ・「伝統文化」地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 ・「防災」防災のための安全なまちづくりとその取組 収集した実践事例から総合的な学習の時間の目標・指導計画や「主体的、対話的で深い学び」の授業活動の仕組みを捉える。 各教科等との関連性を考え、横断的な学習の本質を捉える。	
【第6回】	○総合的な学習の時間の授業づくりを学ぼう① ・探究課題の設定 ・活動計画（学習形態等） ・模擬授業を想定した1時間の活動 小グループで実践例を基に指導（活動）計画の立案	探究的なテーマを考え、テーマに従って授業イメージをデザインする。(90分)
【第7回】	○総合的な学習の時間の授業づくりを学ぼう② ・探究課題の設定 ・活動計画（学習形態等） ・模擬授業を想定した1時間の活動 小グループで実践例を基に指導（活動）計画の立案	探究的なテーマを考え、テーマに従って授業イメージをデザインする。(90分)
【第8回】	○総合的な学習の時間も授業づくりを学ぼう③ ・探究課題の設定 ・活動計画（学習形態等） ・模擬授業を想定した1時間の活動 小グループで実践例を基に指導（活動）計画の立案	グループで協議した内容をポスターで表現し、発信の準備をする。(90分)

【第 9 回】	○ポスターセッション① ・グループで作成した「総合的な学習の時間」のテーマ、ねらい、指導計画等をポスターにまとめ発信する。	グループで協議した内容をポスターで表現し、発信の準備をする。(90 分)
【第 10 回】	○ポスターセッション② ・グループで作成した「総合的な学習の時間」のテーマ、ねらい、指導計画等をポスターにまとめ発信する。	選択した題材で、模擬授業の構想を話し合う。(90 分)
【第 11 回】	○総合的な学習の時間での「防災教育」について①	選択した題材で、模擬授業の構想を話し合う。(90 分)
【第 12 回】	○総合的な学習の時間での「防災教育」について②	選択した題材で、模擬授業の構想を話し合う。(90 分)
【第 13 回】	○SDG s の理念を取り入れた総合的な学習の時間の取組	各グループのポスター・模擬授業の成果から、総合的な学習の時間の教科の価値とねらいをまとめる。(90 分)
【第 14 回】	○まとめのテスト&レポート	
【第 15 回】	○まとめ ・これまでの学修をふりかえり、児童の資質・能力を育てる授業（活動）について、課題となる点を具体的に検討し、交流する。	まとめのレポート

1.授業コード (ナンバリング)	PED225-A51	2.科目名	特別支援教育総論（2021 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	教職必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	幼稚園、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限	幼稚園・小学校教諭免許取得予定者					
17.授業の目的と概要	目的：特別支援教育の歴史的経緯及び理念について知り、今日的な教育課題としての障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育の基本について学ぶ。本講義全体を通して、自らの経験と照らし合わせながら、障害のとりえ方、共生社会実現に向けた教育のあり方について考えていけるようにする。 概要：それぞれの障害に関する基礎的な面をイメージできるようおさえながら、教育体制のあり方や基礎的な環境整備・合理的な配慮について解説する。特に、個々の実態に応じて、目標を設定し、その達成ための手立てを示す個別の指導計画に基づいて指導する自立活動については、具体的に実践事例をあげて紹介する。通常の学級における合理的配慮の在り方、障害のあるなしに関わらない個別最適化の授業など特別支援教育の現状および今日的課題について取り上げる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性，（3）多様性理解，（4）問題発見・解決力，（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ・教育・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教育・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、多様な子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら特別支援教育の基本を理解し、将来の進路に向けた資質向上につなげるようにする。授業の中でのディスカッションを通じてコミュニケーションスキルを高める。					
19.教科書・教材	・障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	・文部科学省（2018）特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示），海文堂出版，484 円 関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 60% 小テスト 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜昼休み（学修支援室） 水曜昼休み（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回 導入 障害と特別支援教育 ICF、障害者権利条約から障害者差別解消法、特別支援教育につながる流れについて理解する。			◆ノートパソコン◆ 授業用資料・ワークシート 第 2 回目以降については授業の中で指示します		

第 2 回	特別支援教育の校内体制と自立活動の教育課程上の位置づけと内容	ユニバーサルな施設などを見つけてアップする
第 3 回	第 3 回 知的障害の理解と支援・指導 ◎知的障害の困り感について体験ワークをすることでイメージする	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 4 回	視覚障害の理解と支援・指導 ◎視覚障害の困り感についてワークをすることでイメージする	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 5 回	聴覚障害の理解と支援・指導 ◎聴覚障害の支援について実技を交えて体験することでイメージする。	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 6 回	肢体不自由の理解と支援・指導 ◎肢体不自由の支援・指導について実践例を通してイメージする	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 7 回	病弱・重度重複障害の理解と支援・指導 ◎事例を通して、イメージを膨らませる。	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 8 回	発達障害の理解と支援（行動面）	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 9 回	発達障害の理解と支援（学習面）	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 1 0 回	発達障害の理解と支援（コミュニケーション面）	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 1 1 回	特別支援教育を必要とする児童生徒とその支援	小テストの内容を学習しておく
第 1 2 回	小テスト 個別の指導計画	個別の指導計画を作成する
第 1 3 回	個別の指導計画と指導の実際	個別の指導計画を作成する
第 1 4 回	教育と家庭、福祉との連携	共生社会の実現に向けてできることを考えておく
第 1 5 回	共生社会実現に向けて	自分の考えをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	PED301-A51	2.科目名	初等社会科教育法		3.単位数	2															
4.授業担当教員	松尾和宣																				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期																
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～																
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許		11.先修条件																		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※																	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義																	
16.履修制限																					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として社会科の目標を理解し、授業の基礎を身に付けることを目的とします。 【概要】 ○小学校社会科の基本理念（目標・内容等）について学ぶ。 ○学習内容に応じた指導計画の作成法。指導計画に基づく指導案の作成。 ○作成した指導案の検討・分析などを通して、授業技術について学ぶ。 ○模擬授業やグループワークなどの体験を通して、授業の奥深さ、面白さを体感する。																				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、D P の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 ①小学校社会科の全体目標や学年目標、各学年の学習内容などを説明することができる。 ②小学校社会科の目標に則し授業計画を立案することができる。 ③グループワークとして相互に模擬授業を提案する ④知り得た内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心をもち教材開発ができる																				
19.教科書・教材	①適宜、資料を配布します ②その他関連サイトの URL や関連資料について授業中に適宜紹介します																				
20.参考文献	○文部科学省学習指導要領（社会編） ○講義の中で適宜提示する																				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです <table border="0"> <tr> <td>・毎時間の授業ワークシートの作成</td> <td>20%</td> <td>【学習目標①に対応】</td> </tr> <tr> <td>・課題１：社会科新聞「わたしのまち自慢」</td> <td>10%</td> <td>【学習目標④に対応】</td> </tr> <tr> <td>・課題２：指導略案①</td> <td>15%</td> <td>【学習目標②③に対応】</td> </tr> <tr> <td>・課題３：指導略案②</td> <td>15%</td> <td>【学習目標②③に対応】</td> </tr> <tr> <td>・総括試験</td> <td>40%</td> <td>【学習目標①⑤に対応】</td> </tr> </table>						・毎時間の授業ワークシートの作成	20%	【学習目標①に対応】	・課題１：社会科新聞「わたしのまち自慢」	10%	【学習目標④に対応】	・課題２：指導略案①	15%	【学習目標②③に対応】	・課題３：指導略案②	15%	【学習目標②③に対応】	・総括試験	40%	【学習目標①⑤に対応】
・毎時間の授業ワークシートの作成	20%	【学習目標①に対応】																			
・課題１：社会科新聞「わたしのまち自慢」	10%	【学習目標④に対応】																			
・課題２：指導略案①	15%	【学習目標②③に対応】																			
・課題３：指導略案②	15%	【学習目標②③に対応】																			
・総括試験	40%	【学習目標①⑤に対応】																			
22.コメント	○授業とは奥深いものです。この講義を通して、社会科学学習のおもしろさ、難しさなどを一緒に体験しましょう。小学校学習指導要領での授業改善の視点として挙げられている「主体的・対話的で深い学び」について皆さんと共に考えを深めていきたいと思います。1時間目から15時間目までしっかり出席して、仲間と時間と場を共有できる人を待っています。																				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応をします。																				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																	

【第1回】	オリエンテーション ・受講のルールについて ・講義の概要について（シラバス） ・小学校社会科の目標について ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第2回】	社会科指導計画・指導案の作成 具体的な手順・作成方法 ・「一枚の絵」を使った授業（「3・4年生の内容」から） ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第3回】	3・4年の学習内容と指導計画づくり ・実践事例研究：「〇〇施設って」 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○小課題①（120分） ○本時のふり返りとまとめ（60分）
【第4回】 5/2	3・4年の学習内容と指導案づくり① ・実践事例研究：「地図」の授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第5回】	3・4年の学習内容と指導案づくり② ・実践事例研究：「都道府県名」の授業① ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第6回】	3・4年の学習内容と指導案づくり③ ・実践事例研究：「都道府県名」の授業② ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第7回】	3・4年の学習内容と指導案づくり④ ・実践事例研究：「スーパーマーケットで働く人」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第8回】	3・4年の学習内容と指導案づくり⑤ ・実践事例研究：「スーパーマーケットで働く人」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○小課題1「お店の仕事」指導略案作成

【第 9 回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑥ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業①～標識あれこれ～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 10 回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑦ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業②～火事を防ぐ～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	◎小課題②「写真から指導略案をつくる」（180 分） ○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 11 回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑧ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業③～尼崎市の火災統計から～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 12 回】	指導計画・指導案づくり①（模擬授業に向けて） ・実践事例研究：「健康なくらし」の授業① ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 13 回】	指導計画・指導案づくり②（模擬授業に向けて） ・実践事例研究：「昔のくらし」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 14 回】	総括試験 「むかしのくらし」模擬授業ふりかえり	
【第 15 回】	総まとめ ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○ 全時のふり返りと総まとめ（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED308-A51	2.科目名	理科Ⅱ	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教員免許状取得予定者			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本演習では、具体的な小学校理科の教材をもとに、それを指導するための教師の予備知識や授業の設計、評価、実験・観察のスキル、授業中の指導技術や教師としての心構え等について学び、理科好きの子どもを育てる理科学習指導の意義と楽しさを伝えることを目標とする。				
18.学習目標と DPとの関連	・教科書やその他の教材から効果的に楽しく学べる実験を調べ、教材として確立する（情報収集・活用力）。 ・科学的なものの見方、考え方について知り、日常の中で行う論理的な思考ができるようになる（論理的思考・判断力）。 ・模擬授業などの発表の場で、楽しく・分かりやすく指導内容を説明できる（自己表現力）。 ・自由思考実験に主体的・協働的に参加し、考察を行う事ができる。				
19.教科書・教材	・小学校理科の観察、実験の手引き詳細（文部科学省、インターネットからダウンロード可）、配布資料				
20.参考文献	・小学校の教科書（4、5、6 学年）				
21.成績評価	1 各演習後のワークシート評価（40%） 2 演習内容の相互評価（15%） 3 模擬授業のワークシート、指導案、評価資料及び模擬授業評価 30%） 4 生物・地学分野の小テスト（15%）				
22.コメント	自由思考実験は大学生にとっても小学生にとってもとても楽しい実験です。ぜひ受講して下さい。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション ・理科Ⅱの演習概要（扱う小学校理科教材） ・HG（ホームグループ）編成・協同学習のガイダンス			実験結果を含むワークシートの提出	
第 2 回	教材研究①小 5「植物の発芽，成長，結実」，「流水のはたらき」，「天気の変化」，小 6「人の体のつくりとはたらき」，「土地のつくりと変化」等について、基本的な履修過程にそって HG 内の担当を決定する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 3 回	生物・地学実験① 教材研究②担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 4 回	生物・地学実験② 教材研究③担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 5 回	生物・地学実験③ 教材研究④担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 6 回	自由思考実験① 教材研究⑤担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 7 回	自由思考実験②			実験結果を含むワークシートの提出	

	教材研究⑥担当分野の教材について、発表する。	
第 8 回	自由思考実験③ 教材研究⑦担当分野の教材について、発表する。	実験結果を含むワークシートの提出
第 9 回	指導案作成	実験結果を含むワークシートの提出
第 10 回	指導案の修正	実験結果を含むワークシートの提出
第 11 回	発問のポイント	指導案の提出
第 12 回	模擬授業①	授業評価表の提出
第 13 回	模擬授業②	授業評価表の提出
第 14 回	模擬授業③	授業評価表の提出
第 15 回	模擬授業④	授業評価表の提出

1.授業コード (ナンバリング)	PED309-A51	2.科目名	道徳教育の指導法	3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	< 授業の目的 > 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について理解を深めるとともに、道徳教育に関する実践的な指導力を身に付ける。 < 授業の概要 > ①学習指導要領解説などの記述を基に、講義や演習を通して、道徳の意義や原理等について理解を深め、道徳科の目標や内容、指導計画等について学ぶ。 ②学んだ知識・技能を活用して、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を行う。				
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連：多様性理解、問題発見解決力、専門知識の活用力 ①道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 ②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 ③子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 ⑤学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 ⑥道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 ⑦道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 ⑧授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 ⑨道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 ⑩模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。				
19.教科書・教材	必要に応じて、資料等を配布いたします。				
20.参考文献	学習指導要領解説 特別な教科 道徳編				
21.成績評価	ワークシートの記述 10%・・・①②③④⑤ 小レポート「模擬授業の資料を設定しそれについて解説する」 20%・・・④⑤⑥⑦ 模擬授業 20%・・・⑤⑥⑦ 指導案「本時の展開を作成する」 20%・・・⑧⑨ 道徳授業指導案「模擬授業の反省をもとに、本時の展開以外の項目を加筆し指導案を完成させる」 20%・・・⑧⑨⑩ レポート「模擬授業の振り返り」 10%・・・⑩				
22.コメント	○グループを組んで学習を進めていきます。座席を指定します。 ○よりよい道徳の授業について考えよう。 これまでに学んだ教職科目（教育学概論、発達心理学、教育心理学、教職概論 初等教育課程論 初等教育方法論 等）について復習したうえで受講してほしいと考えています。				
23.オフィスアワー	月曜日 昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション 学修目標、ベンチマーク 「道德教育の指導法」講義の概要と受講ルールについて	学習指導要領解説（特別な教科道德編）をダウンロードまたは購入し、第1章第2節の2「道德性の発達と道德教育」に目を通しておく。また、発達心理学で学んだ幼児期から児童期、思春期にかけての発達の流れを整理しておく。(180分)
	子どもの発達と道德 児童の道德性の発達とそれ呼応した指導の在り方等について 低学年、中学年、高学年における指導のポイントについて、それぞれの発達の特性を対比させながら検討していく。	○教職科目で学んだ、明治以降の教育の歩み戦後の学習指導要領の変遷について整理しておく。(120分) ○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	道德教育の変遷と現状 学習指導要領に沿って、「道德」および「道德教育」に対する考え方や重点について検討する	学習指導要領解説（道德編）「道德教育の目標」「道德教育の内容」に関する個所について目を通しておく。(80分) ○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	道德教育の目標と内容 学習指導要領解説（特別な教科としての道德編）を参照しながら、道德教育の目標や内容とその具体的例についてグループで話し合い検討する。	○学習指導要領解説（道德編）「道德教育の指導計画」「道德の時間」に関する個所について目を通しておく。(80分) ○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	道德教育の指導計画と「道德科」のねらい 学習指導要領解説（特別な教科としての道德編）を参照しながら、道德教育の指導計画や「道德」の授業の在り方や方法、考え方についてグループで話し合い検討する。	○第2回～5回の内容についての課題レポートを作成し11月 日までに WebClass へ提出する。(240分)
	「道德」の授業の考え方と方法① 教材や情報機器の効果的な活用法や、道德の評価、授業の段階（導入、展開、終末）の意味や内容、授業形態・方法（アクティブラーニング等）など授業の作り方、について学ぶ	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	「道德」の授業の考え方と方法② 資料の提示、発問、児童の反応予測、板書、効果的な議論の進め方など具体的な授業の作り方、について学ぶ	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	「道德」の授業…授業記録から学ぼう 実際に行われた授業の記録（教師の発問と児童の発言）を読みながら、教師の意図やねらい、技術について検討する。 個人ワーク⇒グループワーク を行う。	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)

	「道徳」の授業…実践された指導案を検討しよう 実際の授業のながれや教師の動き、発問、児童の発言や思考・思いの変化などをどのように指導案へ表現していくのかをつかみ、指導案の形式や作成方法について学ぶ。 小グループに分かれて検討する	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	授業づくり 班ごとに、道徳資料を選択しそれに基づいた模擬授業を行うための指導案および具体的な授業の台本(発問、助言、児童の発言・反応を記したもの)を作成する。また、板書計画や教具なども作成する。	◎残っている模擬授業の準備を行う。(480分)
	授業づくり 班ごとに、道徳資料を選択しそれに基づいた模擬授業を行うための指導案および具体的な台本(発問、助言、児童の発言・反応を記したもの)を作成する。また、板書計画や教具なども作成する。	○模擬授業の指導案を完成し1月 日までにWebClassへ提出する。(480分)
	模擬授業 いくつかの班で1つの大グループをつくり、その中で模擬授業(1班30分程度を行う)を行う。また、授業について全員で協議を行い、指導計画、ねらい、進め方、技術、評価など授業改善について検討する。またそれにもとづいて、指導案を修正する。	○模擬授業の指導案を完成し1月 日までにWebClassへ提出する。(480分)
	模擬授業 いくつかの班で1つの大グループをつくり、その中で模擬授業(1班30分程度を行う)を行う。また、授業について全員で協議を行い、指導計画、ねらい、進め方、技術、評価など授業改善について検討する。またそれにもとづいて、指導案を修正する。	○模擬授業の指導案を完成し1月 日までにWebClassへ提出する。(480分)
	道徳教育と他の教育活動 道徳教育および道徳の時間と生徒指導、各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連やすみわけ、連携などについて、学習指導要領解説(道徳編)を参照しながら検討する。	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	振り返り 15回の授業で気づいたこと、学んだことをもとに、現場で道徳教育および道徳の授業を行う上で、自身が大切にすべきこと、課題とすべきことなどについて話し合う。	○最終課題レポートを作成し、1月末までにWebClassへ提出する(課題は授業中に連絡)(240分)

1.授業 コード (ナン バリン グ)	PED309-Y81	2.科目名	道徳教育の指導法		3.単位数	2
4.授業 担当教 員	岡本義裕					
5.授業 科目の 区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	教職中学必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修 可能な 専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～	
10.取得 資格の 要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校 一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究 室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E- Mail Addres s	※※※		15.授業形態	講義（部分的に演習的活動も含める）		
16.履修 制限						
17.授業 の目的 と概要	道徳教育は、自己の生き方や人間としての在り方を考え、主体的な判断の下に自律的に行動し、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。本授業では、そうした道徳の学びの意義や原理等を踏まえ、目標や内容、指導計画等を明確にしながら、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進していくと共に、その要となる道徳科においても「考え、議論する道徳」としての授業を展開していく実践力の基盤を培うために、以下の内容の理解・修得を目指す。 ○道徳の本質（道徳とは何か）への理解。 ○道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）についての理解。 ○子供の心の成長と道徳性の発達についての理解。 ○学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容への理解。 ○学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性への理解。 ○道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴についての理解。 ○道徳科における教材の特徴把握と、それを踏まえた（活かした）授業設計の修得。 ○授業のねらいや指導過程を明確にした、道徳科の学習指導案作成の修得。 ○道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方についての理解。 ○授業改善の視点の確立（模擬授業の実施とその振り返りを通して）。					
18.学習 目標と DP との関 連	・道徳教育の本質的な意義やその基礎的な在り方を理解することができる。 ・上記を現行学習指導要領のねらいと重ね、今後の道徳教育の指針や課題、具体的な方策を見極めることができる。 ・上記2点を具体的な授業として構想し、習得した指導案の作成などに関する知識・技能も活用しながら、実際の展開として構築していくことができる。					
19.教科 書・教 材	○文部科学省(2018)『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（下記のいずれかで準備） ・ダウンロード					

材	https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afiedfile/2019/03/18/1387018_011.pdf ・ 教育出版 ISBN-10: 4316300849 ISBN-13: 978-4316300849 * 講義の進捗状況に即してレジメ等を配布していく。	
20.参考文献	○渡邊満他編(2016)「シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 1 「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育」 北大路書房 ISBN 978-4762829222 ○渡邊満他編(2016)「シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 3 中学校における「特別の教科 道徳」の実践」 北大路書房 ISBN 978-4762829284	
21.成績評価	①各回提出する「講義内容総括（小レポート）」での記述内容<40%> ②各回授業での受講態度（指導案の共同作成など、様々なねらいや形態で行われるグループワークやアクティビティーへの主体的参加・貢献の様子を含む）<20%> ③「最終個別課題：講義の主題や重点事項を形式や内容に充分反映させた学習指導单元案（具体的な要件等については最終段階の講義内で説明）」の量的・質的完成度<40%> 以上により総合的に評価する。但し、「受講態度が好ましくない」「最終個別課題を提出していない」等の場合は、評価の対象とならない。	
22.コメント	適宜グループワークを取り入れていくので、そこでの諸活動に主体的創造的共同的に参加すること。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第1回 講義に関するガイダンスと事前アンケート	
第2回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第2回 道徳教育及び道徳の学習時間に対するイメージから見えるもの	
第3回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第3回 これまでの道徳教育（道徳の学習時間）の特徴と問題点	
第4回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第4回 教科化の中で「特別の教科：道徳」が目指すもの	
第5回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第5回 道徳でどんな力を伸ばすのか（道徳的判断力の視点）	
第6回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第6回 道徳の何をめぐりどんなことに取り組むのか（価値の共同探究）	
第7回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第7回 道徳的探究をどう深めるか（体験的な学びとの一体化）	
第8回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第8回 議論する力をどう高めるか（論理性の伸長）	
第9回	<第三部 考え議論する道徳授業の構想>	

	第 9 回 価値相対化教材（モラルジレンマなど）とクローズドエンドの授業展開	
第 10 回	< 第三部 考え議論する道徳授業の構想 > 第 10 回 モラルディスカッションの概要と合意・了解形成へのディスカルの過程	
第 11 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 11 回 学習指導案の作成手順	
第 12 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 12 回 教材解釈とねらいの設定	
第 13 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 13 回 学習単元及び本時の学習の構成	
第 14 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 14 回 模擬授業（もしくは、学習指導案の相互評価）	
第 15 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 15 回 講義のまとめと実習授業での目標確認	

1.授業コード (ナンバリング)	PED310-A51	2.科目名	初等英語教育研究		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園一種 小学校一種 中学校英語一種	11.先修条件	秋学期 「外国語の指導法」と並行して受けるのがのぞましい。 基礎的授業（指導法に関する実践）			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	小学校では 2020 年から 3 年、4 年の担任は外国語活動を指導、5 年、6 年の担任は英語科を指導しなくてはなりません。また、その影響で、幼稚園や保育園の課内や課外で英語を扱う園が増えてきています。 小学校外国語活動や英語科の指導方法は皆さんが中学で英語を学んだ方法とは大きく異なります。小学校文化に合った、そして子どもの発達段階に合った指導方法でなくてはなりません。このクラスでは、皆さん自身の英語力もアップしながら、実践的に初等英語指導法を学びます。さらに、毎時間授業の振り返りとして受講ノートを書き、講師のフィードバックを受け、学んだものを確実にしていきます。					
18.学習目標と DP との関連	①小学校外国語活動と英語科の目標がわかり、外国語活動の授業の流れがわかる。 ②第二言語習得理論や英語教授法を知り、それらの小学校英語活動・小学校英語教育での活用方法がわかる。（専門的知識・技能の活用力の養成） ③初等英語教育の課題を発見し、それを解決していく能力を養成する ④教室英語を授業内で使うことができる。 ⑤外国語活動の模擬授業をペアまたはグループでコミュニケーション型に行うことができる。（コミュニケーション能力の養成）					
19.教科書・教材	酒井ほか『小学校で英語教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』三省堂 樋口ほか『小学校英語教育内容論入門』研究社 検定教科書『Here We Go! 5』光村図書出版					
20.参考文献	岡秀夫・金森強（編）（2009）『小学校英語教育の進め方―「ことばの教育」として（改訂版）』成美堂.					
21.成績評価	第二言語習得理論・英語教授法レポート 20％ 【学習目標②に対応】 中間テスト 30％ 【学習目標①、③、④に対応】 模擬授業（指導案作成、振り返り含む）30％ 【学習目標④、⑤に対応】 受講ノート 20％ 【学習目標全てに対応】					
22.コメント	・初回授業では、レポートについて説明したり、テキスト担当箇所決定をしたりしますので、必ず出席してください。 ・教育実習で授業を欠席する場合は、必ず担当講師に連絡をしてください。テキストで自習する箇所や課題をお伝えします。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 調整中 研究室オフィスアワー 調整中					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・ オリエンテーション ・ 小学校外国語教育概論 ・ 小学校英語授業体験	予習：次回の予習 テキスト 2 冊持参 レポート作成 第 3 回授業時に提出、発表
【第 2 回】	・ 「外国語教育の意義と言語習得理論」 ・ 教室英語	レポート作成 次回提出
【第 3 回】	・ 「基礎的な外国語指導法（レポート発表）」 ・ 教室英語	レポート提出、発表 予習：次回の予習
【第 4 回】	・ 「教材の構成と内容」	予習：次回の予習 テキスト担当者発表準備
【第 5 回】	・ 「言語材料と 4 技能の指導」	復習：中間テスト準備
【第 6 回】	・ 「授業の基本的な流れと活動例」 教案作成	復習：中間テスト準備
【第 7 回】	・ 中間テスト ・ 教材研究①－児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ 活動 1：うた、チャンツ	予習：次回の予習 次回テキスト発表担当者準備
【第 8 回】	・ 「教材研究①－児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ 活動 2：クイズ、ゲーム、絵本」	予習：次回の予習 次回テキスト発表担当者準備
【第 9 回】	・ 「教材研究②－児童が創意工夫し、生き生きと英語を 使う活動」	予習：次回の予習 次回テキスト担当発表者準備
【第 10 回】	・ 「授業づくり－事前準備から振り返りまで」 ・ 「評価について」	模擬授業準備（グループ）
【第 11 回】	・ 模擬授業準備	模擬授業準備（グループ）
【第 12 回】	・ 模擬授業 1	模擬授業準備（グループ）
【第 13 回】	・ 模擬授業 2	模擬授業準備（グループ）
【第 14 回】	・ 模擬授業 3	予習：次回の予習
【第 15 回】	・ 「豊かな小学校外国語教育をめざして－外国語活動の 成果を課題を踏まえて」 ・ 総括	全ての受講ノート持参

1.授業コード (ナンバリング)	PED313-A51	2.科目名	社会Ⅱ		3.単位数	2												
4.授業担当教員	松尾和宣																	
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期													
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～													
10.取得資格の要件	小学校一種		11.先修条件															
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義														
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、特に小学校 5 年/6 年生の単元についての教材研究を通して、小学校社会科教育についての理解を深めることを目的とします 【概要】 ○社会Ⅰで学んだ小学校社会科教育の目標・内容等のねらいやポイントなどの理解を深め、社会科の教育実践力向上をめざす。 ○小学校社会科教育の目標・内容と具体的な実践との比較研究 ○社会科教育における資料の活用を中心とした学習スキルを検討・研究する ○発表活動、グループワークなどの体験を通した指導法の研究																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP ①自律性 ④問題発見・解決力 ⑥専門的知識・技能の活用力 (1) 5 年・6 年生の単元の概要について説明することができる (2) 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点から、学習展開を構成することができる。 (3) 発問・板書・ノート指導等を効果的に活用し模擬授業を行うことができる (4) グループで模擬授業を実施し、改善策を立てることができる																	
19.教科書・教材	適宜資料を配布																	
20.参考文献	○文部科学省小学校学習指導要領 ○講義の中で適宜提示																	
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです <table border="0"> <tr> <td>・毎時間のワークシートの作成</td> <td>20%</td> <td>《学習目標(1)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・学習指導案の作成</td> <td>20%</td> <td>《学習目標(2)(4)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・模擬授業の実施</td> <td>30%</td> <td>《学習目標(3)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・総括試験</td> <td>30%</td> <td>《総括・ふりかえり》</td> </tr> </table>						・毎時間のワークシートの作成	20%	《学習目標(1)に対応》	・学習指導案の作成	20%	《学習目標(2)(4)に対応》	・模擬授業の実施	30%	《学習目標(3)に対応》	・総括試験	30%	《総括・ふりかえり》
・毎時間のワークシートの作成	20%	《学習目標(1)に対応》																
・学習指導案の作成	20%	《学習目標(2)(4)に対応》																
・模擬授業の実施	30%	《学習目標(3)に対応》																
・総括試験	30%	《総括・ふりかえり》																
22.コメント	社会Ⅰで学んだことをいかして、高学年の社会科学習を中心に学んでいきましょう。講義は参加してナンボの世界です。1 時間目から 15 時間目までしっかりと出席できる人を待っています。																	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する																	
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
【第 1 回】	オリエンテーション ○社会科Ⅱ学習内容の概要と受講のルール ○シラバスについての詳細な解説 ◎5 円玉を使った社会科授業にチャレンジ			○日本の食糧生産の問題点について調べてくる (90 分)														

【第2回】	実践事例研究「日本の食糧生産1）」 ○前回課題の発表 ◎指導案の検討・分析 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第3回】	実践事例研究「日本の食糧生産2）」 ○授業の導入のコツ（天ぷらと豆腐） ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第4回】	実践事例研究「日本の食糧生産2）」 ○指導案の作成と検討 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分） ○日本の水産業の問題点について調べてくる（120分）
【第5回】	実践事例研究「日本の水産業1）」 ○前回課題の発表 ○指導案の作成と検討 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第6回】	実践事例研究「日本の水産業2）」 ○指導案の作成と検討 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第7回】	実践事例研究「歴史学習の基礎知識」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第8回】	実践事例研究「縄文時代」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分） ◎縄文時代までの子どもが喜ぶ歴史クイズをつくる（180分）
【第9回】	実践事例研究「弥生時代」 ◎歴史クイズ合戦 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第10回】	実践事例研究「大仏建立」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第11回】	実践事例研究「平安貴族と庶民のくらし」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）

【第 1 2 回】	実践事例研究「鎌倉武士のくらし」 ◎歴史クイズ合戦 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 1 3 回】	実践事例研究「信長・秀吉・家康の政治」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分） ○「大仏建立」指導案作成
【第 1 4 回】	まとめのテストと指導案作成	○指導案の完成（1 8 0 分）
【第 1 5 回】	これまでの学びのまとめ ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○社会Ⅱの総まとめ（120 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED319-A51	2.科目名	算数Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 興味深い算数指導を行うことを念頭に、算数Ⅰでの学修を1歩進めた、知識・技能・考え方を身につけることをめざす。 概要： ・教員採用選考試験で出題された数学の問題演習を通じて算数・数学的な知識および考え方を深める。 ・実践事例を参照しながら、(子どもたちの) 日常事象や身近にある素材を活かした教材(教具) づくりの考え方や方法について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連：問題発見解決力、専門知識の活用力 ①算数指導に必要な数学的な知識や概念、考え方を身に着ける。 ②小学校算数教育と中・高の数学とのつながりについて指導者の視点から説明することが出来る。 ②日常の事象や身近な素材を教材化するための方法や考え方を身に着ける。					
19.教科書・教材	必要に応じてプリント等を配布します					
20.参考文献	特に指定しない					
21.成績評価	○ワークシート： 30%・・・①に対応 ○教材(教具) の作成：20%・・・③に対応 ○プレゼンテーション：10%・・・①③に対応 ○小レポート： 20%・・・①②に対応 ○最終課題：20%・・・①②③に対応					
22.コメント	○自ら考え、グループで考え、全員で考え、主体的に「考える」ことを楽しもう。 ○間違いから学ぶことが多いです。間違いをよりよい解決へと高めていくことを、この授業に参加する全員の協力の目的としたいです。 ○よりよい解決に達することを目指しますが、「解けたらいい」「分かったらいい」という自分本意な取り組み方は認めません。「解けること」「分かること」が、同じ授業で学ぶ全体の財産にしようとする態度を求めます。 ?主たる目的ではありませんが、教員採用試験対策(数学) にもなると思います。					
23.オフィスアワー	月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2025/09/26	オリエンテーション ・この授業での授業の進め方、学修目標、ベンチマーク 算数の教材教具に関する基本的な理解					
	・算数・数学的な知識や概念について…数と式① 教員採用試験小学全科(数学) で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考			○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく(180分)		

	え方について検討する。	
	・算数・数学的な知識や概念について…数と式② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…方程式① 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…方程式② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…関数① 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…関数② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…図形① 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…図形② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…図形③ 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…場合の数と確率 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分） ●小レポート提出
	・小・中学校での算数・数学授業の実践事例を参考に、教材教具を開発する。	◎残っている教材教具の開発についての作業を行う（３６０分） ◎発表の準備（１２０分）
	・開発した教材教具のねらい、活用法、効果などについてプレゼンテーションを行う。	◎発表の反省や課題を整理する（１８０分）

	・教材教具発表会①の反省をもとに，教材教具の改善	◎残っている教材教具の開発についての作業を行う（３６０分）
	まとめと反省	○最終課題の作成（２４０分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED323-A51	2.科目名	外国語の指導法		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭（コアカリ科目）		11.先修条件	「外国語」（春学期）を先修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、「外国語」（春学期）の応用的科目であり、小学校における外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する応用的な知識や指導技術を実践的に身に付けることを目的とします。 【概要】 具体的には、児童期の第 2 言語習得の特徴、4 技能の指導、評価等の外国語活動や外国語科を指導する上で必要な応用的知識を学び、教材研究や模擬授業の中でそれらの知識や理解をより実践的に身に付け、活用することが求められます。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①「外国語」（春学期）の内容をふまえ、児童期の第 2 言語習得理論や小学校外国語における 4 技能など外国語を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。					
19.教科書・教材	①樋口忠彦（代表）（2023）『最新・小学校英語内容論入門』研究社 ②文部科学省検定済教科書・小学校外国語科用「Here We Go! 5」光村図書（5 年生用） ③文部科学省検定済教科書・小学校外国語科用「Here We Go! 6」光村図書（6 年生用） ※上記、教科書は全冊購入することになります。					
20.参考文献	樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子（2017）『Q&A 小学校英語指導法事典—教師の質問 112 に答える』教育出版。 小学校学習指導要領 最新版 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 最新版 樋口忠彦（代表）（2023）『最新・小学校英語教育法入門』研究社（春学期に購入済のもの） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動 東洋館出版社 {WEB 資料,https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r02032					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ・課題 1：毎回のコメントと授業貢献度 20 % [学習目標①に対応] ・課題 2：小テスト、課題 30 % ? [学習目標①に対応]					

	・課題3：教材研究発表 10% [学習目標②に対応] ・課題4：模擬授業発表（学習指導案含む） 20% [学習目標②に対応] ・課題5：レポート（総括振り返り） 20% [学習目標①、②に対応]	
22.コメント	「外国語」（春学期）では小学校英語教育の基礎理論と「外国語活動」（中学年）における実践的な指導方法・評価規準の設定について、「外国語の指導」（秋学期）では、「外国語」（春学期）で学習した内容をふまえて、「外国語」（高学年）における、より実践的な指導方法・評価規準の設定について学びます。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：調整中	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション：授業の進め方、学習の仕方など ・外国語活動、外国語科の役割と方向 テキスト pp.1-12	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第2回】	・聞くこと、話すこと テキスト pp.14-31 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	・読むこと、書くこと テキスト pp.32-49 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第4回】	・技能統合的な活動 ・母語を利用した「ことばへの気づき」活動 テキスト pp.50-61 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第5回】	・音声の指導 テキスト pp.98-110 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第6回】	・語彙の指導 テキスト pp.111-123	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第7回】	・音声と文字の関係の指導（フォニックスの基礎） テキスト pp.124-135	復習：第1回から第7回までの復習、中間テスト準備
【第8回】	・文字、単語、文の書き方の指導 テキスト pp.136-147	復習：今回の復習 予習：次回の予習
【第9回】	・中間テスト ・文、文構造、文法の指導 テキスト pp.148-165（オンデマンド課題）	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習
【第10回】	・ライム、うた、絵本、児童用物語 pp.166-182	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習 グループワーク：学習指導案(第1案)の作成

		第 1 1 回に提出
【第 11 回】	・新 3 観点の評価作り ・国際理解と国際交流 pp.183-199	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習 グループワーク：模擬授業準備
【第 12 回】	・学習指導案の検討・修正 ・教材研究と教材開発の工夫 pp. 201-218	復習：今回の復習及びノートの整理 グループワーク：模擬授業準備、学習指導案完成
【第 13 回】	・マイクロティーチング（模擬授業）（グループ 1）	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業を行って振り返り記入 グループワーク：模擬授業準備、学習指導案完成 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第 14 回】	・マイクロティーチング（模擬授業）（グループ 2）	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業を行って振り返り記入 予習：次回の予習,レポート作成 第 1 5 回授業時に提出 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第 15 回】	・まとめ ・リフレクション（振り返り）	提出物：レポート

1.授業コード (ナンバリング)	PED324-A81	2.科目名	幼児理解	3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	保育実践の基盤は、保育者の幼児理解にあるといわれている。保育者がその子をどう理解するかによって、保育のありようは大きく変化する。保育者の幼児理解は、保育実践の出発点である。そこで、本授業では、幼児理解にはじまる保育の援助と方法について学ぶ。				
18.学習目標と D P との関連	【授業の到達目標】 1. 幼児理解をする上での知識を深める。 2. 幼児理解に基づいた具体的な保育場面における保育者の援助の在り方を理解する。 3. 保育の方法を Brush Up するための、サイクルを理解し、実践力を身につける。 【関連する学科の DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	■ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 ■ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 ■ 瀧川光治・小栗正裕編『改編 保育の考え方と実践』2012、久美出版				
21.成績評価	課題 1・2 20%+30% → 50% 授業中ワークシートによる評価 13 回 3%×15 回 → 45% e-portfolio 2 回以上の投稿 → 5%				
22.コメント	1. プリント（ワークシート等）を配布するので、ノートは要りません。プリントの中に重要事項、メモ等を記入してください。また、欠席などで、プリント類を受け取っていない場合は、翌週に申し出ること。 2. 【学びの記録シート】の「学習目標に対しての気づき・学び」は授業の中での新たな気づきや学びを書き、「今日の感想・質問」は感想や質問・疑問事項を記入する。2 行半にまとめる（1 行程度は不可）。 また、＜自己チェック＞欄の集中度・学習目標到達度は、5 段階で自己評価する。 3. 演習としてグループワーク、ロールプレイングを行います。				
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (オンデマンド)	・ オリエンテーション ・ 保育の方法を Brush Up する〈4 つの専門性〉 教育方法の基礎的理論と実践を理解していく。		☐ HW-WS①を実施する。 ☐ 予習と復習。(1 2 0 分)		
第 2 回 (オンデマンド)	・ 幼児理解と保育者の援助 教育方法の基礎的理論と実践を理解していく。		☐ 予習と復習。(1 2 0 分) ☐ HW-WS②を実施する。(1 2 0 分)		

ド)	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。	
第3回 （オンデマンド）	・ 保育の計画（カリキュラム・デザイン）と環境構成 幼児及び教室・教材など保育を構成する基礎的な要件を理解し、保育を計画していく。 カリキュラムを作成する上で、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価等の視点を含めた保育指導案を作成する。	○ 予習と復習。（120分） ○ HW-WS③を実施する。（120分）
第4回 （対面）	・ 幼児の遊びと発達 ＊ 写真を使って、子どもの遊びから子どもの学びを読み取る。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。	○ 予習と復習。（120分） ○HW-WS④を実施する。（120分）
第5回 （対面）	・ 登降園場面における保育者の援助と保護者対応 ＊ ロールプレイを行い、保護者支援の難しさや大切さに気づく。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。	○予習と復習。（120分） ○HW-WS⑤を実施する。（120分）
第6回 （対面）	・ 幼児の遊びの発展と保育者の援助 ＊ ビデオを使って、子どもの気持ち、保育者の支援について考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。	○予習と復習。（120分） ○HW-WS⑥を実施する。（120分）
第7回 （対面）	・ 協同する経験と保育者の支援 ＊ ビデオを使って、保育者の支援について考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。	○予習と復習。（120分） ○HW-WS⑦を実施する。（120分）
第8回 （オンデマンド）	・ 幼児同士のトラブルと保育者の支援 ＊ ビデオを使って、困った場面に対する保育者の支援方法を考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話	○ 予習と復習。（120分） ○HW-WS⑧を実施する。（120分）

	的で深い学びの実現など)を理解する。	
第9回 (オンデマンド)	・ 食育に関する活動と保育者の援助 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑨を実施する。(120分) ● 【課題1】 「協同する経験とは？」を実施する。(240分)
第10回 (オンデマンド)	・ 「障害児」への理解と援助の方法(事例紹介) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑩を実施する。(120分)
第11回 (オンデマンド)	・ 連続性を踏まえた保育と保育者の援助 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑪を実施する。(120分)
第12回 (対面)	・ 家庭との連携と保育者の援助 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑫を実施する。(120分)
第13回 (対面)	・ 保育者の省察を促すための保育記録 省察を行う際、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方が必要になることを理解する。 子供たちの興味・関心を高めたり保育内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながらパソコンを活用して教材を作成することを知る。 写真や動画を活用した保育展開の事例を示す。	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑬を実施する。(120分)
第14回 (対面)	・ 保育者の省察とカンファレンス 子供たちの興味・関心を高めたり保育内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながらパソコンを活用して教材を作成することを知る。 写真や動画を活用した保育展開の事例を示す。	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑭を実施する。(120分)
第15回 (対面)	・ 授業の総括	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑮を実施する。(120分) ● 【課題2】 授業のまとめ」を実施する。(120分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED325-Y51	2.科目名	生徒・進路指導論（中・高）（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	平井秀幸					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	※第1回・第7回・第15回は対面講義と演習 第1回 オリエンテーション他 第7回 中間確認他と体験発表 第15回 最終確認と総括試験 ※他の回は、オンデマンドによる講義とレポート提出等		
16.履修制限	中・高免許取得希望者					
17.授業の目的と概要	【目的】○学校現場における生徒指導と進路指導の在り方を学ぶ。 ・生徒指導の定義、構造と目的、他の各教科等及び教育課程との関連性を理解する。 ・キャリア教育推進の経緯及びその理論や具体的な指導方法を理解する。 【概要】・講義で学んだ理論等を踏まえ、具体的な対応例を考えていく。 ・さまざまな事例への対応策を考え、グループで課題等について検討する。 ・これからの生徒指導及びキャリア教育の在り方を自分なりに考えて見る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DPの（3）多様性理解（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連します。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①生徒指導の構造や目標を教育活動全体と関連づけることができる。 ②進路指導の構造や目標を教育活動全体と関連づけることができる。 ③自分なりの生徒指導・進路指導の具体的な進め方を身につけることができる。					
19.教科書・教材	1 「生徒指導提要令和4年12月年改訂版」（文部科学省ホームページ） 2 「中学校のキャリア教育の手引き」（教育出版）平成23年5月					
20.参考文献	1. 毎回授業プリントを配布。その他の関連資料は授業中にその都度配布や照会します。 2. 「中学校学習指導要領」（文部科学省）平成30年3月 3. 「中学校のキャリア教育の手引き」（教育出版）平成23年5月					
21.成績評価	○評価の方法と配点 ・レポート3回 18点 ・発表課題提出4回 20点 ・ふりかえりコメント 12点(12回分のオンデマンド授業後) ・最終確認テスト 50点 専門用語の理解（選択問題及び記述問題） 30点 課題への論述問題 20点					
22.コメント	「中学校学習指導要領」（文部科学省）平成30年3月と「中学校のキャリア教育の手引き」（教					

	育出版)平成23年5月 を、インターネットよりダウンロードするか、書店で購入をしてください。第一回のオリエンテーションで説明します。 ※計12回のオンデマンドによる講義受講後、各回の学習内容についてふりかえりコメントを投稿してください。これは出欠確認にも相当します。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等に対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 対面授業	○オリエンテーション(・本講義の内容、目標、評価の方法・講義の進め方・受講する上での注意点・使用テキストについて・オンデマンド授業について) ○生徒指導の定義と目的について ○生徒指導の実践上の視点について ○生徒指導の構造について	復習: 今回の復習、 授業プリントの整理 予習 生徒指導体験発表の準備 ※オンデマンド受講生は、発表課題提出とします。①
第2回 オンデマンド 授業	○生徒指導の基礎について ・生徒指導の方法について ・生徒指導の基盤について ・生徒指導の取組上の留意点について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿1 予習(課題) 第1回レポートの作成
第3回 オンデマンド 授業	○生徒指導と教育課程について ・学習指導要領「総則」と生徒指導について ・生徒の発達をささえる教育課程について ・教科指導と生徒指導の関連性について ・道徳科を要とした道徳教育における生徒指導について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿2 予習 次回の予習
第4回 オンデマンド 授業	○「総合的な学習の時間」と「特別活動」と生徒指導・進路指導 ・総合的な学習の時間と生徒指導の関連性について ・特別活動における生徒指導の位置づけについて ・学級活動、HR活動、生徒会活動、学校行事と生徒指導の関連性 ・特別活動におけるキャリア教育との関連性について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿3 予習 次回の予習 第1回レポート提出
第5回 オンデマンド 授業	○学校における生徒指導体制1 ・チーム学校における生徒指導について ・学校における生徒指導体制(生徒指導主事、職員研修)について ・教育相談体制について ・生徒指導と教育相談が一体となった学校組織について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿4 予習(課題) 第2回レポート作成
第6回 オンデマンド 授業	○学校における生徒指導体制2 ・危機管理体制(学校安全、安全教育)について ・生徒指導に関する法制度(校則、懲戒等)の運用体制について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿5

	・学校・家庭・関係機関との連携・協働について	予習 いじめに関する体験 発表の準備 ※オンデマンド受講生は、次の第7回は対面授業です。 授業時に体験発表できるように準備してください。②
第7回 対面授業	○個別の課題に対する生徒指導1（いじめの実態と対応） ・いじめの防止対策推進法について ・いじめの防止等の対策のための組織と計画について ・いじめに対する重層的支援構造について ・関係機関との連携体制について	※今回 いじめに関する発表あり② 復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 視聴 VTR の感想をまとめる 予習 次回の予習
第8回 オンデマンド 授業	○個別の課題に対する生徒指導2（暴力行為の実態と対応） ・暴力行為に関する対応指針等について ・学校の組織体制と年間指導計画について ・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造について ・関係機関との連携体制について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿6 予習 次回の予習 第2回レポート提出
第9回 オンデマンド 授業	○個別の課題に対する生徒指導3（少年非行の実態と対応） ・少年法・児童福祉法等について ・少年非行に対する視点について ・少年非行への対応の基本について ・関係機関との連携体制について ・喫煙・飲酒・薬物乱用について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿7 予習 （課題） 第3回レポート作成
第10回 オンデマンド 授業	○個別の課題に対する生徒指導4（児童虐待） ・児童福祉法・児童虐待の防止に関する法律について ・学校の体罰防止について ・児童虐待生徒の発見について ・児童虐待の通告義務及び関係機関との連携体制について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿8 予習 次回の予習
第11回 オンデマンド 授業	○個別の課題に対する生徒指導5（自殺、中途退学） ・自殺対策基本法について ・自殺防止の学校の組織体制と年間指導計画について ・中途退学の関連法規と中途退学の理解について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 学習指導要領の確認 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿9 予習 次回の復習 第3回レポート提出
第12回 オンデマンド 授業	○個別の課題に対する生徒指導6（不登校） ・不登校に関する関連法規及び学校の対応や指導計画について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿

	・各市町のの不登校施策について ・不登校の増加と対応について	稿 10 予習 次回の復習 中学時代の進路指導の 体験の発表の準備 ※オンデマンド受講生は、発表課題提出とします。③
第 13 回 オンデマンド 授業	○個別の課題に対する生徒指導 7 (インターネット、携帯電話等) ・インターネットをめぐる課題に対する関係機関との連携体制について ・性に関する法律・方針等及び学校における指導について ○進路指導とキャリア教育について ・キャリア教育と進路指導の違いについて ・キャリア教育推進の背景及びキャリア教育が目指すもの ・「4 領域 8 能力」から「基礎的・汎用的能力」の育成へ ・勤労観・職業観の育成について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 学習指導要領の確認 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿 11 予習 次回の予習 トライやるウィーク 体験 の発表準備 ※オンデマンド受講生は発表課題提出とします。④
第 14 回 オンデマンド 授業	○小中高等学校におけるキャリア教育の具体的な進め方 ・小中高等学校におけるキャリア発達の違いと目標について ・中学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について ・高等学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について	復習 今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理 ・学習ふりかえりコメントを WebCiass に投稿 12 予習 最終確認テストに向けて
第 15 回 対面授業	○これからのキャリア教育の進め方について ・キャリア教育における家庭、地域、企業、職能団体との連携について ○これまでの学習内容を踏まえ、生徒指導・キャリア教育に関する基礎的知識の確認。 ・自分なりの生徒指導及びキャリア教育の指導方法をまとめる。 ○最終確認テスト	復習 今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理

1.授業コード (ナンバリング)	PED402-M01	2.科目名	特別活動の指導法 (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	松田忠喜					
5.授業科目の区分	教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科、英コミ学科、グローバルコミュニ ケーション学科、社会学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会、高校公民、中学英語、高 校英語、高校情報		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義科目 (うち 10 回はオンデマンド、5 回 は対面授業として実施)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 特別活動は、小・中・高・特別支援学校の教育課程に位置付く教育活動です。したがって、学校現場では、自分が担当する教科に関わらず、すべての教師が特別活動の指導にあたること になります。 そこで、本授業では、特別活動の教育的意義や目標・内容、指導法や評価の在り方等につい て理解し、実践的な指導力を身に付けるとともに、学びを今後の自己の生き方に生かすことが できるようにします。 【概要】 近年、グローバル化・情報化・少子高齢化・核家族化など急速な社会変化の中で、人間関係 の希薄化が進み、子どもたちの自主性、社会性などを身に付ける機会が激減しています。そこ で、多様な集団活動や体験活動を通して「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を三つの視 点とする特別活動の果たす役割を追究します。 オンデマンドによる本授業では、新学習指導要領に基づいて行いますが、一方的な講義では なく、ともに考え・ディスカッションする場や実際に模擬学級会を行うなど、学生側の自主 的、主体的な活動を行うために対面授業も取り入れながら、特別活動の指導法を身に付けてい きます。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 特別活動の教育的意義を理解した上で、特別活動の目標を具現化する方法を明らかにし、実 践的な指導力を身に付ける。 ?特別活動の教育的意義や目標・内容を理解し、列挙することができる。 ②模擬授業、具体的事例などを通して指導方法の在り方を探求し、実践に生かせる指導力を身 に付けることができる。 ③自主的、主体的に授業に参加し、教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべ き役割を説明できる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	21 世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 特別活動の理論と実践 第 3 版 中園大三郎・松田修 編著 学術研究出版 2000 円 (税抜) ISBN 978-4-910733-90-6					
20.参考文献	?文部科学省「中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)」(東山書房・2017 年) ②文部科学省「高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)」(東山書房・2018 年) ③文部科学省「中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編」(東山書房・2017					

	年) ④文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 特別活動編」（東京書籍・2018 年） ⑤文部科学省「学級・学校文化を創る特別活動 中学校・高等学校編」（東京書籍・2023 年） ⑥杉田洋 「よりよい人間関係を築く特別活動」（図書文化社・2009 年）	
21.成績評価	評価に当たっては、上記 18 に示した学習目標②③の達成度を授業中の取り組みも含めて総合的にを行います。 1. 評価の方法 ・毎回提出する振り返りの内容、小レポート、最終レポート、授業での自主的、主体的な態度等 2. 成績の配分 ・模擬授業、ディスカッション、主体的な参加（学習目標②③に対応）【15%】 ・授業での提出物（小レポート）（学習目標②に対応）【15%】 ・毎授業後に記入して提出する「振り返り」の内容（学習目標②③に対応）【30%】 ・最終レポート（学習目標②③に対応）【40%】 3. 単	
22.コメント	オンデマンドによる本授業ですが、「学級会（話し合い活動）」や「意見交流」を対面授業で体験することで、合意形成や意思決定の仕方をはじめ、より適切な指導のあり方を身に付けていきますので、5 回の対面授業にも主体的に参加してください。なお、その時に質問等があればしてください。 ＊オンデマンド（10 回分）の学習の確認は、その週内に Zoom を視聴するとともに WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。 「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を理解するためにも授業に自主的に参加することを期待します。 学校時代の思い出として特別活動（主に学校行事）を挙げる学生は多くいます。そこで、本授業では特別活動の教育的意義や価値をふまえ、生徒がより楽しく豊かな学級・学校生活をめざして自主的、実践的に活動できるための効果的な指導・支援の在り方を学生のみなさんとともに考えていきます。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、「最終レポート」は、今までの自分の学びをまとめ、自分の考えを述べるため、AI の使用は不可とします。また、授業後に毎回提出する「課題」については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。授業（オンデマンドの回）では、学習内容を理解し、深めるために生成 AI の利用を認めますが、本講義は教職に関するものですので、学習指導要領の内容から外れないように注意してください。	
23.オフィスアワー	質問があれば毎回 WebClass に提出する「振り返り」に書いてください。 対面授業前後の教室内 WebClass のメッセージで質問や連絡等ができます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 (対面授業)	・オリエンテーション（本授業の目標・内容、進め方、評定算出方法の確認、受講上の留意点についてなど） ＊対面授業の受講の仕方（授業の終わりに「振り返りカード」に記入して提出することで、学習状況を把握します。） ＊オンデマンド授業の受講の仕方（その週の間に	復習： 今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）

	Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開しているその回の「資料」を熟読し、WebClass のレポートから Zoom で出された課題を含めた「振り返り」を投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動とは（教育課程における	
【第 2 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動の歴史の変遷 ・子どもたちを取り巻く現状と課題から見た特別活動への期待と役割	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 3 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動に関わる指導理論 ・特別活動の教育的意義	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 4 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動の目標 ・特別活動の内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【レポート作成】 特別活動の目標と内容 * 手書きで作成し、第 9 回対面授業時に手渡しで提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 5 回】 （対面授業）	学級活動・ホームルーム活動（1） ・目標・内容、全体計画・年間指導計画、指導上の留意点 ・今までの授業への意見交流、質問等	* 次回（第 9 回の対面授業）の学級会（話し合い）の「議題」を考えておく。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 6 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・学級活動・ホームルーム活動（2） ・「話し合い活動」の指導ポイント	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【宿題】学級会プリントの作成 * 作成したプリントを第 9 回の模擬授業で使

		用 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 7 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・生徒会活動：目標、内容、指導計画、指導上の留意点	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 8 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・学校行事：目標、内容、指導計画、指導上の留意点	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 9 回】 (対面授業)	学級活動・ホームルーム活動（3） ・【演習】模擬授業（学級会：話し合い活動） ・今までの授業への意見交流、質問等	【提出】 ・第 4 回で課題として出された「特別活動の目標と各内容」の手書きプリント 【持参】 ・第 6 回の宿題で作成した学級会（話し合い活動）プリント 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 10 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動と生徒指導 ・学級経営との関連 ・特別活動における人間形成と部活動	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 11 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動と各教科との関連 ・特別活動と総合的な学習（探究）の時間との関連 ・特別活動と道德教育	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 12 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴する	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返

	とともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動におけるキャリア教育 ・言語活動の充実 ・学級活動・ホームルーム活動（話し合い活動）における指導案作成の実際 ・最終レポート課題の提示と説明	り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【指導案作成】 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 【最終レポート作成】 * 生成 AI の使用不可 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 13 回】 (対面授業)	学級活動・ホームルーム活動（４） ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話し合い活動とゲーム集会活動） ・今までの授業への意見交流、質問等	【指導案作成】 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 【最終レポート作成】 * 生成 AI の使用不可 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 14 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動の評価 ・家庭、地域社会、関係機関との連携	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【指導案作成】 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 【最終レポート作成】 * 生成 AI の使用不可 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 15 回】 (対面授業)	・これからの学校教育と特別活動 ・特別活動の指導法のまとめ ・最終レポート内容の確認 ・意見交流、質問等	復習：今回の復習、授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	PED403-A51	2.科目名	教職実践演習 (小)		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣、上山敏弘、大平誠也、梶正義					
5.授業科目の区分	展開科目 小学校・特別支援教育 分野における実務経験 のある教員による授業 科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	小学校一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	○4年生の春学期まで履修状況が『履修カルテ』に記述済みであること ○小学校教育実習が履修済みであること ※これまでに学修してきた教職科目に関する成績等の記録が履修カルテに記述済みでありことを証明するために、履修カルテの印刷物の提出を1限目に求めます。					
17.授業の目的と概要	○学習指導について、模擬授業、ロールプレイ、授業参観、学習指導案研究等により授業力を高める。 ○学級経営において、現職教員の講話、実践事例研究、グループによる演習等により指導実践力を高める。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付ける。 ○特別支援などの知見から、子ども理解・指導理解を深め、対人関係能力(対応力)を高める。					
18.学習目標と DPとの関連	DPに基づく学習目標は以下の通りである。 (6) 専門的知識・技能の活用力：大学生活での学びの総まとめとして履修カルテを活用し、これまでの知識や経験をさまざまな演習を通して統合し、生きた実践力を高める。 (1) 自律性：自分で設定した目標の実現に向けて、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。 (5) コミュニケーションスキル：他者との相互理解を深めながら、社会のために主体的に行動することができる。					
19.教科書・教材	適宜案内する					
20.参考文献	適宜案内する					
21.成績評価	①小レポート (2回) …20% ②中レポート (1回) …15% ③大レポート (1回) …20% ④学級経営案・指導案の作成 の作成 …20% ⑤履修カルテの完成 …25%					
22.コメント	○教職を目指してきた皆さんにとって、まさに大学生活の学びの集大成です。これまで得た知識と経験をこの演習で統合し、教職に向けて実力を養いましょう。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み (メールで確認)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回目】	オリエンテーション (全体) ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更			○今日の学びのふり返りとまとめ (120分)		

	の可能性があります。 ○9 月末時点での、未登録者のグループ分けについては、履修登録完了後、9F 研究室前に貼りだします。 ○教育実践演習のねらいについて ○履修カルテを元に、自己の課題を確認する。	
【第 2 回目】	サービスと教育活動① ○校務全般についての理解 ・校務分掌 ・職員組織 ・地域と学校等	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 3 回目】	サービスと教育活動② ○着任から始業式までの動きと準備 ・学級編成 ・学級開きの準備	○着任の挨拶の作成（120 分）
【第 4 回】	サービスと教育活動③ ○始業式から PTA 総会まで ・授業開き ・授業参観 ・学級懇談会等の動きと準備 ○授業開きの案作成	○小レポート：これまでの学びの振り返りとまとめ作成（270 分）⇒提出次回
【第 5 回目】	生徒指導・生活指導① ○実践事例研究：「いじめ」の問題と対応 ○ロールプレイ	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 6 回】	生徒指導・生活指導② ○実践事例研究：「体罰」の問題と対応 ○ロールプレイ	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 7 回】	生徒指導・生活指導③ ○実践事例研究：「苦情」の問題と対応 ○ロールプレイ ○保護者理解、地域理解を含めて	○小レポート：これまでの学びの振り返りとまとめ作成（120 分）⇒提出次回
【第 8 回】	現場の小学校長の話聞く（全体） ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更の可能性あります。 ○「若い教師に期待するもの（仮題）」	○中レポート：講話のまとめ作成（120 分）⇒提出次回
【第 9 回】	学級経営と学習指導① ○学級経営における「学級目標」について考える ○グループワークでの討議	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 10 回】	学級経営と学習指導② ○「朝の会」「終わりの会」「当番活動」「係活動」等、「学級活動」について考える ○グループワークでの討議	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）

【第 1 1 回】	学級経営と学習指導③ ○「学習規律」、「学習のルール」について考える ○模擬授業 ○グループワークでの討議	○学級経営案の作成（270 分）⇒提出次回
【第 1 2 回】	児童理解と授業づくり① ○特別支援教育の知見をいかした児童理解 ○グループワークでの討議	○今日の学びのふり返りとまとめ（120 分）
【第 1 3 回】	児童理解と授業づくり② ○特別支援教育の知見をいかした指導理解 ○グループワークでの討議	○今日の学びのふり返りとまとめ（120 分）
【第 1 4 回】	児童理解と授業づくり③ ○指導案の作成 ○グループワークでの討議	○指導案の仕上げ（120 分）⇒提出次回
【第 1 5 回】	これまでの学びの総まとめ ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更の可能性あります。 ○大レポートの作成	○「学校現場に向けて！」大レポートの仕上げ（270 分）

1.授業コード (ナンバリング)		PSY101-A51	2.科目名		心理学概論Ⅰ	3.単位数		2
4.授業担当教員		木原香代子						
5.授業科目の区分		基礎科目	6.必修・ 選択の区分		必修	7.開講学期・ 年度		2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻		教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻				9.履修学年		1 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件					
12.研究室		※※※		13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態		講義形式		
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		【目的】 現代の心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域においてそれぞれの世界観をもちつつ、研究が行われている。心理学を概観する際には、それぞれの領域のどの部分が共通し、どの部分が異なるのかを理解することが重要であると考えられる。それぞれの領域の問題意識と方法論を学ぶことによって、人の心の働きを理解していくことを目的とする。 【概要】 基礎的な領域を中心に心理学の理論や研究方法について講義する。心理学が扱う問題と日常生活で感じる問題とをリンクさせながら、心理学がわれわれの行動を解明するためにどのような役割を担っているのかについて説明していく。						
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は以下の通りである。 ①心理学の基本的な研究方法と理論を説明することができる。 ②心理学それぞれの領域の理論や現象を説明することができる。 ③日常生活でみられるさまざまな現象を心理学の理論と結びつけることができる。 [関連するディプロマポリシー] (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力						
19.教科書・教材								
20.参考文献		『グラフィック心理学』北尾倫彦ほか（著），サイエンス社 1997 年 『サイコロジー事始め』金児暁嗣（編），有斐閣 2003 年 『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』無藤隆ほか（著），有斐閣 2018 年						
21.成績評価		点数の配点は以下の通りである。合計 60 点以上で合格となる。 (1) 小テスト（40%）：毎回の講義後に実施する小テスト (2) 最終課題（60%）：最終週の授業で実施する総括試験 学習目標①②③に対応して、基本概念や語句を理解しているかを問う問題を出す。						
22.コメント		皆さんがイメージする心理学と、学問としての心理学とではギャップを感じるかもしれない。しかしながら心理学が扱う問題は、日常生活で感じる問題とリンクしていることが多い。心理学がわれわれの行動を解明するためにどのような役割を担っているのかについて、自分の生活と照らし合わせながら理解するとよいだろう。						
23.オフィスアワー		問い合わせは E-mail アドレスへお願いします。						
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
1 回目		【授業の概要と導入、心理学の歴史と方法】 心理学とはどんな学問だろうか				【予習】 シラバスを読む（授業外学習） 【復習】 授業ノートの整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）		
2 回目		【心と脳】				【予習】		

	心は身体のどこにあるのだろうか	インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
3 回目	【子どもの発達】 ヒトに生まれ、「人」になること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
4 回目	【青年期・中年期・老年期】 青年期以降の発達	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
5 回目	【感覚と知覚】 この世界を感じ、意味づけること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
6 回目	【学習】 経験から学び、行動を変えること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
7 回目	【記憶のしくみ】 覚えることと忘れること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
8 回目	【記憶方略】 よりよく覚えるためには	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）

9 回目	【日常記憶】 日常生活における記憶の機能	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
10 回目	【思考と言語】 考えることのしくみ	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
11 回目	【感情と動機づけ】 喜怒哀楽と意欲をめぐって	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
12 回目	【パーソナリティ】 心の個人差と適応を知る	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
13 回目	【社会的認知】 他者を知ることのしくみ	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
14 回目	【人間関係】 人と人が向き合うとき	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す 【復習】 授業ノートを整理する 小テストを実施する
15 回目	【総括試験】 総括試験とふりかえり	【予習】 総括試験の準備をする（小テストの復習、ノートの整理）

1.授業コード (ナンバリング)	PSY113-Y51	2.科目名	災害心理学Ⅰ（2023～2025 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸、村田昌彦					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、災害心理学で扱う問題の中から、特に災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについて考える。また、災害発生に関係する人間の心理的特性についても理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連する。 本科目の学習目標は次の通りである。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	①各授業におけるミニレポート 40％ ②中間レポート 30％ ③期末レポート 30％					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 本授業のねらいや進め方等について説明する			各回の授業終了後、自分なりの気づき・疑問 あるいは過去の体験のもつ意味などをミニレ ポートとして WebClass から入力・提出する こと		
第 2 回	安全・安心・災害			各回のミニレポートとして WebClass から入 力・提出すること。		
第 3 回	災害の種類と範囲			各回のミニレポートとして WebClass から入 力・提出すること。		
第 4 回	自然災害と環境（1）			各回のミニレポートとして WebClass から入 力・提出すること。		
第 5 回	自然災害と環境（2）			各回のミニレポートとして WebClass から入 力・提出すること。		
第 6 回	自然災害と環境（3）			各回のミニレポートとして WebClass から入 力・提出すること。		
第 7 回	災害情報の問題			各回のミニレポートとして WebClass から入 力・提出すること。		
第 8 回	防災教育の問題			中間レポートの提出		

第 9 回	災害と認知バイアス（１）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 10 回	災害と認知バイアス（２）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 11 回	災害と認知バイアス（３）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 12 回	災害とフェイクニュース（１）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 13 回	災害とフェイクニュース（２）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 14 回	災害における認知・行動	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 15 回	後半総括	期末レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	PSY114-Y51	2.科目名	心理学研究法Ⅱ（2023～2025 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	端本利江子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、研究法の中でも特に調査法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。また、統計的仮説検定や研究論文作成など、今後の心理学の学習および研究に必要なスキルの獲得も目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、先行研究を収集し、特定の科学的データ収集を設計・実施できる。 具体的には、心理学研究法のうち、主に質問紙調査法の手法に対する理解を深め、仮説の設定やデータ分析を通して、卒業論文に向けて実践的な学びを身に着けることを目標とする。					
19.教科書・教材	各回ウェブクラスを通して資料を配布する					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する					
21.成績評価	・ 各回の小課題 60％ ・ 最終レポート 40％ ※詳細は授業時に説明する					
22.コメント	沼田の担当するセンターオフィスアワーには、心理学研究法Ⅱの不明点等があれば、適宜回答する。 ※心理学研究法Ⅱは必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。 ※					
23.オフィスアワー	火曜・水曜昼休み 非常勤講師控室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】 オリエンテーション					
	【第 2 回】 研究倫理とは					
	【第 3 回】 実験法 1：実験を体験してみよう					
	【第 4 回】 実験法 2：方法部分を書いてみよう					
	【第 5 回】 実験法 3：問題と目的部分を書いてみよう					
	【第 6 回】 実験法 4：結果部分を書いてみよう					
	【第 7 回】 実験法 5：考察と引用文献を書いてみよう					
	【第 8 回】 調査法 1：質問紙調査とは・調査へ参加してみよう					
	【第 9 回】 調査法 2：個人テーマを決めてみよう					
	【第 10 回】 調査法 3：質問紙の作成					
	【第 11 回】 調査法 4：グーグルフォームを作成しよう					
	【第 12 回】 調査法 5：調査前の内容確認と修正					

	【第 13 回】調査法 6：データ処理と入力・分析前の下準備	
	【第 14 回】調査法 7：分析の実施・結果のまとめ	
	【第 15 回】最終レポートの作成	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY116-Y51	2.科目名	学習・言語心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 学習心理学および言語心理学に関する基礎知識を学ぶ。 特に、条件づけは行動療法の理論的基礎となっているので重視する。 【概要】 心理学において学習とは、経験によって生じる比較的永続的な心の変化を意味する。 学習は人間だけでなく、様々な生物に見られる現象であり、動物を用いた研究も紹介する。 言語は人間と人間以外の生物を隔てるものであり、言語の獲得について重点的に解説する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2)言語の習得における機序について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	中島 定彦（2020）. 学習と言語の心理学 昭和堂 郷式 徹・西垣 順子（2019）. 学習・言語心理学——支援のために知る「行動の変化」と「言葉の獲得」—— 川畑 直人・大島 剛・郷式 徹（監修）公認心理師の基本を学ぶテキスト ミネルヴァ書房 楠見 孝（編）（2019）. 学習・言語心理学 野島 一彦・繁樹 算男（監修）公認心理師の基礎と実践 遠見書房					
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度、小課題を総合的に評価） (2)総括試験 50%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第 2 回】	生得的行動・初期学習・順化			授業内容の復習		
【第 3 回】	古典的条件づけ（1）			授業内容の復習		
【第 4 回】	古典的条件づけ（2）			授業内容の復習		
【第 5 回】	オペラント条件づけ（1）			授業内容の復習		
【第 6 回】	オペラント条件づけ（2）			授業内容の復習		
【第 7 回】	様々な学習（1）			授業内容の復習		
【第 8 回】	様々な学習（2）			授業内容の復習		
【第 9 回】	言語の諸相（1）			授業内容の復習		
【第 10 回】	言語の諸相（2）			授業内容の復習		

【第 11 回】	言語の獲得（１）	授業内容の復習
【第 12 回】	言語の獲得（２）	授業内容の復習
【第 13 回】	学習と言語の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード (ナンバリング)	PSY201-A51	2.科目名	精神保健学 ※こども学 3 年～ 福祉学 2 年～		3.単位数	2
4.授業担当教員	松本恵美子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	こども学 3 年～ 福祉学 2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	近年、人々の生活はだんだんとストレスフルになり、精神保健はますます現代人にとって身近な問題となっている。その状況を踏まえ、精神保健の歴史と成り立ちからその意義について学ぶ。 ?精神医学の歴史を学ぶことにより、精神医学の発展は精神病理に対する偏見を無くし、患者の人権を守るための歴史でもあったことを学ぶ。 ?その学びをもとに精神保健を自分自身の問題ととらえ直し、精神病理に対する自分の偏見や差別意識を見直す機会とする ?その上で、精神医学的な知識をしっかりと学び、精神に関わって起こりうる状態について生活経験に結び付けながら学ぶ ④精神医学、心理学、社会福祉学等、関連領域の理論が統合された学習をすることで、人間の精神病理の成り立ちと対応について理解する。 ④精神保健の法・制度の精神病理への具体的な対応のシステムについて学ぶ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの 1) 自立性、3) 多様性理解、6) 専門的知識・技能の活用力の学習に関連する ①精神疾患についての知識を深め、患者に出会ったときに支援的なかわりができるようになる。 ～多様性理解～ ②誰もが精神的な病理を経験する可能性があることを理解し、心の病に苦しむ人に出会ったとき、共感性を持ちながら寄り添い、問題解決のために必要な情報を提供し、共に行動できるようになる。 ～自立性、多様性理解、専門的知識・技能の活用力～ ③精神疾患に関する予防から治療に至るまでのシステムを理解し、情報を使いこなせるようになる。 ～専門的知識・技能の活用力～					
19.教科書・教材	指定しない。 必要に応じて資料配布する。					
20.参考文献	適時、紹介する					
21.成績評価	?講義終了時の小レポート (1 %×15 回) (学習目標②に対応) アサインメントのレポート (5 %×4 回) (学習目標①③に対応)・・・30 % ?疾病別パンフレットの作成(グループ別) (学習目標①③に対応)・・・30 % ?振り返り・総括試験 (振り返り・総括)・・・60 %					
22.コメント	精神障害は、3 障害の中で最も長く厳しい差別の対象として残存し、サポートの内容は貧弱なままに放置されてきたといつてよい。今こそ、精神障害について正しい理解を身に付け、誰もがなりうる疾患という認識の下、精神保健が社会システムの中で果たすべき役割について、しっかりと考え、学んでほしいと思う。 そして精神を病んで生きると言うことがどれほど過酷なことなのかを十分に理解し、寄り添え					

		るような専門性を身に付け、精神障害者の真のサポーターとして育てほしい。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	* あなたの、精神病に対する”本音”を見てみる * 精神保健を学ぶにあたって 我が国で「心の病気」が広まりつつあるといわれているが、その状況はどのようにになっているのか、具体的なデータを使ってみる。	?レポート① 「精神障害」という言葉に対するイメージと理解について
第 2 回	* 精神医療の歴史について学ぶ ・ 西洋と日本の精神医学の歴史、精神障害者に対する人権意識の変遷について学ぶ。 ・ この過程はとりもなおさず、精神障害者に対する差別の変遷について理解することにつながる、この学びの過程で自分の中の差別意識をしっかりと確認する。 ★レポート① 提出締め切り	○授業で出てきた、私的看護、人権侵害など、明確に理解しておくべきと感じた用語について調べる。
第 3 回	* 脳及び神経の発達について ・ 脳の発達と、脳各部位の機能について知る ・ 特に脳の器質性の疾患について理解する。	?調査（フィールドワーク） グループに分れて、メンバーの居住区の区役所を訪問し、精神障害者に対する福祉制度について調査する。
第 4 回	* 精神医学の概念について 精神医学は人間の精神現象とその障害を扱う学問である。 その学問の方法としては自然科学的な検査等と、人文科学的、心理療法等の側面を持つ。 この二つの流れを統合することで精神医学の世界を理解する。 * 診断法について 精神障害に関する診断は、医学、社会学、心理学等、あらゆる情報から総合的に判断する。 これらさまざまな診断のためのツールや理論について学ぶ。	?レポート② 先週の調査の結果を、各自レポートにまとめる ★次週提出 ?プレゼンテーション準備 各グループで、先週の調査の結果をまとめ発表できるように準備しておく PP の作成 ★次週発表
第 5 回	* プレゼンテーション 地域での精神保健サービスについての調査結果を発表する (各グループ) * 代表的な精神疾患－I 代表的な精神疾患の状態像について、3回に分けて学ぶ。	?生活史のとり方についてグループごとに練習をしておく。 そのうえで、どのような点が難しかったのか、どのような工夫がいたと感じたのかなど、発表できるよう準備しておく

	1 回目は、統合失調症、双極性障害、依存などについて。	
第 6 回	* プレゼンテーション 問診の難しさについて感じたことについて発表する（2 名） * 代表的な精神疾患Ⅱ 神経症、ストレス、摂食障害、人格障害、精神遅滞などについて学ぶ	?調査（フィールドワーク） グループに分かれて、メンバーの居住区にある保健所に出向いて、アルコール依存症に対する取組みについて聞き取り調査をする。
第 7 回	* 代表的な精神疾患Ⅲ 情緒障害、自閉症スペクトラム障害、ADHD、行為障害、PTSD など、比較的新しい概念について学ぶ。	?レポート③ 先週の聞き取り調査の結果を、各自レポートにまとめる。 ★次週提出 ?発表準備 次週グループごとに調査結果を発表できるよう、準備をしておく。 ★次週発表
第 8 回	* プレゼンテーション アルコール依存患者への取り組みについて、調査結果を発表する。（全グループ） * 治療法Ⅰ 薬物療法を中心とした、身体的治療法を学ぶ。 色々なヘルスケア水準での精神療法について学ぶ。 ★レポート③ 提出締め切り	?地域における精神衛生活動について調べておく
第 9 回	* 治療法Ⅱ 精神科リハビリテーションの内容と、地域サポートの在り方について学ぶ	?精神病院見学に際して知りたいこと、質問したいことを整理して、準議しておく。
第 10 回	* 精神病院見学実習 実際に病院を訪れ、病院における精神科治療の状況《デイケア、ナイトケアなどの福祉的援助や救急対応の状況なども含めて）を実際に体験し、学修する機会とする。	?フィールドワーク 見学の結果をレポートのまとめて提出する ★次週提出 ?発表準備 見学実習の感想を発表できるよう準備しておく ★次週発表
第 11 回	* プレゼンテーション 病院見学実習の学びについて発表（3 人） * 病院精神医療 病院精神医療は、地域精神医療への大きな転換を迫られている。 しかし、病院精神医療の必要性を否めない状況が一方にある。	?文献調査 グループごとに、精神障害者の社会適応や就労支援についてどのような機関がどのように支援をしているのか(地域での精神障害者支援)について文献調査をする ?発表準備

	今後の病院精神医療の在り方について考える。 * 精神科救急医療について 精神科救急医療の需要は年々高まるばかりであるが、その背景を知り、精神科救急医療の在り方について学ぶ。	地域での精神障害者支援について調査した結果を、グループごとにまとめ、発表準備をしておく。 ★次週発表
第 1 2 回	* プレゼンテーション 地域での障害者支援について調査した結果を発表する（全グループ） * 地域精神保健について 精神障害者医療・福祉は地域精神科医療・福祉へと、その流れを大きく変えてきている。この流れを支える福祉システム、医療制度について学ぶ。	○なぜ、日本では精神科救急医療が未熟なままであったのか、その背景について、自分なりに考察してみる。
第 1 3 回	* 心の病気についてのパンフレットづくり I ・ 1 グループ 1 疾患について、一般の人が読んで、その疾患について理解できるようなパンフレットを作る ・ 発表用の PP を作成する ◆PC を持参すること	?グループごとに、パンフレットと PP を完成させる（
第 1 4 回	* 心の病気についてのパンフレットづくり II ・ 出来上がったパンフレットについてグループごとに発表 ・ それぞれに、受けたコメントを反映させてパンフレットの加筆修正を行う ◆PC 持参	?パンフレットを完成させる ★次週提出 ?レポート⑤ 「精神保健について学んで、感じた事」をテーマにレポート作成。 ★次週提出
第 1 5 回	* 学びの振り返り * 総括試験 ★レポート⑤ 提出 ★パンフレット、PP 提出	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY202-Y51	2.科目名	心理学研究法 (2022 年度生以前 秋春通年)		3.単位数	4
4.授業担当教員	端本利江子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～2026 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、各研究法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。特に後半では、実験法と調査法に焦点をあてて学ぶ。また、統計的仮説検定や研究論文作成など、今後の心理学の学習および研究に必要なスキルの獲得も目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、先行研究を収集し、特定の科学的データ収集を設計・実施できる。 後半では、実験法および質問紙調査法の手法に対する理解を深め、仮説の設定やデータ分析を通して、卒業論文に向けて実践的な学びを身に着けることを目標とする。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	『公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4 心理学研究法』 監修 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編著 三浦麻子・小島康生・平井啓 ミネルヴァ書房					
21.成績評価	【心理学研究法 1】 ・平常評価 50%（出席、授業態度、小課題を総合的に評価） ・中間レポート 25% ・期末レポート 25% 【心理学研究法 2】 ・各回小課題 60% ・最終レポート 40%					
22.コメント	※心理学研究法は必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】オリエンテーション 【第 2 回】実験法 1					
	【第 3 回】実験法 2 【第 4 回】実験法 3					
	【第 5 回】調査法 1 【第 6 回】調査法 2					
	【第 7 回】調査法 3 【第 8 回】中間レポート					
	【第 9 回】観察法 1 【第 10 回】観察法 2					

	【第 11 回】 観察法 3 【第 12 回】 面接法 1	
	【第 13 回】 面接法 2 【第 14 回】 面接法 3	
	【第 15 回】 期末レポート 【第 16 回】 ガイダンス、心理学研究法Ⅰの振り返り	
	【第 17 回】 実験法①：実験を体験してみよう 【第 18 回】 実験法②：実験を振り返ってみよう	
	【第 19 回】 実験法③：方法の確認と記述 【第 20 回】 実験法④：結果の確認と分析・記述	
	【第 21 回】 実験法⑤：問題と目的の確認と記述 【第 22 回】 実験法⑥：考察と引用文献の確認と記述	
	【第 23 回】 調査法①：調査法の確認と個人テーマ決め 【第 24 回】 調査法②：質問紙の作成	
	【第 25 回】 調査法③：グループ分けとグループフォー ムへの入力 【第 26 回】 調査法④：調査実施前の確認・データ取得	
	【第 27 回】 調査法⑤：データ処理と入力 【第 28 回】 調査法⑥：分析の実施	
	【第 29 回】 調査法⑦：結果のまとめ 【第 30 回】 最終レポートについて	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY209-Y51	2.科目名	心理学実験	3.単位数	4
4.授業担当教員	端本利江子、斎藤元幸、堀尾強				
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年次以上
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師	11.先修条件	心理学研究法		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限	心理学研究法の単位が取得できていることが必須条件 1 回目の授業に出ていない場合は履修登録できない クラス分けを行うので、必ず自分のクラスで受講すること				
17.授業の目的と概要	この科目では、心理学の基礎的な実験、調査、検査について学ぶ。 具体的には、以下の課題を行う a ミュラーリヤーの錯視 b 鏡映描写 c 系列位置効果（語の記銘）課題 d ストループ効果 e パーソナル・スペース f 心的回転 について、研究の目的を明確にし、調査項目を手続きに落とし込んだ企画をたて、実験の実施から、データの集計、統計処理、得られた結果の解釈をまとめて報告書に作成するまでのプロセスを学ぶ。				
18.学習目標と DPとの関連	与えられた課題に対し適切な科学的データ収集を設計・実施できることを目指す。 具体的には以下のことを達成する。 ①目的にそった実験手続きの企画立案ができる。 ②実験結果の集計と、HAD を駆使した分析ができる。 ③問題発見から、問題解決までの過程を論理的に明確な報告書にすることができる。				
19.教科書・教材	各実験ごとに WEBCLASS で資料を配布する				
20.参考文献	各回で適宜紹介する				
21.成績評価	実習ごとにレポートを課す。 基本的に提出は各検査・実験完全終了の翌週とするので、決められた期限までに提出すること。 大・小課題では学習目標①②③を問う。 ・大課題（レポート）：80％ ・小課題（随時）：20％				
22.コメント	履修希望の学生は必ず最初の授業に出席して下さい。 グループ分けを初回ガイダンスでお知らせしますので、そのグループで授業を受けてください。 配当グループで参加しない場合、成績がつけられません。 一度でも欠席すると各実験・課題遂行が極めて困難となるため、必ず授業へ出席して下さい。 最低限のパソコン操作（Excel、Word、文献検索など）を身に着けていること 実習作業が多く、終了しない場合は授業外学習を求める 統計学Ⅰを習得済みであることを前提に授業を進める				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

	1 ガイダンス（全員対象） SA が入る	
	2 授業の進め方などの説明 SA が入る	
	3 回目以降は 3 つのクラスに分けて、授業の目的に示した a-f の 6 つの課題をクラス別を実施する。 3 課題 1 の説明 4 課題 1 の実施	レポート作成（180 分）
	5 課題 1 の集計とデータ処理 6 課題 1 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）
	7 課題 2 の説明 8 課題 2 の実施	レポート作成（180 分）
	9 課題 2 の集計とデータ処理 10 課題 2 の考察とレポート作成課題	レポート作成（180 分）
	11 課題 3 の説明 12 課題 3 の実施	レポート作成（180 分）
	13 課題 3 の集計とデータ処理 14 課題 3 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）
	15 これまでのふりかえり 16 後半の説明	レポート作成（180 分）
	17 課題 4 の説明 18 課題 4 の実施	レポート作成（180 分）
	19 課題 4 の集計とデータ処理 20 課題 4 の考察とレポート作成課題	レポート作成（180 分）
	21 課題 5 の説明 22 課題 5 の実施	レポート作成（180 分）
	23 課題 5 の集計とデータ処理 24 課題 5 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）
	25 課題 6 の説明 26 課題 6 の実施	レポート作成（180 分）
	27 課題 6 の集計とデータ処理 28 課題 6 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）

	2 9 全体のまとめ (SA が入る) 3 0 総ふり返し (SA が入る)	レポート作成 (180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PSY210-Y51	2.科目名	感情・人格心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士，公認心理師		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】人間の性格，人格，感情に関する基礎理論を学ぶことを目的とする。 【概要】われわれ人間はひとりひとり違う存在であり、それぞれ個別のユニークな性質（＝個性）を持っている。「人格／性格／パーソナリティ」は、「個性」を意味するだけでなく、対人関係のあり方やその人を取りまく文化、社会的環境や、無意識の力動性などに関わりながら成立している。さらに、人間の一つ一つの行動には感情が大きく影響している。感情はどのようにして生じ、制御するためにはどうすればよいのか理解することも人間理解には必要となる。本講義では、人格／性格／パーソナリティとは何かを考えるために、まずその成り立ちや理論的背景を学ぶ。さらに、感情の生起に関する理論や制御の方法について学ぶことを通して自己理解および他者理解を深めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は DP（ディプロマ・ポリシー）のうち多様性理解，専門的知識技能の活用力が学修に関連しています。					
19.教科書・教材	適宜 WEBCLASS にアップする					
20.参考文献	馬場禮子著『精神分析的人格理論の基礎』岩崎学術出版社 河合隼雄 【著】 『ユング心理学入門』，培風館／岩波現代文庫 島義弘著『パーソナリティと感情の心理学』サイエンス社 小塩真司著『はじめて学ぶパーソナリティ心理学－個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房					
21.成績評価	1. 各回の小課題：50％（目標①②③に該当） 2. 総括試験 ：50％（目標①②③に該当）					
22.コメント	【注意】 初回授業時に授業概要と受講の注意点を説明します。各自シラバスをかならず持参してください。 ※下記スケジュールは、シラバス公開後に変更になることがあります。必要に応じて授業中にアナウンスを行いますので、注意してください。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日昼休み ＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けます。ウェブクラスのメール等でご連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			・ 感想レポートの提出		
【第 2 回】	人格の概念及び形成 ・ 人格，性格，気質等について ・ 遺伝要因，環境要因について			・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出 ・ 理解度確認クイズ		
【第 3 回】	特性論（オールポートとアイゼンク）と類型論（クレ			・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。		

	ッチマー)	・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第4回】	類型論（ユングのタイプ論）	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第5回】	性格特性を測定する ・性格の5因子論（NEO-PI-R） ・YG 性格検査	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第6回】	心の構造（フロイト） 1) 構造論と局所論 2) 心的装置	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第7回】	発達過程と人格形成 ・フロイトの発達理論 ・エリクソンのライフサイクル理論	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第8回】	マーラーの分離個体化理論 ピアジェの発達理論 スターンの情動調律	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第9回】	パーソナリティ障害の種類と概要	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第10回】	パーソナリティ障害の理解と対応	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第11回】	感情の概念と理論 ・感情、情緒、気分について ・感情にまつわる古典的理論	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第12回】	感情をコントロールすることの重要性 ・感情が行動に与える影響について ・アンガーマネジメント	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第13回】	自律訓練法の理論と実践	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出 ・理解度確認クイズ
【第14回】	マインドフルネスストレス逓減法 ・理論と実際の活用例 ・実際の体験	・授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・感想レポートの提出（全体総括） ・理解度確認クイズ
【第15回】	<総括テスト>	・理解できていなかった点について、授業ノートを使って復習し、次年度以降の学びに備える。

1.授業コード (ナンバリング)	PSY211-Y51	2.科目名	健康・医療心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格に必要な認定心理士指定科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この講義の目的は、健康増進という課題の中で臨床心理の視点をどのように役立てられるか、自分の考えが持てるようになることである。 健康心理学という比較的新しい分野が扱う諸問題を概観し、ストレスとその影響や予防と健康増進の意義について学ぶ。授業の中で、対象者の理解度や状態に応じて、適宜グループワークも実施する。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の1.自律的で意欲的な態度、2.社会に能動的に貢献する姿勢、6.専門知識・技能の活用力に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ① 健康心理学とはどういう学問であるかわかっている ② ストレスとその影響について説明できる ③ ストレス対処法についての基本が身についている ④ 予防と健康増進の意義について説明できる ⑤ 健康増進に役立つ臨床心理の視点を持っている					
19.教科書・教材						
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	毎回のコミュニケーションシート 4 × 13 52% 中間振り返り 24% 総括テスト 24%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： 火曜 昼休み センターオフィスアワー： 水曜 昼休み(学習支援室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ガイダンス 健康心理学とは			コミュニケーションシートの提出		
第2回	ストレス（1）ストレスの生理と影響			コミュニケーションシートの提出		
第3回	ストレス（2）ストレスコーピング、アセスメント			コミュニケーションシートの提出		
第4回	ストレス（3）災害時における心理支援			コミュニケーションシートの提出		
第5回	保健活動における心理的支援（1）依存症、認知症など			コミュニケーションシートの提出		
第6回	保健活動における心理的支援（2）食や睡眠に関連した問題			コミュニケーションシートの提出		
第7回	中間ふりかえり			コミュニケーションシートの提出		
第8回	医療現場における心理（1）がん、エイズ、ターミナル			コミュニケーションシートの提出		

第 9 回	医療現場における心理（2） 心臓血管系疾患、脳血管疾患、難病	コミュニケーションシートの提出
第 10 回	医療現場における心理（3）	コミュニケーションシートの提出
第 11 回	子どもの心理（1）発達障害、愛着障害など	コミュニケーションシートの提出
第 12 回	子どもの心理（2）小児期逆境体験	コミュニケーションシートの提出
第 13 回	子どもの心理（3）いじめ	コミュニケーションシートの提出
第 14 回	コミュニティ心理学とアウトリーチ	コミュニケーションシートの提出
第 15 回	総括テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY212-Y51	2.科目名	社会・集団・家族心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	司法・犯罪心理学、臨床心理学概論、特に産業・組織心理学などの専門科目を履修済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式であるが、理解促進のために適宜グループワークや簡易な実験を行うことがある。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会・集団・家族心理学は、人間と社会のかかわりに関するありとあらゆるテーマを対象にした学問です。そのため、私たちの生活に密接にかかわる内容を様々に含んでいます。社会心理学の知見は日常生活での経験にはじまり、日々報じられる様々な事件や社会問題を考えたり、意味づけたりする助けになります。 【授業概要】 本科目では、人間の行なう多面的な社会行動を、個人の行動レベル、対人相互作用における行動レベル、小集団での行動レベルなどの側面から考察し、人間の社会行動の一般法則を明らかにしようとするものである。具体的には、社会的認知、社会的感情、態度と行動、対人コミュニケーション、対人魅力、親密な人間関係、集団の心理学などを取り扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①個人の態度や行動決定に関する基本的知識が説明できる。 ②対人関係や集団における人の意識および行動について基本的知識を説明できる。 ③家族、集団および文化が個人に及ぼす影響に関する基本的知識を説明できる。 ④"①②③"の知識をもとに問題を発見し、具体的な解決策を提示することができる。					
19.教科書・教材	脇本竜太郎（編） 2023. 「基礎からまなぶ社会心理学 第2版（ライブラリ基礎からまなぶ心理学 4）」 サイエンス社. (本体¥2,585)					
20.参考文献	①山岸俊男 「社会心理学キーワード（有斐閣双書—KEYWORD SERIES）」 有斐閣。 ②土肥伊都子（編） 「自ら挑戦する社会心理学」 保育出版社。 ③松田幸弘（編） 「人間関係の社会心理学」 晃洋書房。					
21.成績評価	・ 授業毎ミニレポート：30% （各回の理解度を測るため、専門用語等の解説を求める：学習目標①②③④を問う） ・ 中間テスト：30% （前半の知識の定着度を測る：学習目標①④を問う） ・ 期末テスト：40% （後半の知識の定着度を測る：学習目標②③④を問う）					
22.コメント	※レジュメの印刷はしないので、各自ダウンロードや印刷をしてください。 ※人数の把握をしたいので、履修希望学生は初回までに履修登録を必ず済ましておいてください。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は認めない。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【第 1 回】 ガイダンス・社会心理学とは何か 授業内容・学習目標・授業の進め方などを説明する。 社会心理学とはどのような学問かを理解する。	講義内容を復習する。
第 2 回	【第 2 回】 社会的認知:様々なものごとに対する推論と判断① 社会的認知に関する基本的な考え方、用語を学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 3 回	【第 3 回】 社会的感情：感情の機能と役割 感情・気分の役割について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 4 回	【第 4 回】 態度と説得？ 態度がどのように形成され、変化するのかを学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 5 回	【第 5 回】 態度と説得？ 態度がどのように形成され、変化するのかを学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 6 回	【第 6 回】 社会的自己 "自分"に関する知識、イメージがどのようにつくられるのか学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 7 回	【第 7 回目】 公正さに関する心理 公正・不公正なものごとに対する心理について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 8 回	【第 8 回】 ふりかえり①・中間試験 前半のまとめ、および中間試験を行う。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 9 回	【第 9 回】 対人行動 援助行動と攻撃行動の生起メカニズムについて学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 10 回	【第 10 回】 対人関係 友人関係から親密な関係への移行の心理、関係性の中で生じる心理について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 11 回	【第 11 回】 受容と排斥 他者からのサポートと、排斥が及ぼす影響について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 12 回	【第 12 回】 集団の中の個人 集団に所属することが我々にどのような心理的影響を与えているか学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 13 回	【第 13 回】 集団間関係の心理学① 集団間葛藤を中心に関係悪化の過程について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 14 回	【第 14 回】 集団間関係の心理学② 集団間葛藤を中心に関係悪化の解決法について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 15 回	【第 15 回】 ふりかえり②・期末試験 全体のまとめ、および期末試験を行う。	予習：試験にむけて総復習をおこなう。

1.授業コード (ナンバリング)	PSY214-Y51	2.科目名	災害心理学 (2020～2022 年度生 秋春通 年)		3.単位数	4
4.授業担当教員	斎藤元幸、村田昌彦					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 前半は斎藤・村田担当で 2025 年度秋学期に 授業を 15 週分行う。 後半は道免担当で 2026 年度春に授業を 15 週分行う。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業の目的は、被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけることである。 授業の概要は以下のようなものである。まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	【前半（斎藤・村田）】50% ①各授業におけるミニレポート（13 回分） 20% ②前半中間レポート 2 回～8 回の内容 15% ③前半期末レポート 9 回～15 回の内容 15% 【後半（道免）】50% 各授業における小レポート 13 回 26% 中間振り返り 17～22 回の内容 12% 総括振り返り 24～29 回の内容 12%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日昼休み（道免） センターオフィスアワー：金曜日昼休み 山手 1 号館学習支援室（道免）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション			各回の授業終了後、自分なりの気づき・疑問		
_____	本授業のねらいや進め方等について説明する			あるいは過去の体験の捉え直しなどをミニレ		
第 2 回	_____			ポートとして WebClass から入力・提出する		

	安全・安心・災害	こと
第 3 回	災害の種類と範囲	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 4 回	自然災害と環境（１）	
第 5 回	自然災害と環境（２）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 6 回	自然災害と環境（３）	
第 7 回	災害情報の問題	中間レポートの提出
第 8 回	防災教育の問題	
第 9 回	災害と認知バイアス（１）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 10 回	災害と認知バイアス（２）	
第 11 回	災害と認知バイアス（３）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 12 回	災害とフェイクニュース（１）	
第 13 回	災害とフェイクニュース（２）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 14 回	災害における認知・行動	
第 15 回	総括および期末レポート	期末レポートの提出
第 16 回	オリエンテーション	
第 17 回	災害の種類による被災者の心理の特徴	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 18 回	過去の災害とそこから始まったもの	
第 19 回	災害が直接心身に及ぼす影響 1 ト라우マ、解離、記憶	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 20 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2 グリーフ 遺族の苦しみ	
第 21 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3 うつと自殺	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 22 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1 災害関連死 支援者のストレス	
第 23 回	中間振り返りと講評	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 24 回	災害の中・長期的影響 1 複雑性 PTSD 複雑性悲嘆 ハサミ状格差	
第 25 回	災害の中・長期的影響 2 ビルディングブロックエフェクト	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 26 回	災害の多角的視点 自助・共助・公助 難民問題	
第 27 回	サイコロジカル・ファーストエイド 1	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニ

第 28 回	サイコロジカル・ファーストエイド 2	ケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 29 回	心的外傷後成長（PTG）	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 30 回	総括振り返りと講評	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY305-Y51	2.科目名	環境心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	環境心理学は人間と環境との関係を研究するわけであるが、さまざまな学問分野にまたがる学際的領域である。本講義ではまず環境心理学の成立過程や諸理論・方法論を概説する。その後は環境心理学の広大な領域から代表的な研究対象を取り上げて解説していく。					
18.学習目標と DPとの関連	1) 環境と人間の関係性そのものに気づき、考えられるようになること 2) 環境の持つ客観的物理的な特性と、その環境に対して人間が抱く主観的心理的な特性との間にどのような差異があるかを理解できるようになること					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	朝倉心理学講座 1 2 「環境心理学」 佐古順彦・小西啓史編 2007 年 その他、必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	ミニレポート（第 2 ～14 回の 13 回分）			52%		
	最終総括試験			48%		
				合計 100%		
22.コメント	私たちが生きて活動していく上で絶対に切り離せないのが「環境」です。普段当たり前になっていて気付かないこの環境に気付き、いろいろと考えて見てください。あなたの生活がきっと違ってくることでしょう。 授業の中で必要に応じてグループワークを行い、他者との交流の中から視点を広げていってもらうことも考えています。 なお各回の授業の終了時にミニレポートを書いてもらいますが、そこに気付きや疑問などをどしどし書いてください。次回の授業において取り上げて解説します。授業改善にもつなげます。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 本講義のねらいや進め方、評価法などについて説明する。			○個人ワーク：今回の授業に関する復習＜150 分＞。以下第 14 回まで同様。		
第 2 回	環境心理学とは何か 環境心理学は学際的領域である。その成立の歴史的背景や対象となる広範な問題について概説する。			今回の授業終了後、気づきや疑問、あるいは過去の体験のとらえなおしをミニレポートとして WebClass から提出すること。第 14 回まで同様。		

第 3 回	環境心理学の視点と方法 環境心理学において採用される主な視点や理論、また方法について概説する。	
第 4 回	環境認知 人間は環境をどのようにとらえているか。環境認知のあり方について考える。	
第 5 回	空間行動（1） 人間と空間との相互作用の過程で現れるさまざまな行動について、なわばりやパーソナルスペースの観点からとらえる。	
第 6 回	空間行動（2） 同上。	
第 7 回	環境評価（1） 景観の問題を中心に、我々が環境を評価するとはどういうことなのか考える。	
第 8 回	環境評価（2） 同上。	
第 9 回	生態学的心理学 環境心理学の初期から重要な観点を提供する生態学的心理学を取り上げ、今後の展望を探る。	
第 10 回	住環境 住まうことを居住環境の観点から考える。	
第 11 回	教育環境 学習環境の代表として学校環境を取り上げ、教育環境の特性と問題を考える。	
第 12 回	職場環境 労働環境の代表例としてオフィス環境を取り上げ、その特性や諸問題について考える。	
第 13 回	地球環境問題（1） 地球規模の環境にかかわる諸問題について取り上げる。	
第 14 回	地球環境問題（2） 地球規模の環境にかかわる諸問題について取り上げる。	○個人ワーク：最終試験に向けて第 2～14 回の授業内容を中心に、授業全般の復習＜960 分＞
第 15 回	最終総括試験の実施	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY313-Y51	2.科目名	捜査心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件	司法犯罪心理学または応用犯罪心理学の単位 を取得したか、履修中であること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	犯罪捜査における供述心理学（容疑者の取調べ）、心理学を活用した科学捜査としてのポリグラフ検査、犯罪者プロファイリング、犯罪者のパーソナリティと障害について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	現代の犯罪捜査の方法について理解し、その実践方法を学ぶ ① 犯罪捜査においては、容疑者と取調官間でラポールの形成に始まり、良好なコミュニケーション技術を駆使して行うことが、容疑者の自供を引き出し、事件の真相を明らかにするうえで重要かを理解し、その手法について学ぶ ② 科学捜査の手法（ポリグラフ検査、犯罪者プロファイリング）の方法について学ぶ ③ 過去に起きた重要事件を事例を通じて、その背景、原因・理由、犯行の経緯を読み解き、犯罪の立証するために、心理学のどのような知見が利用されているかを理解する					
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・グループ 20％：取り調べに必要な心理学的手法についてグループ討議を行う。 ・レポート 20％：わが国で実施されているポリグラフ検査の質問方法、反応パターン、日米の違いなどについてまとめる ・期末試験 60％ ・実験参加：生理反応を測定する卒業研究、学会発表に向けた実験に参加したものには1回につき、若干の加点をする					
22.コメント	(0) 司法犯罪心理学を履修していないと内容の理解は困難と考えたほうが良い (1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c.専門知識＋自分の考え 前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない (2) 試験問題について 試験は毎回の講義で配付する資料から出題するので、試験前には配付資料をきちんと復習してから受験すること 記述式の場合には、必ず最初に、講義で習ったことをきちんと書くこと その上で、自分の考えを述べるのは良いが、きちんとした理論について触れることなく、勝手な意見を書いても、得点にはならない また、制限字数を大幅に下回るような状態で提出された答案は、60 点に満たないと心得ておくこと 文字が読みにくい、日本語の文章になっていない場合は、内容にかかわらず、単位を取得す					

		る権利を放棄したものと見なすので、その点を留意しておくこと
		(3) 生理心理学の実験参加 実験参加は生理心理学の理解のひじょうに役に立つので、実験参加の募集があったときにはぜひ参加してほしい
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ガイダンス	
	取調べの心理学 供述心理学について学ぶ	
	供述心理学 2 自供に至る心理過程について学ぶ	
	取り調べの可視化、司法面接	
	生理心理学がもたらす科学捜査（ポリグラフ検査） ① 死刑求刑事件	
	生理心理学がもたらす科学捜査（ポリグラフ検査） ② 松本清張の「霧の旗」に類した冤罪を訴えた事件	
	ポリグラフ検査 我が国と諸外国の違い	
	FBI 方式とリバプール方式の犯罪者プロファイリングとは？ 職人型刑事の経験と勘に依存したプロファイリングと統計学型プロファイリング	
	地理的プロファイリング 強姦事件のプロファイリング事例	
	科学捜査が解決に導いた事例 強姦殺人事件をめぐる事例報告	
	神戸連続児童殺傷事件における挑戦状のプロファイリング そして酒鬼薔薇聖斗が少年院を出たあとの「絶歌」に書かれたことは？	
	障害に伴う実母殺人未遂事件(1) 「真実の口」に書かれた犯行動機	
	障害に伴う実母殺人未遂事件(2) 犯行シナリオと女子高校生のブログについて	
	障害に伴う殺人事件 偏差値の高い男子高校生が実際に体験してみないと気が済まなかった殺人の殺人の責任応力に関する判決について説明する	
	振り返りと最終試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY314-A51	2.科目名	こども発達学		3.単位数	2
4.授業担当教員	多田智栄子					
5.授業科目の区分	教育福祉学科こ	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生から	
10.取得資格の要件	小学校一種 認定心理士 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・ こども発達学では、乳幼児期から青年期に入るまでの子どもの「様子」について学修していきます。 ・ 生まれてきてからの発達をみていくうえでのポイントがあります。 一つ一つ丁寧にみていく必要がありますが、その中でも重要なイベントをいくつかピックアップして発達を考えていきましょう。 ・ 授業の中では、幼児期と児童期に焦点をあてます。 現代を生きる子供たちを理解するためには、生物・心理・社会的観点等からの理解が必要です。 授業の中では、知的な発達や対人関係と人格などとの 関係、学習、メンタルヘルス・・・ など を切り口に考えていきましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	・ こども発達学の授業での学習（身につくスキル）は次の通りです。 ①子どもを理解するうえで、今、現在を生きる子どもの姿を「発達」を基盤にして説明ができるようにします。 …現代社会の特徴を学び、子供を取り巻く社会環境とその影響についても理解する必要があります。 ②幼児期と児童期の子供の成長・発達について、身体の成長、知的な発達、対人関係の発達から説明ができるようにします。 …特に「子どものパーソナリティと対人関係の発達」については、向社会的行動を支えるもの、ということにも注目していきます。 ③子どもの発達と学習について、動機づけ理論等から説明ができるようにします。 …学習にも関連させて学びます。学習上のつまずきも考えます。 ④子どもをサポートする観点から、子どもの心の特徴やその発達について説明できるきるようにします。 …子どもの心の発達について、メンタルヘルス、レジリエンスなどについて考えていきます。 精神分析から見た子どもの心の特徴を知りましょう。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
	「児童心理学」や「発達心理学」などで読みやすい本があればみんなで共有しましょう。紹介して下さい。					
20.参考文献	・ 伊藤亜矢子（編著） 2011 エピソードでつかむ児童心理学 ミネルヴァ書房 ・ アニメから読み解く臨床心理学 ・ 無藤隆 他（編）2017 よくわかる発達心理学 第2版 ミネルバヴァ書房					
21.成績評価	以下の内容で評価を行います。 ・ 中間テスト…20 点（学習内容の①・②に対応します） 2 週間前にお知らせします。 ・ 課題レポート…2×10 点（学習内容の②と③に対応します） 2 週間前にお知らせします。					

	・ 期末テスト…60 点（学習内容の①・②・③・④に対応します）	
22.コメント	・ アニメから見る子ども発達学…として絵本やアニメ「ちびまる子ちゃん」「NARUTO」などを取り上げて学びたいとも考えています。絵本やアニメを「こども発達学」的に読みとるとどのような解説ができるか、楽しみにしててください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・ オリエンテーションで学習の目標や内容についての共通理解をします。 自分は何を何を学ぶのかの目標やゴールを確認しましょう。 ・ 絵本から子供の心を理解します。子どものころに戻ってみましょう 「地球からのしつもん」 「なんだろうなんだろう」など	・ 現代社会の特徴を調べてきます。 ・ ・ S D G s について調べておきましょう ・ 子どもの貧困をキーワードとします。
【第 2 回】	・ 現代に生きる子どもについて学習します。 1 SDG s を考えます。 … 貧困の問題 格差社会などなどから 「現代を生きる世界の子ども」の姿を理解します。	復習」 ・ 貧困と子供についてまとめておきましょう。
【第 3 回】	現代に生きる子どもについて学習します。 2 学習 1 から 私たちは何を目指していくのか 私たちにできることは何か（何から始めるか）などを 議論しましょう	・ 現代社会の子供の姿（コロナ禍）について、自分でキーワードを見つけてまとめておきます。
【第 4 回】	コロナ禍での子どもたちの健康と発達の保障について考えます ・ 2 年間で子どもたちの生活変化と健康や発達での変化を考えましょう	・ 現代の多忙な子どもたち、と題してまとめをしておきましょう。
【第 5 回】	・ 幼児期・児童期の子供の成長について考えましょう。① 子どもの知的な発達について学びます。 …子どもの「世界についての理解の発達」について調べていきましょう。	「復習」 ・ 虐待やネグレクトなどと合わせて、子どもの成長や発達に及ぼす影響についてまとめておきましょう。
【第 6 回】	・ 幼児期・児童期の子供の成長について考えましょう。？ 子どもの知的な発達について学びます。 …子どもの「発達の臨界期」について調べていきましょう。 ヴィゴツキーの考え方も取り入れていきます。	・ 幼児期・児童期での子供の知的な発達での特別なイベントを一つ取り上げてまとめておきましょう。
【第 7 回】	幼児期・児童期の子供の成長について考えましょう。③ ・ 子どもの対人関係の発達について考えていきましょう。 …向社会的行動を支えるものは何か考えましょう。 アニメ「NARUTO」をこども発達学的に読み解いてみましょう。	「復習」 ・ 子どもの発達の「つまずき」について経験的にまとめておきましょう。

	キーワードは「共感的な人間関係」	
【第 8 回】	子どもの発達と学習について考えます ① ・学習の「つまずき」から学習方法、メタ認知、等について学びましょう。	「復習」 ・自分の児童期をイメージして「世界が広がった」と考えられるイベントを思い出してまとめてみましょう。
【第 9 回】	子どもの発達と学習について考えます ？ ・動機づけについて考えていきましょう。理論的な背景をおさえておきます。 ・動機づけを左右するものは何かを考えましょう。 ・セルフ・ハンディキャッピングとは何かについて知ります。	「復習」 ・「ちびまる子ちゃん」「サザエさん」の子どもの登場人物の行動を学修した「動機づけ」から考えてみよう
【第 10 回】	子どもの発達と学習について考えます③ ・教師と子どもの人間関係について学びます。 …教師が学級に対して持っている願いや指導（保育）は、学級内の人間関係や学級文化の構築に大きく影響を及ぼします。教師自身、保育者自身の子どもたちへの認知を知ることが大切です。その方法について学びましょう。	「復習」 ・「危機管理」の授業の必要性を考えてまとめてみましょう。
【第 11 回】	震災について学びます ・減災の考え方から子どもたちにできること、子どもたちができることを学びます。 ・減災の授業を組み立てます。	「予習」 ・メンタルヘルスについて調べておきましょう。子供に特化してみます。
【第 12 回】	子どもをサポートすることについて学びます。1 ・幼児期・児童期のメンタルヘルスについて考えていきましょう。 …幼児期や児童期に多い心の問題について考えていきます。 児童精神分析から見た子どもの心の特徴を学びましょう。	「復習」 子どものメンタルヘルスについて、関心を持った部分についてまとめておきましょう。
【第 13 回】	子どもをサポートすることについて学びます。2 ・幼児期・児童期のメンタルヘルスについて考えていきましょう。 …子どもの心の発達について、事例を基にして理解しましょう。	「予習」 ・学習のまとめをしておきます。学習の目標を理解しておきます。
【第 14 回】	総括試験 ・学習のまとめをします。学習の目標を総括します。	「予習」 ・子どもの人権について、幼稚園・学校場面で考えてみましょう。人権て何？
【第 15 回】	学習の振り返りに合わせて、子供の人権について考えます。 ・子どもの人権についてを事例から考えます。	「復習」 ・学習の振り返りをします。学習到達目標を見直ししながら、理解をしましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	RED115-A51	2.科目名	リーディング総合 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純					
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	中学英語 1 ・ 2 種、高校英語 1 ・ 2 種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、ペアワーク		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	[目的] 音読を通して、英文の内容理解と音声を能動的に習得することを目的としています。短いパッセージの読解から、英語らしい読みにつながる音読活動へ、そしてさらに、その内容を自分のことばで再現する retelling を行う事で、効果的な英語習得につなげます。 [概要] これまでのリーディングは、意味理解の手段として和訳することが主体でしたが、この授業ではできるだけ訳さずに内容を理解し、それを発信するペアワークで音読に発展させ、発音面にも注意を向けます。さらに、応用して発表することまで扱います。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標： 1）英文をできるだけ和訳せずに理解できる（真の読解） 2）内容理解につながる音読が実施できる（意味を理解した音読） 3）自分のことばで内容を英語で再現できる（リテリング） DP(4)：問題発見・解決力、コミュニケーション・スキル					
19.教科書・教材	Pleasure in Reading Aloud and Retelling (2022) A.P. Newell, 山口高嶺 (金星堂) ¥1,800 978-4-7647-4083-9 補助教材は Web Class に掲載します。					
20.参考文献	英和辞典または英英辞典（紙または電子媒体で） 音読の録音用に Audacity（無料アプリ）を P C にインストールしておいてください。					
21.成績評価	1） 音読小テスト（各 Unit）：8 回×3 点＋6 回×4 点＝48 点 学習目標 2 に対応 2） Retelling テスト：1 回×6 点＋2 回×10 点＝26 点 学習目標 3 に対応 3） 読解テスト：26 点 学習目標 1 に対応 * 音読小テストは 7 回以上、Retelling は 2 回以上、最後の読解テストを必ず受験することで 60 点以上が合格です。 * 総括試験は実施しません。					
22.コメント	* 水曜 4 ・ 5 限 2 コマ連続の授業の為、確実に予習することを求め、授業中に内容理解を完結させます。予習内容については、第 1 回目の授業で詳しく説明します。 * 必ず英語の辞書および録音用の PC とマイクロフォンを授業に持参し、「音読小テスト」で使用します。（スマホ辞書は不可）。PC の不具合がある場合は受講できません。録音・音声ファイルの提出は授業中に限ります。 録音用アプリとして、Audacity を教室外でインストールしてください（学内はセキュリティがあり、ダウンロードできません）。使い方は授業で説明します。 * 音読小テスト、リテリングテストのフィードバックは、次週に評価用紙を返却して説明します。また、評価基準はテスト前に説明します。 * 交通機関・気象状況などにより対面授業が困難な場合でも休講にせず、Zoom による遠隔授業を実施します。当日、Web Class で Zoom の URL を送信しますので、必ず各自で確認してください。確認せずに授業に参加しなかった場合は、欠席扱いとします。					

		*生成 AI の使用を禁止します。一部でも使用した提出物は、0 点の評価にします。
23.オフィスアワー	なし	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1. 2.	1. Introduction (シラバスと授業の進め方説明、Web Class の説明、使用アプリと提出用フォーマットの説明)、音読とリテリングについて説明, Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader 2. Unit 1 意味ごとのまとまりを意識する, 予習内容についての説明	1. 毎回、PC と録音用マイクを持参する。 2. Unit 1 Retelling, Unit 2 予習
3. 4.	3. Unit 1 Retelling & 音読小テスト, Unit 2 A Cool Response to Food Waste 内容語と機能語を意識する 4. Unit 2 内容語と機能語を意識する, Retelling (ペア)	4. Unit 3 予習
5. 6.	5. Unit 3 Haiku: having Fun with Words and Ideas 6. Unit 3 弱い子音の読み方, Unit 2 Retelling (ペア) & 音読小テスト	6. Unit 4 予習
7. 8.	7. Unit 4 Could your Face Cost you your Privacy? 8. Unit 4 つながる音の読み方, Unit 3 Retelling (ペア) & 音読小テスト	8. Unit 5 予習
9. 10.	9. Unit 5 Russia's City of the East, Unit 4 音読小テスト 10. Unit 5 補足情報と強調情報の読み方, Retelling テスト 1 (録音)	9. Retelling 練習 10. Unit 6 予習
11. 12.	11. Unit 6 The Healing Power of Music 12. Unit 6 逆接から主張を導く, Unit 5 Retelling (ペア) & 音読小テスト	12. Unit 7 予習
13. 14.	13. Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat 14. Unit 7 対比情報に注意して読む, Unit 6 Retelling (ペア) & 音読小テスト	14. Unit 8 予習
15. 16.	15. Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems 16. Unit 8 疑問文のイントネーション, Unit 7 Retelling (ペア) & 音読小テスト	16. Unit 9 予習
17. 18.	17. Unit 9 Currying Favor in Britain and Japan 18. Unit 9 並列情報の読み方, Unit 8 Retelling テスト 2 (録音) & 音読小テスト	17. Retelling 練習 18. Unit 10 予習
19. 20.	19. Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World 20. Unit 10 数字情報の読み方, Unit 9 Retelling (ペア) & 音読小テスト	20. Unit 11 予習
21. 22.	21. Unit 11 The Tragedy of Rana Plaza 22. Unit 11 核心から詳細を述べる, Unit 10 Retelling (ペア) & 音読小テスト	22. Unit 12 予習
23. 24.	23. Unit 12 The Age of Innocence 24. Unit 12 感情を込めて読む, Unit 11 Retelling (ペア) & 音読小テスト	24. Unit 13 予習
25. 26.	25. Unit 13 Kiribati: A Paradise on Earth: But for How Much Longer?	26. Unit 14 予習

	26. Unit 13 他の人の発言を紹介する, Unit 12 Retelling (ペア) & 音読小テスト	
27. 28.	27. Unit 14 Two Great Painters... and a Stormy Friendship 28. Unit 14 メッセージの中陰を際立たせる, Unit 13 Retelling テスト 3 (録音) & 音読小テスト	27. Retelling 練習 28. Unit 15 予習
29. 30.	29. Unit 15 What's in a Name? Unit 14 音読小テスト 30. Unit 15 複雑な文構造を読む, 読解テスト、ふり返り	

1.授業コード (ナンバリング)	RED115-Y51	2.科目名	リーディング総合1 L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 & 講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(1) Can understand the main points of clear standard input on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. (2) Can deal with most situations likely to arise while travelling in an area where the language is spoken. (3) Can produce simple connected text on topics that are familiar or of personal interest. (4) Can describe experiences and events, dreams, hopes and ambitions and briefly give reasons and explanations for opinions and plans.					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 1) Reading for main ideas and details 2) Reading skills (Previewing, Skimming, Paragraphs) 3) Reading Speed					
19.教科書・教材	リーディング・インサイト 科学技術の多様な側面を考える Reading Insight 松尾秀樹 著/ Alexander A. Bodnar 著/ Jay C. Stocker 著/ 藤本 温 著 978-4-384-33511-8 C1082 三修社					
20.参考文献						
21.成績評価	Class Activity and Task : 40 % Quiz : 40 % Final Test: 20%					
22.コメント	テキストは毎回必ず持参すること。					
23.オフィスアワー	授業の前後					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation			Check vocabulary Reading Task Review questions		
	Unit 1 Space Invaders ― The Evolution of Video Games 大ブームを引き起こしたインベーダーゲームの開発について			Check vocabulary Reading Task Review questions		
	Unit 2 What a Waste! ― Food Loss and Food Waste			Check vocabulary		

	食品ロスと食品廃棄について	Reading Task Review questions
	Unit 3 Amory Lovins and Soft Technology エイモリー・ロビンス氏の「ソフト・テクノロジー」について	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 4 Litium-ion Batteries — The Quest for Clean Power リチウムイオンバッテリーについて	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 5 Todai Robot Project 「東ロボ」プロジェクトと日本の生徒の読解力の問題について	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 6 News Literacy — Watchdog or Cheerleader? あふれるニュースの中で気をつけておくべきこと	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 7 Hayabusa-2 — A Triumph for Public-Private Exploration 「はやぶさ 2」の帰還と宇宙開発費用について	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 8 Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes 川原医師とロシナンテスの活動について	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 9 Biomimicry in Japanese Design 自然から学ぶテクノロジーのヒント	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 10 What Plagues us コロナ禍と私たち	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 11 A Cup Full of Ideas 今や私たちの生活に欠かせないものとなったインスタントラーメンについて	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 12 Inclusion for Innovation ミライロの取り組み	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 13 Ethical Shopping — The Choice is Yours 「エシカル・ショッピング」について	Check vocabulary Reading Task Review questions
	Unit 14 The Social Dilemma ネット産業の開発者たちが語る Final Test	Check vocabulary Reading Task Review questions

1.授業コード (ナンバリング)	REG202-M51	2.科目名	公共サービス論		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	公共サービスは、市民の日々の生活を支えているが、政府・自治体の厳しい財政状況の中で見直され始めている。しかしながら、一方で少子高齢化、格差の拡大、甚大な災害等でその重要性が再認識されている。 誰もが安心して暮らせる公平・公正な社会を作るため、公共サービスのあり方について考える。					
18.学習目標と DPとの関連	その社会問題は税金を使って解決しないといけないのかについて、公共経済学の観点も踏まえて考えます。 「心豊かな世界市民になる」 社会問題について関心を持ち、社会的弱者について配慮できる人間になる。 「問題解決能力を身につける」 社会問題について、その背後にある原因となるものを探求し、解決策を立てる。 DP の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布					
20.参考文献	授業内に適宜紹介					
21.成績評価	ワークシート：４０％ 中間レポート：３０％ 最終レポート：３０％					
22.コメント	政府・自治体の厳しい財政状況から、小さな政府、民間にできることは民間に、中央集権から地方分権へなど既存の体制を変える必要が生じています。そして、新しい公共サービスのあり方が叫ばれ、既存のシステムが見直されはじめています。 基礎から公共サービスを学んで、一緒に今後の公共サービスのあり方について考えましょう。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	公共サービス特論について			授業の予習・復習		
第 2 回	市場の失敗と政府の介入について			授業の予習・復習		
第 3 回	独立行政法人の現状と課題			授業の予習・復習		
第 4 回	PFI の現状と課題			授業の予習・復習		
第 5 回	PPP の現状と課題			授業の予習・復習		
第 6 回	公共サービスの民営化と課題			授業の予習・復習		
第 7 回	前半の振り返り			中間レポート		
第 8 回	事例研究			授業の予習・復習		
第 9 回	事例研究			授業の予習・復習		
第 1 0 回	事例研究			授業の予習・復習		
第 1 1 回	事例研究			授業の予習・復習		
第 1 2 回	事例研究			授業の予習・復習		

第 1 3 回	事例研究	授業の予習・復習
第 1 4 回	最終レポート	最終レポート
第 1 5 回	総括	最終レポート

1.授業コード (ナンバリング)	REG306-A51	2.科目名	防災教育		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	選択		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、学校園や施設等のセーフティ・マネジメントに関して理解し、防災・防犯に関しての方策を具体的に提案できる力を身に付けることを目的とします。 【概要】 ○通学途中や学校内で様々な被害や事故に遭遇する事件が頻発しているが、不審者の侵入や校内での事故を防ぐために学校としてどのような安全対策を講じているかを検証する。 ○様々な集団生活の場において災害や事故発生時の対応について協議する。 ○阪神・淡路大震災、東北大震災等の事例を基に、自然災害に「備えること」、自然災害の教訓伝承について考える。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、D P の①自律性 ④問題発見・解決力 ⑥専門的知識・解決力に関連しています。 (1) 学校園・施設等で発生するリスクをイメージし、対応策を考えることができる (2) 自然災害発災の状況を理解し、減災の方法について考えることができる (3) 阪神・淡路大震災、東日本大震災の事実を知り、その教訓を伝承しようとする意欲をもつ					
19.教科書・教材	特に使わない。毎回プリントを配布する。					
20.参考文献	1. 適宜、資料を配布します。 2. その他、関連サイトの URL や関連資料は授業中に紹介します。.					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです ・毎時間の授業ワークシート 20 % 《学習目標(1)に対応》 ・学校事故に関するレポート 20 % 《学習目標(4)に対応》 ・自然災害に関するレポート 20 % 《学習目標(2)(3)に対応》 ・学級における児童の安全安心に関するレポート 20 % 《学習目標(4)に対応》 ・学級における教師の安全安心に関するレポート 20 % 《学習目標(4)に対応》					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○プロローグ 授業の内容と進め方 学校園・施設安全にかかわる幼児・児童・生徒の問題			安全教育についての復習と次回の予習		
第 2 回	1. 安全教育の目標 2. 安全教育の重点 3. 安全教育の領域と構造			安全教育の復習と次回の予習		

	4. 安全教育の各領域の内容 ○生活安全に関する内容①	
第3回	○生活安全に関する内容 ・生活安全についてグループワーク	生活安全の復習と交通安全についての予習
第4回	○交通安全に関する内容 ・交通安全についてグループワーク	《課題》 「学校事故」に関するレポート作成
第5回	○災害安全に関する内容② ・災害安全についてのグループワーク	災害安全の復習
第6回	○講話「大教大附属池田小学校事件」 ・不審者対策についての認識を深める	・過去の不審者による事件について
第7回	○過去の自然災害に学ぶ防災教育① ・自然災害に関してのグループワーク	過去の災害についての予備調査
第8回	○災害安全「避難訓練」を検証する① ・調査内容の発信（グループ内）	《課題》地震を想定した避難訓練案の立案
第9回	○災害安全「避難訓練」を検証する② ・より実践的な「避難訓練」の立案 ・模擬「避難訓練」	
第10回	○阪神・淡路大震災の学びから「避難所」 ・阪神・淡路大震災当時の「避難所」の課題の抽出 （グループワーク）	・阪神・淡路大震災/東日本大震災での避難所の問題点
第11回	○阪神・淡路大震災の学びから「避難所」 ・「いのち」と「くらし」を守る避難所運営の立案 （グループワーク） ・「クロスロードゲーム」	
第12回	○学校園の防災教育① ・「防災リュックをつくろう」	
第13回	○学校園の防災教育② ・「防災かるた」をつくろう	
第14回	○南海トラフ地震とは ・大地震への備え	《課題》「南海トラフ地震」 ・歴史 ・被害想定
第15回	○まとめと課題 ・学校教育と防災士	

1.授業コード (ナンバリング)	REG401-y51	2.科目名	復興論 (2019 年生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦、川脇康生					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	人間学Ⅱ、防災入門の単位取得が望ましい	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、フィールドワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害は、被災地の将来にとって、より強靱でしなやかな地域に再生していく一つの機会となる。このことから、阪神・淡路大震災で目指した創造的復興や、東日本大震災の復興を進めている日本の復興体制、さらに国際的にハイライトされたよりよい復興（Build Back Better）のコンセプトについて学び、グローバルな視点で復興のあるべき姿について学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	阪神淡路・大震災の復興に際して掲げた「創造的復興」がどのようにして作られ達成されたか、その理念、計画、手法、実績などを学び、世界的な先進事例とされている、身近に起きた大災害の復興の姿を習得する。 さらに、東日本大震災、海外の大災害復興事例などとの比較検証を行い、国際的にハイライトされたよりよい復興（Build Back Better）の理念など、グローバルな視点で復興のあるべき姿をイメージできる能力を養う。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	防災・復興法制～東日本大震災を踏まえた災害予防・応急・復旧・復興制度の解説～ 佐々木 晶二 著 （第一法規） 伝える 改訂版 1.17 は忘れない 阪神・淡路大震災復興フォローアップ委員会（監修）（ぎょうせい） (https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/tsutaeru-kyoukun.html)					
21.成績評価	各回提出物：50％ 総括レポート：50％					
22.コメント	セーフティマネジメント関係科目の最終開講科目です。 災害被災地が、将来同様の災害被害を出さないための、最重要テーマでもあるので、防災士取得者は特に受講を勧めます。 .生成 AI 利用に関してはいかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10/6	復興基本法： 東日本大震災を契機に制定された、日本の災害復興の指針となる復興基本法制定の経緯、基本的考え方、具体的内容について学ぶ			各回の講師指定のリフレクション課題レポートの提出 (各回共通<別途指示がある場合を除く>)		
第 2 回 10/13	阪神・淡路大震災の検証： 阪神・淡路大震災の検証 大震災直後から検討が開始され、10 年計画で策定、実施された兵庫フェニックス計画について、意図、実績、成果の国際発信などについて学ぶ					
第 3 回 10/20	インフラ復興： 阪神・淡路大震災復興で最優先で取り組まれたインフラの復興（電気、通信、ガス、上下水道、道路、都市施設など）について学ぶ					

第 4 回 10/27	産業復興： 阪神・淡路大震災復興で被災地経済の復興に不可欠な産業の復興のあり方、実績などについて学ぶ	
第 5 回 11/3	高齢者・障害者・女性等が参画する復興： 災害時要配慮者となる、高齢者、障害者、女性などの視点に立った、復興計画の策定、災害時の避難支援策などについて学ぶ	
第 6 回 11/10	すまいの復興<地震保険を含む>： 被災者の復興で、最も重視される住宅復興について、阪神・淡路大震災の住宅復興をベースに、その後の大災害の復興において阪神・淡路の教訓がどのように活かされたかについて学ぶ	
第 7 回 11/17	復興まちづくり： 復興計画の要となる、復興都市計画について、その基本的考え方や手法について、阪神・淡路大震災やその他の都市復興事例から、ハードのみならず、住民参加のまちづくりなどを学ぶ	
第 8 回 11/24	生活復興：阪神・淡路大震災をはじめあらゆる災害に際して市民生活に密着する生活の復興について、様々な面から、教訓、今後の災害に向けた課題などを学ぶ	
第 9 回 12/1	復興における住民の参画と協働： 復興計画策定に際しての、住民参加と連携・協働について、阪神・淡路大震災当時と、その後の変遷などについて学ぶ	
第 10 回 12/8	教育復興： 災害で被害を受けた教育現場の復興には、校舎や教室などのハードの復興に併せて、防災教育やこころのケアを含めた教育システム全体の復興が必用となること、その具体例などについて学ぶ	
第 11・12 回 12/13（土）	<学外活動 土曜日 9:30～12:30: 訪問日は授業の中で調整します> 阪神・淡路大震災の経験と教訓を保存し、あらたな知見を加えながら次世代に伝え続けている「人と防災未来センター」、を訪問し、阪神・淡路大震災からの復興の取組などについて学ぶ	
第 13 回 1/19	国際的なよりよい復興への支援： 兵庫防災枠組がきっかけとなり設立された国際復興支援プラットフォーム（IRP）の活動内容、仙台防災枠組でもハイライトされたよりよい復興「Build Back Better」に向けた国際的な協力体制、具体的な復興ノウハウの普及啓発など、実際の災害復興事例について学ぶ	
第 14 回 1/26	創造的復興<複合災害への備え、Build Back Better>： 阪神・淡路大震災で兵庫県が目指した「創造的復興」の理念、その成果が色濃く反映された国連の「仙台防災枠組(2015-2030)」の考え方、展望について学ぶ	
第 15 回	復興総論：大災害多発時代、被災地の「よりよい復	

1/27	興」を通じて、次の災害にいかに備えるかについて総括する（レポート作成）	
12/15 と 12/22 の授業 は 12/13 の学 外授業により 休講します。		

1.授業コード (ナンバリング)	RSM101-Y51	2.科目名	災害と安全 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	森永速男					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球で起こる自然現象の中には生物や人類に恩恵をもたらすものもあれば、突発的で破壊的な災害をもたらすものもある。恩恵と災害をもたらす自然現象の様相やそのメカニズムを理解することは、この天体で持続的に生きていくうえで極めて重要である。この授業の目的は、自然現象からの恩恵について理解し、それらをより正しく享受するためにどうあるべきかを考察し、また災害について正しく理解し、どうすれば災害による被害を低減できるかを考える。さらに、災害による、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災前、そして直後から中長期までの影響を多角的に捉え、安全を確立するための知恵と苦難を克服し生きる力を持つ人になることを目指す。 授業の概要は以下の通りである。地球そのものとそこで起こる自然現象とそのメカニズム、種々の恩恵と災害の知識について学び、実際に身の回りでどのようなことが起こりうるのかシミュレーションすることで、生きる力を身に着ける。また、防災、減災について学び、人間力と自助力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 ① 地球という生命のいる天体について理解する ② 地球で起こる自然現象のメカニズムについて理解する ③ 自然現象による恩恵と災害の多様性について理解する ④ 恩恵と災害がもたらす影響について多角的に理解し、対応できる ⑤ 自然災害による被災者・被害者への適切な支援ができる ⑥ 自然災害から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑦ 防災、減災の知識を持ち、人に説明できる					
19.教科書・教材	森永速男、片尾浩、山本鋼志著；災害多発時代の今だからこそ地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム - (増補改訂第 2 版)、ふくろう出版。					
20.参考文献	齋藤富雄他編著；映画に学ぶ危機管理、晃洋書房。					
21.成績評価	中間レポート 50%と最終レポート 50%の比率で成績を評価する。(1) 講義で紹介されたことが理解できているか、(2) 学んだことを日々の、また今後の生活でどう生かしていくか、がレポート中に書かれているかを中心に評価する。					
22.コメント	理料的な内容の講義であるが、できるだけ数式を用いず平易や言葉を使用して説明するので、「理科が苦手」といった思い込みや先入観を持たずに講義にのぞんでほしい。 なお、生成 AI を利用して情報を入手することは認めるが、得た情報をそのまま使用して（いわゆる、コピー＆ペーストして）レポートを作成することは一切認めない。もし、そのような行為が認められた場合にはすべて零点となる、または疑わしい場合にも減点されるので注意してください。					
23.オフィスアワー	毎回の講義終了後、およびメールを通して質問等の対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	第1回：自然と災害：イントロダクション 本講義の目標：なぜ、地球や地球で起こる自然現象を理解する必要があるのか、を災害から身を守る方策（防災・減災）として説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第2回：宇宙・太陽系・地球 宇宙、太陽系と地球に関する基本的なこと；年齢、大きさ、密度や生命が存在できる理由などを理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第3回：年代決定法 地球の年令が決められた歴史と年代を決める方法（年代決定法）について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第4回：プレートテクトニクス（1） 地球で起こる現象の原因、プレートテクトニクスについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第5回：プレートテクトニクス（2） プレートテクトニクスに基づいて地震や火山噴火が起こる原因と、日本がそういった自然現象の多いである理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第6回：六甲山のおいたちと地震 六甲山の形成と1995年に起こった阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）のとの関連について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第7回：東日本大震災と南海トラフ巨大地震 2011年に起こった東日本大震災について説明し、近い将来に起こる可能性の高い南海トラフ巨大地震について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第8回：火山の災害と恩恵 火山噴火に伴う災害と火山や火山噴出物がもたらす恩恵について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第9回：生命を守る地球磁場とオーロラ 生命の生存を守ってくれている地球磁場について、さらに地球磁場に関連して起こるオーロラについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第10回：生物が語る地球の歴史と環境 生物の行動や生物化石の特徴から読み解ける地球の歴史と環境変化について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を

		講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 11 回：降雨メカニズム：台風と豪雨災害 雨が降る理由を理解し、台風や豪雨災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 12 回：六甲山と水害（阪神大水害） 神戸という町が水害（例えば、阪神大水害）の多い町であること、一方そのおかげで港町として発達してきた歴史や理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 13 回：地球温暖化 近年盛んに言われている「地球温暖化」について説明します。また、その原因や逆の「寒冷化」に関する説明も行います。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 14 回：環境変化と資源 地球の歴史、環境の変化、そして地球で得られる資源について説明します。その中で、地球という天体のすばらしさについて理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 15 回：放射線と原子力発電 まず、放射線そのもののについて説明します。さらに、2011 年の東日本大震災で事故を起こした福島第 1 原子力発電所と放射線災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM103-Y51	2.科目名	自然と災害 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	森永速男					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球で起こる自然現象の中には生物や人類に恩恵をもたらすものもあれば、突発的で破壊的な災害をもたらすものもある。恩恵と災害をもたらす自然現象の様相やそのメカニズムを理解することは、この天体で持続的に生きていくうえで極めて重要である。この授業の目的は、自然現象からの恩恵について理解し、それらをより正しく享受するためにどうあるべきかを考察し、また災害について正しく理解し、どうすれば災害による被害を低減できるかを考える。さらに、災害による、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災前、そして直後から中長期までの影響を多角的に捉え、安全を確立するための知恵と苦難を克服し生きる力を持つ人になることを目指す。 授業の概要は以下の通りである。地球そのものとそこで起こる自然現象とそのメカニズム、種々の恩恵と災害の知識について学び、実際に身の回りでどのようなことが起こりうるのかシミュレーションすることで、生きる力を身に着ける。また、防災、減災について学び、人間力と自助力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 ① 地球という生命のいる天体について理解する ② 地球で起こる自然現象のメカニズムについて理解する ③ 自然現象による恩恵と災害の多様性について理解する ④ 恩恵と災害がもたらす影響について多角的に理解し、対応できる ⑤ 自然災害による被災者・被害者への適切な支援ができる ⑥ 自然災害から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑦ 防災、減災の知識を持ち、人に説明できる					
19.教科書・教材	森永速男、片尾浩、山本鋼志著；災害多発時代の今だからこそ地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム - （増補改訂第 2 版）、ふくろう出版。					
20.参考文献	齋藤富雄他編著；映画に学ぶ危機管理、晃洋書房。					
21.成績評価	中間レポート 50％と最終レポート 50％の比率で成績を評価する。(1) 講義で紹介されたことが理解できているか、(2) 学んだことを日々の、また今後の生活でどう生かしていくか、がレポート中に書かれているかを中心に評価する。					
22.コメント	理料的な内容の講義であるが、できるだけ数式を用いず平易や言葉を使用して説明するので、「理科が苦手」といった思い込みや先入観を持たずに講義にのぞんでほしい。 なお、生成 AI を利用して情報を入手することは認めるが、得た情報をそのまま使用して（いわゆる、コピー＆ペーストして）レポートを作成することは一切認めない。もし、そのような行為が認められた場合にはすべて零点となる、または疑わしい場合にも減点されるので注意してください。					
23.オフィスアワー	毎回の講義終了後、およびメールを通して質問等の対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	第1回：自然と災害：イントロダクション 本講義の目標：なぜ、地球や地球で起こる自然現象を理解する必要があるのか、を災害から身を守る方策（防災・減災）として説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第2回：宇宙・太陽系・地球 宇宙、太陽系と地球に関する基本的なこと；年齢、大きさ、密度や生命が存在できる理由などを理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第3回：年代決定法 地球の年令が決められた歴史と年代を決める方法（年代決定法）について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第4回：プレートテクトニクス（1） 地球で起こる現象の原因、プレートテクトニクスについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第5回：プレートテクトニクス（2） プレートテクトニクスに基づいて地震や火山噴火が起こる原因と、日本がそういった自然現象の多いである理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第6回：六甲山のおいたちと地震 六甲山の形成と1995年に起こった阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）のとの関連について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第7回：東日本大震災と南海トラフ巨大地震 2011年に起こった東日本大震災について説明し、近い将来に起こる可能性の高い南海トラフ巨大地震について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第8回：火山の災害と恩恵 火山噴火に伴う災害と火山や火山噴出物がもたらす恩恵について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第9回：生命を守る地球磁場とオーロラ 生命の生存を守ってくれている地球磁場について、さらに地球磁場に関連して起こるオーロラについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第10回：生物が語る地球の歴史と環境 生物の行動や生物化石の特徴から読み解ける地球の歴史と環境変化について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を

		講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 11 回：降雨メカニズム：台風と豪雨災害 雨が降る理由を理解し、台風や豪雨災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかりと対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 12 回：六甲山と水害（阪神大水害） 神戸という町が水害（例えば、阪神大水害）の多い町であること、一方そのおかげで港町として発達してきた歴史や理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかりと対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 13 回：地球温暖化 近年盛んに言われている「地球温暖化」について説明します。また、その原因や逆の「寒冷化」に関する説明も行います。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかりと対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 14 回：環境変化と資源 地球の歴史、環境の変化、そして地球で得られる資源について説明します。その中で、地球という天体のすばらしさについて理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかりと対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 15 回：放射線と原子力発電 まず、放射線そのもののについて説明します。さらに、2011 年の東日本大震災で事故を起こした福島第 1 原子力発電所と放射線災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかりと対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM202-Y51	2.科目名	危機管理論 【心理】	3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学科（対面授業を原則とする）			9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：将来企業人等として活動する際のリスクマネジメントを習得します。さらに日常生活に近接している消費者犯罪を捉え、消費者としての安全の確保策を学び、安全安心な学生生活、社会生活を送ることが出来る知識（セーフティーマネジメント力）の習得を目的としています。 概要：危機管理に関する歴史、現状、理論、学生それぞれが一消費者として陥りやすい消費者犯罪についてその手口、被害防止策を学びます。				
18.学習目標と DPとの関連	DP の(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①危機管理が社会の中で問題となっている論点をのべることができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。				
20.参考文献	前田雅英編集「現代危機管理論―現代の危機の諸相と対策」立花書房(2017) 授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	・ 第 8 回講義終了後レポート「企業の危機に際する原因と対策」の提出 40% 学習目標①、②に対応 ・ 総括効果測定 「悪質商法等に対する消費者の被害防止対策に関するレポート」 60% 学習目標③に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提になるとなるので注意すること				
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但し、レポート作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。 ・ レポート作成に当たっては ①書籍、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること・レポート作成に当たって ①専門書、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

第 1 回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する説明	ノートパソコン等を持参して下さい。
第 2 回	・危機管理の定義、歴史 国家、企業、個人レベルの危機管理とその要素、危機管理の歴史	予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 3 回	・テロリズム 日本におけるテロリズム、国際テロリズム	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 4 回	・テロ対策 テロ対策と歴史 防犯カメラの技術	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 5 回	・捜査 テロ防止のための捜査方法	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 6 回	・企業の危機管理 対策 初動対応等	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 7 回	・危機管理（対策） 情報収集と分析	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 8 回	自然災害 警察官から見た阪神淡路大震災 有事対応各種施策の取組み（実例）	復習：前回授業の振り返り、質問 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 9 回	・企業犯罪（過失犯）交通事故 業務上過失致死、列車・航空機事故等 自動車運転処罰法（過失と故意） 危険運転	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 10 回	・企業犯罪（横領等刑事法、消費者保護関連法） 定義、類型、実例等	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 11 回	・消費者の安全（悪質商法、詐欺商法） 悪質商法の手口、特定商取引法、刑法（詐欺）	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 12 回	・消費者の安全（消費者対策） 消費者団体等における被害防止対策	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。

		ン等を持参して下さい。
第 13 回	・ 消費者の安全（偽ブランド） 海賊版 商法、著作権法等	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 14 回	・ 消費者の安全（金融事犯） ヤミ金 出資法、貸金業法、銀行法	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	・ 統括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM202-Y52	2.科目名	危機管理論 【観光】	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件	観光学概論、経営学概論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 リスクには様々なものがありますが、この科目では純粹リスクを扱います。特に、経営上のリスクに焦点を当て、観光業における個別事象のリスク管理から事業経営継続におけるリスクマネジメントまで必要となる基本的な知識とスキルを修得することを目的とします。 【概要】 まず、基本的な考え方や理論を講義に基づき習得した後、具体的な事例を通じて、より実践的な知識、手法などのポイントを学び、知識の定着を図ることとします。また、災害等の不測の事態に備えるためのリスク管理だけでなく、組織的な原因などについても学習することで、観光産業にとどまらずあらゆる分野の経営において活用できるリスクマネジメントの修得を目指します。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(1)自律性】 【(4)問題発見・解決力】 【(6)専門的知識・技能の活用】 に関連しています。 本科目の学習目標は、以下のとおりです。 ①観光産業を例に企業の抱えるリスクの抽出と評価を行うことができる。 ②観光産業を例に企業の抱えるリスクについて具体的な対策を提案することができる。 ③リスク対策として事前に考え、備えるべき事項およびその前提となる組織風土について理解し、説明できる。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献					
21.成績評価	①授業理解度・・・40点 （講義の要点を的確に掴んで、その理解した内容を記述する。また自発的にケーススタディに取り組む）※学習目標①、②、③に対応 ②グループワーク・・・20点 （ケーススタディにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。ルーブリック-チームワークを評価基準とする。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・40点 ※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント	コロナなどリスクによる影響を実感している学生も多いと思います。この講義では、リスクマネジメントの基本的なプロセスを理解するためにケーススタディなどを活用していきます。エアラインの安全管理部門において、ヒューマンエラーによる事故防止に取り組んだ経験を活かし、履修する学生には、単なるリスクマネジメントだけではなく、会社の組織風土にまで踏み込んでリスクへの備えを考えてもらいたいと考えています。 生成 AI 利用：一切認めない。				
23.オフィスアワー	火曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義：オリエンテーション		復習：今回の復習及び授業ノートの整理		

	担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。	予習：次回の予習
【第2回】	講義：危機に対する意識 日本人における危機意識とその原因について考察する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義：リスクとは何か、リスクの種類 リスクの概念と様々なリスクについて確認する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義：リスクマネジメントとリスクアセスメント リスクの管理と評価について確認する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第5回	ケーススタディ① 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※個人ワークおよびグループワーク	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの読み込み
第6回	ケーススタディ② 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※グループ発表と解説	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第7回】	講義：リスク戦略 リスクへの処理手段としてのリスクコントロールおよびリスクファイナンスについて確認する。 確認テスト①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習及び確認テストに備えここまでの振り返り
【第8回】	講義：リスク戦略：リスクの低減・リスク処理について リスクをどこまで管理するのか、どの様な対策が有効であるのかを考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	ケーススタディ③： 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※グループワーク・発表・解説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第10回】	リスク管理計画・リスク対応の組織： リスク管理を組織的に行うための体制について考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの読み込み
【第11回】	ケーススタディ④ 危機管理組織に関するケーススタディに取り組む。※個人ワークおよびグループワーク	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第12回】	ケーススタディ⑤ 危機管理組織に関するケーススタディに取り組む。※発表と解説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義：リスク管理と組織に関する研究 リスクの少ない組織とはどのような組織かを考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第14回】	講義：マスコミ対策・レピュテーションリスク 危機そのものから波及するリスクについて考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第15回】	全体の振り返りと確認テスト②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

		予習：確認テストに備えここまでの振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	RSM205-Y51	2.科目名	リスク心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 リスク心理学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】 リスクとは、望ましくない結果が生じる確率とその大きさである。 社会に存在する様々なリスクを取り上げ、その認知過程を理解し、リスクへの対処方法を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)リスクについての認知過程を説明できる。 (2)様々なリスクに対処する方法について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (2)社会的貢献性 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	広田 すみれ・増田 真也・坂上 貴之 (2018), 心理学が描くリスクの世界——行動的意思決定入門—— 慶應義塾大学出版会					
21.成績評価	(1)平常評価 50% (出席、授業態度、小課題を総合的に評価) (2)期末レポート 50%					
22.コメント	知覚・認知心理学を履修しておく、と、授業内容を理解しやすくなります。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第2回】	リスクと意思決定 (1)			授業内容の復習		
【第3回】	リスクと意思決定 (2)			授業内容の復習		
【第4回】	リスクと他者 (1)			授業内容の復習		
【第5回】	リスクと他者 (2)			授業内容の復習		
【第6回】	リスクと集団 (1)			授業内容の復習		
【第7回】	リスクと集団 (2)			授業内容の復習		
【第8回】	リスクと思考 (1)			授業内容の復習		
【第9回】	リスクと思考 (2)			授業内容の復習		
【第10回】	リスクと行動 (1)			授業内容の復習		
【第11回】	リスクと行動 (2)			授業内容の復習		
【第12回】	リスクと健康 (1)			授業内容の復習		
【第13回】	リスクと健康 (2)			授業内容の復習		
【第14回】	リスクと文化			授業内容の復習		

【第 15 回】	総括	期末レポートの作成

1.授業コード (ナンバリング)	RSM302-m51	2.科目名	防災・復興組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生、村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	人間学Ⅱ、防災入門の単位取得が望ましい	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、フィールドワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害は、被災地の将来にとって、より強靱でしなやかな地域に再生していく一つの機会となる。このことから、阪神・淡路大震災で目指した創造的復興や、東日本大震災の復興を進めている日本の復興体制、さらに国際的にハイライトされたよりよい復興（Build Back Better）のコンセプトについて学び、グローバルな視点で復興のあるべき姿について学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	阪神淡路・大震災の復興に際して掲げた「創造的復興」がどのようにして作られ達成されたか、その理念、計画、手法、実績などを学び、世界的な先進事例とされている、身近に起きた大災害の復興の姿を習得する。 さらに、東日本大震災、海外の大災害復興事例などとの比較検証を行い、国際的にハイライトされたよりよい復興（Build Back Better）の理念など、グローバルな視点で復興のあるべき姿をイメージできる能力を養う。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	防災・復興法制～東日本大震災を踏まえた災害予防・応急・復旧・復興制度の解説～ 佐々木 晶二 著 （第一法規） 伝える 改訂版 1.17 は忘れない 阪神・淡路大震災復興フォローアップ委員会（監修）（ぎょうせい） (https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/tsutaeru-kyoukun.html)					
21.成績評価	各回提出物：50％ 総括レポート：50％					
22.コメント	セーフティマネジメント関係科目の最終開講科目です。 災害被災地が、将来同様の災害被害を出さないための、最重要テーマでもあるので、防災士取得者は特に受講を勧めます。 生成 AI 利用に関してはいかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10/6	復興基本法： 東日本大震災を契機に制定された、日本の災害復興の指針となる復興基本法制定の経緯、基本的考え方、具体的内容について学ぶ			各回の講師指定のリフレクション課題レポートの提出 (各回共通<別途指示がある場合を除く>)		
第 2 回 10/13	阪神・淡路大震災の検証： 阪神・淡路大震災の検証 大震災直後から検討が開始され、10 年計画で策定、実施された兵庫フェニックス計画について、意図、実績、成果の国際発信などについて学ぶ					
第 3 回 10/20	インフラ復興： 阪神・淡路大震災復興で最優先で取り組まれたインフラの復興（電気、通信、ガス、上下水道、道路、都市施設など）について学ぶ					

第 4 回 10/27	産業復興： 阪神・淡路大震災復興で被災地経済の復興に不可欠な産業の復興のあり方、実績などについて学ぶ	
第 5 回 11/3	高齢者・障害者・女性等が参画する復興： 災害時要配慮者となる、高齢者、障害者、女性などの視点に立った、復興計画の策定、災害時の避難支援策などについて学ぶ	
第 6 回 11/10	すまいの復興<地震保険を含む>： 被災者の復興で、最も重視される住宅復興について、阪神・淡路大震災の住宅復興をベースに、その後の大災害の復興において阪神・淡路の教訓がどのように活かされたかについて学ぶ	
第 7 回 11/17	復興まちづくり： 復興計画の要となる、復興都市計画について、その基本的考え方や手法について、阪神・淡路大震災やその他の都市復興事例から、ハードのみならず、住民参加のまちづくりなどを学ぶ	
第 8 回 11/24	生活復興：阪神・淡路大震災をはじめあらゆる災害に際して市民生活に密着する生活の復興について、様々な面から、教訓、今後の災害に向けた課題などを学ぶ	
第 9 回 12/1	復興における住民の参画と協働： 復興計画策定に際しての、住民参加と連携・協働について、阪神・淡路大震災当時と、その後の変遷などについて学ぶ	
第 10 回 12/8	教育復興： 災害で被害を受けた教育現場の復興には、校舎や教室などのハードの復興に併せて、防災教育やこころのケアを含めた教育システム全体の復興が必用となること、その具体例などについて学ぶ	
第 11・12 回 12/13（土）	<学外活動 土曜日 9:30～12:30: 訪問日は授業の中で調整します> 阪神・淡路大震災の経験と教訓を保存し、あらたな知見を加えながら次世代に伝え続けている「人と防災未来センター」、を訪問し、阪神・淡路大震災からの復興の取組などについて学ぶ	
第 13 回 1/19	国際的なよりよい復興への支援： 兵庫防災枠組がきっかけとなり設立された国際復興支援プラットフォーム（IRP）の活動内容、仙台防災枠組でもハイライトされたよりよい復興「Build Back Better」に向けた国際的な協力体制、具体的な復興ノウハウの普及啓発など、実際の災害復興事例について学ぶ	
第 14 回 1/26	創造的復興<複合災害への備え、Build Back Better>： 阪神・淡路大震災で兵庫県が目指した「創造的復興」の理念、その成果が色濃く反映された国連の「仙台防災枠組(2015-2030)」の考え方、展望について学ぶ	
第 15 回	復興総論：大災害多発時代、被災地の「よりよい復	

1/27	興」を通じて、次の災害にいかに備えるかについて総括する（レポート作成）	
12/15 と 12/22 の授業 は 12/13 の学 外授業により 休講します。		

1.授業コード (ナンバリング)	RSM302-y51	2.科目名	防災・復興組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦、川脇康生					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	人間学Ⅱ、防災入門の単位取得が望ましい	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、フィールドワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害は、被災地の将来にとって、より強靱でしなやかな地域に再生していく一つの機会となる。このことから、阪神・淡路大震災で目指した創造的復興や、東日本大震災の復興を進めている日本の復興体制、さらに国際的にハイライトされたよりよい復興（Build Back Better）のコンセプトについて学び、グローバルな視点で復興のあるべき姿について学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	阪神淡路・大震災の復興に際して掲げた「創造的復興」がどのようにして作られ達成されたか、その理念、計画、手法、実績などを学び、世界的な先進事例とされている、身近に起きた大災害の復興の姿を習得する。 さらに、東日本大震災、海外の大災害復興事例などとの比較検証を行い、国際的にハイライトされたよりよい復興（Build Back Better）の理念など、グローバルな視点で復興のあるべき姿をイメージできる能力を養う。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	防災・復興法制～東日本大震災を踏まえた災害予防・応急・復旧・復興制度の解説～ 佐々木 晶二 著 （第一法規） 伝える 改訂版 1.17 は忘れない 阪神・淡路大震災復興フォローアップ委員会（監修）（ぎょうせい） (https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk41/tsutaeru-kyoukun.html)					
21.成績評価	各回提出物：50％ 総括レポート：50％					
22.コメント	セーフティマネジメント関係科目の最終開講科目です。 災害被災地が、将来同様の災害被害を出さないための、最重要テーマでもあるので、防災士取得者は特に受講を勧めます。 生成 AI 利用に関してはいかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10/6	復興基本法： 東日本大震災を契機に制定された、日本の災害復興の指針となる復興基本法制定の経緯、基本的考え方、具体的内容について学ぶ			各回の講師指定のリフレクション課題レポートの提出 (各回共通<別途指示がある場合を除く>)		
第 2 回 10/13	阪神・淡路大震災の検証： 阪神・淡路大震災の検証 大震災直後から検討が開始され、10 年計画で策定、実施された兵庫フェニックス計画について、意図、実績、成果の国際発信などについて学ぶ					
第 3 回 10/20	インフラ復興： 阪神・淡路大震災復興で最優先で取り組まれたインフラの復興（電気、通信、ガス、上下水道、道路、都市施設など）について学ぶ					

第 4 回 10/27	産業復興： 阪神・淡路大震災復興で被災地経済の復興に不可欠な産業の復興のあり方、実績などについて学ぶ	
第 5 回 11/3	高齢者・障害者・女性等が参画する復興： 災害時要配慮者となる、高齢者、障害者、女性などの視点に立った、復興計画の策定、災害時の避難支援策などについて学ぶ	
第 6 回 11/10	すまいの復興<地震保険を含む>： 被災者の復興で、最も重視される住宅復興について、阪神・淡路大震災の住宅復興をベースに、その後の大災害の復興において阪神・淡路の教訓がどのように活かされたかについて学ぶ	
第 7 回 11/17	復興まちづくり： 復興計画の要となる、復興都市計画について、その基本的考え方や手法について、阪神・淡路大震災やその他の都市復興事例から、ハードのみならず、住民参加のまちづくりなどを学ぶ	
第 8 回 11/24	生活復興：阪神・淡路大震災をはじめあらゆる災害に際して市民生活に密着する生活の復興について、様々な面から、教訓、今後の災害に向けた課題などを学ぶ	
第 9 回 12/1	復興における住民の参画と協働： 復興計画策定に際しての、住民参加と連携・協働について、阪神・淡路大震災当時と、その後の変遷などについて学ぶ	
第 10 回 12/8	教育復興： 災害で被害を受けた教育現場の復興には、校舎や教室などのハードの復興に併せて、防災教育やこころのケアを含めた教育システム全体の復興が必用となること、その具体例などについて学ぶ	
第 11・12 回 12/13（土）	<学外活動 土曜日 9:30～12:30: 訪問日は授業の中で調整します> 阪神・淡路大震災の経験と教訓を保存し、あらたな知見を加えながら次世代に伝え続けている「人と防災未来センター」、を訪問し、阪神・淡路大震災からの復興の取組などについて学ぶ	
第 13 回 1/19	国際的なよりよい復興への支援： 兵庫防災枠組がきっかけとなり設立された国際復興支援プラットフォーム（IRP）の活動内容、仙台防災枠組でもハイライトされたよりよい復興「Build Back Better」に向けた国際的な協力体制、具体的な復興ノウハウの普及啓発など、実際の災害復興事例について学ぶ	
第 14 回 1/26	創造的復興<複合災害への備え、Build Back Better>： 阪神・淡路大震災で兵庫県が目指した「創造的復興」の理念、その成果が色濃く反映された国連の「仙台防災枠組(2015-2030)」の考え方、展望について学ぶ	
第 15 回	復興総論：大災害多発時代、被災地の「よりよい復	

1/27	興」を通じて、次の災害にいかに備えるかについて総括する（レポート作成）	
12/15 と 12/22 の授業 は 12/13 の学 外授業により 休講します。		

1.授業コード (ナンバリング)	RSM303-M51	2.科目名	危機管理・防災演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子					
5.授業科目の区分	展開科目 (防災・危機マネジメント専攻コア科目)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部、人間科学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「危機管理入門」「セーフティマネジメント論」「危機管理リーダーシップ論」の単位取得が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	危機管理や災害対策現場で具体的に求められるスキルを身につけることを目的とする。特に危機においては情報収集と発信が、防災においてはマニュアル等のルール整備と訓練の実施は、重要な役割を果たす。そのため、取り扱いに必要な専門的な知識取得のための講義と、実際に役立つ演習を組み合わせた授業を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①危機における情報収集の目的と方法について説明できる ②危機における情報発信の目的と方法について説明できる ③危機対応や防災を目的とした組織行動を理解し共同できる ④危機管理マニュアルの目的の説明と作成ができる ⑤防災訓練の企画立案・実施評価ができる					
19.教科書・教材	授業資料を web クラスで毎回データ配布します。また、ワークに必要な様式等は随時配布します。					
20.参考文献	◇『会社を守る「防災マニュアル」のつくり方』山根 義信 マネジメント社 2011 年 ◇『タイムライン 日本の防災対策が変わる』松尾一郎 廣済堂出版 2016 年 ◇『想定外に備える 企業災害対策マニュアル』キャスリン・マッキー 翔泳社 2011 年 ◇『フリーGIS ソフト MANDARA10 入門』谷謙二 古今書院 2018 年 ◇『スラスラわかる HTML & CSS のきほん 第 2 版』狩野祐東 SB クリエイティブ 2018 年					
21.成績評価	各回提出物：30% グループワークへの貢献：20% 成果物発表：50%					
22.コメント	「セーフティマネジメント論」「危機管理入門」等において、防災・危機への組織的対応の基礎的内容を理解している必要がある。 これまでに学んだ知識を実際に活用し身につける展開科目である。 グループごとに目標を定め、実施し、相互評価を行います。積極的な参画によって、組織に貢献できる危機管理・防災力の向上を実感しよう。					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み 研究室（4 号館 5 階）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (10/2)	＜オリエンテーション＞ この授業で身につける具体的な能力について考え、その手法を理解する。 グループ分けを行います。			☆講師指定のリフレクション課題の提出 (WebClass 使用：第 1 回から 14 回まで各回共通)		

第 2 回 (10/9)	危機管理上の情報の取り扱いについて学ぶ① 情報収集の手法	
第 3 回 (10/16)	危機管理上の情報の取り扱いについて学ぶ② 情報発信の手法-1	
第 4 回 (10/23)	危機管理上の情報の取り扱いについて学ぶ③ 情報発信の手法-2	
第 5 回 (10/30)	情報の種類と効果について学ぶ 動画、写真、テキスト、それぞれの特徴について理解し、使い分ける。	
第 6 回 (11/6)	危機管理・防災に関する企画① グループにおける活動を企画する。 例 ・大学周辺の防災情報の WEB サイトを作成する ・災害時の帰宅ルートマップを作成する ・学生寮等の防災マニュアルを作成する ・学生寮等の防災訓練を実施する ・災害時の安否確認方法に関するマニュアルを作成する など	
第 7 回 (11/13)	危機管理・防災に関する企画② グループにおける活動を企画を発表し、フィードバックを受ける。	
第 8 回 (11/20)	危機管理・防災に関する企画③ グループにおける活動の準備を行う。	
第 9 回 (11/27)	危機管理・防災活動の実施① グループにおいて、活動を実施する。	
第 10 回 (12/4)	危機管理・防災活動の実施② グループにおいて、活動を実施する。	
第 11 回 (12/11)	危機管理・防災活動の実施③ グループにおいて、活動を実施する。	
第 12 回 (12/18)	活動の中間発表と相互評価 活動の記録を簡単にまとめ中間発表し、グループ間で質疑を行う。	
第 13 回 (1/8)	危機管理・防災活動の実施④ 関係先の評価を受け、改善点をまとめる。	
第 14 回 (1/15)	危機管理・防災活動の実施⑤ 活動成果のまとめと最終発表の準備を行う。	
第 15 回 (1/22)	最終発表と相互評価 成果物を発表し、今後の改善策について提案する。(35 点) 他グループの発表内容を評価する。(15 点)	web クラスを使用するため、ノート PC を持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM308-Y51	2.科目名	サイバーセキュリティ論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学科（対面授業を原則とする）			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	サイバーセキュリティ論Ⅰを履修した学生を前提としています。 サイバーセキュリティ論Ⅰ未履修者については、Ⅰの WebClass 掲載の資料にアクセスできる よう設定します。 Ⅱにおいては、サイバー犯罪の捜査、企業のサイバーセキュリティ対策について学びます。 講義への出席が原則です。					
17.授業の目的と概要	目的：情集収集、分析力を身に付け、データに基づく論理的思考力を養うことを目標としま す。 日々変化するサイバー犯罪への予防方策、実際の犯罪現場での捜査方法を学ぶことにより、現 代社会において必要とされるサイバーセキュリティに関する知識・サイバーリスクマネジメン ト力を養成することを目的としています。 概要：実際のサイバー犯罪捜査の方法等を学ぶとともに、企業の対策や取組、制度を学び社会 生活に求められるサイバーセキュリティの知識を習得しサイバーセキュリティ意識の向上を目 指します。					
18.学習目標と D P との関連	D P の(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①サイバー犯罪等が社会の中で問題となっている論点を述べることができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。					
20.参考文献	青林出版 概説サイバー犯罪 法令解説と捜査・公判の実際 日科学技連 基礎から学ぶデジタル・フォレンジック 授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	・第 8 回講義終了後レポート「サイバー犯罪の特徴、捜査方法について」の提出 40％ 学習目標③に対応 ・総括効果測定 「企業のサイバーセキュリティ対策に関するレポート」 60％ 学習目標①、②に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提となるので注意する こと					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但 し、レポート作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。 ・レポート作成に当たっては ①書籍、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第1回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する説明	ノートパソコン等を持参して下さい。
第2回	サイバー犯罪の予防 各種施策	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第3回	サイバー犯罪の捜査 特徴、捜査方法	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第4回	サイバー犯罪の捜査 捜査方法	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第5回	サイバー犯罪の捜査 捜査方法	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第6回	サイバー犯罪の捜査 遠隔操作、搜索差押	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第7回	サイバー犯罪の捜査 解析実務	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第8回	企業におけるサイバーセキュリティ 手口	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第9回	企業におけるサイバーセキュリティ 企業における対策、問題点	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第10回	企業におけるサイバーセキュリティ 調査委員会	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第11回	企業におけるサイバーセキュリティ サイバーセキュリティ戦略	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第12回	企業におけるサイバーリスク セキュリティガバナンス	予習：WebClassで資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。

第 13 回	企業におけるサイバーリスク インシデント対応	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 14 回	デジタルフォレンジック 実例等	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	総括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	SE2306-Y51	2.科目名	イノベーション論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	専攻共通			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブラーニング導入科目（ディスカッション、ブレスト、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】Innovation という言葉は、J.A.シュンペーターが著書「経済発展の理論」の中で提唱した経済発展論の中心的な概念で、直訳すると「革新」や「刷新」という意味を持ちます。労働、土地などの生産要素の組合せを変化させたり、新たな生産要素を導入したりする企業家の行為を指します。生産技術の変化だけでなく、新市場や新製品の開発、新資源の獲得、生産組織の改革あるいは新制度の導入なども含まれるとされています。シュンペーターはイノベーションにより投資需要や消費需要が刺激され、経済の新たな好況局面が作りだされ、経済発展の最も主導的な要因であるとしています。一方で既存産業に壊滅的な影響を与え、市場構造を一変させる場合もあります。 現在では、国際的な経済構造や私たちの社会生活、社会構造にまで大きな影響を与えるものとして認識され、ウイズコロナ、国際関係の緊張・混乱、更に進むグローバリゼーション、それらにともなう価値観の変化など観光産業界をとりまく環境が大きく変動する中、イノベーションを担う人材が求められています。 本講義では、イノベーションが生まれる背景要因、構成要素、プロセス、イノベーションがもたらす影響を理解し、さらにイノベーションを起こすための考え方やマネジメントのあり方、イノベーションの阻害要因について考察し、イノベーションを生むためのアプローチとマネジメントに関する知識とスキル、そしてマインドセットを身につけることをめざします。 【概要】授業では、講義に加え、個人ワークとグループ・ディスカッションを組み合わせ繰り返し行い、段階的に理解を深め、スキルを身につけ、革新的なアイデアのプレゼンテーションの実践を目指します。このため、主体的な事前学習により自分の考えを明確化し、それをベースに建設的な議論に積極的に参加することが求められます。					
18.学習目標と D P との関連	本講義の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力に対応しています。 本講義の学習目標は、次の通りです。 ①イノベーションの目的、必要性、プロセス、影響、阻害要因等を理解し説明することができる。 ②イノベーション・ファクターを発見する多角的な視点を獲得する。 ③イノベーション創出のためのアプローチを理解し、実践できること。 ④イノベーション創出のための環境を整えるマネジメントについて理解し、説明できること。 ⑤他者貢献のマインドセットによりチームビルディング、ディスカッションに寄与することができる。					
19.教科書・教材	資料は WebClass で配布					

20.参考文献	適宜、紹介します	
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 26 点（各回 2 点×11 回、15 回目のみ 4 点） ?グループワークのプレゼンテーション 14 点 グループ得点（7 点満点）、グループ MVP（7 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。	
22.コメント	■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	学習目標、授業計画、評価方法、評価基準について説明します。 《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】イノベーションの意味 イノベーションの意味を概観します	【予習】イノベーションの意味について調べる 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの意味についてまとめる
第 2 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーター理論」 イノベーションの普及に関するイノベーター理論について考察します。 【グループワーク】調べて来たイノベーション事例をグループ内で発表し合い、イノベーションとして認識できる事例なのかどうかについてディスカッションを行い、結果を発表してもらいます。	【事前提出課題】イノベーションの事例を複数調べてまとめる 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 3 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションストーリーⅠ」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 4 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションストーリーⅡ」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる

第 5 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションヒストリーⅢ」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 6 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションのジレンマと破壊的イノベーション」 イノベーションによる市場、マネジメントへの影響とイノベーションをコントロールするためのマネジメントについて学びます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションのジレンマと破壊的イノベーションについてまとめる
第 7 回	《ブロック 2》イノベーションへのアプローチ 【講義】「イノベーション・アプローチの手法Ⅰ」 イノベーションを生み出すためのフレームワークやマネジメントの具体的手法について学びます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】習ったフレームワークについてまとめる
第 8 回	《ブロック 2》イノベーションへのアプローチ 【講義】「イノベーション・アプローチの手法Ⅱ」 イノベーションを生み出すためのフレームワークやマネジメントの具体的手法について学びます。	【予習】イノベーションにつながる新たな価値提案アイデアを複数考えてくる。(個人ワーク) 【授業のまとめシート】提出 【復習】習ったフレームワークについてまとめる
第 9 回	《ブロック 3》イノベーション・アイデア 【グループワーク】「イノベーション・アイデアのデザインⅠ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデア（第 8 回予習課題）を発表し合い、プレストを通じて、構成要素やアプローチ、効果、影響の視点から評価し合います。	【課題】 プレストの結果を基に一つのアイデアに絞り込みコンセプトシートを作成します。 【授業のまとめシート】不要 【復習】コンセプトシートを完成させる
第 10 回	《ブロック 3》イノベーション・アイデア 【グループワーク】「イノベーション・アイデアのデザインⅡ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデアのコンセプト・シート（予習課題）を発表し合い、プレストを通じてさらに議論を深めます	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク）
第 11 回	《ブロック 3》イノベーション・アイデア 【講義】イノベーション・アイデアのデザインⅢ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデアのコンセプトをプレゼンテーション資料にまとめる手法を学びます。	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】プレゼンテーションの見直し

第 12 回	《ブロック 4》イノベーションの阻害要因 【講義】「日本におけるイノベーションの現況と課題」日本におけるイノベーションの現況と課題について、海外との比較により考察します。 【グループディスカッション】日本におけるイノベーションの阻害要因とそれを乗り越える方法についてディスカッションを行います。	【予習】日本におけるイノベーションの状況を調べる 【授業のまとめシート】提出 【復習】日本におけるイノベーションの阻害要因についてまとめる
第 13 回	《ブロック 5》まとめ 【プレゼンテーション】イノベーション・アイデアを各自発表し、全員で評価を行います。	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを完成させてくる（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】プレゼンテーションの見直し
第 14 回	《ブロック 5》まとめ 【総括試験】まとめと統括試験を行います	【予習】総括試験に備えて、これまでの学習内容を復習 【授業のまとめシート】不要 【復習】試験での不明点の見直し
第 15 回	《ブロック 5》まとめ 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	【事前提出課題】講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 【授業のまとめシート】提出（5 倍加点） 【復習】皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	SED201-A51	2.科目名	障害者教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 特支 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	障害児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、特殊教育から特別支援教育への移行を学習していく。平成19年度から始まった特別支援教育は、これまでの「場の教育」から「機会の教育」へと内容が変化している。その基本的な理念と内容について学ぶことで、特別支援教育の今日的課題を考察していきたい。 それらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、障害のある子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。障害児（者）の問題は、人間発達の問題であり、全ての教育の基本になるものである。教職を目指すもの全てに必要な内容であり人としての人間観を育むことで、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）の獲得に関連しています。 ・教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の概念から、体系的な知識を使って理論的に説明することができる。 ・障がい者を取り巻く環境についての説明に必要な、教育や福祉の基本的な概念や理論について、理解し説明することができることを目標とする。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①特別支援教育の授業内容に関して、新たな興味や関心を持って調べることができる。 ②各障害への対応体系の全体像と特別支援教育の基本的知識を身につける。 ③社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心をもち、特に各障害について理解し、障がいの有無にかかわらず、相手の立場に立って考え行動する事ができる。 ④各障害における指導の基本的理解をする。 これらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、通常学級における要配慮児一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら発達障害の心理、生理及び指導法を理解し、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。					
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料等を配布する。					
20.参考文献	よくわかる特別支援教育 湯浅恭正編集 ミネルバ書房 特別支援教育総論 大南英明他 放送大学教育振興会					

21.成績評価	小テストと演習態度の合計 25% 学習目標②③④ 中間レポート課題 25% ① テーマ①②にそった内容理解と完成度および課題追求の意欲 グループワーク等の自主課題提出 10% ①③ まとめと最終テスト 40% ①②③④	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション（本授業のねらいと授業計画・特別支援教育とは） 授業シラバスの説明および、最初の導入としての特別支援教育、障害者理解の説明を行う。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を探し、目を通しておく。(120 分)
第 2 回	・特別支援教育の理念（特別支援教育の理念と意義について） 特別支援教育の理念と意義について文部科学省の指導要録等を参考に理解する。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を読み、歴史についての質問を考えておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 3 回	・特殊教育から特別支援教育へ（特殊教育の歴史と特別支援教育への移行） 特殊教育の歴史を知り、特別支援教育に移行した背景を理解する。	○次回の予習として、知的障害者に関する書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○次回までに 1～3 回の授業のまとめを行い、小テストに備える。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 4 回	・知的障害児の教育（知的障害の理解と指導について） 小テスト① 知的障害の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、肢体不自由児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 5 回	・肢体不自由児の教育（肢体不自由の理解と指導について） 肢体不自由児の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。 ・授業外活動に関しての課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、自閉症児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 6 回	・自閉症児の教育（自閉症の理解と指導について） 自閉症の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、発達障害についての書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 7 回	・発達障害児の教育（発達障害の理解と指導について）	○次回の予習として、聴覚障害についての文献を読み、コミュニケーション手段について

	自閉症以外の発達障害についての基礎的な理解と簡単に指導法について知る。	調べておく。(120 分) ○次回までに、4～7 回の授業のまとめを行い、小テストに備える。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 8 回	・聴覚障害児の教育 (聴覚障害の理解と指導について) 小テスト② 聴覚障害の基礎的な理解とコミュニケーション手段について学ぶ。	○次回の予習として、視覚障害のコミュニケーションについて調べておく。 (120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 9 回	・視覚障害児の教育 (視覚障害の理解と指導について) 視覚障害の基礎的な理解と点字等について学ぶ。点字理解のグループワーク。	○次回の予習として、病弱児についての文献を読み、わからないところをチェックしておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 10 回	・病虚弱児の教育 (病虚弱の理解と指導について) 病弱児の基礎的理解とホスピスについて学ぶ。	○次回のレポート提出に向けて、課題の整理とまとめを行う。(240 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 11 回	・就学前の療育と卒業後の暮らし (就学前の療育の理解と卒業後の進路生活について) 中間レポート提出 幼児期の療育と卒業後の実態を知る。 ・授業外活動に関する課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、特別支援学校の教育課程について文部科学省のHPを参考にしておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分) ○次回までに 8～9 回の授業のまとめを行い、小テストに備える。(120 分)
第 12 回	・特別支援教育の場と教育課程(特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の理解について) 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の実態を理解し、教育課程の違いを知る。	○次回の予習として、特別支援教育の体制づくりについて予習しておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 13 回	・特別支援教育と学校体制作り 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の確立及び センターの機能とその役割について学ぶ	○ボランティア、インターンシップ等のまとめをする。(120 分)
第 14 回	・個別の教育支援計画の理論 (個別の指導計画と支援計画の理解) 個別の指導計画と個別の教育支援計画の実態とアメリカとの比較をする。	○最終テストに向けて授業のまとめを行う。(240 分)
第 15 回	・まとめとテスト 授業のまとめと最終確認テストを行う。	

1.授業コード (ナンバリング)	SED202-A51	2.科目名	知的障害者の自立活動の理論と実際		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験がある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特別支援学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	知的障害のある幼児児童生徒が、自立と社会参加を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善しようとする力を身につけるための中心的な教育活動が「自立活動」である。この講義では、特別支援教育の中核的領域であるこの自立活動について、具体的な内容と方法を学ぶとともに、個別の指導計画の作成と活用について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (2) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。 (3) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。 具体的な目標は以下の通りである。 ・特別支援教育における自立活動の意義について説明することができる。 ・自立活動の6区分とその内容を説明することができる。 ・知的障害教育における自立活動の個別の指導計画略案を子どもを想定しながらたてることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。随時資料を配布する。					
20.参考文献	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」文部科学省					
21.成績評価	・アサインメントの提出・発表 30% ・個別の指導計画 20% ・確認テスト 50%					
22.コメント	自立活動は特別支援教育における中核的な領域です。この領域について学ぶことは、特別支援教育に関する指導力を高めることに繋がります。自立活動の意義と具体的な内容、方法をしっかり学んでください。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーションー講義の目標、予定、評価等 授業シラバスの説明および目標、評価と今後の予定について確認する。			特別支援教育総論の授業内容を復習しておく。240分		
第2回	自立活動 特別支援学校の教育課程の概要を理解し、自立活動の			○学習指導要領の自立活動の目標を調べてまとめる。240分		

	意義・目標を知る。	
第 3 回	「養護・訓練」から「自立活動」 「養護・訓練」の設置と改訂及び「自立活動」に至った経緯と背景、変遷を学ぶ。	○学習指導要領の自立活動への変遷について調べてまとめる。240 分
第 4 回	自立活動の改訂 自立活動の改訂の背景と具体的内容を学ぶ。	○近年の自立活動の改訂の背景を調べてまとめる。240 分
第 5 回	自立活動の内容①「健康の保持」 健康の保持の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「健康の保持」について調べる。 授業後に、グループワークで考えた目標と方法を各自まとめる。240 分
第 6 回	自立活動の内容②「心理的な安定」 心理的な安定の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「心理的な安定」について調べる。240 分
第 7 回	自立活動の内容③「人間関係の形成」 人間関係の形成の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「人間関係の形成」について調べてまとめる。240 分
第 8 回	自立活動の内容④「環境の把握」 環境の把握の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「環境の把握」について調べてまとめる。240 分
第 9 回	自立活動の内容⑤「身体の動き」 身体の動きの内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「身体の動き」について調べてまとめる。240 分
第 10 回	自立活動の内容⑥「コミュニケーション」 コミュニケーションの内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「コミュニケーション」について調べてまとめる。240 分
第 11 回	自立活動の内容の相互関連性 自立活動 6 区分の相互関連性について学ぶ。	○自立活動解説書の相互関連性について調べてまとめる。240 分
第 12 回	個別の指導計画の作成① 個別の指導計画と個別の教育支援計画について学ぶ。	○個別の教育支援計画について調べてまとめる。240 分
第 13 回	個別の指導計画の作成② 個別の指導計画を作成する。 (グループワークにより原案を作成する)	○個別の指導計画の具体例を特別支援学校のホームページから検索し参考資料をまとめる。240 分

第 1 4 回	個別の指導計画の作成③ 個別の指導計画を作成する。 (グループワークを行い原案 2 を作成する)	○作成した個別の指導計画を完成させ発表・提出する。240 分
第 1 5 回	講義のまとめと確認テスト	○これまでの講義内容を復習しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	SED203-A82	2.科目名	知的障害教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	特別支援		11.先修条件	特別支援教育基礎または障害児教育総論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習 一部オンデマンド		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：授業を通して、知的障害を中心とした特別支援教育の専門知識の習得を目指す。また、模擬授業形式の演習を行い実践力を高める。 概要：知的障害児の指導方法について学んだあと、個別自立活動、集団教科指導、集団合わせた指導それぞれの指導について、事例を学び、各自で授業計画を立て、実際に模擬授業を行う。これと並行して特別支援教育の基礎知識、教育課程や時事事項について解説する。対面授業やオンデマンド等自分にあった記憶の方略について考え、自分理解の機会とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の自律性、専門的知識・技能の活用力、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 学習目標 ・ 知的障害を中心とした特別支援教育の専門知識を習得する ・ 特別支援教育の授業の大切にすべき点を理解し、実際に行う事ができる ・ 個別の自立活動、集団での教科指導、集団の合わせた指導の授業を自分で計画し、実践することができる					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	各県市教員採用試験実施要項 各県市教員採用試験過去問					
21.成績評価	授業内発表 75% 最終テスト 25%					
22.コメント	授業を通して、知的障害を中心とした特別支援教育の専門知識の習得を目指します。また、模擬授業形式の演習を行い実践力を高めます。特別支援学校の教員採用試験を目指している人は必須内容。					
23.オフィスアワー	火曜昼休み（学修支援室） 水曜昼休み（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	講義の概要 特別支援教育基礎知識調査 知的障害の授業の展開について			PC を持参すること		
2 回目	授業計画の記入の仕方と事例検討			授業の中で指示		
3 回目	授業計画			授業の中で指示		
4 回目	特別支援教育の基礎			授業の中で指示		
5 回目	個別授業の実践演習Ⅰ			授業計画案を完成させておく		
6 回目	個別授業の実践演習Ⅱ			授業計画案を完成させておく		
7 回目	教科指導の授業計画			授業の中で指示		
8 回目	特別支援学校			授業の中で指示		
9 回目	教科指導の実践演習Ⅰ			授業計画案を完成させておく		
10 回目	教科指導の実践演習Ⅱ			授業計画案を完成させておく		
11 回目	合わせた指導の授業計画			授業の中で指示		
12 回目	時事事項			授業の中で指示		

13 回目	特別支援教育基礎知識確認	資料を基に知識学習をしておくこと
14 回目	合わせた指導の実践演習Ⅰ	授業計画案を完成させておく
15 回目	合わせた指導の実践演習Ⅱ	授業計画案を完成させておく

1.授業コード (ナンバリング)	SED205-A81	2.科目名	病弱教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【学修目標】 小児医療や社会の変化のなかで病弱児の生活の実際を学び理解する。 病弱児にとって学校教育の果たす役割、学校教育を受ける上で生じやすい問題を理解する。 特別支援学校学習指導要領に基づき、病弱教育の教育課程・教育内容・教育方法を理解する。 病弱教育の場とそれぞれの場で行われている実践を理解し、子どもとの関わり方を考えながら授業案、教材・教具を工夫することができる。 【本授業の概要】 特別支援教育のなかで病弱児・病弱教育の特徴を理解し、病気の子どもにとって教育の果たす役割を学ぶ。 現状を理解するために、明治期以降のわが国の病弱教育の歴史をふまえて今日の到達点と課題を学ぶ。 病弱児と家族のニーズを事例から学びながら、学校・教師としての役割について考えるとともに関係機関との連携、個別の教育支援計画について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）（4）問題発見・解決力の学修に関連しています。 ・教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①病弱虚弱児の教育について、特別支援教育や社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる。 ②病弱児教育に関して興味、関心を持って調べることができる。 ③病弱児・者を理解し、個のニーズにあった指導計画の概略を知る事ができる。 ④小児医療の変化のなかで病気の子どもの実態と、学校教育の果たす役割、実際の授業の進め方について理解し、授業の視点と方法を考えることができる。					
19.教科書・教材	特別支援学校学習指導要領 および総則編、自立活動編					
20.参考文献	全国病弱教育研究会「病気の子どもの教育入門」（クリエイツかもがわ） 猪狩恵美子ほか「仲間とともに育ちあう貝塚養護学校 寄宿舍のある病弱養護学校の実践記録」（クリエイツかもがわ）					
21.成績評価	授業のなかでの小レポート（30％）学習目標①②④ 授業中の発表・質問（20％）①②③ 最終試験（50％）①③④					
22.コメント	特別支援教育の基本となる考え方・しくみについて理解しておいてください。集中講義なので、3日間の予習・復習をしっかりとってください。					
23.オフィスアワー	集中講義期間の休み時間を活用してください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	小児医療の進歩と病弱教育	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 HP 「病気の児童生徒のための特別支援教育 病 気の子どもの理解のために」を事前に閲覧 し、要点をメモしておく
2	病弱教育の場と対象	兵庫県内の病弱教育の場について調べましょ う
3	病弱教育の歴史（戦前）	DVD を観て、戦前の病気の子どもの教育につ いて討議しましょう。
4	病弱教育の歴史（戦後）	文部科学省から出された通知をもとに、今日 の病弱教育の改善すべき課題を考えましょ う。
5	病弱教育の今日的課題	主な慢性疾患について症状、治療、生活上の 配慮、学校で気をつけることを調べてきまし ょう
6	主な慢性疾患とその治療の特徴	小児がんの子どもを守る会 HP を調べ、どのよ うな情報が発信されているか確認し、発表し ましょう
7	病気の子どもの心理特性と支援の視点	DVD を見て考えましょう。子どもの気持ち、 教師の関わり方について整理してつぎの時間 に発表してください
8	特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法	特別支援学校学習指導要領を見て、特別支援 学校（病弱）の教育の特徴、具体的な実践上 の配慮事項をまとめましょう
9	特別支援学校（病弱）で学ぶ子どものニーズ	DVD を見て、特別支援学校（病弱）の子ども のかかえる困難と支援のあり方を考えましょ う
10	入院中の子どもの教育－院内学級	DVD を見て、院内学級の教育の特徴を考えま しょう
11	入院中の子どもの教育－病院訪問教育	DVD を見て、子どもに関わる際の教師の姿 勢、配慮すべき点を考えましょう
12	通常学級における病気の子どもの学校生活	通常学級における教師の配慮について考えま しょう
13	病気による長期欠席の実態と求められる支援	論文を読み、不登校の場合とのちがいと共通 点を考えましょう
14	ターミナル期に求められる支援と教師の役割	実践例と論文から、ターミナル期の教育でど んなことを大切にしたらよいか考えましょう
15	まとめ	まとめの後、「15 メートルの通学路」を用いて 課題を出します（最終試験）

1.授業コード (ナンバリング)	SED206-A51	2.科目名	LD 等教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	免許必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：発達障害児の病理・生理・心理の特徴について理解し、具体的な指導方法を調べることを通して、個々の実態に応じた指導方法を考えることができるようにする。また、特性に応じた環境整備等の支援や他の機関との連携など、現場に必要な力を身につけることを目的とする。 概要：本授業は、学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等を中心とした発達障害の病理・生理や教育課程、教育の具体的な内容・方法について、体験や映像等を取り入れ具体的なイメージを持って理解できるようにする。また、自ら指導計画を作成し、実際に支援・指導を行うことで、自立に向けた指導のポイントをつかむとともに、授業改善の視点を身に着ける。特別支援学校だけでなく特別支援学級、通常学級に在籍している児童生徒を支援することも想定した内容も取り扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(3)多様性理解、(4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 1. 発達障害児の定義、病理・生理・心理の特徴について理解し、説明ができる。 2. 発達障害児の個別・集団における指導・支援方法を理解することができる。 3. 言語障害、情緒障害について、その概要を説明することができる。4. それぞれの実態に応じた個別の指導計画を作成、指導、評価・改善ができる。 5. 発達障害児に配慮した環境の整備、教科等の指導を含めた指導案を作成できる。					
19.教科書・教材	・障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	・文部科学省（2018）特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）、海文堂出版、484 円 関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 60% 小テスト 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜昼休み（学修支援室） 水曜昼休み（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	発達障害をとりまく状況の変化、校内支援体制を含む特別支援教育の動向			◆ノートパソコン◆ 授業用資料を提示 意見交流に使用します		
第 2 回	学習障害（LD） 心理・生理・病理・行動特性			◆ノートパソコン◆ 授業用資料を提示 意見交流に使用します 授業の最後に本時の振り返り、初めに前時の意見交流を行います		
第 3 回	学習障害（LD） に対する指導・支援			◆ノートパソコン◆		

		LDの指導の仕方について、各自が紹介できるように事前準備をする
第4回	注意欠如多動症（ADHD） 心理・生理・病理・行動特性	授業用資料を提示 意見交流に使用します 授業の最後に本時の振り返り、初めに前時の意見交流を行います
第5回	注意欠如多動症（ADHD） に対する指導・支援	◆ノートパソコン◆ ADHDの指導の仕方について、各自が紹介できるように事前準備をする
第6回	自閉症（ASD） 心理・生理・病理・行動特性	パソコン 授業用資料を提示 意見交流に使用します 授業の最後に本時の振り返り、初めに前時の意見交流を行います
第7回	自閉症（ASD） に対する指導・支援	◆ノートパソコン◆ ASDの指導の仕方について、各自が紹介できるように事前準備をする
第8回	通級による指導や特別支援学級における教育課程の編成と自立活動	パソコン 授業用資料を提示 意見交流に使用します 授業の最後に本時の振り返り、初めに前時の意見交流を行います
第9回	個別事例に対して、自立活動における個別の指導計画の目標と具体的な指導方法を考える。	個別事例の指導方法について検討する
第10回	個別指導の事例の意図とPDCAサイクルの実際	小テスト範囲を提示
第11回	小テスト 問題行動へのアプローチ	小テスト振り返り
第12回	学級の中で実施する合理的配慮と指導上の工夫	実際場面での指導について各自で考えておく
第13回	個に応じた指導の充実を目指したICTを活用した指導の実際	ICTの具体例について紹介できるようにしておく
第14回	各教科等の個に応じた学習指導の指導上の配慮	全体の概観し、自分の考えをまとめておく
第15回	家庭・医療、福祉及び関係機関との連携と二次障害	自分ができることを考えておく

1.授業コード (ナンバリング)	SED208-A51	2.科目名	特別支援教育基礎		3.単位数	1
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	教職必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	幼稚園、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限	幼稚園・小学校教諭免許取得予定者					
17.授業の目的と概要	目的：特別支援教育の歴史的経緯及び理念について知り、今日的な教育課題としての障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育の基本について学ぶ。本講義全体を通して、自らの経験と照らし合わせながら、障害のとらえ方、共生社会実現に向けた教育のあり方について考えていけるようにする。 概要：それぞれの障害に関する基礎的な面をイメージできるようおさえながら、教育体制のあり方や基礎的な環境整備・合理的な配慮について解説する。特に、個々の実態に応じて、目標を設定し、その達成ための手立てを示す個別の指導計画に基づいて指導する自立活動については、具体的に実践事例をあげて紹介する。通常の学級における合理的配慮の在り方、障害のあるなしに関わらない個別最適化の授業など特別支援教育の現状および今日的課題について取り上げる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性，（3）多様性理解，（4）問題発見・解決力，（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ・教育・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教育・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、多様な子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら特別支援教育の基本を理解し、将来の進路に向けた資質向上につなげるようにする。授業の中でのディスカッションを通じてコミュニケーションスキルを高める。					
19.教科書・教材	・障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	・文部科学省（2018）特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示），海文堂出版，484 円 関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 60% 小テスト 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜昼休み（学修支援室） 水曜昼休み（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回 導入 障害と特別支援教育 ICF、障害者権利条約から障害者差別解消法、特別支援教育につながる流れについて理解する。			◆ノートパソコン◆ 授業用資料・ワークシート 第 2 回目以降については授業の中で指示します		

第 2 回	特別支援教育の校内体制と自立活動の教育課程上の位置づけと内容	ユニバーサルな施設などを見つけてアップする
第 3 回	第 3 回 知的障害の理解と支援・指導 ◎知的障害の困り感について体験ワークをすることでイメージする	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 4 回	視覚障害の理解と支援・指導 ◎視覚障害の困り感についてワークをすることでイメージする	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 5 回	聴覚障害の理解と支援・指導 ◎聴覚障害の支援について実技を交えて体験することでイメージする。	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 6 回	肢体不自由の理解と支援・指導 ◎肢体不自由の支援・指導について実践例を通してイメージする	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 7 回	病弱・重度重複障害の理解と支援・指導 ◎事例を通して、イメージを膨らませる。	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 8 回	発達障害の理解と支援（行動面）	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 9 回	発達障害の理解と支援（学習面）	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 1 0 回	発達障害の理解と支援（コミュニケーション面）	冒頭に行うミニテストの事前学習をしておく 自分が選んだ障害についての指導方法について紹介できるように準備をしておく
第 1 1 回	特別支援教育を必要とする児童生徒とその支援	小テストの内容を学習しておく
第 1 2 回	小テスト 個別の指導計画	個別の指導計画を作成する
第 1 3 回	個別の指導計画と指導の実際	個別の指導計画を作成する
第 1 4 回	教育と家庭、福祉との連携	共生社会の実現に向けてできることを考えておく
第 1 5 回	共生社会実現に向けて	自分の考えをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	SED301-A51	2.科目名	知的障害者の心理・生理・病理		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	特別支援		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：知的障害者の心理・生理・病理の基本について学ぶ。 概要：本授業ではまず、基本的な発達のみちすじを知った上で、「全般的な発達の遅れ」である知的障害とはどのような状態かについて学ぶ。「知的能力（知能）」について、最近では、知能検査の結果や学校での学習の達成度だけでなく、より広く「自立した社会生活を送る力」と捉えられていて、環境の調整や周囲のサポートによって変化するとされている。知的障害の原因については、医学的に明らかなものもあるが、大部分は原因不明である。知的障害に併存する障害について自閉症等について解説する。知的障害の診断や評価には、発達の未分化な場合は発達検査を用いるが、軽度の場合は知能検査で知的水準を評価する。適応水準については、適応行動尺度等を用いる。これらの心理検査について基本的な知識を得る。知的障害は医学的に治癒するものではなく、支援の中心は教育である。知的障害の心理・病理・生理に応じた支援方法の基本について理解を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（2）社会的貢献性、(3)多様性理解、(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 学習目標 ・ 知的障害とはどのような障害なのか、医学的な原因と環境との包括的な状態として理解する ・ 知的障害に併存する障害（ダウン症、自閉スペクトラム症、てんかん等）について理解する ・ 知的障害の評価に用いる心理検査（発達検査、知能検査、適応行動尺度等）について知る ・ 知的障害の心理・生理・病理に応じた支援方法の基本について理解する					
19.教科書・教材	・ 障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・ その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 60% 小テスト 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜昼休み（学修支援室） 水曜昼休み（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	導入 知的障害の意味			◆ノートパソコン◆ 授業用資料・ワークシート 第 2 回目以降については授業の中で指示します		
第 2 回	知的障害の生理・病理 関連する疾患，原因についての概要を学ぶ			実習等により授業に出席できなかったものは動画を視聴または資料を読みレポートを作成する		
第 3 回	知的障害の生理・病理 併存することの多い疾患：染			実習等により授業に出席できなかったものは		

	色体異常・てんかん等	動画を視聴または資料を読みレポートを作成する
第 4 回	発達の道筋と乳幼児健診と早期発見のポイント	実習等により授業に出席できなかったものは動画を視聴または資料を読みレポートを作成する
第 5 回	知能検査と行動観察 特性理解	実習等により授業に出席できなかったものは動画を視聴または資料を読みレポートを作成する
第 6 回	知的障害児の感覚・知覚・認知特性	授業の冒頭に前時のミニテストを行うため復習をしておくこと
第 7 回	知的障害児の言語・コミュニケーション特性	授業の冒頭に前時のミニテストを行うため復習をしておくこと
第 8 回	知的障害児の運動・動作特性	授業の冒頭に前時のミニテストを行うため復習をしておくこと
第 9 回	適応行動の困難さと適応検査	授業の冒頭に前時のミニテストを行うため復習をしておくこと
第 1 0 回	自閉症の生理・病理	小テストの内容を学習しておくこと
第 1 1 回	小テスト 強度行動障害への対応	小テストの内容を学習しておくこと
第 1 2 回	自尊感情と二次障害	授業の冒頭に前時のミニテストを行うため復習をしておくこと
第 1 3 回	家族（親・きょうだい）の受け入れと支援	授業の冒頭に前時のミニテストを行うため復習をしておくこと
第 1 4 回	事例検討	授業の冒頭に前時のミニテストを行うため復習をしておくこと
第 1 5 回	まとめ 事例検討	事例への対応を自分なりに考えておくこと

1.授業コード (ナンバリング)	SED304-A51	2.科目名	知的障害教育		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験がある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特別支援学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の前半では、まず知的障害教育について概説する。その後、知的障害のある子どもの示すさまざまな学習上の困難や行動上の問題などを知的障害の特性と環境との交互作用の視点からとらえ、さまざまな指導法による望ましい教育的支援の在り方を講義する。具体的には、なぜ子どもがそのように行動するのかを環境との交互作用から捉え、どのように観察し、どのようにアセスメントし、どのように指導していくのかについて述べる。 授業の後半では、「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」に関わり、その作成意義や手続の講義と演習を行う。具体的には、個別の指導計画に基づいた指導プログラムの試作・発表・討議などを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (2) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。 (3) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。 具体的目標は以下の通りである。 ・ 知的障害の概念と教育課程の編成、自立活動の指導について説明することができる。 ・ 知的障害のある子どもの示す学習上及び生活上の困難を知的障害の特性および環境との交互作用の視点から理解し説明することができる。 ・ アセスメントに基づいた子どもの指導目標の設定ができ、基本的な指導プログラムを立てることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	・「応用行動分析で特別支援教育が変わる」山本淳一・池田聡子著（2005）図書文化					
21.成績評価	①振り返り小レポート 20% ②中間試験 40% ③総括試験 40%					
22.コメント	この講義の内容は、各校種（保幼小中高特別支援学校）における特別支援教育の指導場面では必ず必要とされるものです。応用行動分析学に基づいた、こどものアセスメント・指導プログラムの作成およびその指導技法についての基本を学んでほしいと願っています。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	・ 授業の概要と評価の説明 知的障害の理解 ・ 知的障害とは ・ インクルーシブ教育とは	次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 2 回	知的障害教育の基礎 1 ・ 教育課程の編成と授業の実際	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 3 回	知的障害教育の基礎 2 ・ 領域・教科を合わせた指導と授業の実際	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 4 回	知的障害教育の基礎 3 ・ 自立活動の指導	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 5 回	知的障害教育の基礎 4 ・ カリキュラムマネジメント ・ 子どもの理解と個に応じた指導	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 6 回	望ましい（適切）行動の獲得をめざして ・ 個と環境との交互作用 ・ 新しい行動の獲得	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 7 回	望ましくない（不適切）行動の減少をめざして ・ 個と環境との交互作用 ・ 行動問題の持つ機能と発達との関連 ・ 行動問題への対応法	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○中間試験の準備（120分）
第 8 回	中間試験	○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 9 回	個別的教育支援計画・個別の指導計画 ・ 個別的教育支援計画・指導計画とは ・ 作成の意義とその活用 ・ さまざまなカリキュラムを通して考える。	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 10 回	米国における IEP から考える関係機関との連携 ・ IEP とは ・ IEP の作成と実行 ・ 保護者及び本人の権利 ・ 日米の比較	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 11 回	個別の指導計画と指導プログラムの作成にあたって	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復

	・子どものアセスメントと指導課題 ・指導課題とその課題分析 ・指導課題に則した指導プログラムの作成 ・指導プログラムの適用と指導評価	習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第12回	指導プログラムの作成の試み？ ＜日常生活動作（ADL）の指導①＞ ・着脱衣・整容・清掃・調理などのアセスメント ・指導課題とその課題分析 ・指導プログラムの試作と発表	◎試作プログラムの点検と見直し及びその修正（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第13回	指導プログラムの作成の試み？ ＜日常生活動作（ADL）の指導②＞ ・買い物・交通機関利用・金融機関利用などのアセスメント ・指導課題とその課題分析 ・指導プログラムの試作と発表	◎試作プログラムの点検と見直し及びその修正（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第14回	指導プログラムの作成の試み？ ＜数の指導 数量概念・基数と序数・加法と減法（10以下の数）＞ ・数量概念のアセスメント ・指導課題とその課題分析 ＜かな文字の指導＞ ・「読み・書き」のアセスメント ・指導課題とその課題分析 ＜指導プログラムの試作と発表＞	◎試作プログラムの点検と見直し及びその修正（90分） ○総括試験への準備（120分）
第15回	授業のまとめと総括試験	授業のまとめを行う。

1.授業コード (ナンバリング)	SED305-A51	2.科目名	肢体不自由教育		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	展開 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	肢体不自由児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、肢体不自由教育の実態、教育課程、指導内容・方法、自立活動、進路等について具体的な実践を学ぶこととする。肢体不自由を主とした特別支援学校及び特別支援学級での教育の中核活動である授業を中心に、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」、並びに評価と授業改善について学習する。さらに肢体不自由教育における特徴的な指導について、身体の動き、感覚的アプローチ等の実践的理論と指導における活用を理解する。それらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、肢体不自由のある子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。ライフステージそった様々な事象や現象について触れながら肢体不自由児の授業の進め方、指導法等を理解し、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）（4）問題発見・解決力の学修に関連しています。 ・教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①肢体不自由児の教育について、特別支援教育や社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる。 ②肢体不自由教育における教育課程の意義と編成方法、指導の実際について理解し説明することができる。 ③肢体不自由児・者の実態を理解したうえで、個のニーズに応じた授業づくりと個別の指導計画作成の基本を理解し略案を作成することができる。					
19.教科書・教材	「よくわかる肢体不自由教育」安藤隆男・藤田継道編著 ミネルヴァ書房 （改訂版が 2023 年 6 月発刊のため、今年度は教科書とはせずに参考文献とします。）					
20.参考文献	筑波大学付属霧が丘特別支援学校編 肢体不自由教育の理念と実践 ジアース教育新社 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部・高等部・自立活動編）					
21.成績評価	振り返り小レポート（30％） 特別支援学校現場紹介（20％） 課題レポート（20％） 総括試験（30％）					
22.コメント	ライフステージにそった様々な事象について触れながら、現場で役立つ肢体不自由児の教育課					

		程や具体的な指導法を学んでいきます
23.オフィスアワー		火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 授業シラバスの説明および、最初の導入としての肢体不自由者理解の説明を行う。	○次回の予習として、肢体不自由関連の書籍を探し、目を通しておく。(120 分)
第 2 回 4/20	肢体不自由教育の定義と理解 肢体不自由の全体像を概観する。	○「Ⅰ 肢体不自由の定義と理解」を予習しておく。(120 分) ◎各自次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 3 回 4/27	肢体不自由教育の歴史と発展 肢体不自由教育が展開されている歴史と今日までの経過について理解する。	○「Ⅲ肢体不自由教育の歴史と発展」について予習しておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 4 回 5/11	特別支援教育と肢体不自由教育、そして特別支援学校の役割 特別支援学校のあり方について理解する。	○「Ⅳ特別支援教育の制度と肢体不自由教育」を予習しておく。(120 分) ○肢体不自由教育の変遷についてまとめておく(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 5 回 5/18	肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用 様々なアセスメントの方法と活用について理解を広げる。	○「Ⅱアセスメントの方法と活用」を予習しておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 6 回 5/25	教育課程と教科等の指導 肢体不自由教育が展開されている学校の取組をもとに、教育課程や指導の特徴について理解する。	○「Ⅵ教育課程と教科等の指導」を予習しておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 7 回 6/1	肢体不自由特別支援学校における個別の指導計画の実際 特別支援学校における個別の指導計画作成に関するシステム作りに焦点を当て、考慮すべき点について理解する。	○特別支援学校の肢体不自由児を対象にした個別の指導計画作成例を調べておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 8 回 6/8	子どもが輝く授業づくりの基本① 特別支援学校における自立活動の実際を知る（健康	○「Ⅶ自立活動の指導と個別の指導計画」を読んでおく。(120 分)

	の保持、心理的な安定、人間関係の形成)。	◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 9 回 6/15	子どもが輝く授業づくりの基本② 特別支援学校における自立活動の実際を知る（身体の動き、環境の把握、コミュニケーション）。	○肢体不自由特別支援学校の授業の実際について調べておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分) ○中間レポート作成のための構成とまとめ(360 分)
第 10 回 6/22	個別的教育支援計画 個別的教育支援計画の作成と基礎的理解について概説する。	○小学校における合理的配慮について考えておく。(240 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 11 回 6/29	評価と授業改善 様々な評価と授業改善について理解する。	○最終レポートのための構成とまとめ。(240 分) ◎各グループで次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 12 回 7/6	身体の動きの改善を目指した指導 姿勢、運動動作を中心とした指導法を理解する。	○動作法関する文献を読んでおく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 13 回 7/13	感覚認知面の改善を目指した指導 感覚運動、認知面の学習を中心とした指導法を理解する。	○感覚統合に関する文献を読んでおく。(120 分) まとめのテストのための授業の振り返りをしておく。(360 分)
第 14 回 7/20	コミュニケーションの改善を目指した指導 レポート提出 コミュニケーション力の向上を中心とした指導法を理解する。	授業の振り返りをしておく。(120 分)
第 15 回 7/27	授業のまとめと総括試験	授業のまとめを行う。

1.授業コード (ナンバリング)	SED307-A51	2.科目名	知的障害者の言語障害指導		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】言語の働きとヒトのコミュニケーション行動がいかに複雑な現象であるかを知ること で、言語・コミュニケーションの発達に障がいのある子どもの多様性を把握し、個のニーズ に応じた言語・コミュニケーション支援のあり方を理解していきます。 【概要】本授業では、知的障害をはじめとする言語・コミュニケーションの発達に障がい のある子どもの支援について理解するために、言語とコミュニケーションの基本概念について学 びます。言語（ことば）は、ヒトに固有の精神活動であり、私たちは、言語を使って他者とコ ミュニケーションすると同時に、言語によって物事を認識し、考えています。また、ヒトのコ ミュニケーションには、動物にはないさまざまな特徴があります。言語活動とコミュニケーシ ョン活動は、私たちにとって最も重要、かつ、高次な精神活動であるだけに、発達に障がい のある子どもたちにとって、いちばん困難が生じやすい発達領域でもあります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標 DP（ディプロマポリシー）の（2）社会的貢献性、（3）多様性理解、（6）専門的知 識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ① 言語とコミュニケーションに関する基本的な用語を理解し、説明できる。 ② 言語の働きやヒトのコミュニケーションの特徴を、自己の経験に結びつけて論じられる。 ③ 言語発達に関わる諸要因について説明できる。 ④ 子どもの言語発達過程の概略を説明できる。 ⑤ 言語・コミュニケーションの発達支援の基本について説明できる					
19.教科書・教材	特定の教科書は用いません。独自に作成した資料を授業の度ごとに配布します。					
20.参考文献	授業の内容に沿って、参考図書を紹介します。					
21.成績評価	① 授業内での討論とノートのまとめ 30% 学修目標①②③④⑤ ② レポート課題 30% ①②③ ③ 最終試験 40% ①②③④⑤					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 5 限（学習支援室7157-） 火曜 5 限（研究室7157-）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション 知的障害者のコミュニケーションを考えるにあたって 知的障害とコミュニケーション 【学習目標との対応】 学習目標 ①			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提 示）		
【第 2 回】	知的障害ととコミュニケーションを考えるにあたって コミュニケーションの手段 VTR：知的障害のコミュニケーション手段の分 類方法を考える 講義：知的障害ののコミュニケーションについ て知ることは			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提 示）		

	【学習目標との対応】 学習目標 ①	
【第3回】	言語とコミュニケーションを考えるにあたって コミュニケーションの手段 認知・思考の手段としての言語 VTR：私たちは世界をどのように認識しているか？ 討議：言語とは 講義：言語の特性と働き 【学習目標との対応】 学習目標 ① ②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第4回】	ヒトのコミュニケーションにおける視線の役割（その1） 討議：自閉症の特徴的症狀を巡る「なぜ？」 講義：共同注意行動 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第5回】	ヒトのコミュニケーションにおける視線の役割（その2） 討議：共同注意行動の支援（自閉症児の事例から） 【学習目標との対応】 学習目標 ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第6回】	言語習得と社会的相互作用遊び 討議：共同遊びの発達の意義について考える 講義：言語の3つの側面の発達順序 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第7回】	障がいの重い子どものコミュニケーション支援 討議：共同遊びの発達を促す支援方法を考える 【学習目標との対応】 学習目標 ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第8回】	言語習得の認知的基礎 討議：感覚運動的知能の5つの側面の役割 講義：言語の3要素の認知的基礎 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	小レポート課題提示
【第9回】	初期発話期にある子どもの支援 討議：この時期の子どもに適切な接し方とは 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	小レポート提出
【第10回】	初期発話期にある子どもの支援 講義：インリアル法の考え方 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第11回】	心の理論（Theory of Mind） 討議：「空気を読む」とは？ 講義：心の理論とその発達 【学習目標との対応】 学習目標 ① ② ③	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第12回】	ことばのある自閉症児の言語・コミュニケーション支援 講義：自閉症児に見られる困難 討議：事例をもとに支援の実際を考える 【学習目標との対応】 学習目標 ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）

【第 13 回】	話しことばから書きことばへ 討議：文字（ひらがな）の読み書きができるようになるためには？ 講義：文字（ひらがな）習得の前提条件と支援の留意点 【学習目標との対応】学習目標 ③ ④ ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第 14 回】	言語・コミュニケーション支援に求められること 討議：「こだわり行動」を例に考える 講義：発達支援の基本方針 【学習目標との対応】学習目標 ⑤	最終試験に向けての準備
【第 15 回】	授業のまとめと最終課題 【学習目標との対応】学習目標①～⑤	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-A52	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	経営学部の尼崎キャンパスの学生は2年生に進級し「ビジネスデザイン専攻」の専門的な研究に入っていく。そのため、経営の基礎知識やマネジメントの基本を学ぶことに加え、基本的な分析手法も学び取ることで円滑な経営知識の理解つ実践を促していく。こうした学びは冬学期の「業界研究」に続き、その後の「プロジェクトマネジメント演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」のスタートラインとなる。 また、2年生春学期の「仕事とキャリア形成Ⅰ」と秋学期の「同Ⅱ」、そして3年夏学期の「同Ⅲ」等のキャリア教育の基礎ともなっており、「経営学」の実践的な展開を行っていくことになる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおり。 学習目標① 専攻選択の各専攻における学びのテーマの概要について学ぶ 学習目標② 「ビジネスデザイン専攻」における経営学の基礎知識を再確認する 学習目標③ 各種業界の事前研究において、文献・記事検索を駆使して自分の関心領域の情報を収集して課題を見つけ、レポートにまとめることができる 学習目標④ 外部講師の講話を聴き、要点を理解してレポート作成し、自分の考えをまとめることができる 本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （6）専門知識・技能 に関連している。					
19.教科書・教材	毎回、授業資料を WebClassd で提示する。					
20.参考文献	必要時に紹介を行う。					
21.成績評価	・ 毎回課題（ワークシート）：95% ・ e ポートフォリオ入力：5%					
22.コメント	・ 本授業は今後の授業展開の基礎固めとして、個人の自律性と基礎知識の習得を狙っている。そのため、各自主体性を持って積極的に参加することが求められる。 ・ ほぼ毎回課題提出があるので、毎回パソコンを持参すること。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	センターアワー：月曜日 1 限 研究室オフィスアワー：月曜日 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回 (10/07)	【オリエンテーション】 ・ 本授業の目的・進行・評価方法・備考等を説明する。 ・ プロジェクトマネジメント演習やキャリア教育の概要を知る。			・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出		

第 02 回 (10/14)	【企業経営・経営学の基礎①】 ・経済の仕組みと資本主義について学ぶ。 ・株式会社制度の概要について学ぶ。 ・毎回課題「資本主義の良い面と悪い面を考える」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 03 回 (10/21)	【企業経営・経営学の基礎②】 ・企業の価値を考える。 ・優れた企業とはどのような会社なのかを考える。 ・企業の CSR やコンプライアンスを考える。 ・毎回課題「事業の発展による企業価値向上と社会課題の解決を両立させている企業を探す」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 04 回 (10/28)	【企業経営・経営学の基礎③】 ・企業の組織を考える。 ・企業の優れた組織とはどのような組織なのか？ ・日本的な組織・雇用について学ぶ。 ・毎回課題「あなたが優れた組織だと思う企業・組織とは？」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 05 回 (11/04)	【企業経営・経営学の基礎④】 ・企業ファイナンスについて学ぶ。 ・企業の「決算書」を読む。 ・決算書から分かる企業と特徴 ・毎回課題「BS/PL の特徴から企業の特性を読み取る」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 06 回 (11/11)	【業界研究・マーケティングの基礎①】 ・マーケティングの基礎を学ぶ。 ・「プランニング」の意味を学ぶ。 ・流通業界を知る。 ・毎回課題「優れたプランニングを行っている企業を 1 社挙げ、その理由を述べる」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 07 回 (11/18)	【業界研究・マーケティングの基礎②】 ・マーケティングの基礎を学ぶ。 ・マーケティングミックス「4P」を学ぶ。 ・広告業界を知る。 ・毎回課題「優れた広告を行っている企業を 1 社挙げ、その理由を述べる」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 08 回 (11/25)	【業界研究・マーケティングの基礎③】 ・マーケティングの基礎を学ぶ。 ・ファッション業界を知る。 ・ファストファッション・ビジネスを知る。 ・毎回課題「ファッションビジネスの特徴と課題を考える」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 09 回 (12/02)	【業界研究とマーケティングの基礎④】 ・マーケティングの基礎を学ぶ。 ・ブランドについて学ぶ。 ・ラグジュアリーブランドを知る。 ・毎回課題「好きなブランドとその理由をマーケティングの視点で考える」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 10 回 (12/09)	【企業経営・経営学の基礎⑤】 ・起業・創業について学ぶ。	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出

	・「アントレプレナーシップ」を知る。 ・自分のキャリア形成と社会課題の解決。 ・毎回課題「起業するとすれば・・・」	
第 11 回 (12/18)	【企業経営・経営学の基礎⑥】 ・ ICT/AI 技術の進歩について学ぶ。 ・ 第 4 次産業革命を考える。 ・ ICT 業界の特性・変化を知る。 ・ 毎回課題「第 4 次産業革命が企業や社会に及ぼす影響を考える」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 12 回 (12/23)	【専攻選択】 ・ 尼崎 C の「ビジネスデザイン専攻」について学ぶ。 ・ 三木 C の「地域マネジメント専攻」について学ぶ。 ・ 冬学期の「業界研究」の履修登録の確認。	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 13 回 (01/20)	【キャリアと企業・業界研究①】 ・ 自分の職業適性を考える。 ・ 業界・業種と職種を知る。 ・ 自分のキャリアイメージ（将来像）を考える。 ・ 毎回課題：「自分の将来キャリアと今後研究する業界を考える」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 14 回 (01/27)	【キャリアと企業・業界研究②】 ・ 経済情報・企業情報の収集方法を学ぶ。 ・ 業界研究の方法を学ぶ。 ・ 企業 HP の見方を学ぶ。 ・ 課題「興味のある企業の HP から情報を収集する」	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出
第 15 回 (01/28)	【授業まとめ】 ・ PM 演習Ⅰの振り返りと業界研究への準備確認。 ・ 業界分析・企業分析の重要性を方法を確認。 ・ 毎回課題「PM 演習Ⅰの振り返りと学びを確認する」 ・ 修学カルテへの記事投稿	・ PC 持参（充電注意） ・ WebClass の毎回課題提出 ・ WebClass の e ポートフォリオ記事作成

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-A53	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	専門	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	セミナー		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	プロジェクトマネジメント演習Ⅳは、3年生のプロジェクトを担う人材育成のために、マネジメント方法を体系的に理解することを目標としています。国際標準のプロジェクトマネジメントの知識体系である資料をベースに、マネジメント全体の流れ・必須知識を押さえていきます。続いて各自に関心のあるテーマを選んで報告を行ってもらい質疑・討論の仕方についても訓練を行ないます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力自ら学ぶに関連しています。 学習目標： プロジェクトマネジメントを理解することは知識、技術、経験、人間性、考え方など、プロジェクトマネージャーに求められる重要な要素を身につけていきます。 データを分析し、プレゼンテーション、討論ができるようになります。					
19.教科書・教材	必要な資料配布					
20.参考文献	新聞、ビジネス関係雑誌、日本語新聞、英字新聞、DVD など。必要に応じてプリントを配る。					
21.成績評価	レポート（80％）・授業態度（20％）					
22.コメント	本ゼミでは学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションする授業展開を目指します。スライドの配布はしません。? 学習意欲のある学生の受講を希望します。私語をしない、携帯電話は使用しない（メールや時計利用も含む）、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しない、ルールの厳守。					
23.オフィスアワー	?曜?昼休み??					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション、学習?標と評価?法の確認等			PC 持参		
第2回	プロジェクトマネジメントの流れ			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第3回	プロジェクトマネジメントとは			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第4回	プロジェクト立ち上げ ①			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第5回	プロジェクト立ち上げ②			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第6回	プロジェクト計画①			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第7回	プロジェクト計画②			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第8回	プロジェクト計画③			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第9回	プロジェクト計画④			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第10回	プロジェクトの実行とコントロール			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第11回	プロジェクトマネージャーの重要な要素			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第12回	プロジェクト・マネージャーとしての役割①			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第13回	プロジェクト・マネージャーとしての役割②			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		

第 14 回	プロジェクト・マネジャーとしての役割③	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 15 回	まとめ	レポート作成・提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-M52	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・経営学部の三木キャンパスの学?は2年?進級時に防災・危機マネジ?メント専攻と地域マネジ?メント専攻に分かれます。各専攻の学びを深めていくためには経営の基礎知識やマネジメントの基本を学ぶことに加えて、産学連携を通じた実践的な学修機会においてチームでプロジェクトに取り組むことも必要です。 ・この授業では2年?進級時のコース学習に向けた準備を?うとともに、Leraning Community の作成、業界研究や経験学習に向けたグループワークの能力を培います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標はDPの（1）?律性、（4）問題発?・解決?、（5）コミュニケーションスキルに関連しています。 学習?標① コース学習に向けた学びのテーマの概要について学ぶ 学習?標② 経験学習に向けて Learning community の作成やグループワークに向けた作法を七部 学習?標③ グループワークに必要な IT スキルを身につける					
19.教科書・教材	毎回レジュメを配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	eポ?トフォ?と授業態度 10% グループワークポ?ト 45% 個?レポート 45%					
22.コメント	・この授業では教員がグループを編成して、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを中?に?います。主体性を持って積極的に参加することを望みます。 ・また、多くの回でワークシートを作成し提出します。授業中の説明や講話のメモを取り、グループでの議論をまとめてレポートを完成させてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	【オリエンテーション】 ・演習の進め?をシラバスで確認し、評価基準などを説明します。 ・専攻選択に向けたスケジュールなどを説明します ・講義で使用する基礎的なアプリケーションについて解説します。			○各専攻コースで興味を持った点をあげ、専攻コースの希望順を記入する。 ★フル充電のPCを持参のこと		
第2回	【専攻ケーススタディ①】 地域マネジメント ・三木キャンパスでの地域マネジメント専攻の概要などを学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること			「地域マネジメント専攻」について学んだことを400字以上にまとめて、WebClassに提出すること。 ★フル充電のPCを持参のこと		
第3回	【専攻ケーススタディ②】 ビジネスデザイン ・尼崎キャンパスでの2年生からの新専攻の概要につ			「防災・危機マネジメント専攻」について学んだことを400字以上にまとめて、WebClass		

	いて学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること	に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 4 回(10/24)	【専攻ケーススタディ③】スポーツマネジメント ・尼崎キャンパスでの 2 年生からの新専攻の概要について学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること	授業中に課題を提示するので WebClass に提出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 5 回	【専攻ケーススタディ④】防災危機マネジメント ・尼崎キャンパスでの 2 年生からの新専攻の概要について学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること	授業中に課題を提示するので WebClass に提出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 6 回	チーム・ビルディングに向けたアイスブレイク ー貿易ゲームをやってみよう。チームで協力して勝利を目指しつつ、国際貿易の基礎について学びます。	「経営・マーケティング 専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 7 回	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（１） ープレゼンテーションを準備しよう（１）	「ビジネスデザイン専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 8 回	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（１） ープレゼンテーションを準備しよう（１）	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 9 回	調査報告書の書き方を学ぼう（１） ーグループ調査の結果を報告書にまとめてみよう	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 10 回	調査報告書の書き方を学ぼう（２） ーグループ調査の結果を報告書にまとめてみよう	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 11 回	調査活動に基づく報告書を書いてみよう ーグループで調査活動を設計・実施し、報告書を書いてみよう（１）	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 12 回	調査活動に基づく報告書を書いてみよう ーグループで調査活動を設計・実施し、報告書を書いてみよう（２）	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 13 回	調査活動に基づく報告書を書いてみよう ーグループで調査活動を設計・実施し、報告書を書いてみよう（３）	名刺作成フォーマットにオリジナル名刺を作成してみる ★フル充電の P C を持参のこと（スマホ・タブレットは不可）
第 14 回	業界研究に向けた準備	・「専攻を学ぶ将来に向けた決意」を各自提出すること。 ★フル充電の P C を持参すること
第 15 回	経験学習に向けた準備	PM1 で学んだことを e ポートフォリオに投稿する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-M53	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・経営学部の三木キャンパスの学?は2年?進級時に防災・危機マネジ`メント専攻と地域マネジ`メント専攻に分かれます。各専攻の学びを深めていくためには経営の基礎知識やマネジメントの基本を学ぶ ことに加えて、産学連携を通じた実践的な学修機会においてチームでプロジェクトに取り組む ことも必要です。 ・この授業では2年?進級時のコース学習に向けた準備を?うとともに、Leraning Community の 作成、業界研究や経験学習に向けたグループワークの能力を培います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標はDPの（1）?律性、（4）問題発?・解決?、（5）コミュニケーションスキル に関連しています。 学習?標① コース学習に向けた学びのテーマの概要について学ぶ 学習?標② 経験学習に向けて Learning community の作成やグループワークに向けた作法を七部 学習?標③ グループワークに必要な IT スキルを身につける					
19.教科書・教材	毎回レジュメを配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	eポ-ト?オリ?と授業態度 10% グループワークポ-ト 45% 個?レポート 45%					
22.コメント	・この授業では教員がグループを編成して、グループディスカッション、グループワーク、プ レゼン テーションなどを中?に?います。主体性を持って積極的に参加することを望みます。 ・また、多くの回でワークシートを作成し提出します。授業中の説明や講話のメモを取り、グ ループ での議論をまとめてレポートを完成させてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	【オリエンテーション】 ・演習の進め?をシラバスで確認し、評価基準などを説 明します。 ・専攻選択に向けたスケジュールなどを説明します ・講義で使用する基礎的なアプリケーションについて 解説します。			○各専攻コースで興味を持った点をあげ、専 攻コースの希望順を記入する。 ★フル充電のPCを持参のこと		
第2回	【専攻ケーススタディ①】 地域マネジメント ・三木キャンパスでの地域マネジメント専攻の概要な どを学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること			「地域マネジメント専攻」について学んだこ とを400字以上にまとめて、WebClassに提 出すること。 ★フル充電のPCを持参のこと		
第3回	【専攻ケーススタディ②】 ビジネスデザイン ・尼崎キャンパスでの2年生からの新専攻の概要につ			「防災・危機マネジメント専攻」について学ん だことを400字以上にまとめて、WebClass		

	いて学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること	に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 4 回(10/24)	【専攻ケーススタディ③】スポーツマネジメント ・尼崎キャンパスでの 2 年生からの新専攻の概要について学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること	授業中に課題を提示するので WebClass に提出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 5 回	【専攻ケーススタディ④】防災危機マネジメント ・尼崎キャンパスでの 2 年生からの新専攻の概要について学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること	授業中に課題を提示するので WebClass に提出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 6 回	チーム・ビルディングに向けたアイスブレイク ー貿易ゲームをやってみよう。チームで協力して勝利を目指しつつ、国際貿易の基礎について学びます。	「経営・マーケティング 専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 7 回	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（１） ープレゼンテーションを準備しよう（１）	「ビジネスデザイン専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 8 回	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（１） ープレゼンテーションを準備しよう（１）	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 9 回	調査報告書の書き方を学ぼう（１） ーグループ調査の結果を報告書にまとめてみよう	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 10 回	調査報告書の書き方を学ぼう（２） ーグループ調査の結果を報告書にまとめてみよう	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 11 回	調査活動に基づく報告書を書いてみよう ーグループで調査活動を設計・実施し、報告書を書いてみよう（１）	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 12 回	調査活動に基づく報告書を書いてみよう ーグループで調査活動を設計・実施し、報告書を書いてみよう（２）	・当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 13 回	調査活動に基づく報告書を書いてみよう ーグループで調査活動を設計・実施し、報告書を書いてみよう（３）	名刺作成フォーマットにオリジナル名刺を作成してみる ★フル充電の P C を持参のこと（スマホ・タブレットは不可）
第 14 回	業界研究に向けた準備	・「専攻を学ぶ将来に向けた決意」を各自提出すること。 ★フル充電の P C を持参すること
第 15 回	経験学習に向けた準備	PM1 で学んだことを e ポートフォリオに投稿する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A51	2.科目名	専門演習Ⅱ（教育福祉 1/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	子ども学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	卒業必修		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年生で履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでは、1 年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上をねらいとします。 【概要】 2 年生ゼミでは、1 年間の研究共通テーマを「地域で安心した生活ができるまちづくり」に設定しています。中でも地域の子育て世帯の生活に着目し、フィールドワークを通して、保護者や子どもの声をもとに、子育て世帯の well-being や安全・安心について検討していきます。具体的には「子育て支援」の場での保育参加や保育実践を行います。 専門演習Ⅱ(秋学期)では、本学附属幼稚園と連携し、子育て支援活動「どーなっつ」へ積極的に参加し、子どもたちや保護者への支援の在り方を体験的に学びます。また、体験を基に、大学生としてできる支援を考え、まとめて発表することができる専門的技術を習得していきます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性）②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキルに関連しています。 ①フィールドワークを通して、子育て世帯のニーズを抽出できる。 ②子育て世帯の課題を発見し、大学生ができる支援を考えることができる。 ③課題解決のために手づくり教材などを作ったり、それらを使った保育実践をすることができる。 ④地域の子育て世帯の課題を明確にし、自身が取り組んだ支援についてまとめることができる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	戸田山和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 NHK ブックス No.1272 2022 社会福祉法人なでしこ保育園 NPO 法人なでしこ保育研究所編著 『保育ハンドブック 1 か わいがり保育 0・1・2 歳児クラスの保育』 大修館書店 2018 前橋明編著 石井浩子著 『手遊び ゲーム 体操 0～5 歳児のはったを促す ふれあいあそ び大集合』 ひかりのくに 2011					
21.成績評価	■ 課題 1：活動記録の作成 20% 学習目標①に対応 ■ 課題 2：フィールドワークを通して、子育て世帯のニーズにふさわしい保育教材作り 20% 学習目標②・③に対応 ■ 課題 3：「子育て支援」における保育実践 30% 学習目標②・③に対応 ■ 課題 4：「子育て支援」の現状についての発表 30% 学習目標④に対応					

22.コメント	課題に取り組むためにパソコンが必要です。 現場の見学においては服装や身なりに制限があることをご理解ください。 2年生から教育・保育分野に関する専門的な授業が始まります。本授業においては、1年生での学びや体験学習などを基に、現代の子どもや保護者を取り巻く課題を見つけ出し、さまざまな情報を集め、適切なレポート作成を目指していただければと思います。	
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	○オリエンテーション ○子育て支援の現状から、子育て世帯の課題を整理する。 大学生ができる支援を考える。	子育て世帯の課題の整理(1) 大学生ができる支援計画の構想(30分)
第2回	○子育て支援の現状から、子育て世帯の課題について各自が整理したことをグループで共有する。 ○大学生ができる支援について各自が考えたことをグループで話し合う。	子育て世帯の課題の整理(2) 大学生ができる支援計画の構想(30分)
第3回	○子育て支援における大学生ができる実践内容を考える。 ○実践に必要な教材を作成する。	子育て世帯のニーズにふさわしい保育教材作り(1)
第4回	○子育て支援における大学生ができる実践内容をグループで共有する。 ○実践に必要な教材をグループで共有する。	子育て世帯のニーズにふさわしい保育教材作り(2)
第5回	○子育て支援における大学生ができる実践計画を作成する。 実践内容をグループで練習する(1)。	子育て支援における大学生ができる実践計画の作成 実践内容の準備(1)
第6回	○子育て支援における大学生ができる実践内容をグループで練習する(2)。	子育て支援における大学生ができる実践計画に基づいた実践への準備(2)
第7回	○子育て支援における大学生ができる実践内容をグループで練習する(3)。	子育て支援における大学生ができる実践計画に基づいた実践への準備(3)
第8回	○子育て支援における実践(1)。 活動記録の作成。	○活動記録の作成(30分) ○活動記録の振り返りと活動記録の提出(30分)
第9回	○子育て支援における実践(2)。 活動記録の作成。	○活動記録の作成(30分) ○活動記録の振り返りと活動記録の提出(30分)
第10回	○子育て支援における実践(3)。 活動記録の作成。	○活動記録の作成(30分) ○活動記録の振り返りと活動記録の提出(30分)
第11回	○子育て支援における実践の振り返り(1)。 活動についてまとめる。活動についての発表。	実践内容を振り返りとまとめ(1) 発表の準備(60分)
第12回	○子育て支援における実践の振り返り(2)。 活動についてまとめる。活動についての発表。	実践内容を振り返りとまとめ(2) 発表の準備(60分)
第13回	○子育て支援における実践の振り返り(3)。 活動についてまとめる。活動についての発表。	実践内容を振り返りとまとめ(3) 発表の準備(60分)
第14回	○現代の「子育て支援」の現状について体験的に学ん	発表の振り返りと現代の「子育て支援」の現

	だことを整理する。	状について体験的に学んだことの整理(60 分)
第 15 回	○総括 2 年次の学びと 3 年次に向けてを考える。	2 年次の学びの振り返り と 3 年次に向けて春休みの過ごし方の計画の 立案(60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A52	2.科目名	専門演習Ⅱ（教育福祉 2/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学・福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では専門演習Ⅰに引き続き、問題解決型学習(PBL)と、研究テーマの探索、研究方法、論文作成に必要なライティングスキルの向上に自発的に取り組んでいきます。また下記サブテーマを切り口に、各自が興味関心のある具体的研究課題を設定し、そこから研究の問いを導く方法についても学んでいきます。 【概要】 学習内容を深化させるために「保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・特別支援学校の子どもの命を守る」という視点から、救急救命士の現場での具体的課題や経験学修を通して学びを深めテーマに設定して進めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	関連する学科 DP （1）自律的で主体的な態度（自律性） 教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。 （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 （4）問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 <学習目標> 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①テーマに関連した学術論文を検索できる。 ②①の論文について、論文の結果を要約し、考察できる。 ③地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題から関心のある研究テーマを選択することができる ④③を踏まえて、具体的な研究の問いを設定することができる。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	【課題 1】要約文の作成 10%×3＝30% 【課題 2】文献リストの作成 10% 【課題 3】先行研究レビューの整理表の作成 10% ※【課題 2】をもとに、研究上の到達点や問題点をまとめる 【課題 4】先行研究レビューと研究の問い 20% ※提出までにプレゼンテーションを行う（具体的な研究の問いをどのように設定したのかを報告する） ※プレゼンテーションにおける他者からの指摘を踏まえ、課題 4 を提出する					

	【課題 5】 ふりかえりシートの提出 20%・KUIS ドリル 10% ○ICT 活用力向上のため、基本的に Webclas	
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	オリエンテーション (全体) ■授業の進め方等の説明と受講の心構え ■ラーニングルートマップについて ■e ポートフォリオについて ■秋学期履修登録相互確認 (ゼミアワー)	○ラーニングルートマップ修正 (60 分)
第 2 回目	■研究テーマ作り 春学期に作成したレポートを読み返す。 「こどもたちの命を守る」という視点から、経験学修での学びを振り返る。また、英語圏や東アジアにおける異文化との安全・安心という観点からの視点を広げつつ、地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題を把握するための資料を集め、把握した後に研究テーマを決める。(指定のテーマから決めてもいい)	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習しつつ、テーマを決める (60)
第 3 回目	■調査及び資料収集① 研究テーマを探る。 研究テーマ(興味のあるテーマ)がある程度決まった時点で、テーマに沿った文献を集め、その中の最も興味のある 1 つの文献を読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習をする (60)
第 4 回目	■考察する① 選んだ 1 つの文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティ(学習グループ)を作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-1】 に取り組む	○これまでの復習をする (60)
第 5 回目	■調査及び資料収集② 1 つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を 1 つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。 【課題 1-1】 の提出	○文献検索サイトを活用して研究テーマをリサーチする (90)
第 6 回目	■考察する② 選んだ 2 つ目の文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。	○文献リストの作成(60)

	要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-2】に取り組む	
第 7 回目	■調査及び資料収集③ 2つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を1つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。 【課題 1-2】の提出	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 8 回目	■考察する③ 選んだ3つ目の文献が伝えようとしていること（結果）を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-3】に取り組む	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 9 回目	■研究テーマの再考 決めていた研究テーマを再確認するため、3つの文献とその他の文献を整理し、テーマを再考する。 ■研究テーマに関する文献収集① 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 2】に取り組む 教育・保育現場へ足を運ぶ 【課題 1-3】の提出	○先行研究の整理 (120)
第 10 回目	■研究テーマに関する文献収集② 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 3】に取り組む	○先行研究の整理 (90)
第 11 回目	■研究の問いの設定① グループによる【課題 4】の意見交換 【課題 4】に取り組む ■研究計画書の作成 ★【課題 3】の提出	○先行研究にもとづく研究の問いの吟味 (90)
第 12 回目	■教育保育現場の実情と課題 救急救命士の現場からの具体的講話 ■到達確認試験に向けての準備と説明 ★【課題 2】の提出	○プレゼンテーションの準備 (90)
第 13 回目	■プレゼンテーション 先行研究レビューの整理と研究の問いについて報告する 【課題 5】に取り組む	○先行研究の再整理と研究の問いの再検討 (90)

第 14 回目	■先行研究の再整理と研究の問いの修正 プレゼンテーションでの指摘事項を踏まえて、先行研究の再整理と研究の問いを見直す ★【課題 4】の提出	○【課題 4】の提出準備（90）
第 15 回目	■授業のまとめ 【課題 5】の作成と提出 ■学生生活の振り返りを迎えるにあたって、 いかに学生生活の充実を図るかを大テーマとして、 アドバイザーとともに、2 年生の 1 年間を振り返る。 履修カルテ作成 到達確認試験の準備 E-ポートフォリオの作成	○秋学期のふりかえりを e ポートフォリオに 記事投稿する（60）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A53	2.科目名	専門演習Ⅱ（教育福祉 3/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	2 年生で履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでは1 年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上をねらいとします。 2 年生ゼミでは、1 年間の共通テーマを「地域で安心した生活ができるまちづくり」に設定しています。地域住民の暮らしに着目し、フィールドワークを通して、その人たちの声/語りをもとに、人々にとっての well-being や安全・安心について検討していきます。具体的には、尼崎市から委託を受けて、本学学生と尼崎市が共同で教育や福祉の実践を行います。 専門演習Ⅱ（秋学期）では、地域の小学校の見守り活動や防災教育について学び、つながりをつくる活動に積極的に参加し、地域住民でもある幼児や児童の安全・安心を支える支援の在り方を体験的に学びます。また、そこで得られたデータ等を分析し、まとめて発表することができる専門的技術を獲得していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	<学習目標> 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①フィールドワークを通して、地域のニーズを抽出できる。 ②地域の小学校活動を知り、つながりをつくるための計画を立て実行できる。 ③テーマに関する先行研究を収集し、要約できる。 ④ ①②③を踏まえて、フィールドワークの経験を整理し、説明できる。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	【課題 1】活動記録（フィールドワーク）と質的分析シート 25％_学習目標①に対応 ・専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱにて行った地域活動を毎回記録して提出する。 【課題 2】文献シート 15％_学習目標③に対応 ・自身が設定したテーマに関連する文献を 5 つ収集し、テキストクリティークを行う。 【課題 3】「MY 活動冊子」 30％ 学習目標①②④に対応 ・専門演習Ⅰにて作成している「MY 活動冊子」を完成させる。 ・内容には、地域活動をどのように行っていったのかを示し（活動記録のまとめ）、それに関連する先行研究を含める。 ・他					
22.コメント	1. 地域の小学校の活動やつながりづくりの支援活動の日程は、小学校との調整が必要なため授業開始後に皆さんの予定も聞きながら調整していきます。					
23.オフィスアワー	火曜の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	1. 授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファ			※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 ○課題について情報収集しておく（180）		

	イルに添付していつでも参照できるようにしておくこと)。 2. グループごとに、夏期休業期間中に実施した活動を整理する。	
第 2 回	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ・今後の活動目的を設定する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
第 3 回	活動計画を立てる ・計画に対するブレインストーミング ・グループ別に今後の計画を発表する。	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
第 4 回	フィールドワークの実施 (学外活動) ・各自の目的を意識して地域活動に参加する ・終了後に活動記録を書く	課題の取組に関するふりかえり (90)
第 5 回	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ・次回の活動の目的をたてる。 ※グループワークと個別ワークで学びを深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
第 6 回	中間報告会のパワーポイントを作成する ・これまでの活動をまとめ、今後の方向性を示す ・他者からの指摘を受け、後半の活動計画、目的を見直す	成果物を仕上げる (90)
第 7 回	フィールドワークの中間報告会 ・これまでの活動の中間報告をする ・他者からの指摘を受け、今後の計画や目的を修正する	課題の取組に関するふりかえり (90) 成果物のブラッシュアップ (90)
第 8 回	文献検索および文献入手 設定したテーマに関する文献を検索する 【課題 2】提出	課題の取組に関するふりかえり (90)
第 9 回	フィールドワークの実施 (学外活動) ・各自の目的を意識して地域活動に参加する ・終了後に活動記録を書く	成果物のブラッシュアップ (90)
第 10 回	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ※グループワークと個別ワークで学びを深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
第 11 回	テキストクリティーク① 文献を読み込み、整理した内容をグループで共有する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
第 12 回	テキストクリティーク② 文献を読み込み、整理した内容をグループで共有する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
第 13 回	フィールドワークの最終発表会に向けてポスターを作成する ・これまでの活動をまとめる ・プレゼンテーションの仕方を工夫する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
第 14 回	活動の最終発表会 ・フィールドワーク関係者に向けて、これまでの活動の報告をする (予定) ・他者からの評価を受け、グループと個人の今後の課題を検討する	課題の取組に関するふりかえり (90) 成果物のブラッシュアップ (90)

第 15 回	授業のまとめ ふりかえりシート【課題 5】の作成と提出	課題の取組に関するふりかえり (90) 成果物のブラッシュアップ (90)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A54	2.科目名	専門演習Ⅱ（教育福祉 4/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	2 年生で履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでは1 年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上をねらいとします。 2 年生ゼミでは、1 年間の共通テーマを「地域で安心した生活ができるまちづくり」に設定しています。地域住民の暮らしに着目し、フィールドワークを通して、その人たちの声/語りをともに、人々にとっての well-being や安全・安心について検討していきます。具体的には、尼崎市から委託を受けて、本学学生と尼崎市が共同で福祉実践を行います。 専門演習Ⅱ（秋学期）では、高齢者等の地域住民への見守り活動や障害者、子育て世帯等の孤立を防ぎ、つながりをつくる活動に積極的に参加し、地域住民の安全・安心な暮らしを支える支援の在り方を体験的に学びます。また、そこで得られたデータ等を分析し、まとめて発表することができる専門的技術を獲得していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	<学習目標> 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①フィールドワークを通して、地域のニーズを抽出できる。 ②孤立を防ぎ、つながりをつくるための計画を立て実行できる。 ③テーマに関する先行研究を収集し、要約できる。 ④ ①②③を踏まえて、フィールドワークの経験を整理し、説明できる。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	【課題 1】活動記録（フィールドワーク）と質的分析シート 25％_学習目標①に対応 ・専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱにて行った地域活動を毎回記録して提出する。 【課題 2】文献シート 15％_学習目標③に対応 ・自身が設定したテーマに関連する文献を 5 つ収集し、テキストクリティークを行う。 【課題 3】「MY 活動冊子」 30％ 学習目標①②④に対応 ・専門演習Ⅰにて作成している「MY 活動冊子」を完成させる。 ・内容には、地域活動をどのように行っていたのかを示し（活動記録のまとめ）、それに関連する先行研究を含める。 ・他					
22.コメント	1. この科目は「インターンシップⅡ」（春学期集中 尾崎慶太）と関連して進めています。 2. 地域住民の見守り活動やつながりづくりの支援活動の日程は、尼崎市や町会との調整が必要なため授業開始後に皆さんの予定も聞きながら調整していきます。 <生成 AI の利用について> 生成 AI 利用：条件付きで認める ＊レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。					
23.オフィスアワー	月曜・木曜の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	1. 授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと）。 2. グループごとに、夏期休業期間中に実施した活動を整理する。	※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 ○課題について情報収集しておく（180）
第 2 回	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ・今後の活動目的を設定する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 3 回	活動計画を立てる ・計画に対するブレインストーミング ・グループ別に今後の計画を発表する。	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 4 回	フィールドワークの実施（学外活動） ・各自の目的を意識して地域活動に参加する ・終了後に活動記録を書く	課題の取組に関するふりかえり（90）
第 5 回	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ・次回の活動の目的をたてる。 ※グループワークと個別ワークで学びを深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 6 回	中間報告会のパワーポイントを作成する ・これまでの活動をまとめ、今後の方向性を示す ・他者からの指摘を受け、後半の活動計画、目的を見直す	成果物を仕上げる（90）
第 7 回	フィールドワークの中間報告会 ・これまでの活動の中間報告をする ・他者からの指摘を受け、今後の計画や目的を修正する	課題の取組に関するふりかえり（90） 成果物のブラッシュアップ（90）
第 8 回	文献検索および文献入手 設定したテーマに関する文献を検索する 【課題 2】提出	課題の取組に関するふりかえり（90）
第 9 回	フィールドワークの実施（学外活動） ・各自の目的を意識して地域活動に参加する ・終了後に活動記録を書く	成果物のブラッシュアップ（90）
第 10 回	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ※グループワークと個別ワークで学びを深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 11 回	テキストクリティーク① 文献を読み込み、整理した内容をグループで共有する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 12 回	テキストクリティーク② 文献を読み込み、整理した内容をグループで共有する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 13 回	フィールドワークの最終発表会に向けてポスターを作成する ・これまでの活動をまとめる ・プレゼンテーションの仕方を工夫する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）

第 14 回	活動の最終発表会 ・フィールドワーク関係者に向けて、これまでの活動の報告をする（予定） ・他者からの評価を受け、グループと個人の今後の課題を検討する	課題の取組に関するふりかえり（90） 成果物のブラッシュアップ（90）
第 15 回	授業のまとめ ふりかえりシート【課題 5】の作成と提出	課題の取組に関するふりかえり（90） 成果物のブラッシュアップ（90）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y51	2.科目名	専門演習Ⅱ（社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 異なる文化をもった人々（異なる考え方や異なる利害を持ち合わせた人々）が、同じ場所（同じ町で、同じ学校や会社で、同じ公共施設やお店、交通機関を使って…）うまく暮らすにはどうすればよいのか。すなわち多様な人々が多様なまま共生できる社会を実現するにはどうすればよいのか。それを考えるゼミです。					
	【概要】 ? A. 共生に関する自由研究（個人テーマ） 「共生」という大きなテーマのもと、ひとりひとり具体的なテーマを選び、調べ、考えてもらいます。重めのテーマ（移民との共生、性的少数者との共生、障害のある人との共生、家庭内の共生…）から、身近なテーマ（一般学生と留学生とのより楽しい共生、若者と高齢者の共生、観光客と地元民の共生…）、さらには生き物との共生（ノラネコとの共生、クマとの共生、外来生物との共生…）など、共生に少しでも関係していればどんなテーマでも構いません。調べたこと、考えたことは、できるだけたくさんの人に見てもらえるよう、写真を使ったマンガ形式（春学期）や、ウェブマガジンの形式（秋学期）でまとめてもらいます。					
	? B 1. 商店街で共生を考える（全体テーマ1） 大学の近くにある宇治川商店街は、周辺でマンション建設が進み、若い家族層が増えているのに、その新しい住民が古くからある商店街に来てくれないという悩みをかかえています。このゼミでは子供たちを呼べるような楽しいイベントを企画・実施することで、その家族ごと商店街に来てもらう機会を作ろうと考えています。地域活性化と同時に、新しい住民と古くからの住民の共生を目指す活動です。					
	? B 2. 地域ネコから共生を考える（全体テーマ2） ノラネコを保護して不妊治療をしたり、譲渡会を開いて里親を探したり、決まった場所で食事をさせたりする「地域ネコ」の活動が、神戸は特に盛んな街です。NPO 法人「神戸ねこネット」や、通販ショップフェリシモ（本社は神戸、社内に「ねこ部」あり）、神戸市生活衛生課の「ねこ共生係」などの人たちと連携しながら、地域ネコの活動に参加し、人とネコが共生できる町を考えていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	? B 3. ニュースレビューと文献講読（全体テーマ3） 毎回2～3人ずつ、共生に関するニュースを探して、その紹介をしてもらいます。適切な文献があれば、それをみんなで手分けして読んでいきます。					
	学習目標①地域文化や地域活性化について、基本的な知識や論点を説明できる					
	学習目標②自分の考えを説得力のあるデータを示しながら伝えることができる					
	学習目標③イベント運営やコンテンツ作成などに、自主的に、かつ他のゼミ生と協調しながら取り組むことができる					
19.教科書・教材	この授業の学習目標は DP の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					

20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。	
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・個人テーマの完成度（企画力、取材力、文章力、レイアウトや画像処理の能力）……50 点（学習目標①②に対応） ・全体テーマ（イベントや共同作業、討論など）における積極性（ゼミの一員としての取り組み）……50 点（学習目標③に対応）	
22.コメント		
23.オフィスアワー	火曜 3 限目（学修支援センター）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	ガイダンス	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 2 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 3 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 2（保護ネコ）に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 4 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 5 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 2（保護ネコ）に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 6 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 7 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 2（保護ネコ）に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 8 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 9 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 2（保護ネコ）に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 10 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 11 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 2（保護ネコ）に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 12 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 13 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 2（保護ネコ）に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 14 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 15 回】	個人テーマ発表と総括	終わらなかった作業の持ち帰り

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y52	2.科目名	専門演習Ⅱ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 情報系の資格取得対策を通じて、データサイエンスの基本的な知識・技術を獲得する。 ICT(情報通信技術)に関する発表・討論を通じて、ICT についての可能性や課題についての理解を深める。 【概要】 ・「IT パスポート試験」等の対策テキストを活用し、資格取得に必要な知識や操作方法を修得する。 ・毎回数名ずつ、ICT と社会に関する話題について調べたことを発表する。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標 ①資格に関する基本事項を説明でき、必要な操作ができる。 ②要点を的確にまとめて発表することができる。 ③他人の発表を聞き、質問およびコメントすることができる。 この授業の学習目標は DP の (4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	授業中に指示します。					
20.参考文献						
21.成績評価	ゼミノートの記入(毎回の授業の内容、理解したこと、今後の課題など) 40 点 [学習目標①に対応] 発表 30 点 [学習目標②に対応] 総括レポート 30 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室：金曜 3 限、学習支援センター：金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			ゼミノート		
第 3 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 3 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 4 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 5 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 6 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 7 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 8 回	[前半] 発表・討論			ゼミノート		

	[後半] 資格取得対策演習	
第 9 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 10 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 11 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 12 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 13 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 14 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 15 回	まとめ	ゼミノート、総括レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y53	2.科目名	専門演習Ⅱ（社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習または、課題研究を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ゼミの年間テーマ：＜メディア文化の社会学＞ 文化作品の受容やメディアを通じたコミュニケーションをテーマとして、メディアリテラシーや批判力を養う。それらをテーマに質的調査・量的調査の技能を活かした調査及び調査設計を行う。 文献購読により、研究テーマを見つける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(1)健やかで調和のとれた人格と、しなやかなで豊かな知性を自ら形成できる人間性、(2)主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力、(3) 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力。の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ① ポピュラー文化に関する歴史や最近の動向を知り、議論することができる。 ② メディアの利用実態を把握し、メディアリテラシーを向上させることができる。 ③ ゼミでの議論や、データの分析、フィールドワークでの経験をつうじて、自身の卒業論文の執筆テーマを見つけることができる。身近なところに課題を発見し、解決することができる。					
19.教科書・教材	大久保遼 （2023）『これからのメディア論』有斐閣					
20.参考文献						
21.成績評価	授業への積極的な参加姿勢態度（30％） [学習目標①②に対応] 口頭発表（40％） [学習目標①②③に対応] レポート（30％） [学習目標③に対応]					
22.コメント	報告に対しては主に口頭でフィードバックをおこなう。質問は常時受け付けるので積極的に発言すること。 夏休みには個人研究を行い、後期のはじめに報告会を行うことを予定している。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	研究報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）		
【第 2 回】	研究報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）		

		分)
【第 3 回】	研究報告	準備学習：報告資料をまとめる（100 分） 復習：プロジェクトの実行計画を立てる（100 分）
【第 4 回】	研究報告	準備学習：予備調査を行う（100 分） 復習：資料をまとめる（100 分）
【第 5 回】	文献購読	準備学習：予備調査を行う（100 分） 復習：資料をまとめる（100 分）
【第 6 回】	文献購読	準備学習：報告資料をまとめる（100 分） 復習：プロジェクトの実行計画を立てる（100 分）
【第 7 回】	文献購読	準備学習：調査結果をまとめる（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 8 回】	文献購読	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 9 回】	文献購読	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 10 回】	文献購読	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 11 回】	文献購読	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 12 回】	期末レポート計画発表	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 13 回】	期末レポート計画発表	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100 分）
【第 14 回】	期末レポート報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100 分）

		復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
【第 15 回】	期末レポート報告	準備学習：報告資料をまとめる（100 分） 復習：プロジェクトの評価を行う（100 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y56	2.科目名	専門演習Ⅱ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：社会的耳目を集めた事件や事故、ネット空間における問題点等を題材として、情報の収集と分析、グループ討議、プレゼンテーション、レポートの作成を通して、物事、自己の主張を他者に正しく表現し、伝えるスキルを身に付けることを目的とします。 概要：各班においてテーマを選定し、情報検索、発表案（プレゼン資料、読み原稿等）、レポートの作成及び発表を行います。 ※各回ノートパソコンを持参して下さい 初回にグループ分けを実施しますので、必ず出席してください。					
18.学習目標とDPとの関連	DPの(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ① 多様な情報源から必要かつ信頼できる情報を収集し、分類することができる ② 必要な情報を自分の主張の裏付けとして活用することができる ③ 決められた条件の中で知見や考えを表現することができる ④ 他者の発言の論点を理解したうえで自己の意見を示すことができる ⑤ 犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教	特にありません					

科 書・ 教材		
20.参 考文 献	適宜紹介します。	
21.成 績評 価	・ テーマレポート 60% 学習目標①、②、⑤に対 応 ・ プレゼンテーション 20% 学習目標③に対 応 ・ ディスカッションにおける質疑・発言 20% 学習目標④に対応	
22.コ メン ト	生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但し、レポート作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。	
23.オ フィ スア ワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み	
24.授 業 回 数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ オリエンテーション：演習の内容と進め方に関する説明 ・ 班編成 ・ 意見聴取、要望・質疑等	ノートパソコンを持参して下さい
第 2 回	第 1 回 論文作成 ・ ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各自テーマを選定し、事実認定、対策の検討、論文の作成を行う ・ テーマの選定（導き出す結論の方向性） ・ 情報の収集	各自が論文作成テーマ候補を選定し、考えをまとめておくこと
第 3 回	・ ディスカッション、グループワーク 発表案・論文作成 論文構成の組み立て	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 4 回	・ ディスカッション、グループワーク 発表案・論文作成 論文構成の組み立て 論文作成	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 5 回	・ グループワーク 論文の執筆・発表案の作成 第 6 回授業で提出	発表に備え、役割分担の確認、論文の推敲を行うこと
第 6 回	研究発表 ・ プレゼンテーション 各自論文をもとに短時間（5 分程度）でパワーポイントを使用した発表を行う（結論部分は全員がそれぞれ発表）	論文の要旨を簡潔にまとめたパワーポイント資料を作成しておくこと 各班代表者は WebClass に資料を掲載しておくこと 授業終了後、各自レポートを提出
第 7	第 2 回 論文作成	各自が論文作成テーマ候補を選定し、考えをまと

回	・ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各自テーマを選定し、事実認定、対策の検討、論文の作成を行う ・テーマの選定（導き出す結論の方向性） ・情報の収集	めておくこと
第 8 回 11/20	キャリア教育① 11/22 1 限 ウイークリーアワーの時間に実施 ゼミ の振替	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 9 回	・ディスカッション、グループワーク 発表案・論文作成 論文構成の組み立て	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 10 回	・グループワーク 論文の執筆・発表案の作成 論文作成 ・第 13 回、14 回授業で発表	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 11 回 12/1	3 年ゼミエントリー合同説明会 12/13 1 限 ウイークリーアワーの時間に実施 ゼミの 振替	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 12 回 12/18	キャリア教育② 12/20 1 限 ウイークリーアワーの時間に実施 ゼミ の振替	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 13 回	研究発表 ・プレゼンテーション 各自論文をもとに 10 分間の持ち時間でパワーポイントを使用した発表を行う（半数）	論文の要旨を簡潔にまとめたパワーポイント資料を作成しておくこと 各班代表者は WebClass に資料を掲載しておくこと 他犯の資料を確認し、問題点等を検討しておくこと 授業終了後各自レポートを提出
第 14 回	研究発表 ・プレゼンテーション 各自論文をもとに 10 分間の持ち時間でパワーポイントを使用した発表を行う（半数）	論文の要旨を簡潔にまとめたパワーポイント資料を作成しておくこと 各班代表者は WebClass に資料を掲載しておくこと 他犯の資料を確認し、問題点等を検討しておくこと 授業終了後各自レポートを提出
第 15 回	○ 統括、まとめ 本演習を通して疑問点や課題について討議を行い、問題・課題解決をはかる 第 13 回、14 回で未発表者は発表	各自自らの総括を行い、反省点・改良点等をまとめておくこと

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y57	2.科目名	専門演習Ⅱ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 (クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	専門演習Ⅰに引き続き、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身に着けることを目的とする。 この演習では、心理学の研究が世の中でどのような役割を持っており、学ぶことで何が得られるのか理解し、説明することができるようになることを目指す。また、ディスカッションや専門書の輪読、プレゼンテーション、ライティングを通して科学的な思考法の基盤を作る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性 (4) 課題発見・解決力 (6) 専門的知識・技術の活用力の学修に関連しています。 専門演習Ⅰで検討した内容に関連する書籍や学術論文などを読むことでより理解を深める。また、資料をまとめ、発表する技術を身に着ける。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 発表 50% 2. 発表資料の提出 10% 3. 討議への参加 20% 4. 最終レポート 20%					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める (得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要) ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、発表順の決定 文献検索法の確認及び紹介					
第 2 回	文献発表①					
第 3 回	文献発表②					
第 4 回	文献発表③					
第 5 回	文献発表④					
第 6 回	文献発表⑤					
第 7 回	文献発表⑥					
第 8 回	文献発表⑦					
第 9 回	キャリア合同ガイダンス (ウィークリーアワー) に実施					
第 10 回	3 年ゼミ選択説明会 (ウィークリーアワー) で実施					
第 11 回	文献発表⑧					
第 12 回	文献発表⑨					

第 13 回	文献発表⑩	
第 14 回	最終レポートについて	
第 15 回	振り返りとまとめ	最終レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y58	2.科目名	専門演習Ⅱ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	専門演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 興味や関心のあるテーマについて研究の進め方を学ぶ。 特に、実験法に関する知識と技術を重点的に習得する。					
	【概要】 春学期学んだことを踏まえて、グループで研究活動を行う。 研究計画の作成、実験や調査の実施準備、データ収集、データ分析、レポート執筆 といった一連の流れを経験する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)興味や関心のあるテーマについて、専門的内容を説明できるようになる (2)他者の発表に対して、疑問点を質問できるようになる					
	【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (2)社会的貢献性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	文献検索により論文を入手する。					
20.参考文献						
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度を総合的に評価） (2)発表評価 20% (3)レポート 30%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション					
【第 2 回】	研究計画の立案（1）			発表準備		
【第 3 回】	研究計画の立案（2）			発表準備		
【第 4 回】	研究計画の発表			発表準備		
【第 5 回】	研究計画の修正			発表準備		
【第 6 回】	実験準備（1）			発表準備		
【第 7 回】	実験準備（2）			発表準備		
【第 8 回】	実験準備（3）			発表準備		
【第 9 回】	実験実施（1）			発表準備		
【第 10 回】	実験実施（2）			発表準備		
【第 11 回】	データ分析（1）			発表準備		

【第 12 回】	データ分析（2）	発表準備
【第 13 回】	発表準備（1）	発表準備
【第 14 回】	発表準備（2）	発表準備
【第 15 回】	発表会	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y60	2.科目名	専門演習Ⅱ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習形式 (個人での発表と討議中心)	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	犯罪に関するテーマについて調べて発表し、全体で討議する 犯罪を題材として、社会の問題点を発見し、問題解決能力を身に着ける					
18.学習目標と DPとの関連	以下に示すような内容から、各自で選んで発表テーマを決める 1 犯罪心理学の主要理論 なぜ、人は罪を犯すのか 絆論、ルーチンアクティビティ理論、割れ窓理論 2 罪種別の発表テーマ 無差別大量殺人、特殊詐欺と闇バイト、性犯罪、薬物依存 3 犯罪に関する職業別テーマ 警察官・少年補導員・科捜研研究員 (ポリグラフ、プロファイリング)、法務教官・法務技官、児童自立支援職員、家庭裁判所調査官、保護観察官、児童相談所職員 (児童心理司、児童福祉司)、 4 犯罪者のパーソナリティに関する発表テーマ 犯罪者に多い性格特性、暴力性と攻撃性、パーソナリティ障害、クレプトマニア (窃盗症)、小児性愛 (ペドフェリア) 6 法律と犯罪に関するテーマ 懲役刑と拘禁刑、少年法の厳罰化と特定少年の実名公開、死刑判決の基準、精神鑑定と責任能力、犯罪報道と人権、被害者支援 7 その他の 非行少年の更生、児童虐待と児童相談所、カスタマーハラスメント、カルト宗教とマインドコントロール、テロ事件対策					
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・個人での発表 40% : プレゼンテーションを作成し口頭発表 ・指定討論者としての質問 20% : 特定の発表について第一質問者となる ・全体討議への参加 20% : webclass で質問やコメント ・最終レポート (webclass) 20% : 発表した資料の要約を提出 ・実験参加 : 生理反応を測定する卒業研究、学会発表に向けた実験に参加したものには 1 回につき、若干の加点をする					
22.コメント	(1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c. 専門知識 + 自分の考え 前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y62	2.科目名	専門演習Ⅱ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身につけることを目的とする。 具体的には心理学に親しみ、論文を読み解き、hand out を作成すること、質問紙調査を実施し、心理学統計に親しみ、レポートを作成することを通して、論文作成スキルを身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①自分の興味に沿った心理学の領域を見つけることができる。 ②質問紙構成について理解する。 ③質問紙実施結果を基に心理学統計分析を行う。 ④心理学統計結果を報告書にまとめる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。ノートパソコンを毎回持参すること。					
20.参考文献	適宜、紹介します。					
21.成績評価	①質問紙調査・・・30 点 (学習目標①に対応) ②関心のあるテーマの hand out 作成と発表・・・30 点 (学習目標②に対応) ③レポート(中間と総括)・・・40 点 (学習目標③に対応)					
22.コメント	自分の力を信じて、進みましょう。わからないことは、いろいろな人に助けてもらいましょう。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	評価と実践Ⅰ第 17 回 (リフレクションワーク) 評価と実践Ⅰシラバス参照			PC,シラバス		
2	基礎学力診断テスト 評価と実践Ⅰシラバス参照			PC、Web Class にまとめましょう。		
3	病跡学とは			PC、Web Class にまとめましょう。		
4	質問紙法とは			PC、Web Class にまとめましょう。		
5	質問紙法実施			PC、Web Class にまとめましょう。		
6	質問紙実施後の集計法			PC、Web Class にまとめましょう。		
7	評価と実践Ⅰ第 18 回 (学修成果サマリ作成) 評価と実践Ⅰシラバス参照			PC、Web Class にまとめましょう。		
8	心理検査レポート作成			PC、Web Class にまとめましょう。		
9	評価と実践Ⅰ第 19 回 (「KUISs 学びのショーケース」 発表、成績評価について説明) 評価と実践Ⅰシラバス参照			PC、Web Class にまとめましょう。		
10	関心のある社会的問題を見つけ、Handout を作成			PC、Web Class にまとめましょう。		
11	関心のある社会的問題を見つけ、Handout を作成			PC、Web Class にまとめましょう。		
12	関心のある社会的問題を見つけ、Handout を作成、話			PC、Web Class にまとめましょう。		

	合い	
13	関心のある社会的問題を見つけ、Handoutを作成、話し合い	PC、Web Class にまとめましょう。
14	関心のある社会的問題を見つけ、Handoutを作成、話し合い	PC、Web Class にまとめましょう。
15	評価と実践Ⅰ第20回（ポートフォリオ表彰、2秋のふりかえり） 評価と実践Ⅰシラバス参照	PC、Web Class にまとめましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-Y51	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 本科目は、『PBL (Project-based Learning または Problem-based Learning：課題解決型学習)』と呼ばれる学習法をつかって、企業や自治体、地域社会の問題の解決に『チーム』として協働して取り組むことを通じて、これまで学んできた知識や技術を『統合的に活用する力』を強化することにあります。 課題解決に共同しながら取り組む過程で、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析の手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」、「他者への理解や共感」、「プレゼンテーション力」を強化しながら、自分自身に不足する知識やスキルを把握し、自ら進んでそれらの知識やスキルをおぎない成長するマインドを身につけます。					
	【授業概要】 秋学期は、「観光業界の課題を分析し、課題の解決につながるアイデアを考える」というテーマで PBL 学習を進めます。ゼミ内で希望する業界ごとにグループに分かれて、それぞれの業界分野の現状と課題を把握し、社会経済の変化やニーズの分析を踏まえて、課題の解決につながる新しいアイデアを提案してください。					
	具体的には、①観光業界の現状と課題の整理、②社会経済の変化・ニーズの調査・分析、③具体的なアイデアの作成、④プレゼンテーションの実施、⑤振り返り、というステップで進めていきます。					
18.学習目標と DP との関連	『学習目標』 (1)十分な情報収集と的確な分析により、現状の「問題」を把握し、さらにその本質的な「課題」を特定できる。 (2)「課題」の解決策を検討するうえで、学んだ知識や技能を統合的に活用することができる。 (3)チームの作業分担のなかで自己の役割を理解し、チームとしての成果を高めるための行動をとることができる。 (4)的確でわかりやすく考えを伝えるプレゼンテーション資料の作成ができる。					
	『学習目標と DP との関連』 授業では、企業や地域社会との連携によるプロジェクトマネジメントへのグループワークとしての取り組みを通じて、チーム内でのコミュニケーション能力、多様性の理解、課題発見・対応力、専門知識とスキルの活用力、ビジネスマナーなどの修得を目指すことになる。 ・授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連している。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配布・提示する。					
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。					

	①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30% ②調査・グループワークでのワークシート作成およびアイデア発表：50% ③本科目での活動や学びの振り返り（eポートフォリオへの記事掲載：2本）：20%	
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取り組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PCは毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースやOfficeの機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。 企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。	
23.オフィスアワー	火曜日昼休み 研究室 3310	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	オリエンテーション： ■ 授業の目的と進め方 ■ 春学期のふりかえり	シラバスを事前に読んでおくこと。
【第2回】	キャリア形成に向けての準備 ① ・キャリア支援課担当者を迎えてのキャリア学習	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第3回】	■ キャリア形成に向けての準備 ② ・キャリア支援課担当者を迎えてのキャリア学習	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第4回】	<外部講師講義①> 3回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第5回】	<外部講師講義②> 3回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第6回】	<外部講師講義③> 3回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる

【第7回】	<PBL 型学習>事前学習① ゼミ内で業界ごとにグループに分かれ、以下の学修を行う ■各業界の現状の調査 ■各業界の問題の整理・分析	課題：各業界の現状について調べてくる。 ノート PC 持参
【第8回】	<PBL 型学習>事前学習② ゼミ内で業界ごとにグループに分かれ、以下の学修を行う ■各業界の問題の整理・分析 ■問題の本質となる課題の抽出	課題：各業界の「問題」は、どうして発生しているのか。その原因について考えをまとめてくる。 ノート PC 持参
【第9回】	<PBL 型学習>事前学習③ グループに分かれ、 ・現在の社会経済の動向 ・人々のニーズの分析 ・最近のビジネスの成功事例の調査 等 を行います。	課題：最近、話題になっているビジネスについて、成功の理由を調べてくる。 PC 持参
【第10回】	<PBL 型学習>解決策の検討① グループごとに、業界の課題の解決につながるアイデアの検討を行います。 ・取り組む「問題」とその本質的な「課題」の選択 ・「課題」の深掘り：情報収集と分析 等	課題：自分が注目する「課題」について、さらに深く調べてくる。 PC 持参
【第11回】	<PBL 型学習>解決策の検討① グループごとに、業界の課題の解決につながるアイデアの検討を行います。 ・「課題」の深掘り：情報収集と分析 ・解決策の検討と取りまとめ 等	課題：「課題」の解決につながりそうな情報や自分なりのアイデアをまとめてくる。 PC 持参
【第12回】	<PBL 型学習>事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 PC 持参
【第13回】	<PBL 型学習>事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 PC 持参
【第14回】	■学年全体で、分野ごとに分かれてアイデアのプレゼンテーション	発表の際に必要なこと・大切なことについて調べてくる PC 持参
【第15回】	PM 演習Ⅱのふりかえり	合同ゼミ実施 PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-Y52	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 本科目は、『PBL (Project-based Learning または Problem-based Learning：課題解決型学習)』と呼ばれる学習法をつかって、企業や自治体、地域社会の問題の解決に『チーム』として協働して取り組むことを通じて、これまで学んできた知識や技術を『統合的に活用する力』を強化することにあります。 課題解決に共同しながら取り組む過程で、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析の手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」、「他者への理解や共感」、「プレゼンテーション力」を強化しながら、自分自身に不足する知識やスキルを把握し、自ら進んでそれらの知識やスキルをおぎない成長するマインドを身につけます。					
	【授業概要】 秋学期は、「観光業界の課題を分析し、課題の解決につながるアイデアを考える」というテーマで PBL 学習を進めます。ゼミ内で希望する業界ごとにグループに分かれて、それぞれの業界分野の現状と課題を把握し、社会経済の変化やニーズの分析を踏まえて、課題の解決につながる新しいアイデアを提案してください。					
	具体的には、①観光業界の現状と課題の整理、②社会経済の変化・ニーズの調査・分析、③具体的なアイデアの作成、④プレゼンテーションの実施、⑤振り返り、というステップで進めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習目標』 (1)十分な情報収集と的確な分析により、現状の「問題」を把握し、さらにその本質的な「課題」を特定できる。 (2)「課題」の解決策を検討するうえで、学んだ知識や技能を統合的に活用することができる。 (3)チームの作業分担のなかで自己の役割を理解し、チームとしての成果を高めるための行動をとることができる。 (4)的確でわかりやすく考えを伝えるプレゼンテーション資料の作成ができる。					
	『学習目標と DP との関連』 授業では、企業や地域社会との連携によるプロジェクトマネジメントへのグループワークとしての取り組みを通じて、チーム内でのコミュニケーション能力、多様性の理解、課題発見・対応力、専門知識とスキルの活用力、ビジネスマナーなどの修得を目指すことになる。 ・授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連している。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配布・提示する。					
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。					

	①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30%（学習目標との対応：1、2、4） ②調査・グループワークでのワークシート作成およびアイディア発表：50%（学習目標との対応：1、2、3、4） ③本科目での活動や学びの振り返り（e ポートフォリオへの記事掲載：2本）：20%（学習目標との対応：1、4）	
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取り組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。 企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。 【生成 AI について】 生成 AI の利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成 AI で作成したものをそのまま使用することは認めません。 発覚した場合は相応のペナルティを課します。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み@学修支援センター 水曜 3 限@研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション： ■ 授業の目的と進め方 ■ 春学期のふりかえり	シラバスを事前に読んでおくこと。
【第 2 回】	キャリア形成に向けての準備 ① ・キャリア支援課担当者を迎えてのキャリア学習	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 3 回】	■ キャリア形成に向けての準備 ② ・キャリア支援課担当者を迎えてのキャリア学習	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 4 回】	<外部講師講義①> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 5 回】	<外部講師講義②> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる

【第 6 回】	<外部講師講義③> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 7 回】	<PBL 型学習> 事前学習① ゼミ内で業界ごとにグループに分かれ、以下の学修を行う ■各業界の現状の調査 ■各業界の問題の整理・分析	課題：各業界の現状について調べてくる。 ノート PC 持参
【第 8 回】	<PBL 型学習> 事前学習② ゼミ内で業界ごとにグループに分かれ、以下の学修を行う ■各業界の問題の整理・分析 ■問題の本質となる課題の抽出	課題：各業界の「問題」は、どうして発生しているのか。その原因について考えをまとめてくる。 ノート PC 持参
【第 9 回】	<PBL 型学習> 事前学習③ グループに分かれ、 ・現在の社会経済の動向 ・人々のニーズの分析 ・最近のビジネスの成功事例の調査 等 を行います。	課題：最近、話題になっているビジネスについて、成功の理由を調べてくる。 PC 持参
【第 10 回】	<PBL 型学習> 解決策の検討① グループごとに、業界の課題の解決につながるアイデアの検討を行います。 ・取り組む「問題」とその本質的な「課題」の選択 ・「課題」の深掘り：情報収集と分析 等	課題：自分が注目する「課題」について、さらに深く調べてくる。 PC 持参
【第 11 回】	<PBL 型学習> 解決策の検討① グループごとに、業界の課題の解決につながるアイデアの検討を行います。 ・「課題」の深掘り：情報収集と分析 ・解決策の検討と取りまとめ 等	課題：「課題」の解決につながりそうな情報や自分なりのアイデアをまとめてくる。 PC 持参
【第 12 回】	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 PC 持参
【第 13 回】	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 PC 持参
【第 14 回】	■学年全体で、分野ごとに分かれてアイデアのプレゼンテーション	発表の際に必要なこと・大切なことについて調べてくる PC 持参
【第 15 回】	PM 演習Ⅱのふりかえり	合同ゼミ実施 PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-Y53	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 本科目は、『PBL (Project-based Learning または Problem-based Learning：課題解決型学習)』と呼ばれる学習法をつかって、企業や自治体、地域社会の問題の解決に『チーム』として協働して取り組むことを通じて、これまで学んできた知識や技術を『統合的に活用する力』を強化することにあります。 課題解決に共同しながら取り組む過程で、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析の手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」、「他者への理解や共感」、「プレゼンテーション力」を強化しながら、自分自身に不足する知識やスキルを把握し、自ら進んでそれらの知識やスキルをおぎない成長するマインドを身につけます。 【授業概要】 秋学期は、「観光業界の課題を分析し、課題の解決につながるアイデアを考える」というテーマで PBL 学習を進めます。ゼミ内で希望する業界ごとにグループに分かれて、それぞれの業界分野の現状と課題を把握し、社会経済の変化やニーズの分析を踏まえて、課題の解決につながる新しいアイデアを提案してください。 具体的には、①観光業界の現状と課題の整理、②社会経済の変化・ニーズの調査・分析、③具体的なアイデアの作成、④プレゼンテーションの実施、⑤振り返り、というステップで進めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習目標』 (1)十分な情報収集と的確な分析により、現状の「問題」を把握し、さらにその本質的な「課題」を特定できる。 (2)「課題」の解決策を検討するうえで、学んだ知識や技能を統合的に活用することができる。 (3)チームの作業分担のなかで自己の役割を理解し、チームとしての成果を高めるための行動をとることができる。 (4)的確でわかりやすく考えを伝えるプレゼンテーション資料の作成ができる。 『学習目標と DP との関連』 授業では、企業や地域社会との連携によるプロジェクトマネジメントへのグループワークとしての取り組みを通じて、チーム内でのコミュニケーション能力、多様性の理解、課題発見・対応力、専門知識とスキルの活用力、ビジネスマナーなどの修得を目指すことになる。 ・授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連している。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配布・提示する。					
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。					

	①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30% ②調査・グループワークでのワークシート作成およびアイディア発表：50% ③本科目での活動や学びの振り返り（e ポートフォリオへの記事掲載：2本）：20%	
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取り組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。 企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。 ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み@学修支援センター 水曜 3 限@研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション： ■ 授業の目的と進め方 ■春学期のふりかえり	シラバスを事前に読んでおくこと。
【第 2 回】	キャリア形成に向けての準備 ① ・キャリア支援課担当者を迎えてのキャリア学習	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 3 回】	■ キャリア形成に向けての準備 ② ・キャリア支援課担当者を迎えてのキャリア学習	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 4 回】	<外部講師講義①> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 5 回】	<外部講師講義②> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について学びます。	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第 6 回】	<外部講師講義③> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界での具体的な仕事と求める人材・能力等について	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる

	て学びます。	次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
【第7回】	<PBL 型学習> 事前学習① ゼミ内で業界ごとにグループに分かれ、以下の学修を行う ■各業界の現状の調査 ■各業界の問題の整理・分析	課題：各業界の現状について調べてくる。 ノート PC 持参
【第8回】	<PBL 型学習> 事前学習② ゼミ内で業界ごとにグループに分かれ、以下の学修を行う ■各業界の問題の整理・分析 ■問題の本質となる課題の抽出	課題：各業界の「問題」は、どうして発生しているのか。その原因について考えをまとめてくる。 ノート PC 持参
【第9回】	<PBL 型学習> 事前学習③ グループに分かれ、 ・現在の社会経済の動向 ・人々のニーズの分析 ・最近のビジネスの成功事例の調査 等 を行います。	課題：最近、話題になっているビジネスについて、成功の理由を調べてくる。 PC 持参
【第10回】	<PBL 型学習> 解決策の検討① グループごとに、業界の課題の解決につながるアイデアの検討を行います。 ・取り組む「問題」とその本質的な「課題」の選択 ・「課題」の深掘り：情報収集と分析 等	課題：自分が注目する「課題」について、さらに深く調べてくる。 PC 持参
【第11回】	<PBL 型学習> 解決策の検討① グループごとに、業界の課題の解決につながるアイデアの検討を行います。 ・「課題」の深掘り：情報収集と分析 ・解決策の検討と取りまとめ 等	課題：「課題」の解決につながりそうな情報や自分なりのアイデアをまとめてくる。 PC 持参
【第12回】	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 PC 持参
【第13回】	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 PC 持参
【第14回】	■学年全体で、分野ごとに分かれてアイデアのプレゼンテーション	発表の際に必要なこと・大切なことについて調べてくる PC 持参
【第15回】	PM 演習Ⅱのふりかえり	合同ゼミ実施 PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN205-A54	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ		3.単位数	4
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	秋編入留学生のみ受講できます					
17.授業の目的と概要	【目的】 1）これから始まる日本語による専門科目の学修やゼミ活動などにスムーズに適応するため、調査力やプレゼンテーション力を身につける。 2）日本の社会や伝統文化に対する知識を深める。 3）体験学習に必要な日本語の力を身につける。 4）自分自身のこれからのキャリアについて考えを深める。 【概要】 この授業では、キャンパスのある尼崎市や近隣の歴史や文化、そして、日本の伝統文化について、グループで文献を調べ、実際に街や施設に行ってみて見学をすることで学んでいきます。調べてわかったことは、ワークシートを使ってふりかえるほか、クラスの中で発表をします。授業期間中は、グループ発表や個人発表を課しますが、そのための発表資料の作成方法やふりかえりレポートの日本語等についても適宜指導を行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発?・解決?、（5）コミュニケーションスキル、（6）専?的知識・技能 の活?、の学修に関連しています。 具体的には、 （1）本学の学修環境（日本語による専門科目の学修やゼミ活動など）にスムーズに適応するために日本語でのプレゼンテーション力を身につける。 （2）キャンパスのある尼崎市や日本の伝統文化に関するテーマについて、グループまたは個人で学習し、その内容を理解するとともに他者にも説明できる。 （3）自分の目指すキャリアを定め、それを目指すにはどのようにしたらよいかができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	「にほんごで文化体験--ことばと文化でつながる」 村田 晶子（監修） アルク 2021 「留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション」 仁科 浩美、くろしお出版、2020					
21.成績評価	成績評価 事前学習のまとめ（個人） 5点×4回＝20点 （目標2に関係しています） ワークシート（個人） 5点×4回＝20点 （目標2、3に関係しています） パワーポイント（グループ） 5点×4回＝20点 （目標1に関係しています） 最終レポート 40点 （目標1、2に関係しています。） ※レポート、発表のルーブリックに基づいて評価する。 ※課題を提出し、すべての評価の合計が60点以上である場合に合格とする。					
22.コメント	★授業時間外学修 授業1コマ当たり、2時間の時間外学修（復習、予習）を行うことが求められます。 メディアライブラリー等を活用したり、生成AI利用もいてみましょう。利用は無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使、充実した時間を持ちましょう。 ★尼崎城など一部有料の施設があります。また、フィールドワークに行くときは、交通費が必					

		要になる場合もあります。 ★状況により、内容が変更になったり、テーマの順番が入れ替わる場合があります。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1週	第1回 ・オリエンテーション、アイスブレイク、授業マナー指導 第2回 キャリアについて考えよう（日本での就職、大学院進学）、ふりかえり、履修指導	第1週 課題：インタビュー項目について、Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第2週	第3回、第4回 「灘五郷について」 ・調査の手法 ・灘五郷についての調査、調査準備 ・インタビュー準備	第2週 課題：灘五郷についての文献調査を終わらせる。先輩へのインタビュー項目をWebclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第3週	第5回、6回 フィールドワーク 灘五郷酒造博物館および酒心館見学 ・日本での就職活動や仕事について先輩にインタビュー ・日本の酒造文化について、説明を聞く。 ・日本食を体験する。	第3週 課題：調査のふりかえり、Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第4週	第7回 調べたことのまとめ 第8回 発表の練習	第4週 課題：発表原稿を修正し、Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第5週	第9回 発表、尼崎の歴史について調査 第10回 尼崎の歴史について調査	第5週 終わらなかった部分を終わらせる。Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第6週	第11回 日本の伝統文化と尼崎の歴史について調べる 第12回 調査の計画を立てる	第6週 課題：調査の内容をまとめ、Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第7週	第13回 観光案内所と尼崎城見学 第14回 まとめ	第7週 課題：調査内容をまとめ、Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第8週	第15回 尼崎の歴史についてまとめる 第16回 発表	第8週 課題：フィールドワークのふりかえりシート作成。Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）
第9週	第17回 丹波市について調べる 第18回	第9週 課題：調べたことをまとめ、Webclass にアップロードする。（月曜日の23時59分まで）

	丹波市について調べる	
第 10 週	第 19 回 お礼状作成、体験のふりかえり 第 20 回 発表	第 10 週 課題：発表内容を整理し、PPT を Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 11 週	第 21 回 チームでフィールドワーク調査をしよう① 「計画を立てる」 第 22 回 チームでフィールドワーク調査をしよう② 「情報を集める」	第 11 週 課題：文献調査で終わらなかったところを終わらせ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 12 週	第 23 回 チームでフィールドワーク調査をしよう③ 「調査の質問を作る。」 第 24 回 チームでフィールドワーク調査をしよう④ 「調査の準備」	課題：調査準備で終わらなかったところを終わらせ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 13 週	第 25 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑤ 「現地調査」 第 26 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑥ 「現地調査」	課題：調査で分かったことをノートなどにまとめる。Webclass にアップロードする。(月曜 23 時 59 分まで)
第 14 週	第 27 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑦ 「調査結果の分析」 第 28 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑧ 「調査のまとめ」	課題：終わらなかったところを終わらせる。
第 15 週	第 29 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑨ 「発表」 第 30 回 全体のふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN205-A57	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ (編)		3.単位数	4
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年 (秋編入)	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	秋編入留学生のみ受講できます					
17.授業の目的と概要	【目的】 1) これから始まる日本語による専門科目の学修やゼミ活動などにスムーズに適応するため、調査力やプレゼンテーション力を身につける。 2) 日本の社会や伝統文化に対する知識を深める。 3) 体験学習に必要な日本語の力を身につける。 4) 自分自身のこれからのキャリアについて考えを深める。 【概要】 この授業では、キャンパスのある尼崎市や近隣の歴史や文化、そして、日本の伝統文化について、グループで文献を調べ、実際に街や施設に行ってみ学をすることで学んでいきます。調べてわかったことは、ワークシートを使ってふりかえるほか、クラスの中で発表をします。授業期間中は、グループ発表や個人発表を課しますが、そのための発表資料の作成方法やふりかえりレポートの日本語等についても適宜指導を行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP (ディプロマ・ポリシー) の (4) 問題発?・解決?、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専?的知識・技能 の活?、の学修に関連しています。 ・本学の学修環境 (これから始まる日本語による専門科目の学修やゼミ活動など) にスムーズに適応するためのプレゼンテーション力を身につける。 ・キャンパスのある尼崎市や日本の伝統文化に関するテーマについて、グループまたは個人で学習し、その内容を理解するとともに他者にも説明できる。 ・自分の目指すキャリアを定め、それを目指すにはどのようにしたらよいかわかる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	「にほんごで文化体験--ことばと文化でつながる」 村田 晶子 (監修) アルク 2021 「留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション」 仁科 浩美、くろしお出版、2020					
21.成績評価	成績評価 事前学習のまとめ (個人) 5 点×4 回= 2 0 点 ワークシート (個人) 5 点×4 回= 2 0 点 パワーポイント (グループ) 5 点×4 回= 2 0 点 最終レポート 4 0 点 ※レポート、発表のルーブリックに基づいて評価する。 ※課題を提出し、すべての評価の合計が6 0 点以上である場合に合格とする。					
22.コメント	★授業時間外学修 授業 1 コマ当たり、2 時間の時間外学修 (復習、予習) を行うことが求められます。 メディアライブラリー等を活用した、充実した時間を持ちましょう。 ★尼崎城など一部有料の施設があります。また、フィールドワークに行くときは、交通費が必要になる場合もあります。 ★状況により、内容が変更になったり、テーマの順番が入れ替わる場合があります。 生成 AI の利用については、課題、レポートなどでの使用は認めません。					

23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：火曜日 5 限 センタープログラム：水曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	第 1 回 ・オリエンテーション、アイスブレイク、授業マナー指導 第 2 回 キャリアについて考えよう（日本での就職、大学院進学）、ふりかえり、履修指導	第 1 週 課題：インタビュー項目について、Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 2 週	第 3 回、第 4 回 「灘五郷について」 ・調査の手法 ・灘五郷についての調査、調査準備 ・インタビュー準備	第 2 週 課題：灘五郷についての文献調査を終わらせる。先輩へのインタビュー項目を Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 3 週	第 5 回、6 回 フィールドワーク 灘五郷酒造博物館および酒心館見学 ・日本での就職活動や仕事について先輩にインタビュー ・日本の酒造文化について、説明を聞く。 ・日本食を体験する。	第 3 週 課題：調査のふりかえり、Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 4 週	第 7 回 調べたことのまとめ 第 8 回 発表の練習	第 4 週 課題：発表原稿を修正し、Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 5 週	第 9 回 発表、尼崎の歴史について調査 第 10 回 尼崎の歴史について調査	第 5 週 終わらなかった部分を終わらせる。Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 6 週	第 11 回 日本の伝統文化と尼崎の歴史について調べる 第 12 回 調査の計画を立てる	第 6 週 課題：調査の内容をまとめ、Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 7 週	第 13 回 観光案内所と尼崎城見学 第 14 回 まとめ	第 7 週 課題：調査内容をまとめ、Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 8 週	第 15 回 尼崎の歴史についてまとめる 第 16 回 発表	第 8 週 課題：フィールドワークのふりかえりシート作成。Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）
第 9 週	第 17 回 丹波市について調べる 第 18 回	第 9 週 課題：調べたことをまとめ、Webclass にアップロードする。（月曜日の 23 時 59 分まで）

	丹波市について調べる	
第 10 週	第 19 回 お礼状作成、体験のふりかえり 第 20 回 発表	第 10 週 課題：発表内容を整理し、PPT を Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 11 週	第 21 回 チームでフィールドワーク調査をしよう① 「計画を立てる」 第 22 回 チームでフィールドワーク調査をしよう② 「情報を集める」	第 11 週 課題：文献調査で終わらなかったところを終わらせ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 12 週	第 23 回 チームでフィールドワーク調査をしよう③ 「調査の質問を作る。」 第 24 回 チームでフィールドワーク調査をしよう④ 「調査の準備」	課題：調査準備で終わらなかったところを終わらせ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 13 週	第 25 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑤ 「現地調査」 第 26 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑥ 「現地調査」	課題：調査で分かったことをノートなどにまとめる。Webclass にアップロードする。(月曜 23 時 59 分まで)
第 14 週	第 27 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑦ 「調査結果の分析」 第 28 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑧ 「調査のまとめ」	課題：終わらなかったところを終わらせる。
第 15 週	第 29 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑨ 「発表」 第 30 回 全体のふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN205-M53	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ		3.単位数	4
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会にでると会社や組織で人と関わりながら仕事をしますが、特にチームで仕事をするのが多くなります。また、ルーティンワークとは別に、有期で（期限が決められていて）、ミッション（特別な目的）を与えられたプロジェクトに取り組むこともあります。この授業では、プロジェクトマネジメントに必要な基本的スキルを身につけます。 【概要】 以下の３つのプロジェクトを推進する。 ・ あじあん祭をマネジメントする「カンパニープロジェクト（物産展）」として参画する。 ・ 地元企業について知り、将来のキャリアプランを立てる。 ・ 地元企業の課題を見つける。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 次の３つです。 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。 【DP：卒業の認定に関する方針】 ○問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 ○コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。 ○専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配付します。					
20.参考文献	授業中に紹介します。					
21.成績評価	成績は、WebClas、eポートフォリオなどの提出データで評価します。 ・ 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 30％ ・ 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。20％ ・ 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。30％ ・ 総括レポート：秋学期の学びを統合化する 20％					
22.コメント	プロジェクトマネジメントは、チームワークとスケジュール管理が重要です。遊んでいる学生がいないように全員が前向きに参加することを前提とします。 地域と連携する機会に積極的に参加し、実践的な教育活動の成果とします。 なお、外部講師、学外活動のスケジュールにより、内容を変更することがあります。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回2回 (10/1)	Ⅰ 学年合同のオリエンテーション Ⅱ ゼミ別のオリエンテーション（面談スケジュールなど）	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
3回4回 (10/8)	Ⅰ ゼミ別のゼミ活動 Ⅱ 三木市企業説明会の事前学修（ゼミ別）：プレゼンの準備	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
5回6回 (10/15)	Ⅰ ゼミ別：三木市企業説明会に関する事前学修のプレゼン Ⅱ 学年合同：三木市企業説明会に関する事前学修のプレゼン	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
7回8回 (10/22)	学年合同（ⅠとⅡの連続） 「三木市企業説明会」 （前日の事前準備と、当日の後片付けを含む）	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
9回10回 (10/29)	Ⅰ 学年合同：三木市企業説明会の振り返り（記事投稿を含む） Ⅱ ゼミ別のゼミ活動	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
11回12回 (11/5)	Ⅰ ゼミ別のゼミ活動 Ⅱ ゼミ別のゼミ活動	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
13回14回 (11/12)	Ⅰ&Ⅱ：学年合同：「あじあん祭」の準備、事前学修「物産展」など	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
15回16回 (11/16,17)	11/16（土）、11/17（日）：「あじあん祭」当日「物産展」など。 （事前準備と、後片付けを含む） 【代休】11/19（火）1限、2限。1/21（火）1限、2限。	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：以下、各回共通＞
17回18回 (11/26)	Ⅰ 学年合同：「あじあん祭」ふりかえり Ⅱ ゼミ別のゼミ活動	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
19回20回 (12/3)	Ⅰ&Ⅱ:学年合同：キャリア関係（仮）	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
21回22回 (12/10)	Ⅰ ゼミ別のゼミ活動 Ⅱ 学年合同：到達確認試験について	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出

		<各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通>
23 回 24 回 (12/17)	I ゼミ別のゼミ活動 II ゼミ別のゼミ活動	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 <各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通>
25 回 26 回 (1/7)	I ゼミ別のゼミ活動 II ゼミ別のゼミ活動	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 <各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通>
27 回 28 回 (1/14)	I ゼミ別のゼミ活動 II ゼミ別のゼミ活動	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 <各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通>
29 回 30 回 (1/21)	「あじあん祭」の代休	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 <各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通>

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y51	2.科目名	専門演習Ⅲ (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	学科の学生で、本ゼミを指定された者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文作成と卒業後の進路確保のための準備を行う。 論文の準備として、テーマを考えたり絞り込んだりできるよう、様々な文献を読み、研究方法等を学ぶ。卒業後の進路のために、キャリアサポート室と連携しながら、就職活動で必要となるエントリーシートや業界、就職試験に必要な知識等を学ぶ。 【概要】 各自が卒業論文のテーマを決め、その構成や調査方法など計画を立て、題目届にまとめる。 参考とするため、様々な研究を読み、議論する。 進路の準備：業界や就活の準備を行う。 *基本的に、ゼミでは、学生同士の発表を中心に進める。					
18.学習目標と DPとの関連	DP (4)問題発見・解決力・・・卒論のテーマを探す過程において、各種研究を参考に問題発見や解決方法を知り、学ぶ (5) コミュニケーションスキル・・・グループワークや討論を通じて、円滑に「協働」するためのコミュニケーション力を磨く (6) 専門的知識・技能 の活用力・・・研究テーマを考えるための参考文献等から、理解・考察を深めていく過程で今まで学んだ知識等を利用する					
19.教科書・教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	プレゼンテーション：40% (20%×2 回) 最終レポート：40% Classwork : 20%					
22.コメント	PC またはタブレットを毎回使用します。 *生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。					
23.オフィスアワー	月曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week1	学修計画の確認			ラーニングルートマップの修正 (30 分)		
Week2	キャリアガイダンス (1)					
Week3	研究の紹介 (1)			担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する (120 分)		

Week4	研究の紹介（２）：前回の続き	担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する（120 分）
Week5	研究の紹介（３）：前回の続き	担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する（120 分）
Week6	研究の紹介（４）	担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する（120 分）
Week7	論文の作法：書式等について、再確認する	
Week8	研究計画を立てる：題目届を書く	題目届を書く（120 分）
Week9	題目届の確認：各項目の内容、書式など	題目届の修正（60 分）
Week10	キャリアガイダンス（２）	先行研究を読み、要約する（120 分）
Week11	研究論文の構成：目次を作る	目次作成（60 分）
Week12	目次の確認：発表と討論	目次の再考（30 分）
Week13	第 1 章を書く：目的・意義・リサーチクエスチョンを文章化する	第 1 章を書く（120 分）
Week14	キャリアガイダンス（３）	最終課題(180 分)
Week15	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y52	2.科目名	専門演習Ⅲ (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	学科の学生で、片山ゼミを指定された者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文作成と卒業後の進路確保のための準備を行う。 論文の準備として、テーマを考えたり絞り込んだりできるよう、様々な文献を読み、研究方法等を学ぶ。卒業後の進路のために、キャリアサポート室と連携しながら、就職活動で必要となるエントリーシートや業界、就職試験に必要な知識等を学ぶ。 【概要】 各自が卒業論文のテーマを決め、その構成や調査方法など計画を立て、題目届にまとめる。 参考とするため、様々な研究を読み、議論する。 進路の準備：業界や就活の準備を行う。 * 基本的に、ゼミでは、学生同士の発表を中心に進める。					
18.学習目標と DPとの関連	DP (4)問題発見・解決力・・・卒論のテーマを探す過程において、各種研究を参考に問題発見や解決方法を知り、学ぶ (5) コミュニケーションスキル・・・グループワークや討論を通じて、円滑に「協働」するためのコミュニケーション力を磨く (6) 専門的知識・技能 の活用力・・・研究テーマを考えるための参考文献等から、理解・考察を深めていく過程で今まで学んだ知識等を利用する					
19.教科書・教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	プレゼンテーション：40% (20%×2 回) 最終レポート：40% Classwork : 20%					
22.コメント	PC またはタブレットを毎回使用します * 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。					
23.オフィスアワー	月曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week1	学修計画の確認			ラーニングルートマップの修正 (30 分)		
Week2	キャリアガイダンス (1)					
Week3	研究の紹介 (1)			担当となった研究について、PPT の発表資料		

		を作成する（120 分）
Week4	研究の紹介（2）：前回の続き	担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する（120 分）
Week5	研究の紹介（3）：前回の続き	担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する（120 分）
Week6	研究の紹介（4）	担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する（120 分）
Week7	論文の作法：書式等について、再確認する	
Week8	研究計画を立てる：題目届を書く	題目届を書く（120 分）
Week9	題目届の確認：各項目の内容、書式など	題目届の修正（60 分）
Week10	キャリアガイダンス（2）	先行研究を読み、要約する（120 分）
Week11	研究論文の構成：目次を作る	目次作成（60 分）
Week12	目次の確認：発表と討論	目次の再考（30 分）
Week13	第 1 章を書く：目的・意義・リサーチクエスチョンを文章化する	第 1 章を書く（120 分）
Week14	キャリアガイダンス（3）	最終課題(180 分)
Week15	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y53	2.科目名	専門演習Ⅲ (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	實川真理子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	学科の学生で、片山ゼミを指定された者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文作成と卒業後の進路確保のための準備を行う。 論文の準備として、テーマを考えたり絞り込んだりできるよう、様々な文献を読み、研究方法等を学ぶ。卒業後の進路のために、キャリアサポート室と連携しながら、就職活動で必要となるエントリーシートや業界、就職試験に必要な知識等を学ぶ。 【概要】 各自が卒業論文のテーマを決め、その構成や調査方法など計画を立て、題目届にまとめる。 参考とするため、様々な研究を読み、議論する。 進路の準備：業界や就活の準備を行う。 *基本的に、ゼミでは、学生同士の発表を中心に進める。					
18.学習目標と DPとの関連	DP (4)問題発見・解決力・・・卒論のテーマを探す過程において、各種研究を参考に問題発見や解決方法を知り、学ぶ (5) コミュニケーションスキル・・・グループワークや討論を通じて、円滑に「協働」するためのコミュニケーション力を磨く (6) 専門的知識・技能 の活用力・・・研究テーマを考えるための参考文献等から、理解・考察を深めていく過程で今まで学んだ知識等を利用する					
19.教科書・教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	プレゼンテーション：40% (20%×2 回) 最終レポート：40% Classwork : 20%					
22.コメント	PC またはタブレットを毎回使用します					
23.オフィスアワー	月曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week1	学修計画の確認			ラーニングルートマップの修正 (30 分)		
Week2	キャリアガイダンス (1)					
Week3	研究の紹介 (1)			担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する (120 分)		
Week4	研究の紹介 (2)：前回の続き			担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する (120 分)		
Week5	研究の紹介 (3)：前回の続き			担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する (120 分)		

Week6	研究の紹介（４）	担当となった研究について、PPT の発表資料を作成する（120 分）
Week7	論文の作法：書式等について、再確認する	
Week8	研究計画を立てる：題目届を書く	題目届を書く（120 分）
Week9	題目届の確認：各項目の内容、書式など	題目届の修正（60 分）
Week10	キャリアガイダンス（２）	先行研究を読み、要約する（120 分）
Week11	研究論文の構成：目次を作る	目次作成（60 分）
Week12	目次の確認：発表と討論	目次の再考（30 分）
Week13	第 1 章を書く：目的・意義・リサーチクエスチョンを文章化する	第 1 章を書く（120 分）
Week14	キャリアガイダンス（３）	最終課題(180 分)
Week15	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A51	2.科目名	専門演習Ⅳ（教育福祉 1/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において学修を進めてきた専門演習Ⅲで培ってきた知識や技能をベースに、教育・保育に関わる専門的な知見をさらに深めていく。 【概要】文献や先行研究に当たり、進捗を報告すると共に、ラーニングコミュニティ(LC)内での意見交換を行いながら、自らが取り組むテーマについて多角的に考察を加えていく。最終的には卒業論文の一部を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	ゼミ内で適宜提示する。					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ 中間レポート(10%×2) ...20% ・ 卒業論文第 1 回中間発表（ポスターセッション） ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む） ...40%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	4 年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を開始していく、大切な 3 年生の秋学期です。ゼミの仲間と十分に親睦を深めながら切磋琢磨し、学ぶことの楽しさと厳しさを、我々アドバイザーと共に実感していきましょう。 生成 AI の活用は条件付きで認めます。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意しましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 春学期のふり返りと秋学期の目標の明確化 ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入			◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	学術論文へのアプローチ法 ・ 学術論文を読むこと、要約すること、考察すること			◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめと、先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 3 回】	研究テーマの絞り込み ・ 研究の方向性についての討議と交流			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 4 回】	卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む）アウトラ			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		

	インの作成と検討① ・ゼミ内での卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトライン（その1）の作成と意見交換	
【第5回】	卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討② ・ゼミ内での卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトライン（その1）の作成と意見交換	○先行研究・文献の収集と整理(180分)
【第6回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトライン」作成(360分)
【第7回】	社会調査に関するオリエンテーション(合同) ・社会調査の方法、内容について	◆ノートパソコン◆ ★小レポート①「卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトライン（その1）」 ○先行研究、文献収集と整理のめやすを立てる(180分)
【第8回】	卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトライン（その2）の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○先行研究・文献の収集と整理(180分)
【第9回】	卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトライン（その2）の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○卒業論文第1回中間発表レジュメ（ポスター）作成(180分)
【第10回】	仮説や問題解決の方向性の明確化 ・卒業論文第1回中間発表レジュメ（ポスター）の作成	◆ノートパソコン◆ ★小レポート②「卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）アウトライン（その2）」 ○卒業論文第1回中間発表レジュメ（ポスター）作成仕上げ(180分)
【第11回】	卒業論文第1回中間発表（その1） ・ゼミ内発表① ・意見交換と討議(LCの活用)	◆ノートパソコン◆ ○本時のふり振り返りと学びのまとめ(180分)
【第12回】	卒業論文第1回中間発表（その2） ・ゼミ内発表② ・意見交換と討議(LCの活用)	◆ノートパソコン◆ ○LCによる意見交換のまとめ作成(180分)
【第13回】	卒業論文第1回中間発表（その3） ・ゼミ内発表③ ・意見交換と討議(LCの活用)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）」作成(180分)
【第14回】	「卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）」の作成	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む）」作成仕上げ(360分)
【第15回】	秋学期のふり振り返りとまとめ	◆ノートパソコン◆ ★卒業論文第1回中間報告書（研究計画含む） ○振り返り(180分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A52	2.科目名	専門演習Ⅳ（教育福祉 2/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において学修を進めてきた専門演習Ⅲで培ってきた知識や技能をベースに、教育・保育に関わる専門的な知見をさらに深めていく。 【概要】文献や先行研究に当たり、進捗を報告すると共に、ラーニングコミュニティ(LC)内での意見交換を行いながら、自らが取り組むテーマについて多角的に考察を加えていく。最終的には卒業論文の一部を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	『図書館の達人』（映像）					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ 中間レポート(10%×2) ...20% ・ 卒業論文第 1 回中間発表（ポスターセッション） ...30%(プレゼンテーションルブリックによる) ・ 卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む） ...40%(ライティングルブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	4 年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を開始していく、大切な 3 年生の秋学期です。ゼミの仲間と十分に親睦を深めながら切磋琢磨し、学ぶことの楽しさと厳しさを、我々アドバイザーと共に実感していきましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 春学期のふり返りと秋学期の目標の明確化 ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入			◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	学術論文へのアプローチ法 ・ 学術論文を読むこと、要約すること、考察すること			◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめと、先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 3 回】	研究テーマの絞り込み ・ 研究の方向性についての討議と交流			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 4 回】	卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討① ・ ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		

	む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	
【第 5 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討② ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 6 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン」作成(360 分)
【第 7 回】	社会調査に関するオリエンテーション(合同) ・社会調査の方法、内容について	◆ノートパソコン◆ ★小レポート①「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1)」 ○先行研究、文献収集と整理のめやすを立てる(180 分)
【第 8 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 9 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成(180 分)
【第 10 回】	仮説や問題解決の方向性の明確化 ・卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) の作成	◆ノートパソコン◆ ★小レポート②「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2)」 ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成仕上げ(180 分)
【第 11 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 1) ・ゼミ内発表① ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめ(180 分)
【第 12 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 2) ・ゼミ内発表② ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○LC による意見交換のまとめ作成(180 分)
【第 13 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 3) ・ゼミ内発表③ ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成(180 分)
【第 14 回】	「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」の作成	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成仕上げ(360 分)
【第 15 回】	秋学期のふり返りとまとめ	◆ノートパソコン◆ ★卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A53	2.科目名	専門演習Ⅳ（教育福祉 3/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において学修を進めてきた専門演習Ⅲで培ってきた知識や技能をベースに、教育・保育に関わる専門的な知見をさらに深めていく。 【概要】文献や先行研究に当たり、進捗を報告すると共に、ラーニングコミュニティ(LC)内での意見交換を行いながら、自らが取り組むテーマについて多角的に考察を加えていく。最終的には卒業論文の一部を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	ゼミ内で適宜提示する。					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ 中間レポート(10%×2) ...20% ・ 卒業論文第 1 回中間発表（ポスターセッション） ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む） ...40%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	4 年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を開始していく、大切な 3 年生の秋学期です。ゼミの仲間と十分に親睦を深めながら切磋琢磨し、学ぶことの楽しさと厳しさを、我々アドバイザーと共に実感していきましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 春学期のふり返りと秋学期の目標の明確化 ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入			◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	学術論文へのアプローチ法 ・ 学術論文を読むこと、要約すること、考察すること			◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめと、先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 3 回】	研究テーマの絞り込み ・ 研究の方向性についての討議と交流			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 4 回】	卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討① ・ ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		

	む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	
【第 5 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討② ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 6 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン」作成(360 分)
【第 7 回】	社会調査に関するオリエンテーション(合同) ・社会調査の方法、内容について	◆ノートパソコン◆ ★小レポート①「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1)」 ○先行研究、文献収集と整理のめやすを立てる(180 分)
【第 8 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 9 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成(180 分)
【第 10 回】	仮説や問題解決の方向性の明確化 ・卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) の作成	◆ノートパソコン◆ ★小レポート②「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2)」 ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成仕上げ(180 分)
【第 11 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 1) ・ゼミ内発表① ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめ(180 分)
【第 12 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 2) ・ゼミ内発表② ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○LC による意見交換のまとめ作成(180 分)
【第 13 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 3) ・ゼミ内発表③ ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成(180 分)
【第 14 回】	「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」の作成	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成仕上げ(360 分)
【第 15 回】	秋学期のふり返りとまとめ	◆ノートパソコン◆ ★卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A54	2.科目名	専門演習Ⅳ（教育福祉 4/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では、PBL 活動「災害時でも誰ひとり取り残さない安心できるコミュニティづくり」をテーマに、学生が実践的な問題解決能力を養いながら卒業論文作成に発展できるよう、研究上の問いの探索、研究方法、論文作成などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 春学期（専門演習Ⅲ）での実践をさらに発展させて、研究的視点をもって地域活動に取組みます。問いと仮説を適宜見直しをしながら、具体的なデータ収集と整理・分析を行い、考察に必要な各種情報の収集と読解を進め、卒業論文の執筆に向けた力を養います。					
18.学習目標と DP との関連	本科目は DP の（1）自立性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①研究テーマが具体的にイメージできる。 ②PBL の取組みと研究プロセスを接続することができる。 ③実践に関連づいた先行研究レビューができる。 ④複数の方法を検討したうえで、テーマにふさわしいデータ収集と分析方法を決めている。					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配付します。					
20.参考文献	■テーマの設定方法、研究の進め方 小笠原喜康(2002)「大学生のためのレポート・論文術」、講談社現代新書 河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門第3版」、慶應義塾大学出版 白井利明・高橋一郎(2013)「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 ■作文技術、文章の書き方 木暮太一(2011)「学校で教えてくれない『分かりやすい説明』のルール」、光文社新書 木下是雄(1981)「理科系の作文技術」中公新書					
21.成績評価	- 活動参加レポート（30%）（学習目標②③④に関連） - プロジェクトのレポート（40%）（学習目標②③④に関連） - チーム内での貢献度（20%）（学習目標②③④に関連） - アンケート調査の結果と分析（10%）（学習目標②④に関連） * 団体や組織による福祉のボランティアや福祉のアルバイトを通じた体験レポート（加点10%）					
22.コメント	・ 活動先との調整により地域活動の日程が前後する場合があります。 ・ 成果物は全て webclass に提出します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 10/1	オリエンテーション - ゼミの目的と概要説明 - チーム編成（2チーム） - プロジェクトの説明と役割分担			課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）		

【第 2 回】 10/8	プロジェクト準備？ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備（広報含む） - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 3 回】 10/15	プロジェクト準備？ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 4 回】 10/22	プロジェクト準備③ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 5 回】 10/29	プロジェクト準備④ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 6 回】 11/5	プロジェクト準備⑤ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 7 回】 11/12	地域活動実施 1 回目 - 「防災サロン」およびアンケート調査	活動参加レポート（90） アンケートの集計（90） * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 8 回】 11/19	地域活動実施 1 回目 - 「防災サロン」およびアンケート調査	活動参加レポート（90） アンケートの集計（90） * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 9 回】 11/26	地域活動のふりかえりとブラッシュアップ？	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 10 回】 12/3	地域活動のふりかえりとブラッシュアップ？	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）

【第 11 回】 12/10	地域活動実施 2 回目 - 「防災サロン」 および最終アンケート調査	活動参加レポート (90) アンケートの集計 (90) * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 12 回】 12/17	地域活動実施 2 回目 - 「防災サロン」 および最終アンケート調査	活動参加レポート (90) アンケートの集計 (90) * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 13 回】 1/7	ふりかえりと評価? - アンケート調査の分析 - 結果の分析と報告書作成	発表の準備 (180)
【第 14 回】 1/14	ふりかえりと評価? ・ 報告会準備	プロジェクトレポートの準備 (180)
【第 15 回】 1/21	報告会	* チーム内での貢献度評価の提出 * プロジェクトレポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A55	2.科目名	専門演習Ⅳ（教育福祉 5/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では、PBL 活動「災害時でも誰ひとり取り残さない安心できるコミュニティづくり」をテーマに、学生が実践的な問題解決能力を養いながら卒業論文作成に発展できるよう、研究上の問いの探索、研究方法、論文作成などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 春学期（専門演習Ⅲ）での実践をさらに発展させて、研究的視点をもって地域活動に取組みます。問いと仮説を適宜見直しをしながら、具体的なデータ収集と整理・分析を行い、考察に必要な各種情報の収集と読解を進め、卒業論文の執筆に向けた力を養います。					
18.学習目標と DP との関連	本科目は DP の（1）自立性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①研究テーマが具体的にイメージできる。 ②PBL の取組みと研究プロセスを接続することができる。 ③実践に関連づいた先行研究レビューができる。 ④複数の方法を検討したうえで、テーマにふさわしいデータ収集と分析方法を決めている。					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配付します。					
20.参考文献	■テーマの設定方法、研究の進め方 小笠原喜康(2002)「大学生のためのレポート・論文術」、講談社現代新書 河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門第3版」、慶應義塾大学出版 白井利明・高橋一郎(2013)「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 ■作文技術、文章の書き方 木暮太一(2011)「学校で教えてくれない『分かりやすい説明』のルール」、光文社新書 木下是雄(1981)「理科系の作文技術」中公新書					
21.成績評価	- 活動参加レポート（30%）（学習目標②③④に関連） - プロジェクトのレポート（40%）（学習目標②③④に関連） - チーム内での貢献度（20%）（学習目標②③④に関連） - アンケート調査の結果と分析（10%）（学習目標②④に関連） * 団体や組織による福祉のボランティアや福祉のアルバイトを通した体験レポート（加点10%）					
22.コメント	・ 活動先との調整により地域活動の日程が前後する場合があります。 ・ 成果物は全て webclass に提出します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 10/7	オリエンテーション - ゼミの目的と概要説明 - チーム編成（2チーム） - プロジェクトの説明と役割分担			課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）		

【第 2 回】	プロジェクト準備? - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 3 回】	プロジェクト準備? - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 4 回】	プロジェクト準備③ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 5 回】	プロジェクト準備④ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 6 回】	プロジェクト準備⑤ - 各チームでのミーティング - 活動計画の立案 - 必要な資料や機材の準備 - 地域活動のリハーサル - アンケート調査の準備（活動内容のブラッシュアップと最終評価）	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 7 回】	地域活動実施 1 回目 - 「防災サロン」およびアンケート調査	活動参加レポート（90） アンケートの集計（90） * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 8 回】	地域活動実施 1 回目 - 「防災サロン」およびアンケート調査	活動参加レポート（90） アンケートの集計（90） * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 9 回】	地域活動のふりかえりとブラッシュアップ?	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 10 回】	地域活動のふりかえりとブラッシュアップ?	課題に関する情報収集（90） 資料の準備（90）
【第 11 回】	地域活動実施 2 回目	活動参加レポート（90）

	- 「防災サロン」 および最終アンケート調査	アンケートの集計 (90) * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 12 回】	地域活動実施 2 回目 - 「防災サロン」 および最終アンケート調査	活動参加レポート (90) アンケートの集計 (90) * 活動レポートの提出 * アンケート結果の提出
【第 13 回】	ふりかえりと評価? - アンケート調査の分析 - 結果の分析と報告書作成	発表の準備 (180)
【第 14 回】	ふりかえりと評価? - 各チームの発表とディスカッション (ステークホルダーの参加あり)	プロジェクトレポートの準備 (180)
【第 15 回】	ふりかえりと評価③ - 成績評価とフィードバック	* チーム内での貢献度評価の提出 * プロジェクトレポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y51	2.科目名	専門演習Ⅳ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。 【概要】各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、課題発見解決力、専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関するレポートの提出（経過報告）：20% 〔学習目標①②③〕に対応 小レポート（10 本レポート）：30% 〔学習目標①②〕に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% 〔学習目標①②③〕に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% 〔学習目標④に対応〕					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論の使い方と集め方について学ぶ					
	合同ゼミ：キャリア教育「進路実現のために今明確に			課題：自身のキャリアに関するレポート		

	すべきこと」	
	複数論文の比較 複数の論文をレビューするときの観点等について	課題：複数論文の要約と比較についてのレポート
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	4年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	課題：卒論発表会の感想レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y52	2.科目名	専門演習Ⅳ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科 人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。卒業研究に向けて、研究テーマの設定、研究方法、論文作成などについて主体的に取り組んでいくことをねらいとする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ②興味関心と先行研究の知見をもとに、卒業論文の研究計画を考えることができるようになる。 ②これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関するレポートの提出、質疑：25% [学習目標①②③]に対応 小レポート（10 本レポート）：30% [学習目標①②]に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% [学習目標①②③]に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：5% [学習目標④に対応]					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論、研究計画書を作成する過程を学ぶ					
	合同ゼミ：キャリア教育「進路実現のために今明確に			アサインメント：自身のキャリアに関するレ		

	すべきこと」	ポート
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的には研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的には研究目的、研究方法を発表する。	
	4 年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y53	2.科目名	専門演習Ⅳ（社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科データサイエンス専攻			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 専門演習ⅢとⅣでは、以下のことに取り組むことを通して、1 年間を通して『卒業研究』の準備のための活動を行います。また、「マネジメント力」を身につけます、または、強化します。 このゼミでは、「学び続けられる人になる」ことをサポートします。 A. 生成 AI をツールとして有効活用する方法を考え、実践する B. 卒業論文（制作）のテーマを決める→卒論の研究計画を立てる C. 自分の将来設計を卒論テーマと関連づけて考える 概要： 授業では、ディスカッションや個別指導を通して、研究テーマの探究を行います。その一環として、活動として、生成 AI と Python を使ったアプリ制作や、エッセイ執筆などを行います。 また、機会を見て、学内外での現場活動を取り入れます。 それぞれが、「卒業研究」やキャリアプランにプラスとなるような取り組みとなることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目を修了すると、以下の目標に到達します。 ① 生成 AI とその他のアプリを組み合わせ活用した活動の成果を生むことができる ② 卒業論文（制作）のテーマを決めることができる ③ 卒業研究の進め方・卒論の書き方、を説明できる ④ 自分の卒論テーマと将来設計の案を関連づけて提示できる [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	※必要に応じて印刷物等を配付します。					
20.参考文献	『# 100 日チャレンジ』大塚あみ，日経 BP，2025 年 『ChatGPT と学ぶ Python 入門』熊澤秀道，翔泳社，2023 年 『プロジェクトマネジメントの基本が全部わかる本』橋本将功，2022 年 ほか					
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上で合格となります。 （1）アプリ制作 × 1 本 20％ ←学習目標①に対応 （2）設定した自分の研究テーマ（仮）に基づく卒論の構成 40％ ←学習目標②③に対応 （3）輪読からの気づきまとめ 20％ ←学習目標②③に対応 （4）活動の記録（e ポートフォリオへの日誌・記事投稿） 20％ ←学習目標④に対応					
22.コメント	基本的に、来る 4 年生の卒業研究をいかに効果・効率的に進めるようにするか、に主眼を置いた学習活動をする場を設ける授業になります。教室では輪になって向き合い、ゼミ生のみなさんの間でいつもディスカッションが弾むようになればと願っています。同時に、みなさんの就活を支援します。できるだけ、卒研準備と就活の内容が相乗的にリンクできるようにすること					

	を目指しましょう。 みなさんが個々に「目指す」ことを、授業内外で個別支援します。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワーは、月曜昼休みです。 研究室でも随時（※事前アポを取って）質問等の対応を行います。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	秋学期の授業計画の説明／ここまでの活動共有	ここまでの活動日誌記述（ePF） ※ePF=e ポートフォリオを指します。 WebClass の記事投稿機能を使います。
第 2 回	活動日誌記述から始める（第 3 回以降も同様） 輪読③：問いの立て方を読む	事前：論文精読 事後：輪読からの学びの出力
第 3 回	アプリ制作③：アイデア発案と初期開発	アプリ制作作業
第 4 回	輪読④：方法と議論の流れを読み解く	事前：論文精読 事後：輪読からの学びの出力
第 5 回	卒論構成検討：研究目的の確認・章立ての基本	アプリ制作作業 卒論構成検討
第 6 回	アプリ制作③：進捗共有／個別フィードバック	アプリ制作作業 卒論構成検討
第 7 回	卒論構成検討：構成案作成	アプリ制作作業 卒論構成検討
第 8 回	輪読⑤：ディスカッション	事前：論文精読 事後：輪読からの学びの出力
第 9 回	アプリ制作③：最終調整・プレゼン準備	アプリ制作作業 卒論構成検討
第 10 回	卒論構成検討：構成にもとづくドラフト作成	アプリ制作作業 卒論構成検討
第 11 回	輪読⑥：卒論につながる先行研究発見	事前：論文精読 事後：輪読からの学びの出力
第 12 回	卒論構成検討：相互レビュー／構成案ブラッシュアップ	アプリ制作作業 卒論構成検討
第 13 回	アプリ制作③：発表会／相互レビュー	事前：制作したアプリの発表準備 課題：制作したアプリについて ePF 記事投稿
第 14 回	卒論構成案発表会	事前：卒論構成の発表準備 課題：卒論構成案の提出
第 15 回	総括・自己評価・今後の展望	課題：1 年間の活動についての総括を ePF 記事投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y54	2.科目名	専門演習Ⅳ (心理)	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科	9.履修学年	3 年		
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：卒業研究に向けて、テーマ設定のための必要な基礎知識と技能を身に付けることを目的とします。また就職活動に向けて具体的な準備を進めます。 概要：研究テーマの設定し、研究計画書を作成します。 また就職活動に向けて実施スキルを身に付けるため、専門演習Ⅲに続いて面接練習を行い想定問答をより良いものにします。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①研究テーマに関する文献・情報収集力を高め、要約する力をつける。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③研究に必要な専門的知識を身に付けることができるようになる。 ④就職活の準備をすることで質疑に対する応答力を醸成し、コミュニケーションスキルを高めることができるようになる。 ⑤自らプランを立て、検討を加えながら実践する力を身に付ける。				
19.教科書・教材	特にありません。				
20.参考文献	随時配布します。				
21.成績評価	・ 夏季期間における文献・先行論文の要約 (5 本) : 20% 【学習目標①②③に対応】 ・ 各自のテーマに対するプレゼンテーション : 30% 【学習目標①②③④⑤に対応】 ・ 研究計画書と文献リストの作成 : 20% 【学習目標①②③に対応】 ・ キャリア教育に関する課題 (レポート) : 10% 【学習目標④⑤に対応】 ・ 自己 PR 文,面接想定問答の改訂 : 20% 【学習目標④に対応】				
22.コメント	この演習は、卒業研究につながるテーマの設定と就職活動の具体的実施に関する重要なものですから、能動的に取り組んで下さい。 ※ 生成 AI の利用:条件付きで認めるが、レポート・論文や課題資料の作成では使用不可とする。 ・ 条件 1:情報の真偽を確認すること。 ・ 条件 2:個人情報の入力禁止を遵守し、出力情報の著作権侵害に留意すること。 ・ 条件 3:AI 活用の更新情報の収集と理解に努めること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション：専門演習Ⅳのねらいや内容、進め方、成績評価についての説明 就職活動に向けての計画づくり	毎回ノートパソコンを持参すること
第 2 回	進路希望・業界研究 ・志望進路（担保進路を含む）を明確にする ・計画の修正 ※評価と実践等のキャリア教育と連動	志望進路への取り組み内容を明確化・デザイン化する
第 3 回	予定：キャリア教育 ・就職ガイダンス	キャリアに関するレポートの作成
第 4 回	面接実務の実施 ・模擬面接 ・想定問答の改訂（50 問）	前学期に作成した想定問答の改訂
第 5 回	各自の研究テーマと方法論の発表準備① ・各自の関心・興味を基に、研究テーマに関わる資料・論文等の探索を進め、整理統合する	卒業研究に向け、必要な情報の収集と整理・分析を進め発表の準備をする 文献リストの更新
第 6 回	各自の研究テーマと方法論の発表準備② ・各自の関心・興味を基に、研究テーマに関わる資料・論文等の探索を進め、整理統合する	卒業研究に向け、必要な情報の収集と整理・分析を進め発表の準備をする 文献リストの更新
第 7 回	各自の研究テーマと方法論の発表準備③ ・各自の関心・興味を基に、研究テーマに関わる資料・論文等の探索を進め、整理統合する	卒業研究に向け、必要な情報の収集と整理・分析を進め発表の準備をする 文献リストの更新
第 8 回	各自テーマと方法論の発表① 10 分	自己及び他者の発表から得た学びを資料に反映させる
第 9 回	各自テーマと方法論の発表② 10 分	自己及び他者の発表から得た学びを資料に反映させる
第 10 回	各自テーマと方法論の発表③ 10 分	自己及び他者の発表から得た学びを資料に反映させる
第 11 回	自由課題対応 自己 PR 文の改訂	自己 PR 文の作成・提出
第 12 回	卒業研究書の策定①：Word	現時点での卒業研究書を詳しく作成する 4 年次に繋げる
第 13 回	卒業研究書の策定②：Word 文献リストの整理	現時点での卒業研究書を詳しく作成する 4 年次に繋げる
第 14 回	卒業研究書の提出：Word 文献リストの提出 今学期の振り返り	卒業研究対応と志望進路対策を考察する
第 15 回	卒業研究発表会参加 ・4 年生の卒業研究発表会に参加して、自らの研究の経過の点検、展望を行う	4 年生の発表を基に自身の卒業研究方針を点検して変更、修正を行う

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y55	2.科目名	専門演習Ⅳ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。 【概要】 各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見解決力、専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関するレポートの提出（経過報告）：20% 〔学習目標①②③〕に対応 小レポート（10 本レポート）：30% 〔学習目標①②〕に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% 〔学習目標①②③〕に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% 〔学習目標④に対応〕					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては条件付きで認める。					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、昼休み 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論の使い方と集め方について学ぶ					
	合同ゼミ：キャリア教育「進路実現のために今明確にすべきこと」			課題：自身のキャリアに関するレポート		

	複数論文の比較 複数の論文をレビューするときの観点等について	課題：複数論文の要約と比較についてのレポート
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	4年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	課題：卒論発表会の感想レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y56	2.科目名	専門演習Ⅳ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	専門演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】					
	卒業研究に向けて、研究計画を立案し、研究計画書を作成する。					
	【概要】					
	春学期の内容を踏まえ、卒業研究の研究計画について発表を行う。 テーマは教員と相談して決定する。ゼミでは 1 人 1 回以上の発言が求められる。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】					
	(1)先行研究について批判的に検討できるようになる					
	(2)研究計画書を書き上げることができるようになる					
	【関連するディプロマポリシー】					
	(1)自律性					
	(2)社会的貢献性					
	(3)多様性理解					
19.教科書・教材	(4)問題発見・解決力					
	(5)コミュニケーションスキル					
	(6)専門的知識・技能の活用力					
20.参考文献	文献検索により論文を入手する。					
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度を総合的に評価）					
	(2)発表評価 20%					
	(3)研究計画書 30%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			発表準備		
【第 2 回】	研究の進め方・研究計画書の書き方			発表準備		
【第 3 回】	第 1 回研究発表（1）			発表準備		
【第 4 回】	第 1 回研究発表（2）			発表準備		
【第 5 回】	第 1 回研究発表（3）			発表準備		
【第 6 回】	第 1 回研究発表（4）			発表準備		
【第 7 回】	第 2 回研究発表（1）			発表準備		
【第 8 回】	第 2 回研究発表（2）			発表準備		
【第 9 回】	第 2 回研究発表（3）			発表準備		
【第 10 回】	第 2 回研究発表（4）			発表準備		
【第 11 回】	第 3 回研究発表（1）			発表準備		
【第 12 回】	第 3 回研究発表（2）			発表準備		
【第 13 回】	第 3 回研究発表（3）			発表準備		

【第 14 回】	第 3 回研究発表（4）	発表準備
【第 15 回】	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y57	2.科目名	専門演習Ⅳ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。卒業研究に向けて、研究テーマの設定、研究方法、論文作成などについて主体的に取り組んでいくことをねらいとする。					
18.学習目標と DPとの関連	①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ②興味関心と先行研究の知見をもとに、卒業論文の研究計画を考えることができるようになる。 ②これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関する発表・質疑応答：20% [学習目標①②③]に対応 小レポート（10 本レポート）：30% [学習目標①②]に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% [学習目標①②③]に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% [学習目標④に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (10/2)	オリエンテーション 学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
第 2 回 (10/9) 振替休講	キャリアガイダンス「進路実現のために今明確にすべきこと」10/15 のウィークリーアワーで実施					
第 3 回 (10/16)	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論、研究計画書を作成する過程を学ぶ					
第 4 回 (10/23)	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。					

第 5 回 (10/30)	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
第 6 回 (11/6)	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
第 7 回 (11/13)	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
第 8 回 (11/20)	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
第 9 回 (11/27)	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
第 10 回 (12/4) 振替休講	キャリアガイダンス 12/3 のウィークリーアワーで実施	
第 11 回 (12/11)	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
第 12 回 (12/18)	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
第 13 回 (1/8)	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
第 14 回 (1/15)	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
第 15 回 (1/22) 振替休講	4 年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ）1/21 ウィークリーアワーで実施 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y58	2.科目名	専門演習Ⅳ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。 【概要】各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見解決力、専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関するレポートの提出（経過報告）：25% [学習目標①②③]に対応 小レポート：25% [学習目標①②]に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% [学習目標①②③]に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% [学習目標④に対応]					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション					
	学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
	文献検索と研究計画の作成の流れ					
	卒論の使い方と集め方について学ぶ					
	合同ゼミ：キャリア教育「進路実現のために今明確にすべきこと」			課題：自身のキャリアに関するレポート		

	複数論文の比較 複数の論文をレビューするときの観点等について	課題：複数論文の要約と比較についてのレポート
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	4年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	課題：卒論発表会の感想レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y59	2.科目名	専門演習Ⅳ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：卒業論文を書くための基礎的能力を身につけることを目的とする。 概要：文献検索から文献講読、研究テーマの選定、プレゼンでの発表などを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	各自が関心のある文献を読み、書かれている内容を理解し、まとめる力を身につけるとともに、批判的な視点から独自の考えを主張する力を養うことを目指す。この授業は、DPの「コミュニケーション能力」「問題発見・解決力」「専門知識・技法の活用力」と関連している。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 授業でのディスカッション 15% (「コミュニケーション能力」の評価) 2. 毎回の授業における小レポート 15% (「問題発見・解決力」の評価) 3. プレゼン発表 40% (「コミュニケーション能力」の評価) 4. 最終レポート 30% (「問題発見・解決力」「専門的知識・技能の活用力」の評価)					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。 ただし、小レポートおよび最終レポートに関しては、利用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜 2 限 センターオフィスプログラム：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、講読文献、担当・発表順の決定					
第 2 回	研究のテーマ設定とアウトライン					
第 3 回	キャリア教育 (学科合同) 「進路実現のために今明確にすべきこと」			自身のキャリアに関するレポート		
第 4 回	研究進行の諸注意					
第 5 回	文献講読①					
第 6 回	文献講読②					
第 7 回	文献講読③					
第 8 回	文献講読④					
第 9 回	文献講読⑤					
第 10 回	文献講読②					
第 11 回	研究構想発表①					
第 12 回	研究構想発表②					
第 13 回	研究構想発表③					
第 14 回	研究構想発表④					
第 15 回	まとめ			最終レポート		

1.授業コード (ナンバリング)		SMN303-Y60	2.科目名	専門演習Ⅳ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員		山本喜晴					
5.授業科目の区分		総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻		人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件				
12.研究室			13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address			15.授業形態		演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要		卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。					
18.学習目標と DPとの関連		①与えられた課題に対し、科学的なデータ収集を設計・実施できるようになる ②これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる 本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材							
20.参考文献		随時配布する					
21.成績評価		・個人研究への取り組み状況（課題提出 2 回） 20％ ・キャリア教育（ゼミ固有）への取り込み状況（課題提出 2 回） 20％ ・プレゼンテーション（2 回） 30％ ・学期の主題に関するレポート 10％ ・e ポートフォリオへの記入 20％（キャリア教育関係学年共通 10％、振り返り 10％）					
22.コメント		この演習は秋の専門演習Ⅳと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとも重要なものです。 ・生成 AI 利用に関しては、特に制限を設けずに使用を認めます。					
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：水曜 3 限 センターオフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション：専門演習Ⅲのねらいや内容，進め方について説明する。				◆ノートパソコン◆ ○課題 自己紹介（エピソードを含むこと） 400 字 e ポートフォリオにアップする。(120 分) ○課題 次回までに各人が興味・関心を持てる問題について書き出す。(120 分)		
2	問題の探索 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、整理統合の上で複数候補を挙げる。 自己紹介（課題で提出した物を参考に）				◎課題 どのような研究ができそうか、候補テーマについて情報収集の仕方について調べておく。(240 分)		
3	「就職活動スタートガイダンス～就職活動・インター				○課題 卒業後の人生設計について、仕事も		

	ンシップについて～」(学科合同)	含めた自分の将来を考える。(240 分)
4	卒業後の人生設計についてーキャリアデザイン① 仕事も含めた自分の将来を考える。	○課題 卒業後のキャリアを含めた人生設計について、レポートにまとめる。(240 分)
5	問題の探索(続き) 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。	◎課題 次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。(240 分)
6	問題の絞り込み 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。	◎課題 各自の候補テーマについて紹介準備をする。(240 分)
7	プレゼンテーション 各自考えている問題を紹介する。 リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつについて説明する。	◎課題 各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
8	情報の収集と読み込み(1) 情報の収集と読み込み テーマについて取り組むにあたり、テーマに関わるさまざまな情報をどのように収集していくかを検討し、情報収集を行い、情報の内容を理解し、問題点を整理する。	◎課題 各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
9	キャリアデザイン② 仕事をより具体的に考える。就職サイトの活用。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
10	情報の収集と読み込み(2) 情報の収集と読み込み テーマについて取り組むにあたり、テーマに関わるさまざまな情報をどのように収集していくかを検討し、情報収集を行い、情報の内容を理解し、問題点を整理する。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
11	各自の興味と関連する論文の紹介(1)	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
12	各自の興味と関連する論文の紹介(2)	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
13	各自の興味と関連する論文の紹介(3)	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
14	レポート作成の説明 これまでの経過を振り返り、現時点での研究の目的や計画、見通し等についてレポートを作成する	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り、現時点での研究の目的や計画、見通し等についてレポートを作成し提出する。	◆ノートパソコン利用◆ ◎課題 今学期を振り返り、卒業研究の見通しについて考える。(240 分)

	また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y61	2.科目名	専門演習Ⅳ（社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	山本ゼミでは「共生」をテーマに調査を行います。「共生」や「ダイバーシティ（多様性）」は重要な社会課題となりました。いかにもややこしそうです。ですが難しく考えることはありません。社会のあり方が変化するなかで、過去から守られてきたルールや規範だけでは社会を維持できなくなったからです。とはいえ、多くの学生は高校から大学までストレートに進学してきたのだから「共生」なり「ダイバーシティ」と縁があったわけではないでしょう。 そこで、本授業では全員に現場での取材やフィールドワークを行ってもらいます。また、関連する文献を読みます。取材を通じて得たデータから文章を軸にした成果物を作成しますこのゼミを通じて、調査計画書や取材、文章作成、成果物の刊行などを行います。こうした取り組みは就活に直結します。なぜなら企画書作成、下調べ、営業、文章制作、学外との連絡・調整といった社会人の基本を学ぶからです。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自身の「共生」をキーワードとするテーマを見つけることができる。（自律性・問題発見・解決力） ②自身のテーマに関連して調査、取材を行う。（コミュニケーションスキル） ③調査、取材から成果物をつくる。（自律性・問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	別途指定します。					
20.参考文献	別途指定します。					
21.成績評価	・進捗レポート（全 15 回）・・・30% ・ミニレポート・・・30% ・アウトプットワーク・・・40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の全体像を説明する。			進捗レポートを作成する		
第 2 回	本調査を実施する（1） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 3 回	本調査を実施する（2） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 4 回	本調査を実施する（3） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 5 回	調査のまとめを行う（1） 調査をまとめるため整理する。			進捗レポートを作成する		
第 6 回	調査のまとめを行う（2）			進捗レポートを作成する		

	調査をまとめるため整理する。	
第 7 回	調査のアウトプットを作成する（1） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 8 回	調査のアウトプットを作成する（2） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 9 回	調査のアウトプットを作成する（3） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 1 0 回	調査のアウトプットを作成する（4） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 1 1 回	調査の最終報告をする（1） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 2 回	調査の最終報告をする（2） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 3 回	調査の最終報告をする（3） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 4 回	調査の最終報告をする（4） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 5 回	まとめ 4 年次にむけての計画をたてる	まとめのアウトプットを提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y62	2.科目名	専門演習Ⅳ	3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	対面		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	データサイエンスの研究に必要なプログラミング能力をしっかりと身に着けます。その学習の過程や作品を作る過程で就職などに必要な技術や身に着けます。今までの授業で学んだプログラミングの内容を徹底的に体にしみこませます。 ① Python プログラミングや HTML+Javascript を手を動かしながら、実践する ② プログラミングを用いて、自分の作品を作成する ③ 卒業論文に取り掛かるためのプログラミングスキルを磨く 学生によってはプログラミング能力以外の能力の向上を目指すこともあるので、その際は学生の設定した目標を達成するためにフィードバック・成果を設定する。 1 学期を 2 つで分け、中間報告で 1 つの成果を提出。最終報告で 2 つ目の成果を提出してもらいます。 基本的な流れは専門演習Ⅲと同じだが、専門演習Ⅲよりも高度な成果を要求する。				
18.学習目標と DPとの関連	① Python プログラミングや HTML+Javascript を手を動かしながら、実践する ② プログラミングを用いて、自分の作品を作成する ③ 卒業論文に取り掛かるためのプログラミングスキルを磨く は (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力 に関係しています。				
19.教科書・教材	皆さんと相談しながら各自の教科書を指定します。				
20.参考文献					
21.成績評価	課題および議論への参加および作業報告：60% 中間報告：20% 最終報告：20%				
22.コメント	ゼミの皆さんと相談しながら個別・チームで作業をしてもらいます。 2 週間に 1 回程度、作業報告をまとめてもらいます。 その作業報告を見ながらフィードバックをして、作業を進め目標を達成できるようにサポートします。 そのため、私が説明する事はあっても、授業をする事はありません。 この 1 年で技術を身に着ける事と目標に向かって手をしっかりと動かす事です。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	今期の目標の設定および具体化			課題は毎回指定します。	
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (1)			課題は毎回指定します。	

	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (2)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (3)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (4)	課題は毎回指定します。
	中間報告に向けた整理・教員からのフィードバック(1)	課題は毎回指定します。
	中間報告に向けた整理・教員からのフィードバック(2)	課題は毎回指定します。
	中間報告	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (5)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (6)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (7)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (8)	課題は毎回指定します。
	最終報告に向けた整理・フィードバック(1)	課題は毎回指定します。
	最終報告に向けた整理・フィードバック(2)	課題は毎回指定します。
	最終報告	課題は毎回指定します。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y63	2.科目名	専門演習Ⅳ （社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	3 年生ゼミにおける「文化・メディア専攻」の履修生のためのゼミです。 身近な文化や芸術、各種アートなどの調査研究や、各種コンテンツ制作や作品制作等の演習を行います。また必要に応じプログラミングなどの学習も行っていきます。状況によりますが地域イベントの実施や、メディア作品制作なども行っていきたくと考えています。これらの活動は 4 年生のゼミにおける卒業論文、卒業制作のための礎となります。 個別またはグループによる活動とし、それぞれの志向に沿った形で指導・アドバイスをを行います。したがって各回の授業は目安とし、フレキブルに対応します。 ★特に秋学期は、4 年生の卒業研究、卒業論文・制作を見越し、各個人での方針や方向性を定めるための様々な経験学習を行いたいと考えています。					
18.学習目標と D P との関連	学習目標は DP の（1）社会や文化についての科学的理解力および 新たな文化創造、(2)主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力（3）コミュニケーション力に関連しています。 ①地域の地理や歴史、文化芸術などについて調査活動が行える ②基本的なコンテンツ制作やプログラム作成が行える ③調査に基づくプレゼンテーションや情報発信、コンテンツ／プログラム作品などの制作・発表が行える					
19.教科書・教材	適宜、資料を配付または提示します					
20.参考文献	適宜、資料を配付または提示します					
21.成績評価	取組姿勢（40％）　〔学習目標①②に対応〕 提出物（レポート、コンテンツなど）（40％）　〔学習目標③に対応〕 プレゼンテーション（20％）　〔学習目標①②③に対応〕					
22.コメント	4 年次の卒業制作または卒業論文に向けて、調査・研究・制作のスキルを身に着けるための実践的な演習です。個人活動として自ら積極的に取り組むことが求められます。 生成 AI 利用：条件付きで認める。（様々な状況を勘案し個別に対応・指導します）					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定方法・受講上の留意点）			復習：学習内容の確認、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 2 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 3 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 4 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理		

	・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	予習：次回テーマの予習
【第5回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第6回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第7回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第8回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第9回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第10回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第11回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第12回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第13回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第14回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第15回】	プレゼンテーション、まとめ	復習：学習内容の総括、授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-A51	2.科目名	マネジメント専門演習（尼崎）		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒論作成に向けた準備を行います。まずグループごとに仮にテーマ（業界）を決定し、テーマ（業界）に沿った基本的文献の精読やデータ収集をしてもらいます。その後、グループ内で調査・研究を行い、その都度結果を小レポートにまとめます。期末にそれらを 5,000 文字程度のレポートとして提出してもらいます。 就職活動のためのサポートプログラムを適宜実施します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ・企業に関する情報収集方法 ・経営分析の基本的手法 ・就活対策（一般常識対策、SPI 対策、自己?作成） ・自由応募型インターンシップエントリー対策					
19.教科書・教材	特に指定しない。 必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	特に指定しない。 必要に応じて指示する。					
21.成績評価	プレゼン等 30% 課題レポート 20% 期末レポート 40% e ポートフォリオ 10%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日 3 限 研究室オフィスアワー：木曜日 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス ・授業の運営等のガイダンス・履修関係 ・スケジュール確認・グループ決定 ・個別面談			◆PC ○担当したいテーマ、業界や企業について、 先行研究を調べる		
第 2 回	テーマ選定 ・グループごとに希望するテーマを決定。 ・テーマに沿った文献を紹介。			◆PC ○関連する文献を入手し必要となる事項や情 報を調べる		
第 3 回	文献・データ収集① 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレ ゼン資料作成準備。			◆PC ◎プレゼン用の PPT を作成する(		
第 4 回	文献・データ収集② 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレ ゼン用資料作成。不足する情報についてさらに精査。			◆PC ◎プレゼン用資料の作成		
第 5 回	文献・データ収集③			◆PC		

	持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレゼン資料作成。読み原稿を作成する。	◎プレゼン準備
第 6 回	中間プレゼンテーション① グループ別に調査結果を中間報告。	◆PC ●課題レポート①としてプレゼン資料および読み原稿を提出する ○個人としてのテーマや業界、企業について先行研究を踏まえて考える
第 7 回	研究計画の設計① ・個人のテーマや業界、企業について検討する。 ・必要となる文献や資料を検索し、リストアップする。	◆PC ○テーマや業界、企業に関連する資料や文献を収集する ○研究計画について考える
第 8 回	研究計画の設計② ・研究計画を立てる。 ・必要な文献や資料を検索する。	◆PC ○研究方法に関連する資料や文献を収集する
第 9 回	研究計画の設計③ ・文献などから、適切な研究方法について考察する。 ・必要な文献や資料を検索する	◆PC ○先行研究を参考にして、テーマの背景や仮説を立てる
第 10 回	研究計画の設計④ ・研究テーマの背景を調べたり、仮説を立てたりする ・必要な文献や資料を検索する	◆PC ○プレゼンの準備
第 11 回	研究計画の設計⑤ ・研究テーマの背景と仮説について発表する。 ・必要な文献や資料を検索する。	◆PC ●課題レポート②として、研究テーマの背景と仮説を提出する ○研究の目的について考える
第 12 回	研究計画の設計⑥ ・テーマと仮説を踏まえて、研究の目的を明確にする	◆PC ○研究目的を文章として書き出す
第 13 回	研究計画の設計⑦ ・研究目的を発表する。 ・必要な文献や資料を検索する。	◆PC ○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる
第 14 回	研究計画の設計⑧ ・研究テーマ、背景、研究の目的、仮説、研究方法などをまとめてレポート提出する準備を行う。	◆PC ○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる。
第 15 回	・学期の振り返り ・eポートフォリオの入力 ・最終レポートの提出準備 ・授業アンケート	●最終レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-A52	2.科目名	マネジメント専門演習 (尼崎)		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	専門	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	制限なし		11.先修条件	制限なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	セミナー		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	マネジメント専門演習は、ビジネスについての学習を通して、専門的な知識を養うだけでなく、リーダーシップ、起業、国際的視野を身につけトトを目指します。多様性を重視したインクルーシブなビジネスを通して、社会変革を生み出すことができますようになります。 続いて各自に関心のあるテーマを選んで報告を行ってもらい質疑・討論を行ないます。マネジメント専門演習秋期は国際マネジメント演習の準備過程としての意味をもっているので討論の仕方についても訓練を行ないます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力自ら学ぶに関連しています。 学習目標： アジアの主要な国や地域の特性を理解できる。 アジアマーケティングの基礎を理解し、国や地域にあうビジネス提案ができる。					
19.教科書・教材	資料配布。					
20.参考文献	新聞、ビジネス関係雑誌、日本語新聞、英字新聞、DVD など。特に、必要に応じてプリントを配る。					
21.成績評価	レポート（70％）・授業態度（20％）・報告（10％）					
22.コメント	本ゼミでは、学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションする授業展開を目指します。スライドの配布はしません。? マーケティングに関心を持ち学習意欲のある学生の受講を希望します。私語をしない、携帯電話は使用しない（メールや時計利用も含む）、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しない、ルールの厳守。					
23.オフィスアワー	?曜?昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、学習?標と評価?法の確認等			PC 持参		
第 2 回	日本企業のアジア市場志向立地とバリューチェーン構築—その実態と理論的理解①			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 3 回	日本企業のアジア市場志向立地とバリューチェーン構築—その実態と理論的理解②			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 4 回	日本の繊維・アパレル企業のアジアでの立地展開とバリューチェーンの形成①			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 5 回	日本の繊維・アパレル企業のアジアでの立地展開とバリューチェーンの形成②			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 6 回	電機産業のアジア立地とバリューチェーンのダイナミズム①			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 7 回	電機産業のアジア立地とバリューチェーンのダイナミ			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		

	ズム②	
第 8 回	中国の自動車産業クラスターにおける日系企業のバリューチェーン①	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 9 回	中国の自動車産業クラスターにおける日系企業のバリューチェーン②	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 10 回	日本企業のアジア大都市への立地展開とサービス化①	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 11 回	日本企業のアジア大都市への立地展開とサービス化②	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 12 回	外食チェーンのアジア立地展開とバリューチェーン	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 13 回	日系銀行業の中国立地展開とバリューチェーン①	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 14 回	日系銀行業の中国立地展開とバリューチェーン②	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
まとめ	まとめ	レポート作成・提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M51	2.科目名	マネジメント専門演習 (三木)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒論作成に向けた準備を行う。 授業の目的: 卒論作成に向けた準備を行うことを目的としています。学生はテーマに沿った基本的文献の精読やデータ収集を行い、グループ内で調査・研究を進めます。最終的には、調査結果をレポートにまとめ、発表することで、研究のプロセスを理解し、実践的なスキルを身につけることを目指します。 授業の概要: この授業では、以下の活動を通じて卒論作成の準備を行います: グループでテーマを選択し、基本的文献の精読やデータ収集を行う。 アンケート調査の手法を学び、調査票を作成し、データ収集を行う。 SPSS 統計パッケージを用いてデータ処理、分析を行う。 期末に 3,000 文字程度のレポートとしてまとめ、報告書を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力の学修を目標にする。 ・スポーツ、健康に関する情報収集方法 ・情報収集・分析の基本的手法 ・就活対策（一般常識対策、SPI 対策、自己アピールの資料の作成）					
19.教科書・教材	知へのステップ 必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	特に指定しない。 必要に応じて指示する。					
21.成績評価	課題プレゼン等: 評価基準: 20% 関連学習目標: 情報収集・分析の基本的手法を実践し、プレゼンテーションスキルを向上させる。 課題レポート: 評価基準: 30% 関連学習目標: 調査結果をまとめ、論理的に分析する能力を養う。 期末レポート: 評価基準: 40% 関連学習目標: 研究のプロセスを理解し、実践的なスキルを身につける。 eポートフォリオ: 評価基準: 10% 関連学習目標: 自己評価を行い、学習の成果を振り返る。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日昼休み					

研究室オフィスアワー：水曜日 2 限		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス ・ 授業の運営等のガイダンス・履修関係 ・ スケジュール確認 ・ テーマ設定 ・ グループ決定	◆PC ○担当したいテーマ、業界や企業について、 先行研究を調べる
第 2 回	文献・データ収集① 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレゼン資料作成準備。	◆PC ○関連する文献を入手し必要となる事項や情報を調べる
第 3 回	文献・データ収集② 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレゼン資料作成。	◆PC ◎プレゼン用の PPT を作成する(
第 4 回	文献・データ収集② 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレゼン用資料作成。不足する情報についてさらに精査。	◆PC ◎プレゼン用資料の作成
第 5 回	中間プレゼンテーション① グループ別に調査結果を中間報告。	◆PC ◎プレゼン準備
第 6 回	中間プレゼンテーション② グループ別に調査結果を中間報告。	◆PC プレゼン準備
第 7 回	研究計画の設計① ・ 研究方法の手法 ・ 何をどのようにあきらかにするのか ・ 研究テーマの背景を調べたり、仮説を立てたりする ・ 必要な文献や資料を検索する	◆PC ○テーマや業界、企業に関連する資料や文献を収集する ○研究計画について考える
第 8 回	研究計画の設計② アンケート調査の基本 調査票の設計	◆PC ○研究方法に関連する資料や文献を収集する
第 9 回	研究計画の設計③ S P S S の基本的準備	◆PC ○SPSS 資料を基に復讐する
第 10 回	研究計画の設計④ 調査開始	◆PC ○調査依頼の準備
第 11 回	研究計画の設計⑤ データ分析	◆PC ●課題レポート②として、研究テーマの背景と仮説を提出する ○研究の目的について考える
第 12 回	研究計画の設計⑥ 分析結果発表会	◆PC ○研究目的を文章として書き出す
第 13 回	研究計画の設計⑦ 卒論に向けての計画 テーマ	◆PC ○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる
第 14 回	研究計画の設計⑧	◆PC

	・研究テーマ、背景、研究の目的、仮説、研究方法などをまとめてレポート提出する準備を行う。	○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる。
第 15 回	・学期の振り返り ・e ポートフォリオの入力 ・最終レポートの提出準備 ・授業アンケート	●最終レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M53	2.科目名	マネジメント専門演習（三木）		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	この演習ではそれまでの総合マネジメント演習とは異なり、基本的には学生個人を基本的単位として、業界・業種に特有の課題を発見し、その解決に向けた仮説構築・情報収集・分析を経て、具体的な提案をプレゼンテーションするものである。これまでに学修してきた経営学の基本的な論点や業界の知識をオーバービューしながら、各自の卒業論文の作成に向けて準備を始める。					
18.学習目標と DPとの関連	各コース科目での学修を取り入れ、関心のある業界の現状と課題を整理し、各業界のグローバル化への対応について考えたうえ、研究テーマの候補をいくつか示す。					
19.教科書・教材	必要に応じて Web class に掲載するもしくは適宜配布。					
20.参考文献	授業中告知する。					
21.成績評価	課題（先行研究論文要約、レジュメ）： 40％ 文献リストの作成 ： 10％ 参考図書、発表 ： 40％ e-ポートフォリオ ： 10％					
22.コメント	「プロジェクトマネジメントⅣ」に継続する科目になるので、配布資料及び各自作成したレポートなどを用意してください。 ・生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、課題については、授業回ごとに指定する。					
23.オフィスアワー	秋学期： 火曜日昼休み センターオフィスアワー 火曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション ・春学期の振り返り、秋学期の目標を e ポートフォリオに入力する。 ・履修状況を確認、個別面談の日程を組む			○次回の授業で使用する教材を読んでおく。 (120 分)		
	業界のグローバル競争環境分析 春学期の研究対象業界の現状とその業界のグローバル競争環境（⇒学期の主題）をグループで議論し、その内容についてまとめる			○分担内容について各自で調査しグループでまとめる（240 分）→第 6， 7 回プレゼン		
	輪読『グローバル勝者への道』 ・日本企業のグローバル化への対応を学習する			○各自の関心企業のグローバル化への対応について調べる（180 分）		
	キャリアサポートガイダンス（合同）					
	輪読『日本企業の新しい成長の形』					

	・事例企業の記事資料を調べる。 ・代表的なものを 400 字程度にまとめる。	
	論文の書き方 (1) ・論文の構成を理解する。 ・GWプレゼン (1)	○論文の書き方を復習する。(180 分)
	論文の書き方 (2) ・論理的な書き方を学ぶ。 ・GWプレゼン (2)	○論文の書き方を復習する。(240 分)
	情報収集 ・研究に必要な情報を考える。 ・資料リストのファイルを作成する。	○必要な資料を収集する。(480 分)
	先行研究 ・各自の研究テーマについて、先行研究を調べる。	○先行研究の内容を整理する。(480 分)
	先行研究の発表 (1) ・代表的な先行研究のレジюмеを発表	○発表用の資料作成と修正 (480 分)
	先行研究の発表 (2) ・代表的な先行研究のレジюмеを発表	○発表用の資料作成と修正 (480 分)
	卒論テーマの検討 ・先行研究、各コース科目での学修を取り入れ、関心のある業界の現状と課題を整理し、研究テーマの候補を検討する。	○卒論の内容を考える。(240 分)
	論文の組み立て ・レポートの概要について、考える。	○発表準備をする。(240 分)
	発表 (2) ・研究テーマの候補を発表する。	○レポートを作成する。(480 分)
	まとめ ・授業アンケート ・レポートの提出	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M55	2.科目名	マネジメント専門演習 (三木)		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 1 来年度の卒業研究に向けて、自分自身の研究テーマを探索・決定し、研究方法の見通しを立て、研究資料の収集に着手する。また、論文形式の文章作成作法に習熟する 2 就職活動に向けて、準備作業に当たる各種の課題に引き続き取り組む。 【概要】 1 この段階では、自分なりの研究テーマをある程度かためた上で、どのような方法で研究を進めていくか、様々な先行研究や参考文献を集めて検討し、資料収集方法や論文の書き方を確立することができるようにする。 卒業論文のリハーサルの意味合いで、やや文字数多めの設定で、5000 字程度のレポートを作っていく。その際、参考文献の引用ルール等に特に注意しつつ、研究論文の体裁を整えた文章が書けるようにする。 2 就職活動の際に求められる課題にも引き続き取り組み、自信をもって就活に取り組めるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	問題発見・解決力 卒業研究の研究テーマとなりうる問題を見つけることができる。 実際の組織や集団のなかで発生しうる諸問題について、マネジメントの観点からどのような解決策があり得るのかを考えることができる。 専門的知識・技能の活用力 経営学部で学んだことの集大成として、論文のかたちで自分の調べたことをまとめあげることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	各自の選択したテーマに沿ってアドバイスする。					
21.成績評価	文献紹介プレゼン 20%、参考文献リスト 20%、最終レポート 40%、最終レポートに基づくプレゼン 20%					
22.コメント	生成 AI の利用■条件付きで認める 各レポートについて、生成 AI 等の活用は許容範囲だが、最終的には書き手としての責任を追うべきことを肝に銘じ、内容の見直しは自ら行うこと					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水 2 限 (みさお館 2F) 研究室オフィスアワー 水 3 限(4 号館 5 階 26 号室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	授業概要の説明、履修計画の確認、仮研究テーマの設定			自身の研究テーマについて模索する。		

	なお、春学期のプロジェクトマネジメント演習Ⅳで取り組んだ「就活のためのワーク」も引き続き、少しずつでも継続して実施する。	
	先行研究の読み方、引用マナーに関する演習 適宜、メンバーの共通関心になりそうな学術論文を探してくるので、これを丁寧に輪読し、学術論文の構成について学ぶ。	自分の研究テーマに関連文献を集め、順番に読んでいく。
	先行研究の読み方、引用マナーに関する演習（つづき）	自分の研究テーマに関連文献を集め、順番に読んでいく。
	自身の研究テーマに関する先行研究の収集・検討、第1の参考文献の仮決定	第1の参考文献をしっかりと読み込む
	自分が選んだ第1の参考文献をしっかりと読み込み、発表資料を作る	発表資料の作成
	文献解題発表を順次行う。自分が選んだ第1の参考文献の内容を紹介する。このプレゼンを順次、交替して行う。	引き続き文献紹介の準備
	文献解題発表を順次行う	引き続き資料の収集と分析
	文献解題発表を順次行う	資料の収集と分析
	先行研究の収集作業続き、参考文献リストを作ってみる	参考文献リストを作成する
	文献リストの発表、またレポートの構成を考え執筆に着手する	最終レポートの執筆
	文献リストの発表、レポート執筆、相互検討、進捗具合の相互報告	レポートは年内に書き上げる
	文献リストの発表、レポート執筆(推敲、校正)	発表資料の作成
	レポートの内容に関するプレゼンと質疑応答を順次行う。	発表のリハーサル
	レポートの内容に関するプレゼンと質疑応答	発表を受けてのレポート修正
	レポートの内容に関するプレゼンと質疑応答	発表を受けてのレポート修正

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M56	2.科目名	マネジメント専門演習（三木）		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	町を耕す企業、人を耕す企業に関心と呼んでいる。この授業では企業・行政・NPO が自分の目的の実現をおこなうことが町や人を耕す社会貢献になることを経験的に学ぶ。 近年の技術革新や企業活動改革、社会改革改革は地域に新しい可能性をもたらそうとしている。社会的起業、スモールビジネス／コミュニティビジネス、自立分散型社会化（エネルギー＝小規模発電、流通＝小ロット化／顔の見える流通、政治・社会＝地域内分権）、DX 化（⇒仕事や買い物の場所によらない居住地選択）、半農半 X、関係人口などの動向である。 この授業では、新しい動向を促進する地域マネジメントのあり方を考える。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標とベンチマークは以下である。 ●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる					
19.教科書・教材	授業の中で紹介する					
20.参考文献	授業の中で紹介する					
21.成績評価	毎回の小レポート（50％）、最終レポート（50％）					
22.コメント	実習が中心になります。主体的・創造的に授業づくりに参加してください。楽しいと感じること、普通と感じること、時にはつまらないと感じることが大事だと考えています。					
23.オフィスアワー	授業の中で紹介する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	アイスブレイクとオリエンテーション					
2	一人一人の物語を予感する：will と can と need			自分の研究関心をメモしておく		
3	テイクコントロール、コヴィー、ブルーオーシャン戦略					
4	実習「共通価値（「三方良し」）の創造」					
5	実習「社会貢献できる企業を考える」					
6	社会性、倫理、道徳					
7	産業と社会の地域主義的転回					
8	人を耕す核となる：共同から協働へ					
9	実習「町おこし人材大賞」					
10	実習「高校生の町おこし」					

11	人生はすごろく	
12	実習「レッツ、パーティ」	
13	卒業研究の will と can と need (1)	
14	卒業研究の will と can と need (1)	
15	よい失敗をすること	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN310-Y51	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光 ビジネス専攻（地域コース）など			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、航空産業論、航空実務		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の課題は「関西圏における 3 空港を比較する中で、神戸空港の魅力を向上させる施策を考え、提案する」です。具体的には以下の内容に取り組みます。 ①ビジネス構造と機能を理解する ②従来の枠にとらわれない「新しい観光価値」を具体的なアイデアにデザインする ③専門分野のビジネス課題について実現可能な提案をする 具体的には配布するガイドに基づき、以下のとおりチームおよび個人として取り組む。 ・与えられた課題についてフィールドワークや AI などを活用して事業テーマを設ける。 ・事業テーマに沿った先行研究に取り組む。 ・具体的な事業内容を検討し、事業収支を含めてビジネスプランを提案する。 ・チームとして ANA 総合研究所の担当者臨席のもと、春学期には事業テーマ、秋学期には先行研究や事業内容についての中間報告、事業の最終案を最終発表する。 ・事業テーマの設定、先行研究、事業収支を含む事業内容を基に個人の課題として調査報告書（6000 字）を作成する。 ・グループによる発表（ポスター形式） 授業を進めるにあたっては、「Team」あるいは「Learning Community」を形成し、協働しながら互いに高めあう学びを目指します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は D P（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。					

	⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。	
19.教科書・教材	適宜、資料を配信します。	
20.参考文献	なし	
21.成績評価	P M演習Ⅲ 個人調査の成果物（ガイドに従い作成）：50％・・・学習目標①② 行程表（ガイドに従い作成）：30％・・・学習目標④ 専攻研究のまとめ：20％・・・学習目標② P M演習Ⅳ 中間発表 PPT（チームで作成）：20％・・・学習目標②④ 最終発表 PPT（チームで作成）：30％・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50％・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。 ※本授業は主体的な学習活動を中心と	
22.コメント	エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。 ②フィールドワークや先行研究により課題への理解を深める。 ③就活に向けて企業の活動を理解する。 尚、原則として本演習で作成した課題研究論文をもとに 4 年次に取り組む卒業研究における企画提案書を作成していきます。 生成 AI 利用：条件付きで認める。	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第 2 回：2 年次の研究内容の発表 グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 3 回 第 4 回	第 3 回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第 4 回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は 5 月から 6 月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 5 回 第 6 回 第 7 回	第 5 回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第 6 回 & 第 7 回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 8 回 第 9 回	第 8 回：成果計画表の作成 第 9 回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 10 回 第 11 回	第 10 回： 合同発表会に向けて準備 第 11 回：テーマ発表会 ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 12 回～第 14 回 第 15 回	第 12 回～第 14 回：企業からのアドバイスや他大学の発表から最終発表に向けて新たに追加すべき活動や見直すべき活動を再検討 第 15 回：夏休みに向けての課題	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN310-Y52	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	指定なし				9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件				11.先修条件	履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、および思考法	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	20 名					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の学びのテーマは「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする。」です。3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマで、グローバルに変化し続ける社会と経済のなかで、観光ビジネスはどのようにウェルビーイング社会の実現につながるのかについて、以下の内容に取り組みます。 ①ビジネス構造と機能を理解する ②従来の枠にとらわれない「新しい観光価値」を具体的なアイデアにデザインする ③専門分野のビジネス課題について実現可能な提案をする 具体的な成果物としては、以下を作成します。 ・個人ワークで行う成果計画表 ※「何を、なぜ調べる必要があるのか」課題の背景、要因（なぜそれが課題になっているのか）をまとめる。 ・個人ワークで行う工程表 ・個人ワークで行う調査報告書 ・グループによる発表（ポスター形式） 授業を進めるにあたっては、「Team」あるいは「Learning Community」を形成し、協働しながら互いに高めあう学びを目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。					

19.教科書・教材	適宜、資料を WEB 配信します。	
20.参考文献	なし	
21.成績評価	調査計画表：20%・・・学習目標②④ 発表 PPT（個人課題で提出したもの）：30%・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書：50%・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習活動を中心として運営されますので、特別な事情の無い欠席については、基本的には認められませんので留意して下さい。	
22.コメント	前期に続いて PBL の取り組みを続ける一方で、活動を通じて感じたさまざまな問題意識を掘り下げ、調査研究報告書をまとめます。 周囲の社会や出来事にしっかり目を向け、好奇心をもって「なぜ？」という問いを持ち続けましょう。 また、就職に向けて自分の将来についてもしっかりと考えてください。 将来につながる経験と学びが得られるように、ゼミでの活動を十分に活用しましょう。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）	
23.オフィスアワー	個人研究室：水曜 3 限（秋） 学修支援センター：水曜日昼休み（秋）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション】 ・ 授業の目的、学習目標、成績評価の方法、卒業研究、就活との関係についての理解。 ・ 各人の卒業研究に向けての取組みについて	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。
第 2 回	【卒業研究に向けての取組み①】 ・ 研究テーマについての考察① ・ 発表用資料作成	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。（全員が個人ワーク）
第 3 回	【卒業研究に向けての取組み②】 ・ 研究テーマについての考察② ・ 発表用資料作成	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。（全員が個人ワーク）
第 4 回	【卒業研究に向けての取組み③】 ・ 研究テーマについての考察③ ・ 発表用資料作成	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。（全員が個人ワーク）
第 5 回	卒業研究に向けての取組み④】 ・ 研究テーマの決定① ・ 各人の研究テーマについて発表と議論①	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。（全員が個人ワーク）
第 6 回	【卒業研究に向けての取組み⑤】 ・ 研究テーマの決定② ・ 各人の研究テーマについて発表と議論②	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。（全員が個人ワーク）

第 7 回	【卒業研究に向けての取組み⑥】 ・ 研究テーマの決定③ ・ 各人の研究テーマについて発表と議論③	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 8 回	【卒業研究に向けての取組み⑦】 「研究テーマに関わる情報の収集」① ・ 先行研究の検証 ・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 9 回	【卒業研究に向けての取組み⑧】 「研究テーマに関わる情報の収集」② ・ 先行研究の検証 ・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 1 0 回	【卒業研究に向けての取組み⑨】 「研究テーマに関わる情報の収集」③ ・ 先行研究の検証 ・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 1 1 回	【卒業研究に向けての取組み⑩】 「研究テーマに関わる情報の収集」④ ・ 先行研究の検証 ・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 1 2 回	【卒業研究に向けての取組み⑪】 「研究テーマに関わる情報の収集」⑤ ・ 先行研究の検証 ・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 1 3 回	【卒業研究に向けての取組み⑫】 「研究テーマに関わる情報の収集」⑥ ・ 先行研究の検証 ・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 1 4 回	【卒業研究に向けての取組み⑬】 「研究テーマに関わる以下の発表①」 ・ 先行研究の検証 ・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)
第 1 5 回	【卒業研究に向けての取組み⑬】 「研究テーマに関わる以下の発表②」 ・ 先行研究の検証	・ パソコンを持参 ・ 課題について各自が提出すること。(全員が個人ワーク)

	・ 現状分析 ・ 課題の発見 ・ 課題解決に向けての仮設の設定	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y51	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 文化・メディア専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件	専門演習Ⅰ～Ⅳを履修済み	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 卒業研究を通じて調査・研究のプロセスを習得し、客観的なデータ収集と探索的なデータ分析を行うことで、データに基づく意思決定や問題解決に必要な能力を育成することを目的とする。 概要： 専門演習Ⅲ・Ⅳで習得した知識・技術と分析ツールのスキルを総合的に活用し、社会学的な観点に基づいて、学生自身がテーマ設定からデータ収集・分析、結果の解釈までを一貫して行う。この過程を通して、卒業研究としての成果をまとめる。 「卒業研究Ⅱ」では、研究・執筆過程における論理的な思考と研究の検証を深め、結果をまとめる体験に重点を置く。研究成果は、卒業論文・卒業制作としてまとめ、卒業発表を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 社会・地域課題をデータ分析によって解決するための方法論を理解する 2. 実際にデータ分析を行い、課題解決に向けた提案を行う 3. 論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力を向上させる 4. 分析結果や研究成果を論文にまとめ、プレゼンテーションを行う [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	必要に応じて紹介する					
20.参考文献	1. 明石芳彦,「社会科学系論文の書き方」, ミネルヴァ書房； 2. 白井利明, 高橋一郎,「よくわかる卒論の書き方[第2版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)」, ミネルヴァ書房； 3. 別府 俊幸, 渡辺 賢治,「まちがいだらけの文書から卒業しよう 基本はここだ! 工学系卒論の書き方」, コロナ社；					
21.成績評価	・ゼミ内発表 10% 【対応目標①～④】 ・中間発表 10% 【対応目標①～④】 ・卒業論文 60% 【対応目標①～④】 ・卒業発表ないし口頭試問 20% 【対応目標①～④】					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。(様々な状況を勘案し個別に対応・指導します)					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜3限(神戸山手) 研究室オフィスアワー 木曜お昼(神戸山手)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	研究進捗と卒論執筆準備の確認 ・前学期の振り返りと進捗状況の確認 ・卒論執筆準備状況の確認 ・秋学期のスケジュール確認			・夏休み中の研究成果を確認し、卒論執筆の準備状況を確認する。		
第2回	研究計画の遂行(7)			・研究を遂行する		

	・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・卒論原稿を準備する
第3回	研究計画の遂行（8） ・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・研究を遂行する ・卒論原稿を準備する
第4回	研究計画の遂行（9） ・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・研究を遂行する ・卒論原稿を準備する
第5回	研究計画の遂行（10） ・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・研究を遂行する ・卒論原稿を準備する
第6回	研究をまとめる（1） ・卒論執筆 ・執筆状況の報告、個別指導	・研究のまとめと卒論執筆 ・卒論提出原稿案の準備
第7回	研究をまとめる（2） ・卒論執筆 ・執筆状況の報告、個別指導	・研究のまとめと卒論執筆 ・卒論提出原稿案の準備
第8回	研究をまとめる（3） ・卒論執筆 ・執筆状況の報告、個別指導	・研究のまとめと卒論執筆 ・卒論提出原稿案の準備
第9回	卒論最終原稿の確認（1） ・最終原稿の確認と提出準備	・卒論提出原稿案の用意
	卒論最終原稿の確認（2） ・最終原稿の確認と提出準備	・卒論提出原稿案の用意
	☆最終原稿の提出 ・卒論最終原稿の提出	・卒論最終原稿2部提出（紙媒体） ・締切：12月上旬（詳細日程は改めてお知らせします）
	卒論発表資料の準備（1） ・発表原稿の準備	・発表原稿の準備
	卒論発表資料の準備（2） ・発表原稿の準備	・発表原稿の準備
	卒論発表のリハーサル（1） ・セミごとに実施	・卒論発表の練習
	卒論発表のリハーサル（2） ・セミごとに実施	・卒論発表の練習

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y52	2.科目名	卒業研究 II		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	専門演習での議論や調査研究をふまえつつ、受講者各自が、卒業論文執筆のための発表と議論をおこなう。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①社会学に関する卒業論文を完成させること。 学習目標②卒業論文発表会にて、自身の卒論をプレゼンできる。 この授業の学習目標は DP の (4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	受講態度、参加姿勢 (30 点) : 学習目標①②に対応 卒業論文の内容 (70 点) : 学習目標①②に対応					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	[活動] オリエンテーション			【予習・復習】 卒業論文執筆の年間計画書を確認する		
【第2回】	[活動] 研究計画書の確認			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画書の確認・修正		
【第3回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告 (授業内発表)			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第4回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告 (授業内発表)			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第5回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告 (授業内発表)			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第6回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告 (授業内発表)			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第7回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告 (授業内発表)			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第8回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告 (授業内発表)			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		

【第 9 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 10 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 11 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 12 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 13 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 14 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 15 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y53	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件	専門演習Ⅰ～Ⅳを履修済み	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. 卒論研究での利用禁止 出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 3. 卒論執筆の利用 ？ 利用は、アイデア出し、テーマ探し、アウトライン作り、文章校正・表現改善などに限定してください。 ？ 常に自分自身の思考プロセスを優先し、生成 AI は補助的に使用してください。 4. 引用する場合のルール					
17.授業の目的と概要	目的： 卒業研究を通じて調査・研究のプロセスを習得し、客観的なデータ収集と探索的なデータ分析を行うことで、データに基づく意思決定や問題解決に必要な能力を育成することを目的とする。 概要： 専門演習Ⅲ・Ⅳで習得した知識・技術と分析ツールのスキルを総合的に活用し、社会学的な観点に基づいて、学生自身がテーマ設定からデータ収集・分析、結果の解釈までを一貫して行う。この過程を通して、卒業研究としての成果をまとめる。 「卒業研究Ⅱ」では、研究・執筆過程における論理的な思考と研究の検証を深め、結果をまとめる体験に重点を置く。研究成果は、卒業論文・卒業制作としてまとめ、卒業発表を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 社会・地域課題をデータ分析によって解決するための方法論を理解する 2. 実際にデータ分析を行い、課題解決に向けた提案を行う 3. 論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力を向上させる 4. 分析結果や研究成果を論文にまとめ、プレゼンテーションを行う [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	必要に応じて紹介する					
20.参考文献	1. 明石芳彦,「社会科学系論文の書き方」, ミネルヴァ書房； 2. 白井利明, 高橋一郎,「よくわかる卒論の書き方[第2版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)」, ミネルヴァ書房； 3. 別府 俊幸, 渡辺 賢治,「まちがいだらけの文書から卒業しよう 基本はここだ! 工学系卒論の書き方」, コロナ社；					
21.成績評価	・ゼミ内発表 10% 【対応目標①～④】					

	・ 中間発表 10% 【対応目標①～④】 ・ 卒業論文 60% 【対応目標①～④】 ・ 卒業発表ないし口頭試問 20% 【対応目標①～④】	
22.コメント		
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜3限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜お昼（神戸山手）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	研究進捗と卒論執筆準備の確認 ・ 前学期の振り返りと進捗状況の確認 ・ 卒論執筆準備状況の確認 ・ 秋学期のスケジュール確認	・ 夏休み中の研究成果を確認し、卒論執筆の準備状況を確認する。
第2回	研究計画の遂行（7） ・ 研究を遂行し、報告する ・ 執筆状況の報告、個別指導	・ 研究を遂行する ・ 卒論原稿を準備する
第3回	研究計画の遂行（8） ・ 研究を遂行し、報告する ・ 執筆状況の報告、個別指導	・ 研究を遂行する ・ 卒論原稿を準備する
第4回	研究計画の遂行（9） ・ 研究を遂行し、報告する ・ 執筆状況の報告、個別指導	・ 研究を遂行する ・ 卒論原稿を準備する
第5回	研究計画の遂行（10） ・ 研究を遂行し、報告する ・ 執筆状況の報告、個別指導	・ 研究を遂行する ・ 卒論原稿を準備する
第6回	研究をまとめる（1） ・ 卒論執筆 ・ 執筆状況の報告、個別指導	・ 研究のまとめと卒論執筆 ・ 卒論提出原稿案の準備
第7回	研究をまとめる（2） ・ 卒論執筆 ・ 執筆状況の報告、個別指導	・ 研究のまとめと卒論執筆 ・ 卒論提出原稿案の準備
第8回	研究をまとめる（3） ・ 卒論執筆 ・ 執筆状況の報告、個別指導	・ 研究のまとめと卒論執筆 ・ 卒論提出原稿案の準備
第9回	卒論最終原稿の確認（1） ・ 最終原稿の確認と提出準備	・ 卒論提出原稿案の用意
	卒論最終原稿の確認（2） ・ 最終原稿の確認と提出準備	・ 卒論提出原稿案の用意
	☆最終原稿の提出 ・ 卒論最終原稿の提出	・ 卒論最終原稿2部提出（紙媒体） ・ 締切：12月上旬（詳細日程は改めてお知らせします）
	卒論発表資料の準備（1） ・ 発表原稿の準備	・ 発表原稿の準備
	卒論発表資料の準備（2） ・ 発表原稿の準備	・ 発表原稿の準備
	卒論発表のリハーサル（1） ・ セミごとに実施	・ 卒論発表の練習
	卒論発表のリハーサル（2） ・ セミごとに実施	・ 卒論発表の練習

1.授業コード (ナンバリング)	SOC102-m51	2.科目名	教育社会学（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。					
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる					
19.教科書・教材	授業中に紹介する。					
20.参考文献	授業中に紹介する。					
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）					
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと			授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。		
2 回目	共感的理解-この授業での理解					
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態					
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法ーいじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に					
5 回目	不登校（1）見る					
6 回目	不登校（2）知る					
7 回目	不登校（3）理解する					
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から					
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例					
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例					
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義					
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている					

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC102-y51	2.科目名	教育社会学（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。					
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる					
19.教科書・教材	授業中に紹介する。					
20.参考文献	授業中に紹介する。					
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）					
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと			授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。		
2 回目	共感的理解-この授業での理解					
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態					
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法ーいじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に					
5 回目	不登校（1）見る					
6 回目	不登校（2）知る					
7 回目	不登校（3）理解する					
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から					
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例					
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例					
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義					
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている					

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC103-Y51	2.科目名	社会学概論 【心理】		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	教員免許状 高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消すことがあります。また、原則として「対面のみ」で授業を行います。履修登録が教室の収容人数を超えた場合は、第 1 回授業出席者を優先します。					
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、21 世紀の日本社会が抱える問題について知るとともに、社会学のものの見方・考え方になじむことを目的とします。 【概要】社会の動向と自分の人生がどうあるべきかということは、あまり関係がないと思っている人もいるかもしれません。しかし、人間が社会の中に存在し、社会に生きる限り、私たちの人生と世界および日本の動向とは大いに関係しています。授業では、「常識を疑う」「社会の謎を解く」「社会の未来を考える」という 3 つの観点から、身近な人間関係や社会現象について、具体的なトピックスをあげながら、社会的な視点から考えます。					
18.学習目標と DP との関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①日頃当たり前と思っているような現象について、データをにもとづいて考え説明することができる。 ②日本社会のさまざまな事象について理解し、その実態や背景を説明することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の資料は WebClass 等にあげます。					
20.参考文献	友枝敏雄他編『社会学で描く現代社会のスケッチ』（ファーストステップ教養講座）みらい、2019 年 その他の参考文献は、適宜、紹介します。					
21.成績評価	2 回のレポートと授業中のまとめの問題およびワークシートをもとに総合的に行います。 ○第 1 回課題レポート⇒25％（目標①） ○第 2 回課題レポート⇒25％（目標②） ○授業中の諸課題⇒計 50％（目標①②）					
22.コメント	●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●受講生数や構成メンバー等により、授業の内容や進め方、実施回を変更することがあります。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センターオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10/1	オリエンテーション：21 世紀の日本社会を生きる ○授業の内容、進め方、評価など			提出：授業内課題 復習：今回の復習		

	○世界社会の動向 ○日本社会のトレンド ○大学で学ぶことの意味	
第2回 10/8	I「常識を疑う」テーマ1：友人とは誰のことか？① ○あふれる親密性 ○友人関係の拡がり	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第3回 10/15	I「常識を疑う」テーマ1：友人とは誰のことか？② ○親密性の光と陰 ○友人が多いのはよいことなのか	提出：授業内課題
第4回 10/22	I「常識を疑う」テーマ2：「女」「男」とは誰のことか？① ○ジェンダーってなんだ？ ○性の多様なとらえ方 ○LGBTQ+ ○SOGIE ○第1回レポート告知	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第5回 10/29	I「常識を疑う」テーマ2：「女」「男」とは誰のことか？② ○ジェンダー規範 ○ジェンダー・ステレオタイプ ○つくられる女の子・男の子	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第6回 11/5	II「社会の謎を解く」テーマ：なぜいじめを止められないのか？① ○ありふれた出来事としてのいじめ ○いじめの四層構造論	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第7回 11/12	II「社会の謎を解く」テーマ：なぜいじめを止められないのか？② ○傍観者が生まれる仕組み ○いじめを少なくするために ○第1回レポートの進捗確認	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第8回 11/19	第1回レポート発表会（グループ内） ⇒全体発表会登壇者の決定	提出：第1回レポート 提出：授業内課題
第9回 11/28	第1回レポート発表会（全体発表会）	提出：授業内課題
第10回 12/3	III「社会の未来を考える」テーマ1：「ヤングケアラー」を知っていますか？① ○ヤングケアラーとは ○どのくらいの子どもがヤングカラーなのか ○第2回レポート告知	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第11回 12/10	III「社会の未来を考える」テーマ1：「ヤングケアラー」を知っていますか？② ○ヤングケアラー問題の原因と背景 ○ヤングケアラー問題への対応	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第12回 12/17	III「社会の未来を考える」テーマ2：「阪神・淡路大震災」について知っていますか？① ○阪神・淡路大震災とは	提出：授業内課題 復習：今回の復習

	○生活者の視点からみた阪神・淡路大震災	
第 1 3 回 1/7	III「社会の未来を考える」テーマ2:「阪神・淡路大震災」について知っていますか?② ○災害にどう備えるか ○災害にどう備えるか ○第 2 回レポートの進捗確認	提出: 授業内課題 復習: 今回の復習
第 1 4 回 1/14	第 2 回レポート発表会 (グループ内) 全体発表会登壇者の決定	提出: 第 2 回レポート 提出: 授業内課題
第 1 5 回 1/21	第 2 回レポート発表会 (全体発表会) ○授業のふり返りとまとめ	提出: 授業内課題

1.授業コード (ナンバリング)	SOC104-a51	2.科目名	社会階層と文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	基盤教育科目/人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・グループワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は遠隔発信である。山手キャンパスの学生も履修できます。 ただし、山手キャンパスの学生は、春学期開講の山手キャンパス開講授業（対面）の履修を勧めます。 ＊授業の概要 わたしたちの社会は多様な人々で構成されている。「ひとそれぞれ」という表現を日常的に使うこともしばしばである。こうした多様性を生きる一方で、「上流」「下流」「勝ち組」「負け組」といった社会集団をまとめる表現も使用する。 あるいはそれを大枠で「文化」と表現することもある。そしてそうした表現にはなんらかの「差」が前提とされる。この「差」は純粋なちがいともいえるが、格差や不平等と結びついている場合も多い。本授業では、社会における集団を「階層」として捉え、そこにある「文化」に注目しながら「格差」について考える。 なお、本授業では「教育と社会階層」を中心に検討を深める。社会学部「社会階層論」ではさらにこれを拡大して、社会階層の課題を検討する。 ＊授業の目的 社会階層は学問上の考え方である一方で、日常的な生活感覚に根ざしたものでもある。まずは社会階層と文化の関係を学ぶ。そしてこの社会階層の違いが「賃金」「ライフチャンス」の格差と結びついている。いったなぜこうした格差が存在するのか。そこに生じる格差とどのように向き合っていけば良いのか考える。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 （1）社会階層という枠組みについて理解する。（問題発見・解決力） （2）社会階層と文化のちがいについて、自らの考えを提示することができる。（多様性理解） （3）社会階層が生み出す格差について、自ら問題点を示すことがきでる。（社会的貢献性） （問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。					
20.参考文献	授業中に指示する。					
21.成績評価	（1）ディスカッション・ペーパーの作成（3 回） 30% （2）毎回のリアクション・ペーパーの作成 30% （3）最終レポートの作成 40%					
22.コメント	本授業では、社会階層と文化という日常的だけれど悩ましい課題について考えていく。わたしたちの社会は多様な人々で構成されているが、そこにはただの違いに収まらない格差や不平等が存在している。無関心を装うならば「ひとそれぞれでしょ」というだけでよい。しかし、そうした「ひとそれぞれでしょ」という言葉がもつ暴力的な側面について、わたしたちは知っている。社会学はそうした格差や不平等に向きあう学問である。本授業を通じて、「ひとそれぞれ」だけではなく、わたしたちの問題として社会について考えてもらいたいと思います。					
23.オフィスアワー	研究室：水曜（昼） 学修支援室：金曜（昼）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第1回 イントロ	・授業の内容についての確認 ・社会階層とわたし、について考える	復習とアサインメント 「わたしと社会階層」についてのワークシートを作成する（所要時間 90 分）
第2回 社会階層とはなにか	・社会階層の具体例として教育における格差について学ぶ ・社会階層と教育についてディスカッションをする	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第3回 文化とはなにか	・文化という概念について学ぶ ・文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第4回 ちがいと不平等	・社会階層と文化の違いが生み出す不平等について知る ・これまでの自らの経験を振り返る	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第5回 不平等を具体的に考える	・グループワークを通じて、周囲と自身の社会階層と不平等について考える	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第6回 社会階層と文化を考える （家族）	・家族を事例とし、とくに教育場面における社会階層と文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第7回 社会階層と文化を考える （障害）	・障害を事例とし、社会生活における不平等を考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第8回 社会階層と文化を考える （エスニシティ1）	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第9回 社会階層と文化を考える （エスニシティ2）	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第10回 社会階層と文化を考える （ジェンダー1）	・ジェンダー平等について、具体的事例から考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第11回 社会階層と文化を考える （ジェンダー2）	・SOGI について具体的な事例から考える	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第12回 わたしたちの社会の不平等	・レポートの書き方を学ぶ ・ディスカッション・ペーパーを交換し、指定の社会問題についてディスカッションする	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第13回	・社会問題に対峙する活動を知り、ディスカッション	復習とアサインメント

不平等とどのように向き合うか（1）	をする	★ディスカッション・ペーパーを完成させる （所要時間 90 分）
第 14 回 不平等とどのように向き合うか	・グループで社会問題解決に向けた実践を考案する	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 15 回 まとめ	・社会階層と文化について、ふりかえる ・社会階層と文化について、社会問題解決にむけた実践についてふりかえる	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC106-Y51	2.科目名	社会学基礎Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 個別のトピックを通して現代社会を観察し、分析する能力を習得する。日本社会がかかえる問題点を考察し、将来社会を構想するための糸口をさがす。 概要： つぎの 2 つのテーマについて、学習する。 各回の授業テーマと担当者については、各回の授業内容を参照すること。 Ⅰ 社会の謎を解く－現代日本社会におけるさまざまな疑問について考える－ Ⅱ 社会の未来を考える－社会問題の解決とのぞましい社会の構想－					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は以下のとおり。 ・社会学の概要を理解することができる。 ・関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味を理解することができる。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度(自律性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい、2019 年					
20.参考文献	授業内で適宜指示する。					
21.成績評価	2～13 回授業で出される小レポート（50％） 総括試験[第 15 回目に実施]（50％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 9 章 なぜ「スマイル」は 0 円なのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 10 章 なぜ結婚する人が減っているのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 11 章 なぜいじめを止められないのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 12 章 なぜ若者は SNS にはまるのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 13 章 なぜ原発は東京にはないのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 14 章 なぜ「家族」を求めるのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 15 章 なぜネット上で「炎上」が生じるのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 16 章 なぜ<体育会系>は就活で人気なのか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 17 章 「格差と不平等」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 18 章 「子どもの貧困」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 19 章 「地球環境問題」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 20 章 「大規模災害」にどう向き合うか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 21 章 「人口減少」は地域社会をどう変えるか？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 22 章 「移民」は社会をどう変えるか？			試験の準備をする（新聞記事の準備とキーワードについての復習など）		
	第 23 章 21 世紀における社会と公共性					

	総括試験	教科書を読み直す。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC107-Y51	2.科目名	社会調査論		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会調査に関する基礎的な知識と、調査結果の読解能力の習得を目指す。講義の前半では調査の種類とそれぞれの特性、情報の取扱いについての注意事項などを理解することにあてる。後半では官庁統計やマーケティングデータなどさまざまな統計資料に触れ、高度な読解能力を身につける。最終的にはレポートとして調査の設計をすることによって、学んだスキルの定着をはかり、高度なリサーチ・リテラシーの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。					
19.教科書・教材	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート 50 % 期末レポート 50 % 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点 [学習目標①に対応] 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点 [学習目標①に対応] データを適切に加工することができる。20 点 [学習目標①に対応] ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…30 点 [学習目標②に対応]					
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：火曜 4 限、学修支援センター：木曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] 導入			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 2 回】	[講義] 社会調査とは			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 3 回】	[講義] 社会調査の歴史			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 4 回】	[講義] 質的調査と量的調査			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 5 回】	[講義] 調査の倫理			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分）		

		復習：与えられた課題をする（60分）
【第6回】	〔講義〕 報告書の読み方(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第7回】	〔講義〕 報告書の読み方(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第8回】	〔講義〕 文献・情報検索	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第9回】	〔講義〕 データの問題点を探る(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第10回】	〔講義〕 データの問題点を探る(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第11回】	〔講義〕 データの問題点を探る(3)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第12回】	〔講義〕 国勢調査を読む	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第13回】	〔講義〕 官庁統計を読む(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第14回】	〔講義〕 官庁統計を読む(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第15回】	まとめ	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC108-Y01	2.科目名	神戸の社会と文化 【社会】		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部の科目ですが、他学科からの履修も歓迎します。 履修登録画面を「一覧表示」にして、科目コードに ANT102-Y01 と入力してください。			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 地域文化について、特に神戸を中心とした事例を紹介していくと同時に、その成り立ちを説明する各種の文化理論を紹介する 【概要】 郷土料理や方言など伝統的なものから、マクドナルドの略称やトランプのローカルルールなど新しいものまで、日本には多くの地域文化が存在しています。ネットやテレビの人気コンテンツとして、また地域活性化事業にからんで、近年ますます注目を集めている地域文化について、この授業では、特に神戸を中心とした事例を紹介していくと同時に、その成り立ちを説明する各種の文化理論を紹介していきます。 私のゼミで学生たちと調査・作成した資料も、授業の中で用いていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①日本の地域文化について、その概況を説明することができる。 学習目標②地域文化の成立にかかわる各種の文化理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な地域文化を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）					
22.コメント	二人の担当者が、神戸の社会、あるいは文化に焦点を当てた講義を 1 年おきにおこないます。 2023 年度は行木が、神戸の文化に焦点を当てた講義をおこないます。					
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	神戸の?化をとらえるために ― 地域文化論について (地域文化論の基礎、授業ガイダンス)			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	明?海峡とタコ飯 ― 伝統編 1 ??然環境が作り出した地域?化 (伝統的な?業や??住にみる環境適応や環境利?、「??」概念)			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 3 回】	さまよえるアホ／ダボ境界線 ― 伝統編 2 ?江戸時代が作り出した地域?化（1） (?本の??状況、??が?まれる仕組み、住吉川テヤハル			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

	境界線とその移動、現代社会と??)	
【第 4 回】	神?にはなぜ?中さんと?本さんが多いのか — 伝統編 2?封建制が作り出した地域?化 (2) (??と藩境界、近世の封建制と地域?化、世界史的にみた江?時代の特異性、名字分布)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 5 回】	京都から?が来て神?で神になった — 伝統編 3?ムラ社会が作り出した地域?化 (1) (祭事の伝播と地域的变化、解釈とコミュニティをめぐる理論)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 6 回】	尼崎の砂かけばあ と神?平野の隠ればあ — 伝統編 3?ムラ社会が作り出した地域?化 (2) (解釈とコミュニティをめぐる理論 (続き)、?話の地域的变化)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 7 回】	グーパーと神?の「うらおもて」 — 現代編 1??供社会が作り出す地域?化 (遊びのローカルルール、数え歌や替え歌の地域差、替え歌「ジャスコで万引き」をめぐる考察)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 8 回】	ジェームス?といかなごのくぎ煮 — 現代編 2?他地域との接触が作り出す地域?化 (1) (異?化の解釈と地域?化、諏訪神社と華僑、メロンパンかサンライズか)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 9 回】	謎の調味料「ソース」と関西粉モノ文化 — 現代編 3?地域経済が作り出す地域?化 (2) (神戸港のメリケン粉輸入と食文化の変化、外国には存在しない「ソース」という調味料の発明)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 10 回】	とくれんと神?ノート — 現代編 3?地域経済が作り出す地域?化 (1) (ローカル商品や新??、給?メニュー、ローカルスクールアイテム)	・今回のキーワード、コメント送信 (復習)
【第 11 回】	サンテレビとタイガース — 現代編 3?地域経済が作り出す地域?化 (2) (ローカル CM と地域?化、関?における「準キー局」の集中と関??化の再?産)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 12 回】	女子高生のスカート丈と六甲?の?なしライダー — 現代編 4?局地的流?としての地域?化 (地域的な略称やファッション、うわさや都市伝説、流行をめぐる理論、うわさをめぐる理論)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 13 回】	創られた南京町 — 復興編 1?活性化事業の中で作り直される地域?化 (1) (地域活性化政策の背景にあるもの、歴史の再解釈と地域?化、郷?料理や祭事の復興)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 14 回】	神?には存在しない「神?」 — 復興編 1?活性化事業の中で作り直される地域?化 (2) (オミヤゲの戦略性、ローカル商品のブランド化、発明される伝統)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 15 回】	??の?学校は「ハイカラ」で「モダン」……なのか? — 復興編 2?郊外化の中で作り直される地域?化	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)

	(地域の語り方とアイデンティティ、ご当地ネタブームとその背景、若者と地域)	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC108-Y51	2.科目名	神戸の社会と文化 【グローバル T4】		3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分	グローバル学部グローバル学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?グローバルな社会を考えるために、私たちの社会を知る概要? 「グローバル」という言葉は日常的に使用されています。世界とつながる、といったイメージがあるかもしれません。ではつながっているという、私たちの社会はどのようなもののでしょうか。本授業では「社会学」をベースとし、日本社会について考えます。社会といっても漠然としているかもしれません。そこで本授業では統計資料について読むということを大切にします。社会の動向を知るとともに、その実態についてデータを通じて考えることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. 日本社会に関する基本知識を説明できる。 2. 日本社会とグローバル社会の関連を説明できる。 3. 日本社会の状況について、自らの関心について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	関連資料は WEBCLASS にて配布します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 15% (2) ペーパーメディアを参照しよう (?標 1 に対応) 30% (3) ネットメディアを参照しよう (?標 2 に対応) 30% (4) 最終課題：学びのポスター制作 (学習?標 3 に対応) 25%					
22.コメント	かならず PC を持ち込んでください。授業教材は全てデジタル配布です。また、ワークショップなどもおこないます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 2 回	グローバル化とは (メディア/文化/サブカル)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 3 回	社会を考えよう (人口減少・過疎)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 4 回	グローバル化と観光 (オーバーツーリズム)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 5 回	グローバル化と経営 (多国籍企業/地域経済)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 6 回	グローバル化と経済格差 (貧困)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 7 回	グローバル化と社会問題 (ジェンダー)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 8 回	グローバル化と社会問題 (SDGs/DEI)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/ペーパー		

		ーメディアを参照しよう
第 9 回	グローバル化とナショナリズム（伝統）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 10 回	グローバル化と国際協力（国際協力）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 11 回	グローバル化と市民（市民とまちづくり）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 12 回	グローバル化と移民（移民/外国人）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/ネット メディアを参照しよう
第 13 回	社会を考えよう（家族）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 14 回	社会を考えよう（経済）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 15 回	まとめと学びのポスター作製	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SOC109-Y51	2.科目名	情報社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	テレビや携帯電話にパソコン、新聞やラジオなど、私たちの生活は数多くのメディアに囲まれ、それらを介して私たちは膨大な量の情報に接している。こうした社会はしばしば「情報社会」と呼ばれ、それは現代社会を特徴付ける大きな要因のひとつとなっている。本講義では、過去から今日に至るまでのメディアの発展およびその研究動向を概括し、その上で今日のメディア状況、私たちの生活においてメディアが果たす役割について考え、情報社会を生きぬくための知恵や方法を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している 本科目の学習目標は次のとおり。 ①情報社会の進展について理解を深め、必要なメディアリテラシーを高める。 ②情報機器端末を効率的に使用できる。 ③複眼的な視座で情報選別ができる。 ④個人情報の適切な管理ができる。					
19.教科書・教材	辻泉・南田勝也・土橋臣吾編『メディア社会論』有斐閣					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート（50 点）　〔学習目標①②に対応〕 期末レポート（50 点）　〔学習目標②③④に対応〕					
22.コメント	パワーポイントを利用した講義形式。生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	〔講義〕 はじめに			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 2 回】	〔講義〕 メディア社会論のために			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 3 回】	〔講義〕 ネットワーク化の来歴——メディアがつかないできたもの			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 4 回】	〔講義〕 モバイル・デバイスの来歴——場所感覚の喪失と創出			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 5 回】	〔講義〕 コンテンツ・メディアの来歴——ソリッドなスター／リキッドなアイドル			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 6 回】	〔講義〕 ソーシャル・メディアの功罪——SNS 的つながりの実相			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 7 回】	〔講義〕 デジタル・コンテンツの功罪——データ化した音楽作品とその価値			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 8 回】	〔講義〕 ネット広告の功罪——監視社会と消費行動への自由①			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		

【第 9 回】	〔講義〕 ネット広告の功罪——監視社会と消費行動への自由②	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 10 回】	〔講義〕 ユビキタス／ビッグデータの功罪——「わたし」という閉域,「みんな」の可視化	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 11 回】	〔講義〕 メディア社会の構想:再帰化	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 12 回】	〔講義〕 変わりゆくリアリティ——二項対立から多項対立の時代へ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 13 回】	〔講義〕 変わりゆくコンテンツ——鑑賞からプレイへ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 14 回】	〔講義〕 変わりゆくテクノロジー——分断された「わたし」からモバイルな社会性へ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 15 回】	〔講義〕 おわりにー総括試験	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく

1.授業コード (ナンバリング)	SOC110-Y51	2.科目名	地域社会学（遠隔）		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義（オンライン） 毎回授業資料（動画）を配信します。 くわしい受講方法は第 1 回目の授業内にて説明します。必ず出席すること。	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	都市は私たちの日々の生活に影響をあたえ、また、私たちの営みは都市のあり方を規定する。地域社会学・都市社会学は、都市が生み出す現象の解明や、都市を生み出す力の所在を探究する学問分野である。また、都市社会については一般的な理解を目指すだけではなく、都市を歴史的・社会的過程のなかで具体的に理解することも重要である。 本講義では、地域社会学・都市社会学の理論と方法をもとに、現代都市の構造と文化について概説し、「都市的なもの」についての理解を深めることを目的とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1.修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力。S2.社会や文化について科学的に理解する力。の学修に関連しています。 ①地域社会学・都市社会学の基礎的な理論・方法論について理解することができる。 ②現代都市の諸問題について都市社会学的な視点から説明することができる。 ③自分が生活する都市や地域社会に対する関心を高める。					
19.教科書・教材	教科書はなし。毎回の授業で資料を配布する。					
20.参考文献	玉野和志ほか『都市社会学を学ぶ人のために』世界思想社、2020 年 松本康ほか『都市社会学・入門改訂版』有斐閣、2022 年 森岡清志・北川由紀彦『都市と地域の社会学』放送大学教材、2018 年 松本康『「シカゴ学派」の社会学—— 都市研究と社会理論』有斐閣、2021 年 鯨坂学ほか『さまよえる大都市・大阪——「都心回帰」とコミュニティ』東信堂、2019 年 町村敬志『都市に聴け——アーバン・スタディーズから読み解く東京』有斐閣、2020 年 その他、授業内にて適宜紹介します。					
21.成績評価	授業資料（動画）へのコメント・小課題（50 点）：学習目標①③に対応 第 15 回目に実施する試験（50 点）：学習目標①②③に対応					
22.コメント	生成 AI 利用については、無制限で認めます。ただし、当然ですが生成 AI で作成した文章をそのままレポートとして提出した場合は、剽窃や盗用・コピーと同様の対応をしますので注意してください。					
23.オフィスアワー	質問等はオンライン（Zoom）にて随時受け付けます。メールにて連絡をとってください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] イントロダクション・都市と社会学			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。		
【第 2 回】	[講義] 都市の歴史的展開：近代社会と都市化の関係			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる		

		復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第3回】	〔講義〕都市問題の発生と都市社会学の誕生	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第4回】	〔講義〕都市の社会学的定義：都市生活における自由・個性の問題を中心に	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第5回】	〔講義〕都市の社会地図：同心円地帯理論とセクター理論	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第6回】	〔講義〕都市のコミュニティをめぐる諸問題：移民の適応と社会解体	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第7回】	〔講義〕都市・大阪の現在①：セグリゲーションとコミュニティ	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第8回】	〔講義〕都市・大阪の現在②：都心回帰と都市政策	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第9回】	〔講義〕移民と都市①：グローバル化と都市再編	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第10回】	〔講義〕移民と都市②：インナーシティ問題と多文化共生	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第11回】	〔講義〕移民と都市③：大阪・生野コリアタウンの民族関係と地域活性化	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第12回】	〔講義〕都市下層の社会学①：ホームレスと都市空間の管理・再編	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第13回】	〔講義〕都市下層の社会学②：大阪市西成区「釜ヶ崎」の歴史	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第14回】	〔講義〕都市下層の社会学③：「寄せ場」のまちづくり	予習：授業内容に関連した用語やニュースな

	とジェントリフィケーション	どに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第 15 回】	試験（授業時間内）	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC111-Y51	2.科目名	多文化共生論		3.単位数	2
4.授業担当教員	芦沢真五					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特にありません。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（同期型オンラインによる配信）		
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	日本の在留外国人数は 2024 年 12 月末現在で約 376 万に達した。これは日本の総人口（約 1 億 2,370 万人）の約 3%に相当する。少子化、労働力不足、経済社会のグローバル化を反映して、多様な国籍・文化背景を持つ人々が日本社会に加わってきている。こうした中で誰もが安心して暮らすことができる「多文化共生」を実現することが重要な社会課題となっている。この授業では、地域社会、職場、教育現場における具体的なケースをとりあげながら、多文化共生社会をめぐる課題について、理論と実践の両面から理解を深め、考察し実践する力を身につけることを目標とする。 【到達目標】 (1) 多文共生の概念と課題について根拠を示しながら、論理的に意見を述べることができる。 (2) 多文化共生にかかわる主要な思想や理論とそれらが誕生した歴史的背景について説明できる (3) 国際社会、諸外国における多文化社会の事情について説明することができる (4) 日本における多文化共生の課題やについて自分の意見を論理的に述べることができる (5) 多文化共生をめぐる身近な事例について紹介し、さらに考察を深めるための題材を挙げることができる					
18.学習目標と DPとの関連	この授業では、多文化社会を生きていくための知識や素材を提供し、多様な価値観やバックグラウンドを持つ人々が共存する社会の在り方について、議論していく。多文化共生をめぐる学術的理論や歴史的背景、諸外国の具体的な事例や政策を学ぶことを通じて、多文化共生の様々なモデルについて理解を深める。また、日本社会における多文化共生の実情から、身近な事例を捉えなおす。こうしたプロセスを通じて、多文化共生の普遍的な取り組み課題と理解し、その実現のためにどのような貢献が必要か、について議論を深めていく。 この授業でグローバルコミュニケーション学科の 6 つのディプロマーポリシーのうち、以下の 3 つを中心課題とします。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会や集団のために貢献し、より多くの人々が他者と協働し参加するような貢献ができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。					
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。					
20.参考文献	松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2020 年					
21.成績評価	毎回授業の小テスト、クラス内ワークなどを評価する（60%）とともに、中間レポート、最終レポートを評価する（40%）。生成 AI 利用に関して、原則として使用を認める。ただし、最終レ					

	ポートで使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。	
22.コメント	本授業では、グループワークやディスカッションを重視し、シュミレーションゲームなどを取り入れる。体調不良などで出席できない場合はメールで連絡すること。 生成 AI 利用に関して、原則として使用を認める。ただし、最終レポートで使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。	
23.オフィスアワー	木曜 2 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回：導入と概要説明	授業概要および目的、課題などの説明をおこなう。地域社会における多文化共生をテーマに身近なケースを取り上げて意見交換する。	インターネット上で「多文化共生」「共生社会」という言葉がどのように使われているか、を調べてくること。
第 2 回：マジョリティーとマイノリティー	多文化社会におけるマジョリティーとマイノリティーがどのように形成されるかを学び、日本におけるマジョリティーとマイノリティーが誰か、について意見交換する。	Web Class に提示される「マジョリティーとマイノリティー」という参考文献を読み、日本におけるマジョリティーとマイノリティーは具体的に誰を指すのか、について考えてくること。授業の導入アンケートで回答する。
第 3 回：多文化主義が生まれた歴史的背景	文化の多様性を受け入れる「多文化主義」という概念が登場した背景、意義について学ぶ。第二次世界大戦後、多くの先進国では復興と経済成長のために労働力が必要とされ、移民の受け入れが進んだ。北米、オーストラリア、西欧諸国などに、途上国出身の人々が移住してきました。カナダでは 1971 年に世界で初めて「多文化主義政策 (Multiculturalism Policy)」が導入され、移民がもつ文化的アイデンティティの尊重が国家レベルで認知されていく。オーストラリアでも 1970 年代から「白豪主義 (White Austral	「多文化主義」の概念について参考資料を事前に読み、短い言葉で概念を説明できるように準備すること。
第 4 回：米国における多文化主義と公民権運動	米国を事例に、人種やレイシズム、文化的アイデンティティにかかわる思想や理念について概観する。また、公民権運動、アフーマティブ・アクションなど差別を解消するための取り組みと政策について学ぶ。	公民権運動の背景について参考資料を読むこと。
第 5 回：移民が生まれる背景：Push Factor と Pull Factor	国境を越えた人の移動、移民が生み出される背景について考察する。特に、移民が生まれる要因分析の手法として、Push Factor、Pull Factor というカテゴリー分析を紹介する。	Push Factor と Pull Factor の概念について事前学習資料を読んでくること。
第 6 回：日本からの移民の歴史？	「元年者」と言われる日本からの移住者、移住先での生活、様々な苦難の歴史を振り返る。特に日系アメリカ人の歴史において、差別との闘い、第二次大戦中の強制収容などの負の歴史について振り返る。	明治初期時代の移民の歴史に関して事前学習資料を読んでくること。
第 7 回：日本からの移民の歴史？	神戸を出発拠点として海外へ移住した人々の歴史について、「海外移住と文化の交流館」に現存する展示や資料に基づいて学ぶ。神戸という町が、日本からの移民が海外に出港していった歴史を振り返ることによって、国際都市である神戸の歴史の一端を学ぶ。	神戸市にある「海外移住と文化の交流センター」のホームページで移住ミュージアムの展示内容を事前学習する。また、事業の前後に実際に交流センターを訪問し、展示資料を見学すること。
第 8 回：ナショナリズムと国民国家	ナショナリズムという概念がどのようにして生まれ、どのように社会に影響を与えてきたかを歴史的に考察する。ナショナリズムは、独立運動や国家統一を推進する原動力となる一方で、他者排除や排外主義につな	ナショナリズムについて事前学習資料を読み、基本的に概念を理解してくること。

	がる側面も持つ。国民国家という概念は、このナショナリズムを背景に、共通の言語・文化・歴史をもつ人々が統一された主権国家として政治的枠組みを形成しようとする考え方である。	
第 9 回：日本の移民受入政策？	日本の移民受入れ政策の歴史的背景について学ぶ。「オールドカマー」と呼ばれる、戦前から日本に居住している旧植民地出身者とその子孫の歴史について学ぶ。	事前学習資料を読み、日本の旧植民地から戦前に移住してきた人々の歴史について基本的な理解をする。
第 10 回：日本の移民受入政策？	1980 年台以降に来日し、「ニューカマー」と呼ばれる定住外国人の歴史について学ぶ。高度経済成長期以降、日本は労働力不足に直面し、技能実習生や日系人労働者（特にブラジルやペルー出身の日系人）を受け入れる政策を進めた。彼らは製造業やサービス業などで働きながら、家族とともに日本での生活基盤を築いてきた。「ニューカマー」は、日本の多文化共生社会の現実を体現する存在として注目され、地域社会で共生に向けた取り組みが求められている。	「ニューカマー」と呼ばれる在留外国人について指定された動画を視聴してくる。
第 11 回：日本の移民受入政策？	少子高齢化がすすむ今日の日本において、労働力不足を補うために様々な在留資格をもつ外国人労働者が働き、一部は定住している。特定技能などの在留資格で増加する外国人労働者について学習し、現代日本における多文化共生の課題を検証する。	事前学習資料を読み、特定技能の在留資格で増加する外国人労働者について認識を深める。
第 12 回：多様性社会と LGBTQ	LGBTQ に代表される多様性を重視する社会運動について概観する。LGBTQ は、性的指向や性自認の多様性を表す略語で、L はレズビアン（女性同性愛者）、G はゲイ（男性同性愛者）、B はバイセクシュアル（両性愛者）、T はトランスジェンダー（出生時の性別と異なる性自認をもつ人）、Q はクィア（伝統的な性や性別の枠にとらわれない人）を指す。この表現は、多様な性の在り方を尊重する考え方に基づいており、近年では多くの国や地域で法的権利や社会的認知が進んでいる。日本では法整備や社会理解が依然として不十分があり、職場や学校、家	LGBTQ について指定された動画を視聴して事前学習する。
第 13 回：多文化共生社会とインフラ	多文化協働を目指す国の国際比較：カナダ、オーストラリアを事例として多様な文化的背景を持つ人々（移民、難民など）を受け入れてきた社会の特質や社会インフラについて学ぶ。	事前学習資料を読み、オーストラリアとカナダの移民受入れ支援策について認識を深める。
第 14 回：レイシズムとヘイトクライム	偏見や無知に基づくレイシズム、ヘイトスピーチやヘイトクライムの事例を取り上げ、偏見や差別の解消に向けた取り組み課題について議論する。	ヘイトスピーチ、ヘイトクライムを防ぐための取り組みについて、動画を視聴する。
第 15 回：包摂の未来、内なるグローバル化を考える	本授業の目標、課題を振り返るとともに、最終レポートの到達目標について確認をおこなう。また、授業のとりまとめとして、多文化共生の実現に向けてどのような貢献をなすのか、個々の目標設定について意見交換する。	最終レポート課題についてグループワークを行うので、事前に準備をして授業ののぞむこと。なお、最終レポートで生成 AI を使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC111-m51	2.科目名	多文化共生論		3.単位数	2
4.授業担当教員	芦沢真五					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特にありません。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（同期型オンラインによる配信）		
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	日本の在留外国人数は 2024 年 12 月末現在で約 376 万に達した。これは日本の総人口（約 1 億 2,370 万人）の約 3%に相当する。少子化、労働力不足、経済社会のグローバル化を反映して、多様な国籍・文化背景を持つ人々が日本社会に加わってきている。こうした中で誰もが安心して暮らすことができる「多文化共生」を実現することが重要な社会課題となっている。この授業では、地域社会、職場、教育現場における具体的なケースをとりあげながら、多文化共生社会をめぐる課題について、理論と実践の両面から理解を深め、考察し実践する力を身につけることを目標とする。 【到達目標】 (1) 多文共生の概念と課題について根拠を示しながら、論理的に意見を述べることができる。 (2) 多文化共生にかかわる主要な思想や理論とそれらが誕生した歴史的背景について説明できる (3) 国際社会、諸外国における多文化社会の事情について説明することができる (4) 日本における多文化共生の課題やについて自分の意見を論理的に述べることができる (5) 多文化共生をめぐる身近な事例について紹介し、さらに考察を深めるための題材を挙げることができる					
18.学習目標と DPとの関連	この授業では、多文化社会を生きていくための知識や素材を提供し、多様な価値観やバックグラウンドを持つ人々が共存する社会の在り方について、議論していく。多文化共生をめぐる学術的理論や歴史的背景、諸外国の具体的な事例や政策を学ぶことを通じて、多文化共生の様々なモデルについて理解を深める。また、日本社会における多文化共生の実情から、身近な事例を捉えなおす。こうしたプロセスを通じて、多文化共生の普遍的な取り組み課題と理解し、その実現のためにどのような貢献が必要か、について議論を深めていく。 この授業でグローバルコミュニケーション学科の 6 つのディプロマポリシーのうち、以下の 3 つを中心課題とします。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会や集団のために貢献し、より多くの人々が他者と協働し参加するような貢献ができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。					
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。					
20.参考文献	松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2020 年					
21.成績評価	毎回授業の小テスト、クラス内ワークなどを評価する（60%）とともに、中間レポート、最終レポートを評価する（40%）。生成 AI 利用に関して、原則として使用を認める。ただし、最終レ					

	ポートで使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。	
22.コメント	本授業では、グループワークやディスカッションを重視し、シュミレーションゲームなどを取り入れる。体調不良などで出席できない場合はメールで連絡すること。 生成 AI 利用に関して、原則として使用を認める。ただし、最終レポートで使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。	
23.オフィスアワー	木曜 2 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回：導入と概要説明	授業概要および目的、課題などの説明をおこなう。地域社会における多文化共生をテーマに身近なケースを取り上げて意見交換する。	インターネット上で「多文化共生」「共生社会」という言葉がどのように使われているか、を調べてくること。
第 2 回：マジョリティーとマイノリティー	多文化社会におけるマジョリティーとマイノリティーがどのように形成されるかを学び、日本におけるマジョリティーとマイノリティーが誰か、について意見交換する。	Web Class に提示される「マジョリティーとマイノリティー」という参考文献を読み、日本におけるマジョリティーとマイノリティーは具体的に誰を指すのか、について考えてくること。授業の導入アンケートで回答する。
第 3 回：多文化主義が生まれた歴史的背景	文化の多様性を受け入れる「多文化主義」という概念が登場した背景、意義について学ぶ。第二次世界大戦後、多くの先進国では復興と経済成長のために労働力が必要とされ、移民の受け入れが進んだ。北米、オーストラリア、西欧諸国などに、途上国出身の人々が移住してきました。カナダでは 1971 年に世界で初めて「多文化主義政策 (Multiculturalism Policy)」が導入され、移民がもつ文化的アイデンティティの尊重が国家レベルで認知されていく。オーストラリアでも 1970 年代から「白豪主義 (White Austral	「多文化主義」の概念について参考資料を事前に読み、短い言葉で概念を説明できるように準備すること。
第 4 回：米国における多文化主義と公民権運動	米国を事例に、人種やレイシズム、文化的アイデンティティにかかわる思想や理念について概観する。また、公民権運動、アフーマティブ・アクションなど差別を解消するための取り組みと政策について学ぶ。	公民権運動の背景について参考資料を読むこと。
第 5 回：移民が生まれる背景：Push Factor と Pull Factor	国境を越えた人の移動、移民が生み出される背景について考察する。特に、移民が生まれる要因分析の手法として、Push Factor、Pull Factor というカテゴリー分析を紹介する。	Push Factor と Pull Factor の概念について事前学習資料を読んでくること。
第 6 回：日本からの移民の歴史？	「元年者」と言われる日本からの移住者、移住先での生活、様々な苦難の歴史を振り返る。特に日系アメリカ人の歴史において、差別との闘い、第二次大戦中の強制収容などの負の歴史について振り返る。	明治初期時代の移民の歴史に関して事前学習資料を読んでくること。
第 7 回：日本からの移民の歴史？	神戸を出発拠点として海外へ移住した人々の歴史について、「海外移住と文化の交流館」に現存する展示や資料に基づいて学ぶ。神戸という町が、日本からの移民が海外に出港していった歴史を振り返ることによって、国際都市である神戸の歴史の一端を学ぶ。	神戸市にある「海外移住と文化の交流センター」のホームページで移住ミュージアムの展示内容を事前学習する。また、事業の前後に実際に交流センターを訪問し、展示資料を見学すること。
第 8 回：ナショナリズムと国民国家	ナショナリズムという概念がどのようにして生まれ、どのように社会に影響を与えてきたかを歴史的に考察する。ナショナリズムは、独立運動や国家統一を推進する原動力となる一方で、他者排除や排外主義につな	ナショナリズムについて事前学習資料を読み、基本的に概念を理解してくること。

	がる側面も持つ。国民国家という概念は、このナショナリズムを背景に、共通の言語・文化・歴史をもつ人々が統一された主権国家として政治的枠組みを形成しようとする考え方である。	
第 9 回：日本の移民受入政策？	日本の移民受入れ政策の歴史的背景について学ぶ。「オールドカマー」と呼ばれる、戦前から日本に居住している旧植民地出身者とその子孫の歴史について学ぶ。	事前学習資料を読み、日本の旧植民地から戦前に移住してきた人々の歴史について基本的な理解をする。
第 10 回：日本の移民受入政策？	1980 年台以降に来日し、「ニューカマー」と呼ばれる定住外国人の歴史について学ぶ。高度経済成長期以降、日本は労働力不足に直面し、技能実習生や日系人労働者（特にブラジルやペルー出身の日系人）を受け入れる政策を進めた。彼らは製造業やサービス業などで働きながら、家族とともに日本での生活基盤を築いてきた。「ニューカマー」は、日本の多文化共生社会の現実を体現する存在として注目され、地域社会で共生に向けた取り組みが求められている。	「ニューカマー」と呼ばれる在留外国人について指定された動画を視聴してくる。
第 11 回：日本の移民受入政策？	少子高齢化がすすむ今日の日本において、労働力不足を補うために様々な在留資格をもつ外国人労働者が働き、一部は定住している。特定技能などの在留資格で増加する外国人労働者について学習し、現代日本における多文化共生の課題を検証する。	事前学習資料を読み、特定技能の在留資格で増加する外国人労働者について認識を深める。
第 12 回：多様性社会と LGBTQ	LGBTQ に代表される多様性を重視する社会運動について概観する。LGBTQ は、性的指向や性自認の多様性を表す略語で、L はレズビアン（女性同性愛者）、G はゲイ（男性同性愛者）、B はバイセクシュアル（両性愛者）、T はトランスジェンダー（出生時の性別と異なる性自認をもつ人）、Q はクィア（伝統的な性や性別の枠にとらわれない人）を指す。この表現は、多様な性の在り方を尊重する考え方に基づいており、近年では多くの国や地域で法的権利や社会的認知が進んでいる。日本では法整備や社会理解が依然として不十分があり、職場や学校、家	LGBTQ について指定された動画を視聴して事前学習する。
第 13 回：多文化共生社会とインフラ	多文化協働を目指す国の国際比較：カナダ、オーストラリアを事例として多様な文化的背景を持つ人々（移民、難民など）を受け入れてきた社会の特質や社会インフラについて学ぶ。	事前学習資料を読み、オーストラリアとカナダの移民受入れ支援策について認識を深める。
第 14 回：レイシズムとヘイトクライム	偏見や無知に基づくレイシズム、ヘイトスピーチやヘイトクライムの事例を取り上げ、偏見や差別の解消に向けた取り組み課題について議論する。	ヘイトスピーチ、ヘイトクライムを防ぐための取り組みについて、動画を視聴する。
第 15 回：包摂の未来、内なるグローバル化を考える	本授業の目標、課題を振り返るとともに、最終レポートの到達目標について確認をおこなう。また、授業のとりまとめとして、多文化共生の実現に向けてどのような貢献をなすのか、個々の目標設定について意見交換する。	最終レポート課題についてグループワークを行うので、事前に準備をして授業ののぞむこと。なお、最終レポートで生成 AI を使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC112-A51	2.科目名	ジェンダーと多様性 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	基盤教育 Consideration 科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	特になし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	留学生は、日本語能力試験 (JLPT) 1 級レ ベルの者が望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	おおむね上限 100 人とします (上限を超えた場合は、2025 年度生優先)					
17.授業の目的と概要	多様性に富むグローバルな社会・文化を理解する上で、〈ジェンダー〉は重要な視点の一つで す。授業では、社会現象や身の回りの出来事を、社会的・文化的な性の有り様としてのジェン ダーの視点から考えます。私たちがふだん疑うことのない「常識」にひそむ矛盾や思い込みに 気づき、それらを打ち破っていくことを目指します。					
18.学習目標と D P との関連	◎この科目の DP (ディプロマ・ポリシー) は、「多様性理解」の学修に関連しています。 ⇒性差・性別の多様性について理解し、多様な生き方を肯定する視点を身につけます。					
19.教科書・教材	◎教科書は使用しません ◎資料は一部をのぞき、WebClass にあげます					
20.参考文献	◎堀内かおる『10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話』岩波書店 (岩波ジュニア新書 979), 2023 年。 ISBN-978-4-00-500979-4 ※他の参考書については随時、授業の中で紹介します					
21.成績評価	○授業内の課題 (ワークシート、アンケートなど) ⇒計 75% ○最終課題の作成・発表 (レポート、発表) ⇒25%					
22.コメント	◎2024 年度以前入学生は、卒業要件の「自入学年度以外の開講科目」としてカウントされま す。 基盤教育科目の単位にはならないので注意してください。 ◎〈ジェンダー〉に関して基礎から学びたい人むけの内容です。これからジェンダーについて 学ぼうとしている人にとって導入になることを目指します。 ◎講義形式の授業を基本としますが、グループワークを行うこともあります。 ◎授業はパワーポイントを投影しながら行います。プリント (パワーポイントを印刷したも の) は配布しませんが、授業が始まるまでに WebClass にアップします。 ◎受講生の数により、順序や進め方を変更することがあります。ご了承ください。					
23.オフィスアワー	◎センターオフィスアワー (神戸山手キャンパス 1 号館 2 階) ⇒水曜昼休み ◎研究室オフィスアワー (神戸山手キャンパス 1 号館 2 階) ⇒木曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○ガイダンス&イントロダクション ・授業のスケジュールと内容、進め方について ・大学でジェンダーを学ぶ意義について			○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題		
第 2 回	○〈ジェンダー〉とは何か ・ジェンダーという言葉の使われ方を理解したうえ で、性差とは何か、性差と性役割はどのように異なる のかについて学びます。			○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題		
第 3 回	○性の多様性とジェンダー ・〈ジェンダー〉とは異なる概念として〈セクシュアリ ティ〉を把握したうえで、セクシュアル・マイノリテ ィの存在と性の多様性について学びます。			○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題		

第 4 回	○つくられる「男の子」「女の子」 ・ジェンダーが幼いころから刷り込まれ、植えつけられていくことについて知ります。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 5 回	○学校とジェンダー① ・学校をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。教科書、制服、教員の配置などに着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 6 回	○学校とジェンダー② ・学校をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。教師と生徒の関係や進路選択などに着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 7 回	○職場とジェンダー① ・職場をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。賃金や管理職の男女差に着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 8 回	○職場とジェンダー② ・職場をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。日本の企業でありがちな慣習や意識に着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 9 回	○結婚とジェンダー 結婚をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。結婚相手の選び方や家事に着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
台 10 回	○子育てとジェンダー ・子育てをジェンダーの視点から考えると、どのような課題があるのでしょうか。働き方や教育に関する課題をふくめて見ていきます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 11 回	○政治参加とジェンダー ・日本は政治分野における男女の格差が非常に大きい国です。女性の政治参加が進んでいる諸外国の取り組みについて学びます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 12 回	○性的マイノリティとジェンダー ・LGBT などの性的マイノリティとジェンダーはどのような関係にあるのでしょうか。基礎知識や課題について学びます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 13 回	○ハラスメントとジェンダー ・セクハラやパワハラ、DV など現代社会にはさまざまなハラスメントが存在します。その問題点や対策について学びます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 14 回	○レポート発表会	○持参するもの：ノート PC ○提出物：最終課題 授業内課題
第 15 回	○全体のまとめ 授業全体をふりかえり、自分の到達点を確認します。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題

1.授業コード (ナンバリング)	SOC113-Y51	2.科目名	SDGs と持続可能社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この科目では、持続可能な開発目標 (SDGs) の理念と実践を通じて、次世代社会の課題と可能性を学びます。 (内容) 各回の講義では、理論的知識を深めるとともに、実践的なワークを通じて理解を深めることを目指します。 (授業形態) 講義及びグループワーク、個人ワークを行います。積極的・主体的な参加をお願いします。					
18.学習目標と DPとの関連	①SGD s について理解し、その概要や自分の考えを説明することができる。 ②データや知識をもとに、様々な社会課題に関して、複眼的に考えることができる。 ③調べた情報をまとめ、自分の見解を発表することができる。					
19.教科書・教材	指定教科書はありません。					
20.参考文献	【参考書】 ・SDG s がよくわかる本 (秀和システム) ・FACT FULNESS (日経 B B)					
21.成績評価	1. 授業時間内の提出物 (3 点×15=45 点) ・チャットへの記入、アンケート回答、ワーク成果物の提出 2. 中間成果物 (10 点) ・word(500 字程度)・・・学習のまとめ、感想 3. 最終発表資料+プレゼン (30 点) ・パワーポイント 4. 最終成果物 (15 点) ・word(500 字程度)・・・学習のまとめ、感想					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回: オリエンテーション - SDGs とは何か ・講義内容: SDGs の概要、歴史、背景、17 の目標の紹介。 ・ワーク: 1. 興味のある SDGs を 3 つ選び、それぞれの理由を簡単に記述。 2. 1 つの SDGs について調べた内容をグループで共有し、感想を記述。					
第 2 回	第 2 回: 貧困と飢餓の撲滅 (目標 1, 2) ・講義内容: 貧困と飢餓の現状、課題、解決策。 ワーク: 1. 貧困問題に関連する統計データを読み取り、					

	課題を整理。 2. 仮想の地域に対して具体的な支援プランをグループで作成。	
第 3 回	第 3 回: 健康と福祉 (目標 3) ① ? 講義内容: グローバルヘルスの課題、パンデミックの影響、保健医療システム。 ? ワーク: 1. 世界の医療格差を示すデータを基に課題点を抽出。 2. 地域ごとの健康支援策を短いプレゼン形式で提案。	
第 4 回	第 4 回: 健康と福祉 (目標 3) ② ? 講義内容: グローバルヘルスの課題、パンデミックの影響、保健医療システム ? ワーク: 1. 世界の医療格差を示すデータを基に課題点を抽出。 2. 地域ごとの健康支援策を短いプレゼン形式で提案。	
第 5 回	第 5 回: 質の高い教育 (目標 4) ? 講義内容: 教育格差とその影響、デジタル教育の役割。 ジェンダー平等 (目標 5) ? 講義内容: ジェンダー平等の進展、課題、文化的背景。 水と衛生 (目標 6) ? 講義内容: 安全な水資源と衛生管理の重要性。	
第 6 回	第 6 回: 【中間ワーク】 目標 1～6 の中から 1 つ選択し、中間成果物を作成する。	
第 7 回	第 7 回: エネルギーと気候変動 (目標 7, 13) ① ? 講義内容: 再生可能エネルギー、気候変動の緩和策。	
第 8 回	第 8 回: エネルギーと気候変動 (目標 7, 13) ② ? 講義内容: 再生可能エネルギー、気候変動の緩和策。	
第 9 回	第 9 回: 不平等の削減 (目標 10) ? 講義内容: 経済的不平等の現状と対策。	
第 10 回	第 10 回: 消費と生産の責任 (目標 12) ? 講義内容: 持続可能な消費と生産の実現方	

	法。	
第 11 回	第 11 回:プレゼン資料作成に向けた調査	
第 12 回	第 12 回: パートナースhip (目標 17) ? 講義内容: 多様なステークホルダーの協力による課題解決。	
第 13 回	第 13 回: プレゼン①	
第 14 回	第 14 回: プレゼン②	
第 15 回	第 15 回: 振り返りと未来への展望 ? 講義内容: SDGs 達成に向けた自分自身の役割を再確認。 ? ワーク: 最終成果物の作成	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC202-Y52	2.科目名	社会調査論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会調査に関する基礎的な知識と、調査結果の読解能力の習得を目指す。講義の前半では調査の種類とそれぞれの特性、情報の取扱いについての注意事項などを理解することにあてる。後半では官庁統計やマーケティングデータなどさまざまな統計資料に触れ、高度な読解能力を身につける。最終的にはレポートとして調査の設計をすることによって、学んだスキルの定着をはかり、高度なリサーチ・リテラシーの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (S1) 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、(S2) 社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。					
19.教科書・教材	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート 50 % 期末レポート 50 % 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点 [学習目標①に対応] 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点 [学習目標①に対応] データを適切に加工することができる。20 点 [学習目標①に対応] ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…30 点 [学習目標②に対応]					
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：火曜 4 限、学修支援センター：木曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] 導入			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 2 回】	[講義] 社会調査とは			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 3 回】	[講義] 社会調査の歴史			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 4 回】	[講義] 質的調査と量的調査			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 5 回】	[講義] 調査の倫理			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分)		

		復習：与えられた課題をする（60分）
【第6回】	〔講義〕 報告書の読み方(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第7回】	〔講義〕 報告書の読み方(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第8回】	〔講義〕 文献・情報検索	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第9回】	〔講義〕 データの問題点を探る(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第10回】	〔講義〕 データの問題点を探る(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第11回】	〔講義〕 データの問題点を探る(3)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第12回】	〔講義〕 国勢調査を読む	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第13回】	〔講義〕 官庁統計を読む(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第14回】	〔講義〕 官庁統計を読む(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）
【第15回】	まとめ	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60分） 復習：与えられた課題をする（60分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC205-Y51	2.科目名	データ解析Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学専攻・データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	該当なし		11.先修条件	基礎統計学、社会統計学を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、統計解析ソフト SPSS を使い、データ解析の基本的な手順を学びます。自分の知りたいことに応じて、適切なデータ分析ができるようになることを目指します。 【概要】 授業では、SPSS の基本的な使い方、データの出力と解釈の方法、変数の変換、二変数の分析について順に学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は、DP（6）専門知識・技能の活用力に対応しています 1) SPSS の使い方を理解し、必要なデータを適切に処理できる 2) 基本統計量をはじめとした初歩的なデータ分析を適切に処理できる 3) 二変数の分析と検定結果を出力でき、適切な解釈ができる					
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。					
21.成績評価	出力結果の提出…70%…学修目標 1 と対応 期末レポート…30%…学修目標 2 と対応、学修目標 3 と対応					
22.コメント	データ分析の基礎を身につけ、レポートのかたちで報告できることを目指します。積極的な参加を期待します。データ解析Ⅱを履修することを希望する場合は、80 点以上を取得できるようにしっかり課題に取り組んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション、SPSS の使い方					
2	SPSS の基本操作（インポート、入力、ラベル、保存）			出力結果 1		
3	変数の尺度、値の計算、グループ化、度数分布表					
4	グラファーヒストグラム、棒グラフ、散布図			出力結果 2		
5	Excel 入門					
6	グラフ（Excel）			出力結果 3		
7	クロス集計表、Excel ピボットテーブル					
8	代表値ー平均・分散・標準偏差			出力結果 4		
9	正規分布（コインの実験）					

10	統計的仮説検定 1	出力結果 5
11	統計的仮説検定 2	
12	相関分析 1－2 変数・多変数	出力結果 6
13	相関分析 1－2 変数 (Excel)	
14	回帰分析 1－2 変数・多変数	
15	回帰分析 1－2 変数 (Excel)	期末レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SOC209-Y51	2.科目名	現代社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	教員免許状 高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	「社会学概論」を履修済であることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	おおむね 30 名以内。原則として、第 1 回の授業に出席した者に限ります。履修希望者が多い場合は、選抜を行います（教職課程の履修者を優先）。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会のさまざまな場面に潜むジェンダーの課題に気づき、各人の問題意識が広がることをめざします。 【概要】 私たちは、ありとあらゆるものを〈分類〉しながら生活しています。そのなかで、「性別」は最も“自然”で“当たり前”な分類と思われるがちです。本科目では、性別が社会によって規定されてきたことを知り、性別に関する私たちの常識がいかに“不思議なこと”なのか、具体的なトピックを通して考えます。					
18.学習目標と DP との関連	この科目の DP（ディプロマ・ポリシー）は、「多様性理解」「問題発見・解決力」の学修に関連しています。 ①ジェンダーに関する問題がいかに社会的な問題とつながっているのかを説明することができる。 ②ジェンダー平等な社会を実現するために私たちがすべきことを提案できる。					
19.教科書・教材	●堀内かおる『10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話』岩波書店（岩波ジュニア新書 979）、2023 年。 ISBN-978-4-00-500979-4					
20.参考文献	●瀬地山角・中村圭『図解ポケット ジェンダーがよくわかる本』秀和システム、2022 年 ●内閣府『令和 5 年版 男女共同参画白書』2023 年 ●森田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーの扉を開こう～自分らしく生きるために～』大和書房、2022 年 ※他の参考文献については、適宜、紹介します					
21.成績評価	○授業内課題⇒計 50％・・目標①② ○グループ発表（各章の紹介 2 回）⇒計 20％・・目標① ○個人設定課題の発表（企画書・レポート＆発表）⇒計 30％・・目標②					
22.コメント	●教科書を指定しています。必ず入手（購入）してください。 ●対面受講を原則とします（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます）。 ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●受講生数によっては、順序や進め方を変更することがあります。ご了承ください。					

23.オフィスアワー		【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1号館2階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒木曜IV限（1320 研究室）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
第1回	○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○教科書「はじめに」の輪読 ○ジェンダーに関するアンケート(WebClass)	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	
第2回	○講義：ジェンダー入門 1.ジェンダーは現代の必修科目 2..ジェンダーって何？ 3.性別から自由になろう 4.世界標準のジェンダー常識 5.鍵はアンコンシャス・バイアス ○グループ編成と担当章の決定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	
第3回	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 ○発表準備	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	
第4回	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 1 ジェンダーってなんだ？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	
第5回	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 2 つくられる「女の子」「男の子」 ○グループ発表 ○講義（ふり返りと補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	
第6回	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 3 ジェンダー化の装置=学校？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	
第7回	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 4 他者のまなざしの中の自分 ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	
第8回	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 5 大人になっていく過程で出会うジェンダー ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題	

第 9 回	○Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 6 ライフキャリアの実現に必要なこと ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題
第 10 回	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○個人設定課題の説明 ○ワーク：問題の整理、課題の設定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○アサイメント：テーマについて調べてくる
第 11 回	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：個人設定課題の決定 ○ワーク：企画書案の作成・提出 ○ワーク：資料の収集	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題（企画書） ○アサイメント：テーマに関する資料を収集しておく
第 12 回	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：資料の整理、切り口の検討	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題（進捗状況の報告） ○アサイメント：収集した資料を整理して切り口を決めておく ○アサイメント：分析・考察を完成させておく
第 13 回	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：発表資料の作成 ○発表順の決定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題（進捗状況の報告） ○アサイメント：発表資料を完成させておく
第 14 回	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○個人設定課題の発表	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題
第 15 回	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○「当たり前」を見直す：だれもが活躍できる社会へ ○期末アンケートの実施 ○ふりかえりシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出：授業内課題（ふり返しシート）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC211-Y51	2.科目名	文化資源の活用と保全		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 本科目は、多様な文化資源を対象とするツーリズムの構造と特徴、および観光によるインパクトと文化遺産の観光マネジメントを理解し、説明できるようになることを目的としています。 【科目の概要】 人類の長い歴史のなかで創り出されてきた歴史的・文化的な事物は、現代社会において観光のための「資源」として活用されています。本科目では、多様な文化資源の類型を学んだうえで、特に世代をこえて継承されてきた文化遺産を対象とするツーリズムについて学んでいきます。ヘリテージ・ツーリズムと呼ばれる“遺産観光”が行われるなかで、貴重な遺産をどのように守り、活かして後世に伝えていくことが出来るか。この授業では、文化遺産の意義と保全の難しさ、およびツーリズムインパクトについて学び、保全と活用のバランスについて理解します。 本科目を通じて身につけた文化遺産の持続可能な観光活用の知識とスキルは、旅行業および地域振興にとって有意義なものとなるでしょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP の学修に関連しています。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）：自分とは異なる考え方や価値観を尊重し、多様な社会的・文化的背景を受け容れながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力：様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① 多様な文化資源の類型とその特徴について説明できる。 ②文化資源の類型に応じた観光活用の手法とそのメリット・デメリットについて説明できる。 ③ 文化遺産の脆弱性と観光インパクトの関係について説明できる。 ④ 文化遺産の観光マネジメントプラン作成法について説明できる					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	藤木庸介（編著）『生きている文化遺産と観光—住民によるリビングヘリテージの継承』学芸出版社、2010 年 Dallen J. Timothy, Cultural Heritage and Tourism: An Introduction, Channel View Books, 2011					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート・・・20% 【学習目標①②③④に対応】 ・確認試験・・・30% 【学習目標①②③④に対応】 ・総括試験・・・50% 【学習目標①②③④に対応】					
22.コメント	実際に世界遺産を訪れて、授業の内容を振り返りつつ見学すると、より理解が深まります。また、多様な文化に対する多様な観方を共有するためにも、意見交換の場では積極的に発言してください。 【生成 AI について】 生成 AI の利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成 AI で作成したものをそのまま使用することは認めません。					

	発覚した場合は相応のペナルティを課します。	
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜4限（春） 学修支援センター：水曜昼休み（春）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・講義：ヘリテージとヘリテージツーリズムについて	準備学習：関連文献を読む（120分）
【第2回】	講義：文化資源を対象とする観光の概念と歴史 ディスカッション：なぜ人は文化遺産を求めるのか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第3回】	講義：多様な文化資源を対象とするツーリズム グループワーク：文化遺産が提供する経験とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第4回】	講義：文化遺産を対象とするヘリテージツーリズムとその3つの側面 ディスカッション：文化遺産の「商品化」とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第5回】	講義：ヘリテージツーリズムの構造と課題 ディスカッション：観光が与える影響とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第6回】	講義：ヘリテージツーリズムの対象としての文化遺産 グループワーク：文化遺産の類型と観光への適性	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第7回】	講義：文化遺産の脆弱性：有形遺産 グループワーク：因果関係を考える	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第8回】	講義：文化遺産の脆弱性：無形遺産 【確認試験】前半の内容の理解度を確認（60分）	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第9回】	講義：ツーリズムインパクト（1）：ポジティブな影響	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第10回】	講義：ツーリズムインパクト（2）：ネガティブな影響 ディスカッション：観光は文化遺産にとってプラスかマイナスか	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第11回】	講義：観光による文化遺産の変化とその主体 グループワーク：ツーリズムインパクトの主因はなにか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第12回】	講義：文化資源の観光マネジメントの考え方	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第13回】	講義：文化遺産のリスクアセスメント グループワーク：白川郷のリスクアセスメント	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第14回】	講義：文化資源を活かした観光の原則 ディスカッション：文化遺産の観光活用の意味	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）

【第 15 回】	総括試験	これまでの授業を振り返り、ノートをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	SOC212-Y51	2.科目名	自然資源の活用と保全		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は、グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間を対象とするツーリズムについて学ぶ授業です。グリーンな空間は、近年、観光資源としての活用のありかたが注目されています。本科目を通じて身につけたグリーンな農村空間の持続可能な観光活用の知識とスキルは、旅行業および地域振興にとって有意義なものとなることをめざします。 【概要】 この授業では、生業に関わるグリーンな空間が、ツーリズムの対象とされ、利用され、消費され、開発されることによってひきおこされる農村のインパクトについて、世界と日本の事例から学び、保全と活用のバランスについて理解します。 本授業は、自然資源をよりよく活用することを探るグリーンツーリズム論を通して、観光学科で取り扱う重要なテーマ「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする」ことにアプローチします。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① グリーンツーリズムの構造とその課題を説明できる。 ② グリーンツーリズムの類型について説明できる。 ③ グリーンツーリズムと観光インパクトの関係について説明できる。					
19.教科書・教材	教科書は特に指定しない。教材資料は、webclass で、配布します。					
20.参考文献	マイケル・ウッズ（2018）『ルーラル：農村とは何か』農林統計出版 筒井一伸編(2021)『田園回帰がひらく新しい都市農山村関係』ナカニシヤ出版など そのほか、授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート（授業内レポート）・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・授業中の発表・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・中間試験・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・総括試験・・・40% 【学習目標①②③に対応】 授業中のコメントシート、確認試験・統括試験の記述部分と発表は、ルーブリック評価で採点します。					
22.コメント	実際に農業体験などツーリズムの対象となっている日本の農村空間を訪れて、授業の内容をふりかえりつつ見学すると、より理解が深まります。 また、村落社会の生業に関わる歴史・景観・文化に対する多様な視点を共有するためにも、意					

	見交換の場では積極的に発言してください。 ?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。	
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：木曜昼休み（尼崎キャンパス）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・講義：農村・農村性・田舎・田園とグリーンツーリズムについて	準備学習：関連文献を読む（120 分）
【第 2 回】	講義：グリーンツーリズムの概念と歴史 ディスカッション：都市に住む人々にとっての農村（村落・田舎・田園・ルーラル）とは？、農村を研究するとのどのようなことか？	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 3 回】	講義：グリーンツーリズムの動機と類型 グループワーク：グリーンツーリズムが提供する経験とは？ 都市と農村・村落（グリーン・田舎・田園）のイメージの違いとは？	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 4 回】	講義：グリーンツーリズムの 3 つの側面（農村空間の三つ折りモデルの理解に向けて） ディスカッション：農村空間の「商品化」とは？	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 5 回】	講義：グリーンツーリズムの構造と課題：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その 1） ディスカッション：農村に観光が与える影響（インパクト）とは？	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 6 回】	講義：グリーンツーリズムの対象としてのグリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その 2） グループワーク：グリーンツーリズムの類型と観光への適性	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 7 回】	講義：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間におけるゲストとホストの関係・交流：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その 3） グループワーク：グリーンツーリズムにおけるゲストとホストの関係を考える	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 8 回】	講義：農村をイメージする・農村を利用するとは？農村を消費するとは？ 中間試験	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 9 回】	講義：グリーンツーリズムインパクト（1）：ポジティブな影響：都市農村交流人口を手がかりとして 中間試験のふりかえり	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 10 回】	講義：グリーンツーリズムインパクト（2）：農村空間における摩擦：都市農村交流人口と田園回帰の諸相 ディスカッション：農村にとってツーリズムのプラス面とマイナス面のバランスについて考えてみよう	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）

【第 11 回】	講義：ツーリズムによるグリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間の変化とその主体：都市農村関係論的田園回帰 グループワーク：農村空間におけるツーリズムインパクトについて考えよう	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 12 回】	講義：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間を開発することをめぐって：農村で生きるとは？農村を演じるとは？農村を規制するとは？農村を再構築するとは？：グリーンツーリズムのマネジメント	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 13 回】	講義：グリーンツーリズムの原則 ディスカッション：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間の観光活用の意味　：棚田オーナー制度を手がかりにして考える	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：総括試験に向けて授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60 分）
【第 14 回】	総括試験	準備学習：関連文献を読む（60 分） 復習：総括試験のふりかえり（60 分）
【第 15 回】	まとめ	これまでの授業をふりかえり、ノートをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	SOC215-Y51	2.科目名	消費行動・消費社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）課題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な課題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材	webclass にレジュメをアップしますので、授業開始までに印刷しておくこと。					
20.参考文献	経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学 改訂版 山口裕幸ら著 有斐閣 サクッとわかるビジネス教養行動経済学 阿部誠監修 新星出版社					
21.成績評価	1. 各回のミニレポート×14 回＝60％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：40％（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント	※授業までにレジュメ(ppt の穴抜き)を webclass に用意します。 必要な人はレジュメを授業前に印刷をしておいてください。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス：産業・組織心理学とは			産業・組織心理学について復習（120 分）		
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響力			説得の影響力について復習（120 分）		
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学			社会的証明とネットレビューの心理学について復習（120 分）		
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法			ネガティブポイントをポジティブに見せる方法について復習（120 分）		
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング			ユニットアスキングについて復習（120 分）		

第 6 回	説得時における数字の効果	説得時における数字の効果について復習（120 分）
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学	従業員のモチベーションを高める心理学について復習（120 分）
第 8 回	職場のコミュニケーション	職場のコミュニケーションについて復習（120 分）
第 9 回	特典付加の心理学	得点付加の心理学について復習（120 分）
第 10 回	広告・マーケティング①	広告・マーケティング①について復習（120 分）
第 11 回	広告・マーケティング②	広告・マーケティング②について復習（120 分）
第 12 回	心理的財布と支払い	心理的財布と支払いについて復習（120 分）
第 13 回	苦情行動・クレーマー	苦情行動・クレーマーについて復習（120 分）
第 14 回	ラストシーンの心理学	ラストシーンの心理学について復習（120 分）
第 15 回	到達度確認テスト	授業全体の復習（300 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC217-Y51	2.科目名	家族社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	「社会学基礎Ⅰ」「社会学基礎Ⅱ」を履修済 が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	原則として、第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消す場合もあるので、注意してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族の過去、現在、未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考えるようになることを目指します。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったと言われています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているのでしょうか。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①自分の育った家族について他人に語ることができる。 ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。 ③ワークファミリーバランスの現状について、問題点を指摘することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の配布資料は WebClass 等に挙げます。					
20.参考文献	○山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版,2019 年（朝日新書 717） 他については適宜、紹介していきます。					
21.成績評価	・第 1 回レポート（テーマⅠ）⇒15％（目標①） ・第 2 回レポート（テーマⅡ）⇒15％（目標②） ・第 3 回レポート（テーマⅢ）⇒20％（目標③） ・授業内課題（アサイメント含む）⇒50％（目標①～③）					
22.コメント	●総合社会学科「家族論」を同じ時間帯に開講します。 ●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急きょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれません。 ●ノート P C のみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。 ●グループワークの多い授業です。自分の家族・家庭や結婚観等について語る機会もありますので、 自己開示が苦手な人には不向きです。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒木曜Ⅳ限（1320 研究室）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？① ○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○ワーク：「家族」という言葉から何を連想するか？	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第2回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？② ○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） ○ワーク：家族構成やファミリーコンセプトを設定し、発表する。 ○ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケート ●第1回レポート告知	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第3回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？③ ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケートの結果をもとに、家族の多様性について考える。	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第4回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？④ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出：授業内課題 提出：第1回レポート 復習：今回の復習
第5回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？⑤ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表（続き） ○テーマのふりかえり	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第6回	テーマⅡ：「結婚」について考える① ○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第7回	テーマⅡ：「結婚」について考える② ○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○第2回レポート課題告知 「結婚する／しない？：わたしの結婚観」	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第8回	テーマⅡ：「結婚」について考える③ ○講義：オークション結果の発表 ○ワーク：アンケート結果をもとに結婚観について考える ○講義：データからみた日本の結婚（続）	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第9回	テーマⅡ：「結婚」について考える④ ○ワーク：第2回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第2回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出：授業内課題 提出：第2回レポート 復習：今回の復習
第10回	テーマⅢ：家事と就労について考える①	提出：授業内課題

	○ワーク：第 2 回レポートの発表（続） ○第 3 回レポート課題告知 「人生 100 年時代の働き方と家族：私たちはこう考える」 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（ファミリー単位）	予習：資料収集
第 1 1 回	テーマⅢ：家事と就労について考える② ○講義：新聞記事の検索：『聞蔵』を中心に ○ワーク：テーマに関する記事検索 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（2 回目）	提出：授業内課題 予習：資料収集
第 1 2 回	テーマⅢ：家事と就労について考える③ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（3 回目） テーマと方向性、役割分担を決める。	○予習：資料の収集
第 1 3 回	テーマⅢ：家事と就労について考える④ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（4 回目） 持ち寄ったデータを整理しまとめる。プレゼン資料の作成	持参するもの：ノート P C、調べてきた記事 授業外グループ学習：テーマについて分担して調査
第 1 4 回	テーマⅢ：家事と就労について考える⑤ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）	提出：授業内課題 提出：第 3 回レポート
第 1 5 回	テーマⅢ：家事と就労について考える⑥ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）（続） ○講義：テーマのふりかえり ○授業アンケートの実施	提出：授業内課題

1.授業コード (ナンバリング)	SOC220-Y51	2.科目名	マスコミ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西昭彦					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義＋グループワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	暗箱の中の小さな針穴から、私たちは世界をのぞき、ときに声をだしています。この針穴が「メディア」であり、これを通じた情報のやりとりが「マス・コミュニケーション(マスコミ)」です。授業では、現代および歴史に例をとりつつ、さまざまなマス・メディアが果たしてきた役割を検証します。そのうえで、情報社会にあって自分たちがいまどこにいるのか、どこに向かっているのかを知る能力を養うことを目的としています。					
18.学習目標と DPとの関連	「S1.修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」 「S2.社会や文化について科学的に理解する力」の学修に関連しています。 1. 変革期にあるマス・コミュニケーションの全体像を理解し、説明できる。 2. 各メディアの特性や仕組み、社会との関わりを理解し、説明できる。 3. 各メディアのコンテンツをとおして時代の流れを理解し、説明できる。 4. メディアの構造や表現法について学び、自らのメデオア表現に使うことができる。					
19.教科書・教材	授業でレジュメを配付、資料はプロジェクターで投影					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	授業態度・課題 30 点 (学習目標の1～4 に対応) 期末レポート 70 点 (学習目標の1～4 に対応)					
22.コメント	メディアの発達から構造、さらにメディア表現について、多角的な視点から情報社会を読み解いていきます。あわせて企画力を養うグループワークを実施。各分野ごとに自分なりの関心や疑問をもち、授業にのぞむとよいでしょう。質問等は授業後またはメールにて受けつけます。					
23.オフィスアワー	授業の前後に、教室で質問を受け付けます。 上記メールアドレスでもお問い合わせください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ガイダンス、メディア論導入			復習／レジュメを再確認		
第2回	メディア・コミュニケーション 1／身体とメディア			復習／レジュメを再確認		
第3回	メディア・コミュニケーション 2／集団とメディア			復習／レジュメを再確認		
第4回	メディア・コミュニケーション 3／技術とメディア			復習／レジュメを再確認		
第5回	電波系メディア／新聞・出版			復習／レジュメを再確認		
第6回	電波系メディア／TV を中心に			復習／レジュメを再確認		
第7回	メディア史（権力とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第8回	メディア史（記憶とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第9回	メディア史（戦争とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第10回	メディア史（経済とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第11回	広告とメディア1／構造			復習／レジュメを再確認		
第12回	広告とメディア2／表現			復習／レジュメを再確認		
第13回	メディアと表現1／言葉・音楽と社会			復習／レジュメを再確認		
第14回	メディアと表現2／絵画・写真史と社会			復習／レジュメを再確認		
第15回	メディアと表現3／映画と社会			復習／レジュメを再確認		

1.授業コード (ナンバリング)	SOC221-Y51	2.科目名	サブカルチャー論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本慎太郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： この科目では、日常的に触れるコンテンツから学びの契機を見出す視点を身に付けることを目的とします。 概要： 特に日本において制作されてきた商業アニメを中心に、画面を作る表現の技術、画面に盛り込まれたさまざまな情報とその解釈、こうしたコンテンツの提供を可能にするビジネスの変遷や、見るがわの楽しみ方の変遷について概説します。コンテンツを多様な視点から評価・分析することを経験し、コンテンツに現れた人間活動のさまざまな側面にまつわる学びや研究の手がかりを得ることができます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解 （4）問題発見・解決力 の学修に関係しています。 学修目標は以下の通りです。 ①日常的に接するコンテンツを、技術やその系譜、受容のされかたなどから多角的に検討できる。 ②コンテンツに接することを契機として、自らの興味・関心に基づいた自発的な学習を実施できる。 ③コンテンツについて述べられた様々な文章や議論を批判的に検討できる。					
19.教科書・教材	使いません。毎回、資料を配付します。					
20.参考文献	参考文献や映像作品については、授業中、適宜紹介します。					
21.成績評価	①毎回、授業から得た理解や着想についての短文を提出。各回講義の理解（学修目標①に対応）・授業に積極的に参加し自発的な思考を行えているか（学修目標②に対応）、理解した内容の表現力（学修目標③に対応）、を評価します。 —60 点 ②最終評価レポート（感染防御対策のため、以前よりアナウンスしておりました総括試験から変更して、レポートとして実施します）：論述形式で実施し、授業内容の理解（学修目標①に対応）と自発的学習の達成（学修目標②に対応）、また、それらを整理して書く能力（学修目標③に対応）を評価します。 —40					
22.コメント	成績評価方法①にある短文、および質問などについて、適宜授業内で返答します。これらの教員からの応答は、適宜に双方向性をもたせ、ディスカッションとしても運用します。また、各種の問い合わせなどにはメールや WebClass でも対応します。					
23.オフィスアワー	授業各回の前後にも随時、質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	アニメの背後に見出せるもの —近年の日本アニメの潮流			ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass な		

		ど、オンラインツールを介して行う予定)。
【第2回】	作画、戦闘、ミュージカル — 『マクロスF』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第3回】	アニメの「背景」と画面 — 『機動警察パトレイバー』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第4回】	「2次元」の場面表現 — 『ユリ熊嵐』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第5回】	情報量のコントロール — 『新世紀エヴァンゲリオン』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第6回】	戦闘美少女と魔法少女 — 『美少女戦士セーラームーン』『おジャ魔女ドレミ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第7回】	くりかえしとその終わり — 『魔法少女まどか☆マギカ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。

		可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 8 回】	『おそ松さん』が描く男子	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 9 回】	迫害と主張の世代 — 『ドリフターズ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 10 回】	「二次創作」とメディアミックス — 『Fate/Grond Order』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 11 回】	「速さ」の革新 — 『けものフレンズ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 12 回】	宮崎駿のもたらしたもの	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目に

		するコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 13 回】	「現場」体験と地域 ―『ゾンビランドサガ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 14 回】	好きなものを大切に生きていくーコンテンツのこれから	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 15 回】	まとめ	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC308-Y51	2.科目名	質的調査法 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、社会調査で用いられる様々な質的データの収集と分析の方法を学ぶ。まず、社会学の分野における研究例を紹介しつつ各方法の特徴を概観する。また、一部の方法については実際に質的データの収集と分析を試みることで、質的調査の実践的なスキルの基礎を習得することを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	①社会調査における質的調査の特徴とその意義を理解することができる。 ②インタビュー調査の実査をとおして、インタビューデータをまとめ資料化することができる。 ③フィールドワーク（観察法、新聞記事検索）によるデータの収集と分析ができる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	テキストおよび資料を配布する。					
20.参考文献	その他、適宜紹介します。					
21.成績評価	①観察法に関する小課題…10 点 [学習目標①③に対応] 「路上観察」にかんするミニ課題を出します（第 2 回） ②新聞記事分析の発表…45 点 [学習目標①③に対応] 読売新聞データベース（ヨミダス）をつかって、自身が関心のある記事を集め、まとめてもらいます。 ③インタビュー調査のレポート…45 点 [学習目標①②に対応] 社会科学科学生にインタビューを実施し、インタビュー記録を文字に起こし、レポートとしてまとめてもらいます。					
22.コメント	質的調査法は、将来とても役に立ちます。私たちは普段、インタビューを見かけない日はありません。フィールドワークは、企業などで活用されています。新聞分析などに代表される言説分析は、マーケティングの基礎です。役に立つ授業をするつもりです。 グループワークや意見交換などをよくおこなう授業です。 そして授業時間外におこなう作業が多い授業なので、そのつもりで受講してください。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：金曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業の進め方、評価等についての説明			復習：授業内容をノートなどにまとめる		
【第 2 回】	質的調査とは何か 量的調査と質的調査、質的調査の意義とは何か			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 復習：授業内容をノートなどにまとめる		
【第 3 回】	観察法：路上観察			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 宿題：小課題をすること		
【第 4 回】	観察法：路上観察			準備学習：授業内にて提示したテキストを読む		

		むこと 復習：授業内容をノートなどにまとめる
【第 5 回】	新聞記事の分析	準備学習：調べたいテーマを考えておくこと 宿題：企画書をまとめる
【第 6 回】	新聞記事分析：記事の検索と整理	授業時間外に新聞記事検索を実施する
【第 7 回】	新聞記事分析：結果の整理、まとめ	新聞記事検索結果のデータベースを完成させる
【第 8 回】	新聞記事分析：分析レポートの作成	発表の準備をする
【第 9 回】	インタビュー法①：課題の提示	準備学習：インタビューの対象者と目的を考えておくこと 宿題：インタビューの対象者へのアポイントメントをおこなう
【第 10 回】	インタビュー法②：調査対象の選定	準備学習：インタビューの対象者と目的を考えておくこと 宿題：インタビューの対象者へのアポイントメントをおこなう
【第 11 回】	インタビュー法③：質問項目の作成	準備学習：インタビューのテーマについての先行研究などを調べておく 宿題：質問項目リストを完成させる
【第 12 回】	インタビュー法④：インタビューの実施	授業時間外にインタビュー調査を実施し、データを収集しておくこと。
【第 13 回】	インタビュー法⑤：インタビューデータの整理、文字起こし	準備学習：インタビュー記録の整理（文字起こしなど）をおこなっておくこと 宿題：授業内に提示した方法を参考に、インタビュー記録をレポートとしてまとめる。
【第 14 回】	インタビュー法⑥：インタビューレポートの作成	宿題：授業内に提示された小課題を完成させる
【第 15 回】	まとめ	準備学習：これまでに提出した課題（レポート）をもう一度よく読み、ふりかえる 復習：授業内容をノートなどにまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	SOC308-Y52	2.科目名	質的調査法 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科・心理学科			9.履修学年	社会学科：2 年～ 心理学科：3 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士（選択）		11.先修条件	「社会調査論」「社会調査法」（心理学科は「社会調査法Ⅰ」「同Ⅱ」）履修済であることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（一部、演習を含む）		
16.履修制限	人数制限あり。おおむね 20 名まで。超えた場合は「社会調査士」資格取得希望者を優先します。第 1 回目の授業に必ず出席してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、質的調査に関する講義と演習を通して、質的調査への理解を深めることを目的とします。 【概要】 前半では、質的調査の意義と特質について理解した上で、質的調査法の種類について調査事例を通して学びます。後半では、具体的なテーマに沿って、2つの調査法（「観察調査」「インタビュー調査」を予定）について、企画・実査から分析、結果の考察、報告書の作成までを行います。調査体験を通して、質的調査法への理解を深めることをねらいとします。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「専門的知識・技能の活用力」の学修に関連しています。 ①質的調査の意義、意類と特質について説明できる。 ②観察調査を企画し、実施することができる。 ③インタビュー調査を企画し、実施することができる。					
19.教科書・教材	使用しない。教材は WebClass にあげる。					
20.参考文献	●工藤保則・寺岡伸吾・宮垣元編『〔第3版〕質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社 その他の文献については適宜、紹介する					
21.成績評価	・調査企画書⇒20%（目標②③） ・調査報告書⇒計 40%（目標②③） ・プレゼンテーション⇒計 10%（目標②③） ・練習問題⇒計 30%（目標①）					
22.コメント	①～④を了解できる人のみ履修してください。 ①調査を実施したり結果をまとめるなど、授業外学習が多い科目です。 ②グループワークが多い授業ですので、出席することが大前提となります。 ③教科書を使用しますが、すべての章を詳しく扱うわけではありません。 ④教室外での調査が予定されているため、常時遠隔受講を希望する方には対応できません。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センターオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・オリエンテーション(授業の内容、進め方、評価方法			◆教科書◆（毎回持参）		

	等) ・ 質的調査へのいざない (教科書 第 1 章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第 2 章の精読
第 2 回	・ 第 1 章練習問題の発表 ・ 第 1 章の②輪読 ・ 海外における質的調査の歴史、日本における質的調査の歴史 (教科書第 2 章) ・ 練習問題 ・ グループ編成	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第 3 章の精読
第 3 回	・ 質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の意義と特質 (教科書第 3 章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第 4 章と第 5 章を読む
第 4 回	・ 質的調査の種類①非参与観察法および参与観察法 ・ 調査事例の解説 (教科書第 4 章、第 5 章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第 6 章と第 7 章の精読
第 5 回	・ 質的調査の種類②インタビュー法およびライフヒストリー法 ・ 調査事例の解説 (教科書第 6 章、第 7 章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第 8 章と第 9 章の精読
第 6 回	・ 質的調査の種類③文化資料分析法および映像分析法 ・ 調査事例の解説 (教科書第 8 章、第 9 章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習およびノートの整理 教室外グループ学習: 観察調査のテーマについて考えてくる。
第 7 回	観察法の体験① ・ 観察調査のテーマを設定し、調査企画書を作成する。	◆ノート P C◆ 授業外グループ学習: ①企画書を完成させる。 ②第 1 回調査の実施
第 8 回	観察調査の体験② ・ 第 1 回調査結果について、グループ内で話し合い、分析方法を検討する。 ・ 調査が不調だった場合には、調査法を再検討する。	◆ノート P C◆ 授業外グループ学習: 第 2 回調査を行う。 提出物: 観察法企画書
第 9 回	観察調査の体験③ ・ 第 2 回調査結果について、グループ内で話し合い、調査結果をまとめる。 ・ 調査が不調だった場合には、調査法を再度検討する。	◆ノート P C◆ 授業外グループ学習: ①第 3 回調査 (第 2 回調査が不調だった場合) ②調査結果の整理 ③報告書の作成 (次回提出) ④プレゼン資料の作成 (次回提出)
第 10 回	観察調査の体験④ ・ 調査報告書にもとづきプレゼンテーションを行う。	◆ノート P C◆ 授業外グループ学習: インタビュー調査のテーマを考えてくる。 提出物: ①観察法調査報告書 ②プレゼンテーション資料
第 11 回	インタビュー調査の体験① ・ インタビュー調査のテーマを設定する。	◆ノート P C◆ 授業外グループ学習: 対象者を検討する。

	・調査対象者、人数、質問項目(チェックリスト)を作成する。 ・調査企画書を作成する。	
第12回	インタビュー調査の体験② ・グループ毎にインタビューの練習を行う。 ・インタビュー調査の企画書を完成させる。	◆ノートP C◆ 提出物：インタビュー調査企画書 授業外グループ学習：調査の実施
第13回	インタビュー調査の体験③ ・データを記録としてまとめる。	◆ノートP C◆ 授業外グループ学習：記録を完成させる。
第14回	インタビュー調査の体験④ ・調査結果を整理し、考察を加える。 ・報告書を作成する。	◆ノートP C◆ 授業外グループ学習： ①調査報告書を完成させる。 ②プレゼンテーション資料の作成
第15回	インタビュー調査の体験⑤ ・調査報告書にもとづきプレゼンテーションを行う。 ・授業のふりかえり。	提出物： ①インタビュー調査報告書 ②プレゼンテーション資料

1.授業コード (ナンバリング)	SOC310-Y01	2.科目名	国際地政学	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	講義	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学部他学科を受け入れます。			9.履修学年	1 回生～
10.取得資格の要件				11.先修条件	特にありません。
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	特にありません。				
17.授業の目的と概要	目的：グローバル化する日本と諸外国の交流を地理・歴史と政治学から考える 概要：国際地政学（Geopolitics）は、グローバルスタディに出かける皆さんが、訪問先の国々と日本との関わりを探るために、欧米や東アジア、極東、南アジア地域の地理と歴史、そして政治の流れを広く学ぶ授業です。この地政学は、19 世紀から 20 世紀初期、アジアやアフリカの未開の地を、イギリスやドイツ、アメリカや日本が征服し、植民地として経営するために発達しました。これらの強国が自国の国民経済の利益最大化のための学問でした。その侵略的な考え方は、第二次世界大戦後の平和な国際社会では避けられていました。21 世紀現在、過去の反省に立ち、自国の歴史観を離れ、グローバル視野から批判的に国際政治史を捉える学問として再構築されました。 グローバルスタディに出た先の国々では地理や歴史の解釈が、皆さんが日本で習ったものと違います。また、国内で暮らす外国籍の人たちの日本に対する見方も、皆さんの認識と違います。その違いはなぜ生じたか、価値観の違いだけでは説明できません。多国籍な教員と学生が学ぶ関西国際大学では、そこで認識の違いの背景を探り、共通認識となる歴史観に立った未来を語り合います。今や世界中からの観光客が日本を訪れる時代です。そんな人々と交流するための基礎知識を学びます。				
18.学習目標と DPとの関連	神戸のような歴史ある国際都市に暮らしていても身近な異文化には気づきにくいものです。ご年配の外国生まれ市民の皆さんは昔の神戸にも詳しく、その異文化は見えません。一方、最近日本にきたアジアの留学生、日系労働者、技能実習生が増え、学内やアルバイト先で接する機会が増えています。そんな経験から共生社会を考えはじめ、その背景に広がる現代社会の課題、さらには 3 億人もの移民・難民が動く世界の大変化をすることが学習目標、到達目標は異文化コミュニケーションの達人です。				
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。				
20.参考文献	小山 望, 勅使河原 隆行他『これからの「共生社会」を考える 多様性を受容するインクルーシブな社会づくり』福村出版、2020 年 宮島 喬多文化共生の社会への条件:日本とヨーロッパ,移民政策を問いなおす』東京大学出版会、2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2021 年				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回：10 月 2 日 世界の国々を学び、国際関係を知る。グ	授業の主な内容と進め方をお話しします。「国際地政学」とはたいそうタイトルですが、ネットやテレビでもよく話題にされるお話します。観光や留学、国際キャリアを目指す皆さんが渡航前に知っておくと何かと便利な世界の常識の話です。グローバルスタディで			○アサインメント：将来留学するとしたらどの国ですか？グローバルスタディではどの国に行きますか？ ○事前学習：皆さんが行ってみたい国を 3 つ挙げてください。その国では日本にどんなイ	

ローバルスタンディのための世界観	も、韓国、中国、台湾、マレーシア、そしてインドネシアがあり、アメリカやオーストラリアもあります。どう違い、それにはどんな理由、背景があるのか。分かりやすい世界史のお話を聞かせます。	メージを持っているか考えて下さい。
第2回：10月9日 日本を取り巻く国際政治、世界経済	さて、海外の人々から日本と日本人はどう見られているのでしょうか。何かと騒がしい韓国や中国と親日と言われる台湾の違いはなぜ生じたのか、マスコミもよく話題にしますが、19世紀末から20世紀前半の植民地支配と戦争の歴史があったからです。また、神戸を始め関西には在日朝鮮韓国人や華僑が多く、皆さんの中にもいるはずです。もちろん留学生もいます。こうした戦前戦後の歴史を韓国や中国ではどう学んだのか、これも国際地政学の重要なテーマです。身近な隣国で自分がどう見られるかを学びます。	○アサイメント：日本を好きな国を一つ上げて下さい。またその逆の例も一つ上げて下さい。 ○事前学習：今年はウクライナ難民がよく語られますが、これ以外の難民の例を一つ上げて下さい。
第3回：10月16日 日本史と世界史、どちらを学ぶ？	日本人の皆さんは当たり前のように、世界史と日本史、高校時代に選び、入試でどちらか選択してきました。では、韓国や中国ではどうでしょう。また、マレーシアやインドネシアではどうか、そもそもその国はいつ成立し、何世紀分の歴史があるのでしょうか。さらに、世界史というのは日本固有の授業科目です。西洋史と中国史を中心に、最近ではアジアや中南米の歴史も教えますが、アフリカやオセアニアにはほとんど触れません。どちらの科目も現代の国際情勢を知るためには決して十分ではないのです。地政学は、その足りない部分を繋ぎ、埋める学問として	○アサイメント：世界史と日本史、どちらを勉強し、印象的だったことを書き出してください。 ○事前学習：神戸に住む中国人を思い出し、いつ頃来た人か考えてみて下さい。
第4回：10月23日 グローバルヒストリー（地球史）から見た日本の歴史	日本は中国文化圏の一部、東夷と呼ばれた太平洋の島々からなる辺境の国でした。文明は中国からもたらされていましたが、世界史との関係で三回の大きな地政学的変化を体験しました。最初は16世紀、スペイン、ポルトガルの進出です。鉄砲やキリスト教が伝来した時代です。二回目が19世紀明治維新、三回目が20世紀の敗戦です。皆さんがよく知る日本史や世界史では教えない国際地政学からみた世界と日本の関係、その見方を学びます。	○アサイメント：南京町で今でも営まれている中国系の文化的伝統を一つ上げて下さい。 ○事前学習：神戸市の9行政区別の在留外国人数を調べて下さい。また、各区で最も在留人数の多い国を挙げて下さい。
第5回：10月30日 身近な国々、韓国/北朝鮮、中国/台湾の戦後史を知る	1945年に連合国（後の国際連合）と日本の戦争は終わりましたが、1950年には朝鮮戦争が始まり、南北に別れた朝鮮と韓国軍を支えるためにアメリカ軍、北を支援した当時ソビエト連合といったロシアと中国の人民解放軍が、朝鮮半島で熾烈な戦いを繰り広げました。その前から台湾に逃れた中国の国民党政府と、中華人民共和国政府は台湾海峡を挟んで緊張関係を続け、今も台湾有事に備えて日本の自衛隊の配備が進んでいます。これも日本史や世界史で教えませんが、国際地政学の重要なテーマです。ぜひ詳しく学んでみてください。	○アサイメント：日本が朝鮮王国を併合したのは何時ですか、それはいつまで続いたか、できるだけ詳しく述べて下さい。 ○事前学習：関西には神戸の他に大阪市など外国籍市民が多く住む町があります。外国人の多い地区を上げて下さい。
第6回：11月6日、もう一つの隣国ロシア	ロシアによるウクライナ侵略が起き、防衛戦争が今も続いています。多くの日本人から見るとロシアは不思議な国、世界の大半の国々の人も異端視しています。	○アサイメント：この授業の受講中に、関西の中で外国籍市民が多くすむ地区の一つ訪れ、報告して下さい。

ア、地政学的理解の勧め	1904～1905 年に日露戦争があり、太平洋戦争（第二次世界大戦）末期の 1945 年には、当時の満州や朝鮮にソ連軍が侵攻し、北方領土と呼ぶ北海道の北東沖の島々が占領されました。日本は何とかロシアと友好関係を回復しようとしたが失敗続き、ソ連がロシアに代わっても同じでした。国際地政学者、特に周辺国の学者は、昔からロシアという国とその国民、領土を研究してきました。分か	○事前学習：外国籍市民には日本に永住する人が多くいます。なぜ自国に戻らないのか理由を想像して書きだして下さい。
第 7 回：11 月 13 日 高校世界史で習ったアジアの歴史を超えた 20 世紀後半の東アジアと東南アジア	ロシアとの関係ではロシア革命の結果、1922 年に生あれ、1991 年に解体したソビエト連邦という国とその共産党の国際的な影響をお話しました。続いて 1945 年以降、東と東南アジアの国々に、そのどんな影響が及んだかを学びます。アメリカとソ連、東西冷戦の時代です。そこに中国共産党が加わった三大国の代理戦争が、朝鮮戦争とベトナム戦争です。カンボジアやラオス、ミャンマーだけでなく、マレーシアやインドネシアにもその影響が及びました。皆さんが訪れるこれらの国々の若い人は、その歴史をどう感じているのでしょうか。	○アサイメント：ロシアのまちで知っている都市を上げて下さい。その街には、どんな歴史と文化があるか述べて下さい。 ○事前学習：ベトナム戦争について調べて、簡単にまとめて下さい。
第 8 回：11 月 20 日イエズス会の地政学	講義の後半は東アジアを離れ、より広い世界を見ていきます。ヨーロッパと中南米、ちょっと北米とアフリカの歴史です。まず、16 世紀に生れたイエズス会是世界布教を目指し、我々の極東だけでなく、中南米に進出しました。多くの日本人が移民し、今では何万人もの日系人還流移民するペルーやブラジルは、その結果生まれた国々です。カトリックのイエズス会だから「ラテン・アメリカ」、スペイン（イスパノ）とポルトガルの植民地だから「イベリア。アメリカ」と言われます。実際には、進出（侵略）で滅ぼされたインカやアステカなどの国々の人人とイ	○アサイメント：日系人はなぜ急に増加したか、その理由を 3 点あげて下さい。 ○事前学習：皆さんはキリスト教のカソリックと接点がありましたか？近くに教会がある、カソリック系の学校がある、通った、信者を知っているなど教えて下さい。
第 9 回：11 月 27 日旧地政学の時代、イギリスとオランダの東インド会社と南アジア、東南アジア	地政学は植民地争奪戦の中で発達した学問です。1588 年のアルマダ海戦に勝ったイギリスとオランダは徐々にスペインの植民地を、特にアジアとアフリカで奪い始めます。中南米ほどにスペイン化されていなかったからです。植民地経営にあたったのが東インド会社、英国のインド植民地、マレーシアとシンガポール、オランダ領インドと呼ばれた現在のインドネシアは、徐々にスペインやポルトガルの勢力が追い出され、18 世紀以降に開発が進みました。そのパワーバランスを知り、合理的な植民地経営を検討したのが地政学です。その手法はインドで試され、	○アサイメント：日本の植民地だった国々を一つ上げて、今どんな日本の影響が残っているか述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、スペインやイギリスは植民地を欲しがったか調べて下さい。
第 10 回：12 月 4 日地政学の発展、帝国主義と植民地の歴史	日本が植民地獲得を始めた 10 世紀初頭は、すでに欧米諸国が世界中の発展途上国を分割支配していました。日露戦争でロシアを破り、その権益を手に入れ、第一次世界大戦に参戦し、中国のドイツの権益を奪い、最後はアメリカがスペインや英国から譲渡された太平洋の島々を信託統治しました。朝鮮と台湾の総督府、東洋殖産、南満州鉄道などの国策会社は、インフラを整	○アサイメント：皆さんがアジアの国々に行くとしたら、どんな仕事をしたいか自由に述べて下さい。 ○事前学習：日本はなぜ植民地を必要としたのか調べて下さい。

	備しただけでなく、社会制度を改革し、鉱工業を整備し経済を発展させました。鉄道や建築土木技術を始め、品種改良で暑さや寒さに強いイネが食糧増産を実現しました。こうした日本の帝国	
第 11 回：12 月 11 日 19 世紀の東アジア、明治維新と中国、朝鮮	日清戦争、日露戦争で東アジアは大きく変わりました。大日本帝国による植民地の支配と経営の背後で、支配された国々の人々の暮らし、地域社会も変わっていました。反日・独立運動が知られていますが、変化はそれだけではありません。日本ではあまり紹介されない、当時の中国や朝鮮半島の社会の様子を見ていきます。是非は別として、日本の文化が深く浸透していった様子がよくわかります。	○アサイメント：日清戦争と日露戦争の違いを述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、清国政府（今の中国）は、日本に敗れ、またその領土で日本とロシアが戦争のを許したのか調べて下さい。
第 12 回：12 月 18 日 国際連盟と国際連合、日本の戦前と戦後	第一次世界大戦に参戦した日本は、国際連盟の成立に関与しました。その結果、国際連盟では常任理事国として、様々な利権だけでなく、国際協調を担う大国としての義務を負いました。近代化に遅れながらも、半世紀で先進工業大国の仲間入りをした日本は、こうして手に入れた常任理事国としての特権を大切にしようとして、当時の欧米先進国は考えました。でも、日本政府は国連連盟を脱退、日中戦争を続け、太平洋戦争に向かいました。そして敗戦、今度は経済的には成功しますが、国際政治の中では大きな発言権はありません。その結果、国際地政学の上	○アサイメント：国際連盟に参加した国を調べて下さい。 ○事前学習：国際連盟を日本脱退した理由を事前に調べて下さい。
第 13 回：1 月 8 日 極東とアメリカ、ベトナム戦争後の 50 年と中国の台頭	皆さんが生まれる前、20 世紀後半の東アジアでは戦争が続いていました。その時代、敗戦から立ち直った日本は平和を謳歌していましたが、中国の国共内戦と台湾への移動があり、韓国、ベトナム、カンボジアは戦乱が対照的に続きました。フィリピンやインドネシアでもクーデターや社会的混乱が続きました。今はすっかり平和になり、観光客も行き来しています。現地には、数々の戦争の遺跡が残されています。そして、世界第二位の超大国になった中国が、国際地政学の上で大きな存在感を見せています。この回は、東アジアの戦後を詳しく見ていきます	○アサイメント：ベトナム戦争の原因となった南北の政治対立とはどんな対立か簡単に述べて下さい。 ○事前学習：ベトコンとは何か、簡単に述べて下さい。
第 14 回：1 月 15 日 日米と中国、世界史の転換点に生きる	20 世紀後半から現在まで、日本は最重要同盟国であるアメリカの支援のもと国際政治に参加してきました。アメリカとの経済、社会的な関係も拡大し続けてきました。一方、アメリカに遅れて 1972 年に漸く国交正常化した中国とは、この半世紀の間、貿易は最大に拡大したものの、多くの懸案事項が残り、近くて遠い国だと言われます。今後も中国の経済力は拡大を続けます。密接な関係を保ちつつも、アメリカとは違う関係ができつつあります。やがて、アメリカ一強の時代は終わり、中国が派遣を握る時が来ると言われます。その時に備えて、何を学ぶか	○アサイメント：今の日本で、海外からの人材を必要とする産業部門を一つ上げて、その課題を書き出して下さい。 ○事前学習：これまで学んだ国際地政学の中で関心を持った課題を一つ上げて下さい。
第 15 回：1 月 22 日 国際大	最後に、グローバルスタディに出る皆さんが、留学先で出会った人々と、東アジアや東南アジアの歴史につ	○アサイメント：最終課題を別途発表します。

学から留学して学ぶアジアの地政学	いて話ることができるように、英語で戦後の歴史を話してみましよう。留学生の皆さん囲んでワークショップで、小学校から高校まで学んだ歴史の知識を語り合ってみましよう。それは、もちろん皆さんが外国に出た時の会話に備えたものです。留学生の皆さんと少し話すだけでも、歴史観の違いが分かるはずです。例えば、日本にアメリカ軍はなぜ駐屯しているのかについて。話してみて下さい。日本を外国の侵略から守るため、アジアの国々に日本が侵略し	○事前学習（最終回なので事前学習はありません。）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC311-Y51	2.科目名	社会病理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	平野孝典					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、犯罪・非行と自殺という2つの社会病理現象について、社会学的に考える方法を学びます。犯罪・非行や自殺を「怖いこと」「自分と関係ないこと」だと思っている方は多いのではないのでしょうか。実はこれらの現象は、私たちの生きている社会のあり方と強く結びついています。犯罪・非行と自殺という現象を社会学の視点から考えることで、私たちの日々の暮らしをより深く理解できるようになります。 【概要】 この科目は、2部から成ります。第1部（第2回～第8回）では、犯罪・非行に関する社会学的な理論や犯罪統計の読み方を学びます。第2部（第9回～第15回）では、自殺に関する社会学理論やジェンダーや災害と自殺との関係について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①現代日本社会における犯罪・非行と自殺の現状を理解し、説明することができるようになる。 ②代表的な犯罪社会学理論を学習し、犯罪が発生する社会的な原因を説明できるようになる。 ③自殺の社会学理論を学習し、自殺が発生する社会的な原因を説明できるようになる。 〔関連するディプロマポリシー〕 (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。授業資料を WebClass にアップします。					
20.参考文献	岡邊健編『犯罪・非行の社会学：常識をとらえなおす視座 [増訂版]』有斐閣、2020 年 末木新『自殺学入門：幸せな生と死とは何か』金剛出版、2020 年 このほかの参考文献は授業中に紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次の通りです。中間レポートと最終レポートのいずれも提出したうえで、合計 60 点以上で合格となります。 (1) 中間レポート：35%（犯罪・非行の社会学に関するレポートを課します） (2) 最終レポート：35%（自殺の社会学に関するレポートを課します） (3) 復習クイズ：15%（毎回の授業冒頭で、前回の授業に関連したクイズを解いてもらいます） (4) 授業へのコメント・質問：15%（授業最後の 10～15 分を使い、授業へのコメント・質問を毎回書いてもらいます） 課題の提出には、WebClass を活					
22.コメント	授業の円滑な進行を妨げる行為（授業中の私語や大幅な遅刻など）は厳禁です。 授業資料の配布や課題の提出には、WebClass を活用します。 授業への質問についても、WebClass で受け付けますので積極的に活用してください。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室、WebClass 等で、受講生からの質問等への対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業概要の説明			授業の復習		

第 2 回	データから見る犯罪・非行の現状	授業の復習
第 3 回	受験勉強が非行を防ぐ？——コントロール理論	授業の復習
第 4 回	バイトが非行を促進する？——学習理論	授業の復習
第 5 回	ストレスは犯罪のもと？——アノミー論・緊張理論	授業の復習
第 6 回	偏見が犯罪を生み出す？——ラベリング論	授業の復習
第 7 回	犯罪は本当に減っているのか？——暗数問題	第 2 回～第 7 回の授業の復習・中間レポートの執筆
第 8 回	第 2 回～第 7 回のまとめ	授業の復習
第 9 回	データから見る自殺の現状	授業の復習
第 10 回	孤独は体に悪い？——社会的統合と自殺	授業の復習
第 11 回	自殺は模倣されやすい？——自殺の伝染性	授業の復習
第 12 回	なぜ男性は自殺しやすいのか？——ジェンダーと自殺	授業の復習
第 13 回	社会の変化は体に悪い？——社会的規制と自殺	授業の復習
第 14 回	なぜコロナ禍に自殺が増えたのか？——災害と自殺	第 9 回～第 14 回授業の復習・最終レポートの執筆
第 15 回	第 9 回～第 14 回のまとめ	授業の復習

1.授業コード (ナンバリング)	SOC315-Y51	2.科目名	環境社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球温暖化、食糧・エネルギー・資源危機、森林破壊、大気・水質汚染等々、環境問題に関わる話題が社会にあふれており、これらの諸問題について知識を深めることは必須といえるでしょう。この授業では講義を通じ、環境問題全般についての基礎的知識の習得と理解を目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています ① 環境問題に関する基礎的な知識を理解し説明できる ② 環境問題に関するニュースについて、背景と対応策を説明できる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します					
20.参考文献	藤倉良, 藤倉まなみ(2016),『文系のための環境科学入門 (新版)』, 有斐閣 ビョルン・ロンボルグ (2007),『環境危機をあおってはいけない』, 文芸春秋					
21.成績評価	授業各回での課題・・・4 点×14 回＝56 点【学習目標①, ②に対応】 講義内容についての Q & A です。講義内容に基づいて回答してください。 最終回総括試験・・・44 点【学習目標①, ②に対応】 筆記試験 (紙資料のみ持込可) ※授業へ 10 回以上出席し, 上記課題 + 総括試験で合計 60 点以上取得することが, 合格のための条件です					
22.コメント	・体調不良等で対面参加できない人は、事前に連絡があれば Zoom での参加を認めることがあります。 ・遠隔での出席は、「事前連絡」 + 「Zoom 参加記録」 + 「Webclass で授業課題を提出 (授業日のうち)」が必要です。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【講義】 イントロダクション 環境科学とは			今回の復習: 講義内容をノートにまとめる 次回の予習: 次回の内容について調べておく		
【第 2 回】	【講義】 環境問題の歴史			今回の復習: 講義内容をノートにまとめる 次回の予習: 次回の内容について調べておく		
【第 3 回】	【講義】 人口増加と貧困問題			今回の復習: 講義内容をノートにまとめる 次回の予習: 次回の内容について調べておく		
【第 4 回】	【講義】 経済成長と貧困問題			今回の復習: 講義内容をノートにまとめる		

		次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 5 回】	【講義】 エネルギー資源	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 6 回】	【講義】 水資源・その他の資源	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 7 回】	【講義】 森林・生物多様性	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 8 回】	【講義】 大気汚染	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 9 回】	【講義】 水質汚染	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 10 回】	【講義】 化学物質	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 11 回】	【講義】 化学物質 2	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 12 回】	【講義】 廃棄物とリサイクル	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 13 回】	【講義】 地球温暖化	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 14 回】	【講義】 エピローグ	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 15 回】	総括試験	今回の復習：講義内容をノートにまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	SOC316-Y52	2.科目名	多文化共生論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	* 授業の概要 共生といっても「私たちにはあまり関心がない」と感じますか。ダイバーシティや SDGs と いった言葉もどこか遠い言葉に感じるかもしれません。ですが、現在の国政や行政、企業など では必修の議論となっています。 本授業は、共生社会実現に向けた「共生の諸課題」について知り、議論を重ねることを目的と します。共生は様々な角度から議論することができますが、本授業では「社会」との関係から 深めていきます。(なお、受講生の関心によって授業計画を変更する場合があります。) * 授業の目的 多文化共生の基本的な問題領域を学びます。そのうえで、各種問題領域について議論を行いま す。これらの議論を通じて、「共生」に関する知識だけでなく、これを主体者として考える素養 を育てることがこの授業の目的です。					
18.学習目標と DP との関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 (1) 共生という枠組みについて理解する。(問題発見・解決力) (2) 共生社会の諸問題について、自らの考えを提示することができる。(多様性理解) (3) 共生社会の実現にむけて、自ら問題点を示すことがきでる。(社会的貢献性)(問題発 見・解決力)					
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。					
20.参考文献	・ 河森正人, 栗本英世, 志水宏吉 編 (2016)『共生学が創る世界』大阪大学出版会 ・ 黒川紀章 (1996)『新 共生の思想—世界の新秩序』徳間書店 ・ 井上達夫 (2021)『増補新装版 共生の作法: 会話としての正義』勁草書房 ・ 花崎阜平 (2001)『アイデンティティと共生の哲学』平凡社 ・ 尾崎周二 (2015)『多元的共生社会が未来を開く』農林統計出版 ・ 朝治武 (2022)『全国水平社 1922 - 1942 ―差別と解放の苦悩』筑摩書房 ・ 原田正純 (1972)『水俣病』岩波書店 ・ 石牟礼道子 (2					
21.成績評価	(1) ディスカッション・ペーパーの作成 (3 回) 30% (2) 毎回のリアクション・ペーパーの作成 30% (3) 最終レポートの作成 40%					
22.コメント	共生といわれても・・・とみなさんはいいますが、共生を考える社会というのは、いくらか世 の中がマシになったと捉えることができます。いままでは、そうしたことさえ考えることがな かったからです。そしてみなさんにとっても他人事ではありません。シラバスには授業のテー マに関わる「問い」も付記しています。一つでも関心があればぜひ授業を取ってくださいね。					
23.オフィスアワー	研究室：水曜（昼） 学修支援室：金曜（昼）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 なぜ、共生社	・ 授業の内容についての確認			復習とアサインメント 「わたしと共生」についてのワークシートを		

会なのか。私たちはどのような共生を考えるか		作成する（所要時間 90 分）
第 2 回 日本における 共生理論	・日本社会でなぜ共生が議論されるようになったのかを捉える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 3 回 日本における 共生の実践	・共生に関する社会実践について学ぶ	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 4 回 共生と社会モデル	・「なぜ、駅にスロープがあるのか？」 ・日本における障害者と社会の関係について学ぶ	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 5 回 共生と文化	・「外国人の文化を受け入れることは、日本社会にとってなぜ必要なのか」 ・日本における外国人との共生について知る。	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 6 回 共生とジェンダー	・「なぜ男女平等が重要なのか？」 ・日本におけるフェミニズム運動について知る。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 7 回 共生と人権	・「差別を教えるから、差別がなくなるのだ」という言説は正しいか？ ・被差別部落について学ぶ。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 8 回 共生と不平等 ①	・「税金で低所得者層を支援する意味なんてあるのか」という自己責任論について考える。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 9 回 共生とシティ ズンシップ	・「外国人が地方行政に参加してもいいではないか」という言説は、なぜこんなに批判されるのか	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 10 回 共生と歴史	・「なぜ日本と近隣国の関係が緊張的なのか？」 ・歴史修正主義と社会の関係について学ぶ。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 11 回 共生とセク シャルマイノ リティ	・「セクシャルマイノリティについて考えることがなぜ重要なのか？」 ・セクシャルマイノリティと社会の関係について学ぶ。	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 12 回 共生と SDG s	・「SDGs は環境問題ですよね？」という理解は正しいか？ ・現在の SDGs の状況について知る。	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 13 回 共生と政治	・「ネットウヨ・ネトサヨ等々、なぜネットでは分断が生まれているのか」 ・政治と社会について共生という観点から考える。	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 14 回 共生と都市	・「高齢化どころか人口が減り続ける日本社会に未来はあるのか」 ・共生と福祉社会について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 15 回 まとめ	・共生社会についてふりかえる。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SP2303-Y51	2.科目名	産業心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 課題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な課題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 各回の 1minutepaper : 1% × 14 回 = 14% (学習目標の②③④に対応) 2. グループワーク時の相互評価 : 3% × 4 回 = 12% (学習目標の①②③④に対応) 2. 到達度確認テスト : 24% × 1 回 = 24% (学習目標の①②③④に対応)					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める (得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要) ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス：産業・組織心理学の歴史					
第 2 回	産業・組織心理学の研究領域					
第 3 回	採用と就職Ⅰ：採用計画					
第 4 回	採用と就職Ⅱ 募集活動					
第 5 回	モチベーションⅠ モチベーションとは何か					
第 6 回	モチベーションⅡ 内容理論					
第 7 回	モチベーションⅢ 過程理論					
第 8 回	リーダーシップⅠ リーダーシップの特性論					
第 9 回	リーダーシップⅡ リーダーシップの行動論					

第 10 回	リーダーシップⅢ 現代のリーダーシップ論	
第 11 回	ストレスⅠ ストレスとは何か	
第 12 回	ストレスⅡ 職業性ストレス	
第 13 回	ストレスⅢ メンタルヘルスとストレスコーピング	
第 14 回	キャリアとキャリア発達	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SPB203-M51	2.科目名	スポーツマネジメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	堀込孝二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 スポーツを「プレーする側」だけでなく、「運営・支える側」の視点から捉え直し、スポーツマネジメントの基本的な考え方や仕組みを学ぶ力を身につける。スポーツ現場や将来のキャリアに役立つ視野と知識を広げることを目的とする。 【概要】 本授業では、野球やサッカーといった身近なスポーツを題材に、チーム運営、収益構造、ファンビジネス、地域連携など、スポーツマネジメントの基礎的要素をわかりやすく学ぶ。実例を通じて、スポーツの「見せ方」「伝え方」「続け方」を考える入門講義である。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は次の通りです。 ①スポーツを「運営する」「支える」視点から捉える基礎的な考え方を知ることができる ②野球・サッカーを通じて学ぶスポーツビジネスの基本構造（収益、経費、放映権など）を知ることができる ③チーム運営やクラブ経営におけるマネジメントの役割と課題が理解できる ④ファンづくりや地域連携など、クラブと社会との関係性に関する知識を得ることができる ⑤選手だけでなく、裏方・スタッフの働きや重要性が理解できる [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『サクッとわかるビジネス教養 野球の経済学』小林至著，新星出版社，2022 年 『サクッとわかるビジネス教養 サッカーの経済学』平田竹男著，新星出版社，2023 年					
20.参考文献	関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。合計 60 点以上で合格となります。 (1) 授業内で課される課題・レポート 60% (2) 期中・末に課される課題・レポート（小テスト） 40%					
22.コメント	メールや WebClass など質問ができます。 ノートパソコンは必携です。					
23.オフィスアワー	特にないが授業の前後やメールなどで質問ができます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて）			ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示		
【第 2 回】	野球「プロ野球選手の支出と収入」テキスト P14～42			ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示		
【第 3 回】	野球「球団組織と財務」テキスト P44～64			ノートパソコンを持参すること		

		復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 4 回】	野球「球団所有のコストと収入」テキスト P66～86	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 5 回】	野球「フィールドマネジメント」テキスト P88～118	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 6 回】	野球「マーケティングによる経済効果」テキスト P120～138	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 7 回】	野球「NPB と MLB の違い」テキスト P140～160	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：前半の授業の見直し
【第 8 回】	前半のまとめ（小テスト）	復習：今回の復習及び小テストの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 9 回】	サッカー「選手とクラブ経営」テキスト P14～56	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 10 回】	サッカー「スタジアム所有のコストと収入」テキスト P58～76	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 11 回】	サッカー「フロントがチームのために行うマネジメント」テキスト P78～100	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 12 回】	サッカー「サッカーの最高峰欧州 5 大リーグ」テキスト P102～118	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 13 回】	サッカー「これからのビジネスモデル」テキスト P120～130	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 14 回】	サッカー「ワールドカップは世界最大のスポーツビジネス？」テキスト P132～156	ノートパソコンを持参すること 復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示
【第 15 回】	後半のまとめ（小テスト）	復習：今回の復習及び小テストの整理

1.授業コード (ナンバリング)	SPB305-M51	2.科目名	スポーツとまちづくり		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	スポーツビジネス 生涯スポーツ を履修していることがのぞましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の目的 この授業の目的は、スポーツを通じた地域社会の活性化と持続可能なまちづくりの方法を学ぶことです。学生は、スポーツが地域社会に与える影響や、スポーツイベントや施設がどのように地域の発展に寄与するかを理解し、実践的なスキルを身につけることを目指します。 授業の概要 この授業では、スポーツとまちづくりの関係性を多角的に探求します。授業は講義、ディスカッション、ケーススタディ、グループワーク、そして地域のスポーツ施設運営者との協働を通じて進行します。学生は、スポーツが地域社会に与える社会的、経済的、環境的な影響を学び、実際のプロジェクトを通じてその知識を応用します。					
18.学習目標と DPとの関連	主なトピック 1. スポーツの社会的役割: スポーツがコミュニティ形成や社会的結束に与える影響を学ぶ。 2. まちづくりの基本概念: まちづくりの歴史と現代的アプローチを理解する。 3. スポーツイベントと地域活性化: 大規模スポーツイベントが地域経済に与える影響を分析する。 4. コミュニティスポーツの推進: 地域スポーツクラブの役割とボランティア活動の重要性を理解する。 5. スポーツツーリズム: スポーツツーリズムの概念と地域振興への影響を学ぶ。 6. 健康とウェルビーイング: スポーツが健康とウェルビーイングに与える影響を学ぶ。 7. スポーツと教育: 学校教育におけるスポーツの役割と生涯学習としてのスポーツを探る。 8. スポーツと SDGs: 環境に優しいスポーツイベントとエコフレンドリーなスポーツ施設を学ぶ。 9. スポーツ政策と行政: スポーツ政策の現状と課題、行政の役割を理解する。 10. ケーススタディ: 国内外の成功事例を分析し、具体的なプロジェクトを学ぶ。 11. 地域のスポーツ施設運営者との協働: 実際の運営者と協力し、現実的な視点からプログラムを考える。 この授業を通じて、学生はスポーツを通じたまちづくりの理論と実践を総合的に学び、地域社会に貢献するための具体的なスキルを身につけることができます。 【KUIS 学修ベンチマークとの関連】 ・社会に能動的に貢献する姿勢: 集団や社会のための他者とともに行動し、貢献することができる 「スポーツの社会的役割を理解すること (DP1: 社会貢献)」 「スポーツイベントが地域経済に与える影響を分析すること (DP2:自律性)」					

19.教科書・教材	授業中に webclass を通じて資料提供する	
20.参考文献	参考図書（図書館所蔵） 「まんが スポーツで創る地域の未来西日本編」 スポーツ庁 「まんが スポーツで創る地域の未来東日本編」 スポーツ庁 「スポーツと地方創生」 早稲田大学スポーツナレッジ研究会、（公財）笹川スポーツ財団 「スポーツ都市戦略 2020 年後を見すえたまちづくり」 原田宗彦 「スポーツツーリズム入門」 ジェームス・ハイアム トムヒンチ	
21.成績評価	期末の統括試験 50% 毎回のワークシート 50%	
22.コメント	・5 回を超える欠席で期末の統括試験の受験資格を失います ・忌引き、法定伝染病罹患による公欠、並びに教授会で認められた「欠席」以外はすべて欠席となります ・毎回の授業を聞き、資料に目を通し、ワークシートを完成させないと授業を理解できません ・統括試験はワークシートの内容から問題が出されます ※ゲストスピーカーの回は、授業回が変わることもあります	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 2 限（学習支援センター） 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み（4-514）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ? 授業の目的と概要説明 ? 期待される成果と評価方法 ? イントロダクション：スポーツとまちづくりの関係 ? 演習：自己紹介と個人のスポーツ経験の共有	シラバスをしっかりと見て、授業のイメージを作ってくること。
第 2 回	スポーツの社会的役割 ? スポーツが社会に与える影響 ? コミュニティ形成とスポーツの役割 ? 演習：グループディスカッション - スポーツが地域社会に与える影響	スポーツの持つチカラ（価値）について事前に調べてくること
第 3 回	まちづくりの基本概念 ? まちづくりとは何か ? まちづくりの歴史と現代的アプローチ ? 演習：ケーススタディ分析 - 成功したまちづくりプロジェクトの例	まちづくりとは、実際にはまちがどう変わるかを事前にまとめてくる
第 4 回	スポーツイベントと地域活性化 ? 大規模スポーツイベントの影響 ? 地域経済への貢献	自分の関心のあるスポーツイベントとについて概要を調べてくること。
第 5 回	ゲストスピーカーによる講義	あらかじめゲストスピーカーについての情報を調べてくること
第 6 回	コミュニティスポーツの推進 ? 地域スポーツクラブの役割	コミュニティスポーツについて最も大切な事柄は何間いついて調べてくること

	? ボランティア活動とコミュニティの関係 ? 演習: 地域スポーツクラブの運営シミュレーション	
第 7 回	スポーツツーリズム ? スポーツツーリズムの概念と事例 ? 地域振興への影響 ? 演習: スポーツツーリズムプランの作成	スポーツツーリズムとはなにかについて調べてくること
第 8 回	健康とウェルビーイング ? スポーツと健康の関係 ? ウェルビーイングの向上 ? 演習: 健康促進プログラムの設計	ヘルスとウェルビーイングの違いについて調べてくること
第 9 回	スポーツと教育 ? 学校教育におけるスポーツの役割 ? 生涯学習としてのスポーツ ? 演習: 学校向けスポーツプログラムの提案	学校とスポーツ、特に中学校の部活の地域との関連について調べてくること
第 10 回	ゲストスピーカーによる講義	あらかじめゲストスピーカーについての情報を調べてくること
第 11 回	スポーツと SDGs ?SDGs とスポーツの関係 ・ 環境に優しいスポーツイベント ? エコフレンドリーなスポーツ施設 ? 演習: 環境に配慮したスポーツイベントの計画	SDG s とはなにかについて調べてくること
第 12 回	スポーツ政策と行政 ? スポーツ政策の現状と課題 ? 行政の役割と支援 ? 演習: スポーツ政策提案書の作成	日本のスポーツ関連の省庁について調べておくこと
第 13 回	スポーツによるまちづくりイベントを考える① 演習: イベント企画ワークショップ - 地域活性化を目的としたスポーツイベントの企画	スポーツイベントの企画例について復習し、自分自身のイベント企画のイメージをつかんでくること
第 14 回	スポーツによるまちづくりイベントを考える② 演習: イベント企画ワークショップ - 地域活性化を目的としたスポーツイベントの企画	スポーツイベント企画について完成させること
第 15 回	総括試験	授業中のワークシートすべてに目を通してスポーツがまちづくりに果たす役割についてまとめてくること

1.授業コード (ナンバリング)	SPP201-Y51	2.科目名	スポーツ心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	山内愛				
5.授業科目の区分	スポーツ心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科	9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・実技	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 運動・スポーツおよび健康づくり活動の実践や指導、サポートに関する心理学の基礎を学び、良好なスポーツ活動を推進するための心理学的アプローチに関する知識を理解、習得することを目的とします。 【概要】 日常の身体運動はもとより、運動やスポーツは様々な文脈の中で取り組まれています。そこでの活動目的は、教育、競技、レクリエーション、健康・医療といったように多岐に渡り、それぞれが抱える課題や問題は異なります。そこで、本講義では、スポーツ心理学の果たす役割について外観した上で、健康スポーツ、競技スポーツ、メンタルトレーニングなどについて学習します。その上で、各人の運動・スポーツ活動に汎化可能な視点を提供しつつ、スポーツ競技場面や健康スポーツに役立つ知識やスキルの習得を目指します。				
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①スポーツ心理学の基礎的な理論やキーワードを学修し、説明することができる。 ②競技スポーツや健康スポーツを行う場合、あるいは指導者やスタッフとしてスポーツと関わる場合など、それぞれのスポーツにおける立場や場面における心理と理論について学び、それらをスポーツ場面や健康づくり運動の実践に活かせるようになる。				
19.教科書・教材	教科書の購入は不要です。適宜資料を配付します。				
20.参考文献	「基礎から学ぶスポーツ心理学」 蓑内豊、竹田唯史、吉田聡美（中西出版 2020） 「これからの体育・スポーツ心理学」 國部雅大、雨宮怜、江田香織、中須賀巧 編（講談社 2023） 「スポーツメンタルトレーニング教本」 日本スポーツ心理学会 編（大修館書店 2016） その他、関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 課題 1：授業内の課題レポート・ワークシート・ミニテスト（60%）【学習目標①・②に対応】 課題 2：最終レポート①・②（40%）【総括・振り返り】 ※課題は提出要件を満たし、かつ期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。 ※課題 2 を提出することが単位認定の前提となります。				
22.コメント	・体験的な理解を深める目的から、授業は講義だけでなく実技も行います。また、グループワーク、学生同士のディスカッション、プレゼンテーションなど、実践的な学習を多く行います。 ・生成 AI 利用：条件付きで認める 実技などを通じた体験的な学びや実践の報告を伴う内容のレポート作成時には、使用を認めません。				

23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等にて、質問等へ対応します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	<オリエンテーション・スポーツ心理学概論> 授業の進め方や授業内容、評価方法などの説明。スポーツ心理学の概要と意義、その役割について	予習：シラバスを確認する・不明な用語について調べて予備知識を得る 復習：ガイダンスにて取り扱った内容を見直し、理解を深める
第 2 回	<運動・スポーツと心の健康> 運動・スポーツが身体的・心理的健康に与える効果について	予習：これまでの経験から、運動・スポーツが自身にもたらした効果について振り返りまとめる 復習：スポーツの心理的効果について復習する
第 3 回	<メンタルトレーニング①> メンタルトレーニングが扱う範囲や目標設定の理論およびその実践方法	予習：自身の活動フィールドでのパフォーマンス発揮に、どのような心理的スキルが必要かまとめる 復習：授業内で作成した目標設定を実践する
第 4 回	<メンタルトレーニング②> リラクゼーション法・イメージトレーニングの各種技法を紹介。各場面での利用法やその効果について	○授業内容の復習と実践
第 5 回	<メンタルトレーニング③> 各技法を実技を通して学ぶ(リラクゼーション法・イメージ技法・セルフコントロール法) ★実践編として、体育館にて実技実施	予習：これまでに学習したメンタルトレーニングの技法を確認しておく 復習：授業で実践した内容を振り返りまとめる ◆運動のできる服装を持参すること
第 6 回	<トップアスリートの心理的特徴について> トップアスリートの心理的特徴や選手を取り巻く環境、心理的諸問題と心理サポートの必要性について	予習：トップアスリートにはどのような特徴があるか主観をまとめる 復習：アスリートのパフォーマンス発揮と心理的問題・課題について考えをまとめる
第 7 回	<スポーツにおける動機づけ> ・内発的・外発的動機づけ、やる気を高める取り組みや指導法について	予習：運動・スポーツ場面での動機づけと関連する事象としてどのようなものがあるか振り返りまとめる 復習：講義内容を元に、自己や他者に対する動機づけの方略を考え、実践する
第 8 回	<スポーツにおける集団とチームビルディング> 集団の特徴・チームワーク・チームづくりについて(グループワーク実施)	予習：自身が所属している(していた)集団の特徴について振り返りまとめる 復習：チームとしてのパフォーマンスを上げるためにはどのような工夫が必要か考えをまとめる
第 9 回	<運動、スポーツへの参加と離脱> 運動行動を規定する心理社会的要因や運動行動の変容、バーンアウト、アスリートのキャリアについて	予習：自身のスポーツへの参加や離脱にまつわるエピソードをまとめる 復習：講義内容を元に、自己や他者に対するスポーツへの参加・離脱に関する対策やサポートの方略について考えをまとめる
第 10 回	<運動・スポーツとストレス対処> ストレス概論とメンタルヘルスのためのストレスマネジメントについて	予習：ストレス・ストレスマネジメントに関する予備知識を得てくる 復習：メンタルヘルスの維持・向上に運動・スポーツがどのように寄与するか考えをまとめる

		める
第 11 回	<効果的なスポーツスキルの獲得方法> 運動学習理論・フィードバック情報など運動学習関連の基礎的事項について	予習：スポーツをはじめとする、スキルの獲得・向上に対する自身の課題を挙げておく 復習：講義内容を元に、自己や他者に対する効果的なスポーツスキル獲得の方略を考え、実践する
第 12 回	<コミュニケーション技法> スポーツにおけるコミュニケーションスキルを向上させるための有効な手法について	予習：コミュニケーション力が高い人の特徴に関して自身の考えをまとめておく 復習：講義内容を元に、コミュニケーション能力向上に向けた方略を考え、実践する
第 13 回	<指導者による心理サポート・個人差の考慮> コーチングスキルやカウンセリングマインドなど、スポーツ指導における心理学的なポイントについて	予習：スポーツ場面で指導者がどのような働きかけを行っているのか、自身が受けてきた指導の経験を振り返りまとめておく 復習：自身の活動フィールドで活用できる心理サポートについてまとめる
第 14 回	<授業の振り返り> ・これまでの講義の振り返りとまとめ ・最終レポートの内容説明 ・最終レポート①	予習：これまでの講義を振り返り、疑問点、意見等についてまとめておく 復習：レポートの作成を通して講義内容の理解を深める 【提出物】最終レポート① (詳細は別途提示) 提出先：WebClass
第 15 回	<総括> ・他分野から学ぶスポーツ心理学 ・最終レポート②	予習：これまでの講義を振り返り、疑問点、意見等についてまとめておく 復習：レポートのフィードバックを元に今後の活動に生かす 【提出物】最終レポート② (詳細は別途提示) 提出先：WebClass

1.授業コード (ナンバリング)	SPP204-Y51	2.科目名	メンタルトレーニング		3.単位数	2
4.授業担当教員	山内愛					
5.授業科目の区分	スポーツ心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「スポーツ心理学」の授業を履修済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・実技		
16.履修制限	・ 良好な授業環境を確保するために、履修者数を最大 20 名とします。 ・ 履修者が多い場合には、初回の授業で抽選を行いますので、必ず出席してください。その際、スポーツ活動に携わっている学生を優先します。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、自身の競技場面や指導・サポート場面に活かせるよう、メンタルトレーニングについて、講義と体験的学習を通して理論と技法を学び、身につけることを目的とします。 【概要】 スポーツにおけるメンタルトレーニングとは、アスリートをはじめとするスポーツ活動に携わる者が、競技力向上並びに実力発揮の為に必要な心理的スキルを習得することを目的とした、スポーツ心理学の理念に基づく体系的で教育的な活動です。 メンタルトレーニングについて体験的な理解を深めると共に、各種技法の習得を目指すため、授業は講義だけでなく、実技、グループワーク、学生同士のディスカッション、プレゼンテーションなど、実践的な学習を多く行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①〈知識の理解・表現〉スポーツ活動における心が及ぼす影響や、それらに対応する心理的スキルについての内容を理解し、説明することができる そのコントロール法の基本的知識や対処法を理解している ②〈関心・意欲〉スポーツ場面で起こるさまざまな心理的な諸問題に関心を持ち、分析、対処法について積極的に取り組むことができる ③〈態度・志向性〉主体的なスポーツ活動や学習を通じて、視野を広く持ち、活力に満ちた社会の一員を志す					
19.教科書・教材	教科書の購入は不要です。適宜資料を配付します。					
20.参考文献	『スポーツメンタルトレーニング教本』(2016)日本スポーツ心理学会[編]/大修館書店 その他、関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 課題１：授業内の課題レポート・ワークシート・ミニテスト・・・70 点【学習目標①・②・③に対応】 課題２：最終レポート・・・30 点【学習目標②・③に対応】 ※課題は１～３の全てについて、提出要件を満たし、かつ期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。 ※最終レポートの提出は、成績評価を行う上での必須条件です。					
22.コメント	・ 授業で学んだ内容を実践するための、各自のスポーツ活動のフィールド(競技スポーツの選手、指導者、サポートスタッフなど)が想定されると望ましいです。					

		・授業計画は、受講者の活動状況や要望、授業の進捗等により若干変更される場合があります。 ・スポーツ場面や日常生活で感じたこと・気づいたことを日々記録することが望ましいです。記録した内容が本授業の理解を深める手がかりとなります。
23.オフィスアワー		授業の前後に教室や講師控室等にて、質問等へ対応致します。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価算出の方法・進め方の確認・受講上の留意点などについて） ・メンタルトレーニング概論	予習：シラバスを事前に確認する、不明な専門用語について調べておく 復習：授業内容の復習
第2回	・アセスメント ・心理検査（Pre Test） ・自己分析 講義：心理的競技能力とパフォーマンスの関係性 実践：主観的自己分析・検査用紙を用いた客観的自己分析	予習：自身の活動フィールドでの実力発揮における心理的課題を挙げておく 復習：主観的・客観的自己分析を通して自身の取り組み目標について考える
第3回	目標設定① 講義：目標設定の原則と効果機序・動機づけ 実践：目標設定用紙の作成	予習：日々の練習の取り組みについて振り返る 復習：目標設定シートを完成させる
第4回	目標設定② 講義：習慣行動と期限付き行動の立て方 実践：作成した目標設定を元にグループワーク実施	予習：作成した目標設定シートを元に具体的な行動計画を考えておく 復習：行動計画を活動フィールドで実践する
第5回	リラクゼーション法① 講義：理想的な心理状態・ストレス下での心身の反応・各種リラクゼーション技法の解説 実践：呼吸法・筋弛緩法・自律訓練法・マインドfulness瞑想の実践と評価	予習：自身のパフォーマンス発揮を阻害する心理的要因についてまとめておく 復習：活動フィールドでのリラクゼーション法実践
第6回	リラクゼーション法②・サイキングアップ ★実践編として、体育館にて実技実施 各種リラクゼーション法・サイキングアップの実践と評価	予習：実践したリラクゼーション法の疑問点や確認事項をまとめておく 復習：活動フィールドでのリラクゼーション法実践
第7回	イメージの機能およびスポーツ選手のイメージ活用（基礎） 講義：スポーツメンタルトレーニングで用いるイメージ想起の多様な種類と役割について 実践：リラクゼーション法・イメージトレーニング（基礎）の実践と評価・シェアリング	予習：競技場面におけるイメージについて予備知識を得ておく 復習：活動フィールドでのイメージ技法実践
第8回	イメージの機能およびスポーツ選手のイメージ活用（応用）	予習：実践したイメージ技法の疑問点や確認事項をまとめておく

	講義：スポーツメンタルトレーニングで用いるイメージ想起の多様な種類と役割について 実践：リラクセーション法・イメージトレーニング（応用）の実践と評価・シェアリング・イメージ診断テスト	復習：活動フィールドでのイメージ技法実践
第 9 回	セルフコントロール技法① 講義：円滑な競技活動と実力発揮に対する認知・思考の重要性とそのアプローチ法について 実践：各種セルフコントロール法の作成と実践	予習：ストレス下で起こる自身の心身の反応について振り返っておく 復習：活動フィールドでのセルフコントロール法実践
第 10 回	セルフコントロール技法？ ★実践編として、教室もしくは体育館にて実技実施 セルフコントロール法・イメージ技法の実践と評価	予習：実践したセルフコントロール法の疑問点や確認事項をまとめておく 復習：活動フィールドでのセルフコントロール法実践 ◆運動のできる服装◆
第 11 回	チームビルディング 講義：スポーツ集団の構造と機能、チームビルディングの理論・アプローチ法など 実践：チームビルディングセッションを考える(グループワーク)	予習：自身が所属する集団の特徴について振り返りまとめておく 復習：活動フィールドでのチームづくりの方略を考え実践する
第 12 回	コミュニケーションスキル 講義：スポーツ集団強化のために重要なコミュニケーションのスキルについて 実践：コミュニケーション法の実践（グループワーク）	予習：所属する集団で必要とされるコミュニケーションについて挙げておく 復習：活動フィールドでのコミュニケーション力向上の方略を考え実践する ◆運動のできる服装◆
第 13 回	描画法（風景構成法）を通じて自己をみつめる 講義：さまざまな描画法について・風景構成法の歴史・意義・原則など 実践：風景構成法の実施・シェアリング	予習：描画法について予備知識を得ておく 復習：授業内容の振り返りとまとめ
第 14 回	最終レポート作成にむけて ・これまでの振り返り ・今後のメンタルトレーニング実施計画	予習：これまでの授業を振り返り、実践してきた取り組みについてまとめておく 復習：最終レポートを完成させる 提出物：最終レポート
第 15 回	・最終レポートのフィードバック・修正 ・心理検査（Post Test） ・振り返り・まとめ	予習：最終レポートの追加修正箇所について検討しておく 復習：授業での学びを自身の活動フィールドで継続的に活用する

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y51	2.科目名	特別研究Ⅱ（犯罪心理学演習）		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習形式（グループでの発表と討議中心）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	これまでにわが国で発生した事件・事故について、グループで調べて発表し、全体で討議する 犯罪を題材として、社会の問題点を発見し、問題解決能力を身に着ける					
18.学習目標と DPとの関連	過去に発生した事件事故について、次の点について明らかにする 被疑者が逮捕され、公判廷で有罪判決が確定した事例に限定（未解決事案は対象外）					
	1 事件概要					
	① 事件名					
	② 発生年月日					
	③ 被疑者					
	④ 被害者					
⑤ 事件内容						
⑥ 裁判での争点と判決						
2 その事件の捜査上の問題点は何か						
3 問題解決の手段						
4 再犯防止						
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・グループでの発表 40% : 事件・事故についてプレゼンテーションを作成し口頭発表 ・討議への参加 20% : グループ討議に参加してコメントする。 ・最終レポート（webclass）40%：発表した資料の要約を提出 ・実験参加：生理反応を測定する卒業研究、学会発表に向けた実験に参加したものには1回につき、若干の加点をする					
22.コメント	(1) レポート作成に当たって					
	a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと					
	b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと					
	c.専門知識＋自分の考え					
	前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない					
	(2) 発表について					
スライドは要点をキーワードのみで示す						
読み原稿は別に作成し、発表者はスライドの文字を棒読みすることは避ける						
問題点を明らかにし、その解決策と再犯防止への提案を必ず付け加えること						
発表者は事前に指定討論者を決め、活発な討議のファシリテーションを行うこと						
海外の事例は詳細が不明なことも多く、文化が異なるので避けること						

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ガイダンス グループ分け	
	事例 1 の発表と討議	
	事例 2 の発表と討議	
	グループ A による発表	
	グループ B による発表	
	グループ C による発表	
	グループ D による発表	
	グループ A による発表	
	グループ B による発表	
	グループ C による発表	
	グループ D による発表	
	グループ A による発表	
	グループ B による発表	
	グループ C による発表	
	グループ D による発表	

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y53	2.科目名	特別研究Ⅱ（モチベーション心理学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	授業		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は人々のモチベーションについて心理学の観点から総括的に把握することを目的とする。 【概要】 日常生活を送り仕事を遂行するにあたりモチベーションマネジメントは欠かせない。本科目では、個人および人々のモチベーションについて概観し、より良く生きていくためにモチベーションを律する方法について具体的事例に照らし合わせながら学んでいく。					
18.学習目標と DPとの関連	①人々がより良く生きることを念頭に学習や仕事に役立つモチベーションのあり方を理解できる。 ②モチベーションの律し方を説明することができる。					
19.教科書・教材	指定なし					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	①総括試験（学習目標①②を問う）（50％） ②各回のミニレポート（学習目標①②を問う）（50％）					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	モチベーションとは何か ・モチベーションとは：動機づけのしくみに迫る			動機づけのしくみについて復習（120 分）		
第 2 回	モチベーションの源泉 ・モチベーションの源泉を探る：内容理論の要因に迫る			モチベーションの源泉について復習（120 分）		
第 3 回	モチベーションの過程【グループワーク】 ・モチベーションはどのような過程をたどるのか？：過程理論を概観する			モチベーションの過程について復習（120 分）		
第 4 回	学習場面のモチベーション ・学習場面のモチベーションをどのように保つかについて学ぶ			学習場面のモチベーションについて復習（120 分）		

第 5 回	自律的なモチベーション【グループワーク】 ・モチベーションの律し方について実践的に学ぶ	自律的なモチベーションについて復習（120 分）
第 6 回	働く場面のモチベーションとモチベーションの搾取 ・モチベーション搾取の現状について概観し搾取を防ぐ方法について学ぶ	働く場面のモチベーションとモチベーションの搾取について復習（120 分）
第 7 回	モチベーションの自己志向性と他者志向性 ・自分のため？他者のため？：モチベーションの志向性とその特徴について概観する	モチベーションの自己志向性と他者志向性について復習（120 分）
第 8 回	これまで（前半）の授業について振り返る（まとめレポート）	前半の授業を復習（240 分）
第 9 回	集団のモチベーション① ・他者存在を想定したモチベーションについて概観する	他者存在を想定したモチベーションについて復習する（120 分）
第 10 回	集団のモチベーション②【グループワーク】 ・組織・集団のモチベーションを高める要因および方法について学ぶ	組織・集団のモチベーションを高める要因および方法について復習する（120 分）
第 11 回	文化や世代によるモチベーションの相違 ・文化や世代によって異なるモチベーションの様相を学ぶ	文化や世代によるモチベーションの相違について復習する（120 分）
第 12 回	モチベーションの側面：ネガティブな動機とポジティブな動機 ・モチベーションに関わるネガティブ特性とポジティブ特性の 2 側面を概観する	モチベーションの側面について復習する（120 分）
第 13 回	生き抜くためのモチベーション【グループワーク】 ・過酷な状況下においても生き抜くためのモチベーションについて『夜と霧』を題材にしながら学ぶ	生き抜くためのモチベーションについて復習する（120 分）
第 14 回	モチベーションとバーンアウト ・モチベーションの程度とバーンアウト、程良いモチベーションのあり方について学ぶ	モチベーションとバーンアウトについて復習する（120 分）
第 15 回	これまでの授業について振り返る（総括試験）	授業全体を復習する（300 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y54	2.科目名	特別研究Ⅱ（恋愛心理学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生～ （3 年以上を想定してい る）	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 ・グループワークを行う回もある。	
16.履修制限	※各回でペア・グループワークを行うため、遠隔受講は認めない。					
17.授業の目的と概要	本科目では、恋愛における人々の様々な心理・行動についての理解を深める。 近年の恋愛・結婚に関する価値観の変化は、少子化などの日本社会を持続していくにあたっての問題に関連している。また、幸せな恋愛・結婚は高いウェルビーイングをもたらすが、恋愛・結婚には葛藤、失恋・離婚といったネガティブな出来事も生じる可能性があり、DV・ストーカーなどの犯罪に発展するケースも存在する。そこで、恋愛・結婚に関わる出来事を心理学的に理解を深めることは、日本社会の維持、ウェルビーイングを高めるために必要なことであると思われる。					
18.学習目標と DPとの関連	①恋愛・結婚関係特有の心理現象について、主に社会心理学の知見に基づいた説明ができる。 ②恋愛・結婚関係で生じる問題について、その解決に向けたアイデアを提案できる。					
19.教科書・教材	資料を配布する。					
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	各回のワークへの参加・ミニレポート（学習目標①②を問う）（100％）					
22.コメント	ほとんどの回でペアまたはグループワークを行う予定である。 積極的に参加できない学生は履修を勧めない。 各回のテーマは変更される場合がある。 ※各回でペア・グループワークを行うため、遠隔受講は認めない。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題レポート・テストで生成 AI の利用は認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	ガイダンス 恋とは何か？愛とは何か？ 恋と愛の定義や本質について探る。恋愛とは一体なのか、愛とはどのように成立するのかについて考える。					
【第 2 回】	恋愛と結婚をめぐる状況 現代社会における恋愛と結婚に関する状況を取り上げ、恋愛と結婚の意義や価値観がどのように変化してきたのか 考察する。					
【第 3 回】	恋愛の進化論：生物学的な視点からの恋愛の理解 恋愛の進化的な視点から考察する。					
【第 4 回】	恋愛の発達心理学的側面 恋愛が個人の成長や発達に与える影響や、過去の経					

	験が恋愛に及ぼす影響を理解する。	
【第 5 回】	恋愛とパーソナリティ：恋愛のタイプと相性 個人のパーソナリティが恋愛のタイプや恋愛行動に与える影響を考察する。	
【第 6 回】	恋に落ちる心理 恋に落ちる心理や恋愛に伴う感情の変化、相手への魅力を感じる理由などについて考察する。	
【第 7 回】	恋愛の社会文化的要因 恋愛が文化や価値観などによってどのように影響されるかについて考察する。	
【第 8 回】	恋愛関係の形成と維持 恋愛関係がどのように形成されるのか、その後の維持に重要な要素について考察する。	
【第 9 回】	恋愛関係の形成と維持 2 恋愛関係がどのように形成されるのか、その後の維持に重要な要素について考察する	
【第 10 回】	ディスカッション 恋愛に関するディスカッションを行う。	
【第 11 回】	結婚、仕事、子育て 結婚後の仕事と家庭の調和、恋愛と結婚が個人の人生に与える影響について考察する。	
【第 12 回】	浮気・不倫・・・ 浮気の原因や背景、対処行動について理解する。	
【第 13 回】	恋愛・結婚関係のダークサイド?：嫉妬 親密な関係で生じるネガティブな感情について理解する。	
【第 14 回】	恋愛・結婚関係のダークサイド?：DV，ストーカー 親密な関係で生じる暴力について理解を深める。	
【第 15 回】	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SS2201-y51	2.科目名	教育社会学（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。					
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる					
19.教科書・教材	授業中に紹介する。					
20.参考文献	授業中に紹介する。					
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）					
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと			授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。		
2 回目	共感的理解-この授業での理解					
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態					
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法－いじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に					
5 回目	不登校（1）見る					
6 回目	不登校（2）知る					
7 回目	不登校（3）理解する					
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から					
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例					
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例					
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義					
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている					

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	SS2204-Y51	2.科目名	家族論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	現代社会学部総合社会学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	「社会学入門」を履修済であること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	原則として、第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消す場合もあるので、注意してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族の過去、現在、未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考えるようになることを目指します。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったと言われています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているのでしょうか。					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①自分の育った家族について他人に語ることができる。 ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。 ③ワークファミリーバランスの現状について、問題点を指摘することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の配布資料は WebClass 等に挙げます。					
20.参考文献	○山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版,2019 年（朝日新書 717） 他については適宜、紹介していきます。					
21.成績評価	・ 第 1 回レポート（テーマⅠ）⇒15％（目標①） ・ 第 2 回レポート（テーマⅡ）⇒15％（目標②） ・ 第 3 回レポート（テーマⅢ）⇒20％（目標③） ・ 授業内課題（アサイメント含む）⇒50％（目標①～③）					
22.コメント	●総合社会学科「家族論」を同じ時間帯に開講します。 ●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急ぎょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれません。 ●ノート P C のみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。 ●グループワークの多い授業です。自分の家族・家庭や結婚観等について語る機会もありますので、 自己開示が苦手な人には不向きです。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第1回 10月2日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？① ○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○ワーク：「家族」という言葉から何を連想するか？	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第2回 10月9日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？② ○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） ○ワーク：家族構成やファミリーコンセプトを設定し、発表する。 ○ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケート ●第1回レポート告知	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第3回 10月16日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？③ ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケートの結果をもとに、家族の多様性について考える。	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第4回 10月23日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？④ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出：授業内課題 提出：第1回レポート 復習：今回の復習
第5回 10月30日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？⑤ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表（続き） ○テーマのふりかえり	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第6回 11月6日	テーマⅡ：「結婚」について考える① ○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第7回 11月13日	テーマⅡ：「結婚」について考える② ○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○第2回レポート課題告知 「結婚する／しない？：わたしの結婚観」	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第8回 11月20日	テーマⅡ：「結婚」について考える③ ○講義：オークション結果の発表 ○ワーク：アンケート結果をもとに結婚観について考える ○講義：データからみた日本の結婚（続）	提出：授業内課題 復習：今回の復習
第9回 11月27日	テーマⅡ：「結婚」について考える④ ○ワーク：第2回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第2回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出：授業内課題 提出：第2回レポート 復習：今回の復習
第10回 12月4日	テーマⅢ：家事と就労について考える① ○ワーク：第2回レポートの発表（続） ○第3回レポート課題告知	提出：授業内課題 予習：資料収集

	「人生 100 年時代の働き方と家族：私たちはこう考える」 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（ファミリー単位）	
第 1 1 回 12 月 11 日	テーマⅢ：家事と就労について考える② ○講義：新聞記事の検索：『聞蔵』を中心に ○ワーク：テーマに関する記事検索 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（2 回目）	提出：授業内課題 予習：資料収集
第 1 2 回 12 月 18 日	テーマⅢ：家事と就労について考える③ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（3 回目） テーマと方向性、役割分担を決める。	○予習：資料の収集
第 1 3 回 1 月 8 日	テーマⅢ：家事と就労について考える④ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（4 回目） 持ち寄ったデータを整理しまとめる。プレゼン資料の作成	持参するもの：ノート P C、調べてきた記事 授業外グループ学習：テーマについて分担して調査
第 1 4 回 1 月 15 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑤ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）	提出：授業内課題 提出：第 3 回レポート
第 1 5 回 1 月 22 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑥ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）（続） ○講義：テーマのふりかえり ○授業アンケートの実施	提出：授業内課題

1.授業コード (ナンバリング)	SS2206-Y51	2.科目名	福祉社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的は福祉について社会的に捉えることにある。福祉は高齢者のためのもの、といった理解があるかもしれないが、誰にとっても必要な事柄である。 ではなぜ福祉が必要なのか。それは誰もが支えなくてはならないものなのか。社会の基盤というのはいったいどういうことなのか。 そこで本授業では福祉について受講者にとって身近な問題から考える。そして社会における福祉の意義や意味について議論する。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。学修目標は以下の通りである。 (1) 福祉の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） (2) 福祉における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） (3) 福祉の社会課題を社会的に説明することができる（問題発見・解決力）					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適時提示する 武川正吾他編 2020『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房					
21.成績評価	(1) ディスカッションペーパー（毎回）・・・40% (2) 課題レポート・・・60%					
22.コメント	福祉について考えることは私たちにとって遠く離れたことのように思えます。ですが私たちの日常に溢れていることがらです。これらをみなで議論することが本授業で取り組むことです。					
23.オフィスアワー	後日追記します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	福祉とはなにか 福祉と社会の関係について学ぶ			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（1）を記入する。		
第 2 回	福祉と社会を考える 福祉に関わる社会的組織、人材を知る			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 3 回	福祉と日本社会（1） 戦後の福祉政策までを概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 4 回	福祉と日本社会（2） 現在の福祉の政治状況について概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（2）を記入する。		
第 5 回	福祉は必要か？（1） 福祉に対する批判・異議申し立てについて考える			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 6 回	福祉は必要か？（2） 将来の福祉について考える。			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 7 回	福祉と社会理論（1） シャドウ・ワーク、福祉レジーム論、ケア			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（3）を記入する。		
第 8 回	福祉と社会理論（2） シティズンシップと外国人			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		

第 9 回	福祉と社会理論（３） 障害者と社会モデル	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（４）を記入する。
第 10 回	社会福祉と当事者（１） 当事者に寄り添った福祉は可能か？	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	社会福祉と当事者（２） 当事者に寄り添った福祉団体。	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	福祉の実際（１） 地域福祉と地域包括ケア（高齢者福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（５）を記入する。
第 13 回	福祉の実際（２） 地域福祉と生活保護（社会保障）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	福祉の実際（３） 地域と児童福祉（子どもの福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。
第 15 回	まとめ－社会と福祉の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。

1.授業コード (ナンバリング)	SS2207-Y51	2.科目名	コミュニティ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義（オンライン） 毎回授業資料（動画）を配信します。 くわしい受講方法は第 1 回目の授業内にて説明します。必ず出席すること。	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	都市は私たちの日々の生活に影響をあたえ、また、私たちの営みは都市のあり方を規定する。地域社会学・都市社会学は、都市が生み出す現象の解明や、都市を生み出す力の所在を探究する学問分野である。また、都市社会については一般的な理解を目指すだけではなく、都市を歴史的・社会的過程のなかで具体的に理解することも重要である。 本講義では、地域社会学・都市社会学の理論と方法をもとに、現代都市の構造と文化について概説し、「都市的なもの」についての理解を深めることを目的とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1.修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力。S2.社会や文化について科学的に理解する力。の学修に関連しています。 ①地域社会学・都市社会学の基礎的な理論・方法論について理解することができる。 ②現代都市の諸問題について都市社会学的な視点から説明することができる。 ③自分が生活する都市や地域社会に対する関心を高める。					
19.教科書・教材	教科書はなし。毎回の授業で資料を配布する。					
20.参考文献	玉野和志ほか『都市社会学を学ぶ人のために』世界思想社、2020 年 松本康ほか『都市社会学・入門改訂版』有斐閣、2022 年 森岡清志・北川由紀彦『都市と地域の社会学』放送大学教材、2018 年 松本康『「シカゴ学派」の社会学—— 都市研究と社会理論』有斐閣、2021 年 鯉坂学ほか『さまよえる大都市・大阪——「都心回帰」とコミュニティ』東信堂、2019 年 町村敬志『都市に聴け——アーバン・スタディーズから読み解く東京』有斐閣、2020 年 その他、授業内にて適宜紹介します。					
21.成績評価	授業資料（動画）へのコメント・小課題（50 点）：学習目標①③に対応 第 15 回目に実施する試験（50 点）：学習目標①②③に対応					
22.コメント	生成 AI 利用については、無制限で認めます。ただし、当然ですが生成 AI で作成した文章をそのままレポートとして提出した場合は、剽窃や盗用・コピペと同様の対応をしますので注意してください。					
23.オフィスアワー	質問等はオンライン（Zoom）にて随時受け付けます。メールにて連絡をとってください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] イントロダクション・都市と社会学			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。		
【第 2 回】	[講義] 都市の歴史的展開：近代社会と都市化の関係			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる		

		復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第3回】	〔講義〕都市問題の発生と都市社会学の誕生	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第4回】	〔講義〕都市の社会学的定義：都市生活における自由・個性の問題を中心に	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第5回】	〔講義〕都市の社会地図：同心円地帯理論とセクター理論	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第6回】	〔講義〕都市のコミュニティをめぐる諸問題：移民の適応と社会解体	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第7回】	〔講義〕都市・大阪の現在①：セグリゲーションとコミュニティ	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第8回】	〔講義〕都市・大阪の現在②：都心回帰と都市政策	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第9回】	〔講義〕移民と都市①：グローバル化と都市再編	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第10回】	〔講義〕移民と都市②：インナーシティ問題と多文化共生	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第11回】	〔講義〕移民と都市③：大阪・生野コリアタウンの民族関係と地域活性化	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第12回】	〔講義〕都市下層の社会学①：ホームレスと都市空間の管理・再編	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第13回】	〔講義〕都市下層の社会学②：大阪市西成区「釜ヶ崎」の歴史	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第14回】	〔講義〕都市下層の社会学③：「寄せ場」のまちづくり	予習：授業内容に関連した用語やニュースな

	とジェントリフィケーション	どに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第 15 回】	試験（授業時間内）	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。

1.授業コード (ナンバリング)	SS2212-Y51	2.科目名	市場調査論		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 C 科目		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠である。統計学は、事実を読み取ったり、自分の意見を人に伝えるために、データを収集し表やグラフに加工して簡単な統計分析を行うことは、今後の専門的な学習を行っていくために必要不可欠な能力である。 【概要】 この科目では、データ分析の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を学ぶ。 なお、授業参加においては各自がノートパソコンを持参しなければならない。パソコンの基本的な操作スキル、つまり文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などを前もってできるようになっておくこと。					
18.学習目標と DPとの関連	情報収集・活用力、問題発見力、論理的思考・判断力の基礎を身につける。 本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
21.成績評価	中間試験 30% 練習課題 30% 期末レポート 40%					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明するので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			授業で学んだ内容を復習する		
第 2 回	変数の尺度			授業で学んだ内容を復習する		
第 3 回	質的変数の集計			授業で学んだ内容を復習する		
第 4 回	量的変数の集計：代表値			授業で学んだ内容を復習する		
第 5 回	量的変数の集計：ばらつき具合			授業で学んだ内容を復習する		
第 6 回	グラフの使い方			授業で学んだ内容を復習する		
第 7 回	中間テスト			授業で学んだ内容を復習する		

第 8 回	実証主義と構築主義	授業で学んだ内容を復習する
第 9 回	相関関係と因果関係	授業で学んだ内容を復習する
第 10 回	仮説の立案ワーク	授業で学んだ内容を復習する
第 11 回	クロス集計表の分析	授業で学んだ内容を復習する
第 12 回	散布図と相関係数	授業で学んだ内容を復習する
第 13 回	期末ワーク(1)	期末レポートの作成作業
第 14 回	期末ワーク(2)	期末レポートの作成作業
第 15 回	期末ワーク(3)	期末レポートの作成作業

1.授業コード (ナンバリング)	SS2217-Y51	2.科目名	社会調査実習（2）		3.単位数	1
4.授業担当教員	永井純一、山本晃輔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	山本ゼミでは「共生」をテーマに調査を行います。「共生」や「ダイバーシティ（多様性）」は重要な社会課題となりました。いかにもややこしそうです。ですが難しく考えることはありません。社会のあり方が変化するなかで、過去から守られてきたルールや規範だけでは社会を維持できなくなったからです。とはいえ、多くの学生は高校から大学までストレートに進学してきたのだから「共生」なり「ダイバーシティ」と縁があったわけではないでしょう。 そこで、本授業では全員に現場での取材やフィールドワークを行ってもらいます。また、関連する文献を読みます。取材を通じて得たデータから文章を軸にした成果物を作成しますこのゼミを通じて、調査計画書や取材、文章作成、成果物の刊行などを行います。こうした取り組みは就活に直結します。なぜなら企画書作成、下調べ、営業、文章制作、学外との連絡・調整といった社会人の基本を学ぶからです。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自身の「共生」をキーワードとするテーマを見つけることができる。（自律性・問題発見・解決力） ②自身のテーマに関連して調査、取材を行う。（コミュニケーションスキル） ③調査、取材から成果物をつくる。（自律性・問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	別途指定します。					
20.参考文献	別途指定します。					
21.成績評価	・進捗レポート（全 15 回）・・・30% ・ミニレポート・・・30% ・アウトプットワーク・・・40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の全体像を説明する。			進捗レポートを作成する		
第 2 回	本調査を実施する（1） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 3 回	本調査を実施する（2） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 4 回	本調査を実施する（3） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 5 回	調査のまとめを行う（1） 調査をまとめるため整理する。			進捗レポートを作成する		
第 6 回	調査のまとめを行う（2）			進捗レポートを作成する		

	調査をまとめるため整理する。	
第 7 回	調査のアウトプットを作成する（1） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 8 回	調査のアウトプットを作成する（2） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 9 回	調査のアウトプットを作成する（3） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 1 0 回	調査のアウトプットを作成する（4） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 1 1 回	調査の最終報告をする（1） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 2 回	調査の最終報告をする（2） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 3 回	調査の最終報告をする（3） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 4 回	調査の最終報告をする（4） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 1 5 回	まとめ 4 年次にむけての計画をたてる	まとめのアウトプットを提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	STA102-M51	2.科目名	保健統計学		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 統計学は、データを利用して事実を把握し、推測する方法を体系的に学ぶ学問であり、さまざまな分野で広く活用されています。本授業では、特に保健に関連するデータを取り扱い、統計学の基本的な概念を理解するとともに、統計的なものの見方、データの整理方法、基礎的な分析手法を身につけることを目的とします。 【概要】 この授業では、まず記述統計の基本について学びます。その後、推測統計の分析手法について学びます。具体的には、確率、確率分布、確率変数などの数学的基礎を学び、大数の法則や中心極限定理などの推測統計の理論的背景を理解します。さらに、推定問題や統計的仮説検定の考え方と方法を学びます。最後に、母平均の差の検定など、実際に多く利用されている手法を Excel を用いて修得します。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は本学のディプロマ・ポリシー（DP）のうち、(4)課題発見・解決力、(5)コミュニケーション力に関連します。 ① 統計学の基礎理論を理解し、説明できる ・統計学の基本概念や理論を理解し、それを他者に説明できる能力を身につけます。 ② 推定および検定手法の理論的背景を理解し、適用できる ・推定や検定の手法に関する理論的背景を理解し、実際のデータに適用できる能力を養います。 ③ 目的に応じた適切な統計手法を選択し、利用できる ・研究や実務において、目的に応じた適切な統計手法を選択し、効果的に利用できる能力を身につけます。					
19.教科書・教材	牧本清子 他著 『疫学・保健統計学 第3版（標準保健師講座）』 医学書院 2015 年 その他、プリントを配布する。					
20.参考文献	豊田修一・星山佳治・宮崎有紀子『看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理』実教出版 2020 年 高木晴良『統計学 第7版（系統看護学講座 基礎分野）』医学書院 2016 年					
21.成績評価	【成績評価の方法】 1. ワークシートおよび Excel 作業ファイルの提出: 30%（学習目標①および②） ・ほぼ毎回の授業でワークシートと Excel 作業ファイルを提出します。 2. 中間課題: 20%（学習目標①） ・学期の中間に課題を提出します。課題は学習目標①に基づいて評価されます。 3. 総括試験: 50%（学習目標①、②および③） ・学期末に総括試験を実施し、全体の理解度を評価します。試験は学習目標①、②および③に基づいて行われます。					

	【単位修得の目安】 ・ワークシートの6割以上の提出 ・Excel作	
22.コメント	1. ノート PC の持参 ・すべての授業でノート PC を使用しますので、必ず充電して持参してください。 2. 復習の方法 ・毎回の授業で提示された資料を自分で理解し、ポイントを A4 用紙 1 枚程度にまとめましょう。資料でわからないことがあれば、教科書や参考書も参照してください。これらのまとめは総括試験の際に役立ちます。 3. 生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用することに関しては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。	
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（秋学期） 三木キャンパスみさお館 2 階学習支援室：火昼休み ※それ以外の時間帯で質問をしたいときは電子メールで問い合わせてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション・表とグラフの表現 統計学でできることを知る 表・グラフの基本と書き方の留意点を知る 変数と尺度の種類を知る <テキスト：1-前文～1-a>	○ワーク：4 つの尺度に注意して、健康に関するアンケートの質問項目を考えよう。 予習・復習（4 時間）
第 2 回	量的データの集計（1） データの中心を表す代表値を学ぶ データのばらつきの程度を表す散布度を学ぶ データの標準化の概念を学ぶ <テキスト：1-b、1-d>	★前時のワークシート提出 ○ワーク：量的データを代表値、散布度の観点から考察しよう。 予習・復習（4 時間）
第 3 回	量的データの集計（2） 量的データを度数分布表やヒストグラムにまとめる <テキスト：1-c>	★前時のワークシート提出 ○ワーク：量的データをヒストグラムにまとめて考察しよう。 予習・復習（4 時間）
第 4 回	確率、確率変数と確率分布 確率、確率変数、確率分布の基礎的な概念を学ぶ 連続型の確率分布の概念を学ぶ	★前時のワークシート提出 ○復習（4 時間）
第 5 回	正規分布の活用（1） 正規分布の概念を学ぶ 確率変数の標準化の概念を学ぶ 正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る	○正規分布に従う確率変数を想定して、確率を求めよう。 予習・復習（4 時間）
第 6 回	正規分布の活用（2）	★前時のワークシート提出

	確率からパーセント点の求め方を知る	○正規分布に従う確率変数を想定して、パーセント点を求めよう。 予習・復習（4 時間）
第 7 回	母集団と標本、標本分布 母集団と標本の違いを理解する 標本平均の性質を理解する ＜テキスト：2-前文～2-a＞	★前時のワークシート提出 ○中間課題：これまでの学習内容の確認 予習・復習（4 時間）
第 8 回	統計的推測の基礎と推定問題 中心極限定理の性質を知る t 分布の性質と t 分布表の読み方を知る 点推定と区間推定 ＜テキスト：2-b＞	★中間課題提出 ○予習・復習（4 時間）
第 9 回	統計的仮説検定の方法 母平均の検定方法を知る 2 種類の過誤を理解する ＜テキスト：3 前文＞	○予習・復習（4 時間）
第 10 回	母平均の差の検定（1）＜Excel＞ 母平均の差の検定（対応あり）の概要と方法を知る ＜テキスト：3c＞	○母平均の差の検定（対応あり）を実施して考察しよう。 予習・復習（5 時間）
第 11 回	母平均の差の検定（2）＜Excel＞ 母平均の差の検定（対応なし）の概要と方法を知る ＜テキスト：3c＞	○母平均の差の検定（対応なし）を実施して考察しよう。 予習・復習（5 時間）
第 12 回	相関分析（1）＜Excel＞ 2 変数の関係を図で確認する－散布図－ ＜テキスト：4 前文-4-a＞	○相関分析を実施して考察しよう。 予習・復習（5 時間）
第 13 回	相関分析（2）＜Excel＞ 2 変数の関係を統計量で確認する－相関係数－ ＜テキスト：4 前文-4-a＞	○相関分析を実施して考察しよう ○復習（5 時間）
第 14 回	ふりかえり	★作業ファイルの提出
第 15 回	総括試験による総括	

1.授業コード (ナンバリング)	STA104-Y51	2.科目名	基礎統計学 【社会学科】		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 C 科目		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠である。統計学は、事実を読み取ったり、自分の意見を人に伝えるために、データを収集し表やグラフに加工して簡単な統計分析を行うことは、今後の専門的な学習を行っていくために必要不可欠な能力である。 【概要】 この科目では、データ分析の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を学ぶ。 なお、授業参加においては各自がノートパソコンを持参しなければならない。パソコンの基本的な操作スキル、つまり文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などを前もってできるようになっておくこと。					
18.学習目標と DPとの関連	情報収集・活用力、問題発見力、論理的思考・判断力の基礎を身につける。 本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
21.成績評価	中間試験 30% 練習課題 30% 期末レポート 40%					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明するので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			授業で学んだ内容を復習する		
第 2 回	変数の尺度			授業で学んだ内容を復習する		
第 3 回	質的変数の集計			授業で学んだ内容を復習する		
第 4 回	量的変数の集計：代表値			授業で学んだ内容を復習する		
第 5 回	量的変数の集計：ばらつき具合			授業で学んだ内容を復習する		
第 6 回	グラフの使い方			授業で学んだ内容を復習する		
第 7 回	中間テスト			授業で学んだ内容を復習する		

第 8 回	実証主義と構築主義	授業で学んだ内容を復習する
第 9 回	相関関係と因果関係	授業で学んだ内容を復習する
第 10 回	仮説の立案ワーク	授業で学んだ内容を復習する
第 11 回	クロス集計表の分析	授業で学んだ内容を復習する
第 12 回	散布図と相関係数	授業で学んだ内容を復習する
第 13 回	期末ワーク(1)	期末レポートの作成作業
第 14 回	期末ワーク(2)	期末レポートの作成作業
第 15 回	期末ワーク(3)	期末レポートの作成作業

1.授業コード (ナンバリング)	STA105-Y51	2.科目名	心理学統計法 (1/3)	3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	統計学Ⅰが履修済みであること。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】人の心理や行動を数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るため、①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識を学習する。 【概要】 具体的には、基礎集計から二変量解析を、カイ二乗検定、平均値の差の検定、相関分析と HAD もしくは SPSS の活用法を学ぶ。 心理統計、HAD もしくは SPSS での解析を学ぶことをとおして、人の心を客観的に把握する方法について学ぶ。				
18.学習目標と DPとの関連	与えられた課題に対し、特定の科学的データを分析し、考察できるようになる。 具体的には、 ① 各種分析方法を理解し、HAD、SPSS 等統計ソフトを活用してデータ解析を行えるようになる。 ② 分析結果をエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 ③ ①②をもとに結果を解釈することができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を提示する。				
20.参考文献	小宮あすか「Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける」講談社 小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで」東京図書				
21.成績評価	各回の課題レポート×8 つ：50% 学習目標①②に対応 復習課題レポート：10% 学習目標③に対応 最終課題レポート：40% 学習目標③に対応				
22.コメント	※毎回ノート PC を用いて作業を行います。 必ず HAD をインストールした PC を持参すること。 欠席をすると次の授業についていけなくなります。 もしも欠席してしまった場合には、必ず次回までに欠席した回の補習をおこなってください。 課題もほぼ毎回出ます。 生成 AI 利用は認めない				
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション 授業内容（授業計画） 評価方法などについて説明する。 統計学Ⅰの振り返りをする。 ※HAD のインストールを実施する：ノート PC を持参			○復習：第一回目に学んだ内容を復習する (120 分)	

第 2 回	単純集計について解析する。 HAD によって、単純集計を行う。	○復習：単純集計の結果を考察し、文章化する。(120 分)
第 3 回	χ^2 乗検定とは何か クロス集計の方法、 χ^2 乗検定について理解し、「統計的に有意」ということを学習する。	○「統計的に有意」とはなにか、クロス集計の分析方法を復習する。(120 分)
第 4 回	クロス集計 (続)、出力結果の読み方、記述の仕方、値の再割り当てなどを学習する。	クロス集計の結果の見方を確認し、文章化する。(120 分)
第 5 回	「t 検定」とは何か解説する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。 独立したサンプルの t 検定を習得する①	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 6 回	独立したサンプルの t 検定を習得する② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 7 回	対応のあるサンプルの t 検定について学習する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○対応のあるサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 8 回	相関分析① 相関分析の分析方法を習得する	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 9 回	相関分析② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 10 回	相関分析③ 出力結果の読み取り、結果の記述、解釈の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 11 回	まとめと補足と復習 クロス集計、平均値の差の検定、相関分析の使い分けができるようにする。	○今までに学習した 3 つの分析方法が使い分けられるようにその特徴を再確認する。(120 分)
第 12 回	最終課題① 分析データを配布し、レポート課題について説明する。	○最終課題分析データについて、分析の視点を明確にする。(180 分)
第 13 回	最終課題② HAD, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 14 回	最終課題③ HAD, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 15 回	最終課題④ 最終課題を提出する。振り返り授業アンケートを実施する。	○最終課題を提出できるように仕上げる(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	STA105-Y52	2.科目名	心理学統計法 (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	端本利江子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	統計学Ⅰが履修済みであること。 基本的な PC 操作、エクセルでの表作成など ができることを前提に進めます。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	※初回授業までに履修登録を済ませておいてください。					
17.授業の目的と概要	人の心理や行動を数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るため、①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識を学習する。 具体的には、基礎集計から二変量解析を、カイ二乗検定、平均値の差の検定、相関分析と SPSS の活用法を学ぶ。 心理統計、SPSS での解析を学ぶことをとおして、人の心を客観的に把握する方法について学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データを分析し、考察できるようになる。 具体的には、 ① 各種分析方法を理解し、SPSS 等統計ソフトを活用してデータ解析を行えるようになる。 ② 分析結果をエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 ③ ①②をもとに結果を解釈することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を提示する。					
20.参考文献	小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで」東京図書					
21.成績評価	各回の課題レポート×8 つ：50% 学習目標①②に対応 復習課題レポート：10% 学習目標③に対応 最終課題レポート：40% 学習目標③に対応					
22.コメント	※毎回ノート PC を用いて作業を行います。 必ず SPSS をインストールした PC を持参すること。 欠席をすると次の授業についていけなくなります。 もしも欠席してしまった場合には、必ず次回までに欠席した回の補習をおこなってください。 課題もほぼ毎回出ます。					
23.オフィスアワー	授業後の教室にて ※質問等はメールでも対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業内容 (授業計画) 評価方法などについて説明する。 統計学Ⅰの振り返りをする。 ※SPSS のインストールを実施する：ノート PC を持参			○復習：第一回目に学んだ内容を復習する (120 分)		
第 2 回	単純集計について解析する。 SPSS によって、単純集計を行う。			○復習：単純集計の結果を考察し、文章化する。 (120 分)		
第 3 回	χ ² 乗検定とは何か クロス集計の方法、χ ² 乗検定に			○「統計的に有意」とはなにか、クロス集計		

	ついて理解し、「統計的に有意」ということを学習する。	の分析方法を復習する。(120 分)
第 4 回	クロス集計（続）、出力結果の読み方、記述の仕方、値の再割り当てなどを学習する。	クロス集計の結果の見方を確認し、文章化する。(120 分)
第 5 回	「t 検定」とは何か解説する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。 独立したサンプルの t 検定を習得する①	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 6 回	独立したサンプルの t 検定を習得する② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 7 回	対応のあるサンプルの t 検定について学習する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○対応のあるサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 8 回	相関分析① 相関分析の分析方法を習得する	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 9 回	相関分析② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 10 回	相関分析③ 出力結果の読み取り、結果の記述、解釈の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 11 回	まとめと補足と復習 クロス集計、平均値の差の検定、相関分析の使い分けができるようにする。	○今までに学習した 3 つの分析方法が使い分けられるようにその特徴を再確認する。(120 分)
第 12 回	最終課題① 分析データを配布し、レポート課題について説明する。	○最終課題分析データについて、分析の視点を明確にする。(180 分)
第 13 回	最終課題② S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 14 回	最終課題③ S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 15 回	最終課題④ 最終課題を提出する。振り返り授業アンケートを実施する。	○最終課題を提出できるように仕上げる(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	STA105-Y53	2.科目名	心理学統計法 (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	統計学Ⅰが履修済みであること。 基本的な PC 操作、エクセルでの表作成など ができることを前提に進めます。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	※初回授業までに履修登録を済ませておいてください。					
17.授業の目的と概要	人の心理や行動を数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るため、①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識を学習する。 具体的には、基礎集計から二変量解析を、カイ二乗検定、平均値の差の検定、相関分析と HAD または SPSS の活用法を学ぶ。 心理統計、HAD または SPSS での解析を学ぶことをとおして、人の心を客観的に把握する方法について学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データを分析し、考察できるようになる。 具体的には、 ① 各種分析方法を理解し、HAD や S P S S 等統計ソフトを活用してデータ解析を行えるようになる。 ② 分析結果をエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 ③ ①②をもとに結果を解釈することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を提示する。					
20.参考文献	小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで」東京図書 小宮あすか・布井 雅人「Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける」講談社					
21.成績評価	各回の課題レポート×8 つ：50% 学習目標①②に対応 復習課題レポート：10% 学習目標③に対応 最終課題レポート：40% 学習目標③に対応					
22.コメント	※毎回ノート PC を用いて作業を行います。 必ず SPSS をインストールした PC を持参すること。 欠席をすると次の授業についていけなくなります。 もしも欠席してしまった場合には、必ず次回までに欠席した回の補習をおこなってください。 課題もほぼ毎回出ます。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
○第 1 回	オリエンテーション 授業内容（授業計画） 評価方法などについて説明する。			○復習：第一回目に学んだ内容を復習する (120 分)		

	統計学Ⅰの振り返りをする。 ※SPSS のインストールを実施する：ノート PC を持参	
○第 2 回	単純集計について解析する。 S P S S によって、単純集計を行う。	○復習：単純集計の結果を考察し、文章化する。(120 分)
○第 3 回	χ^2 乗検定とは何か クロス集計の方法、 χ^2 乗検定について理解し、「統計的に有意」ということを学習する。	○「統計的に有意」とはなにか、クロス集計の分析方法を復習する。(120 分)
○第 4 回	クロス集計（続）、出力結果の読み方、記述の仕方、値の再割り当てなどを学習する。	クロス集計の結果の見方を確認し、文章化する。(120 分)
○第 5 回	「t 検定」とは何か解説する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。 独立したサンプルの t 検定を習得する①	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
○第 6 回	独立したサンプルの t 検定を習得する② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
○第 7 回	対応のあるサンプルの t 検定について学習する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○対応のあるサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
○第 8 回	相関分析① 相関分析の分析方法を習得する	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
○第 9 回	相関分析② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
○第 10 回	相関分析③ 出力結果の読み取り、結果の記述、解釈の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
○第 11 回	まとめと補足と復習 クロス集計、平均値の差の検定、相関分析の使い分けができるようにする。	○今までに学習した 3 つの分析方法が使い分けられるようにその特徴を再確認する。(120 分)
○第 12 回	最終課題① 分析データを配布し、レポート課題について説明する。	○最終課題分析データについて、分析の視点を明確にする。(180 分)
○第 13 回	最終課題② S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
○第 14 回	最終課題③ S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
○第 15 回	最終課題④ 最終課題を提出する。振り返り授業アンケートを実施する。	○最終課題を提出できるように仕上げる(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	STA202-A51	2.科目名	統計学Ⅱ（秋冬集中）		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	データサイエンス副専攻		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 統計および統計的分析手法は、心理学、社会学、保健衛生、経営学など、さまざまな学問分野で広く活用されています。また、社会においても多くの職業で重要な役割を果たしています。本講義の目的は、統計学の基本的な考え方を理解し、特に推測統計的分析の基礎を習得することです。これにより、学習や研究、さらには職業においても統計的手法を効果的に活用できるようになります。 【概要】 本講義では、統計学Ⅰで学んだ基礎を活かし、推測統計的分析の理解に必要な背景知識を深めます。具体的には、確率、確率変数、確率分布、大数の法則、中心極限定理などの基礎を学びます。その上で、推定問題や統計的仮説検定の基本的な手法と考え方を習得します。これにより、実際のデータ分析において推測統計を効果的に活用できるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「課題発見・解決力」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 ① 推測統計的分析手法を使用するための基礎的知識を活用できる ○主な項目： ・ 確率変数と確率分布 ・ 標準化 ・ 正規分布および正規分布表の活用 ② 推測統計的分析手法の理論的背景を理解し、説明できる ○主な項目： ・ 中心極限定理 ・ 不偏性と一致性（大数の法則） ・ 統計的仮説検定の 2 種類の誤り ③ 推測統計的分析手法を利用できる ○主な項目： ・ 母平均と母分散の点推定 ・ 母平均の区間推定 ・ 平均に関する仮説検定					
19.教科書・教材	プリントを配付する。					
20.参考文献	★山田 剛史, 村井 潤一郎 著『よくわかる心理統計（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』ミネルヴァ書房(2004/09) ISBN 4623039994 ★鳥居泰彦 著『はじめての統計学』日本経済新聞社（1994/11）ISBN4532130743					
21.成績評価	【成績評価の方法】 1. 確認問題（ほぼ毎回）：30 点（学習目標①） ・ 各授業後に確認問題を実施し、理解度をチェックします。 2. 課題（前半と後半の 2 回）：20 点（学習目標①および③の一部） ・ 学期の前半と後半にそれぞれ 1 回ずつ課題を提出します。課題は実践的な問題を含み、学習					

	目標①および③の一部を評価します。 3. 総括試験（第 15 回目）：50 点（学習目標②および③） ・学期末に総括試験を実施し、全体の理解度を評価します。試験は学習目標②および③に基づいて行われます。 【単位修得の目安】 ・確認問	
22.コメント	1. ノート PC の持参 すべての授業でノート PC を使用しますので、必ず充電して持参してください。 2. 事前復習 この科目は「統計学Ⅰ」の発展科目です。受講する前に「統計学Ⅰ」の内容を復習しておきましょう。 3. 関連科目の受講 この科目の理解を深めるために、実際にデータを収集し、HAD や EXCEL などデータ分析を行う科目を受講するとよいでしょう。 4. 継続的な学習 推測統計的分析を習得するためには、知識を一つ一つ積み上げていくことが重要です。わからないことをそのままにせず、積極的に解決しましょう。 5. 復習の方法 毎回の授業で提示された資料を自分で理解し、ポイントを A4 用紙 1 枚程度にまとめましょう。資料でわからないことがあれば、参考書を参照してください。これらのまとめは総括試験の際に役立ちます。 6. 生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用することに関しては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 1 号館 3 階 302 室）：水 3 限目 学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：水 昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	統計学の基礎 ・記述統計的分析のおさらい ・推測統計的分析の全体像 事象	○記述統計的分析との違いに注意しながら、推測統計的分析手法の全体像を復習する。 （目安：2 時間）
第 2 回	確率 ・基本的な確率の概念及び性質を学ぶ	○確率の概念を復習する ○確認問題 1 = 確率を求める（目安：2 時間）
第 3 回	確率変数と確率分布（1） ・離散型確率変数と離散型確率分布の概念を理解する ・標準化の概念を理解する	○離散型確率変数と確率分布、および標準化について復習する。 ○確認問題 2 = 標準化の事例 （目安：2 時間）
第 4 回	確率変数と確率分布（2） ・連続型確率変数と連続型確率分布の概念を学ぶ ・代表的な連続型確率分布である正規分布を知る	○連続型の確率変数と確率分布、特に正規分布について復習する。 ○確認問題 3 = 正規分布の特徴

		(目安：2 時間)
第 5 回	正規分布の活用 (1) ・ 正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る	○正規分布表を用いて、確率を求める方法を復習する。 ○確認問題 4 = 正規分布表の活用法 (目安：2 時間)
第 6 回	正規分布表の活用 (2) ・ 確率からパーセント点を求める方法を知る	○正規分布表を用いてパーセント点を求める復習 (目安：2 時間) ○課題 1：正規分布表を用いて確率やパーセント点を求める課題 (目安：3 時間)
第 7 回	標本分布 (1) ・ 母集団と標本の違いを理解する ・ 標本平均の性質を理解する	○母集団と標本の概念、標本平均に関する性質について復習する。 ○確認問題 5 = 標本平均の性質 (目安：2 時間)
第 8 回	標本分布 (2) ・ 大数の法則の概要を知る ・ 中心極限定理の性質を知る ・ t 分布の性質と読み方を知る	☆提出：課題 1 ○大数の法則及び中心極限定理の概念及び、t 分布表の見方を復習する。 ○確認問題 6 = t 分布表の活用法 (目安：2 時間)
第 9 回	推定 (1) ・ 推定の種類を理解する ・ 点推定の方法を理解する ・ 母平均に関する区間推定の方法 (母分散が既知の場合) を理解する	○母平均、母分散の点推定、および母平均の区間推定の方法を復習する。 ○確認問題 7 = 点推定と母平均に関する区間推定 (目安：2 時間)
第 10 回	推定 (2) ・ 母平均に関する区間推定の方法 (母分散が未知の場合) を理解する	○母平均に関する区間推定の復習 (目安：2 時間) ○課題 2：母平均に関する区間推定を行う課題 (目安：3 時間)
第 11 回	統計的仮説検定 (1) ・ 母平均の検定 (母分散が既知の場合) の方法を知る	○統計的仮説検定の概要と母平均の検定について復習する。 ○確認問題 8 = 母平均の検定に関する問題 (母分散が既知) (目安：2 時間)
第 12 回	統計的仮説検定 (2) ・ 2 種類の過誤を理解する ・ 母平均の検定 (母分散が未知の場合) を理解する	☆提出：課題 2 ○統計的仮説検定における 2 種類の過誤、および母平均の検定について復習する。 ○確認問題 9 = 母平均の検定に関する問題 (母分散が未知) (目安：2 時間)
第 13 回	検定の応用	○母比率の検定の概要と方法を復習する。

	・母比率に関する検定の方法を知る	○確認問題 10 = 母比率の検定に関する問題 (目安 2 時間)
第 14 回	ふりかえり ・この授業で学んだことをおさらいする	○全体を通して復習する。 (目安：4 時間)
第 15 回	総括試験 (筆記試験)	

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-A51	2.科目名	データサイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により、データ駆動を特徴とするディジタル時代が到来し、経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになってきている。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として、社会におけるデータ・AI 利活用、データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要： カリキュラムの内容構成として、大きく「導入」「基礎」「心得」に分類し順に進めていく。 「導入部」では、社会でおきている変化，社会で活用されているデータ、データ・AI 利活用のための技術，データサイエンスの役割，データ・AI 利活用の最新動向などについて学ぶ。 「基礎部」では、データリテラシーとして，データを読む，データを説明する，データを扱うなど，データサイエンスの基本手法などについて学習する。オープンデータなどを使用し，コンピュータを用いた演習を含む。 「心得部」では，データ・AI を扱う上での留意事項として、ELSI、一般データ保護規則 GDPR、AI 倫理や脅威、データ・AI 利活用における事例を紹介する。また、データを守る上での留意事項として、データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシーなどについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編，学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ノート PC を利?しますので，授業に使える PC を持参してください。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。ま					

	た、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定します。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー：月曜日 4 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 イン트로ダクション ・ 科?の概要と?的、到達?標、全体の流れなどの説明 ・ WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・ 事前アンケート	
	第 2 回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料 小テスト① 課題①
	第 3 回 1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料 小テスト④ 課題④
	1.4 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ―予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ―グルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ―発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料 小テスト⑤ 課題⑤
	1.4 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料 小テスト⑥ KPT シート① Q & A：掲示板：相互レビュー
	1.5 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料 中間テスト 課題⑥
	1.6 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル	配付資料

	1.6.2 AI 最新技術の活用例	小テスト⑦ 課題⑦
	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料 小テスト⑧ 課題⑧
	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料 小テスト⑨ 課題⑨
	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料 小テスト⑩ 課題⑩
	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料 KPT シート② Q & A：掲示板：相互レビュー
	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー	配付資料 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感

	3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	想
	第 15 回 総括テスト 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-A52	2.科目名	データサイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年春	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により、データ駆動を特徴とするデジタル時代が到来し、経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになってきている。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として、社会におけるデータ・AI 利活用、データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要： カリキュラムの内容構成として、大きく「導入」「基礎」「心得」に分類し順に進めていく。 「導入部」では、社会でおきている変化，社会で活用されているデータ、データ・AI 利活用のための技術，データサイエンスの役割，データ・AI 利活用の最新動向などについて学ぶ。 「基礎部」では、データリテラシーとして、データを読む，データを説明する，データを扱うなど，データサイエンスの基本手法などについて学習する。オープンデータなどを使用し，コンピュータを用いた演習を含む。 「心得部」では，データ・AI を扱う上での留意事項として、ELSI、一般データ保護規則 GDPR、AI 倫理や脅威、データ・AI 利活用における事例を紹介する。また、データを守る上での留意事項として、データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシーなどについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編，学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ノート PC を利?しますので，授業に使える PC を持参してください。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 金曜 2 限（神戸山手）					

研究室オフィスアワー 水曜昼休み（神戸山手）		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 インTRODクシヨン ・科?の概要と?的, 到達?標, 全体の流れなどの説明 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート	
	第2回 社会でおきている変化(1) 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンとSNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第3回 社会でおきている変化(2) 1.1.3 第4次産業革命 1.1.4 AIの驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動とAI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第4回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第5回 データとAIの活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	1.4 データ・AI利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	1.4 データ・AI利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半(2～7)の振り返り KPTシート① Q&A: 掲示板: 相互レビュー
	1.5 データ・AI活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	1.6 データ・AI利活用の最新動向 1.6.1 AI等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦

	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想

	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-M51	2.科目名	データサイエンス	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科・経営学科			9.履修学年	1 年秋
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド型 (初回目は Zoom によるオンライン説明あり)	
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. 小テストでの利用 小テストにおいては、生成 AI の利用を禁止します。 3. 課題・レポートでの利用制限 ？ 生成 AI の出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 ？ 利用は、アイデア出し、テーマ探し、アウトライン作り、文章校正・表現改善などに限定してください。 ？ 常に自分自身の思				
17.授業の目的と概要	目的： 近年のビッグデータや AI 技術の発展により、データ駆動型社会が到来しています。データへの依存度が高まる中、データサイエンスは、ビジネス、政策立案、社会サービスなど幅広い分野で不可欠な役割を担っています。データサイエンスは科学と産業に革新をもたらす分野として注目を集めており、現代社会において職業人に求められる基本的なスキルとなっています。本科目では、データ思考力を育成することを目的とし、社会におけるデータと AI の活用方法、データリテラシー、およびデータと AI の活用における留意点について学習します。 概要： 本カリキュラムは、「導入」「基礎」「心得」の 3 部構成で展開します。 導入部では、社会の変化、データ活用の実態、データサイエンスの役割、最新のデータ・AI 技術の動向について学習します。 基礎部では、データリテラシーの習得を目指し、データの読解法、解釈方法、適切な取り扱い方などの基本手法を学びます。また、コンピュータを用いた実践的な演習も実施します。 心得部では、データ・AI を扱う際の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）、EU 一般データ保護規則（GDPR）、AI 倫理、およびセキュリティとプライバシーの保護について理解を深めます。				
18.学習目標と DP との関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力				

19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。	
20.参考文献		
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】	
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので、授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー水 2 限（みさお館 2 階） 研究室オフィスアワー 水 3 限（三木 4 号館 5 階 26 号室）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 インTRODakション ・科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート	
	第 2 回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第 3 回 1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	1.4 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	1.4 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPT シート① Q&A：掲示板：相互レビュー

	1.5 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	1.6 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー

	3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	
	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-Y52	2.科目名	データサイエンス（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理・観光学科			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド型 (初回目は Zoom によるオンライン説明あり)		
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. 小テストでの利用 小テストにおいては、生成 AI の利用を禁止します。 3. 課題・レポートでの利用制限 ？ 生成 AI の出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 ？ 利用は、アイデア出し、テーマ探し、アウトライン作り、文章校正・表現改善などに限定してください。 ？ 常に自分自身の思					
17.授業の目的と概要	目的： 近年のビッグデータや AI 技術の発展により、データ駆動型社会が到来しています。データへの依存度が高まる中、データサイエンスは、ビジネス、政策立案、社会サービスなど幅広い分野で不可欠な役割を担っています。データサイエンスは科学と産業に革新をもたらす分野として注目を集めており、現代社会において職業人に求められる基本的なスキルとなっています。本科目では、データ思考力を育成することを目的とし、社会におけるデータと AI の活用方法、データリテラシー、およびデータと AI の活用における留意点について学習します。 概要： 本カリキュラムは、「導入」「基礎」「心得」の 3 部構成で展開します。 導入部では、社会の変化、データ活用の実態、データサイエンスの役割、最新のデータ・AI 技術の動向について学習します。 基礎部では、データリテラシーの習得を目指し、データの読解法、解釈方法、適切な取り扱い方などの基本手法を学びます。また、コンピュータを用いた実践的な演習も実施します。 心得部では、データ・AI を扱う際の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）、EU 一般データ保護規則（GDPR）、AI 倫理、およびセキュリティとプライバシーの保護について理解を深めます。					
18.学習目標と DP との関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					

19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。	
20.参考文献		
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】	
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので，授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 金曜 2 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 水曜昼休み（神戸山手）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 インTRODakション ・科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート	
	第 2 回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第 3 回 1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	1.4 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	1.4 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPT シート① Q&A：掲示板：相互レビュー

	1.5 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	1.6 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー

	3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	
	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM301-Y51	2.科目名	データサイエンス論		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	データサイエンス専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】近年の AI や IoT をはじめとする情報技術の飛躍的な進歩により、超スマート社会が現実になっていく一方、溢れるデータに対して、科学的な方法でデータを分析・処理し、新たな価値を創出できる人材が社会から強く求められている。データを価値に変換する際には、データサイエンスの俯瞰、データの収集と統合、データ分析と解釈などの能力が不可欠である。この科目は、こうした能力の基本素養の育成を図り、IoT、ビッグデータ、AI などのデータ利活用を巡る技術の理解や、データサイエンスの要素的な知識や技術について幅広く学び、今後実践的に課題解決できる能力の養成の準備を目的とする。 【概要】データの読み方・可視化・解析方法について学習した後、人工知能における機械学習のしくみについて学習する。					
18.学習目標と DP との関連	① ソサイエティ 5.0 社会におけるデータサイエンスの役割について説明できる ② データサイエンスの基盤知識や技術について説明できる ③ 科学的な方法でデータを分析・処理・可視化する基本方法について説明できる ④ IoT やビッグデータ、オープンデータの活用方法について説明できる ⑤ データサイエンスの手法を用いて問題解決の提案ができる [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	授業中に指定します					
20.参考文献						
21.成績評価	KPT シート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる) 30% 実践課題(データを活用した分析) 30% 総括試験(基礎手法・用語の確認) 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 2 回	データサイエンスの手法の概観			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 3 回	データの可視化と統計手法(1)			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 4 回	データの可視化と統計手法(2)			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 5 回	線形回帰(1)			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 6 回	線形回帰(2)			復習：授業ノートの整理、課題作成		

		予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 7 回	ロジスティック回帰(1)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 8 回	ロジスティック回帰(2)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 9 回	ディープラーニング	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 10 回	教師なし学習(1)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 11 回	教師なし学習(2)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 12 回	レコメンデーション(1)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 13 回	レコメンデーション(2)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 14 回	まとめ	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：総括試験の準備
第 15 回	総括試験	復習：総括試験の反省

1.授業コード (ナンバリング)	STM302-Y51	2.科目名	データサイエンス実践演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	DS 教育プログラム科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	データサイエンス専攻の専門科目 全学（神戸山手 C）			9.履修学年	3 年秋	
10.取得資格の要件	数理・データサイエンス・AI 教育プ ログラムの選択(4.オプション)科目		11.先修条件	「Python プログラミング」「基礎統計学 A」 を受講していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. テストでの利用 小テストなどにおいては、生成 AI の利用を禁止します。 3. 課題・コーディング支援での利用 ？ 生成 AI の出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 ？ 利用は、コーディングの補助・自分のコードのエラ探しや、レポート内容に関するアイデア出しなどに限定してください。 ？ 常に					
17.授業の目的と概要	目的： ビジネスや意思決定の場面で、データサイエンスの技術を活用して課題を解決することが欠かせない。データの収集方法や整理の仕方、データ前処理やデータ可視化、統計学解析の手法や機械学習の典型的モデルのほかに、Python プログラミング技術などを活用し、実際のデータを用いた実践演習も取り上げられる。この科目は、データサイエンス応用の基礎を修得し、Python によるデータアナリティクスの基本を実践的に学ぶ。 概要： データの収集と表現形式の基礎、データ前処理の意義とデータ可視化の基本、のほかに様々な分野の分析業務において、代表的統計学手法と典型的機械学習のモデルなどを内容にして、Jupyter notebook 環境を用いて、Python によるビジネスデータ分析の基本を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ形式と処理技術の基本、データ前処理の意義を理解している。 2. Python でデータ扱い基本とよく扱うデータ可視化の手法を理解している。 3. 統計学の基本的手法と機械学習の典型的モデルによるデータ分析を理解している。 4. Python によるビジネスデータ分析の基本的流れと基本技法を理解している。 5. 公的データ、マーケティングなどの分野の実践的分析例を理解している。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：実践 Data Science シリーズ『ゼロからはじめるデータサイエンス入門』（辻 真吾，矢吹 太郎）・講談社 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する					
20.参考文献	参考書 1：応用基礎としてのデータサイエンス 北川など 講談社 教科書 2：Python によるビジネスデータサイエンス『データの前処理』（羽室行信）・朝倉商店					
21.成績評価	課題(48%)、リフレクションシート(30%)、期末応用レポート(22%)、					

	課題は、6 回 X 8 = 48 点 【学習?標①②③④⑤に対応】 リフレクションシート：5 回 X 6 = 30 点 【学習?標①②③④⑤に対応】 期末応用レポートは、1 X 22 = 22 点 【学習?標①②③④⑤に対応】	
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?した演習があるので、BYOD 必携すること	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜お昼時間（神戸山手）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 受講ガイダンス ・ Python プログラミング環境の構築と確認 ・ プログラミング基礎の復習	本講義では PC を利用する。
	第 2 回 Python によるデータ分析基礎（1） ・ データ処理技術について ・ 統計入門とデータ可視化 ・ 記述統計 ・ 乱数処理	配布資料
	第 3 回 Python によるデータ分析基礎（2） ・ 検定と推定 ・ 平均の差の検定と推定 ・ 独立性の検定	配付資料 リフレクションシート①
	第 4 回 データサイエンス実践のプロセス ・ データの前処理とは ・ データの前処理タスク ・ データ収集とデータ加工	配付資料 課題①
	第 5 回 表構造データの処理技術 ・ DataFrame の三要素 ・ カラムの操作 ・ 値の操作 ・ レコードの操作 ・ 結合処理・集計処理	配付資料 リフレクションシート②
	第 6 回 単回帰モデル ・ 回帰分析とは ・ K 最近傍法 ・ データと検証 ・ パラメータチューニング	配付資料 課題②
	第 7 回 重回帰モデル（1） ・ 重回帰分析とは ・ 標準化	配付資料 リフレクションシート③
	第 8 回 重回帰モデル（2） ・ 入力変数の数とモデルの良さ ・ 変数選択	配付資料 小テスト①
	第 9 回 分類モデル（1） ・ 木による分類 ・ 欠損のあるデータの学習	配付資料 課題③
	第 10 回 分類モデル（2） ・ 2 値分類の性能指標 ・ ロジスティック回帰	配付資料 リフレクションシート④
	第 11 回 時系列予測	配付資料

	・日時と日時の列 ・時系列データの予測	課題④
	第 12 回 実践（１）公的統計 ・データ理解と前処理 ・データ前処理の設計 ・データ前処理の実践	配付資料 リフレクションシート⑤
	第 13 回 実践（２）マーケティング分析 ・分析ための前処理 ・集計・来店間隔の計算と売上金額の比較 ・デシルの生成と RFM 分析	配付資料 課題⑤
	第 14 回 実践（３）ファイナンス分析 ・収益率と超過収益率 ・投資信託の価額調整 ・３要因モデル構築用データのクリーニング ・投資信託の評価用データセットの作成	配付資料 課題⑥
	第 15 回 総括および期末応用課題	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	SVL101-Y51	2.科目名	サービスラーニング A（運動療育発達支援）		3.単位数	1
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	共通教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学部・全学科			9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	前向きな姿勢で意欲的に参加できる者 欠席・遅刻連絡ができる者					
17.授業の目的と概要	発達障害者支援法施行から 10 年以上が経過し、この間発達障害者を取りまく環境は改善がみられるものの、依然として課題も山積している。発達障害児童生徒の支援の一つとして、放課後デイサービスがある。本プログラムでは、特に運動療育に特化した放課後デイサービスでの児童発達支援の現場での経験学修により、運動を通した発達支援について学ぶ。 事前学修 →発達障害者を取りまく環境として、どのような課題があるのか学修する。 経験学修 10-11 月平日 →放課後デイサービス事業所にて運動療育に特化した支援方法について学ぶ。 事後学習 →経験学習で学んだことをふりかえり、発達障害者に関する課題の解決のために、放課後デイサービスでの運動療育がどのように寄与しているのかについて理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	①発達障害者を取り巻く環境としての課題について説明することができる。 ②上記課題に対して、放課後デイサービスでの運動療育がどのように課題解決につながっているのか説明することができる。 ③上記の目標に向けて、どのような活動を行い、どのような学びを得たのか表現することができる。					
19.教科書・教材	授業内で適宜、紹介する 資料は授業時に配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	1. 事前学習でのレポート 30% 学習目標①に対応 2. 経験学習での取り組み 30% 学習目標②に対応 3. 事後学習でのレポート 30% 学習目標③に対応 4. 最終プレゼン 10% 学習目標④に対応					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。 ただし、レポートに関しては、利用不可とする。					
23.オフィスアワー	毎週火曜 2 限（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス・諸注意 事前学習 経験学修について					
第 2 回－第 3 回	事前学習 発達障害者を取りまく環境について 課題発見			事前学習レポート		
第 4-16 回	経験学修 放課後デイサービス事業所での支援活動					
第 16-17 回	事後学習 1			経験学習レポート		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SVL101-Y53	2.科目名	サービスラーニング A（小学生登校・安心）		3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	司法・犯罪心理学を履修済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	①講義、②フィールドワーク、③実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】子どもを狙った犯罪が日々報道されており、登下校に不安を抱く子ども・保護者は少なくない。本プログラムでは近隣の小学校区内を環境犯罪学・防犯心理学の観点からリサーチし、危険個所を示した安全マップを作成する。更に作成したマップを小学校教員と生徒へ共有し、防犯教室を実施する。 【目的】子どもが被害にあう登下校時の事件・事故に焦点を当て、その対策のための防犯教室実施して被害防止と広報啓発、地域貢献を行うことを目的とする。 ①犯罪発生実態等を新聞や Web にて把握する ②専門的知見に基づき、校区の危険個所を理解する、グループ単位でフィールドワークを行う ③危険個所の説明ポスターを作成する??? ④山の手小学校で子ども安全教室を行う ⑤振り返りの実施 ⑥経験学習発表会への参加					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ・子どもの対する登下校時の犯罪被害の実態を説明することができる ・様々な問題点を発見し、被害者である小学生に対する防犯啓発を行うことができる ・小学生に教室を行うことで、対話の能力を醸成することができる ・地域社会の安全意識の向上に資する社会貢献を担うことができる					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献	小出 修・樋村恭一（2003）．都市の防犯一工学・心理学からのアプローチ 北大路書房． 小俣謙二・島田貴仁（2011）．犯罪と市民の心理学:犯罪リスクに社会はどうかかわるか 北大路書房．					
21.成績評価	①犯罪発生に関する調べ学習レポート 10%					

		②担当地区の危険個所のフィールドワーク・マップの進捗報告 20% ③担当地区の危険個所ポスターの作成・提出 20% ④防犯教室の練習・発表 20% ⑤防犯教室の実施 20% ⑥総括振り返りレポート 10%
22.コメント		小学校において実演を行うことから、真摯に取り組むとともに、ステークホルダー、参加メンバーに迷惑をかけないよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。 ①健康管理に努め、やむを得ない事情がある場合を除いては欠席しないこと。 ②小学生に対する教育者として、適切な服装と言動を心掛けること。 生成 AI 利用に関して、無制限で認める。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1・2回】 10/8(水)4・5限	【スケジュール一覧】 第1・2回 10/8(水)4・5限 第3・4回 11/5(水)4・5限 第5・6回 12/3(水)4・5限 第7・8回 1/7(水)4・5限 第9・10回 2月上旬 第11・12回 2月中旬 第13・14回 2月下旬 第15回 3月下旬 【ガイダンス】 ・シラバス説明 ・サービスマーケティングについての共通認識 ・課題選定理由の説明と理解促進 ・班編制とリーダー・サブリーダーの選出 ・担当地区決め ・その他 【講義】 ・犯罪発生の要因 ・防犯のポイン	パソコン持参
【第3・4回】 11/5(水)4・5限	・担当地区の犯罪等発生状況の報告 ・該当犯罪発生の要因、防犯ポイントの報告	パソコン持参
【第5・6回】 12/3(水)4・5限	・担当地区のフィールドリサーチの進捗報告	パソコン持参
【第7・8回】 1/7(水)4・5限	・危険個所説明ポスターの作成 ・発表報告の準備	パソコン持参
【第9・10回】 2月上旬	・子ども安全教室実施のための事前訓練の実施 ・実演要領の事前訓練（予行練習）	子ども安全教室を実施するための服装

[illegible]

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SWK201-A51	2.科目名	児童家庭福祉（※こども学3年生～）		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	子ども学専攻3年～ 福祉学専攻2年～	
10.取得資格の要件	保育士資格必修		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 児童家庭福祉の意義と歴史の変遷を知ることから、児童福祉の制度および実施体系についても理解する。また、児童の権利に関する条約や少子化・虐待・障害のある子ども・貧困など現代社会における児童家庭福祉の現状と課題についても理解を深める。児童福祉の専門職として子どもたちに向けた「子どもの権利」に関する教材づくりにも取り組み、実践力を養う。 【授業の概要】 テキストを基に児童家庭福祉の意義および制度、歴史の変遷について解説する。また、現代社会におけるさまざまな児童家庭福祉の現状と課題については、具体的な事例を通して学び、グループワークなどを通してどのように対応すべきかを考える。さらに、虐待・障害のある子ども・貧困家庭などについては、自ら調べ、ロールプレイングすることから児童家庭福祉の動向と今後の展望についての考察に取り組めるようにする。「子どもの権利」に関する教材づくりにも取り組み、学びを共有する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷および制度や実施体系について理解するため、自ら努力することができる(学科 DP6)。 2. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解し、それらの課題解決のために自ら考察することができる(学科 DP4)。 3. 子どもの人権擁護について子ども向けの教材づくりに取り組み、専門的知識を福祉や保育現場で活用することができる力を身に付ける(学科 DP5)。 【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	「子どもと家庭の福祉を学ぶ」 松本園子 堀口美智子 森和子 著 ななみ書房 ISBN 978-4-910973-21-0					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。					

	・課題①：児童福祉に関するキーワードについて各自で調べたこと、考えたこと）についてのレポート：5点×11(55%)〔学習目標①に対応〕 ・課題②：「オレンジリボン運動」についてのポスターづくり：ポスター 20点(20%)〔学習目標②に対応〕 ・課題③：「子どもの権利」についての紙芝居づくり：紙芝居 25点(25%)〔学習目標③に対応〕	
22.コメント	児童家庭福祉についての基礎的な専門知識を身に付けるとともにロールプレイなどさまざまな演習を通して支援における実践力も身に付けていただきたいと思います。できれば楽しみながら意欲的に受講していただければと思います。授業についての連絡はWeb Classよりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようお願いいたします。また、担当教員へのご連絡はs-baba@kuins.ac.jpまでお願いします。尚、履修においては子ども学専攻の方は3年～福祉学専攻の方は2年～となりますのでご注意ください。	
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	児童福祉とは何か-児童とは・児童福祉の目的- レポート課題①(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」について各自で調べる	個人作業 ・復習：児童福祉とは何か、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第2章を読んでおく。(60分)
2 回目	児童福祉の課題-子どもの生活環境の変化・心と行動へのケアが必要な子どもたち- レポート課題②(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」を通して子どもの虐待について各自で調べる	個人作業 ・復習：子どもの生活環境の変化と子育てをめぐる問題について、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第3章を読んでおく。(60分)
3 回目	児童福祉の理念-子どもの権利・大人の権利- レポート課題③(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」を通して子どもの虐待について各自でできることを考える	個人作業 ・復習：児童福祉の理念と国際的動向について、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第4章を読んでおく。(60分)
4 回目	児童福祉の歴史-近代以前～児童福祉法制定まで・欧米における児童福祉の歩み- レポート課題④(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」のポスターづくりについて考える	個人作業 ・復習：児童福祉の歴史・欧米における児童福祉の歩みについて、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第5章を読んでおく。(60分)
5 回目	児童福祉および関連施策の体系-家庭の養育環境や子ども自身の課題を基に- レポート課題⑤(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスターづくりの準備をする	個人作業 ・復習：児童福祉の関連施策、児童対策に関わる主な法律など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分)

		・ 予習：テキスト第 6 章を読んでおく。(60 分)
6 回目	児童福祉の法制度-児童福祉法を理解する- レポート課題⑥(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスター作りをする(1)	個人作業 ・ 復習：児童福祉法と児童福祉施設について、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 7 章を読んでおく。(60 分)
7 回目	保育-保育をめぐる現状と課題- レポート課題⑦(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスター作りをする(2)	個人作業 ・ 復習：子ども子育て支援制度など現代の保育をめぐる状況などについて、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 8 章を読んでおく。(60 分)
8 回目	児童養護問題-社会的養護の現状と児童養護の今後の課題- レポート課題⑧(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスター作りをする(3)	個人作業 ・ 復習：児童虐待の背景など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 9 章を読んでおく。(60 分)
9 回目	非行問題-非行の歴史的変遷・非行の背景と法制度- レポート課題⑨(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスターの発表	個人作業 ・ 復習：非行の背景・非行少年への対応など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 10 章を読んでおく。(60 分)
10 回目	障がい児福祉-障害の定義・障害のある子どものニーズ・障害児福祉の制度- レポート課題⑩(次週授業開始前に提出) 紙芝居づくりについて考える	個人作業 ・ 復習：障害のある子どもの保育・教育など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 11 章を読んでおく。(60 分)
11 回目	子どもの遊びの保障-子どもの「遊び」を保障する場と制度- レポート課題⑪(次週授業開始前に提出) 紙芝居づくりの構想を練る	個人作業 ・ 復習：「子どもの権利」としての「遊び」・子どもの「居場所」など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 12 章を読んでおく。(60 分)
12 回目	児童福祉の専門職-行政機関・児童福祉施設などの専門職- 課題⑫紙芝居づくり案の作成	個人作業 ・ 復習：行政機関・児童福祉施設などの専門職などについて、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 13 章を読んでおく。(60 分)
13 回目	世界の子どもたち-子どもの権利について考える(1)-	個人作業

	課題⑬紙芝居づくり(1)	・復習：子どもの権利について考える。(60分) ・予習：子どもの権利について考えたことを発表することができるようにしておく。(60分)
14 回目	世界の子どもたち-子どもの権利について考える(2)- 課題⑭紙芝居づくり(2)	個人作業 ・復習：子どもの権利について考える。(60分) ・予習：子どもの権利について考えたことを発表することができるようにしておく。(60分)
15 回目	総括-児童家庭福祉の現状と課題について各自で考える- 課題⑮紙芝居づくりの発表	個人作業 授業全体を振り返り、習ったことを復習する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SWK202-A51	2.科目名	地域福祉論		3.単位数	4
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科 福祉学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 地域共生社会の実現に向けて、住民自身が福祉の主体となり、住み慣れた地域でどのようにすれば、より幸せに暮らしていくことができるのか、地域での福祉の現状やあり方やその援助方法について学びます。 【概要】 地域には、高齢者、障害者、児童、といった多様な人々が暮らしています。「社会的孤立」が叫ばれる今、共に手を取り合い、タテ割りではなく、領域横断的・包括的に考えていくことで、「地域共生社会の実現」が必要です。本科目では特に「災害時の支援」をキーワードに、様々な経験科目や実践と結びつけながら、地域社会の安全安心を守るために、どうあるべきか、住民主体で何ができるのか考えることをとおして地域福祉を学んでいきます。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は、学習目標は DP の(1)自律性、(2)社会貢献性、(3)多様性理解、(5)コミュニケーションスキル の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①現代の地域生活上の福祉課題と、地域共生社会の実現に向けた支援体制について説明できる。 ②地域福祉の基本的な考え方、理念、歴史を説明できる ③地域福祉の多様な主体、推進主体について説明できる ④地域を基盤としたソーシャルワークの展開について説明できる					
19.教科書・教材	社会福祉士養成講座（2021）『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版					
20.参考文献	相澤譲治・津田耕一・橋本有理子（2021）『新版 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔基礎編〕』みらい 市川一宏・大橋賢作・牧里每治（2013）『地域福祉の理論と方法 第2版』ミネルヴァ書房 上野谷加代子・松端克史・山縣文治編（2012）『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 岩間伸之・原田正樹著『地域福祉援助をつかむ』有斐閣 牧里每治・川島ゆり子・加山弾編著（2017）『地域再生と地域福祉－機能と構造のクロスオーバーを求めて－』相川書房 高森 敬久・加納恵子・高田 真治・平野 隆之著（2003）『地域福祉援					
21.成績評価	用語確認テスト（随時実施）20 点 ワークシート 20 点 プレゼンテーション 20 点 総括レポート 40 点					
22.コメント	講義形式を基本としますが、DVD 等の活用、グループワーク演習、現場のゲスト講師をお招きする等し、できるだけ実際の実践や事例を示しながら、実態が理解できるように努めていきたいと思っておりますので、主体的な参加が望まれます。					

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
9/26 第1回 第2回	1. オリエンテーション、授業のルールの確認 地域福祉とは ○イメージを広げる「私が出会った地域福祉の場面」 2. コミュニティ、つながり、助け合い について考える ○私がイメージするコミュニティとは ○いろいろなコミュニティ	○ワークシート課題の検討/記入 (90 分)
10/2 第3回 第4回	3. 社会的排除と社会的孤立について学ぶ 引きこもり、ホームレス支援等の事例から学ぶ ○私達の身近に社会的排除はあるか ○孤立と孤独 ○「孤立」でもいいじゃない? ○孤立と自立 4. 自分たちの周りにある社会的孤立の事例について考える ○新聞記事等で調べる	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分)
10/17 第5回 第6回	5. 私たちの周りにある福祉課題とは ○福祉課題を1つ決めて、掘り下げてみる 6. 地域で活躍する人々と組織（地域福祉の主体）① ○民生委員、児童委員、保護司 ○NPO、ボランティア ○当事者組織	○ワークシートの検討・記入 (90 分) 各自 PC 持参
10/24 第7回 第8回	7. 地域で活躍する人々と組織（地域福祉の主体）② ○NPO,ボランティア 市民活動、社会的起業など多様なセクター ○地縁組織とアソシエイト型組織 8. 社会福祉協議会 ○社協の法的位置づけ、歴史 ○社協の特徴、意義と役割 社会福祉法人 ○社会福祉法人の歴史、位置づけ ○今日求められる地域での役割	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分) 各自 PC 持参 (社協について調べる)
10/31 第9回 第10回	9. 小テスト① 10. 地域福祉の実際① ○ゲスト予定	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分) ゲスト予定 (日程変更の可能性あり。調整の上後日連絡)
11/7 第11回 第12回	11. 地域福祉の実際② 12. 尼崎市内、自分の地域にある地域福祉の主体 市内、地元地域の NPO 等の組織について調べ、まとめる	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分)

11/14 第 13 回 第 14 回	13. 地域 f 福祉の発展過程① ○イギリス・アメリカ 14. 地域福祉の発展過程② ○日本	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） 各自 PC 持参
11/21 第 15 回 第 16 回	1 5. 災害と地域福祉① ○HUG（避難所運営ゲーム）から見えること 1 6. 災害と地域福祉② ○HUG（避難所運営ゲーム）から見えること	○ワークシート課題の検討・記入（90 分）
11/28 第 17 回 第 18 回	1 7. 小テスト② 1 8. 災害と地域福祉③ ○真備町の事例から考える	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） 日程は別途メンバーと相談の上実施
12/5 第 19 回 第 20 回	1 9. 地域福祉の基本的な視点 2 0. コミュニティ・ソーシャルワーク① ○展開過程の全体像 ○ニーズ把握と社会資源（地域アセスメント） ※ オンデマンド（1/27 に充当）と最終課題レポート についての説明	○ワークシート課題の検討・記入（90 分）
12/12 第 21 回 第 22 回	2 1. コミュニティ・ソーシャルワーク② ○コミュニティソーシャルワークの実際 住民の主体形成・社会資源開発など 2 2. 災害と地域福祉④ ○災害ボランティアセンター	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） PC 持参
12/19 第 23 回 第 24 回	2 3. 災害と地域福祉⑤ ○災害時の地域福祉の課題とその支援 2 4. 地域福祉の政策動向	○ワークシート課題の検討・記入（90 分）
1/16 第 25 回 第 26 回	2 5. 小テスト③ 地域福祉の支援プランを考える① 2 6. 地域福祉の支援プランを考える②	PC 持参
1/23 第 27 回 第 28 回	2 7. 地域福祉の支援プランを考える③ 2 8. 地域福祉の支援プランを考える④ ○大学周辺地域における地域福祉の支援プラン の発表	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） PC 持参
1/30 第 29 回 第 30 回	2 9. 【オンデマンド】 地域アセスメント① ○ 大学周辺へのフィールドワーク 3 0. 【オンデマンド】 地域アセスメント② ○ 尼崎市内の状況をネットを活用して収集する	PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SWK203-A51	2.科目名	公的扶助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	道中 隆					
5.授業科目の区分	展開科目 保健と福祉、行政分野 における実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義を中心に社会事象の問題や課題を グループディスカッションし、学生の意見、 プレゼン等アクティブラーニングを行う。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 世界同時不況以降の経済、雇用情勢の悪化により生活保護(公的扶助)の様相は一変した。雇用のピックアップや保険原理を中心とする年金・医療・介護等のセーフティネットのほころびが顕在化している。また、終身雇用制や年功序列の賃金体系は崩壊し、働かせ改革から働き方改革に大きく振り子が動いている。コロナ禍以降においても多様化した柔軟型雇用、非正規雇用や派遣労働が推し進められ「働き方」「働かせ方」のあり方が問われている。 日本国憲法第 25 に基づく生存権の保障は国の責務であり、具体的に生活保護制度や生活困窮者制度が救済的セーフティネットとして構築されている。要援護者への支援を行うソーシャルワーカーとして、これらの制度の専門的知識を学び理解することを目的とする。 【概要】 貧困の格差が拡大する中、働いても生活が困難なボーダーライン層やワーキングプアが最後のセーフティネットである生活保護に参入している。保護受給者が増加している。救貧機能の二次的セーフティネットの役割を生活保護が担っている。また、生活保護のしくみや自立支援制度を学習し、自治体財政、自立支援のあり方、保護の実地体制などについて理解できるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の (2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性)、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標(=身につくスキル)は、次の通りです。 ①社会福祉の専門職として、福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 ②社会福祉の支援者として、福祉現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 ?ソーシャルワーカーとして、関係機関連携を図り福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができる。 ④専門分野について修得した知識・技能を問題解決に向けて活用することができる。					
19.教科書・教材	①最新社会福祉士養成講座(2021) 『4 貧困に対する支援』,中央法規 ②道中隆(2016) 『第 2 版 生活保護の面接必携—公的扶助ケースワーク実践 I』 Practical Social Work Series, ミネルヴァ書房					

20.参考文献	・道中隆(2012)『生活保護と日本型ワーキングプア—貧困の固定化と世代間継承』 ミネルヴァ書房 ・道中隆(2012)『生活保護のスーパービジョナー公的扶助ケースワーク実践Ⅱ』, ミネルヴァ書房 ・道中隆(2016)『第2版 貧困の世代間継承—社会的不利益の連鎖を断つ』 晃洋書房 ・生活保護制度研究会(2022)『令和4年度版 保護のてびき』 第一法規	
21.成績評価	評価、評定については、下記の項目①②?の提出の要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出される必要があります。その上で④を加えた①～④の積算方式によって総括評価を行います。 ①小課題・ミニコメント(5%×4回)= 20% 【①②?に対応】 ②ワーク等ワークシート(5%×4回)= 20% 【②?に対応】 ③レポート= 20% 【?④に対応】 ④総括試験= 40% 【?④に対応】	
22.コメント	■事例や事象等についての研究・考察4回(うち2回はグループで検討) ・アサイメントを提出した翌週の授業で意見を発表。ワークシートを提出する ・検討・考察時は他の人と積極的に意見交換する。ワークシートは各個人がまとめる ■レポート課題: 適切な時期に課題を指示します(3,000字)	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室で受講生からの質問等への対応を行います。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回 10/01】	オリエンテーション (講義の概要、授業の進め方とテキストの使い方など) 第1章 公的扶助の概念 概念と範囲,意義と役割 生活困窮世帯を取り巻く背景と現在の動向	★シラバスと教科書★を必携 ・次回までに小田原市福祉事務所の生活保護CWジャンパー事件を調べてくる(2017.1 新聞等掲載)。
【第2回 10/08】	第2章 貧困の概念と生活困窮者の生活実態・・・① 教科書 pp18-40 貧困概念、生活実態、保護制度の概要、取り巻く環境 貧困の概念、貧困とは何か 小田原市福祉事務所考えてみよう!『DVD 保護CWジャンパー事件』 《小課題・ミニコメントⅠ》	○保護の補足性について調べてくる(60分)。 小野市福祉給付金監視条例について調べてくる(60分)。 《小課題・ミニコメントⅠ》
【第3回 10/15】	第2章 窓口面接の実際・・・・・・・・・・② 教科書 pp.14-22 DVD 面接相談員の基本的態度(ここに寄り添う面接) 貧困の要因と低所得者問題 『小野市福祉給付金監視条例』をめぐる論点整理 ワーク [ワーク⑥] 事例について研究・考察しグループで意見交換、グループで発表	解説による重要事項の整理 ・次回 ホームレスの実態について調べてくる ・次回 扶養義務について調べてくる
【第4回 10/22】	第3章 貧困の歴史・・・・・・・・・・①教科書 pp.42-64 第8章 ホームレスの人の処遇の実際・・・・・・・・②教科書 pp.168-188 [ワーク②] グループで意見交換、グループで発表する	○夫婦 子ども2人(35,30,9,4)の4人世帯の月額最低生活費を算定する。ただし1級地の1とする(60分)。

	効果的な面接の方法 DVD 扶養義務をめぐる課題	
【第 5 回 10/29】	第 4 章 生活保護制度－その 1 第 1 節 生活保護制度・・・①教科書 pp.65-109 第 2 節 保護の動向・・・①教科書 pp.110-122 生活保護法の構成 福祉事務所の体制 福祉事務所の成立と展開、社会福祉主事 ◎第 4・5 回授業の学修をもとに事例検討 ○演習 最低生活費の算定方法 ○NHK 『保護基準の引き下げ』論説 第 1 章 生活保護制度の概要 第 2 節 相談窓口での基本的態度・・・②教科書 pp.7-9	各自がワークシート②にまとめて次回提出 (120 分)
【第 6 回 11/05】	第 4 章 生活保護制度のしくみ－その II 生活保護法の目的と原理、原則・・・①教科書 pp.62-70 扶養義務(法第 4 条保護の補足性)・・・②教科書 pp.4-9 解説による重要事項の整理 グループワーク②の発表、ワークシート提出 [ワーク③] 事例について研究・考察しグループで意見交換し発表 《小課題・ミニコメント II》	○これまでの授業の復習をしておくこと(180 分) 《小課題・ミニコメント》
【第 7 回 11/12】	第 5 章 生活保護制度のしくみ－その III 保護の種類と内容および方法・・・①教科書 pp.71-84 保護施設・・・①教科書 pp.85-87 第 2 章窓口の実際 第 2 節面接相談と保護の申請から決定まで・・・②教科書 pp.71-84 解説による重要事項の整理 生活保護制度の広報 ワーク プレゼンの基礎知識① ワーク課題 3.4.5 PW 作成-次回提出	○これまでの授業の復習をしておくこと(180 分) ・被保護者の権利および義務について調べてくる
【第 8 回 11/19】	第 5 章 生活保護制度のしくみ－その IV 被保護者の権利および義務・・・①教科書 pp.92-94 不正・不適正対策・・・①教科書 pp.94-96 第 3 章 保護受給母子世帯の社会的不利益・・・参考書 pp.30-55 解説による重要事項の整理 [ワーク④] 実践的面接相談 1-10 事例・・・②教	各自がワークシート④にまとめて翌週提出 (180 分) 《小課題・ミニコメント III》

	科書 pp.2-13 ◎第 7・8 回授業の学修をもとに事例検討 《小課題・ミニコメントⅢ》	
【第 9 回 11/26】	第 5 章 最低生活保障水準と生活保護基準・・・①教科書 pp.102-118 最低生活保障水準の考え方 生活保護基準の考え方 生活保護基準額の実際・・・・・・②教科書 pp.314-326 第 6 章 生活保護の動向・・・・・・①教科書 pp.124-149 被保護人員および被保護世帯数 保護の開始・廃止の動向 医療扶助・介護扶助の動向	○次回予習として、教科書をよく読んでわからないところや疑問点をチェック(120 分)
【第 10 回 12/03】	○保護の実施機関(福祉事務所) 社会福祉法、生活保護法 第 7 章 低所得者対策の概要・・・・・・①教科書 pp.150-183 生活困窮者自立支援法 第 12 章 自立支援プログラムの実際・・・・・・②教科書 pp.240-249 第 5 章 ホームレスの就労自立支援・・・・・・②教科書 pp.77-109 低所得者、ホームレス、貧困層への自立支援 生活福祉資金貸付制度、住宅給付金制度、ワンストップサービス 解説による重要事項の整理 *グループワーク④の発表、ワークシート提	○これまでの授業の復習をしておくこと。(180 分)
【第 11 回 12/10】	第 8 章 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体 国・都道府県・市町村の役割・・・・①教科書 pp.184-191 福祉事務所の役割・・・・・・①教科書 pp.192-195 福祉事務所専門職の役割・・・・・・①教科書 pp.196-197 解説による重要事項の整理 《小課題・ミニコメントⅥ》	○これまでの授業の復習をしておくこと。(180 分) 《小課題・ミニコメントⅥ》
【第 12 回 12/17】	PW 作成ー生活保護制度のしくみ①ー 第 9 章 貧困・低所得者に対する相談援助活動・・①教科書 pp.189-213 第 10 章 生活保護における自立支援・・・・・・①教科書 pp.228-246 ■■■■最終レポート課題 ■■■■ 適切な時期に課題を指示します(3,000 字)	■■■■レポート提出■■■■
【第 13 回 1/07】	第 10 章 生活保護における自立支援・・・・・・①教科書 pp.215-234 第 6 章 生活保護等の不正受給の現状と課題・・・・参考書 pp.110-124	パソコン持参

	第 7 章 不正受給の社会経済的影響・・・・・・参考書 pp.125-131 生活保護の行財政と制度改革 自治体の財政と今後の課題 [ワーク⑤] 事例について研究・考察し、意見交換	
【第 14 回 1/14】	第 8 章 生活保護制度改革の視点と課題・・・・・・ 参考書 pp.132-139 制度改革の視点 * ワークシート提出 ■■■総括試験■■■	■■■総括試験■■■ 実施
【第 15 回 1/21】	全体のまとめ ふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SWK204-A51	2.科目名	保健医療サービス ※3 年生～		3.単位数	2
4.授業担当教員	木下隆志					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会福祉士資格の基礎科目である。 医療ソーシャルワーカーとして、医療分野の他の専門職と連携し、急性期、回復期、慢性期における治療から派生する心理的・社会的な課題と向き合う専門職の業務について学ぶ。具体的には、治療中の仕事や子育てなどに関する生活課題を社会福祉学の視点で支援する方法である。 授業では数回、障害者本人とご家族の参加により生活の中の医療福祉について検討する機会を設ける。					
18.学習目標と DPとの関連	学修目標 ・医療保険や介護保険の制度を理解できるようになり、治療連携パスの理解ができるようになる。 ・障害者とのセッションから在宅での医療や福祉制度の活用について具体的な理解を深められる。 ・専門職連携、当事者同士のピア支援を学ぶことにより多様な課題への対応力が身につく。					
19.教科書・教材	最新・社会福祉士養成講座 保健医療と福祉 中央法規					
20.参考文献						
21.成績評価	ワークシート 2 回 30%、グループ討議・発表 20%、最終レポート課題 50%、 評価は各グループリックを使用します。					
22.コメント	これからの社会福祉について、率直な意見交換ができることを楽しみにしています。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション：授業の目標、内容、評価方法、 留意点など 保健医療の課題を持つ人の理解①：教科書 pp.1-18			○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の 準備		
2	保健医療の課題を持つ人の理解②：教科書 pp.19-29 患者の権利について理解を深める 教科書 pp.20-38			○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の 準備		
3	医療倫理①：医療倫理と意思決定をめぐる課題 教科書 pp.34-48			○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の 準備		
4	医療倫理②：医療倫理と意思決定をめぐる課題 教科書 pp.34-48 グループセッション 終末期医療と介護施設での看取 りについて考える			○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の 準備 WS 1 提出		
5	保健医療の動向① 疾病構造の変化と地域医療構想と 地域包括ケアシステムの検討 教科書 pp.52-62			○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の 準備		
6	保健医療の動向② 保健医療における課題			○復習：今回の復習およびノート整理		

	教科書 pp.74-82	●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備
7	保健医療における政策制度の理解① 教科書 pp.86-100	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備
8	保健医療における政策制度の理解② 教科書 pp.105-121 グループセッション 外部・内部環境分析についてのフレーム知る。	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備 ★WS 2 提出
9	保健医療の専門職との連携方法と基礎知識 1 教科書 pp.121-141	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備
10	保健医療の専門職との連携方法と基礎知識 2 部門マネジメントのあり方を知る 教科書 pp.150-159	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備
11	グループセッション 支援の実際：業務指針や歴史的背景を知る。 自立支援とは、家族支援とは。自立と支援について検討した内容をもとに意見交換をする。	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備
12	支援の実際 回復期リハ、在宅連携支援について学ぶ 教科書事例 pp.175-188	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備 ★WS 3 提出
13	支援の実際 終末期医療、救急医療、災害時医療について学ぶ 教科書事例 pp.194-200	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備
14	支援の実際 周産期、認知症患者への支援について学ぶ 教科書事例 pp.205-211	○復習：今回の復習およびノート整理 ●予習：WS 検討とグループセッション課題の準備
15	まとめ 医療介護における働き方改革 保健医療サービスに求められる経営システムと今後のヘルスケア事業	○復習：今回の復習およびノート整理 ★最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	SWK206-Y51	2.科目名	福祉社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的は福祉について社会的に捉えることにある。福祉は高齢者のためのもの、といった理解があるかもしれないが、誰にとっても必要な事柄である。 ではなぜ福祉が必要なのか。それは誰もが支えなくてはならないものなのか。社会の基盤というのはいったいどういうことなのか。 そこで本授業では福祉について受講者にとって身近な問題から考える。そして社会における福祉の意義や意味について議論する。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。学修目標は以下の通りである。 (1) 福祉の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） (2) 福祉における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） (3) 福祉の社会課題を社会的に説明することができる（問題発見・解決力）					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適時提示する 武川正吾他編 2020『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房					
21.成績評価	(1) ディスカッションペーパー（毎回）・・・40% (2) 課題レポート・・・60%					
22.コメント	福祉について考えることは私たちにとって遠く離れたことのように思えます。ですが私たちの日常に溢れていることがらです。これらをみなで議論することが本授業で取り組むことです。					
23.オフィスアワー	後日追記します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	福祉とはなにか 福祉と社会の関係について学ぶ			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（1）を記入する。		
第 2 回	福祉と社会を考える 福祉に関わる社会的組織、人材を知る			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 3 回	福祉と日本社会（1） 戦後の福祉政策までを概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 4 回	福祉と日本社会（2） 現在の福祉の政治状況について概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（2）を記入する。		
第 5 回	福祉は必要か？（1） 福祉に対する批判・異議申し立てについて考える			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 6 回	福祉は必要か？（2） 将来の福祉について考える。			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 7 回	福祉と社会理論（1） シャドウ・ワーク、福祉レジーム論、ケア			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（3）を記入する。		
第 8 回	福祉と社会理論（2） シティズンシップと外国人			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		

第 9 回	福祉と社会理論（３） 障害者と社会モデル	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（４）を記入する。
第 10 回	社会福祉と当事者（１） 当事者に寄り添った福祉は可能か？	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	社会福祉と当事者（２） 当事者に寄り添った福祉団体。	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	福祉の実際（１） 地域福祉と地域包括ケア（高齢者福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（５）を記入する。
第 13 回	福祉の実際（２） 地域福祉と生活保護（社会保障）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	福祉の実際（３） 地域と児童福祉（子どもの福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。
第 15 回	まとめ－社会と福祉の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。

1.授業コード (ナンバリング)	SWK304-A51	2.科目名	更生保護制度		3.単位数	2
4.授業担当教員	川端英樹					
5.授業科目の区分	展開科目／更生保護行政分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験及び精神保健福祉士国家試験の受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】社会福祉の専門職として活動する際に必要な更生保護制度についての知識を習得するとともに、実際に展開されている更生保護の諸活動の要点・特色についても理解することを目的とします。 【概要】近年、更生保護制度の下で活動する社会福祉士や精神保健福祉士が増えており、また、社会福祉従事者と保護観察官や保護司などの更生保護従事者とが連携して活動する機会も増えています。 一方、更生保護制度は、過去に非行があった少年や罪を犯した成人が、立ち直って、社会の一員として復帰することを助ける制度であり、安全・安心の社会づくりの一翼を担うものです。 この科目では、実際に展開されている更生保護の諸活動に即しながら、社会福祉士の資格を取得しようとする学生を中心としつつも広く福祉学専攻の学生に対して、教養として知っておくべき更生保護の基礎について解説します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）の学修に関連しています。即ち、社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができるようになるため、近年、社会福祉との関係が深まっている更生保護について、必要な知識が得られます。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①社会福祉における「安全・安心の社会づくり」の重要性について説明できるようになる。 ②「安全・安心の社会づくり」における更生保護の役割と意義について説明できるようになる。 ③社会福祉従事者として、保護観察官や保護司などの更生保護従事者と連携して活動できるようになる。 ④社会福祉士の国家試験に合格するために、有効な知識が得られる。 ⑤保護観察官、少年院教官、少年鑑別所技官又は家庭裁判所調査官になる上で、有効な知識が得られる。					
19.教科書・教材	新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 15「刑事司法と福祉」 岩崎晋也・白澤政和・和気純子 監修 ミネルヴァ書房					
20.参考文献	1 令和 6 年版 犯罪白書 法務省 法務総合研究所 編 2 適宜、資料を配付します。 3 関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	レポート(中間) 40% 総括試験(期末) 60%					

22.コメント	「更生保護制度」は社会福祉士国家試験及び精神保健福祉士国家試験の基礎科目である「刑事司法と福祉」に対応しており、単位を取らないと国家試験は受けられません。したがって、在学中の国家試験合格を目指す人のために、過去問についても、積極的に授業の中で取り上げて解説します。また、社会福祉士でなくても社会福祉の仕事をする上で、更生保護について予備知識を持ち理解を深めておくことはプラスになります。さらに、社会福祉従事者でなくても「安全・安心の社会」で生活するために、社会人の教養として更生保護について知っておくことはプラスになります。 生成 AI 利用:条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定する。	
23.オフィスアワー	授業の前後に、教室や非常勤講師控室で、受講生からの質問等に対応します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 1 法務省企画による DVD ビデオ(30 分)を鑑賞し「立ち直ること、支えること、出会うこと」について、理解を深める。 2 福祉学専攻の学生が更生保護制度を学ぶ意義(社会人として) 安全・安心の社会とは 犯罪のない社会とは 再犯・再非行防止とは	教材、配付資料などによる予習、復習
第 2 回	更生保護とは 1 法務省企画の DVD ビデオ(22 分)を鑑賞し、刑事司法と更生保護の概略をイメージする。 2 福祉学専攻の学生が更生保護制度を学ぶ意義(社会福祉従事者として) 社会福祉と更生保護はどういう関係にあるのか (社会福祉士として) 社会福祉士の新しい活躍の場～保護観察所、地域生活定着支援センター、刑務所、少年院、検察庁など 3 法務省専門職員(人間科学)採用試験について 4 社会福祉士国家試験について	教材、配付資料などによる予習、復習
第 3 回	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境	教材、配付資料などによる予習、復習
第 4 回	刑事司法	教材、配付資料などによる予習、復習
第 5 回	少年司法	教材、配付資料などによる予習、復習
第 6 回	1 刑事司法と福祉 2 更生保護制度の概要 3 恩赦	教材、配付資料などによる予習、復習
第 7 回	1 生活環境の調整 2 仮釈放等	教材、配付資料などによる予習、復習
第 8 回	更生保護施設見学 更生保護施設 和衷会(大阪市北区) 案内と解説 施設長 國府 実 氏	教材、配付資料などによる予習、復習 中間期レポート作成 生成 AI 利用:利用不可
第 9 回	保護観察	教材、配付資料などによる予習、復習
第 10 回	1 更生緊急保護	教材、配付資料などによる予習、復習

	2 犯罪予防活動 3 事例研究	
第 11 回	1 更生保護の担い手 2 関係機関・団体	教材、配付資料などによる予習、復習
第 12 回	医療観察制度	中間期レポート提出・締切り 教材、配付資料などによる予習、復習
第 13 回	犯罪被害者支援	教材、配付資料などによる予習、復習
第 14 回	1 刑事司法における福祉の役割と今後の展望 2 社会福祉士国家試験の過去問の解説	教材、配付資料などによる予習、復習
第 15 回	注意事項説明、用紙配布等 10 分 総括試験 45 分 答案用紙回収 5 分 解説と振り返り 30 分	教材、配付資料などによる予習、復習 生成 AI 利用:利用不可。また、スマホ・タブレット・パソコン等は、電源を切った上で、机上に置かないこと。(ただし、答案用紙回収終了後についてのみ使用可。)

1.授業コード (ナンバリング)	SWK305-A51	2.科目名	スクールソーシャルワーク論		3.単位数	2
4.授業担当教員	西野緑					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年、4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限	20 人					
17.授業の目的と概要	【目的】 この講義では、スクールソーシャルワークを学校で実践するために、必要な知識、理論、価値を身につけることを目的とする。 【概要】 具体的には、現在の子どもや学校の状況およびスクールソーシャルワークで扱う具体的な事象（いじめ、不登校、虐待、非行、発達障害、学級崩壊等）について取りあげ、支援をするにあたって、その背景まで多面的に考察・分析し、子どもの最善の利益を念頭に置きながら、チーム学校としてできること、チーム学校の一員としてスクールソーシャルワーカーができることを考える。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力の学修に関連しています。本科目の学習目標は次の通りです。 ① 小中学生をめぐる子どもや家庭や学校の状況を知り、説明できる。 ② 学校の現状と課題、チーム学校についての理解が深まり、説明できる。 ③ 学校で起こる生徒指導上の課題（不登校、虐待、DV、発達障害、貧困やひとり親、非行、問題行動・いじめ、学級崩壊）について、現状と課題を列挙できる。 ④ ③の現状や課題と支援方法を関連づけることができる。 ⑤ スクールソーシャルワークとは何かを理解し、学校におけるソーシャルワーカーの役割を説明できる。					
19.教科書・教材	大塚美和子・西野緑・峯本耕治編（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』,明石書店.					
20.参考文献	西野緑（2018）『子ども虐待とスクールソーシャルワーク チーム学校を基盤とする「育む環境」の創造』, 明石書店. 川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』, 中央法規 山下英三郎・内田宏明・牧野晶哲編（2012）『新・スクールソーシャルワーク論』, 学苑社.					
21.成績評価	①授業中の発言や質問 5% ②授業のまとめ＝15%（当日の学びのポイントをまとめる） ③中間レポート＝20% ④総括試験＝60%					
22.コメント	この授業は、スクールソーシャルワーク演習、スクールソーシャルワーク実習指導、スクールソーシャルワーク実習受講のための基礎となる必須科目である。講義中心ではあるが、グループディスカッション等を取り入れる。実践をふまえた学校現場の最新の状況を伝えるので、子どもをめぐる現在の状況とその背景、学校現場の実際を知ることができる。授業では、参加と尊重を基本的ルールとするため、受講者には積極的な参加（発表、グループワークへの積極的参加等）と尊重（人の発言を傾聴すること）を求める。					

23.オフィスアワー		授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応をする。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	④グループワーク、⑤プレゼンテーション ・自己紹介と授業の概要。 ・学校における子どもの状況や子どもをめぐる家庭や学校の状況を知る。	授業の復習：学校における子どもの状況や家庭、学校の状況を聞いて、次回のグループディスカッションで自分の考えが発表できるようにまとめておく。
第 2 回	なぜ、スクールソーシャルワークが必要なのか？ ④グループワーク、⑤プレゼンテーション ・スクールソーシャルワーク導入の経緯 ・なぜ今、学校でソーシャルワークが求められているのかを学ぶ。 ・なぜ、チーム学校なのか？	宿題：現在の学校の状況と自分自身の小中学校時代を振り返り、何が変わったのか、変化したとすればそれはなぜなのか、授業のまとめを行ない、次回発表できるようにする。
第 3 回	スクールソーシャルワーク実践の実際 ③ディスカッション ・DVD を観賞し、ケース会議の雰囲気をつかむ。 ・スクールソーシャルワーカーの活動を概観する。 ・スクールソーシャルワークの役割を理解する。 ・スクールソーシャルワークに必須の価値や理念について学ぶ。	宿題：DVD の感想を書いて持ってくる。
第 4 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助）①不登校 ④グループワーク ・不登校について理解し、スクールソーシャルワークの不登校支援について学ぶ。	宿題：不登校支援について、考えたことや感じたことを書いて持ってくる。
第 5 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助）②虐待 ④グループワーク ・子ども虐待について理解し、スクールソーシャルワークの虐待問題への介入について学ぶ。	宿題：虐待に関する新聞記事の中で、関心を持った記事を持参し、概要・背景・選んだ理由等を説明できるようにする。
第 6 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助）③DV 家庭 ③ディスカッション/ディベート ・DV が子どもに与える影響と支援について学ぶ。	DV と子ども虐待の関連について調べてくる。
第 7 回	貧困とひとり親 ④グループワーク ・ひとり親家庭や貧困家庭について理解し、家族支援の枠組みについて学ぶ。	子どもの貧困が学校生活に与える具体的な影響について、調べてくる。
第 8 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助）④発達障害 ・発達障害について理解し、スクールソーシャルワ	復習：授業内の範囲の教科書を読んでおく。

	クとしての支援について学ぶ。 ③ディスカッション	
第 9 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル 個別援助）⑤問題行動 ④グループワーク ・問題行動について理解し、スクールソーシャルワーク の問題行動の支援について学ぶ。	復習：授業内の範囲の教科書を読んでおく。
第 10 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル 個別援助）⑦非行 ・非行について理解し、スクールソーシャルワークの 非行の支援について学ぶ。	復習：授業内の範囲の教科書を読んでおく。
第 11 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル 集団援助）①いじめ ③ディスカッション いじめを法律から理解する。	いじめ防止対策推進法について、調べてく る。
第 12 回	いじめ② 修復的対話 ディスカッション DVD を見て、議論する。	復習：修復的対話について調べる
第 13 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル 集団援助）②学級崩壊 ④ぐるーぷワーク ・学級崩壊について理解し、集団援助としての支援方 法について学ぶ。 ○グループワーク②◎グループ内で授業内の議論のま とめを行ない、次回発表できるようにする。	グループワーク②のワークシートを持参す る。
第 14 回	スクールソーシャルワークについてのまとめ ④グループワーク ・SSW と SC の違いについて ・SSW の機能 ・スクールソーシャルワークのコンサルテーションと スーパービジョンについて学ぶ	総括試験の準備をする
第 15 回	総括試験とまとめ	総括試験の振り返りをする。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS101-A51	2.科目名	社会福祉概論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会福祉を構成する様々な要素を概観していきます。学びの範囲は多岐に渡りますが、専門的な関心につなげていけるよう、福祉の思想や哲学をもとに、実践的な理論と具体的な社会問題との接続を試みます。また、well-being と社会福祉の関連について、性的マイノリティや性の多様性理解の観点から当事者との対話を通して福祉ニーズの我がこと化を図ります。あわせて、日本の社会福祉政策の特徴や今日的な課題について、国際社会の動きを追いながら諸外国との比較によって理解を進めていきます。					
18.学習目標と DP との関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、社会的貢献性、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①福祉的な文脈で社会現象を説明することが出来る。 ②持続可能なくらしのための各種制度がわかる。 ③セーフティネットの仕組みについて説明することができる。					
19.教科書・教材	適宜提示します。					
20.参考文献	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「社会福祉の原理と政策」中央法規 ISBN：978-4-8058-8234-4					
21.成績評価	■授業ごとのふりかえりとクイズ：30%（学習目標①②） ■最終レポート：40%（学習目標①②③） ■学習目標のふりかえり：30%（学習目標①②③） ■授業以外の貢献活動：加点 10%（福祉のボランティアや福祉のアルバイトを通した体験レポート）					
22.コメント	毎回パソコンを持参してください。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					
23.オフィスアワー	問い合わせには随時対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 10/2	・オリエンテーション ・社会福祉の原理－その意味と展開			【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分）		
【第 2 回】 10/9	社会福祉の歴史 ・社会福祉の歴史を学ぶ視点 ・欧米の社会福祉の歴史的展開 ・日本の社会福祉の歴史的展開			【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり①		
【第 3 回】	社会福祉の思想・哲学、理論			【今回の復習】		

10/16	・ 社会福祉の思想・哲学 ・ 社会福祉の理論 ・ 社会福祉の論点 ・ 社会福祉の対象とニーズ	授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり②
【第4回】 10/23	社会問題と社会構造 ・ 現代における社会問題 ・ 社会問題の構造的背景	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり③
【第5回】 10/30	福祉政策の基本的な視点 ・ 福祉政策とは何か ・ 福祉政策において重要な概念・理念	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり④
【第6回】 11/6	福祉政策におけるニーズと資源 ・ ニーズ（必要） ・ 資源（リソース）	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり⑤
【第7回】 11/13	福祉政策の構成要素と過程 ・ 福祉政策の構成要素 ・ 福祉政策の過程と評価	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり⑥
【第8回】 11/20	福祉政策の動向と課題 ・ 福祉政策と包括的支援の現状 ・ 福祉政策と包括的支援の課題	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり⑦
【第9回】 11/27	well-being と社会福祉の関連について、性的マイノリティや性の多様性理解の観点から当事者との対話を通して福祉ニーズの我がこと化を図る。	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり⑧
【第10回】 12/4	福祉政策と関連施策 ・ 保健医療政策 ・ 教育政策 ・ 住宅政策 ・ 労働政策 ・ 災害政策	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90分） 【今回の予習】 ・ キーワードしらべ（90分） 【次回までの提出物】 ・ ふりかえり⑨

【第 11 回】 12/11	福祉サービスの供給と利用の過程 ・福祉供給部門 ・福祉供給過程 ・福祉利用過程	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑩
【第 12 回】 12/18	福祉政策の国際比較① ・国際比較の視点と方法 ・福祉政策の動向：欧米	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑪
【第 13 回】 1/8	福祉政策の国際比較② ・福祉政策の動向：東アジア ・福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑫
【第 14 回】 1/15	これからの社会福祉－出発点・到達点・展望	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑬
【第 15 回】 1/22	学びのまとめ ・福祉的な文脈で社会現象を説明することが出来る。 ・持続可能なくらしのための各種制度がわかる。 ・セーフティネットの仕組みについて説明することができる。	【提出物】 ・最終レポート ・学習目標のふりかえり ・webclass へ投稿 【今回の復習】 ・学びのまとめをする（180 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SWS104-Y51	2.科目名	産業・組織心理学 (2023～2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解し、働く人々のキャリアや生活をより良くする視点を獲得することを目的とする。 【概要】 産業・組織心理学は、人が働く上で経験する心理および行動の様相について心理学的視点から明らかにしようとする学問である。授業においては、産業・組織における人々の心理および行動、キャリアについて受講者自らが考える時間を設ける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 課題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な課題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	基礎から学ぶ産業・組織心理学 幸田 達郎 (著) 勁草書房 2020 産業・組織心理学を学ぶー心理職のためのエッセンシャルズ 金井 篤子 (編著) 北大路書房 2019 よくわかる産業・組織心理学 山口裕幸・金井篤子 (編) ミネルヴァ書房 2007					
21.成績評価	1. 各回の 1minutepaper : 2%×14 回=28% (学習目標の②③④に対応) 2. グループワーク時の相互評価 : 6%×4 回=24% (学習目標の①②③④に対応) 3. 到達度確認テスト : 48%×1 回=48% (学習目標の①②③④に対応)					
22.コメント	※授業までにレジュメ(ppt の穴抜き)を webclass に用意します。 必要な人は、レジュメを授業前に印刷しておいてください。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める (得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要) ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてののみ認める					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス：産業・組織心理学とは何か ・産業・組織心理学の歴史と研究領域について概観す			産業・組織心理学の歴史と研究領域について 復習 (120 分)		

	る	
第 2 回	採用と就職Ⅰ 採用計画	採用と就職について復習（120 分）
第 3 回	採用と就職Ⅱ 募集活動	募集活動について復習（120 分）
第 4 回	モチベーションⅠ モチベーションとは何か、内容理論	内容理論について復習（120 分）
第 5 回	モチベーションⅡ 過程理論	過程理論について復習（120 分）
第 6 回	リーダーシップⅠ リーダーシップの特性論	特性論について復習（120 分）
第 7 回	リーダーシップⅡ 行動論	行動論について復習（120 分）
第 8 回	リーダーシップⅢ 現代のリーダーシップ論	現代のリーダーシップ論について復習（120 分）
第 9 回	集団のダイナミックスⅠ 組織と個人の相互作用	組織と個人の相互作用について復習（120 分）
第 10 回	集団のダイナミックスⅡ 組織におけるチームワーク	組織におけるチームワークについて復習（120 分）
第 11 回	企業活動と消費者	企業労働と消費者について復習（120 分）
第 12 回	ストレスⅠ ストレスとは何か、職業性ストレス	職業性ストレスについて復習（120 分）
第 13 回	ストレスⅡ メンタルヘルスとストレスコーピング	メンタルヘルスとストレスコーピングについて復習（120 分）
第 14 回	キャリアとキャリア発達	キャリアとキャリア発達について復習（120 分）
第 15 回	到達度確認テスト	授業全体の復習（300 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SWS206-Y51	2.科目名	産業・組織心理学（2022 年度生以前 秋春通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって 続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえ において必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につ ける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる 様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャ リアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）課題発見・解 決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な課題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説 明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	成績評価は、各担当者 50％ずつ合わせて 100％です。 ・有吉（主に組織心理学を担当） 1. 各回の 1minutepaper：1％×14 回＝14％（学習目標の②③④に対応） 2. グループワーク時の相互評価：3％×4 回＝12％（学習目標の①②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：24％×1 回＝24％（学習目標の①②③④に対応） ・沼田（主に消費者心理学を担当） 1. 各回の小課題 25％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト 25％（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つけ る等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合 についてのみ認める					
23.オフィスアワー	授業中に説明する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】ガイダンス：産業・組織心理学の歴史					
	【第 2 回】ガイダンス：産業・組織心理学とは					
第 2 回	【第 3 回】産業・組織心理学の研究領域					

	【第 4 回】説得における態度とは何か、説得の影響力	
第 3 回	【第 5 回】採用と就職Ⅰ：採用計画 【第 6 回】社会的証明とネットレビューの心理学	
第 4 回	【第 7 回】採用と就職Ⅱ 募集活動 【第 8 回】ネガティブポイントをポジティブに見せる方法	
第 5 回	【第 9 回】モチベーションⅠ モチベーションとは何か 【第 10 回】承諾を得やすくするためのユニットアスキング	
第 6 回	【第 11 回】モチベーションⅡ 内容理論 【第 12 回】説得時における数字の効果	
第 7 回	【第 13 回】モチベーションⅢ 過程理論 【第 14 回】従業員のモチベーションを高める心理学	
第 8 回	【第 15 回】リーダーシップⅠ リーダーシップの特性論 【第 16 回】職場のコミュニケーション	
第 9 回	【第 17 回】リーダーシップⅡ リーダーシップの行動論 【第 18 回】特典付加の心理学	
第 10 回	【第 19 回】リーダーシップⅢ 現代のリーダーシップ論 【第 20 回】広告・マーケティング①	
第 11 回	【第 21 回】ストレスⅠ ストレスとは何か 【第 22 回】広告・マーケティング②	
第 12 回	【第 23 回】ストレスⅡ 職業性ストレス 【第 24 回】心理的財布と支払い	
第 13 回	【第 25 回】ストレスⅢ メンタルヘルスとストレスコーピング 【第 26 回】苦情行動・クレーマー	
第 14 回	【第 27 回】キャリアとキャリア発達 【第 28 回】ラストシーンの心理学	
第 15 回	【第 29 回】到達度確認テスト 【第 30 回】到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS208-A51	2.科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワークの特徴やソーシャルワークの過程を理解し、面接やアセスメントの 実際が説明できるようになる。 【概要】 講義と演習を通じてソーシャルワークの展開過程について学びます。また、後半は学 びを活かしつつ実際に面接を実施し、災害時のアセスメントシートを作成します。					
18.学習目標と DPとの関連	1. ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用について理解する 2. ソーシャルワークの過程とそれにかかる知識と技術の基本を理解する 3. 人権尊重に基づき、ソーシャルワークの知識と価値、倫理を活用していく視点を示すこと ができる。					
19.教科書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]」 12 中央法規					
20.参考文献	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）「ソーシャルワークの理論と方法 [社 会専門]」 6 中央法規 川村俊彦（2003）「事例と演習をとおして学ぶソーシャルワーク」中央法規 岩間伸之（2008）「支援困難事例と向き合う」中央法規					
21.成績評価	・ ワークシート、アセスメントシート、個別支援計画などの提出物：30％、 ・ プレゼン（2回）：20％ ・ 小テスト：20％ ・ まとめテスト：20％ ・ 振り返りシート：10％					
22.コメント	ソーシャルワークには様々な場面、プロセスが包含されています。それらが理解できるよう に、できるだけ具体的にイメージできるよう進めていきたいと思います。 ・ 資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・ 毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・ オンデマンド回分の学習の確認は、WebClass でふりかえりコメントを投稿します。（出欠確 認に相当します） ※後半ではゲスト（ちゃれんじどーなっつ）との日程調整によって、実施日が多少変動するこ ともありますが、事前に必ずアナウンスします。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・ 生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・ 生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまと めたりすることが重要です。 ・ 情報の正確性（出典）を確認しましょう。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1. 2回	・ オリエンテーション ・ ソーシャルワークとは			事前に教科書を読み、調べてくる。授業中配 布したワークシート等の課題を記入する		

		以下、30 回まで同様
3. 4 回	・人と環境の交互作用に関する理論①（共通第 1 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
5. 6 回	・人と環境の交互作用に関する理論②（共通第 1 章） ・ソーシャルワークにおける援助関係の形成（社会専門第 2 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
7. 8 回	・ソーシャルワークの展開過程①（共通第 2-6 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
9.10 回	ソーシャルワークの展開過程②（共通第 2-6 章） ・グループ発表（ソーシャルワークの展開過程） ・クライアントの生活理解	事前に教科書を読み、調べてくる。
11. 12 回	ソーシャルワークの展開過程③ ・クライアントの生活理解について、グループで共有する ・エンゲージメント （ちゃれんじどーなっつの方とのエンゲージメント）	クライアントの生活理解について、各自、調べた内容を WebClass に UP
13.14 回	・小テスト① ・ソーシャルワークの面接技術（共通第 8 章） ・ソーシャルワークの記録（共通第 9 章） ソーシャルワークの展開過程④ ・エンゲージメントの振り返り ・アセスメント ・インタビューガイドの作成、インタビューの準備	次回までに 各班でインタビュー項目をまとめて WebClass に UP
15.16 回	ソーシャルワークの展開過程⑤ アセスメント ・ちゃれんじどーなっつの方との外出 ・ちゃれんじどーなっつの方へのインタビュー	次回までに 振り返りのワークシート提出する
17.18 回	ソーシャルワークの展開過程⑥ ・インタビュー振り返り ・アセスメント、プランニングの実施	次回までに 各班でアセスメントシートとプランを WebClass に UP
19.20 回	ソーシャルワークの展開過程⑦ ・ちゃれんじどーなっつの方に、アセスメント、プランのフィードバック	次回までに 振り返りのワークシート提出する
21.22 回	ソーシャルワークの展開過程⑧ ・再アセスメント ・プランの修正 ・アセスメント・プランニングのグループ発表準備	次回までに 各班でアセスメント・プランニングのグループ発表のパワポ完成して WebClass に UP
23.24 回	1, 小テスト② 2, ソーシャルワークの展開過程⑨ ・アセスメント・プランニングのグループ発表 ・支援の実施とモニタリング（共通第 5 章） ・支援の終結と結果評価、アフターケア（共通第 6 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
25.26 回	・ケアマネジメント（共通第 10 章） ・グループを活用した支援（共通第 11 章） ・コミュニティワーク（共通第 12 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。

27.28 回	・ ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ（共通第 7 章） ・ ソーシャルアドミニストレーション（共通第 13 章） ・ ソーシャルアクション（共通第 14 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
29.30 回	・ まとめテスト ・ 振り返りシート	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS209-A51	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワークの目的・意義を理解し、自身がめざすソーシャルワーカー像や実習動機を具体化できるようになることを目的とします。 【概要】 授業では、個別および集団指導を通し、社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の役割について学習します。また、3年生夏学期および冬学期のソーシャルワーク実習に向けてモチベーションを高めるとともに、自身の思い描く将来のソーシャルワーカー像を具体化できることをめざします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用、に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定しています。 ①社会福祉士の倫理綱領および行動規範について説明できる ②社会福祉士を取り巻く社会状況を踏まえ、自身のめざすソーシャルワーカー像を記述できる ③ソーシャルワーク実習の意義・目的、めざすソーシャルワーカー像を意識した実習動機を記述できる ④ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要を説明できる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	・白澤政和・米本秀仁編（2009）日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規 ・社会福祉実習研究会（2000）『社会福祉実習サブノートー初めて実習生となるあなたへ』中央法規 ・小木曾宏、柏木美和子、宮本秀樹（2005）『よくわかる社会福祉現場実習』明石書店 ・栗山直子、與那嶺司（2006）『福祉実習に行くあなたのための準備本ーこんなときどうする?』相川書房 ・社会福祉実習研究会（2001）『社会福祉の実習事例から学ぶ 実習生のための対人援助技術』中央法規出版 ・対人援助実践研究会（2					
21.成績評価	【課題 1】確認テスト 20%【学習目標①に対応】 ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範に関するテスト 【課題 2】レポート 30%【学習目標②に対応】 ・テーマ：社会に求められる社会福祉士と自身のめざすソーシャルワーカー像 ・字数：1,200 字以上 【課題 3】実習動機の作成 20%【学習目標③に対応】 ・ソーシャルワーク実習の意義・目的、めざすソーシャルワーカー像を意識した実習動機 【課題 4】実習予定施設の概要整理ワークシート 20%【学習目標④に対応】 ・ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設に関する					
22.コメント	<生成 AI の利用について>					

		生成 AI 利用：条件付きで認める *レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・授業概要、進め方、評価方法 ソーシャルワーク実習の全体像、意義・目的と評価の仕組み ・社会福祉士養成教育における相談援助実習の位置づけ、実習指導の流れ ・社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の内容理解を進める	◆ノート PC 持参を推奨します◆ ○ソーシャルワーク実習の内容に関する資料を読む (90)
【第 2 回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範① ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を確認する (90)
【第 3 回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範② ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を用いて事例を検討する (90)
【第 4 回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範③ ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する 【課題 1】確認テスト	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を用いて事例を検討する (90)
【第 5 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る① ・具体的事例を用いながら、ソーシャルワーカーのイメージをつかむ	○なりたいソーシャルワーカー像について 400 字程度でまとめてくる (90)
【第 6 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る② ・具体的事例を用いながら、ソーシャルワーカーのイメージをつかむ	○なりたいソーシャルワーカー像について修正する (90)
【第 7 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る③ ・自身のなりたいソーシャルワーカー像について記述する	○社会福祉士を取り巻く動向について資料を確認し、ソーシャルワーカー像との関連を検討する (90)
【第 8 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る④ ・自身のなりたいソーシャルワーカー像について記述する	○社会福祉士を取り巻く動向について資料を確認し、ソーシャルワーカー像との関連を検討する (90)
【第 9 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る① ・ソーシャルワーク実習ⅠとⅡの実習のねらいや内容を理解する	○実習動機を 300 字程度で作成してくる (90)
【第 10 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る② ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○実習動機の修正を行う (90)
【第 11 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る③ ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○【課題 2】に取り組む (90)
【第 12 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る④ ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○実習動機の修正を行う (90) ★課題 2 の提出
【第 13 回】	ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要理解① ・実習予定施設の概要を調べる	○【課題 4】に取り組む (90)

【第 14 回】	ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要理解② ・実習予定施設の概要を調べる	○【課題 4】に取り組む（90）
【第 15 回】	本授業のふりかえり ・実習に向けた心構え ★課題 5 の作成と提出	○3 年夏実習に向けた現時点の課題を整理しておく（90）

1.授業コード (ナンバリング)	SWS211-Y51	2.科目名	広告心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】					
	本科目は、広告の特色について心理学の視点から把握することを目指し、各理論を理解しながら実践的視座を身に着けることを目的とする。					
17.授業の目的と概要	【概要】					
	日常的に目にする広告の効果はどのようなところにあるのか。それを説明するモデルについてまず心理学的視点から理解していく。さらに受講生同士のディスカッションを行うことで理解を深めていく。効果的な広告の要因としてコミュニケーション、広告媒体、付加価値などに着目し、実際の広告を事例に検証していく。さらに効果的な広告を実際に作成してみるワークを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	①効果的な広告について心理学の観点から学び、実践的視座を身につける。 ②広告の効果について心理学の視点から説明することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	①総括試験（学習目標①②を問う）（50％） ②各回のミニレポート（学習目標①②を問う）（24％） ③広告作成のワーク（学習目標①②を問う）（26％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	広告と心理学（ガイダンス） ・広告に関係する心理学の概念を概観する			事前学習：広告に関連しそうな心理学の概念を調べる/ 事後学習：惹かれる広告を挙げておく		
第2回	広告とマーケティング ・どこにどんな広告を出すのが効果的なのかを学ぶ			事前学習：マーケティングについて調べる/ 事後学習：惹かれる広告と授業内容を照らし合わせて考える		
第3回	消費者行動の理解① ・消費者がモノを認知してから購入するまでどのような認知プロセスをたどるのか概観する			事前学習：消費者行動について調べる/ 事後学習：消費者行動についてまとめる		
第4回	消費者行動の理解② ・消費者がモノを購入してから次の購入に至るまでの認知プロセスについて概観する			事前学習：リピーターと広告の関係について調べる/ 事後学習：リピーターと広告の関係についてまとめる		
第5回	ブランディングと広告 ・ブランディングと広告について学ぶ			事前学習：ブランディングについて調べる/ 事後学習 ブランディング実践をイメージす		

		る
第 6 回	広告分析①【グループワーク】 ・これまで学んだ概念および理論を使って実際の広告の魅力を分析しまとめる	事前学習：分析する広告を調べておく/ 事後学習：分析結果をまとめる
第 7 回	広告分析②【グループワーク】 ・前回分析した内容を報告する	事前学習：分析結果を報告できる形にする/ 事後学習：報告内容を整理する
第 8 回	感情と広告 ・人が持つ感情に関連した広告戦略について学ぶ	事前学習：広告に関連する感情にはどのようなものがあるか調べておく/ 事後学習：広告と感情についてまとめる
第 9 回	記憶と広告 ・広告のどのような要素が人の記憶に残るのかについて学ぶ	事前学習：記憶に残っている広告を探す/ 事後学習：広告と記憶についてまとめる
第 10 回	広告の影響 ・広告が及ぼしてきた影響について事例を概観する	事前学習：広告が及ぼす影響について調べる/ 事後学習：広告が及ぼす影響についてまとめる
第 11 回	広告の安全性 ・広告の安全性について広告の受け手である消費者の観点から概観する	事前学習：広告の安全性について関連要因や事例を調べる/ 広告の安全性についてまとめる
第 12 回	広告の在り方について議論する【グループワーク】 ・今後望ましい広告の在り方についてグループで議論する	事前学習：広告の良い側面と悪い側面について調べる/ 今後望ましい広告についてまとめる
第 13 回	広告実践①【グループワーク】 ・グループでテーマを決めて広告を作る	事前学習：各人持ち寄るテーマを考えておく/ 事後学習：次回の報告に向けて作成を進める
第 14 回	広告実践②【グループワーク】 ・グループごとに作成した広告について発表する	事前学習：報告資料の作成/ 事後学習：聴取した報告内容をまとめ振り返る
第 15 回	これまで（後半）の授業について振り返る（総括レポート）	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS309-A51	2.科目名	スクールソーシャルワーク演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	西野緑					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年、4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	スクールソーシャルワーク論受講		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習（事例検討）		
16.履修制限	20 人					
17.授業の目的と概要	【目的】スクールソーシャルワーク演習では、スクールソーシャルワーク論で学ぶ知識や理論や価値を基に、スクールソーシャルワーカーとしての技術や実践力を養うことを目的とする。 【概要】スクールソーシャルワーク論で学んだ学校で起こる事象について、事例検討することを通して、実践力を身につけることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自立性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力 ・スクールソーシャルワーカーの具体的な動きを知り、説明できるようになる。 ・事例検討を通して、アセスメントとプランニングが実施できる。 ・グループワークでの議論を通して、自分の考え他の人の考えを比較できる。					
19.教科書・教材	大塚美和子・西野緑・峯本耕治編（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』,明石書店.					
20.参考文献	西野緑（2018）『子ども虐待とスクールソーシャルワーク チーム学校を基盤とする「育む環境」の創造』, 明石書店. 川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』, 中央法規. 門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーの仕事ー学校ソーシャルワーク実践ガイド』, 中央法規.					
21.成績評価	①授業中の発言や質問＝15％ ②事例検討のワークシート（3 回分）＝30％（事例検討を行なった週に提出） ③総括試験＝55％					
22.コメント	スクールソーシャルワーク演習は、スクールソーシャルワーク論を受講していることが必須である。また、スクールソーシャルワーク実習をしたい人の必須科目である。グループワークを取り入れ、事例を通して実践力を身につけると同時に自分自身を振り返る。授業では、参加と尊重と守秘を基本的ルールとするため、受講者には積極的な参加（発表、グループワークへの積極的参加等）と尊重（人の発言を傾聴すること）および守秘を求める。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室で対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	スクールソーシャルワークの専門的価値 グループワーク ・ソーシャルワークの価値、特に「人権」について学び、自分のこととして考える。 ・スクールソーシャルワークを実践するための視点となるエンパワメントについて学ぶ。 ・グループワーク：事例から考える。			グループワークシートをまとめておく。ワークシートは次回に提出すること。		

第 2 回	スクールソーシャルワークで扱う事象とその関連性 グループワーク ・ いじめ、不登校、虐待、非行、発達課題等の生徒指導上の諸課題の背景とその関連性について考える。	生徒指導上の諸課題の関連性について学び、考えたことをまとめる。
第 3 回	スクールソーシャルワーク実践の活動形態 ディスカッション/ディベート ・ 日本におけるスクールソーシャルワーカーの 3 つの活動形態について知り、それぞれの利点と課題について考える。	SSW の 3 つの活動形態について復習し、自分の考えをまとめておく。
第 4 回	事例を通して問題解決能力を高める① - 1 ④グループワーク ・ 事例検討：アセスメント、プランニング、介入等の援助プロセスにおいて展開できる力を身につける。	グループワーク：事例検討⇒ワークシートは次回提出すること。
第 5 回	事例を通して問題解決能力を高める① - 2 ④グループワーク エコマップを描いてみよう！ ・ 事例についてのエコマップを描き、援助前と援助後の関係性の違いをエコマップを通して学ぶ。	先回のワークシートを基に発表する
第 6 回	ケース・マネジメント ④グループワーク ・ ケース・マネジメントの展開過程について学ぶ。 ・ ケース会議の展開方法について学ぶ。 ・ ケース会議の事前の準備の重要性について理解する。	テキストを読んでおく。
第 7 回	事例を通して問題解決能力を高める② - 1 ④グループワーク ・ 非行事例を基に、アセスメント力を身につける。 ・ グループワーク：事例検討	ワークシートをまとめておく。ワークシートは次回に提出すること。
第 8 回	事例を通して問題解決能力を高める② - 2 グループワーク ・ アセスメントを基に、プランニング、介入等の援助プロセスにおいて展開できる力を身につける。	ワークシートをまとめておく。ワークシートは次回に提出すること。
第 9 回	SSW のメゾアプローチ：コアチーム会議・ケース会議 ③ディスカッション ・ 校内のチーム・アプローチについて学ぶ	テキストを読んで復習する。
第 10 回	事例を通して問題解決能力を高める③ - 1 ④グループワーク ・ 事例検討：発達障害事例を基に、アセスメント力を身につける。	ワークシートをまとめておく。ワークシートは次回に提出すること。

	・グループワーク：事例検討	
第 11 回	事例を通して問題解決力を高める③ - 2 ④グループワーク アセスメント力を基に、プランニングの具体的な選択肢を考える力を身につける。	事例を読み直して、復習する。
第 12 回	ディスカッション SSW 実習報告会 4 年生の SSW 実習の報告を聞いた後、4 年生に質問しながら、グループで話し合う。	SSW 実習報告を聞いた感想を書いてくる。
第 13 回	スクールソーシャルワークの理論 ・ SSW の理論の中から特に必要な理論を取り上げる。	自分が興味関心を持った理論について、調べてまとめてくる。
第 14 回	SSW のコミュニケーション：アサーション グループワーク アサーションを学び、自分のコミュニケーションを振り返る。	総括試験の準備をする。
第 15 回	総括試験とまとめ	総括試験の振り返りをする。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS314-A51	2.科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(福祉) 社会福祉士受験資格	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、総合的かつ包括的な援助の実践的理解をめざします。 【概要】 社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスやその他危機状態にある相談援助事例を活用し、具体的な相談援助場面及び過程を想定した実技演習を行います。 具体的には、大きくは前半は個別支援編として課題別の相談援助事例を通してインテーク終結までの相談援助場面及び過程を学習します。後半は地域支援編として、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の開発・活用といった地域福祉の援助技術もあわせて総合的な学習をすすめます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、学習目標の DP (1)自律性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能活用力 に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①課題を抱えた個人や地域に対する援助過程を理解することができる。 ②課題を抱えた個人や地域住民と目的に応じた面接をすることができる。 ③既成事例に対して、グループでアセスメントすることができる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	■テスト 25%×2 回（主に学習目標①②） ・主に学習目標①、②に関することを、記述式で問う。 ・自筆のノート、まとめ等は持ち込み可。 ■プレゼンテーション 40%（主に学習目標②③） ・第 11・12 回、第 25・26 回にプレゼンテーションを行う。 ・プレゼンテーションは、授業内で扱う事例のロールプレイを行う。 ■ふりかえり 10% ・2 回のプレゼンテーション後、および最終回を終えて、学修目標に照らし合わせて行う					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1・2 回	ガイダンスとクラスメンバーの理解 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバス必携。このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと。 ・自己紹介を通して他者理解をすすめる。			○事例①で使用する事例を配布するので、次回までに熟読し専門用語を調べてくる。学修目標(1)リストを活用すること。120 分		

3・4回	【個別支援編】 事例①-1 ・事例に出てくる専門用語を理解する。 ・ソーシャルワーク展開過程におけるインテークを理解する。 ・インテーク場面のロールプレイを通してグループディスカッションを行う。	○事例①におけるインテーク場面での課題について整理してくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
5・6回	事例①-2 ・前回の内容をもとに、インテーク場面のロールプレイを行う。 ・ソーシャルワークの展開過程におけるアセスメントを理解する①	◎グループで事例①のインテーク面接の内容検討、ロールプレイ練習をすすめる。学修目標(1)(2)リストを活用すること。(第11・12回までの各週で120分)
7・8回	事例①-3 ・グループごとにアセスメントシートを作成する。 ・ソーシャルワークの展開過程における支援、モニタリング、終結について理解する。	◎同上
9・10回	事例①-4 ・第7・8回で作成したアセスメントシートを吟味する。 ・ソーシャルワークの展開過程におけるプランニングを理解する。 ・アセスメントシートをもとにした支援計画を検討する。	◎同上
11・12回	事例①-5 ・事例①のインテーク面接のプレゼンテーション	○プレゼンテーションのふりかえりを行う。90分
13・14回	事例①-6 ・プレゼンテーションのふりかえり ・事例①のまとめ	○中間テストに向けた学習 120分 ○「事例1のプレゼンテーションふりかえり」ポートフォリオ投稿
15・16回	事例①のまとめ ・個別支援編まとめテスト ・テストの解説	○事例②で使用する事例を配布するので、次回までに熟読し専門用語を調べてくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
17・18回	【地域支援編】 事例②-1 ・地域編オリエンテーション ・地域支援（コミュニティワーク）の目的・目標・展開過程 ・地域アセスメントについて理解し、行いまとめる。	○インテーク場面での課題について整理してくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
19・20回	事例②-2 ①前回の地域アセスメントの内容をもとに必要な社会資源を検討する。 ②事例について深める（出てくる専門用語を理解する）。 事例の課題解決に必要な社会資源について検討する	◎グループで事例②のインテーク面接の内容検討、ロールプレイ練習をすすめる。学修目標(1)(2)リストを活用すること。(第25・26回までの各週で120分)
21・22回	事例②-3 ・セルフヘルプグループの立ち上げと住民懇談会開催の検討	◎同上

23・24 回	事例②-4 ・グループワーク（発表準備）	◎同上
25・26 回	事例②-5 ・プレゼンテーション（住民懇談会）	○プレゼンテーションのふりかえりを行う。 90 分
27・28 回	事例②-6 ・地域支援編 まとめテスト	○まとめテストに向けた学習 120 分 ○「事例 2 のプレゼンテーションふりかえり」ポートフォリオ投稿
29・30 回	・災害ボランティアセンターシミュレーション	○「受講を終えてのふりかえり」、および「相談援助実習に向けた自己の課題について」、eポートフォリオに記事投稿する。60 分

1.授業コード (ナンバリング)	SWS316-A51	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ソーシャルワーク実習指導ⅠおよびⅡで準備してきた内容とソーシャルワーク実習Ⅰでの実習内容を踏まえ、社会福祉士としても求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。とりわけソーシャルワーク実習Ⅰの実習内容を整理し、実習の到達状況を確認しながら、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けた実習計画を立てることが本授業の狙いとなる。そのため、実習記録を用い、具体的に体験した事象を社会福祉士の価値・知識・技術の側面から分析し、ソーシャルワーク実習Ⅱの実習先理解と実習目標の設定ができるようになるよう、授業を進めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	以下の学習目標をととして、社会福祉士に求められる総合的に対応できる能力を習得することをめざします。 ①ソーシャルワーク実習Ⅰにおける実習計画の到達状況を説明できる ②実習体験の中から支援困難事例を抽出し説明できる ③社会福祉士の価値・知識・技術を踏まえ、支援困難事例に対する最適な解決方法を提案できる ④ソーシャルワーク実習Ⅱに向けた実習計画を作成できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	・社会福祉士相談援助実習第2版、日本社会福祉士養成校協会（監修）、中央法規 ・社会福祉実習サブノート初めて実習生となるあなたへ（単行本（ソフトカバー））社会福祉実習研究会 中央法規出版（2000/03） ・よくわかる社会福祉現場実習（単行本）小木曾 宏（著）、柏木 美和子（著）、宮本 秀樹（著）明石書店（2005/04） ・福祉実習に行くあなたのための準備本—こんなときどうする？（単行本）栗山 直子（著）、與那嶺 司（著）相川書房（2006/03） ・社会					
21.成績評価	【課題1】ソーシャルワーク実習Ⅰ総括ワークシート 20% ：学習目標①に対応 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成した実習計画をもとに、実習Ⅰの達成状況を整理する 【課題2】実習で体験した支援困難事例の発表 20% ：実習目標②に対応 ・実習Ⅰで体験した実習内容の中から実習困難事例（あるいは疑問に感じた場面）を抽出して発表する 【課題3】ミニレポート 20% ：実習目標③に対応 ・【課題2】に対するミニレポートを執筆する 【課題4】実習計画（目標）の作成 30% ：学習目標④に対応 ・ソーシャルワーク					
22.コメント	・実習生として相応しい態度特性を身につけること。 ・期限までに実習計画書が完成していない場合は実習延期となる。 <生成 AI の利用について>					

		生成 AI 利用：条件付きで認める *レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	オリエンテーション ・ 授業概要、進め方、評価方法 相談援助実習のねらいと評価の仕組み ・ 社会福祉士養成教育におけるソーシャルワーク実習の位置づけ、実習指導の流れの再確認	◆ノート PC 持参を推奨します◆ ○【課題 1】に取り組む (120)
【第 3 回】 【第 4 回】	ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえり ・ 実習記録および実習計画表にもとづき、ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえりを行う	○【課題 1】の修正作業 (120)
【第 5 回】 【第 6 回】	ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえり ・ 実習記録および実習計画表にもとづき、ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえりを行う	○【課題 1】の完成と提出 (120)
【第 7 回】 【第 8 回】	実習現場における支援困難事例の共有 ・ ソーシャルワーク実習Ⅰで体験した支援困難事例（もしくは疑問に思った場面）の報告	○【課題 2】の準備 (120)
【第 9 回】 【第 10 回】	実習現場における支援困難事例の共有 ・ ソーシャルワーク実習Ⅰで体験した支援困難事例（もしくは疑問に思った場面）の報告	○【課題 2】の準備 (120)
【第 11 回】 【第 12 回】	実習現場における支援困難事例の共有 ・ ソーシャルワーク実習Ⅰで体験した支援困難事例（もしくは疑問に思った場面）の報告	○【課題 3】の作成 (120)
【第 13 回】 【第 14 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習先の概要をまとめる	○【課題 3】の作成 (120)
【第 15 回】 【第 16 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習先の概要をまとめる	○実習先の概要をまとめる (120)
【第 17 回】 【第 18 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習計画の作成	○実習先の概要をまとめる (120)
【第 19 回】 【第 20 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習計画の作成	○【課題 4】実習計画を作成する (120)
【第 21 回】 【第 22 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習計画の作成	○【課題 4】実習計画を作成する (120)
【第 23 回】 【第 24 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習計画の作成	○【課題 4】実習計画を完成させ提出する (120)
【第 25 回】 【第 26 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習記録の作成演習	○「記録」の基本的事項を理解し、指定された様式で記述できるように準備する (120)
【第 27 回】 【第 28 回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・ 実習記録の作成演習	○実習に向けた準備を行う (120)
【第 29 回】 【第 30 回】	本授業のふりかえりと実習直前の準備 ・ 実習に向けた心構え	○実習に向けた準備を行う (120)

1.授業コード (ナンバリング)	SWS317-A81	2.科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3.単位数	4
4.授業担当教員	岩本裕子、尾崎慶太、春木裕美、山本秀樹				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	社会福祉士受験資格に必要なソーシャルワーク実習は、ソーシャルワーク実習Ⅰ 60 時間、ソーシャルワーク実習Ⅱ 180 時間の合計 240 時間実習になる。実習内容については、実習ⅠとⅡあわせて、以下の 10 項目を実践的に理解することになる。 ソーシャルワーク実習Ⅱは、ソーシャルワーク実習Ⅰとは機能が異なる施設/機関で実習を行うことになり、実習中に取り組む 10 項目の内容を調整しつつ、実習に取り組むことになる。 <ソーシャルワーク実習のねらい> ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 <実習中に取り組む 10 項目> ①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 ③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価 ⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会へのはたらきかけ ⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解（アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション）				
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①実習目標の達成に向けた具体的な取り組みができる。 ②実習日誌の項目に沿って観察と考察を書き分けることができる。 ③スペシフィックな場面からソーシャルワークのジェネリックな側面を見出すことができる。				

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SWS406-A51	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件	実習指導Ⅰ、Ⅱ、および実習を履修していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	相談援助を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てていくことを目的としています。授業では、個別、集団指導を通して実習記録や実習体験をふまえた課題の整理と考察を行います。実習で経験してきたことを担当教員からスーパービジョンを受けたり、学生同士のピア・スーパービジョンを行ったり、自分自身でセルフ・スーパービジョンをしていきます。そのことを通して、ソーシャルワーカーとしての専門性を向上させていきます。さらに、成果物として実習報告会でプレゼンテーション、実習総括としての最終レポートを作成します。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、コミュニケーションスキルの獲得に関連しています。 ①実習で体験した事を社会福祉のキーワードを用いてまとめることができる。 ②実習目標の達成状況を根拠を用いて説明することができる。 ③実習で学んだことを一般化・汎用化することができる。					
19.教科書・教材	■それぞれの実習日誌（ファイル）を用いて授業を進めていきます。忘れずに毎回持参することが必要です。					
20.参考文献	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習」ISBN978-4-8058-8251-1					
21.成績評価	■中間プレゼンテーション（20%）学習目標①② ・3 年生に向けてソーシャルワーク実習の内容を分かりやすく発表する ・3 年生と実習に向けた意見交換を行う ・スライドおよびビデオを作成する ・webclass に提出 ■最終プレゼンテーション（40%）学習目標①②③ ・中間プレゼンテーションをブラッシュアップする ・スライドおよびレジュメを作成する ・webclass に提出 ■ワークシート（40%）学習目標①②③ ・ソーシャルワーク実習のねらいと到達目標をふりかえる ・webclass に提出					
22.コメント	・実習で経験してきた内容をもとにソーシャルワークの魅力について学内外の他者に向けてプレゼンテーションします。 ・資料や成果物の提出には webclass を使います。 ・毎回実施するグループワークには zoom を使います。 ・ワークシート作成やプレゼンテーションにパソコンが必要です。毎回持参してください。 ・必要に応じ、オフィスアワーを活用して個別スーパービジョンを受けて自己覚知を促してください。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。					

	・生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。	
23.オフィスアワー	問い合わせには随時対応します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】 10/6	オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法など） ・「実習を終えて」をテーマにブレインストーミングを行う ・実習記録を読み返し、自分の変化を整理する	【今回の復習】 ・発表によってわかったこと、感じたことをワークシートに記入し、まとめる(180) 【次回の予習】 ・実習記録を読み返しておく（180）
【第 3 回】 【第 4 回】 10/13	中間実習報告会に向けて ・中間プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーションのリハーサルを行い、相互にアドバイスを行う。	【今回の復習】 ・スライドとビデオを各自準備する（360）
【第 5 回】 【第 6 回】 10/20	中間実習報告会 ・中間プレゼンテーション(20%) ・相談援助実習指導Ⅰにおいて、3 年生に対して実習を通じた自らの学び、ソーシャルワーカーとしての課題について報告を行う。	【提出物】 ・プレゼンテーションのスライドとビデオ 【今回の復習】 ・中間プレゼンテーションのふりかえりをする(180) 【次回の予習】 ・実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する（180）
【第 7 回】 【第 8 回】 10/27	実習のふりかえりと課題整理① 項目 1：利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・期間・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 達成目標(1)：クライアント等との人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる。	【提出物】 ・webclass（180） 【次回の予習】 ・実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する（180）
【第 9 回】 【第 10 回】 11/3	実習のふりかえりと課題整理② 項目 2：利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 達成目標(2)：クライアント等との援助関係を形成することができる。	【提出物】 ・webclass（180） 【次回の予習】 ・実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する（180）
【第 11 回】 【第 12 回】 11/10	実習のふりかえりと課題整理③ 項目 3：利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価 達成目標(3)：クライアント、グループ、地域住民等のアセスメントを実施し、ニーズを明確に把握することができる。 達成目標(4)：地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定することができる。 達成目標(5)：各種計画の様式を使用して計画を作成・策定及び実施することができる。 達成目標(6)：各種計画の実施をモニタリングおよび評	【提出物】 ・webclass（180） 【次回の予習】 ・実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する（180）

	価することができる。	
【第 13 回】 【第 14 回】 11/17	実習のふりかえりと課題整理④ 項目 4：利用者やその関係者(家族・親族、友人等)への権利擁護活動とその評価 達成目標(7)：クライアントおよび多様な人々の権利擁護ならびにエンパワメントを含む実践を行い、評価することができる。	【提出物】 ・ webclass (180) 【次回の予習】 ・ 実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する (180)
【第 15 回】 【第 16 回】 11/24	実習のふりかえりと課題整理⑤ 項目 5：多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 達成目標(8)：実習施設・機関等の各職種の機能と役割を説明することができる。 達成目標(9)：実習施設・機関等と関係する社会資源の機能と役割を説明することができる。 達成目標(10)：地域住民、関係者、関係機関等と連携・協働することができる。 達成目標(11)：各種会議を企画・運営することができる。	【提出物】 ・ webclass (180) 【次回の予習】 ・ 実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する (180)
【第 17 回】 【第 18 回】 12/1	実習のふりかえりと課題整理⑥ 項目 6：当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ 達成目標(12)：地域社会における実習施設・機関等の役割を説明することができる。 達成目標(13)：地域住民や団体、施設、機関等に働きかける。	【提出物】 ・ webclass (180) 【次回の予習】 ・ 実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する (180)
【第 19 回】 【第 20 回】 12/8	実習のふりかえりと課題整理⑦ 項目 7：地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 達成目標(14)：地域における分野横断的・業種横断的な社会資源について説明し、問題解決への活用や新たな開発を検討することができる。	【提出物】 ・ webclass (180) 【次回の予習】 ・ 実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する (180)
【第 21 回】 【第 22 回】 12/15	実習のふりかえりと課題整理⑧ 項目 8：施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） 達成目標(15)：実習施設・機関等の経営理念や戦略を分析に基づいて説明することができる。 達成目標(16)：実習施設・機関等の法的根拠、財政、運営方法等を説明することができる。	【提出物】 ・ webclass (180) 【次回の予習】 ・ 実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する (180)
【第 23 回】 【第 24 回】 12/22	実習のふりかえりと課題整理⑨ 項目 9：社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	【提出物】 ・ webclass (180) 【次回の予習】

	達成目標(17)：実習施設・機関等における社会福祉士の倫理に基づいた実践及びジレンマの解決を適切に行うことができる。 達成目標(18)：実習施設・機関等の規則等について説明することができる。	・実習記録を読み、次回のふりかえり項目に関連する事例を抽出する（180）
【第 25 回】 【第 26 回】 1/19	実習のふりかえりと課題整理⑩ 項目 10：ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 達成目標(19)-1：アウトリーチの実践的理解 達成目標(19)-2：ネットワーキングの実践的理解 達成目標(19)-3：コーディネーションの実践的理解 達成目標(19)-4：ネゴシエーションの実践的理解 達成目標(19)-5：ファシリテーションの実践的理解 達成目標(19)-6：プレゼンテーションの実践的理解 達成目標(19)-7：ソーシャルアクションの実践的理解	【提出物】 ・ webclass（180） 【次回の予習】 ・ 最終報告会に向けた準備（180）
【第 27 回】 【第 28 回】 1/26	最終実習報告会に向けて ・ 最終プレゼンテーションの準備 ・ プレゼンテーションのリハーサルを行い、相互にアドバイスをを行う	【次回の予習】 ・ 最終報告会に向けた準備（360）
【第 29 回】 【第 30 回】 1/27	最終実習報告会 ・ 最終プレゼンテーション（40%） 学びのまとめ	【提出物】 ・ プレゼンテーションのスライドとビデオ

1.授業コード (ナンバリング)	TG2207-Y01	2.科目名	北米地域研究		3.単位数	2
4.授業担当教員	服部聡					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本と比較しながら、アメリカという国の特徴を多面的に理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	アメリカについての基本的知識と理解のしかたを修得することを狙います。					
19.教科書・教材	久保文明ほか編『アメリカ政治 第3版』（有斐閣）					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の授業で提出するサマリーペーパーをA B Cの三段階で評価します。（合計4 5点） 最後に筆記試験を課します。（合計5 5点） 両方のスコアを合計して、1 0 0点満点で最終的な成績評価を算出します。					
22.コメント	クラスの静粛と秩序を維持するために、私語に対しては厳しく対処します。改善が見られない場合は、出席取り消しや履修取り消しも検討します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	アメリカ植民地の形成			プリントを配ります		
第2回	アメリカの独立			プリントを配ります。		
第3回	アメリカの連邦制 ー連邦と州の関係			教科書の第9章を読んてくること。		
第4回	アメリカの連邦制 ー州内政治と州と州の関係			教科書の第9章を読んてくること。		
第5回	大統領制のしくみ			教科書の第6章を読んてくること。		
第6回	アメリカの議会制度 ー上院と下院の関係			教科書の第7章を読んてくること。		
第7回	司法の政治的役割			教科書の第8章を読んてくること。		
第8回	アメリカの政党と利益集団について			教科書の第4章を読んてくること。		
第9回	アメリカにおける移民問題			プリントを配ります。		
第10回	アメリカにおける黒人問題			教科書の第12章を読んてくること。		
第11回	アメリカにおける女性問題			教科書の第12章を読んてくること。		
第12回	アメリカにおける環境問題			プリントを配ります。		
第13回	アメリカにおける宗教 ーキリスト教の影響			教科書の第11章を読んてくること。		
第14回	アメリカにおける政策形成過程			教科書の第5章を読んてくること。		
第15回	アメリカ外交と安全保障			教科書の第13章を読んてくること。		

1.授業コード (ナンバリング)	TOU209-A51	2.科目名	インバウンドツーリズム産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	経営 2 年		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	インバウンドツーリズムとは何か、日本経済におけるインバウンドツーリズムの重要性を理解し、インバウンドツーリズム産業全体を経営学視点において把握をする。インバウンドツーリズムは、成長著しいアジアをはじめとする世界の需要を取り込むことによって、人口減少・少子高齢化が進展する 日本において、交流人口の拡大によって地域の活力を維持し、社会を発展させることに大きく貢献する。また、インバウンドツーリズム産業の核となる旅行業、宿泊業、輸送業、航空・空港業、お土産販売業、フードビジネス業等について、マクロ視点から、それぞれの業界の特徴と問題点の考察した上で、個々の企業をミクロ的な問題をとりあげ、その企業経営のあり方や、将来展望を模索するものとする。インバウンド観光産業は毎年成長し、2019 年には訪日外国人旅行客が 3,188 万人を突破し、消費額は 4 兆 6 千億円にも到達したが、3 年以上コロナ禍で低調が続いた状況を乗り越えて、2024 年には訪日外国人 3,186 万人、消費額は 8.1 兆円に達成し最高記録を立てている。特に 2025 年の世界万博の開催と 2029 年 IR が大阪地域に誘致する計画を控えている。ポストコロナを対応する新戦略への大転換の必要である。その時代に合わせた専門知識を持つ人材が必要であろう。 この講義では日本政府が主導する日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成戦略に従うインバウンド人材を育成することを目標としている。					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では観光産業が日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成を目指し、観光関連企業への進出するため資格修得をすることを目標とする。 ① 自分で観光専門分野を説明できるようにする。 ② 多様なビジネスに関連する知識とスキルを発揮することができる ③ 留学生との授業やグループワークでコミュニケーションスキルを高める。 ④ 観光検定に挑戦することでエキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	観光ビジネス検定テキスト インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 観光検定公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集 編：全日本情報学習振興協会 発行：全日本情報学習振興協会 観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稻之・安田亘宏 著					
21.成績評価	毎回のグループワークシート 授業態度・レポート → 60%					

	期末テストとレポート・eポートフォリオ → 40%	
22.コメント	毎回の授業に積極的な姿勢で準備物や復習をしっかりと求めている。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回 10月6日 金	オリエンテーション 授業紹介、PDCA	
2回 10月13日 金	インバウンドと ニューツーリズム エコ・ツーリズム ロングスティ	
3回 10月20日 金	インバウンドと ニューツーリズム グリーンツーリズム カルチャーツーリズム	
4回 10月27日 金	産業ツーリズム ヘルス・ メディカル・ ワインツーリズム	
5回 11月3日 金	フード・ スポーツ・ コンテンツ ツーリズム	
6回 11月17日 金	中国と韓国から の旅行者の理解	
7回 11月24日 金	台湾・香港・タイからの 旅行者の理解	
8回 12月1日 金	ベトナム・アメリカ の旅行者の理解	
9回 12月8日 金	ムスリム ベジタリアン 旅行者の理解	
10回 12月15日 金	訪日外国人旅行者への対応 訪日外国人旅行者の満足度 訪日外国人旅行者の不満 多言語対応 通信環境対応	
11回 12月22日 金	インバウンド集客 外国人旅行者へのアプローチ ネット予約サイト	

	旅行博覧会（博）	
12 回 1 月 12 日 金	インバウンド人財 日本人的能力、 インバウンド情報 日本ブランド 日本の無形文化遺産代表	
13 回 1 月 19 日	アフターコロナの インバウンド観光コロナ時代の外国人旅行者の意識調査 アフターコロナの対応 持続可能な開発 国内旅行回復・活性化	
14 回 1 月 26 日	アフターコロナ インバウンド観光 考える旅行者・地域 IT 観光 新しい発想 グループでのディスカッション	
	期末テスト 振り返り e-portofolio	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU209-Y51	2.科目名	インバウンドツーリズム産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	国際観光における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	観光事業論履修必修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	別になし					
17.授業の目的と概要	インバウンドツーリズムとは何か、日本経済におけるインバウンドツーリズムの重要性を理解し、インバウンドツーリズム産業全体を経営学視点において把握をする。インバウンドツーリズムは、成長著しいアジアをはじめとする世界の需要を取り込むことによって、人口減少・少子高齢化が進展する 日本において、交流人口の拡大によって地域の活力を維持し、社会を発展させることに大きく貢献する。また、インバウンドツーリズム産業の核となる旅行業、宿泊業、輸送業、航空・空港業、お土産販売業、フードビジネス業等について、マクロ視点から、それぞれの業界の特徴と問題点の考察した上で、個々の企業をミクロ的な問題をとりあげ、その企業経営のあり方や、将来展望を模索するものとする。インバウンド観光産業は毎年成長し、2019 年には訪日外国人旅行客が3,188 万人を突破し、消費額は4 兆6 千億円にも到達したが、3 年以上コロナ禍で低調が続いた状況を乗り越えて、2 0 2 4 年には訪日外国人 3,186 万人、消費額は 8.1 兆円に達成し最高記録を立てている。特に 2025 年の世界万博の開催と 2029 年 IR が大阪地域に誘致する計画を控えている。ポストコロナを対応する新戦略への大転換の必要である。その時代に合わせた専門知識を持つ人材が必要であろう。 この講義では日本政府が主導する日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成戦略に従うインバウンド人材を育成することを目標としている。					
18.学習目標と DP との関連	この講義では、国家別の人口、民族、宗教、文化、経済指標、海外旅行動向、訪日旅行動向などを統計と調査資料で基づき市場分析し、急激に成長する新しいインバウンド観光の概念と方向性を理解し、実際に実践に対応ができる能力を育てることを目標とする。 ①自分で専門分野を説明できるようにする。 ②外国・外国人について知識とコミュニケーションスキルを鍛える。 ③留学生との授業やグループワークで多様な理解が広がる。 ④観光検定試験の獲得できればエキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	観光ビジネス検定テキスト インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 著者：安田亘宏 観光検定 公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稲之・安田亘宏 著 インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集 編：全日本情報学習振興協会					

	発行：全日本情報学習振興協会	
21.成績評価	毎回のワークシートレポート提出 50 % 期末テストとレポート 40 % e ポートフォリオ 10%	
22.コメント	社会や関連ビジネスにおいて、積極的な姿勢で参加する学生に期待しています。 授業に対して深く理解し、復習や予習の準備など肯定的な姿勢を求めます。 質問する力、聴く力、質問に答える力、続ける力などを身に付けることを期待しています。 授業の中、アクティブラーニングやグループワークの際、積極的に参加することを求めています。	
23.オフィスアワー	金曜日 3 限 事前予約必須	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	1. Presentation 学内外の活動の振り返り、ベンチマークに関する事項 評価 インバウンドツーリズム産業総論について、グローバル 化教育について	テキストとパソコン必修
2 回	観光について、 観光の歴史、 旅行会社の誕生、観光元年、観光立国宣言、 OTA とは 宿泊旅行・日帰り旅行 観光の行政、 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議とは 観光庁、JNTO とは DMO・DMC とは 広域 DMO、地域 DMO、候補 DMO について	テキストとパソコン必修
3 回	旅行業について、 第 1 種旅行業者・第 2 種旅行業者・ 第 3 種旅行業者・地域限定旅行業者 MICE とは（2025 年以後、IR 大阪など） 航空関連、FSC,LCC とは クルーズ関連、 為替（世界通貨）について JNTO（日本観光政府局）について Visit Japan 事業（VJ）	テキストとパソコン必修
4 回	訪日外国人のビザについて ビザ免除国・地域について 多言語対応について、 表記、英語、ピクトラムについて ①施設などの正式表記が決まっている場合はその表記 が優先 インバウンドの課題について	テキストとパソコン必修
5 回	訪日外国人の消費について、 国・地域別 1 人あたりの消費額 国・地域別一人当たりの買い物代 飲食動向、決済について、	テキストとパソコン必修

	インバウンド決済 両替（世界通貨）、 免税について、 消耗品、一般物品の差は 免税店運営、顧客の管理、	
6 回	訪日外国人に対し、ビジネスについて 旅行業について、 ランドオペレーター 着地型旅行商品 OTA（Online Travel Agent） パッケージツアー、ダイナミックパッケージツアー 宿泊業について、 ホテルと旅館の差は シティホテル、ビジネスホテル、 リゾートホテル、民泊、民宿、ペンション、 公共の宿、Air B & B の状況	テキストとパソコン必修
7 回	インバウンドビジネスについて 鉄道ビジネスについて、豪華電車、九州、関西、関東 など 航空ビジネスについて、FSC,LCC、Class 別 道路ビジネスについて、タクシー、 レンタカー（外国人の運転免許証について） 日本で運転できない国、	テキストとパソコン必修
8 回	外国人に対する お土産ビジネス・ショッピングビジネスについて、 受賞する品目紹介 外国人が買い物する場所の順位 飲食ビジネスについて ミシュラン星付きのレストラン 飲食店でのインバウンド対応（決済、言語、PR 方法な ど） 観光施設ビジネスについて 歴史観光資源、現代観光資源、セクレーション施設、 観光施設の SNS PR。 SNS 発信地順位 エンタテインメントビジネスについて 歌舞伎、落語、お相撲、競馬、ナイトタイムエコノミ ー、アンバーバル	テキストとパソコン必修
9 回	外国人に対し 観光案内ビジネスについて 観光案内所の種類、カテゴリ 3、2、1 手ぶら観光カウンター 通訳ガイドについて 地域通訳案内士、観光ボランティアガイド IR 総合型リゾート 通訳支援会社、多言語コールセンター	テキストとパソコン必修
10 回	ニューツーリズム	テキストとパソコン必修

	ニューツーリズムの背景と誕生 エコツーリズム 日本型エコツーリズム ロングスティーロンブスティビザ グリーンツーリズム カルチャーツーリズム Cool Japan	
11 回	産業ツーリズム 産業ツーリズム 3 分類 ヘルスツーリズム メディカルツーリズム ワインツーリズム 酒蔵ツーリズム フードツーリズム スポーツツーリズム コンテンツツーリズム	テキストとパソコン必修
12 日	日本酒について（利き酒師）特別講義 酒蔵ツーリズム 酒サムライとは？ ミス酒とは？ ミスター酒とは？ 酒作り 5.0 について SCM とは 地域社会の関係企業構築で共生関係社会へ 5.0 日本酒と UT とのコラボ T シャツ開発 日本酒世界化へ 発疹の重要性 現在、日本酒輸出状況	テキストとパソコン必修
13 回	訪日外国人旅行社への対応姿勢 中国人旅行者の理解 韓国人旅行者の理解 台湾人旅行者の理解 ベトナム人旅行者の理解 アメリカ ベジタリアン・ムスリムの旅行者の理解 イスラム教徒の義務付けられた 5 つの行為	テキストとパソコン必修
14 回	コロナ時代の外国人旅行者の意識調査 アフターコロナの対応 持続可能な開発 国内旅行回帰・活性化 考える旅行者・考える地域 IT 観光 新しい発想	テキストとパソコン必修
15 回	期末テストとまとめ	テキストとパソコン必修

1.授業コード (ナンバリング)	TOU215-Y51	2.科目名	インバウンド・ツーリズム産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	国際観光における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	観光事業論履修必修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	別になし					
17.授業の目的と概要	インバウンドツーリズムとは何か、日本経済におけるインバウンドツーリズムの重要性を理解し、インバウンドツーリズム産業全体を経営学視点において把握をする。インバウンドツーリズムは、成長著しいアジアをはじめとする世界の需要を取り込むことによって、人口減少・少子高齢化が進展する 日本において、交流人口の拡大によって地域の活力を維持し、社会を発展させることに大きく貢献する。また、インバウンドツーリズム産業の核となる旅行業、宿泊業、輸送業、航空・空港業、お土産販売業、フードビジネス業等について、マクロ視点から、それぞれの業界の特徴と問題点の考察した上で、個々の企業をミクロ的な問題をとりあげ、その企業経営のあり方や、将来展望を模索するものとする。インバウンド観光産業は毎年成長し、2019 年には訪日外国人旅行客が3,188 万人を突破し、消費額は4 兆6 千億円にも到達したが、3 年以上コロナ禍で低調が続いた状況乗り越えて、2 0 2 4 年には訪日外国人 3,186 万人、消費額は 8.1 兆円に達成し最高記録を立てている。特に 2025 年の世界万博の開催と 2029 年 IR が大阪地域に誘致する計画を控えている。ポストコロナを対応する新戦略への大転換の必要である。その時代に合わせた専門知識を持つ人材が必要であろう。 この講義では日本政府が主導する日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成戦略に従うインバウンド人材を育成することを目標としている。					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では、国家別の人口、民族、宗教、文化、経済指標、海外旅行動向、訪日旅行動向などを統計と調査資料で基づき市場分析し、急激に成長する新しいインバウンド観光の概念と方向性を理解し、実際に実践に対応ができる能力を育てることを目標とする。 ①自分で専門分野を説明できるようにする。 ②外国・外国人について知識とコミュニケーションスキルを鍛える。 ③留学生との授業やグループワークで多様な理解が広がる。 ④観光検定試験の獲得できればエキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	観光ビジネス検定テキスト インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 著者：安田亘宏 観光検定 公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稻之・安田亘宏 著 インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集 編：全日本情報学習振興協会					

	発行：全日本情報学習振興協会	
21.成績評価	毎回のワークシートレポート提出 50 % 期末テストとレポート 40 % e ポートフォリオ 10%	
22.コメント	社会や関連ビジネスにおいて、積極的な姿勢で参加する学生に期待しています。 授業に対して深く理解し、復習や予習の準備など肯定的な姿勢を求めます。 質問する力、聴く力、質問に答える力、続ける力などを身に付けることを期待しています。 授業の中、アクティブラーニングやグループワークの際、積極的に参加することを求めています。	
23.オフィスアワー	金曜日 3 限 事前予約必須	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	1. Presentation 学内外の活動の振り返り、ベンチマークに関する事項 評価 インバウンドツーリズム産業総論について、グローバル 化教育について	テキストとパソコン必修
2 回	観光について、 観光の歴史、 旅行会社の誕生、観光元年、観光立国宣言、 OTA とは 宿泊旅行・日帰り旅行 観光の行政、 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議とは 観光庁、JNTO とは DMO・DMC とは 広域 DMO、地域 DMO、候補 DMO について	テキストとパソコン必修
3 回	旅行業について、 第 1 種旅行業者・第 2 種旅行業者・ 第 3 種旅行業者・地域限定旅行業者 MICE とは（2025 年以後、IR 大阪など） 航空関連、FSC,LCC とは クルーズ関連、 為替（世界通貨）について JNTO（日本観光政府局）について Visit Japan 事業（VJ）	テキストとパソコン必修
4 回	訪日外国人のビザについて ビザ免除国・地域について 多言語対応について、 表記、英語、ピクトラムについて ①施設などの正式表記が決まっている場合はその表記 が優先 インバウンドの課題について	テキストとパソコン必修
5 回	訪日外国人の消費について、 国・地域別 1 人あたりの消費額 国・地域別一人当たりの買い物代 飲食動向、決済について、	テキストとパソコン必修

	インバウンド決済 両替（世界通貨）、 免税について、 消耗品、一般物品の差は 免税店運営、顧客の管理、	
6 回	訪日外国人に対し、ビジネスについて 旅行業について、 ランドオペレーター 着地型旅行商品 OTA（Online Travel Agent） パッケージツアー、ダイナミックパッケージツアー 宿泊業について、 ホテルと旅館の差は シティホテル、ビジネスホテル、 リゾートホテル、民泊、民宿、ペンション、 公共の宿、Air B & B の状況	テキストとパソコン必修
7 回	インバウンドビジネスについて 鉄道ビジネスについて、豪華電車、九州、関西、関東 など 航空ビジネスについて、FSC,LCC、Class 別 道路ビジネスについて、タクシー、 レンタカー（外国人の運転免許証について） 日本で運転できない国、	テキストとパソコン必修
8 回	外国人に対する お土産ビジネス・ショッピングビジネスについて、 受賞する品目紹介 外国人が買い物する場所の順位 飲食ビジネスについて ミシュラン星付きのレストラン 飲食店でのインバウンド対応（決済、言語、PR 方法な ど） 観光施設ビジネスについて 歴史観光資源、現代観光資源、セクレーション施設、 観光施設の SNS PR。 SNS 発信地順位 エンタテインメントビジネスについて 歌舞伎、落語、お相撲、競馬、ナイトタイムエコノミ ー、アンバーバル	テキストとパソコン必修
9 回	外国人に対し 観光案内ビジネスについて 観光案内所の種類、カテゴリ 3、2、1 手ぶら観光カウンター 通訳ガイドについて 地域通訳案内士、観光ボランティアガイド IR 総合型リゾート 通訳支援会社、多言語コールセンター	テキストとパソコン必修
10 回	ニューツーリズム	テキストとパソコン必修

	ニューツーリズムの背景と誕生 エコツーリズム 日本型エコツーリズム ロングスティーロンブスティビザ グリーンツーリズム カルチャーツーリズム Cool Japan	
11 回	産業ツーリズム 産業ツーリズム 3 分類 ヘルスツーリズム メディカルツーリズム ワインツーリズム 酒蔵ツーリズム フードツーリズム スポーツツーリズム コンテンツツーリズム	テキストとパソコン必修
12 日	日本酒について（利き酒師）特別講義 酒蔵ツーリズム 酒サムライとは？ ミス酒とは？ ミスター酒とは？ 酒作り 5.0 について SCM とは 地域社会の関係企業構築で共生関係社会へ 5.0 日本酒と UT とのコラボ T シャツ開発 日本酒世界化へ 発疹の重要性 現在、日本酒輸出状況	テキストとパソコン必修
13 回	訪日外国人旅行社への対応姿勢 中国人旅行者の理解 韓国人旅行者の理解 台湾人旅行者の理解 ベトナム人旅行者の理解 アメリカ ベジタリアン・ムスリムの旅行者の理解 イスラム教徒の義務付けられた 5 つの行為	テキストとパソコン必修
14 回	コロナ時代の外国人旅行者の意識調査 アフターコロナの対応 持続可能な開発 国内旅行回帰・活性化 考える旅行者・考える地域 IT 観光 新しい発想	テキストとパソコン必修
15 回	期末テストとまとめ	テキストとパソコン必修

1.授業コード (ナンバリング)	TOU218-Y81	2.科目名	観光イベント論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	3 年生～
10.取得資格の要件				11.先修条件	ありません。
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	冬学期・集中講義（2月3日～9日予定）
16.履修制限	ありません。				
17.授業の目的と概要	【目的】 イベントには万博など国家的な催しから、お店の販促など幅広い催しの意味です。交通機関が発達した近代社会では、大規模イベントが観光客を集めました。様々なイベントは観光客と主催者や会場の街の人々との交流を進め、町に活気を与える有効な手法となりました。今でも観光客を集めるためにいろいろなイベントが企画されます。その企画力をつけるため、観光イベント論を学びます。「観光とイベントの歴史を学び、集客を企画立案する術を身に付ける」 【概要】 万博は観光イベントの始まりです。多くの人に産業革命の成果を見てもらおうという英国アルバート公の発意でした。その後、見てもらうものは次々と変わりました。工業製品があれば手工芸品があり、美術や音楽、演劇やスポーツのイベントが増えました。オリンピックやワールドカップも大成功したイベントです。一時は MICE(Meeting, Incentive Tour, Conference & Event)を誘致すること集客しようとしていましたが、インバウンドが増えた日本ではあまり言われなくなりました。世界中でイベントが増え、魅力のない土地でイベントをしても人が集まらなくなりました。また、コロナ禍で出かけなくても済むことも分り、今後のイベントづくりは難しくなりました。				
18.学習目標と DPとの関連	【この科目の学習目標】 観光イベントの歴史を知り、自分が企画する際に基準とする体系を身に付ける。 【DPとの関係】 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。				
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回：観光 イベントとは	この授業では観光イベントのお話をします。イベントとプロモーション、新しい言葉のように聞こえます			アサインメント：どんなイベントがあるか述べて下さい、	

何か	すが、実は昔からあります。イベントがあったから人は旅行に出かけたのです。団体旅行はイベントに行く音でした。	事前学習：観光イベントにはどんな種類があるか述べて下さい。
第2回：観光イベントの歴史①、団体旅行のために	そもそも観光旅行はイベントを目指していました。中世のキリスト教世界では、聖年などの宗教的なイベントが巡礼を集めました。近代の団体旅行は、日曜日の信者を集めた教会活動としてピクニックに出かけたのが最初です。その主宰者トーマス・クックが次に鉄道でロンドン万博に連れ出して観光ビジネスが発展しました。万博こそ最初の観光イベントです。	事前学習：日本の明治時代にできたイベントを二つ挙げて下さい。
第3回：観光イベントの歴史②、大規模イベントの誕生	1951年のロンドン万博に続いて、パリやニューヨーク、シカゴに広がり、鉄道やホテルが発達した大都市の大規模イベントに国中から人があつまり、国境を越えた観光旅行が増えました。日本も参加したパリ万博では、産業革命の成果、数々の工業製品、欧米諸国が領有した植民地の産物、そして美術品が展示され、遠くに観光旅行できない市民も旅に出た気分を味わいました。中でも日本の工芸品は愛され、競って買い求められました。	アサイメント：鉄道での団体旅行の始まりを述べて下さい。
第4回：観光イベントの歴史③、日本のイベントと観光	明治維新で世界との交流が始まった日本でも、万博を真似て、国際的イベントではありませんでしたが、内国博覧会が東京や京都、大阪で毎年のように開催されました。パリやニューヨークの万博に出品する工芸品を選ぶための展示と言われましたが、全国各地の品々が集まり、多くの人が見学に押し寄せました。日本の観光イベントの始まりです。	アサイメント：日本が出展した商品を述べて下さい。
第5回：万博の歴史とその内容の変遷	世界中に広がった万博の歴史とその内容の変遷を整理してみます。その後の観光イベントのすべてが始まっています。展示施設となった大きな建物、エッフェル塔、温室、エレベータやエスカレータ、市電やモノレール、日本で最初に開かれた大阪万博でも珍しい品々、機会やロボットが展示されました。月の石もありました。	アサイメント：1970年の大阪万博の会場はどこでしょう。その場所が今どうなっているか述べて下さい。
第6回：万博からビエンナーレへ、ヴェネツィアビエンナーレの成功	いろいろな企画が集まっていた万博の中から、美術だけを抜き出して始まったのが、ヴェネツィア・ビエンナーレです。ヴェネツィアは中世から19世紀まで、地中海貿易で栄えた海洋都市国家でした。それがナポレオン戦争以降フランスに占領され、ウィーン講和会議でオーストリア領、19世紀のリソルジメントで統一イタリアに復帰し、地方都市になりました。しかし、経済的に衰退し、その復興のための観光イベントが、有名なビエンナーレです。大きな成功を修め、今も続いています。	アサイメント：ヴェネツィアについて調べて下さい。
第7回：大阪万博の成功、2025年万博の計画	1970年の大阪万博は、1964年の東京オリンピックに匹敵する大規模な観光イベントでした。大成功を修め、今もよく語られます。そして、その栄光をもう一度と2025年には関西大阪万博が計画されています。	アサイメント：2025年関西大阪万博で何が展示されるか調べて下さい。
第8回：美術	ヴェネツィア・ビエンナーレは、その後ダンスや映	アサイメント：日本国内の美術イベントを調

系イベントの世界、ドグメンタ他、	画、建築の展覧会に発展しましたが、やはり美術史に残る重要なイベントとして、常に世界の観光客を集めました。それを真似た音楽や美術のイベントが世界各地に広がりました。ドイツの小さな都市、カッセルではドグメンタが1955年から続いています。ビエンナーレが二年おきならドグメンタは五年おきの美術展です。	べて下さい。
第9回：ミラノ・トリエンナーレ	ミラノ・トリエンナーレは三年おきのイベントです。現在では、世界で最も多くの観光客を集めるイベントとして知られます。1923年にモンツァで装飾芸術のビエンナーレとして始まり、1930年からトリエンナーレとなり、ミラノは1933年から。デザイン・ファッション・建築・都市計画・メディアアートなど、産業と芸術に跨る大イベントです。	アサイメント：ミラノについて調べて下さい。
第10回：2017年のミラノ・世界の食の博覧会	そのミラノで、2017年世界の食の博覧会が開かれました。食をテーマにした初めての取組みでした。イタリアでは、すでにスローフード運動が広がり、トリノで畜産や農産物が、ジェノバでは海産物のスローフード展覧会があったので、それを世界に広げたものです。日本からも出展しただけでなく、多くの観光客がミラノに押し寄せました。	アサイメント：なぜ食文化が人気か調べて下さい。
第11回：音楽イベント、バイロイト音楽祭の誕生と成功	美術と並んで、音楽イベントも重要です。その始めは、バイロイト音楽祭です。ドイツのバイエルン州北部の小さな町バイロイトの祝祭劇場で毎年7月から8月に行われるワーグナーの楽劇の祭典です。1876年に始まりました。その後、世界各地ではジャズやロックの音楽フェスティバルが開かれるようになりました。	アサイメント：ワグナーの楽劇のタイトルを挙げて下さい。
第12回：音楽イベント、ジャズフェスやロックフェスティバル	クラシック音楽の祭典は今や世界100カ所以上で開かれています。この他、ジャズ、レゲエ、ロック、それに日本ではアニメソングのフェスティバルがあり、やはり多くの観光客が集まる音楽イベントとして定着しています。日本には、ヤマハという世界最大の楽器メーカーがあり、若者を音楽の消費者と捉え、盛んにポップコンを開いた時期がありました。	アサイメント：レゲエとはどんな音楽家述べて下さい。
第13回：日本各地の観光イベント	世界や日本国内で成功した数々のイベントを見て、各地で観光イベントが盛んになりました。とはいっても、すべてが成功している訳ではありません。B級グルメとか成功したものもありますが、ヴェネツィア・ビエンナーレのように長く続くものはありません。それに比べ、伝統の祭典、昔ながらのお祭りは今も盛んです。	アサイメント：今まで参加したことのある国内のイベントを挙げて下さい。
第14回：観光イベントの企画の仕方	失敗も多い観光イベントですが、その企画の仕方を考えてみます。地元の人がやりたいイベントの多くは、地元の都合、観光客や消費者にあまり評価されないことが多くあります。プロダクト・オリエンティッドではだめだとよく言われます。その反対、マーケット・オリエンティッドな発想はどうすればできるか、マー	アサイメント：外国人が好む観光イベントにはどんなものがあるでしょう。

	ケティングを考えます。	
第 15 回：観光 イベント論の 振り返り、 人々はなぜ集 まるのか。	授業で紹介した様々な観光イベントを振り返り、なぜ人々が集まったか考えてみましょう。ロンドン万博の時代、イギリスは世界に植民地をもち、その土地に出かける人も多くいました。そのために、自分が行ったことがなく、行っては見たいけれど遠いからいけない人たちのニーズがありました。今では直接出かけることもできますが、それでも博覧会は開かれます。そこにはいろいろな工夫があるのです。	アサイメント：授業で述べたイベントを列記しなさい。 事前学習：観光とは何か述べて下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU219-Y51	2.科目名	プロトコル特別演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	近年インバウンド需要の増加により、日本を訪れる外国人の数が増加しているが、外国人をうけ入れるためのマナーについては一般的な理解を得ているとはいいい難い状況にある。本講義では、国際儀礼や異文化への理解を深め、外国人訪問者に対する適切な対応やマナーを習得する事を目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）と（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○プロトコルの基礎知識を理解できる。 ○プロトコルの歴史と常識を理解できる。 ○プロトコルの国際社会における価値を生かす実践できる。					
19.教科書・教材	Webclass でプリントを配布する https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/protocol/index.html					
20.参考文献						
21.成績評価	総合評価は、ワークシートと小レポート、学期末に行うレポートで評価する。 ワークシート 40%、小レポート 20%、期末レポート 40% ① 生成 AI 利用に関して、■条件付きで認めます。AI 生成された内容のコピーは認められません。 ② 成績評価に関わる課題・レポートについて、AI 生成を利用する内容は、提出物の分量の 50%以下であること、且つ自らパラフレーズ、編集を加えていることを条件とします。					
22.コメント	授業の内容は前後したり変更したりする場合があります。					
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日 3 限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション					
	習慣・風習・儀礼などについて（1）			ワークシート作成&提出		
	習慣・風習・儀礼などについて（2）			ワークシート作成&提出		
	プログラム・イベント・贈り物などについて（1）			ワークシート作成&提出		
	プログラム・イベント・贈り物などについて（2）			ワークシート作成&提出		
	食事・パーティー・テーブルマナーなどについて（1）			ワークシート作成&提出		
	食事・パーティー・テーブルマナーなどについて（2）			ワークシート作成&提出		
	招待状・席次・座席割りなどについて（1）			ワークシート作成&提出		
	招待状・席次・座席割りなどについて（2）			ワークシート作成&提出		
	敬称・呼称などについて（1）			ワークシート作成&提出		
	敬称・呼称などについて（2）			ワークシート作成&提出		
	国旗の掲揚、取り扱いなどについて（1）			ワークシート作成&提出		

	国旗の掲揚，取り扱いなどについて（２）	プレゼンテーションを準備する
	プレゼン発表日	振り返りワークシートを書く
	振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU220-Y01	2.科目名	ホテル実務		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	講義と演習、数回は見 学と調査	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバル・コミュニケーション学科、観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	グローバル・コミュニケーション学科（前半 の春学期は観光学科「ホテル産業論」2 単位 と同じ内容です。後半の秋学期は同「ホテル 実務」2 単位と同じ内容です。あわせて 4 単 位です）、観光学科（後半の秋学期分 15 回が 観光学科「ホテル実務」2 単位です）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：この科目の目的は、外資系ホテルの進出や DX の進展、顧客のニーズの変化などにより、大きな変革期にあるホテルビジネスのトレンドを捉えるとともに、直近の経営形態やセールス & マーケティング、宿泊、料飲等の実務を学習しさらに今後の在り方を考察することにある。 概要：講義の前半は最近のホテル等宿泊施設のトレンドについて学ぶとともに、この 10 年で大きく変化した所有と運営の在り方について学習する。特に「所有と運営の分離」という大きなトレンドにより生まれた「アセットマネジメント」と「プロパティマネジメント」について、それぞれの役割・機能を学び、このトレンドが今後ホテルビジネスへどのような影響を及ぼすか考察する。後半はホテルビジネスの基本領域であるセールス & マネジメント、宿泊、料飲、管理（総務・経理・施設）についてそれぞれの機能・組織を把握し、それぞれの収益貢献や相互補完性について学ぶ。最後にホテル業界へのキャリアを志向した場合のホテル側の人材システムやキャリアデザインについて概説する。 講義は中央経済社の「ホテル・ビジネス・ブック」を教材として使用するが、購入する必要はなく適宜資料を提供する。当該科目では受け身だけの講義とはせず、実習を組み合わせ、講義で学んだことを実習で分析・考察するアクティブラーニングを通じて理解を深める。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、学科の DP の（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力に該当し、主眼はホテル実務への理解深化と応用力の醸成にある。 ①ホテルビジネスの基礎である経営・組織収益構造の学習と、事例研究を通じ各ホテルの経営戦略など経営の実務を学ぶ→（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ②ホテル実務の基本となるセールス & マーケティング、宿泊、料飲、管理の学習を通じてその応用と課題解決を習得する→（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ③受講生が自ら顧客側の立場に立ち、OTA の登録・仮定利用を行うなど講義内で様々な課題を実施する。またフィールドワークの実施により地域市場の把握と競合や競争力について考察を行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ④講義内で上記③記載の提案型課題を課し、その成果について発表するとともに小グループで協議・評価を行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	中央経済社 仲谷秀一、テイラー雅子、中村光信?共著「ホテル・ビジネス・ブック」 * 購入の必要はない。適宜資料を提供します。					
20.参考文献	オータパブリケーション 福永健司 著 「総支配人の教科書（ホテルマネジメントの要諦）」 嵯峨野書院 杉原淳子 「新ホテル運営戦略論」					
21.成績評価	1. 課題レポート及び期中での学習成果チェック 40％ 2. 講義及びワークの参加態度・発表内容 30％					

	3. 最終課題レポートとプレゼンテーション 30% 定期試験は行わず、上記最終課題レポート及びプレゼンテーションが定期試験同等の評価となる。 また単位認定には最終課題だけではなく講義内で課す課題レポートの期限内提出が要件となる。	
22.コメント	PC 持参が必須	
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース (研究室/3-308)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	・ イントロダクション - ホテルの業態とカテゴリー① ・ ホテルの業態とカテゴリー②	・ 講義内課題 - ビジネスホテルの予約検索等
第 3 回 第 4 回	- ホテルの経営形態① - ホテルの所有と運営形態 - ホテルの経営形態② - ホテルの組織と構造	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 - リゾートホテルの顧客満足度
第 5 回 第 6 回	- ホテル実務 事業部門別の業務① - 宿泊部門 - ホテル実務 事業部門別の業務② - 料飲部門	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題及び次回への課題 - ホテルの運携帯を調べる
第 7 回 第 8 回	- ホテル実務 事業部門別の業務③ - セールス & マーケティング - ホテル実務 事業部門別の業務④ - 管理部門 (総務、経理・財務、施設)	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 - 講義名に告知
第 9 回 第 10 回	- 人事システムとキャリアデザイン - 学習成果の確認	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 - 講義内に告知
第 11 回 第 12 回 第 13 回	フィールドワーク	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 - 講義内で告知
第 14 回 第 15 回	- 再 h 数課題の説明と作業 - 最終課題の提出及びプレゼンテーション - 振り返り	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 - 講義内告知
第 16 回 第 17 回	・ イントロダクション、ホテルのカテゴリー ・ ホテル業界の概要と動向 ・ ホテルの組織と構造	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および時価への課題 - 講義内で告知
第 18 回 第 19 回	- ホテルの収益構造とシステム ＜ホテルの組織・部門の役割と機能＞ - 宿泊部門 (フロント・ハウスキーピング)	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 ・ 学習成果レビュー
第 20 回 第 21 回	- 料飲部門 (宴会・ブライダル、飲食施設) - セールス & マーケティング	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 ・ 学習成果レビュー
第 22 回 第 23 回	- 管理部門 (総務、経理、施設管理) - 総支配人 (GM) の仕事	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 ・ 学習成果レビュー
第 24 回	フィールドワークの準備	調査のレビュー・まとめ

第 25 回 第 26 回	龍野城下町と町屋ホテル「kurasu」調査と体験 フィールドワーク	調査レポートの作成と提出
第 27 回 第 28 回	フィールドワーク振り返り（調査概要の発表） プレゼンテーションの準備	最終課題の作成とプレゼン準備
第 29 回 第 30 回	プレゼンテーション プレゼンテーション、振り返り	講義の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	TOU221-Y81	2.科目名	M I C E ・ I R 概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループ ディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：M I C E とは何か、I R とは何かを理解するとともに、そのメリット・デメリットと、日本と世界におけるこれまでと今後を概観します。 概要：MICE(Meeting, Incentive, Convention, Exhibition / Event)、IR(Integrated Resort)は、ともにこれからの社会・観光ビジネスを語るうえで、もっとも重要な概念と言えます。オリンピックを含むスポーツイベント、万博などの博覧会、日々各地で行われている展示会など、具体例を用いてM I C E のメリット・デメリットを理解します。 後半のグループワークでは、I R について、大阪府・市が候補地として立候補している大阪 I R 計画について研究し理解を深めます。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。M I C E や I R について専門的な知識を習得し、それを具体的な社会・観光ビジネスに当てはめ活用できるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ?対象回の「提出課題」 8 点 （各回 2 点 x 4 回） ?対象回の「授業のまとめシート」 13 点（各回 1 点 x 8 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 29 点 （各回 7 点 x 3 回、4 回目のみ 8 点） ?総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：M I C E 、 I R とは これまで国内外で行われてきたM I C E 、 I R に関わる出来事を紹介し、それらがどのようなものかについてイメージを掴んでいただきます。			予習：最近関心を持ったイベント（スポーツイベント、音楽コンサートなど）を書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：M I C E 、 I R の言葉の意味を振り返る		
第 2 回	講義：イベントとは M I C E の「E」であるイベント（Event）について、その内容とメリット・デメリットを理解します。 グループワークを始めます。これまで国内で行われた博覧会について、その効果と弊害をまとめていただきます。			提出課題：これまで日本国内で行われた博覧会を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行		

第3回	グループワーク：博覧会についてまとめよう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第4回	プレゼンテーション：博覧会についてまとめよう 講義：国内博覧会の歴史と功罪 これまでに国内で行われた博覧会について概観し、そのメリットとデメリットについて考察します。また、2025年に予定されている大阪・関西万博についても解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第5回	講義：展示会、コンベンションとは MICEの「E」である展示会（Exhibition）、MICEの「C」であるコンベンション（Convention）について、具体例に沿って解説します。	提出課題：展示会が行われる会場を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：展示会・コンベンションの言葉の意味を振り返る
第6回	フィールドワーク：展示会を覗いてみよう 神戸市内の展示会場で行われている展示会を現地見学します（日程によっては、WEBもしくは映像での見学となります）	予習：見学する展示会の内容について調べて書き出してくる 授業のまとめシート：不要 復習：見学した展示会の感想をまとめる
第7回	講義：インセンティブとは MICEの「I」であるインセンティブツアー（Incentive Tour）について、その意味と意義を解説します。 2回目のグループワークを始めます。USJなどテーマパークを舞台として、特別なインセンティブツアーを企画してください。	提出課題：東京ディズニーランドの「バケーションパッケージ」について、その内容と値段を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第8回	グループワーク：インセンティブツアーを企画しよう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第9回	プレゼンテーション：インセンティブツアーを企画しよう 講義：MICEのまとめ ここまで具体例とともに学んできたMICEについてまとめて解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第10回	講義：IRとは IRの意味、歴史、メリット・デメリットについて解説します。 3回目のグループワークを始めます。候補地として大阪府・市が立候補を表明している大阪IR計画について、予想される効果とリスクをまとめていただきます。	提出課題：大阪IR計画について調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第11回	グループワーク：大阪IRの効果とリスク グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第12回	プレゼンテーション：大阪IRの効果とリスク（中間発表）	予習：グループで課題を発表できる状態にする

	ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。教授からのコメントを受けて、次回の最終発表に向けてさらに議論を深めてください。	授業のまとめシート：不要 復習：教授からのコメントを受けて、さらに議論を深める
第 13 回	プレゼンテーション：大阪 I R の効果とリスク（最終発表） 講義：I R のまとめ ここまで具体例とともに学んできた I R についてまとめて解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回	まとめと統括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	提出課題：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 倍加点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	TOU223-Y51	2.科目名	旅行業演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史、小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野 の実務経験がある教員 による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、15名までとします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得を目的とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 国家試験は、毎年9月に実施されます。 特に観光業界に就職を目指すスキルとして修得することが重要な科目です。 【概要】 JR 運賃・料金、国内航空運賃・料金、貸切バス運賃・料金、フェリー運賃・料金、旅館・ホテルの宿泊料金などに関する解説をします。 講義は、教科書に添ってパワーポイントを使用して行います。また、理解度チェックのために、練習問題を毎回してもらいます。計算問題が中心となりますので、予習復習は計画的・継続的に行う必要があります。					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②各種運賃・料金の算出方法について理解すること。 ③国内旅行に関する知識を修得することで、観光関連産業の理解を深める。 関連する DP は、「専門知識・技術の活用力」です。					
19.教科書・教材	* 旅行実務シリーズ 国内旅行実務 「国内運賃・料金」 (発行: JTB 総合研究所) * 資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	* JR 時刻表 * 全国旅行業協会 (ANTA) の HP					
21.成績評価	* 総括試験 (筆記) 60% (学習目標の①、②、③に対応) * 理解度確認テスト (筆記/3回) 30% (学習目標の①、②、③に対応) * 練習問題 (各授業) 10% (学習目標の①、②、③に対応)					
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める (生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること) ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)					
23.オフィスアワー	火曜3コース(学修支援センター)、火曜4コース (研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション (授業の目的、計画、評価、資格					

	取得などの説明)	
第 2 回	JR 旅客営業規則、乗車券類の概要	教科書：旅客営業規則の概要、乗車券類発売の概要を熟読
第 3 回	JR 運賃計算①	教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例を熟読
第 4 回	JR 運賃計算②	教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例、運賃の効力・割引の熟読
第 5 回	JR 料金計算①	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取扱いを熟読
第 6 回	JR 料金計算② 第 1 回理解度確認テスト	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取扱い、第 5 回までの分野を熟読
第 7 回	JR 券の変更、取消し、払戻しなど	教科書：変更、払戻し、運行不能、遅延を熟読
第 8 回	JR 団体乗車券	教科書：団体乗車券の取扱いを熟読
第 9 回	JR 特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方	教科書：特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方を熟読
第 1 0 回	国内航空運賃・料金① 第 2 回理解度確認テスト	教科書：航空分野を熟読、第 6 回～第 9 回までの内容を復習
第 1 1 回	国内航空運賃・料金②	教科書：航空分野を熟読
第 1 2 回	貸切バス運賃・料金	教科書：貸切バス分野を熟読
第 1 3 回	フェリー運賃・料金	教科書：フェリー分野を熟読
第 1 4 回	宿泊料金 第 3 回理解度確認テスト	教科書：宿泊分野を熟読、第 1 0 回～第 1 3 回の内容を復習
第 1 5 回	まとめ、総括試験	教科書：全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	TOU304-Y51	2.科目名	ツーリズム事情Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小泉園栄					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	無し		11.先修条件	T40～		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	秋学期					
17.授業の目的と概要	The goal of the course is to introduce students to the Tourism Industry, in an international and domestic context					
18.学習目標と D P との関連	Learning goals: 1. Introduce students to the tourism industry, sectors, structure, and roles 2. Learn practical English for tourism industry 3. Learn about Japan’s inbound & outbound markets 4. Learn about attractions and activities					
19.教科書・教材	No textbook is required for this course. Materials will be provided by the teacher. Writing materials, notebook and laptop required.					
20.参考文献	Welcome! English for the travel and tourism industries					
21.成績評価	Vocabulary test (20%) Motivation (20%) Role play (10%) Assignment & Presentation (20%) Exam 30%					
22.コメント	You will need to use English when taking to client, tourists, guests, visitors, customers or passengers. You will learn a wide range of different travel and tourism jobs and situations: hotels/ restaurants/cafes and bars/travel agencies/ tour operators/ information officers'/airlines/ cruise liners and ferries/ rail and road transport/ leisure facilities.					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	1-1 Introductions, course outline Around the world trip 1-2 Working in travel and tourism			Vocabulary check		
Week 2	2-1 Being friendly and helpful 2-2 At Japanese Ryokan Being friendly and helpful			Vocabulary check		
Week 3	3-1 Dealing with enquiries 3-2 Different way of traveling			Vocabulary check		
Week 4	4-1 Asking questions			Vocabulary check		

	4-2 Taking a booking	
Week 5	5-1 The best way to get there Reading time tables 5-2 Organizing a trip	Vocabulary check
Week 6	6-1 Dealing with complaints Is there anything I can do? 6-2 Dealing with complaints Unreasonable or unjustified complaints	Vocabulary check
Week 7	7-1 Better safe than sorry Traveler safety tips 7-1 Difficult customers.	Vocabulary check
Week 8	8-1 Seeing the sights 8-2 Making suggestions and giving advice	Vocabulary check
Week 9	9-1 Using the phone 9-2 How may i help you?	Vocabulary check
Week 10	10-1 Answering enquiries 10-2 Taking messages	Vocabulary check
Week 11	11-1 Responding to enquiries 11-2 Confirming reservations	Vocabulary check
Week 12	12-1 Avoiding mistakes 12-2 Apologies	Vocabulary check
Week 13	13-1 Reservations 13-2 Checking in / Facilities	Vocabulary check
Week 14	14-1 Facilities 14-2 Giving information	Vocabulary check
Week 15	15-1 End Semester Test 15-2 Review	No homework

1.授業コード (ナンバリング)	TOU305-Y51	2.科目名	航空実務（観光学科）		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 専攻コア	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生または 3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	航空産業論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この講義ではエアラインビジネスを基盤として、大手航空会社の経営戦略と台頭著しい L C C の戦略について学びます。 【概要】 先ず大手航空会社の戦略を学びます。特に現代の国際線を運航する大手航空会社（FULL SERVICE AIRLINE=FSC)のネットワーク戦略の基本と他エアラインとの提携戦略について理解します。また、マイレージやコストマネジメントなどの企業戦略について、そのポイントをレストラン経営など身近な例から解説します。後半はローコストキャリア（LCC)の経営についてその特徴と具体的なコスト削減の活動内容を学ぶことができます。そして L C C が F S C とは全く異なるビジネスモデルであることを講義により解説します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(2)社会的貢献性】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 本科目の学習目標は以下のとおりです。 ①大手航空会社の基本的な経営戦略について学ぶことができる。特に航空会社の商品である航空路線の展開に関するネットワーク戦略について基本的な考え方を学ぶことができる。 ②在庫が出来ない商品を扱う航空会社の収入戦略、コストマネジメント、マイレージなどの顧客戦略について、レストランの経営を例題に詳しく解説し、その基本的な戦略を学ぶことができる。 ③躍進著しいローコストキャリア（L C C）のビジネスモデルについて学ぶことができる。 ④最新の航空会社の経営状況や戦略について学ぶことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献	航空産業入門（第 2 版） 発行：東洋経済新報社					
21.成績評価	①授業理解度（講義への理解）・・・40 点 （講義を理解し、講義中にポイントを掴み、配布する資料に要点を記入する。※学習目標①、②、③に対応 ②個人ワークおよびグループワーク・・・15 点 （講義の中で個人ワークおよびグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点 （講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる）※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	航空実務では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、航空会社の経営戦略を学びます。ANA や JAL に代表される大手航空会社の戦略と台頭著しい L C C（ローコストキャリア）の戦略を比較していきます。 生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー	火曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第2回】	講義 エアラインの特性とコロナ危機 エアライン事業の特性ならびにコロナ危機の影響について説明し、今後のエアライン事業の将来性について考察する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義 ハブ＆スポーク戦略とアライアンス 現在の大手航空会社が採用するハブ＆スポーク戦略を詳述し、また、その戦略を更に深めるハブ空港における対応や海外他社との提携（アライアンス）の必要性について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義 レベニューマネジメント戦略 航空産業の特性を踏まえ、座席管理の仕組みと価格との連動について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認小テストに備えてここまでの振り返り
第5回	講義 マイレージ戦略 エアラインが進めるマイレージ戦略を中心とした対顧客サービスについてケーススタディにより説明し、その戦略について考察する。 第1回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第6回	講義 生産性の向上とコストマネジメント 航空機の購入など多額の固定費を負担するエアラインにおけるコストマネジメントとIT導入などによる生産性向上の仕組みを解説する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】	講義 職掌制度と人材マネジメント 労働集約型産業であるエアラインの様々な職種の役割とその人材要件を解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	講義 安全管理 エアラインにとって必須命題である安全運航について、その具体的な内容を詳述する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	講義 貨物事業戦略 旅客運送とは異なり、コロナ拡大下においても収入を確保している航空貨物事業と貨物のオペレーションについて説明する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第2回確認小テストに備えてここまでの振り返り
【第10回】	講義 LCCの誕生と成長 LCCが誕生した背景について米国における規制緩和と関連して解説する。またその後のLCCの急成長の理由を掘り下げて考察する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】	講義 LCCの戦略① LCCにおけるオペレーションにおける様々なコスト削減の仕組みを学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	講義 LCCの戦略② LCCにおける予約販売およびアンシラリー収入に関する様々な活動について学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義 LCCのビジネスモデル LCCは単なるコスト削減ではなく、大手航空会社とは全く異なるビジネスモデルを実現していることを説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

	明する。	
【第 1 4 回】	講義 エアラインを取り巻く現状と課題 現代の航空会社を取り巻く現状、例えば脱炭素化社会に向けた現状などにや空飛ぶ車などについて国土交通省の資料を基に解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第 3 回確認小テストに備えてここまでの振り返り
【第 1 5 回】	講義 エアラインのオペレーション エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第 3 回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	TOU309-A51	2.科目名	インバウンド商品企画演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	経営 2 年		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	本講義では、インバウンド観光の活性化を目的として、地域の観光資源を発掘し、SNS を通じて世界に発信する方法を学びます。近年、SNS、特に YouTube や Instagram を活用した観光情報の発信が主流となっており、観光客はこれらのメディアを通じて旅行情報を収集しています。そこで、各地域の観光資源や魅力を効果的に伝えるために、旅行プランの企画からコンテンツ制作に至るまでを実践的に学びます。 学生はグループ単位で、地域の観光地や特産品を紹介する旅行プランを立案し、それを基に観光 PR 動画を制作します。動画編集アプリを使用した編集技術、音楽や字幕の挿入方法、映像フローの完成度を高めるスキルを習得し、最終的には実際の地域向けにコンテンツ提供ができる能力を身につけます。 本演習を通じて、SNS 時代における観光マーケティングの基礎を理解し、地域の観光業活性化に貢献できる実践的なスキルを習得することに目的とする。					
18.学習目標と DP との関連	この講義では指定地域の観光地を把握した上、観光地の魅力、ストーリー、グルメ、体験などに基づき、旅行プランを作って写真と動画を編集する。実際のコンテンツを仕上げをして、指定地域へ提供し、HP,Instagram にアップロードして、世界へ発信することを目標とする。 ① 自分で指定地域の観光魅力を発掘することでキーワードをピックアップすることができる ② PR したい場面を企画し、旅行プランづくりができる。 ③ 留学生とのグループ活動でコミュニケーションスキルを高める。 ④ 旅行プランと動画の編集をすることでエキスパートの専門性を身につけることができる ⑤ 完成品をアップロードして、結果を見ることに観光コンテンツの底力の理解ができる。					
19.教科書・教材	SNS／Youtube/TikTok/Instargram などの動画を参考にする。					
20.参考文献	各地域のサイトにアップロードされた公式 PR 動画 SNS／Youtube/TikTok/Instargram などの動画を参考にする。					
21.成績評価	コンテンツ学習事前学習、実践学習、編集学習 過程評価→ 30％ グループ別 コンテンツ発表→ 30％ 個人別活動報告コンテンツ発表（1 分映像） 期末テスト→ コンテンツ完成品提出・e ポートフォリオ → 30％					
22.コメント	毎回の授業に積極的な姿勢で準備物や復習をしっかりすることを求めている。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回 10 月 6 日	オリエンテーション					

金	授業紹介、PDCA	
2回 10月 13日 金	・旅行の理解 ・旅行の定義 ・旅行の構成要素 ・旅行会社の役割と業務 ・旅行業の分類 ・OTA ・アメリカ旅行会社歴史 ・日本の旅行会社歴史 ・旅行業の機能	
3回 10月 20 日 金	・HOTEL の理解 ・HOTEL の客室タイプ ・HOTEL の機能 ・HOTEL の予約・支払い方法 ・免税店の理解・種類	
4回 10月 27 日 金	・鉄道交通 ・ヨーロッパの高速列車 Eurail Pass 寝台夜間列車 ・日本の豪華列車 MIZUKAZE ・JR PASS ・陸上交通 乗用車・レンタカー 貸切バス CITY TOUR BUS	
5回 11月 3日 金	航空用語 空港コード 航空コード クルーズ用語 クルーズ分類 クルーズ商品・特徴 世界の代表的なクルーズ クルーズ商品の注意点	
6回 11月 10 日 金	旅行会社広告特性 販売促進機能 PR の内容を応じた機能 企画旅行商品の広告 旅行者保険金額基準 旅行商品の分類	
7回 11月 17 日 金	HOTEL の予約書作成 ランド会社の手配業務 旅行商品手配の流れ 手配業務の注意点 手配依頼書の使用用語 HOTEL 手配依頼書作成 HOTEL 予約確認書作成 自分で HOTEL 予約書を作成しましょう！ 提出	

8 回 11 月 24 日 金	旅行商品プランづくり 地域への誘客に向けてマーケティング戦略の立て方 地域の旅行素材の発掘 ツアーを企画する時に必ず入れるポイント ①ツアータイトルツアーの題名をなるもの＝ツアーで伝えたいこと ②企画背景どうしてこのツアーを作ろうと思ったか ③ターゲットどんな人にツアー来て欲しいのか ④テーマツアーを全体を通して伝えたいこと ②③④を考えるときのポイント ⑤日程（コンセプト） ⑥まとめ 旅行プラン作成の事例紹介（大阪旅行プラン）	
9 回 12 月 1 日 金	旅行プラン Instagram TRIP、 20 代前半をターゲットに Instagram を活用した旅館滞在プラン INSTAGRAM を活用したプラン 企画背景① 女性の旅行目的 企画背景②20 代女性旅行 傾向企画背景②20 代女性旅行傾向 SNS の利用傾向 インスタジャンル インスタ映え法則	
10 月 12 月 8 日 金	旅行プラン Instagram TRIP の動画コンテンツ作り 各グループで旅行企画書作成	
11 回 12 月 15 日 金	グループ別 動画編集する グループメンバーの役割点検	
12 回 12 月 22 日 金	観光コンテンツづくり グループ別コンテンツ発表① 映像での発表（2～3 分用） 自己評価・質問など	
13 回 1 月 12 日 金	観光コンテンツづくり グループ別コンテンツ発表② 映像での発表（2～3 分用） 自己評価・質問など	
14 回 1 月 19 日 金	観光コンテンツづくり 個人活動報告映像作り 1 分用作成	
15 回 1 月 26 日 金	観光コンテンツづくり 個人映像完成 1 分用提出と振り返り e-ポートフォリオ記入	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU315-Y51	2.科目名	地域観光インパクト論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	2 回生～
10.取得資格の要件				11.先修条件	ありません。
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	ありません。				
17.授業の目的と概要	【目的】2012 年以降、インバウンドが急速に増加し、アジア第一位の観光国となった日本は、あまりに不慣れで、観光公害、オーバーツーリズムを懸念するマスコミの報道があります。今まで観光客がまったくいなかった田舎に、通勤や通学のバスが混むほどにインバウンドが来るからです。でも、日本の人口は急速に減少中、失った人口とその消費を補っている現状にも目を向ける必要があります。この授業では、地域への観光客と観光事業のインパクトを正しく理解することを目的とします。 イタリアの有名都市ではほぼ年中、日本でも京都は桜や紅葉の時期に、昔から大勢の観光客が押し寄せています。そして、その混雑を上手に制御してきました。その歴史や制御方法の発展もお話しします。 「様々な観光現象を分析する視点を持ち、観光制御を考える力をもつ」 【概要】「オーバーツーリズムの誤解、偏見を解く」を 15 回に分けてお話しします。日本には世界先進国に負けない長い観光の歴史があります。特に、人々の往来が盛んになった江戸時代後期には出版物を通じて観光名所に大勢の観光客が押し寄せました。明治時代に鉄道が開業し、観光産業は拡大を続けました。その 250 年の歴史を通じ、観光公害を避け、地域の様々な課題を解決してきました。この歴史と世界と日本の最新の観光統計を紹介し「混雑と閑散」の実態をお話しします。観光客の増減、宿泊施設など観光事業所の増減について、その経過と地域への影響を体系的にとらえることで、現代日本の社会的要求を理解します。同時に、日々変化する国際社会と日本の中で、観光経済がどのように推移するかを予測するための基礎知識が身につきます。				
18.学習目標と DP との関連	先入観に縛られず、客観的に社会現象を理解できる幅広い視野を養うことで、社会性を身に着けます。観光学は、観光事業者の多くの誤解に溢れています。何も知らない観光客に、その誤解をさも本当のように話す観光事業者が多いから、事態はますます深刻になっています。これも、国際コミュニケーションの基礎理解を深めます。				
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回 4 月 10	観光学科で学ぶ皆さんの知識を活かして、観光産業を			アサインメント：観光政策にはどんな取り組	

日：観光政策 のススメ	活かした地域づくり、観光政策を学びます。フランスやイタリア、日本でも京都のような世界で有名な都市には優れた観光政策があります。最近の国際観光旅客（インバウンド）の急増の様々な影響を抑えて、質の高い観光文化を発展させています。しかし、観光客の来ない普通の町が多く、どうすれば観光客に来てもらえるか分らずにいます。観光政策には、こうした誘客策もありますが、ポロモーションだけでなく、その町や村を魅力的に演出するまちづくり策、そして観光公害対策があります。この授業では	みがあるか述べて下さい、 事前学習：観光公害と言われるものにはどんな現象があるか述べて下さい。
第2回 4月17日：観光政策の歴史、明治日本を訪れた外国人観光客	観光の歴史を振り返ります。江戸時代から旅の習慣、文化が発達し観光関連産業が盛んだった日本では、明治維新後に、外貨を稼ぐために欧米先進国から観光客を集めようと様々な取り組みをしました。19世紀後半、英国の小説『ガリバー旅行記』では、天空の城ラピュタの後、日本にも寄るほど人気の観光地でした。当時、世界旅行事情と開国されたばかりの日本に豊かな欧米人に来てもらい外貨を稼げるかが、日本の観光政策の始まりでした。	アサイメント：『ガリバー旅行記』とはどんな物語化調べて下さい。 事前学習：明治時代にできたホテルを二つ挙げて下さい。
第3回 4月24日：戦後の占領軍と外国人観光客、国際観光旅館	明治以降外国人観光客は増えてきましたが、船の旅は長く、まだインバウンドが少なかったのですが、それでも日光や京都などは、国際的な観光地に成長しました。それが、20世紀の後半、敗戦後に一気に拡大します。まず、占領軍として日本に滞在したアメリカ人が、日本国内を楽しみます。明治時代から発達した洋風のホテルに泊まり、鉄道やバス、それに専用のハイヤーで有名な観光地を楽しみました。その際、各地の旅館も外国人を泊めようと「国際観光ホテル整備法」ができました。でもホテルとは名ばかりの木造の旅館がまだ多く残っていました。	アサイメント：新幹線が開業する前に、JR（当時の国鉄）を走っていた特急列車の名前を調べて下さい。 事前学習：アメリカ人が好む日本の観光地はどこでしょう。調べてみて下さい。
第4回 5月1日：高度経済成長期の観光政策	戦後、比較的早くに鉄道が復旧したため、生活に余裕ができた日本人は、平和な時代をよるこんで全国各地の温泉に出かけ、山や海を楽しみます。まだ貧しかったのですが、鉄道の団体旅行が盛んになりました。修学旅行も盛んでした。その後、各地に観光客用の道路が整備され、鉄道からバスに乗り換えて、団体で回る習慣が始まりました。その振興を進めたのが、昭和の観光政策です。	アサイメント：日本人の団体観光客が訪れたのはどこでしょう。 事前学習：団体旅行は今は減りました。なぜでしょう。
第5回 5月8日：万博という観光政策	1964年には東京で最初のオリンピックが開催され、同じ年に東海道新幹線が開業、その後1970年には大阪で万国博覧会が開かれました。ちょうど高度経済成長期で豊かになり始めた人々は盛んに観光に出ました。東京や京都、日光や各地の温泉に人が溢れ、今でもその当時の賑わいを思い出す人がいます。この時期に、カメラが普及し、マイカーが普及し、また観光ビジネスの形が確立し、パッケージツアーもでき、現在の観光産業の形が整いました。これも国を挙げての観光政策の成果です。	アサイメント：1970年の大阪万博の会場はどこでしょう。その場所が今どうなっているか述べて下さい。 事前学習：1970年代に発売されたカメラにはどんな機種があったか調べて下さい。

第 6 回 5 月 15 日：ディスカバー・ジャパン・キャンペーンの登場と成功	1970 年の万博が終わり、新幹線がガラガラになった当時の国鉄、今の JR が進めた観光政策が「ディスカバー・ジャパン」というキャンペーンです。それまで田舎から都会に来ることが多かった観光が、都会から田舎に行くようになりました。その理由は、それまでは農村人口の方が、都市人口より多かったからです。それが逆転したのが 1970 年代、現在では 8 割以上が都市人口、農村は過疎高齢化です。当時は、まだ過疎化し始めたばかりの田舎に、古きよき日本を探しに出かけるのが観光となりました。	アサイメント：ディスカバー・ジャパンキャンペーンには、コマーシャル・ソングがありました。その曲名前を調べて下さい。 事前学習：なぜ、当時の若者は田舎を好んだか考えてみて下さい。
第 7 回 5 月 22 日：アンノン族と町並み保存、1970 年代の観光政策	もう一つの大きな変化が、若者が観光客の中心になったことです。この時代の若者は、女性一人で観光旅行に出かけた最初の世代です。観光地には若者が溢れ、特に女性が熱心でした。高齢者が多い今とは大違いです。この女性たちが好んで訪れた先が歴史的な町並み保存地区です。1975 年の文化財保護法改正で、伝統的建造物群保存地区制度が生れ、京都や金沢、倉敷や妻籠、馬籠などの歴史地区が賑わいました。今も人気の観光地です。	アサイメント：今までに訪れたことのある歴史的な町並み保存地区を挙げて下さい。 事前学習：女性の一人旅がそれまでほとんど行われなかったのはなぜでしょう。
第 8 回 5 月 29 日：大規模開発と観光政策、リゾート法の時代	観光の拡大が一段落した後、バブル期には豊かで働き過ぎの日本人がもっと休むようにと、リゾート整備の観光政策が始まりました。その後、全国の府県がそれぞれに計画を発表し、中には相当に無理な計画があり、ほとんどの計画が失敗に終わりました。バブル経済が崩壊したからだと言われましたが、そもそも日本にはバカンスの習慣がなく、だからリゾートが根付かなかったと言われます。現在もまだバカンスはありません。一方、なかなか変わらないのが、お正月とお盆の休み、それにゴールデンウィークです。	アサイメント：欧米先進国には当時バカンスという長期休暇制度がありました。何日有給休暇があるでしょう。 事前学習：もしあなたが 1 ヶ月のバカンスがあれば、どこに行きますか。その予算はいくらですか応えて下さい。
第 9 回 6 月 5 日：バブル経済の崩壊と観光政策の失敗、夕張市の破綻	夕張市の財政破綻が起こったのが、2004 年です。北海道の夕張市は明治始めに北海道開拓が始まった時代から大きな炭鉱があり、全国から多くの労働者が集まり、豊かに賑わっていました。20 世紀後半のエネルギー革命で炭鉱は閉鎖され、町は衰退しました。地域経済の再生を観光産業でと考えた市長は、「石炭の歴史村」(1983 年)、ロボット大科学館 (1988 年)、スキー場などを次々と建てましたが、客が集まらず大赤字、国に隠して公債を発行し、その返済ができなくなりました。大失敗した観光政策の例です。	アサイメント：夕張はその後、どんな再生策を練ったのでしょうか。 事前学習：北海道の地図を見て夕張の位置を探して下さい。神戸から行くためにはどんなコースがあるか調べて下さい。
第 10 回 6 月 12 日：1990 年代の観光政策、ロスジェネは旅に出ない？オルターナティブツーリズム	2000 年代後半から少しずつ日本人の観光行動が減少を始めました。人口減少の影響もありますが、1990 年代に大学を卒業したロスジェネ（失われた）世代（1970～1984 年生れ）が観光に行かなくなった影響があります。バブル崩壊の後の不景気な時代で経済的余裕が亡くなったためです。とはいえ、若い内は地味でしたが、ホンモノ志向の賢い観光を楽しみました。こうして、もう一つの観光、オルターナティブツーリズムが生まれた時代です。エコツーリズムやボランティア活	アサイメント：オルターナティブツーリズムにはどんなものがあるか、少なくとも 10 通り書き出して下さい。 事前学習：バブル経済はなぜ崩壊したのか調べて下さい。

	動などがこの中に含まれます。	
第 11 回 6 月 19 日：高齢社会の観光政策、観光はウェルビーイング？	日本の観光市場では高齢化が進んでいます。日本は世界一高齢化しているからです。特に、2020 年代現在、後期高齢者になる人たちは戦争直後に生れた団塊の世代、日本人で初めて若いころから観光を楽しみ、国内でも国外でも新しい観光地を開いてきた人達です。観光をよく知る世代が高齢化し、最後の観光を楽しんでいます。とはいえ、今の観光が本当に幸せなのか？ウェルビーイングになっているのか、議論されています。何か新しい行動をするのでしょうか？	アサイメント：ウェルビーイングについて述べて下さい。 事前学習：高齢者が好む観光にはどんな目的地があり、どんな乗り物（移動手段）を好むか、考えてみて下さい。
第 12 回 6 月 26 日：観光立国日本の推進、インバウンドの登場	2003 年「観光立国宣言」を契機に、「観光」は国家的な目標となり、2007 年「観光立国推進基本法」が制定、翌 2008 年に「観光庁」が国土交通省の外局として解説されました。2011 年東日本大震災があり、2019 年コロナ禍が起こったものの、インバウンドが増え続けています。現在の日本の観光政策は、こうして本格的に始まりました。その背景に、これまで 150 年間の観光政策の積み重ねがあります。観光学を学ぶ皆さんは、その歴史の上に現在の観光政策があることを理解して下さい。素人の思いつきだけでは、政策は立案できません。	アサイメント：テーマパークを作っただけでは観光客は来ません。それはなぜでしょう。 事前学習：成功した観光地と失敗した観光地を挙げて下さい。
第 13 回 7 月 3 日：京都市の観光政策、京都創生は文化・景観・観光で	京都市は世界的にみても先進的な観光政策を実現してきました。この回は京都を取り上げて、明治、戦前、戦後、1970 年代、バブル期、そしてその崩壊後から現在までの数々の観光政策を解説します。私自身が関わった観光政策です。他では聞けない様々な事情をお話します。シニア化、女性化、アジア化、デジタル化等の変化を上手に捉えた政策づくりの秘密をお話します。	アサイメント：今の京都では、どんなインバウンド対策をしているか調べて下さい。 事前学習：京都で訪れたことのある観光地を述べて下さい。
第 14 回 7 月 10 日：中国人観光客に対応する観光政策、インバウンドの制御はできるか？	新しい問題としてインバウンドの増加があります。中国からは膨大な数の観光旅行初心者が日本に押し寄せます。それも当面、おそらく数十年は続きそうです。1970 年代には、日本人が観光初心者として欧米先進国で嫌われていました。今は、その日本人が中国人を見下すような態度をとります。しかし、観光客の行動は直ぐ変容します。短期間で旅慣れ、上手に観光を楽しむ始めます。その変容を促進するのが、インバウンド対策です。	アサイメント：中国人が好む観光地はどこでしょう。 事前学習：訪日中国人観光客数を調べて下さい。
第 15 回 7 月 17 日：観光政策論の様々な手法、交通、土地利用、宿泊施設、飲食店、文化資源の管理	最後に、観光政策の手段として用意された数々の施策をお話します。観光公害と呼ばれる交通混雑、ゴミ問題、地元住民との対立などの問題は一過性、直ぐに解決できる問題です。ただ、観光政策に慣れていない自治体、それも農村部の自治体にはその施策を知らない場合があります。観光政策は決して難しいことでなく、常識的なもの。誰もが気づき、実行できることです。細かな内容を整理して詳しく説明します。	アサイメント：授業で述べた施策を列記しなさい。 事前学習：観光公害とは何か述べて下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU318-Y71	2.科目名	エアライン特別演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件	※m-ando@kuins.ac.jp		11.先修条件	ホスピタリティマネジメント論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	目的：本講義では、単なる奉仕とはことなるホスピタリティに対する理解を深め、その考え方を修得することを目的とする。 概要：前半ではホスピタリティの成り立ちと考え方、更にはディズニーランドの経営などを通じてホスピタリティを構成する要素を整理して学ぶ。またエアラインの実例をもとに課題を設定し、講義のポイントを習熟する。後半はエアラインを例に組織的にホスピタリティを展開する実例を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、学科 DP における（１）自律性（３）多様性理解（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力に該当する。 具体的な目標としては以下のとおりである。 ①ホスピタリティの意義と現代社会における有用性について理解する。 ②ホスピタリティを実践している企業の具体的な取り組みなどについて理解する。 ③エアラインにおける組織的な取り組みの具体例について理解を深める。					
19.教科書・教材	教科書はありません。毎回、レジメを配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	①授業理解度（講義内容の理解）・・・60 点 （講義において配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して講義内容を踏まえて自分の考えを記述し、提出する。）※学習目標①、②、③に対応 ②確認テスト・・・40 点 （2 回の確認テストによりホスピタリティのポイントを理解し、考察することができる）※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義の進め方、目的、評価などの概要を伝える。			講義レビュー・次回の予習		
第 2 回	ホスピタリティの歴史と語源 「Hospitality」を理解するために、まず最初に語源と背景からアプローチする。また似た使われ方をする言葉、特にサービスとの違いの中からの比較により、さらに深い理解につなげる。 ・ホスピタリティの語源と影響を与えたもの ・サービスの語源と影響を与えたもの.サービスとホスピタリティの違い			講義レビュー・次回の予習		
第 3 回	ホスピタリティの定義と背景 前回に学習したホスピタリティとサービスの概念の違いについてさらに深掘りし、ホスピタリティの理解に			講義レビュー・次回の予習		

	つなげる。また、ホスピタリティが求められる背景について考察する。 ・ホスピタリティとサービスの概念の違い ・ホスピタリティが求められる背景	
第 4 回	ホスピタリティの構成要素① ホスピタリティとサービスの概念の違い、およびなぜホスピタリティが求められるのかという社会的な背景について学習したことを前提に、ホスピタリティを成り立たせる人的要素や物的要素などの各要素について学習する。 ・ホスピタリティの定義 ・ホスピタリティの構成要素	講義レビュー・次回の予習
第 5 回	ホスピタリティの構成要素② ホスピタリティの定義と構成要素に基づき、具体的な企業を取り上げ、その各要素について更なる理解を促進する。企業としてはディズニーランドを運営するオリエンタルランドを取り上げ、ディズニーのホスピタリティについて学修する。 ・ホスピタリティに関する具体的な企業の取り組み	講義レビュー・次回の予習
第 6 回	ホスピタリティの構成要素③ 前回に続き、ホスピタリティの定義と構成要素に基づき、具体的な企業としてディズニーランドを取り上げ、その各要素について更なる理解を促進する。ディズニーランドを運営するオリエンタルランドを取り上げ、ディズニーのホスピタリティについて学修する。 ・ホスピタリティに関する具体的な企業の取り組み	講義レビュー・次回の予習
第 7 回	人的要素に関する深掘り① ホスピタリティの各構成要素の中でも大きな影響を与える人的要素について更に考察を深める。具体的には交流分析により自身についての理解を深め、他者とのコミュニケーションについて考察する。 ・ホスピタリティマインドの育成	講義レビュー・次回の予習
第 8 回	人的要素に関する深掘り② 交流分析などに基づき、より実践的にコミュニケーションについて学習する。具体的にはリスニングやトーキングのスキルについて具体的な事例も含めて学修する。 ・ホスピタリティコミュニケーション	講義レビュー・次回の予習
第 9 回	ホスピタリティを評価する ホスピタリティの実践により、実際にゲストがどのような価値を得るのか、そして企業の経営においてそのホスピタリティをどのように評価するのかについて学修を深める。 ・MOT とは ・ホスピタリティの評価 ・ホスピタリティマネジメントを実践する組織	講義レビュー・次回の予習
第 10 回	ホスピタリティの研究成果 ホスピタリティを実践している企業において、ホスピ	講義レビュー・次回の予習

	タリティを高めるための研究が進んでいる。ANAと東大の共同研究によるホスピタリティに必要な「気づき」に関する研究について解説する。 ※第1回 確認テスト	
第11回	ホスピタリティ企業の仕組み① ホスピタリティを企業として実践するエアラインの具体的な取り組みについて学修する。この回では、企業の教育について学修する。	講義レビュー・次回の予習
第12回	ホスピタリティ企業の仕組み② ホスピタリティを企業として実践するエアラインの具体的な取り組みについて学修する。この回では、企業の人材育成について学修する。	講義レビュー・次回の予習
第13回	ホスピタリティ企業の仕組み③ ホスピタリティを企業として実践するエアラインの具体的な取り組みについて学修する。この回では、企業の人事評価について学修する。	講義レビュー・次回の予習
第14回	ホスピタリティ企業の仕組み④ ホスピタリティを企業として実践するエアラインの具体的な取り組みについて学修する。この回では、企業の経営方針について学修する。	講義レビュー・次回の予習
第15回	ホスピタリティのまとめ ホスピタリティの基本的手法に関するまとめとホスピタリティを発揮する人材育成の具体的な状況について学ぶ。 ※第2回 確認テスト	講義レビュー

1.授業コード (ナンバリング)	TOU321-Y51	2.科目名	ツアープランニング		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習形式の授業		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『授業の目的』 観光交流による地域活性化を目指している国内地域と、観光を学んでいる学生達が連携して新たな地域密着型旅行プランを提案することが目的となる。その際、地域観光資源を「観光地側＝ホストサイド」の視点と「訪問者＝ゲストサイド（学生達）」の視点を交えることによって地域観光素材を再発掘し、地域の魅力をテーマ性のある新たな旅行プランとして開発することが可能となり、新たな交流人口（観光客）を生み出し、観光振興による地域活性化につなげてゆくことになる。 『授業概要』 優れたな旅行プランは単なる思い付きでは企画できない。まず、企画の背景として、地域の観光政策や戦略の分析から始める。次に地域の観光素材を探る。1つの素材だけでは集客力がないのがほとんどである。そこで地域の歴史文化等を参考に旅のテーマを設定し、ストーリーを創造する。その際、重要なポイントとなるのは、テーマに沿ったストーリーを何らかの形で体験（参加）できることである。これが素材への味付けとなる。 また、本授業の特徴は、ツアープランを企画する過程で、ターゲット設定、地域の魅力発掘、商品構成、価格設定、販売方法、広告宣伝等、観光を含むすべてのビジネスで必要不可欠とされるマーケティング手法を実践的に身につけることができることである。 なお、特に受講生が希望する地域が無ければ、プランニングする地域は、兵庫県内地域（テーマによって広域にとらえていただいても結構です）を推奨する。					
18.学習目標と DPとの関連	【授業の学修目標】 ①旅行プランの作成を通じて、一般社会で求められている、マーケティング手法による新たな価値を創造する能力や視野が培われる。（DP 専門的知識・技術の活用力） ②地域の課題解決（観光客集客）に向けて、チーム内で徹底的な議論により、意見をまとめて行く、その過程で、相手の意見を聞く＝傾聴力、理解しまとめる＝集約力、自分の意見を伝える＝伝達力、本質を見抜＝洞察力等が備わる。（DP 問題発見・解決力） ③授業での地域の課題解決型旅行プラン作成を通じて、自ら考え、計画し、調査し、協力者を仰ぎ行動し、様々な提案を行うことになる。（DP 自律的で主体的な態度）					
19.教科書・教材	特に使用しない。					
20.参考文献	必要に応じて、適宜資料等を配布する。					
21.成績評価	旅行プランの企画内容 60% チーム・授業への貢献度 20% プレゼンテーション内容 20%					
22.コメント	授業時間内だけでは満足のゆく旅行プラン作成は難しいと考えられるので、授業時間以外の時間、特に復習に充てる時間を十分に確保してもらいたい。 フィールドワークの実施等には交通費等費用が発生（自己負担である）する。 各授業の内容は、授業方法、履修者数、進捗状況、理解度等により適宜変更する場合がある。					

		?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）
23.オフィスアワー		水曜日 3 限目 研究室 OA（3-306 号室）
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目授業	<導入> イントロダクション(科目の目的と予定) 旅行プランニングの基礎理解	事前配布資料を参照（予習）
第 2 回目授業	■地域観光素材の分析とまとめ① ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析① 『提供した自治体観光素材等を参考に自ら企画希望したいの自治体や各観光協会等のホームページ等から情報を検索しこの地域の観光戦略や観光素材を分析し、素材ごとに分類してゆく』	予習・復習を通じて、三重県名張市観光協会が分析した自地域の観光素材について、その分析方法を参考にして、自ら企画する地域で応用できるような資料等を作成準備する。
第 3 回目授業	■地域観光素材の分析とまとめ② ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析① 『提供した自治体観光素材等を参考に自ら企画希望したいの自治体や各観光協会等のホームページ等から情報を検索しこの地域の観光戦略や観光素材を分析し、素材ごとに分類してゆく』	（予習・復習）自ら企画する地域や周辺地域について、観光戦略の分析、観光素材の発掘。 ・インターネット検索等を利用して地域の観光素材や自治体等の観光戦略等について調べておく。 ・配布された作品についての分析も同時に行う。
第 4 回目授業	■地域観光素材の分析とまとめ③ ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析① 『提供した自治体観光素材等を参考に自ら企画希望したいの自治体や各観光協会等のホームページ等から情報を検索しこの地域の観光戦略や観光素材を分析し、素材ごとに分類してゆく』	（予習・復習）自ら企画する地域や周辺地域について、観光戦略の分析、観光素材の発掘。 ・インターネット検索等を利用して地域の観光素材や自治体等の観光戦略等について調べておく。 ・配布された作品についての分析も同時に行う。
第 5 回目授業	■地域観光素材の分析とまとめ④ ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析① 『提供した自治体観光素材等を参考に自ら企画希望したいの自治体や各観光協会等のホームページ等から情報を検索しこの地域の観光戦略や観光素材を分析し、素材ごとに分類してゆく』	（予習・復習） ・（予習・復習）自ら企画する地域や周辺地域について、観光戦略の分析、観光素材の発掘。 ・インターネット検索等を利用して地域の観光素材や自治体等の観光戦略等について調べておく。 ・配布された作品についての分析も同時に行う。
第 6 回目授業	■素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ① （様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化された作品や地域主	（予習・復習） 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行

	催のコンテスト等優秀賞受賞作品等である)	う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 7 回目授業	■素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ② (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化された作品や地域主催のコンテスト等優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 8 回目授業	■素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ③ (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化された作品や地域主催のコンテスト等優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 9 回目授業	■素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ④ (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化された作品や地域主催のコンテスト等優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 10 回目授業	■素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ⑤ (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化された作品や地域主催のコンテスト等優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 11 回目授業	■ 成果のまとめ	(予習・復習) 企画案発表(提出)に向けての準備。 ・予習：具体的にターゲットやテーマ設定、ストーリーの展開を図る。 ・復習：提出レポートに対する意見を作品に反映させてゆく。
第 12 回目授業	■企画案発表(提出)準備 ①(スライド作成・企画案の作成)	(予習・復習) 企画案発表(提出)に向けての準備。 ・予習：具体的にターゲットやテーマ設定、ストーリーの展開を図る。 ・復習：提出レポートに対する意見を作品に

		反映させてゆく。
第 13 回目授業	■企画案発表（提出）準備 ②（スライド作成・企画案の作成）	（予習・復習）企画案発表（提出）に向けての準備。 ・予習：具体的にターゲットやテーマ設定、ストーリーの展開を図る。 ・復習：提出レポートに対する意見を作品に反映させてゆく。
第 14 回目授業	■企画案の発表（提出）① （パワーポイント・プレゼンテーションスライドに対する評価）	（予習・復習）企画案発表（提出）に向けて仕上げ。 ・予習：発表（提出）に備え、再度全体像を確認。 ・復習：発表（提出案）に対して意見があった内容を踏まえて最終報告書を作成する。
第 15 回目授業	■企画案の発表（提出）② （パワーポイント・プレゼンテーションスライドに対する評価） 総括	（予習・復習）企画案発表（提出）に向けて仕上げ。 ・予習：発表（提出）に備え、再度全体像を確認。 ・復習：発表（提出案）に対して意見があった内容を踏まえて最終報告書を作成する。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU323-Y51	2.科目名	ブライダル実務		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門教育科目/展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科の専門教育科目ですが、他学部他学科からの履修を歓迎します。			9.履修学年	2～4 回生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	神戸山手キャンパスでの授業とタガヤブライダル（三宮 3 丁目）での現地実習を含みます。		
16.履修制限	ブライダルビジネス論を履修していることが望ましい					
17.授業の目的と概要	この科目は、ブライダル業界の実務を専門的に学習します。 （ブライダルビジネス論を受講された方は、より理解いただきやすい） この科目（ブライダル実務）はより現場に近い体験をしていただこうと考えており、グループごとにワークしながらの時間が主になります。こうして、ブライダルプランナーの仕事の全体像を理解することができます。					
18.学習目標と DPとの関連	【目的】 集客・接客・結婚式当日までの一連の流れを経験することで、プランナーだけではなく関係セクション（人）との関わり方の重要性を知る。 ホスピタリティ産業 × サステナビリティについて議論し、社会・環境課題の解決にも取り組む大切さを知る機会とする。具体的には、ブライダルプランナーとしての自律的、主体的に計画を立て実行し、ふりかえりながら改善に取り組むことができる。より多くの関連部門の同僚と協働し、お客様とご親族、ご友人、そして会社の目的達成に貢献できる。自分とは異なる考え方や価値観を尊重し、多様な社会的・文化的背景を受け容れながら行動できる。日々変化する社会現象を理解し、高い対応能力で解決提案ができる。日本語・英語双方の言語でコミュニケーションできる。そして、マーケティングの知識・手法でブライダル産業で求められる知識・技能を身に付ける。					
19.教科書・教材	教材はプリントして配布します。また、ウェブクラスに PDF で掲載しますので、各自プリントアウトするなりして授業に備えて下さい。					
20.参考文献	参考文献はその都度紹介します。またウェブクラスにも掲載します。					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント	すでに、春学期に「ブライダルビジネス論」を履修したか、夏学期に「インターンシップ」を体験した学生さんにはよくご存じですが、この科目を担当される新名先生は、TAGAYA BRIDAL 神戸店長さんです。 https://dress.tagaya.co.jp/ この同社のホームページをよく見て、ブライダル業界のイメージをつかんでください。					
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 4 日： オリエンテーション /ブライダル業界概況	最初の回はオリエンテーション です。ブライダル業界とは何か説明し、具体的にはどんな仕事をしているのかをお話しします。結婚式、人生でも大切な場面に立ち会い演出する仕事です。今年はコロナが終わった最初の年、コロナの前と後で、ブライダル業界の何が、どう変わったか、今後のことを考えていきます。			アサイメントはその都度直接お伝えします。 主に授業の理解度を尋ねる簡単な課題を出します。		
第 2 回 10 月	ブライダルは、ハウスウェディングが登場した 2000 年			資料などを見るために、毎回パソコンを持参		

11日：ブライダル企業の特徴について	頃から順調に成長してきた業界ですが、現在は人口減少と少子化で、ブライダル市場の縮小しているだけでなく、未婚率は増加、婚姻組数の減少、また晩婚化も進み、式なし婚・ジミ婚・家族婚などが普及し婚礼件数の減少が深刻な問題です。 また2020年はコロナで売上が大幅に減少しました。しかし、2022年すでにコロナ前の9割の水準まで回復しました。ただ、国内の婚姻件数は減少していますから、競争の激化が進むブライダル業界では事業の多角化と海外展開を進めています。	してください。
第3回 10月18日：集客プラン/フェア作成	学生とワーク形式で/レポート提出 多角化と海外展開が進んだため、ブライダルの業態の幅が広がり、取り扱い商品が増えています。これまでの意識を変え、集客手法をがらっと変える必要があります。結婚式をしない層やフォトウェディング、少人数婚を考えているカップルは、ゼクシィなど結婚式場大手媒体（雑誌）を見ることがありません。各層の特徴に合わせた方法で集客をする必要があります。そのテーマで集客プランの作成とウェディング・フェアの案を作成してもらいます。	毎回とは言いませんが、式場見学や衣装合わせに立ち会うなど、実地研修をしますので、日頃から服装に配慮をお願いします。
第4回 10月25日：集客プラン・フェア作成の振り返り	集客プランとフェア作成の振り返りです。 顧客のニーズに合う結婚式になるように提案できるか、多様なニーズに柔軟に対応してすべての手配を含めて総合的にサポートできる提案だったかを検討します。	
第5回 11月1日：プランナー実務/新規セールス	学生とワーク形式で/レポート提出 集客の次がプラン作成です。皆さんが目指すウェディング・プランナーの出番です。この仕事は結婚式を総合的にプランニングし、準備から当日までの管理業務を行う専門的な仕事です。顧客のニーズに合う結婚式になるように提案し、必要な備品や人材の手配等を含めて総合的にサポートします。	
第6回 11月8日：プランナー実務/新規セールス振り返り	プランナー実務/新規セールス振り返りです。 グループワークの取組みを点検し、改善点を探して下さい。	
第7回 11月15日：ドレススタイリスト実務/フィッティング	タガヤ元町店で実施、学内で実施 すでに、ブライダルビジネス論を受講した学生さん、インターンシップに参加した学生さんはご存知の、タガヤの店舗でフィッティングの実務を体験してもらいます。	
第8回 11月22日：プランナー実務/打ち合わせ（招待状～披露宴進行まで）	プランナー実務の次の段階は、お客様との打ち合わせです。招待状の作成、発送から披露宴進行まで、細部にわたり丁寧にお話しをお聞きし、満足いただけるプランをまとめる手順をお話しし、その過程の様々な課題を理解していきます。	

第9回 11月 29日：ヘアメイク/映像写真のトレンド紹介	次が、ヘアメイクのご相談からお式から披露宴までの演出、そしてその映像、写真などの最新トレンドを知ります。お客様のご希望にそって、人気のヘアメイクや披露宴の演出などをご紹介します、打合せを進めます。	
第10回 12月 6日：実践：集客	学生とワーク形式で/レポート提出 結婚式場の集客方法としては、ウェブサイト、ブライダル誌などがその効果から上位にある方法です。ただ、他社と同じような内容にすると差別化できません。そこで、自社の強みがわかるような工夫が必要です。SWOT分析やマーケティングの手法を駆使して、みなさんそれぞれに集客プランを考えてもらいます。	
第11回 12月 13日：実践:接客	学生とワーク形式で/レポート提出 ブライダル業界はコロナ禍からの急速な回復基調です。とはいえ、婚姻件数は減少の一步、少子化の影響です。その中で、ブライダル・サービスの質を上げ、ブライダル文化を磨き、より多様なお客様のニーズに応えようという課題をどうとらえるか、それを接客の実践面でどう生かしていくかのお話しです。コロナ禍後のお客様の变化をお話しし、その接客のポイントを整理し、皆さんにも実践できるトレーニングをワークショップ形式で進めます。	
第12回 12月 20日：実践	学生とワークショップの続き 集客、接客とホスピタリティを発揮する場面での実践例を体験してきました。その体験を振り返り、ブライダル実務の総まとめにむけて、ワークショップによる研修を続けます。 大学生活でもまた授業でもOJT、体験学習を重ねてきた中でブライダル業界でも活用できる学びを総ざらいし、ホスピタリティ技術を磨きます。	
第13回 1月9日：打ち合わせ（式場）	学生とワーク形式で/レポート提出 式場選びの実践の会では、もう一度「ホスピタリティ」についてお話しします。 繰返しになりますが、ブライダルはお客様の一生の中でも最も大切な一日を演出するビジネス、ホスピタリティを尽くしても尽くしきれない仕事です。そのためサービス業の中で最も丁寧な仕事が求められるホスピタリティ産業です。式場選びに際し、どのようなホスピタリティが求められるか、最も重要なポイントを学びます。	
第14回 1月 17日：実践（衣装）	学生とワーク形式で/レポート提出 衣装合わせで発揮するホスピタリティの実践です。この業界を目指す皆さんのために、ホスピタリティ業界への就活では、どんな人材が求められているか、そんな人材を探すために面接では何が聞かれ、どう答えればいいのかを考える時間です。ご自分を上手にアピールするためのコツをお話します。	
第15回 1月	学生さんのプレゼンテーションを通して、ブライダル	

24 日：模擬結婚式：学生のプレゼンテーション	実務の授業を振り返ります。この授業で学んだこと、習ったことをもう一度復習して、インターンシップから就活迄、プライダル業界を目指す皆さんに必要なアクションプランを考えてもらいます。また、課題のレポートについて説明します。	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU326-Y81	2.科目名	M I C E ・ I R 特別演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	2 回生～	
10.取得資格の要件	MICA・IR 概論を受講していること		11.先修条件	ありません。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	目的：M I C E ・ I R 概論に続き、大阪府／市が進める I R 構想をテーマに施設計画、運営、管理などについて、関連業界の協力をえて、実習プログラムを用意した。I R 誘致には、現在も推進派と慎重派に別れて議論が盛んであり、双方の立場にたってその誘致のメリット・デメリットが検討できる実習内容としたい。 概要：MICE と IR は、近年の市場の転換で陳腐化し、衰退した大手旅行代理店など従来の観光ビジネスを救済するために有効な手段として期待がもたれている。しかし、まだ概念に過ぎず、シンガポールのマリーナベイやドバイを視察して、あたかもそれが大阪でも実現できるという夢の段階に過ぎない。実際、I R の運営実績のある企業も実現には二の足を踏んでいる状態である。 グループワークを通じて、I R について大阪府・市が構想する内容を検証し、それぞれのビジネスモデルを批判的に研究し、問題点を探る。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連している。M I C E や I R について専門的な知識を習得し、それを具体的な社会・観光ビジネスに当てはめ活用、さらに進んで、批判的に考察し、社会課題に応えることができるようにする。					
19.教科書・教材	特定のテキストは指定しないが適宜文献を紹介する					
20.参考文献	講義資料として、ウェブクラスに資料をアップするので各自印刷して授業に持参して下さい。特に行政資料を示しますので、参照してください。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通り、M I C E ・ I R 概論と同じです。 ?対象回の「提出課題」 8 点 （各回 2 点 × 4 回） ?対象回の「授業のまとめシート」 13 点（各回 1 点×8 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 29 点 （各回 7 点 × 3 回、4 回目のみ 8 点） ?総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回：なぜ MICE か？IR か？日本人の誤解	M I C E 、 I R の現状： 特にシンガポールの観光政策での M I C E / I R の歩みを検証し、先行条件として中継貿易時代から金融、観光へと進んだ政策を学び、前提条件を探る			予習：シンガポールの基礎知識を下調べする 復習：シンガポールの先行条件を整理し、大阪にないものを上げる		
第 2 回：シンガポールの MICE 政策は日本で可能か？	シンガポールの M I C E 、 I R 施設 マリーナベイから、マリーナベイスンズに至る都市開発の歴史を振り返り、土地利用の変遷と施設整備のプロセスを学ぶ			予習：シンガポールの都市開発公社 URA の資料を集める 復習：URA のプロジェクトを見て、その効果を知る		

第3回：インフラをどう活用するか？大阪と比較	MICE、IR戦略の立案 シンガポール政府が構想を立てるまでの経緯を整理し、先行条件となったインフラを確認し、その都市戦略の意味を学ぶ	予習：チャンギ国際空港の各種統計を学び、関西三空港の資料と比較する 復習：大阪ベイエリアの立地環境をまとめる
第4回：成功の理由をまとめる	グループワーク：シンガポールについてまとめよう グループでのディスカッションでは、それぞれがアサイメントでまとめた資料を持ち寄り、シンガポールの成功の背景を議論します。	予習：グループで課題を進行 復習：グループワークを通じて、それぞれが獲得した成果を紹介し、最終プレゼンテーションに備える
第5回5月8日：万博というイベント	世界の国内博覧会の歴史 これまでに世界で行われた博覧会について概観し、その効果を考察します。観光の歴史は1851年のロンドン万博に始まります。1970年と2025年の二つの大阪万博の比較もその上で考え直します	予習：世界の万博の歴史年表を用意し、動員数、テーマをまとめる 復習：講義を受けて、異文化接触の観点から万博の意味を考え、レポートにまとめる
第6回：関西大阪万博の前提となった20世紀の万博	20世紀の博覧会 世界の博覧会では19世紀の栄光の歴史に目が行きますが、20世紀の万博は成功したものばかりではありません。イベントは失敗に終わることもあります。そのリスクを学びます	予習：大阪万博以外の日本国内で開催された博覧会のリストを作成し、動員数、テーマをまとめる 復習：万博のテーマの意味を考え、それが成否にどう影響したかを見る
第7回：神戸の失敗、膨大な空地と空家	フィールドワーク：イベント会場を歩いてみよう 神戸市でも1981年神戸ポートアイランド博覧会が開催されました。その成否は後の授業でお話しますが、目の前ですから、現地見学します。その跡地利用など、会場跡を見ます。	予習：見学するポートアイランドの内容について調べて書き出してくる 復習：見学した現在の施設を整理し、その意味をまとめる
第8回：大規模開発の功罪	博覧会と都市開発神戸市は神戸株式会社と呼ばれたほど、都市開発、都市経営に熱心な自治体でした。フィールドワークに出かけたポートアイランドはその成果の一つです。しかし、現状では空きテナントが増え、居住人口も減る厳しい状況です。その意味で、MICE/IRの前提としての日本の都市の現状を考えます。	予習：神戸市の都市課題を調べてまとめる 復習：神戸市と大阪市の違いを考察し、それぞれの都市課題を整理する
第9回：バブル経済の崩壊と観光政策の失敗、日本の現状は？	関西・大阪万博2025年と大阪の未来 神戸ポートアイランド博覧会（1981年）の経験を踏まえて、臨海部の都市界開発の難しさとその後の都市問題を考えます。大阪の構想が神戸のようにならないために何が必要か。さらに1980年代と2020年代後半の日本はまったく違う国と断言していいほど状況は厳しくなりました。その上で、構想はどういう意味があるかを考察します。	予習：大阪市と大阪府の都市課題を調べてまとめる 復習：大阪市にとって、MICE/IRが何をもたらすかを自分なりに整理して述べる
第10回：MICEとは幻想か？	プレゼンテーション：万博とMICE/IR 講義：MICEと万博のまとめ ここまで具体例とともに学んできたMICEと万博についてまとめて解説し、皆さんとディスカッションします。	予習：9回の授業で、学んだ内容を整理し、10回目の講義で討論できる状態にする 復習：講義を受け次回のグループワークの内容を準備する
第11回：関西と大阪が必要とするものは	グループワーク：大阪IRの効果とリスク グループでのディスカッションに充てます。 歴史に学んだMICE/IRと万博の成否を踏まえ、MICE/IR構想の内容を討論します。	予習：グループで課題を整理しディスカッションに備える 復習：ディスカッションでのアドバイスを受けて、グループの議論をさらに深める
第12回6月	IRとは	提出課題：大阪IR計画、カジノを調べまと

26 日：カジノとインバウンド対策	IR の意味、歴史、メリット・デメリットについて解説します。 3 回目のグループワークを始めます。候補地として大阪府・市が立候補を表明している大阪 IR 計画について、予想される効果とリスクをまとめていただきます。	める 復習：世界のカジノをリストにまとめ、その弊害を調べる
第 13 回：IR 構想を巡る議論	プレゼンテーション：大阪 IR の効果とリスク（中間発表） ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表します。最終のまとめに向けてさらに議論を深めてください。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 復習：講義を受け、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回：アジア人とこれからの日本	まとめと報告書の作成	予習：第 1 回～13 回のノートとディスカッションの記録を整理し報告書に仕立てる。 復習：報告書をまとめ、ポートフォリオに転載する
第 15 回：これからの MICE・IR 政策を考える	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	提出課題：報告書の反省点をまとめる 復習：メンバー同士で報告書の交換

1.授業コード (ナンバリング)	TOU327-Y01	2.科目名	トラベルエージェンツ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目/旅行業分野の 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 旅行関連ビジネスには、一般的に宿泊ビジネス、旅行業ビジネス、交通ビジネス、娯楽ビジネス、料飲ビジネス、土産物ビジネス等があり、前の3つが基幹的旅行ビジネス、後の3つ等が付随的旅行ビジネスと呼ばれている。授業では、旅行ビジネスの中核的役割を担っている旅行業（トラベルエージェンツ）のビジネスについて、その仕組みや役割、ビジネスモデルについて、市場環境変化を踏まえて時系列に分析し学ぶ。 【目的】 観光立国実現に向けて、旅行需要の地域分散化（オーバーツーリズムの改善）、旅行サービスの品質管理という課題が挙げられている。このような課題を解決に向けて、今後、日本の旅行業者（トラベルエージェンツ）に求められる機能や役割について、地域との関り、新たなビジネスモデルの構築など、授業の学びを通じて理解を深めて行くことを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	①これまで、旅行業者（トラベルエージェンツ）が果たしてきた役割や機能、そして、今後、観光立国実現に向けての課題の発見、そして課題解決に向けて必要とされる役割や機能を、旅行業を取り巻く時系列な環境の変化の中で理解し、説明できるようになる。 ②旅行業のビジネスモデルの変化を手掛かりとして、現代社会の諸問題（特に規制緩和の進展と市場拡大等）について幅広く思考を展開し、旅行業ビジネスの可能性について理解し、説明できるようになる。 本科目の学習目標は、以下のDP（ディプロマポリシー）に対応している。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	観光庁編『観光白書』各年次版、 小林弘二共著（2023）『観光ビジネスの新展開』晃洋書房、ISBN978-4-7710-3793-9 小林弘二他編著（2021）『改訂版変化する旅行ビジネス』文理閣、ISBN978-4-89259-3 小林弘二共著（2020）『ひろがる観光のフィールド』晃洋書房、ISBN978-4-7710-3309-2 小林弘二著（2007）『旅行ビジネスの本質』晃洋書房、ISBN978-4-7710-1843-3					
21.成績評価	*課題レポート(（毎授業）60%（学習目標①、②に対応） *確認テスト 30%（学習目標①に対応） *平常点（授業への取組姿勢など） 10%（学習目標①、②に対応） ルーブリックを用いて評価する。 課題レポートのコピー・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不					
22.コメント	・事前配布の講義ノート（MSワードで作成した用紙）を持参して、空所補充等を完成させ毎授業後に提出する。（パソコンを持参して空所補充を行う） ・各講義の内容は講義方法、履修人数、進捗状況、理解度及び外部講師等の状況により適宜変					

			更の場合がある。 ・ノートテイキングを推奨する。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）
23.オフィスアワー			山手キャンパス 3-306 研究室で実施。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	オリエンテーション 日本の旅行市場を取り巻く環境変化について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 2 回】	日本の観光・旅行市場の現状について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 3 回】	日本の旅行市場構造の分析	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 4 回】	観光消費の経済波及効果について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 5 回】	旅行ビジネスの変化について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 6 回】	旅行ビジネス流通構造について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 7 回】	旅行ビジネスのグローバル展開について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 8 回】	旅行業の枠組みについて	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 9 回】	国内旅行市場の発展過程と国内旅行ビジネスの変化について	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 10 回】	海外旅行市場の発展過程と旅行ビジネスの変化①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 11 回】	海外旅行市場の発展過程と旅行ビジネスの変化②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 12 回】	ICT 化の進展と旅行ビジネスの変化①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 13 回】	ICT 化の進展と旅行ビジネスの変化②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 14 回】	インバウンドビジネスと国内旅行業	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)	
【第 15 回】	総括/ 確認テスト実施	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参) 課題レポートの提出	

1.授業コード (ナンバリング)	TR2205-Y51	2.科目名	フードツーリズム論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科の専門科目ですが、他学科他学部の学生さんを歓迎します。			9.履修学年	2～3 回生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本の食品製造業は 30 兆円以上、外食産業は 21 兆円、自動車産業の 15 兆円、観光産業 11 兆円を凌ぐ市場規模に達しています（2018 年）。そのビジネス形態は今も多様に変化しています。消費者と直接接するため現代社会の変化を反映し、国民の日々の生活を支えています。そしてフードビジネスは自動車や電子産業同様に世界に進出し、和食の国際化の立役者でもあります。授業では、フードビジネスを経済・経学の観点から概観し、その社会的特徴を理解することで、観光資源としての可能性を探ります。 また、フードビジネス業界で成功を収めた数々の企業を具体的に見ていくことで、今後も発展が期待されるフードビジネスを通じた和食文化の発信を考える手がかりを探ります。日本を訪れるインバウンドにとってのフードツーリズムを知るために日本の食文化とビジネスを学びます。 授業の後半では、イタリアとフランスを取り上げ、世界のフードツーリズムの最先端事例を知ります。その様子と、今日本で導入が進むフードツーリズムを比較しながら、近未来の観光の形を探ります。					
18.学習目標と DP との関連	【本科目の学習目標】 日本と世界の「フードビジネス」の全体像を知る。その歴史、関連産業分野への広がりを知り、食品加工業と外食産業を理解する。また、観光との関係で、フードツーリズム、エノガストロノミー、アグリツーリズム、スローフードなどを知る。ディプロマポリシーの「社会的貢献性」「多様性理解」に沿って産業界とその世界的広がりについて充実した内容を学ぶ。これらのキーワードを説明できることが目標です。 【DP（ディプロマ・ポリシー）に関連】 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配布します。参考になる本は、授業の中で紹介します。その一つが、茂木友三郎「キッコーマンのグローバル経営-日本の食文化を世界に-」生産性出版です。その他、宗田の著作をその都度紹介します。					
20.参考文献	宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020					
21.成績評価	出席点と、授業の際に課すレポート、最終レポートで評価し、期末試験はしない予定です。					
22.コメント						

23.オフィスアワー		火曜 3 コース(学修支援センター)、火曜 4 コース (研究室/3-308)	
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 10 月 5 日：フードビジネスとは何か	ガイダンス：授業内容の説明、食品ビジネスを学ぶ社会的背景と現代的な課題、近年の日本の食品ビジネスの成長とその発展段階、その市場拡大を農業、水産業との比較から考えていきます。観光学科では、世界のフードビジネスも学びます。観光に出かけると食文化は大きな魅力、お土産にも食材は人気です。外食産業を知り、フードツーリズムを学びます。		事前学習：皆さんの好きな食品メーカーを 10 社上げて下さい。 アサインメント：海外で楽しみたい食は何ですか？
第 2 回 10 月 12 日：食品ビジネスの歴史	食品ビジネスの歴史：食品ビジネスの背景には、とても長い日本の加工食品業界の歴史があります。それは日本の食文化と密接に結びつき、地域性があります。醤油や味噌、酒には産地があります。この授業では、日本と世界の食文化を知り、近代史から見た食品ビジネスを学び、高度経済成長前後の食生活の変化の中で、日本の食品ビジネスが世界に展開した様子を学びます。		事前学習：味噌と醤油の産地を調べて下さい。 アサインメント：キッコーマンのホームページから海外の製造拠点を調べて下さい。
第 3 回 10 月 19 日：世界のフードビジネス	日本ではキッコーマンが世界的に知られるフードビジネス界の代表選手です。世界にはもっと大きく有名な会社があります。ネスレとかユニリーバなどです。そこで世界のフード・システムを見て、世界の食産業の様子を知り、多様な世界の食ビジネスの国際比較が今日のお話しです。		事前学習：海外の食品メーカーの名前を上げて下さい。 アサインメント：ネスレの商品で皆さんが使ったことのあるものを調べて下さい。
第 4 回 10 月 26 日：フードチェーンの展開	今や、世界の流通システムは巨大化し、欧米先進国や日本は密接に繋がれ、ローカルフードよりもはるかに多くの輸入食品を、我々は消費しています。その食の国際化を可能にした「フードチェーン」の展開のお話です。ロジスティクスとは輸送のこと、どんなに遠くでも少しでも安い方法で確実に届ける仕組みのことです。それがとグローバル化したことでフードビジネスは巨大化しました。日本の食品企業、外食産業もありますが、この世界戦略が得意です。		事前学習：神戸港は日本を代表する港です。どんな海外の食材が輸入されているか調べて下さい。 アサインメント：コンテナ船の大きさを調べて下さい。
第 5 回 11 月 2 日：食生活の変化とフードビジネス	日本人の食生活は大きく変化しました。そのため、フードビジネスでは加工食品を次々と開発し、インスタント食品は大規模化しました。レトルトもコンビニ弁当も、調理品だけでなく菓子類も工場で作られます。このビジネスがどう発展してきたかを知るお話です。前回お話ししたロジスティクスの発達とともに、大量に生産された多様な食品が遠くまで運ばれることで、フードビジネスの市場は拡大、この変化を予測する術を持っていた会社が成功しました。キッコーマンなど有名企業の市場調査手法を紹介します。		アサインメント：冷蔵庫に入っている食品で海外で作られたものを調べてみて下さい。
第 6 回 11 月 9 日：ファストフードの発達と世界展開力	フードビジネスの中でもファストフード業界は最大のもので、マクドナルドが有名です。ファストフードが巨大化した現代社会を捉え、フードビジネスが急拡大しました。これまで述べたロジスティクスの発展が重要ですが、この発展拡大により、社会がどう変わり、我々の食生活がどう変わったかをみます。我々の社会		アサインメント：マクドナルドがどこでどう作られているか、調べてみて下さい。

	がフードビジネスに取り込まれたとも思えるから、これをファストフード化と呼びます。それに反対する人々が始めたのが、スローフード運動です。ファストとスローの近いからフードビジネスを考えます。	
第7回 11月16日：もう一つ巨大化したファミレス業界	ファミレス（ファミリーレストラン）は都市化とともに発展した産業です。アメリカで始まり、日本で大規模化しました。巨大化したフードビジネスの中心的存在です。東京郊外の保谷市（西東京市）のひばりが丘団地のスーパーマーケットが開いたレストラン「すかいらく」は数々の名前で行き交う料理を売っています。和食もあれば回転ずし、イタリアンもフレンチもあります。このビジネスモデルはインバウンドにも大人気です。この日本固有の業界を学びます。	事前学習：知っているファミレスの名前を上げて下さい。 アサイメント：セントラルキッチン方式、POS システムなどのお話を復習しておいて下さい。就活にも役立ちます。
第8回 11月23日：飲食業界の全体像を知る	ファストフードとファミレス以外にも飲食業は広がっています。飲食は昔から続く伝統的な業種、零細な個人企業のまま残ったお店が多くあります。ただその9割が短命に終わります。「飲食店はなぜ1年でつぶれるのか」を知り、フードビジネスの経営の側面を見ていきます。 一方、和食文化への関心の高まりから、京都などでは老舗料亭がしっかりと生き残っています。伝統的な食文化を守っているようで、かなり現代的な経営をしています。そして、インバウンドに大人気です。伝統と革新、大企業と零細な事業所、その対比の中でフードビジネスの特殊事情	アサイメント：飲食店を開業しようと思った時に、何が必要か書き出して下さい。
第9回 11月30日：世界の食文化と飲食業界	これまで日本を中心にフードビジネスのお話しをしてきましたが、今回から海外に目を向けます。食文化は多様で、フードビジネスの発展の様子もだいぶ違います。すでに紹介した世界でも有名な食品企業はありますが、外食産業の様子は十分違います。マクドナルドの出店を嫌いファストフード化を否定、スローフード運動を世界に広めたイタリアや、伝統的食文化を守る美食の国フランスなど、固有のフードビジネスを成功させている国のお話しをします。	事前学習：フランスとイタリアの料理を上げて下さい。 アサイメント：今日話に出た外国に関心のある食材、飲食店を上げて下さい。
第10回 12月7日：イタリアのスローフード	1986年に始まったスローフード運動は、イタリアのトリノの郊外ブレに食科学大学を開設し、世界的巨大フードビジネスに対抗しようとしています。スローフードは世界各地に広がり、スローでローカルな食文化を守っています。これは、ガストロノミー観光には魅力です。フードツーリズムも美食だけでなく、スローに健康に美容に、そして環境保全にという展開が起こるからです。有機食材や無農薬の動きも盛んです。イタリアでスローフードがどう広がったかをお話しします。	事前学習：スローフードを知らせて下さい。 アサイメント：オーガニック食品をリストにしてください。
第11回 12月14日：イタリアのアグリツーリズムとフードビジネス	イタリアにはスローフード以前からアグリツーリズムがあります。農村に行き取れたての食材を楽しむ、農家民宿に泊まる余暇の過ごし方です。農村観光と言われるスタイルで、同時にフードツーリズム、食とワインが人気の秘密です。イタリアの他にもフランスで	事前学習：農村観光をホームページで検索してください。 アサイメント：オーベルジュについて調べて下さい。泊ったことがある人は感想を述べて下さい。

	はグリーンツーリズム、ドイツでは農家民宿、イギリスではB & Bとしてそれぞれ人気のスタイルを持っています。でも日本ではなかなか発達しません。小さいながらローカルな食文化を守る体制の違いを学びます。	
第12回 12月21日：フランスのガストロノミーと美酒美食観光	イタリア以上に美食文化の国がフランス、イタリアもエノガストロノミー観光ではフランスから大いに学んでいます。フランスでは、有名なワイン産地にブルゴーニュ、ボルドー、シャンパーニュ地方があり、それぞれの農村景観が世界文化遺産に登録されており、世界から美酒と美食を求める裕福な観光客を集めています。そこには世界有数のワイナリーがあり、LVMH社系列の世界ブランドのフードビジネス企業が揃っています。このフランス独特のビジネスモデルを学び、フードと観光ビジネスの未来を探ります。	アサイメント：少しワインに詳しくなりましょう。フランスのワイン産地を5つ、イタリアの産地を3つ挙げて、その特色を述べて下さい。
第13回 1月11日：日本のフードツーリズム	もう少し世界をみようと、アメリカのナババレー、スコットランドのウィスキーツアーの話を続けます。この他にも紹介したい国や地域はありますが、日本のフードツーリズムの話に移ります。日本には巨大化したフードビジネスがあるだけでなく、フードツーリズムに取り組む地域があります。京都が輸産名ですが、兵庫テロアール、食の創造都市・鶴岡、そして美酒の国新潟などです。和食のユネスコ無形遺産登録を受け、食文化は登録無形文化財にもなりました。各地に地産地消のオーガニックレストランが増えています。小さなフードビジネスの起こし方を学	事前学習：知っているスコッチ・ウィスキーのブランド名を上げて下さい。 アサイメント：日本国内の食文化観光地を上げて下さい。
第14回 1月18日：フードビジネスの未来、グローバル化する食文化と観光	こうして、フードビジネスは様々な形に成長してきました。その未来は洋々とし、皆さんが活躍を待っています。一方、食文化はグローバル化し、日本を訪れるインバウンドの最大の楽しみは日本の食文化にあるといえます。実際、今は世界に20万店もの日本食店があり、欧米先進国の食品スーパーには普通にお寿司や握り飯が並んでいます。授業を締めくくる前に、未来の食生活と未来のフードビジネス、フードツーリズムを予測するデータをお見せし、一緒に考えていきます。	アサイメント：皆さんが就職したいと思うような企業は見つかりましたか？もしあれば一つ上げて下さい。
第15回 1月25日：フードビジネスへの就活、何を留意するか	これまでの授業を振り返り、身につけて欲しい重要なポイントを整理します。フードビジネスは30兆円を超える産業、自動車産業の2倍、観光産業の3倍あります。つまり、求人数もそれだけ多いのです。ただ、自動車産業と違い大手が多いわけではなく、ローカルな零細企業ばかりですが、中にはキッコーマンやサントリーなど世界展開する企業もあり、国際的な人材を求めています。最後に就活に役立つ知識を総ざらいします。	最終回のまとめのレポート課題をお示しします。

1.授業コード (ナンバリング)	TTC301-A52	2.科目名	教育実習Ⅰ（中学・教職3年）秋・春		3.単位数	5
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	教職課程科目 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教職課程を履修し、中学英語1種免許等を希望する学生			9.履修学年	3年生～	
10.取得資格の要件	教職課程登録者		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程を登録しており、累積 GPA2.0 を超えている者のみ					
17.授業の目的と概要	【目的】教育実習に必要な最終準備と、実習後の振り返りを行う。 【概要】教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、実習校との連絡事項、手続きに関する事項、教員採用試験への申し込みに関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。本実習期間中は、各実習校の指導教諭の下、実際に教員の職務を体験する。事後指導では、各自の実習の成果を持ち寄り、体験から得たものを相互に報告しあう。					
18.学習目標と DPとの関連	○目標に沿った50分の授業計画を立て、それを実践できる ○教員に必要な服装、話し方ができる ○教育者としての自覚ができる *DPとの関連： （6）専門的知識・技能の活用力 教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、中学・高校の授業計画を作り、実施することができる					
19.教科書・教材	・山岡大基・田頭憲二（編著）（2023）『英語授業デザインマニュアル』大修館書店（履修者は購入のこと） ・「2021 年度生教職の手引き」を使用することがある。					
20.参考文献	1）中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等 2）加藤茂夫・杉山敏・荒木美恵子（著）（2020）『英語科教育実習ハンドブック 第4版』（大修館書店） 3）教育実習を考える会（編）（2005）『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語科』蒼丘書林 授業に関するもの ・小橋雅彦『若い英語教師のための教材研究入門』（2021）大学教育出版 ・笹島茂・宮原万寿子・末森咲・守屋亮（編）（2023）『英語授業をよくする質的研究のすすめ』ひつじ書房 ・白畑					
21.成績評価	・実習校における本実習に対する成績評価・・・50% ・実習ノート・・・10% 毎日の記録が過不足なく記入されているか、 観察授業の記録は、教育者の視点から過不足なく記入されているか 指導案等の資料は記録されているか ・事前段階における模擬授業・・・20% 授業計画2回：計画内容等項目をきちんと書けているか、内容は適切か					

	うち 1 回は模擬授業：計画通りに実行できたか、計画内容、準備等） 他の学生の模擬授業に対する評価シート（評価の観点、態度等） ・事後における報告・・・5% 総計 100%のうち 60%で	
22.コメント	・将来の指導者としての意識を持ち、それにふさわしい言動を心がけましょう。時間厳守、ルールを守ること ・教職カルテを使って振り返り等を実施するので、PC とファイルを指示のあった回には持参すること ・2023 年度秋学期～2024 年度春学期の科目のため、16 回～30 回は 2024 年度の予定です。 ＊実習日程は各自異なりますので、実習校からの実習承諾書で実習の日程と事前打ち合わせの日程を確認しておくこと	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：調整中	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 ・実習前後・実習中を通して、守らねばならない項目について確認し、「誓約書」を書き、提出します。 ・各自の実習期間を確認して、模擬授業の順番と日程を決めます。 ・事務的な手続きの最終確認をします。 ・実習先での行動等実習生としての心得について、常識に属する事柄も含めて解説します。 ・法定伝染病（麻疹等）への対策、事前説明会の日程確認と出席、教員採用試験への申し込み、出勤簿への押捺、実習後の挨拶・礼状作成等、様々あります。 ・実習期間中の記録のつけ方、担当する授	ノート PC またはタブレット ★学習指導案・細案の作成（次週提出）120 分
第 2 回	学習指導案と細案の修正 書式や内容を相互に確認し、改善すべき点を確認します。 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 模擬授業の教員役担当の際は、前日までに該当箇所の教科書コピー・学習指導案・細案・ワークシートをファイルで提出すること	模擬授業の映像をシェアフォルダにアップロードするので、自分の話し方や動きなど、確認すること。 また、同様に過去の先輩の映像も参考に見ておくこと。 ★指導案・細案の修正（60 分）
第 3 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	ノート PC またはタブレット ★模擬授業のための教材選定・教材研究・教材作成（120 分）
第 4 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）

	よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	
第 5~20 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 21 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 なお、実習期間が早く始まる実習生は、順次実習に出ます。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 22 回	本実習	
第 23 回	本実習	
第 24 回	本実習	
第 25 回	本実習 なお、早い時期に実習が終わる実習生は、順次、担当教員に終了の報告をし、個別指導を受けることになります。	
第 26 回	プレゼンテーション 事後報告会（1） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 27 回	プレゼンテーション 事後報告会（2） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 28 回	プレゼンテーション 事後報告会（3） 相互に実習体験の報告会を実施します。	★教育実習を終えて(レポート)
第 29 回	プレゼンテーション 事後報告会（4） 実習体験の報告会を実施します。 実習後の各種手続き等(実習記録の提出、レポートの提出、礼状の送付等)について確認します。	
第 30 回	総括：実習体験を共有しふりかえりながら、学校や地域などによる差や、様々な教育現場の取り組みを考えます。	★教職カルテ

1.授業コード (ナンバリング)	TTC301-M52	2.科目名	教育実習Ⅰ（教職3年）		3.単位数	5
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	自由科目 (教職)	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。 3 年次終了時点の累積 GPA が 2.00 を下回った場合、4 年次の本実習には参加できない。					
17.授業の目的と概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	（1）事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 (1-1)事前指導：教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 (1-2)事後指導：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 （2）観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：生徒や学習環境に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (2-1)生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 (2-2)指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 (2-3)教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 (2-4)学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 （3）学習指導及び学級経営に関する事項：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。 (3-1)学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 (3-2)学習指導に必要な基礎的技術（話法、板書、学習形態、授業展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 (3-3)学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 (3-4)教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わるすることができる。					
19.教科書・教材	特に指定なし。 自分が実習先で使用する教科書等。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	実習校における本実習に対する成績評価・・・55%					

	実習ノート(事前調査を含む)・・・15% 事前段階における模擬授業(実施分10%、他の実習生に対する評価10%)・・・20% 事後における口頭報告と最終レポート(併せて10%)	
22.コメント	生成AIの利用■条件付きで認める 授業案作成等について、生成AI等の活用は許容範囲だが、授業実践は自らの責任において行う以上、授業案の内容についても授業者が責任を負うべきこと。それ以外のレポート等は自分の言葉で書くべきこと	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水2限(みさお館2F) 研究室オフィスアワー 水3限(4号館5階26号室)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
事前1	事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 秋学期中に行う、模擬授業の順番と日程を決めます。	模擬授業の準備、教材研究、指導案作成等(1-2h)
事前2	模擬授業のための指導案作成、教材研究のグループワーク 模擬授業の実践を通して、学校の教育活動に参画する意識を高めます。	
事前3	最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 本来なら、各自がフルサイズ(50分)の授業を1度は体験できるようにしたいのですが、参加人数により調整し、ハーフサイズ(20分程度)とすることがあります。	
	ここまでが秋学期実施分、以下、翌年度春学期実施分	
事前4	実習の心得、各種注意事項の確認。手続き上の論点の解説。 教育実習生として遵守すべき義務等を理解し、実習といえども、生徒の前に立つ限りは教員としてふるまうべき責任があることを自覚する。 各実習校の情報に関する事前調査を宿題とする。学校経営方針及び特色ある教育活動等およびそれらを実施するために敷かれている組織体制等について、各学校や教育委員会が公開しているHP等の情報で外部からわかる範囲のデータを収集し、次回発表する。	学校情報に関する基本調査の収集ととりまとめ(2-4h)
事前5	実習期間中の記録のつけ方を説明する。 実習記録ノートの構造、記録すべき内容、授業観察記録、自分の授業の指導案・板書計画、研究授業の記録等、の書き方について一通り説明する。 調査結果の相互発表。	
本実習	本実習中の課題等	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	TTC301-Y51	2.科目名	教育実習Ⅰ (教職 2023 年生)		3.単位数	5
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	教職課程科目 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期～2026 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	神戸山手キャンパス所属学科の教職課程登録者で、教育実習の内諾が取れた学生のみ			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	教職課程登録者		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程を登録しており、累積 GPA2.0 を超えている者のみ					
17.授業の目的と概要	【目的】教育実習に必要な最終準備と、実習後の振り返りを行う。 【概要】教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、実習校との連絡事項、手続きに関する事項、教員採用試験への申し込みに関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。本実習期間中は、各実習校の指導教諭の下、実際に教員の職務を体験する。事後指導では、各自の実習の成果を持ち寄り、体験から得たものを相互に報告しあう。					
18.学習目標と DPとの関連	○目標に沿った 50 分の授業計画を立て、それを実践できる ○教員に必要な服装、話し方ができる ○教育者としての自覚ができる * DP との関連： (6) 専門的知識・技能の活用力 教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、中学・高校の授業計画を作り、実施することができる					
19.教科書・教材	「2021 年度生教職の手引き」を使用することがある。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	・実習校における本実習に対する成績評価・・・50% ・実習ノート・・・10% 毎日の記録が過不足なく記入されているか、 観察授業の記録は、教育者の視点から過不足なく記入されているか 指導案等の資料は記録されているか ・事前段階における模擬授業・・・20% 授業計画 2 回：計画内容等項目をきちんと書けているか、内容は適切か うち 1 回は模擬授業：計画通りに実行できたか、計画内容、準備等) 他の学生の模擬授業に対する評価シート（評価の観点、態度等） ・事後における報告・・・5% 総計 100%のうち 60%で					
22.コメント	・将来の指導者としての意識を持ち、それにふさわしい言動を心がけましょう。時間厳守、ルールを守ること ・教職カルテを使って振り返り等を実施するので、PC とファイルを指示のあった回には持参すること ・2023 年度秋学期～2024 年度春学期の科目のため、16 回～30 回は 2024 年度の予定です。 * 実習日程は各自異なりますので、実習校からの実習承諾書で実習の日程と事前打ち合わせの					

		日程を確認しておくこと * 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題での利用は認めません。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ 事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 ・ 実習前後・実習中を通して、守らねばならない項目について確認し、「誓約書」を書き、提出します。 ・ 各自の実習期間を確認して、模擬授業の順番と日程を決めます。 ・ 事務的な手続きの最終確認をします。 ・ 実習先での行動等実習生としての心得について、常識に属する事柄も含めて解説します。 ・ 法定伝染病（麻疹等）への対策、事前説明会の日程確認と出席、教員採用試験への申し込み、出勤簿への押捺、実習後の挨拶・礼状作成等、様々あります。 ・ 実習期間中の記録のつけ方、担当する授	ノート PC またはタブレット ★学習指導案・細案の作成（次週提出）120 分
第 2 回	学習指導案と細案の修正 書式や内容を相互に確認し、改善すべき点を確認します。 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 模擬授業の教員役担当の際は、前日までに該当箇所の教科書コピー・学習指導案・細案・ワークシートをファイルで提出すること	模擬授業の映像を katayama のシェアフォルダにアップロードするので、自分の話し方や動きなど、確認すること。 また、同様に過去の先輩の映像も参考に見ておくこと。 ★指導案・細案の修正（60 分）
第 3 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	ノート PC またはタブレット ★模擬授業のための教材選定・教材研究・教材作成（120 分）
第 4 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 5~20 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）

第 21 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 なお、実習期間が早く始まる実習生は、順次実習に出ます。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 22 回	本実習	
第 23 回	本実習	
第 24 回	本実習	
第 25 回	本実習 なお、早い時期に実習が終わる実習生は、順次、担当教員に終了の報告をし、個別指導を受けることになります。	
第 26 回	プレゼンテーション 事後報告会（1） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 27 回	プレゼンテーション 事後報告会（2） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 28 回	プレゼンテーション 事後報告会（3） 相互に実習体験の報告会を実施します。	★教育実習を終えて(レポート)
第 29 回	プレゼンテーション 事後報告会（4） 実習体験の報告会を実施します。 実習後の各種手続き等(実習記録の提出、レポートの提出、礼状の送付等)について確認します。	
第 30 回	総括：実習体験を共有しふりかえりながら、学校や地域などによる差や、様々な教育現場の取り組みを考えます。	★教職カルテ

1.授業コード (ナンバリング)	TTC302-M52	2.科目名	教育実習Ⅱ（教職3年）		3.単位数	3
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	自由科目 (教職)	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	3年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。 3年次終了時点の累積 GPA が 2.00 を下回った場合、4年次の本実習には参加できない。					
17.授業の目的と概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	（1）事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 (1-1)事前指導：教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 (1-2)事後指導：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 （2）観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：生徒や学習環境に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (2-1)生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 (2-2)指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 (2-3)教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 (2-4)学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 （3）学習指導及び学級経営に関する事項：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。 (3-1)学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 (3-2)学習指導に必要な基礎的技術（話法、板書、学習形態、授業展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 (3-3)学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 (3-4)教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わるすることができる。					
19.教科書・教材	特に指定なし。 自分が実習先で使用する教科書等。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	実習校における本実習に対する成績評価・・・55%					

	実習ノート(事前調査を含む)・・・15% 事前段階における模擬授業(実施分10%、他の実習生に対する評価10%)・・・20% 事後における口頭報告と最終レポート(併せて10%)	
22.コメント	生成AIの利用■条件付きで認める 授業案作成等について、生成AI等の活用は許容範囲だが、授業実践は自らの責任において行う以上、授業案の内容についても授業者が責任を負うべきこと。それ以外のレポート等は自分の言葉で書くべきこと	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水2限(みさお館2F) 研究室オフィスアワー 水3限(4号館5階26号室)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
事前1	事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 秋学期中に行う、模擬授業の順番と日程を決めます。	模擬授業の準備、教材研究、指導案作成等(1-2h)
事前2	模擬授業のための指導案作成、教材研究のグループワーク 模擬授業の実践を通して、学校の教育活動に参画する意識を高めるます。	
事前3	最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 本来なら、各自がフルサイズ(50分)の授業を1度は体験できるようにしたいのですが、参加人数により調整し、ハーフサイズ(20分程度)とすることがあります。	
	ここまでが秋学期実施分、以下、翌年度春学期実施分	
事前4	実習の心得、各種注意事項の確認。手続き上の論点の解説。 教育実習生として遵守すべき義務等を理解し、実習といえども、生徒の前に立つ限りは教員としてふるまうべき責任があることを自覚する。 各実習校の情報に関する事前調査を宿題とする。学校経営方針及び特色ある教育活動等およびそれらを実施するために敷かれている組織体制等について、各学校や教育委員会が公開しているHP等の情報で外部からわかる範囲のデータを収集し、次回発表する。	学校情報に関する基本調査の収集ととりまとめ(2-4h)
事前5	実習期間中の記録のつけ方を説明する。 実習記録ノートの構造、記録すべき内容、授業観察記録、自分の授業の指導案・板書計画、研究授業の記録等、の書き方について一通り説明する。 調査結果の相互発表。	
本実習	本実習中の課題等	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	TTC302-Y51	2.科目名	教育実習Ⅱ (教職 2023 年生)		3.単位数	3
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	教職課程科目 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	神戸山手キャンパス所属学科の教職課程登録者のみ			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	教職課程登録者		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程を登録しており、累積 GPA2.0 を超えている者のみ					
17.授業の目的と概要	【目的】教育実習に必要な最終準備と、実習後の振り返りを行う。 【概要】教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、実習校との連絡事項、手続きに関する事項、教員採用試験への申し込みに関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。本実習期間中は、各実習校の指導教諭の下、実際に教員の職務を体験する。事後指導では、各自の実習の成果を持ち寄り、体験から得たものを相互に報告しあう。					
18.学習目標と D P との関連	○目標に沿った 50 分の授業計画を立て、それを実践できる ○教員に必要な服装、話し方ができる ○教育者としての自覚ができる * DP との関連： (6) 専門的知識・技能の活用力 教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、中学・高校の授業計画を作り、実施することができる					
19.教科書・教材	「2021 年度生教職の手引き」を使用することがある。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	・実習校における本実習に対する成績評価・・・50% ・実習ノート・・・10% 毎日の記録が過不足なく記入されているか、 観察授業の記録は、教育者の視点から過不足なく記入されているか 指導案等の資料は記録されているか ・事前段階における模擬授業・・・20% 授業計画 2 回：計画内容等項目をきちんと書けているか、内容は適切か うち 1 回は模擬授業：計画通りに実行できたか、計画内容、準備等) 他の学生の模擬授業に対する評価シート (評価の観点、態度等) ・事後における報告・・・5% 総計 100%のうち 60%で					
22.コメント	・将来の指導者としての意識を持ち、それにふさわしい言動を心がけましょう。時間厳守、ルールを守ること ・教職カルテを使って振り返り等を実施するので、PC とファイルを指示のあった回には持参すること ・2023 年度秋学期～2024 年度春学期の科目のため、16 回～30 回は 2024 年度の予定です。 * 実習日程は各自異なりますので、実習校からの実習承諾書で実習の日程と事前打ち合わせの日程を確認しておくこと					

		*生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題での利用は認めません。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 ・実習前後・実習中を通して、守らねばならない項目について確認し、「誓約書」を書き、提出します。 ・各自の実習期間を確認して、模擬授業の順番と日程を決めます。 ・事務的な手続きの最終確認をします。 ・実習先での行動等実習生としての心得について、常識に属する事柄も含めて解説します。 ・法定伝染病（麻疹等）への対策、事前説明会の日程確認と出席、教員採用試験への申し込み、出勤簿への押捺、実習後の挨拶・礼状作成等、様々あります。 ・実習期間中の記録のつけ方、担当する授	ノート PC またはタブレット ★学習指導案・細案の作成（次週提出）120 分
第 2 回	学習指導案と細案の修正 書式や内容を相互に確認し、改善すべき点を確認します。 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 模擬授業の教員役担当の際は、前日までに該当箇所の教科書コピー・学習指導案・細案・ワークシートをファイルで提出すること	模擬授業の映像を katayama のシェアフォルダにアップロードするので、自分の話し方や動きなど、確認すること。 また、同様に過去の先輩の映像も参考に見ておくこと。 ★指導案・細案の修正（60 分）
第 3 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	ノート PC またはタブレット ★模擬授業のための教材選定・教材研究・教材作成（120 分）
第 4 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 5~20 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）

第 21 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 なお、実習期間が早く始まる実習生は、順次実習に出ます。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 22 回	本実習	
第 23 回	本実習	
第 24 回	本実習	
第 25 回	本実習 なお、早い時期に実習が終わる実習生は、順次、担当教員に終了の報告をし、個別指導を受けることになります。	
第 26 回	プレゼンテーション 事後報告会（1） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 27 回	プレゼンテーション 事後報告会（2） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 28 回	プレゼンテーション 事後報告会（3） 相互に実習体験の報告会を実施します。	★教育実習を終えて(レポート)
第 29 回	プレゼンテーション 事後報告会（4） 実習体験の報告会を実施します。 実習後の各種手続き等(実習記録の提出、レポートの提出、礼状の送付等)について確認します。	
第 30 回	総括：実習体験を共有しふりかえりながら、学校や地域などによる差や、様々な教育現場の取り組みを考えます。	★教職カルテ

1.授業コード (ナンバリング)	TTC401-A51	2.科目名	教職実践演習（中・高）		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	教職課程 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科・経営学科（尼崎 C）の教職課程登録者				9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件	中英語（教育福祉学科）、中学社 会・高校公民（経営学科）		11.先修条件	教育実習を終えた、または履修中の学生		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中学校または高校で教育実習を終えた・または年度内に実習が終わる予定の教職課程登録者に 限る					
17.授業の目的と概要	【目的】教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。 【概要】 次のような項目について、様々な方法で学びます。 ○学習指導について、模擬授業（マイクロティーチング）、ロールプレイ、授業参観、学習指導案、教材研究等により授業力を高めます。 ○学級経営・生徒理解のために、現職教員の講話、実践事例研究、討論等により理解力・指導力を高めます。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付けます。 ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解し、自覚を促します。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 （１）教材研究の方法を理解し、授業のスキルを磨く （２）学校を取り巻く様々な問題などについて理解する （３）学校の服務、校務分掌などを知る （４）教員としての社会的な使命・責任・役割を理解する （５）教員として自分に不足していることを自覚し、どう伸ばすか、補うか、考える 【DPとの関連】 上記の学習目標は下記の DP との関連があります。 * DP(6) これまで学んだ教職や専門の知識を統合し、教育実習での経験を踏まえて、将来の教員としての準備に活かします。					
19.教科書・教材	西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也（2013）『教職実践演習ワークブッカーポートフォリオで教師力アップー』ミネルヴァ書房					
20.参考文献	・池田修（2013）『新版 教師になるということ』学陽書房 ・山崎準二・紅林伸幸（編著）（2023）『専門職として成長し続ける教師になるために（教職概説）』人言洞 ・該当免許種の学習指導要領、学習指導要領解説 ・その他、関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	・発表 20%					

	・課題レポート 40% ・教職の意義と使命・責任感について、生徒理解についての評価 20% ・教育実習、模擬授業（マイクロティーチング）の分析と考察 20% ※教職カルテを WecClass に入力し、授業最終回に最終版を提出すること 総計 100%のうち 60%以上が合格です。	
22.コメント	卒業後、教壇に立つ者として、適切な言動を求めます。授業の中では、発表や討論もしますので、積極的な参加を期待します。 ※教職カルテを WecClass に入力し、授業最終回に最終版を提出すること	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：調整中	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	イントロダクション ・4年間の学修の振り返り ・履修カルテの確認 ・教育実習の分析と考察 【教科書 p.2~P.5】 ・大学における教員養成の意味とは ・教職実践演習とは	◆ノート PC またはタブレット
【第2回】	教師に求められる専門的力量とは（1） 学校現場で求められる教師像―教員の役割と責務 教育実習の総括と分析 【教科書 p.6~P.9】 ・専門職としての教師 ・教師に求められる力量の五つの柱 ・教職の高度化・専門職化のビジョン	○【課題 1-1】各自治体の教育理念等について調べ、まとめる（90 分）
【第3回】	教師に求められる専門的力量とは（2） ・教員の服務 ・職務上の服務 ・学校の服務、校務分掌 ・各地方自治体が求める教師像 【課題 1-1】 の提出	○【課題 1-2】前回と異なる自治体の教育理念等について調べ、まとめる（90 分）
【第4回】	教師に求められる専門的力量とは（3） 具体的な教師像として、それに到達するための方策を検討する 【教科書 p.26~P.27】 ・教職に求められる教養 【教科書 p.14~P.15】 ・ポートフォリオとは何か―履修カルテとのちがいは 【課題 1-2】 の提出	○【課題 2】求められる教育をどう実現するのか、個人としての考えを論述する（90 分）
【第5回】	学校の組織内の人間関係や地域社会の関係者などのかかりについて 【課題 2】 の提出	○【課題 3-1】該当する教育ニュース等調べ、まとめる（60 分）
【第6回】	保護者との信頼関係構築 【教科書 p.56~P.57】 ・保護者への対応について考えよう 【課題 3-1】 の提出	○【課題 3-2】該当する教育ニュース等調べ、まとめる（60 分）

【第 7 回】	講話(体験談) * スケジュールは変更になることもあります。 【課題 3-2】の提出	○【課題 4】講話のまとめ (30 分)
【第 8 回】	生徒理解と学級経営の理論 【教科書 p.28~P.33】 ・ 児童・生徒理解に基づいて観察記録を書いてみよう ・ 学級経営のさまざまな手法を学ぼう 【課題 4】の提出	
【第 9 回】	学級経営案の作成と検討 (グループ討論) 【教科書 p.34~P.35】 ・ 学級経営案を書こう	○ 【課題 5-1】学級経営案の形式例 (教科書 p.35) を Word で作成する。 【課題 5-2】討論の要約と自分の考察を文章化する (60 分)
【第 10 回】	学級経営上のさまざまな教育的対応 【教科書 p.36~P.39】 ・ 特別支援教育についての理解を深めよう ・ 不登校への対応について考えよう 【教科書 p.48~P.55】 ・ いじめへの対応について考えよう ・ 教師に対する反抗的態度への対応について考えよう 【その他】 ・ 他国籍児童への対応について考えよう ・ ICT リテラシー育成について 【課題 5-1】【課題 5-2】の提出	
【第 11 回】	教科等の授業づくりの力量 (1) ・ 知識・技能を確かめる問題や課題をデザインする ・ パフォーマンス課題をデザインする 教材研究 教材作成 (学習プリント、ワークシートづくりなど) 模擬授業 (マイクロティーチング) 【教科書 p.68~p.69】 ・ 児童・生徒のつまづきを研究しよう 【教科書 p.70~p.73】 ・ 単元の教材研究をしよう 【教科書 p.82~p.85】 ・ 知識・技能を確かめる問題や課題をデザインする ・ パフォーマンス課題をデザインする ★教育実習で使用した教科書を持参すること。	○授業準備 (90 分)
【第 12 回】	教科等の授業づくりの力量 (2) ・ 参加型の授業をデザインする 教材研究 教材作成 (学習プリント、ワークシートづくりなど) ★教育実習で使用した教科書を持参すること。 模擬授業 (マイクロティーチング)	○授業準備 (90 分)

	【教科書 p.92～p.93】 ・参加型の授業を考案しよう 【教科書 p.94～p.95】 ・授業（模擬授業）をしよう <参考> 【教科書 p.66～p.67】 ・教科書の比較研究をしてみよう 【教科書 p.74～p.75】 ・小中高の系統性を考えよう	
【第 13 回】	教師に求められる教科指導能力とは 【教科書 p.60～p.65】 ・教科内容に関する知識・技能 ・自分の実践の教育目標を明確に記述してみよう	○【課題 6】自分の免許種の科目について、どう能力を伸ばしていくのか、目標と具体的な計画を考える（60 分）
【第 14 回】	自己研鑽、研修について 【教科書 p.100～P.113】 ・課題研究力 ・実践記録を読もう ・現代社会における教育のあり方について考えよう ・授業研究をしてみよう 【教科書 p.10～P.11】 ・教師の力量形成とライフコース	
【第 15 回】	求められる教師の資質能力について 振り返り：「教職実践演習から学べたこと」 【課題 6】の提出	

1.授業コード (ナンバリング)	TTC401-M51	2.科目名	教職実践演習 (中・高)		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科・経営学科の4年次生で、教育実習を終えた、または履修中の者			9.履修学年	4年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 中学(英語) 中学(社会)	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられている。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されている。					
18.学習目標と DPとの関連	■本授業の学修目標 教師としての使命感や責任感を身につけ、生徒に対する教育的愛情をもつことができる。 最低限の社会性や対人関係能力を身につけ、実際の場面で発揮することができる。 生徒理解や学級経営等、これまで学んできたことを実際の場面で生かすことができる。 教科内容等の指導力について、自分の強みと弱みを分析し、さらなる自己研修の方向性を示すことができる。 上記の目標を達成することで教員として必要とされる専門的知識・技能を身につけて学校現場で活用することができる。					
19.教科書・教材	特になく、必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	グループ討論・・・30% ロールプレイング貢献度・・・20% 模擬授業・・・20% 最終レポート・・・30%					
22.コメント	教育実習で得たものを確認し、将来教職に就く時の糧としてください。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	科目概要の説明、進め方の確認、「履修カルテ」を用いた振り返り（自己分析）と教職に向けた課題の確認			教育実習の振り返りを実習ノート及び記録から行う。		
第2回	グループ討論：「あらためて教育実習を振り返る」 実際の教育現場で起きている現代的課題、自分自身が教職者として成長するために必要な要件など、自分たちの実習経験を素材にあぶりだす。			教職実践チェック表により自分自身の実践力の現状を理解し、本講義での重点課題を設定する。		
第3回	グループ討論：ロールプレイング課題の設定			個々の役割やシナリオを決定し、実際にロー		

	前回の討論を踏まえて、現在現場で起きている諸問題について、ロールプレイングを行うとしたら、どのようなテーマが喫緊の課題となるか、どんな役割がありうるかを話し合う。	ルプレイを行うための準備をする。 想定される事例：いじめの発見と解決、体罰の境界判断、保護者とのコミュニケーション等々
第 4 回	設定した課題に関する事例研究 1 ロールプレイングのシナリオ設定に必要な情報を自身の体験以外に広く求めるために資料収集による事例研究を行い、成果を発表する。グループごとに担当するテーマを決め、順番に発表し、相互に比較検討するための討論を行う。	○事例研究用の資料を収集してまとめる。
第 5 回	設定した課題に関する事例研究 2 同上	○事例研究用の資料を収集してまとめる。
第 6 回	三木市教育委員会、三木市内学校長等の講演(予定：時期の変更あり)	○質問内容を用意する。
第 7 回	ロールプレイング実践 1 一定のシナリオに沿ったロールプレイを実際に行ってみて、問題の再現性などを検討する。	○ロールプレイの内容を考える
第 8 回	ロールプレイング実践 2 同上	○同上
第 9 回	ロールプレイング実践 3 同上	○同上
第 1 0 回	教科指導力の再点検：教材研究の深化と模擬授業 1 実習の成果を踏まえて、教科に対する認識をさらに深め、身に付けた教授技術の再点検を行うための模擬授業を行う。実習では十分に展開できなかった教育方法なども積極的に 試行する。	○模擬授業の準備をする。
第 1 1 回	教科指導力の再点検：教材研究の深化と模擬授業 2 同上	○同上
第 1 2 回	教科指導力の再点検：教材研究の深化と模擬授業 3 同上	○同上
第 1 3 回	学級経営・生徒指導・進路指導に関するグループ討論 これまでに行った討論やロールプレイングで取り扱えなかった論点について再提示し、あらためてグループ討論、追加の事例研究などを行う。	○グループ討論、事例研究の資料を用意する。
第 1 4 回	教科外活動、学校行事、クラブ活動等に関するグループ討論 同上	○グループ討論の資料を用意する。

第 1 5 回	最終まとめ：教師の資質能力と自身の到達点の確認 教職者としての自分の到達位置を確認するためのレ ポートの執筆	○レポートの作成と提出

1.授業コード (ナンバリング)	TTC401-Y51	2.科目名	教職実践演習（中・高）		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	教職課程 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	神戸山手キャンパス所属学科の教職課程登録者			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	中高英語（英コミ学科）、中学社会・高校公民（心理学科）		11.先修条件	教育実習を終えた、または履修中の学生		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中学校または高校で教育実習を終えた・または年度内に実習が終わる予定の教職課程登録者に 限る					
17.授業の目的と概要	【目的】教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。 【概要】 次のような項目について、様々な方法で学びます。 ○学習指導について、模擬授業、ロールプレイ、授業参観、学習指導案、教材研究等により授業力を高めます。 ○学級経営・生徒理解のために、現職教員の講話、実践事例研究、討論等により理解力・指導力を高めます。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付けます。 ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解し、自覚を促します。					
18.学習目標と DPとの関連	○教材研究の方法を理解し、授業のスキルを磨く ○学校を取り巻く様々な問題などについて理解する ○学校の服務、校務分掌などを知る ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解する ○教員として自分に不足していることを自覚し、どう伸ばすか、補うか、考える *DP(6) これまで学んだ教職や専門の知識を統合し、教育実習での経験を踏まえて、将来の教員としての準備に活かします。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	該当免許種の学習指導要領、学習指導要領解説					
21.成績評価	発表 20% 課題レポート 40% 教職の意義と使命・責任感について、生徒理解についての評価 20% 教育実習の分析と考察 20% *教職カルテの最終版を、授業最終回にファイルで提出すること 総計 100%のうち 60%以上が合格です。					
22.コメント	卒業後、教壇に立つ者として、適切な言動を求めます。授業の中では、発表や討論もしますの					

		で、積極的な参加を期待します。 *生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題では一切使用を認めません。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション 4 年間の学修の振り返り	◆ノート PC またはタブレット
【第 2 回】	教師に求められる資質 (1) 学校現場で求められる教師像ー教員の役割と責務 教育実習の総括と分析	○各自治体の教育理念等について調べ、まとめる (90 分)
【第 3 回】	教師に求められる資質 (2) 各地方自治体が求める教師像	○前回と異なる自治体の教育理念等について調べ、まとめる (90 分)
【第 4 回】	教師に求められる資質 (3) 具体的な教師像として、それに到達するための方策を検討する	○求められる教育をどう実現するのか、個人としての考えを論述する (90 分)
【第 5 回】	学校の組織内の人間関係や、保護者、地域社会の関係者などのかかわりについて	○該当する教育ニュース等調べ、まとめる (60 分)
【第 6 回】	教育問題とクレイマーペアレンツに対する対処法	○該当する教育ニュース等調べ、まとめる (60 分)
【第 7 回】	講話(現職教員の体験談) *スケジュールは変更になることもあります。 三木との共同開催のため、11/27 (月) 5 限に Zoom 利用で実施します。 URL は、WenClass にて後日連絡します。	○講話のまとめ (30 分)
【第 8 回】	学級経営の理論と生徒理解	
【第 9 回】	学級経営案の作成 (グループ討論)	○討論の要約と自分の考察を文章化する (60 分)
【第 10 回】	学級経営上の問題点	
【第 11 回】	教材研究、教材作成 (学習プリント、ワークシートづくりなど) と模擬授業	○授業準備 (90 分)
【第 12 回】	教材研究、教材作成 (学習プリント、ワークシートづくりなど) と模擬授業	○授業準備 (90 分)
【第 13 回】	教師に求められる教科指導能力とは	○自分の免許種の科目について、どう能力を伸ばしていくのか、目標と具体的な計画を考える (60 分)
【第 14 回】	自己研鑽、研修について	
【第 15 回】	求められる教師の資質能力について 「教職実践演習から学べたこと」	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT115-Y51	2.科目名	ライティング総合1 L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴニー啓子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Objective: In this class, students progress from paragraph development to essay writing. Abstract: The topics include personal episodes related to favorite activities and daily life as well as learning how to make arguments on social and cultural issues. Students also learn how to write citations and references. In addition, grammar and vocabulary/idioms are developed through exercises focusing on accuracy.					
18.学習目標と DPとの関連	Students can 1. learn how to compose coherent paragraphs. 2. write four 400- word- essays. 3. learn how to write citations and references. 4. develop vocabulary, idioms and grammar. 5. work both individually and cooperatively in pairs and groups. PD: 問題発見、解決力 (problem-solving)					
19.教科書・教材	handouts					
20.参考文献	To be announced in class					
21.成績評価	In-class writing = 50% Quizzes = 20% Essay 各 10 点×3 本 = 30% * Late submissions of reports or essays will not accepted. * Paragraphs or essays generated by AI or translation apps are unacceptable and will receive an F (fail). * To receive credit, you must c					
22.コメント	1. Please bring your PC, a dictionary and B5 loose-leaf paper. 2. In the event of severe weather, the class will be held online. 3. Remember to check WebClass occasionally for any updates or notices. 4. If you are too sick to attend class, please contact me. 5.*Generative AI may be used only if permitted by the teacher. Its use is prohibited during exams and for reports.					
23.オフィスアワー	Available before or after class, and via email					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	(1) Orientation : Introducing the syllabus, class rules. writing oneself (2) free writing paragraph writing			Homework paragraph writing		

	~outline, ~topic sentence, supporting details, concluding sentence pair work	
Week 2	(1) free writing paragraph writing vocabulary, grammar work (2) free writing paragraph writing vocabulary, grammar work pair work	Homework paragraph writing
Week 3	(1) free writing paragraph writing vocabulary, grammar work (2) free writing paragraph writing vocabulary, grammar work pair work	Homework paragraph writing
Week 4	(1) free writing paragraph writing vocabulary, grammar work (2) free writing Quiz paragraph writing vocabulary, grammar work group work	Homework prepare for a quiz (paragraph writing)
Week 5	(1) free writing paragraph writing vocabulary, grammar work (2) free writing paragraph writing vocabulary, grammar work group work	Homework Review vocabulary, grammar
Week 6	(1) free writing analyzing a model essay 1 ~ outline ~introduction, body, conclusion, thesis statement (2) free writing analyzing a model essay 2 ~ outline grammar, vocabulary pair work	Homework Review the model essay
Week 7	(1) free writing analyzing a model essay 3 ~ outline ~introduction, body, conclusion, thesis	Homework Review the model essay

	statement (2) free writing Quiz (model essay) grammar, vocabulary pair work	
Week 8	(1) Essay writing 1 first draft writing an outline and introduction (2) Essay writing 1 second draft writing bodies and conclusion self revising, peer revising pair work	Homework essay writing revising
Week 9	(1) Essay writing 1 final draft peer revising, self editing (2) free writing grammar, vocabulary work pair work	Homework finish the final draft * submit the essay 1
Week 10	(1) Essay writing 2 first draft writing an outline, introduction (2) Essay writing 2 second draft writing bodies, conclusion self editing	Homework writing the essay 2 revising, editing
Week 11	(1) Essay writing 2 final draft self editing, peer revising (2) free writing grammar, vocabulary work pair work	Homework finish the final draft * submit the essay 2
Week 12	(1) Essay writing 3 first draft writing an outline, introduction, bodies, conclusion (2) Essay writing 3 second draft self revising, peer revising, self editing pair work	Homework writing the essay 3 revising, editing
Week 13	(1) Essay writing 3 final draft (2) free writing vocabulary, grammar work pair work	Homework finish the final draft editing * submit the essay 3
Week 14	(1) free writing review essay writing grammar, vocabulary work pair work (2) free writing grammar, vocabulary work pair work	Homework prepare for an essay test

Week 15	(1) review the essay test grammar, vocabulary work (2) Consolidation reflection	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT116-Y51	2.科目名	ライティング総合2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上加寿子					
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 Students will learn how to organize and develop their ideas in writing beyond the sentence level. They will learn how to write in well-structured paragraphs with a clear main idea, supporting details and a conclusion.					
	【概要】 Using the textbook, students will study some of the most common writing patterns of English, including expressing time order, describing people and places, and supporting an opinion. Students will also have practice in the different stages of the writing process, including brainstorming, outlining, revising and editing. As a final assignment, each student will produce an essay consisting of multiple paragraphs.					
18.学習目標と DPとの関連	1. Students will become able to plan, revise and edit their writing effectively. 2. Students will become aware of weaknesses in their writing, which will lead to improvement of their grammar, vocabulary, spelling and punctuation. 3. Students will become more comfortable writing in English and derive more enjoyment from it.					
	【関連する DP】 (1)自律性 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	Great Writing 3 Fifth Edition (e-book), National Geographic Learning (ISBN: 9798214333205)					
20.参考文献						
21.成績評価	In-Class Activity: 20% Assignment: 20% Group Work: 20% Final Essay: 40%					
22.コメント	毎授業 PC を持参すること。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Class Orientation (授業の進め方、成績評価の方法、学習方法、WebClass の使い方等について)			ノートパソコン持参 (毎授業) シラバスで授業予定を確認する		
Week 2	Unit 1: Paragraphs			Assignment に取り組む		
Week 3	Unit 2: Features of Good Writnig			Assignment に取り組む		
Week 4	Unit 3: Types of Paragraphs			Assignment に取り組む		
Week 5	Unit 4: Classification Essays: Moving from Paragraph to Essay			Assignment に取り組む		
Week 6	Unit 5: Cause-Effect Essays			Assignment に取り組む		
Week 7	Unit 6: Comparison Essays			Assignment に取り組む		

Week 8	Unit 7: Problem-Solution Essays	Assignment に取り組む
Week 9	Review	Assignment に取り組む
Week 10	Group Work: 与えられたテーマから 1 つ選びグループで議論する	グループで課題に取り組む
Week 11	Group Work 発表: 各グループで議論した結果を発表する	Group Work 課題を WebClass に提出する 課題の相互評価を行う
Week 12	Writing Assignment	Writing Assignment に取り組む
Week 13	Writing Assignment のリライト	Writing Assignment を WebClass に提出する
Week 14	Final Essay	Final Essay に向けてこれまでの学修内容を復習する Final Essay を提出する
Week 15	まとめとふりかえり	本科目のふりかえりを WebClass に記入する